

主要地方道松江島根線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2

# 西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡

本文編



2013年3月

島根県教育委員会

主要地方道松江島根線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2

# 西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡

本文編

2013年3月

島根県教育委員会







西川津遺跡（鶴場地区）（南から）





西川津遺跡と古屋敷Ⅱ遺跡の周辺





西川津遺跡 A1 区 SD10 (大溝) 完掘状況 (北から)





西川津遺跡 A2 区（北） 北壁土層断面の内湾成泥層



西川津遺跡 B1 区 SD13（大溝）土層断面



西川津遺跡 A1・A2 区 SD10 (大溝) 出土遺物





西川津遺跡 B1 区 SD13 (大溝) 出土遺物



西川津遺跡 A2 区 SD09 (自然河道) オモカス層出土弥生土器壺





西川津遺跡 A2 区 SD09 (自然河道) オモカス層出土遺物



西川津遺跡 A2 区 SD09 (自然河道) 下層～上層出土遺物



西川津遺跡（鶴場地区）出土緑色凝灰岩の原石と石製品



西川津遺跡 B1 区 河道 1 (4 層) 出土弥生土器 (絵画土器ほか)

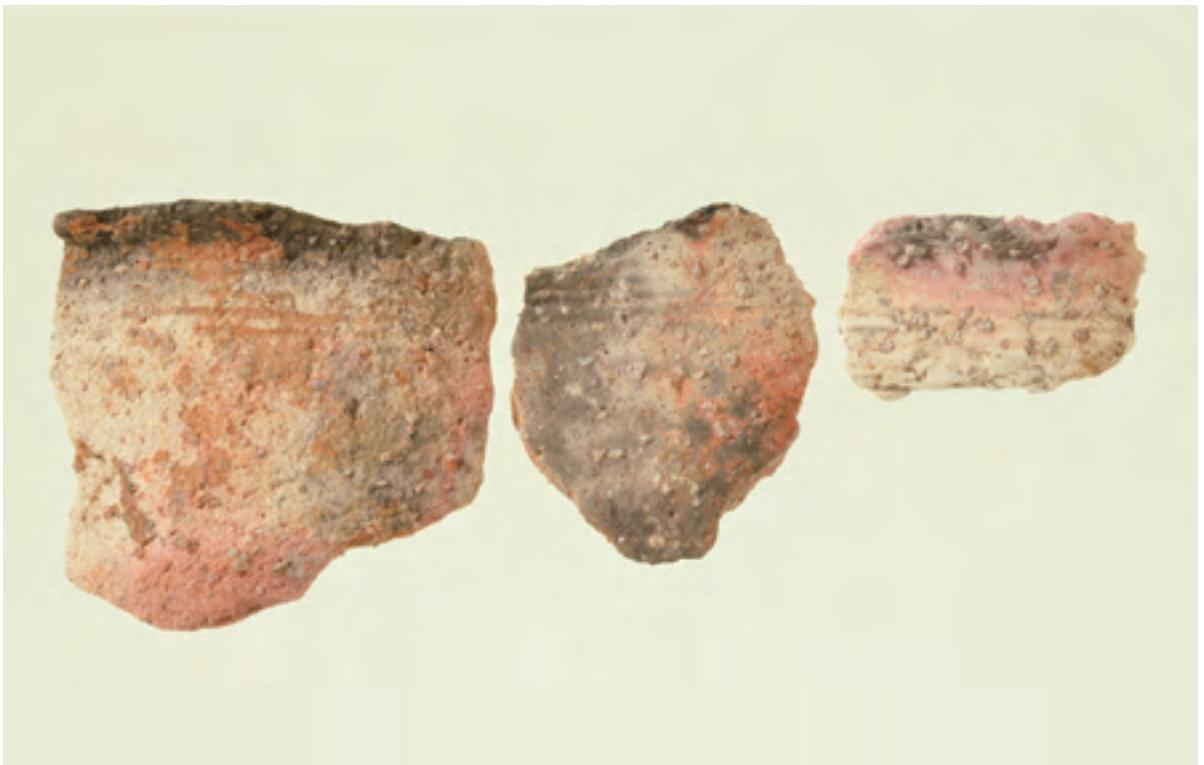




西川津遺跡 A1 区 SD07 (大溝) 出土遺物



西川津遺跡 A1 区 SD07 (大溝) 出土木製品



西川津遺跡 B1 区 SD13 出土 二次焼成を受けた弥生土器甕



西川津遺跡 A2 区 SD09 (自然河道) 出土漆液容器とウルシ原木



西川津遺跡 A1 区 SD07 (大溝)  
出土 J 字形ガラス製勾玉

西川津遺跡 A1 区 SD10 (大溝) 出土 木製壺形容器





西川津遺跡 B1 区 河道出土陶器



古屋敷Ⅱ遺跡 加工段2周辺（南から）





古屋敷Ⅱ遺跡出土遺物

# 序

本書は島根県教育委員会が島根県土木部から依頼を受けて、平成 21 年度から平成 23 年度に実施した主要地方道松江島根線改築工事予定地内に所在する西川津遺跡と古屋敷Ⅱ遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。

西川津遺跡では弥生時代前期の環壕とも考えられる大型の溝が発見され、そこからは様々な遺物が出土しています。とりわけ木製の壺形容器や漆液を入れた壺形土器は、全国的にも出土例が見られない貴重な出土品であることから、弥生時代の木器生産や漆製品を解明する上で重要な資料となりました。また、古屋敷Ⅱ遺跡では平安時代の集落跡が確認され、県内ではこの頃の集落跡の事例が少ないことから、当時の人々の生活を復元する上で貴重な発見となりました。

これらの調査成果が地域の歴史や埋蔵文化財に対する理解を深めるために広く活用されることになれば幸いです。

発掘調査にあたっては、西川津地区の住民の皆様や、川津公民館、松江市教育委員会、島根県土木部の関係各位に御協力いただきました。厚くお礼申し上げます。

平成 25 年 3 月

島根県教育委員会

教育長 今井康雄



# 例言

1. 本書は島根県教育委員会が島根県土木部道路建設課の依頼を受けて、平成21年～23年度に埋蔵文化財調査センターが実施した主要地方道松江島根線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 本報告書の発掘調査対象遺跡、及び事業年度は下のとおりである。

平成21年度	西川津遺跡(鶴場地区：A1区、松江市西川津町鶴場627-2・9・10) 古屋敷Ⅱ遺跡(西区、松江市西川津町古屋敷3337-1・3338、海崎587-1)
平成22年度	西川津遺跡(鶴場地区：B1区、松江市西川津町鶴場628-1)
平成23年度	西川津遺跡(鶴場地区：A2区、松江市西川津町鶴場624-13・14・16)
平成24年度	整理等作業・報告書作成
3. 調査組織

調査主体	島根県教育委員会
平成21年度事務局	川原和人(埋蔵文化財調査センター所長)、山根雅之(総務G課長)
調査担当者	宮澤明久(調査第一グループ課長)、内田律雄(主幹)、原田敏照(文化財主任)、平井大介(調査補助員)、上山直志(調査補助員)、松崎恵美子(調査補助員)
平成22年度事務局	川原和人(埋蔵文化財調査センター所長)、山根雅之(総務G課長)
調査担当者	内田律雄(調査第二グループ課長)、原田敏照(企画員)、上山直志(調査補助員)、岩本真実(調査補助員)
平成23年度事務局	川原和人(埋蔵文化財調査センター所長)、三島伸(総務G課長)
調査担当者	内田律雄(調査第一グループ課長)原田敏照(企画員)、岩本真実(調査補助員)、三原知恵(調査補助員)、福田市子(調査補助員)、是田和美(調査補助員)
平成24年度事務局	廣江耕史(埋蔵文化財調査センター所長)、三島伸(総務G課長)、熱田貴保(管理G課長)
調査担当者	大庭俊次(調査第一グループ課長)、原田敏照(企画員)、岩本真実(調査補助員)、三原知恵(調査補助員)
4. 発掘調査にあたっては、以下の方々から御指導いただいた。(順不同・敬称略)  
岩本崇、会下和宏、大河内隆之、大橋泰夫、酒井哲弥、住田雅和、田中義昭、田畑直彦、永嶋正春、中村唯史、蓮岡法暲、深澤芳樹、山田康弘、渡邊貞幸
5. 発掘調査に際して、以下の方々、関係機関から御協力、御助言をいただいた。(順不同・敬称略)  
坂本豊治、佐藤信、高橋照彦、中原計、西本豊弘、能城修一、濱田竜彦、春成秀爾、山田昌久、米田克彦、松江市教育委員会、財団法人松江市教育文化振興事業団、松江市川津公民館、松江市立鹿島歴史民俗資料館
6. 挿図中の北は測量法に基づく平面直角第三系X軸方向を示し、座標系XY座標は世界測地系又は日本測地系による。レベルは海拔高を示す。(西川津遺跡：日本測地系、古屋敷Ⅱ遺跡：世界測地系)

7. 本書で使用した第2・4・5・6・220図は松江市都市計画平面図を使用して作成したものである。
8. 本調査に伴って実施した自然科学的分析は次の機関に委託して実施し、その成果は第6章にまとめて掲載した。

出土木製品の樹種同定：パリノ・サーヴェイ株式会社、株式会社古環境研究所

放射性炭素年代測定：株式会社加速器分析研究所、文化財調査コンサルタント株式会社

出土炭化米のDNA分析：株式会社ジェネテック

自然科学的分析(堆積層)：文化財調査コンサルタント株式会社

9. 西川津遺跡から出土した漆関連遺物、炭化種実、土器の種実圧痕の検討及び年輪年代測定については、下記の研究者に依頼し、その成果を第6章に掲載した。

漆関連遺物の検討：永島正春、炭化種実の検討：住田雅和、縄文土器に残る種実圧痕の検討：濱田竜彦、年輪年代測定：大河内隆之

10. 発掘調査に伴って、出土木製品・金属製品の保存処理を次の機関に委託した。

平成22年度：(財)元興寺文化財研究所(西川津遺跡出土木製品：壺形容器・組合箱形容器)

：(財)大阪市博物館協会(西川津遺跡出土木製品、古屋敷Ⅱ遺跡出土金属器)

平成23年度：(財)大阪市博物館協会(西川津遺跡出土木製品・金属器)

平成24年度：公益財団法人大阪市博物館協会(西川津遺跡出土木製品)

11. 保存処理を実施した木製品の樹種同定は、10の機関を通じて、下の研究者・機関が行い、その成果は第6章にまとめて掲載した。

平成22年度・平成24年度：パリノ・サーヴェイ株式会社、平成23年度：藤井裕之

12. 本書に掲載した写真は、空中撮影写真を除き埋蔵文化財調査センターの職員の協力を得て主に原田が撮影し、一部を廣江耕史、熱田貴保が撮影した。また木製組合せ箱形容器(西川津遺跡SD07出土)は元興寺文化財研究所撮影のものを使用した。なお、口絵写真(5～13上、16)・表紙・裏表紙写真の遺物撮影については、西大寺フォト(杉本和樹)に委託し撮影したものである。

13. 本書に掲載した遺構・遺物実測図の作成は、各調査員・調査補助員・整理作業員のほか阿部賢治・太田晴美・野津研吾・井谷朋子・田中玲子・坂根建悦・高橋理沙が行った。遺物・遺構実測図の浄書は整理作業員が行った。

14. 本書の執筆は、第1～5章は原田が行い、6章は各節ごとに執筆者を明記している。

15. 本書の編集は、本文編は原田が、写真図版編は岩本がおこなった。

16. 本書の編集にあたってはDTP方式を採用し、Adobe社のIllustrator CS4、Photoshop CS4を用いてトレース・画像処理等を行い、InDesign CS4で編集をおこなった。

17. 註は各章ごとに連番を振り当該頁下に配置した。参考文献は各章末にまとめて示したが、第3章～5章は、第5章末尾にまとめて掲げた。本文編の写真、挿図、及び表の番号は第6章を除いて全体の通し番号により表示し、第6章については各節ごとに番号を振っている。

18. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真などの資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター(松江市打出町33番地)にて保管している。

# 本文目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査にいたる経緯	1
1. 事業計画の概要	1
2. 埋蔵文化財保護部局への照会	1
3. 調整	1
第2節 発掘作業の経過	3
1. 古屋敷Ⅱ遺跡	3
2. 西川津遺跡（鶴場地区：A1区）	3
3. 西川津遺跡（鶴場地区：B1区）	5
4. 西川津遺跡（鶴場地区：A2区）	7
第3節 整理等作業の経過	9
1. 整理等作業の工程	9
2. 出土遺物の検討・公開	9
第2章 遺跡の位置と環境	10
第1節 地理的環境	10
第2節 歴史的環境	10
1. 旧石器時代	10
2. 縄文時代	10
3. 弥生時代	11
4. 古墳時代	12
5. 古代	14
6. 中世	14
第3章 西川津遺跡（鶴場地区）の調査成果	15
第1節 西川津遺跡等の朝酌川遺跡群の調査歴	15
1. 遺跡群の発見	15
2. 朝酌川河川改修に伴う発掘調査	15
3. 松江島根線道路改築事業に伴う発掘調査	15
第2節 調査の方法	19
1. 発掘調査区とグリッドの設定	19
2. 表土の掘削と遺構の検出	19
3. 遺構掘削	19
4. 記録の作成	19
5. 自然科学分析	19
6. 整理等作業	19
第3節 調査区の概略と基本層序	21

1. A1 区（平成 21 年度調査区）	21
2. B1 区（平成 22 年度調査区）	21
3. A2 区（平成 23 年度調査区）	24
4. 鶴場地区で検出した遺構	30
5. 基本層序と微高地堆積層内の出土遺物	36
第 4 節 弥生時代の遺構とその遺物	38
1. 溝状遺構	38
2. 土坑等	104
3. 柱穴群	107
4. 掘立柱建物	109
第 5 節 弥生時代の自然河道とその遺物	115
1. 自然河道（SD09）の概要	115
2. 自然河道（SD09）の遺物出土状況	118
3. 自然河道（SD09）の木製品出土状況	124
4. 自然河道（SD09）出土遺物	130
5. 自然河道の堆積層の時期	175
第 6 節 古墳時代以降の自然河道とその遺物	177
1. 自然河道の概要	177
2. 遺物出土状況	179
3. 検出した杭列	180
4. 河道 4 及び河道 4B	180
5. 河道 1	182
6. 河道 2	198
第 7 節 その他の遺構と出土遺物	200
1. 暗渠	200
2. 遺構外出土遺物	205
第 4 章 古屋敷Ⅱ遺跡の調査成果	207
第 1 節 古屋敷Ⅱ遺跡の立地と調査歴	207
1. 遺跡の立地	207
2. 調査前の地形	207
3. 遺跡の発見と試掘確認（トレンチ）調査	207
4. 本発掘調査	207
第 2 節 調査の方法	209
1. 調査区の設定	209
2. 表土掘削と遺構検出	209
3. 遺構掘削	209
4. 記録の作成	209
5. 自然科学分析等	209



6. 整理等作業	209
第3節 調査区の概略と基本層序	213
1. 検出遺構の概略	213
2. 基本層序	213
第4節 検出遺構と出土遺物	214
1. 加工段	214
2. 土器溜まり	221
3. 連続ピット列	228
4. 溝状遺構 (SD01)	228
5. その他の遺構	228
第5章 総括	231
第1節 西川津遺跡 (鶴場地区)	231
第2節 古屋敷Ⅱ遺跡	271
付 表	275
第6章 自然科学分析	329
第1節 西川津遺跡出土のウルシの木、漆塗土器、漆液容器 (土器) について	329
第2節 西川津遺跡から出土したウルシ材と漆液容器の <sup>14</sup> C 年代測定	335
第3節 西川津遺跡鶴場地区出土土器における種実圧痕のレプリカ法調査概要	338
第4節 西川津遺跡 (鶴場地区) 出土種実類について	344
第5節 西川津遺跡におけるイネ ( <i>Oryza sativa</i> L.) 種子の遺伝分析	348
第6節 西川津遺跡 H21 ~ H23 年度調査に伴う自然科学分析	371
第7節 西川津遺跡における樹種同定	387
第8節 西川津遺跡 (鶴場地区) 出土木材の樹種	398
第9節 西川津遺跡出土の組合箱形容器・壺形容器の樹種同定	409
第10節 西川津遺跡出土木製品の樹種同定	411
第11節 西川津遺跡出土木製遺物の樹種について	416
第12節 松江島根線 (西川津遺跡) 出土木製品の樹種	427
第13節 古屋敷Ⅱ遺跡、西川津遺跡の放射性炭素年代測定	440
第14節 西川津遺跡 SD07 出土ガラス勾玉の蛍光 X 線分析について	455



# 挿図目次

第 1 図	西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡の位置	1
第 2 図	松江島根線道路改築事業地内遺跡 (1/5000)	2
第 3 図	遺跡周辺の微地形分類図 (1/60,000) (林 1991 から転載)	11
第 4 図	西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡と周辺の遺跡 (1/15,000)	13
第 5 図	朝酌川遺跡群の調査区配置図 (1/7500)	16
第 6 図	鶴場地区周辺の調査区配置図 (1/2500)	18
第 7 図	西川津遺跡鶴場地区の調査区と区割り図 (1/400)	20
第 8 図	A1 区遺構配置図 (1/100)	22
第 9 図	A1 区最終段階状況図 (1/100)	23
第 10 図	A1 区調査区土層断面図 (1/60)	25
第 11 図	B1 区調査区遺構配置図 (1/150)	26
第 12 図	B1 区調査概要図「2」 (1/200)	27
第 13 図	B1 区調査区南壁土層断面図 (1/80)	28
第 14 図	B1 区調査区北壁土層断面図 (1/80)	29
第 15 図	A2 区 (南) 調査区遺構配置図 (1/80)	31
第 16 図	A2 区 調査区西壁土層断面図 (1/60)	32
第 17 図	A2 区 (南) 調査区土層断面図 (1/60)	33
第 18 図	A2 区 (北) 調査区東壁・北壁土層断面図 (1/60)	34
第 19 図	鶴場地区調査区全体図 (1/400)	35
第 20 図	鶴場地区土層断面模式図 (1/ 任意)	36
第 21 図	B1 区 微高地出土木製品実測図 (1/6)	37
第 22 図	A1 区 微高地出土縄文土器実測図 (1/3)	37
第 23 図	A2 区 微高地出土縄文土器実測図 (1/3)	37
第 24 図	B1 区 微高地出土縄文土器実測図 (1/3)	37
第 25 図	A1・A2 区 (南) SD10 遺構実測図 (1/100)	39
第 26 図	A2 区 (南) SD10 遺物出土状況図 (1/60)	40
第 27 図	A1 区 SD10 遺物出土状況図―北側― (1/40)	41
第 28 図	A1 区 SD10 遺物出土状況図―南側― (1/40)	42
第 29 図	A2 区 (南) SD10 礫群出土状況図 (1/40)	43
第 30 図	A1 区 SD10 礫群出土状況図 (1/40・1/60)	44
第 31 図	A2 区 (南) SD10 下層出土縄文土器実測図 (1/3)	45
第 32 図	A2 区 (南) SD10 下層出土弥生土器実測図 (1/4)	46
第 33 図	A1 区 SD10 下層出土弥生土器実測図― 1 ― (1/4)	47
第 34 図	A1 区 SD10 下層出土弥生土器実測図― 2 ― (1/4・1/2)	48
第 35 図	A2 区 (南) SD10 上層出土弥生土器実測図― 1 ― (1/4)	49
第 36 図	A2 区 (南) SD10 上層出土弥生土器実測図― 2 ― (1/4)	50
第 37 図	A1 区 SD10 上層出土弥生土器実測図― 1 ― (1/4)	51
第 38 図	A1 区 SD10 上層出土弥生土器実測図― 2 ― (1/4)	52
第 39 図	A1 区 SD10 上層出土弥生土器実測図― 3 ― (1/4)	53
第 40 図	A1 区 SD10 上層出土弥生土器実測図― 4 ― (1/4・1/2)	54
第 41 図	A1 区 SD10 埋土出土弥生土器実測図― 1 ― (1/4)	55
第 42 図	A1 区 SD10 埋土出土弥生土器実測図― 2 ― (1/4)	56

第 43 図	A1 区 SD10 埋土出土弥生土器実測図－ 3 － (1/4)	57
第 44 図	A1 区 SD10 埋土出土弥生土器実測図－ 4 － (1/4・1/2)	58
第 45 図	A2 区 (南) SD10 上層出土石器実測図 (1/3・2/3)	59
第 46 図	A1 区 SD10 埋土出土石器実測図 (1/3・2/3)	59
第 47 図	A2 区 (南) SD10 下層出土木製品実測図 (1/6)	59
第 48 図	A1 区 SD10 下層出土木製品実測図 (1/6)	60
第 49 図	A1 区 SD06 遺構・遺物出土状況実測図 (1/50)	61
第 50 図	A1 区 SD06 埋土出土弥生土器実測図 (1/4・1/2)	62
第 51 図	A1 区 SD06 埋土出土石器実測図 (1/3・2/3)	63
第 52 図	B1 区 SD13 遺構実測図 (1/60)	64
第 53 図	B1 区 SD13 最終埋土遺物出土状況図 (1/40)	65
第 54 図	B1 区 SD13 遺物出土状況図 (1/40)	66
第 55 図	B1 区 SD13 下層出土弥生土器実測図 (1/4)	67
第 56 図	B1 区 SD13 上層・最終埋土層出土弥生土器実測図－ 1 － (1/4)	68
第 57 図	B1 区 SD13 上層出土弥生土器実測図－ 2 － (1/4)	69
第 58 図	B1 区 SD13 最終埋土出土弥生土器実測図－ 1 － (1/4)	70
第 59 図	B1 区 SD13 最終埋土出土弥生土器実測図－ 2 － (1/4・1/2)	71
第 60 図	B1 区 SD13 上層出土石器実測図 (1/3・2/3)	72
第 61 図	B1 区 SD13 下層出土木製品実測図 (1/6)	73
第 62 図	B1 区 SX01 遺構実測図 (1/60)	74
第 63 図	B1 区 SX01 遺物出土状況図 (1/40)	75
第 64 図	B1 区 SX01 下層出土弥生土器実測図 (1/4)	76
第 65 図	B1 区 SX01 上層出土弥生土器実測図 (1/4)	77
第 66 図	B1 区 SX01 埋土出土石器実測図 (1/3・2/3)	78
第 67 図	B1 区 SX01 下層出土木製品実測図 (1/6)	79
第 68 図	B1 区 SD15・SX02 遺構実測図・遺物出土状況図 (1/40)	80
第 69 図	B1 区 SD15 埋土出土弥生土器実測図 (1/4)	81
第 70 図	B1 区 SD15 埋土出土木製品実測図 (1/10・1/6)	82
第 71 図	B1 区 SD15 埋土出土石器実測図 (2/3)	83
第 72 図	B1 区 SX02 埋土出土石器実測図 (1/3)	83
第 73 図	B1 区 SX02 埋土出土弥生土器実測図 (1/4)	84
第 74 図	A2 区 (南) SK06 遺構実測図・遺物出土状況図 (1/60)	85
第 75 図	A2 区 (南) SK06 埋土出土弥生土器実測図 (1/4)	86
第 76 図	A1 区 SD07 遺構実測図 (1/100)	88
第 77 図	A1 区 SD07 遺物出土状況図－北側－ (1/40)	89
第 78 図	A1 区 SD07 遺物出土状況図－南側－ (1/40)	90
第 79 図	A1 区 SD07 木製品出土状況図 (1/80)	91
第 80 図	A1 区 SD07 下層出土弥生土器実測図 (1/4)	92
第 81 図	A1 区 SD07 上層出土弥生土器実測図 (1/4)	93
第 82 図	A1 区 SD07 埋土出土弥生土器実測図－ 1 － (1/4)	94
第 83 図	A1 区 SD07 埋土出土弥生土器実測図－ 2 － (1/4)	95
第 84 図	A1 区 SD07 埋土上面土器溜まり出土弥生土器実測図 (1/4)	96
第 85 図	A1 区 SD07 埋土出土石器実測図 (1/3・2/3)	97
第 86 図	A1 区 SD07 埋土出土石器・ガラス勾玉実測図 (1/3・1/1)	98
第 87 図	A1 区 SD07 下層出土木製品実測図－ 1 － (1/8・1/6・1/4)	99

第 88 図	A1 区 SD07 下層出土木製品実測図－ 2 － (1/8)	100
第 89 図	A1 区 SD07 下層出土木製品実測図－ 3 － (1/6)	101
第 90 図	A1 区 SD07 下層出土木製品実測図－ 4 － (1/6)	102
第 91 図	土坑等実測図 (1/60)	103
第 92 図	SK04・SK05・P255 出土弥生土器・土製品実測図 (1/4)	104
第 93 図	A2 区(南) SX05 埋土出土弥生土器実測図 (1/4)	105
第 94 図	柱穴遺構実測図 (1/40)	106
第 95 図	B1 区 P124 内出土木製品実測図 (1/6)	107
第 96 図	B1 区 柱穴群遺構実測図 (1/60)	108
第 97 図	B1 区 柱穴群検討図 (1/80)	109
第 98 図	A1 区 掘立柱建物 1・2 遺構実測図 (1/60)	110
第 99 図	B1 区 掘立柱建物 3 遺構実測図 (1/60)	111
第 100 図	B1 区 掘立柱建物 4 遺構実測図 (1/60)	111
第 101 図	B1 区 掘立柱建物 5 遺構実測図 (1/60)	112
第 102 図	B1 区 掘立柱建物 6 遺構実測図 (1/60)	112
第 103 図	B1 区 掘立柱建物 7 遺構実測図 (1/60)	113
第 104 図	A2 区(南) 柱穴列遺構実測図 (1/40)	113
第 105 図	A2 区 SD09(自然河道) 測量図 (1/120)	114
第 106 図	A2 区 SD09(自然河道) 埋没段階測量図 (1/200)	115
第 107 図	A 区 SD09(自然河道) 実測図 (1/200・1/60)	116
第 108 図	A2 区(北) SD09(自然河道) 内土器溜 11 遺物出土状況図 (1/30)	117
第 109 図	A2 区(北) SD09(自然河道) 上層遺物出土状況図 (1/100)	118
第 110 図	A2 区(南) SD09(自然河道) 上層・橙色砂質土層遺物出土状況図 (1/100)	119
第 111 図	A2 区(北) SD09(自然河道) 黒色土層遺物出土状況図 (1/100)	120
第 112 図	A2 区(北) SD09(自然河道) 黒色粘土層遺物出土状況図 (1/80)	121
第 113 図	A2 区(北) SD09(自然河道) 下層遺物出土状況図 (1/100)	122
第 114 図	A2 区(北) SD09(自然河道) オモカス層遺物出土状況図 (1/100)	123
第 115 図	A2 区(南) SD09(自然河道) 下層・オモカス層遺物出土状況図 (1/100)	124
第 116 図	A2 区(北) SD09(自然河道) 下層木製品出土状況図 (1/60)	125
第 117 図	A2 区(北) SD09(自然河道) オモカス層木製品出土状況図 (1/60)	126
第 118 図	A2 区(南) SD09(自然河道) 下層・オモカス層木製品出土状況図 (1/60)	127
第 119 図	A2 区(南) SD09(自然河道) 内 SX04(杭列)・オモカス層木製品出土状況図 (1/40)	128
第 120 図	A2 区(南) SD09(自然河道) 内 SX04(杭列) 配置概念図 (1/40)	129
第 121 図	A2 区(北) SD09(自然河道) 砂礫層出土縄文土器実測図 (1/3)	130
第 122 図	A2 区(南) SD09(自然河道) 砂礫層出土縄文土器実測図 (1/3)	130
第 123 図	A2 区(北) SD09(自然河道) 砂礫層出土弥生土器実測図 (1/4)	131
第 124 図	A2 区(北) SD09(自然河道) 砂礫層出土弥生土器・土製品実測図 (1/4)	132
第 125 図	A2 区(南) SD09(自然河道) 砂礫層出土弥生土器・土製品実測図 (1/4)	133
第 126 図	A2 区(北) SD09(自然河道) 砂礫層出土木製品実測図 (1/6)	133
第 127 図	A2 区(北) SD09(自然河道) オモカス層出土縄文土器実測図 (1/3)	134
第 128 図	A2 区(南) SD09(自然河道) オモカス層出土縄文土器実測図 (1/3)	134
第 129 図	A2 区(北) SD09(自然河道) オモカス層出土弥生土器実測図－ 1 － (1/4)	135
第 130 図	A2 区(北) SD09(自然河道) オモカス層出土弥生土器実測図－ 2 － (1/4)	136
第 131 図	A2 区(北) SD09(自然河道) オモカス層出土弥生土器実測図－ 3 － (1/4)	137
第 132 図	A2 区(北) SD09(自然河道) オモカス層出土弥生土器・土製品実測図 (1/4・1/2)	138

第 133 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	オモカス層出土弥生土器実測図- 1 - (1/4)	139
第 134 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	オモカス層出土弥生土器実測図- 2 - (1/4)	140
第 135 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	オモカス層出土弥生土器実測図- 3 - (1/4・1/2)	141
第 136 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	オモカス層出土石器実測図 (1/3)	142
第 137 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土石器・石製品実測図 (1/3・1/2)	142
第 138 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 1 - (1/6・1/4・1/2)	143
第 139 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 2 - (1/6)	144
第 140 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 3 - (1/6)	145
第 141 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 4 - (1/6)	146
第 142 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 5 - (1/6)	147
第 143 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 6 - (1/6)	148
第 144 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 7 - (1/6)	149
第 145 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 8 - (1/6)	150
第 146 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 9 - (1/6)	151
第 147 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 10 - (1/6)	152
第 148 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 11 - (1/6)	153
第 149 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 12 - (1/8)	154
第 150 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 1 - (1/6)	155
第 151 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	オモカス層出土木製品実測図- 2 - (1/6)	156
第 152 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	杭列 (SX04) 出土木製品実測図 (1/8)	157
第 153 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	下層出土縄文土器実測図 (1/3)	158
第 154 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	下層出土縄文土器実測図 (1/3)	158
第 155 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	下層出土弥生土器実測図- 1 - (1/4)	159
第 156 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	下層出土弥生土器実測図- 2 - (1/4)	160
第 157 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	下層出土弥生土器・土製品実測図 (1/4・1/2)	161
第 158 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	下層出土弥生土器・土製品実測図 (1/4・1/2)	162
第 159 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	下層出土石器・石製品実測図 (1/3・2/3)	163
第 160 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	下層出土石器実測図 (1/3)	164
第 161 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	下層出土木製品実測図 (1/8・1/2・1/1)	165
第 162 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	下層出土木製品実測図 (1/6)	166
第 163 図	A2(北)	SD09(自然河道)	黒色粘土層出土石器実測図 (2/3)	167
第 164 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	黒色粘土層出土弥生土器実測図 (1/4)	167
第 165 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	土器溜まり 11(黒色粘土層) 出土弥生土器実測図 (1/4)	168
第 166 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	黒色土層出土弥生土器・土製品実測図 (1/4・1/2)	169
第 167 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	黒色土層出土石器実測図 (2/3)	169
第 168 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	橙色砂質土層出土石器実測図 (2/3)	170
第 169 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	シルト層出土縄文土器実測図 (1/3)	170
第 170 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	橙色砂質土層出土弥生土器・土製品実測図 (1/4・1/2)	170
第 171 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	上層出土弥生土器実測図 (1/4・1/2)	171
第 172 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	土器溜まり 10(上層) 出土弥生土器実測図 (1/4)	171
第 173 図	A2 区 (北)	SD09(自然河道)	土器溜まり 10 上層出土石製品実測図 (2/3)	172
第 174 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	上層出土弥生土器実測図 (1/4・1/2)	172
第 175 図	A1 区	SD09 南側 (自然河道)	埋土出土縄文土器実測図 (1/3)	173
第 176 図	A1 区	SD09 南側 (自然河道)	埋土出土石器実測図 (1/3)	173
第 177 図	A2 区 (南)	SD09(自然河道)	土器溜まり 12 出土弥生土器実測図 (1/4)	173

第 178 図	A1 区	SD09 南側 ( 自然河道 ) 埋土出土弥生土器実測図 (1/4)	174
第 179 図	A1 区	SD09 南側 ( 自然河道 ) 埋土出土弥生土器・土製品実測図 (1/4・1/2)	175
第 180 図	A1 区	SD09 北側 ( 自然河道 ) 埋土出土弥生土器実測図 (1/4)	176
第 181 図	B1 区	自然河道概略図 (/150)	177
第 182 図	B1 区	自然河道内遺物出土状況図 (1/100)	178
第 183 図	B1 区	自然河道内杭列 1・2 遺構実測図 (1/40)	179
第 184 図	B1 区	河道 4B 砂礫層出土縄文土器実測図 (1/3)	180
第 185 図	B1 区	河道 4 砂礫層出土縄文土器実測図 (1/3)	181
第 186 図	B1 区	河道 4・4B 砂礫層出土土器実測図 (1/4)	182
第 187 図	B1 区	河道 4 砂礫層出土石器・石製品実測図 (1/3・2/3)	183
第 188 図	B1 区	河道 1 4 層出土弥生土器・土製品実測図 (1/4)	184
第 189 図	B1 区	河道 1 4 層出土縄文土器実測図 (1/3)	185
第 190 図	B1 区	河道 1 4 層出土石器実測図 (2/3)	185
第 191 図	B1 区	河道 1 3d 層出土縄文土器実測図 - 1 - (1/3)	186
第 192 図	B1 区	河道 1 3d 層出土縄文土器実測図 - 2 - (1/3)	187
第 193 図	B1 区	河道 1 砂礫層出土縄文土器実測図 (1/3)	188
第 194 図	B1 区	河道 1 3d 層出土土器・土製品実測図 (1/4・1/2)	189
第 195 図	B1 区	河道 1 3d 層出土土器実測図 (1/4・1/3)	190
第 196 図	B1 区	河道 1 3d 層出土石器実測図 - 1 - (1/3)	190
第 197 図	B1 区	河道 1 3d 層出土石器実測図 - 2 - (1/3)	191
第 198 図	B1 区	河道 1 3c・3d 層出土木製品実測図 (1/8)	192
第 199 図	B1 区	河道 1 3c 層出土縄文土器実測図 (1/3)	193
第 200 図	B1 区	河道 1 3～3c 層出土遺物実測図 (1/4・1/3・1/2・1/1)	193
第 201 図	B1 区	河道 1 3 層出土石器実測図 (2/3)	194
第 202 図	B1 区	河道 1 3・3b 層出土木製品実測図 (1/4・1/6)	195
第 203 図	B1 区	河道 1 杭列出土木製品実測図 (1/10・1/6)	196
第 204 図	B1 区	河道 2 砂礫層出土縄文土器実測図 (1/3)	197
第 205 図	B1 区	河道 2 砂礫層出土遺物実測図 (1/4・1/3・1/2)	198
第 206 図	B1 区	河道 2 砂礫層出土石器実測図 (1/3)	199
第 207 図	B1 区	河道 2 出土木製品実測図 (1/6・1/4)	199
第 208 図	B1 区	暗渠配置図 (1/200)	200
第 209 図	A1・A2 区	暗渠配置図 (1/200)	201
第 210 図	B1 区	SD12 暗渠出土木製品実測図 (1/6)	202
第 211 図	A1 区	SD03 暗渠出土木製品実測図 (1/8)	202
第 212 図	A2 区 ( 北 )	排土採取縄文土器実測図 (1/3)	203
第 213 図	A2 区 ( 南 )	排土採取縄文土器実測図 (1/3)	203
第 214 図	A1 区	遺構外出土縄文土器実測図 (1/3)	204
第 215 図	B1 区	排土採取縄文土器実測図 (1/3)	204
第 216 図		遺構外出土・排土採取弥生土器実測図 (1/4・1/2)	205
第 217 図	A1 区	遺構外出土石器実測図 (1/3)	205
第 218 図	B1 区	遺構外出土石製品実測図 (2/3)	206
第 219 図	B1 区	排土採取木製品実測図 (2/3)	206
第 220 図	古屋敷Ⅱ遺跡	周辺地形測量図 (1/2000)	208
第 221 図	古屋敷Ⅱ遺跡	調査前地形測量図 (1/300)	210
第 222 図	古屋敷Ⅱ遺跡	遺構配置図 ( 平成 18・21 年度調査両成果 )(1/300)	211



第 223 図	古屋敷Ⅱ遺跡	西区遺構配置図 (1/200)	212
第 224 図	古屋敷Ⅱ遺跡	西区調査区土層断面図 (1/60)	213
第 225 図	古屋敷Ⅱ遺跡	加工段 1 遺構実測図 (1/60)	214
第 226 図	古屋敷Ⅱ遺跡	加工段 1・土器溜まり 2 遺物出土状況図 (1/60)	215
第 227 図	古屋敷Ⅱ遺跡	加工段 1 出土土器・土製品実測図 (1/3・1/2)	216
第 228 図	古屋敷Ⅱ遺跡	加工段 1 下方出土遺物実測図 (1/3・2/3)	217
第 229 図	古屋敷Ⅱ遺跡	加工段 2 遺構実測図 (1/60)	218
第 230 図	古屋敷Ⅱ遺跡	加工段 2 出土遺物実測図 (1/3)	219
第 231 図	古屋敷Ⅱ遺跡	加工段 3 遺構実測図 (1/60)	220
第 232 図	古屋敷Ⅱ遺跡	加工段 4 遺構実測図 (1/60)	221
第 233 図	古屋敷Ⅱ遺跡	加工段 3・4 出土遺物実測図 (1/3・1/4)	222
第 234 図	古屋敷Ⅱ遺跡	土器溜まり 1 遺物出土状況実測図 (1/30)	223
第 235 図	古屋敷Ⅱ遺跡	土器溜まり出土遺物実測図－ 1 － (1/3)	224
第 236 図	古屋敷Ⅱ遺跡	土器溜まり出土遺物実測図－ 2 － (1/3)	225
第 237 図	古屋敷Ⅱ遺跡	土器溜まり出土遺物実測図－ 3 － (1/6・1/3・1/2)	226
第 238 図	古屋敷Ⅱ遺跡	連続ピット遺構実測図 (1/60)	227
第 239 図	古屋敷Ⅱ遺跡	SD01 遺構実測図 (1/60)	227
第 240 図	古屋敷Ⅱ遺跡	SK・SX・ピット遺構実測図 (1/60)	228
第 241 図	古屋敷Ⅱ遺跡	遺構外 (表土・排土) 採取遺物実測図 (1/3・2/3)	229
第 242 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	出土縄文土器の出土量グラフ	232
第 243 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	出土縄文土器総括図 (1/4)	233
第 244 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	出土弥生土器・土師器の出土量グラフ (1)	234
第 245 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	出土弥生土器・土師器の出土量グラフ (2)	235
第 246 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	出土須恵器の出土量グラフ	236
第 247 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	出土陶磁器の出土量グラフ	237
第 248 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	大溝出土 弥生土器 甕 文様検討図	239
第 249 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	大溝出土弥生土器 甕 総括図	240
第 250 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	大溝出土弥生土器 甕 口縁形態・刻目検討図	241
第 251 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	大溝弥生土器 壺 総括図	242
第 252 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	大溝出土弥生土器蓋 総括図	244
第 253 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	大溝出土弥生土器 その他の器種 総括図	245
第 254 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	弥生土器変遷図	246
第 255 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	出土土製品総括図	247
第 256 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	出土石器総括図	248
第 257 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	出土石鏃と田和山遺跡出土石鏃 検討図	251
第 258 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	出土弥生時代木製品 総括図	252
第 259 図	西川津遺跡 鶴場地区と海崎地区	出土木製農具比較図	256
第 260 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	出土漆関連出土遺物総括図	258
第 261 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	出土 弥生土器・ガラス勾玉 (中期～後期) 総括図	260
第 262 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	弥生時代自然河道 (SD09) 総括図	262
第 263 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	調査区成果平面図 (1/400)	264
第 264 図	西川津遺跡 鶴場地区と海崎地区	の弥生時代遺構配置図 (1/800)	265
第 265 図	西川津遺跡 (鶴場地区)	の調査成果図	266
第 266 図	古屋敷Ⅱ遺跡	出土遺物 総括図	272
第 267 図	古屋敷Ⅱ遺跡	出土土器割合図	273

# 表目次

表 1	周辺の遺跡一覧	12
表 2	朝酌川遺跡群の調査履歴	17
表 3	西川津遺跡(鶴場地区)出土縄文土器総括表	232
表 4	古屋敷Ⅱ遺跡 出土土師器 総括表	273
表 5	古屋敷Ⅱ遺跡 出土須恵器 総括表	273
表 6	西川津遺跡(鶴場地区) 遺構一覧	275
表 7	古屋敷Ⅱ遺跡 遺構一覧	280
表 8	西川津遺跡出土縄文土器観察表	281
表 9	西川津遺跡出土土器・土製品観察表	285
表 10	西川津遺跡出土石器・石製品観察表	302
表 11	西川津遺跡出土木製品観察表	303
表 12	西川津遺跡出土ガラス製品観察表	306
表 13	西川津遺跡出土金属器観察表	306
表 14	西川津遺跡出土銭貨計測表	306
表 15	西川津遺跡出土石器・石製品計測表	307
表 16	古屋敷Ⅱ遺跡出土土器観察表	322
表 17	古屋敷Ⅱ遺跡出土石器観察表	324
表 18	古屋敷Ⅱ遺跡出土金属器観察表	324
表 19	西川津遺跡(鶴場地区) A-2区(南) SD10 礫溜まり出土礫計測表	324
表 20	西川津遺跡(鶴場地区) A-1区 SD10 礫溜まり出土礫計測表	325
表 21	西川津遺跡(鶴場地区) 出土弥生土器・土師器 計量表	325
表 22	西川津遺跡(鶴場地区) 出土須恵器 計量表	326
表 23	西川津遺跡(鶴場地区) 出土陶磁器・瓦 計量表	326
表 24	西川津遺跡(鶴場地区) 大溝等出土甕形土器分類表	326
表 25	古屋敷Ⅱ遺跡出土須恵器計量表	327
表 26	古屋敷Ⅱ遺跡出土土師器計量表	328

# 本文編 写真目次

口絵 1	西川津遺跡(鶴場地区)(南から)
口絵 2	西川津遺跡と古屋敷Ⅱ遺跡の周辺
口絵 3	西川津遺跡 A1区 SD10(大溝)完掘状況(北から)
口絵 4	上:西川津遺跡 A2区(北)北壁土層断面の内湾成泥層 下:西川津遺跡 B1区 SD13(大溝)土層断面
口絵 5	西川津遺跡 A1・A2区 SD10(大溝)出土遺物
口絵 6	西川津遺跡 B1区 SD13(大溝)出土遺物
口絵 7	西川津遺跡 A2区 SD09(自然河道)オモカス層出土弥生土器壺
口絵 8	西川津遺跡 A2区 SD09(自然河道)オモカス層出土遺物
口絵 9	西川津遺跡 A2区 SD09(自然河道)下層～上層出土遺物

- 口絵 10 西川津遺跡（鶴場地区）出土緑色凝灰岩の原石と石製品
- 口絵 11 西川津遺跡 B1 区 河道 1（4 層）出土弥生土器（絵画土器ほか）
- 口絵 12 西川津遺跡 A1 区 SD07（大溝）出土遺物
- 口絵 13 上：西川津遺跡 A1 区 SD07（大溝）出土木製品  
下：西川津遺跡 B1 区 SD13 出土 二次焼成を受けた弥生土器甕
- 口絵 14 上：西川津遺跡 A2 区 SD09（自然河道）出土漆液容器とウルシ原木  
左下：西川津遺跡 A1 区 SD07（大溝）出土 J 字形ガラス製勾玉  
右下：西川津遺跡 A1 区 SD10（大溝）出土 木製壺形容器
- 口絵 15 上：西川津遺跡 B1 区 河道出土陶器  
下：古屋敷Ⅱ遺跡 加工段 2 周辺（南から）
- 口絵 16 古屋敷Ⅱ遺跡出土遺物

（本文中）

写真 1	古屋敷Ⅱ遺跡の遺構掘削状況	3
写真 2	古屋敷Ⅱ遺跡の調査指導会風景	3
写真 3	西川津遺跡 A1 区の表土掘削	4
写真 4	西川津遺跡 A1 区の遺構掘削	4
写真 5	西川津遺跡 A1 区の調査指導風景	4
写真 6	西川津遺跡 B1 区の遺物検出	5
写真 7	西川津遺跡 B1 区の遺構精査	5
写真 8	西川津遺跡 B1 区の遺構精査	5
写真 9	西川津遺跡 B1 区の土層断面の試料採取	6
写真 10	西川津遺跡 B1 区の現地説明会	6
写真 11	西川津遺跡 A2 区の精査	7
写真 12	西川津遺跡 A2 区の遺構精査	7
写真 13	西川津遺跡 A2 区的最終段階	7
写真 14	西川津遺跡 A2 区の調査指導会	8
写真 15	西川津遺跡 A2 区の現地説明会	8
写真 16	西川津遺跡出土品の調査指導	9

本文編

表紙：西川津遺跡（鶴場地区）出土弥生土器

裏表紙：西川津遺跡 A1 区 SD10（大溝）出土弥生土器





# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査にいたる経緯

### 1. 事業計画の概要

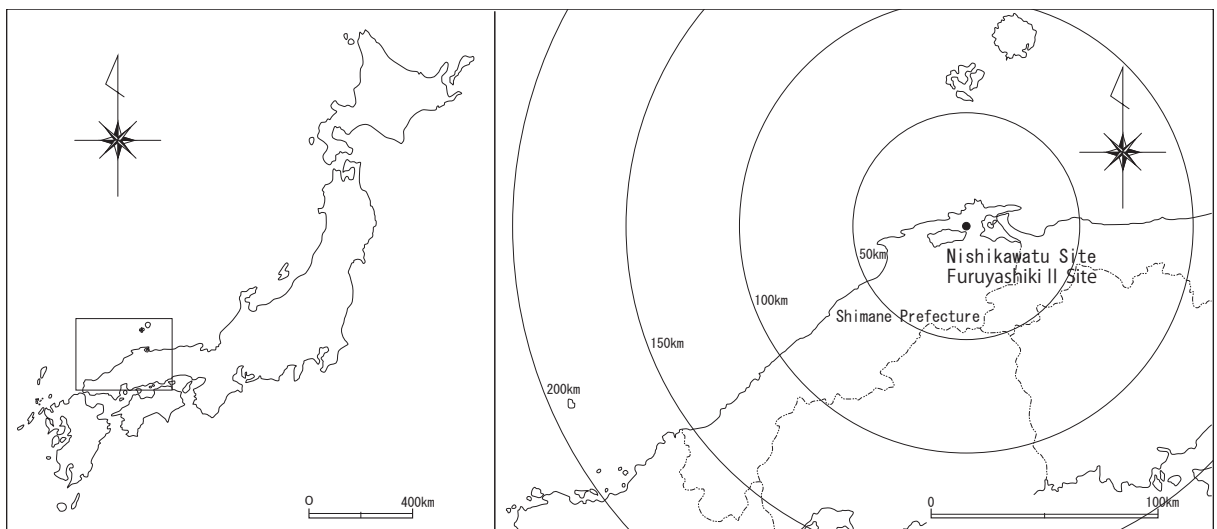
県道松江島根線は松江市中心部と松江市島根町を結ぶ主要地方道であり、松江市上乃木町の国道9号を起点とし、松江市中心市街地を経て松江市島根町加賀に至る全長約15kmの主要幹線道路である。島根県は国道431号川津バイパスと現在の松江島根線を結ぶ全長900mのバイパスを整備する改築(改良)工事を計画し、島根大学周辺の渋滞緩和と歩行者・自転車の安全性の向上、松江大五大橋道路を介しての松江道路及び高速道路ネットワークへのアクセス向上、国道485号(くにびき道路)の渋滞の解消を図ることとした。事業は平成11年に着手し、平成25年2月に供用を開始した。

### 2. 埋蔵文化財保護部局への照会

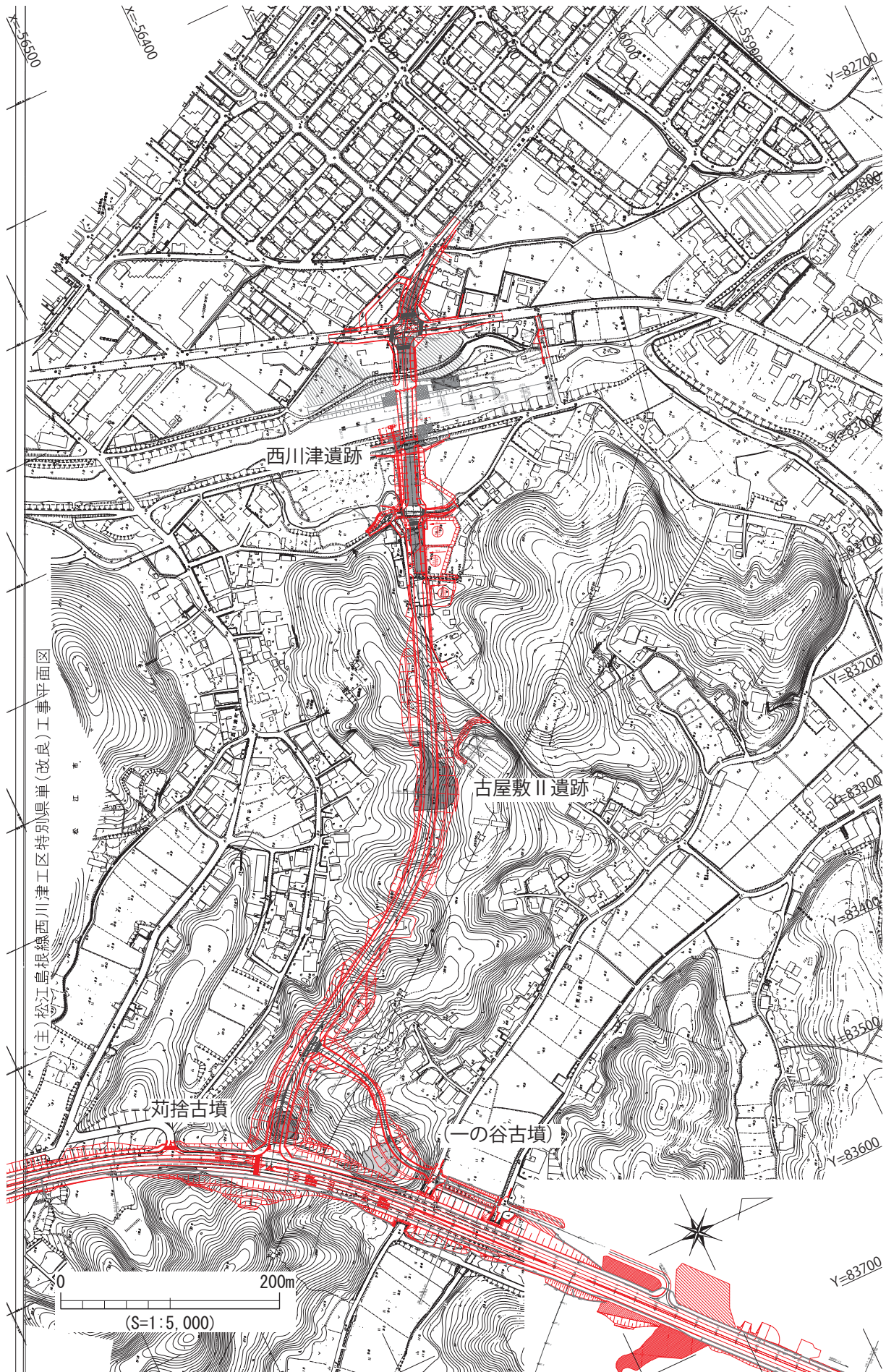
事業計画が定まった平成17年2月に島根県松江土木建築事務所は松江市教育委員会に事業予定地内の埋蔵文化財分布調査を依頼した。これを受けて市教育委員会は同年3月に分布調査を実施し、事業予定地内に西川津遺跡と堂頭山城跡(苺捨古墳)の2箇所の周知の遺跡、そして新たに12箇所の遺跡推定地を確認した。平成17年度には試掘調査が実施され、新たに古屋敷Ⅱ遺跡が発見された。その後、平成17年10月20日付及び平成18年3月13日付松江土木建築事務所長名で、文化財保護法第94条第1項に基づく遺跡内における土木工事の発掘通知が島根県教育委員会に対して行われ、島根県教育委員会から工事着手前に発掘調査が必要な旨を勧告した。

### 3. 調整

調整の結果、平成18年に(財)松江市教育文化振興事業団によって西川津遺跡C区と古屋敷Ⅱ遺跡東区及び中央区の本発掘調査が行われた。その後、松江市教育委員会と島根県教育委員会が協議し、本事業に伴う埋蔵文化財調査を島根県教育委員会が引き継ぐこととなり、平成19年度以降は島根県埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施することとなった。



第1図 西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡の位置



第2図 松江島根線道路改築事業地内遺跡 (1/5000)



## 第2節 発掘作業の経過

### 1. 古屋敷Ⅱ遺跡

**文化財保護法上の措置** 本発掘調査の文化財保護法第99条第1項に基づく通知は、平成21年5月12日付で島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長から提出した。調査担当者は島根県教育庁埋蔵文化財調査センター原田敏照である。調査終了後の遺跡の取り扱いについては、平成21年9月30日付で土木部道路建設課長あて終了報告を提出し、記録保存に留めることとした。

**発掘作業の工程** 発掘作業は平成21年5月21日～9月7日にかけて実施した。作業は表土から人力で掘削した。調査は調査区の西側から実施し、表土下で赤褐色土の地山を確認したが遺構は確認されず、須恵器等が数片出土するのみであった。6月4日からは傾斜が緩やかな地点を調査し、須恵器・土師器等が比較的多めに見られることから加工段等の遺構の存在が想定された。6月16日には調査区の東側で確認していた赤褐色土が地山ではなく盛土(造成土)又は流土であることを確認し、その下部に黒色の旧表土が存在することが判明した。調査の結果、上方に存在する加工段造成時に排出された土砂と考えられるものであった。

8月6日には調査区全体の様相が把握できるようになり、少なくとも4箇所加工段が設けられていたことが明らかとなった。調査は8月27日に完了したが、内部検査により遺跡が広がる可能性が指摘された部分で重機による表土掘削を9月2日に行い、9月7日には完全に終了した。

**調査の要点** 主な遺構は加工段と土器溜まりである。当初地山と盛土の区別ができなかったことにより、それらの前後関係や堆積状況の検討が不十分なまま遺物の取り上げを行ったため、後の整理等作業が複雑化した原因となり、課題が残った。

**調査指導会・現地説明会等** 遺跡全体の様相が明らかとなった8月11日には大橋泰夫、岩本崇氏、9月7日には田中義昭氏による調査指導会を実施した。その結果、出土した平安時代の須恵器・土師器の位置づけ、検出した加工段の他事例との比較、加工段に伴う建物跡の検討が必要であると指導を受けた。9月15日には調査成果について記者発表を行い、19日には400m程離れた一の谷古墳と合同で現地説明会を開催し、約50人の参加があった。



写真1 古屋敷Ⅱ遺跡の遺構掘削状況

### 2. 西川津遺跡(鶴場地区:A1区)

**文化財保護法上の措置** 本発掘調査の文化財保護法第99条第1項に基づく通知は、平成21年11月18日付で島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長から提出した。調査担当者は島根県教育庁埋蔵文化財調査センター原田敏照である。調査終了後の遺跡の取り扱いについては、平成22年2月16日付で土木部道路建設課長あて終了報告を提出し、記録保存に留めることとした。



写真2 古屋敷Ⅱ遺跡の調査指導会風景

**発掘作業の工程** 調査区には矢板による支保工を設置し、地表面から4m下にあたる標高0mまで調査を行う予定としていたことから、切り梁も入れた。発掘作業は平成21年11月12日から重機による表土掘削を開始し、人力掘削は11月24日から翌年2月16日にかけて実施した。表土掘削は前年に行われたトレンチ調査の成果に基づき包含層上面で停止した。調査は当初包含層と認識した層の上部の灰白色粘土層を除去することから開始した。この層を調査区北半分で除去した後、12月1日に行った精査中に溝状の遺構と思われる輪郭が確認されたためサブトレンチによって掘り下げた。その結果、弥生土器片を含む溝状遺構(SD06)と考えられ、サブトレンチを拡張するように面的に掘り下げることとした。12月2日に行われた堆積状況の内部検討では、古墳時代頃の包含層に掘られた新しい溝である可能性が指摘され、現在の停止面よりさらに掘り下げる必要がある点等の指摘があった。しかし、12月4日にはSD06は弥生時代前期の溝である可能性が高まり、また平面的な検出は難しいが遺物を包含する範囲があることから数本のサブトレンチによる断面観察を行った。これによりもう1条溝が存在する可能性が考えられた。12月9日にはSD06の幅が現状より広がるのがサブトレンチによって確認されるとともに、もう1条の溝(SD07)は出土する土器から弥生時代後期のものと想定された。調査は悪天候の中で、梁と調査面の間隔が低いことから難渋することが多かった。その上、遺構の判別が難しい堆積土であったことや、これまでの西川津遺跡の調査とは異なる堆積状況であり比較できる調査成果がないことから、スムーズにいかない点が多々あった。

12月16日には南西隅にも溝と思われる落ち込み(SD09)が確認された。17日にはSD07に対応すると想定していた調査区南東で検出した溝は2筋に分かれ、SD07と繋がる後期の溝と前期の溝(SD10)に区別できることが判明した。

12月25日には、前期の溝3条(SD06・09・10)、後期の溝1条(SD07)の全体の方向や規模が平面的に確認出来るようになり、全体の様相が判明した。また弥生時代の遺構が残る微高地が存在することが事実となった。全体の様相は明らかとなったが、埋土とベースの堆積層との判別が非常に難しく、いくつかのサブトレンチによって確認した上で掘削を行っていた。ただ、それでも遺構の壁面は検出が難しく数度の再掘削を行わざるを得なかった。1月20日にはラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を実施し、同日にはSD07出土の木製組合せ箱形容器を硬質発泡ウレタン



写真3 西川津遺跡 A1 区の表土掘削



写真4 西川津遺跡 A1 区の遺構掘削



写真5 西川津遺跡 A1 区の調査指導風景

樹脂によって周囲の土砂と伴に梱包して取り上げた。2月5日には遺構を完掘し、その後下部の堆積状況を確認するため調査区壁面沿いを深く断ち割り、発掘作業は2月12日に終了した。その後補足調査を実施し2月16日に終了した。

**調査指導会・現地説明会等** 遺構の様相が判明した1月26・28日に調査指導会を実施し蓮岡法暲、田中義昭、渡邊貞幸、会下和宏、岩本崇氏から指導・助言を受けた。指導会では旧微地形の復元や遺跡の評価について意見を頂き、また堆積層について地質学の専門家による検討も必要とのことであった。このことから酒井哲弥氏に堆積層の検討を依頼し、河川堆積の方向や腐植土層の形成について指導を受けた。

### 3. 西川津遺跡(鶴場地区:B1区)

**文化財保護法上の措置** 本発掘調査の文化財保護法第99条第1項に基づく通知は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長から平成22年5月18日付で提出した。調査担当者は島根県教育庁埋蔵文化財調査センター原田敏照である。調査終了後の遺跡の取り扱い、平成23年1月17日付で土木部道路建設課長あて終了報告を提出し、記録保存に留めることとした。

**発掘作業の工程** 調査はA1区と同様に矢板による支保工を設置したが、近年の造成土がない地点であり遺構面まで浅いことから当初は梁を設けず、調査面が深くなった時点で梁を入れることとした。また、調査区は東側と西側の2つに分けて行うこととした。作業は西側の調査区から入り、重機による表土掘削を行った後に6月1日から開始した。表土掘削の段階で、西側ではA1区で見られた微高地の面が確認された一方で朝酌川に近い東側ではやや異なる堆積層が確認されていた。6月7日には、精査している面では明瞭に確認出来ないものの、近代の暗渠の底面で古い溝と考えられる暗色の堆積層が見られた。この位置から、道路を挟んだA1区のSD06に繋がる溝(SD13)が存在する可能性が考えられた。6月21日にはSD13としてサブトレンチを入れ断面を確認した後に全体に広げるように遺構掘削を実施した。またSD13の南側では多くのピットが検出され、順次掘削した。SD13の北側で検出したピットは壁面や底面の判別が困難であったが、最終的にはSD13に近接した遺構があり、その埋土に穿たれたピットであるために判別が難しいということが判明した。SD13の北に近接する遺構をSX01として調査を進めることとなったが、平面的に検出することは困難であっ



写真6 西川津遺跡 B1 区の遺物検出



写真7 西川津遺跡 B1 区の遺構精査



写真8 西川津遺跡 B1 区の遺構精査



たので十字方向のベルトを設定し、それに沿ったサブトレンチによって確認することとなった。7月8日にはSX01の東端部分で遺構の両壁が確認され溝である可能性が高まった。また調査区の東側は微高地の堆積層が緩やかに落ち込むと想定していたが、調査が進むにつれ大きく削られていることが判明した。8月11日からは東側の調査区の作業も並行して行い、18日には西側調査区の微高地が残る部分における遺構の調査がほぼ終了したため空中写真撮影を実施した。9月1日には、微高地の遺構調査が終了したことから全景写真を撮影した。その後の調査は、微高地を大きく削る河道(旧朝酌川)内の堆積層中心に進めることとなったが、掘削面が深くなり安全面から梁を設置することとなった。そのために微高地部分を全体的に深く掘削する必要が生じた。微高地部分の掘削は20～30cm程の深さで段階的に行った。各停止面で精査した結果、上面では見逃していたピットや掘り足らなかった遺構を確認することができた。9月14日には西側調査区の南壁沿いに土層観察用に残した部分を精査する中で、新たに溝(SD15)が存在することが確認された。SD15の埋土を精査中に窓枠状木製品が出土し、17・21日と硬質発泡ウレタン樹脂を利用して周囲の土砂と伴に梱包して取り上げた。10月14日には西側調査区の河道に堆積した砂礫層の掘削が終わり調査を終了した。

東側調査区の調査は河道(旧朝酌川)の砂礫層の掘削が中心であった。南壁の精査によって大きな切り合いが確認されたため河道1、河道2と呼称し掘り下げたが、平面的に掘り下げるのは困難であった。河道の砂礫層は厚く堆積しており、下部の状況が分からないまま掘削する作業が続いた。掘削面の深さが矢板の安全面を考慮する必要がある段階に近づいた11月25日に、北壁沿いに深く掘ったサブトレンチで砂礫層の下部に細砂層と粘土層が堆積していることが確認された。これらはこれまでの調査で確認されているアカホヤ火山灰を包含する縄文時代前期頃の層に近似していると判断され、またその上部の細砂～粗砂の堆積層は微高地の堆積層と同一の可能性が考えられた。ここに至って東側調査区の堆積状況の全体が把握でき、調査完了の見通しがたった。

河道2の掘削がほぼ終了した段階で、それよりも古い河道堆積と思われる堆積層が調査区北壁の断面で確認され、河道4として12月1日から掘削を開始した。12月20日には河道堆積層の砂礫層を掘り上げ、調査区全体を写真撮影し、測量等を行った後に12月22日に調査を終了した。

**調査指導会・現地説明会等** 東側調査区の微高地における弥生時代の遺構の様相が判明した7月5・8日に調査指導会を開催し、蓮岡法暲、田中義昭、渡邊貞幸、会下和宏、山田康弘氏から指導を受けた。溝の性格、ピットの検討による建物跡の復元、炭化米が出土した溝の精査、炭化米の年代測定等について助言指導を受けた。また7月13日には調査成果について記者発表



写真9 西川津遺跡 B1 区の土層断面の試料採取



写真10 西川津遺跡 B1 区の現地説明会



を行い、7月17日に現地説明会を開催し約60人の参加者を得た。

#### 4. 西川津遺跡(鶴場地区:A2区)

**文化財保護法上の措置** 本発掘調査の文化財保護法第99条第1項に基づく通知は、平成23年6月6日付で島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長から提出した。調査担当者は島根県教育庁埋蔵文化財調査センター原田敏照である。調査終了後の遺跡の取り扱いについては、平成24年1月6日付で土木部道路建設課長あて終了報告を提出し、記録保存に留めることとした。

**発掘作業の工程** これまでの調査と同様に矢板による支保工を設置して調査を行うこととし、A1区と同じく近年の造成土が厚いため当初から梁を入れての調査となった。また、排土の置き場を確保するため、北側と南側の2つの調査区に分けて順次調査した。作業は北側の調査区から入り、重機による表土掘削を行った後、人力掘削は平成23年6月21日から開始した。

掘削は、近代以降の水田層と確実に考えられる層から除去していき、A1区で確認された微高地の堆積層上面で停止する予定で進めた。排水用に一段階深く掘り下げた調査区東・西壁沿いの溝からは土器の出土が見られることから、A1区で検出したSD09・10に繋がる溝の存在を想定していたが、A1区の遺構面と同じ標高2m付近において行った28日段階の精査でも平面的には明確な輪郭を確認出来ない状況であった。やむを得ず標高1.85m付近で調査区全体を水平に揃えて精査したが、古墳時代頃の須恵器が出土するなど、A1区の状況とは様相が異なる可能性が浮上してきた。7月5日にはSD10の延長上にあたる位置で溝の輪郭らしきものが平面的に確認されたため、サブトレンチを2本東西方向に入れたが、弥生時代中期の土器が出土するなど整合性を欠いたものであった。7月6日にはサブトレンチをさらに掘り下げの中で微高地の堆積層と思われる層が見られず、調査区全体が大型の溝等である可能性が想定されてきた。それ以降はサブトレンチの断面で下部の堆積を確認した上で、上部の層から順次掘り下げていく方針で調査を進めた。その過程で確認した淡灰色系の粘土層では、8月9日に漆塗櫛が出土し、11日に硬質発泡ウレタン樹脂により梱包して取り上げた。粘土層の下部には腐植土層(オモカス層と呼称して調査した。)が確認され、編物や農耕具等の製品・未製品といった木製品や弥生土器を多く包含していることが分かった。8月中旬頃からは腐植土層の掘り下げを中心に調査を進め、多くの木製品が出土した。8月18日には調査区北壁のサブトレ



写真11 西川津遺跡 A2 区の精査



写真12 西川津遺跡 A2 区の遺構精査



写真13 西川津遺跡 A2 区最終段階

ンチで腐植土層下部の堆積を確認し、下部には砂礫層と遺物を含まない粘土層が存在することが明らかとなった。これによって全体的な堆積状況が判明し、調査の見通しが立つと共に調査区内全体が自然河道である可能性が高まった。9月1日には調査区の北西隅を深く坪掘りし、無遺物の粘土層を標高-0.5 m付近まで確認した。調査は無遺物の粘土層上面まで必要と考えられたが、当初想定していた掘削深度を大きく超えることから、安全面を考慮して腐植土層の掘削までとすることとし、9月5日には全景写真撮影を行い、6日に終了した。

南側の調査区は、北側調査区の埋め戻し・矢板除去・南側調査区の矢板設置工事・表土掘削を経て、10月3日から開始した。調査は、北側調査区、A1区の調査成果があることから方針は立てやすく、微高地上部に若干残る近年の水田層を除去し、精査を行った上で、サブトレンチを東西方向に2本設置して断面を確認した。10月11日にはそのサブトレンチの断面からA1区で確認したSD09・10に繋がるものが確認され、平面的にもSD10の続きが確認された。またSD09はA1区調査時点では溝と判断していたが、北側調査区で見られた自然河道と繋がる可能性が高く、今回の調査区で明らかにする必要があるがあった。調査はSD10・09(自然河道)及びピット等の遺構掘削を中心に進めたが、SD09上部の埋土と微高地の堆積層、特に両者に堆積する砂礫層は区別が難しく、サブトレンチの断面で確認しながら行ったが数度の掘り直しが必要であった。11月4日には腐植土層からしがらみ状の杭列が確認された。この杭列については確実に関係があるものを現地で判断して、その他の木材から抽出して図化することとしたが、記録をとりながらの検出作業は困難であった。SD09の調査は腐植土層の除去までとし、12月7日にはその他の遺構の掘削も終わり、全体を精査後、完掘状況の写真を撮影した。9日には作業を終え、10日には空中写真撮影を実施して完全に調査を終了した。

**調査指導会・現地説明会等** SD10の様相が大まかに判明した11月2・7日には調査指導会を開催し、田中義昭、渡邊貞幸、会下和宏、岩本崇氏によりSD09とSD10の時間的な関係、SD09の埋没過程の詳細な検討、出土遺物の検討について指導を受けた。11月10日には検出した溝や出土した木製品について記者発表を実施し、13日には現地説明会を開催し103人の参加を得た。



写真14 西川津遺跡 A2 区の調査指導会



写真15 西川津遺跡 A2 区の現地説明会

## 第3節 整理等作業の経過

### 1. 整理等作業の工程

整理等作業は各年度の現地調査に並行して出土遺物の水洗・注記を実施したが、初年度のA1区は出土量が多く、調査終了後にも水洗作業が多く残る状況であった。また出土品が多いことから注記は専用の機械を借り上げて実施した。接合・復元作業は現場作業と並行して実施したが、大部分は平成24年度に分類作業と並行して本格的に実施した。接合・復元は弥生時代の遺構を優先して行い、作業は後の実測作業を考慮して最小限に留めた。分類作業は、弥生時代の遺構に伴うものは細かく検討し、B1区の自然河道出土のものは大まかに分類した。また、分類に沿って破片数・重量を必要に応じて記録し、実測を行う遺物の選択は遺構出土品を優先した。

実測作業は、現地作業終了後に主に木製品を中心に実施し、土器・石器類の多くは平成24年度に実施した。ただし当初選択した実測遺物が多かったことから、途中で見直しを行い、遺構出土の土器から文様のある破片を除き、B1区の自然河道出土品は各時期の特徴のある土器のみとした。石器類は大多数を計測表と写真のみの掲載とし、遺構出土品の一部を図化した。

### 2. 出土遺物の検討・公開

出土した木製壺形容器については、平成22年に深澤芳樹氏に指導を受け、土器の壺との比較検討、把手の存在について指導を受けた。また、同年2月24日には木製壺形容器及び後期のJ字形ガラス勾玉について記者発表を行い、併せて2月28日にそれらを含めた出土品の展示公開を川津公民館で開催し、約200人の参加があった。木製壺形容器及び木製組合せ箱形容器については、山田昌久氏等の指導も受け、木製壺形容器の製作に使用された工具(鉄器か石器か)の検討及び類例について、箱形容器については板材の状況等から現地組み立ての槽である可能性について指摘を受けた。

また、A2区出土の木製農耕具未製品等については山田昌久氏、中原圭氏にその特徴や器種等について助言を受けた。その際ウルシと思われる木が存在することが指摘され、急遽、能城修一氏に依頼した樹種同定の結果ウルシであったことから、平成24年3月16日に漆液容器の壺や漆塗り土器とともに記者発表を実施した。漆液容器やウルシ原木、漆塗土器、漆塗櫛を松江市立鹿島歴史民俗資料館で3月17日～24日に一般公開展示した。出土した炭化種実については平成23年と平成24年に住田雅和氏に指導を仰ぎ、出土種実と時期的な様相について検討を行った。

出土した弥生土器の様相が判明してきた段階で平成24年に田畑直彦氏に指導を受けた。弥生時代前期の土器の位置づけ、文様に着目した分類・数量的な分析についての指導があった。また石器の材質については中村唯史氏に指導を受け、石器と材質の関係を把握することができた。

古屋敷Ⅱ遺跡出土の平安時代の緑釉陶器については、同遺跡出土の須恵器・土師器と共に平成24年に高橋照彦氏より器種や特徴、時期的な位置づけについて助言を受けた。その結果は、同遺跡から出土した須恵器・土師器の年代観よりも緑釉陶器の年代的な位置づけがやや新しく、若干の時期的なずれが考えられ、今後の課題となった。写真16 西川津遺跡出土品の調査指導





## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

本書で報告する西川津遺跡と古屋敷Ⅱ遺跡は松江市西川津町に所在する。両遺跡は大橋川に流れ込む朝酌川の河川堆積によって形成された松江平野の北部に位置する。その松江平野は宍道湖東岸に広がる東西4km、南北2.5kmの低湿な三角州平野である。

西川津遺跡は朝酌川周辺に広がる低湿地遺跡であり、第3図の微地形分類図では遺跡のほとんどが旧河道に位置するが、今回の調査地である鶴場地区は三角州Ⅰ面とされた先端部付近にあたり、両側には旧河道が存在し、背後には低湿地がみられる。また鶴場地区の北側では、朝酌川と持田川が合流しており、そこから北東方向に中尾付近まで三角州Ⅰ面が広がっている。この三角州Ⅰ面とされている範囲が西川津遺跡の集落等の生産基盤となる部分であった可能性が考えられる。

古屋敷Ⅱ遺跡は現在大内谷と呼ばれる谷底平野に面した低丘陵の南斜面に位置しており、現在も谷に面した丘陵裾部には集落が存在している。

### 第2節 歴史的環境

西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡が位置するのは朝酌川流域及びその周辺の低丘陵に古墳をはじめ多くの遺跡が分布する一帯である。(第4図)

#### 1. 旧石器時代

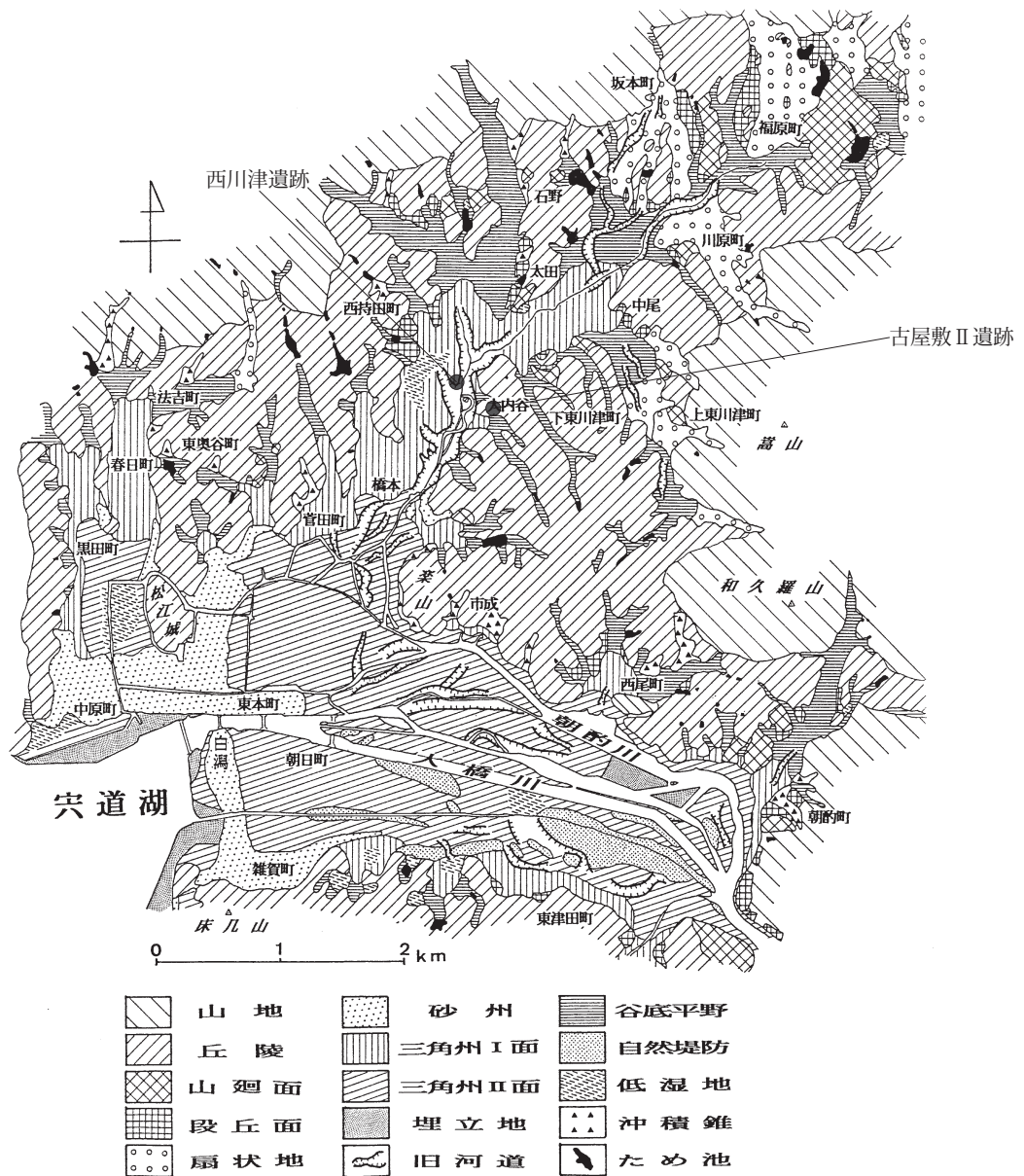
現在の地形とは大きく異なり、谷合になっていたと考えられ、この時代の遺跡は知られていない。ただし、西川津遺跡(5)やタテチョウ遺跡(6)において、尖頭器や細石刃核と考えられる石器が出土しており、付近に旧石器時代の遺跡が存在する可能性がある。

#### 2. 縄文時代

気候が温暖な時期にあたり、海水面の上昇によって現在の宍道湖が山合まで広がっていたと推定される。縄文土器が出土している遺跡として、西川津遺跡、タテチョウ遺跡、島根大学構内遺跡(279)、金崎遺跡(131)、城の越遺跡(778)、芻上遺跡(1082)が挙げられる。西川津遺跡や原の前遺跡(81)ではアカホヤ火山灰が古宍道湖の湖底堆積層に包含されており、前期～中期にかけて宍道湖がこの付近まで広がっていたことが分かっている。島根大学構内遺跡の橋縄手地区からは、アカホヤ火山灰の純粹層を挟んで早期末～前期末にかけての遺物群が層位的に出土している。また平成20年の西川津遺跡C区の調査では、縄文時代早期の旧地形とともに土器が出土しており、当時の地形復元が可能である。今回の鶴場地区の調査で確認された微高地は、その堆積状況から、これまで言われているように縄文時代後期頃の高地における河川の堆積作用によって朝酌川周辺に形成されたものである可能性が考えられる。また、今回の調査区の北側上流域に所在する芻下遺跡は、詳細は不明であるものの縄文土器が出土しており、早くに陸地化したであろう上流域に縄文時代の遺跡が存在している可能性が想定される。

### 3. 弥生時代

縄文時代の終わり頃には、穴道湖の汀線もタテチョウ遺跡付近まで後退して、河川の堆積作用によって微高地や湿地帯が形成されていったと考えられる。この時代の遺跡には西川津遺跡・タテチョウ遺跡をはじめ貝崎遺跡(70)、橋本遺跡(14)などが知られる。西川津遺跡のこれまでの調査では前期の貝塚や前期～中期の掘立柱建物跡等が検出され、遺物は前期～中期の大量の土器や木製農耕具、石器、骨角器等が出土している。タテチョウ遺跡では前期～後期の土器・石器・木製品が出土している。両遺跡からは土笛や漆塗櫛、貝輪、凝灰岩性の管玉等の装身具、分銅形土製品、流水文銅鐸等の遺物が出土し、また木器・石器・玉類の未製品も出土するなど、弥生時代の拠点集落の様相を備えた遺跡といえる。本書で報告する鶴場地区の調査で検出した前期や後期の溝によって、朝酌川周辺の微高地に存在した集落の一端が明らかとなりつつある。



第3図 遺跡周辺の微地形分類図 (1/60,000) (林 1991 から転載)

集落の様相に対して、この時代の墳墓や水田等の状況は不明であるが、低地の北側の丘陵には近年の調査によって、沢下遺跡(島根県 2008)で四隅突出型を呈す弥生墳墓が確認されており、朝酌川遺跡群の弥生時代集落との関連性が注目される。

#### 4. 古墳時代

朝酌川流域の低丘陵には多くの古墳が分布し、出雲地方における古墳の密集地の一つとなっている。前期に遡る古墳は少ないが、山崎1号墳(792)や柴尾2号墳、苺捨古墳(239)が知られる。山崎1号墳は一辺15mの方墳で、埋葬施設に排水溝を伴い割竹形木棺が置かれていたと推測され鉄剣と銅鏃が出土している。柴尾2号墳は一辺8mの小規模な方墳で、内部主体は割竹形木棺と箱形木棺が各1基検出されており、土師器壺・甕が出土している。苺捨古墳は22×20mの楕円形を呈す円墳で、舟形木棺2基・箱形木棺1基が検出され中心の第一主体からは銅鏡2面・勾玉1点・管玉2点・ガラス小玉74点が出土している。この古墳は規模や出土した副葬品からみて朝酌川流域の首長墓と考えられるものである。中期以降になるとさらに多くの古墳群が出現する。大部分は須恵器を伴う時期のものであり、柴古墳群(4基)(80)、馬込山古墳群(4基)(139)、金崎古墳群(11基)(131)、上浜弓古墳群(9基)(790)、古屋敷古墳(78)等があり、一辺20m以下の方墳が相当数築造されるようになる。この時期の古墳群の中で注目されるのは金崎古墳群である。1号墳は全長35mの前方後方墳で、横口式石槨の可能性も指摘される小形の竪穴式石室をもち、副葬品には倣製内行花文鏡、子持勾玉等の玉類、剣、矛等の武器、各種の須恵器があり、

表1 周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
5	西川津遺跡	137	菅田小丸山古墳	793	柴Ⅱ遺跡	971	番貫Ⅱ遺跡
6	タテチョウ遺跡	138	薬師山古墳	796	後田古墳	972	後谷Ⅰ遺跡
14	橋本遺跡	139	馬込山古墳群	798	前田古墳	973	長池Ⅲ遺跡
53	納佐遺跡	239	苺捨古墳・堂頭山城跡	800	一の谷古墳	975	後田Ⅱ遺跡
70	(貝崎遺跡)	279	島大構内遺跡	802	家の上古墳	976	家ノ脇遺跡
78	古屋敷古墳	292	道仙古墳群	804	J 1 6 遺跡	977	長池Ⅰ遺跡
80	柴古墳群	306	持田川流域条里遺跡	817	貝崎南古墳	978	長池Ⅱ遺跡
81	原の前遺跡	342	深田古墳群	818	I68 古墳	1002	宮ノ前遺跡
93	太田古墳群	343	川津城跡	819	I67 古墳	1007	田尻古墳
94	福山古墳群	344	柴遺跡	823	J 5 9 遺跡	1021	法事前遺跡
96	国石古墳群	577	J15 遺跡	907	大佐遺跡	1038	祖田畑遺跡
101	大源古墳群	626	大内谷古墳群	908	藤ヶ谷遺跡	1042	古屋敷Ⅱ遺跡
102	尾山横穴群	729	貝崎B遺跡	909	国石遺跡	1048	先田遺跡
105	松の前古墳群	773	米田遺跡	910	杉谷古墳群	1050	大内谷奥遺跡
107	小丸山古墳群	774	I40	911	杉谷遺跡	1059	ドンド遺跡
108	和田上遺跡	775	I41	914	空山古墳群	1075	大内谷遺跡
109	宮垣古墳群	776	I42	915	宮尾古墳群	1082	刎上遺跡
114	納佐池遺跡	778	城の越遺跡	917	坂口古墳	1106	上井ノ森遺跡
128	川津古墳群	788	宮田古墳群	918	鶴場遺跡	1116	京田遺跡
131	金崎古墳群	789	浜弓古墳群	919	柴Ⅲ遺跡	1119	柏木遺跡
134	堤廻遺跡	790	上浜弓古墳群	969	貝先遺跡	1026-49	松江城下町遺跡
135	J 1 4 城跡	792	山崎古墳	970	番貫Ⅰ遺跡	1026-57	松江城下町遺跡





第4図 西川津遺跡・古屋敷II遺跡と周辺の遺跡 (1/15,000)



朝酌川流域一帯の首長墓と考えられる。

後期には朝酌川流域の古墳は不明であるが、北側の丘陵には太田古墳群(93)や薄井原古墳と  
いった横穴式石室をもつ古墳が築造される。特に薄井原古墳は全長50mの前方後方墳であり、  
当地域の最大規模の古墳である。

集落遺跡は事例が少なく、柴遺跡(344)や堤廻遺跡(134)が知られるのみである。朝酌川遺跡  
群の河川堆積物にもこの時代の土器が大量に含まれていることから未発見の遺跡が存在する可  
能性が高いが、現段階では詳細不明である。

### 5. 古代

733(天平5)年に作成された『出雲国風土記』によれば、奈良時代の西川津町一帯は島根郡に属し、  
郡家は山口郷に比定されている。郡家の所在地には諸説あるが、松江市福原町の芝原遺跡では規則  
性をもつ掘立柱建物群が発見されており、郡家の可能性が指摘されている。朝酌川は『出雲国風土  
記』には水草川とあり、その水源は2つで、途中で合流し入海(宍道湖)に注いでいたとある。なお、  
現在は朝酌町で大橋川と合流している。この時期の遺構にはタテチョウ遺跡の船着き場と推定され  
ている杭列があり、付近からは「驛」と墨書された須恵器が出土している。芝Ⅲ遺跡(919)では平  
安時代初頭の掘立柱建物が十数棟確認されており、集落跡である。また今回の報告で挙げる古屋敷  
Ⅱ遺跡(1042)は平安時代後期頃の集落跡である。

### 6. 中世

西川津地域は中世には「長田郷」と呼ばれるようになった。遺跡としては川津城跡(343)や堂  
頭山城跡(239)などの小規模な山城や、馬込山古墓群(139)、上浜弓古墳群(790)等の中世末～  
近世にかけての古墓が知られている。近年の調査では古代末～中世の陶磁器や土師器などが朝酌  
川遺跡群から出土していることから、河川のそう遠くない丘陵縁辺部には集落が営まれていた可  
能性が考えられていたが、平成20年のD区の調査で建物群が検出され、周囲にこの頃の集落が  
営まれていたことが確実となった。

#### 【参考文献】

- 石橋逸郎・近藤正 1971 「松江・馬込山古墓群」『島根県埋蔵文化財調査報告書』Ⅲ 島根県教育委員会  
田中義昭 1996 「弥生時代拠点集落としての西川津遺跡」『山陰地域研究』12 島根大学汽水域研究センター  
田中義昭 2011 『弥生時代集落址の研究』 新泉社  
島根大学埋蔵文化財調査研究センター 1997～2005 『島根大学埋蔵文化財調査研究報告』1～8  
島根県教育委員会 1979～1992 『タテチョウ遺跡発掘調査報告書』Ⅰ～Ⅳ  
島根県教育委員会 1980～2003 『西川津遺跡発掘調査報告書』Ⅰ～Ⅸ  
島根県教育委員会 2008 『恵谷古墳群・岩鼻古墳群・上講武殿山城跡・砥石遺跡・沢下遺跡・元宮遺跡』  
島根県教育委員会 2011 『苜舎古墳・西川津遺跡』  
島根県教育委員会 2011 『金クソ谷遺跡4区・一の谷古墳』  
島根県教育委員会 2011 『山辺遺跡・鞍切遺跡・米坂古墳群・貝先遺跡』  
林正久 1991 「松江周辺の沖積平野の地形発達」『地理科学』第46巻第2号  
松江市教育委員会 1984 『山崎古墳』  
松江市教育委員会 1993 『上浜弓1号墳他発掘調査報告書』  
松江市教育委員会・松江市教育文化振興事業団 1994 『柴尾遺跡発掘調査報告書(1)』  
松江市教育委員会・松江市教育文化振興事業団 2011 『西川津C区・古屋敷Ⅱ遺跡』  
松江市土地開発公社・松江市教育委員会 1986 『堤廻遺跡』  
山本清 1982 「古代」『川津郷土史』川津公民館

## 第3章 西川津遺跡(鶴場地区)の調査成果

### 第1節 西川津遺跡等の朝酌川遺跡群の調査歴

#### 1. 遺跡群の発見

朝酌川流域では、中流域の水田の耕作や小規模な水道工事等の際に土器が発見されることが古くから知られていた。また下流域の水門工事の際には多量の土器群が出土したことがあり、遺跡が広範囲にわたって存在することが予想されるようになった。1949年には山本清氏によって下流域の大字名堅町のタテチョウ遺跡の試掘調査が行われた結果、弥生時代前期の土器を中心として各時代の遺物が出土する低湿地遺跡であることが明らかとなった。

一方で、1967年には中流域において国道431号線島根町大芦に向かう道路の三叉路付近の電話線埋設工事で出土した土器群が注目された。それらは弥生時代前期～後期の土器、磨製石斧、環状石斧未製品、石鏃、古墳時代の土師器等であった。発見されたこれらの遺物を契機として、周辺一帯は西川津遺跡として認識されるようになった。

#### 2. 朝酌川河川改修に伴う発掘調査(第5図)

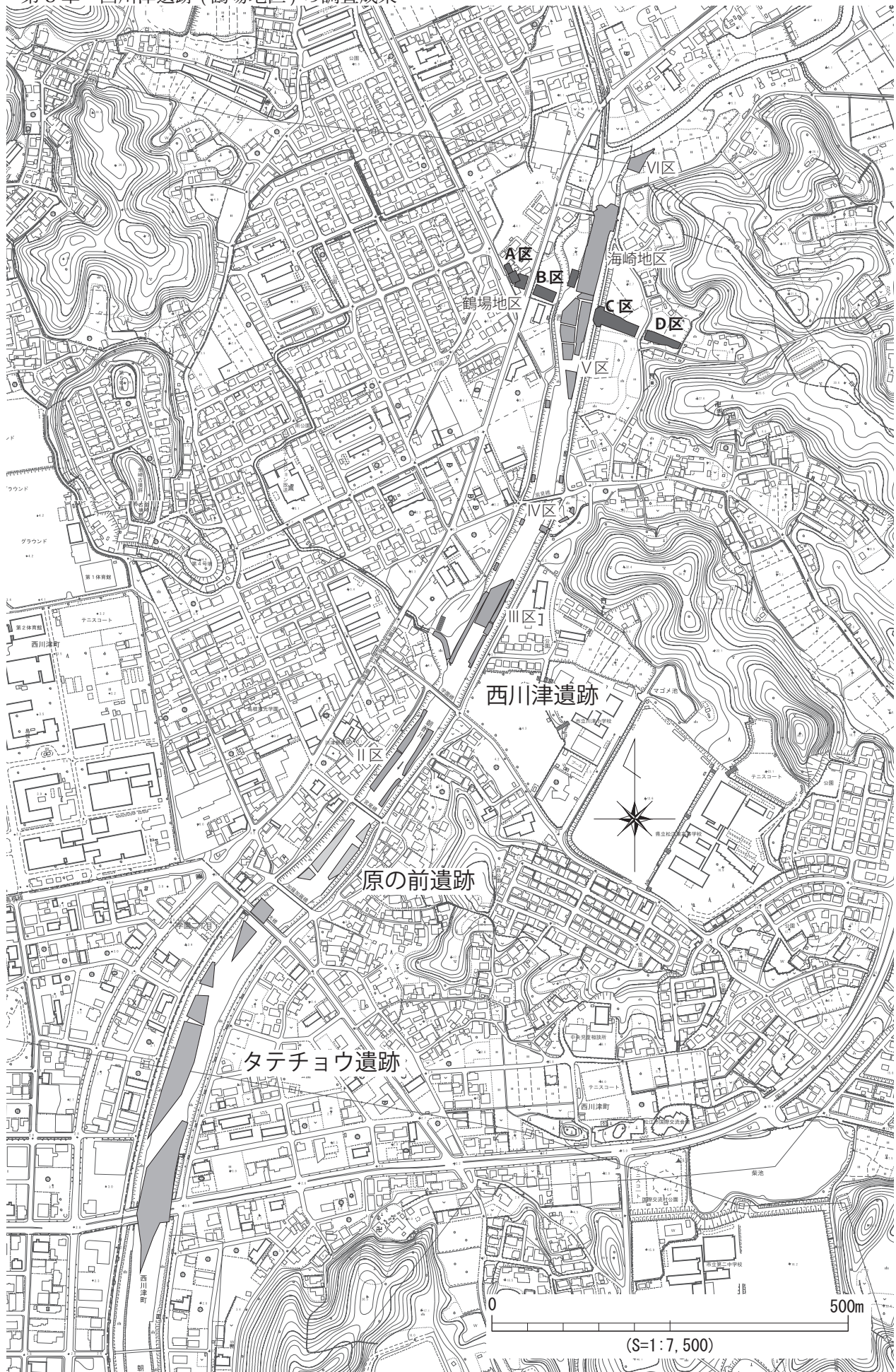
1977年からは、タテチョウ遺跡の調査を皮切りに朝酌川の河川改修事業に伴い本格的な発掘調査が実施された。そのうち西川津遺跡は1980年から開始され、2001年まで数次にわたって断続的に調査が実施された。特に海崎地区の調査では、弥生時代前期及び中期の生活面が残存しており、掘立柱建物跡や貯木場と考えられる杭で囲まれた施設跡、貝塚といった遺構が残され、木製農耕具類や鳥形木製品をはじめとする大量の木製品、磨製石器類、各種の骨角器、土笛、分銅形土製品、アツソデガイ製の貝輪といった遺物のほか、人骨、獣骨、魚骨といった動物遺存体やドングリ、トチノミ、クルミ、ウリ、炭化米といった植物遺存体も出土した。このように低湿地遺跡という条件にもよって弥生時代の多種多様なものが残されており、山陰を代表する弥生時代遺跡であるとともに西川津遺跡=弥生時代の拠点集落としてのイメージを我々に植え付けた調査でもあった。その後の調査(Ⅱ区～Ⅵ区)では、それらを裏付けるかのように弥生時代を中心としながら縄文時代から近世にかけての様々な遺物が出土し、西川津遺跡の弥生時代の大規模な集落跡というイメージが定着していった。ただし、弥生時代前期を中心とする明確な遺構は海崎地区以外の調査ではほとんど確認されず、集落本体の存在は不明な状態が続いていた。

1992年の調査では、タテチョウ遺跡と西川津遺跡の両遺跡の間にも原の前遺跡が確認され、朝酌川に沿った流域一帯が大規模な遺跡であることが判明した。このことから現在では各遺跡を総称して朝酌川遺跡群と呼称している。

#### 3. 松江島根線道路改築事業に伴う発掘調査(第6図)

朝酌川の河川改修事業に伴う調査が完了した後、新たに松江島根線道路改築事業によって、西川津遺跡の調査が再開されることとなった。この調査はこれまで朝酌川に並行して行ってきたものとは異なり、川を横断する形で調査区を設定しており、その結果これまでの調査では得られなかった成果を得ることができた。2007年の調査(C区)では、朝酌川周辺の縄文時代早期の面が確認され、土器や杭等が出土した。またD区では中世の掘立柱建物が確認され、河川周辺の状





第5図 朝酌川遺跡群の調査区配置図(1/7500)

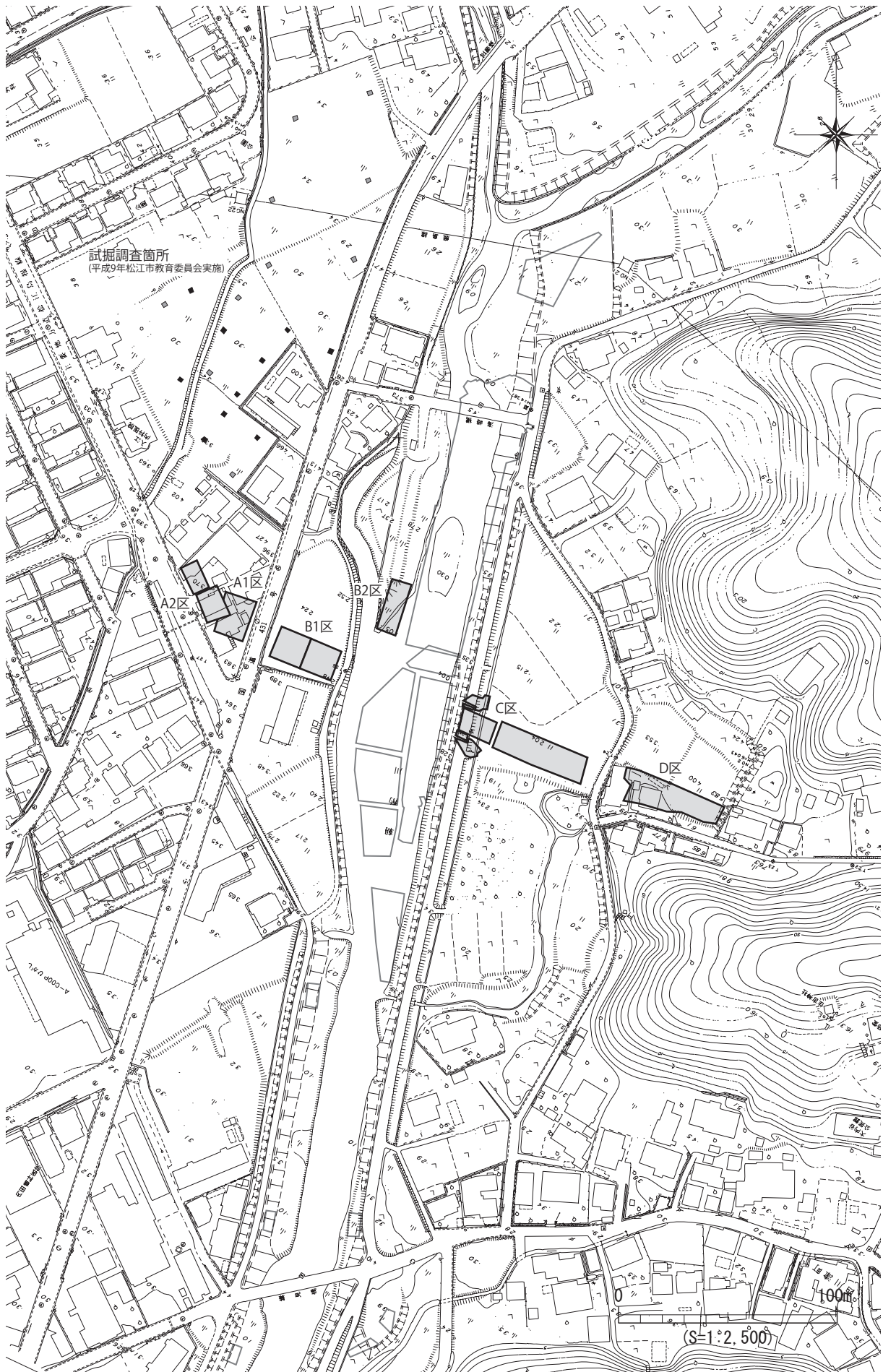


況が明らかとなった。また2008年のB2区の調査では弥生時代前期の貝層が残存しており、前期の生活面の様相が改めて確認された。本書で成果を報告する2009年～2011年の調査(A・B1区)では、朝酌川の西岸の様相を初めて確認することができ、詳細は後述するように弥生時代前期以降の遺構が検出される微高地が確認され、前期及び後期の環壕の可能性もある大溝の存在が明らかとなった。このことから西川津遺跡の集落本体の縁辺部ではあるが、初めて遺構から弥生時代の集落本体の様相を明らかにすることができた。

表2 朝酌川遺跡群の調査履歴

調査年度	調査主体	調査遺跡	調査地点 (西川津町)	主な遺構・遺物	報告書(刊行年)
1974	松江市教育委員会	タテチョウ遺跡			
1977	島根県教育委員会	タテチョウ遺跡	橋本堅町	磨製石剣、石舌、土馬、土笛	タテチョウ遺跡Ⅰ(1979年3月)
1978	島根県教育委員会	タテチョウ遺跡	橋本堅町		タテチョウ遺跡Ⅰ(1979年3月)
1979	島根県教育委員会	西川津遺跡	宮尾坪内		※試掘調査
1980	島根県教育委員会	西川津遺跡	宮尾坪内558	鳥形木製品、漆塗土器	西川津遺跡Ⅰ(1980年3月)
1981	島根県教育委員会	西川津遺跡	宮尾坪内588	狭鎌、又鎌、斧柄	西川津遺跡Ⅱ(1982年3月)
1983	島根県教育委員会	西川津遺跡	609-20外	貝塚、貯木場、骨角器、木製品	西川津遺跡Ⅲ(1987年3月)
1984	松江市教育委員会	タテチョウ遺跡	1361-1	布目瓦、建築部材	タテチョウ遺跡(1985年3月)
1984	島根県教育委員会	タテチョウ遺跡	橋本堅町	弥生土器、木製品	タテチョウ遺跡Ⅱ(1987年3月)
1984	島根県教育委員会	西川津遺跡	大内谷海崎	鳥形木製品、玉類	西川津遺跡Ⅳ(1988年3月)
1985	島根県教育委員会	タテチョウ遺跡	橋本堅町1363-1	狭鎌、又鎌	タテチョウ遺跡Ⅱ(1987年3月)
1985	島根県教育委員会	西川津遺跡	大内谷海崎	貝塚、貯木場、鉄斧、斎串	西川津遺跡Ⅴ(1989年3月)
1987	島根県教育委員会	タテチョウ遺跡	橋本堅町1358-3	斎串、塔婆、綾編笠	タテチョウ遺跡Ⅲ(1990年3月)
1988	島根県教育委員会	タテチョウ遺跡	橋本堅町1125-3	木製高坏、斎串、土笛	タテチョウ遺跡Ⅲ(1990年3月)
1990	島根県教育委員会	タテチョウ遺跡	1261	外来系土器	タテチョウ遺跡Ⅳ(1992年3月)
1990	松江市教育委員会	タテチョウ遺跡	1262	弥生土器	市教委1991・1992
1991	島根県教育委員会	タテチョウ遺跡	1127	外来系土器	タテチョウ遺跡Ⅳ(1992年3月)
1992	島根県教育委員会	原の前遺跡	1164-9	橋脚、人形代、噴砂、4世紀の護岸跡	原の前遺跡(1995年3月)
1993	島根県教育委員会	原の前遺跡	1164-9		原の前遺跡(1995年3月)
1994	島根県教育委員会	西川津遺跡	647-1	土笛、鏝(こて)、板碑形塔婆	西川津遺跡Ⅶ(2000年3月)
1995	島根県教育委員会	西川津遺跡	1165	櫓(そり)、杵	西川津遺跡Ⅶ(2000年3月)
1996	島根県教育委員会	西川津遺跡	1170-1・563-1	杭、弥生土器	西川津遺跡Ⅵ(1999年3月)
1997	島根県教育委員会	西川津遺跡	595-2・563-1	銅鐸、弥生後期の護岸跡?	西川津遺跡Ⅵ(1999年3月)
1998	島根県教育委員会	西川津遺跡	600	人面付土器、貝塚	西川津遺跡Ⅷ(2001年3月)
1999	島根県教育委員会	西川津遺跡	600	灰釉陶器、5世紀の護岸跡	西川津遺跡Ⅷ(2001年3月)
2001	島根県教育委員会	西川津遺跡	560・609	杭列、弥生土器	西川津遺跡Ⅸ(2003年3月)
2006	松江市教育委員会	西川津遺跡	海崎596-7・597-6・7・8・598-1・599-4、鶴場628-1	杭列?、縄文土器、弥生土器	西川津遺跡C区・古屋敷Ⅱ遺跡(2011年3月)
2007	島根県教育委員会	西川津遺跡		縄文早期の溝、石組遺構	苺捨古墳・西川津遺跡(2011年3月)
2008	島根県教育委員会	西川津遺跡		銅鐸片、弥生前期の貝層、卜骨	苺捨古墳・西川津遺跡(2011年3月)
2009	島根県教育委員会	西川津遺跡	鶴場627-2,-9,-10	弥生の大溝、土笛、ガラス勾玉	西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡(2013年3月)
2010	島根県教育委員会	西川津遺跡	鶴場628-1	弥生前期の溝、絵画土器	西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡(2013年3月)
2011	島根県教育委員会	西川津遺跡	鶴場624-13,-14,-16	弥生前期の溝、木器未製品、漆	西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡(2013年3月)





第6図 鶴場地区周辺の調査区配置図(1/2500)

## 第2節 調査の方法

### 1. 発掘調査区とグリッドの設定(第7図)

調査区は、矢板による支保工を行った上で実施する必要があったことから、基本的に方形に、一部調査区が重複せざるを得ない部分も生じながら可能な範囲で設定した。調査にあたり、日本測地系の第Ⅲ座標系に基づき座標軸を合わせた10m四方のグリッドを設定した。X=56,330、Y=82,670を原点とし、北に向けてアルファベット順、東に向かってアラビア数字順に呼称し、それぞれの区画は各交点の南西隅をもってグリッド名称とし、遺構等に伴わない遺物はこのグリッドで取り上げ等を行った。

### 2. 表土の掘削と遺構の検出

調査地の現況は、水田又はその上部に盛土造成した宅地であり、2008年のトレンチ調査結果に基づいてバックホーを用いて表土を除去した。A1・B1区では、微高地上面から剥がれるように上部の層を除去できたが、A2区(北)では調査区全体が弥生時代の自然河道部分であったことからそのようにはいかず、周辺調査区で微高地上面が確認される標高で停止した。表土掘削後はスコップによって人力で掘り下げ、遺物包含層についても同様に行ったが、土器が集中する場合や木製品が集中する層は、草削り・移植ゴテで掘り下げた。遺構検出は草削りによって精査したが、ベースの微高地の層と遺構埋土の区別が非常に難しいことから、平面的にある程度の輪郭を確認した後に、サブトレンチによって断面を確認した上で遺構掘削を行う場合が多かった。

### 3. 遺構掘削

遺構の埋土掘削は、土層観察用のベルトを設定するか、遺構を半裁して埋土を掘削し、写真撮影後、必要に応じて土層断面図を作成した。遺構内から出土した遺物については木製品等一部は出土状況を記録し、その他の土器や石器等は出土地点を記録して取り上げた。

### 4. 記録の作成

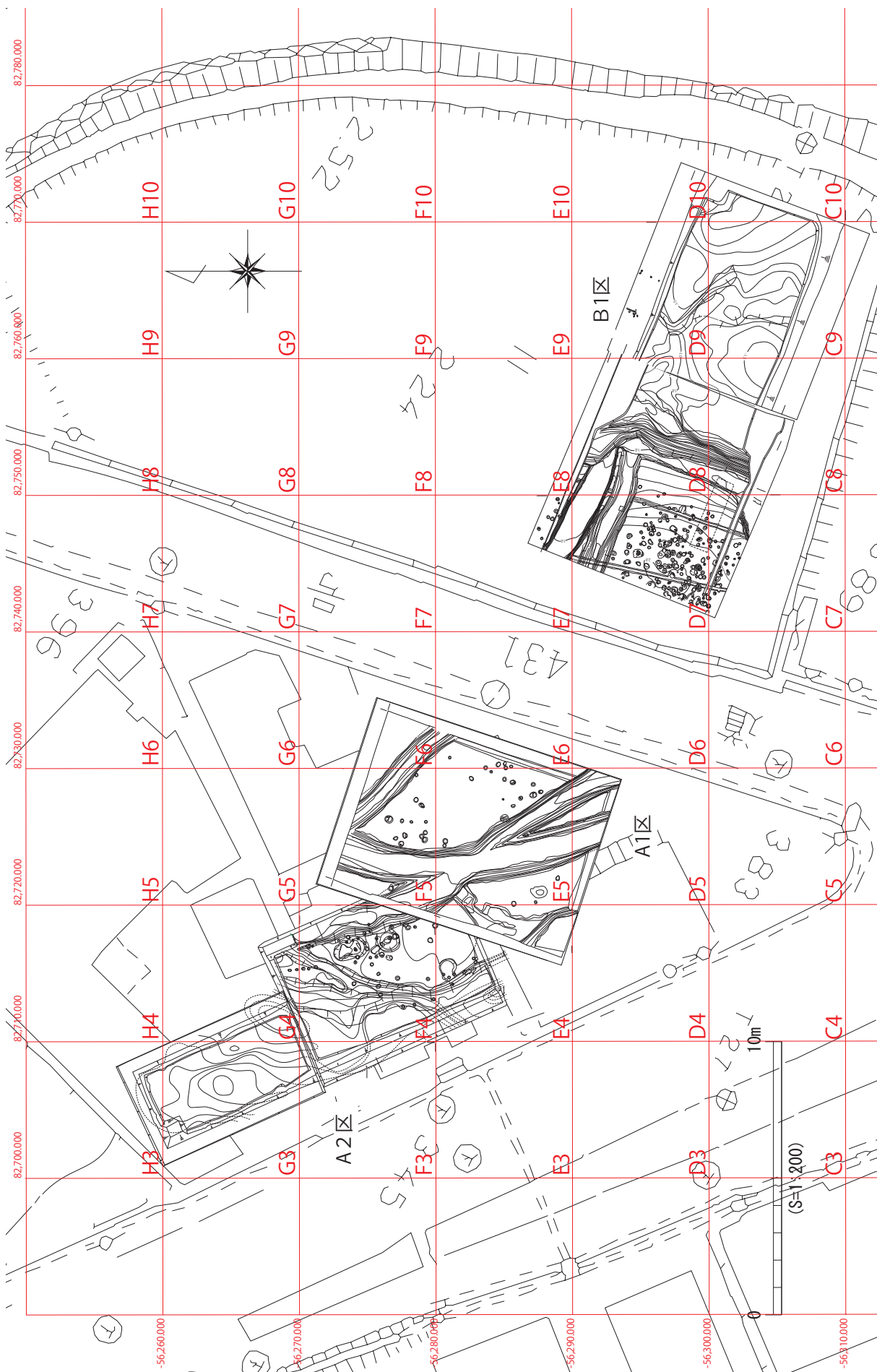
遺構の平面図は、コンピュータ・システム株式会社の遺構調査システム「SITE」を用いて測量し、出力後補正を行った。一括性の高い土器群の出土状況や杭列等は必要に応じて手測りで平面図・立面図を作成した。また、報告書掲載が見込まれる遺物等は遺跡調査システムで出土位置を記録した後に取り上げを行った。遺構等の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは6×7判フィルム(モノクロネガ・カラーポジフィルム)による撮影を行い、それ以外は35mmフィルムカメラ(モノクロネガ・カラーポジフィルム)及びデジタルカメラで撮影した。

### 5. 自然科学分析

自然科学分析のうち花粉分析等については、分析担当者と現地で協議した上で、採取からの作業を委託した。それ以外の炭化米の分析、放射性炭素年代測定、樹種同定用の試料は発掘作業終了後に選択したものを送付して分析を委託した。

### 6. 整理等作業

出土した遺物のうちで木製品は、メモ写真撮影をし、概略図や寸法を記載したカードを作成して台帳化した。その他の遺物は分類作業を行った上で必要に応じて重量・破片数等を記録した。遺物の実測は全体的な数量が多いことから遺構出土のものを優先して選択し、包含層出土品は時期を示すものや特殊品のみを選択した。



第7図 西川津遺跡鶴場地区の調査区と区割り図(1/400)



## 第3節 調査区の概略と基本層序

### 1. A1区(平成21年度調査区)(第8～10図)

**発掘作業と検出遺構(第8図)** 平成21年度の調査区は、現況は宅地・店舗として利用されていた場所で、近現代の水田面から1.5m程造成土が盛られている部分である。調査は造成土及び近現代の水田層を重機によって除去した後、標高2m付近から人力により掘削・精査を行った。調査面積は300㎡である。

遺構精査は水田層の最下層及び層厚の薄い包含層を除去した段階で行い、全ての遺構は後述する微高地の上面標高2m付近で検出している。

遺構掘削は、近現代の水田に伴うものと考えられる暗渠から行った。暗渠は調査区内で6条(SD01～05・08)検出し、燻し瓦片が出土している。暗渠内部には竹や小枝等が埋設されていたが、記録は写真のみに留めた。

弥生時代の遺構として溝を4条(SD06・07・09・10)検出した。また、SD07の埋土上面で土器が集中する箇所があり、土器溜まりとして取り上げた。埋土からの出土遺物は地点のみを記録して取り上げていたが、掘削が進む中で途中から上部のシルト質の層と下部の粘土質の層に分別して取り上げるようにした。木製品はその出土状況の輪郭も記録し、SD10で検出した礫群は出土状況を図化した。なお、当初SD06・09・10の3条の溝は等間隔に並び、弥生時代前期の3重の環壕の可能性も考えられたが、平成23年度の調査によってSD09は自然河道であると判断された。

その他の遺構としてピット37基、土坑1基を検出した。ピットは調査時点では後期に属するものが多いと考えていたが、調査後に出土遺物の詳細な検討をした結果、全て前期に属するものと判断した。また、建物の有無についても調査後に検討し、2棟(掘立柱建物1・2)復元した。

遺物の出土量はコンテナ100箱あり、内訳は弥生土器を中心とする土器類が70、石器類が20、木製品が10箱である。

**調査の完了状況(第9図)** 本調査区は、下部に存在する遺構の可能性や微高地の堆積状況を確認するために、最終的に調査区の北壁と西壁沿いを深く掘り下げて、標高0m付近まで確認した。このことによって、SD06の半分以上、SD07・10の一部は失われているが、他の部分は調査後、埋め戻されており、改良(改築)後の道路下部に残存することとなった。

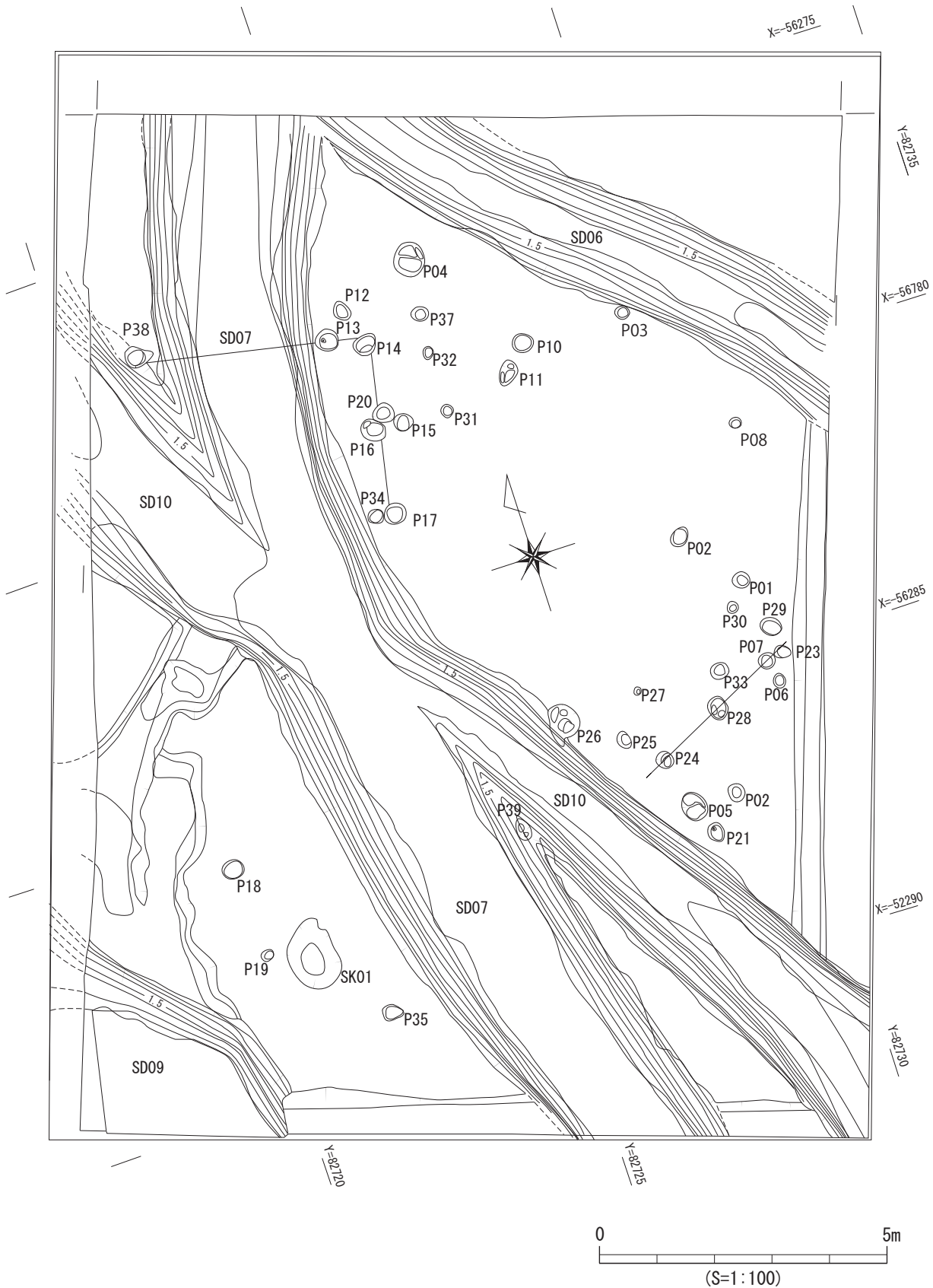
**基本層序(第10図)** 調査区の基本層序は、上部から造成土－水田層－包含層(黒色土)－微高地の堆積層となっており、遺構は微高地の堆積層上面に穿たれている。微高地の堆積層は、上部からシルト層－腐植土層－砂礫層であり、縄文時代後期以降の河川堆積によるものと考えられる。

### 2. B1区(平成22年度調査区)(第11～14図)

**発掘作業と検出遺構(第11図)** 平成22年度の調査区は、矢板打設の工程上、東側と西側の二つに分けて調査を行った。調査前の現況は水田であり、A1区で見られる宅地等に伴う造成土は見られなかった。調査は水田層を重機によって標高2m付近まで除去した後、人力による遺構精査・掘削を行った。調査面積は500㎡である。

遺構はA1区と同じく標高2m付近の微高地堆積層の上面で検出した。微高地堆積層の上部には包含層が残り、それを除去した後に遺構精査を行い確認した。

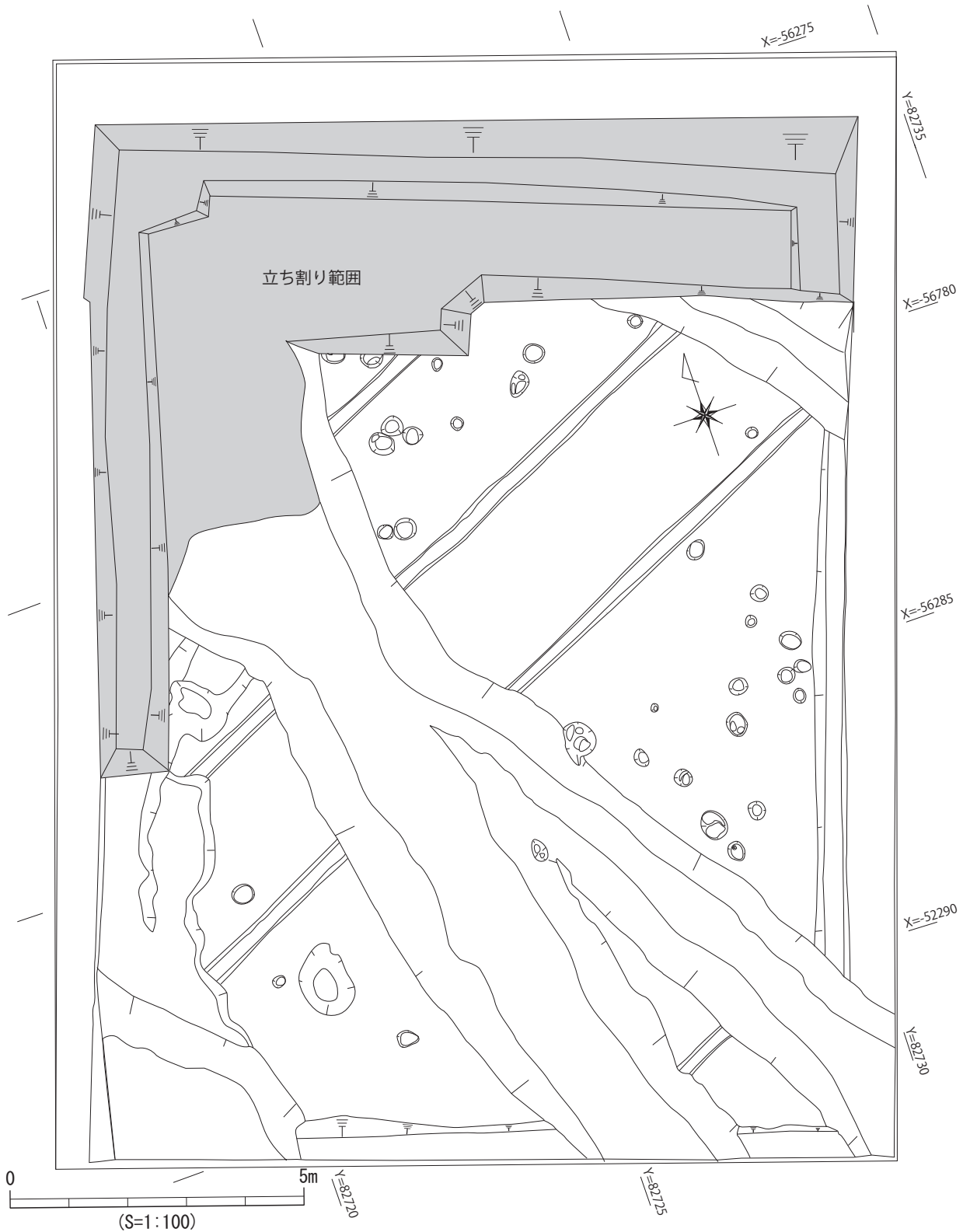




第8図 A1区遺構配置図(1/100)

遺構掘削は近現代の水田に伴う暗渠から行い、2条 (SD11・12) 検出している。暗渠には竹・小枝等が敷かれていたが、これらの詳細は写真記録のみに留めている。

微高地は西側調査区の西半分のみに残存しており、東側は旧朝酌川と考えられる河道によって削られている。微高地の上面で検出した遺構には、溝が3条 (SD13・15、SX01)、柱穴、2基の土坑のほか礫群 (SX02) がある。3条の溝は弥生時代前期に属すものであり、そのうちSD13はA1



第9図 A1区最終段階状況図 (1/100)

区で検出したSD06と連続する同一のものである可能性が高い。また、SD15は一部しか調査区内で残存していないが、A1区のSD10と連続する同一のものである可能性も考えられる。またSX02は、SD15の埋土内にあった礫群が残存していたものである可能性が考えられる。

検出したピット及び土坑は、建物を構成する柱穴である可能性が高いと思われたが、調査時点ではおおまかな検討を行ったのみであり、その時期や建物跡の復元は調査後に行った。出土土器の検討の結果、ピット及び土坑は弥生時代前期～後期にかけてのものが混在していると判断された。時期の検討を踏まえて復元した建物は5棟ある。なお、前期のピットの中には竪穴建物の壁体が消滅して柱穴のみが残存した可能性も否定できない。

西側調査区から東側調査区にかけて検出した自然河道は旧朝酌川と考えられ、本来存在していた微高地を削っている。その堆積状況から河道1・2・4の3本の河道堆積に分けられるものである。河道1と2の堆積状況から、現在の朝酌川に向かって河道が移動していく様相が確認された。河道は河道4→河道1→河道2の順に新しくなり、堆積層中の出土遺物から河道4は古代頃、河道1は中世頃、河道2は近世頃の年代が考えられる。

遺物の出土量はコンテナ200箱であり、その内訳は土器類96、石器50、木製品53、金属器1箱である。

**調査の完了状況(第12図)** 微高地を削る河道(旧朝酌川)の調査を行うために梁を設置する必要性があったことから、標高0.7m付近まで全体的に掘り下げなければならず、検出した溝は除去された。

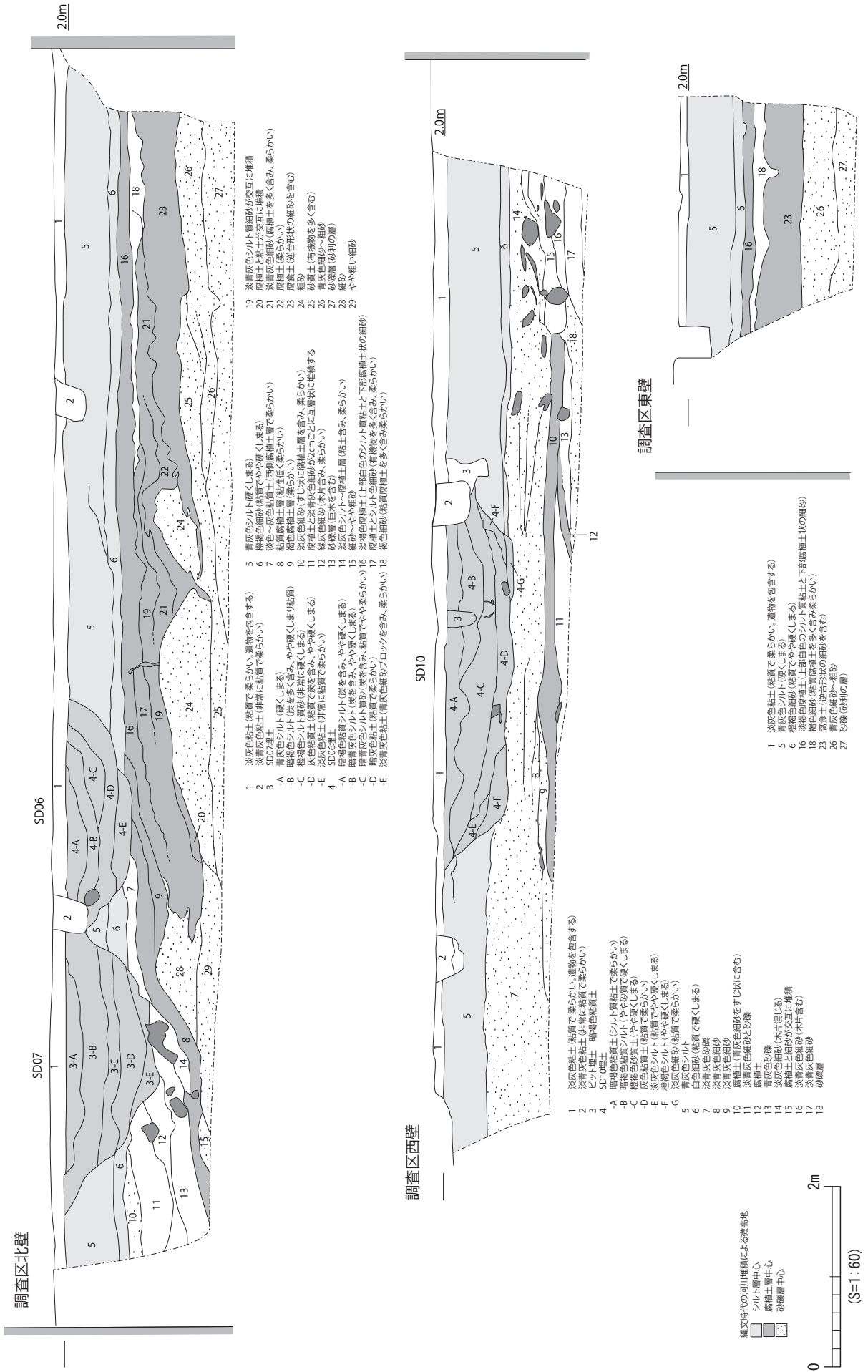
**基本層序(第13・14図)** 調査区の堆積状況は、上部から水田層→包含層→微高地の堆積層であり、遺構は微高地の堆積層上面に穿たれている。微高地の堆積層は、上部からシルト層→腐植土層→砂礫層であり、縄文時代後期以降の河川堆積によるものと考えられる。また東側調査区の微高地の堆積層である河川堆積による砂礫層の下部には粘土層が確認されており、これは古穴道湖の湖底に堆積した内湾成泥層(穴道湖層)の一部である可能性がある。この堆積層は、これまでの朝酌川改修に伴う発掘調査や、平成19・20年度のC・B2区でアカホヤ火山灰層が包含されている堆積層と同一である可能性が高いが、残念ながら本調査区の堆積層から火山灰は検出されなかった。B1区の自然河道は、下部で確認される粘土層→微高地を構成する砂礫層まで削り込んでいる。

### 3. A2区(平成23年度調査区)(第15～18図)

**発掘作業と検出遺構(第15図)** 平成23年度の調査区は、A1区に隣接する地点で、現況は宅地・店舗として利用されていた場所であり、近現代の水田面から1.5m程造成土が盛られている部分である。調査は排土処理のスペースの関係上、北側と南側の二つに分けて行い、造成土及び近現代の水田層を重機によって除去した後、標高2m付近から人力により掘削・精査を行った。調査面積は280㎡である。

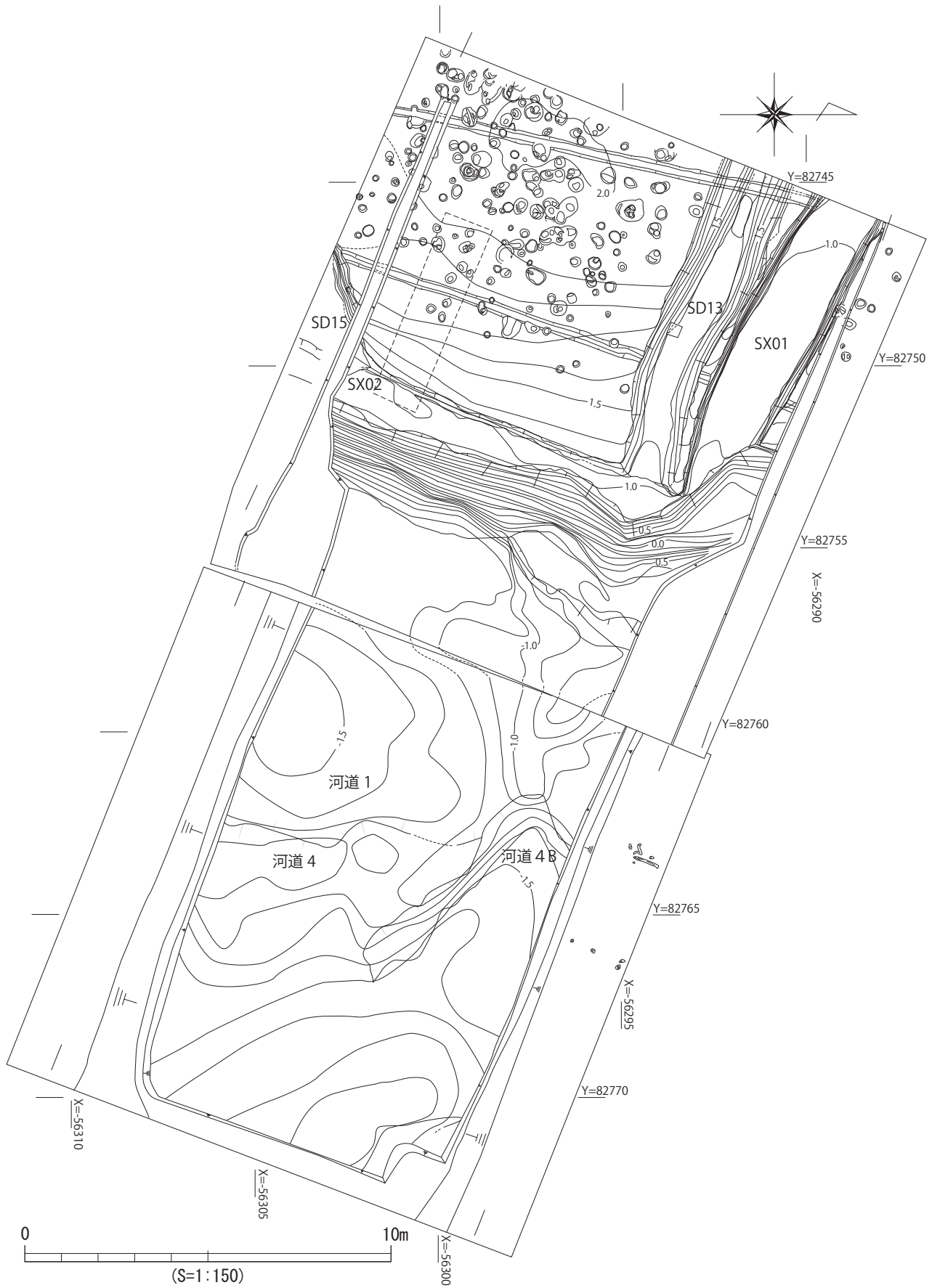
北側調査区では、鶴場地区の調査区で見られる微高地の堆積層を確認するまでには至らず、近現代の水田に伴う暗渠以外には弥生時代の自然河道(SD09)を確認したのみである。暗渠は4条(SD16～19)検出した。これまでの調査区で確認したものと同様に内部に竹や小枝を敷いていたが、その詳細な記録は写真のみに留めた。

南側調査区での遺構検出は、水田層の最下層を除去し、層厚の薄い包含層を除去した段階で確



第10図 A1区調査区土層断面図(1/60)



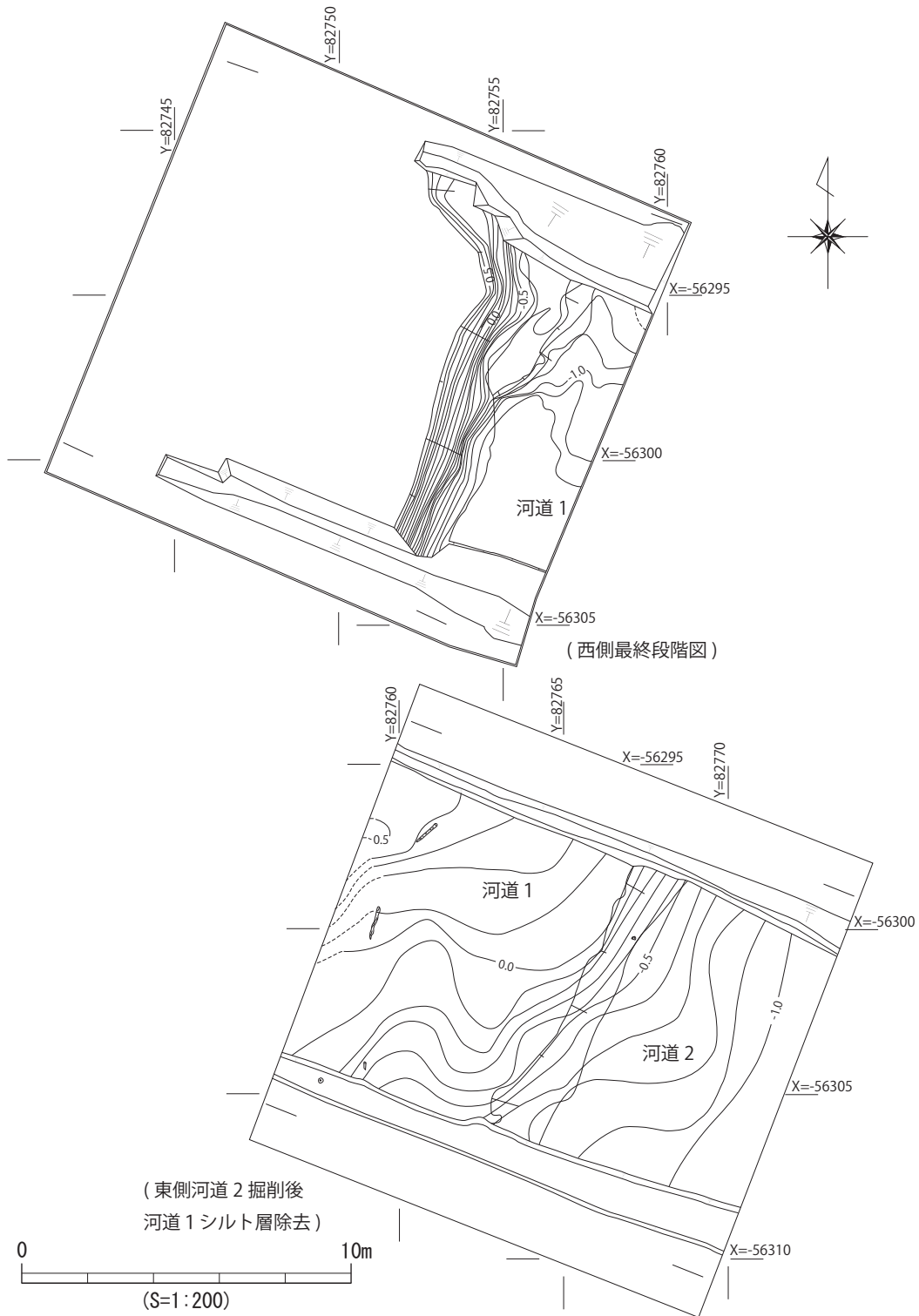


第11図 B1区調査区遺構配置図(1/150)

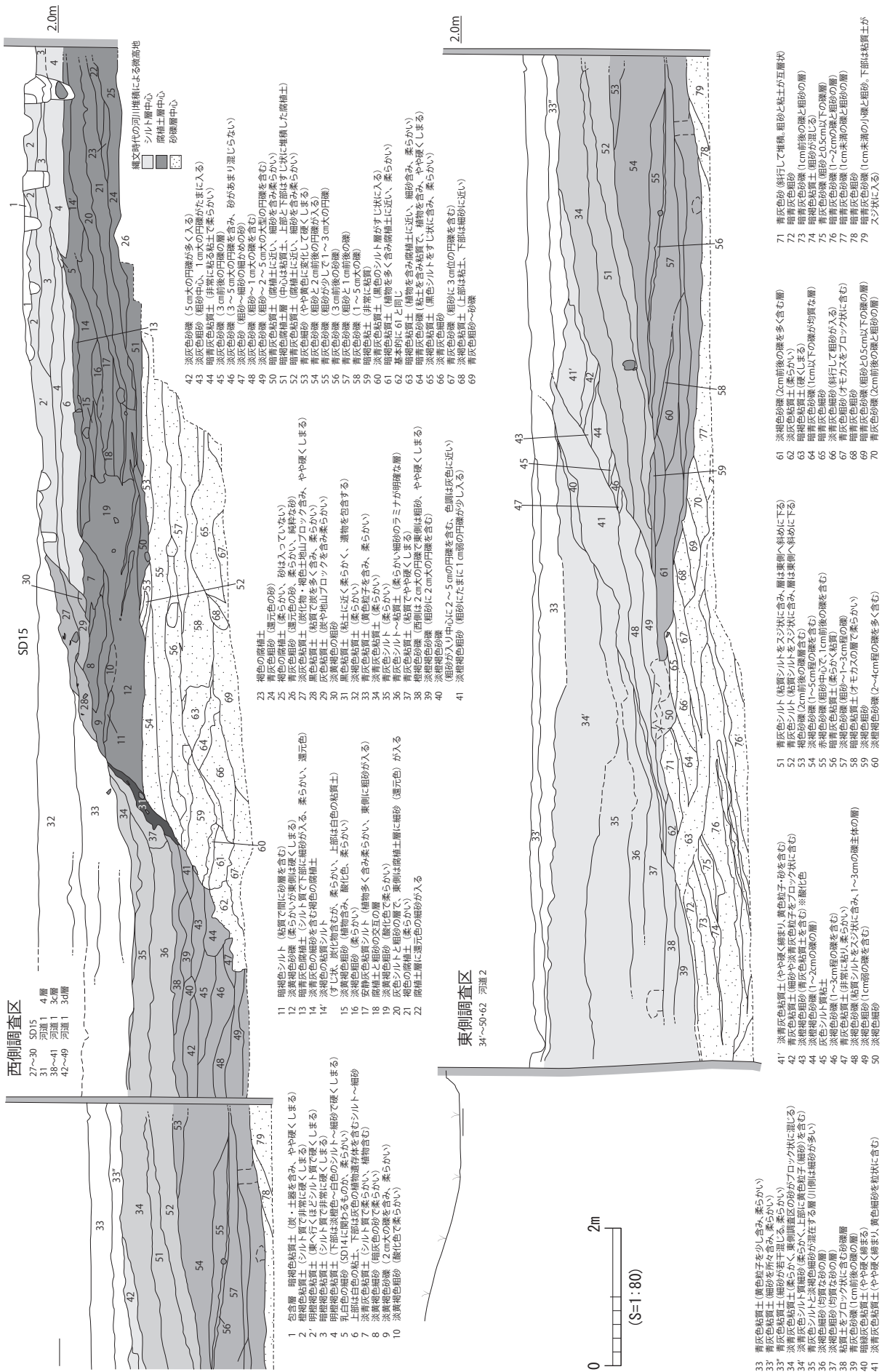
認作業を行い、全ての遺構は後述する微高地の上面標高2m付近で検出した。

遺構掘削は、近現代の水田に伴うものと考えられる暗渠から行った。暗渠は調査区内で6条（SD 01・02・05・22～24）検出しており、内部には竹や小枝等が埋設されていたが、写真による記録のみに留めた。

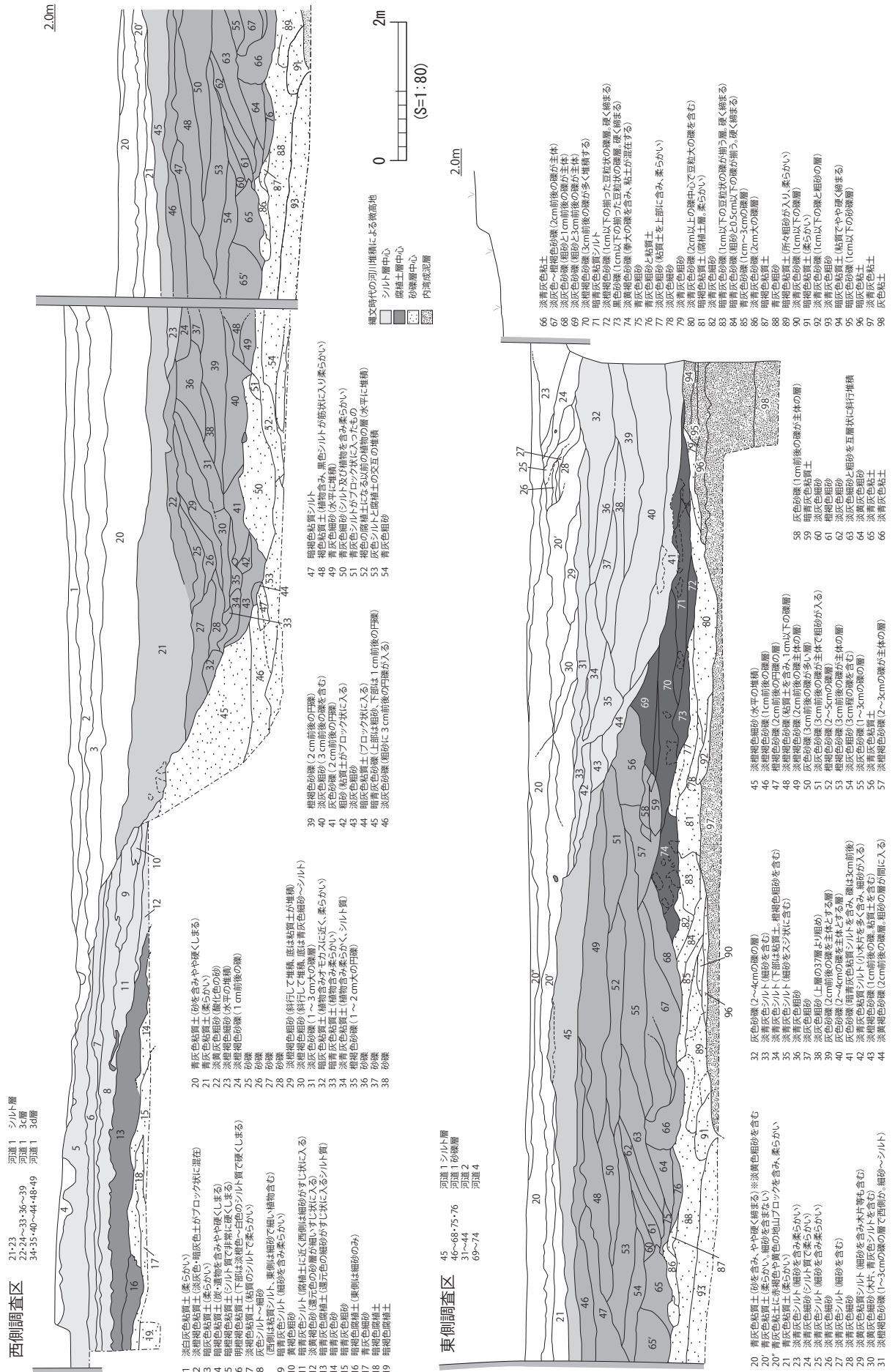
弥生時代の遺構としては、A1区でも検出した溝に繋がるものを1条（SD10）と小型の溝（SK06）を検出した。また、北側調査区で検出した弥生時代の自然河道の続きを確認し、これはA1区で



第12図 B1区調査概要図「2」(1/200)



第13図 B1区調査区南壁土層断面図(1/80)



第14図 B1区調査区北壁土層断面図 (1/80)



検出したSD09と同一のものであると判断した。ただし、調査後の土層断面図等の再検討によって、A1区で検出したSD09は別の支流状の流路である可能性も生じた。

溝以外には弥生時代の土坑及びピットを検出した。これらも他の調査区と同様に調査後に出土遺物等の確認を行い、建物の復元について検討した。ピットの時期は出土遺物が確認出来たものは弥生時代前期と考えられた。

遺物の出土量はコンテナで232箱であり、その内訳は弥生土器が大部分を占める土器類123、石器類33、木器76箱である。

**基本層序(第16～18図)** 北側調査区の基本土層は、調査区全体が弥生時代の自然河道であることからその堆積状況になるが、上部から水田層－自然河道内堆積層－粘土層となる。最下部の粘土層はB1区で確認された内湾成泥層の一部の可能性のある粘土層と同一の可能性はある。自然河道は調査区北壁では内湾成泥層の可能性のある粘土層を削っていることが確認出来る。おそらく低い場所では微高地を構成する河川堆積の砂礫層を削っていると考えられるが、北側調査区では支保工の安全性が確保される限度まで掘削したものの、それを確認出来る深さまでは至らなかった。

自然河道内の堆積は、上部からシルト層(上層)－黒色土層－黒色粘土層－橙色砂質土層－灰白色粘土層(下層)－腐植土層(オモカス層)－砂礫層の順で確認されており、腐植土層及び砂礫層からは弥生時代前期の土器だけが出土することから、流路として機能していたのは弥生時代前期までで、前期の段階で湿地化し中期以降埋没したものと考えられる。

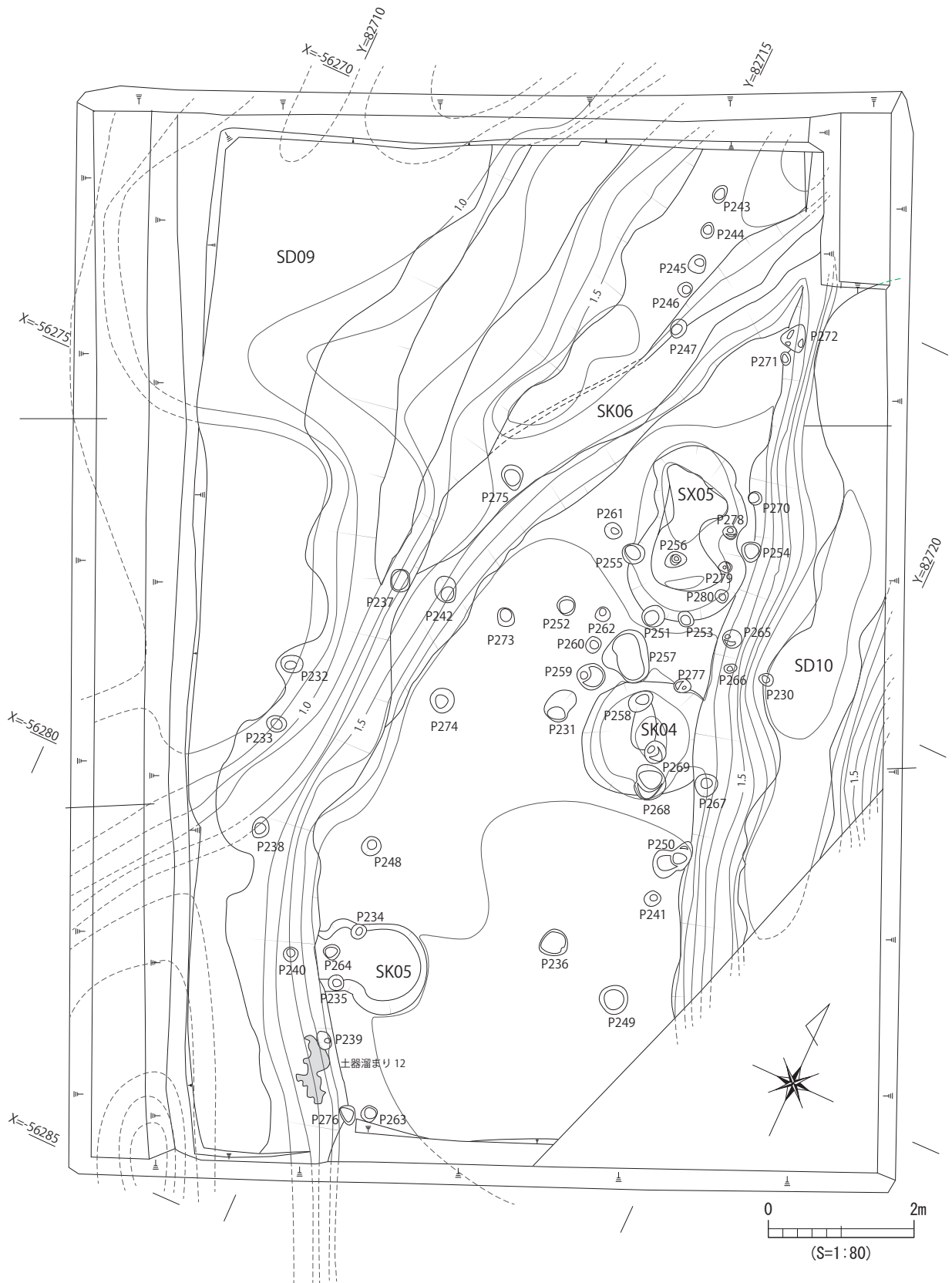
南側調査区の基本土層は、水田層－包含層－微高地堆積層となっており、基本的にはA1区と同様である。微高地の堆積層を削って弥生時代の自然河道が存在するが、確認のために設けたベルトの土層断面では、微高地の砂礫層と自然河道内の砂礫層の判別は困難であった。

**調査の完了状況** 北側及び南側の両調査区は、調査後にそのまま埋め戻しており、改良(改築)後の道路下部に残されたままの状態である。

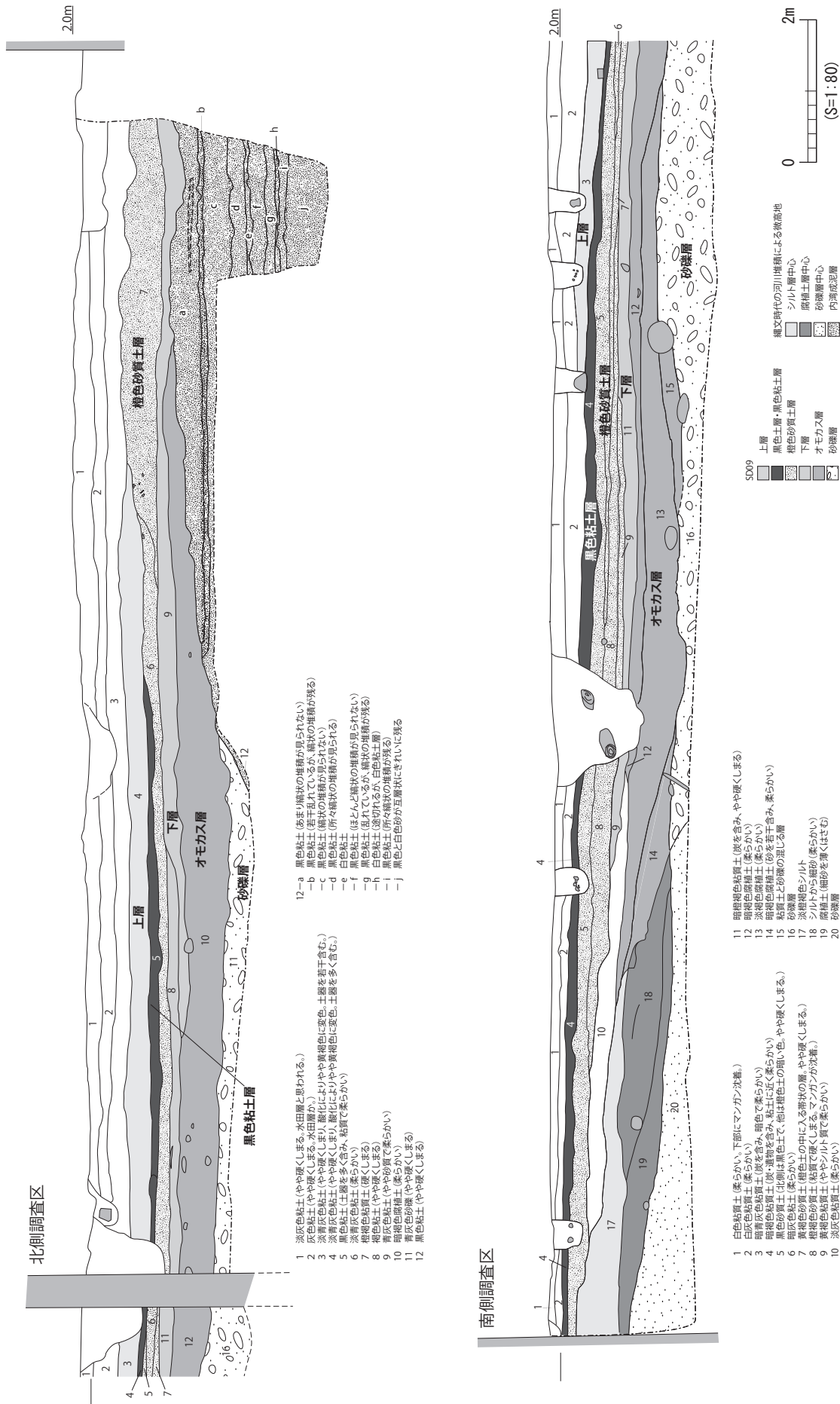
#### 4. 鶴場地区で検出した遺構(第19図)

前述した各年度の調査区の成果について、ここでまとめておく。弥生時代の溝は、大型のものを6条(SD06・SD07・SD10・SD13・SD15・SX01)、小型のものを1条(SK06)検出しており、SD07が後期に属していることを除けば、全て前期のものである。またSD06とSD13は連続する同一の溝である可能性が高い。検出したピット及び土坑は、A1・A2区のものほとんど前期に属しており、B1区で検出したものは前期～後期のものが混在している。A1及びA2区で検出したSD09は弥生時代の自然河道であり、前期には湿地化し中期頃から埋没したものである。この自然河道の存在から考えると、前期にはこの周囲が浅い谷地形となっていた可能性が指摘される。

弥生時代の遺構が穿たれた微高地は、B1区で検出された河道1によって削られており、本来は現在の朝酌川に向かってもう少し広がっており、当時の朝酌川に向かって谷地形を形成していたものと思われる。B1区で検出した3本の自然河道(河道1・2・4)は旧朝酌川と推測され、古代以降の河道と考えられる。

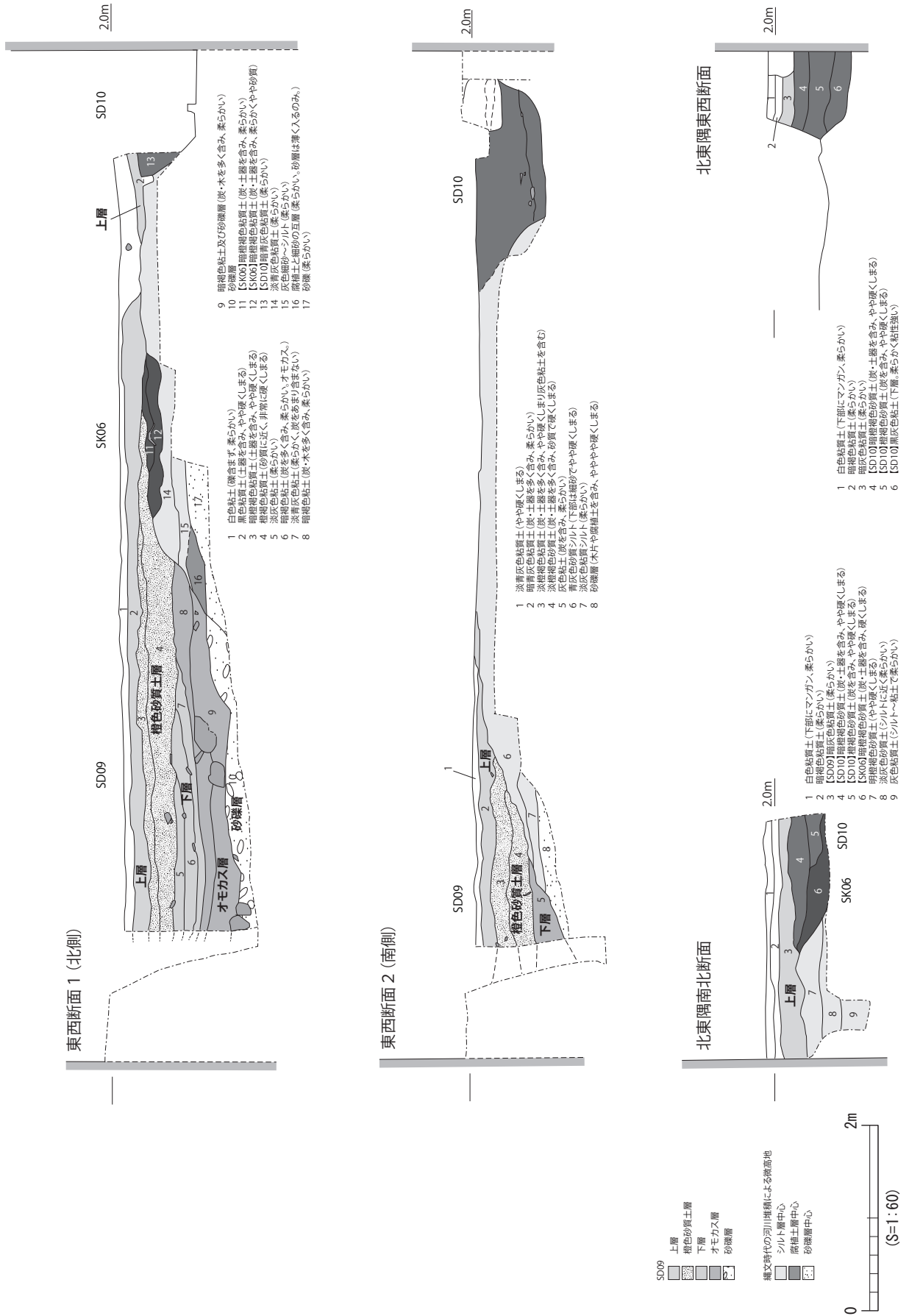


第15図 A2区(南) 調査区遺構配置図(1/80)

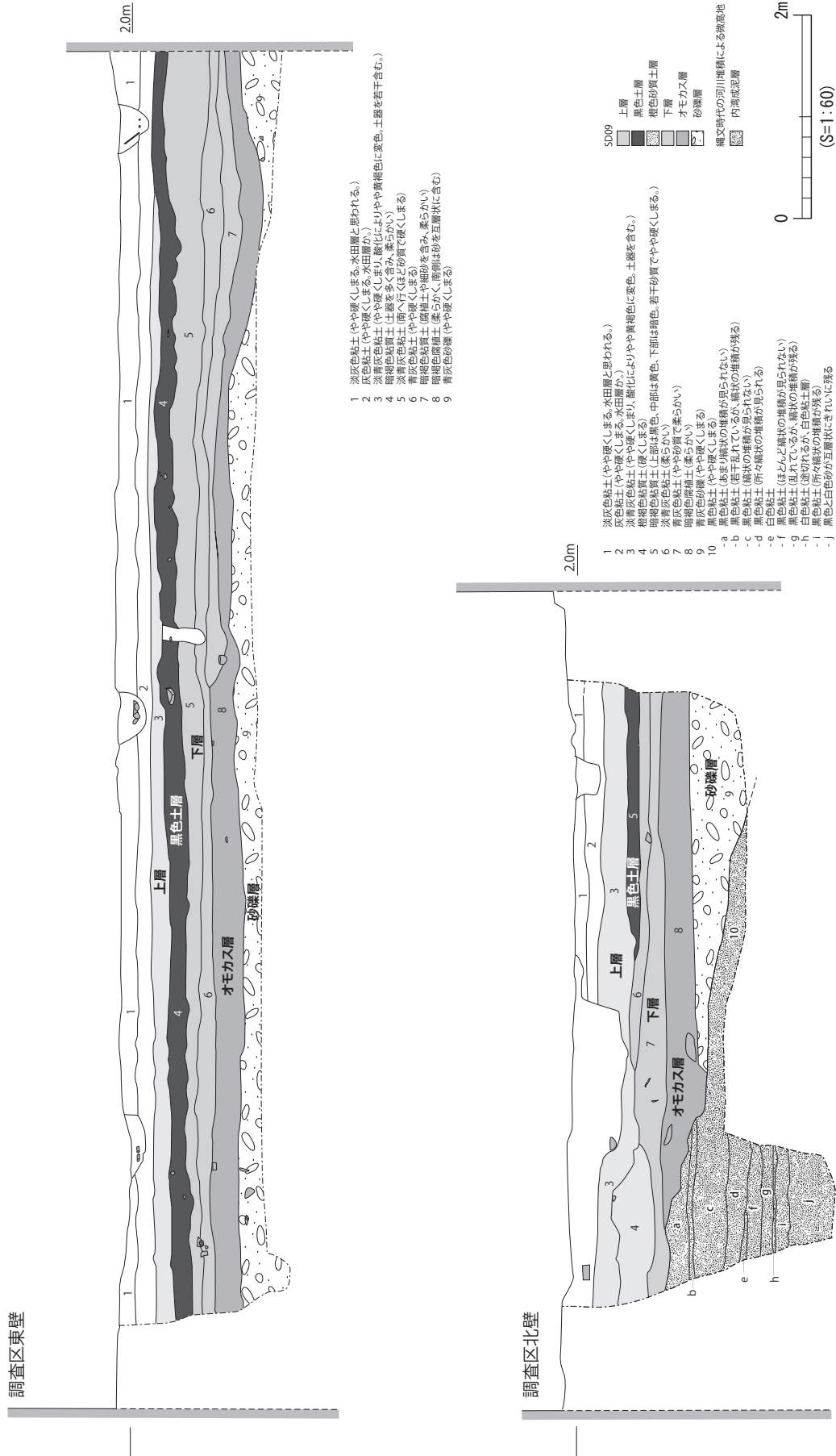


第16図 A2区 調査区西壁土層断面図(1/60)

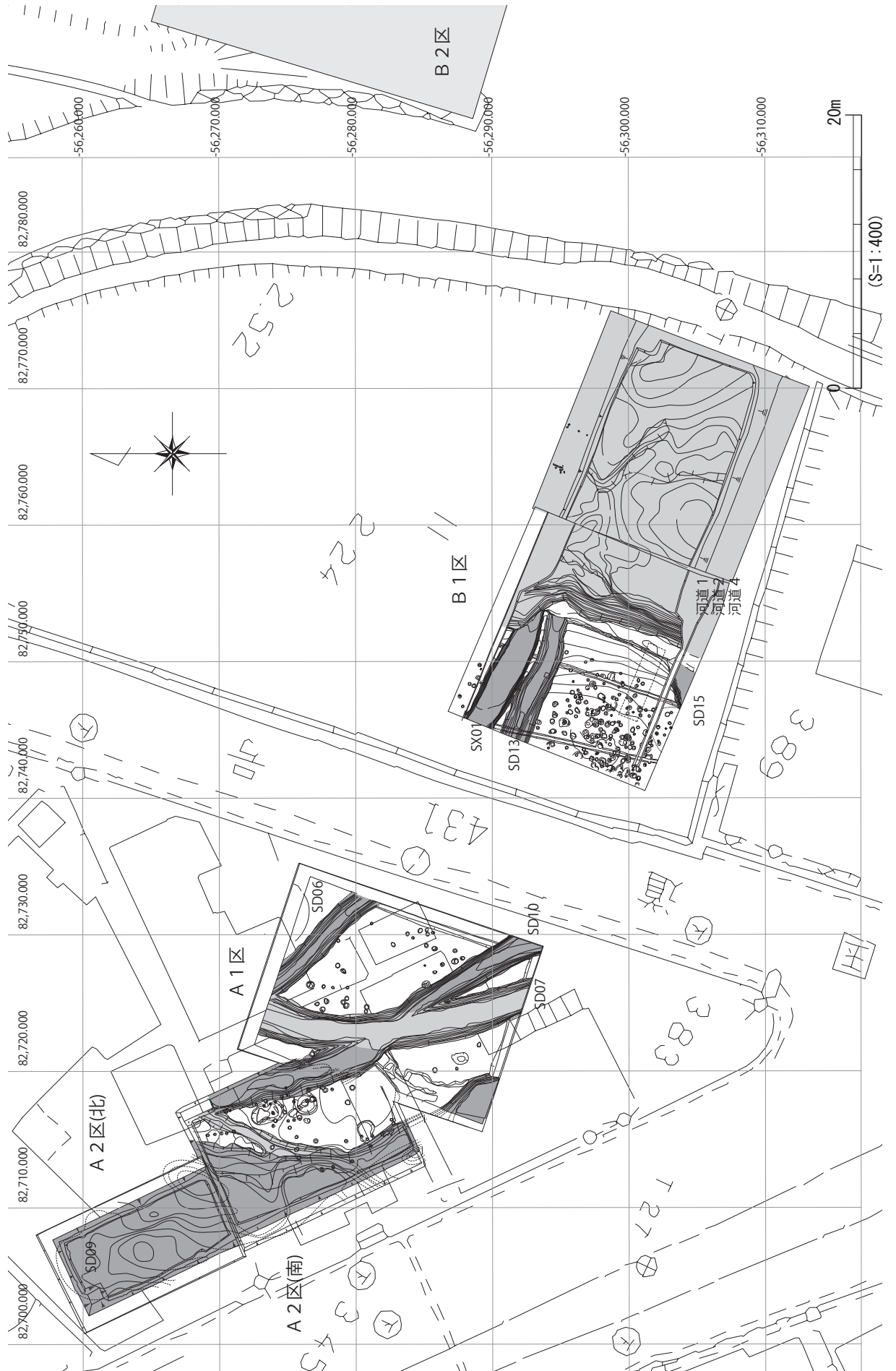




第17図 A2区(南) 調査区土層断面図(1/60)



第18図 A2区(北) 調査区東壁・北壁土層断面図(1/60)



第19図 鶴場地区調査区全体図(1/400)



## 5. 基本層序と微高地堆積層内の出土遺物

### (1) 基本層序(第20図)

各調査区で確認した土層断面を模式的にまとめると第20図になる。最下部には内湾成泥層の一部と考えられる粘土層が確認される。粘土層の確認面は東側(B1区東側)で標高-1.2m、西側(A2区北側)で標高1mであり、大きく標高が異なる。これは調査区一帯が古宍道湖の内湾であった時期の古地形を反映している可能性が考えられるが、東側と西側で確認された粘土層は、その上部を内湾から河川堆積を受ける環境に変化した際等にある程度削られていると思われる。この粘土層の上部には、縄文時代に進んだ海退期の河川堆積による砂礫層が堆積しており、東側ではその上部を古代以降の自然河道(旧朝酌川)によって削られている。西側は弥生時代の河道によって削られており、粘土層の上部に弥生時代の河道の砂礫層が堆積している。縄文時代の砂礫層の上部には腐植土層が堆積している。腐植土層の堆積から湿地化している時期が想定されるが、腐植土層は砂礫層を挟みながら堆積しており、湿地化しつつも河川堆積の影響を受け砂礫が幾度も堆積するような環境であったものと推測される。腐植土層の上部には比較的しまったシルト層が堆積しており、その上面で弥生時代の遺構が確認された。シルト層及び最下部の粘土層については放射性炭素年代測定を実施した。その詳細は第6章に掲載している。

### (2) 出土遺物(第21～24図)

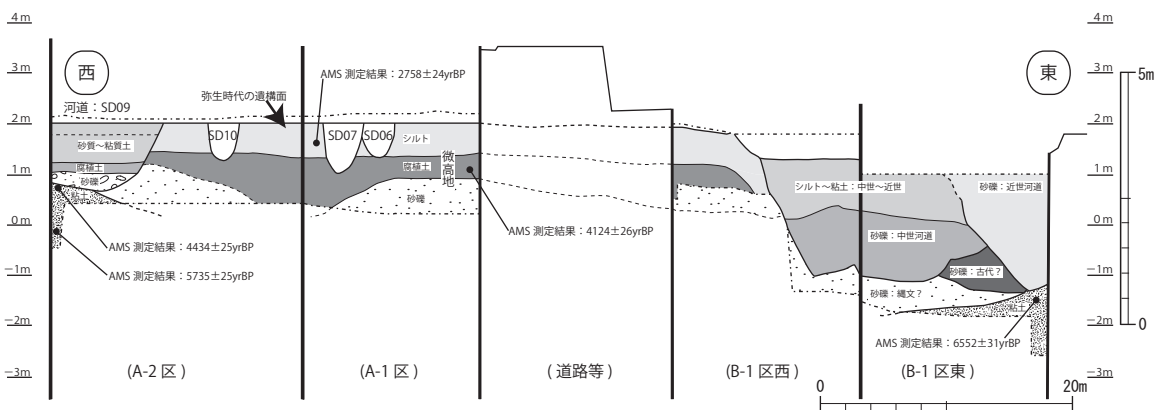
各調査区で微高地の堆積層を深く断ち割った際に土器・木製品(木片)が出土した。土器は全て縄文土器で、微高地の堆積層の腐植土の下部にあたる砂礫層から出土した。

**木製品** 第21図1はB1区の西側調査区で出土した扁平な木片である。木製品かどうか表面が摩耗しており判断出来ない。これは微高地を全体的に掘り下げた際に、腐植土層中に筋状に入った細砂層から出土した。

**縄文土器** 第22図1は、A1区の断ち割り時に砂礫層から出土した深鉢である。口縁端部外面に粘土帯を貼り付け、内外面には二枚貝条痕が見られる。前期の西川津式に属するものと考えられる。

第23図1・2はA2区南側調査区の砂礫層から出土した土器である。1は内外面に二枚貝条痕を施し、2は内面に二枚貝条痕が見られる。これらは、時期的な位置付けは不明である。

第24図1～11はB1区の砂礫層及び腐植土層中に挟まれる細砂層出土の縄文土器である。1～4は前期と考えられるもので、1・2は西川津式に属するものと考えられる。5は撚糸文が外面に施される。里木Ⅱ式と考えられ中期に属す。6～9は後期に属するものと考えられ、6は崎ヶ鼻

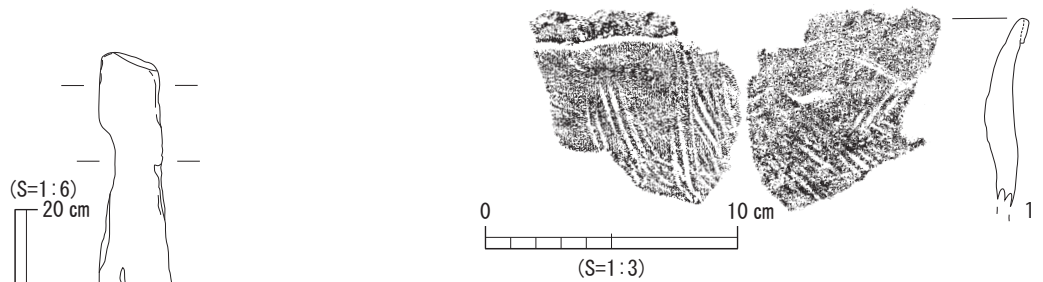


第20図 鶴場地区土層断面模式図(1/任意)

Ⅱ式～沖丈式に相当するものと考えられる。7は磨り消し縄文と沈線文を施した鉢であり、権現山古段階に相当する。8は凹線文が施され宮滝式に相当し、9は無文の粗製土器と考えられる。

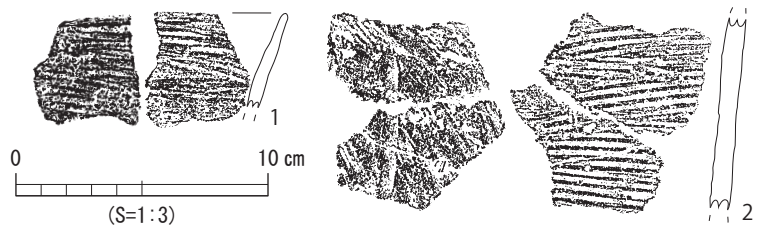
10は晩期前半頃のものと思われる。11は時期的な位置付けが不明である。

**まとめ** 以上、微高地の堆積層から出土した遺物の年代を勘案すると、最も新しい遺物は第24図10の晩期前半頃と思われるものであり、出土土器から考えられる砂礫層の堆積時期は縄文時代晩期頃かそれ以降と考えられる。朝酌川改修に伴う発掘調査では、内湾成泥層にはアカホヤ火山灰が包含され、その上部に堆積する河川堆積層である砂礫層中の遺物が縄文時代後期・晩期であるという成果があり、このことと矛盾するものではないと考えられる。

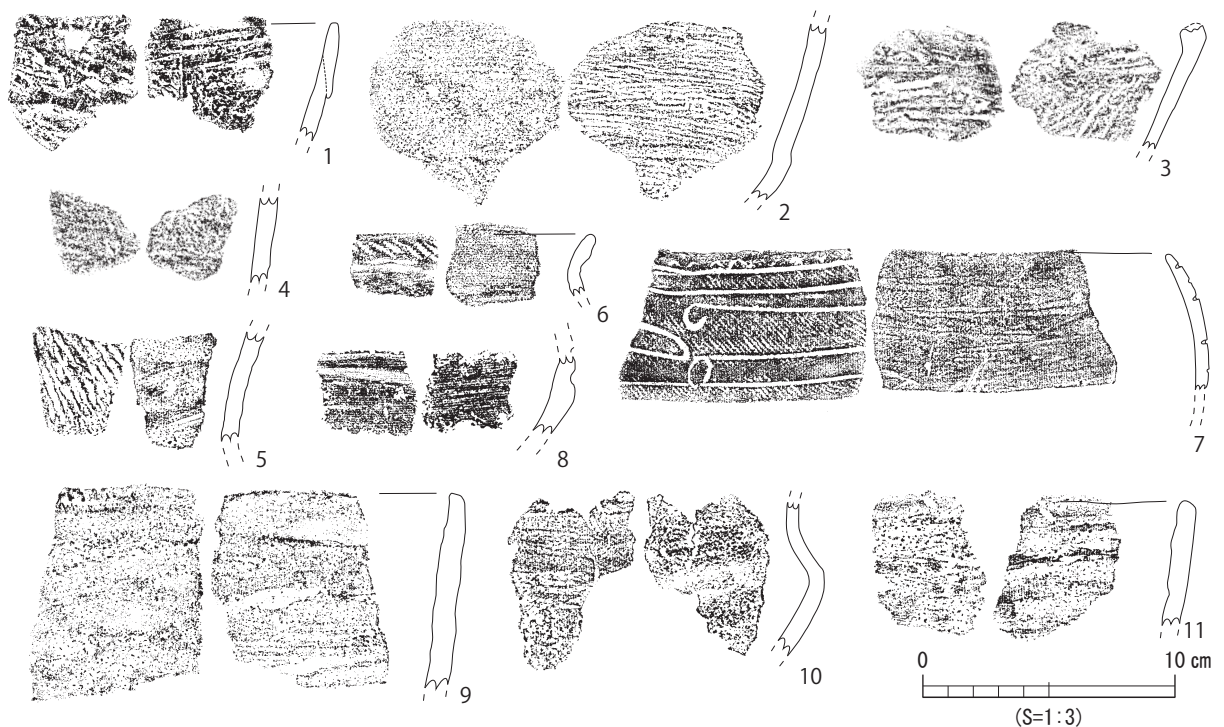


第22図 A1区 微高地出土縄文土器実測図(1/3)

第21図 B1区 微高地出土木製品  
実測図(1/6)



第23図 A2区 微高地出土縄文土器実測図(1/3)



第24図 B1区 微高地出土縄文土器実測図(1/3)

## 第4節 弥生時代の遺構とその遺物

### 1. 溝状遺構

溝状遺構は、大型のものを6条(SD06・07・10・13・15、SX01)、小型のものを1条(SK06)検出した。大型のものは環壕の一部である可能性もあるが、一部分を検出しているのみで全体の形状が不明であることから断定はできない。

#### (1) SD10(第25～48図)

**規模と形態(第25図)** A1区及びA2区(南)の両調査区の標高2m付近で検出した。A1区では一部がSD07に切られており、A2区(南)では溝の東壁が調査区外になる。主軸は北西から南東方向にとり、底面の標高は北西端で1.24m、南東端で1.15mであり若干南方向に傾斜していく。平面形は直線的であるがやや弧状を呈し、断面は逆台形状となる。規模は幅2.85m、深さ0.95mであり、確認された総延長は26.48mであり調査区外にも延びていく。

**堆積状況(第25図)** 埋土は大きく上下に分けられ、下部は灰色の粘質土、上部はシルト～砂質土が堆積しており、最上部の中央部には黒色系の堆積土が見られた。下部の粘質土は溝が湿潤な状況であった時期があったことを示していると考えられ、上部のシルト～砂質土は流土及び人為的な埋め戻し土である可能性が考えられる。土層断面図からも分かるようにSD07が時期的には後に穿たれている。

**遺物の出土状況(第26～30図)** 土器については出土地点のみを記録して取り上げた。A2区(南)では上部のシルト～砂質土と下部の粘質土のどちらに属するか確認して取り上げを行ったが、A1区では調査の途中から出土層位別に取り上げるようにしたため、上下のどちらから出土したのか確実に判断することができないものも存在する。A2区(南)(第26図)では、ほとんどのものが上部の層から出土し、下部の層からの出土は少ない。A1区(第27・28図)では、上部・下部ともに出土しているが、北側では完形に近いものが出土する地点もあり、一括で廃棄された状況と考えられるものもある。

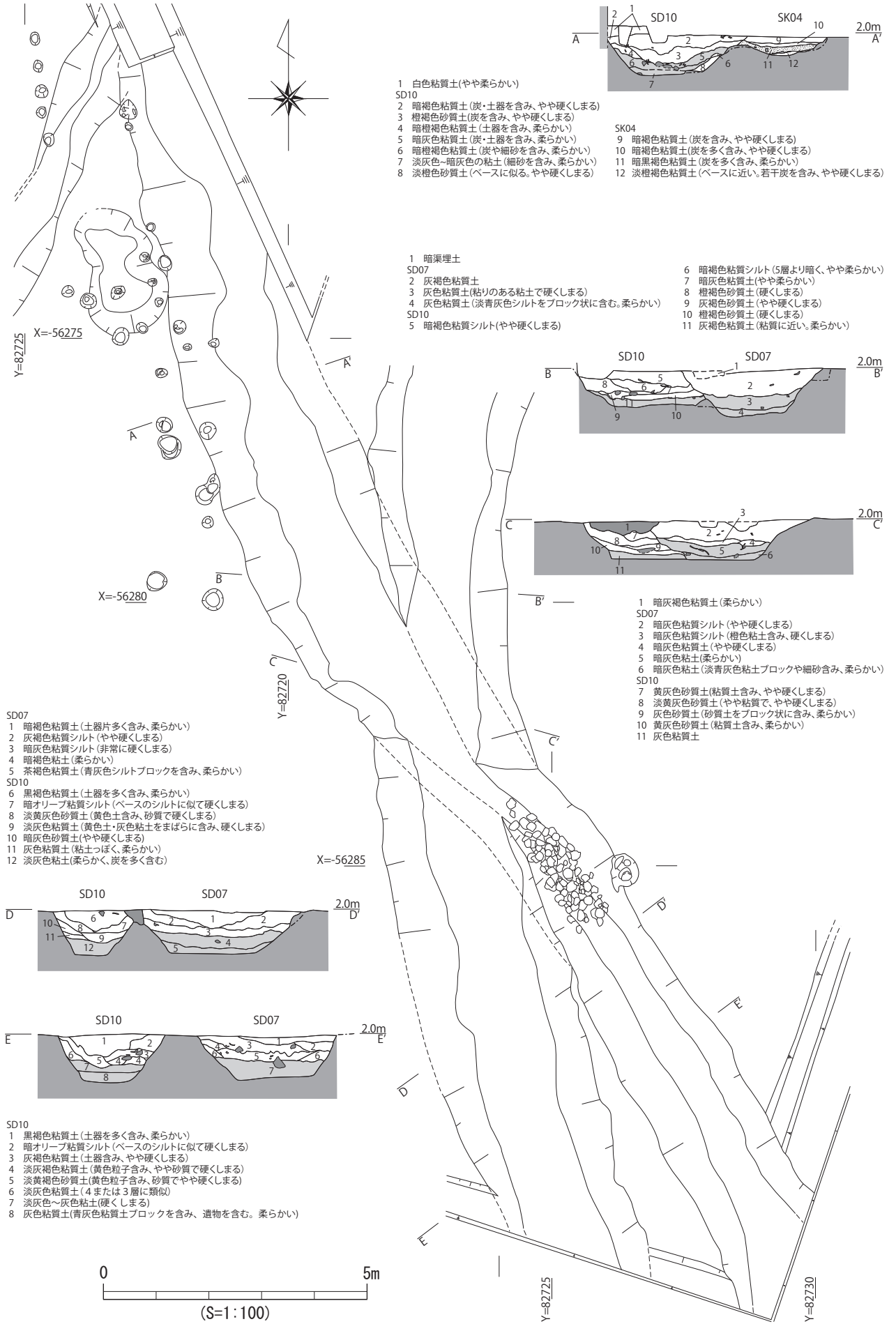
溝からは、人頭大の礫が集中して出土する場所が見られる。A2区(南)では、底面よりもやや高い標高1.4m付近で礫が出土(第29図)している。溝にある程度の土砂堆積がある段階で廃棄されたものと思われる。取り上げたもので110個あり、そのうち56個が火を受け赤く変色したり黒く煤けたものである。

A1区では、調査区の中央付近で礫が集中して出土(第30図)している。礫群は幅0.94m×長さ2.96mの範囲にまとまって敷き詰められたような状態でほぼ底面近くから出土しており、全部で102個出土した。礫群の隙間等には炭が多く出土し、この場で火を焚いたような印象を受ける出土状況であった。取り上げた礫を確認した結果、A2区で出土した礫と同様に28個が火を受け赤く変色したり煤けているものであった。

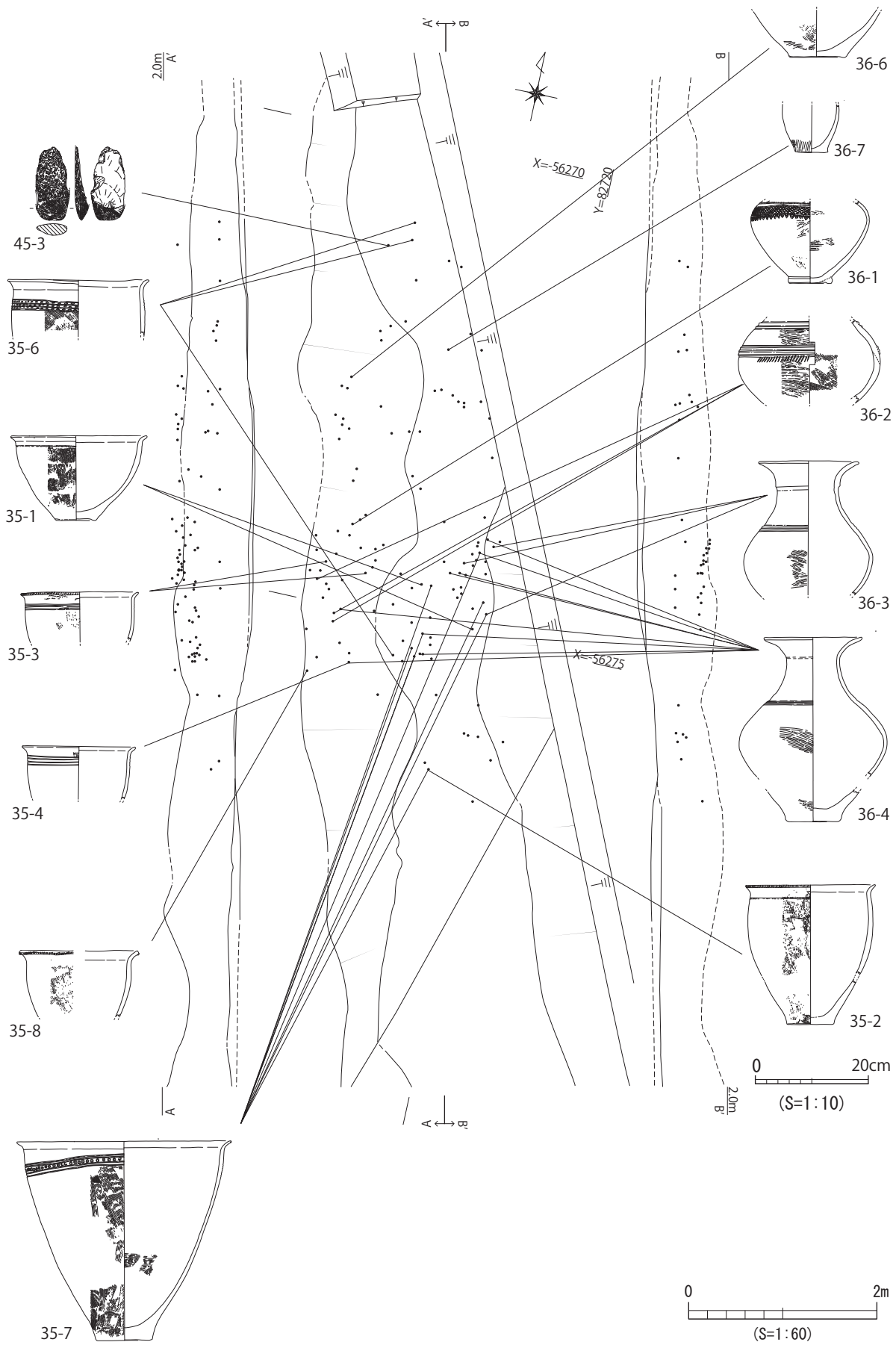
木製品等の木質遺物は下部の層からのみ出土している。おそらく埋土が粘土質であったことが幸いした好環境から遺存していたものと考えられる。木製品はその輪郭を図化し取り上げている。A2区(南)では残存状況のあまり良くないものが数点しか出土していない(第29図)。A1区では、溝の南東部でまとまって出土した。ほとんどのものが用途不明なものであるが、壺形容器と鋤先の舟形隆起部分が各1点出土している。



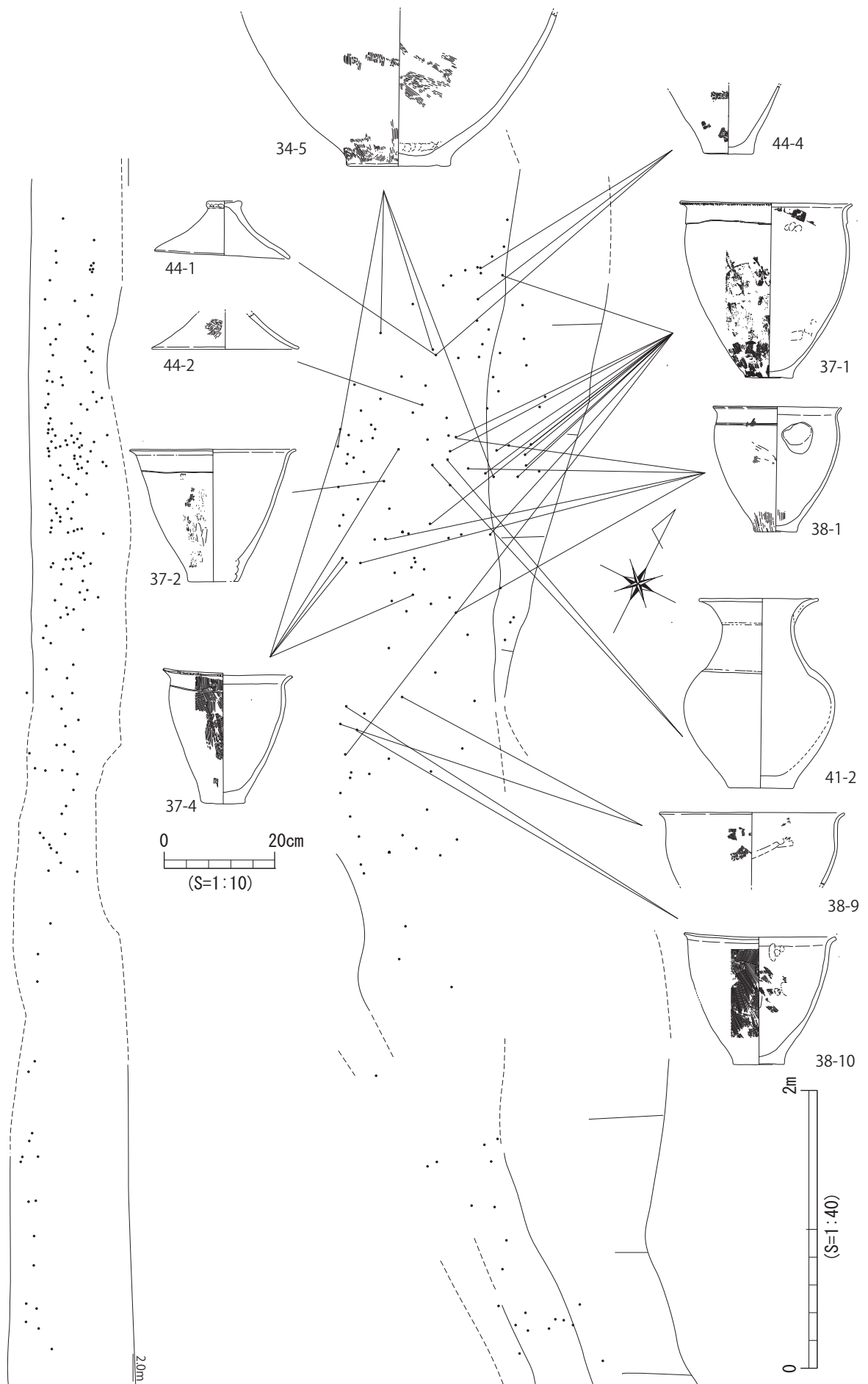
第4節 弥生時代の遺構とその遺物



第25図 A1・A2区(南) SD10遺構実測図(1/100)

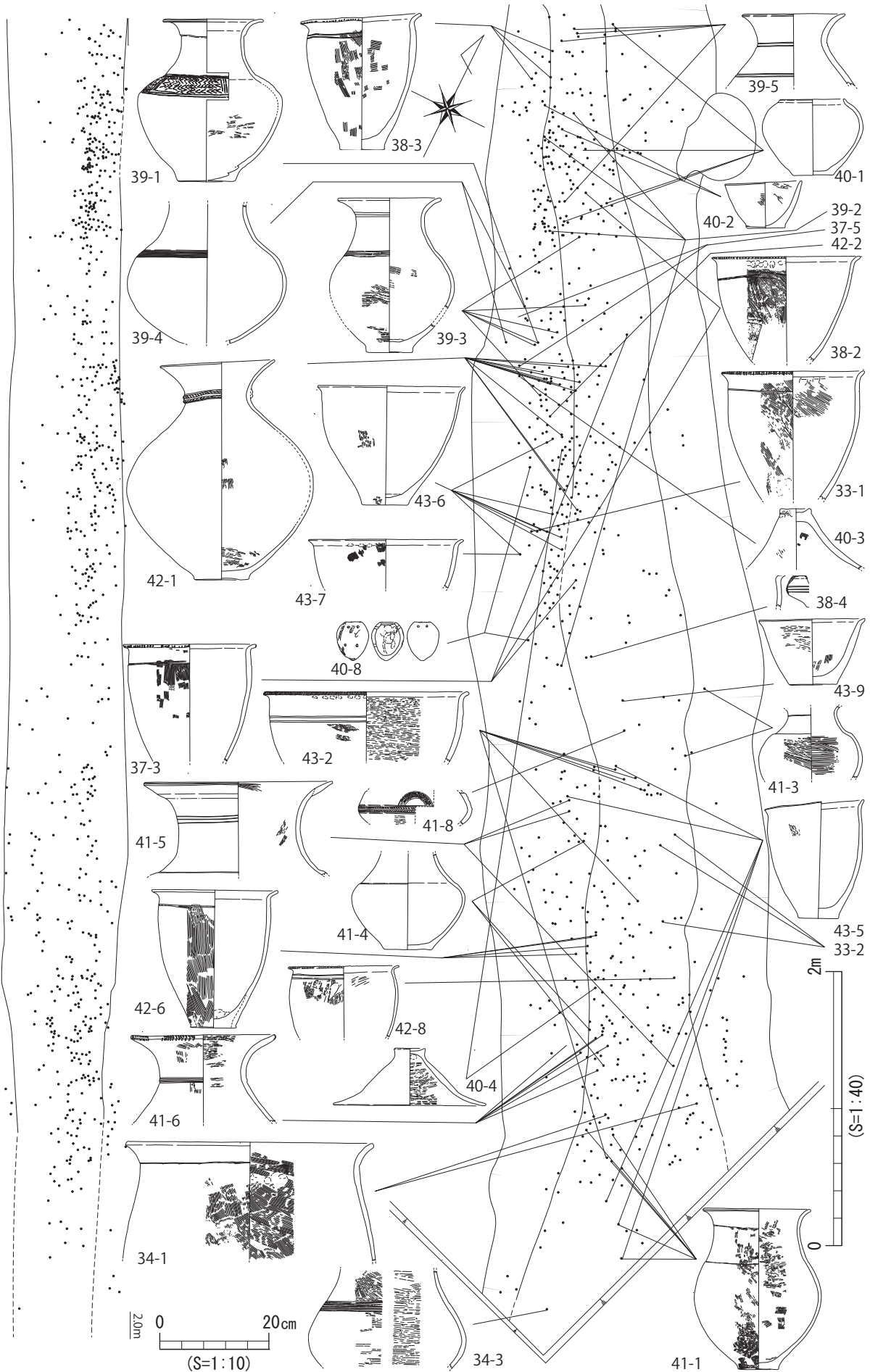


第26図 A2区(南) SD10遺物出土状況図(1/60)



第27図 A1区 SD10遺物出土状況図一北側一(1/40)

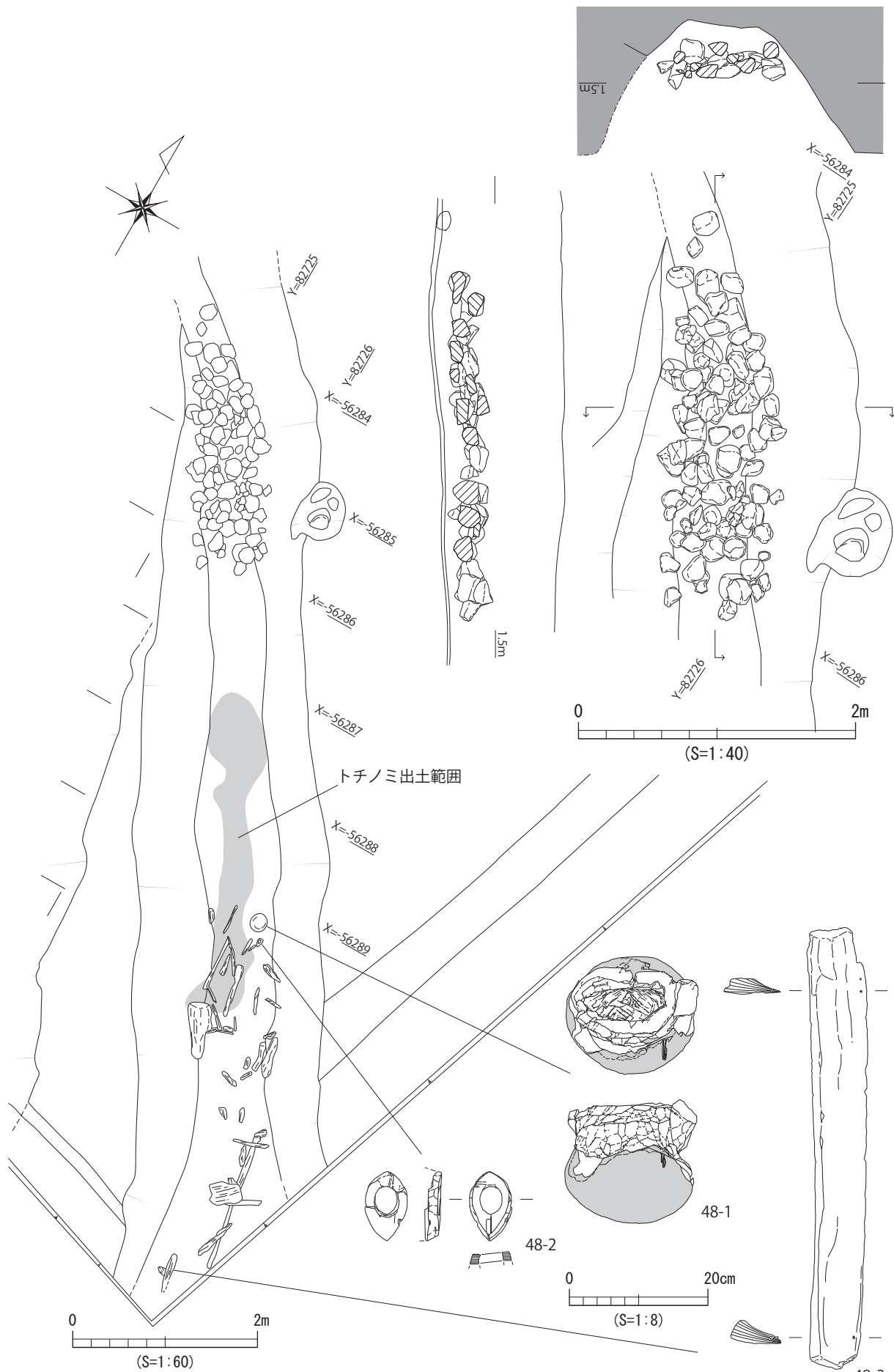




第28図 A1区 SD10遺物出土状況図一南側一(1/40)



第29図 A2区(南) SD10 礫群出土状況図(1/40)



第30図 A1区 SD10 礫群出土状況図(1/40・1/60)



その他、自然遺物としてトチノミが集中してA1区の南東部で幅0.6 m×長さ3.48 mの範囲で出土した。礫群と関連している可能性も考えられる。

**下層出土縄文土器(第31図)** 1・2は下部の層から出土した後期の縄文土器である。遺構の時期と関連するものではなく、ベースである微高地の堆積物に含まれているものが混入した可能性が考えられる。

**下層出土弥生土器・土製品(第32～34図)** 第32図1～11はA2区(南)の下層から出土した。1～5は壺であり、口縁部が分かる1・2ともに頸部との境に段をもつ。2・5は、頸部と胴部の境に段を有し、2・3・5は胴部上半に直線文と刺突文を組み合わせた文様を施している。2・3は羽状文を組み合わせた文様が、2はヘラ状工具による施文、3はわずかに赤彩を残す。5はハケ状工具による刺突を組み合わせた文様。4は底部が高く作り出されており、貝殻による直線文が2条廻る。

第32図6～9は甕である。6・7はヘラ描きによる直線文を有し、8は直線文の間に円形の刺突を施している。9は無文の甕である。10は蓋、11は底部である。

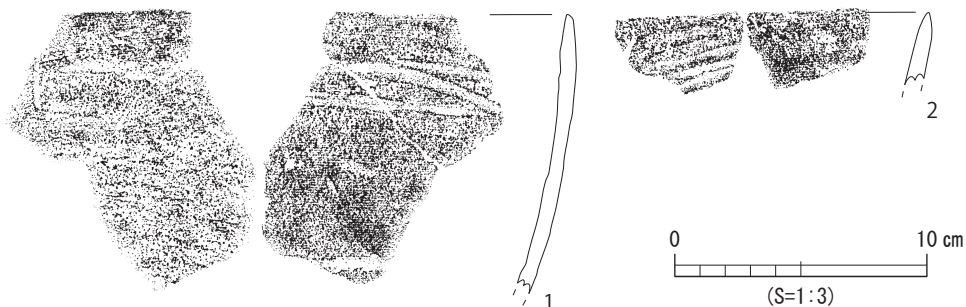
第33図及び第34図はA1区の下層から出土した土器である。第33図は甕であり、1・2はヘラ描きの直線文を施し、3～5は無紋のものである。5はやや器高が低く幅の広い器形であり、鉢と呼んだ方が良いのかもしれない。

第34図1～5は壺である。1・2は口縁部と頸部境に段を設けている。2・3は頸部と胴部境に段を設け直線文等を施すものである。2は直線文と羽状文等を施しているが、紋様はヘラによるものか貝殻によるものかは判断出来ない。3はヘラ描き直線文のみ5条施している。4・5は底部であり、4は底部外面に貝殻による直線文を2条施す。

第34図6はミニチュア土器、7は土錘である。

**上層出土弥生土器・土製品(第35～40図)** 第35図・36図はA2区(南)から出土した弥生土器・土製品である。第35図1～9は甕である。1は他の甕とは異なり器高が低く幅の広い鉢形のもので、ハケ状工具による段を作り出す。2～4はヘラ描きの直線文を施すものであり、5～7はヘラ描きの直線文と刺突文を組み合わせた文様を施す。また7は大型で、円形の刺突文を施すものである。8・9は無文の甕である。

第36図1～4は壺である。1は底部が高台状を呈し、胴部上半には貝殻による直線文・斜格子文・鋸歯文を施しており、綾羅木系の影響を強く受けた壺と考えられる。2は頸部と胴部の境と胴部最大径部位にM字状突帯を貼り付け、胴部には刺突文を施す。3・4は口縁部と頸部境に段を設け、頸部と胴部境にも段を設けその下にヘラ描きの直線文を2条施す。5は蓋、6は底部、7はミニチュア土器である。



第31図 A2区(南) SD10下層出土縄文土器実測図(1/3)

第37～40図はA1区から出土した弥生土器・土製品である。第37・38図は甕である。第37図1は大型の甕で、頸部に段を設けている。第37図2～5及び第38図1～4はヘラ描きの直線文を施す甕であり、第38図3は2条、4は3条施し、それ以外は1条施す。また4は逆L



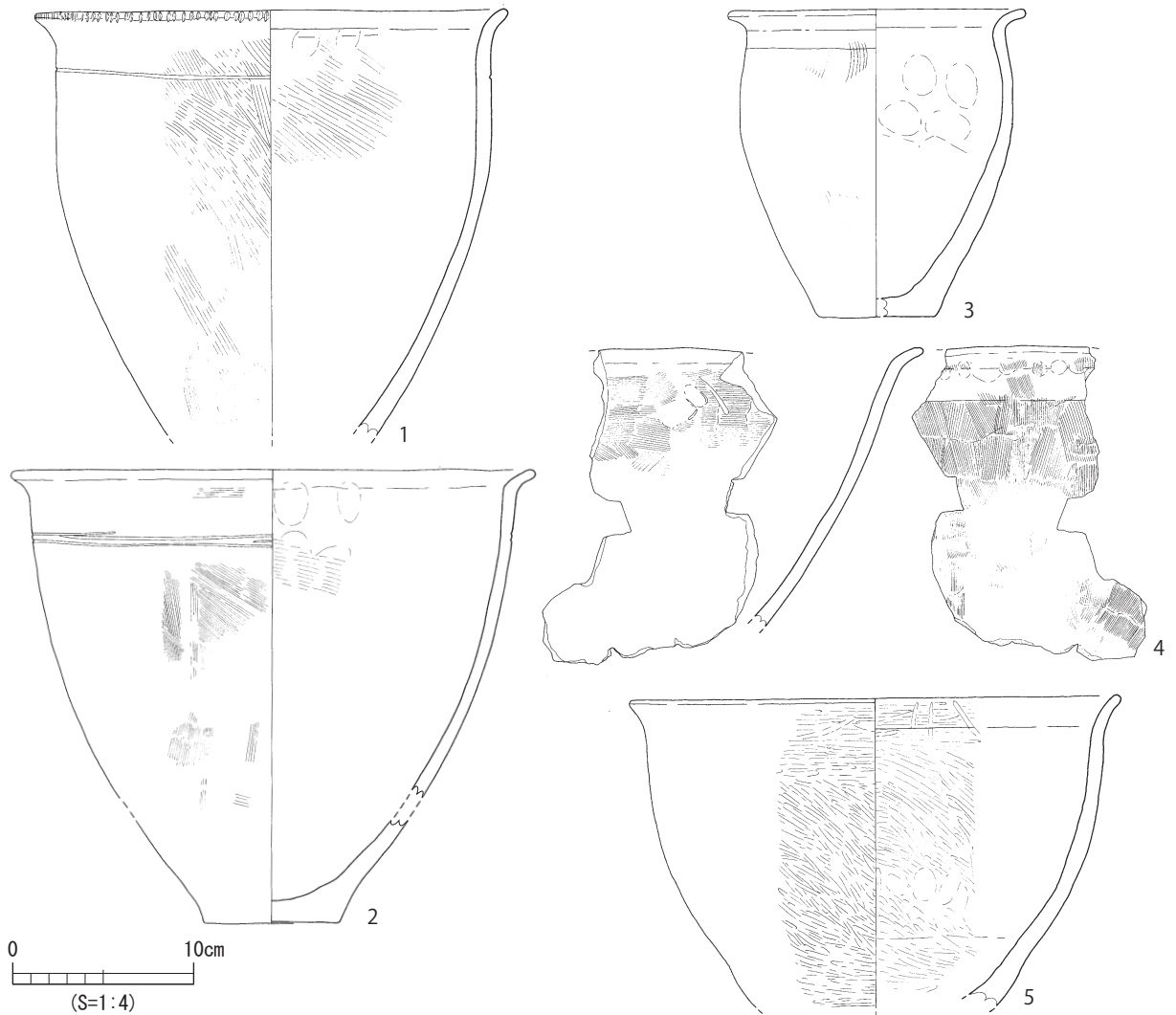
第32図 A2区(南) SD10下層出土弥生土器実測図(1/4)

字状口縁を呈し、貼り付けて作られたものである。第38図5はへら描きの3条の直線文と2段の円形の刺突文が組み合わせて施される。6～8は無文の甕である。9は鉢と考えられ、10は鉢に近い、器高が低く胴部が幅広の甕である。

第39図は壺である。1は上層出土の壺の中で最も古相のもので口縁部と頸部境に段を設け、肩部に貝殻による直線文と羽状文を施す。2は頸部が短く口縁部が大きく開かないもので、口縁部と頸部境にはへら状工具による直線文を施し、頸部と胴部境には段を設ける。3は口縁部と頸部境にへら描きの直線文を3条施し、肩部には段を設けその下に貝殻による直線文を3条施す。4は肩部にへら描き直線文を6条施す。5は頸部があまり立ち上がらない器形のもので、口縁部と頸部境と肩部にそれぞれへら描の直線文を2条施す。6は口縁部と頸部境に段や直線文を施さない。

第40図1は無文の短頸壺である。2は小形の鉢である。3・4は蓋、5～7は底部である。8・9は土笛である。8は完形のもので側面に4孔と2孔が対にあけられている。9は側面に孔があることや端部の形から土笛と判断した。

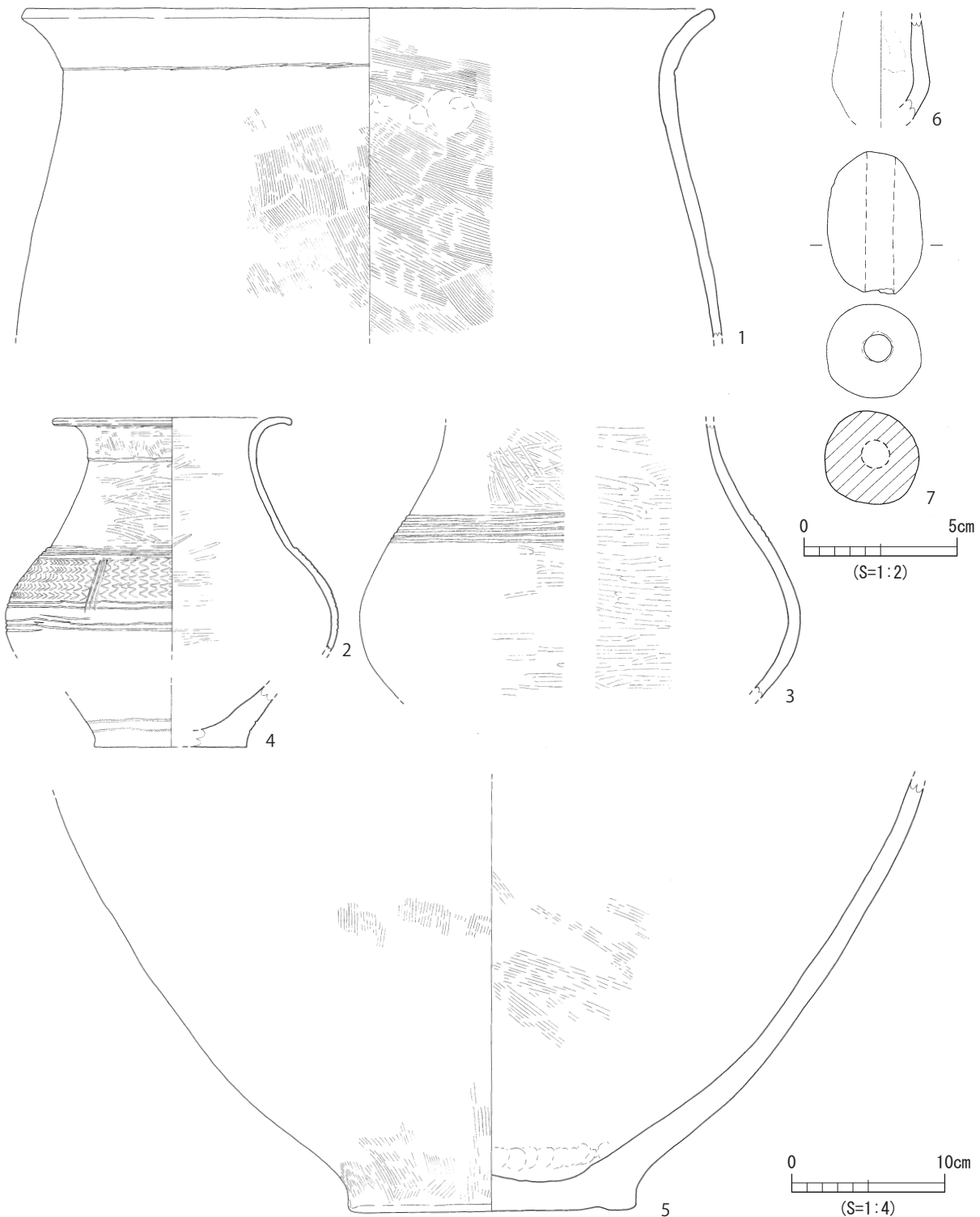
**埋土出土弥生土器・土製品(第41～44図)** A1区調査時に上部と下部の層に分別しないで取り上げたものを一括して掲載した。第41図1～9・第42図1は壺である。第41図1～3は頸部



第33図 A1区 SD10下層出土弥生土器実測図一1-(1/4)



と胴部境に段を設け、口縁部と頸部境にも段を設けるタイプのものである。4・5も頸部と胴部境に段を設けるが、5は口縁部と頸部境の段は不明瞭で、頸部にへら描き直線文を3条施す。6は頸部があまり立ち上がらない器形で、口縁部と頸部境に削り出し突帯状にへら描き直線文を3条施す。7は口縁端部に直線文と刺突文を施した破片で、8は胴部に突帯を貼り付け貝殻等による羽状文を施す壺である。9は壺の胴部下半と考えられる。第42図1は頸部が立ち上がらない器形の大型の壺で頸部に刻み目のあるM字状の突帯を廻らす。

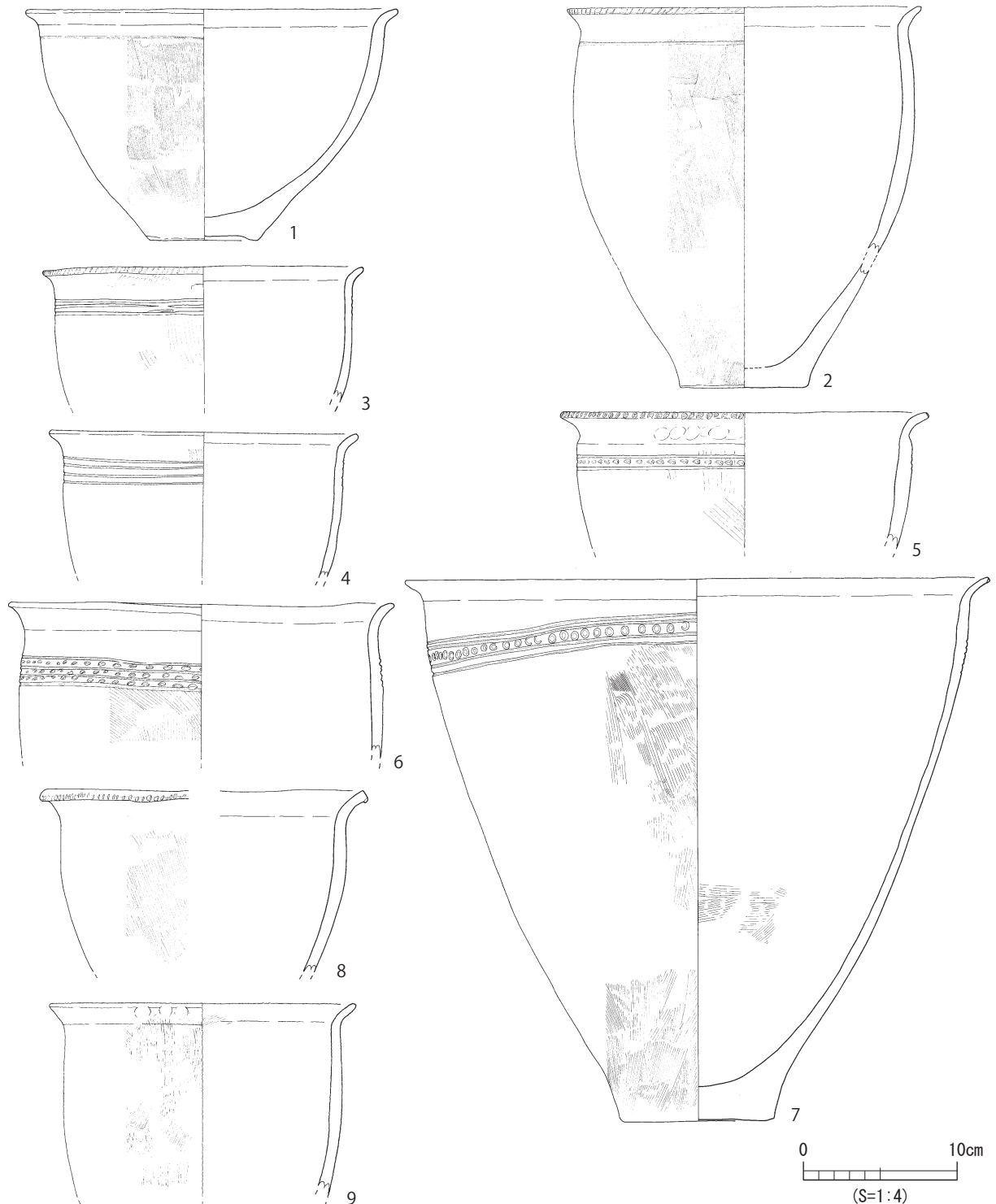


第34図 A1区 SD10下層出土弥生土器実測図一2一(1/4・1/2)

第42図2～8、第43図1～9は甕及び鉢である。第42図2～6はヘラ描きの直線文を1条施し、7・8はヘラ描きの直線文を2条施す甕である。第43図1・6は器高が低く鉢形の甕で、1はヘラ描き直線文を2条施す。2はヘラ描きの直線文を2条施した鉢である。3～5・7は無紋の甕である。8は口縁部が短く水平に折れた小形の甕である。9は小形の鉢である。

第44図1・2は蓋、3～5は底部である。6～8は土製品である。6は刺突による貫通しない孔が多数施された破片で、詳細は不明である。7は土錘、8は紡錘車と考えられる。

上層出土石器(第45図) 1～3はA2区(南)の上層から出土した石器である。1は黒曜石製の



第35図 A2区(南) SD10上層出土弥生土器実測図一1-(1/4)

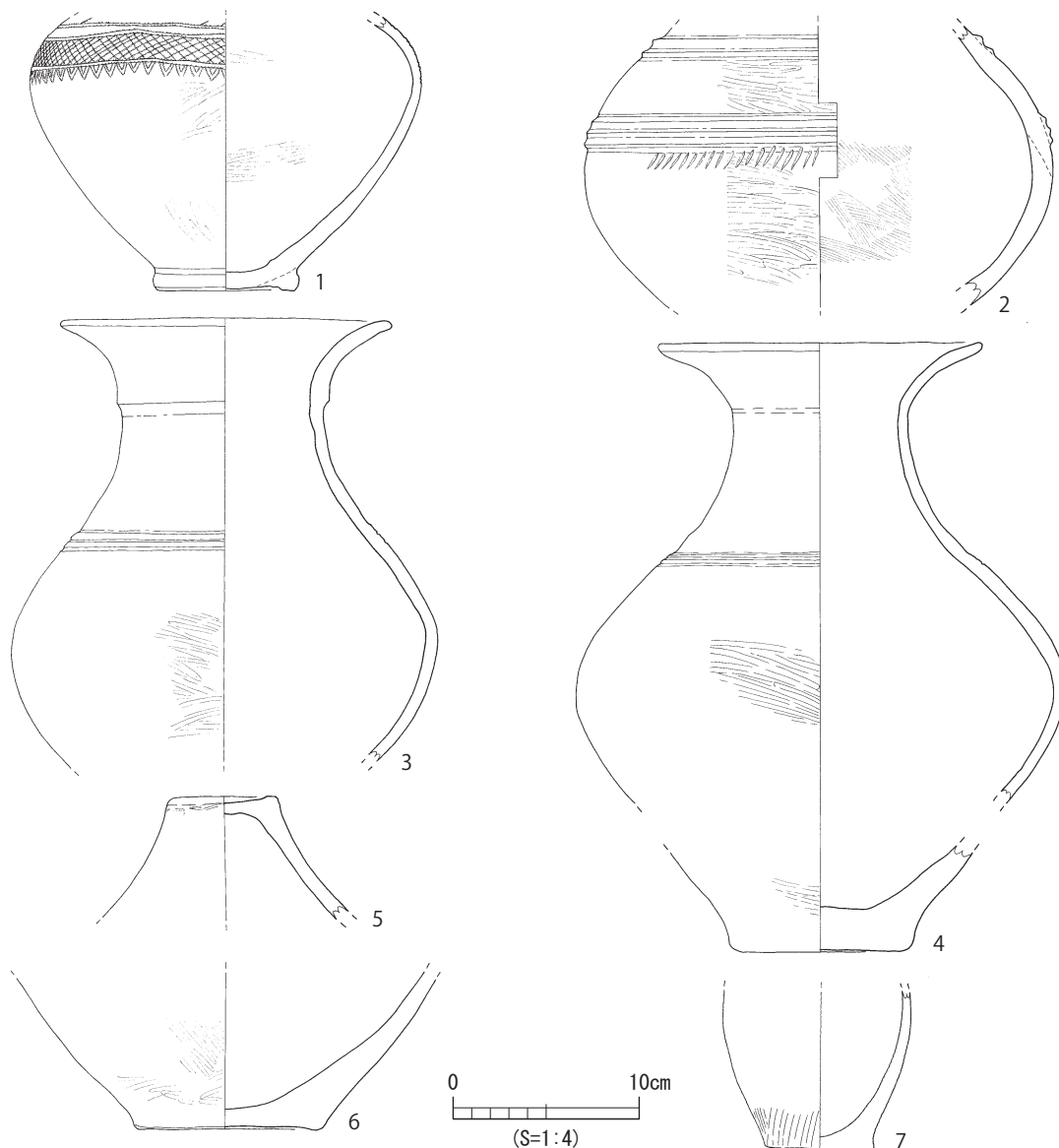
凹基式の石鏃、2・3は磨製石斧片である。2は片岩製、3は頁岩製で扁平な形状を呈する。

**埋土出土石器(第46図)** A1区から出土した。1・2は石包丁、3は敲石、4は石錘、5は黒曜石製の石鏃である。2は石包丁の破片を転用しているが用途は不明である。

**下層出土木製品(第47・48図)** 第47図1はA2区(南)で出土した木製品である。本来は厚みがある板材であったと思われるが、劣化により薄い板状になっていると考えられる。

第48図1～4はA1区で出土した木製品である。1は壺形容器で、胴部には樹皮がほぼ完全に残っている。この容器はクスノキの瘤の部分を利用して加工したものであり、外面の頸部から口縁部にかけてと内面に工具加工痕が残っていることや内面が完全に削り抜かれていないこと等から未製品であると判断される。2はコナラ属アカガシ亜属の鋏先の舟形隆起片である。3は細長い割材であり側面付近に貫通しない小さい孔が3箇所見られるが、人為的に空けられたものかどうかは判断出来ない。4は心材を若干加工したものであり一部炭化している。またくびれた部分が見られるが用途等は不明なものである。

**遺構の性格と時期** 遺構は、埋土の状況から常時水が流れているような状況は想定できないが、



第36図 A2区(南) SD10上層出土弥生土器実測図一2一(1/4)

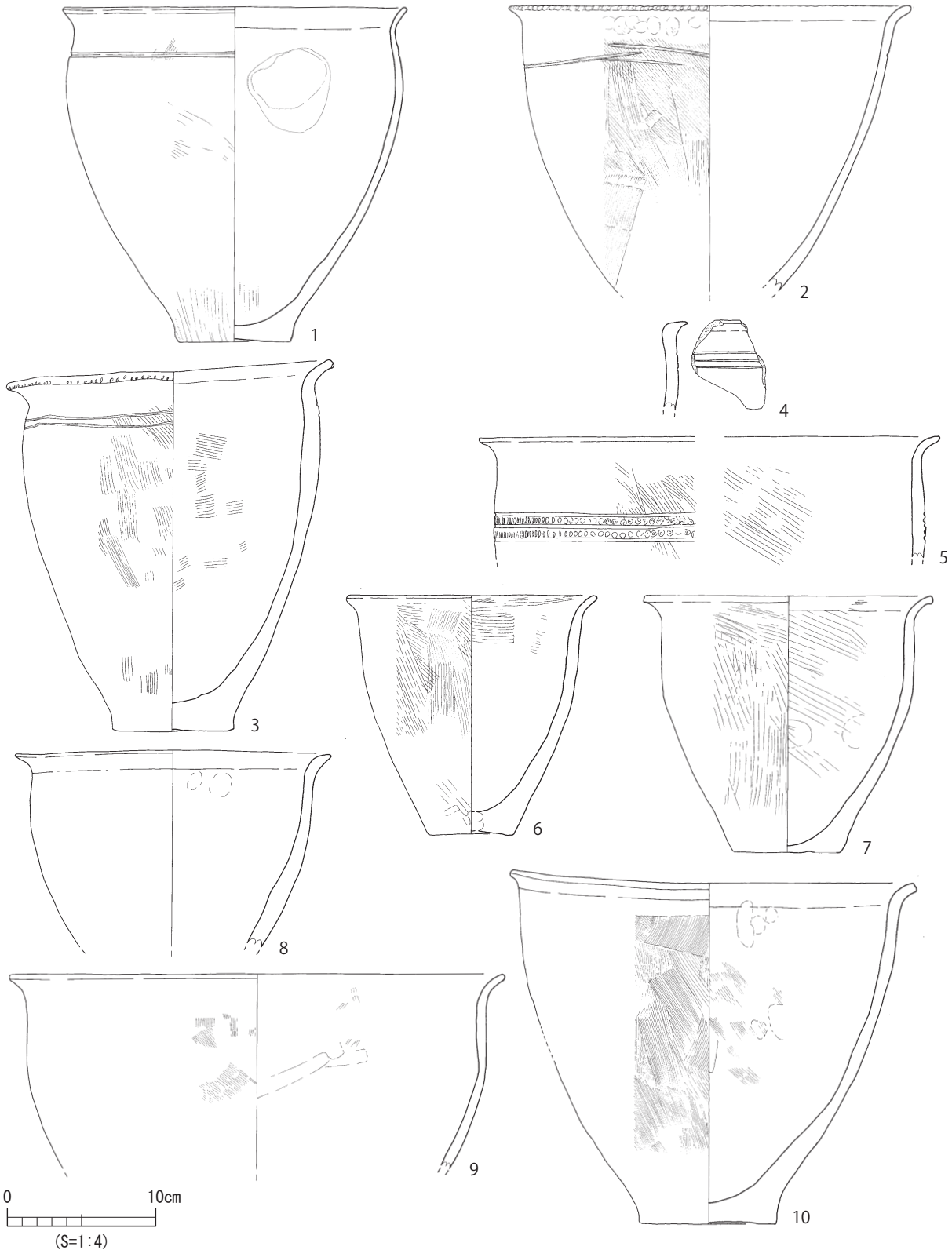




第37図 A1区 SD10上層出土弥生土器実測図一1一(1/4)

下部に粘土層が堆積していることから、ある程度湿潤な状況であったものと推測される。溝は環壕の可能性もあるが、全体の形が不明であることから判断出来ない。いずれにしる集落の近辺か縁辺部に穿たれた溝であることは間違いないものと考えられる。

出土した弥生土器は、弥生時代前期、土器編年ではI-2~I-3様式に相当するものと捉え  
 註1 以下、弥生土器の編年的位置付けに関する記述については、松本岩雄の編年(松本1992)による。



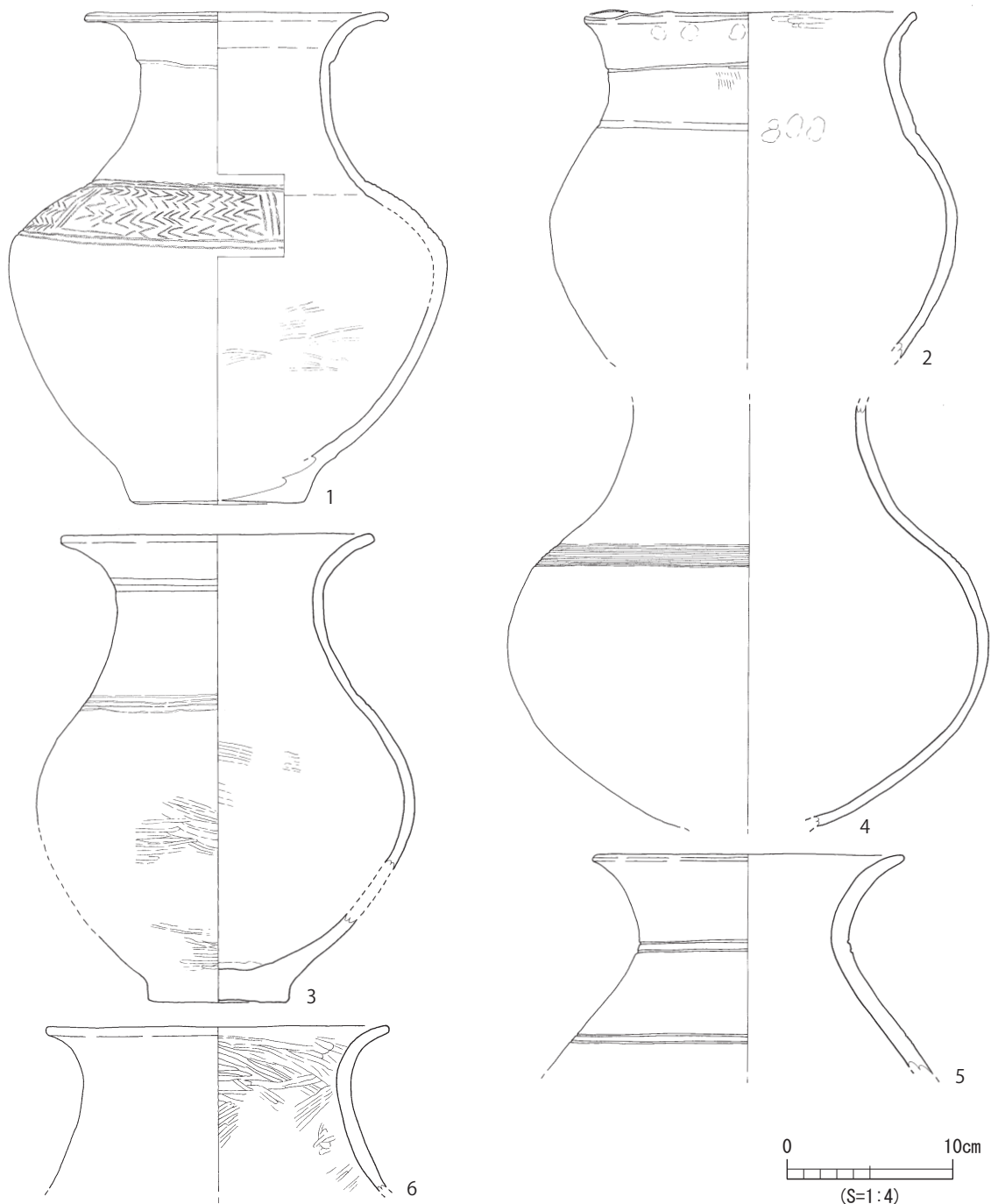
第38図 A1区 SD10上層出土弥生土器実測図-2-(1/4)

られることから、遺構はその時期に属するものであると考えられる。

(2) SD06(第49～51図)

**規模と形態(第49図)** 遺構はA1区の北側標高2m付近で検出し、SD10の8m北側に並行するよう存在している。主軸は北西から南東方向にとり、底面の標高は北西端で1.32m、南東端で1.23mであり若干南方向に傾斜していく。平面形は確認した範囲では直線的で、規模は幅2m前後、深さ0.8mであり、確認された総延長は9.2mある。調査区外にも確実に延びており、後述するSD13と繋がる同一の溝である可能性が考えられる。

**堆積状況(第49図)** 埋土は大きく上下に分けられ、下部は灰色の粘質土、上部はシルト～砂質土が堆積しており、最上部の中央部には黒色系の堆積土が見られた。下部の粘質土は溝が湿潤な



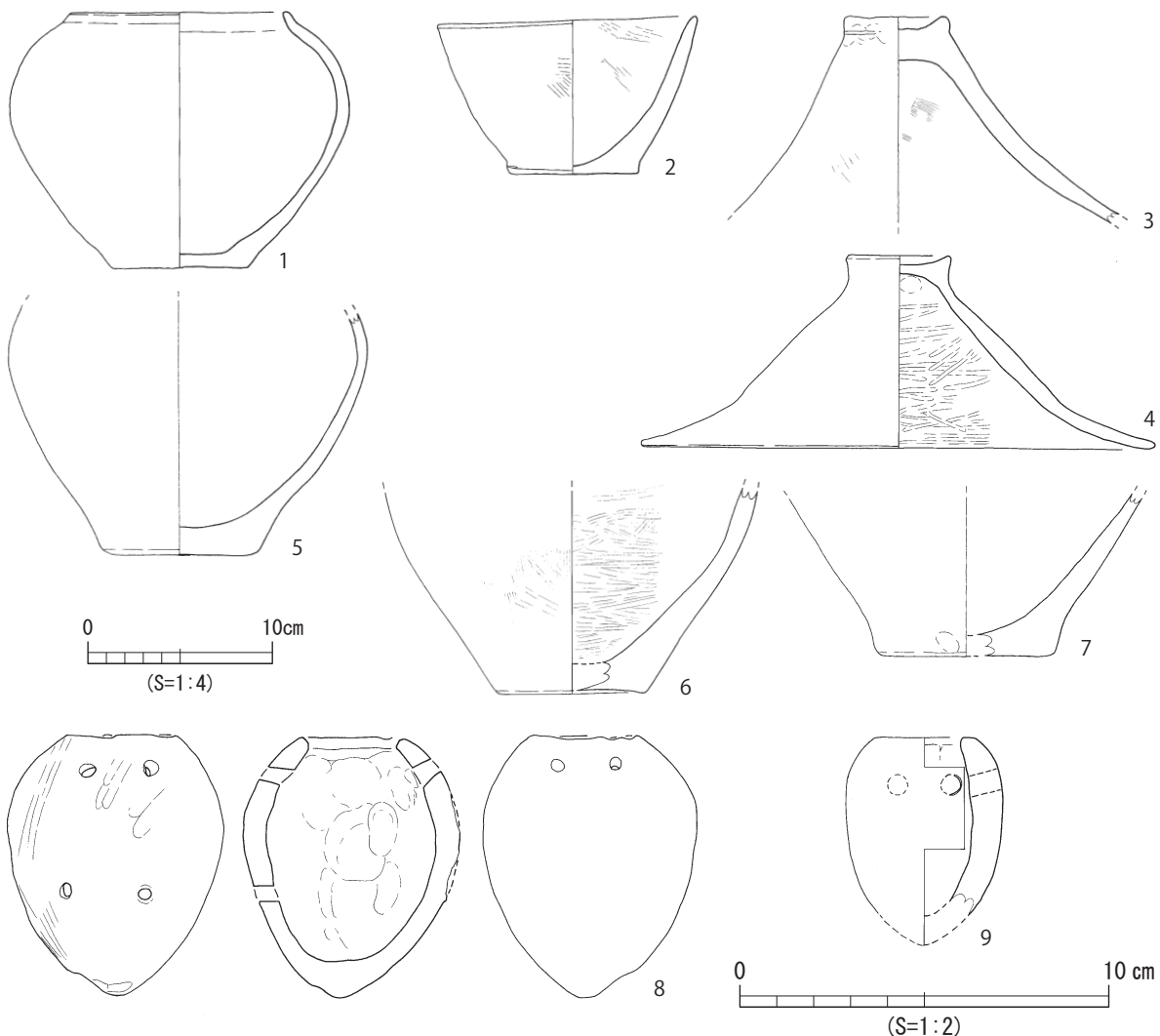
第39図 A1区 SD10上層出土弥生土器実測図一3一(1/4)

環境であった時期があったことを示していると考えられ、上部のシルト～砂質土は流土及び人為的な埋め戻し土である可能性が考えられる。

**遺物の出土状況(第49図)** 遺物の出土量は前述のSD10と比較して少ない。出土した土器については出土地点のみを記録して取り上げた。本来なら上部と下部で出土層位を分けて確認後取り上げれば良かったが、分別せず埋土一括として取り上げた。土器は数箇所である程度まとまって出土しており、ほとんどのものが上部から出土している。SD10に見られたように完形に近いものがまとまって出土することはなかった。

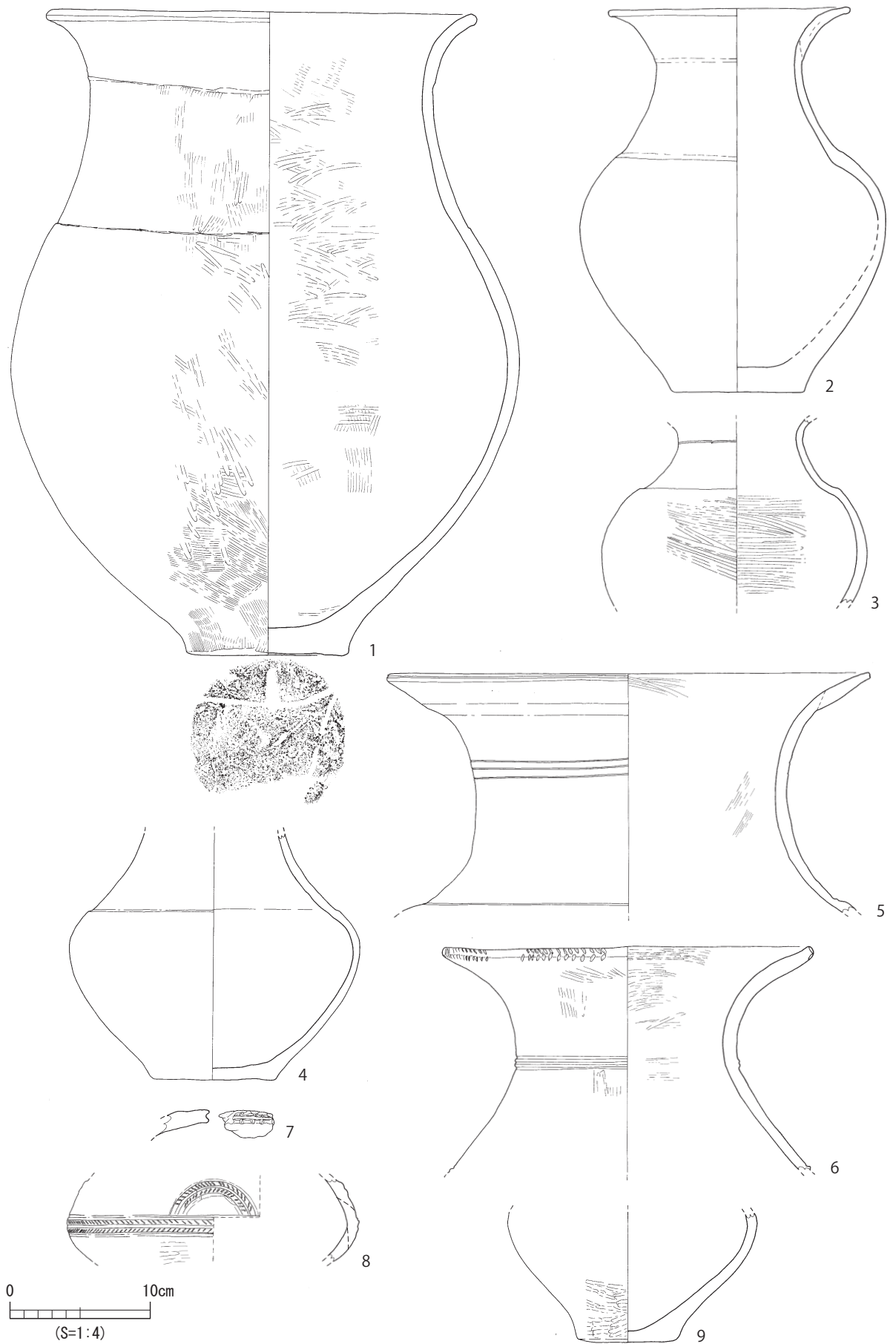
**埋土出土弥生土器(第50図)** 1～4は壺である。1は頸部に2条以上のへら描き直線文を施す。2は口縁端部に面を持つ。3は肩部に3条のへら描き直線文を施しあまり胴が張らない器形のものである。4は頸部から肩部にかけての破片であるが、4条の突帯とその下に鏝状の浮文を等間隔に貼り付けているものである。これはあまり類例のない形態のものであり位置付けが難しい個体であるが、伊予地方で見られる阿方式などに類似していることから、その影響を受けたものであるかもしれない。

5～15は甕である。5はやや胴部が膨らむ器形のものでへら描きの直線文を3条施している。6・7はへら描きの直線文を4条施しているもので、7は貼り付けた逆L字状の口縁を呈す。8は



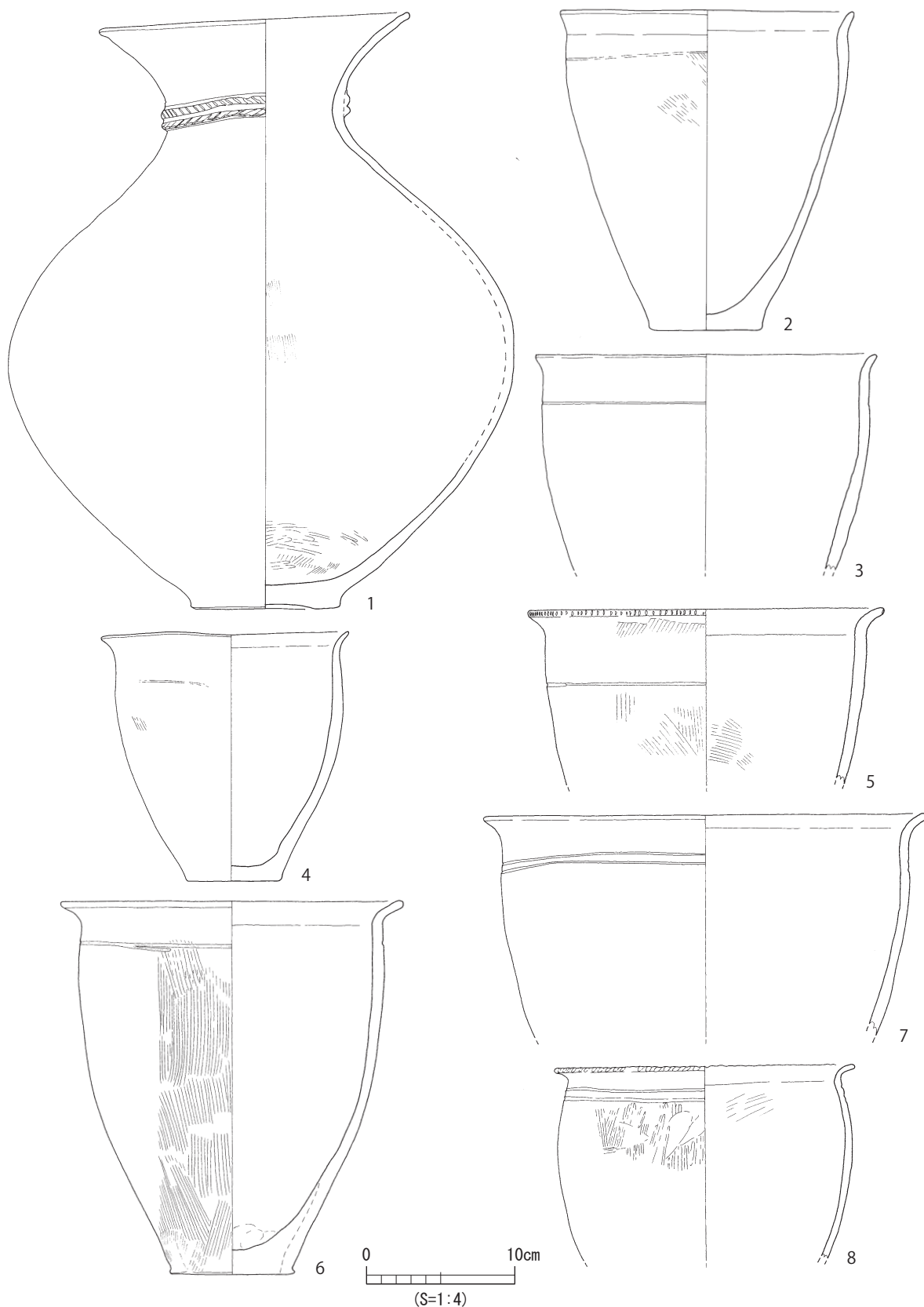
第40図 A1区 SD10上層出土弥生土器実測図一4一(1/4・1/2)





第41図 A1区 SD10埋土出土弥生土器実測図-1-(1/4)

ヘラ描き直線文を5条施す。9はヘラ描き直線文を7条施すものであり、甕でヘラ描きの直線文を施すものでは最も多条である。10・11はヘラ描き直線文の下に円形の刺突文を施すものであり、10は7条の直線文、11は8条の直線文である。12は櫛描きの直線文が施されるものであ



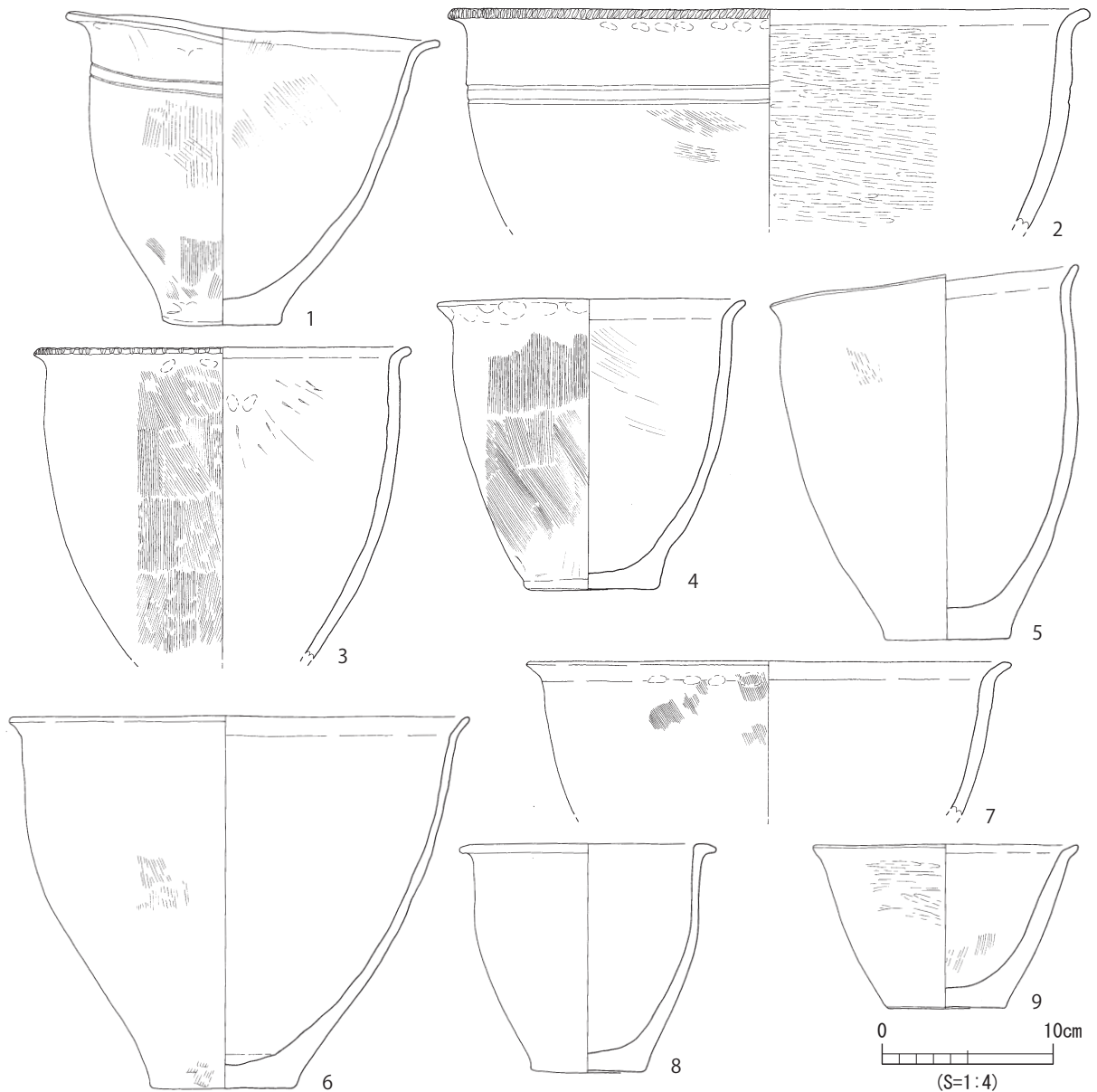
第42図 A1区 SD10埋土出土弥生土器実測図-2-(1/4)

る。このように櫛描きの直線文を施す甕は、鶴場地区で検出した溝からは数片しか出土していない。おそらく3条程度の原体で3段に施して9条程度の櫛描き直線文がめぐると考えられる。13～15は無紋の甕と考えられる。15は口縁端部が肥厚して玉縁状になるものである。

16・17は蓋の頂部である。18・19は底部であり、19は小型の土器の底部である。20・21は小型の容器の底部と思われるが、先端が尖るもので詳細は不明である。21は土笛の可能性も検討したが、やや器形が異なるものと考えられる。

**埋土出土石器(第51図)** 1～4は黒曜石製の凹基式の石鏃である。1～3は縦に長い形状ものであり、4は短く幅が広い形状である。5は小形の磨製石斧で鑿状の工具と考えられる。6は基部が欠損した磨製石斧である。刃部は二次利用の敲打によって潰れている。

**遺構の性格と時期** 遺構は、埋土の状況から常時水が流れているような状況は想定できないが、下部に粘土層が堆積していることから、ある程度湿潤な環境にあったものと推測される。溝は環壕の可能性もあるが、全体の形が不明であることから判断出来ない。いずれにしろ集落の近辺か



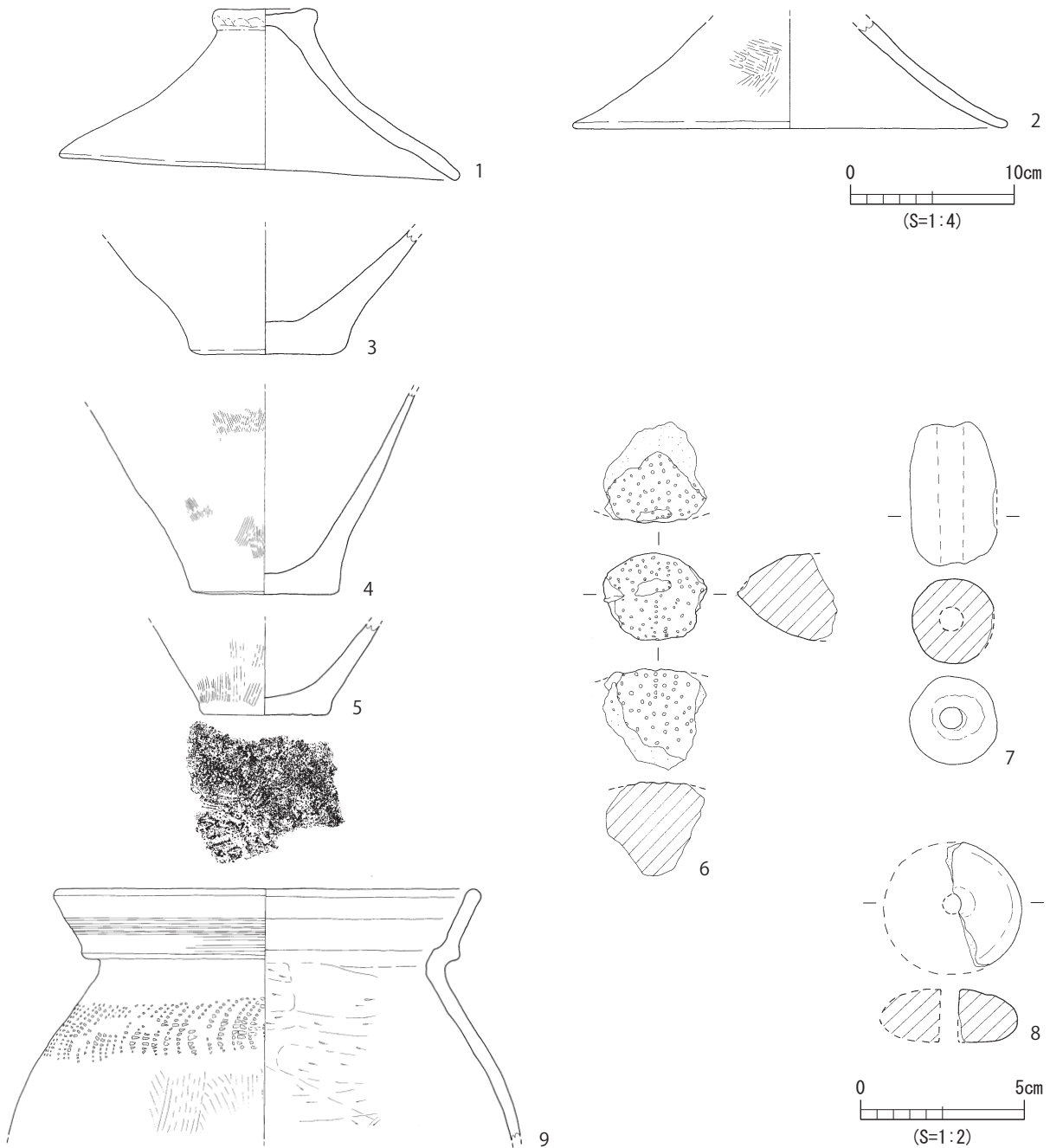
第43図 A1区 SD10埋土出土弥生土器実測図一3一(1/4)

縁辺部に穿たれた溝であることは間違いないと考えられる。

出土した弥生土器は、一部Ⅰ-3様式やⅡ様式に相当する可能性があるものも若干含まれるが、大部分は弥生時代前期のⅠ-4様式に相当するものと考えられる。したがって遺構は概ねⅠ-4様式の時期に属するものであると考えられる。

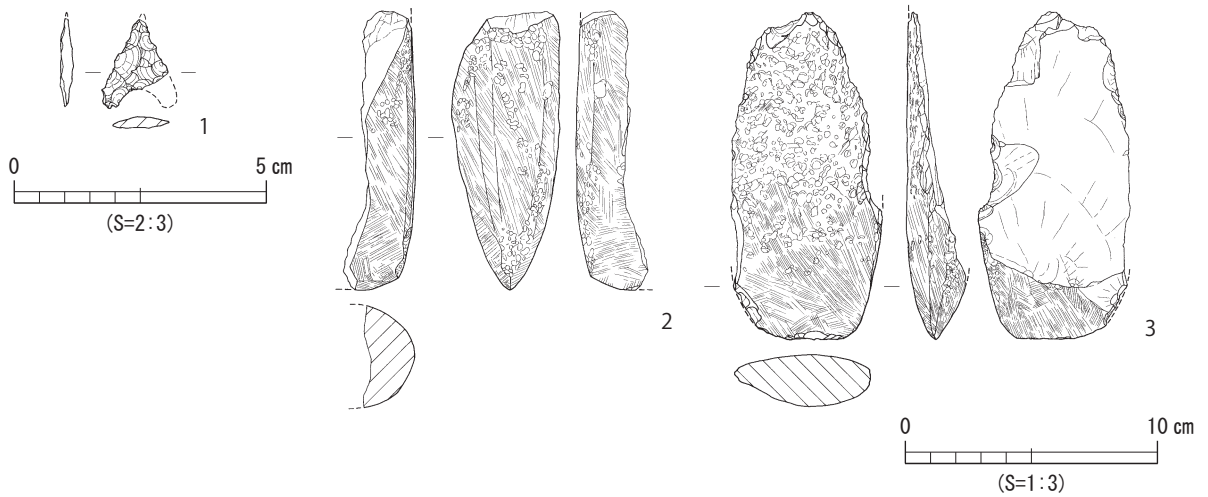
(3) SD13(第52~61図)

規模と形態(第52図) 遺構はB1区の北西の標高2m付近で検出し、後述する溝(SX01)と近接している。主軸はおおよそ東西方向にとり、底面の標高は西端で1.75m、東端で1.23mであり若干東方向に傾斜していく。平面形は確認した範囲ではほぼ直線的であり、規模は幅2.15m、深

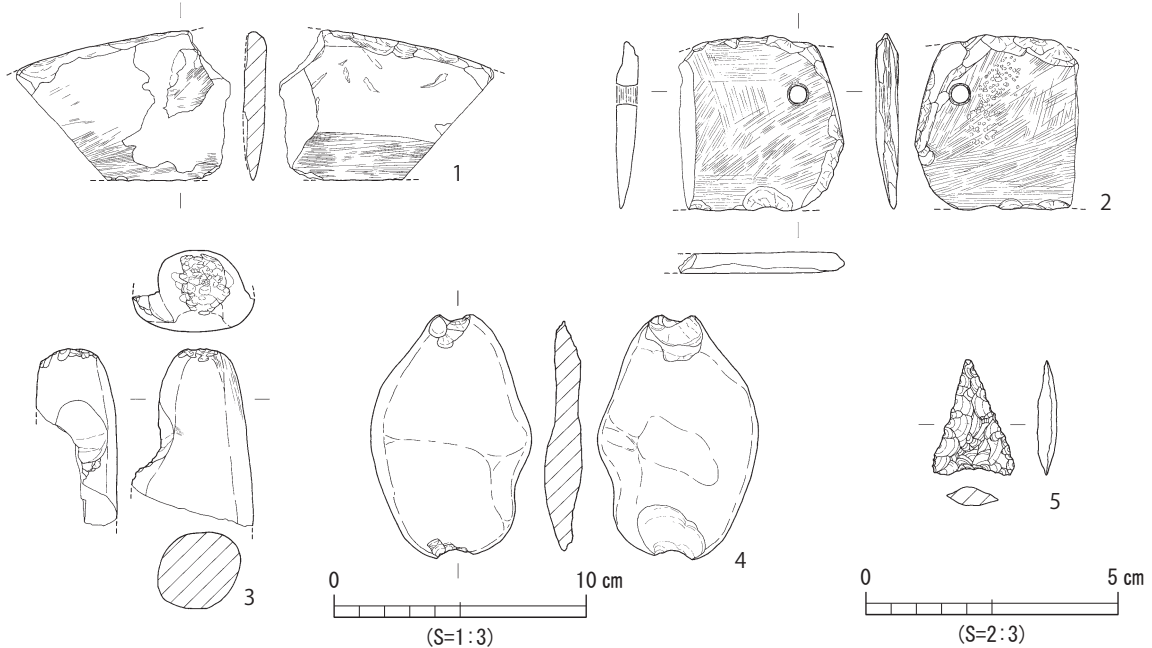


第44図 A1区 SD10埋土出土弥生土器実測図-4-(1/4・1/2)





第45図 A2区(南) SD10上層出土石器実測図(1/3・2/3)

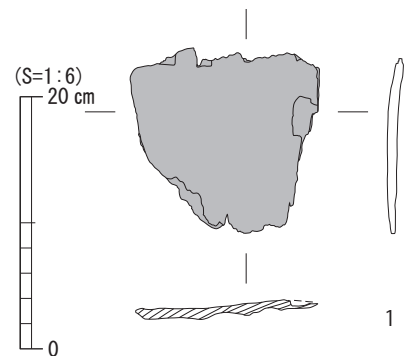


第46図 A1区 SD10埋土出土石器実測図(1/3・2/3)

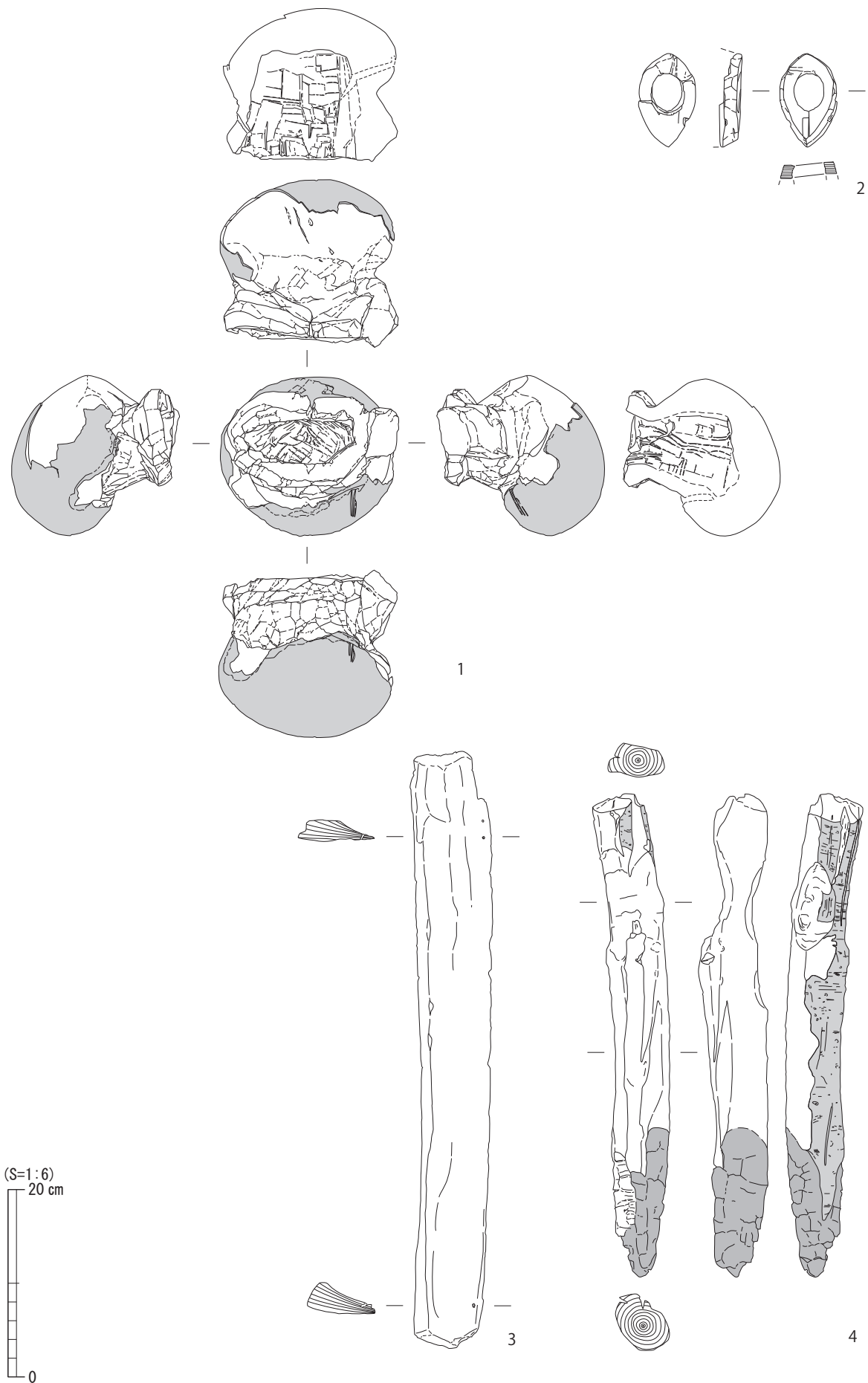
さ0.8 m、確認された総延長は9 mを測る。西側に向かって調査区外にも確実に延びていくもので、前述したSD06と繋がる同一の溝である可能性が考えられる。また東端は中世以降の自然河道(河道1)によって削られ失われている。

**堆積状況(第52図)** 埋土は大きく上下に分けられ、下部は灰色の粘質土、上部はシルト～砂質土が堆積しており、最上部の中央部には黒色系の堆積土が見られた。下部の粘質土は溝が湿潤な環境であった時期があったことを表していると考えられ、上部のシルト～砂質土は流土及び人為的な埋め戻し土である可能性が考えられる。

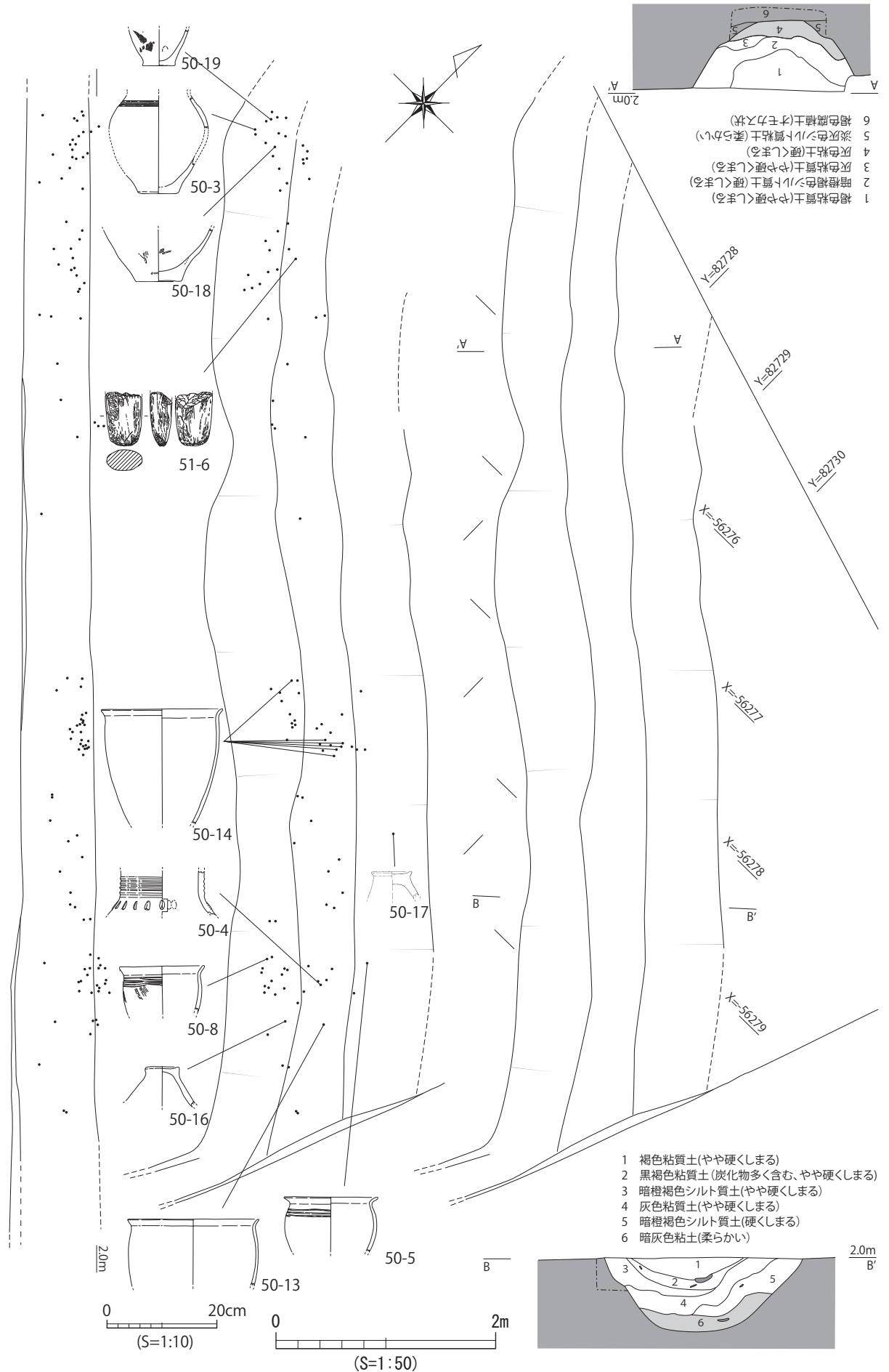
**最上層遺物出土状況(第53図)** 最上部の黒色系の埋土からは遺物がまとめて出土した。これらは溝がほとんど埋没した段階で中央部にできた浅い窪みに廃棄されたものと判断さ



第47図 A2区(南) SD10下層出土木製品実測図(1/6)



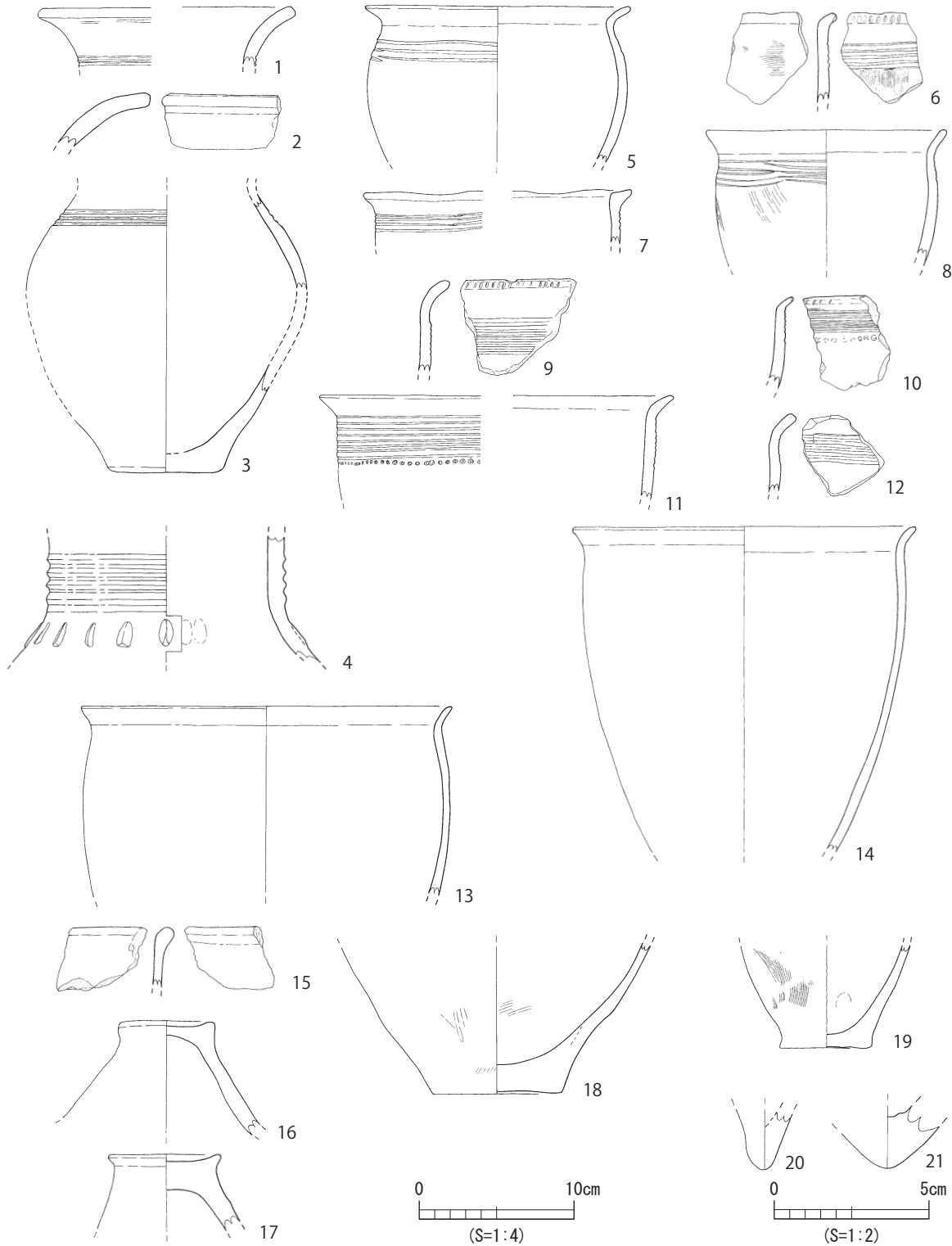
第48図 A1区 SD10下層出土木製品実測図(1/6)



第49図 A1区 SD06遺構・遺物出土状況実測図(1/50)

れたことから、出土状況を図化することで記録した。遺物は全域にわたって出土しており、破片も大きいものが数多く見られた。

**埋土の遺物出土状況(第54図)** 前述した最上部の埋土から出土した土器を取り上げた後は、出土層位を上部と下部(上層と下層)に大きく分けて、出土地点のみを記録して取り上げた。土器は上層で多くまとまって出土しており、下層から出土したものは少ない。基本的に破片がほとんどであったが、下層からは完形の土器が1点(第55図2)出土した。



第50図 A1区 SD06埋土出土弥生土器実測図(1/4・1/2)



また溝の東端部からは炭化米及び被熱粘土塊がまとまって出土した。現地で位置を記録して取り上げたものも数点あるが、基本的に上層と下層に分けて埋土ごと取り上げ、水洗選別を行って採取したものがほとんどである。特に集中している部分はその範囲を記録し、上層では1.8m×0.5mの範囲で、下層では0.8m×0.2mの範囲でまとまっていた。

木製品は下層の粘質土層からのみ出土した。他の溝と同様に土質的に残りやすい環境であったことが原因と考えられる。出土点数はあまり多くなく散在する状況で出土した。

**下層出土弥生土器(第55図)** 1は壺の口縁部であり、端部外面には沈線と刻目が施され、内面には円形の刺突文の間に3条の直線文が施されている。2は完形の短頸壺であり2孔が1対で対面する頸部側面2箇所に穿たれている。3・4はヘラ描きの直線文が施された甕で、3は欠損で分からないが、4は5条の直線文が施される。5は壺の頸部片であり、1条の直線文が確認される。6は蓋であり、頂部が高い器形である。7～9は底部であり、9には円孔が穿たれている。

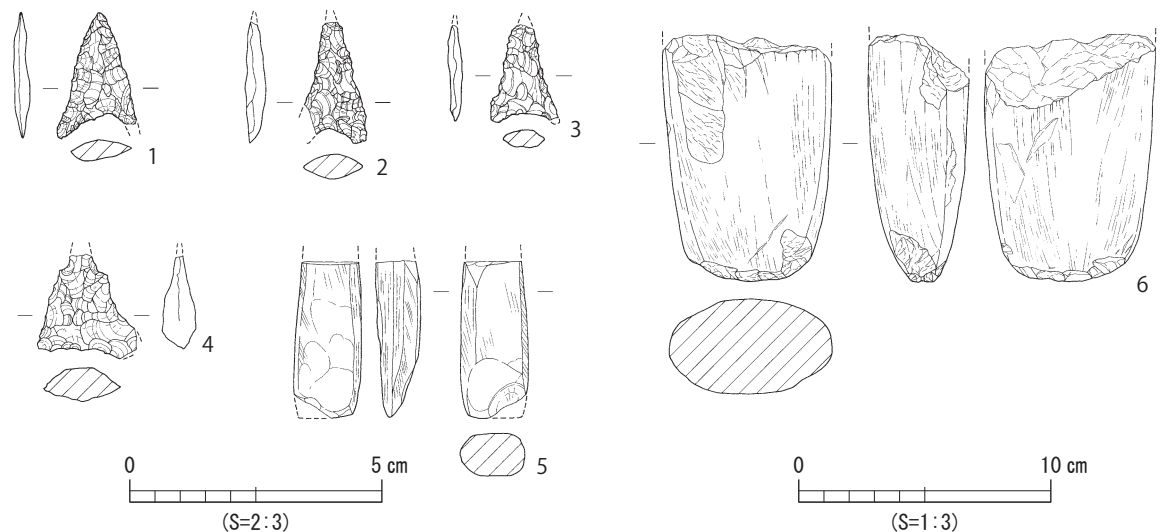
**上層出土弥生土器(第56・57図)** 第56図1～4は壺である。1は頸部に5条から6条のヘラ描き直線文が施され、肩部は無文である。2～4は頸部に7条の直線文が施される。いずれの壺も頸部が短くあまり立ち上がらない器形のものである。

5・6は小型の壺である。6は不整形の細長い器形のものであり、無頸壺になる可能性も考えられる。頸部と胴部境に2条のヘラ描き直線文が施される。

7～13は甕・鉢である。7は4条のヘラ描きの直線文が施され、一部に羽状文が組み合わさるイレギュラーな紋様構成をとる甕である。9は6条のヘラ描きの直線文を施した下に円形の刺突文を施す甕である。10・11は無文の甕で、11は器高16.1cmと小型である。12は小形の鉢で、胴部が若干張る器形である。13は逆L字状の形状をとる貼り付け口縁の甕である。

14・15は無頸壺である。14は口縁端部の下に円孔が穿たれた鐔状の把手が貼り付けられている。破片であることから何箇所に貼り付けられているかは不明である。15は端部小片で詳細は不明である。

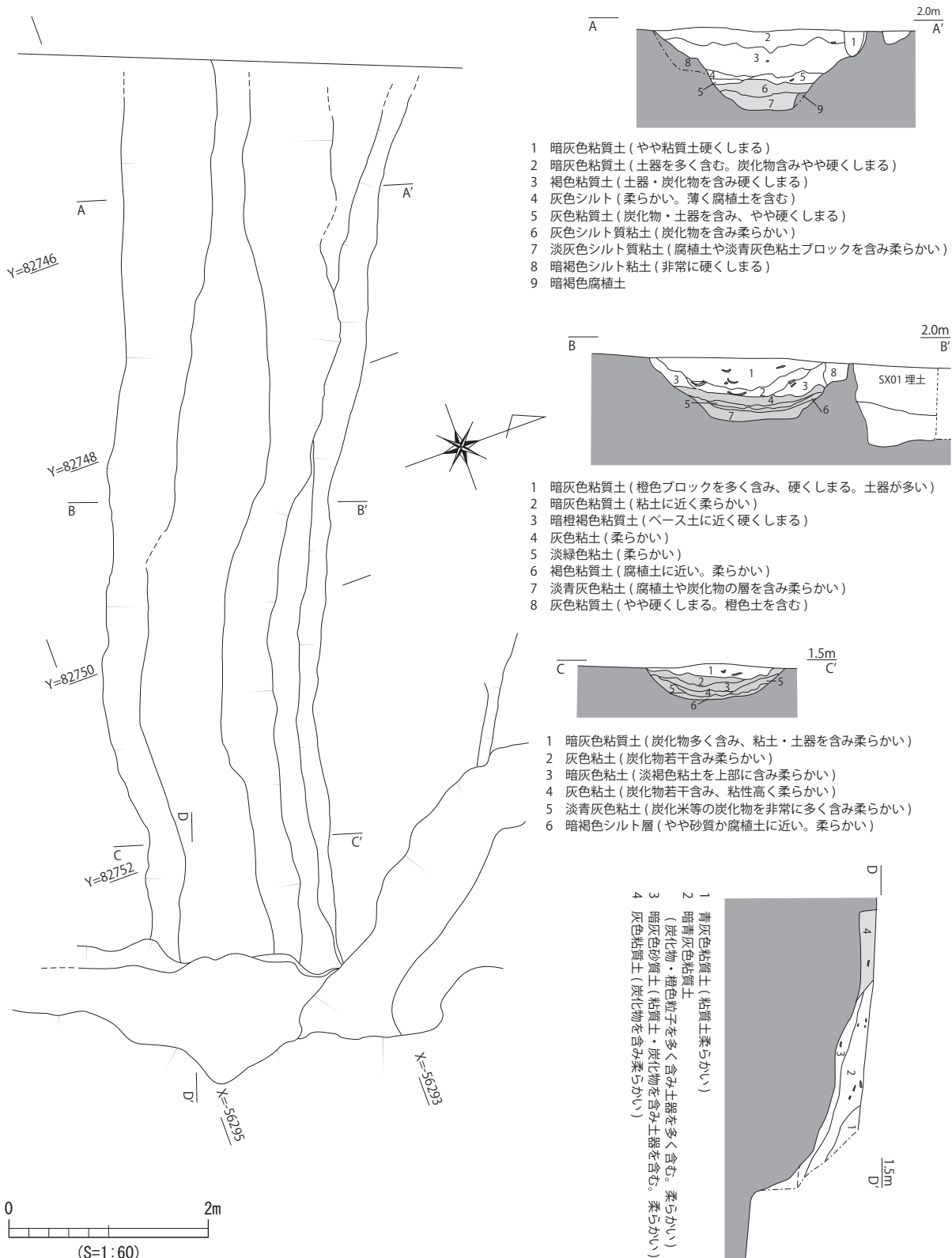
16・17はくの字状の甕又は壺の口縁部である。本遺構から出土した土器の中では非常に異質な器形のもので、溝が完全に埋没した後に穿たれた遺構に伴っていた可能性も考えられる。16の胎



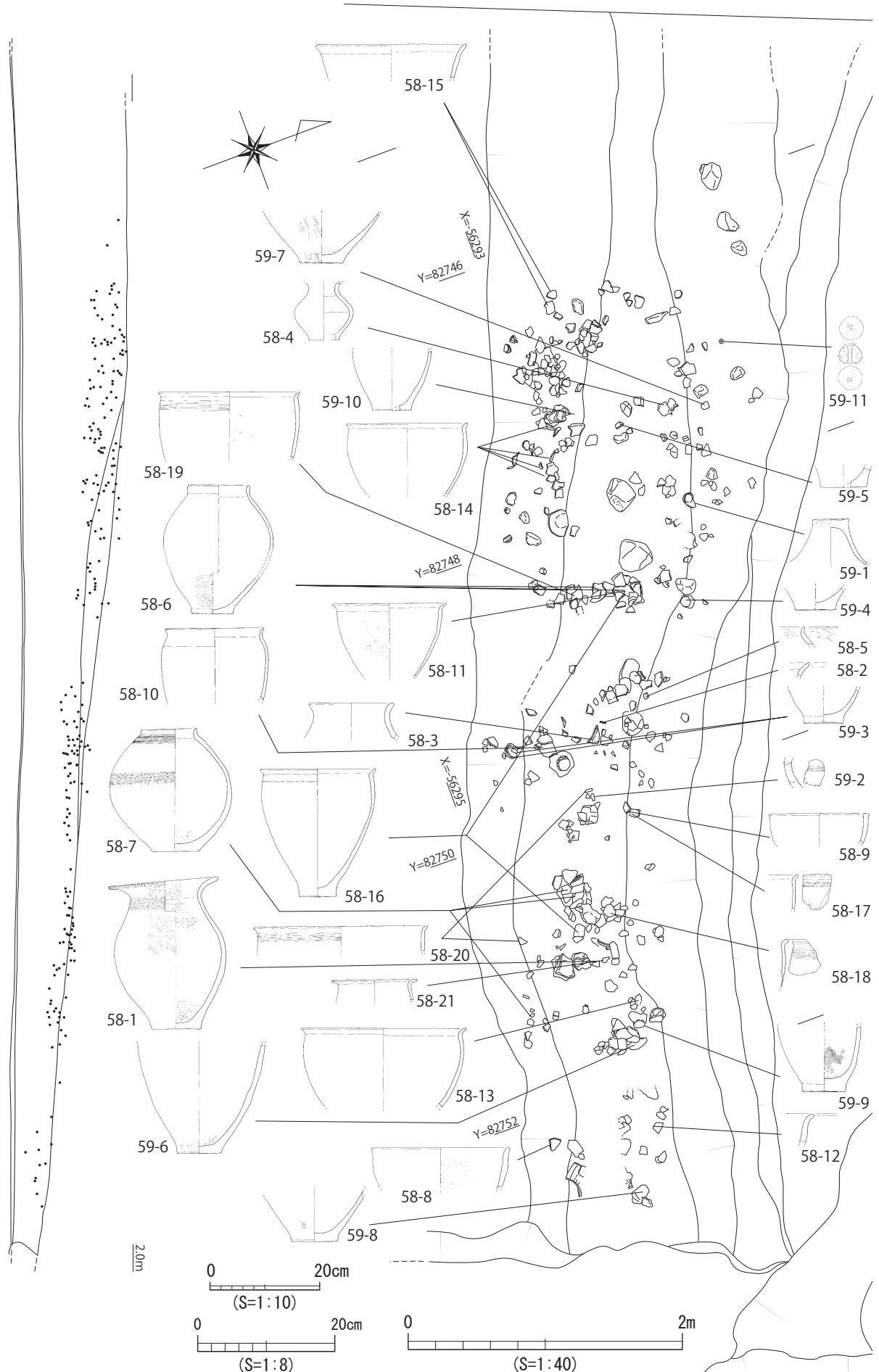
第51図 A1区 SD06埋土出土土器実測図(1/3・2/3)

土はI様式のものとは変わりが無いが、17は胎土からみてもやや異質な印象を受けるものである。

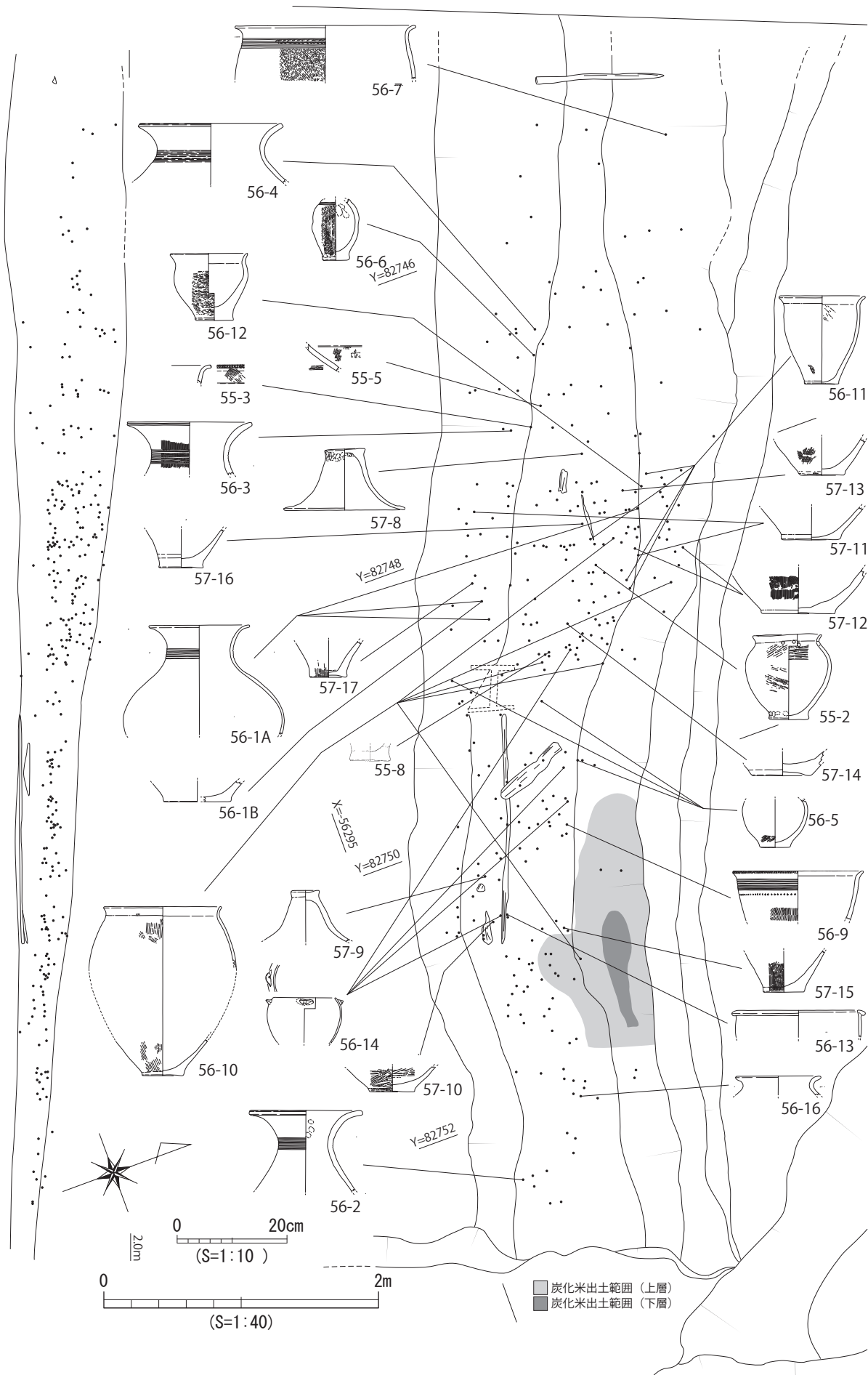
第57図1~7は壺又は甕の文様部分の破片である。1は壺口縁部から頸部の破片と考えられ、内面に突帯状のものが貼り付けられている。伊予地方で見られる阿方式の影響を受けているものかもしれない。2・3は羽状文が施された壺の破片と考えられ、4は5条以上のへら描き直線文と円形の刺突文が施された破片である。5は直線文の間に円形の刺突文が2段施されている壺の破



第52図 B1区 SD13 遺構実測図(1/60)



第53図 B1区 SD13 最終埋土遺物出土状況図(1/40)



第54図 B1区 SD13遺物出土状況図(1/40)



片である。6は刺突文が施された破片、7は2条の突帯状の部分に1条の沈線が施された破片である。

8・9は蓋である。両者とも頂部が立ち上がる器形のものである。

10～17は底部である。ただし、17は底の厚みが薄いことやあまり広がらない器形であることから蓋の頂部の可能性もある。18は土器転用円盤状土製品である。

**最終埋土出土弥生土器・土製品(第56・58・59図)** 第58・59図は、溝がほぼ埋没した段階の中央部の窪みに廃棄された土器と判断して取り上げたものである。第58図1～4は壺である。1は胴が張らない器形のもので頸部に6条の直線文を施し、胴部は無紋である。2は壺の口縁部と考えられ端部を上方に繰り上げる器形のものである。3は口縁部が広がらないものであり、4は小形のものである。

5～7は短頸壺である。5は口縁部片である。6は無文の短頸壺であり口縁端部が肥厚する。同一個体の底部もあるが接点が無い。7は口縁部下と胴部にヘラ描き直線文をそれぞれ8条施すものである。

8～20は鉢・甕である。8は口縁端部がほとんど屈曲しない器形のもので、内面調整がミガキであることから鉢と考えられる。9は口縁端部に面を持つ鉢である。10～15は無文の甕である。10は胴部があまり底部に向かってすぼまらない器形のものである。15は口縁部がほとんど屈曲しない形態である。16～20はヘラ描き直線文を施す甕である。16は1条、17は3条、18・19は6条、20は5条施す。第56図8はヘラ描きの直線文が6条施される甕である。甕上半部と下半部は同一個体と考えられるが接点無く、図上復元も難しいので、個別に図化し掲載している。

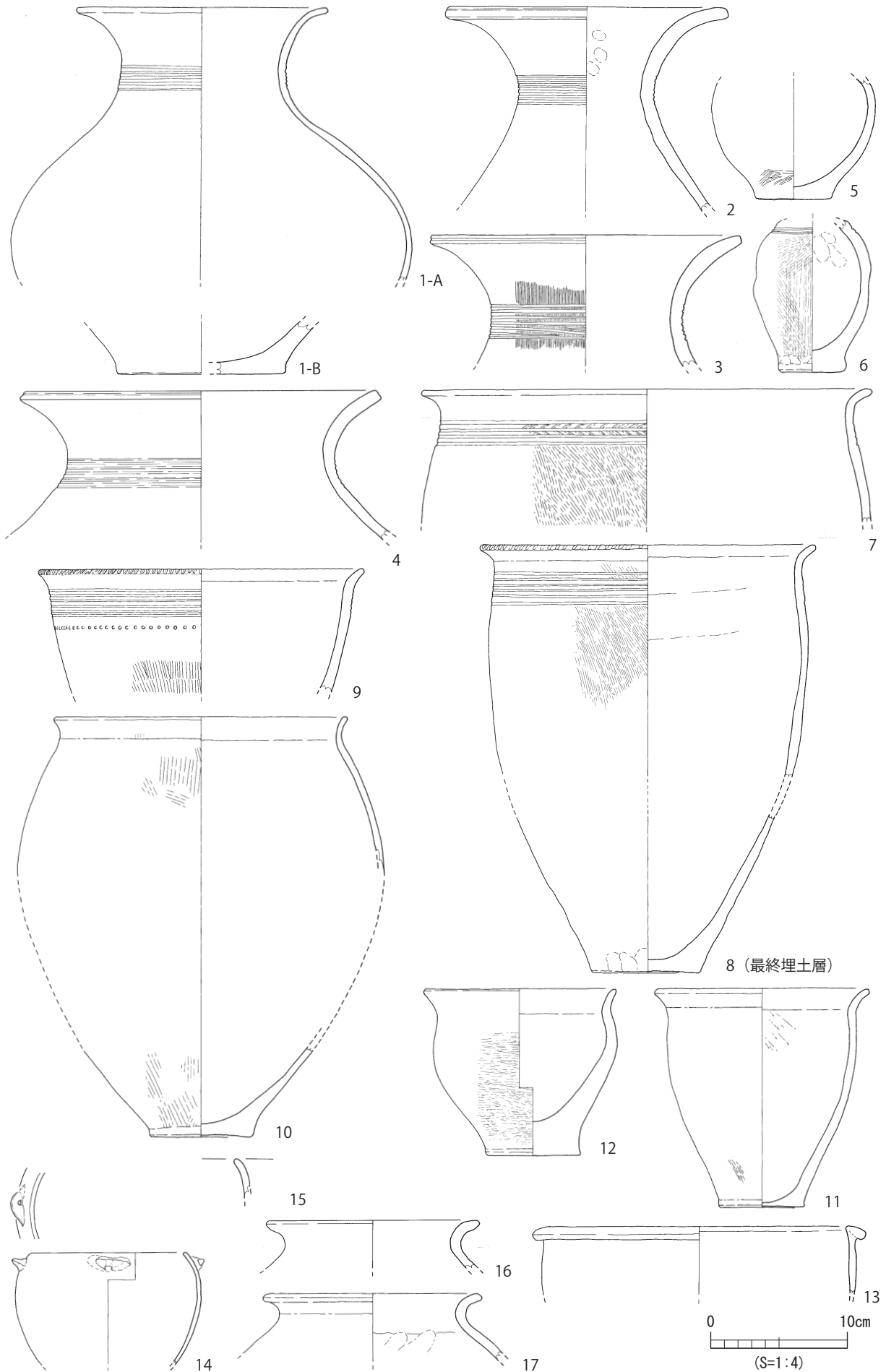
第58図21は器壁が薄く口縁部の屈曲が強い甕で、他の甕とは大きく器形が異なることから、I様式のものではなくII様式に属するものである可能性が高い。本遺構には伴わないものかもしれない。

第59図1は蓋であり、頂部の立ち上がりが高い。2は壺の頸部片でありヘラ描き直線文が2条施される。3～10は底部である。11は土錘であり、球形に近い形状のものである。

**上層出土石器(第60図)** 1は黒曜石製の凹基式石鏃である。2は黒曜石製の石鏃未製品と考えられるものである。3・4はスクレイパーで、3は黒曜石製、4は碧玉製である。5は頁岩製の石器であり、円孔が穿たれている。破片であることから不明な点が多いが、円孔があることから石包



第55図 B1区 SD13下層出土弥生土器実測図(1/4)



第56図 B1区 SD13上層・最終埋土層出土弥生土器実測図一1一(1/4)

丁の可能性がある。6は細粒花崗岩製の石錐であり、使用面には線条痕が確認される。7は花崗岩製の砥石である。使用面は1面のみ残存しており、擦痕が若干確認される。

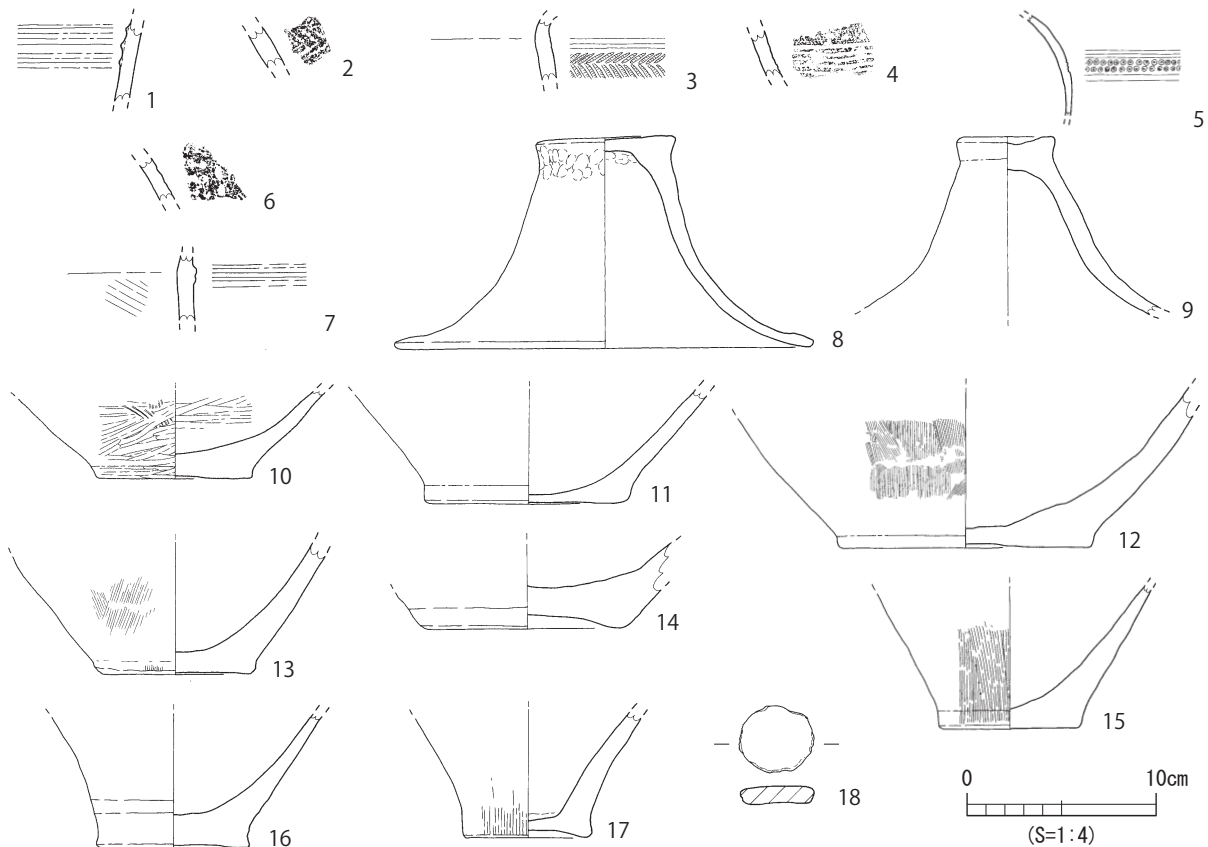
**下層出土木製品(第61図)** 1は薄い板状のものである。2は薄い板状のもので円孔が1箇所確認される。3は炭化した木片である。4は棒状のもので3箇所に円形の孔が確認され、本来は1本のものであったが、脆弱で取り上げ後に接点が明確ではなくなった。5は割材であり2面に若干加工が見られる。

**遺構の性格と時期** 遺構は、埋土の状況から常時水が流れているような状況は想定できないが、下部に粘土層が堆積していることから、ある程度湿潤な環境にあったものと推測される。溝は環壕の可能性もあるが、全体の形が不明であることから判断出来ない。いずれにしろ集落の近辺か縁辺部に穿たれた溝であることは間違いないものと考えられる。

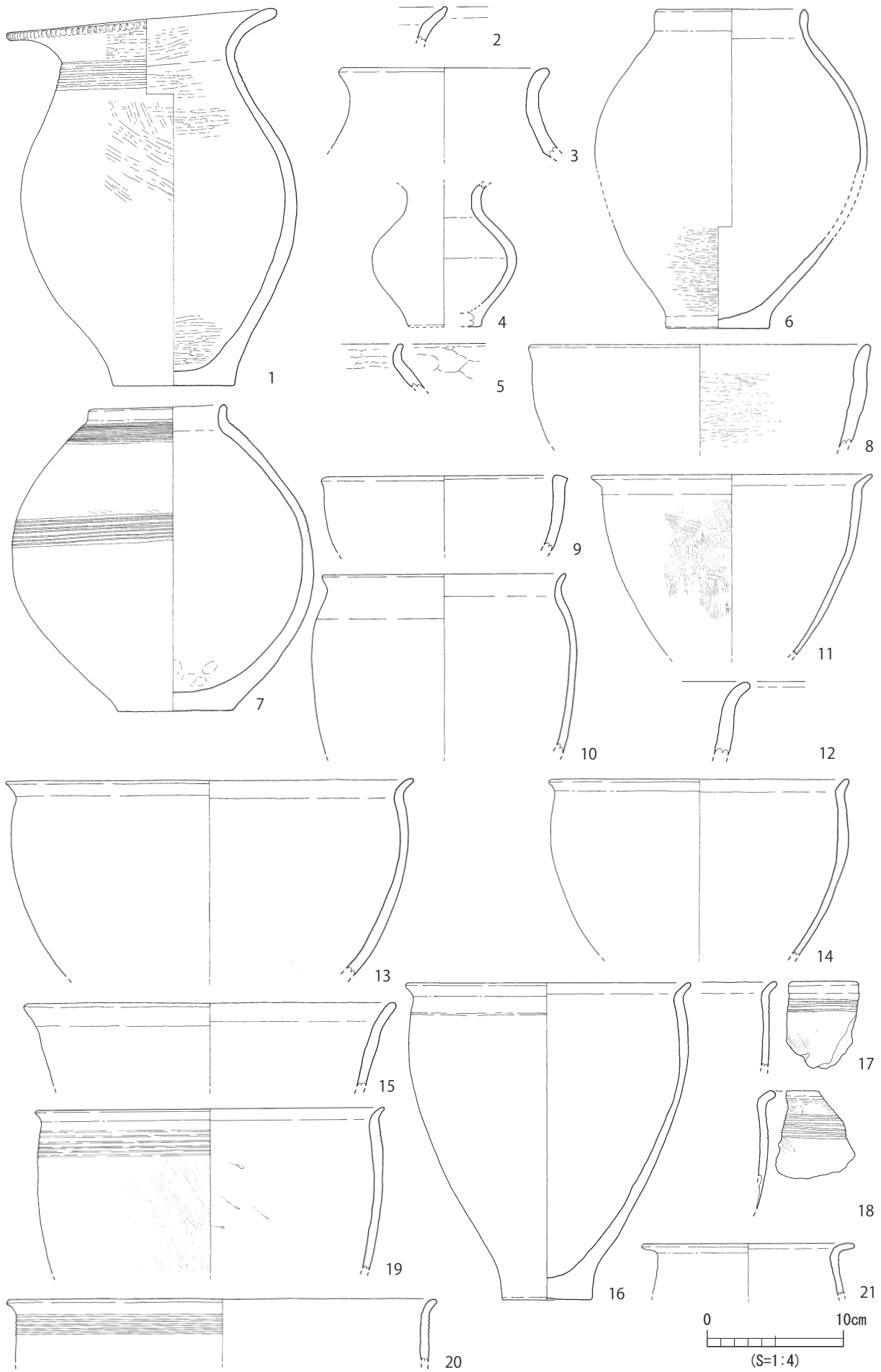
出土した弥生土器は一部Ⅰ-3様式やⅡ様式以降に相当する可能性があるものも若干含まれるが、ほとんどは弥生時代前期、Ⅰ-4様式に相当するものと考えられる。よって遺構は概ねⅠ-4様式の時期に属するものであると考えられる。

(4) SX01(第62図~67図)

**規模と形態(第62図)** 遺構はB1区の北西の標高2m付近で検出し、前述した溝(SD13)と近接している。主軸はおおよそ東西方向にとり、底面の標高は西端で1.05m、東端で0.72mであり若干東方向に傾斜していく。平面形は確認した範囲ではほぼ直線的であり、規模は幅2.25m、深さ0.7mで、確認された総延長は8.5mを測る。西側に向かって調査区外にも確実に延びていく



第57図 B1区 SD13上層出土弥生土器実測図一2-(1/4)



第58図 B1区 SD13最終埋土出土弥生土器実測図一1一(1/4)



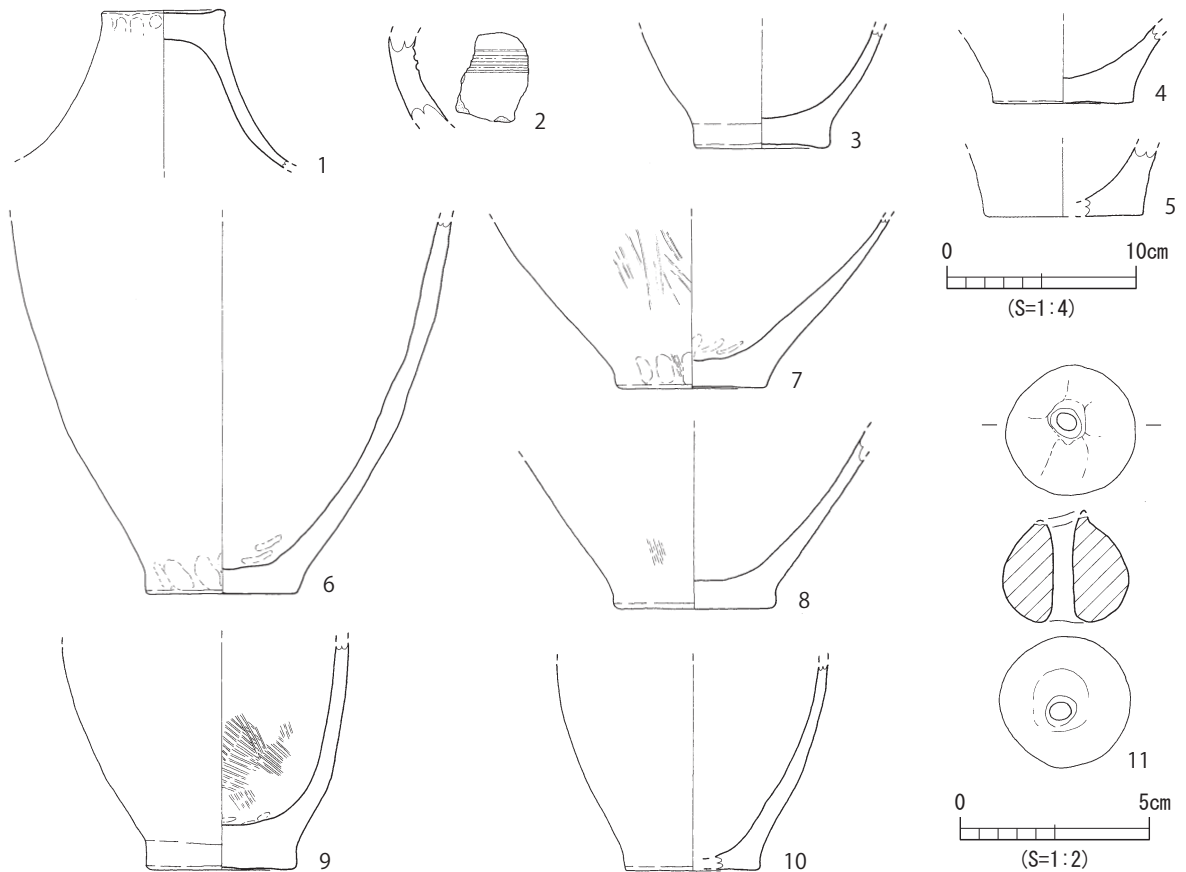
ものである。また東端は中世以降の自然河道(河道1)によって削られて失われている(第62図土層断面図)。なお、溝の北壁上端は調査区外周の排水用の溝によって一部削られている。横断面は、前述したSD10・SD06・SD13等が逆台形を呈すのに対し、壁面がより垂直に近い箱形のものである。

**堆積状況(第62図)** 埋土は大きく上下に分けられ、下部は灰色の粘質土、上部はシルト～砂質土が堆積しており、最上部の中央部には黒色系の堆積土が見られた。下部の粘質土は溝が湿潤な環境にあった時期があったことを表していると考えられ、上部のシルト～砂質土は流土及び人為的な埋め戻し土である可能性が考えられる。また近接したSD13との切り合い関係は、確認のために設定したベルトの場所が悪く確実なところは不明である。

**埋土の遺物出土状況(第63図)** 遺物の出土量は近接するSD13に比して少ない。土器及び石器は出土層位を大きく上部と下部(上層と下層)に分けて、出土地点のみを記録して取り上げた。上層では部分的にまとめて出土する状況であったが、下層からの出土は少なく散在する状況であった。基本的に破片で出土するものがほとんどであった。

また溝の東端部からはSD13と同じように、炭化米及び被熱粘土塊がまとめて出土した。現地で位置を記録して取り上げたものも数点あるが、基本的に上層と下層に分けて埋土ごとに取り上げ水洗選別を行って採取したものがほとんどである。

木製品は下層の粘質土層からのみ出土している。これも他の溝と同様に、土質的に残りやすい環境であったことが原因と考えられる。出土点数はSD13よりは多く、2箇所にもまとまった状況



第59図 B1区 SD13最終埋土出土弥生土器実測図一2-(1/4・1/2)

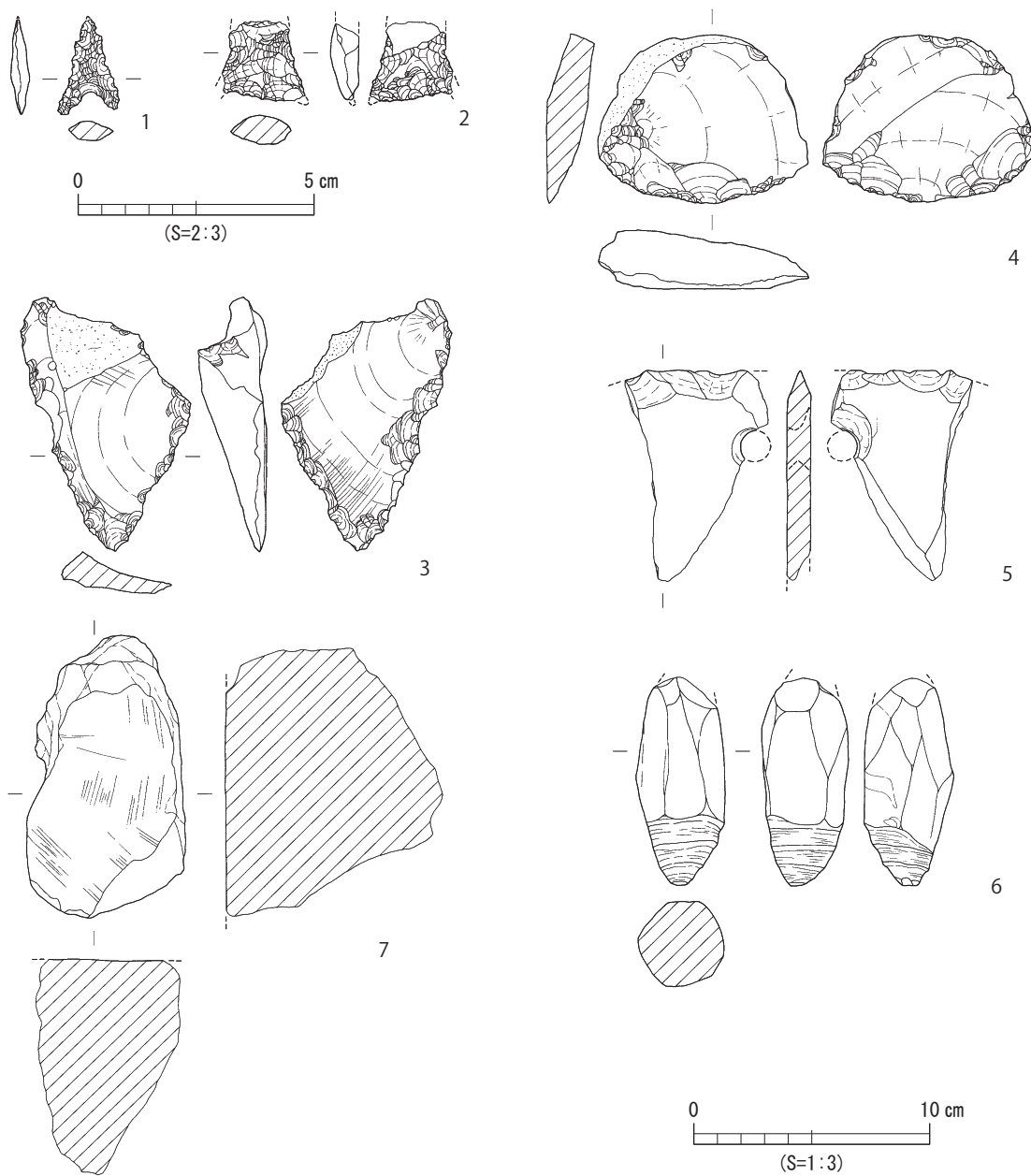
で出土した。

**下層出土弥生土器(第64図)** 1～3は壺である。1は口縁部片、2は頸部と胴部境に段を設けるものである。3は口縁部片と考えられるもので端部が若干肥厚する。

4～9は甕である。4はへら描き直線文が1条施され、5は3条のへら描きの直線文と円形の刺突文が施される。6は4条のへら描きの直線文が施される。7～9は無文の甕である。

10は無頸壺の口縁部片、11は蓋の端部と考えられる。

12～17は壺又は甕の文様部分の破片である。12は壺の頸部と胴部境に段を設けその下に3条の直線文と羽状文を施す。13も頸部と胴部境に段を設けその下に1条の直線文と羽状文を施す。14は直線文と羽状文が施された壺片、15は頸部と胴部境に段を設けその下に2条以上の直線文を施した壺片である。16は3条の直線文を施した壺片である。17は直線文2条と刺突文を組み



第60図 B1区 SD13 上層出土石器実測図(1/3・2/3)

合わせた甕片である。

18は孔が見られる破片であり、19～22は底部である。

**上層出土弥生土器(第65図)** 1～5は壺である。1・2は口縁部と頸部境に浅い直線文又は段を設けるものである。3は頸部と胴部境に二条の刻目突帯が貼り付けられ、その下に貝殻による直線文と羽状文が施される。4は頸部周辺の破片で、無文である。5は頸部と胴部境に段を設けている。

6～11は甕である。6は2条のへら描き直線文と円形の刺突文を施す。7はへら描きの直線文を1条施す。8～11は無文の甕である。

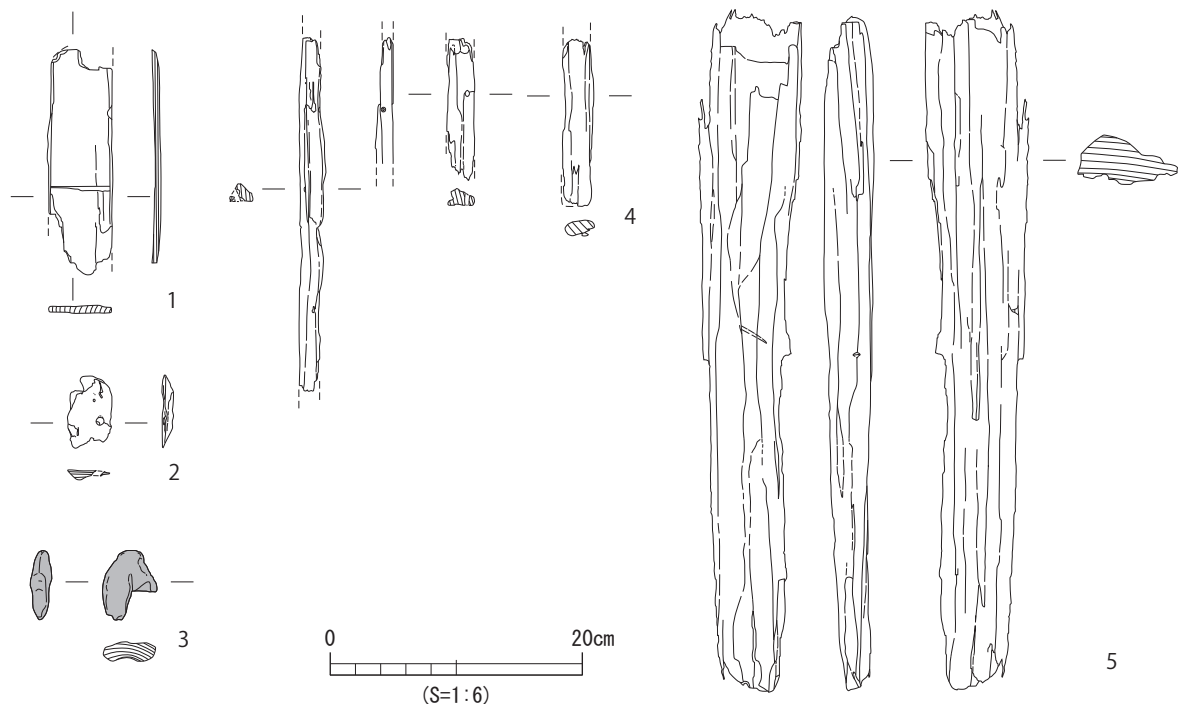
12は真っ直ぐに立ち上がる鉢である。13は口縁端部片であり、端部内面に沈線がはいる。胎土が他の土器と異なり、混入したものである可能性が考えられる。14は蓋と考えられ内面に円形の刺突文が廻る。

15～21は壺又は甕の文様部分の破片である。15は羽状文が施された壺片で、16は5条のへら描き直線文が施された壺片である。17は4～5条のへら描き直線文が施され、残存状況が悪く明確ではないが縦方向にも沈線が見られる壺片である。18は3条のへら描きの直線文と刺突文が組み合わされた甕の破片と考えられる。19・20はへら描きの2条の直線文と刺突文が組み合わさった甕片である。21は1条のへら描き直線文が施された甕の破片であり円孔が穿たれている。

22は甕の底部と考えられる。

**埋土出土石器(第66図)** 1は上層から出土した凹基式の黒曜石製の石鏃である。2は下層出土の黒曜石製の石錐であり、先端は欠損している。3は上層出土の頁岩製の扁平片刃石斧である。刃部先端は一部欠損している。4は扁平両刃石斧の未製品と考えられる。片岩製のもので基部付近には敲打痕が確認される。5は下層出土の珪質頁岩製の石斧未製品と考えられる。自然面と主要剥離面が残る。6は下層出土の凝灰岩製のスクレイパーである。

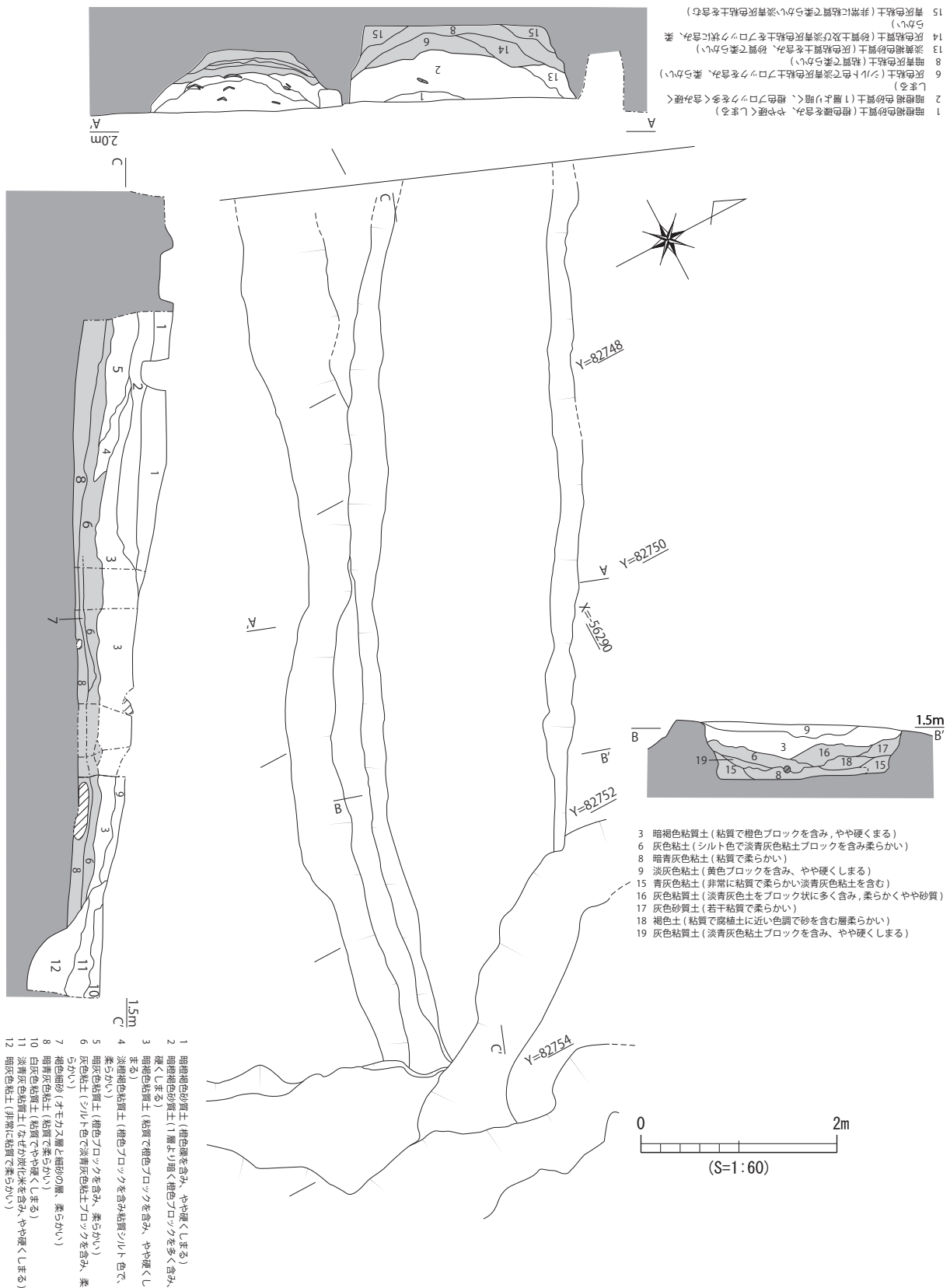
**下層出土木製品(第67図)** 1は板状の木製品であり円孔が1箇所確認される。また黒曜石片が



第61図 B1区 SD13 下層出土木製品実測図(1/6)

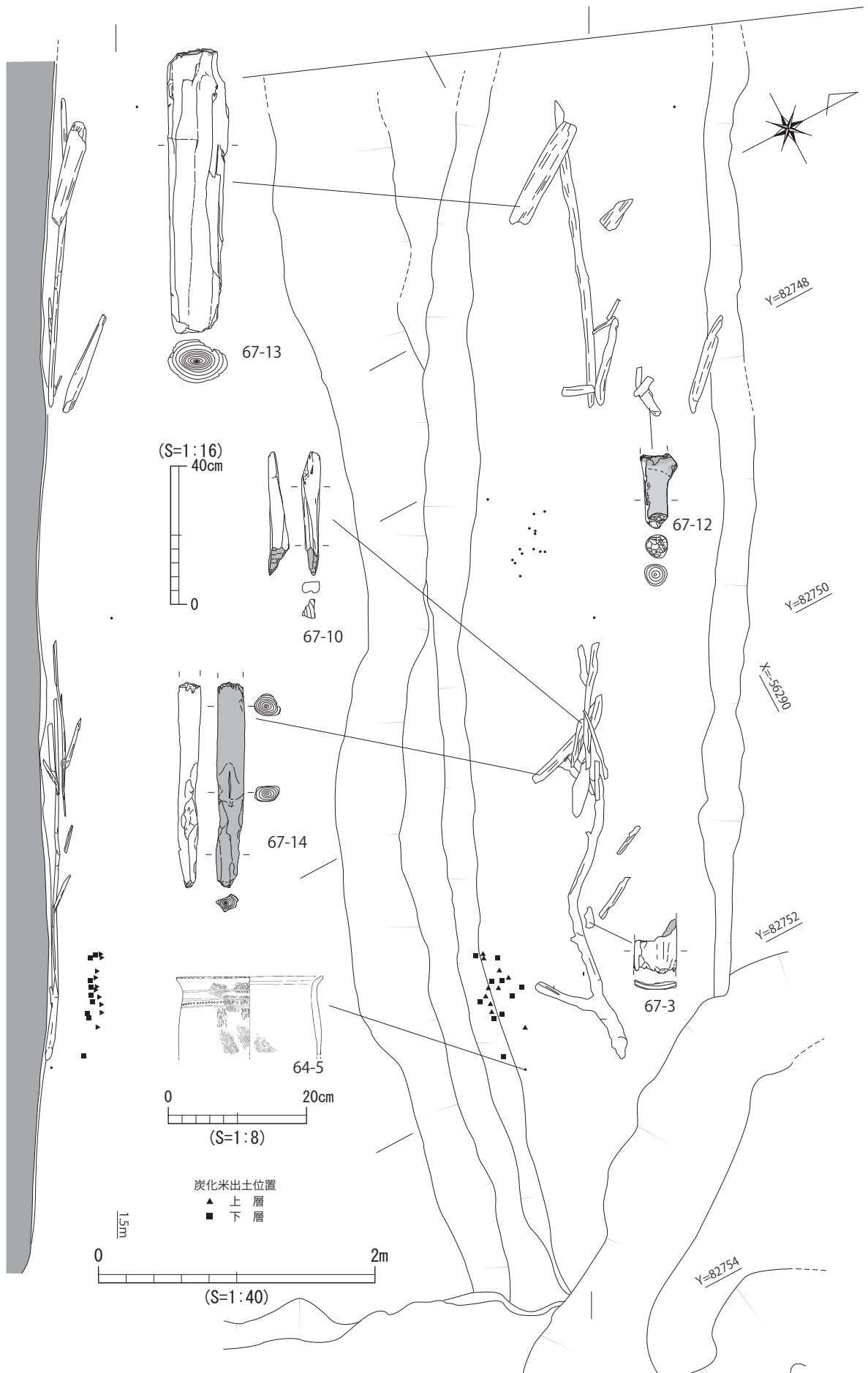
付着していた。2~7は板状のものであり、5以外は一部又は全面が炭化している。

8は薄い木片、9は一部炭化した木片である。10・11は角材状の割材であり、12は樹皮が残る芯持材で端部が加工されている。13は芯持材で側面に加工の痕が確認される。14は芯持材で



第62図 B1区 SX01遺構実測図(1/60)





第63図 B1区 SX01遺物出土状況図(1/40)

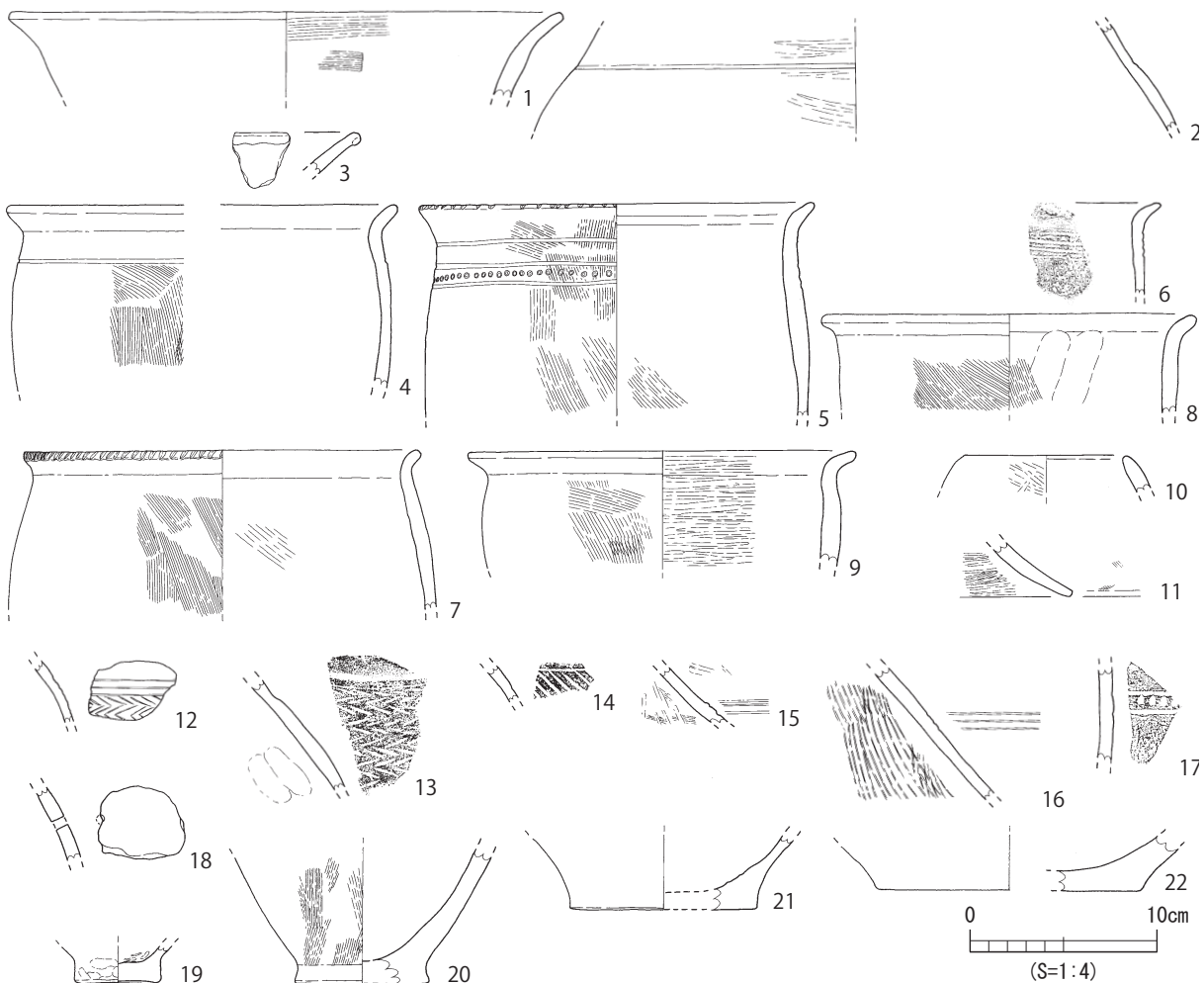
先端が加工により尖ることから杭と考えられる。

**遺構の性格と時期** 遺構は、埋土の状況から常時水が流れているような状況は想定できないが、下部に粘土層が堆積していることから、ある程度湿潤な環境にあったものと推測される。溝は環壕の可能性もあるが、全体の形が不明であることから判断出来ない。いずれにしる集落の近辺か縁辺部に穿たれた溝であることは間違いないものと考えられる。

出土した弥生土器は、I-2様式に相当する可能性があるものも若干含まれるが、そのほとんどは弥生時代前期I-3様式に相当するものと考えられる。よって遺構は概ねI-3様式の時期に属するものであると考えられる。

(5) SD15・SX02(第68～73図)

**規模と形態(第68図)** SD15はB1区の南端の標高2m付近で検出したが、調査区で確認できた範囲が狭く一部のみであることから詳細は不明な点が多い。主軸は南西から北東方向にとるものと推測され、底面の標高は1.12～1.01mであり、どちらに傾斜していくのかは明確ではない。平面形は確認した範囲ではほぼ直線的であり、規模は幅1.5m以上、深さ0.7m、確認された総延長は1.75mであり南西に向かって調査区外にも確実に伸びていくものである。また北東端は中世以降の自然河道(河道1)によって削られて失われている。

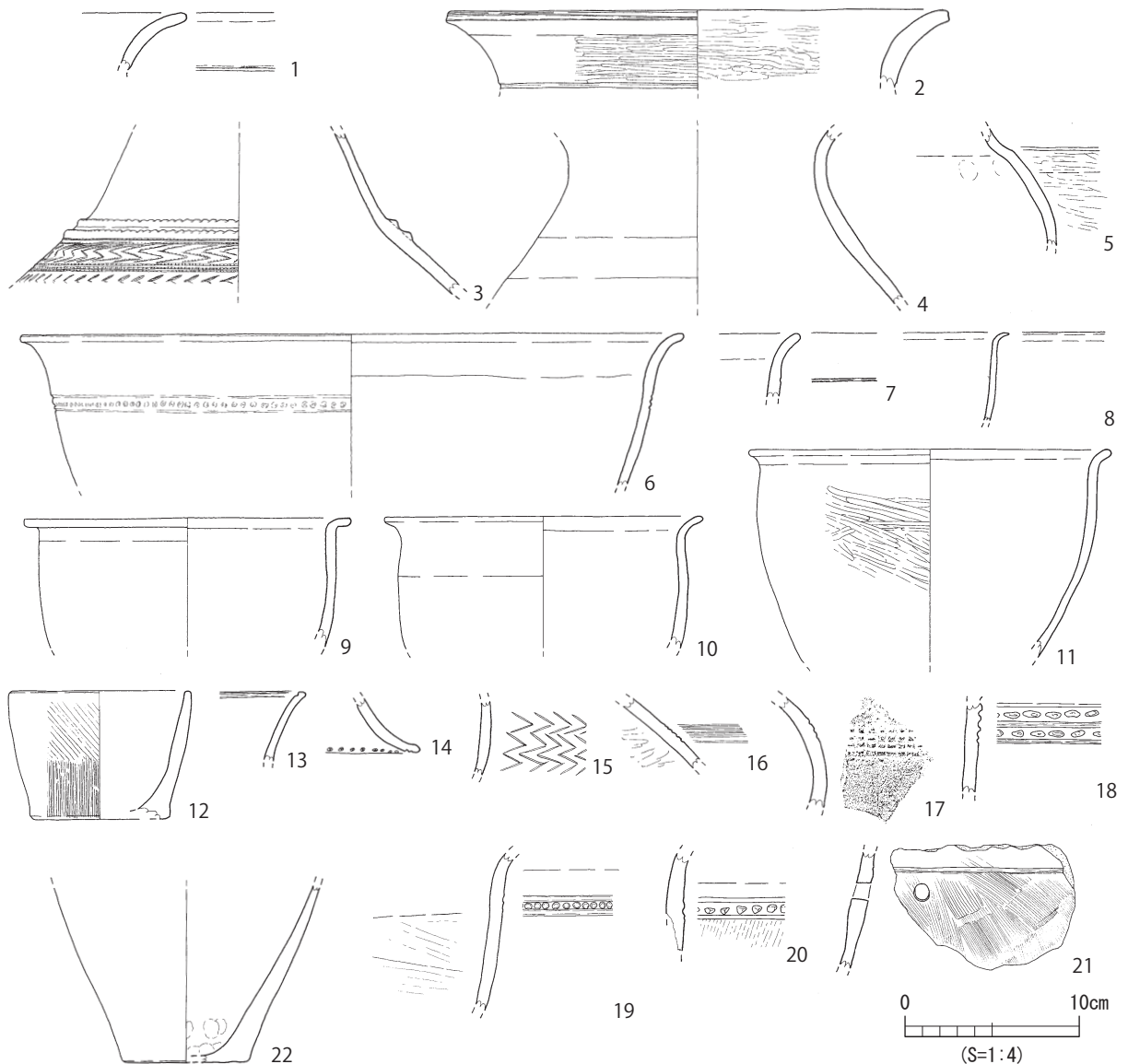


第64図 B1区 SX01下層出土弥生土器実測図(1/4)

SD15 検出以前にその北東で礫が集中して出土する地点を確認し、SX02 とした。当初は分からなかったが、SD15 の延長上に礫が分布していることから、SD15 の残存した部分である可能性が考えられる。SX02 の礫は人頭大で、幅 1.2 m×長さ 4.8 m の範囲で出土している。礫には熱を受けて赤色や黒色に変色しているものが見られた。

**堆積状況 (第 68 図)** SD15 の埋土は大きく上下に分けられ、下部は灰色の粘質土、上部はシルト～砂質土が堆積しており、下部の粘質土は溝が湿潤な環境にあった時期があったことを表していると考えられ、上部のシルト～砂質土は流土及び人為的な埋め戻し土である可能性が考えられる。

**埋土の遺物出土状況 (第 68 図)** SD15 から出土した遺物の量は遺構の確認面積が狭いことから少ない。土器及び石器は出土層位を大きく上部と下部 (上層と下層) に分けて取り上げた。基本的に破片で出土するものがほとんどであった。また下層からは、確認された溝の範囲内に収まるように木製品が全面に出土した。そのほとんどは窓枠状木製品であり、これも他の溝と同様に土質的に残りやすい環境であったことが原因と考えられる。SX02 の礫群の間や周辺から土器や石器



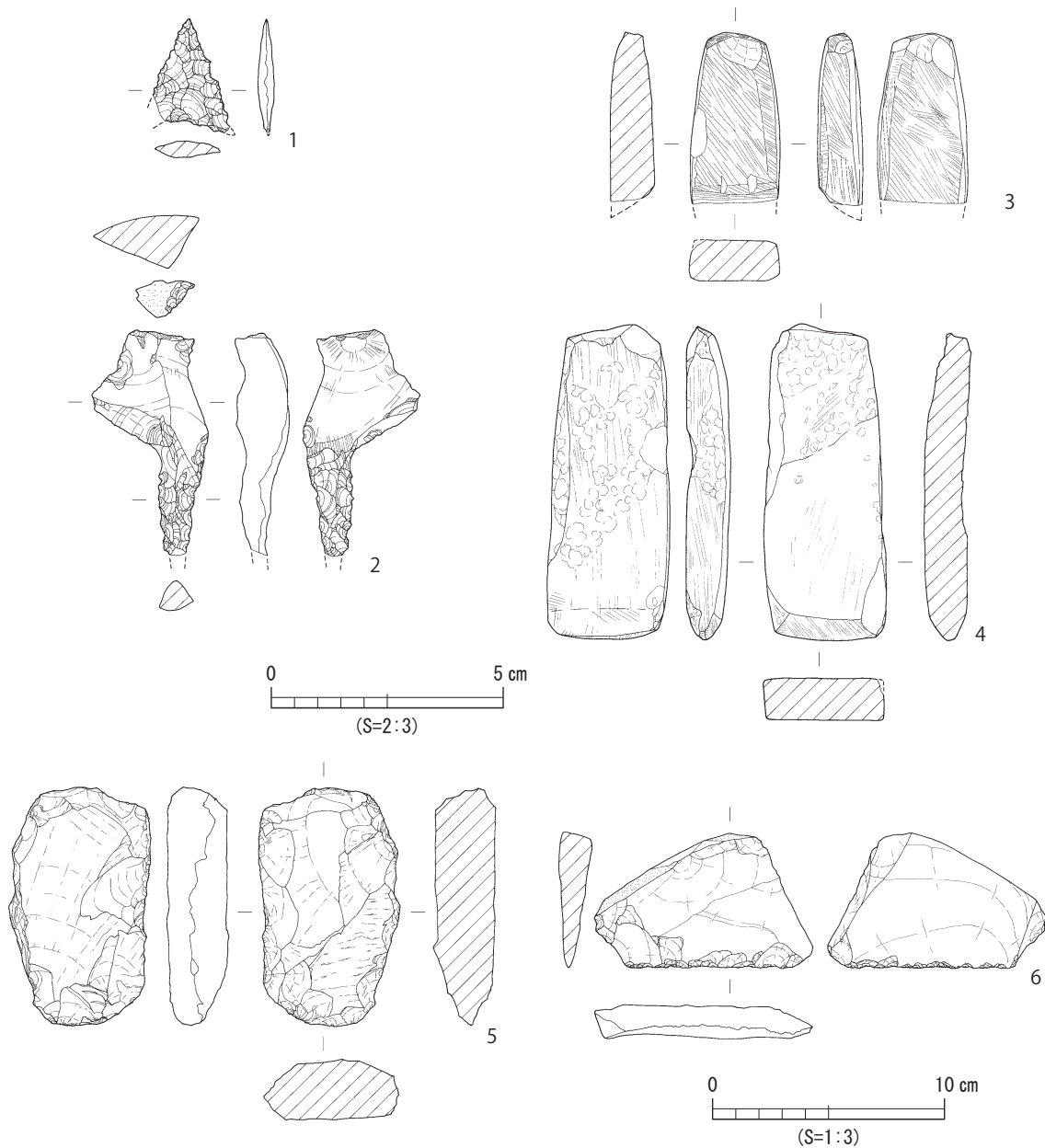
第 65 図 B1 区 SX01 上層出土弥生土器実測図 (1/4)

が出土した。

**SD15 埋土出土弥生土器(第69図)** 1~4は壺である。1は頸部にヘラ描きの直線文を3条施す。2は頸部から胴部の破片であり、上下二段の4条のヘラ描き直線文の間に貝殻による鋸歯文が施されている。3は頸部に4条のヘラ描き直線文が施されている。4は刻み目のあるM字状突帯とその上部に羽状文が施されるもので、その特徴から綾羅木系のものと考えられる。

5~9は甕である。5は2条のヘラ描き直線文が施され、6は5条のヘラ描き直線文が施される。7は6条のヘラ描き直線文が施され、8・9は無文のものである。

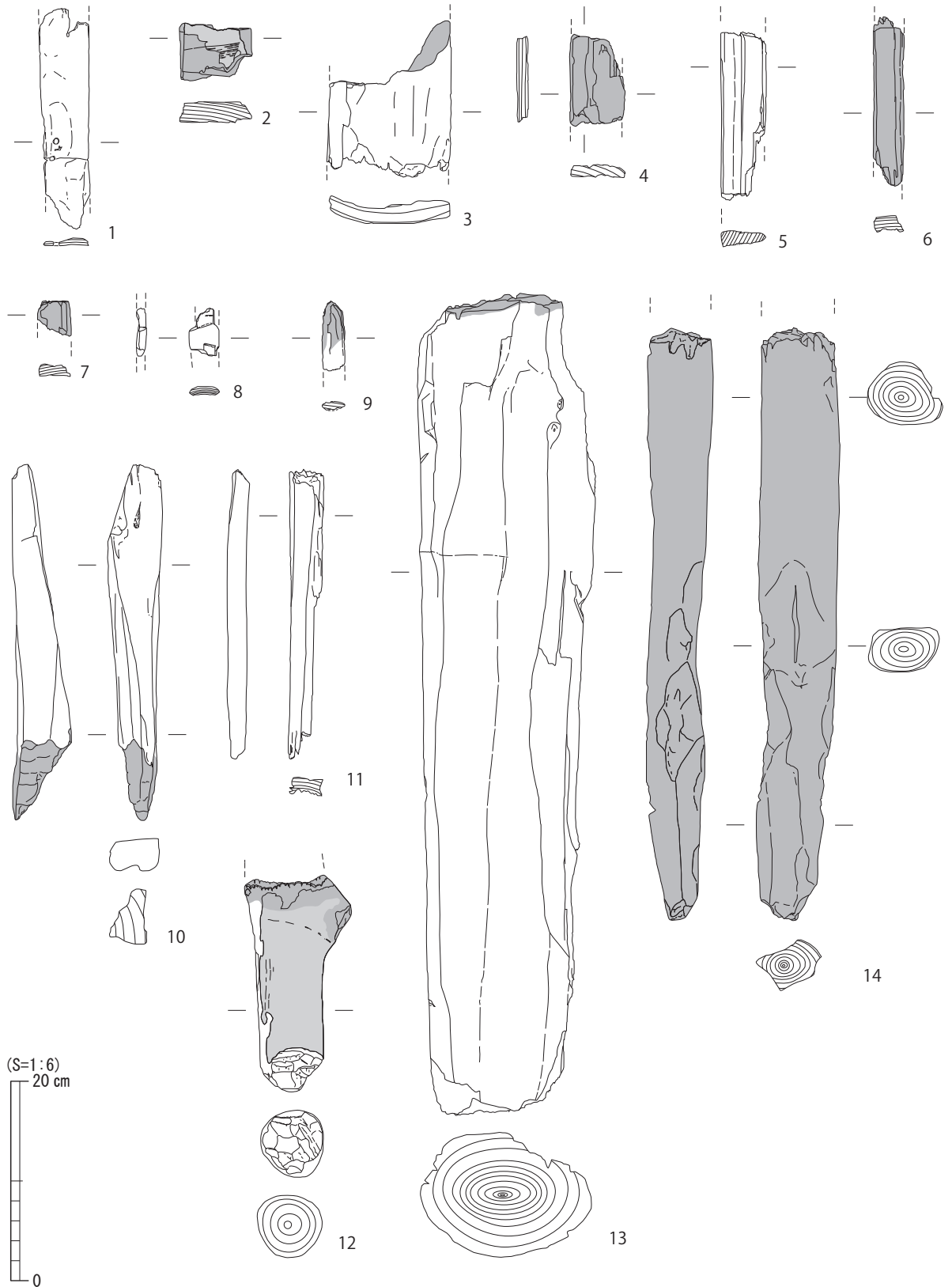
10は蓋と考えられ、11~14は文様が施された破片である。11は2条と4条のヘラ描き直線文の間に羽状文が施された壺片である。12は3条のヘラ描き直線文の間に刺突文を組み合わせた甕の破片である。13は3条のヘラ描き直線文が施された甕片である。14は突帯状に作り出された壺の頸部片である。15・16は底部である。



第66図 B1区 SX01埋土出土石器実測図(1/3・2/3)



SD15 埋土出土木製品 (第70図) 1は窓枠状木製品である。幅2.8cm程・長さ68cm程の棒状の木製品が4.8cm程の間隔で並べられたものと推測され、現状では18本程度は並んでいたものと考えられる。また両端部は直交する方向の幅2.8cm、長さ50cm以上の棒材によって組まれていたと思われるが、緊縛の痕跡等は確認出来なかった。組み合わさった状態の寸法は幅69.8cm以上×長さ



第67図 B1区 SX01下層出土木製品実測図(1/6)

75.2cm以上に復元される。

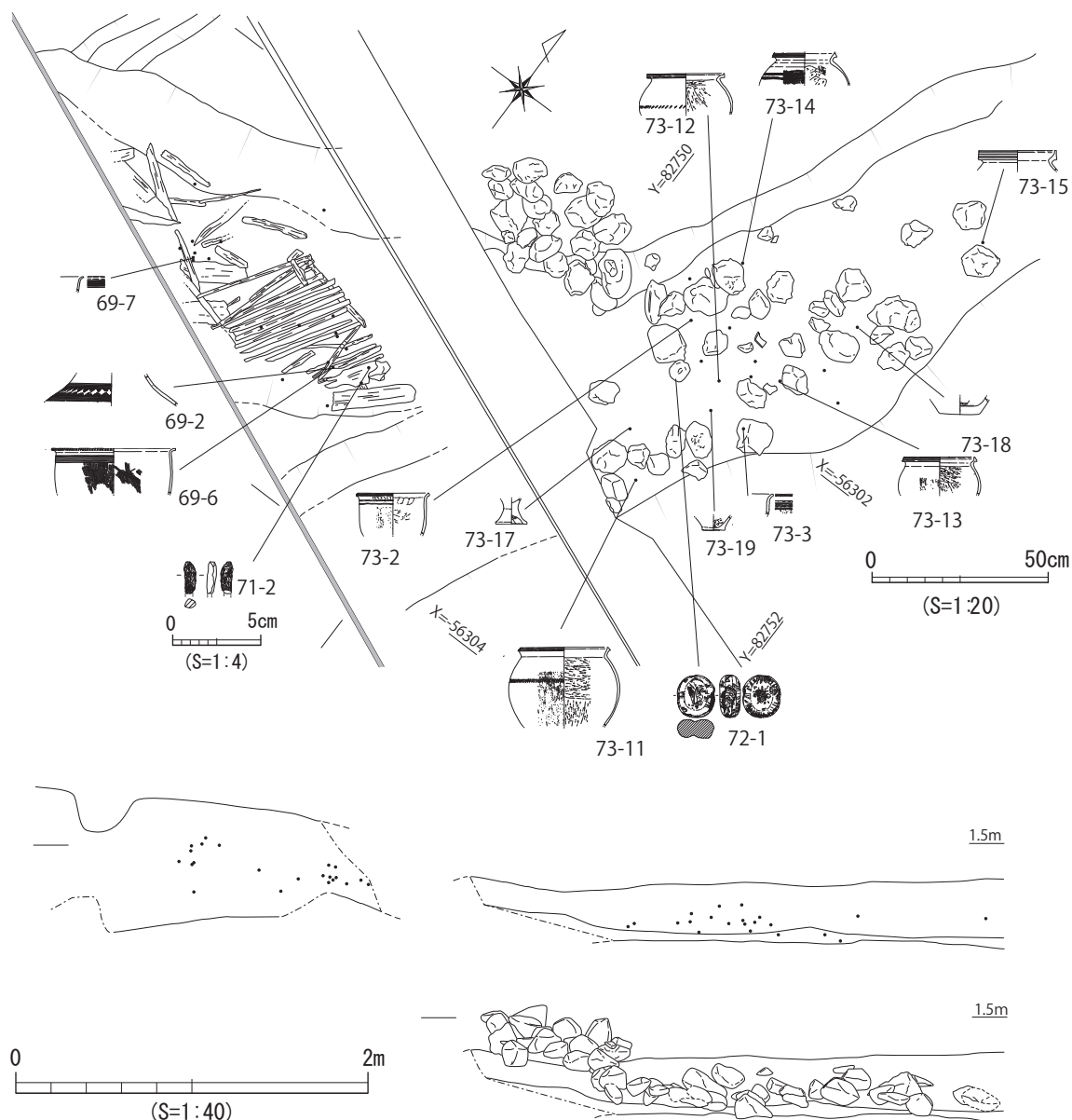
2～10は板状の木製品である。2は加工の痕が見られ端部が薄くされている。3は側面等が炭化、4も表面が炭化している。7は全面が炭化しているもので、孔が空けられている。

11は板状の木片、12・13は角材状を呈した割材であり、13は樹皮が残る。14・15は芯持材で、14は樹皮が残り先端が尖る。15は炭化している。

**SD15 埋土出土石器(第71図)** 1は黒曜石の凹基式の石鏃である。2は黒曜石製の石錐である。

**SX02 埋土出土石器(第72図)** 1は礫群中に混ざるように出土したデイサイト製の凹石である。隅丸方形の形状で表裏面ともに凹み、各側面は敲打痕が平坦な面には磨痕が残る。

**SX02 埋土出土土器(第73図)** 出土した土器には時期幅があり、I・IV・V様式のものがある。1～9はI様式に相当すると考えられる壺又は甕である。1は口縁部と頸部境に突帯状のものを設けている壺である。2～4は甕の口縁部であり、2は2条、3は4条のヘラ描き直線文を施す。



第68図 B1区 SD15・SX02 遺構実測図・遺物出土状況図(1/40)

4は無文のものである。5は1条のへら描き直線文の下に三角形の刺突文を施した甕片である。6は4条のへら描き直線文を施す壺片、7は3条のへら描き直線文を施す壺片である。8は2条の貝殻及びへら描きによる直線文の間に羽状文を施した壺片である。9は壺又は甕の胴部片である。

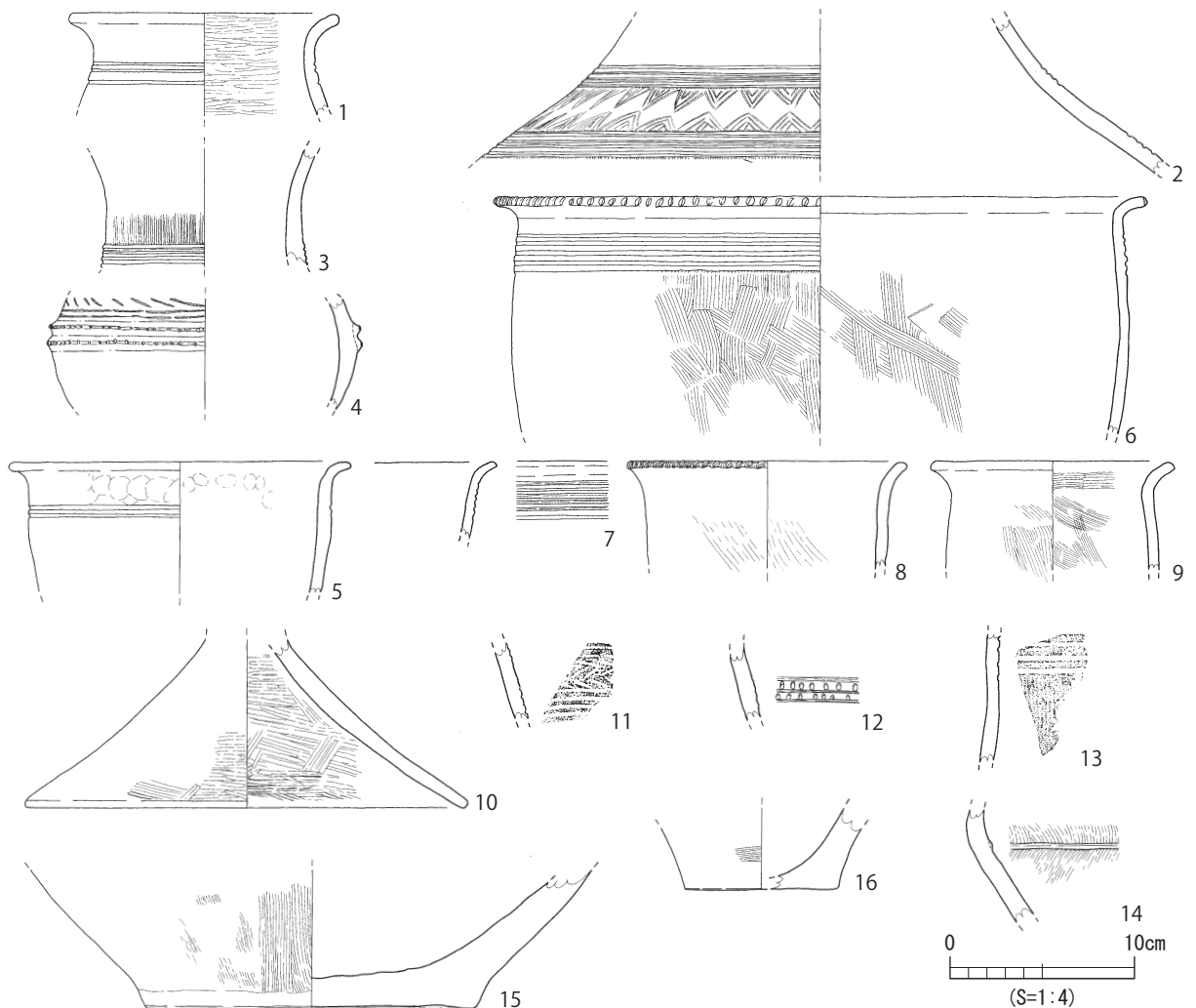
10はIV様式の鉢である。口縁部は上端部に面を持ち凹線文が施され外面には刻み目がはいる。

11～17はV様式に相当する土器である。11～15は甕である。11は拡張した口縁端部に2条の凹線文が施され、胴部には刺突文がはいる。12も拡張した口縁端部に2条の凹線文、胴部に刺突文が施されるが、口縁端部は直立する。13は拡張した口縁端部が上方に延びたもので2条の凹線文が施される。14は口縁端部に7条の擬凹線文がはいる、胴部には貝殻による刺突文が2段施される。15は口縁部が直立し上に拡張するもので4条の凹線文がはいる。

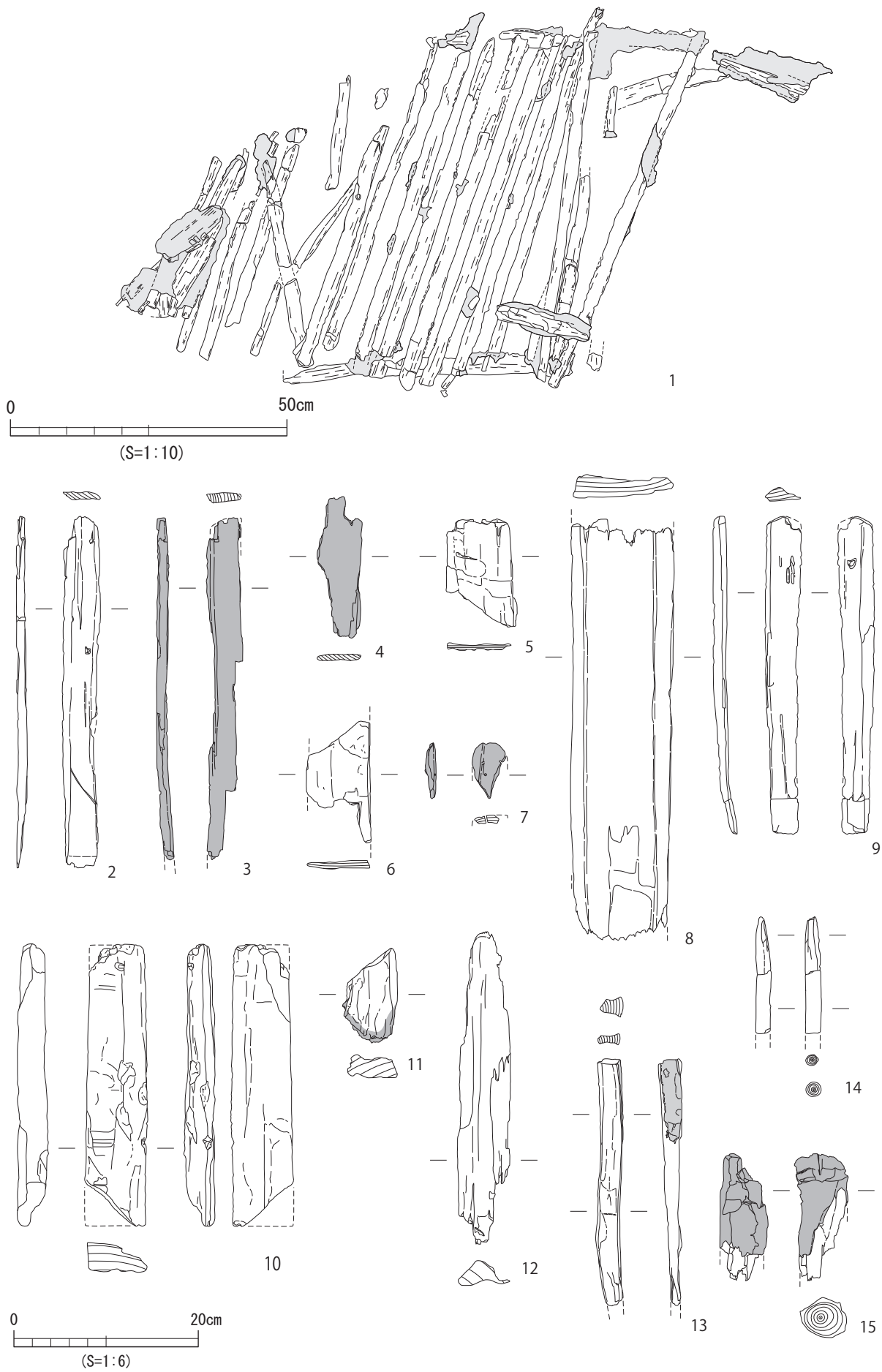
16は口縁部が複合口縁状を呈す高杯の坏部である。口縁端部には4条の凹線文がはいる。17は高杯の脚部である。

18・19は底部であり、18はI様式、19はIV様式以降のものと考えられる。

**SD15の性格と時期** SD15は、埋土の状況から常時水が流れているような状況は想定できないが、下部に粘土層が堆積していることから、ある程度湿潤な環境にあったものと推測される。溝は環壕の可能性もあるが、ごく一部を検出したのみであることから判断出来ないものである。いずれ



第69図 B1区 SD15埋土出土弥生土器実測図(1/4)



第70図 B1区 SD15埋土出土木製品実測図(1/10・1/6)



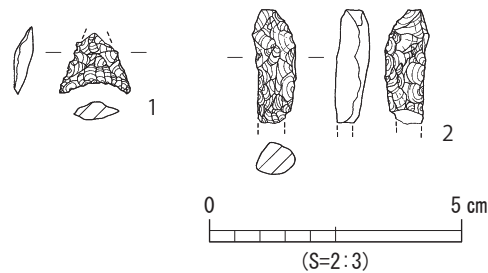
にしる集落の近辺か縁辺部に穿たれた溝であることは間違いないものと考えられる。

出土した弥生土器の大部分は、弥生時代前期、土器編年ではI-3様式に相当するものと考えられる。I-4様式に相当する可能性があるものも若干含まれるが、遺構は概ねI-3様式に属するものとして問題ないと思われる。

**SX02の性格と時期** SX02の性格は明確ではないが、前述したSD10等では溝の埋土中からまともに礫が出土していたこと等から、SD15の残存した部分の可能性が最も高いと考えられる。ただし出土土器はI~V様式であり、SD15と同時期のものとそれ以降のものが出土している点が課題である。ひとまず、I様式のもものが本来SX02に伴うものであり、それ以降の時期の土器は、SX02(SD15)が壊された時期を表しているものと捉えておきたい。

(6) SK06(第74・75図)

**規模と形態(第74図)** 遺構はA2区(南)の北側標高2m付近で検出した。主軸は北東から南西方向にとるものと推測され、底面の標高は北東端で1.44m、南西端で1.38mであり、南西方向に向かって傾斜している。平面形は確認した範囲ではほぼ直線的で、規模は幅1.23m、深さ0.52mと小型のものであり、確認された総延長は8.78mである。本来は北東方向にも伸びていたものと考えられるがSD10によって切られている。また南西方向には自然河道(SD09)があるが、その前後関係は明確ではない。



第71図 B1区 SD15埋土出土石器実測図(2/3)

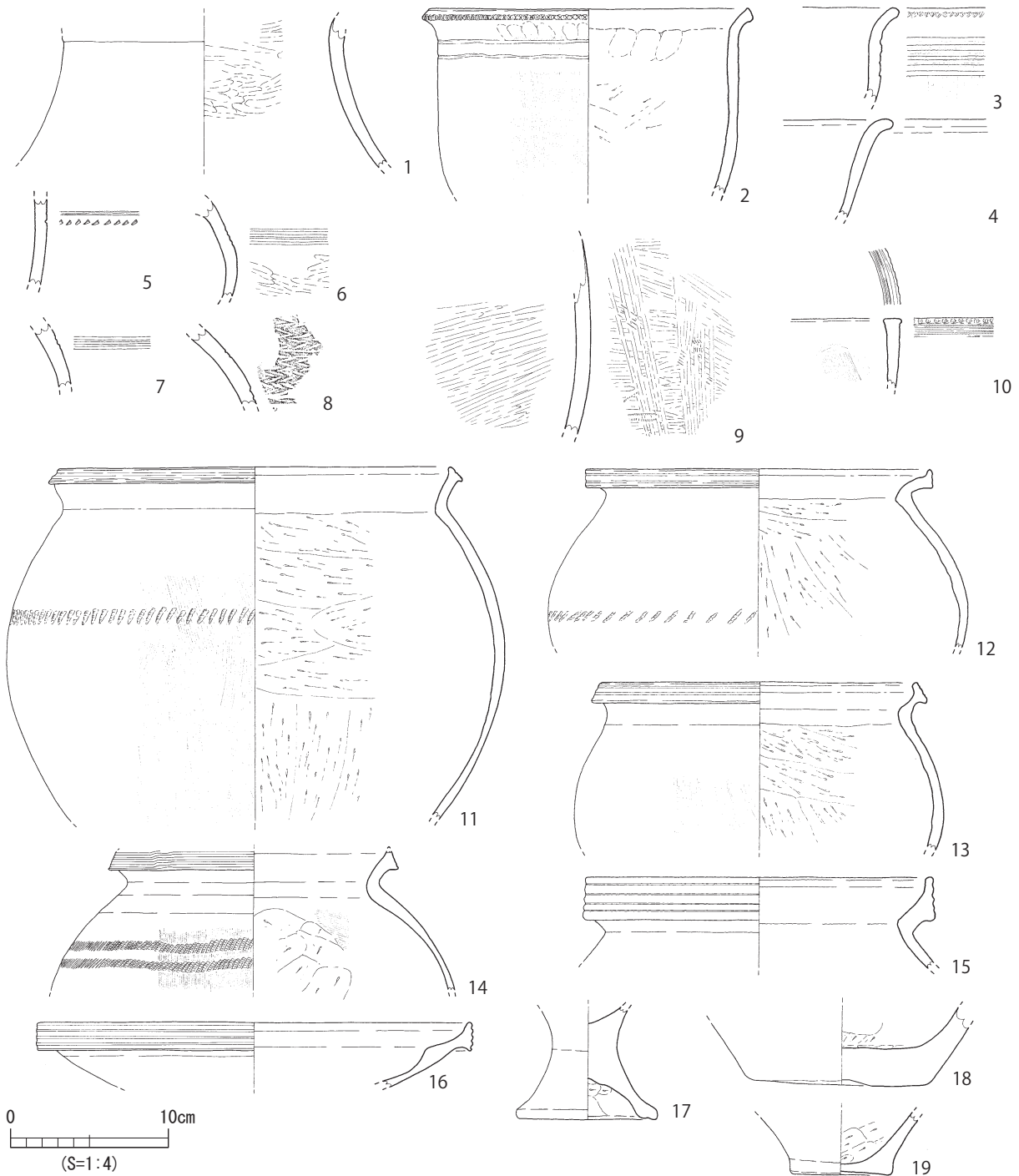


第72図 B1区 SX02埋土出土石器実測図(1/3)

**堆積状況(第74図)** 埋土は、ベースである微高地の堆積層のシルト層と判別がつきにくく、他の大型の溝のように湿潤な環境にあった時期があったのかどうかは明確ではない。土層断面から、埋没後にSD10が掘削されていることは間違いない。SD09との関係は断面で確認することが可能な土層断面がなく明確ではないが、SD09が完全に埋没する以前に埋まっていることは確実に考える。SD09が自然河道として機能している段階での状況は不明である。

**埋土の遺物出土状況(第74図)** 遺物はまとまって出土せず、破片の状態で散在するように出土した。出土量は少ない。

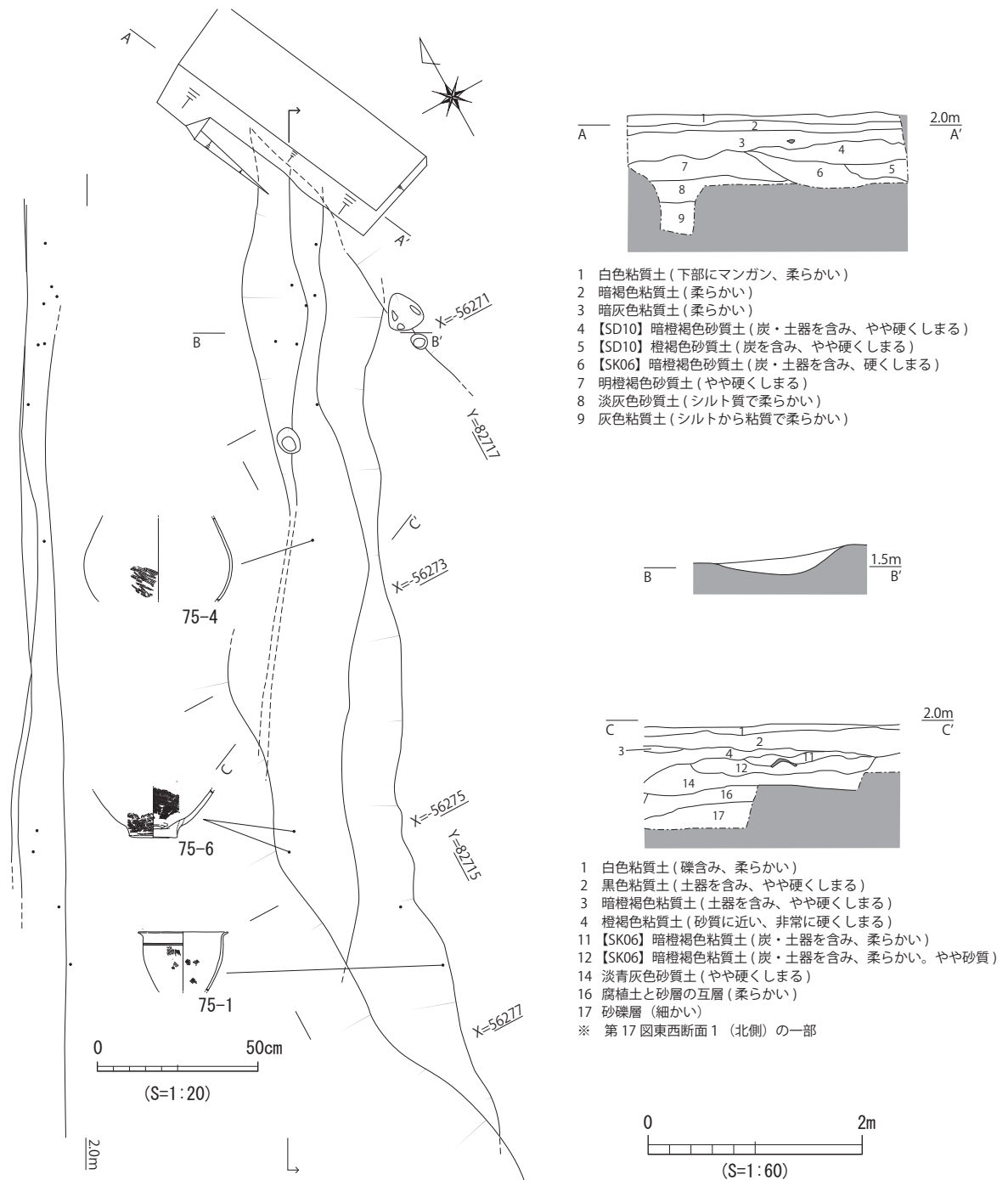
**埋土出土弥生土器(第75図)** 1・2は甕である。1は2条のヘラ描き直線文が施され、2は無文



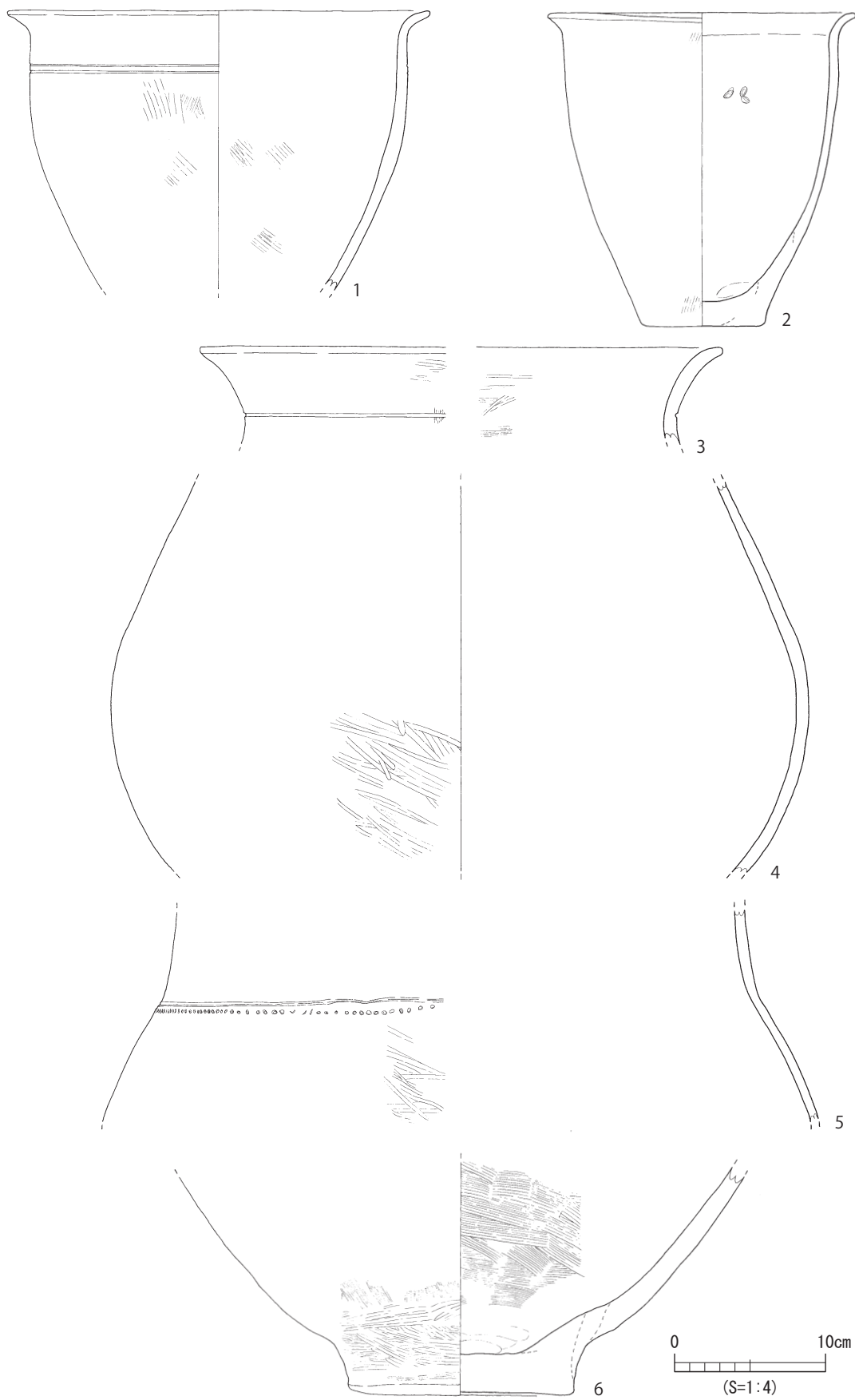
第73図 B1区 SX02埋土出土弥生土器実測図(1/4)

のものである。3～6は壺である。3は口縁部と頸部境に1条のヘラ描き直線文を施す。4は壺の胴部である。5は摩耗が激しく観察が十分にできないが、壺の頸部と胴部境に1条のヘラ描き直線文と刺突文を施す。6は底部である。

**遺構の性格と時期** 遺構は小型の溝であること等から、これまで述べてきたような大型の溝とは性格が異なるものである可能性が考えられる。自然河道 (SD09) に向かって穿たれているので、何らかの排水機能を持つものであったのかもしれない。出土した土器は前期、土器編年ではI-2～I-3様式に相当するものとして捉えられることから、遺構の時期はI-3様式に属す時期のものと考えられる。



第74図 A2区(南) SK06遺構実測図・遺物出土状況図(1/60)



第75図 A2区(南) SK06埋土出土弥生土器実測図(1/4)



## (7) SD07(第76～90図)

**規模と形態(第76図)** 遺構はA1区の標高2m付近で検出し、前述した溝(SD10)と切り合っている。主軸はおおよそ南北方向にとり、底面の標高は北端で1.31m、南端で1.24mであり若干南方向に傾斜していく。平面形は確認した範囲では、やや西側に膨らむ弧状を呈し、規模は幅3.1m、深さ1.01mで、横断面形は逆台形を呈する。確認された総延長は8.7mであり、北側と南側の調査区外にも確実に延びていくものである。今回の調査で確認した大型の溝では最も幅が広い。

**堆積状況(第10・76図)** 埋土は大きく上下に分けられ、下部は灰色の粘質土、上部はシルト～砂質土が堆積している。下部の粘質土は溝が湿潤な環境にあった時期があったことを表していると考えられ、上部のシルト～砂質土は流土及び人為的な埋め戻し土である可能性が考えられる。また交差するSD10との切り合い関係は、土層断面からも分かるようにSD10→SD07の順で掘削されている。なおSD06との関係は調査区北壁(第10図)の観察で判断される可能性が高かったが、重要な部分に後世の暗渠が切り合っていることから、土層断面では確認出来なかった。

**遺物出土状況(第77・78図)** 土器等の遺物の出土量が多い。遺構の検出段階で埋土上面付近で土器がまとまって8箇所から出土し、それらは土器溜まり(2～9)として取り上げた。土器は溝の北側より南側で多く出土し、上部の層から出土するものが多い。基本的に破片で出土している。

埋土の掘削時に出土した土器及び石器は、出土層位を大きく上部と下部(上層と下層)に分けて、その出土地点を記録し取り上げたが、大部分は埋土出土として上下層の区別無く取り上げた。

**木製品出土状況(第79図)** 木製品は下部の粘質土層(下層と呼称)からのみ出土している。これは木質のものが遺存しやすい環境が原因であろう。木製品は溝全域から出るのではなく、北側の2箇所からまとまって出土した。北端側では大型の材が組合箱形容器周辺から出土し、溝の中央付近では棒状のものや大型の板材がまとまっていた。

**下層出土弥生土器(第80図)** 1～6は甕である。1は口縁端部が拡張した完形の小型の甕であり、後述する木製組合箱形容器内から出土した。2は複合口縁の大型の甕であり、口縁部には6条の凹線文が、肩部には刺突文が施される。3は複合口縁の甕であり口縁部には6条の凹線文が、肩部には刺突文が施される。4は複合口縁の甕であり、口縁は上方に拡張する。口縁部には3条以上の凹線文が施される。5は複合口縁の甕であり全体的に薄手の口縁で先端が尖る。6は単純口縁の甕であるが、壺と呼んだ方が良いかも知れない。口縁端部内面付近はナデにより薄くなる。

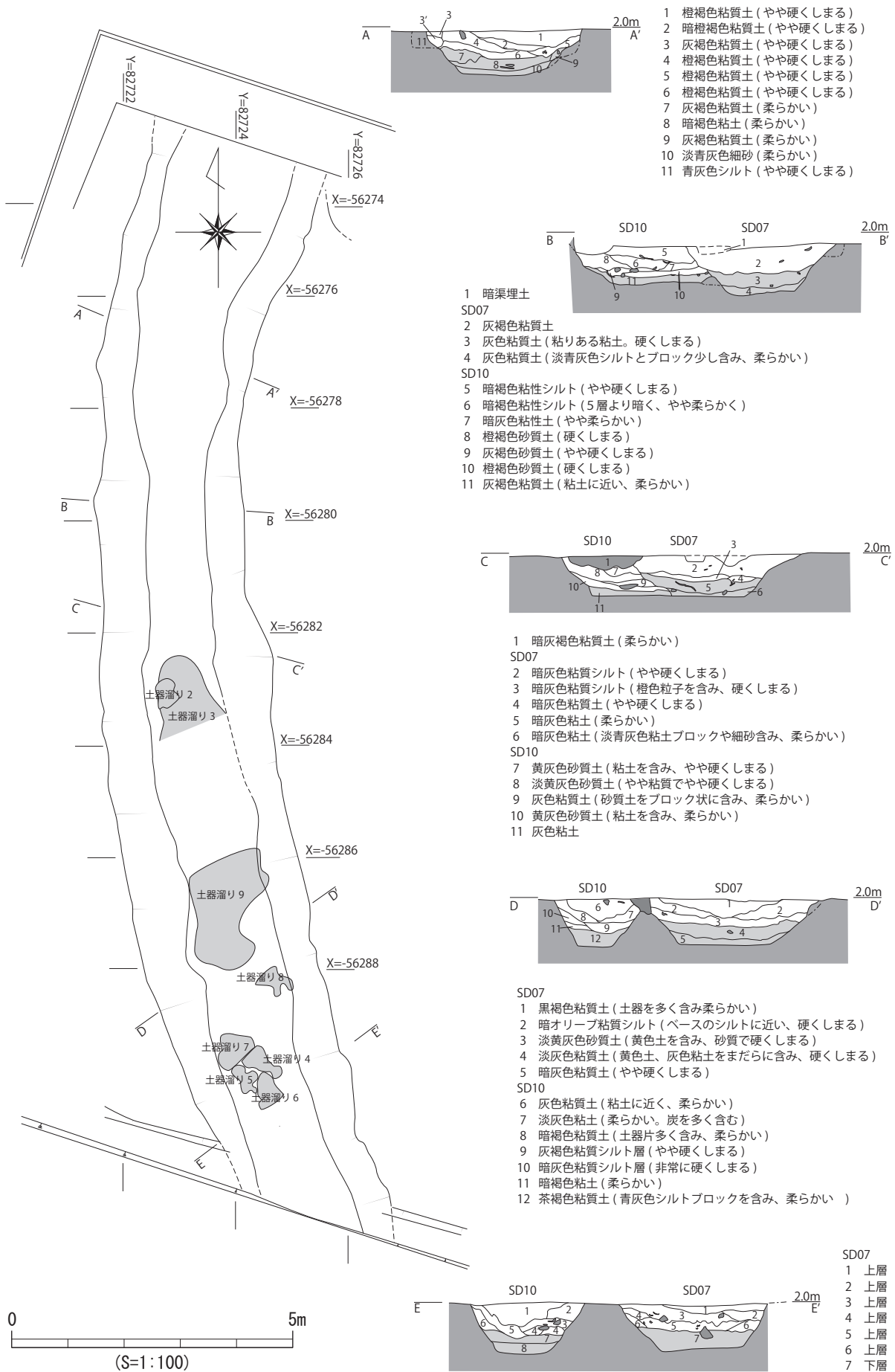
7は器台である。受部・脚部とも複合口縁状を呈し、受部、脚部ともに4条の凹線文が施されている。8は高坏の脚部である。

下層の遺物は概ねV様式の前半に収まるものと考えられるが、5の甕のみが新しい様相である。

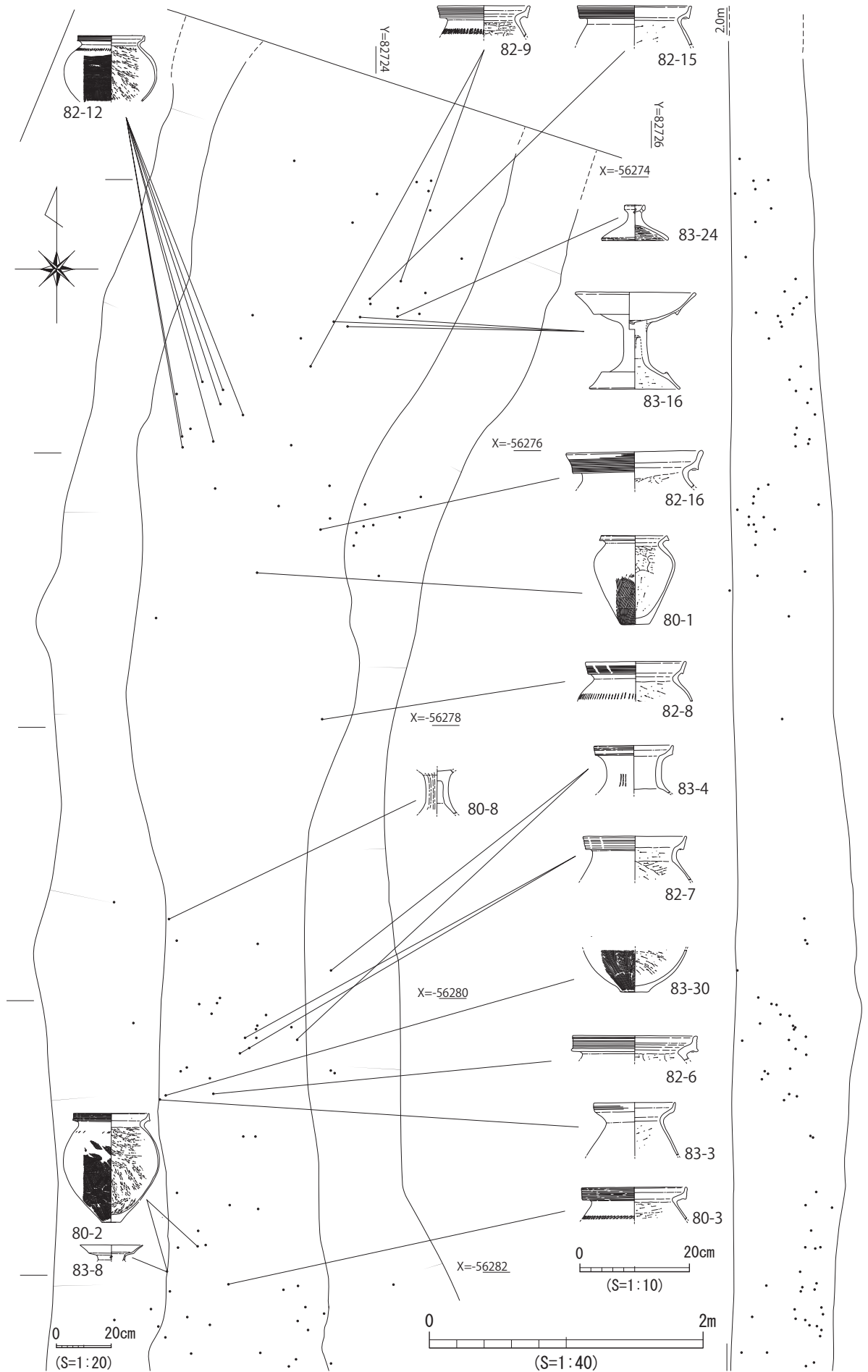
**上層出土弥生土器(第81図)** 1～4は甕である。1は肥厚した口縁部に3条の凹線文が施されている。2は拡張し上方に立ち上がる複合口縁部に5条の凹線文が施される。3はやや外反する複合口縁に10条の擬凹線文が施される。4は薄手の複合口縁のもので口縁部はナデのみの無文のものである。5は鼓形器台の脚部であり筒部が短いタイプのものである。

1～5はV様式に収まるものと考えられる。

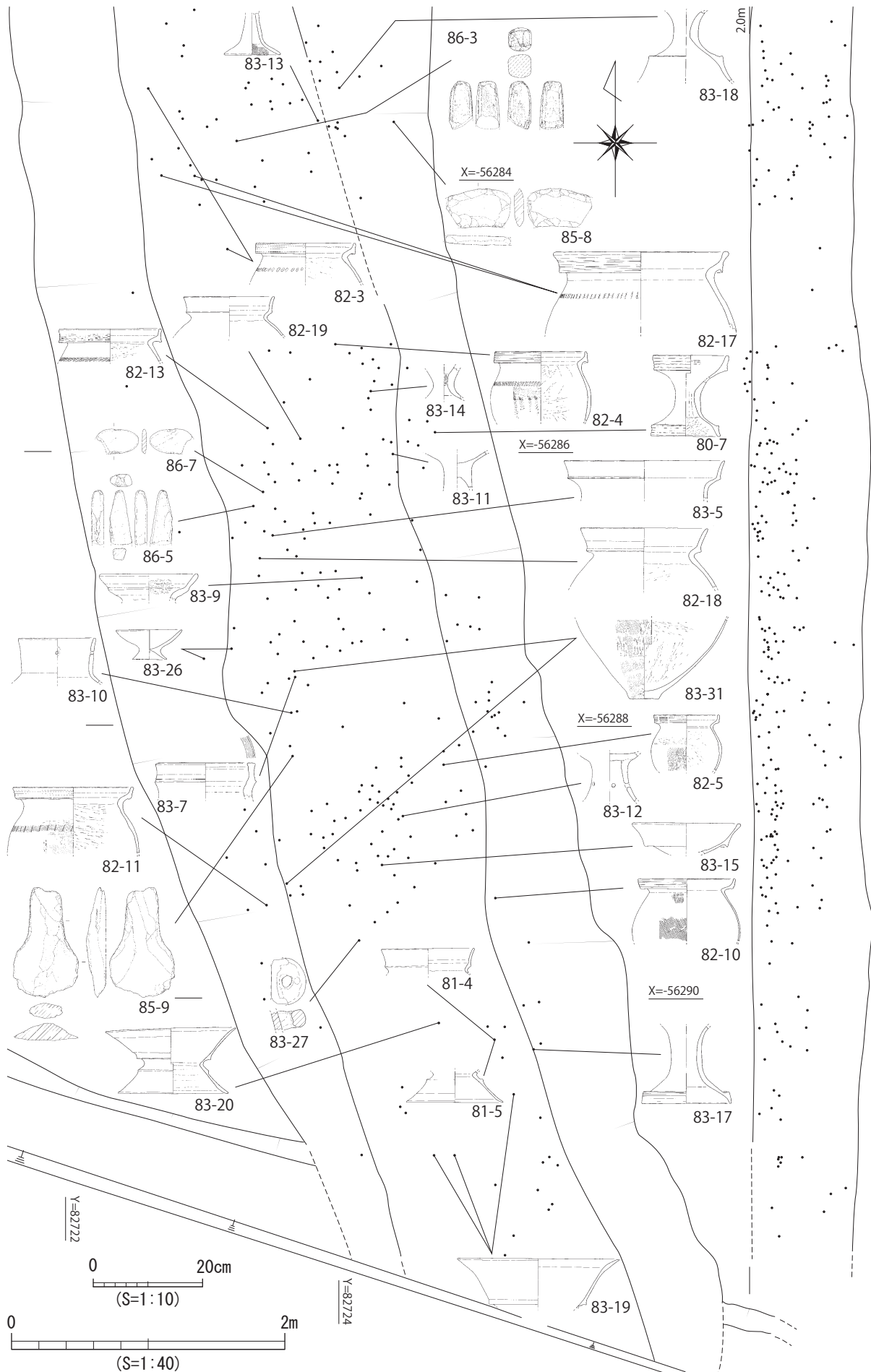
**埋土出土弥生土器・土製品(第82・83図)** 第82図1～21は甕である。1・2は肥厚した口縁部に2条の凹線文が施される。3～12は拡張した複合口縁部に3条から6条の凹線文・擬凹線文



第76図 A1区 SD07遺構実測図(1/100)

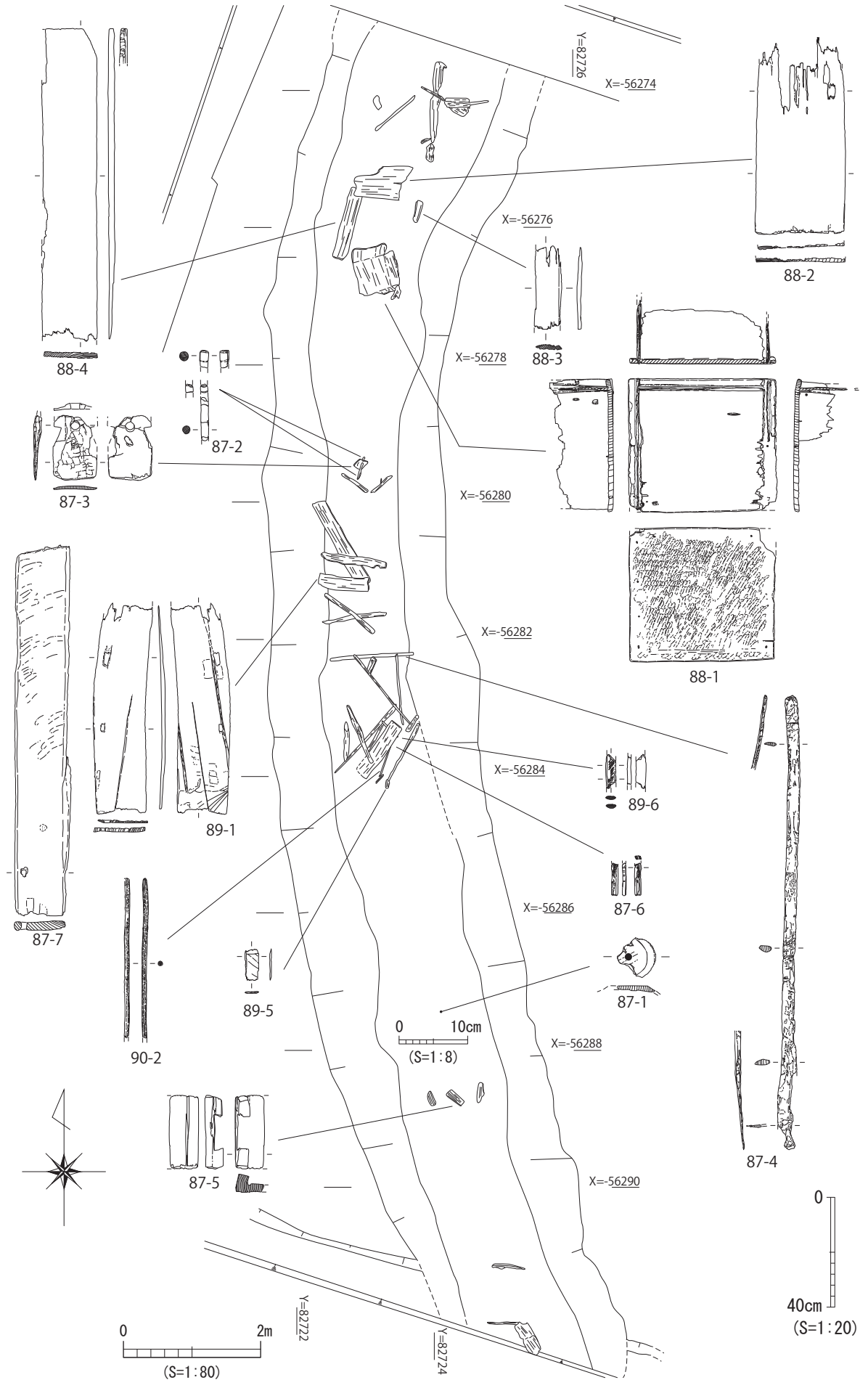


第77図 A1区 SD07遺物出土状況図一北側一(1/40)



第78図 A1区 SD07遺物出土状況図—南側—(1/40)





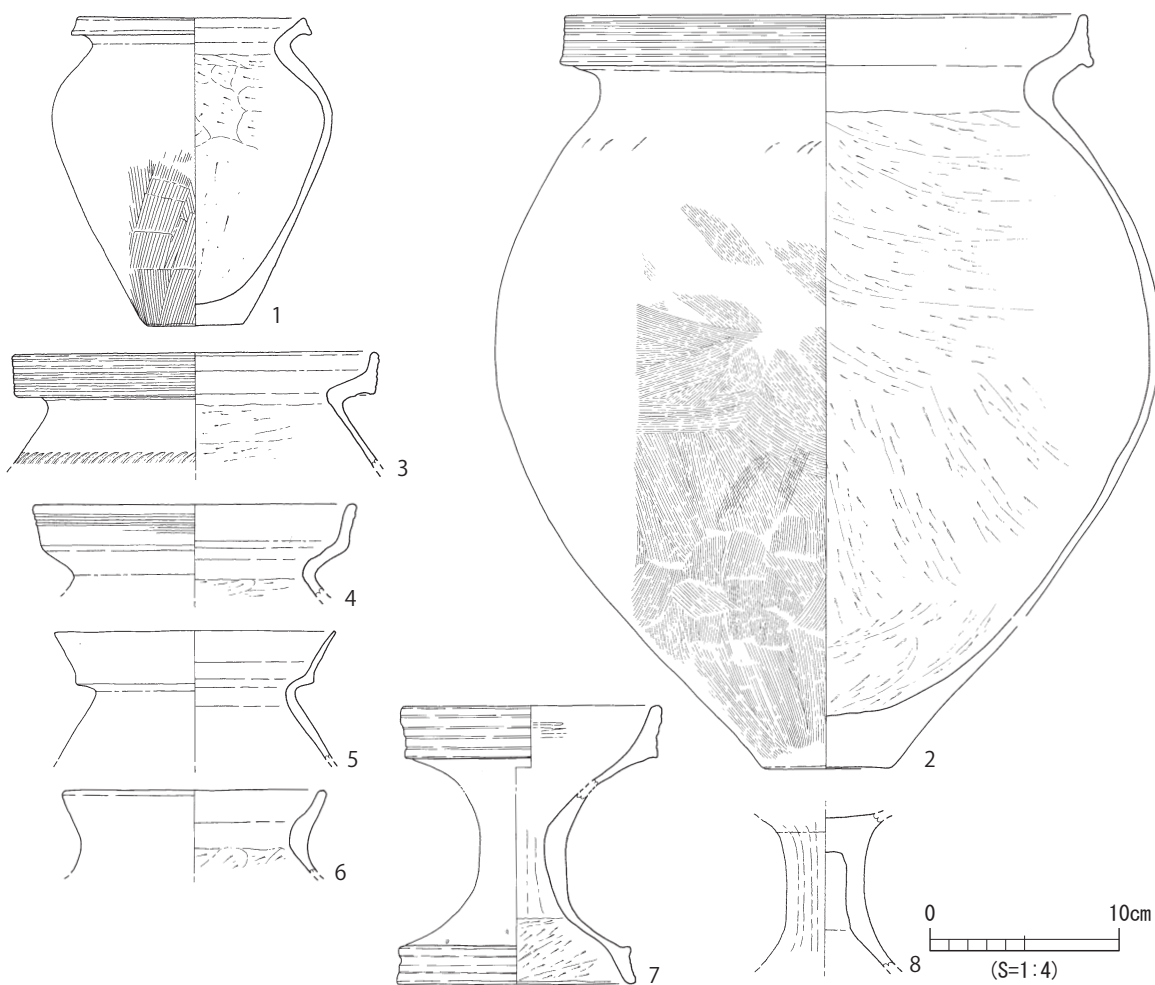
第79図 A1区 SD07木製品出土状況図(1/80)

が施されている。13～17は複合口縁部が上下に拡張し、やや外反しながら立ち上がるもので、7条以上の擬凹線文が施される。18～20は凹線文・擬凹線文が見られない複合口縁のものである。20は口縁端部に平坦面をもち、21は先端が尖り気味である。

第83図1・2は複合口縁の小型の甕である。1は先端が薄くなる直立気味の口縁で肩部に刺突文が施される。2は1条の凹線文が施される。

3～10は壺である。3は甕の可能性のあるものであまり肩が張らず複合口縁をもつ。口縁部には2条の凹線文が施される。4は頸部が筒形の形状のもので、複合口縁部には4条の凹線文が施される。5は無文の複合口縁のものであり、6は小型の壺の胴部下半である。7は色調が他の出土土器とは異なる暗赤褐色の色調であると共に、面をもつ口縁端部に沈線がはいる異形の壺である。非在地系のものであり、西部瀬戸内地方等の影響を受けたものか搬入品の可能性が考えられる。8は複合口縁部が大きく外反するもので、筒状の頸部には円孔が確認される。これも非在地系のものと考えられ、畿内系のものと考えられる。9はやや外に開く複合口縁のものである。10は直口壺であり、円孔が確認される。

11～23は高坏又は器台である。11～14は高坏の脚部であり、12は円孔が5箇所あけられている。14は充填部が剥がれたものと考えられる。16は器台形の高坏と考えられ、複合口縁状の受け部と脚部をもつ。17～20は器台である。17は複合口縁状の脚で6条以上の擬凹線文が



第80図 A1区 SD07下層出土弥生土器実測図(1/4)

施される。18は鼓形器台の脚部でありヨコナデによって仕上げられている。19は鼓形器台の受け部でありヨコナデによって仕上げられている。20は鼓形器台で筒部が短くなったタイプのものである。21～23は、おそらく器台又は高坏の脚部と考えられるものである。

24は蓋であり2箇所に孔が空けられている。25は椀形の器形のものであり、高坏の坏部又は椀と考えられる。26は低脚坏であり坏部はあまり大きく広がらないものである。

27・28は把手である。27は大振りの把手であり甑形土器の把手であると考えられる。28は小振りの把手であり注口土器等の把手と考えられる。

29は土器転用円盤状土製品であり中央に円形の孔が穿たれている。30・31は底部である。

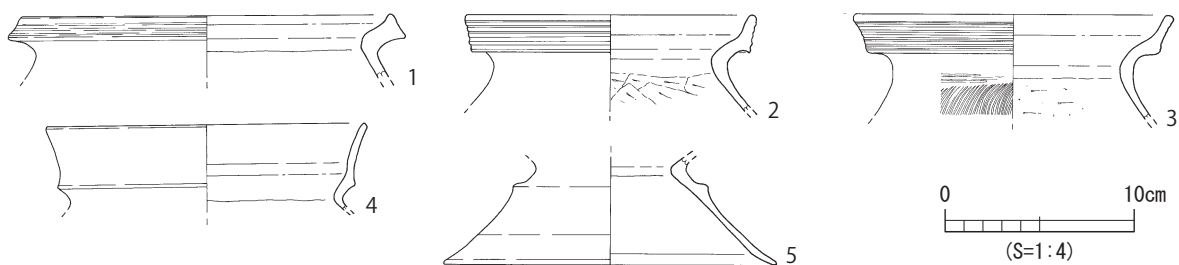
埋土から出土している土器は概ねV様式に収まるものと考えられる。細かく見るとV-1・2様式が多くV-3様式はほとんど無く、V-4様式がある程度出土していることが指摘される。

**埋土上面土器溜まり出土弥生土器(第84図)** 1～8はSD07の埋土上面で数箇所にまとまって出土した土器である。これらはSD07がほぼ埋没した段階で廃棄された土器と考えられる。1は底部が広く器高が低いことから鉢である。胴部中央には円孔が穿たれており、無紋の外反する複合口縁である。2は直立する複合口縁の甕であり肩部には擬凹線文が施される。3はやや直立気味の複合口縁で端部は若干外折する甕である。肩部には9条と10条の擬凹線文の間に刺突文が施される。4は単純口縁の甕であり、5は充填部が厚い高坏の脚部である。6は高坏の接続部であり円孔があげられている。7は低脚坏の脚部、8は底部である。

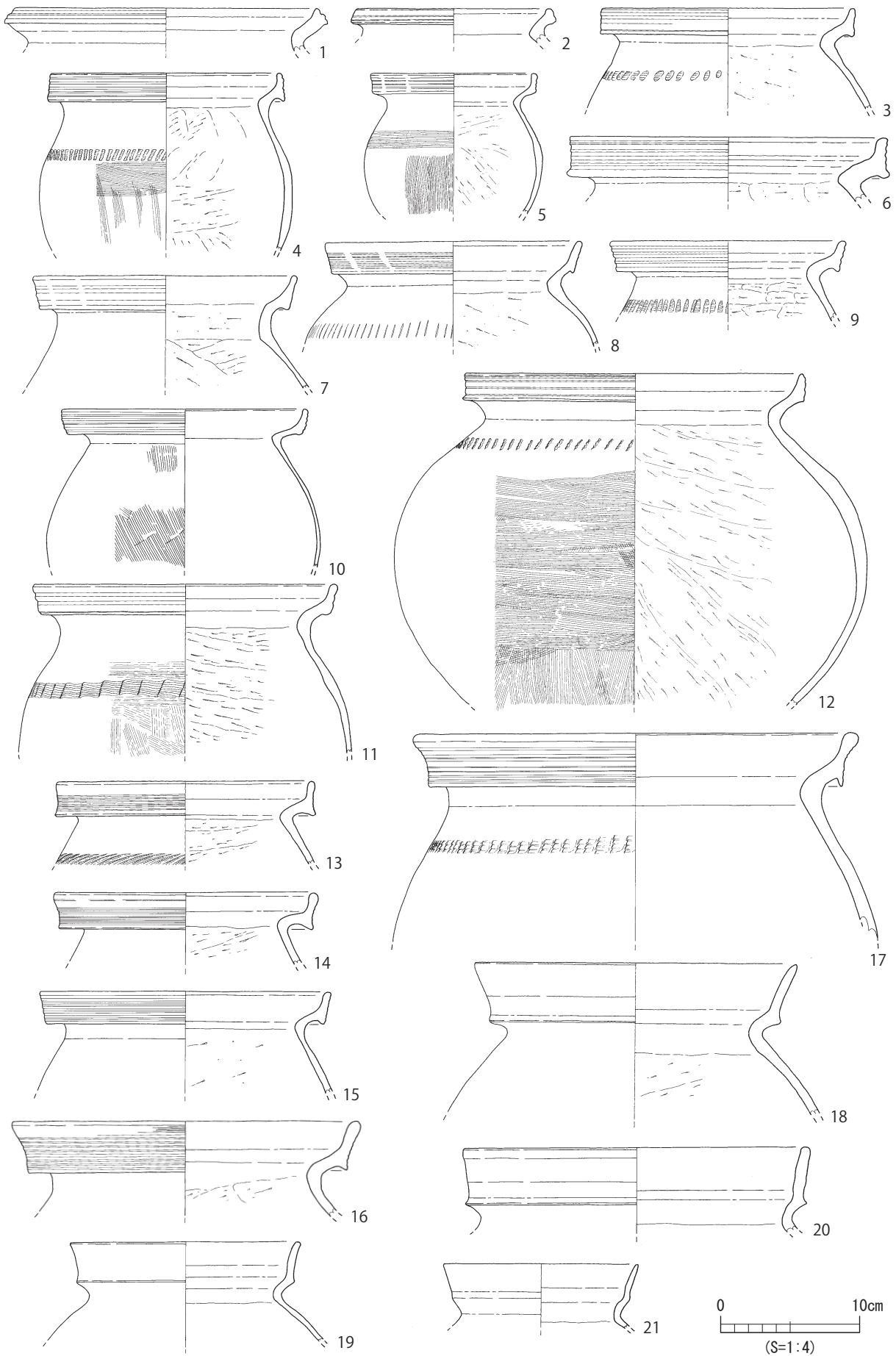
これらの土器はV様式に収まるもので、V様式の終末頃に相当するものと考えられる。

**埋土出土石器(第85・86図)** 第85図1～5は黒曜石製の石鏃であり、基部が欠損した3以外は凹基式の石鏃である。6は黒曜石製の石鏃未製品と考えられる。7は黒曜石製の楔形石器と考えられるものである。8は両端が欠損しているが頁岩製の石鏃と考えられる。9は頁岩製の石鏃であり、自然面と主要剥離面が残る。10は頁岩製で穿孔途中の痕跡が確認されるが用途不明な石器である。11は頁岩製の石包丁様の石器で孔が1箇所確認される。12は頁岩製のもので石包丁の転用品である可能性がある。13は砂岩製で形状から石包丁様のものである。

第86図1・2は片岩製の両刃石斧である。1は基部が欠損しているが研磨痕と敲打痕が確認される。2は刃部が失われているものの、敲打痕と研磨痕が確認される。3は頁岩製の敲石であるが、側面に挟りが見られることから、挟入柱状片刃石斧を転用したのと考えられる。4は流紋岩製の敲石で敲打痕が認められる。5は頁岩製のもので何らかの石器の未製品と考えられる。6は龍門岩製の石錘と考えられ、一方の端部に打ち欠きが見られる。7は安山岩製のもので長側縁側に打ち欠きが見られることから石錘と考えられる。8は砂岩製の砥石であり4面とも使用面と考えられ、擦痕が見られる。

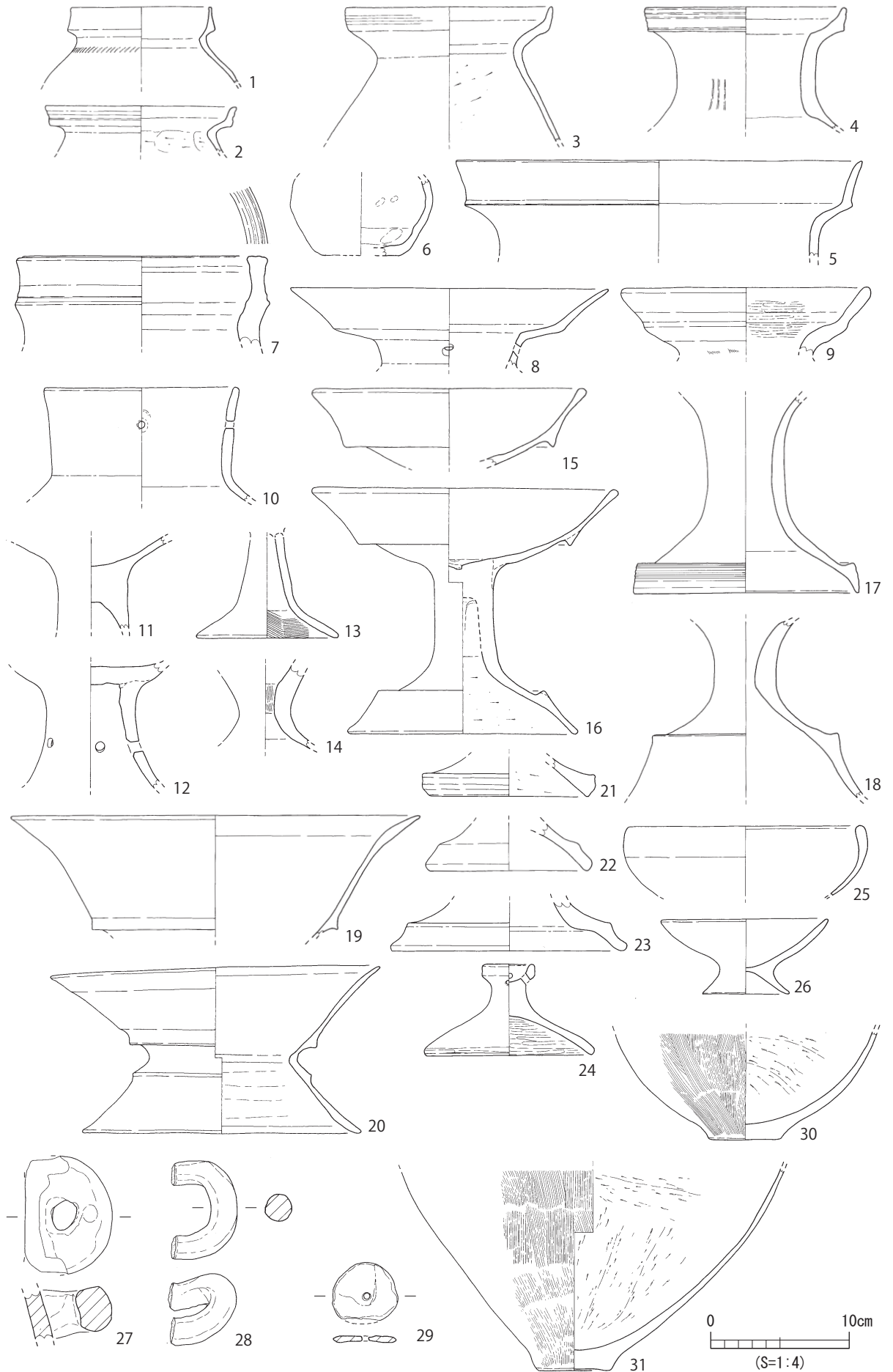


第81図 A1区 SD07 上層出土弥生土器実測図(1/4)



第82図 A1区 SD07埋土出土弥生土器実測図-1-(1/4)



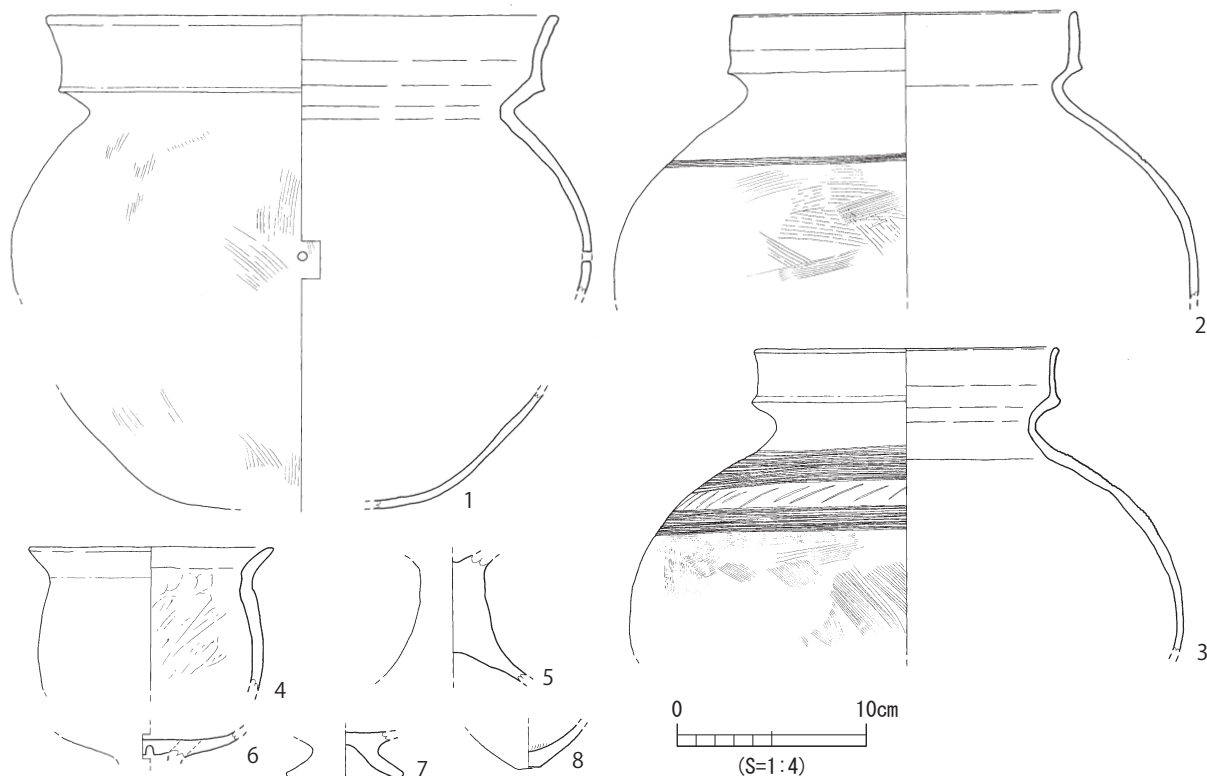


第83図 A1区 SD07埋土出土弥生土器実測図-2-(1/4)

**埋土出土ガラス勾玉(第86図9)** 9はJ字形を呈するガラス勾玉である。穿孔面は平坦で研磨されていると思われる。側面にも研磨による面が確認できる。背面側の平坦面には研磨によるものか決りがみられる。また蛍光X線分析結果によりアルカリケイ酸塩ガラスの可能性が高い。

**下層出土木製品(第87～90図)** 第87図1はエノキ属の漆塗りの蓋と考えられ、天井部外面には赤漆によって中央に丸がその外周に円が描かれている。2は樹種がムクロジの鋤柄であり、出土状況から3の鋤先とセットとなるものである。本来は一本のものであったが、埋土掘削時とその後の取上時に破損等があり接合関係が不明となっている。端部の径が若干太くなっており、この部分が鋤先の柄孔に入った状態で出土した。3はコナラ属アカガシ亜属製の直柄平鋤の鋤先である。平面形は長方形で上半側側縁に三角形の切り込みを有するものである。柄孔は円形で柄孔周辺に厚みをもつ。刃縁は直線的で側縁が若干丸くなり厚みも薄い。裏面(前面)は平坦に近く泥除け装着用の段や突帯は上端部が欠損しており不明である。4はコナラ属アカガシ亜属製の細長く全体的に厚みが薄いものである。形状は先端付近の幅が広くなり厚みも薄くなる。樹種から平鋤の可能性もあるが、柄や刃部が薄いことから鋤状木製品としておく。5はスギの四脚付台と思われるものである。6は用途不明なスギの木製品であり、円形の孔が不規則に4つ空けられている。7はスギの板であり部分的に工具加工痕が確認される。不整な方形の孔が側面付近に空けられている。

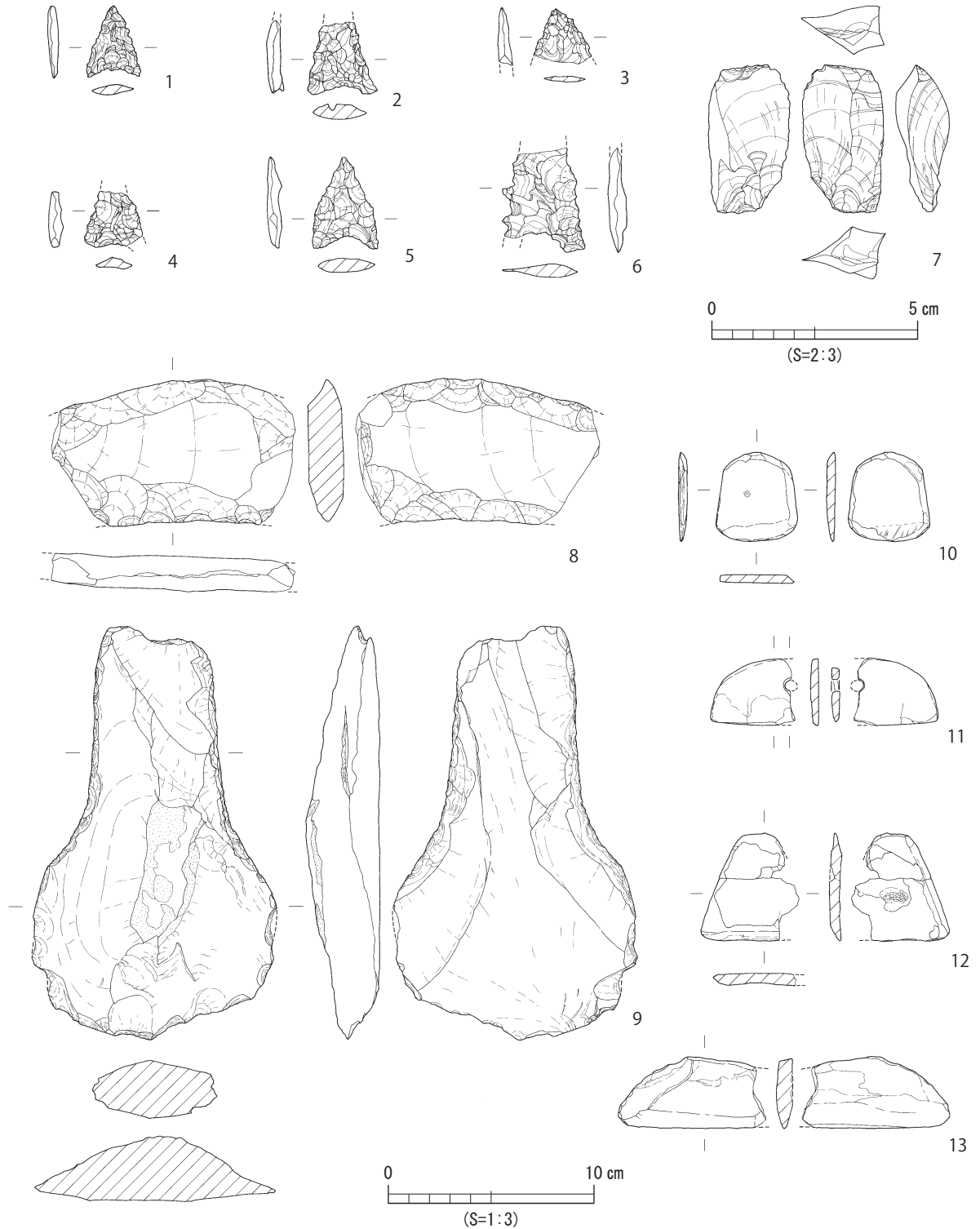
第88図1はスギ板を組み合わせた容器又は槽である。組合せは底板の上に側板を立てており、側板は1面が完全に失われ、残り3面のうち1面は部分的に残存している。側板は底板に造られた溝の上に置かれ目釘によって固定されており、多いところで4箇所確認される。側板同士は対面する二枚でもう二枚の側板を挟んで固定しており、側板にもそのための溝が設けられている。残存している側板2面は木目が縦方向であり、挟まれたもう一面の側板は木目が横方向となって



第84図 A1区 SD07埋土上面土器溜まり出土弥生土器実測図(1/4)

おり、木目を違えて組み合わされている。底板は 57.2cm× 51.9cm とほぼ正方形に近く厚さは約 2cm で、底板の下面にはおそらくヤリガンナによるものと思われる工具加工痕が確認された。また、年輪が 390 層確認され大径材のスギから作られていることが分かる。底板の年輪年代測定によると辺材や樹皮部分は削除され残存していなかったが、一番新しい年輪の年代は紀元前 71 年との結果が得られている<sup>註2</sup>。側板は最も良好な部分で 21cm の高さまで残っており、その上に天板が載

註2 大河内隆之氏(奈良文化財研究所)による測定結果

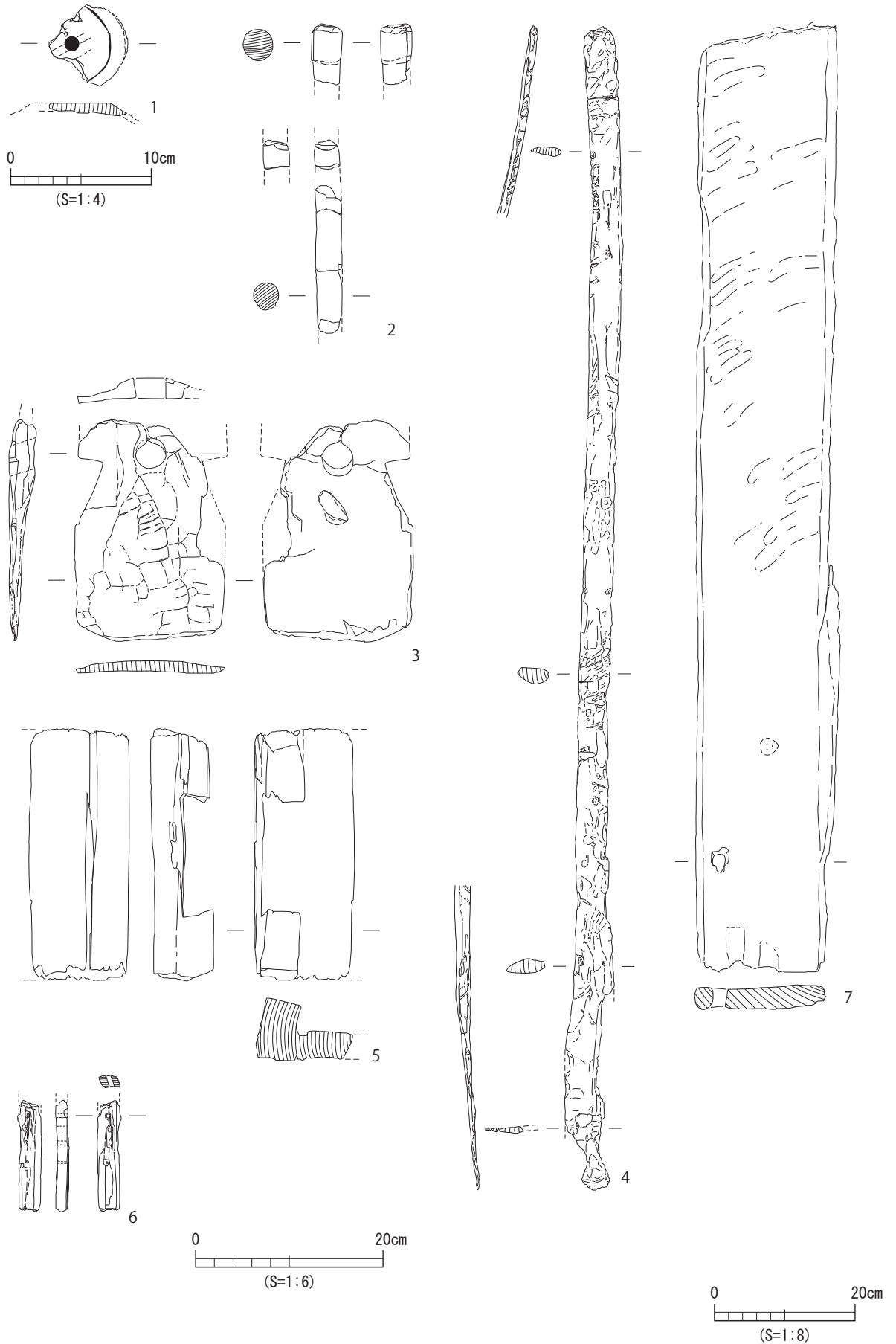


第85図 A1区 SD07埋土出土石器実測図(1/3・2/3)

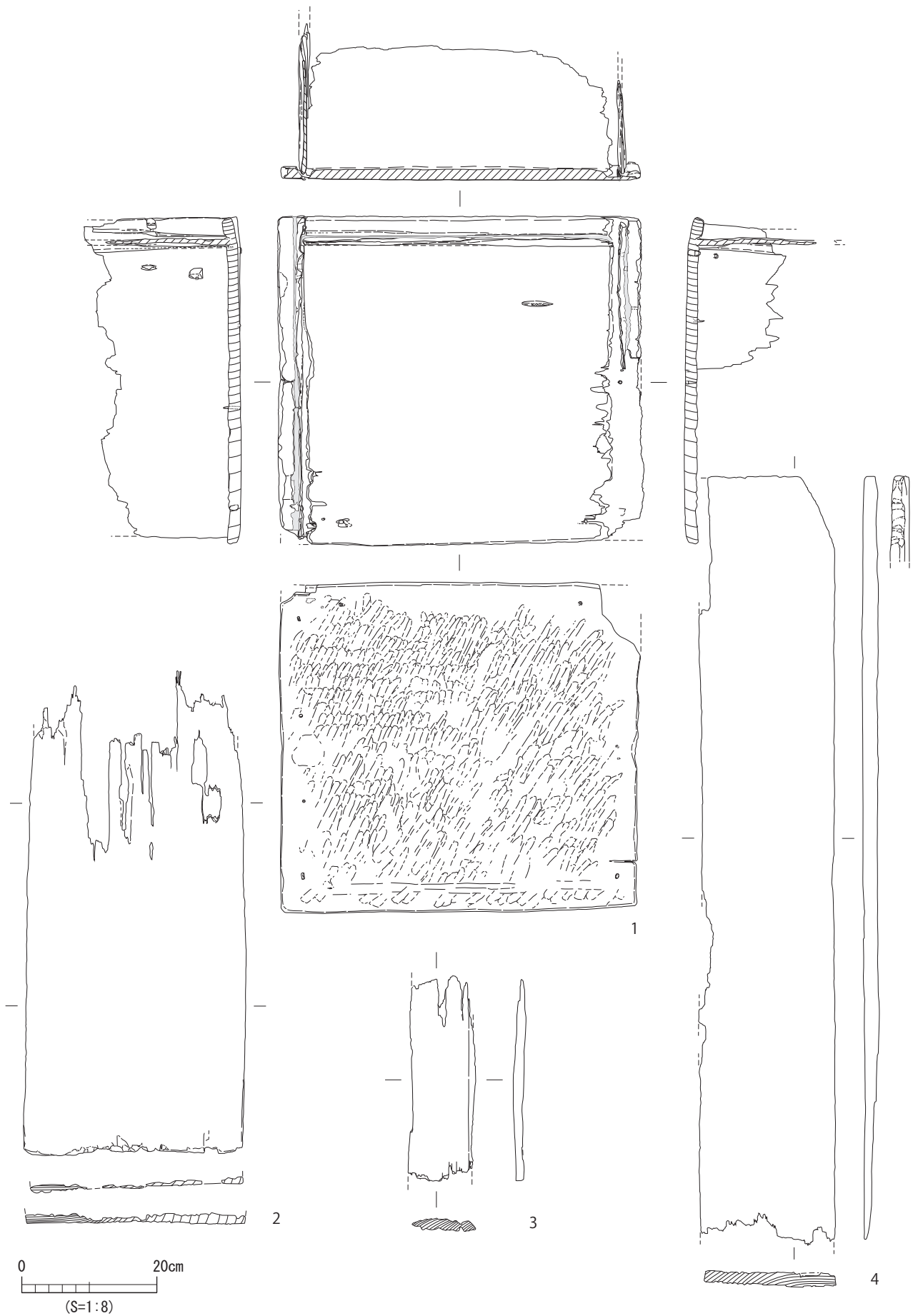


第86図 A1区 SD07埋土出土石器・ガラス勾玉実測図(1/3・1/1)

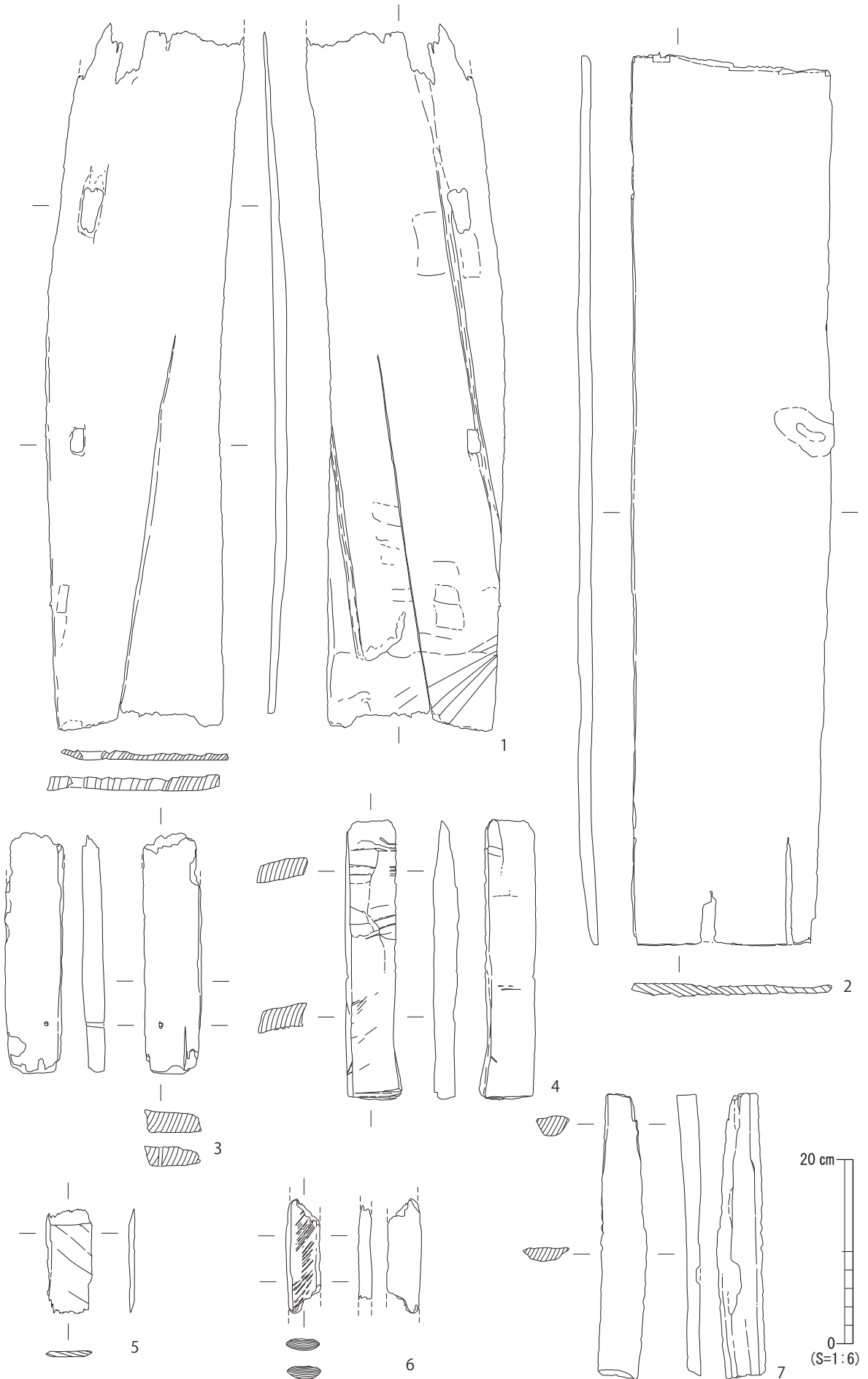




第87図 A1区 SD07下層出土木製品実測図-1-(1/8・1/6・1/4)



第88図 A1区 SD07下層出土木製品実測図-2-(1/8)

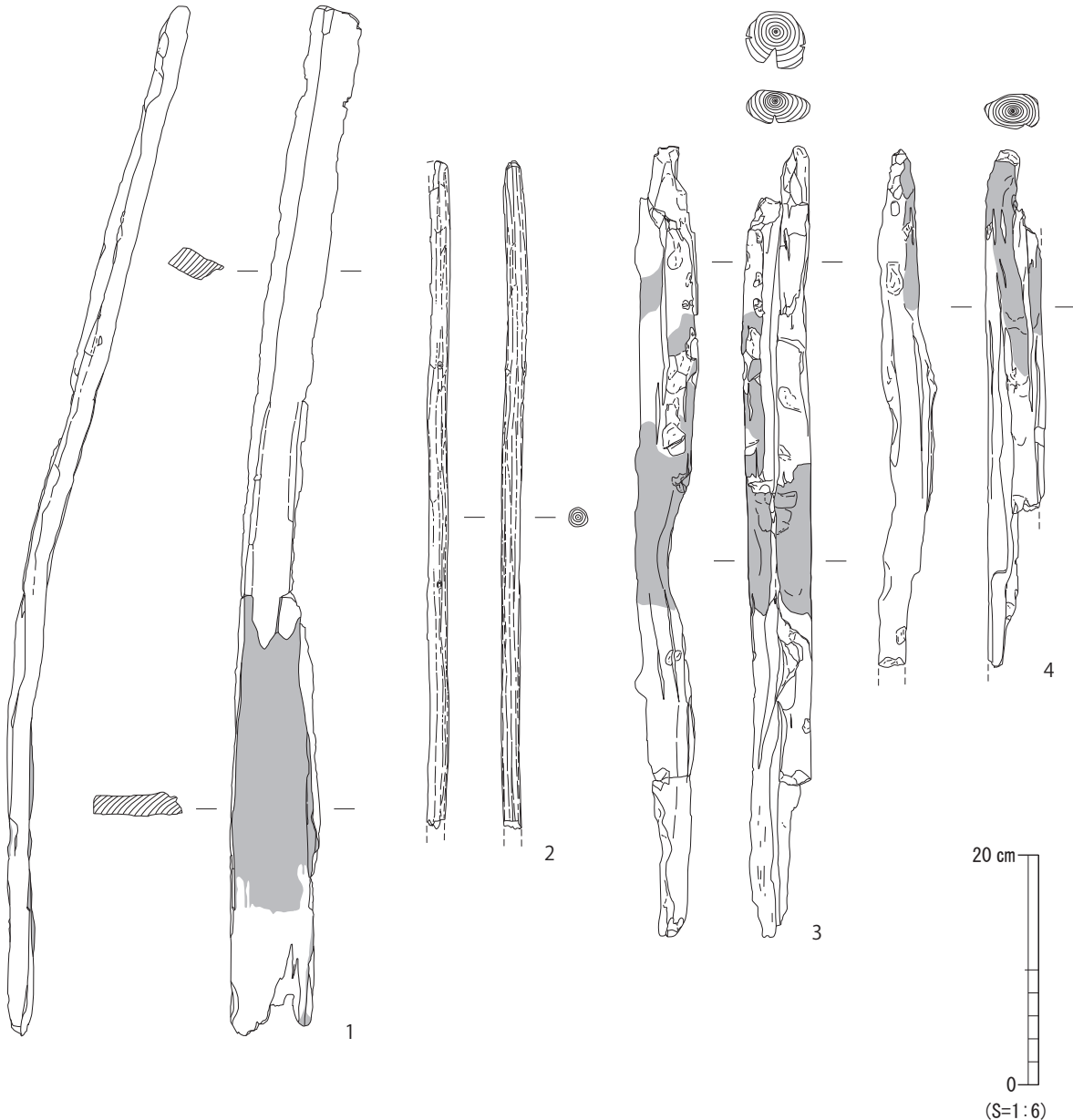


第89図 A1区 SD07下層出土木製品実測図-3-(1/6)

せられていたのかは不明である。側板についても年代測定及び同一材かどうかの検討を行ったが、傷みが激しく十分な計測ができなかった。側板の組合せの時の木目が異なる点や表面の仕上がり具合等から転用材を現地で組み立てた可能性が高い。2はスギ材の板であり、損傷が激しく明瞭でないが、方形の孔が空けられている可能性がある。前述の1の組合容器の周辺から出土していることから、その部材とも思われたが、寸法が合わないことから同一のものでないと考えられる。4はスギ材の板である。残存している側の端部は角が斜めにおとされている。

第89図1はスギ材の板である。側縁は直線的ではなく弧状に加工されているものであり、方形の孔が2箇所空けられている。2もスギ材の大形の板である。3はスダジイ製の板状のもので円孔が1箇所確認される。4はヤマグワ製の板状のもので工具加工痕が確認される。5は工具加工痕が残るスギ製の板材、6は筋状の工具加工痕が残る広葉樹製の材、7はスダジイ製の材である。

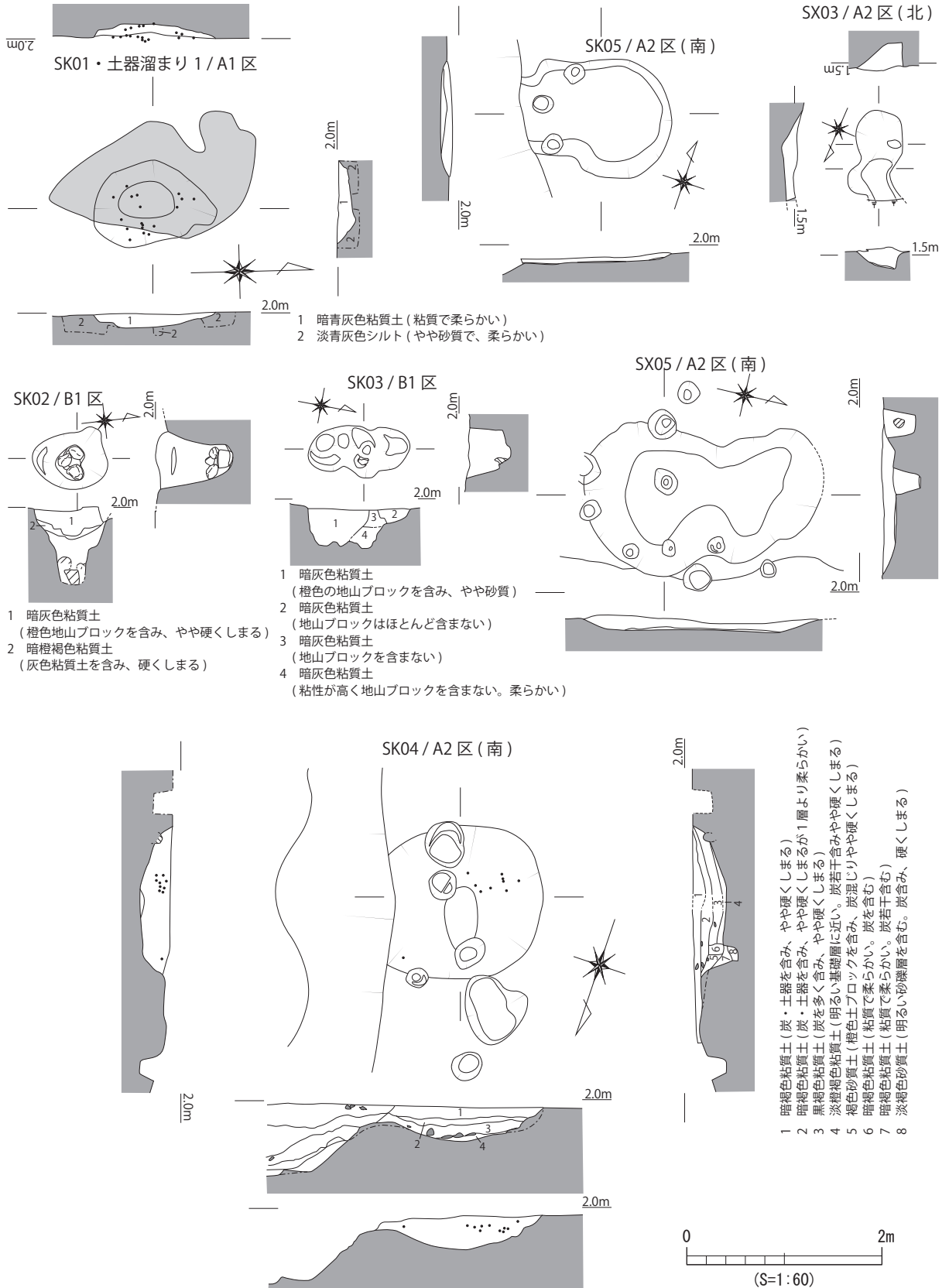
第90図1はスダジイ製の断面が方形の材であり、反り返っている。2は樹種がマキ属近似のもので芯持材の棒状木製品である。3・4は芯持材でツバキ属の棒状を呈すものである。



第90図 A1区 SD07下層出土木製品実測図-4-(1/6)



**遺構の性格と時期** 遺構は、埋土の状況から常時水が流れているような状況は想定できないが、下部に粘土層が堆積していることから、ある程度湿潤な環境にあったものと推測される。溝は環壕の可能性もあるが、全体の形が不明であることから判断出来ない。いずれにしても集落の近辺か縁辺部に穿たれた溝であることは間違いないものと考えられる。



第91図 土坑等実測図(1/60)

出土した弥生土器の大部分は、弥生時代後期、土器編年ではV様式の中で収まるものと考えられる。その中でも中心はV-1・2様式とV-4様式で、V-3様式がほとんど見られない点が特徴的である。V様式の前半と末の両時期がある点は、埋土上面の土器溜まり出土土器がV様式末であることなどから、V-1様式に掘削され完全に埋没した時期がV様式末であると考えれば整合性がとれるものと考えられる。

## 2. 土坑等(第91図～93図)

### (1) SK01 (第91図)

**規模と形態** 遺構はA1区の南西標高2m付近で検出した。平面形は不整な楕円形を呈し、規模は上面で1.21×0.88mである。深さは0.14mと浅く断面は皿状に窪む形状である。

堆積した埋土は青灰色粘質土であり、自然に堆積した可能性が考えられる。埋土上面では土器片がまとまって出土し土器溜まり1として取り上げた。

**遺構の性格と時期** 当初は上面から土器がまとまって出土したことから墓坑等の可能性も考えられたが、平面・断面形ともに不整形のもので性格は不明である。出土した土器は破片であり図化していないが、胎土からI様式のものだと判断され、その時期に属す遺構と考えられる。

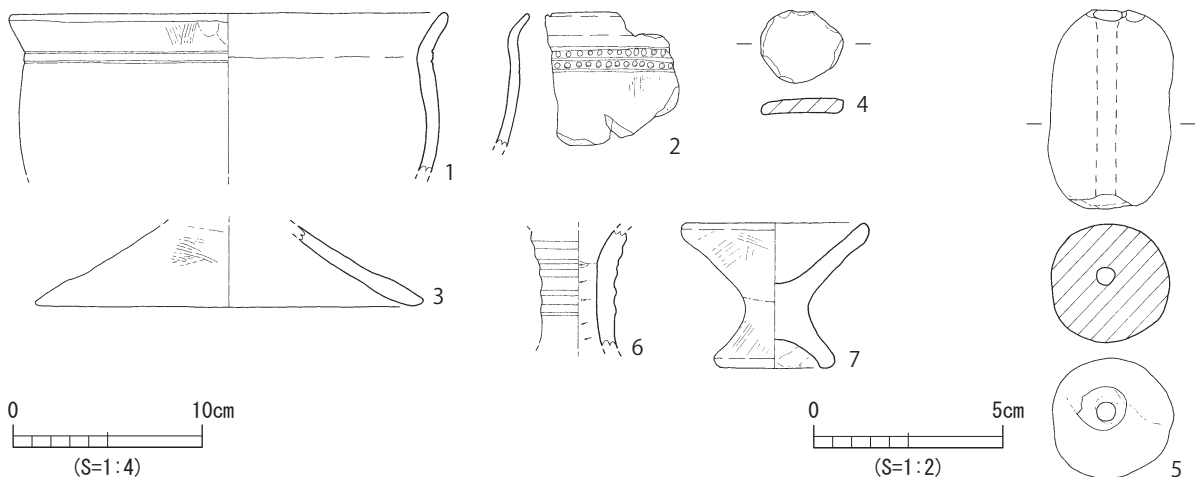
### (2) SK02 (第91図)

**規模と形態** 遺構はB1区のピット群の標高2m付近で検出した。平面形は不整な円形を呈し、規模は上面で0.7×0.5m、深さ0.7mである。底面では石材が4点出土した。埋土は暗褐色の砂質土である。埋土中からは土器片が出土した。

**遺構の性格と時期** 土坑と判断して調査したが、周辺で多数検出したピットと同様の柱穴であったと考えられる。出土した土器は小片であり図化していないが、おおよそV-4様式に相当するものである。よって遺構の時期もV-4様式頃と推測される。

### (3) SK03 (第91図)

**規模と形態** 遺構はB1区のピット群の標高2m付近で検出している。平面形は不整な楕円形を呈し、上面で0.42×0.4m、深さ0.38mである。埋土は暗灰色粘質土であり、P90と切り合っている。底面付近の壁沿いから石材が1点出土し、埋土中から甕・器台・低脚杯と思われる土器



第92図 SK04・SK05・P255 出土弥生土器・土製品実測図(1/4)

片が出土した。

**遺構の性格と時期** 土坑と判断して調査したが、ピットが複数切り合ったもので、周辺で多数検出したピットと同様の柱穴であったと考えられる。出土した土器は小片であり図化していないが、おおよそV-2様式前後に相当することから遺構の時期もその時期が推測される。

(4) SK04 (第91・92図)

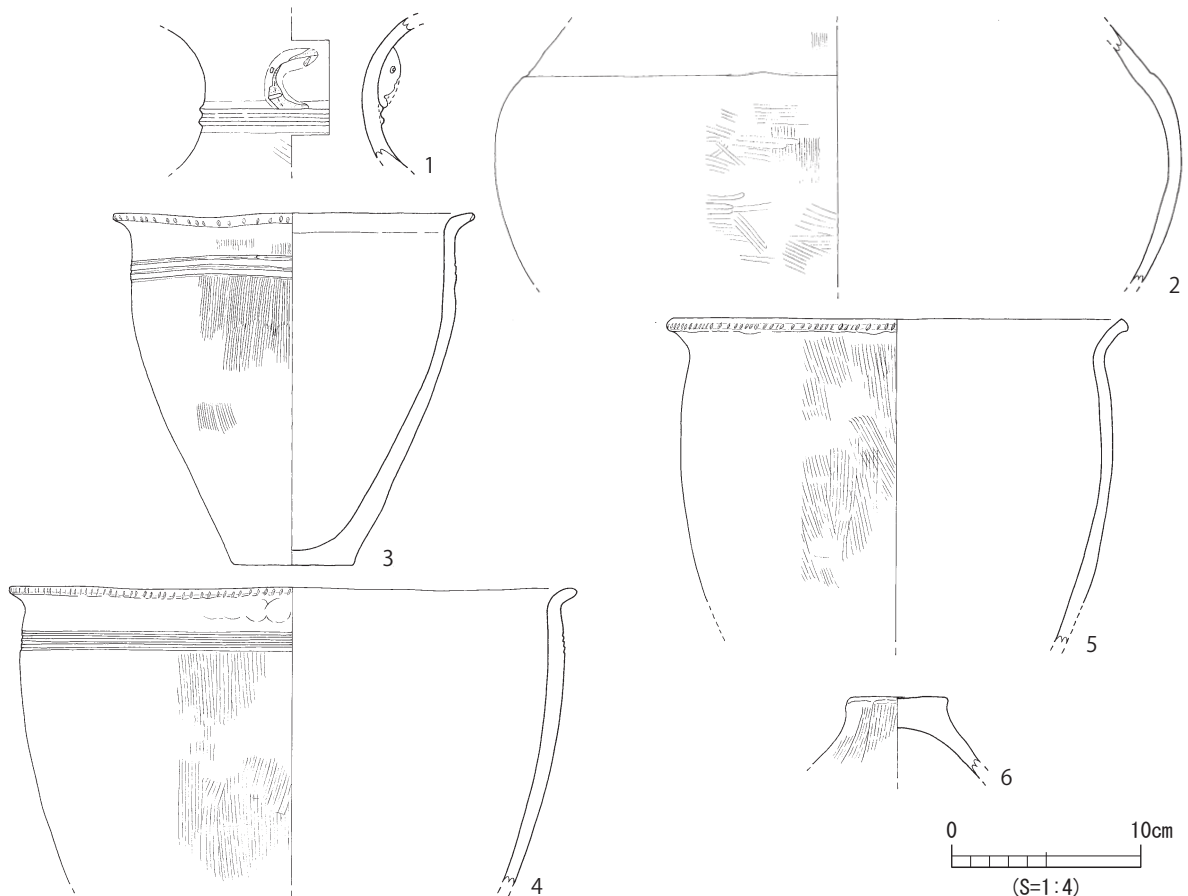
**規模と形態** 遺構はA2区(南)のSD10に近接した標高2m付近で検出した。平面形は円形に近いもので、規模は1.71m×1.58m、深さ0.35mである。埋土は暗褐色の粘質土が堆積しており、底面近くでは炭が多く混じる層が確認された。炭混じりの層を中心に土砂を取り上げ水洗選別を行った結果、炭化米等の種実を採取できた。SD10と切り合っており、土層観察では非常に判別が難しい状況ではあったがSD10の方が後の時期のものだと判断した。

**出土遺物** 第92図1～4は本土坑から出土した弥生土器及び土製品である。1・2は甕であり、1は2条のヘラ描き直線文が施され、2は3条のヘラ描き直線文の間に刺突文を組み合わせる。3は蓋と考えられ、4は土器転用円盤状土製品である。5は楕円形を呈す土錘である。

**遺構の性格と時期** 埋土に炭化物を含む層が見られるが詳細な性格は不明である。何らかの廃棄用に掘られた土坑であろうか。時期は出土した弥生土器から前期、土器編年では1-3様式に相当するものと考えられる。

(5) SK05 (第91・92図)

**規模と形態** 遺構はA2区(南)の南西側標高2m付近で検出した。SD09と切り合っているが前

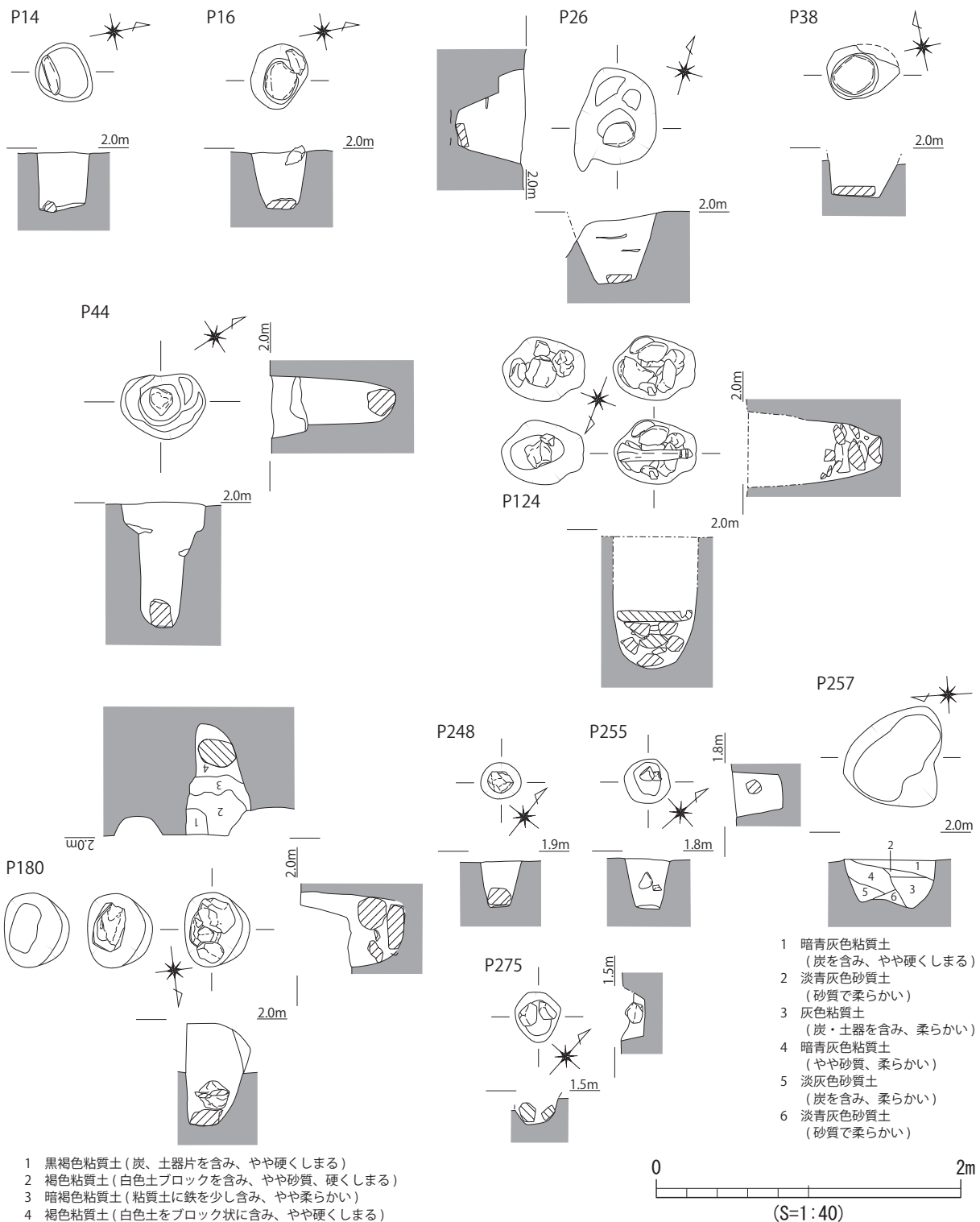


第93図 A2区(南) SX05埋土出土弥生土器実測図(1/4)

後関係は確認出来なかった。平面形は不整形で1.52×1.2m、深さ0.11mと浅い窪み状のものである。埋土は暗褐色粘質土であり、埋土中からは土器片が出土した。

**出土遺物** 出土した土器のうち図化できたのは1点のみである。第92図6は高坏の脚部であり外面には凹線文が施される。IV様式に相当するものと考えられる。その他小片ではあるが、Ⅲ様式～Ⅳ様式に相当する甕等の破片もある。

**遺構の性格と時期** 遺構の性格は明確ではない。時期は出土した土器からIV様式と考えられる。



第94図 柱穴遺構実測図(1/40)



(6) S X 0 3 (第91 図)

**規模と形態** 遺構はA2区(北)の北西隅の標高1.5m付近で確認した。他の土坑と異なり、SD09の堆積土(第16図7層上面)で確認したものである。不整な楕円形状を呈し0.93×0.48m、深さ0.25mの浅い窪み状のものである。埋土は暗褐色粘質土である。

**遺構の性格と時期** 出土遺物等がなく性格は不明であるが、浅い凹みが自然に埋まった可能性が考えられる。また、遺構面の時期から弥生時代中期頃の遺構と推測される。

(7) S X 0 5 (第91・93 図)

**規模と形態** A2区(南)の東側で確認した浅い窪み状のものである。不整な形状を呈し、規模は2.42×1.52m、深さ0.16mである。埋土は暗褐色砂質土で微高地上に堆積する層と大きく変わらないものである。埋土からは弥生土器が出土した。

**出土遺物** 第93図1・2は壺である。1は頸部付近のものでM字状貼付突帯の上に2箇所穿孔した耳状の突起を貼り付けている。2は頸部と胴部境に段を設けた壺である。3～5は甕である。3は段の上に2条のヘラ描き直線文を施し、4は4条のヘラ描き直線文を施している。5は無文である。6は蓋の頂部である。これらの土器は概ねI-3様式に属すものと考えられる。

**遺構の性格と時期** 遺構は浅い凹みが埋没したものと考えられる。時期は出土している土器から弥生時代前期、I-3様式に属すと考えられる。

### 3. 柱穴群

各調査区からは弥生時代に属すピットが多数検出された。大部分は建物を構成する柱穴と考えられるが、復元できたものは数棟である。

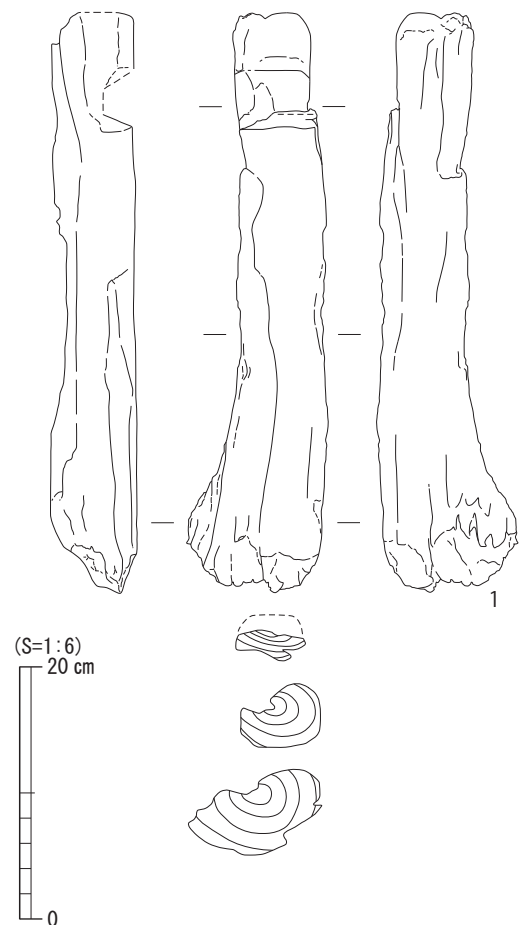
(1) 柱穴 (第92・94 図)

**規模と形態** 第94図には柱穴内から石材が出土したもの等、特徴的なものを掲載した。個々のピットの形状・規模・出土遺物については表6にまとめている。

P14・16・26・38はA1区で検出したピットである。いずれも底面に石材を納めたものであり、礎盤としての役割が考えられる。

P44・124・180はB1区で検出したピットである。いずれも底面に石材を納めたものであり、P124は数個の石材の上に横木を置いた構造をとる。P180は数個の石材が納めてあるが、底面に接する平たい石材のみが礎盤で、その上にある石材は根固めの石材とも考えられる。

P248・255・257・275はA2区(南)で検出したピットである。P248・P275の底面には礎盤としての石材が納められている。

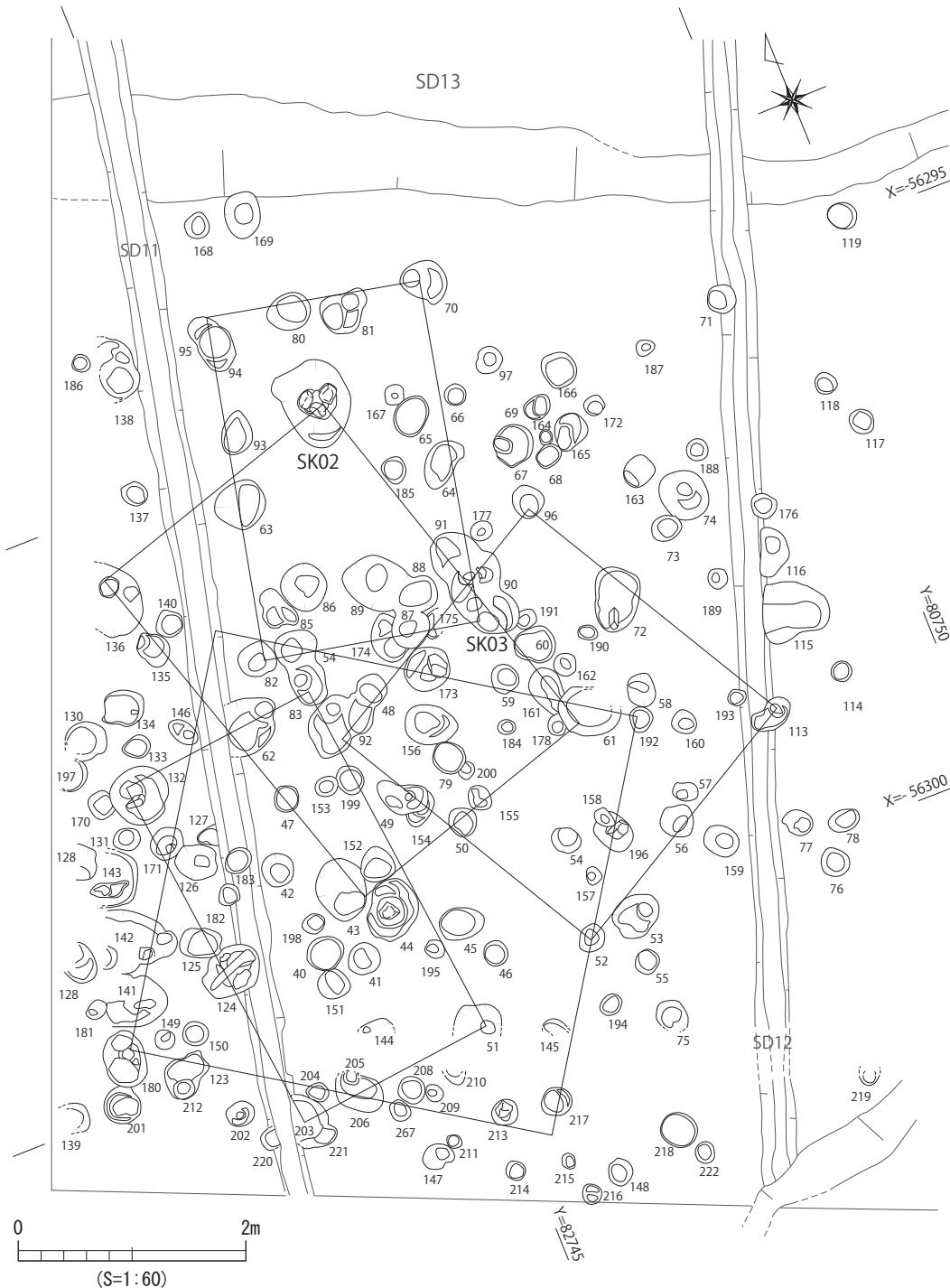


第95 図 B1区 P124内出土木製品実測図(1/6)

**P255 出土遺物** 第92図7はあまり出土しない器形のもので、小型の台付き鉢である。胎土等からI様式に属するものと考えられる。

(2) B1区の柱穴群の検討(第96・97図)

各調査区のピット群について出土遺物を検討した結果、A1・A2区のもの基本的には弥生時代前期に属するものであった。特に集中して多くのピットを検出したB1区については、埋土から出土した土器片の時期を可能な限り検討して分類した。その結果が第97図である。ただし、遺物が細片である場合はその胎土から決定したものもあり、また弥生時代前期と判断したピットも厳密にはそれ以降の時期に属することが言えるだけであり、課題は残っている。時期ごとに分類した



第96図 B1区 柱穴群遺構実測図(1/60)

ピットについては、その底面の標高、石材の有無、ピット間の距離、並びを検討し、掘立柱建物の復元検討を行った。その結果、B1区では5棟、A1区では2棟の建物を想定した。

#### 4. 掘立柱建物

##### (1) 掘立柱建物1(第8・98図)

**規模と形態** A1区の北側で検出した建物で、南西側はSD07によって失われている。確認された範囲での構造は、桁行・梁行が明確にはできないが、東西方向を桁行とした場合は、桁行1間・梁行2間で、桁行4.06m・梁行3.1mを測る。柱間寸法は桁行で4.06m以下、梁行で1.6mとなる。基本的に礎盤の石材が納められた柱穴を基に復元した建物である。柱穴は径40cm前後の円形のもので、比較的規模が揃っている。建物の主軸はN-12°-Eである。

**遺構の性格と時期** 建物の全体が分からないことから不明であるが、小型の建物と考えられることから、住居とは異なる建物である可能性がある。建物の時期はピットの埋土から出土した土器により弥生時代前期に属するものと推測される。

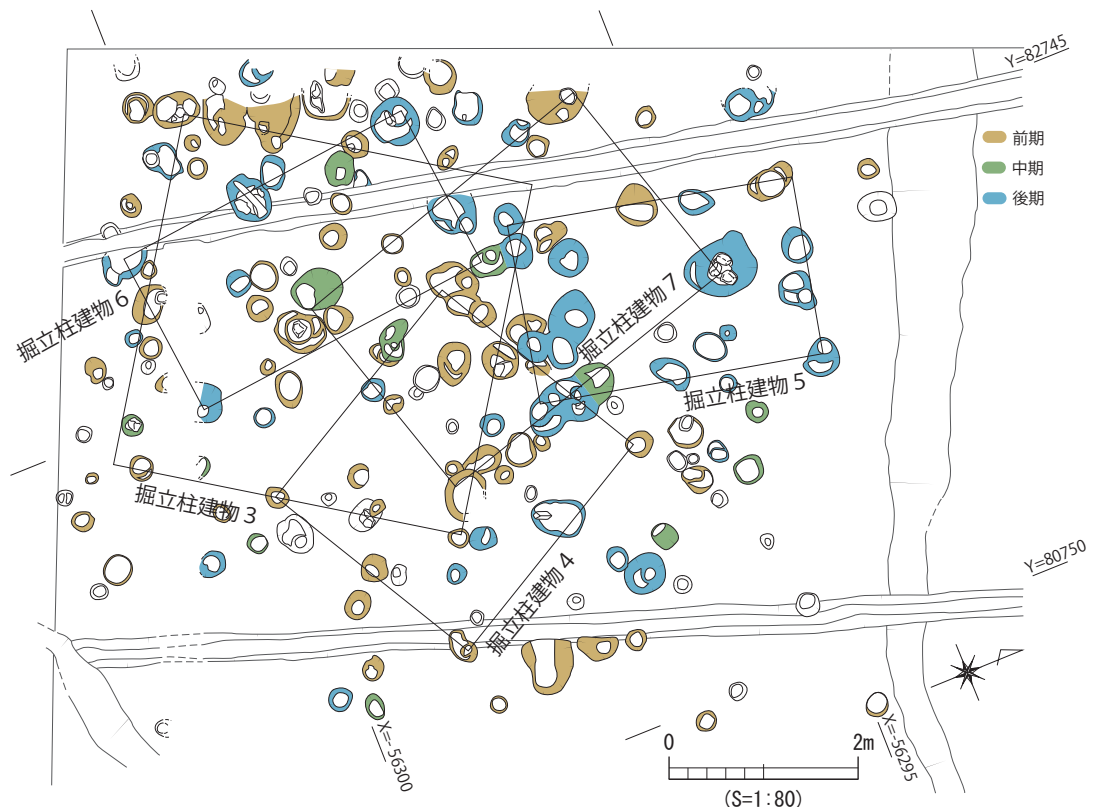
##### (2) 掘立柱建物2(第8・98図)

**規模と形態** A1区の南東側のピット群の中で復元した建物で、並んだ3基の柱穴のみであり、長さは2.43mである。柱穴の内2基(P24・P28)の底面には石材が礎盤として納められている。柱間寸法は桁行で1.25mで、柱穴は30cm前後のものである。柱穴列の主軸はN-69°-Eである。

**遺構の性格と時期** 建物の規模等が詳細ではないことから、その機能等については不明である。時期はピット埋土から出土した土器により弥生時代前期と推測される。

##### (3) 掘立柱建物3(第99図)

**規模と形態** B1区の南西側のピット群内で検出した建物で、北西及び南東隅の柱穴に課題は残る



第97図 B1区 柱穴群検討図(1/80)

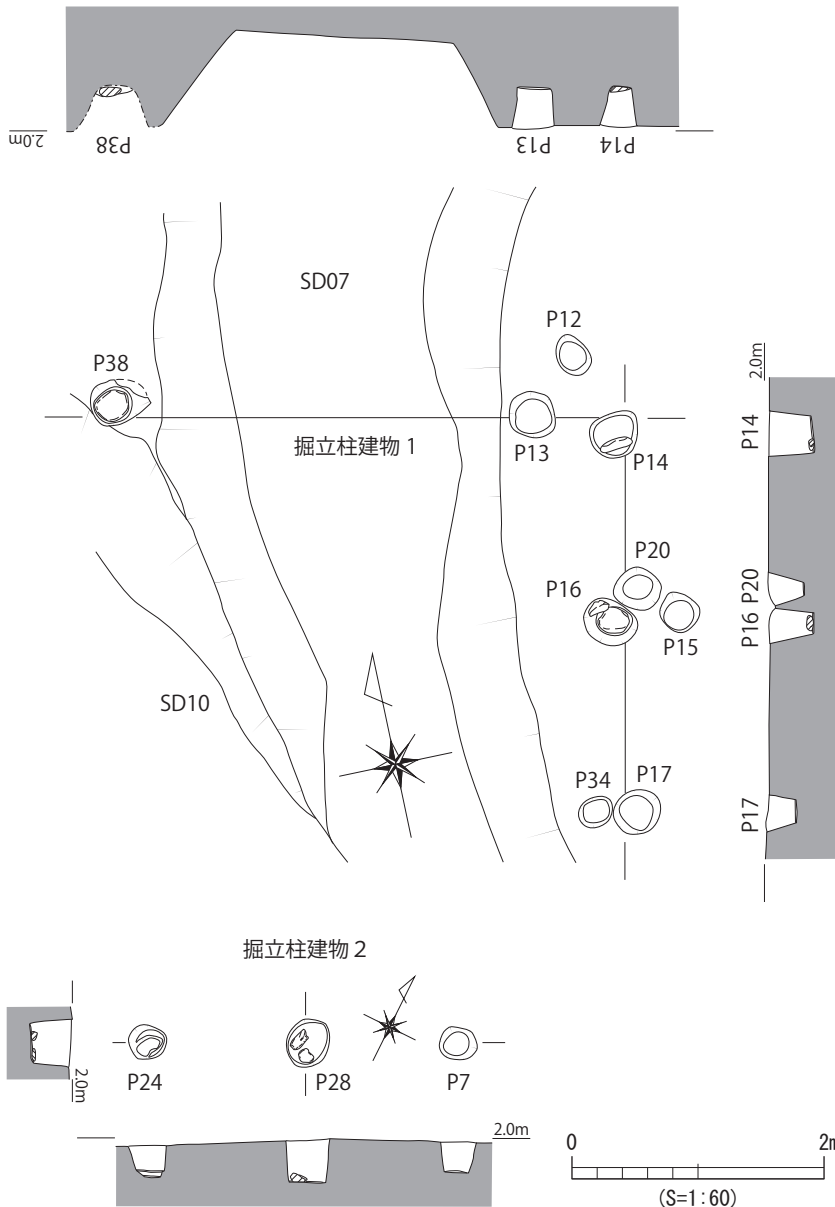
が、桁行2間・梁行2間で、桁行4.92m・梁行3.8mを測る。柱間寸法は桁行が1.76mと2.0m、梁行が1.0mと1.9mとなり間隔が異なる。また建物中央に位置するP44も伴うものと考えれば、総柱建物となる。柱穴は径25～40cmの円形のもので、規模に若干ばらつきがあるが、礎盤としての石材を納めた柱穴は大きく深い特徴が指摘される。建物の主軸はN-34°-Eである。

**遺構の性格と時期** 総柱建物に復元される場合には、倉庫の可能性が考えられる。建物の時期はピット埋土から出土する土器により弥生時代前期に属するものと推測される。

(4) 掘立柱建物4(第100図)

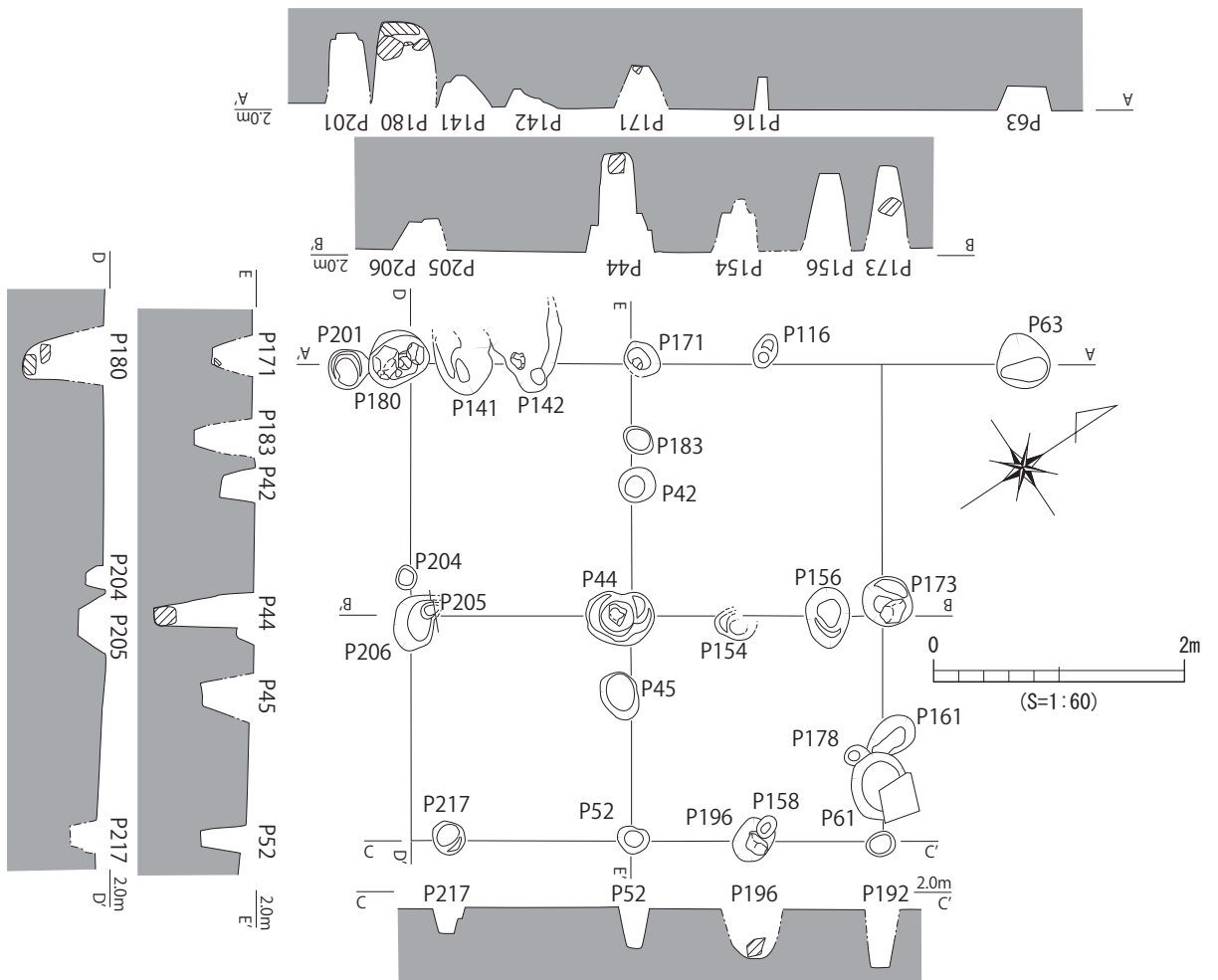
**規模と形態** B1区の南西側のピット群内で検出した建物で、桁行1間・梁行2間で、桁行2.8m・梁行2.6mを測る。柱間寸法は桁行2.8m、梁行1.3mの間隔である。また建物中央にあたる部分には浅いP178が存在する。柱穴は径は30～60cmの円形のもので、規模に若干ばらつきがある。建物の主軸はN-30°-Wである。

**遺構の性格と時期** 小型の建物であることから住居以外の機能が考えられる。時期はピット内出土遺物から弥生時代前期と推測される。

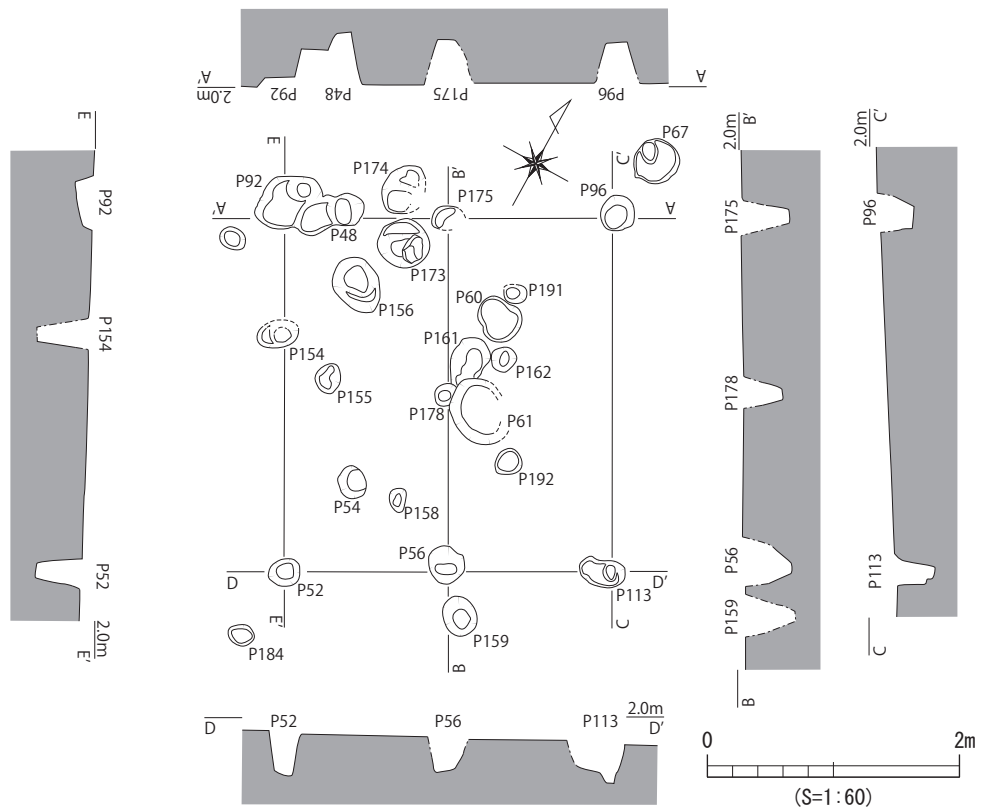


第98図 A1区 掘立柱建物1・2遺構実測図(1/60)





第 99 図 B1 区 掘立柱建物 3 遺構実測図 (1/60)

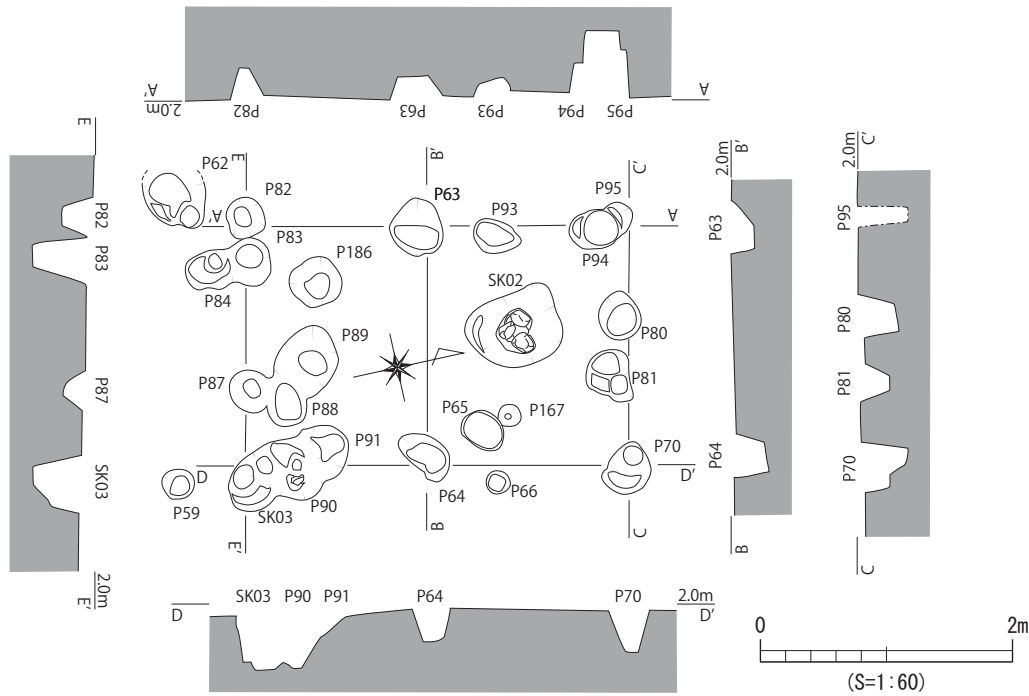


第 100 図 B1 区 掘立柱建物 4 遺構実測図 (1/60)

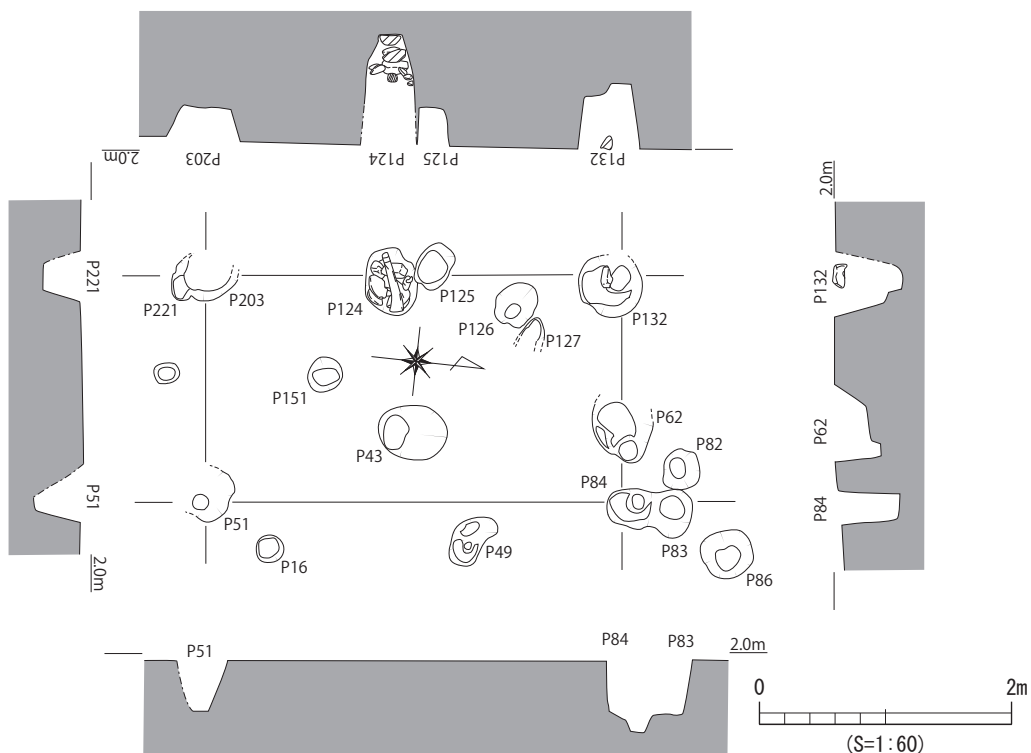
(5) 掘立柱建物5(第101図)

**規模と形態** B1区の南西側のピット群内で検出した建物で、桁行2間・梁行1間で、桁行き3.4m・梁行1.9mを測る。柱間寸法は、柱間寸法は桁行1.44mと1.6m、梁行1.9mの間隔である。柱穴は径40cm前後の円形のもので、比較的規模が揃っている。建物の主軸はN-13°-Eである。

**遺構の性格と時期** 建物の性格は小型であることから住居以外の可能性が考えられる。時期は出土した土器から弥生時代後期(V-1~2様式)と推測される。



第101図 B1区 掘立柱建物5遺構実測図(1/60)



第102図 B1区 掘立柱建物6遺構実測図(1/60)

(6) 掘立柱建物6(第102図)

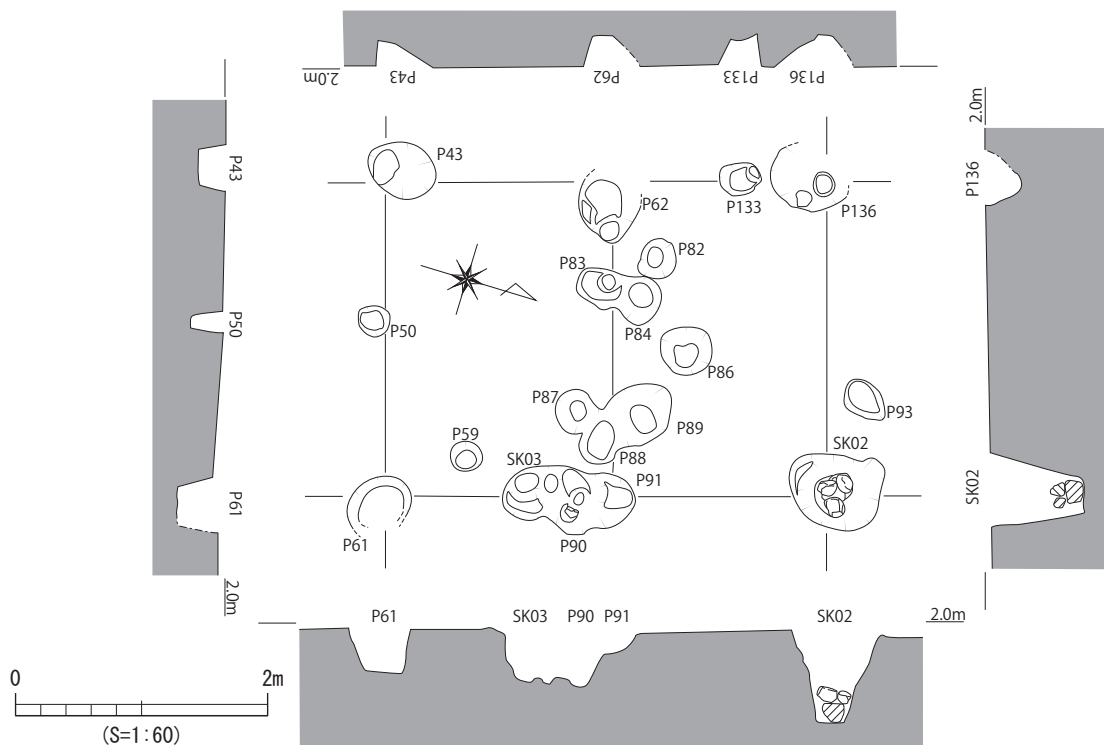
**規模と形態** B1区の南西側のピット群内で検出した建物で、桁行2間・梁行1間で、桁行き3.3m・梁行1.8mを測る。柱間寸法は桁行1.4mと1.9m、梁行1.8mの間隔である。柱穴は径35～50cm程で、比較的規模が揃っている。建物の主軸はN-6°-Wである。

**遺構の性格と時期** 建物の性格は小型であることから住居以外の可能性が考えられる。時期は出土した土器から弥生時代後期(V-4様式)と推測される。

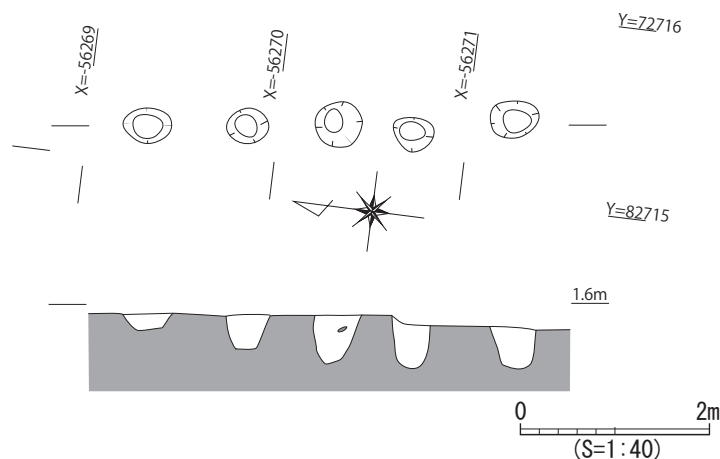
(7) 掘立柱建物7(第103図)

**規模と形態** B1区の南西側のピット群内で検出した建物で、桁行2間・梁行1間で、桁行き3.5m・梁行2.5mを測る。柱間寸法は桁行1.8mと1.7m、梁行2.5mの間隔である。柱穴は径35cm前後の円形のもので、比較的規模が揃っている。建物の主軸はN-17°-Wである。

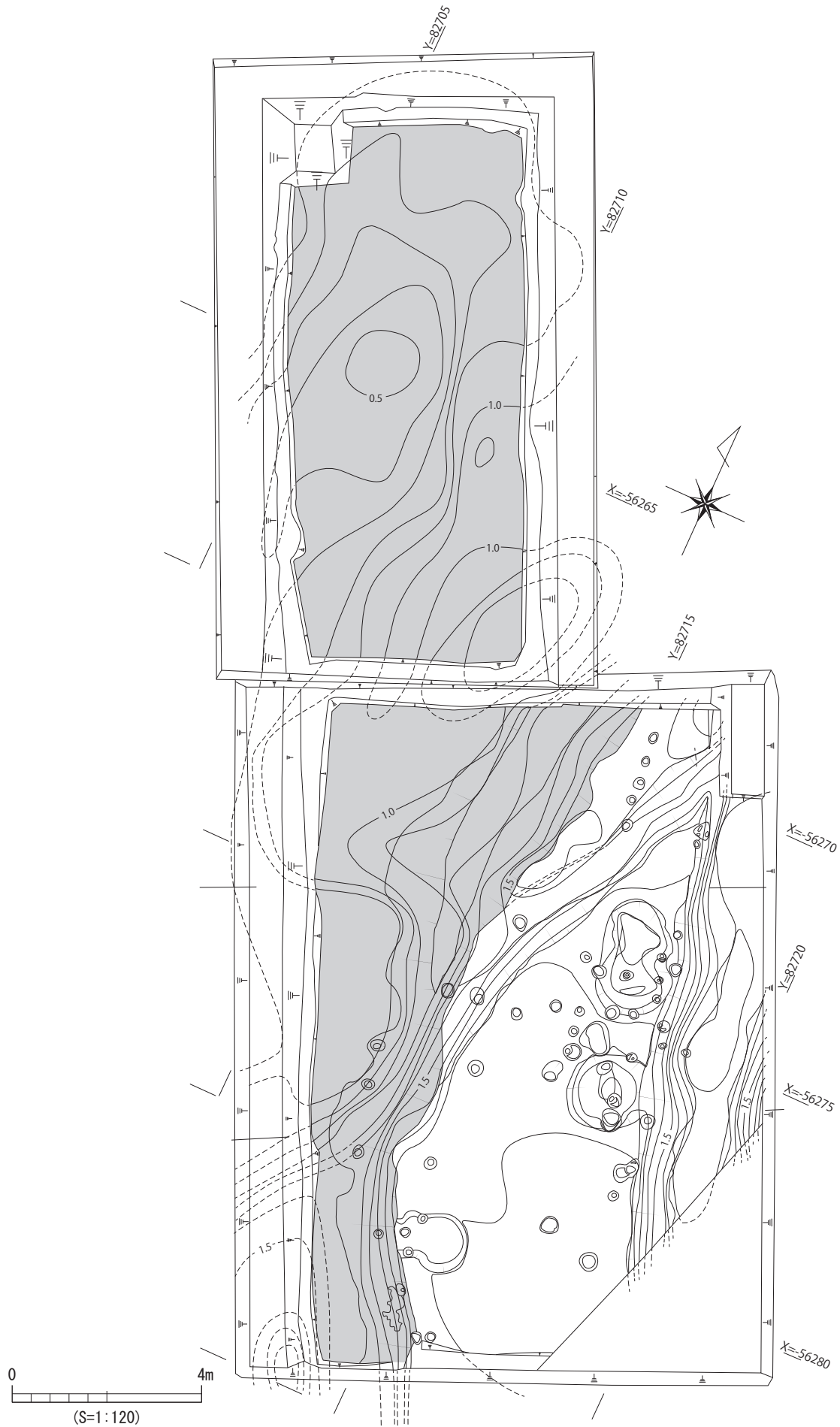
**遺構の性格と時期** 建物の性格は小型であることから住居以外の可能性が考えられる。時期は出土した土器から弥生時代後期(V-4様式)と推測される。



第103図 B1区 掘立柱建物7遺構実測図(1/60)



第104図 A2区(南) 柱穴列遺構実測図(1/40)



第105図 A2区 SD09(自然河道)測量図(1/120)



## 第5節 弥生時代の自然河道とその遺物

### 1. 自然河道 (SD09) の概要

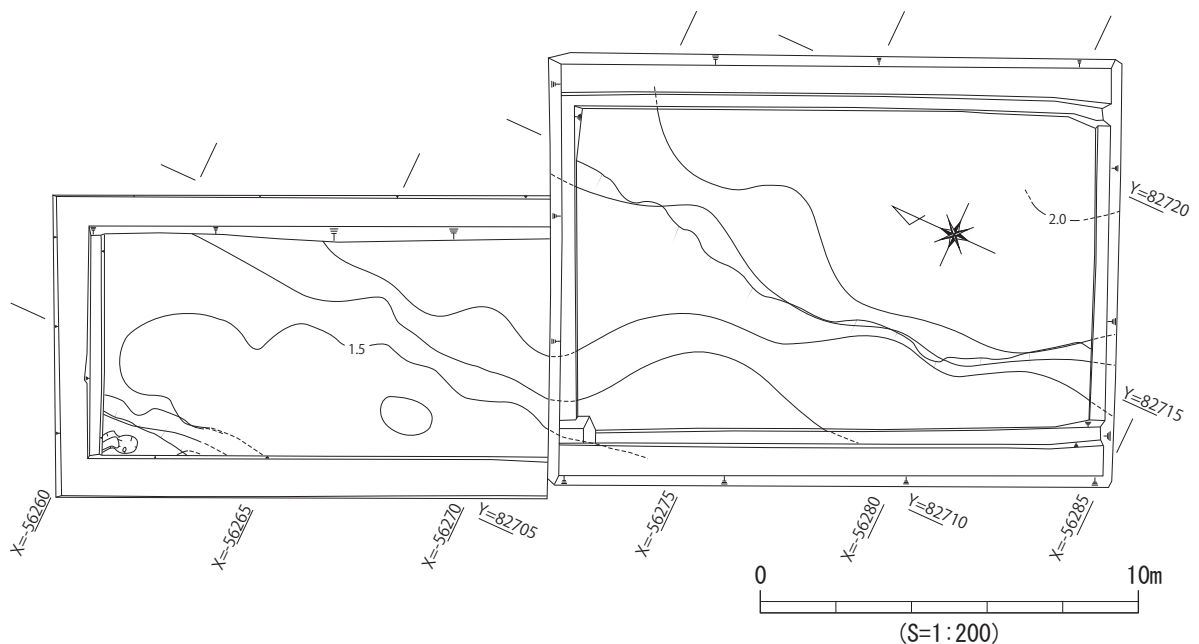
自然河道は、当初 A1 区の調査時に南西隅で検出し SD09 として人工的な溝と判断していたものである。A2 区 (北) の調査段階で自然河道と認識を改め、その後の A2 区 (南) の調査で確定した。ただ整理等作業段階で土層断面等の再検討を行った結果、A2 区 (南) の南隅と A1 区の部分については、別の小流路もしくは人工的な溝の可能性を残している。

#### (1)A2 区の検出状況

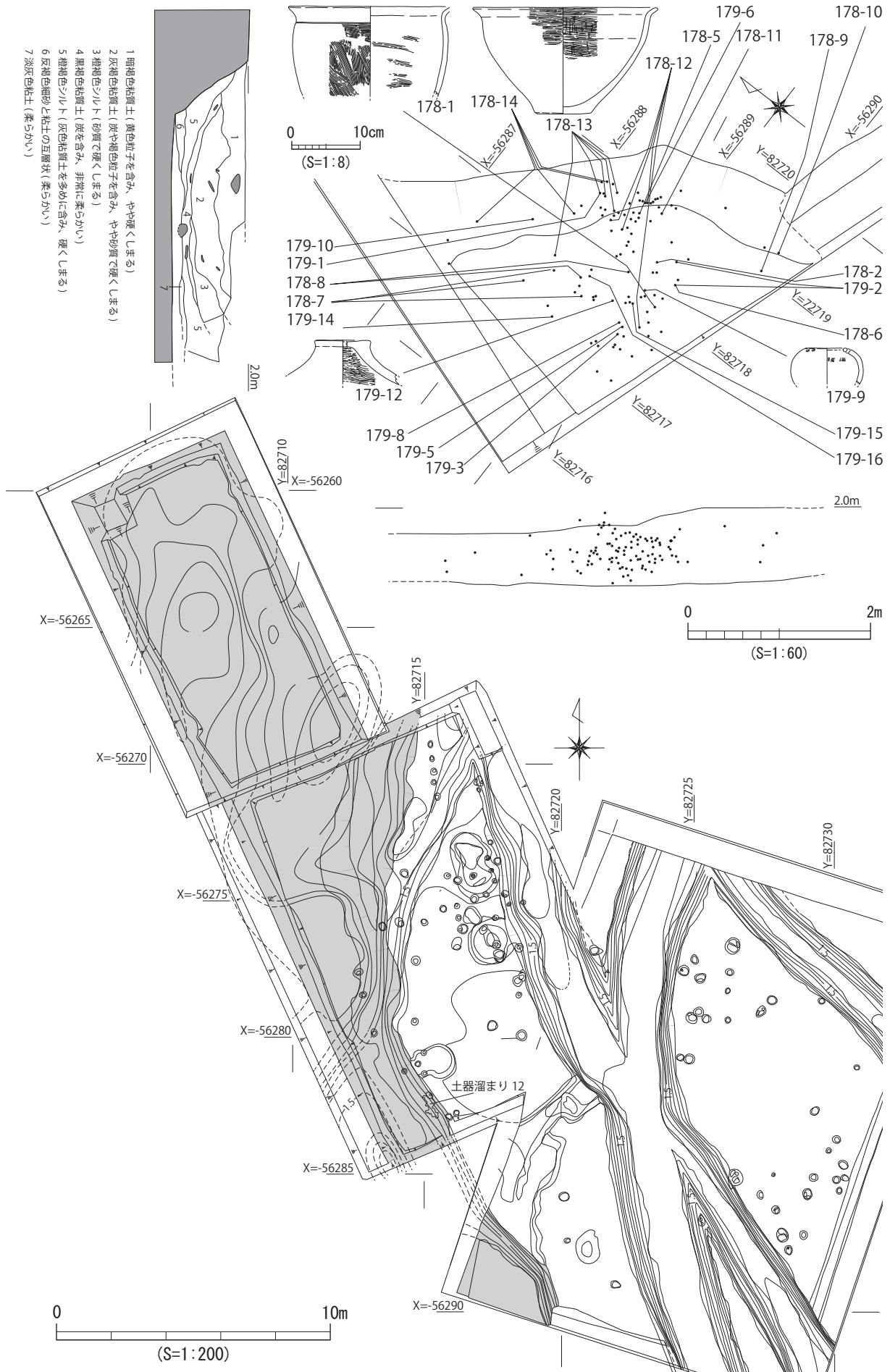
自然河道の東岸側の状況は、A2 区 (南) で確認することができたが、西岸側の状況は調査区内では確認出来ていないことから全体の規模等は不明である。確認出来た範囲では幅 7.95 m 以上、長さ 32.4 m 以上と考えられ、深さは最下部の砂礫層を完全に掘削していないことから不明であるが、北壁では最深部が標高 0.3 m であり、埋土上面が 1.8 m であるから、この部分では深さ 1.5 m と推測される。また、A2 区 (北) の最深部の状況から、河道は A2 区 (北) の北東から A2 区 (北) 南西隅付近の方向、すなわち南北方向に流れるものと推測される。単純に A2 区 (北) の北隅から A2 区 (北) 南隅付近が最深部で河道の中心軸と考えた場合は、約 18 m 程の幅の自然河道と考えることもできる。

#### (2)A2 区の堆積状況 (第 16・18 図)

堆積状況は、既に掲載している第 16～18 図の調査区土層断面図で確認することができる。の A2 区の北壁 (第 18 図) では河道の底が確認され、縄文時代内湾性堆積層を削り込んでいることが確認される。A2 区の西壁 (第 16 図) では最下部に砂礫層が堆積し、その上部に腐植土層 (オモカス層) - 粘土層 (下層) - (橙色砂質土層) - 黒色粘土層 - 黒色土層 - 砂質土層 (上層) が堆積しており、腐植土層・粘土層段階では既に流路ではなく湿地状の環境になっていた可能性が高いと推測される。また調査区西壁の状況から、A2 区 (南) の北西隅が標高 0.4 m と低く、完全に掘削しておらず正確には分からないがこの辺りが最深部であることが分かる。



第 106 図 A2 区 SD09(自然河道) 埋没段階測量図 (1/200)



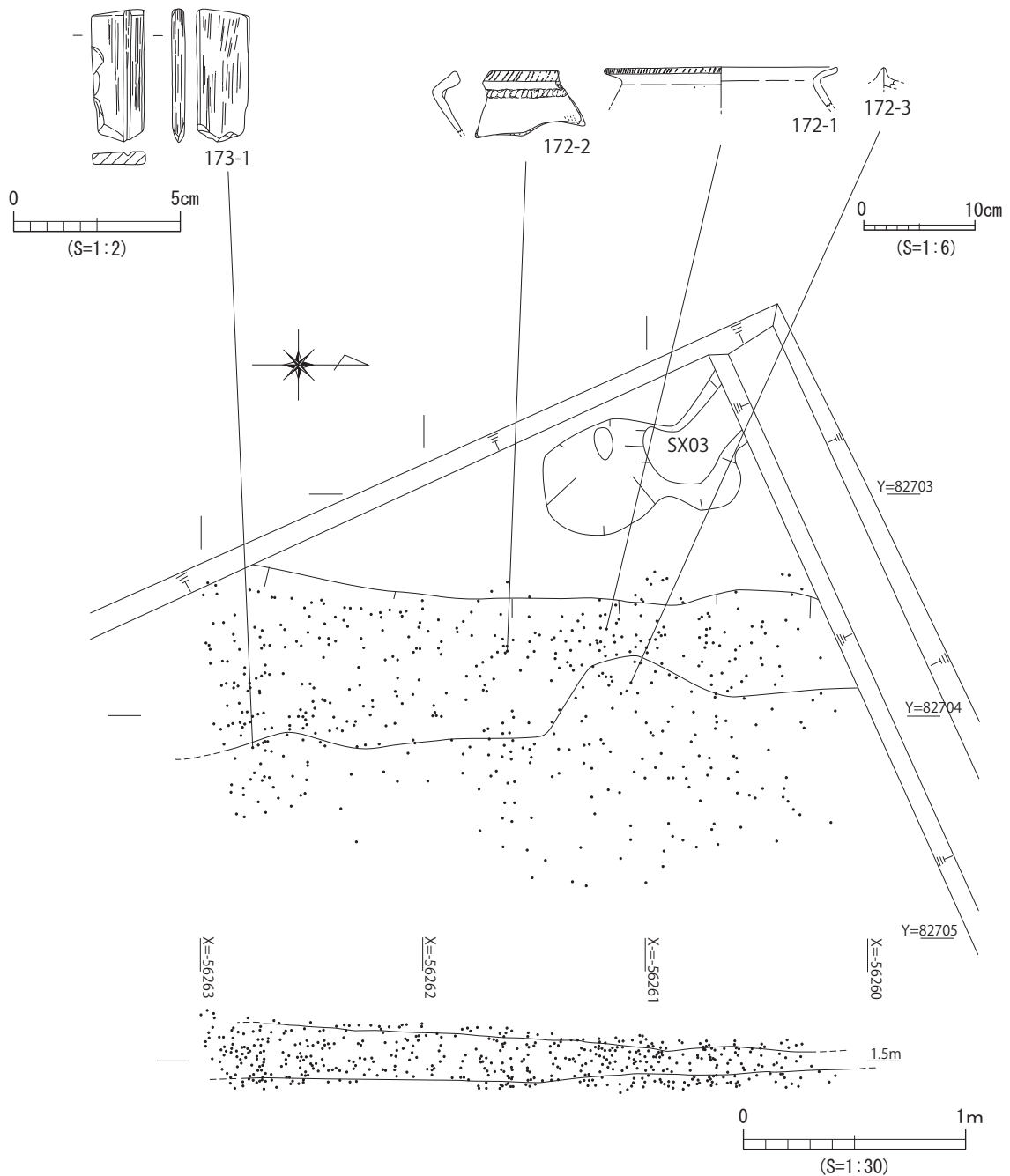
第107図 A区 SD09(自然河道)実測図(1/200・1/60)

第106図は、SD09埋土の上層としている層を掘削した段階の測量図である。湿地化した後比較的乾燥した段階の状況と考えて記録したもので、標高は1.4～2.0mであり、一時期浅い谷状になっており、最終的に微高地の上面の標高2m付近まで埋没したものと考えられる。

(3)A1区の検出状況(第107図)

第107図からも分かるようにA2区南隅からA1区にかけては、東岸が自然河道の軸と若干ずれており、方向が異なる支流状の流路もしくは人口の溝である可能性も考えられる。A2区南隅の調査時に微高地の堆積層を河道埋土と誤認して掘削しており、検証が難しいこともあるが、幅の狭い溝状を呈す部分が存在していた可能性は高い。

A1区のSD09の堆積状況は、下部に細砂や粘土層が堆積し、ベースに類似したシルト層が壁沿

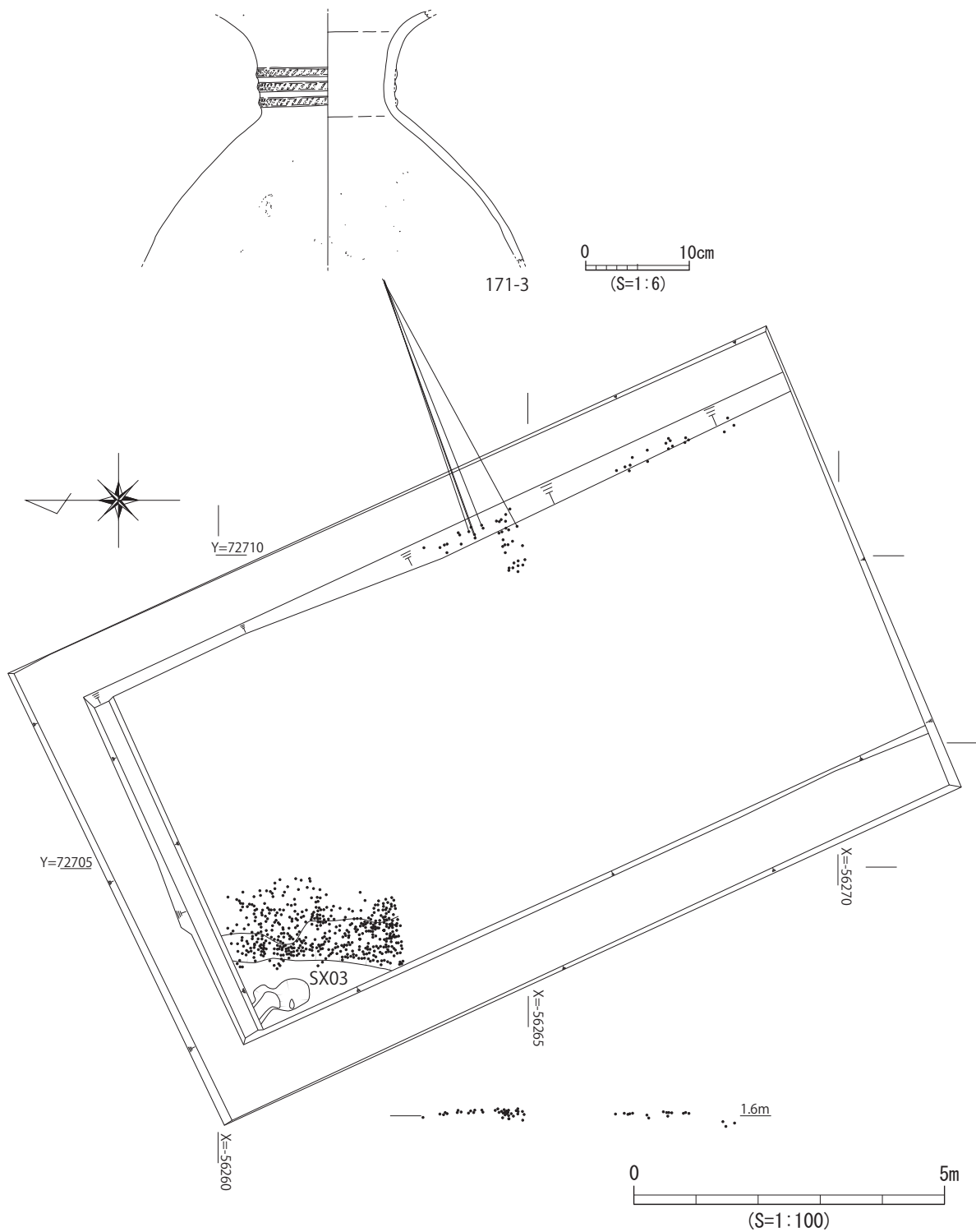


第108図 A2区(北) SD09(自然河道)内土器溜11遺物出土状況図(1/30)

いに堆積し、その上に粘質土層が堆積している状況である。また、埋土からは多くの遺物が出土しており、最深部は微高地に堆積している礫層まで至っている。

## 2. 自然河道 (SD09) の遺物出土状況

自然河道から出土した土器・石器は、各層位ごとに持ち上げ、その地点のみを記録した。



第109図 A2区(北) SD09(自然河道)上層遺物出土状況図(1/100)

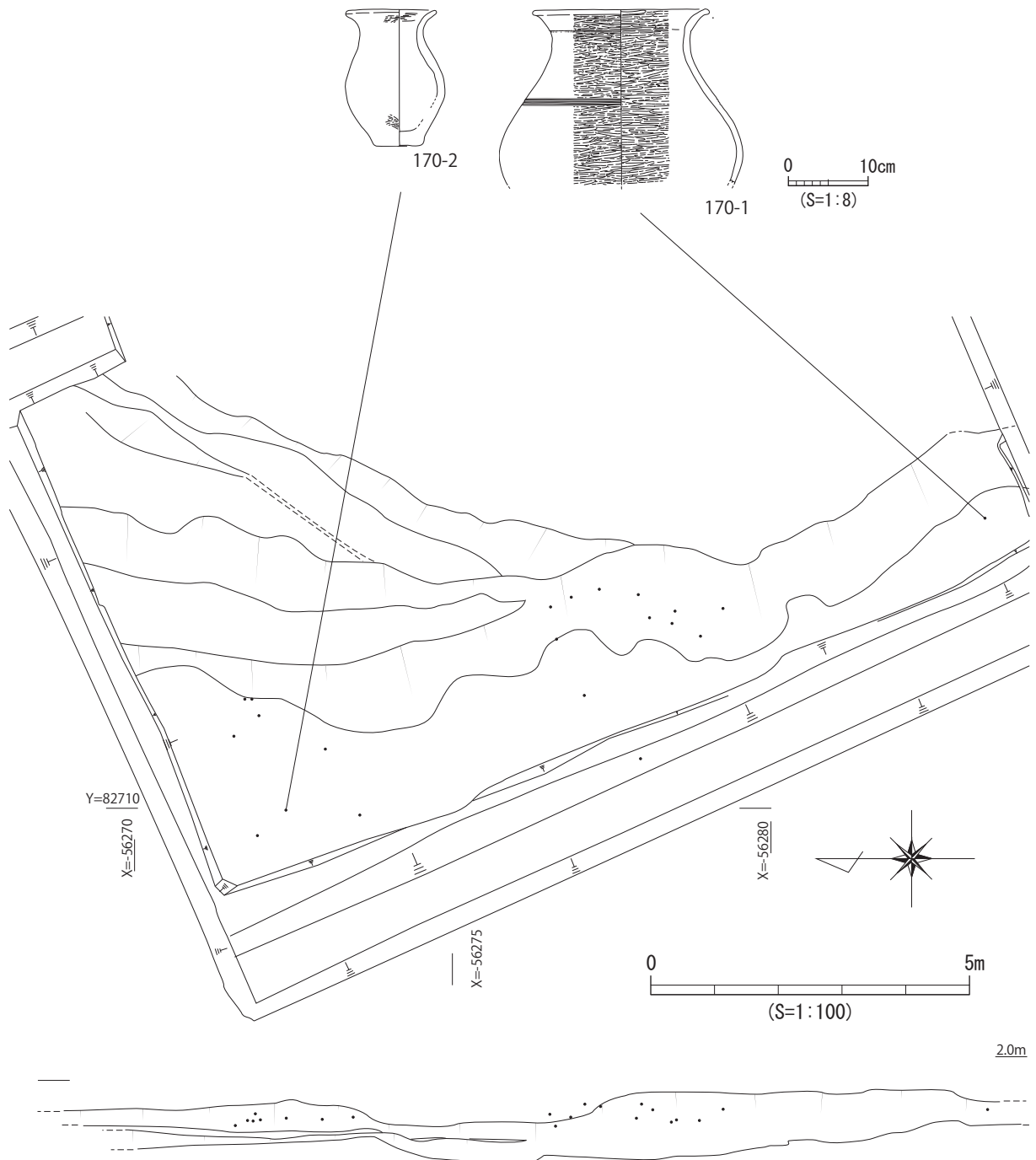


(1) 土器溜まり 10(第108図)

A2区(北)では上層の掘削時に小片ではあるが遺物が北西隅に集中して出土し、土器溜まり10として取り上げた。土器溜まり10は西から東へ傾斜したやや窪み状になった部分に集中しており、自然河道の埋没過程で廃棄されたものと推測される。また、土器溜まりの土器を取り上げた後にやや黒褐色粘質土がみられる部分があったことから、その部分を掘り下げた凹みをSX03とした。

(2) 上層遺物出土状況(第109図)

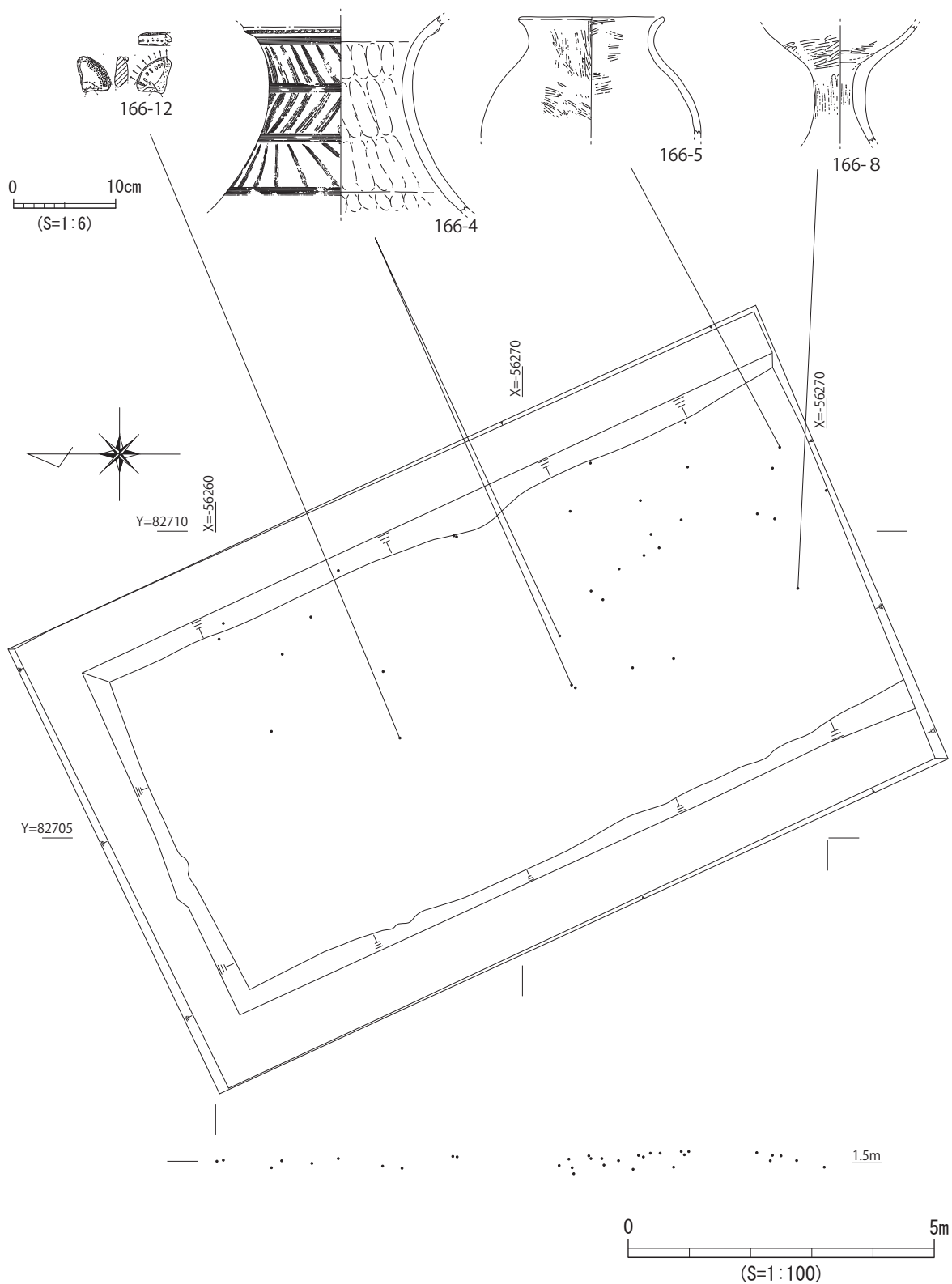
A2区(北)では、前述した土器溜まり10と同一の砂質土層(上層と呼称)から散在して遺物が出土したが、比較的まとまっているのは調査区の南東部である。



第110図 A2区(南) SD09(自然河道)上層・橙色砂質土層遺物出土状況図(1/100)

(3) 上層・橙色砂質土遺物出土状況(第110図)

A2区(南)の上層の掘削では、小片が多く層位ごとに一括して取り上げており、地点を記録して取り上げているものは少数である。またその下部に堆積した橙色砂質土層も同様な状況であることから、一括して図を掲載している。また、この地点の調査は微高地の堆積層との判別が難しく、



第111図 A2区(北) SD09(自然河道) 黒色土層遺物出土状況図(1/100)

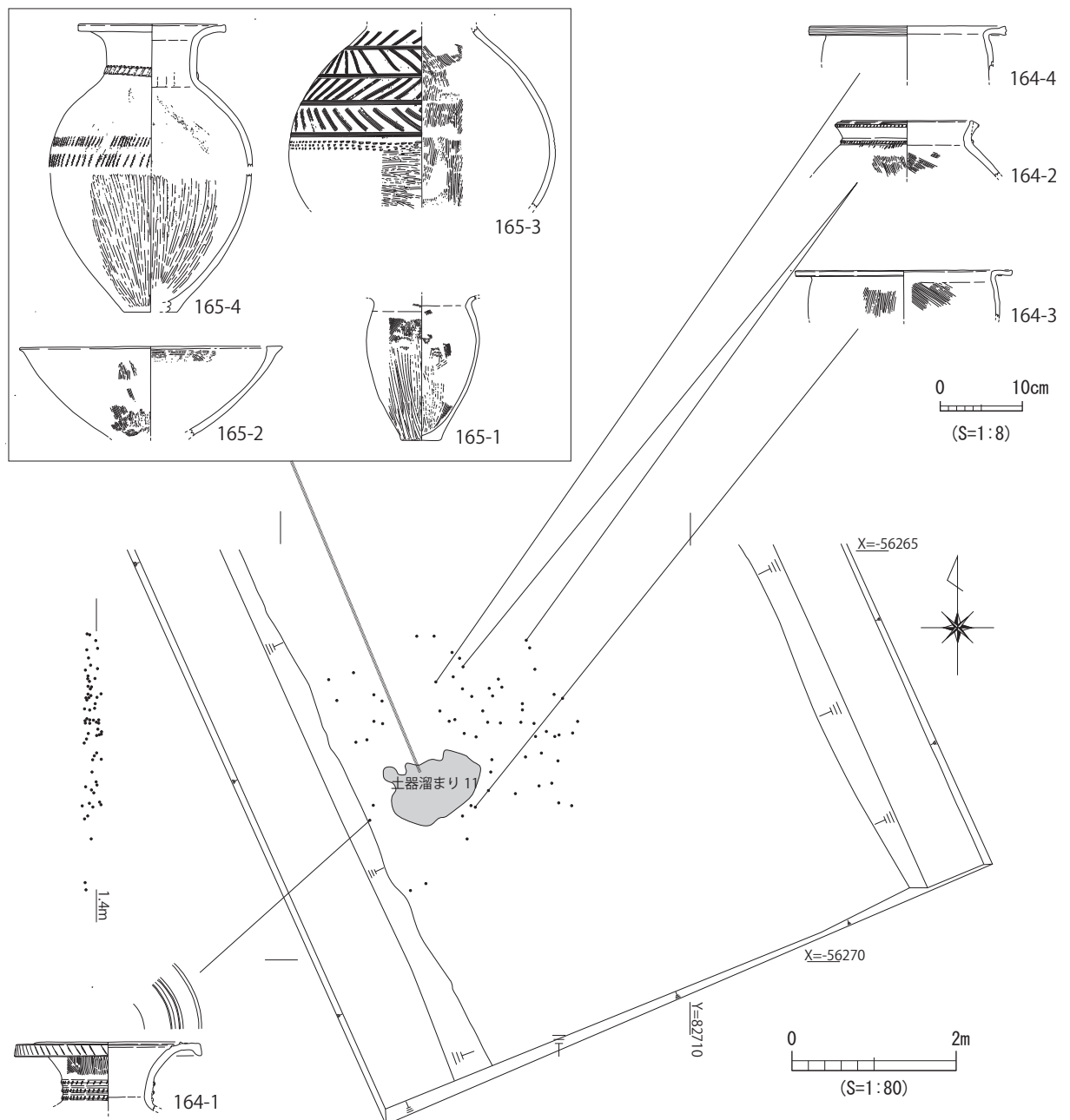
小型の溝 (SK06) との切り合い関係が確認出来ていないことから、少数ではあるがその溝埋土の遺物が混在したまま取り上げた可能性がある。

(4) 黒色土層遺物出土状況 (第 111 図)

A2 区 (北) では上層とした堆積層の下部に黒色土層が堆積していた。この層は、調査区の東側 (標高が高い側) を中心に確認され西側では見られないか層厚が薄い状況であった。この層から出土した遺物は細片以外はその出土地点を記録して取り上げた。平面的な分布はほぼこの層が分布している範囲に重なり、散在する状況で出土した。また、A2 区 (南) では A2 区 (北) 程明瞭にこの黒色土は確認されなかった。

(5) 黒色粘土層遺物出土状況 (第 112 図)

A2 区 (北) では黒色土層の下部で粘性の高い層が見られたことから黒色粘質土層として別層位

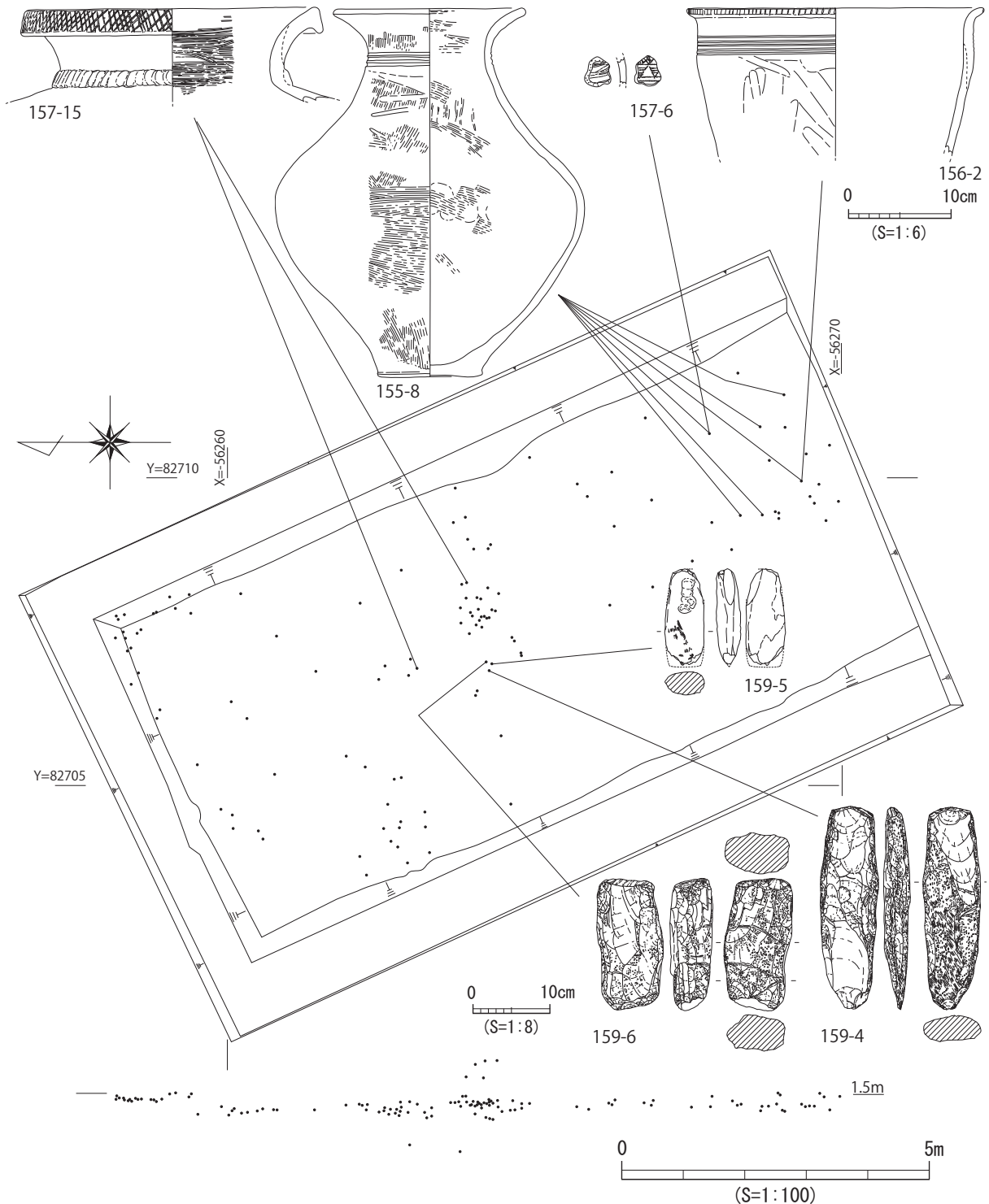


第 112 図 A2 区 (北) SD09 (自然河道) 黒色粘土層遺物出土状況図 (1/80)

で遺物の取り上げを行った。この粘質土層が調査区の西側の極狭い範囲で確認されており、平面的な出土状況もこれと重なる。また、この層位中でも特にまとまって出土した土器群については土器溜まり11としてその範囲を記録して取り上げた。土器溜まり11はやや大型の破片が多く、また黒曜石製の石鏃がまとまって出土し、周囲には炭化物が多く見られる状況であった。

(6) 下層遺物出土状況(第113図)

A2区(北)の黒色粘質土層の下部には灰白色の粘土層(下層と呼称)が堆積しており、A2区(北)全体で確認される層である。遺物の平面的な分布は散在するような状況であった。注目されるの



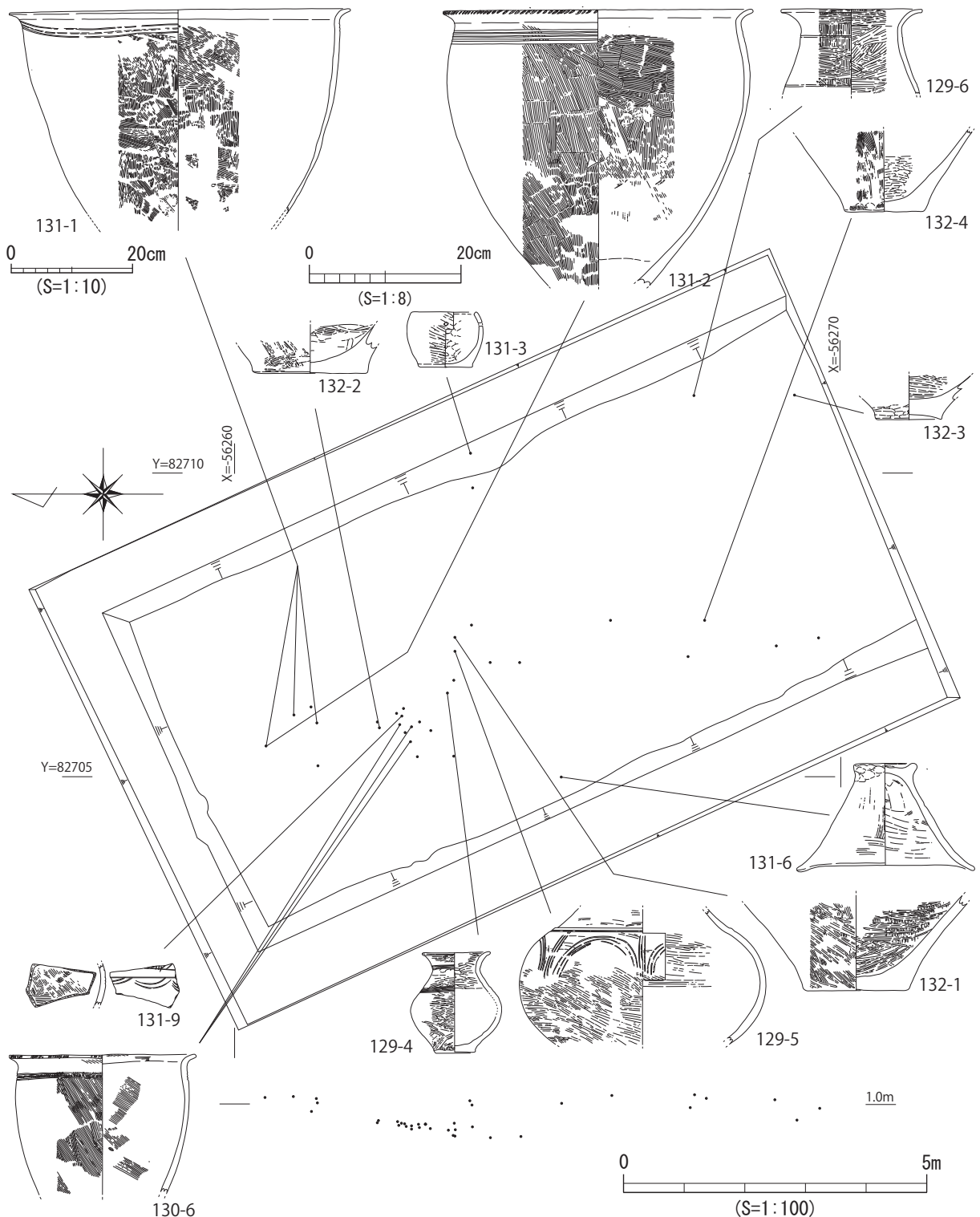
第113図 A2区(北) SD09(自然河道)下層遺物出土状況図(1/100)



は石斧の未製品が3点並んだ状況で出土した点である。出土状況から何らかの意味があり意図的に置かれたものと推測される。また、これ以下の層からは木製品が出土した。

(7)A2区(北)オモカス層遺物出土状況(第114図)

A2区(北)の下層の下部には腐植質粘土(オモカス層と呼称)が比較的厚く堆積しており、これはA2区全体で確認される層である。遺物の平面的な分布は散在するような状況だったが、調査区北側では比較的まとまって出土した。また木製品が多く残存していた。



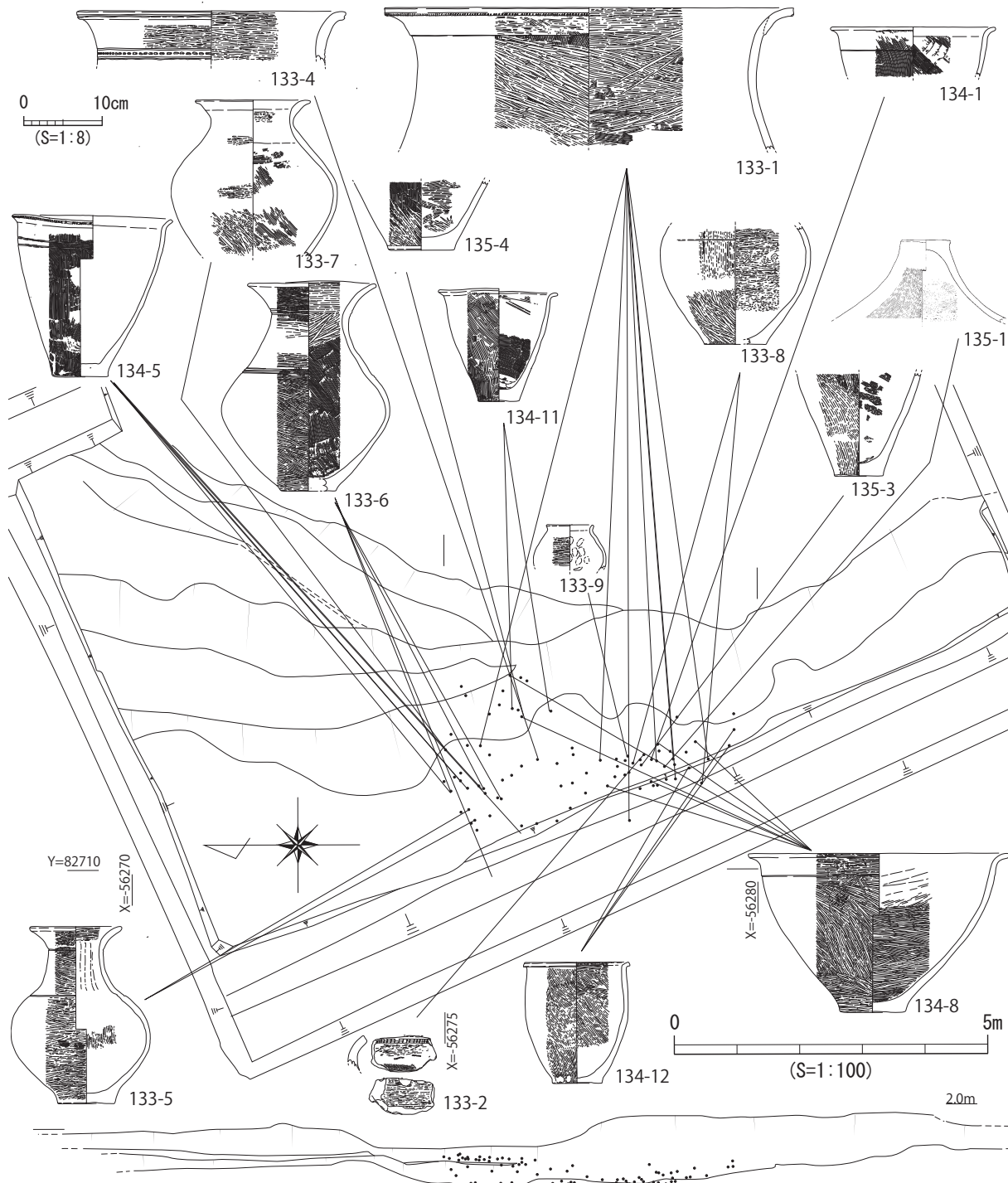
第114図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層遺物出土状況図(1/100)

(8)A2区(南)下層・オモカス層遺物出土状況(第115図)

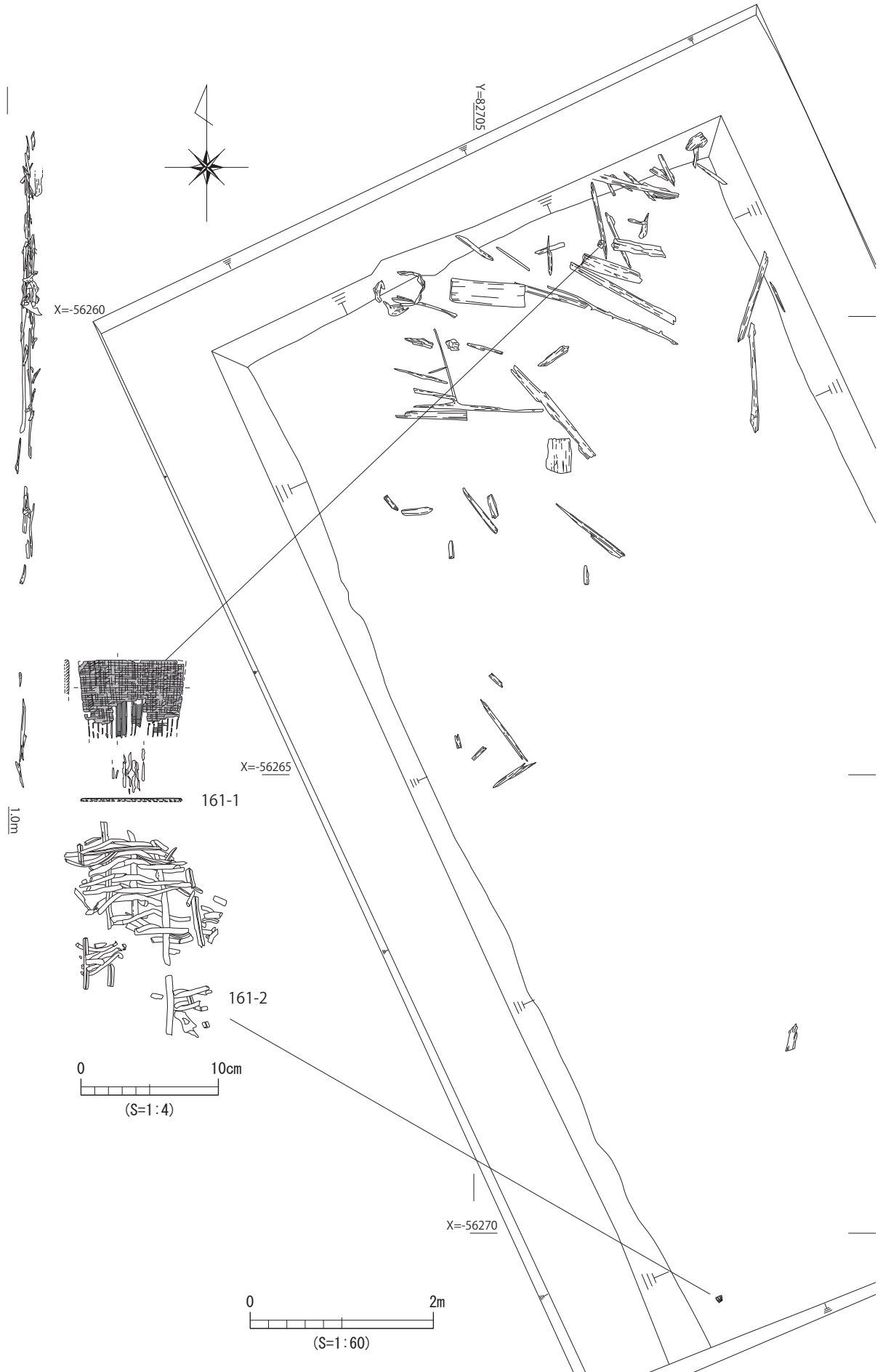
A2区(南)でもA2区(北)と同じように下層とその下部にオモカス層が堆積していた。平面的には深い位置でまとまって出土している傾向があり、木製品も多く見られた。特徴的な出土遺物は下層から出土した漆液容器として使用された弥生土器の壺である。

3. 自然河道(SD09)の木製品出土状況

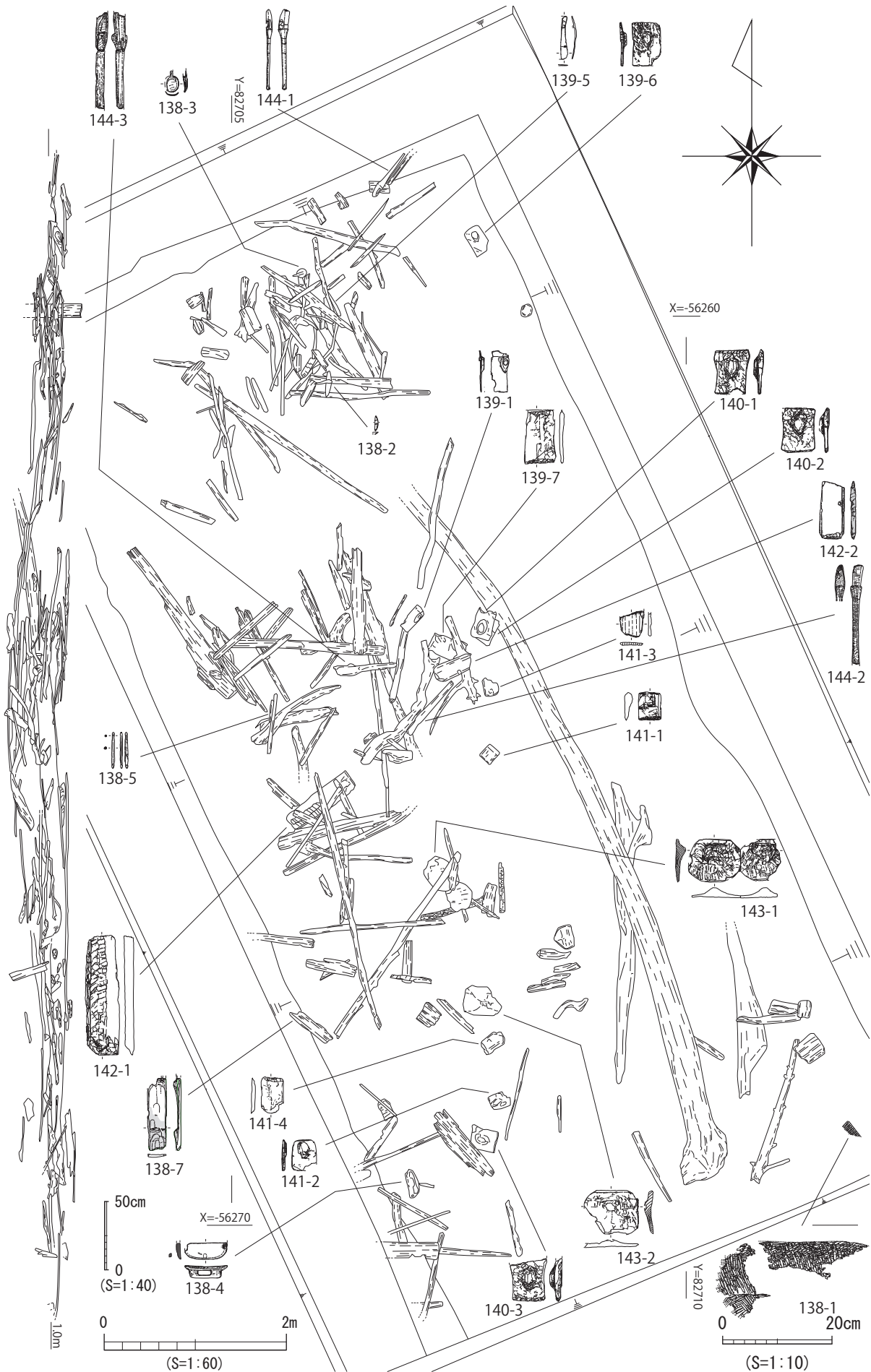
自然河道内のオモカス層(腐植土層)とその上部の下層(灰白色粘土層)からは多くの木製品が出土しており、基本的にその出土状況図を記録してから取り上げた。



第115図 A2区(南) SD09(自然河道)下層・オモカス層遺物出土状況図(1/100)

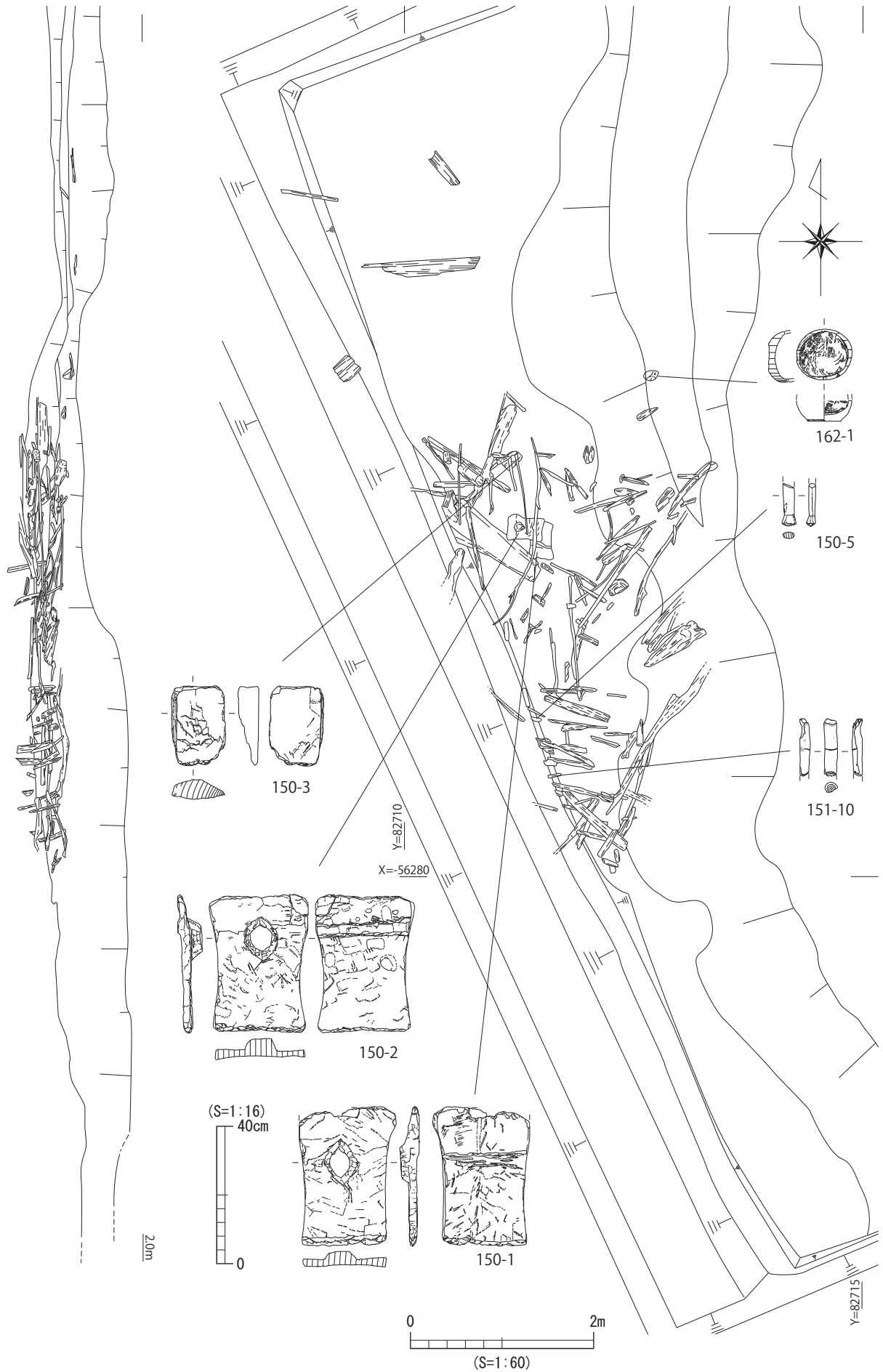


第116図 A2区(北) SD09(自然河道)下層木製品出土状況図(1/60)

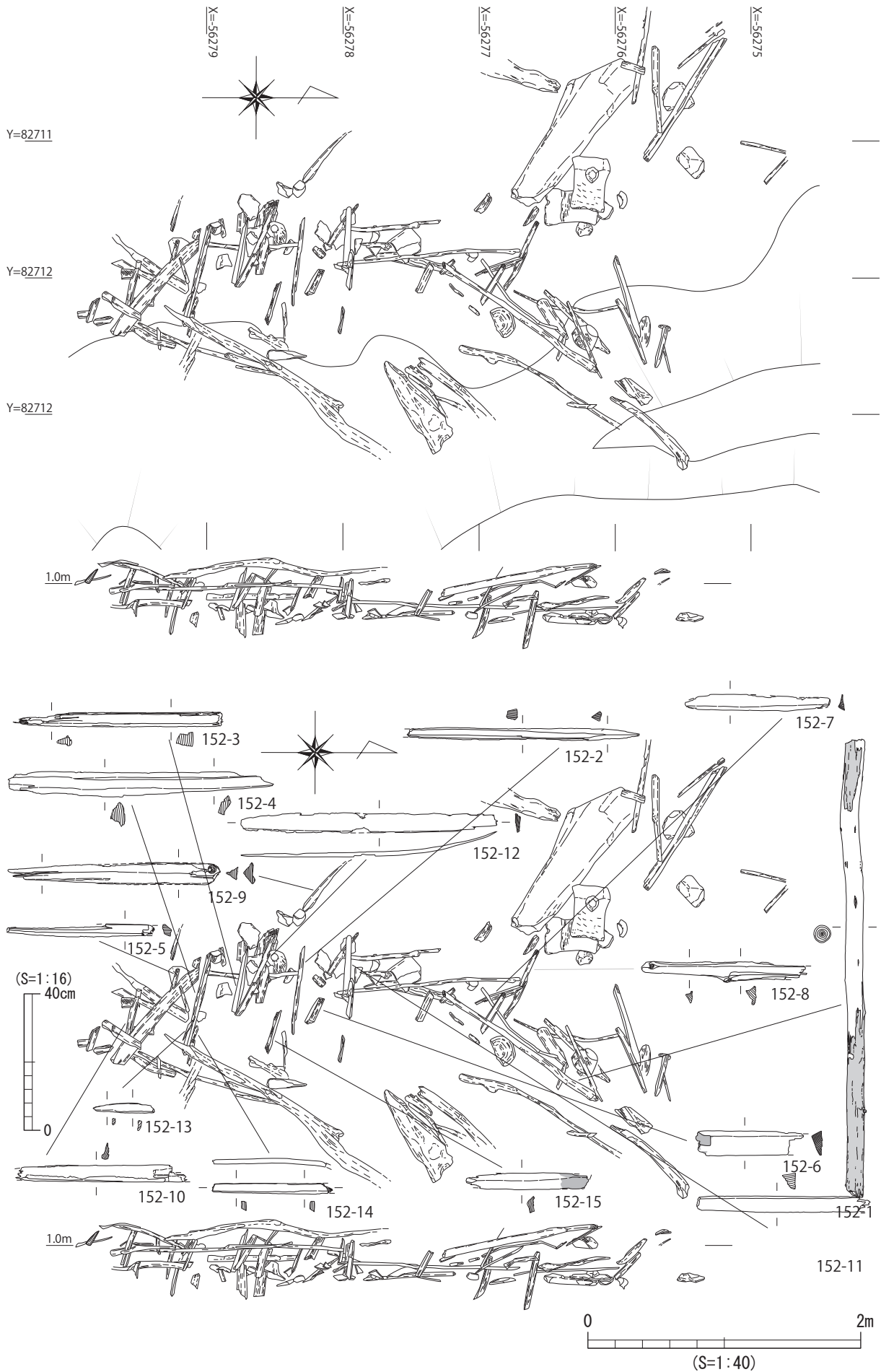


第117図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層木製品出土状況図(1/60)





第118図 A2区(南) SD09(自然河道)下層・オモカス層木製品出土状況図(1/60)



第119図 A2区(南) SD09(自然河道)内SX04(杭列)・オモカス層木製品出土状況図(1/40)

## (1)A2区(北)下層木製品出土状況(第116図)

A2区(北)の下層からは、ほとんどが用途不明なものが多いものの、多くの木製品が出土した。木製品の分布状況は調査区の北側に集中しており、おそらくそれが河道の最深部(中央部)にあたる範囲であろう。その中には下層の下部に堆積するオモカス層と所属する層位について判断が困難なものもあったが、それらの遺物は下層出土のものとして取り上げた。出土した木製品には漆塗櫛等がある。

## (2)A2区(北)オモカス層木製品出土状況(第117図)

A2区(北)の下層の下部に堆積したオモカス層からは木製品が全面から出土した。特に河道の最深部(中央部)に沿うように平面的に出土した。また、径25cm前後、長さ8m以上の自然木が倒れた状態で出土しており樹種はムクロジである。この層からは、鍬・泥除けといった農耕具や斧柄といった木製品の未製品が多く出土した。これらは、種類ごとに比較的まとまって出土した点が特徴的である。

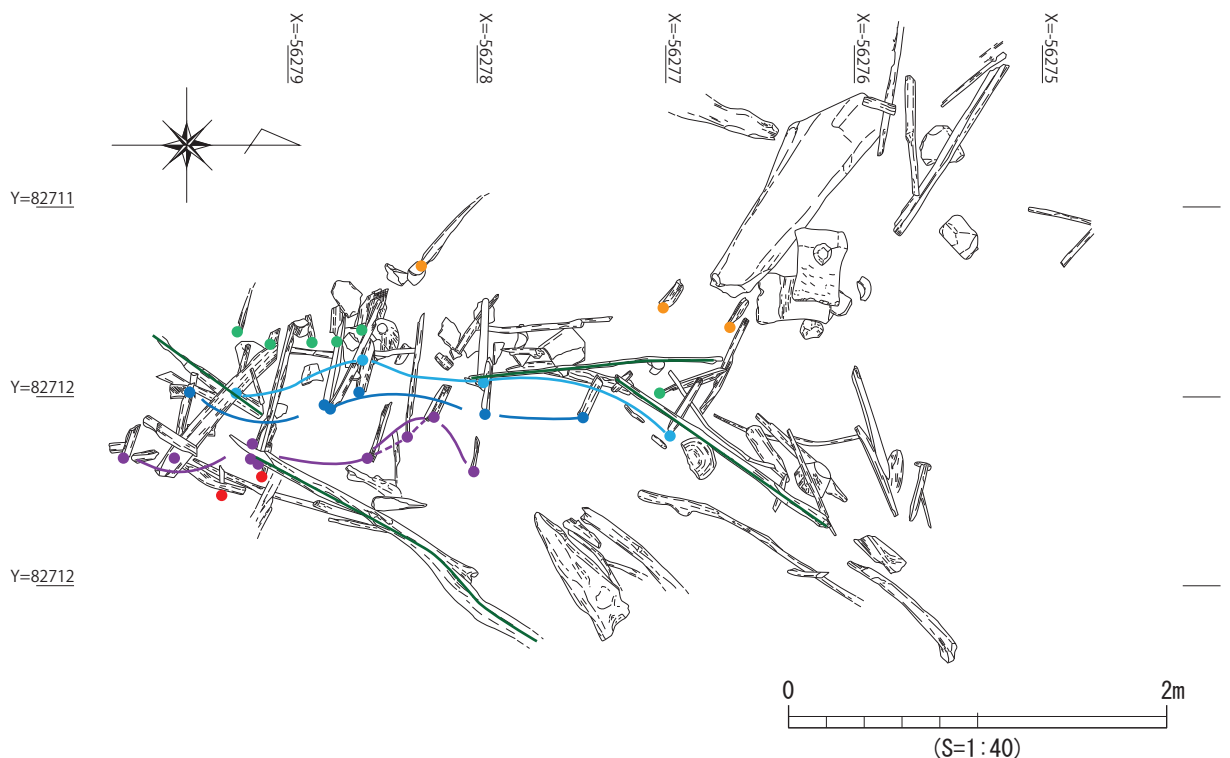
## (3)下層・オモカス層木製品出土状況(第118図)

A2区(南)では、下層、オモカス層ともに木製品が出土した。下層からの出土はわずかであるが、木製の容器などがある。オモカス層からは、後述する杭列(SX04)周辺で多く出土しており、A2区(北)でも多くみられた鍬未製品がいくつか出土した。

## (4)河道内杭列(SX04)検出状況(第119・120図)

A2区(南)ではオモカス層から杭列が検出された。杭列周辺では多くの木製品が出土したが、ほとんどが製品ではなく割材や端材の類と考えられる。

杭のほとんどは上部が折れ西側(川の中央側)に倒れた状態で検出されており、下部は砂礫層



第120図 A2区(南) SD09(自然河道)内SX04(杭列)配置概念図(1/40)

に達し、一部が原位置を留めている。第119図は杭列と関連性の無いものと判断した木製品を除いた状態の出土状況図である。杭列は何列かのまとまりで捉えることができる。第120図は杭列を概念化して表現したものである。これによると杭列は5列以上あるものと考えられ、いずれも南北方向に並び、河道に並行するものである。また、杭列に沿って横木状の自然木が設けられていた可能性が考えられる。杭は30～70cm程の間隔で打ち込まれていたと考えられる。

杭は樹種同定の結果、ほとんどのものがスギの割材である。

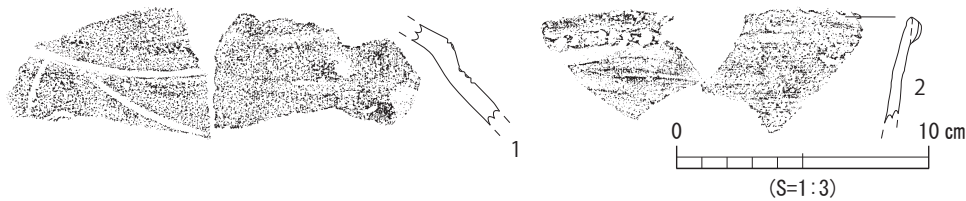
#### 4. 自然河道(SD09)出土遺物

##### (1) 砂礫層出土遺物(第121～126図)

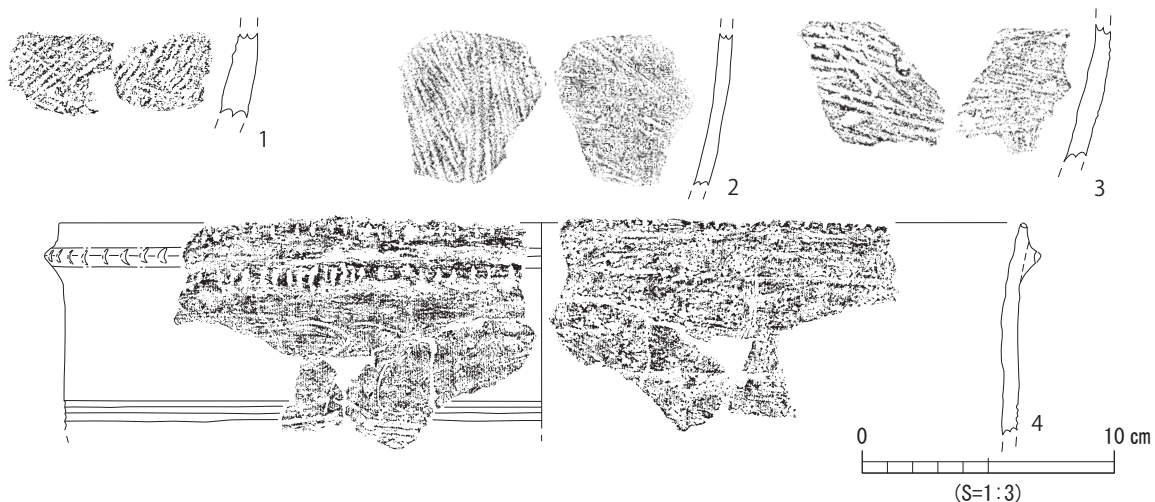
自然河道の最下部に堆積した砂礫層からは、縄文土器・弥生土器・土製品・木製品が出土した。

**縄文土器(第121・122図)** 第121図はA2区(北)から出土した縄文土器である。1は末端が刺突文となる沈線文が施され、巻き貝による疑似縄文が見られる壺形のものであり後期の権現山式新段階に属すると考えられる。2は口縁端部に刻目のある突帯文土器であり晩期に属すると考えられる。

第122図はA2区(南)から出土した縄文土器である。1は無節のL縄文と考えられる縄文がみられる深鉢であり、早期のものと考えられる。2は外面に二枚貝条痕、内面に巻貝条痕がみられ前期に属す可能性が考えられる。3は内外面に二枚貝条痕が施され時期は明確にできないが前期の可能性はある。4は二枚貝による刻目が口縁端部に入り、やや下方にも同様な刻目のある突帯文を貼り付けた土器であり、突帯文の下方には二枚貝による圧痕が見られる。晩期に属すると考えられる。



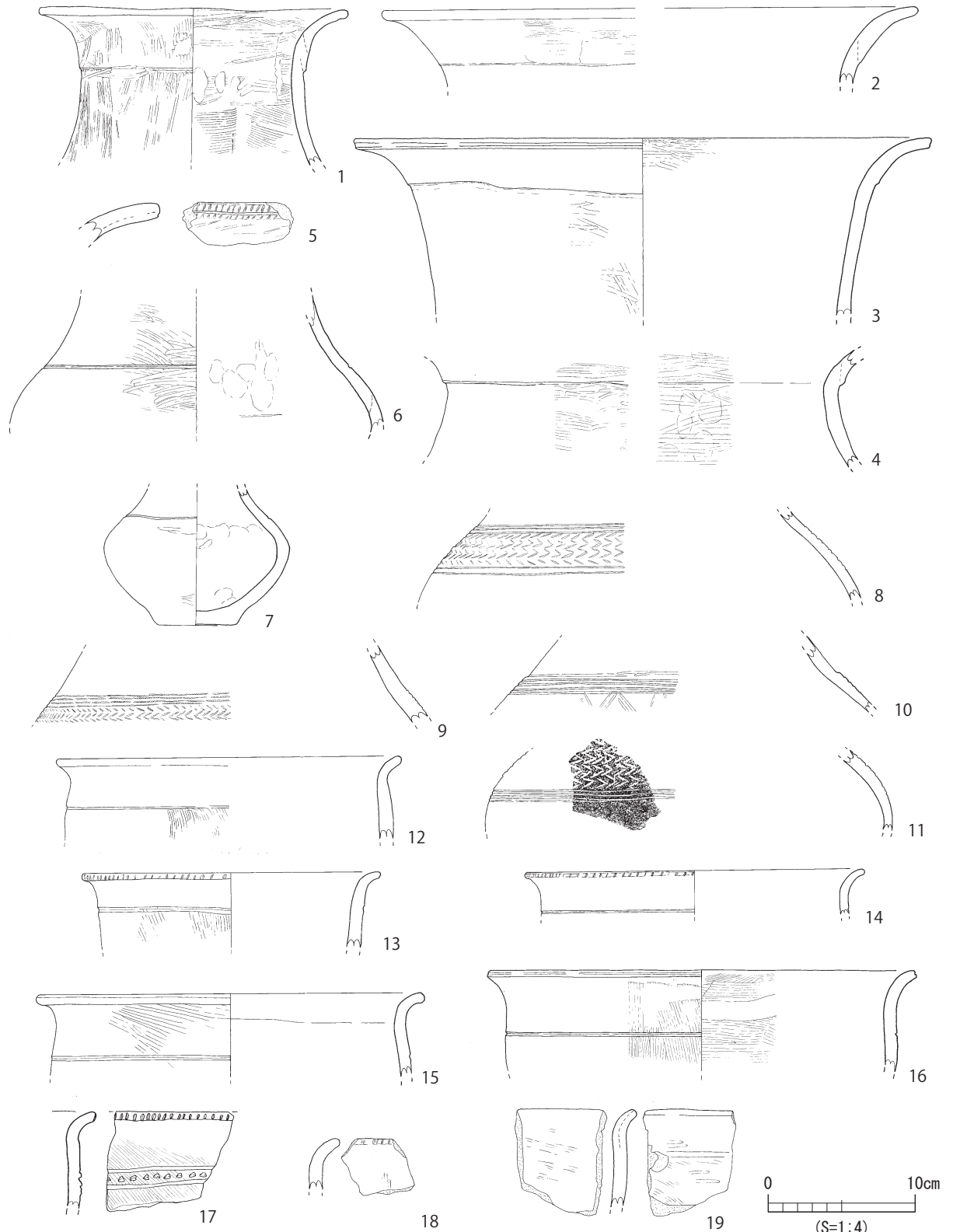
第121図 A2区(北) SD09(自然河道)砂礫層出土縄文土器実測図(1/3)



第122図 A2区(南) SD09(自然河道)砂礫層出土縄文土器実測図(1/3)



弥生土器・土製品(第123～125図) 第123・124図はA2区(北)から出土した弥生土器・土製品である。第123図1～11は壺である。1～4は口縁部と頸部境に段を設ける壺であり、4はハケ状工具によって段を設けている。5は口縁端部の破片であり沈線と刻み目が施されている。6～11は壺の頸部から胴部の破片である。6は頸部と胴部境に段状の沈線が1条はいる、7は小



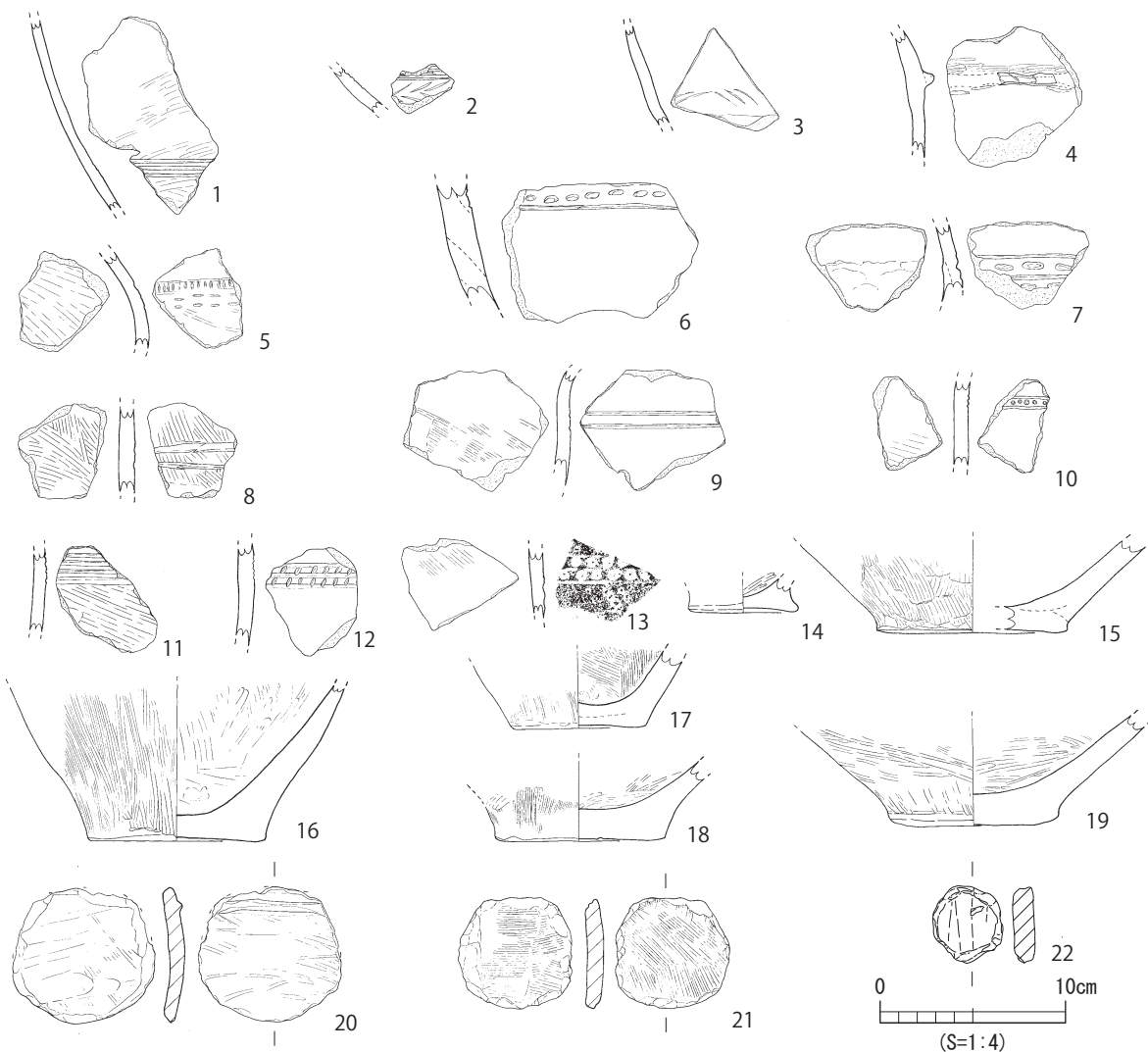
第123図 A2区(北) SD09(自然河道)砂礫層出土弥生土器実測図(1/4)

型のもので頸部と胴部境に1条の直線文がはいる。8は2条のへら描き直線文の間にへら描きの羽状文が施され、9は貝殻による4条の直線文の下に複線羽状文が施されている。10は頸部と胴部境に段を設け4条のへら描き直線文とその下に山形文が施される。11は羽状文の下に4条のへら描き又は貝殻腹縁による直線文が施される。

第123図12～19は甕である。12は段を設けるもので、13～16は1条のへら描き直線文が施されている。17は2条のへら描き直線文の間に刺突文が組み合わさる。18・19は無文のものであるが、18は口縁端部に刻み目が入る。

第124図1～13は壺又は甕の文様部分の破片である。1～6は壺の破片と考えられ、1は壺の頸部と胴部境に段を設けその下に2条の直線文が入る。2・3も頸部に段を設けるもので、2はへら描きの2条の直線文と羽状文が入り、3は山形文が組み合わさる。4は刻み目のある突帯が貼り付けられる。5・6はへら描き直線文と刺突文が組み合わさるものである。

7～13は甕と考えられる。7は2条のへら描き直線文と刺突文が組み合わさる。8・9は2条のへら描き直線文が施され、11は4条のへら描き直線文が施される。10・12・13はへら描き直線文と刺突文が組み合わさる。



第124図 A2区(北) SD09(自然河道)砂礫層出土弥生土器・土製品実測図(1/4)

14～19は底部であるが、14は蓋である可能性も考えられる。20～22は土器転用円盤状土製品である。

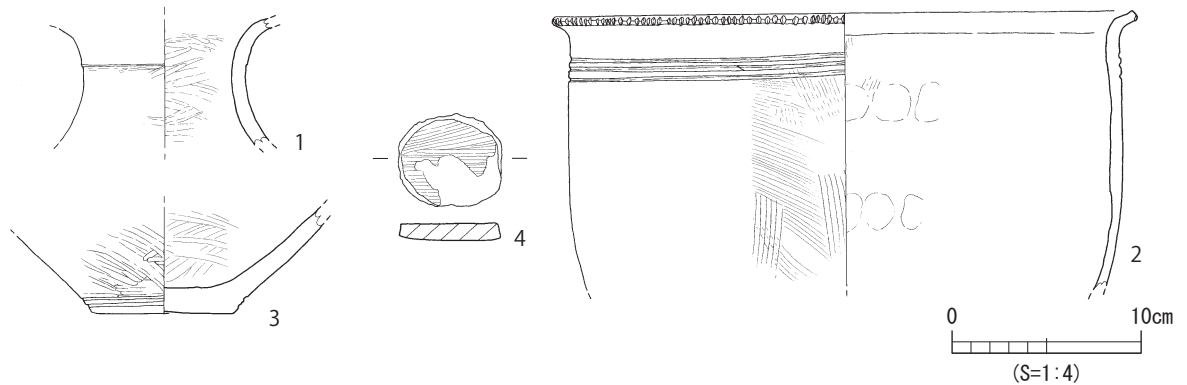
第125図はA2区(南)出土の弥生土器・土製品である。1は壺で口縁部と頸部境に段を設け、口縁部は外反するものである。2は甕で口縁端部に刻み目が入り3条のへら描き直線文が施される。3は壺の底部と考えられ、底部外周にへら描きの2条の直線文が施される。4は土器転用円盤状土製品である。

**木製品(第126図)** 1・2はA2区(北)の砂礫層から出土した木製品である。1はイヌガヤ製のタモ網の枠と考えられ、2はマキ属製で先端が尖ることから杭の可能性が考えられる。

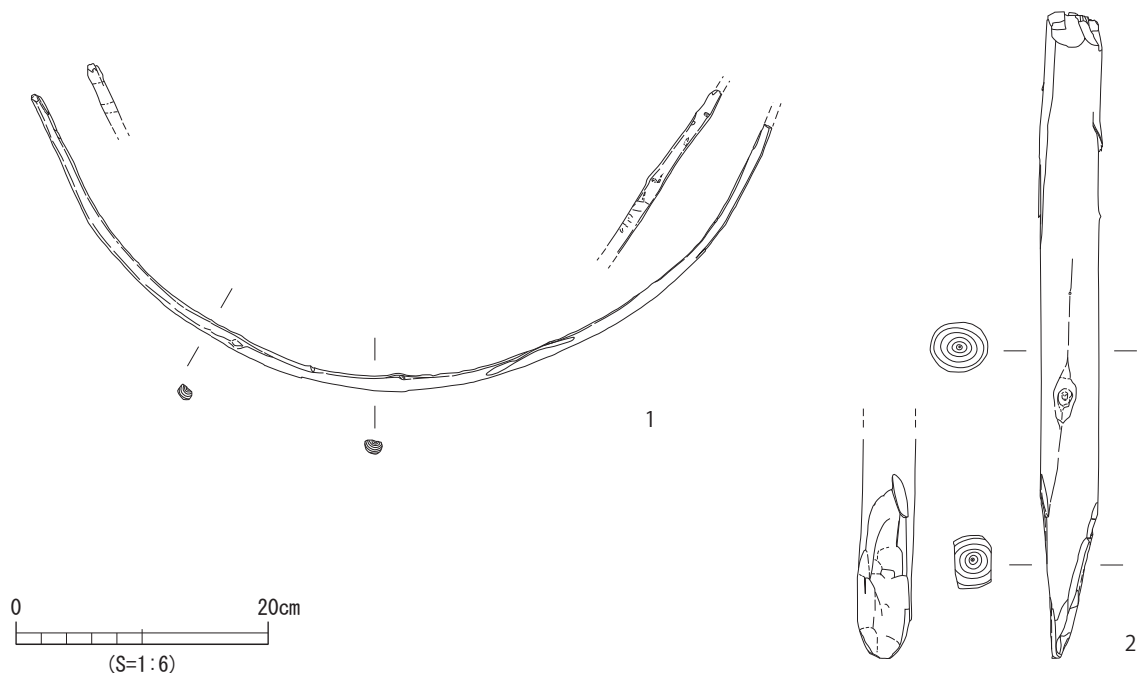
(2) オモカス層出土遺物(第127～151図)

オモカス層(腐植質粘土層)からは縄文土器・弥生土器・土製品・石器・石製品・木製品が出土した。

**縄文土器(第127・128図)** 第127図はA2区(北)から出土したものである。1は半裁竹管状工具による押引文が施され前期の西川津式に相当するものと考えられる。2はRL縄文が施されている可能性があり、時期は不明確であるが早期のものである可能性が考えられる。3は外面に



第125図 A2区(南) SD09(自然河道)砂礫層出土弥生土器・土製品実測図(1/4)



第126図 A2区(北) SD09(自然河道)砂礫層出土木製品実測図(1/6)

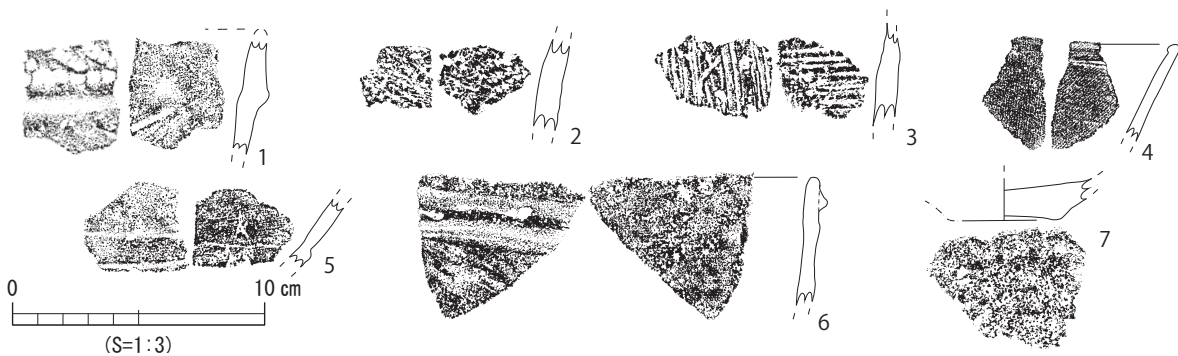
二枚貝条痕がみられ不明確ながら前期の可能性はある。4～6は晩期に属すものと考えられ、4は口縁端部内面が肥厚しており篠原式に、5は篠原～谷尻式に相当する。6は口縁部付近に突帯文が貼り付けられた突帯文土器である。7は後期～晩期の底部である。

第128図はA2区(南)から出土した。晩期に属すと考えられ、1は口縁端部内面に孔列文が施され、篠原式併行のものと考えられる。2は浅鉢、3は突帯文土器であり、突帯には半裁竹管状の工具による刺突文が施される。

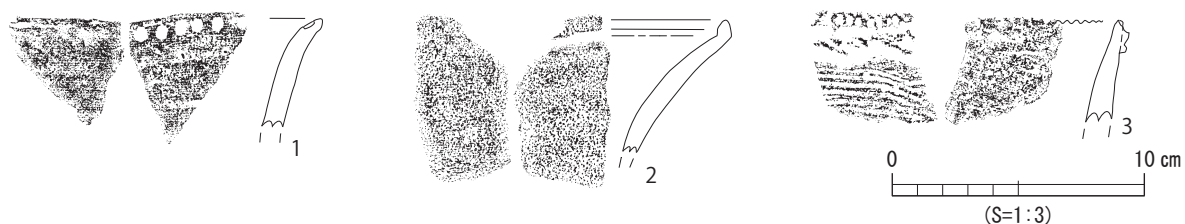
**弥生土器(第129～135図)** 第129～132図はA2区(北)から出土した。第129図は壺である。1～4は口縁部と頸部境に段を設けるもので、4は頸部と胴部境にも段を施しその下に2条のヘラ描き直線文が施される。5は頸部と胴部境に段を設けその下方に直線文と重弧文が施されている。6は口縁部と頸部境及び頸部と胴部境のそれぞれにヘラ描き直線文が1条施される。7は口縁部と頸部境に2条のヘラ描き直線文が施され、8は口縁部と頸部境及び頸部と胴部境のそれぞれに2条のヘラ描き直線文が施される。9は突帯が設けられ、10は口縁部と頸部境に沈線が施され突帯状になる。11～13は口縁部の破片である。14は頸部と胴部境には段・直線文等は見られないが、同心円の二重の突帯が貼り付けられた異形のものである。15は口縁部と頸部境に6条のヘラ描き直線文が施される。16は胴部下半であり、底部外面にヘラ描きによる直線文が3条施されている。

第130図は甕である。1はハケ状工具による段が施され、2・3は1条のヘラ描き直線文が施される。4・5は2条のヘラ描き直線文が施され、口縁端部には刻み目が施される。6・7はヘラ描き直線文と刺突文が組み合わさった文様が施され、6は各1条の直線文の間に刺突文が施されているが、7は2条の直線文が刺突文に挟まれている点がやや珍しい。8～11は無文の甕であり、8には口縁端部に刻み目がはいる。

第131図1・2は大型の甕であり、1は本報告で調査した鶴場地区内で出土した甕の中では最大



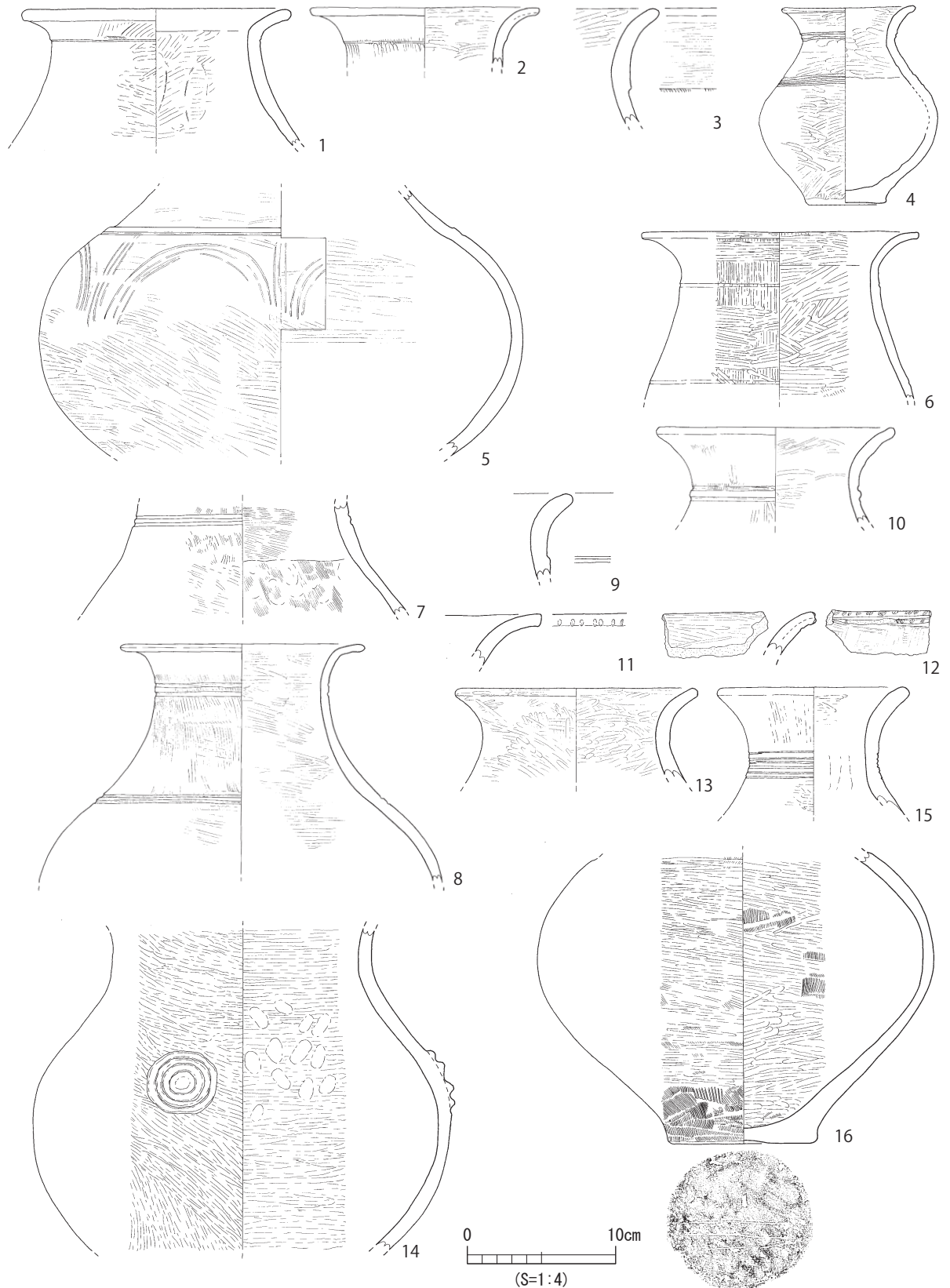
第127図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土縄文土器実測図(1/3)



第128図 A2区(南) SD09(自然河道)オモカス層出土縄文土器実測図(1/3)



のもので3条のヘラ描きの直線文が施されている。2は4条のヘラ描きの直線文が施され、口縁端部には刻み目がある。3は小型の無頸壺であり円形の孔が見られる。4・5は小柄の鉢であり、4は体部が外反気味に立ち上がり、口縁部が若干外側に折れるもので出土量の少ない形態のもの



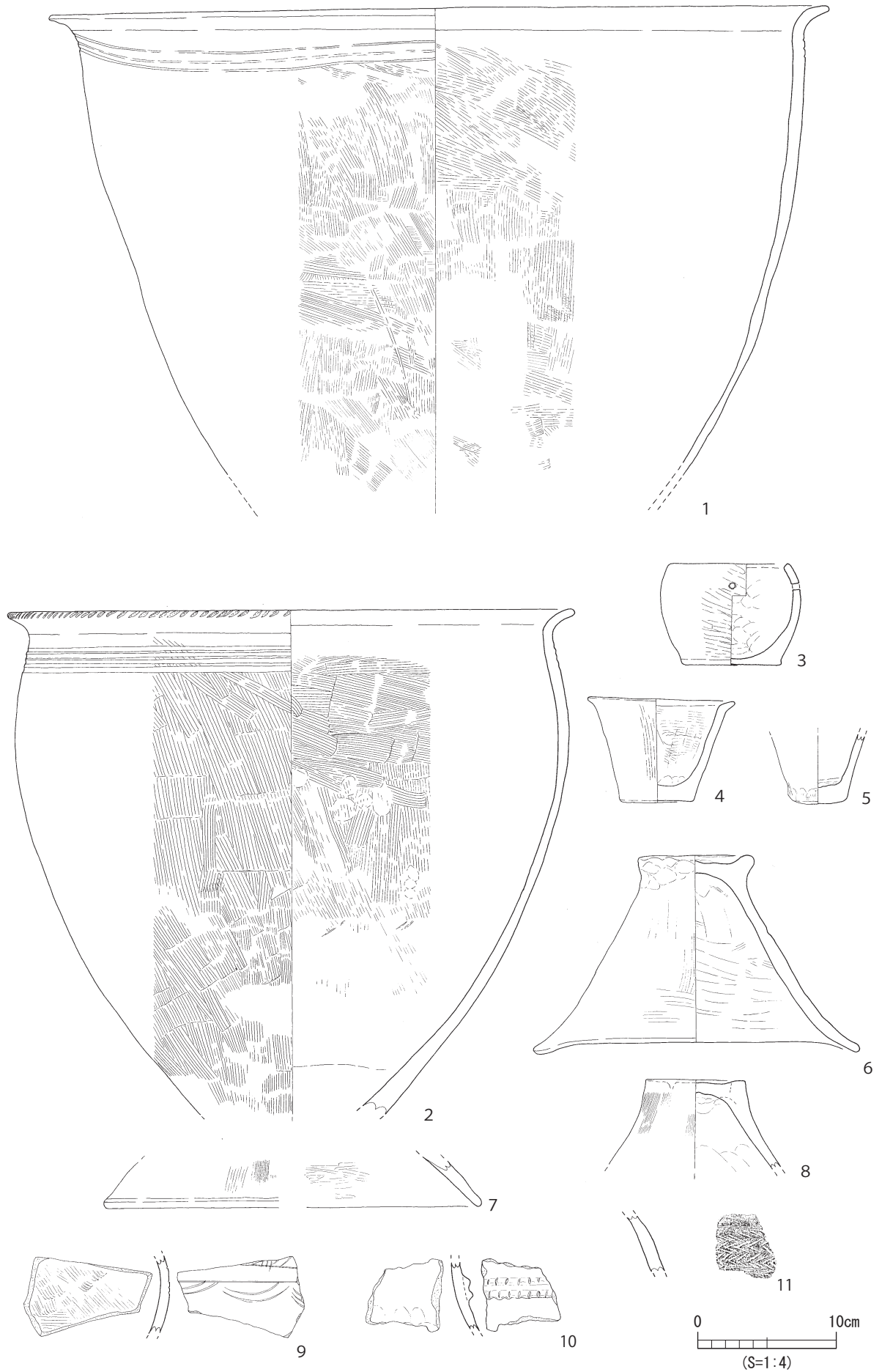
第129図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土弥生土器実測図一1-(1/4)

である。6～8は蓋であり、6は頂部がやや凹んでいる。9～11は壺の紋様部分の破片であり、9は重弧文が、10はM字状の突帯に刻み目がはいるもので、11は直線文の間に羽状文が施されている。

第132図1～8は壺又は甕の底部であり、8の底部には穿孔が見られる。9～11は土器転用円盤状土製品、12は楕円形状を呈す土錘である。



第130図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土弥生土器実測図-2-(1/4)

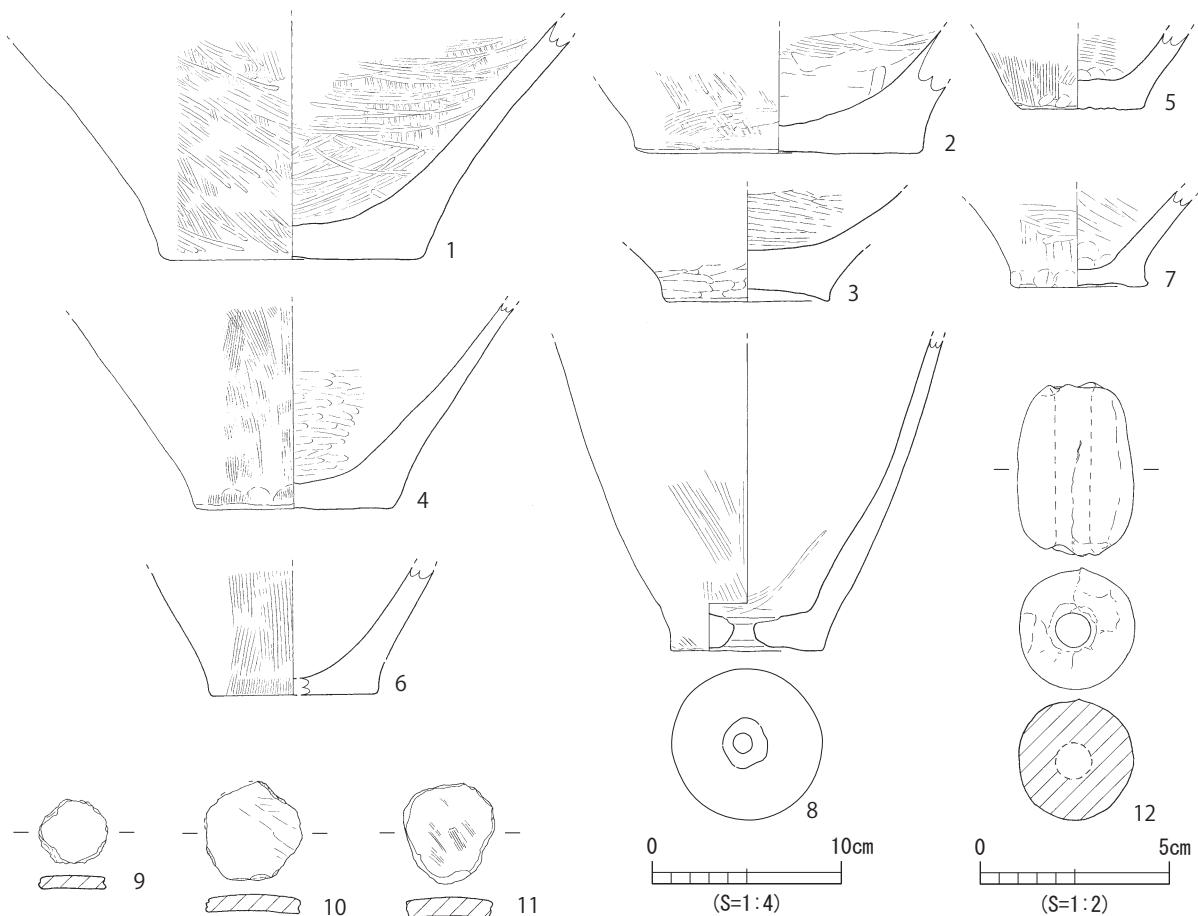


第131図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土弥生土器実測図一3一(1/4)

第133～135図はA2区(南)から出土した。第133図は壺である。1は非常に大型の壺の口縁部で、今回の発掘調査で出土した弥生土器の壺の中では最大のものである。口縁端部下端には刻目が入り口縁と頸部境には段が設けられ、口縁部は短く外反する形態のものである。2は刻み目のある口縁端部の破片、3は口縁部と頸部境に段を設ける。4は口縁部と頸部境に直線文と刺突文が施され口縁端部には沈線がはいる。5は口縁部と頸部境及び頸部と胴部境に1条のヘラ描き直線文が施され頸部が細い形態のものである。6は口縁部と頸部境に2条の、頸部と胴部境に3条のヘラ描き直線文が施される。7は頸部の短い無文の壺で口縁部が肥厚する形状のものである。8は壺の胴部下半である。9は小型の短頸壺で肩が張らない形態のものである。

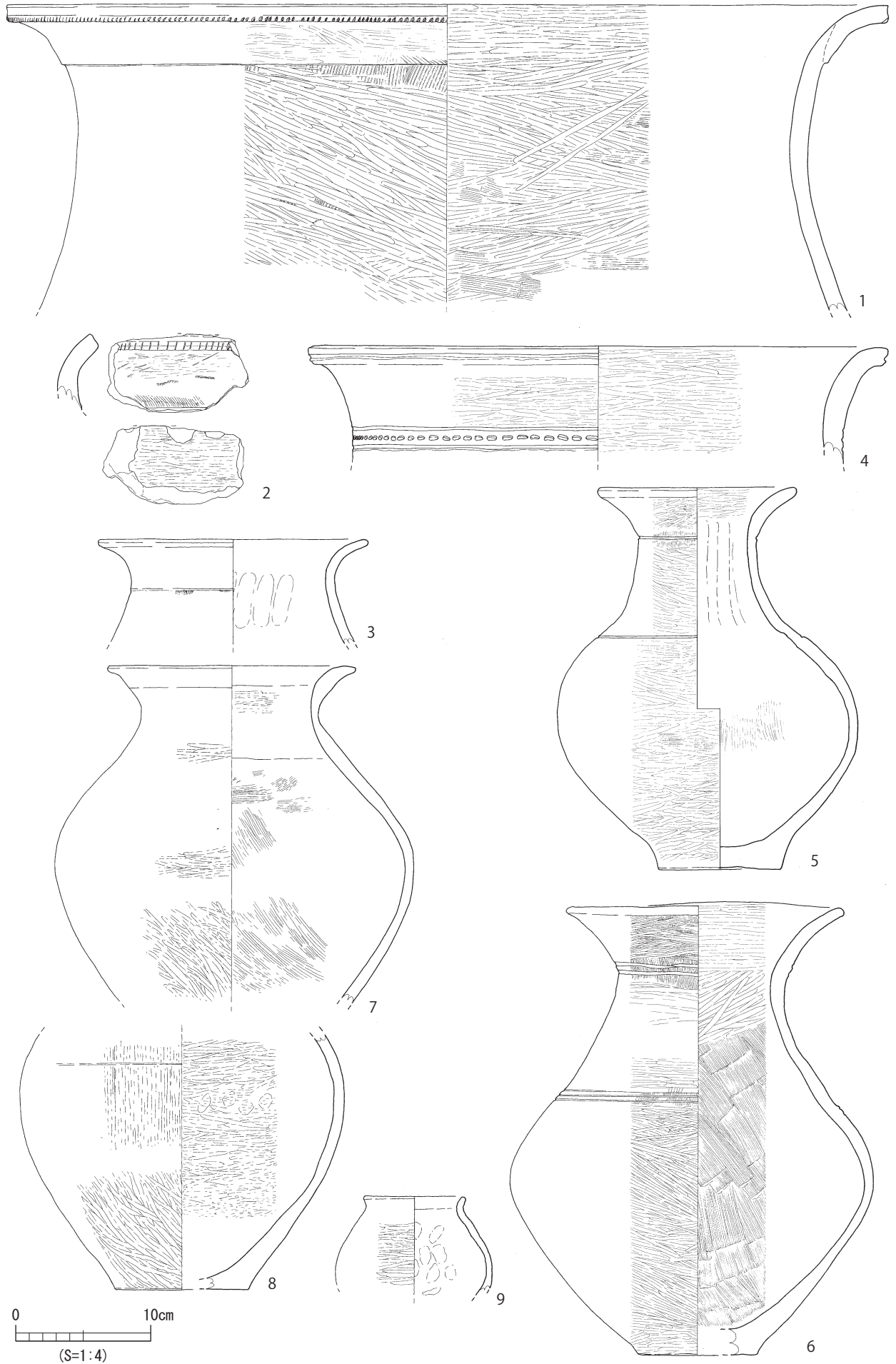
第134図は甕又は鉢である。1・2は段を設ける甕であり、1はハケ状工具により段を設け、2は口縁端部に面を持ち刻み目が施されるはいるやや異形のものである。3は1条の直線文がはいり、口縁端部下端に刻み目が施される。4・5は2条のヘラ描き直線文がはいり、5には口縁端部下端に刻み目がはいる。6は3条の直線文と竹管状の工具による刺突文が組み合わさるものである。7～9は鉢であり、7・8にはハケ状工具による段が設けられている。10は鉢又は甕で口縁端部に刻み目がはいる。11・12は無文の甕であり、12は口縁部が短く折れ端部に面を持つ珍しい形状のものである。

第135図1・2は蓋、3・4は底部である。5はヘラ描き直線文が2条施された甕片を転用した円盤状土製品である。6は小型品の丸底の底部であり、詳細は分からないが土笛の可能性も考えら

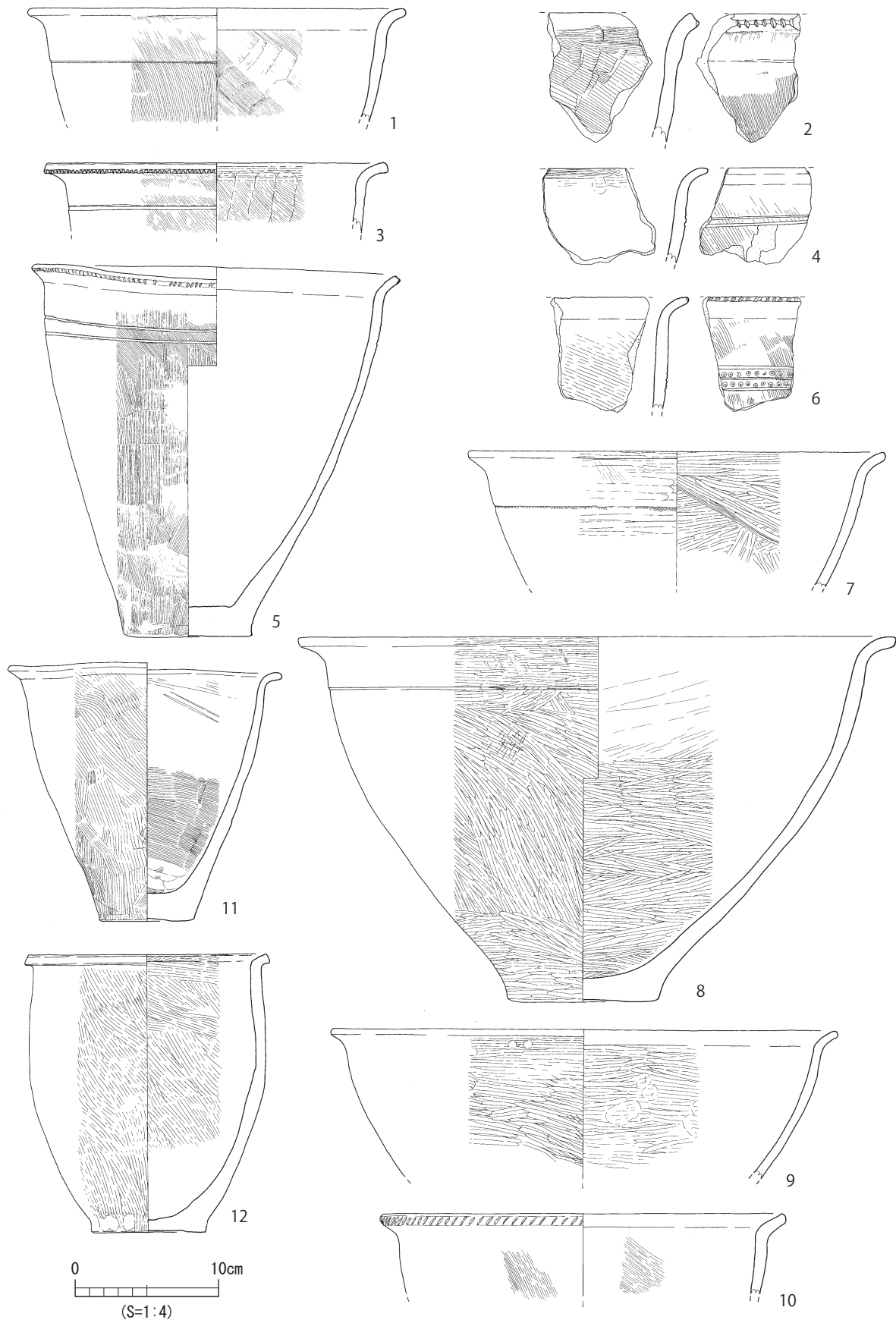


第132図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土弥生土器・土製品実測図(1/4・1/2)





第133図 A2区(南) SD09(自然河道)オモカス層出土弥生土器実測図一1-(1/4)



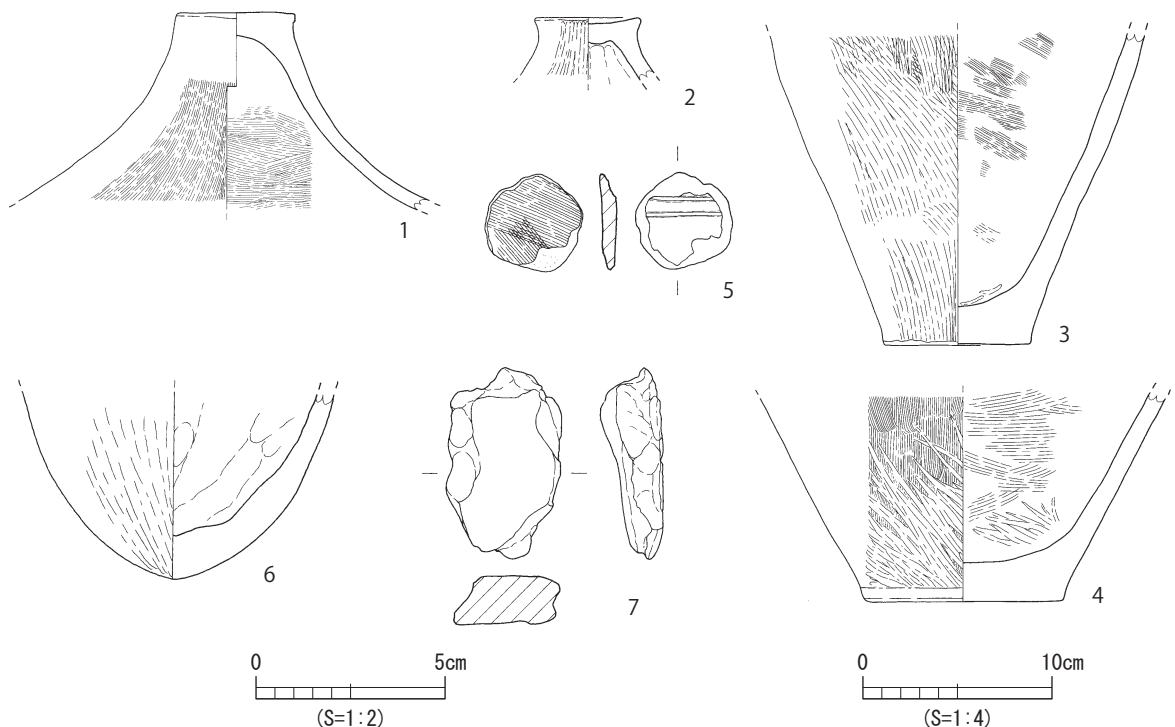
第134図 A2区(南) SD09(自然河道)オモカス層出土弥生土器実測図一2-(1/4)

れる。7は不定形のもので手づくねの焼成粘土塊である。

**石器・石製品(第136・137図)** 第136図1はA2区(南)出土の頁岩製の石鎌の破片であり、先端部が欠損している。

第137図はA2区(北)から出土したもので、1は頁岩製で、孔があることから明確ではないが石包丁の破片と考えられる。2は片岩製の磨製片刃石斧と考えられる。3は頁岩製の紡錘車片であり研磨痕が残る。

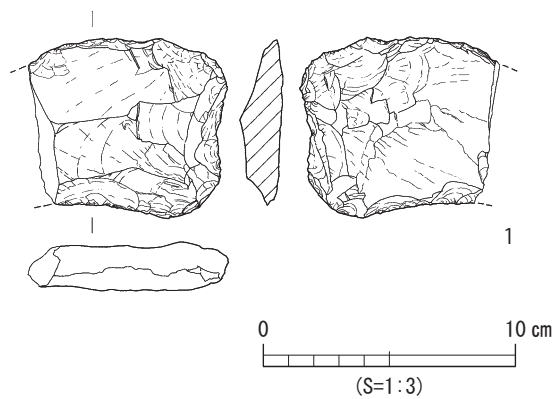
**木製品(第138～151図)** 第138～149図はA2区(北)から出土した木製品である。第138図1は編み物であり籠等の可能性が考えられる。接点のない2塊が出土した。1の左側の図は口縁部～体部、そして下方の部分は底部の可能性のあるもので、右側の図は口縁部～体部である。右側の図からは口縁部が仕舞部分を入れ8段と考えられ左撚りの横添えもじり編みである。体部は二本超二本潜一本送の網代編みが10段以上残ると考えられ、左側の図を組み合わせると14段に復元される。左側図の底部の可能性のある部分は2本1単位の二本超二本潜一本送の網代編みである。2は樹種がヤマグワで3片に分かれているが接合すると平坦なものではないことから容器の口縁部と判断され、楕円形状の鉢の口縁部になるものと考えられる。3はヤマグワ製の杓子であり端部が欠損し、全体的に黒色を呈しており火を受けたものかもしれない。4はスギ材の腰掛と考えられ、平面形は隅丸方形を呈する。脚部分は方形に刳り抜かれている。5はスギの有頭棒であり両端部に抉りがはいる。6はサカキ製であり用途は不明であるが、平坦な面をもち端部が厚くなることから緊縛棒である可能性が考えられる。7はスダジイ製の梯子である。両端部は欠損しており、また一部が炭化していることから火を受けたものと考えられる。連結材の可能性のある楔状の木片が残存する。



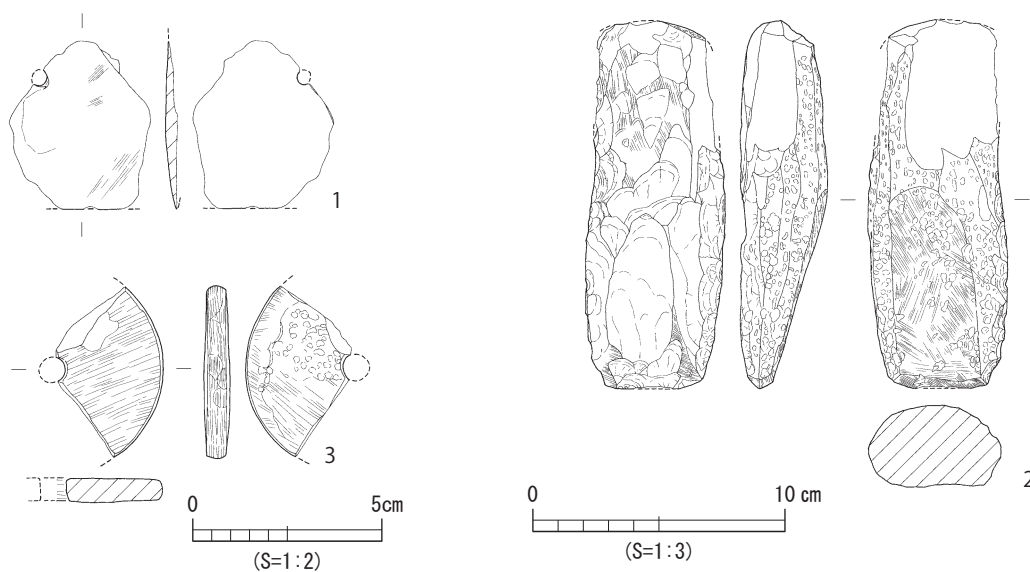
第135図 A2区(南) SD09(自然河道)オモカス層出土弥生土器実測図一3一(1/4・1/2)

第139図はコナラ属アカガシ亜属製の農耕具であり1～5は鍬の製品、6・7は鍬の未製品である。1は柄孔に舟形隆起を設け、頭部の側縁には切れ込みが入り、上端面には半円形状に刳り込みがあったと考えられる。側縁は直線的であり裏面には泥除けを固定するための突帯が設けられている。2は舟形隆起周辺の鍬の破片であり裏面に突帯が設けられている。3は鍬先の一部と考えられる。4は板状のものであるが形状・厚さ樹種から鍬の一部と判断した。5は側縁が湾曲するタイプの鍬先の一部と考えられ、裏面には欠損しているが残存部から突帯が設けられていたと考えられる。6は鍬未製品であり、未貫通の柄孔の舟形隆起と裏面には突帯を作り出す途中の段が見られる。側縁は直線的な平面形状である。7は舟形隆起が剥離したものである可能性が考えられる未製品であり、裏面は平坦であるが、工具加工痕の違いから突帯等の加工を行う途中のものであった可能性がある。側縁は直線に近いがやや弧状を呈すものである。なお詳細は第6章で報告しているが、6・7の鍬先未製品はAMS年代測定を実施しており、6は $2379 \pm 29\text{yrBP}$ 、7は $2518 \pm 25\text{yrBP}$ の測定結果であった。

第140図の3点はコナラ属アカガシ亜属製の鍬先未製品であり、3点とも舟形隆起が作り出され、側縁が弧状となる平面形のものである。1は裏面に突起を作り出す途中と考えられる段が見

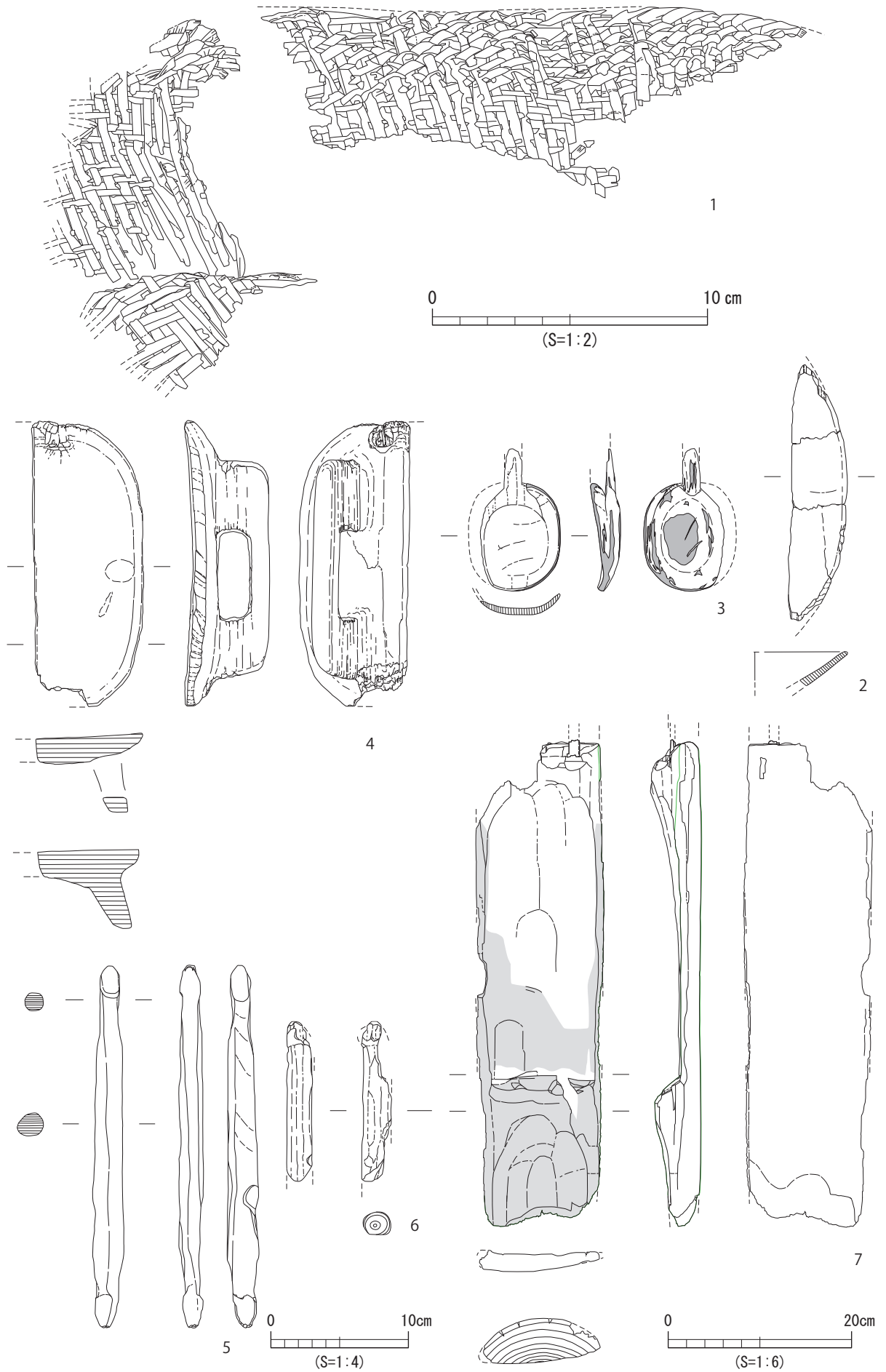


第136図 A2区(南) SD09(自然河道)オモカス層出土石器実測図(1/3)



第137図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土石器・石製品実測図(1/3・1/2)

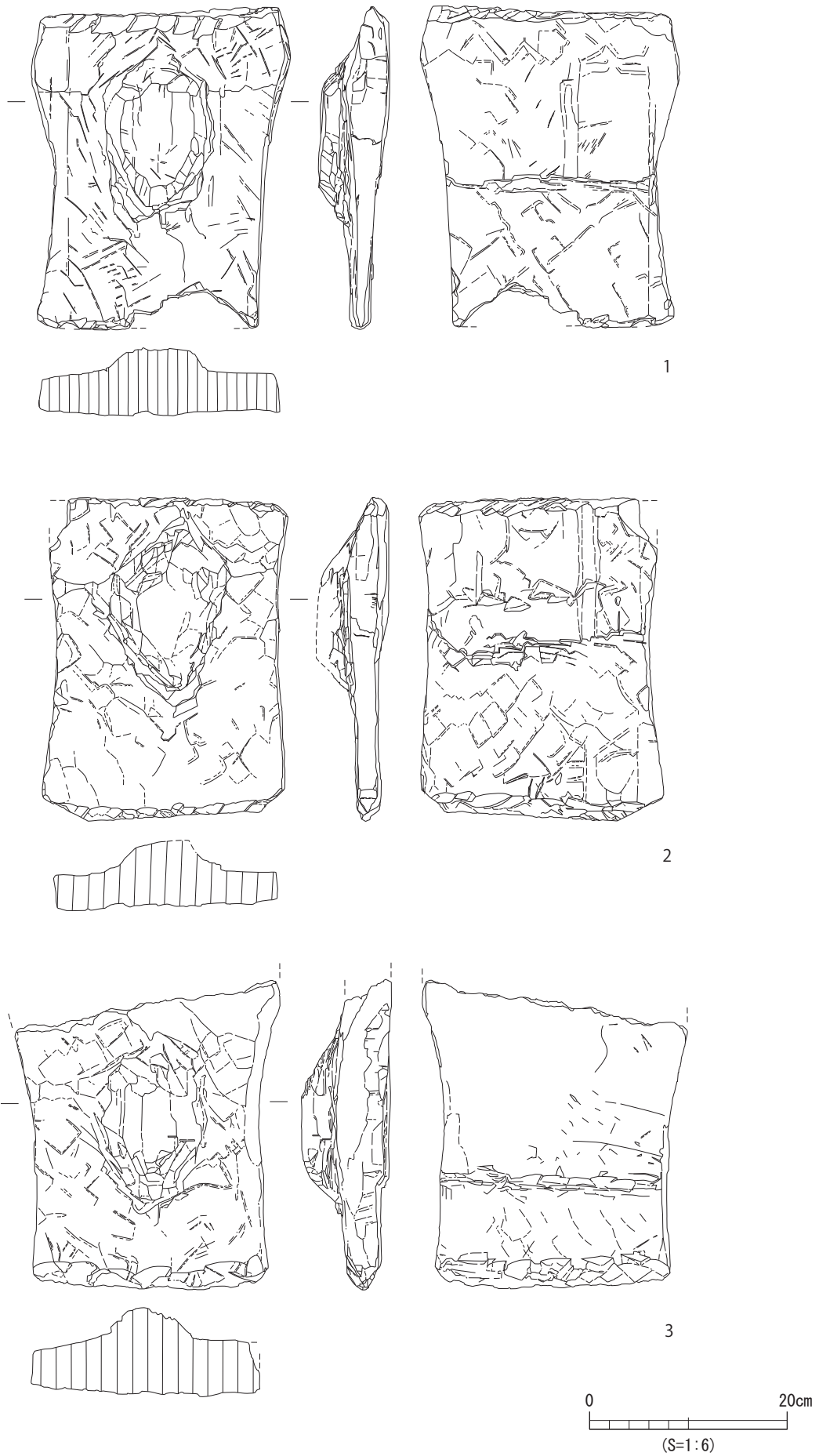




第138図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図-1-(1/6・1/4・1/2)



第139図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図一2-(1/6)



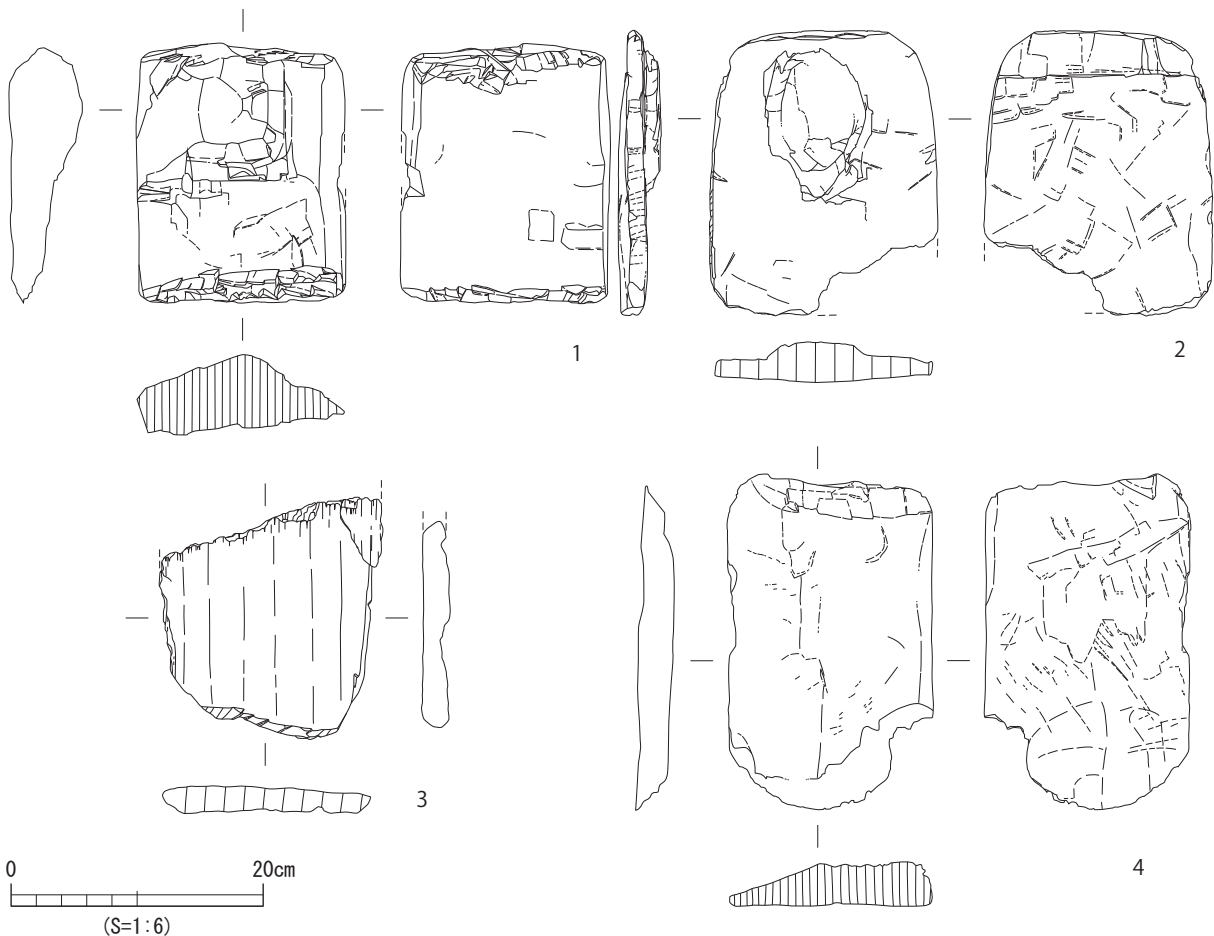
第140図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図一3-(1/6)

られ、段は舟形隆起の下端あたりになる。表面の上端部からやや下がった付近は平坦ではなく傾斜し稜がつく。2の裏面にも1と同じような位置に段が見られ、表面の上端部からやや下がった付近には稜がつくものである。この未製品はAMS年代測定を実施しており、 $2501 \pm 25\text{yrBP}$ の測定結果が出ている。3は1・2とは異なり舟形隆起の位置が中程で不整形のものであるが、裏面にはやはり同じように段が作り出されている。

第141図はコナラ属アカガシ亜属製の鋏先未製品又は端材と考えられる。1は全体的に小型で長方形を呈す鋏先の未製品と考えられ、いびつな方形に近い隆起が見られ、裏面は平坦である。2も小型の鋏先未製品と考えられ、隅丸方形を呈す平面形で舟形隆起が作り出され、裏面は頭部上端付近に段が付き厚みが薄くなる。3は不定型な板材であることから端材と考えられる。4は板状のもので未製品の可能性も考えられるが詳細は分からない。

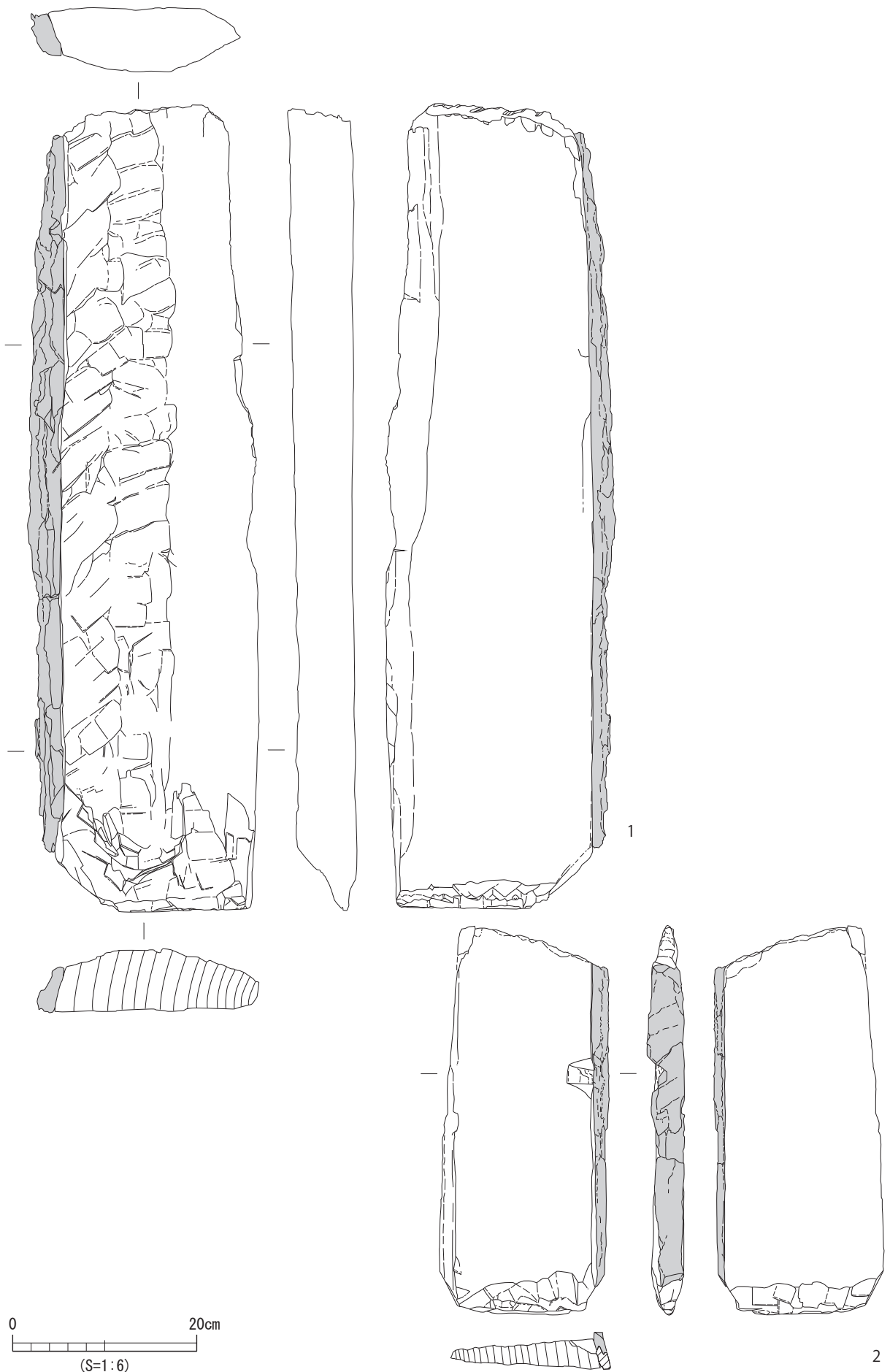
第142図はコナラ属アカガシ亜属製の鋏先未製品又は端材と考えられる。1は樹皮が残るミカン割材であり、表面に工具加工痕が良好に残る。この後に2連又は3連の鋏先等を作り出す可能性やこれ自体から狭鋏を作り出す可能性が考えられる。2も樹皮が残るものであり、この後に加工を加えるものであったのか端材であるのかは明確でないが、鋏であれば横鋏の材としては加工可能かもしれない。

第143図は泥除け未製品である。1はムクロジ製の板目材で、2連の泥除け未製品である。木目は横方向にはしり両端部には白太(辺材)部分が確認される。表面は工具加工痕が良好に残り



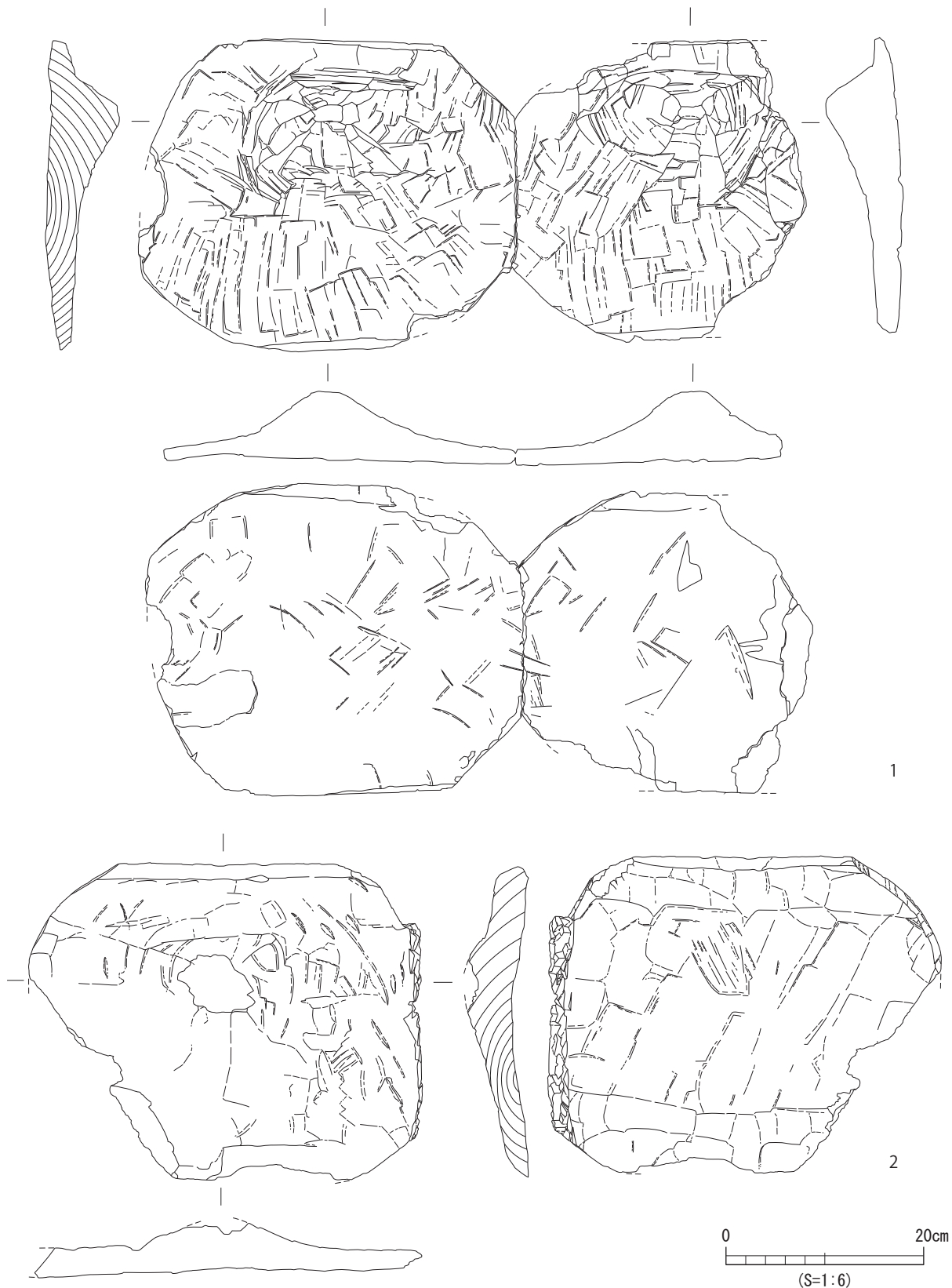
第141図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図-4-(1/6)



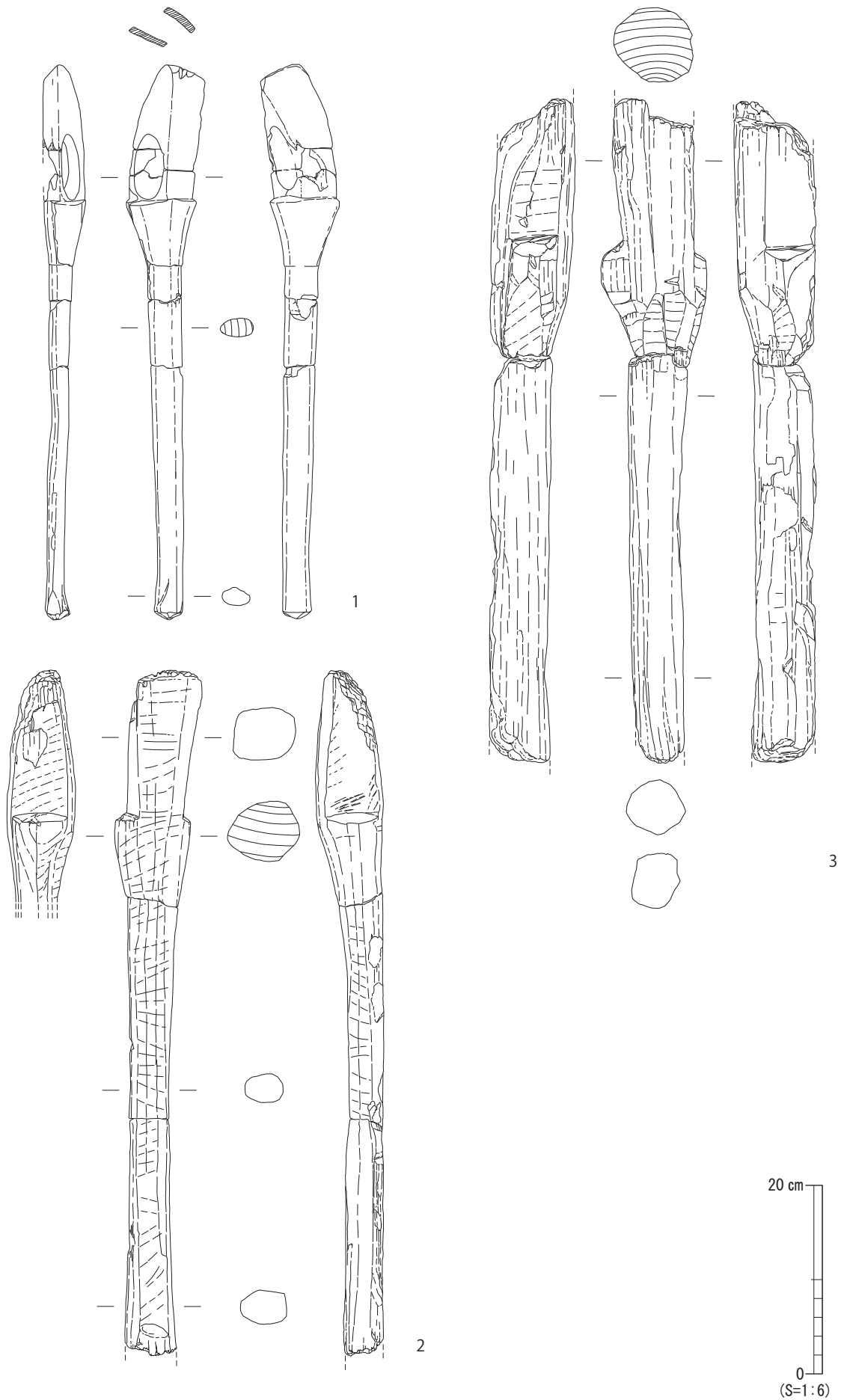


第142図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図一5一(1/6)

上端付近は笠形の隆起状に高くなる。裏面は平滑で残存状況が悪いものの工具加工痕が認められる。全体的に隅丸方形の製品を目指しているものと考えられる。2はニガキ製で1のような数連のものを分割した後のものと考えられる未製品である。木目は横方向にはしり上端付近には笠形の隆起が見られ、それに対応するように裏面の断面は弧状に加工されている。平面形は隅丸方



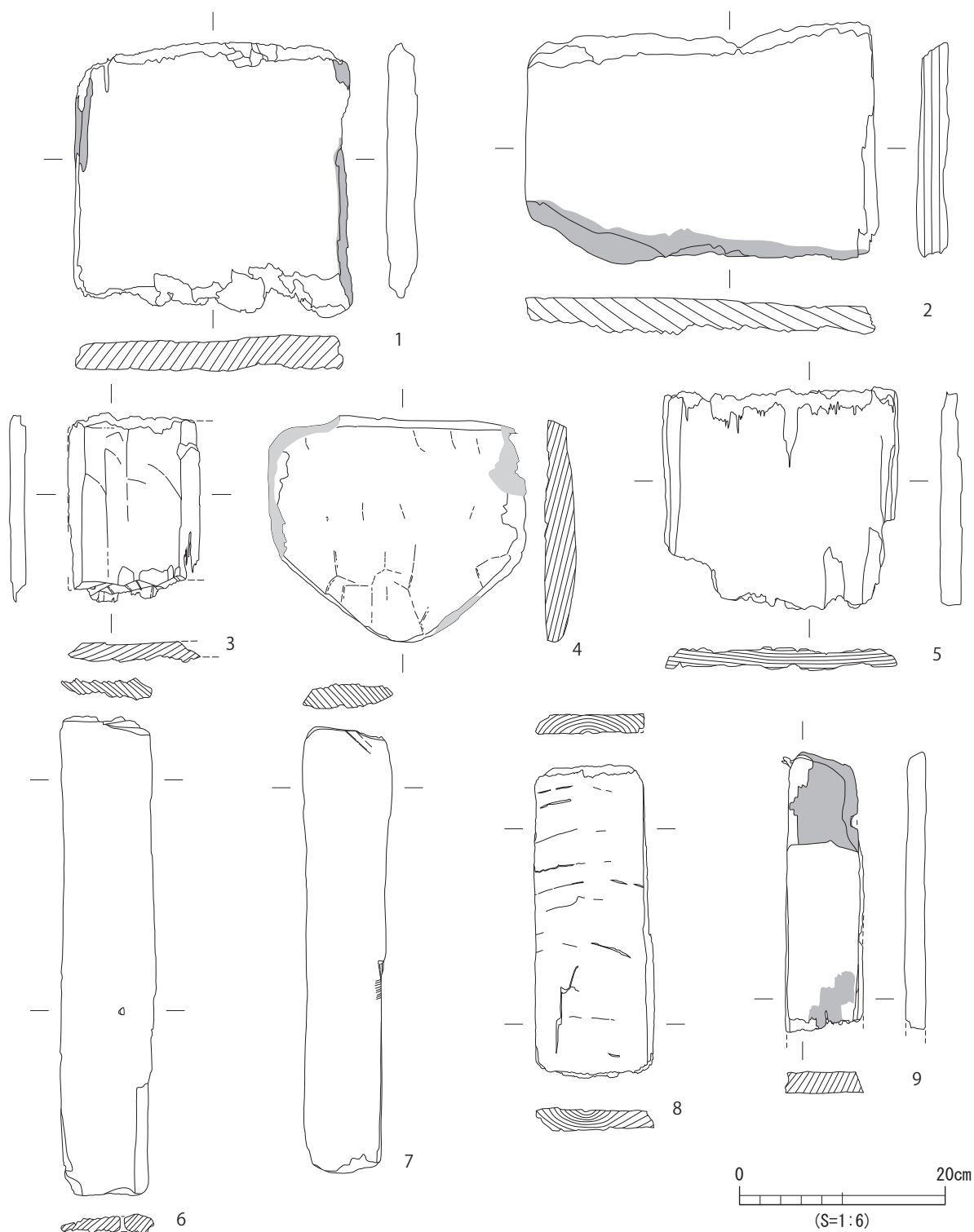
第143図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図一6-(1/6)



第144図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図一7-(1/6)

形状になるものと思われる。これらの未製品は樹種が特徴的であり、これまでの西川津遺跡で出土している泥除けで樹種が判明しているものはコナラ属アカガシ亜属のものだけであることから、非常に珍しいものである。また、1・2ともAMS年代測定を実施しており、1は白太の部分で2343±24yrBP、2は2432±26yrBPの測定結果が出ている。

第144図は斧柄で直柄の製品及び未製品である。1は直柄の製品でありモチノキ属である。装着孔は楕円形状のものであることから太型蛤刃石斧用のものと考えられ、装着孔部分は段が作り

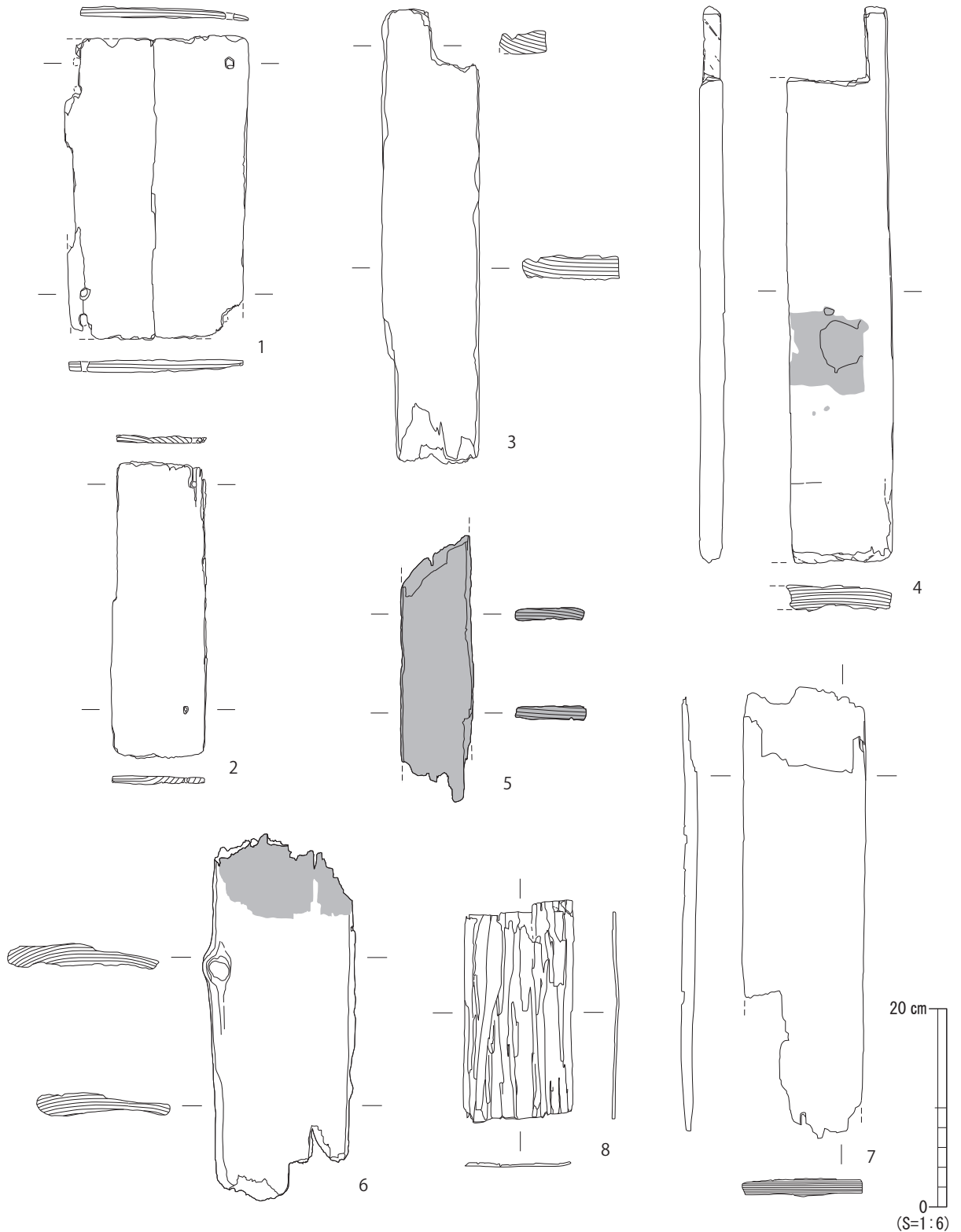


第145図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図一8-(1/6)

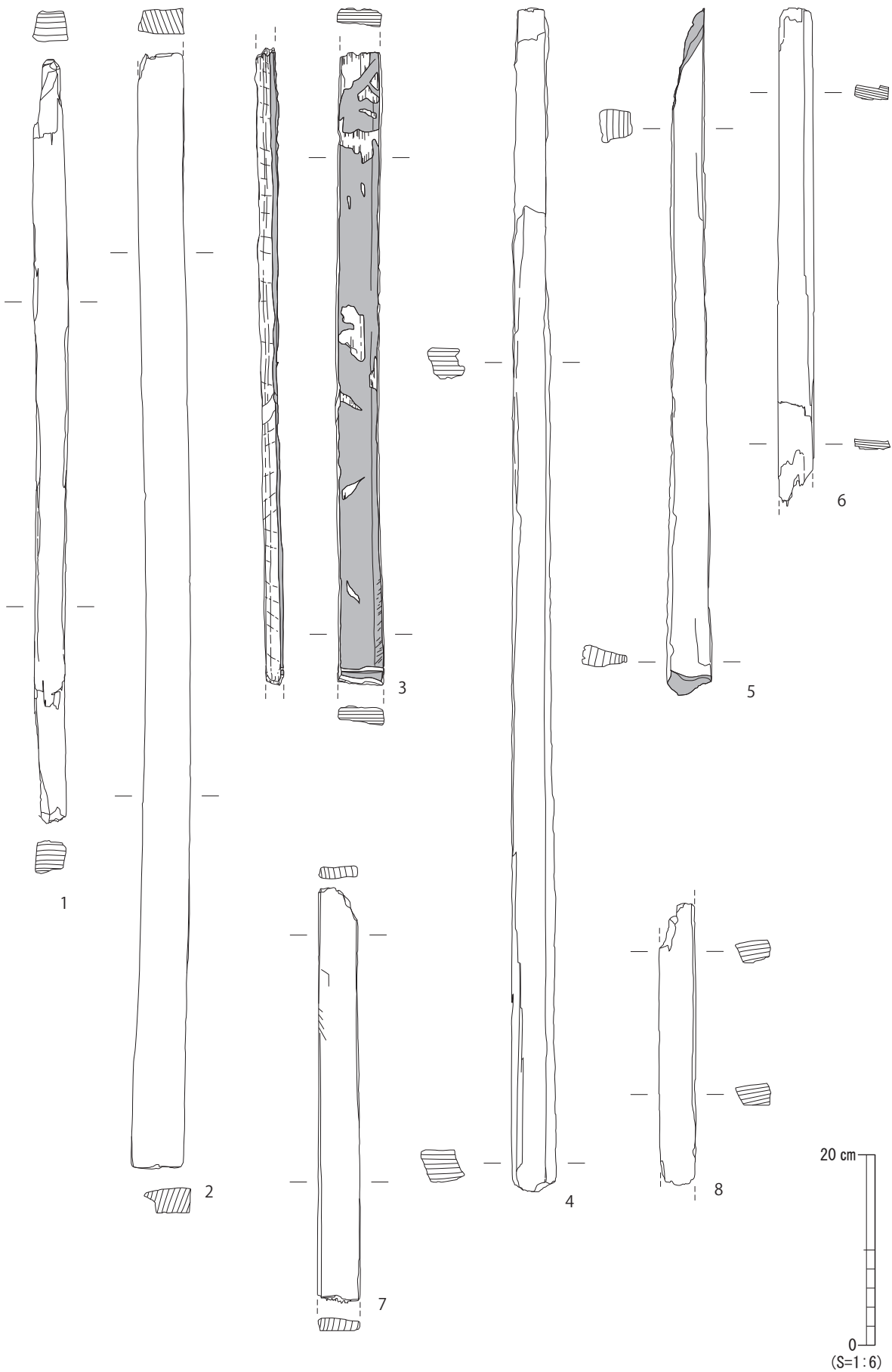


出されている。2・3はコナラ属アカガシ亜属製の未製品である。2は装着孔部分に段を設け、側面の片側が弧状を呈すところは1の製品に近い形状である。3は2よりも加工があまり進んでいない段階のもので、装着孔に段を設ける点は類似するが全体的に径が太い段階のものである。

第145図はスギ材の板状のものである。1～5はある程度幅があり長さが短いもので、端材等の可能性が考えられる。4は炭化し五角形を呈しており、柱穴内の礎盤であった可能性も考えら



第146図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図一9一(1/6)



第147図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図一10一(1/6)

れる。6～9はやや長さがあり長方形を呈すもので、6には孔が1つ見られる。

第146図は8の樹皮を除いてスギ材の板状のものである。1は各隅付近に円形の孔が最大6箇所にあけられている。2は片側に円形の孔が2箇所見られる。3・4は片側に方形の割り込みが見られるものであり、4は割り込みの形状が整っていることから建築部材の可能性はある。5・6は端材と思われる。8は樹皮で屋根材等の可能性がある。

第147図は断面が方形の角材状のものであり、5のカヤ以外はスギ材である。第148図は断面



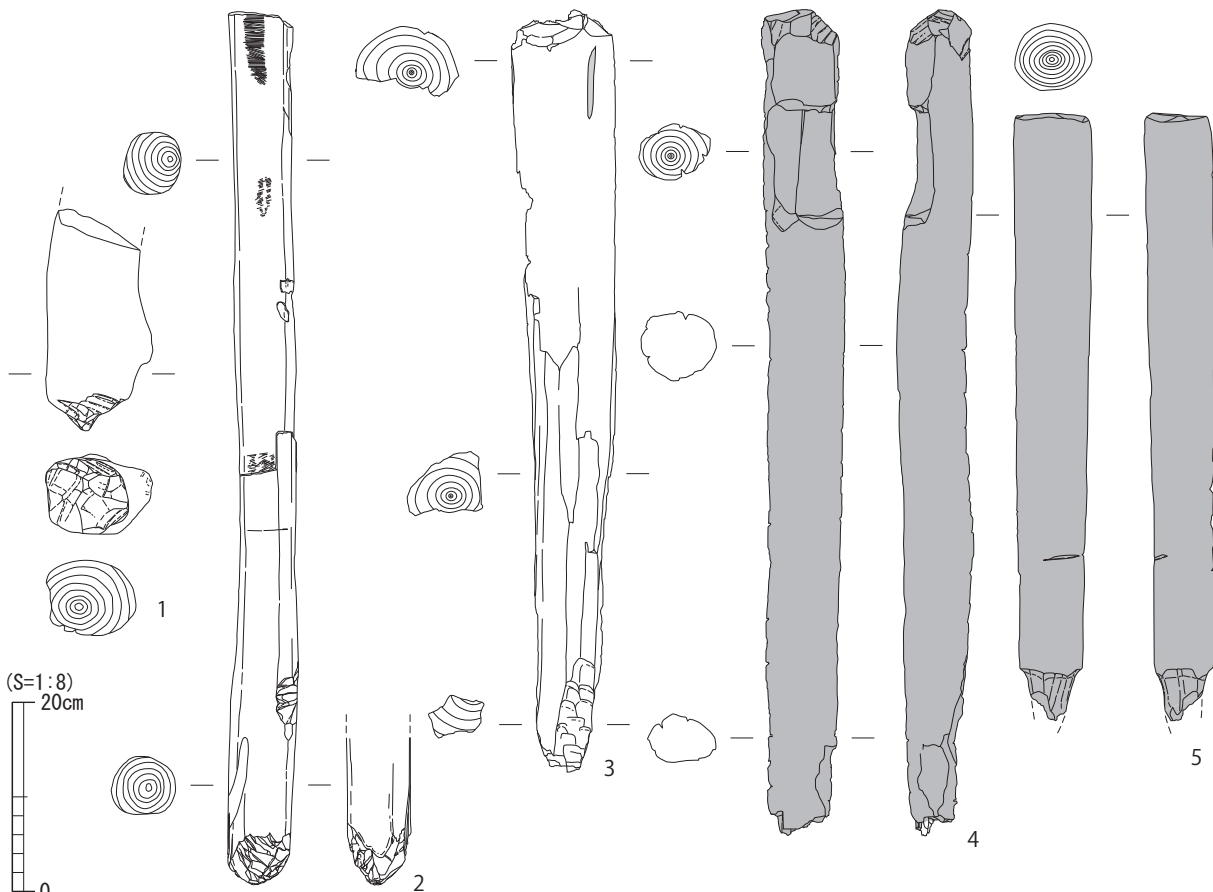
第148図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図一11一(1/6)

が不整形な加工材であり、用途等については不明なものが多い。1～4はスギ材であり、3は杭、4はミカン割材と考えられる。5はヤナギ属で樹皮が残存し方形を呈す孔が2箇所認められる。6はカヤであり端部が炭化している。7はムクロジ、8はクリ、9は針葉樹である。

第149図は芯持材のものである。1はヤブツバキで先端が尖るように加工されている。2はツバキ属で先端が尖るように加工されていることから杭と考えられる。3はマキ属でこれも先端の形状から杭と考えられる。4はマキ属で先端付近が削られ部分的に凹むもので建築部材の可能性が考えられる。5はツバキ属のもので詳細分らないが杭の可能性が考えられる。

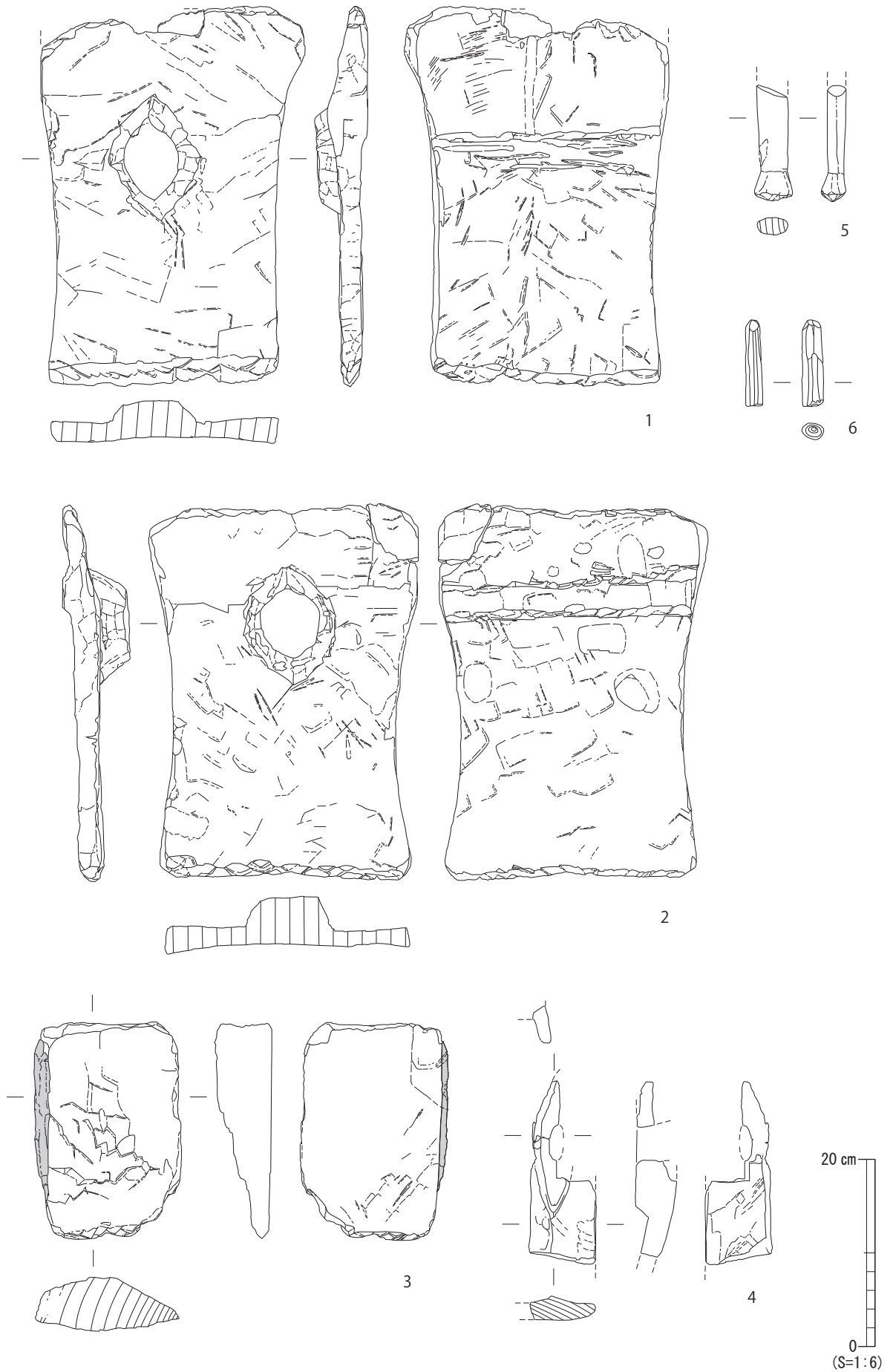
第150～152図はA2区(南)から出土した木製品である。第150図は農耕具の製品又は未製品の可能性があるもの等である。1・2はコナラ属アカガシ亜属製の鋤先未製品である。1は舟形隆起が作られ側縁形状は弧状を呈す。表面は舟形隆起付近で上端部に向かい傾斜し稜がつき、裏面には舟形隆起の中央付近に段が見られる。2も舟形隆起が作られ側縁は弧状を呈す。表面には1と同様に稜がつき、裏面には突帯が作り出されており1よりも加工が進んだものと考えられる。3はコナラ属アカガシ亜属製のミカン割材で樹皮が残り、端材の可能性が考えられる。4はコナラ属アカガシ亜属製の鋤先製品であり、縦に長い舟形隆起を持ち、縦断面は弧を描く。その幅からも狭鋤と考えられる。5はコナラ属アカガシ亜属製の直柄と考えられる。6はサカキ製の棒状のもので丁寧に加工されているが径が細く、用途は不明である。

第151図は角材状や棒状を呈すものであり、用途が不明なものが多い。1は薄く長いものでスギによる用途不明な加工品である。2はスダジイ製のもので特に明瞭な加工はみられず、一部炭化している。3はヤブツバキ製で尖る部分が炭化する。4はクリ材のもので断面が方形に加工さ



第149図 A2区(北) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図一12一(1/8)





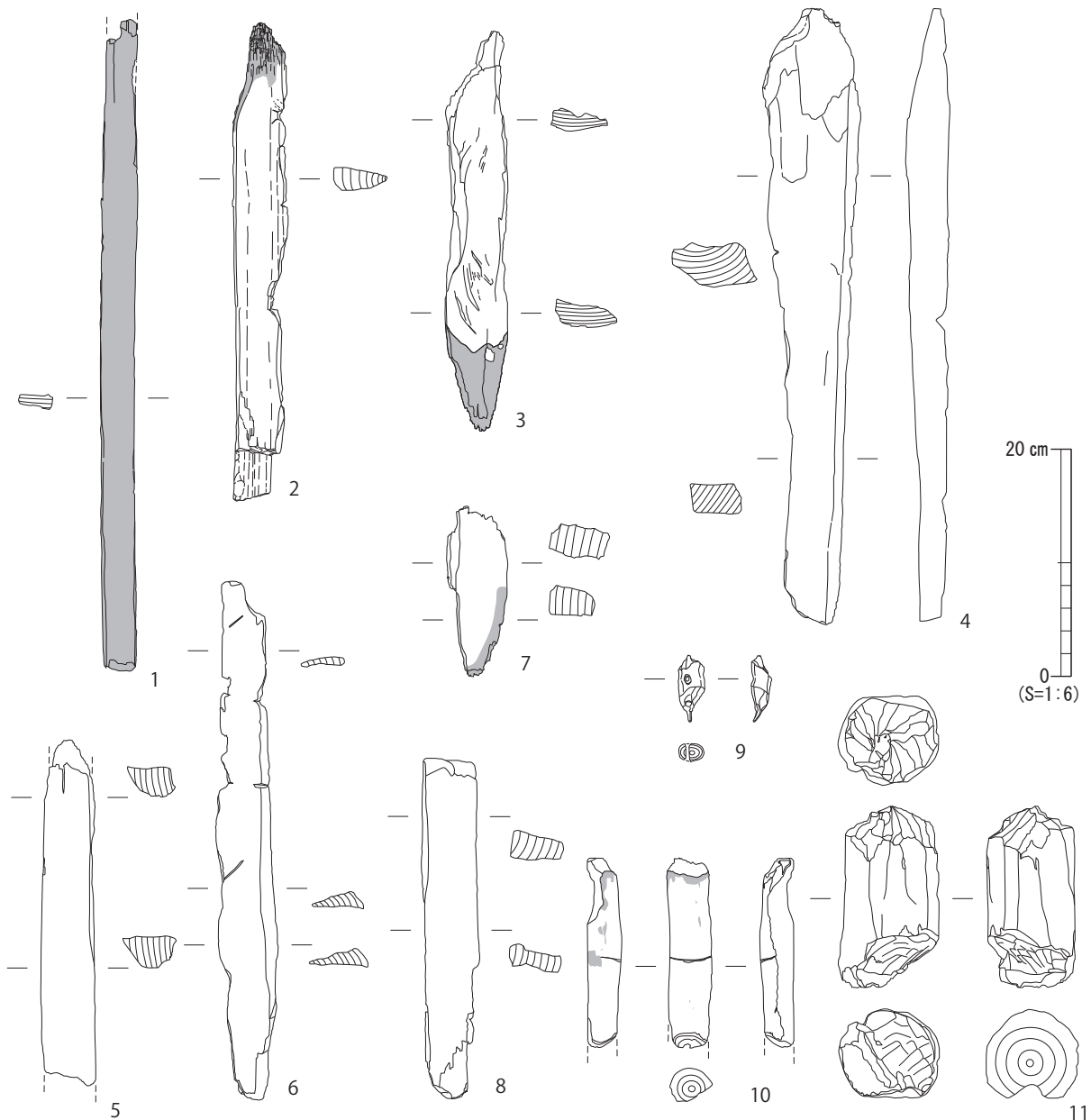
第150図 A2区(南) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図一1-(1/6)

れている。5はスギ、6はシイ属であり不整形のものである。7はコナラ属アカガシ亜属製のもので、樹種からは農耕具製作時の端材の可能性も考えられる。8はシイ属製で断面が方形のものである。9はヒノキ科のもので孔があく。10はウルシの原木で樹皮はなく漆液採取時のものと考えられる筋状の痕跡を確認することができる。11はヤブツバキ製で両端が加工され尖る。

第152図はSD09内で検出した杭列(SX04)に関連する杭と横木である。1はマキ属で樹皮の残る芯持材であり、特に加工は認められない。横木として利用されたものである。2～15は杭として利用された材である。樹種は未同定の7とヤマグワの13を除いて基本的にスギ材が使用されている。ほとんどのものが幅4～5cm前後の割材のまま利用されており、特に加工を加えているものは無い。最も長いもので77.6cmを測る。何らかの製品や端材をを分割して転用している可能性も考えられる。

### (3) 下層出土遺物(第153～162図)

下層(灰白色粘土層)からは縄文土器・弥生土器・土製品・石器・石製品・木製品が出土した。

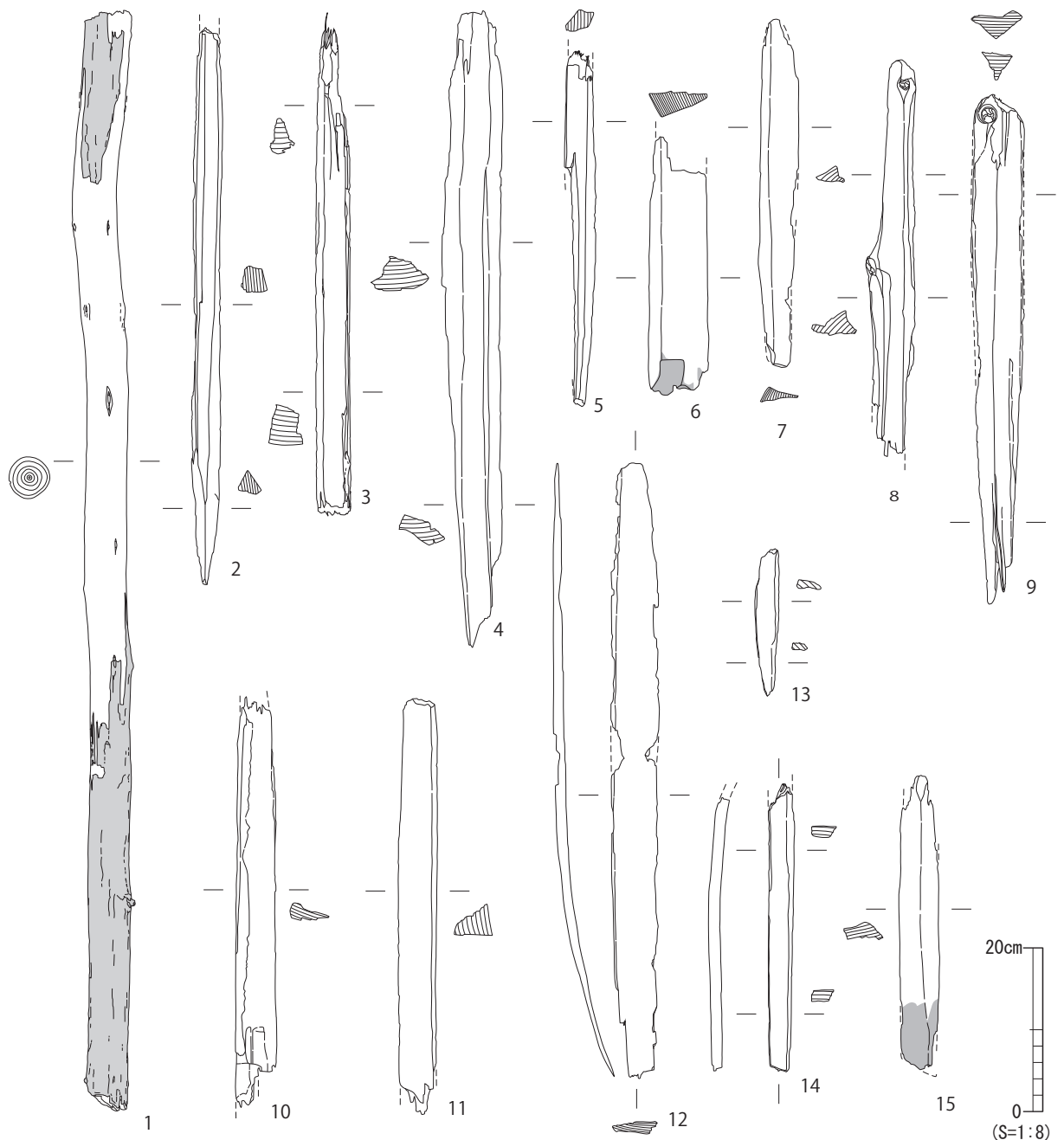


第151図 A2区(南) SD09(自然河道)オモカス層出土木製品実測図一2-(1/6)

**縄文土器 (第 153・154 図)** 第 153 図は A2 区 (北) から出土したものである。1 は深鉢の端部であり外面は巻き貝条痕と思われ、内面は二枚貝条痕である。後期～晩期にかけてのものと推測される。

第 154 図は A2 区 (南) から出土したものである。1 は口縁部の突起部分にあたり内外面に指頭圧痕が残る。晩期のものと考えられる。2 は外面に半裁竹管状工具による押引文が施され、内面は二枚貝条痕である。前期の西川津式に相当するものと考えられる。

**弥生土器・土製品 (第 155～158 図)** 第 155～157 図は A2 区 (北) から出土した。第 155 図は壺である。1～4 は口縁部と頸部境に段を設ける壺である。5・6 は口縁部と頸部境に直線文が 1 条施される。7 は口縁端部に沈線が 1 条入る。8・9 は口縁部と頸部境に 3 条のへら描き直線文が施されるもので、9 には胴部境にも 3 条のへら描き直線文がはいる。10 は頸部と胴部境に段を

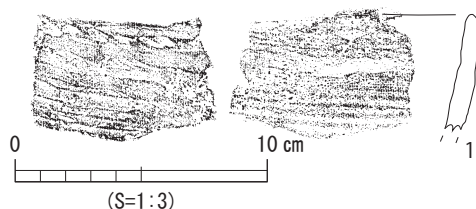


第 152 図 A2 区 (南) SD09 (自然河道) 杭列 (SX04) 出土木製品実測図 (1/8)

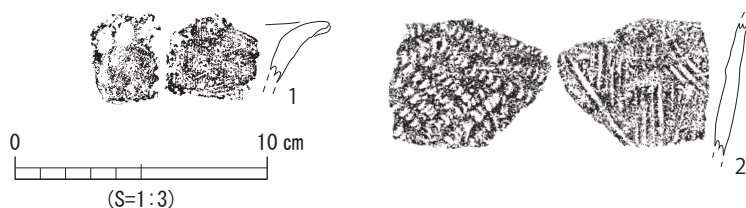
設けその下に貝殻による3条の直線文が施される。11・12は小型の壺であり、11は口縁部と頸部境に3条、頸部と胴部境に4条の突帯が廻る。12は口縁部と頸部境に7条のヘラ描き直線文が施される。13・14は頸部に多条のヘラ描き直線文がはいるもので、13は6条、14は7条施されている。15は頸部と胴部境に段を設け7条のヘラ描き直線文がはいる。16～18は無文の壺である。

第156図は甕又は鉢である。1は2条のヘラ描き直線文が施され、2・3は4条のヘラ描き直線文がはいる。4～7は5条のヘラ描き直線文が施され、4・7は口縁端部に刻み目がはいる。8は6条のヘラ描き直線文が施され、9は9条施されている。10は10条程度のヘラ描き直線文が施される。11は4条のヘラ描き直線文の間に刺突文が組み合わさり、12は上7条下6条のヘラ描き直線文の間に刺突文が組み合わさる。13は口縁部が貼り付けの逆L字状口縁であり、クシ状工具によると思われる多条の直線文が施される。14～16も貼り付けの逆L字状口縁のものであり、15は不明瞭ながら1条の直線文が施され、口縁端部の形状から朝鮮半島系の土器である可能性がある。17は小片で詳細は分からないが、口縁部の下方に突帯状のものが貼り付けられている。18～22は無文のものであり、20・21は内面調整がミガキであり鉢と考えられる。22は小型の甕又は鉢である。

第157図1・2は蓋である。3～14は壺又は甕の文様部分の破片と考えられる。3は壺の胴部と考えられ8条のヘラ描き直線文が施される。4は6条のヘラ描き直線文と貝殻による羽状文が施され、5は5条の直線文と貝殻による山形文が施される。6は貝殻による直線文・斜格子文・鋸歯文が施される。7～9は貼り付け突帯のある破片であり、7・9は3条の突帯、8は刻みのある突帯が施される。10は甕の紋様片であり5条のヘラ描き直線文の下に三角形の刺突文が施される。11は3条のヘラ描き直線文と刺突文が組み合わさり、12は刻み目のある突帯が貼り付けられている。13はヘラ描き直線文の間に2段の円形刺突文が組み合わさる。14は甕の文様片と思われる6条のヘラ描き直線文の下に円形の刺突文がはいる。15・16は皿様式に属す土器と考えられ、15は拡張した口縁端部に斜格子文が入り、頸部には指頭圧痕文帯が貼り付けられた壺である。16は口縁端部に刻み目がはいる鉢である。17～19は底部である。20～25は土器転用円盤状土製品であり、23には未貫通の孔が認められる。26は不整形のもので手づくねの焼成粘土塊と



第153図 A2区(北) SD09(自然河道)下層出土縄文土器実測図(1/3)

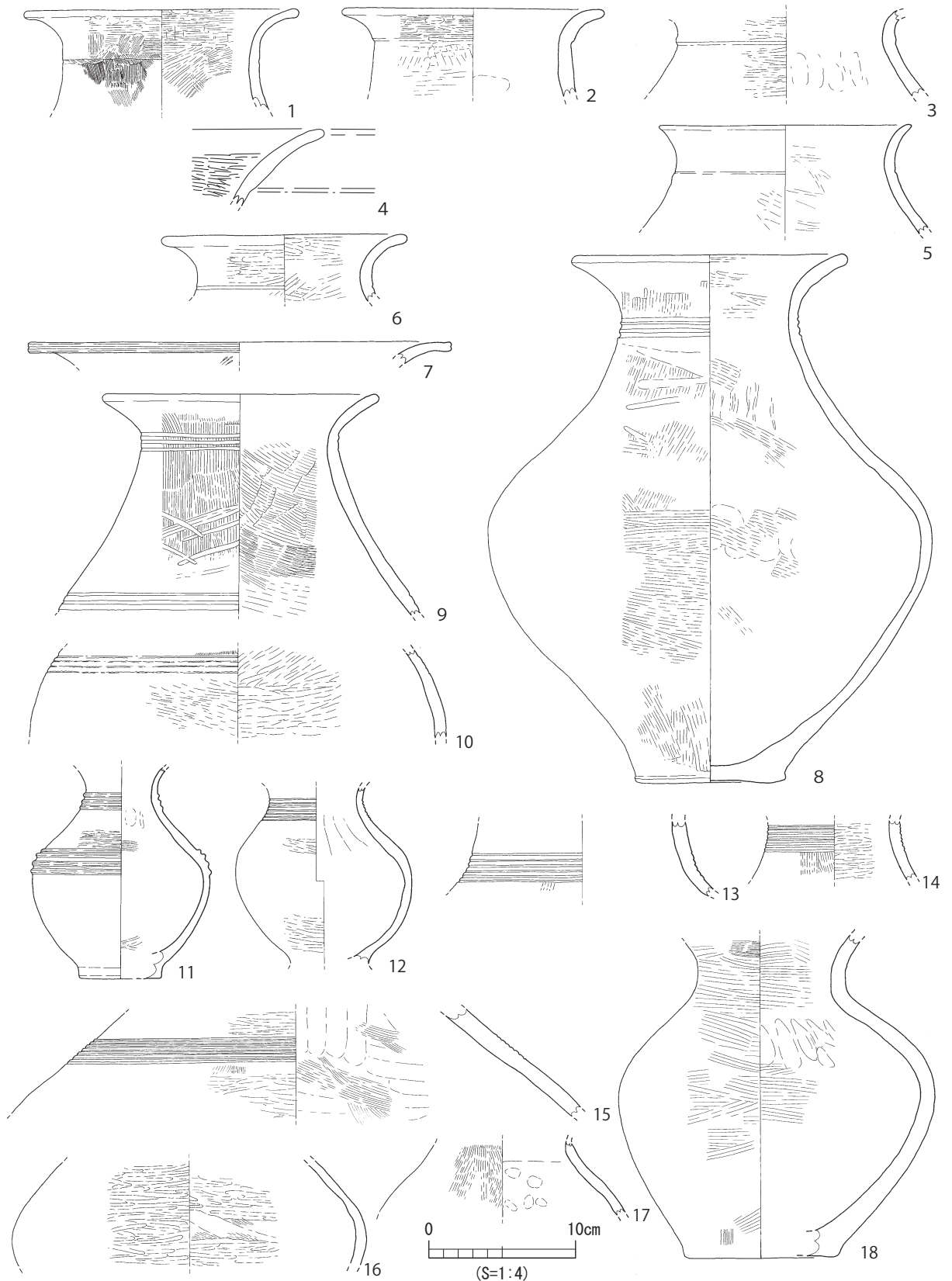


第154図 A2区(南) SD09(自然河道)下層出土縄文土器実測図(1/3)



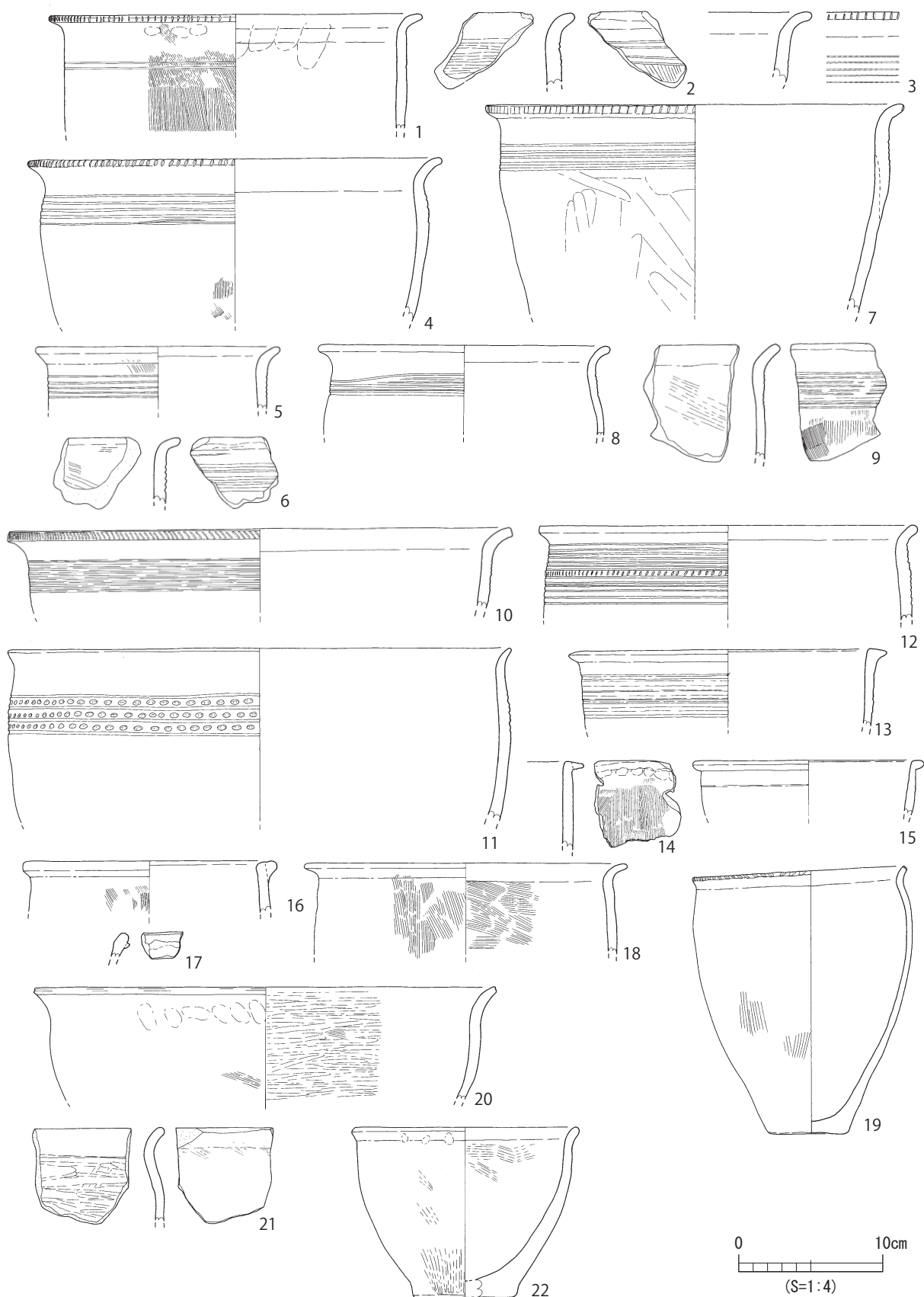
考えられる。27は小型の鉢と考えられ、28・29は手づくねの小型品の底部である。

第158図はA2区(南)から出土した。1～3は壺である。1は頸部と胴部境に段を設けへら描き直線文と羽状文(綾杉文)が施される。2は漆液容器として使用された壺で頸部より上は打ち欠



第155図 A2区(北) SD09(自然河道)下層出土弥生土器実測図一(1/4)

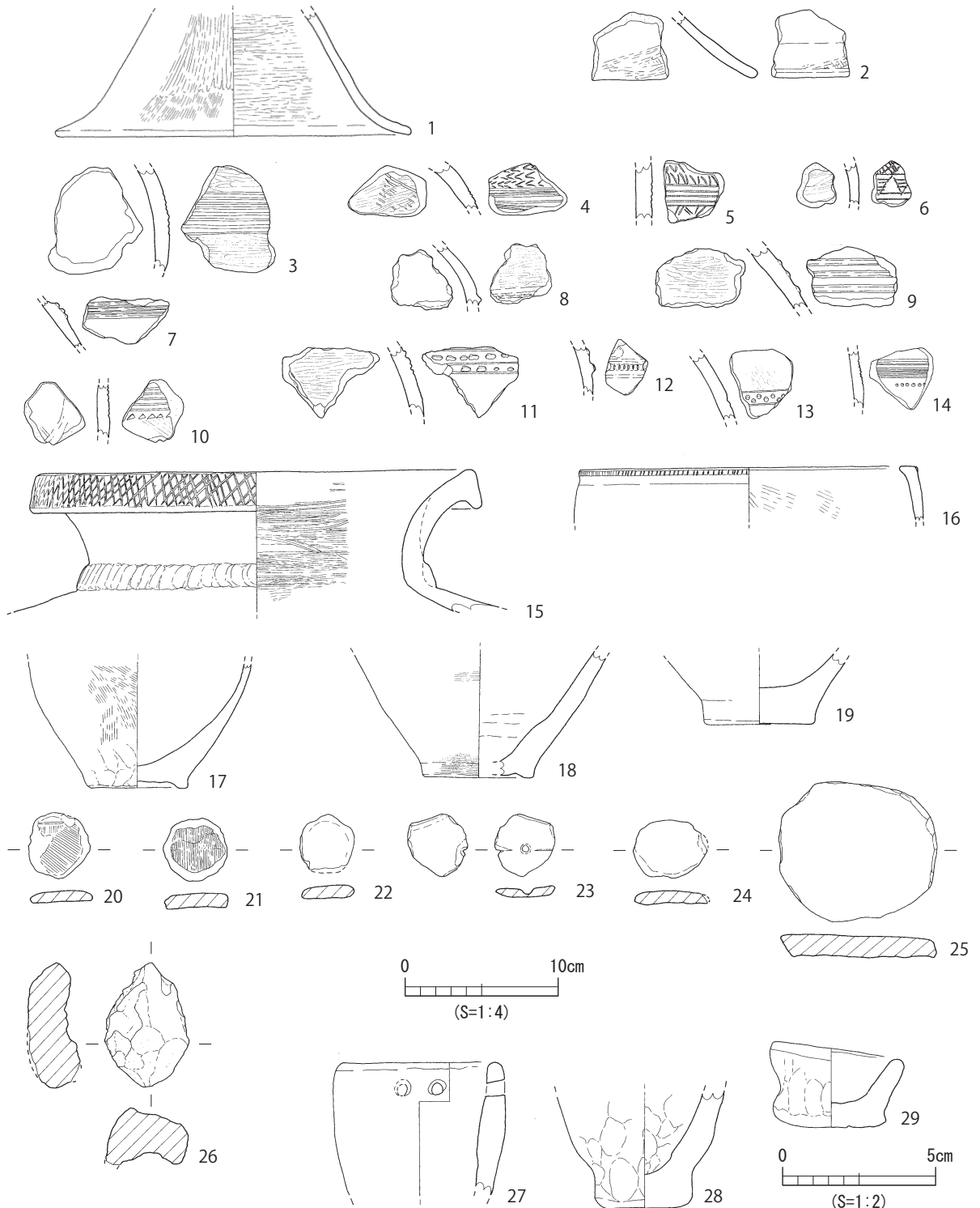
かされている。内面底には漆液が残存し、また打ち欠かれた上端部や外面上半部にも漆液が付着する。残存する頸部と胴部境には段を設けその下に2条の直線文が施されている。漆液の放射性炭素年代測定結果の詳細は第6章2節にあるが、 $2390 \pm 20(\text{yrBP})$ である。3は小型で無文の壺である。



第156図 A2区(北) SD09(自然河道)下層出土弥生土器実測図一2一(1/4)

4は頸部と胴部境に突帯が廻るが、摩滅により貼り付けか削り出しかは不明である。5～8は甕である。5は段が設けられている。6・7は1条の直線文が施され、8は2条の直線文が施される。9は鉢と考えられ、無文のものである。10～12は壺又は甕の底部である。13は小型の蓋で無頸壺等とセットになるものと考えられる。14・15は土器転用円盤状土製品である。16は球形に近い土錘である。

石器・石製品(第159・160図) 第159図はA2区(北)出土のものである。1・2は緑色凝灰岩製で管玉未製品もしくは製作時の端材と考えられる。1は両面から施溝分割が施された痕が片側



第157図 A2区(北) SD09(自然河道)下層出土弥生土器・土製品実測図(1/4・1/2)



第158図 A2区(南) SD09(自然河道)下層出土弥生土器・土製品実測図(1/4・1/2)



第159図 A2区(北) SD09(自然河道)下層出土石器・石製品実測図(1/3・2/3)



側面で認められ、表裏面とも研磨による擦痕が見られる。2は研磨痕が良好に認められる板状のもので、側面の1面に施溝分割の痕が、他3面には研磨痕が残る。3は玄武岩製の環状石斧片であり敲打痕が見られる。4～6は並べて置かれたような状況で出土した片岩製の石斧又は石斧未製品である。4は両刃石斧の未製品と考えられ、研磨痕が残る。煤けていることから火を受けた可能性が考えられる。5は研磨痕が残る両刃石斧と考えられるが、風化が著しく未製品である可能性も残す。6は両刃石斧の未製品と考えられ、自然面が残り敲打痕が確認される。

第160図はA2区(南)から出土した石錘であり、両端が打ち欠かされている。今回の調査区ではあまり出土していない石器である。

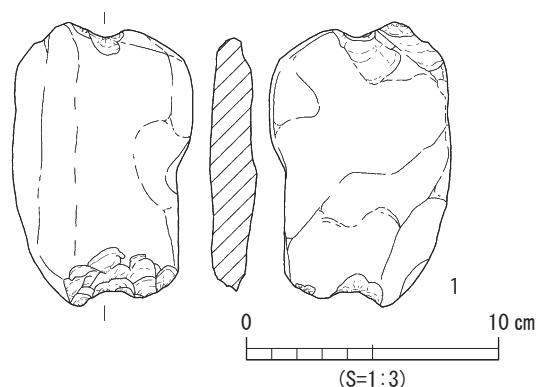
**木製品(第161・162図)** 第161図はA2区(北)から出土した。1は方形を呈す板状の漆塗りの櫛である。20本程度の木質の櫛歯を横糸で緊縛し、その後横糸を斜め方向に綴じて黒漆で塗り固めた竪櫛であり、最終的に赤漆で赤彩している。2は編組した籠の破片である。掘削した土塊と共に確認したもので3塊になっているが、同一地点で出土したことや類似することから同一個体と判断した。樹種はマタタビ属であり、1本の経材を2本の緯材で編み込むものと考えられる。3は針葉樹の樹皮であり、巻かれた状態で保管されていたものと考えられる。4～6はスギ材の木製品である。4・5は板状のもので5は端部が炭化している。6は不整形のもので何らかの端材と思われる。

第162図はA2区(南)出土の木製品である。1はヤマグワ製の容器であり口縁部は欠損している。内面には工具加工痕が残存しており未製品の可能性も考えられる。2～4はスギ材のもので、2は角材状、3・4は板状のものである。

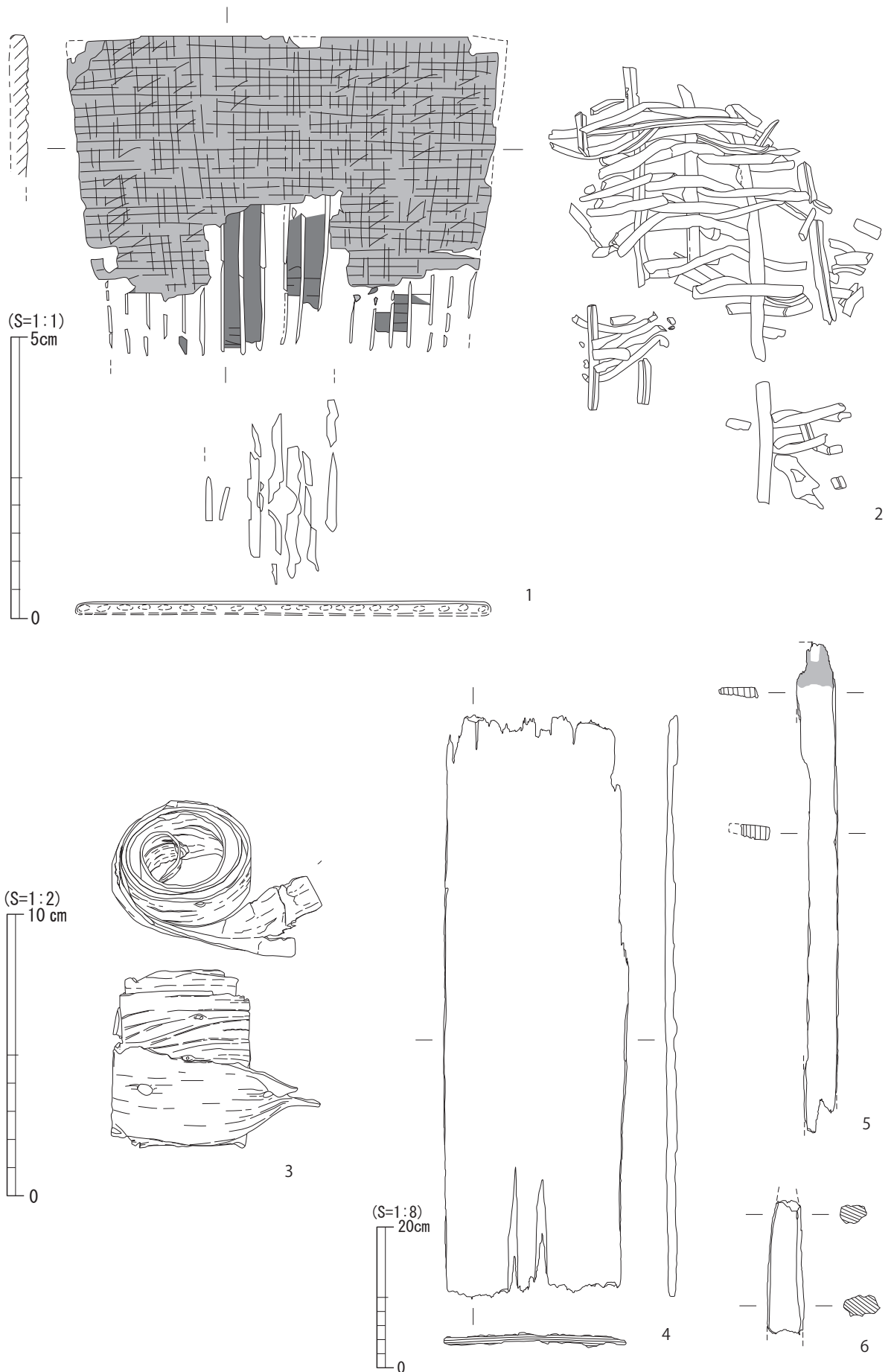
**(4) 黑色粘土層出土遺物(第163・164図)**

黑色粘質土からは弥生土器、石器が出土した。また遺物が集中した範囲については土器溜まり11として取り上げた。

**弥生土器(第164図)** A2区(北)から出土した弥生土器である。1は広口壺であり、拡張された口縁端部には刻み目がはいり内面には断面三角形の突帯が二重に貼り付けられ、頸部にも三条の刻み目突帯がある。Ⅲ様式に属すものと考えられる。2は直口壺であり面を持つ口縁端部外縁に刻み目がはいり頸部には刻み目突帯が貼り付けられる。Ⅲ様式に属すものと考えられる。3・4は甕である。3は端部に面を持ちⅢ様式と考えられ、4は端部に2条の凹線文がはいりⅣ様式に属すと考えられる。5は時期的な位置付けや器種を判断するのに迷う土器である。掲載では高坏と判断している。口縁端部外面に刻み目が入り、内面には円形の孔が2列見られる。この孔のほと



第160図 A2区(南) SD09(自然河道)下層出土石器実測図(1/3)



第161図 A2区(北) SD09(自然河道)下層出土木製品実測図(1/8・1/2・1/1)

んどは貫通していない。Ⅲ～Ⅳ様式に属す可能性が考えられる。なお胎土に粗砂が多く入り色調が白色に近いことから、Ⅰ様式に属す可能性や器種が蓋である可能性も残す。

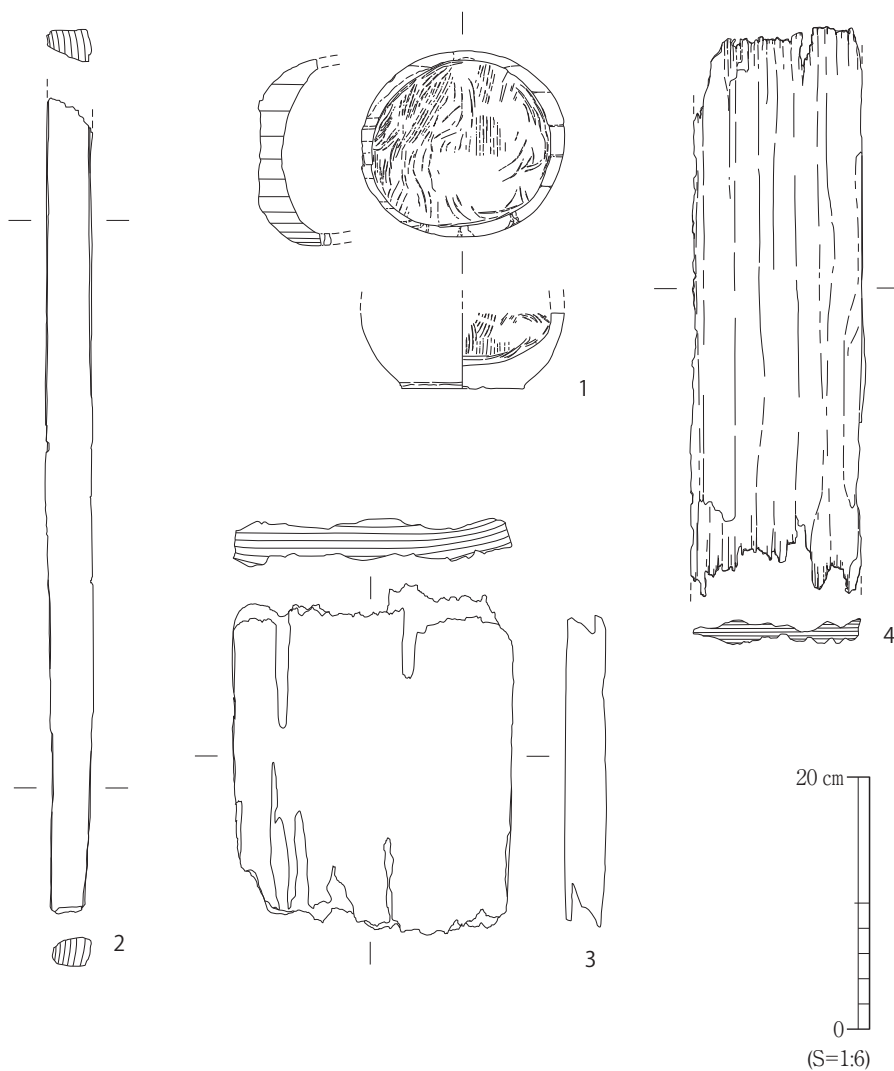
**石器(第163図)** A2区(北)から出土した石器である。1は黒曜石製の凹基式の石鏃であり、非常に丁寧に剥離が施され、側縁は鋸刃状を呈し、厚みが薄いのが特徴的であり、下部の層から出土するものとは形状が異なる。また同様な石鏃は土器溜まり11からも集中して出土しており、1のような縦に長いタイプ以外に、長さが短いタイプも出土している(写真図版173)。

2は緑色凝灰岩製の板状のもので、施溝分割の痕跡が見られる。刃部を作り出している可能性があることから鑿状工具の可能性が考えられる。

**土器溜まり11出土弥生土器(第165図)** 1は甕であり、口縁部が欠損しているがⅢ様式に属すものと考えられる。2は高坏であり、坏部口縁端部の平坦面が拡張されたものでⅢ様式に属すものと考えられる。3・4はⅢ様式に属すものと考えられる壺である。3は肩部から櫛描きの直線文と羽状文で装飾され胴部最大径付近に刺突文を施す。4は頸部に指頭圧痕文帯を貼り付け、胴部最大径付近には2段の櫛状工具による刺突文を施す。

(5) 黑色土層出土遺物(第166・167図)

A2区(北)の黑色土層からは弥生土器・土製品・石器が出土した。

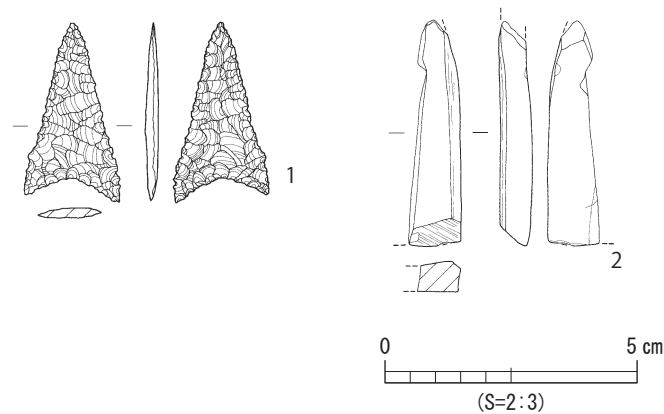


第162図 A2区(南) SD09(自然河道)下層出土木製品実測図(1/6)

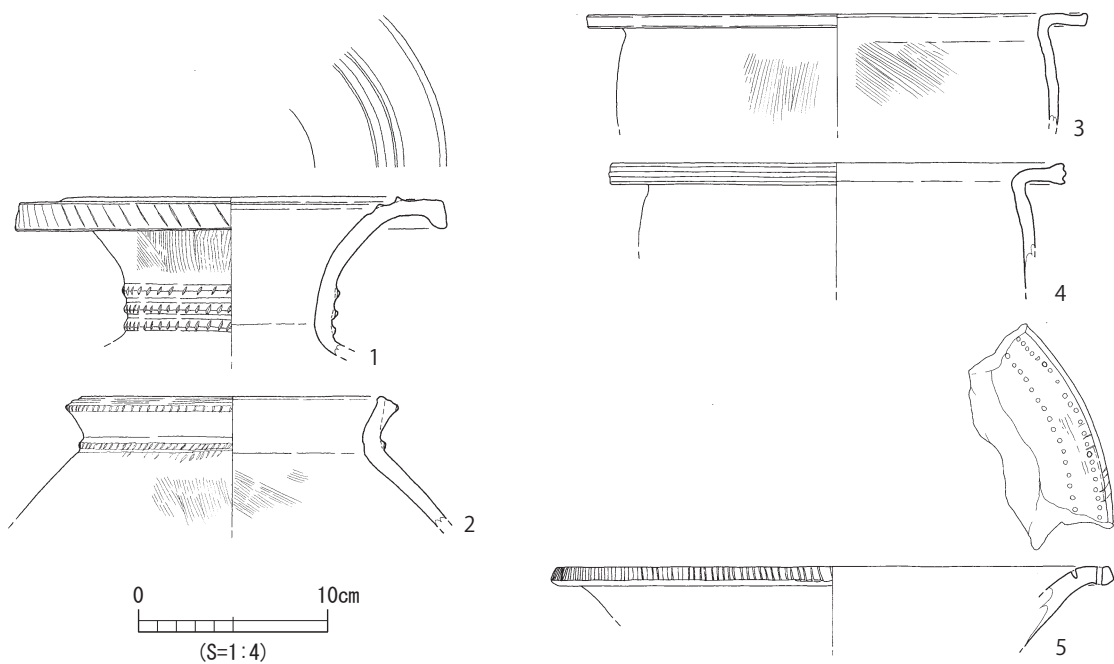
**弥生土器 (第166図)** 1～6は中期の壺である。1は広口壺であり口縁端部には櫛描きの斜格子文と円形浮文が施され、内面は波状文と円錐形浮文で装飾される。2は口縁端部に刻み目がはいる。3は口縁部内面に円形の孔が連続してあけられている。4は頸部に櫛描きの直線文や羽状文が施され、口縁部との境には刺突文がはいり突帯状になる。5は単純な口縁で無文の壺である。6は短頸壺であり内外面に黒漆が付着していることから漆塗り土器と考えられる。

7はⅡ～Ⅲ様式の鉢と考えられ、口縁端部には刻み目が施され、体部は刻み目突帯や櫛描きの直線文や鋸歯文で装飾される。また円形の孔が確認される。8～10はⅢ～Ⅳ様式の高坏である。8は椀形の坏部のものであり、充填部は剥がれている。9は口縁端部上面に櫛描きの斜線文が施される。10は口縁部外面に2条の凹線文が施される。11は拡張した口縁部の甕であり、Ⅳ様式に属すものと考えられる。12は分銅形土製品の貫通孔のある上半部分である。刺突された円形の孔により装飾したものであり、外縁には五列の刺突文がはいる。

**石器 (第167図)** 1は安山岩製の磨製石鏃未製品である。表裏面とも研磨痕が確認される。2は砂岩製の石錐であり線條痕が確認される。



第163図 A2(北) SD09(自然河道) 黑色粘土層出土石器実測図(2/3)



第164図 A2区(北) SD09(自然河道) 黑色粘土層出土弥生土器実測図(1/4)

(6) 橙色砂質土層・シルト層出土遺物(第168～170図)

A2区(南)の橙色砂質土層からは弥生土器、石器が出土している。また橙色砂質土層掘削中に出土したが微高地のシルト層との判別ができなかった層出土のものもここで掲載する。

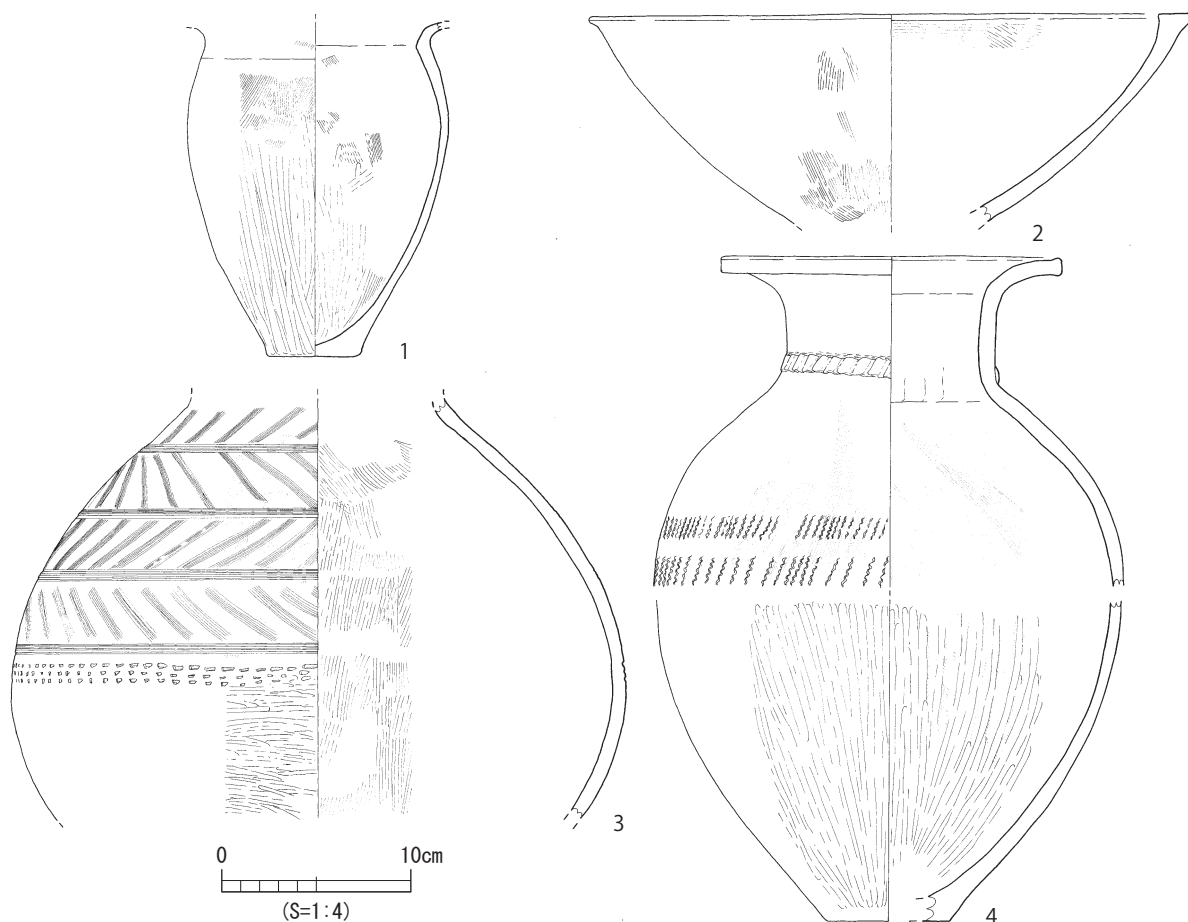
**縄文土器(第169図)** 1は橙色砂質土層掘削中に出土したもので、微高地のシルト層に属す可能性も考えられ、出土層位の判断がつかなかった土器である。口縁部に扁平な突帯が貼り付けられたもので朝鮮系無文土器の可能性も指摘されていたものであるが、突帯文土器と判断している。縄文晩期に属すものと考えられる。

**弥生土器・土製品(第170図)** 1は壺である。口縁部と頸部境に1条の沈線が施され段状になるもので、頸部と胴部境には3条のへう描き直線文が施される。2は小型で無文の壺である。3は蓋の頂部である。4は口縁部に突帯が貼り付くものであり突帯文土器の可能性のあることから縄文時代晩期に属すと考えられる。5は皿様式の広口壺である。6・7は小型品の底部である。8は卵形を呈す小型品であり、用途等不明なものであるが、土笛の可能性も考えられる。9・10は土錘と考えられ、9は楕円形状、10は球形に近い形状のものである。

**石器(第168図)** 1は黒曜石製の凹基式の石鏃である。丁寧な剥離が施され、側縁は鋸刃状になっているのが特徴的である。このような黒曜石製の石鏃は層位的にこの層から上の層(黒色粘土層)からも出土しており、時期的な特徴を持つ石器である可能性が考えられる。

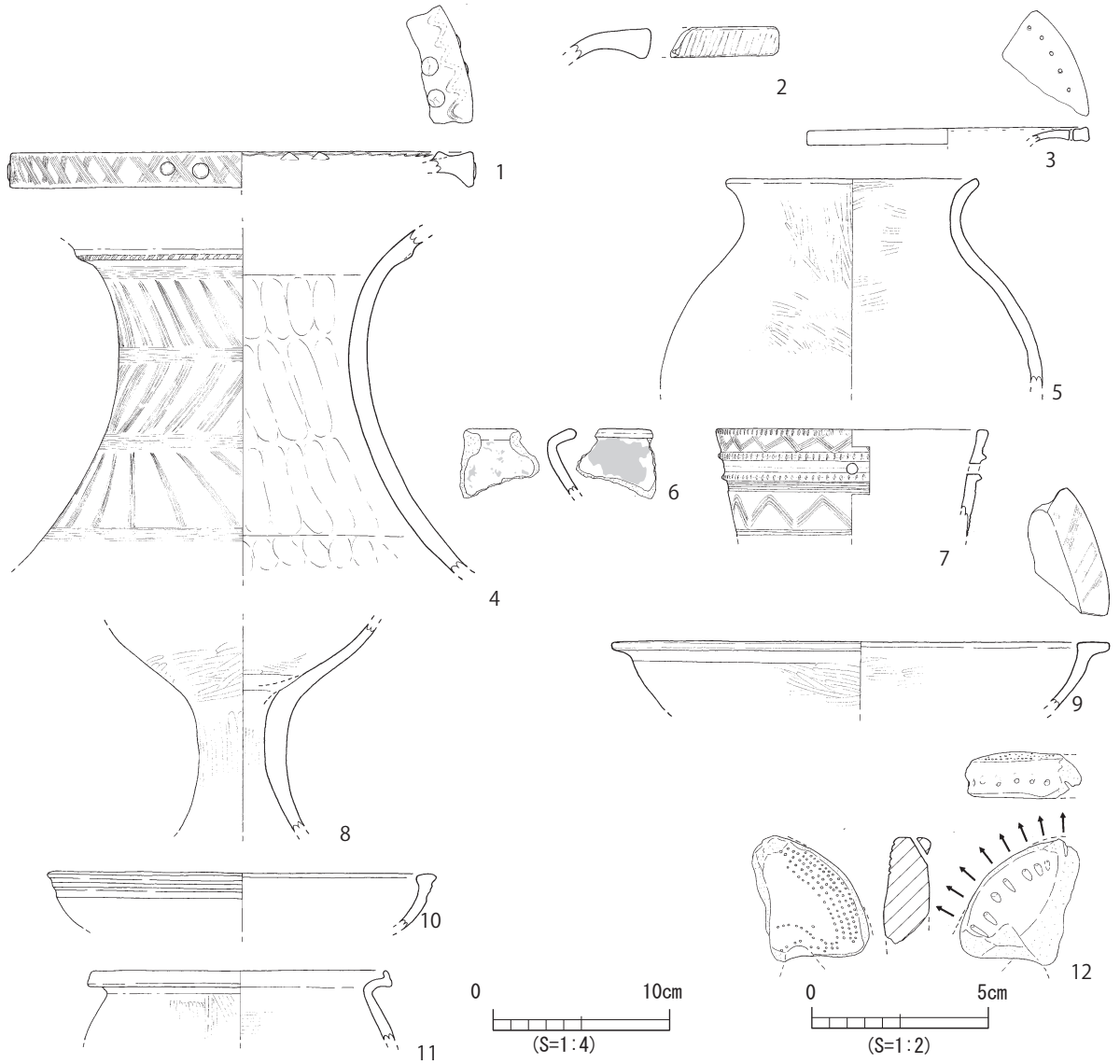
(7) 上層出土遺物(第171～174図)

A2区(北)及び(南)の上層からは弥生土器・土製品・石製品が出土した。

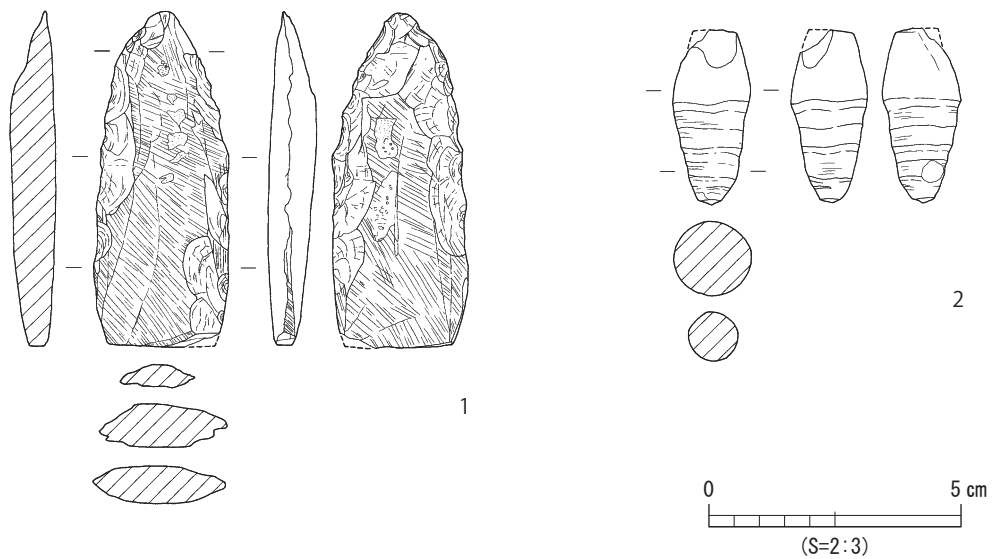


第165図 A2区(北) SD09(自然河道)土器溜まり11(黒色粘土層)出土弥生土器実測図(1/4)

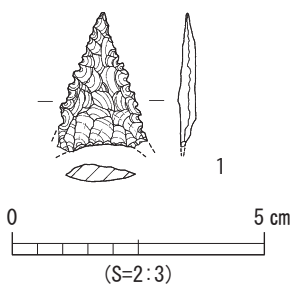




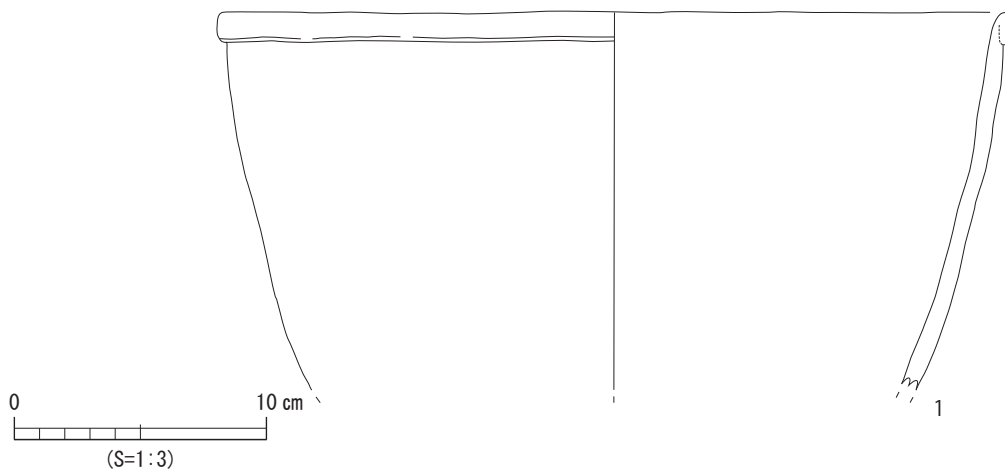
第166図 A2区(北) SD09(自然河道) 黑色土層出土弥生土器・土製品実測図(1/4・1/2)



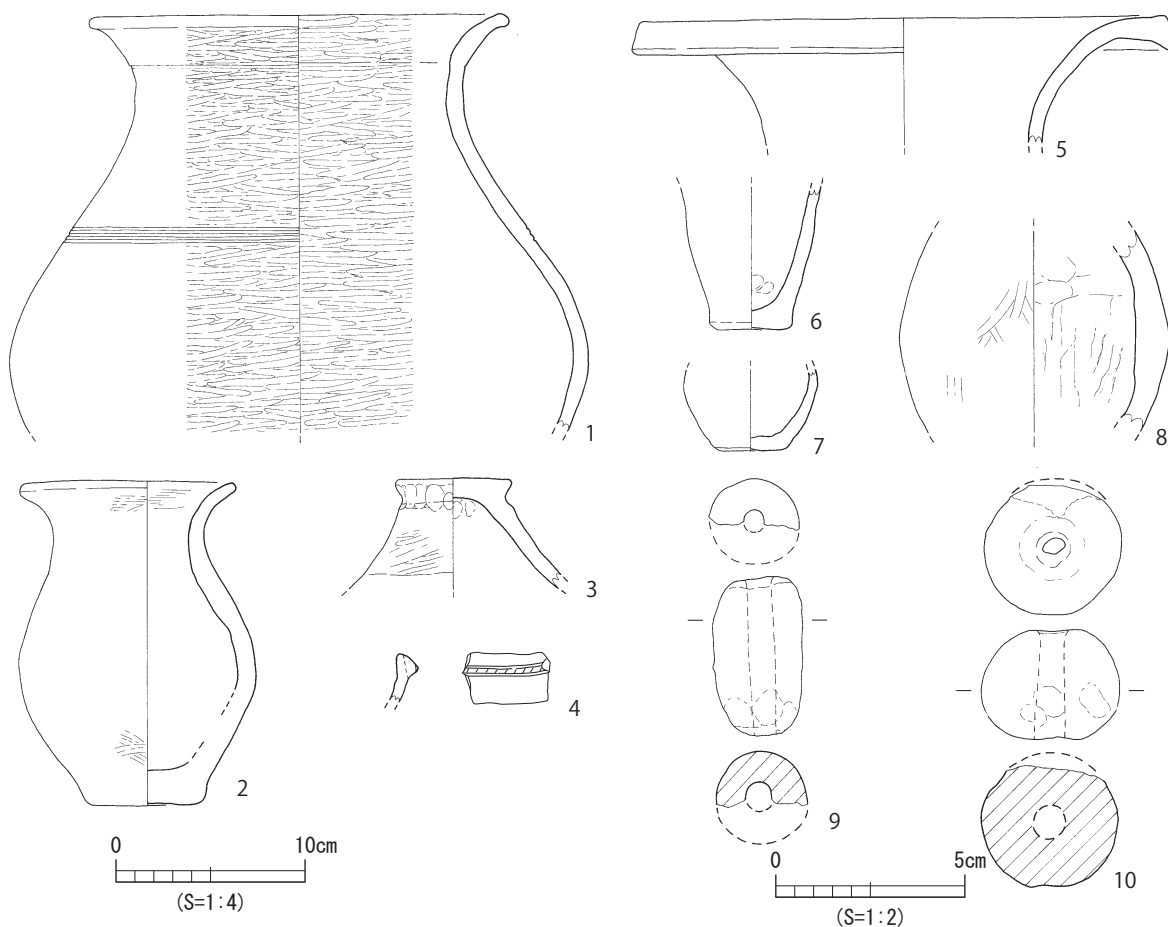
第167図 A2区(北) SD09(自然河道) 黑色土層出土石器実測図(2/3)



第168図 A2区(南) SD09(自然河道) 橙色砂質土層出土石器実測図(2/3)



第169図 A2区(南) SD09(自然河道) シルト層出土縄文土器実測図(1/3)

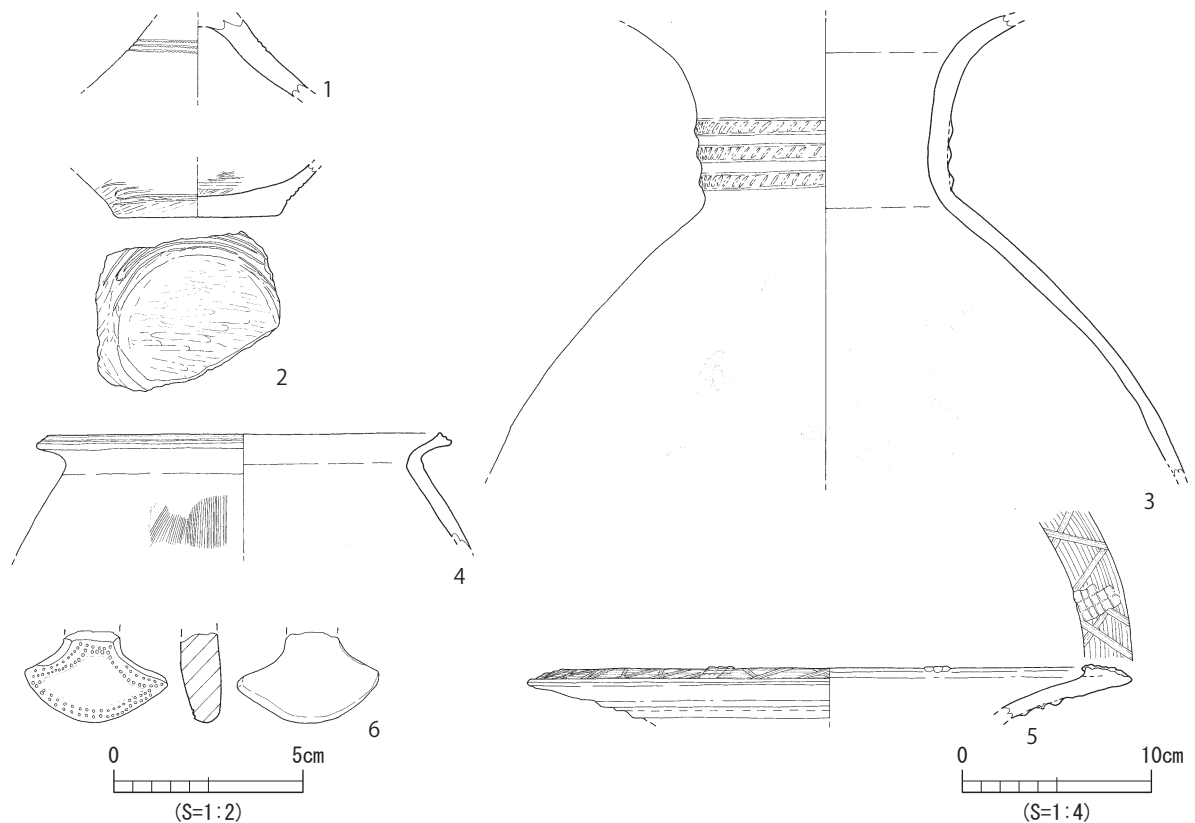


第170図 A2区(南) SD09(自然河道) 橙色砂質土層出土弥生土器・土製品実測図(1/4・1/2)

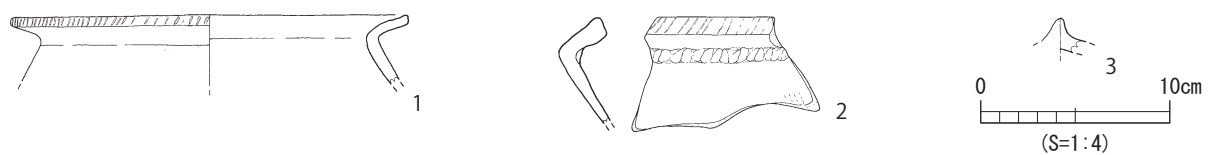
弥生土器(第171～172・174図) 第171図1・2はI様式に属す土器と考えられる。1は蓋の頂部もしくは底部と考えられ、貝殻による3条の直線文が施されている。2は底部でありヘラ描きの擬流水文が施される。3～5は中期に属す土器である。3は頸部に3条の刻み目突帯を貼り付ける広口壺でⅢ様式に属すものと考えられる。4は口縁端部に2条の凹線文がはいる甕でありⅣ様式に属すと考えられる。5もⅣ様式で拡張した口縁端部に凹線文と櫛描きの斜格子文、棒状浮文を施し、口縁部下には断面三角形の貼り付け突帯を3条めぐらせる。6は非常に小型の分銅形土製品の下半部である。円形の刺突文による装飾が見られ、刺突文は外縁部に沿って2列施される。中期に属すものと考えられる。

第172図はA2区(北)の土器溜まり10出土のもので中期に属すと考えられる。1は口縁端部に狭い面をもち刻み目がある甕であり、2は口縁端部に刻み目があり頸部に指頭圧痕文帯がめぐる甕である。1・2ともにⅢ様式に属すものである。3は壺蓋のつまみ部分と考えられる。

第174図はA2区(南)から出土したものである。1は前期に属す蓋の頂部である。2～4は中期に属す土器である。2は口縁端部上面が拡張し平坦面をもつ鉢であり、体部には2条の刻み目突帯が貼り付けられる。Ⅲ様式に属すものと考えられる。3は拡張した口縁部に2条の凹線文と円形浮文が施される甕であり頸部には板状工具による押圧突帯が貼り付く。4は広口壺であり



第171図 A2区(北) SD09(自然河道)上層出土弥生土器実測図(1/4・1/2)



第172図 A2区(北) SD09(自然河道)土器溜まり10(上層)出土弥生土器実測図(1/4)

拡張した口縁部に3条の凹線文と円形浮文が、頸部には断面三角形の突帯が貼り付く。3・4はIV様式に属すものと考えられる。5は小型品の底部と考えられ、6は小片であるが円形の孔が見られその配置から土笛と考えられる。

**石製品(第173図)** 第173図は緑色凝灰岩製の板状の石製品であり、施溝分割時のものと考えられる溝が1条確認され、両面とも研磨痕が見られることから管玉未製品と考えられる。

(8) 埋土出土土器(第175～179図)

A1区のSD09の出土遺物については埋土一括で取り上げを行った。A1区とA2区(南)南東隅のSD09はA2区検出の自然河道と同一の可能性が高いが、別の流路もしくは溝の可能性も残る。このことからA2区(南)の南東隅で検出した土器溜まり12もここで一緒に記述する。出土遺物には縄文土器、弥生土器、石器がある。

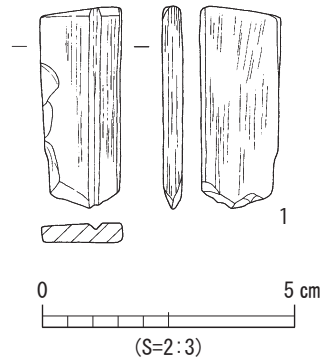
**縄文土器(第175図)** 1は楕円形状の破片で端部が加工されていることから土器転用の錘と考えられる。

**石器(第176図)** 1は頁岩製の石包丁である。円形の孔が2つあり全体に研磨痕が確認される。

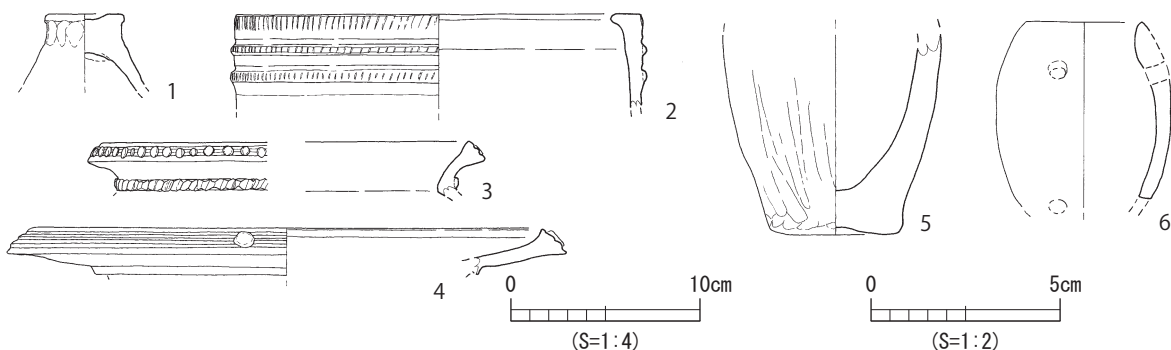
**土器溜まり12出土弥生土器(第177図)** A2区(南)から出土した前期の土器である。1は大型の壺の胴部下半である。2は壺の胴部であり、1条のへら描き直線文が施される。

**弥生土器・土製品(第178・179図)** A1区のSD09から出土した弥生土器である。第178図は前期の甕又は鉢である。1～5は1条のへら描き直線文が施され、6は3条のへら描き直線文が施される甕である。7～12は無文の甕であり、13・14は無文の鉢である。

第179図1～8は前期の壺である。1は口縁部と頸部境に段が設けられ、2は頸部と胴部境に段が設けられる。3は頸部と胴部境に1条のへら描き直線文が施される。4は口縁部と頸部境に刻み目のはいる突帯が貼り付けられる。5は頸部と胴部境に2条のへら描き直線文が施される。6・7は胴部に刻み目のある突帯が貼り付けられており、6は2条、7は3条貼り付けられている。8は2条のへら描き直線文と縦方向の直線文3条が組み合わさる。9・10は前期の無頸壺である。口縁端部付近に円形の孔が見られる。11～13は前期の蓋である。14～16は前期の壺又は甕の底部である。17は卵形を呈す



第173図 A2区(北) SD09(自然河道) 土器溜まり10上層出土石製品実測図(2/3)



第174図 A2区(南) SD09(自然河道) 上層出土弥生土器実測図(1/4・1/2)

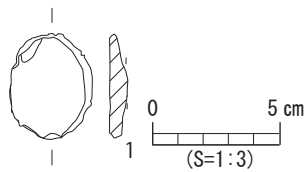
小型品であり、土笛の可能性も考えられる。18は紡錘車である。

(9) その他 (A1区 SD09 北側)(第180図)

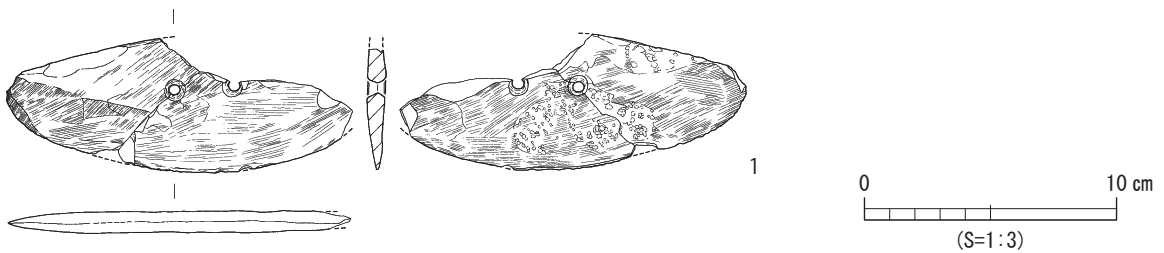
A1区ではSD09の北側の浅い溝も同一遺構と判断して掘削を行った。その埋土から出土した遺物をここで記述する。

**弥生土器(第180図)** 1～4は前期の土器である。1は壺であり頸部と胴部境に段を設けている。2は無文の甕であり、3は蓋である。4は壺と考えられ2条のへら描き直線文が施される。5・6は壺の紋様部分の破片であり、5はへら描き直線文が施され、6は羽状文が施されている。

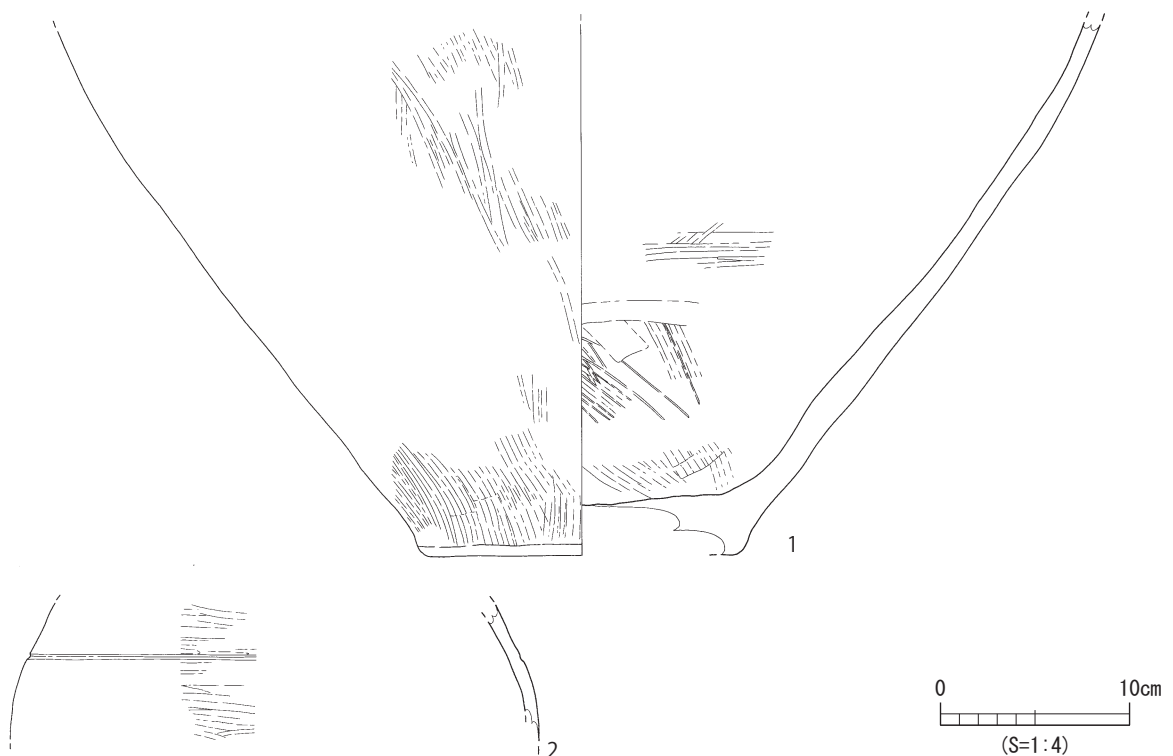
7～11は中期又は後期の土器である。7は頸部に指頭圧痕文帯が設けられた甕でありIV様式に属すものと考えられる。8～10はV様式の甕と考えられ、10は拡張した口縁部に2条の凹線文



第175図 A1区 SD09 南側(自然河道)埋土出土縄文土器実測図(1/3)

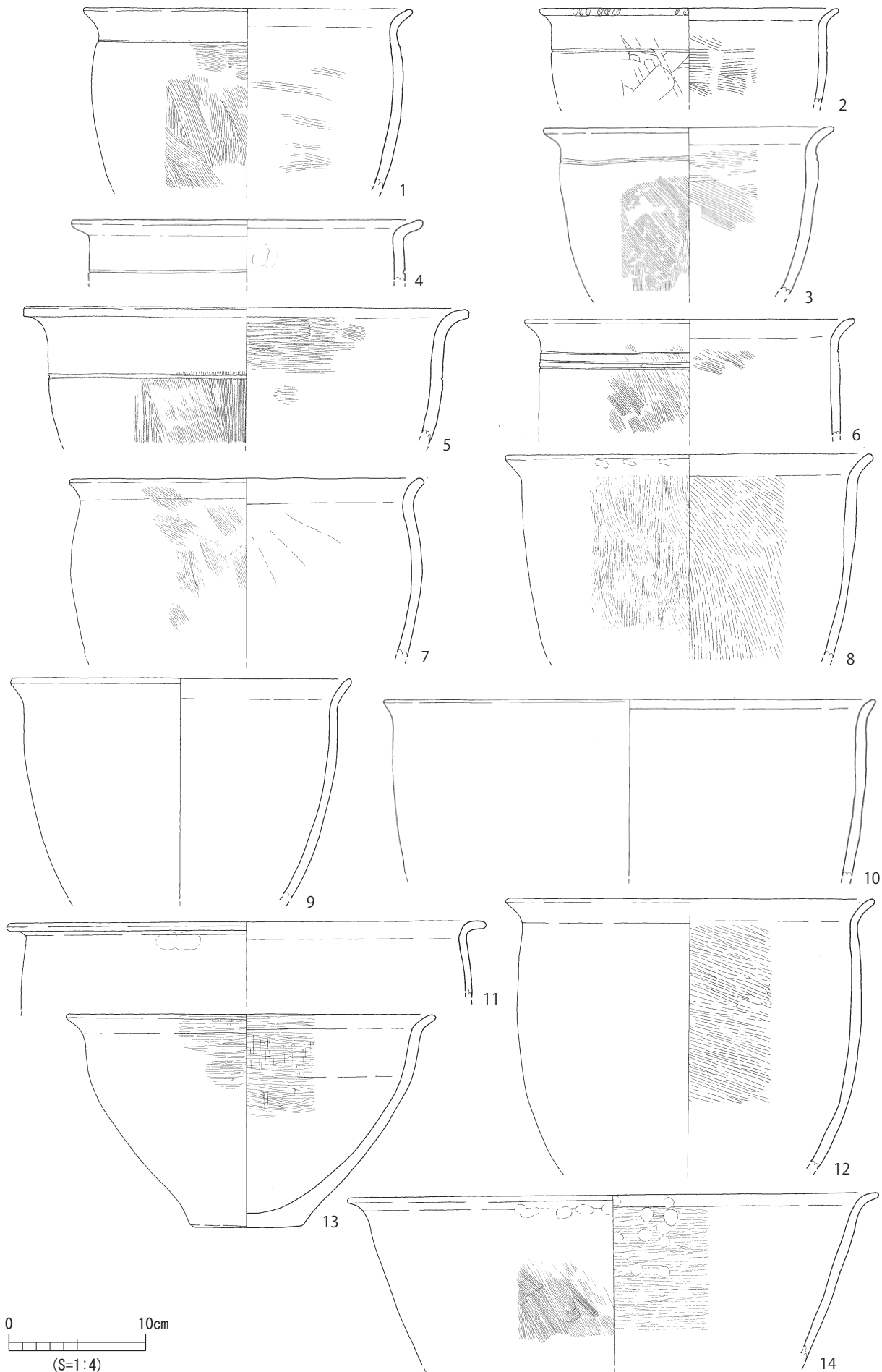


第176図 A1区 SD09 南側(自然河道)埋土出土石器実測図(1/3)



第177図 A2区(南) SD09(自然河道)土器溜まり12出土弥生土器実測図(1/4)





第178図 A1区 SD09南側(自然河道)埋土出土弥生土器実測図(1/4)

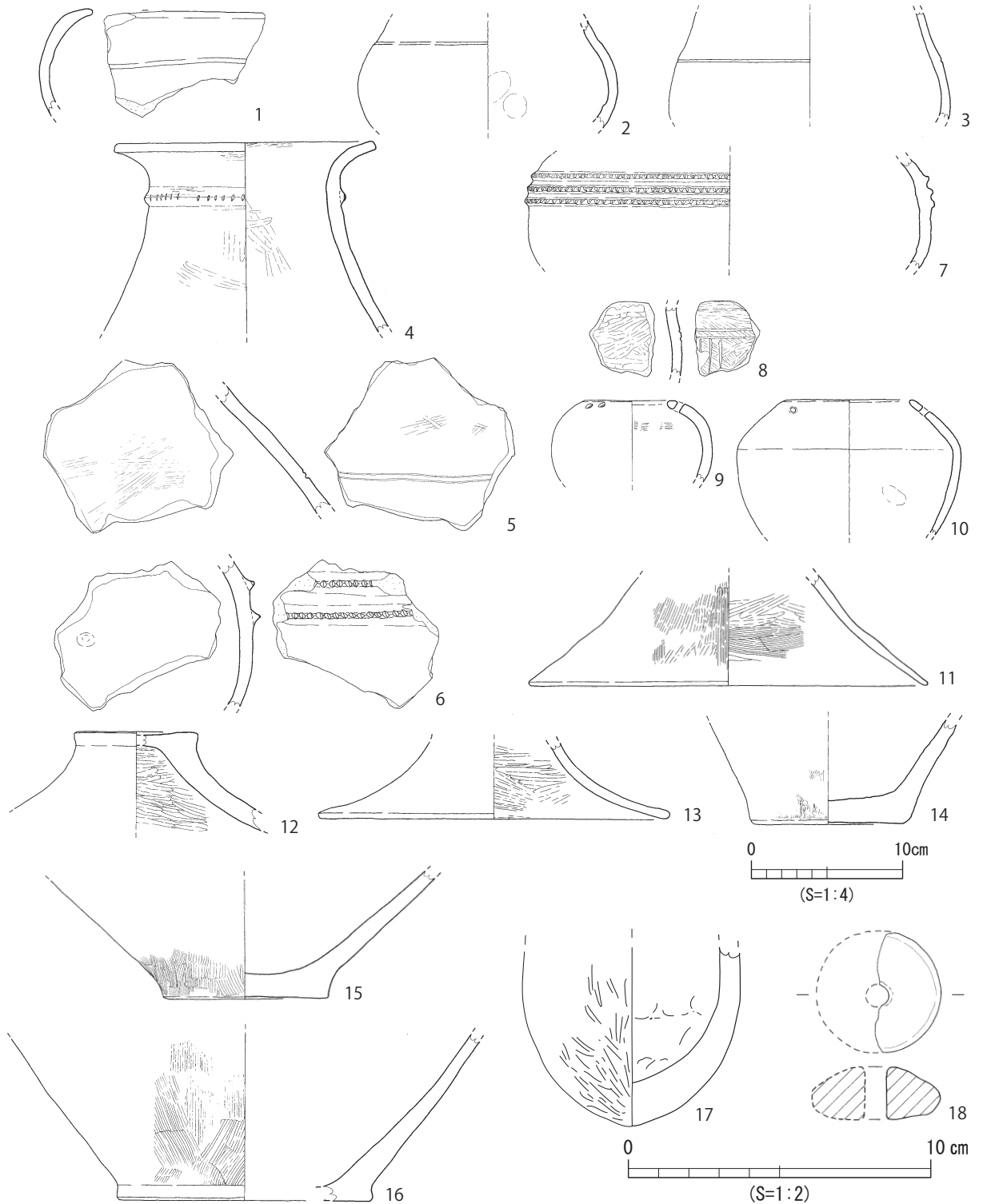
がはいる。11は底部である。

### 5. 自然河道の堆積層の時期

最後に SD09 の各堆積層の時期について本節でまとめておきたい。

#### (1) 砂礫層

最下部に堆積していると考えられる層であり、河道が流路として機能していた段階の堆積物で



第179図 A1区 SD09南側(自然河道)埋土出土弥生土器・土製品実測図(1/4・1/2)

ある。出土した弥生土器はⅠ-1～Ⅰ-2様式であることからこの段階まで流路として存在していたものと推測される。

(2) オモカス層

砂礫層上部に堆積する腐植質粘土であり、河道が湿地状の環境になった段階の堆積層である。出土した弥生土器はⅠ-2～Ⅰ-3様式であることから、Ⅰ-3様式の段階には確実に湿地化していたものと推測される。

(3) 下層

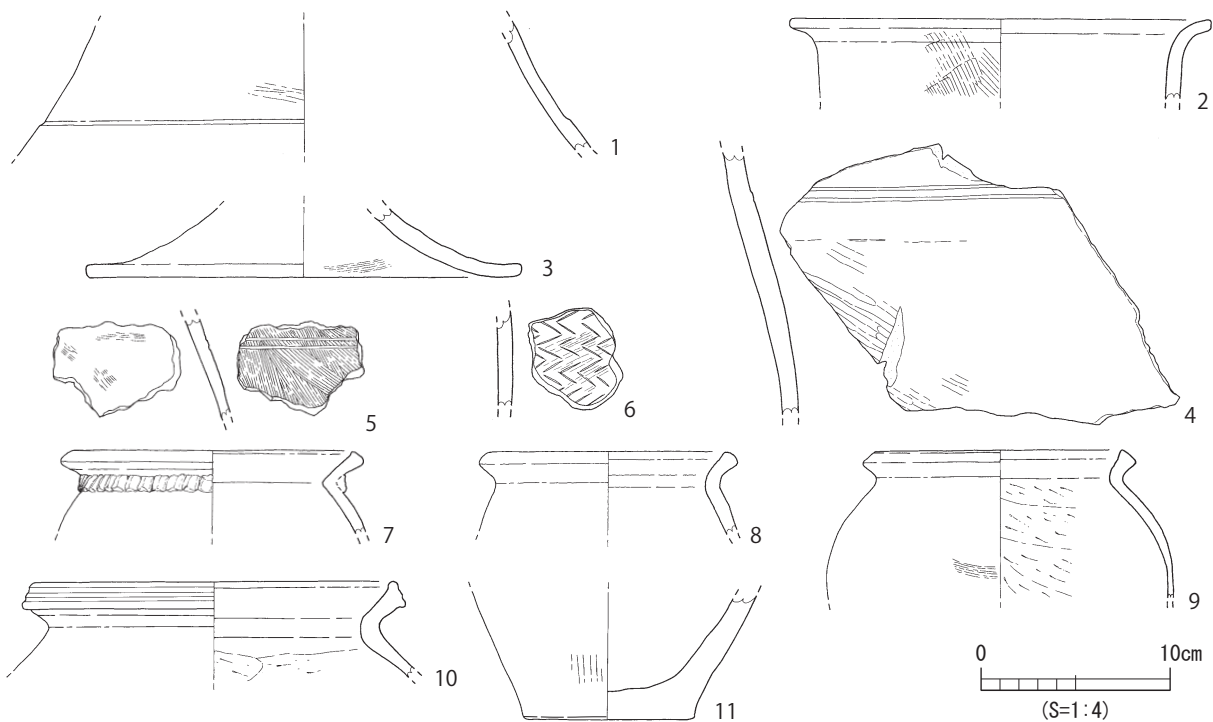
下層は粘土層であることから、湿地状の環境である段階の堆積層と考えられるが下部のオモカス層の段階よりはやや乾燥しつつある環境であった可能性が高い。出土した弥生土器はⅠ-2～Ⅰ-4様式中心であるが、A2区(北)からはⅢ様式に属するものも若干ではあるが出土していることからⅢ様式の段階にはやや湿地化した環境であったものと推測される。

(4) 橙色砂質土層・黒色粘土層・黒色土層

橙色砂質土層、黒色粘土層及び黒色土層はある程度乾燥した段階の堆積層と考えられる。出土土器はⅢ～Ⅳ様式中心であることから、Ⅳ様式にはある程度乾燥し、陸地化した環境であったと推測される。

(5) 上層

上層はほぼ陸地化した状況の堆積層と考えられ、人為的な埋土の可能性もあり、古土壌又は水田であったものと考えられる。出土土器はⅣ様式が中心でありそれ以前のⅠ～Ⅲ様式の土器も含まれる。これらのことからⅣ様式の段階には完全に河道は埋没していたものと推測される。



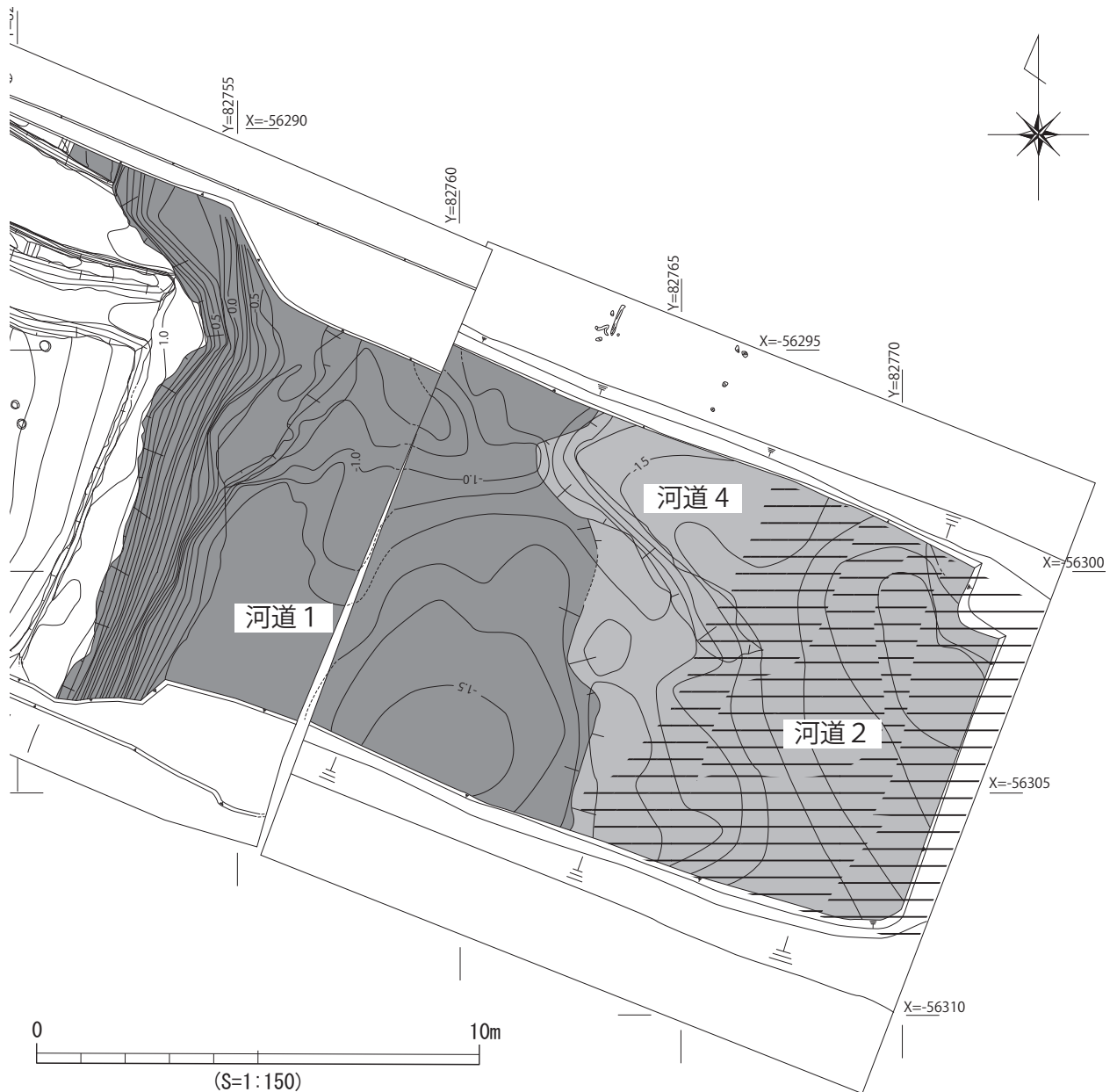
第180図 A1区 SD09北側(自然河道)埋土出土弥生土器実測図(1/4)

## 第6節 古墳時代以降の自然河道とその遺物

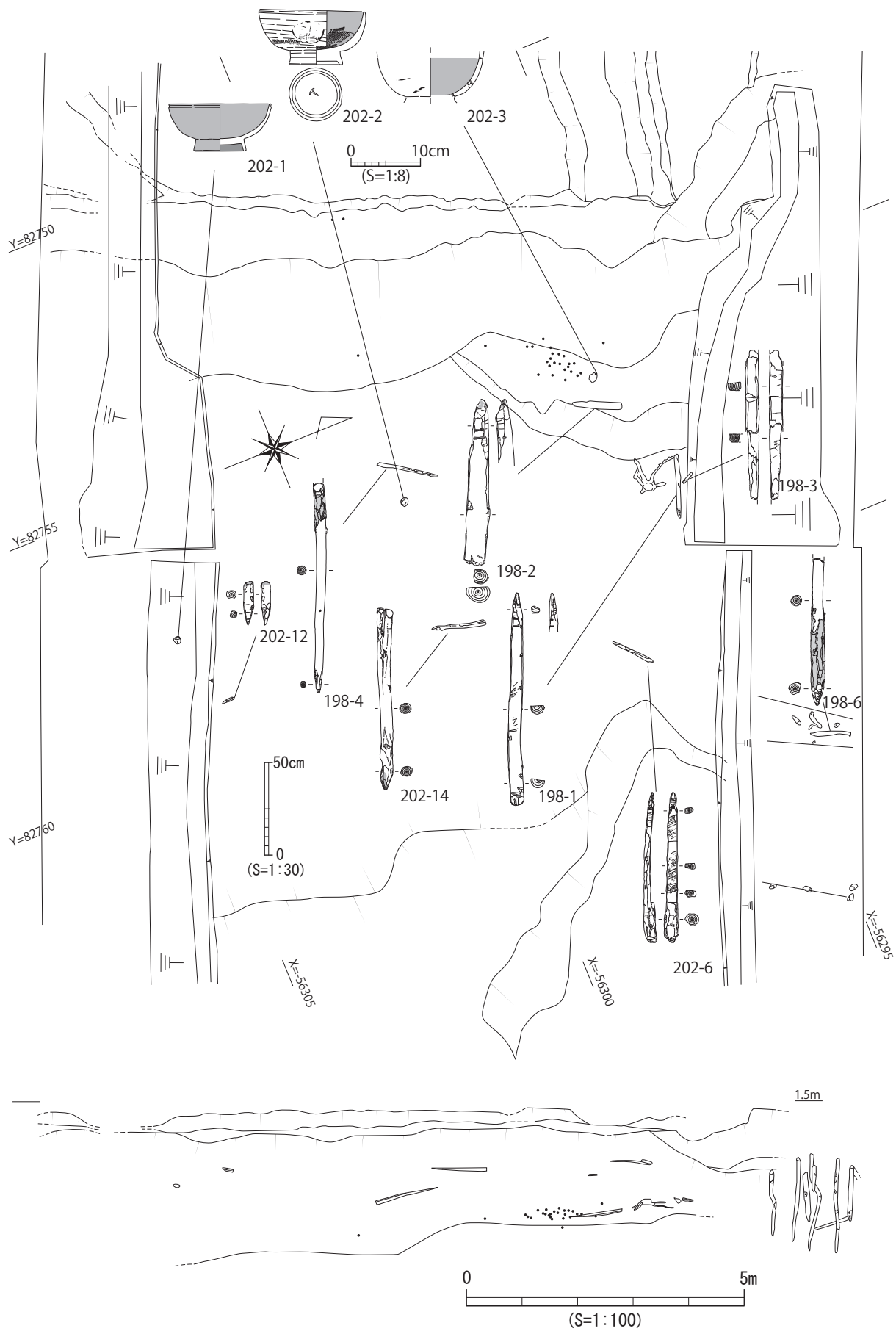
### 1. 自然河道の概要 (第13・14・181図)

B1区の東側は微高地が自然河道によって削られ失われている。この自然河道は土層断面等からいくつかの河道堆積に分けられるものである。これらは旧朝酌川の河道と考えられるものである。

第13・14図のB1区の調査区土層断面では微高地を削る河道(河道1)が存在し、その河道堆積層をさらに削っている河道(河道2)が確認される。この河道2としたものは調査区南壁の土層断面の観察からさらに2つに分けられるが、平面的には判別ができなかったことから河道2として一括して堆積層の調査を行った。また、河道1と河道2のどちらにも属さない堆積層が調査区北壁の土層断面で確認され河道4としている。また河道4の調査時に溝状の落ち込みが検出され、それについては河道4Bと区別して掘削を行った。なお調査途中で一時期河道3と認識して調査



第181図 B1区 自然河道概略図(1/150)



第182図 B1区 自然河道内遺物出土状況図(1/100)

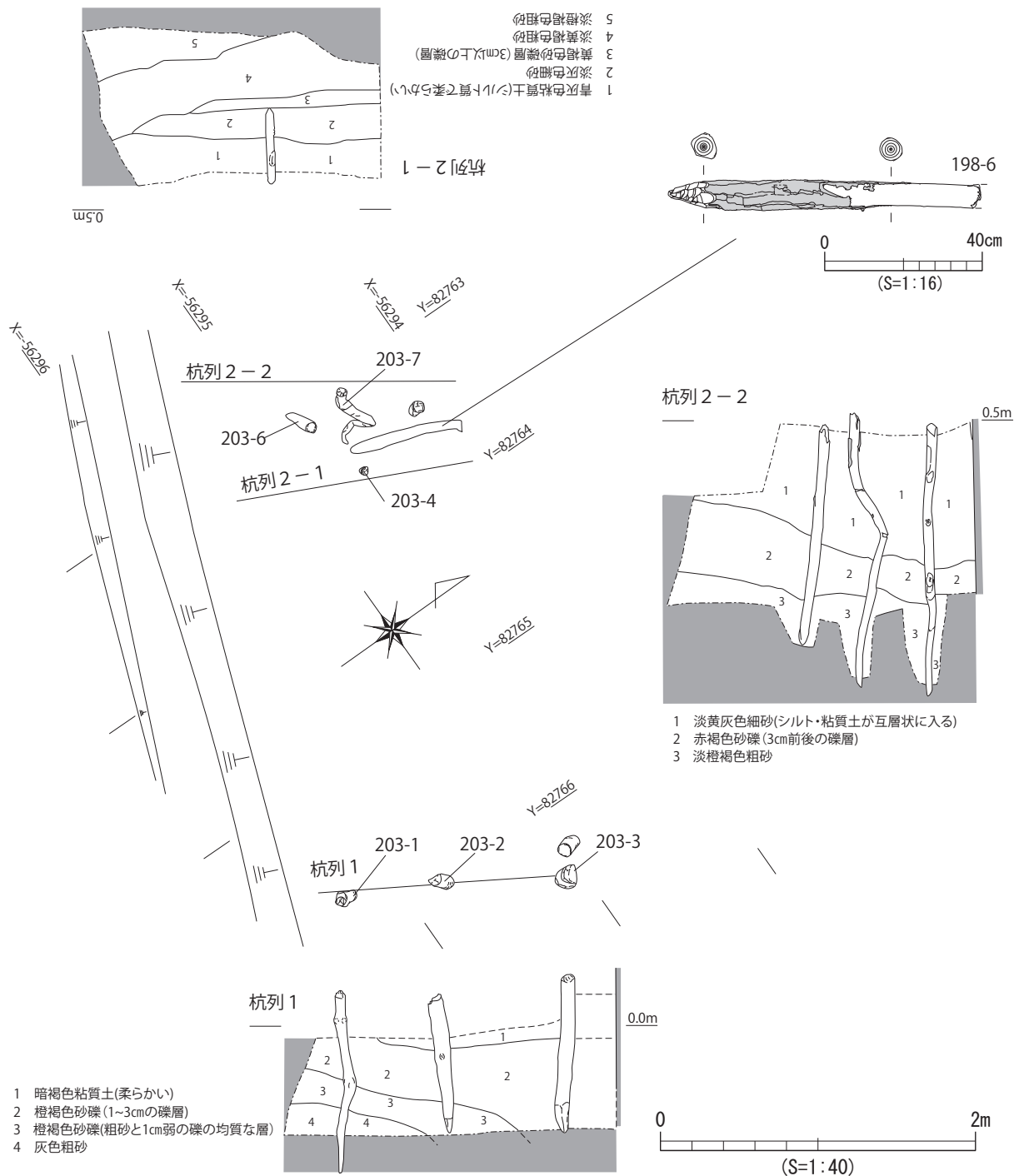


した堆積層があったが、断面観察と平面の精査によって存在しないものと判断した。

河道の前後関係は、古いものから河道4B→河道4→河道1→河道2となる。なお、河道1の堆積層の中で微高地の壁面に沿うように堆積した黒色粘土層中からは弥生時代の遺物のみが出土しており、河道1以前の古い河道の堆積層である可能性が考えられる。

## 2. 遺物出土状況(第182図)

河道の調査で出土した遺物は基本的に層位ごとに取り上げを行い、出土地点等を記録したものは僅かである。第182図は任意で土器・石器の出土地点を記録したものと及び木製品である。土器と木製品は河道1の堆積層中のものであり、杭列は河道1がほぼ埋没して湿地状になりシルト層



第183図 B1区 自然河道内杭列1・2遺構実測図(1/40)

が堆積した段階に打ち込まれたものである。

### 3. 検出した杭列(第183図)

杭列はB1区の調査区北壁のシルト層中の標高0.5m付近で検出した。杭列は南から杭列1、杭列2の2列確認され、杭列2は杭列2-1と杭列2-2と2つに分けている。これらの時期は打ち込まれたシルト層が中世～近世の時期に想定されるので、近世以降に打ち込まれたものと推測される。

#### (1) 杭列1

杭列1では3本の杭を確認し、調査区外の北側にも連続している可能性がある。それぞれの杭は長さ1m程であり転用された材も確認される。杭の間隔は0.6～0.8mである。

#### (2) 杭列2

杭列2では4本の杭を確認し、3本の列(杭列2-1)と1本(杭列2-2)に分けられる。杭列2-1の間隔は0.4m程である。杭は長さ1.7m程であり転用された材も確認される。また杭の中には不自然に曲がったものがあり、これらは以前の調査でも確認されているように地震の影響で折れ曲がったものと推測される。

### 4. 河道4及び河道4B(第11・181図)

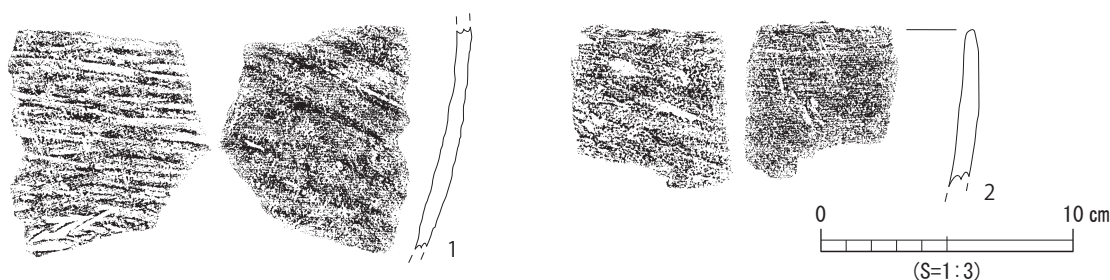
河道4はB1区の東側で確認された幅7m以上の河道である。その下部で検出した溝状の落ち込みについては河道4Bとしている。河道4Bとした落ち込みは幅2m、深さ0.4mである

#### (1) 出土遺物(第184～187図)

**縄文土器(第184・185図)** 第184図は河道4Bの砂礫層出土の縄文土器である。1・2は晩期に属し、突帯文土器の時期に属すと考えられる。

第185図は河道4の砂礫層出土の縄文土器である。1～4は前期と考えられ西川津式に相当するものと考えられる。5～8も前期と考えられ、西川津式に相当する可能性がある。9は沈線文が施されており後期中津式に相当する可能性があると考えられる。10は岩田4類に類似し後期末のものと考えられる。11・12は晩期のものと考えられ11は椀形の浅鉢である。13・14は晩期の突帯文土器である。15・16は晩期の突帯文土器の時期に相当するものと考えられる。17は位置づけが不明なものである。

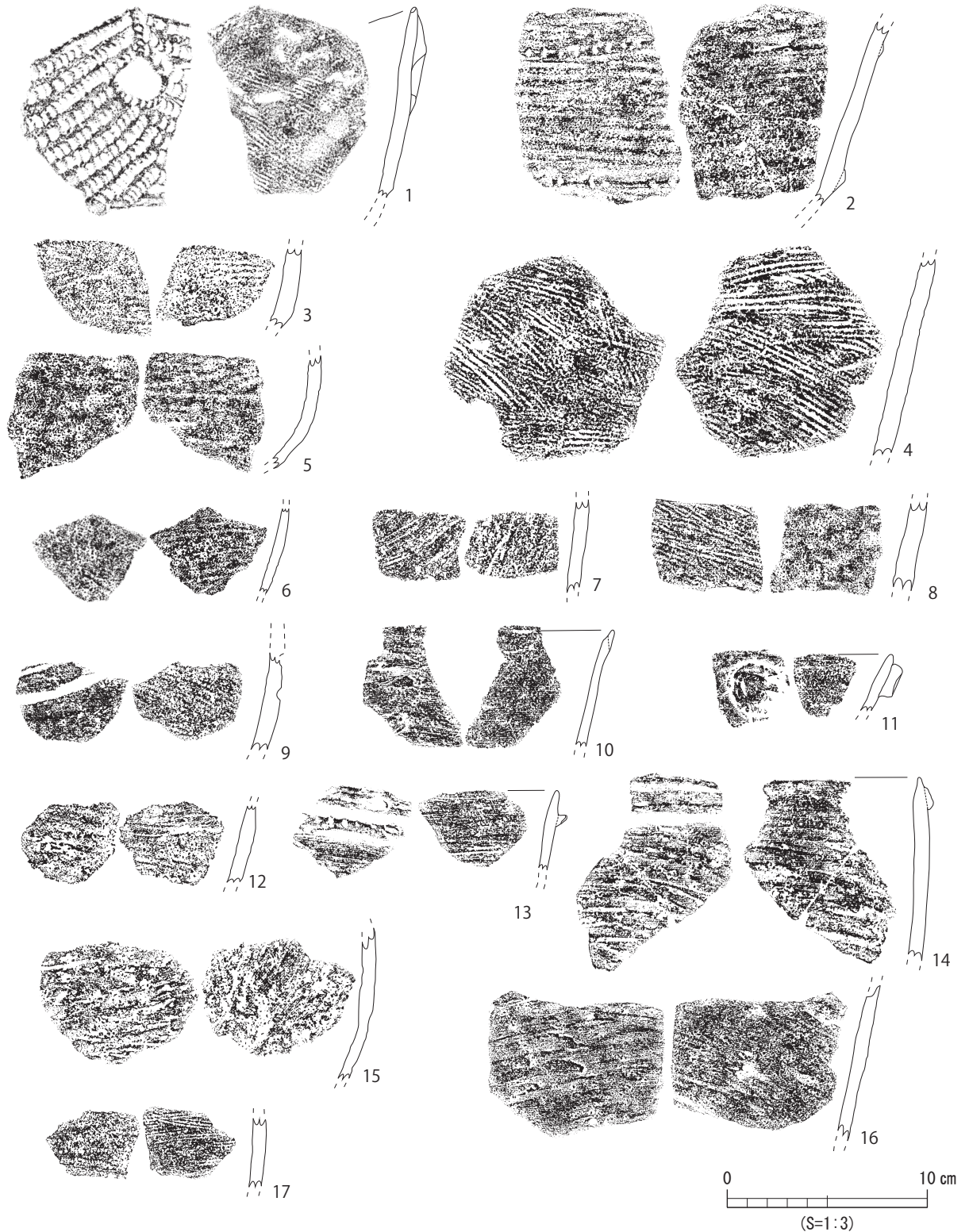
**弥生土器・土師器(第186図)** 1～5は河道4出土、6～8は河道4B出土の土器である。1は6条単位の櫛描きの直線文18条と刺突文が施されたⅡ様式の甕である。2は胴部に刻み目突帯が貼り付けられた壺でありⅠ～Ⅱ様式のものと考えられる。3はⅢ様式頃の甕、4はⅤ様式の低脚坏である。5は古墳時代後期頃の甕と考えられる。



第184図 B1区 河道4B砂礫層出土縄文土器実測図(1/3)

6は5条の櫛描きの直線文が施されたⅡ様式の甕である。7は頸部と胴部境に4条のヘラ描き直線文が施されたⅠ様式の壺である。8はⅢ様式の長頸壺であり口縁部は斜格子文、刻目、円形浮文で装飾され、頸部には3条の貼付突帯が見られる。

石器・石製品(第187図) 1・2は河道4の砂礫層から出土した。1は管玉であり、両面から穿孔している。2は玄武岩製の石錘であり十字に溝が彫られている。敲打痕が確認される。



第185図 B1区 河道4砂礫層出土縄文土器実測図(1/3)



(2) 河道4及び河道4Bの時期

河道4からは掲載した縄文土器・弥生土器・土師器以外に須恵器が出土しており、その須恵器は古墳時代後期～奈良時代にかけてのものである。そのことから河道4は奈良時代頃の河道である可能性が考えられる。河道4Bの砂礫層からも非掲載であるが須恵器が出土している。須恵器は古墳時代後期のものであることから河道4Bは古墳時代後期である可能性も考えられる。

5. 河道1

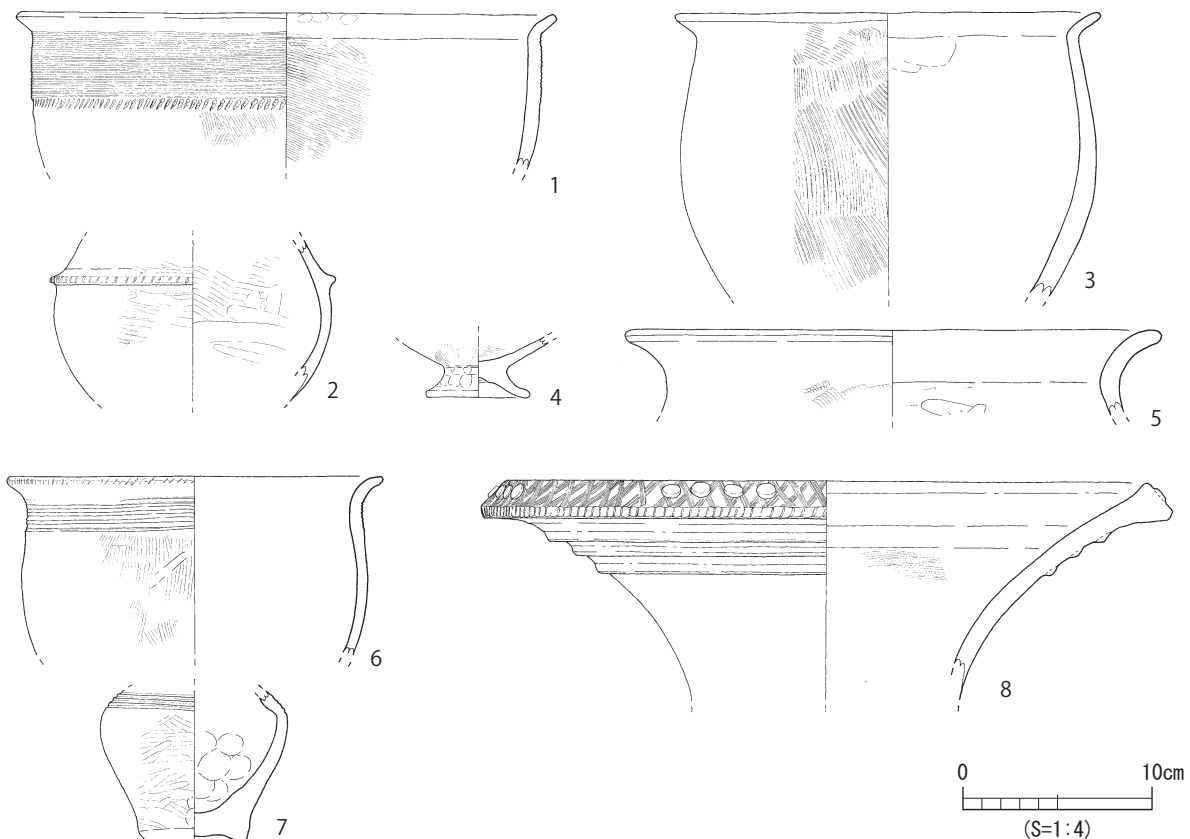
河道1はB1区の微高地を削っている河道で、幅13mの河道である。東岸は河道2によって失われているが、完掘段階でかろうじて下部の立ち上がりを確認された。堆積物はシルト層(3層・3b層)・砂礫層(3c層・3d層)であり、出土遺物は層位ごとに取り上げた。また河道の西岸の微高地に沿うように粘性の高い黒色粘質土(4層)が堆積しており、これは河道1以前に堆積した層の可能性が考えられる。そうなる場合は、河道1以前に微高地を削った河道が存在したことになる。

(1)4層出土遺物(第188図～190図)

4層は黒色粘質土層であり河道1の堆積層としたが、河道1以前の河道に堆積した層である可能性がある。出土遺物には縄文土器・弥生土器・石器がある。

**縄文土器(第189図)** 1は晩期の浅鉢の口縁部で、口縁内面に沈線がはいる。岩田4類に相当するものと思われることから晩期に属するものと考えられる。

**弥生土器・土製品(第188図)** 1はI様式の逆L字状の貼り付け口縁の甕と考えられる。2はV様式の甕と考えられ複合口縁には4条の凹線文が施される。3は複合口縁の甕であり弥生時代後期末頃に属するものと考えられる。4は短頸壺であり時期的な位置づけが難しいがV様式頃のもの



第186図 B1区 河道4・4B砂礫層出土土器実測図(1/4)

か。5はIV様式甕と考えられる。6は小型の甕であり胴部には刺突文が施され、頸部には円形の孔が見られる。V様式に属すものと考えられる。7は小型の壺であり古墳時代前期頃のものと考えられる。8・9はV様式の装飾壺であり、直線文と刺突文を組み合わせるして施している。10はV様式の高坏である。坏部の複合口縁には4条の凹線文が施される。11は器台の脚部でありV様式に属すと考えられる。12・13は高坏の脚部である。12はV様式に属すと考えられる。13は充填の技法等から古墳時代前期に属すものと考えられる。14～16は大型の壺である。14は絵画土器であり、詳細は後述する。15はIV様式に属すものと考えられ、複合口縁には3条の凹線文が施され、頸部には6条のへら描き直線文が施される。その下には刺突文・羽状文・直線文が組み合わさる。16はV様式に属すもので複合口縁には3条以上の凹線文が施され、頸部には3条単位の凹線文の中に刺突文が組み合わさっている。17は分銅形土製品と考えられる。上半部か下半部かは外縁部が欠損しており不明であるが、刺突による円弧状の紋様が施される。

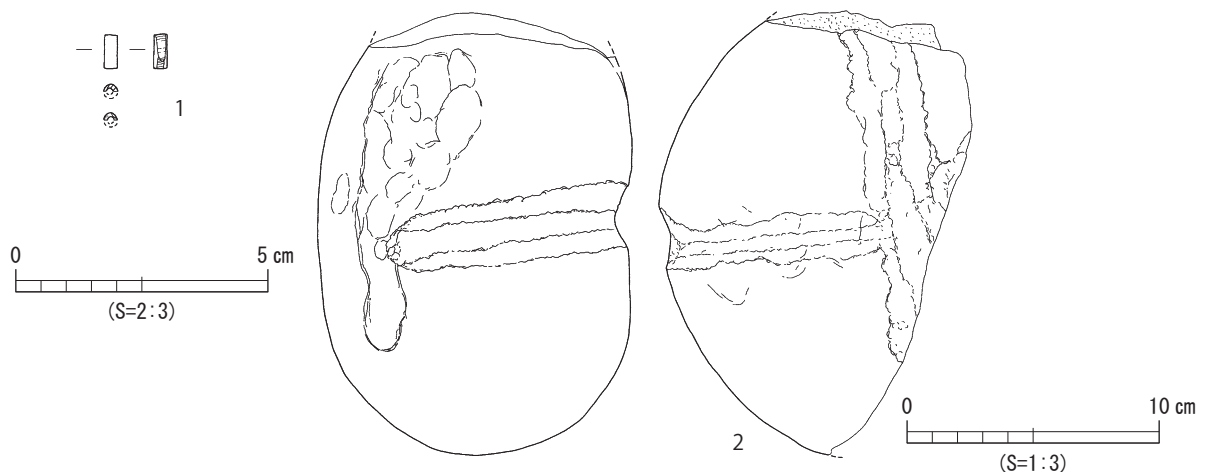
**絵画土器(第188図14)** 14は頸部から胴部上半であり、凹線文で区画され中に鋸歯文、羽状文、刺突文、鋸歯文が施される。施文には複数の工具が使用されている。時期はIV様式以降のものであると考えられ、内面のハケ調整からIV様式に位置付けることができる。ただし凹線文で区画された文様構成や土器の色調からV様式のものとも考えることもできるものである。

文様の下には線刻による絵画が確認される。絵画は鋸歯文と同じような鋭利な工具で描かれており、S字状の文様が少なくとも3つは連続して組み合わさるように表現されている。図の右側は欠損しており不明である。また図の左手側には下方に向かいやや弧状になる線が確認されるが、連続S字状文とは異なる工具による可能性がある。この絵画が何を表現しているのかは難しく、土器の時期的な位置付けによっても解釈が変わる可能性がある。IV様式と捉えるならば同時期の銅鐸や木製品に描かれた絵画から考えると、このような波打った表現はへびを描いているものと考えられる。V様式であれば、この時期から描かれる事例が多い龍の可能性も十分考えられるものである。

**石器(第190図)** 1は安山岩製の九州型石錘である。十字方向に施溝されており、破面と考えられる一方の側面は滑らかであり二次的に研磨等されている。

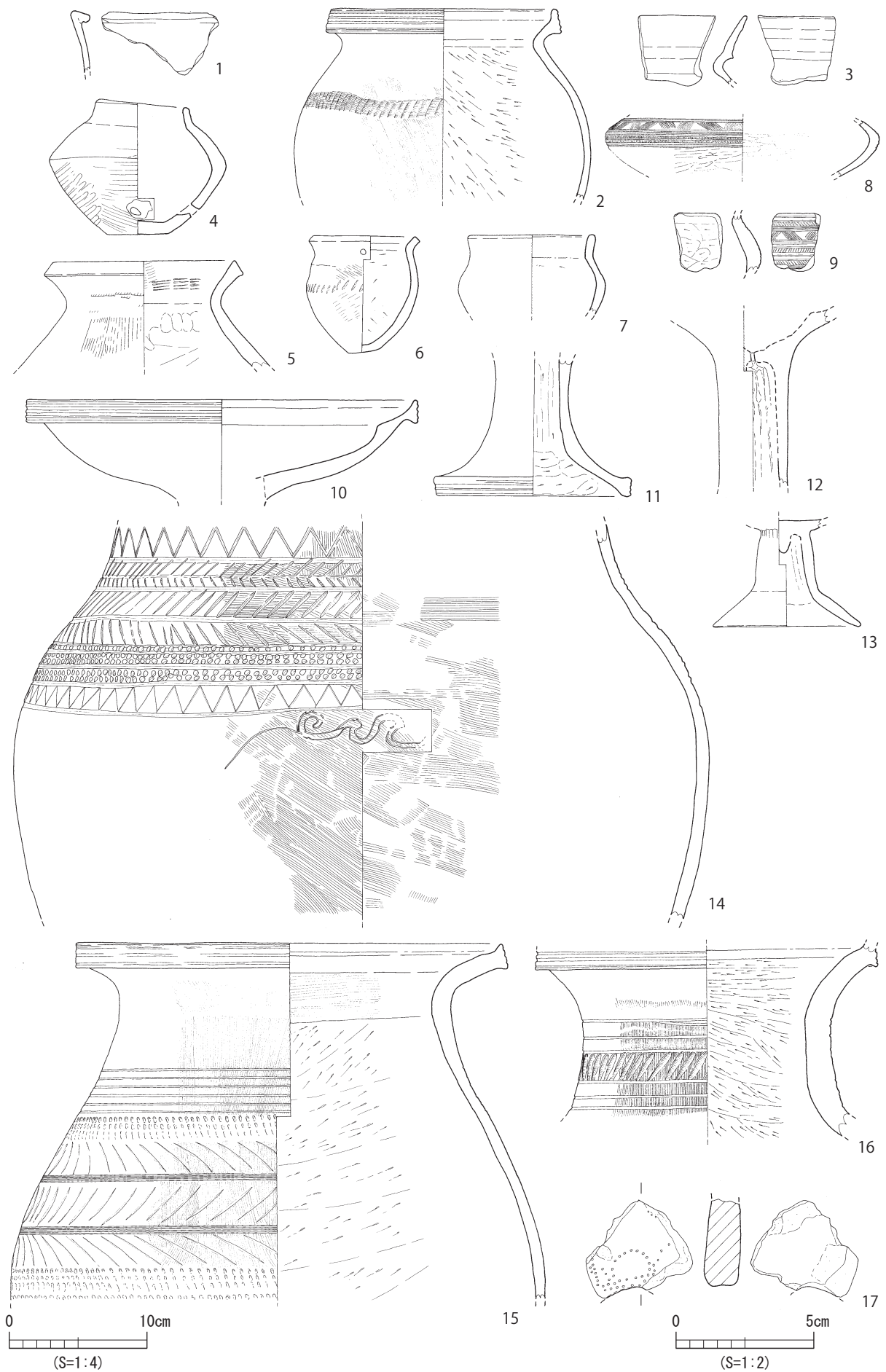
(2)3d層出土遺物(第191～198図)

河道1の最下部に堆積した還元色の青灰色の砂礫層を3d層としている。この層からは縄文土器・



第187図 B1区 河道4砂礫層出土石器・石製品実測図(1/3・2/3)





第188図 B1区 河道1 4層出土弥生土器・土製品実測図(1/4)

弥生土器・土製品・須恵器・土師器・陶磁器・石器・木製品が出土した。

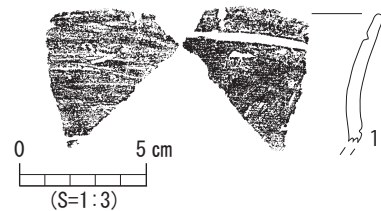
**縄文土器 (第191～193図)** 第191図1～4は早期の菱根式に相当するものと考えられる。1はRLの縄文が施されるものであり、2・3は底部である。4はRL縄文が施される。5～14は前期の西川津式に属するものと考えられる。5は二枚貝による刺突文が施され、6は折り返しによる口縁部のものである。7は口縁端部に隆帯が貼り付けられ、8は爪形様の押引文が施される。9は口縁端部に刻目が施され隆帯が貼り付く。10は刻目のある隆帯が貼り付き、11は半裁竹管による押引文が施される。12は内外面とも二枚貝条痕が見られ、13は二枚貝による刺突文が施される。14は底部であり外面に二枚貝条痕がみられる。15～19は前期に属するものと考えられる。16には刺突文が施される。20～23は外面に二枚貝条痕がみられ、前期の可能性が考えられる。

第192図1はLR縄文が施された底部であり、中期の船元式に属するものと考えられる。2～6は後期の磨消縄文の土器である。2・3はRL縄文が施され、中津式に相当するものと考えられる。4は沈線内刺突文が施され中津式～福田K2式に相当するものと考えられる。5・6はRL縄文が施され五明田式に相当する。7はRL縄文が施される後期の崎ヶ鼻I～II式に相当すると考えられる。8は沈線文が施され後期の沖丈式に相当すると考えられる。9は晩期の滋賀里Ⅲ式併行のものと考えられ、10は晩期の篠原式(原田式)に相当すると考えられる。11～20は後期～晩期にかけての粗製土器と考えられる。21～25は晩期の突帯文土器である。26は浅鉢であり突帯文土器の時期に併行するものと考えられる。27は時期が不明なものである。

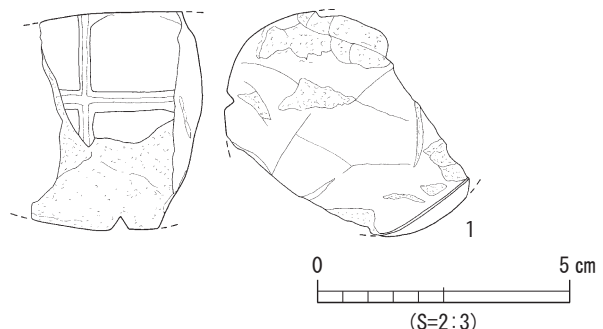
第193図は3d層に相当すると考えられる砂礫層から出土しているものである。1は波状口縁の浅鉢であり半裁竹管による爪形文が施される。前期の西川津式に相当するものと考えられる。2は口縁部に刻目がはいる磨消縄文の深鉢である。縄文はRLであり後期の五明田式に相当すると考えられる。3は晩期の浅鉢と考えられ谷尻式に相当する時期のものと考えられる。4は後期～晩期の底部付近のものと考えられる。不明瞭ではあるが顔料が塗られている可能性がある。

**弥生土器・土製品 (第194図)** 1～5はI様式に属すると考えられる。1は甕でありへら描き直線文と刺突文が交互に施されている。2は小型の無頸壺である。頸部と胴部にはそれぞれ6条のへら描きの直線文とその下方に刺突文が施されている。3は口縁から体部が直立する鉢である。口縁部付近には1条のへら描き直線文が、体部にもへら描きによる文様が見られる。4は口縁端部に刺突による羽状文が施され内面には放射状に直線文が施される壺である。頸部には6条以上のへら描き直線文が施される。5は壺の底部で底部付近には2条のへら描き直線文が施され、その上に重弧文がみられる。

6～12はV様式に属するものである。6は拡張した口縁部の甕である。7・8は

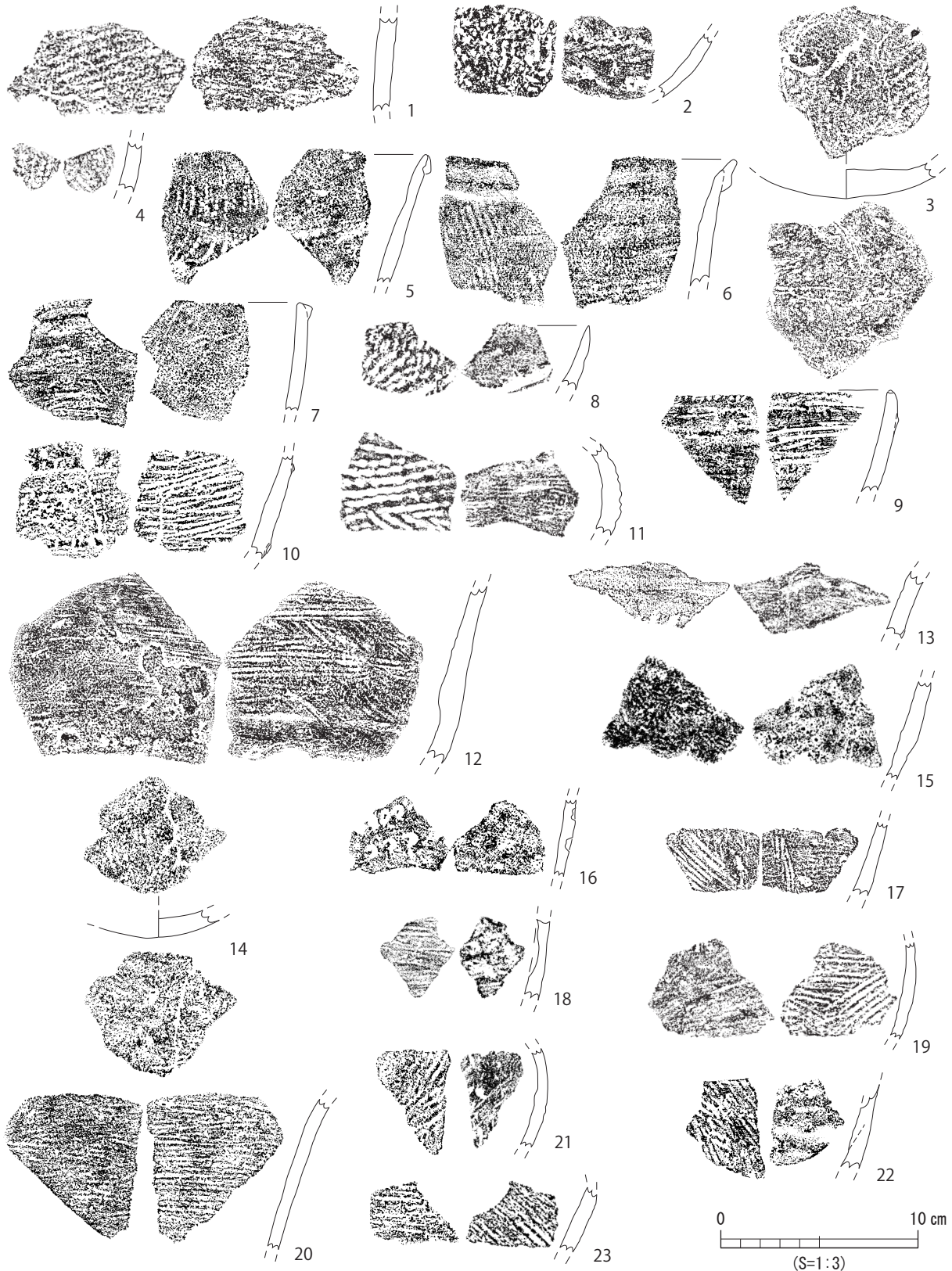


第189図 B1区 河道1 4層出土縄文土器実測図(1/3)



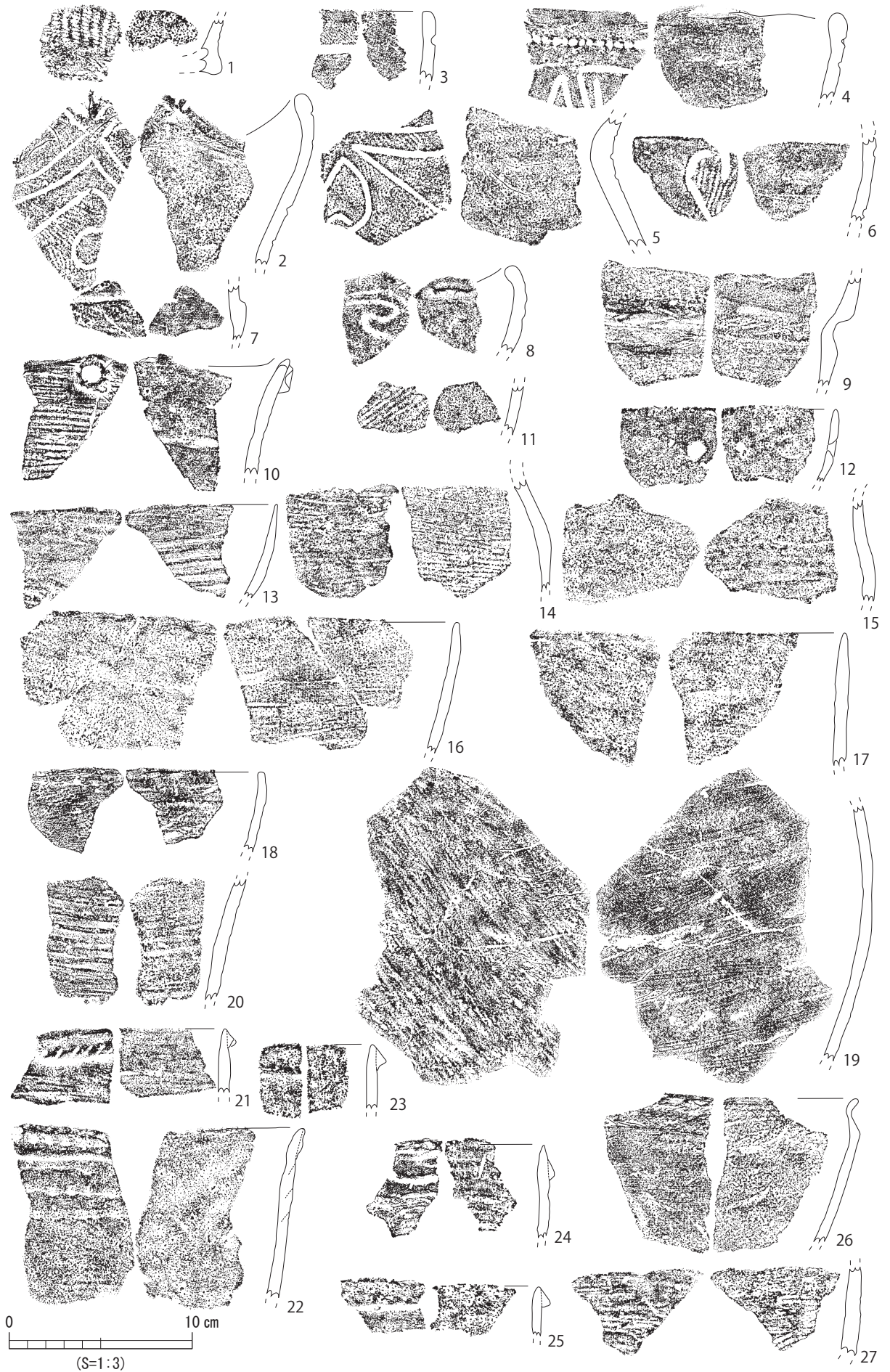
第190図 B1区 河道1 4層出土石器実測図(2/3)

複合口縁の甕であり、7は口縁部に擬凹線文が施され、8は口縁部はヨコナデによって仕上げられている。9は小型の壺等の胴部であり、外面にタタキの痕跡が確認される。10は器台の脚部と考えられる。複合口縁状の脚端部には4条の凹線文が施されている。11は脚付碗である。12は高坏の坏部である。



第191図 B1区 河道1 3d層出土縄文土器実測図-1-(1/3)





第192図 B1区 河道1 3d層出土縄文土器実測図-2-(1/3)



13～18は特殊品又は土製品である。13は注口土器の把手と考えられる。14はミニチュア土器である。15・16は卵形を呈す小型品であり土笛の可能性のあるものである。17は先端が尖る底部であり内面はヘラケズリ調整である。18は紡錘車の可能性が考えられる土製品である。

**須恵器・土師器(第195図)** 1～10は古代の須恵器である。1は蓋であり、おそらく宝珠つまみが付く形態のものと考えられる。2は体部が内湾気味に立ち上がる坏であり、口縁端部はナデによりやや外反する。3も体部が内湾気味に立ち上がる坏であり、口縁端部がゆるく外反する。4は体部が直線的に外傾する坏であり、5は底部と体部の境が明瞭で体部が外傾する坏である。6は体部がやや内湾気味に立ち上がる皿である。7・8は高台付きの皿であり、いずれも高台が高く直立し、体部は底部から湾曲し外傾しながら立ち上がるものである。9・10は甕の胴部である。9は外面に格子タタキ目がみられ、内面には当具痕ではなく何らかの工具でナデたような痕跡が見られる。10は外面に平行タタキ目が内面には同心円当具痕が残る。

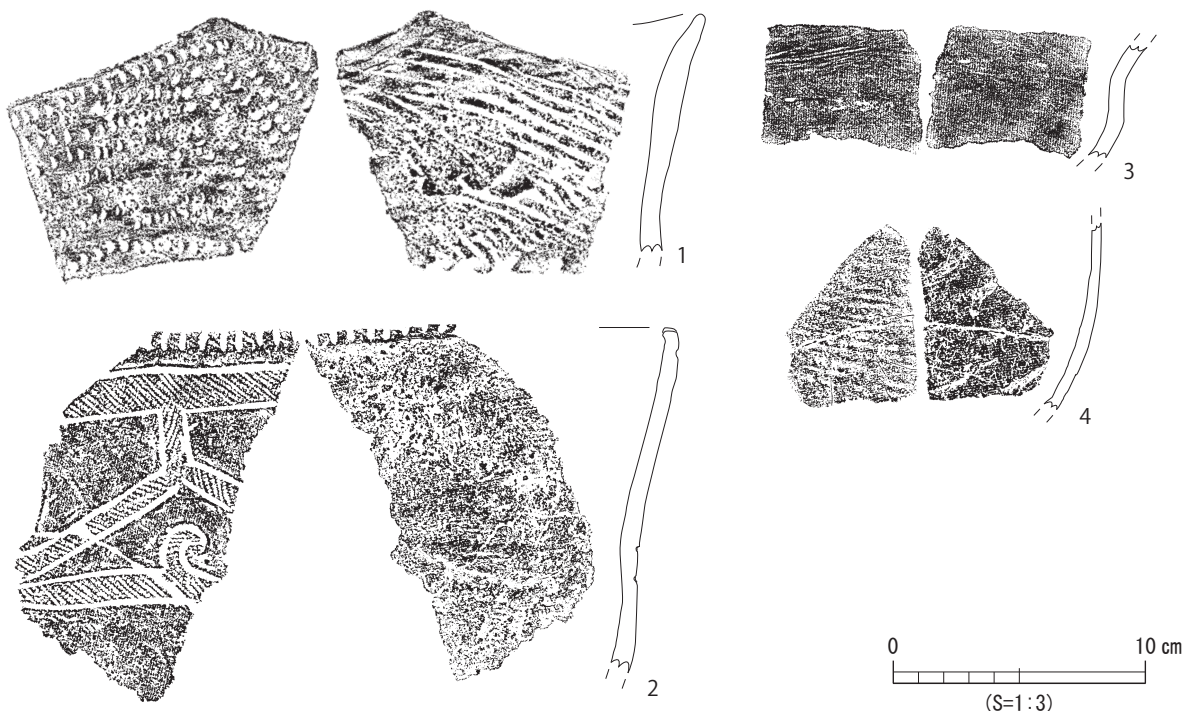
11は土師器の柱状高台の坏である。底部は回転糸切痕がみられる。中世頃のものと考えられる。

**石器(第196・197図)** 第196図1は緑色凝灰岩製のもので、側面に施溝分割の痕跡が認められる。大型の石包丁の可能性が考えられる。2は砂岩製の大型石包丁の未製品と考えられる。未貫通の円形の孔がみられ、敲打痕や研磨痕が確認される。

第197図は磨製の両刃石斧である。1は片岩製のもので敲打痕や研磨痕がみられる。2は頁岩製のもので刃部は使用による摩滅や剥離が認められる。3は塩基性片岩製のもので基部が欠損している。4は片岩製のもので基部は欠損している。刃部や表面や側面に敲打痕が見られることから敲石として再利用されている可能性が考えられる。5は塩基性片岩製のもので刃部は欠損している。6は流紋岩製のもので刃部は欠損している。

**木製品(第198図6)** 先端を加工し尖らせた杭である。

**陶磁器(写真図版145・146)** 3d層からは実測図は掲載していないが、陶磁器も出土した。陶器に



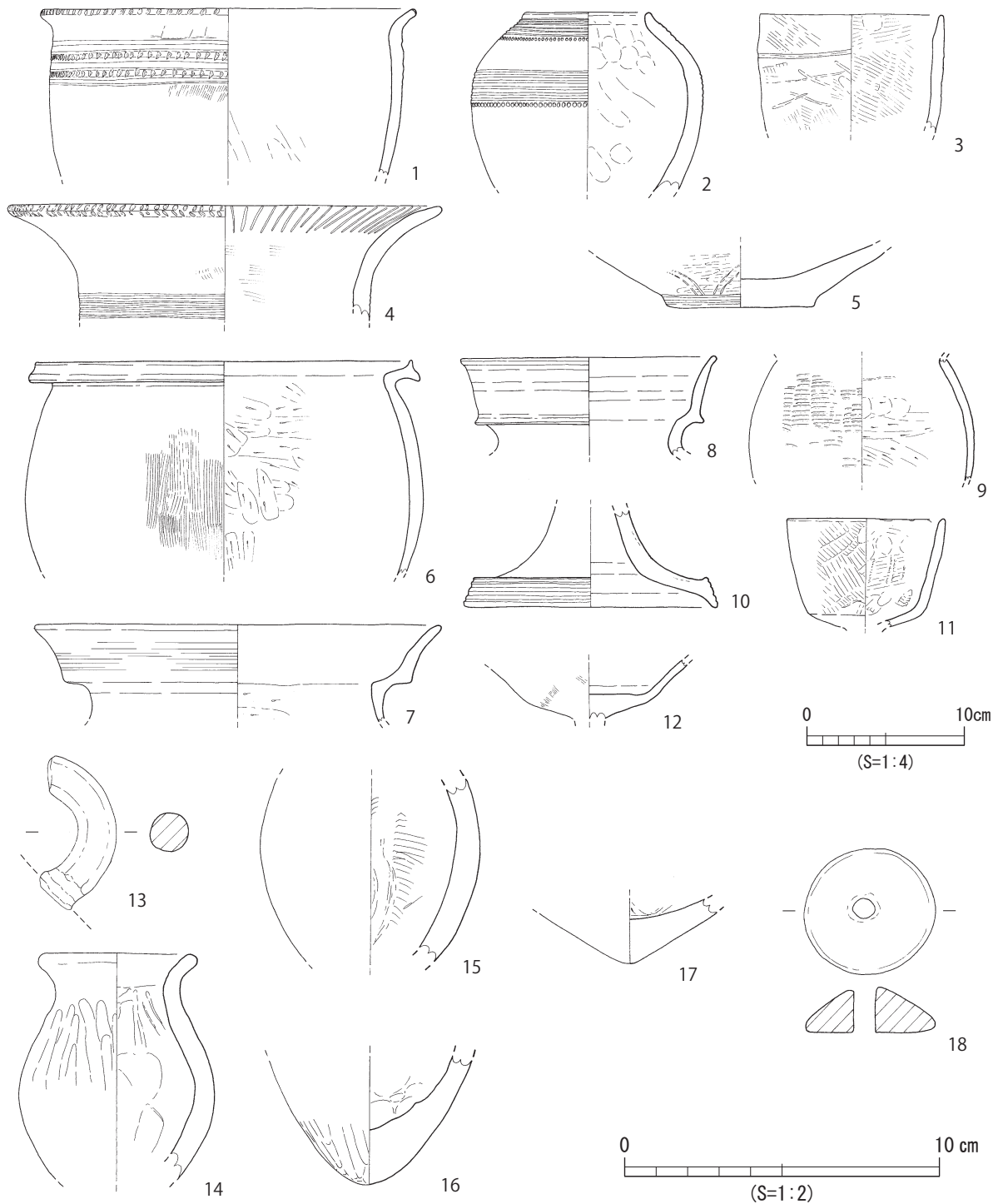
第193図 B1区 河道1 砂礫層出土縄文土器実測図(1/3)



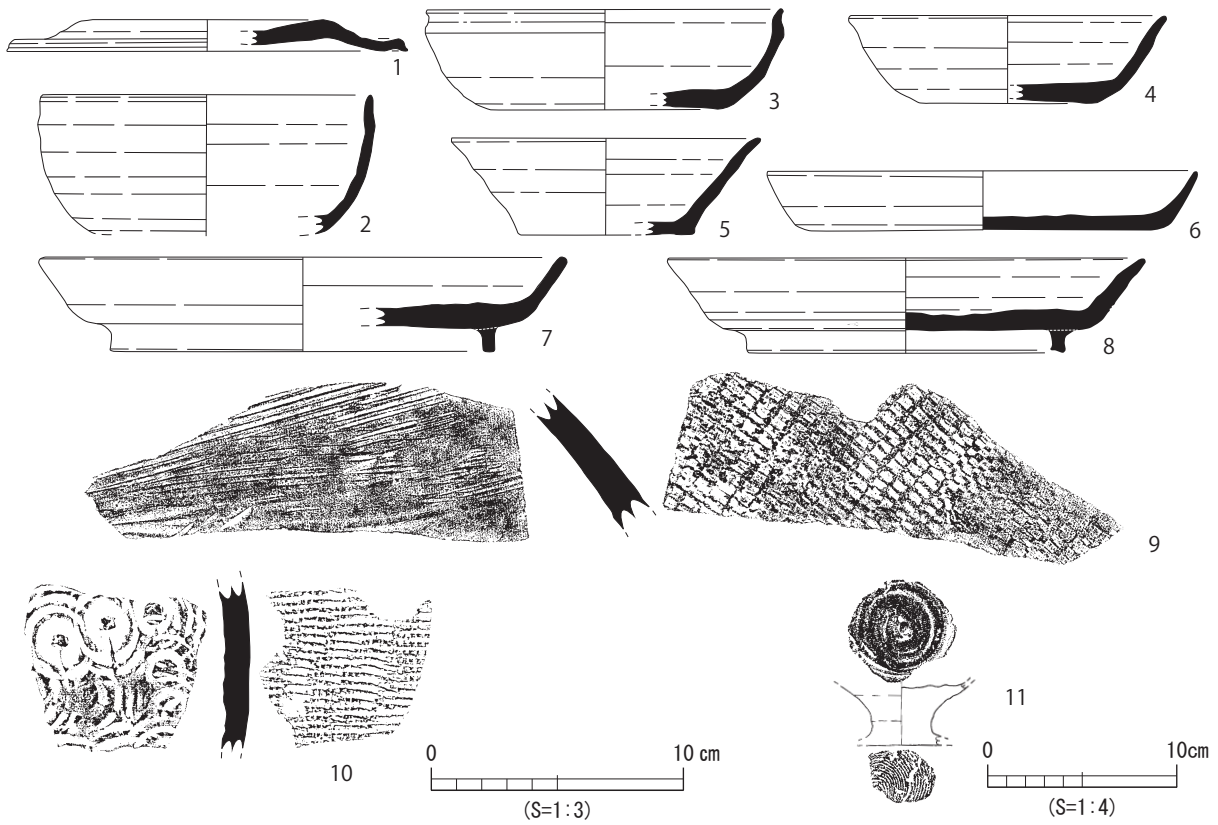
は須恵質の甕、備前播鉢 (IV期) があり中世頃と考えられるものである。瓦質土器には鉢があり、12～13世紀頃と考えられる。白磁には碗等が見られ、時期が分かるものは13～14世紀頃のものと考えられる。以上の陶磁器類がこの3d層の堆積時期となり、河道1は中世後半頃の朝酌川の流路であった可能性が考えられる。

(3)3c層出土遺物 (第198～200図)

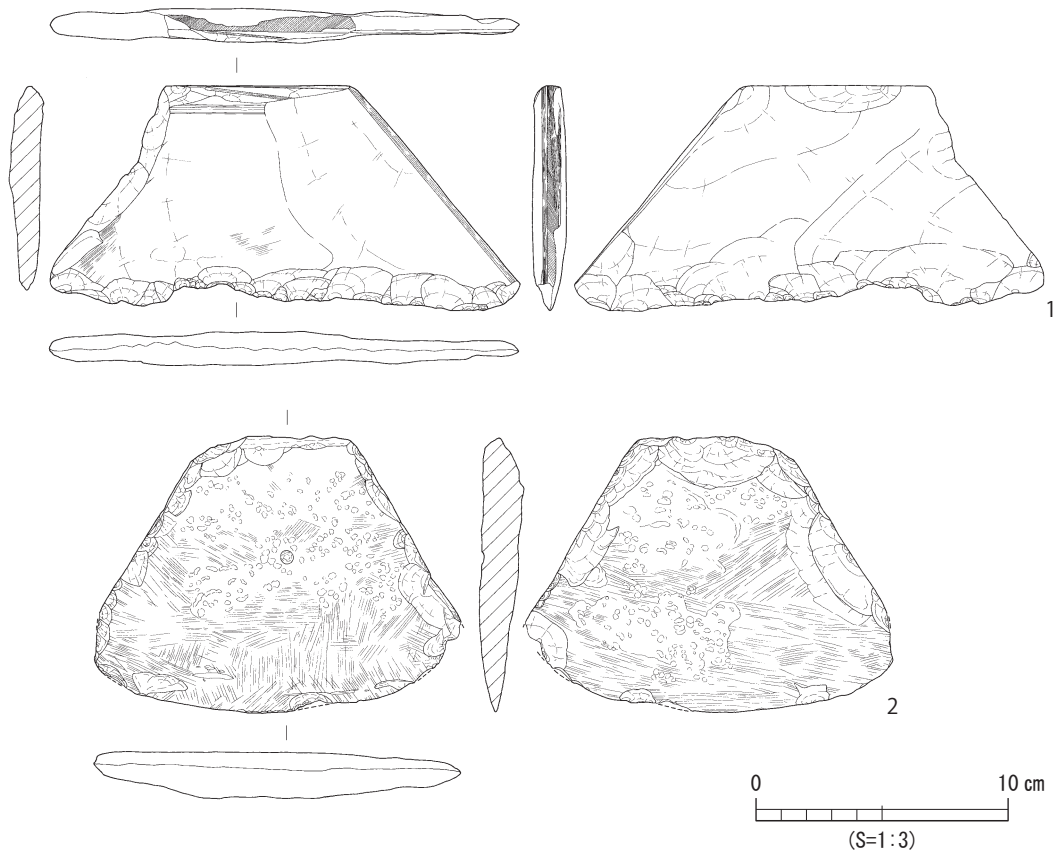
砂礫層のうち酸化色の赤褐色を呈す層を3c層として区別し遺物を取り上げた。遺物は縄文土器・弥生土器・須恵器・木製品・金属器・陶器が出土した。



第194図 B1区 河道1 3d層出土土器・土製品実測図 (1/4・1/2)



第195図 B1区 河道1 3d層出土土器実測図(1/4・1/3)



第196図 B1区 河道1 3d層出土石器実測図-1-(1/3)

縄文土器(第199図) 1は羽状の刺突文が施されており前期の羽島下層Ⅱ式に類似している。外面には種実圧痕が確認される。2は内外面に二枚貝条痕がみられ前期に属するものと考えられる。3は内面に二枚貝条痕がみられ、後期のものである可能性が考えられる。4は浅鉢で外面に二枚貝条痕がみられる。晩期の可能性が考えられる。

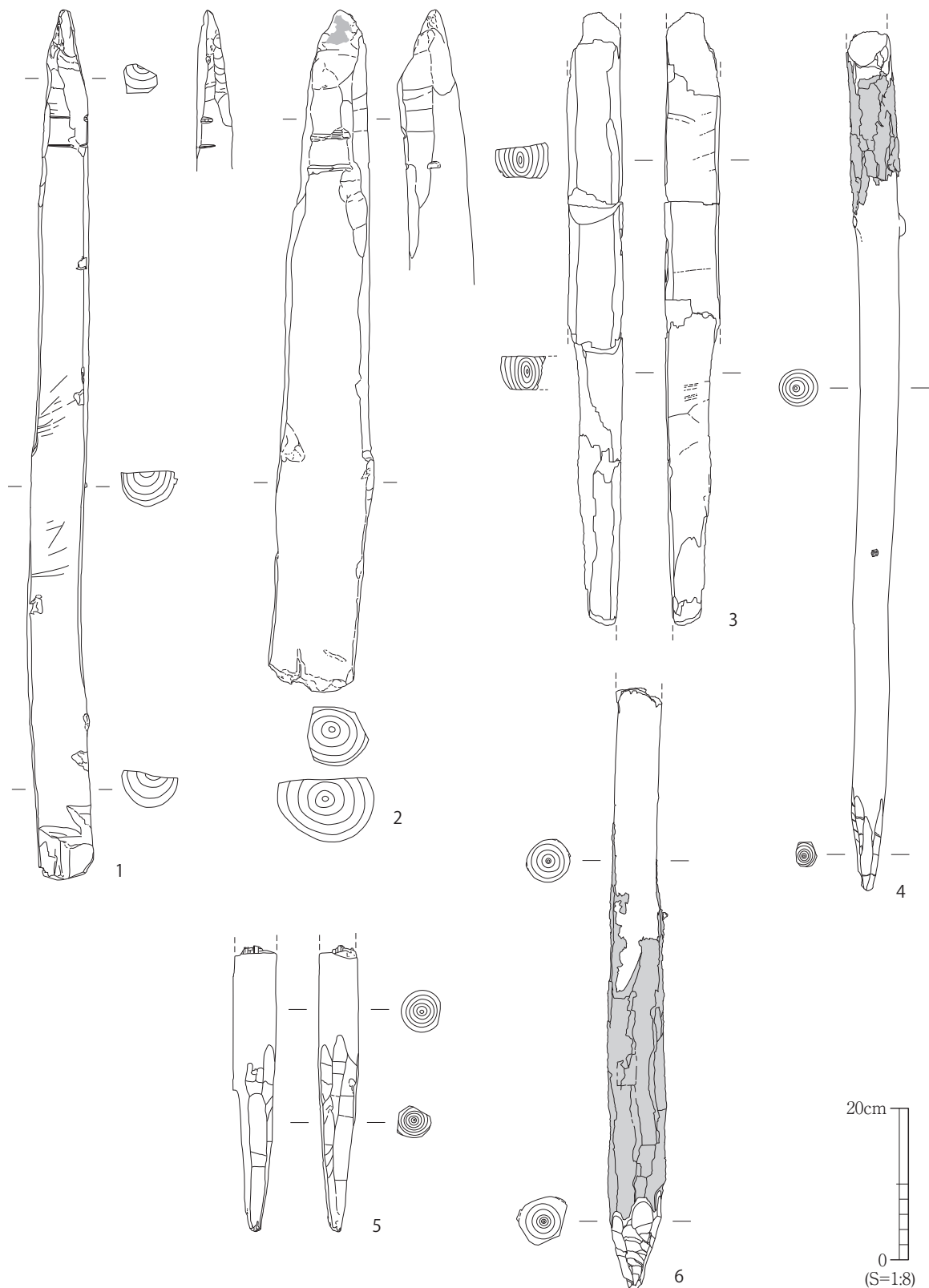


第197図 B1区 河道1 3d層出土石器実測図-2-(1/3)

弥生土器(第200図7) 器台の可能性が考えられ、口縁には7条の擬凹線文が施される。赤彩されていた可能性がある。V様式に属す可能性が考えられる。

須恵器(第200図6) 蓋環の坏身であり底部は回転ヘラケズリが認められ口縁部は内傾しながら立ち上がる。古墳時代後期のものと考えられる。

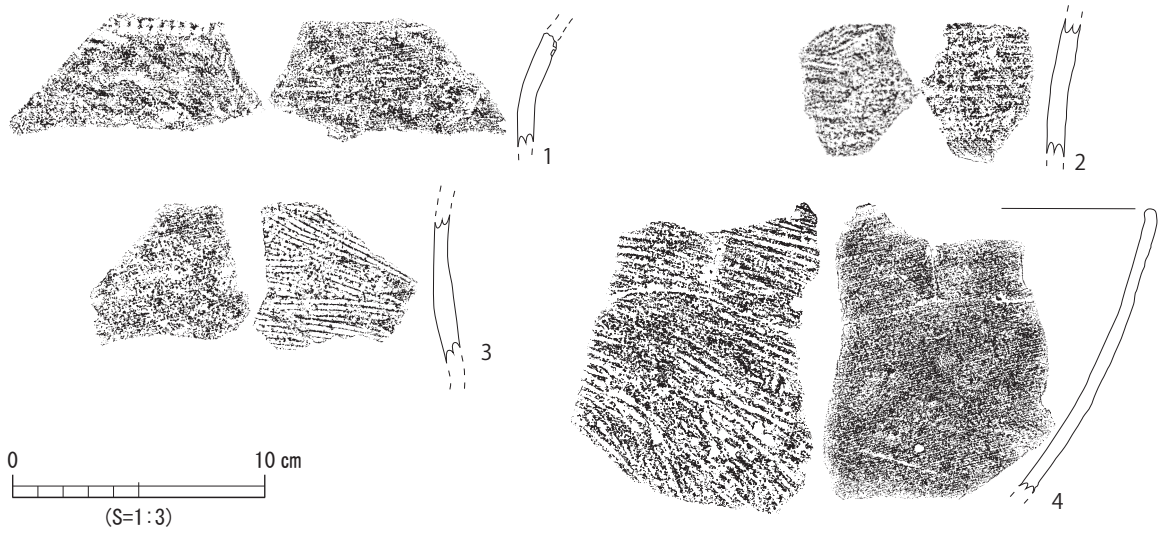
木製品(第198図1~5) 1・2はニヨウマツ製の柱状卒塔婆である。芯持材を加工して平坦面を



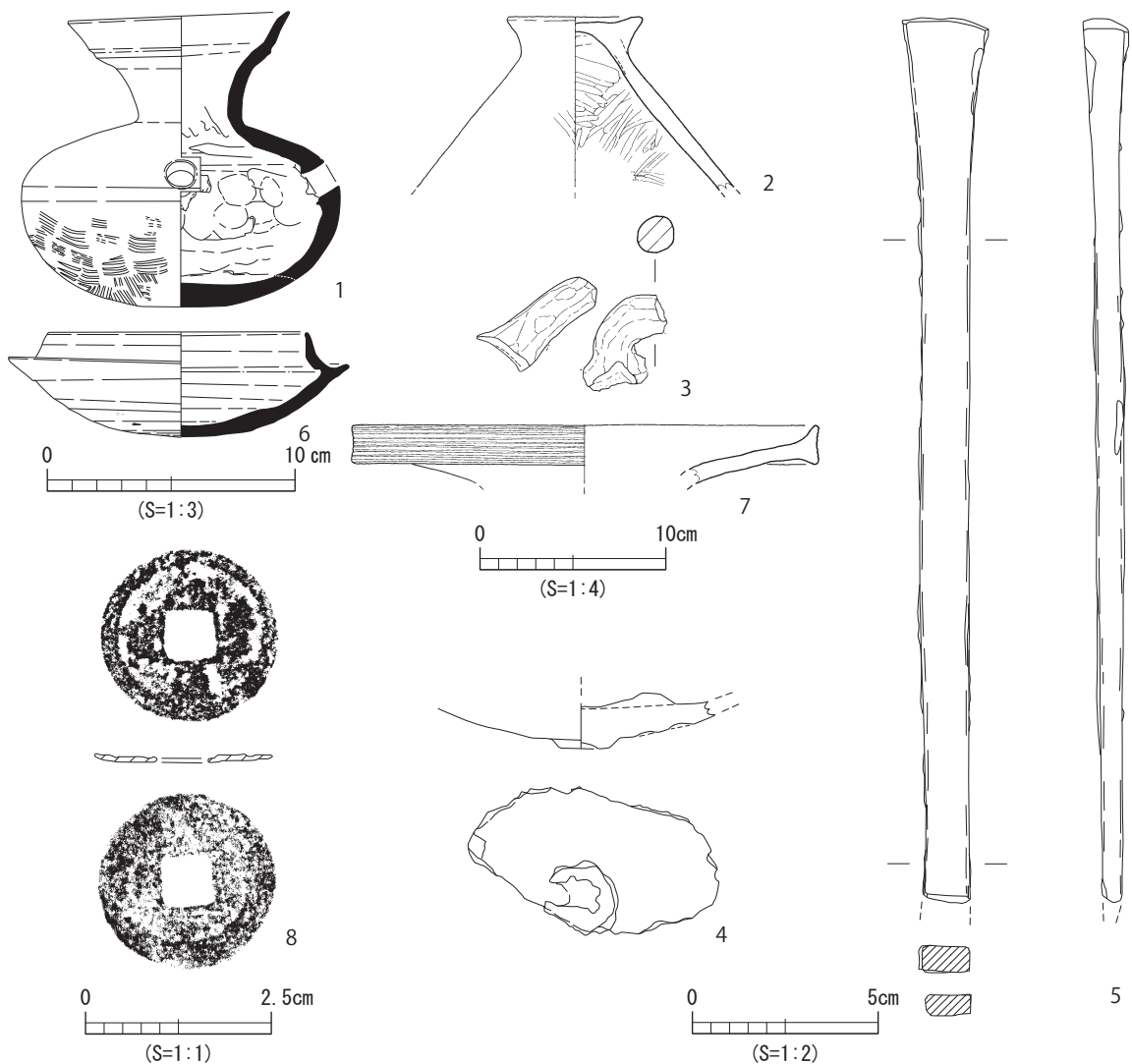
第198図 B1区 河道1 3c・3d層出土木製品実測図(1/8)



1面作り出しているもので先端は尖らせ2条の直線的な刻みを入れている。平坦面には本来墨書が確認されるものであるが、赤外線撮影等で検討したものの、既に失われたようである。3は芯持ち材を加工して平坦面を2面作り出している。柱状卒塔婆の可能性もあるが詳細は不明である。



第199図 B1区 河道1 3c層出土縄文土器実測図(1/3)



第200図 B1区 河道1 3～3c層出土遺物実測図(1/4・1/3・1/2・1/1)

4・5は芯持ち材で先端を尖らせており杭と考えられる。

**金属器(第200図8)** 8は銭貨である。文字の判読が難しいが、元豊通寶の可能性はある。

**陶磁器(写真図版145)** 3c層からは図は非掲載であるが、陶器の播鉢が出土している。時期は不明確であるが中世頃の可能性が考えられる。

#### (4)3b層出土遺物(第200・202図)

3b層は青灰色粘質土層であり、河道が流路ではなく湿地状になった段階の堆積層である可能性があるものである。出土遺物には弥生土器・木製品・金属器・瓦がある。

**弥生土器(第200図2・3)** 2はI様式の蓋である。3は把手であり時期は不明確であるが、V様式の注口土器の把手である可能性がある。

**木製品(第202図1～7・9～14)** 1～5は漆器椀である。1はブナ属製であり内外面は赤漆、底部外面畳付部分のみ黒漆塗りである。口縁端部付近は沈線状に彫られている。2はツバキ属製であり高台が高く底部が厚いのが特徴である。外面は黒漆、内面は赤漆であり、外面には赤漆による家紋風の文様が正対する方向にみられる。3は外面は黒漆、内面は赤漆のもので、外面には赤漆による文様と思われるものが確認される。樹種はトチノキに近似するものである。4は外面黒漆、内面赤漆のもので、外面には赤漆による花卉等の文様が見られる。5は外面黒漆、内面赤漆のものであり、外面には赤漆による家紋が施されている。6はニヨウマツ製の柱状卒塔婆である。芯持ち材を加工して平坦面を作り出しており先端部は尖り2条の直線的な刻みが施される。また条線の上は削り込まれている。7はヒノキ製の小型の板状製品であり、側面には円形の孔が2箇所貫通し、表面には「×」状に刻まれている。用途不明なものである。9・10は板状のもので、11は棒状のもの、12～14は一端が尖ることから杭と考えられる。

**金属器(第200図4・5)** 4は鑄造の鍋の底と考えられ、湯口は円形を呈すものである。5は頭部が撥型を呈す舟釘である。

**瓦(写真図版147)** 図化していないが、燻し瓦の丸瓦が出土している。

#### (5)3層出土遺物(第200～202図)

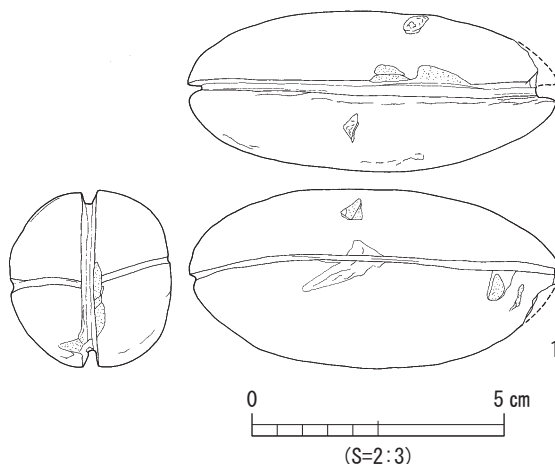
3層は粘質土層であり、下部の3b層と同様に河道が流路ではなく湿地状の環境にあった段階の堆積層である可能性が高い。この層によって河道は完全に埋没している。出土遺物には須恵器・石器・木製品・陶磁器がある。

**須恵器(第200図1)** 1は甕である。体部はやや扁平な楕円形状で頸部は短く細い形態のものである。底部には平行タタキ目が見られ、胴部や頸部には文様がない。時期は明確にできないが出雲I期と考えられる。

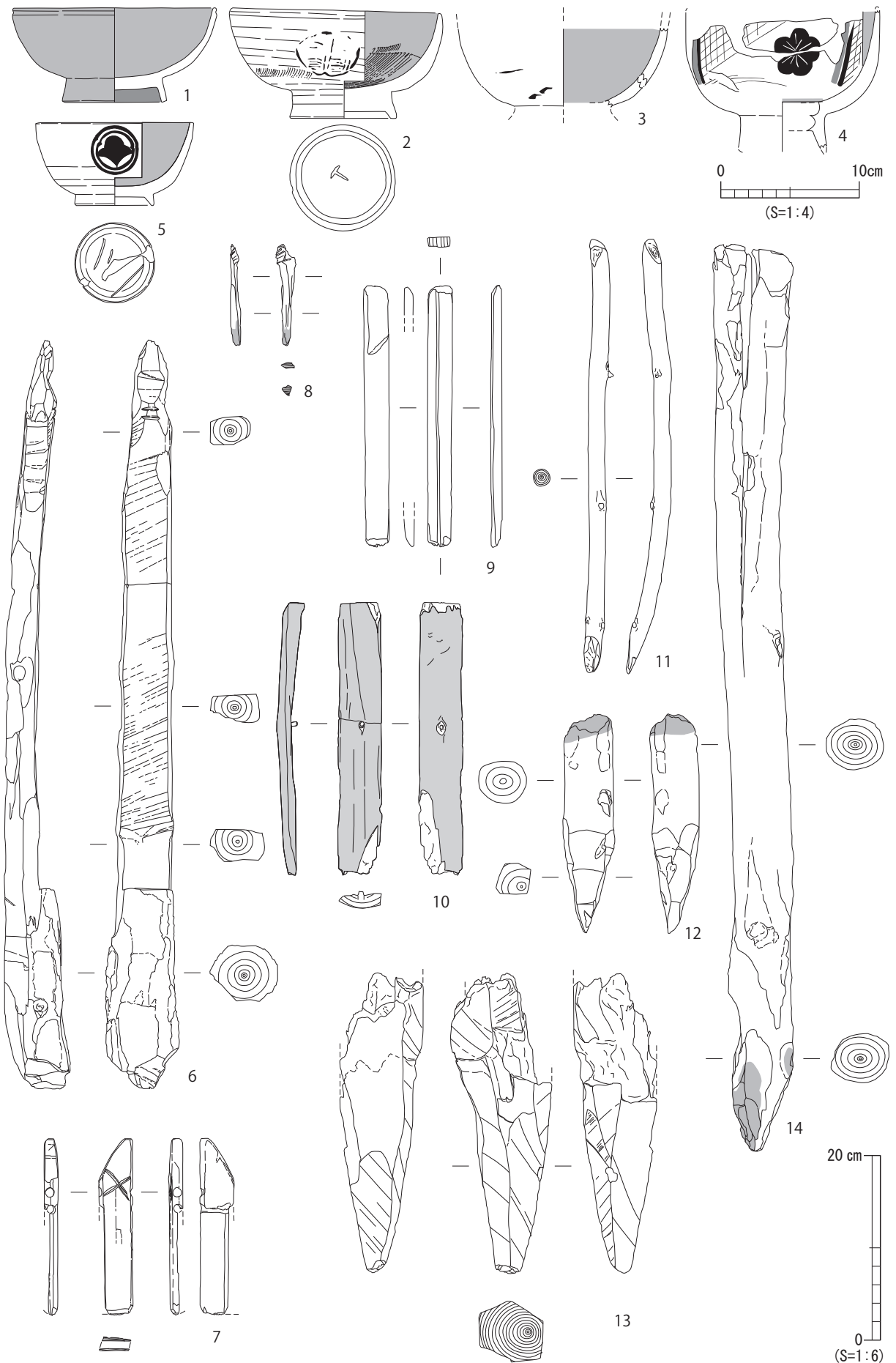
**石器(第201図)** 安山岩製の九州型石錘であり、溝が彫られている。

**木製品(第202図8)** 8は先端が炭化している小型の木片である。

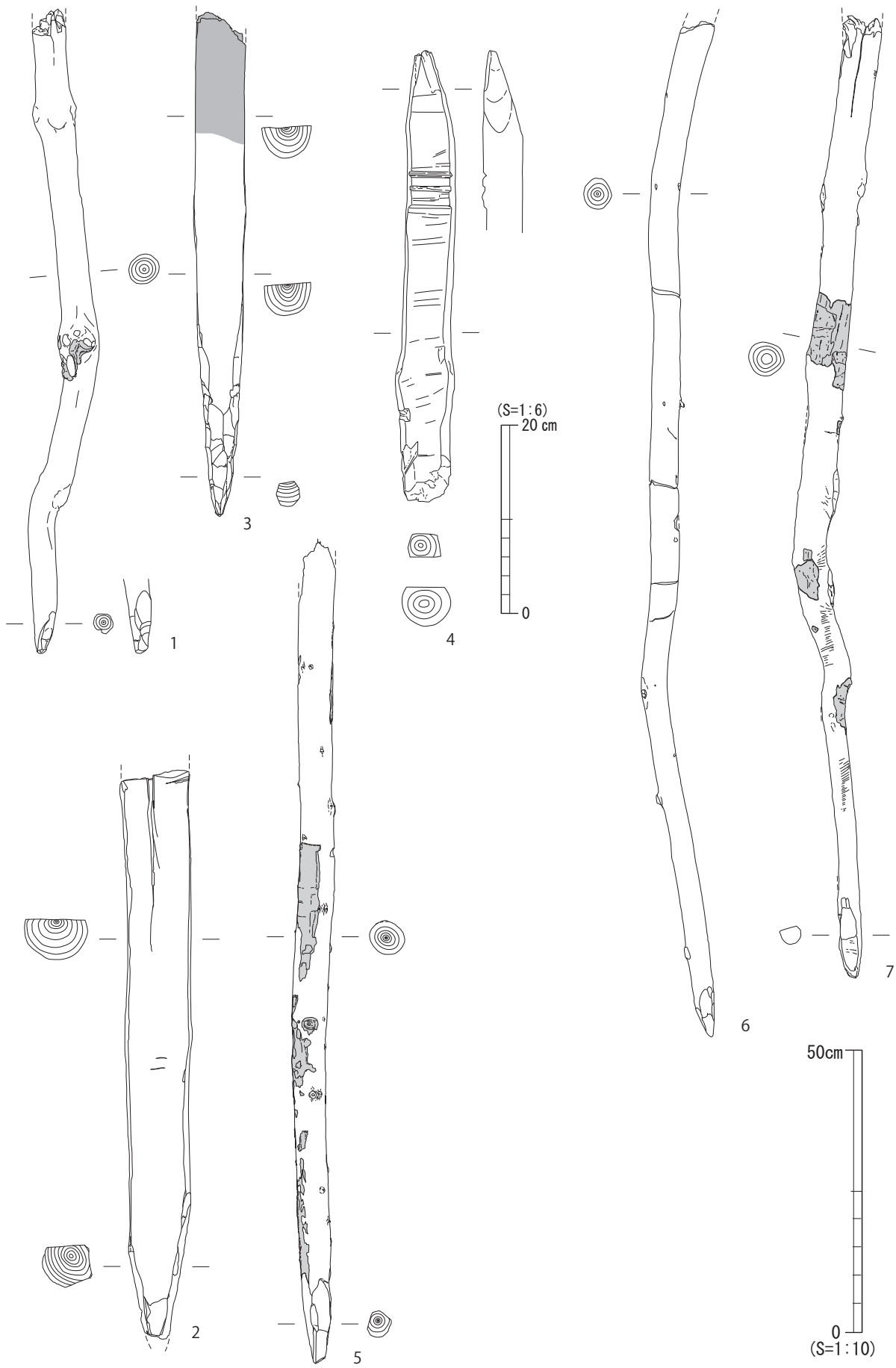
**陶磁器・瓦(写真図版146・147)** 図化していないが陶磁器と瓦が数片出土している。



第201図 B1区 河道1 3層出土石器実測図(2/3)



第202図 B1区 河道1 3・3b層出土木製品実測図(1/4・1/6)



第203図 B1区 河道1 杭列出土木製品実測図(1/10・1/6)



17世紀初頭頃の青花の皿、17世紀前半頃の肥前系陶器の椀、16世紀末～17世紀初頭の瀬戸美濃系の椀、17世紀後半の肥前系の呉器手椀、平瓦である。

(6) 杭列出土木製品 (第203図)

1～3は杭列1のものである。1は芯持材の一端を尖らせており、折れ曲がる形状をしている。2・3は先端が尖るものであるが、芯持材を半裁している。3の樹種はマツ属複雑管束亜属である。4は杭列2-1であり、ニヨウマツ類で柱状卒塔婆を転用して杭にしたものである。頭部は尖り2条の直線的な刻みが施されている。5～7は杭列2-2であり芯持材の一端を尖らす杭である。6・7はやや折れ曲がるような形状を呈している。

(7) 河道1の時期

河道1の各堆積層の時期は出土遺物から、4層は古墳時代前期、3d層は中世後半頃、3c層は

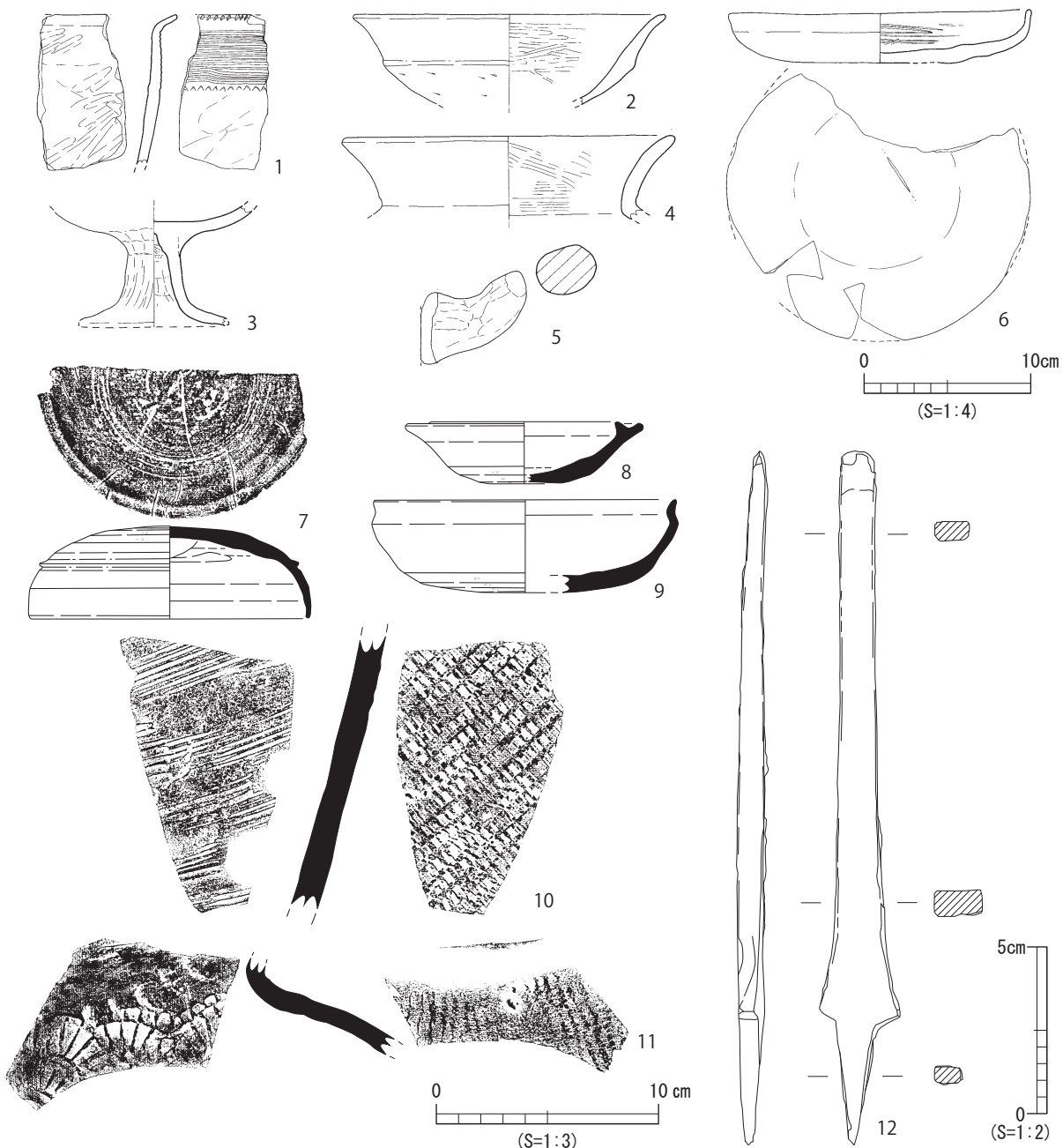


第204図 B1区 河道2砂礫層出土縄文土器実測図(1/3)

不明確であるが中世頃、3b層も不明確ながら近世、3層は17世紀後半である。4層が河道1以前の堆積層とした場合は、古墳時代前期には微高地が削られているものと推測される。河道1は3d層の状況から中世後半頃のものとして推測され、3b層の様相から近世頃には流路としては存在せず湿地化し、近世後半には埋没している可能性が考えられる。

## 6. 河道2

河道2は前述した河道1に堆積した3b層を削っている河道である。調査の工程上河道1を先に掘削していたことから河道2の西岸を平面的に検出することが遅れたため、完全な記録はとれていない。また東岸は調査区外でもあるが、現在の朝酌川が近いことから残存していない可能性も考えられる。規模は調査区断面から幅10m以上の河道と考えられる。堆積層は上部からシルト～粘土層(3b層)・砂礫層であり、砂礫層の遺物は細分せず一括で取り上げた。



第205図 B1区 河道2砂礫層出土遺物実測図(1/4・1/3・1/2)

(1) 出土遺物 (第204～207図)

河道2の砂礫層からは、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・金属器・石器・陶磁器が出土している。またシルト～粘土層からは漆器椀、陶磁器が出土している。

**縄文土器 (第204図)** 1はRL縄文が施され早期の菱根式に属す。2～5は前期の西川津式に属すものと考えられる。6～8は前期の西川津式に属す可能性が考えられる。9は沈線文が施され後期中津式と考えられる。10は2条の沈線文が施され後期の沖丈式～権現山式に相当すると考えられる。11～16は晩期のものと考えられ、12～15は突帯文土器である。

**弥生土器 (第205図1・2)** 1は櫛描きの直線文の下に三角形の刺突文が施されるⅡ様式の甕である。2はV様式の高坏と考えられる。

**土師器 (第205図3～6)** 3は古墳時代頃の高坏脚である。4は単純口縁の甕、5は甑の把手と考えられ古墳時代のものであろう。6は内面が赤彩された皿であり8世紀頃と考えられる。

**須恵器 (第205図7～11)** 7は坏蓋であり天井部に回転ヘラケズリが見られる。8は小型化した坏身である。9は口縁端部が屈曲する坏である。10・11は甕の胴部片である。

**金属器 (第205図12)** 12は鉄器で鑿と考えられる。刃部は茎に近い部分で幅が広がる形状である。

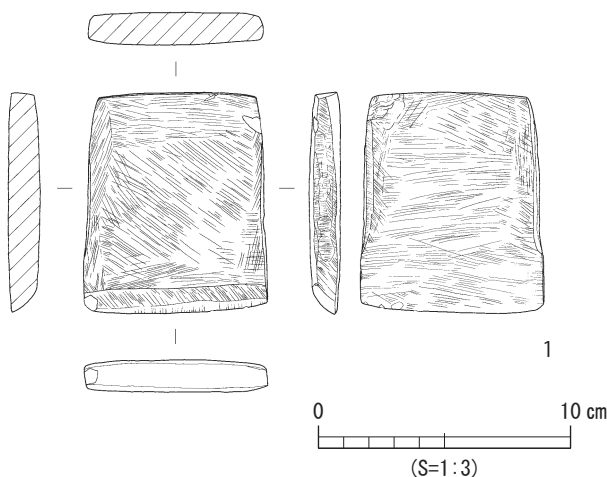
**石器 (第206図)** 頁岩製の扁平片刃石斧である。刃部に近い側面は抉れるような加工により肩部状に作り出され、鉄器の影響を受けている可能性をみてとれる。全面に研磨痕が残る。

**木製品 (第207図)** 1はシルト～粘質土層から出土したブナ属製の漆器椀である。外面は黒漆で内面は赤漆である。外面には赤漆による花卉等の紋様が施される。2は砂礫層出土の杭である。

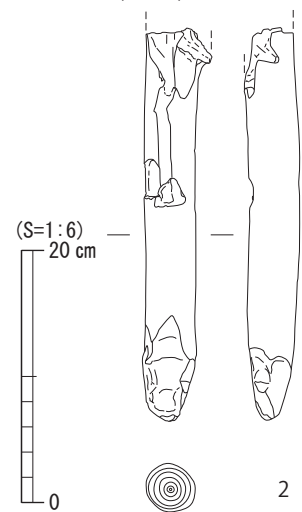
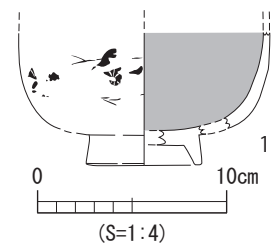
**陶磁器 (写真図版146・147)** 非掲載であるが陶磁器も出土している。備前播鉢、瓦質土器の鉢、白磁椀・皿といった中世のもの、肥前系陶器の皿・椀等の17世紀代のものがある。また19世紀代のものが1片ある。

(2) 河道2の時期

河道2は河道1より新しいことから17世紀後半以降のものであり、出土陶磁器には19世紀代のものがあり、近世後半～19世紀代と推測される。



第206図 B1区 河道2砂礫層出土石器実測図(1/3)



第207図 B1区 河道2出土木製品実測図(1/6・1/4)

## 第7節 その他の遺構と出土遺物

### 1. 暗渠

各調査区で検出した微高地からは幅30cm前後の直線的な溝が15条検出されている。これらは水田に伴う暗渠と考えられるものである。これらの溝の底部には竹、小枝等を敷き詰めている。

#### (1)B1区検出の暗渠(第208図)

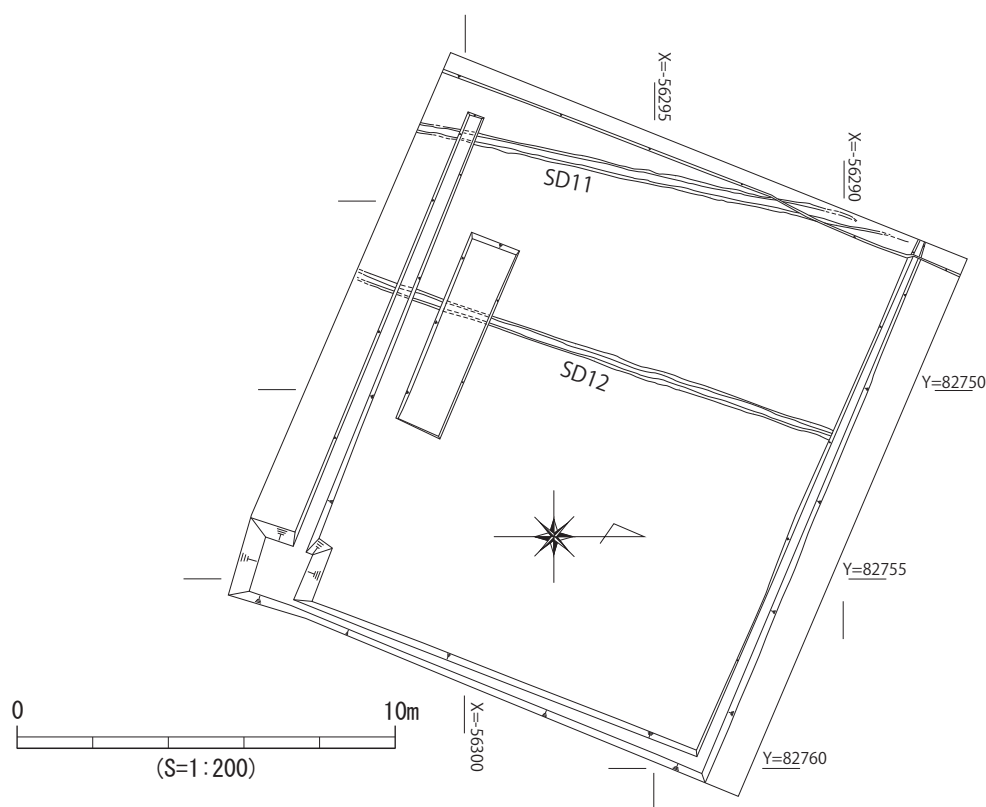
B1区では南北方向にはしるSD11とSD12の2条を検出しており、検出面は弥生時代の遺構面であるが、断面の観察からそれより上部の新しい層から掘り込まれている。

**SD11** 遺構は調査区の西側端の標高2m付近で検出している。溝の底面には径2~3cm程の竹を敷き詰めており、中央には節を除去した竹や半裁したものが置かれている。竹は最大で径10cm程のものも含まれている。敷き詰めた竹の上部には木の樹皮と思われるものが置かれていた。溝の主軸はN-13°-Eである。

**SD12** 遺構は調査区の西側の標高2m付近で検出している。SD11と方向は大きく変わらず、4.5m程東に位置する。溝の底面には指先程の木の枝を敷き詰め、溝の壁沿いには木杭を東西交互に打ち込んでいる。杭は先端がやや尖り幅2.5~4cm、厚さ2.5cm前後、長さ20cm弱のものである。溝の主軸はN-18°-Eである。

#### (2)A1・A2区検出の暗渠(第209図)

A1・A2区では13条検出している。いずれも、検出面は弥生時代の遺構面と同じであるが、断面観察から上部の新しい層から掘り込まれたものである。



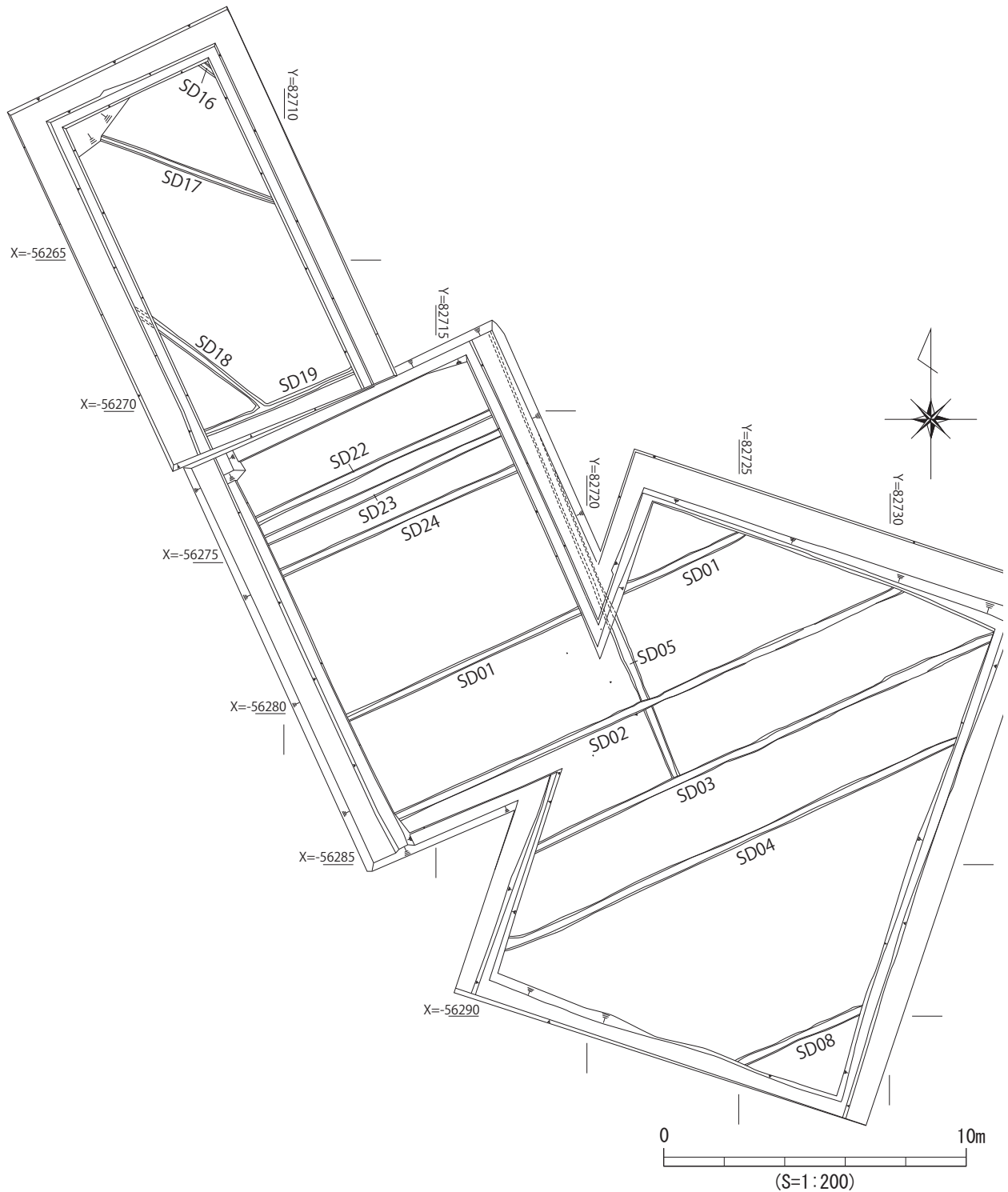
第208図 B1区 暗渠配置図(1/200)



**SD16** A2区(北)の北隅の標高1.9m付近でごく一部を検出した。溝の底面には木の枝を敷き詰め、溝の壁沿いに木杭を打ち込んでいる。溝の主軸はN-53°-Wである。

**SD17** A2区(北)の北側の標高1.9m付近で検出し、方向はSD16と平行するものである。溝の底面には指先程の木の枝を敷き詰めている。溝の主軸はN-70°-Wである。

**SD18** A2区(北)の南側の標高1.9m付近で検出し、方向はSD16・17に近い。溝の底面に

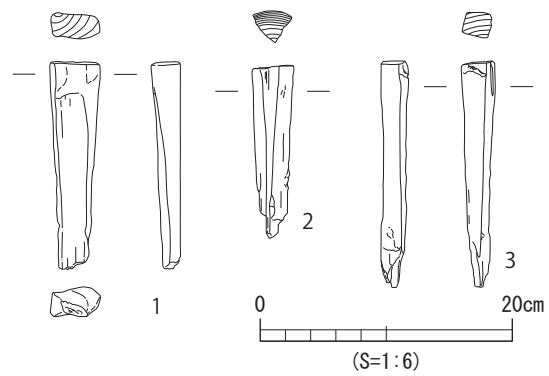


第209図 A1・A2区 暗渠配置図(1/200)

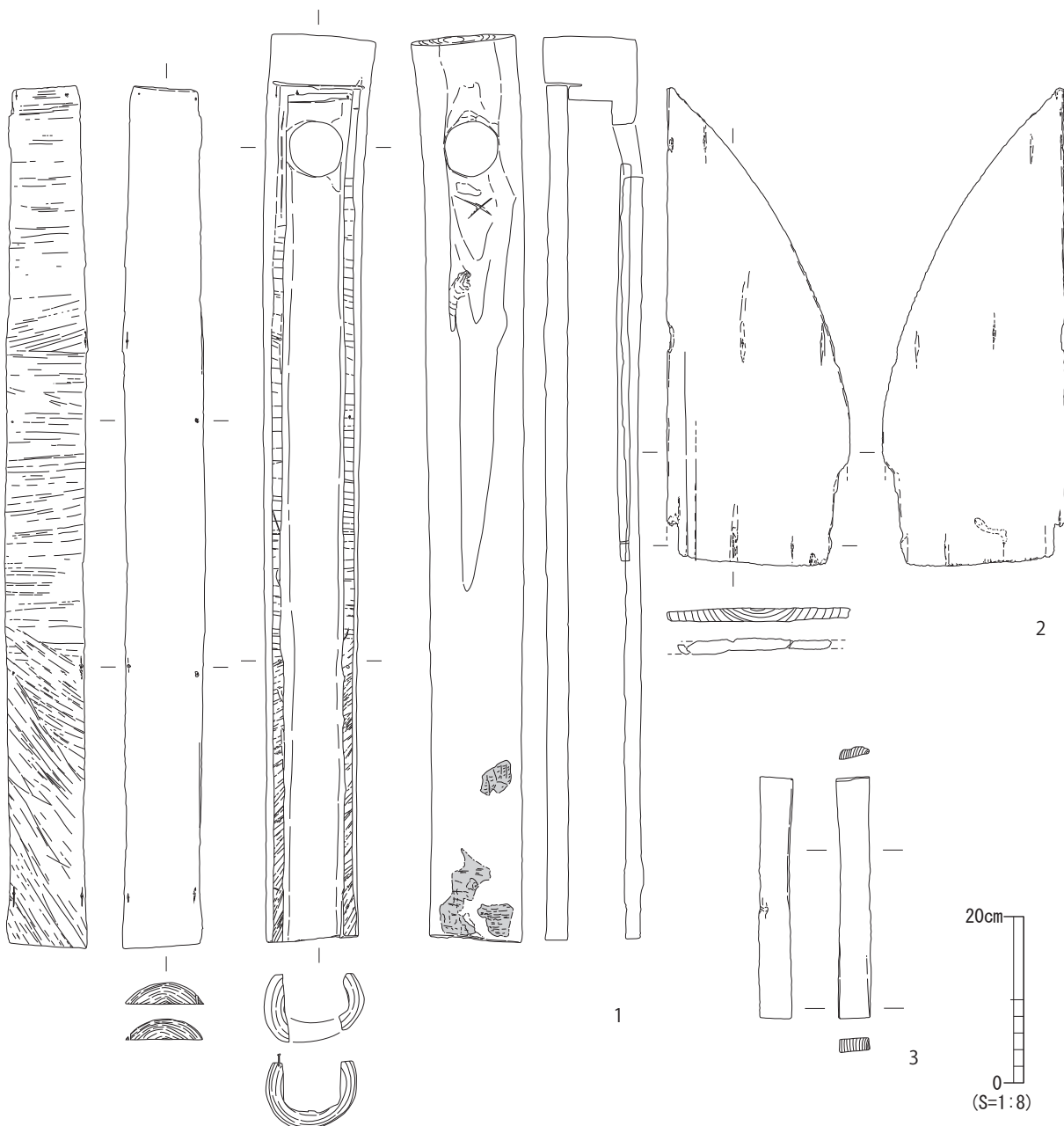
は指先程の小枝を敷き詰め、溝の壁沿いにはへら状の木製杭を交互に打ち込んでいる。溝の主軸はN-53°-Wである。

**SD19** A2区(北)の南端の標高1.9m付近で検出し、方向はSD16~18とは異なり、後述するA2区(南)・A1区で検出した溝と平行する。溝の底面には指先程の小枝を敷き詰め、溝の壁沿いにはへら状の木製杭を交互に打ち込んでいる。溝の主軸はN-66°-Eである。SD18と合流する。

**SD22** A2区(南)の北側の標高2m付近で検



第210図 B1区 SD12 暗渠出土木製品実測図 (1/6)



第211図 A1区 SD03 暗渠出土木製品実測図 (1/8)

出し、方向はSD19に平行する。溝の底面には細竹や径1cm未満の葦を敷き詰め、溝の壁沿いには40～50cm間隔で木製杭を互い違いに打ち込んでいる。溝の主軸はN-65°-Eである。

**SD23** A2区(南)の北側の標高2m付近で検出し、SD22の0.6m南に平行している。溝の底面には径1cm未満の小枝を敷き詰め、溝の壁沿いには木製杭を50cm程の間隔で互い違いに打ち込んでいる。溝の主軸はN-65°-Eである。

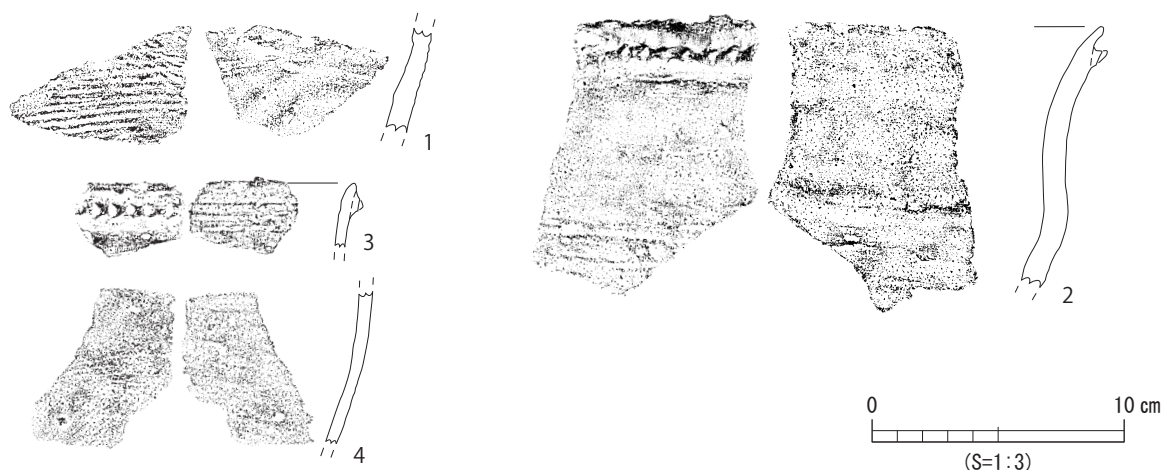
**SD24** A2区(南)の北側の標高2m付近で検出し、SD23の1m南に平行している。溝の底面には径2～3cm程の竹を敷き詰め、樹皮状のものがその上にある。溝の主軸はN-66°-Eである。

**SD05** A2区(南)からA1区にかけての標高2m付近で検出し、A2区(南)、A1区で他にみられる同種の溝と方向が90°異なる。長さは約16mまで確認し、南側はA1区のSD03付近で終わる。溝の底面には径2～3cm程の竹を敷き詰め、樹皮状のものがその上にある。また、径8cm程の丸太が一番底に置かれている場所もある。溝の主軸はN-23°-Wである。

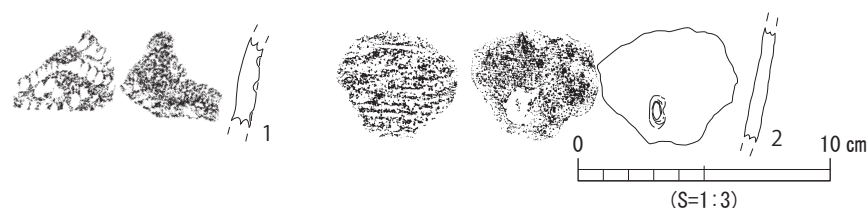
**SD01** A1区からA2区(南)にかけての標高2m付近で検出している。溝底には径1～2cm程の細い竹や木の枝を10～20本程の束で敷き詰めており、壁沿いに50cm程の間隔で木杭が打ち込まれている。溝の主軸はN-66°-Eである。

**SD02** A1区からA2区(南)にかけて標高2m付近で検出している。溝の底には径3～5cm程の竹を10数本の束で敷き詰めており、その間に細い木の枝を置く。その上には樹皮状のものが置かれる。溝の主軸はN-66°-Eである。

**SD03** A1区の中程の標高2m付近で検出している。溝の底には細い竹や木の枝を敷き詰めており、壁沿いには木杭を50cm程の間隔で打ち込む。また、詳細な機能は分からないが、東側では丸太を削り抜いた樋状のものが置かれ小口部を瓦と板で塞いでいた。溝の主軸はN-65°-Eで



第212図 A2区(北) 排土採取縄文土器実測図(1/3)



第213図 A2区(南) 排土採取縄文土器実測図(1/3)

ある。

**SD04** A1区の中程の標高2m付近で検出している。溝の底には細い竹や木の枝を敷き詰めており、壁沿いには木杭を50cm程の間隔で打ち込む。溝の主軸はN-65°-Eである。

**SD08** A1区の南東隅の標高2m付近で検出している。規模は規模は幅0.3m、深さ0.2mで、長さは4.8mまで確認している。溝の底には竹を敷き詰めている。溝の主軸はN-65°-Eである。

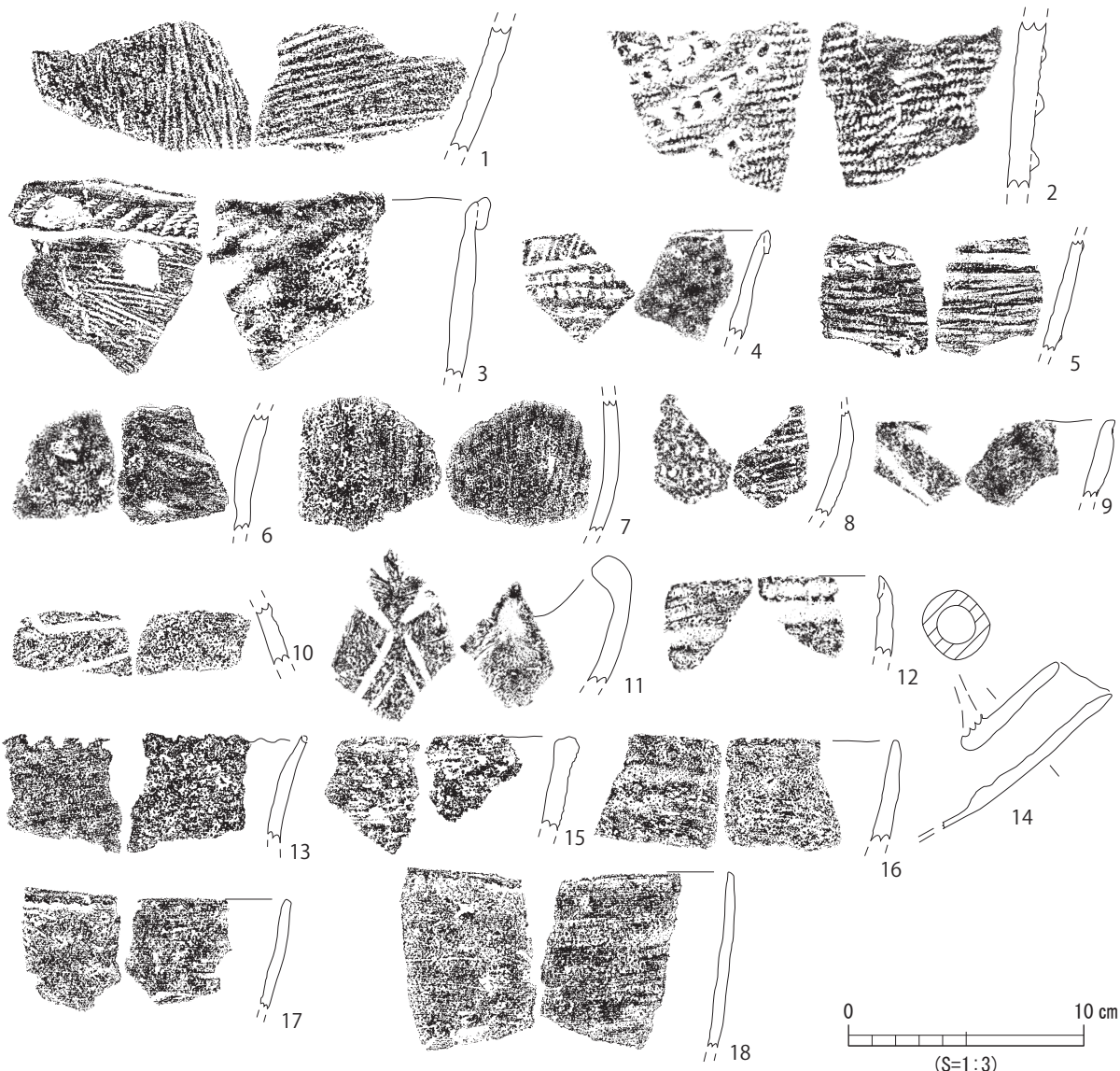
(3) 出土遺物(第210~211図)

**B1区出土木製品(第210図)** 1~3はSD12の壁沿いに打ち込まれていた杭である。いずれも割材を使用し先端を尖らせている。

**A1区出土木製品(第211図)** 1~3はSD03から出土した。1は榑状に加工したものであり丸太を鋸で縦に分割し身と蓋として身の部分を削り抜いた後に目釘で固定したものである。身



第214図 A1区 遺構外出土縄文土器実測図(1/3)



第215図 B1区 排土採取縄文土器実測図(1/3)



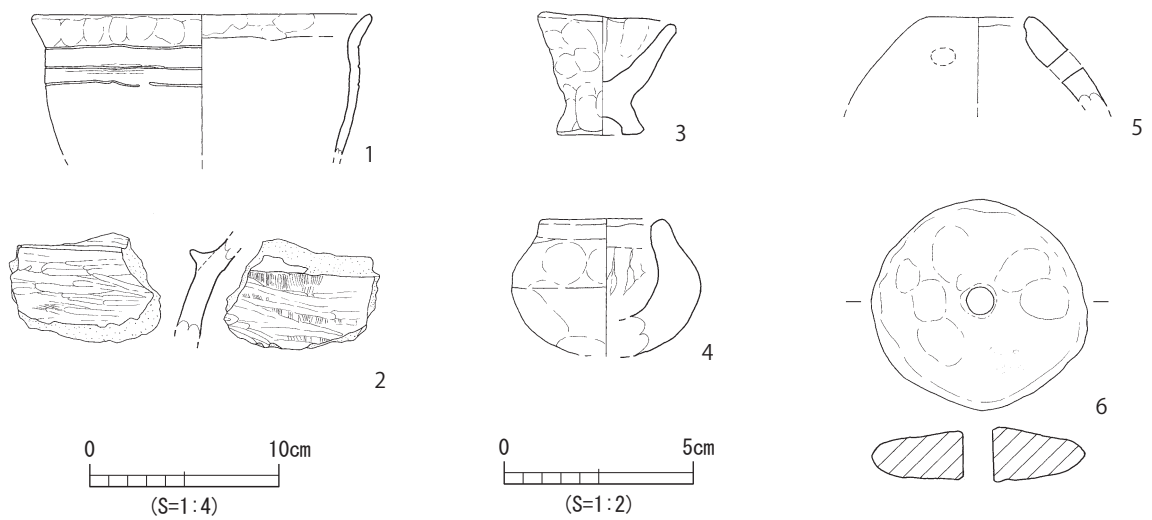
には円孔が1箇所あけられておりその部分を上にして置かれていた。2は側面の一方が弧状を呈す板で1の片側を塞ぐように立てられていた。3は打ち込まれていた分割材の杭である。

(4) 暗渠の性格と時期

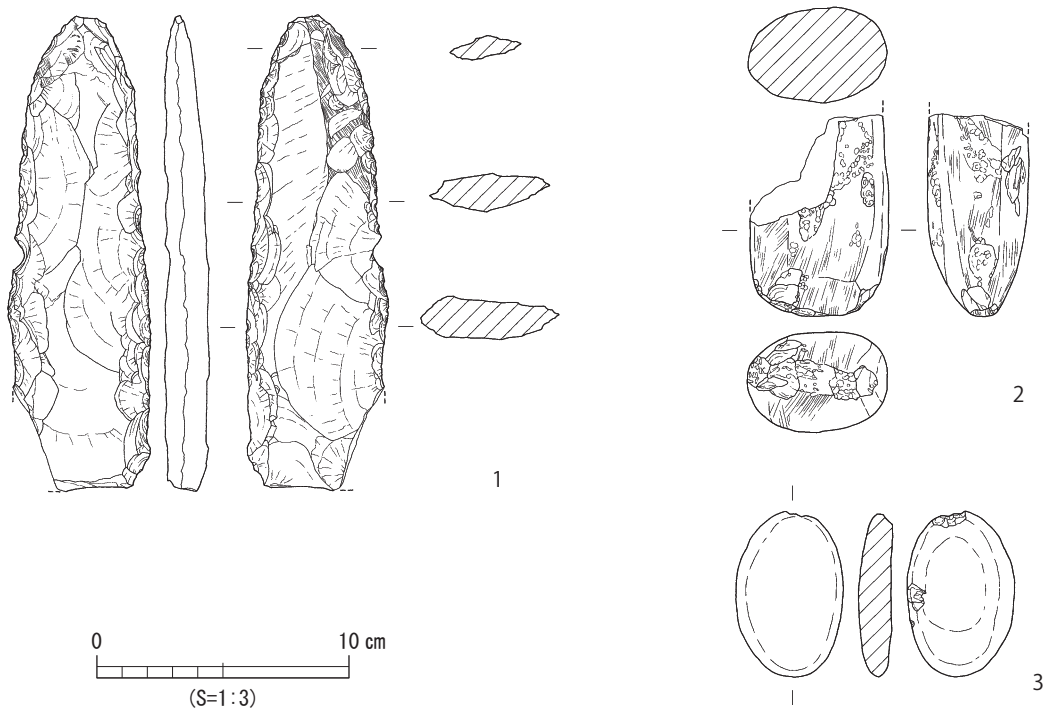
確認された暗渠は、杭を打ち込むタイプと打ち込まないタイプの2つに分類される。また主軸方向からもいくつかのセットとして考えることができる。これらの時期は、SD03から燻し瓦の棧瓦が出土していることから近世以降のものである。

2. 遺構外出土遺物(第212～219図)

(1) 縄文土器(第212～215図) 第212図はA2区(北)の排土採取のものである。1は外面に二枚貝条痕が見られ、前期と思われる。2・3は突帯文土器である。4は後期～晩期の粗製土器と



第216図 遺構外出土・排土採取弥生土器実測図(1/4・1/2)



第217図 A1区 遺構外出土石器実測図(1/3)

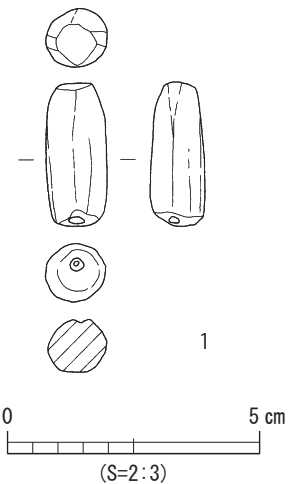
考えられる。

第213図はA2区(南)の排土採取のものである。1はD字形の爪形文が施され前期の西川津式のものと考えられる。2は種実圧痕がみられる土器である。時期は不明である。

第214図1はA1区の遺構外出土のもので、口縁部内面に円形の刺突文が施されている。後期の原田式に属すものと考えられる。

第215図はB1区の排土採取のものである。1・2は早期に属すものと考えられ、1は菱根式に、2は刻目隆帯の福呂式に属す。3～7は前期の西川津式に属すと考えられる。3は口縁部に二枚貝による刺突のある隆帯が貼り付けられる。4は押引文が施され、5は刻目のある隆帯が貼り付けられる。6は内外面ナデ調整、7は土器転用円盤状土製品あるいは錘の可能性はある。8は爪形文が施され、前期の羽島下層Ⅱ式・北白川下層Ⅱ式頃と考えられる。9は斜行する沈線が施され後期中津式に相当する可能性が考えられる。10は凹線文が施され後期の沖丈式～権現山古段階に相当する。11は後期の五明田式に相当する。12は口縁部内面に指頭圧痕文が見られ、後期の崎ヶ鼻Ⅱ式～沖丈式あたりになるものと考えられる。13は口縁部に刻目があり晩期の原田式・谷尻式に相当すると考えられる。14は後期～晩期の注口土器と考えられる。15～18は後期～晩期の無紋粗製土器と考えられる。

(2) 弥生土器(第216図) 1・3・5はA2区(南)、2・4・6はB1区出土である。1は3条のへら描き直線文が施されたⅠ様式の甕である。2は内面に突帯が貼り付けられているⅠ様式の口縁部片である。3・4はミニチュア土器、5は孔があり土笛と考えられる。6は円形の孔がある円盤状土製品である。

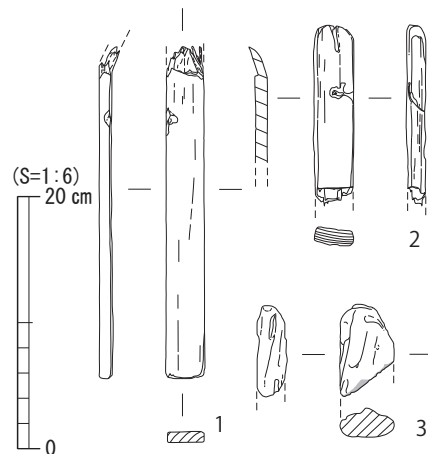


第218図 B1区 遺構外出土  
石製品実測図(2/3)

(3) 石器・石製品(第217・218図) 第217図はA1区の近代の水田層から出土している。1は安山岩製の磨製石剣未製品である。2は片岩製の両刃石斧であり基部が欠損し研磨痕・敲打痕が見られる。3は流紋岩製で片側に打ち欠きがあることから石錘の可能性が考えられる。

第218図1はB1区の遺物包含層から出土した凝灰岩製の管玉未製品である。色調は白色に近く軟らかい印象のもので、片面に貫通しない穿孔の痕跡が見られる。

(4) 木製品(第219図) B1区の排土採取のものである。1は薄い板状のものである。2は扁平な板状のもので、1箇所黒色の部分がある。3は一部が炭化した木片状のものである。



第219図 B1区 排土採取木製品実測  
図(2/3)

## 第4章 古屋敷Ⅱ遺跡の調査成果

### 第1節 古屋敷Ⅱ遺跡の立地と調査歴

#### 1. 遺跡の立地(第220図)

遺跡は朝酌川に向かって延びる低丘陵の南側斜面の標高15～27mに位置し、尾根頂部から5m程下方と頂部に近い位置に広がる。遺跡が立地する斜面は比較的広い谷に面した場所であり、この谷は現在大内谷と呼ばれ、丘陵裾部には現在の集落が広がっている。この丘陵裾部は古代においても集落が営まれるには最適な環境であったと考えられる。調査区の斜面はそれほど緩やかなものではないことから、集落の本体はより傾斜が緩やかとなる下方に広がっているものと考えられる。

#### 2. 調査前の地形(第221図)

調査前の地形測量(松江市教育委員会作成図)では、標高27～19mあたりまでは、斜面の傾斜がややきつく、標高19～17mのあたりでやや緩やかとなっている。また調査区の西側下方の標高16m前後の付近でも緩やかとなっている状況である。調査の結果、この傾斜が緩やかな部分から加工段が検出された。

#### 3. 遺跡の発見と試掘確認(トレンチ)調査

松江市教育委員会による平成17年3月の事業地内の分布調査によって、12箇所の遺跡推定地が発見され、そのうちの山林内の緩斜面部分に遺跡が存在する可能性が考えられていた。

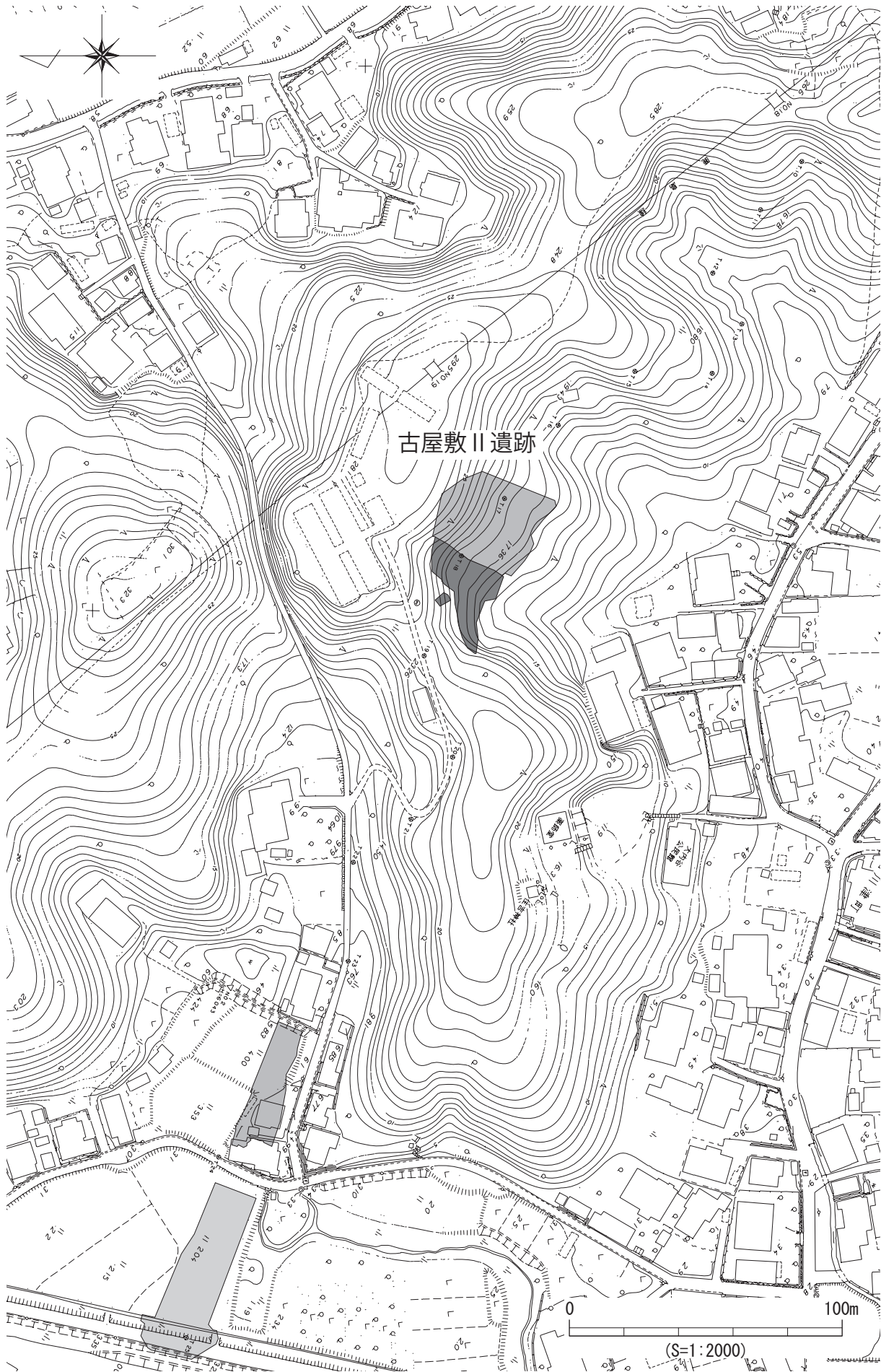
平成18年2月2日～3月17日にかけては、松江市教育委員会によって山林内の遺跡推定地で一連のトレンチ調査が実施された。トレンチ調査では3箇所で見つかり、緩斜面一帯に遺跡が広がることが確認された。この部分について「古屋敷Ⅱ遺跡」とし、本発掘調査が必要な遺跡として挙げられることとなった。

#### 4. 本発掘調査(第222図)

試掘確認調査の結果を受け、市教育委員会から委託を受けた財団法人松江市教育文化振興事業団によって平成18年5月～10月にかけて東区及び中央区について発掘調査が行われた。

その結果、東区では表土直下で赤褐色土の地山が検出され、表土で若干の遺物の出土がしたのみであった。中央区では、遺物包含層とピット、土坑状の落ち込みが確認された。遺物は平安時代頃の須恵器や土師器を中心として出土した。これらの成果については既に平成23年3月に松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団から発掘調査報告書が刊行されている。

その後、松江島根線発掘調査事業については島根県教育委員会が実施することとなり、未調査区であった西区について平成21年度に実施することとなった。



第220図 古屋敷Ⅱ遺跡 周辺地形測量図(1/2000)



## 第2節 調査の方法

### 1. 調査区の設定(第222図)

調査区はすでに、東区・中央区・西区と分けられていたことから、特にグリッド等の設定をしないで実施した。なお座標は世界測地系の第Ⅲ座標系に基づき行った。

### 2. 表土掘削と遺構検出

調査は、人力による表土掘削から行った。表土掘削は鍬・スコップ等によって行い、調査区の最も奥の西側から開始した。調査区の西側は表土下に赤褐色の地山が確認されたことから、その面で遺構精査を実施して確認された遺構から順次遺構掘削を行った。遺構内から出土した遺物や、遺物が集中する土器溜まりは基本的に出土地点を記録して取り上げた。なお出土遺物の出土状況を記録したものは遺構内で原位置から大きく動いていないと判断される一部のみである。

### 3. 遺構掘削

遺構は基本的に土層断面観察用のベルトを設定して掘削したが、ピット等の小型の遺構については半裁し断面を記録した後に完掘した。加工段の掘削は思ったより地山と埋土の判別が困難であり、いくつかのベルトを設置し、断ち割りを行い断面を確認しながら行った。

### 4. 記録の作成

遺構の平面図は、コンピュータ・システム株式会社の遺跡調査システム「SITE」を用いて測量し、出力後補正を行った。遺構等の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは6×7判フィルムカメラ(モノクロネガ・カラーポジフィルム)による撮影を行い、それ以外は35mmフィルムカメラ(モノクロネガ・カラーポジフィルム)及びデジタルカメラで撮影した。

### 5. 自然科学分析等

調査で出土した木炭等の炭化物については、発掘終了後に選択した資料の放射性炭素年代測定を平成22年度に株式会社加速器分析研究所に委託して実施した。その結果は第6章で報告している。

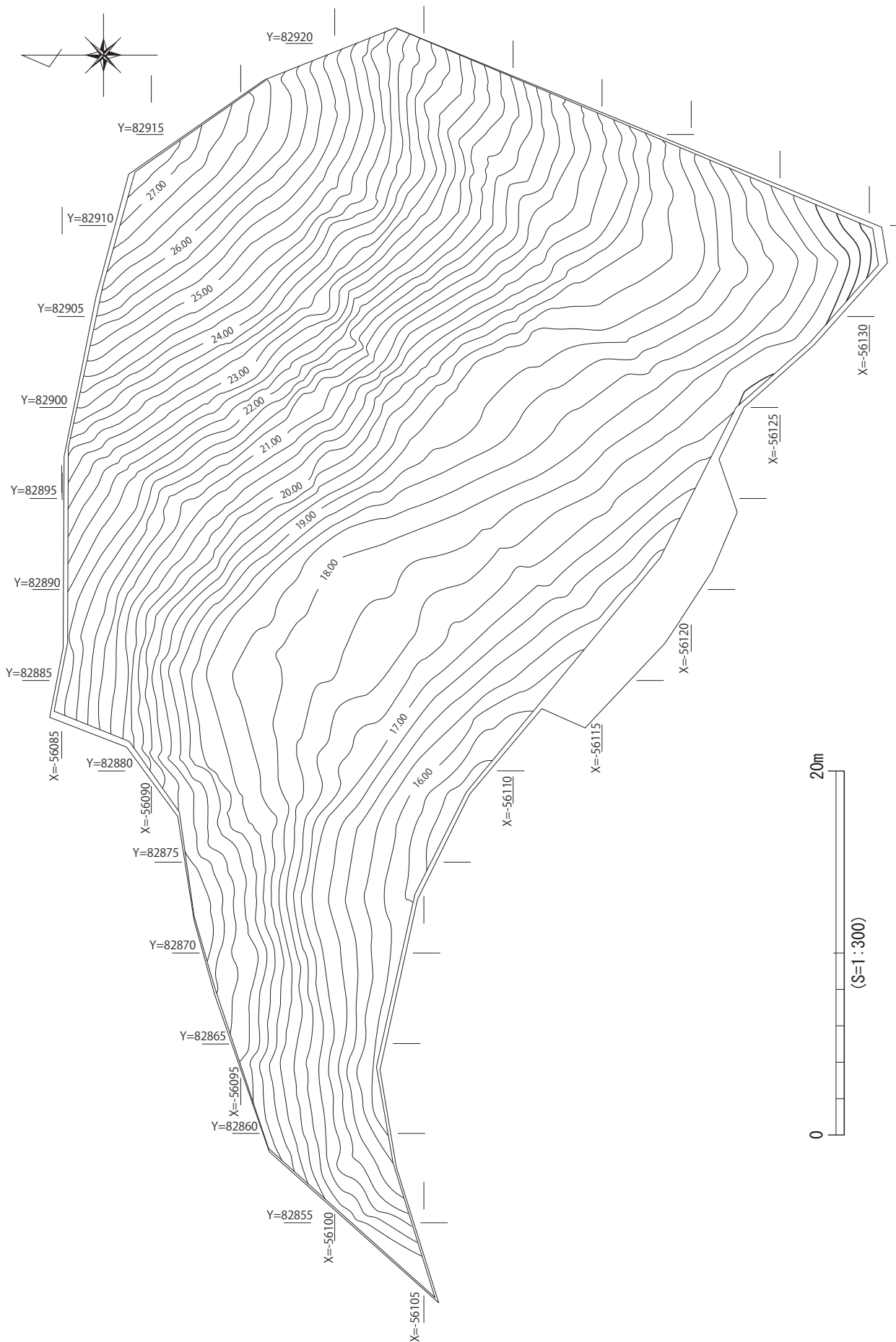
また出土金属器については、平成22年度事業として財団法人大阪市博物館協会に保存処理を委託した。

### 6. 整理等作業

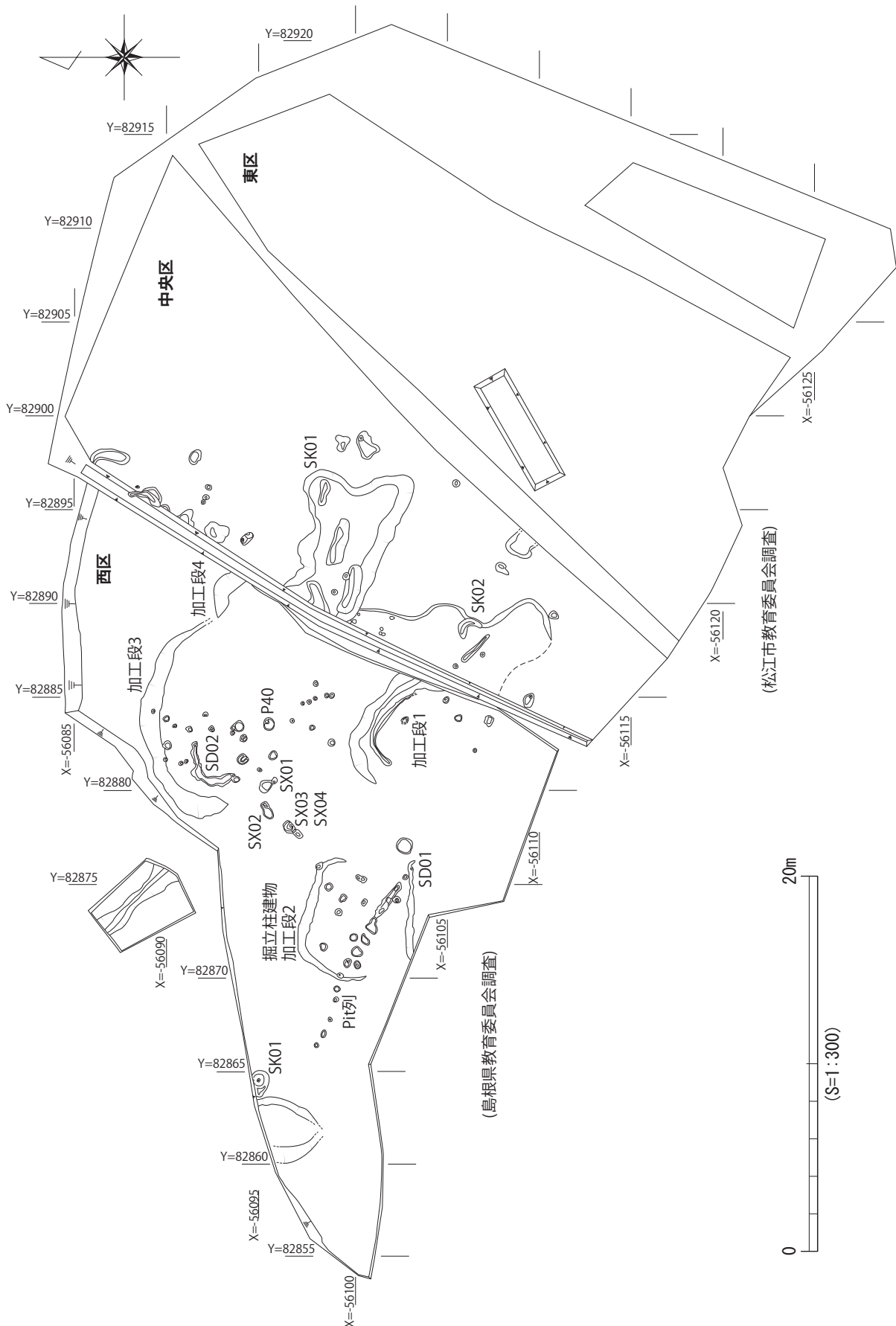
水洗・注記作業については発掘作業の年度に終了し、接合は一部その年度に実施したが、主な分類・接合・復元作業及び実測については平成24年度に実施した。

接合作業を行う中で、加工段1の下方から出土するものと加工段3から出土するものが接合するなど、かなり広い範囲で接合することが確認された。どの遺構に伴う遺物なのかは最終的には斜面のより上方(標高で高い方)で出土したものを本来の使用場所と考え、掲載はそれによった。また、出土遺物はほぼ時期差のない須恵器・土師器と考えられたことから、数量的な分析が必要と判断し、出来る限り器種ごとの個体数を検討出来るよう作業を行った。最終的には大まかではあるが、全体的な数量の把握・分析が可能となった。

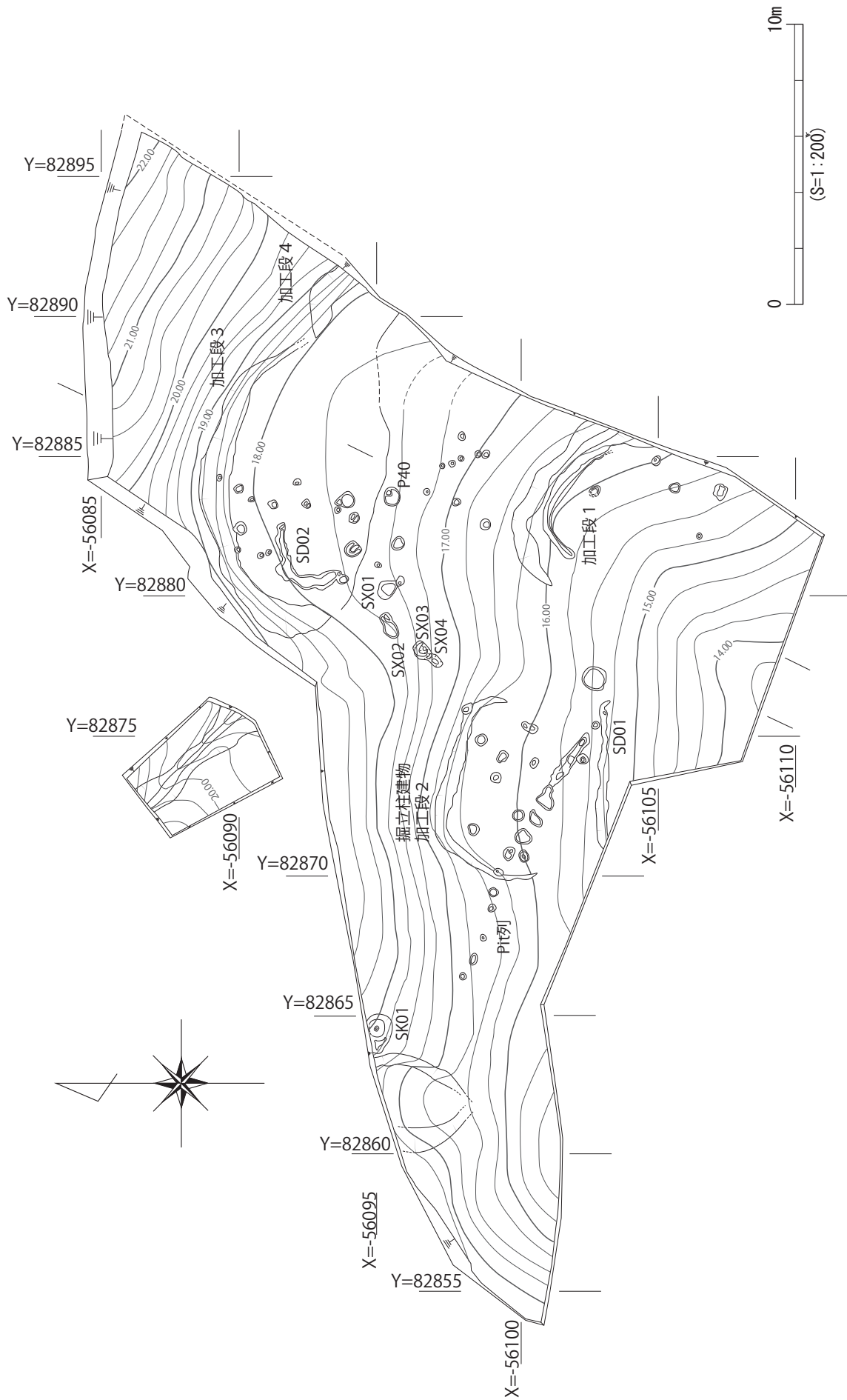
実測を行う土器については、ある程度全体が分かるものを優先して選択し、また器種の中で点数が少ないものは選択した。



第 221 図 古屋敷Ⅱ遺跡 調査前地形測量図 (1/300)



第222図 古屋敷Ⅱ遺跡 遺構配置図(平成18・21年度調査両成果)(1/300)



第223図 古屋敷Ⅱ遺跡 西区遺構配置図(1/200)



## 第3節 調査区の概略と基本層序

### 1. 検出遺構の概略(第223図)

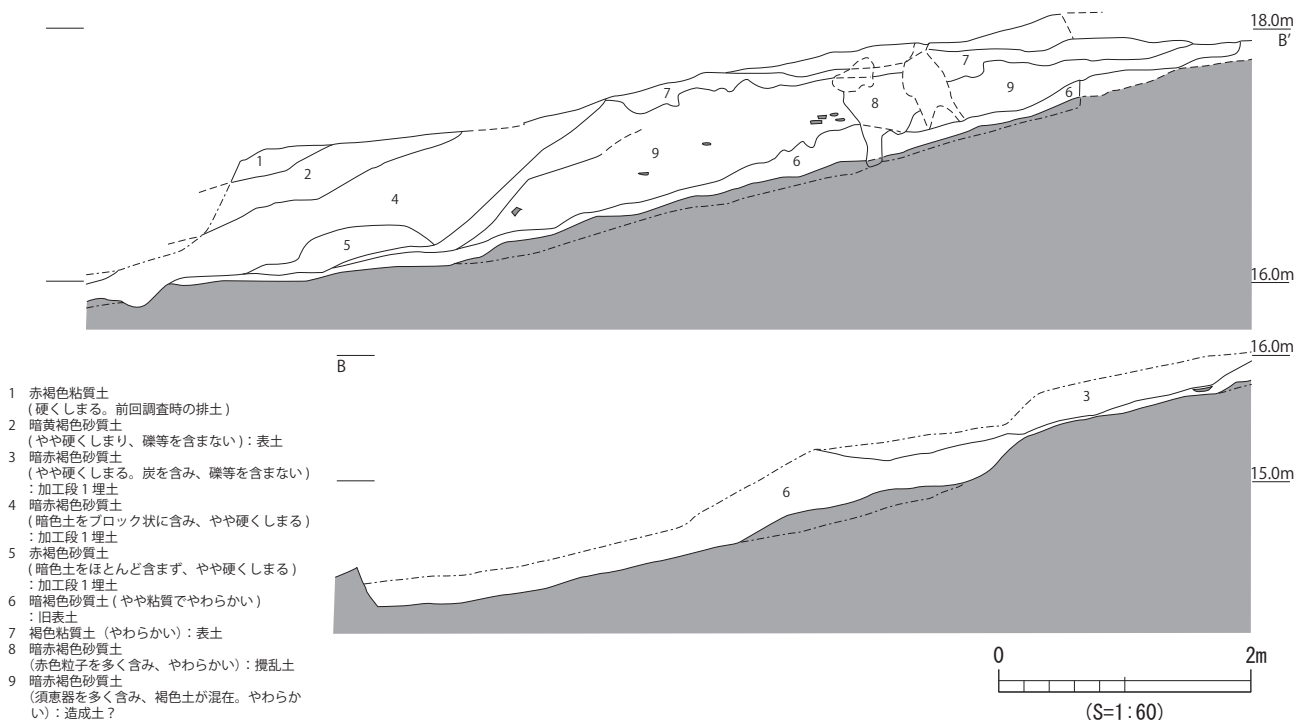
調査の結果、緩斜面部分を中心に平安時代の加工段を4箇所、掘立柱建物を1棟、ピット59基を検出した。また時期が不明な落とし穴と推測される土坑を1基、連続ピット列1列、溝状遺構1条を検出した。

また、追加トレンチを調査区の上方の斜面の傾斜が緩やかとなっている部分にいった。この場所はつい最近まで山道として利用されていた浅い谷状の地形であると判断された。

### 2. 基本層序(第224図)

堆積が浅い部分は表土下で赤褐色系の粘質土の地山が確認された。緩斜面部や緩い谷状となる調査区の中程では、表土下で加工段の造成土の可能性も考えられる赤褐色土や旧表土と考えられる暗褐色土層が確認された。

これらの層序は上方から表土(2層)ー赤褐色土(9層)ー暗褐色土(6層)となっている。遺物は赤褐色土・暗褐色土の両者から出土し、特に加工段3・4の下方で加工段1の上方にあたる土器溜まり1・2とした範囲では赤褐色土層を中心に集中した。また加工段1は赤褐色土(9層)を掘り込んで造られているものと考えられる。



第224図 古屋敷II遺跡 西区調査区土層断面図(1/60)

## 第4節 検出遺構と出土遺物

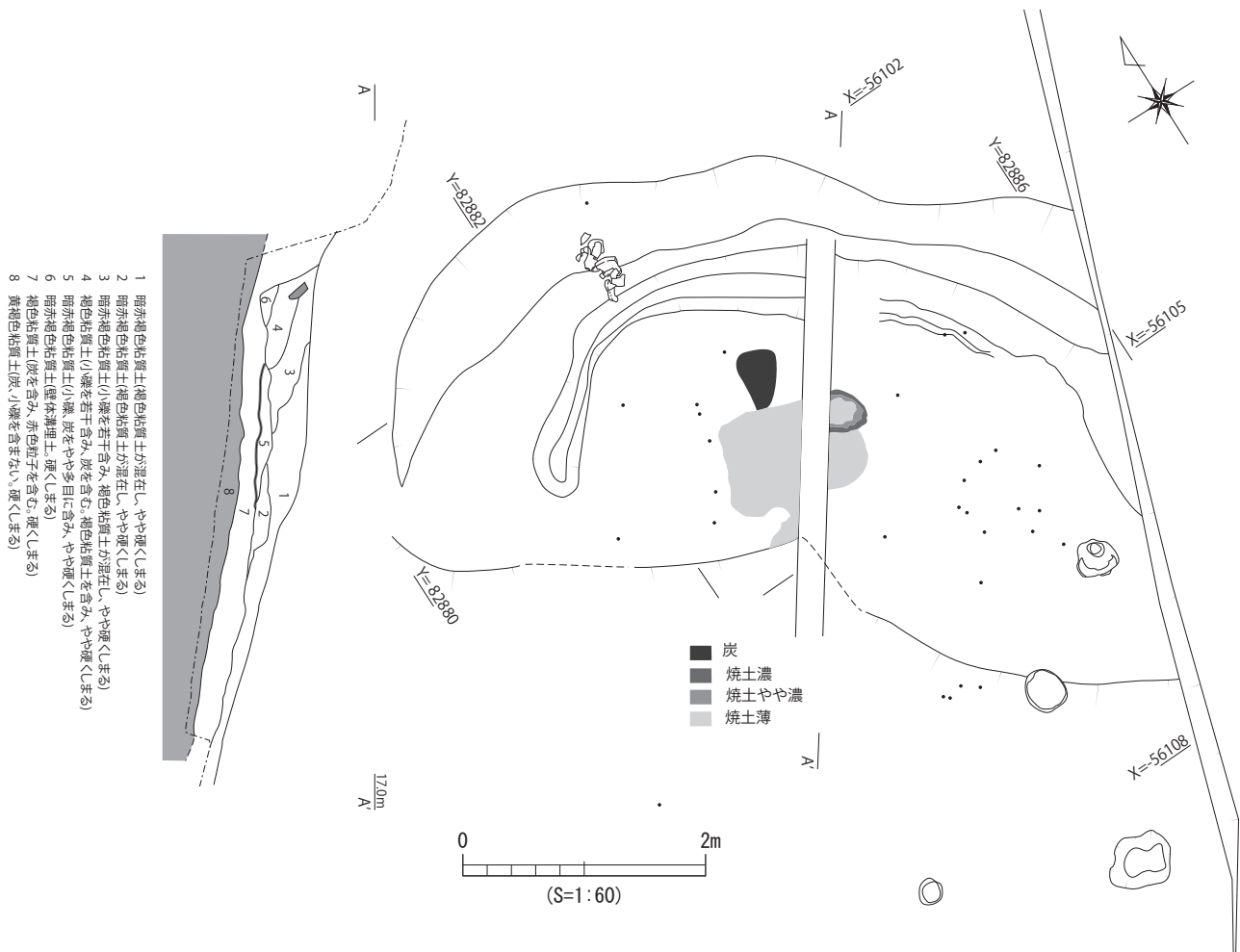
### 1. 加工段

加工段は調査区の東側の緩斜面で4基検出した。加工段1及び加工段4については、松江市教育委員会の中央区の調査で検出された遺構と同一のものである可能性がある。

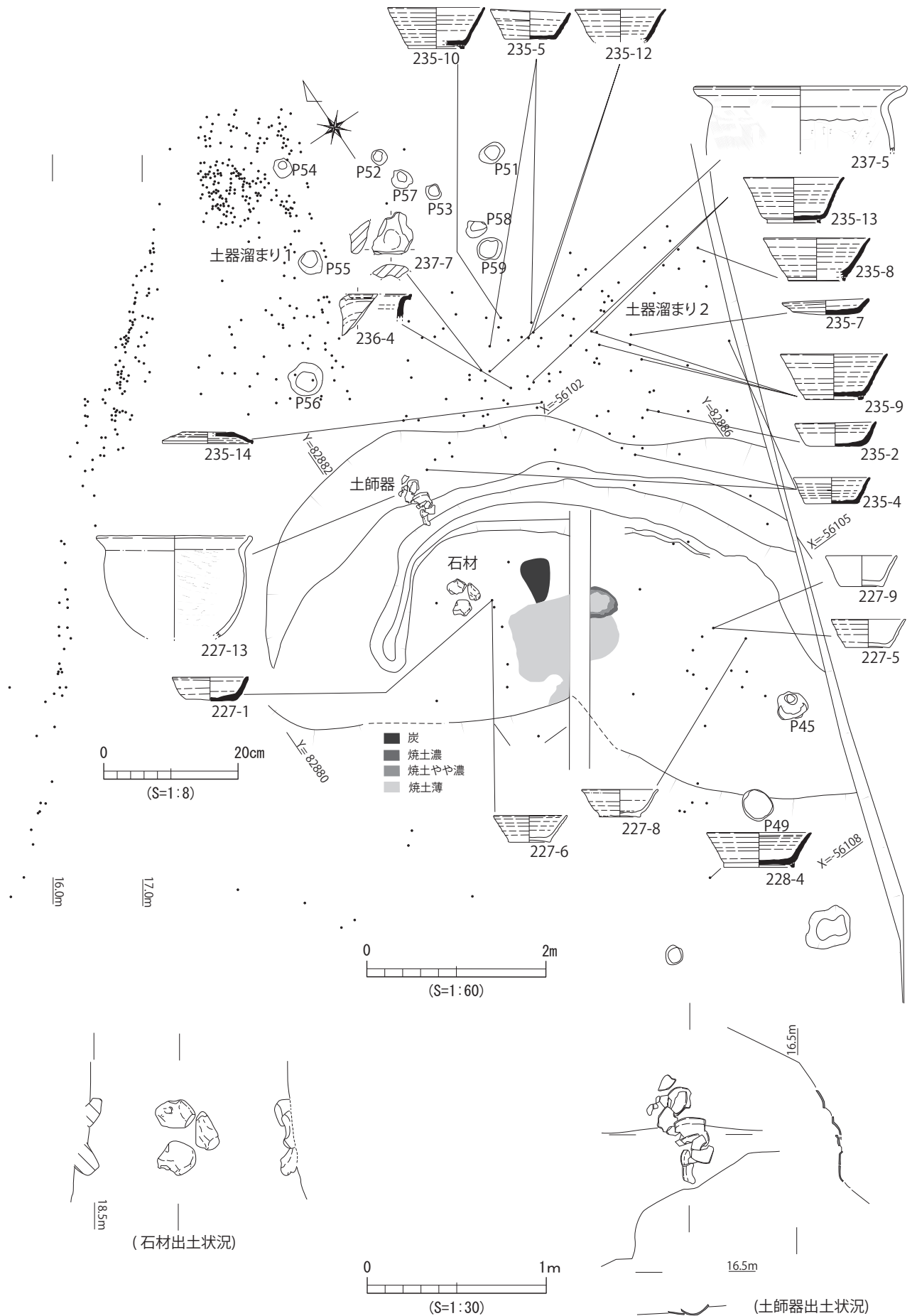
#### (1) 加工段1(第225～228図)

**規模と形態(第225図)** 遺構は調査区の下方標高16.5m付近で検出している。緩斜面を削り出し平坦面を造りだしており、調査区外の南東方向にも広がり、松江市教育委員会の調査区で確認されたSK02が対応するものと考えられる。平坦面の規模は幅3.28m、長さ6.01m、深さ0.56mであり、松江市教育委員会調査のSK02が対応すれば長さは13m程となる。壁際には幅30～50cm、深さ6cmの壁体溝が検出された。床面からは被熱した平面長方形の焼土面が確認されており、長さ1.2m、幅0.8mを測る。焼土面は赤褐色を呈し、壁側には炭が0.5×0.3mの範囲で集中して見られた。また焼土面の一角には径30cmの範囲で還元色に変色している部分の確認された。床面では幾度も精査を行い柱穴等の検出に努めたが、2基確認したのみであった。

**堆積状況(第225図)** 遺構は地山を削り込んでいるものではなく、地山上に堆積した暗褐色粘質土層から造られており、床面と考えられる硬化面もその層の上面となる。また、暗褐色粘質土層は上方に位置する加工段3・4の造成時にできた堆積層の可能性のあることから、加工段1は加工



第225図 古屋敷Ⅱ遺跡 加工段1遺構実測図(1/60)

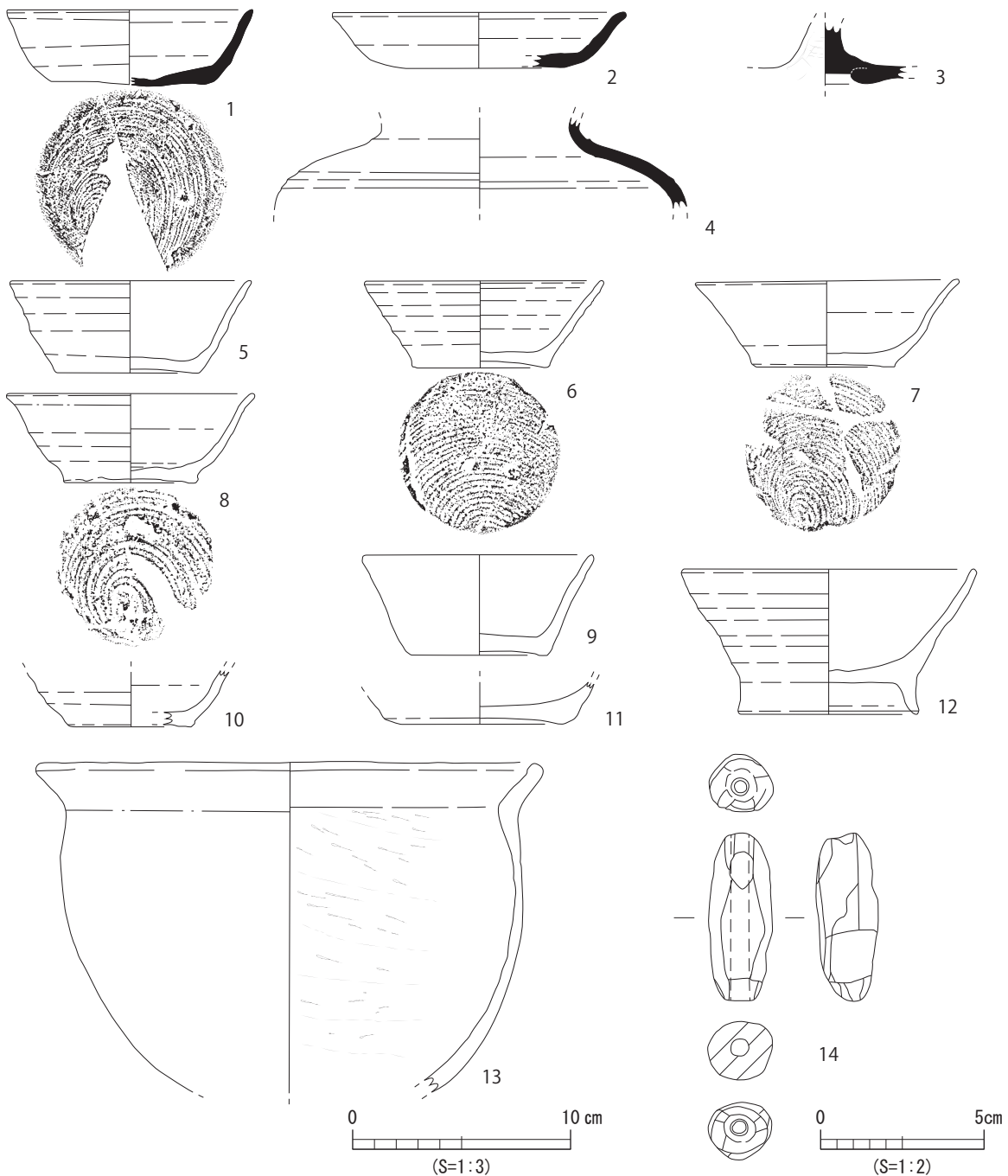


第226図 古屋敷Ⅱ遺跡 加工段1・土器溜まり2遺物出土状況図(1/60)

段3・4より後に造り出された可能性が考えられる。埋土は上部は赤褐色系の土層、下部には褐色～赤褐色の土層が堆積していた。

**遺物の出土状況(第226図)** 遺物は埋土中から多く出土したが、床面付近から出土するものは非常に少なく、壁際で土師器甕が潰れたような状況で出土したのが注目される程度である。ただし、加工段の上方の斜面からは非常に遺物が集中して出土しており、何らかの遺構が存在する可能性を想定していたが、ピットをいくつか検出したに留まった。

**出土遺物(第227・228図)** 第227図は加工段1の埋土中から出土した土器・土製品である。1～4は須恵器である。1は無高台の坏で口縁部が外反するものである。2は口縁部が外反する皿である。3は平瓶の体部上面の中央に付けられた把手の破片、4は壺の頸部から胴部にかけての



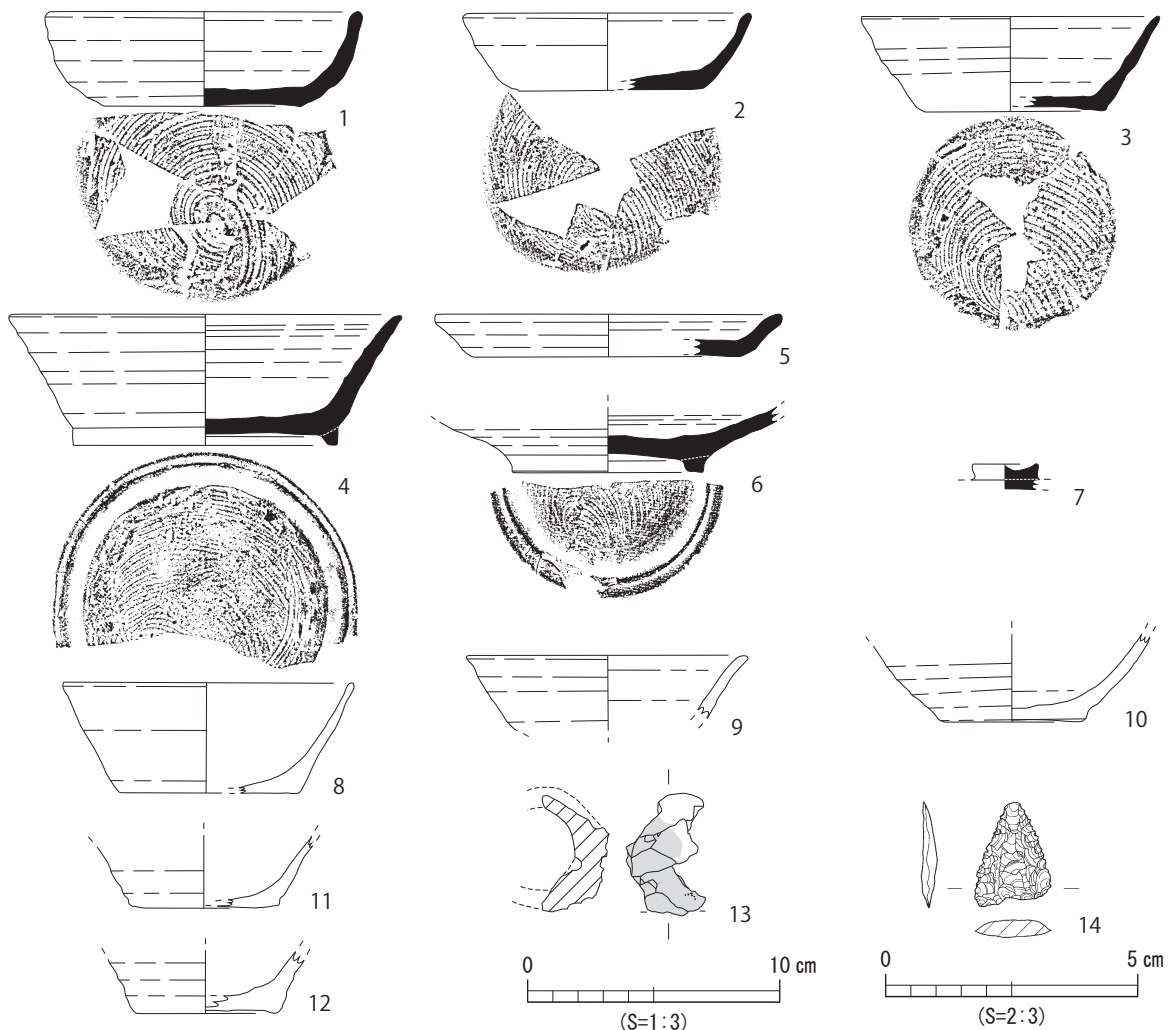
第227図 古屋敷Ⅱ遺跡 加工段1出土土器・土製品実測図(1/3・1/2)



破片である。5～13は土師器である。5～11は無高台の坏で5・6は口縁部が直線的に外反するものである。7・8は体部が内湾気味に立ち上がり口縁端部が外反する。9は口縁部がやや直立気味に立ち上がるものである。10・11は無高台坏の底部である。12は高台付きの坏であり高台は高く底部外周に貼り付けられ、口縁部はやや開き気味に立ち上がる。13は甕であり口縁部は短く端部が若干肥厚する。14は楕円形状の土錘である。

第228図は加工段1の下方の黒色土層等から出土した土器・土製品・石器である。1～7は須恵器、8～12は土師器、13は土製品、14は黒曜石製の石鏃である。1～3は無高台の坏であり、1は口縁部が内湾気味に立ち上がる。2・3は口縁部が外反するものである。4は高台付きの坏であり、高台は底部外周部に貼り付けられ口縁部は外反する。5は皿であり口縁部は外腕気味に立ち上がる。6は高台の付いた底部であり、器種は坏以外の壺・瓶類と考えられる。7は蓋のつまみ部分である。8～12は無高台坏と考えられ、8・9・11口縁部が外反する。13は被熱して変色した土製品であり、形状から羽口等の可能性が考えられるものである。

**遺構の性格と時期** 遺構はピットがいくつか見られるが、建物等を復元することができるようなものではなかったことから、その性格は不明である。ただし、焼土面や出土遺物に羽口と思われる土製品があることから、鍛冶や鑄造に伴う性格のものである可能性が考えられる。時期は出土した須恵器・土師器から平安時代と考えられ、9世紀後半～10世紀初頭と推測される。

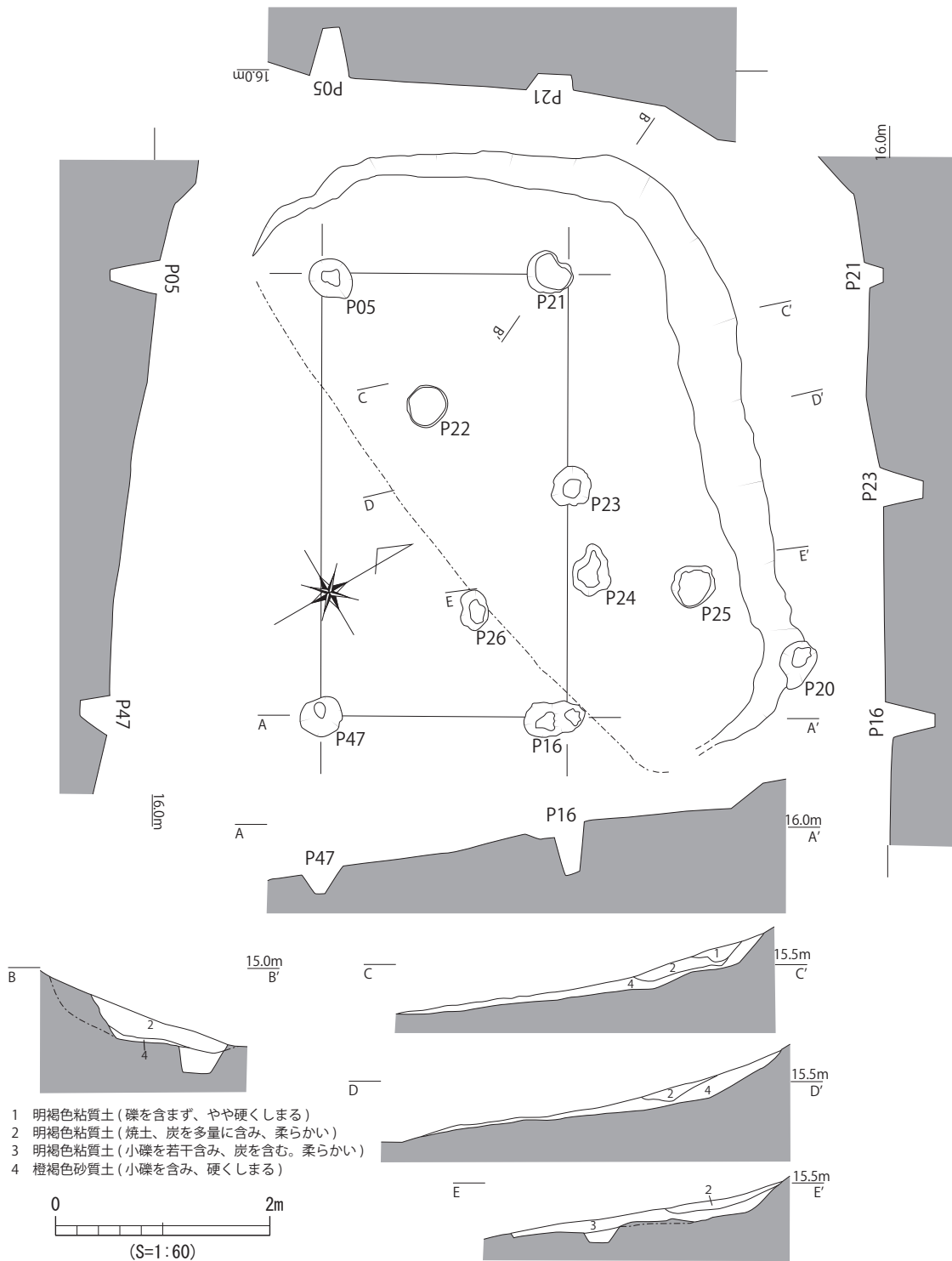


第228図 古屋敷II遺跡 加工段1下方出土遺物実測図(1/3・2/3)

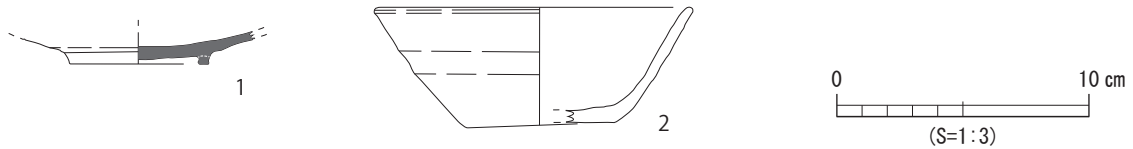
(2) 加工段 2( 第 229・230 図)

**規模と形態( 第 229 図)** 遺構は調査区の西側標高 16.5 m 付近で検出した。緩斜面を削り出し平坦面を造りだしており、平坦面の規模は幅 3.8 m、長さ 6.58 m、深さ 0.36 m である。遺構は地山で検出し、南東部は平坦面が流出している可能性が考えられる。床面では壁体溝等は見られなかったがピットを確認しており、その並びから掘立柱建物が復元される。

掘立柱建物は桁行 2 間・梁行 1 間と考えられ、桁行き 4.12 m・梁行き 2.28 m を測る。柱間寸



第 229 図 古屋敷Ⅱ遺跡 加工段 2 遺構実測図 (1/60)



第230図 古屋敷Ⅱ遺跡 加工段2出土遺物実測図(1/3)

法は、桁行 2.06 m、梁行 2.28 mの間隔であるが、南側の桁行中央の柱穴は精査を数度行ったが検出できなかった。柱穴の規模は径 0.4 m前後であり比較的揃っている。建物を主軸はN - 60° - Wである。

**堆積状況(第229図)** 遺構は地山を加工しており床面も地山である。埋土は地山と判別が難しい暗褐色系の層である。

**遺物の出土状況(第229図)** 遺物はほとんど出土せず、数点が散在するような状況で出土した。

**出土遺物(第230図)** 1は表土出土の緑釉陶器で高台付きの皿と考えられる。高台は削り出し高台であり釉薬は底部には認められない。全体の詳細が不明であることから器種や時期は明確でないが、器壁が薄い点、胎土が須恵質である点、釉薬の色調等から、産地は平安京近辺で10世紀前半代の可能性が考えられる<sup>註1</sup>。2は埋土から出土した土師器の無高台坏である。口縁は底部から直線的に外反する。

**遺構の性格と時期** 緑釉陶器の年代観では10世紀前半代、土師器は9世紀後半頃に位置付けられることからやや時期が異なる点が課題であるが、概ね9世紀後半頃、平安時代と推測される。

### (3) 加工段3(第231・233図)

**規模と形態(第231図)** 遺構は調査区の北側標高 19 m付近で検出した。斜面を削り出し平坦面を造りだしており、平坦面の規模は幅 6.6 m、長さ 10.5 m、深さ 0.69 mであり、検出した加工段の中では大規模のものである。遺構は地山で検出し、床面ではピットや浅い溝を確認した。ピットは加工段の西側で検出したが建物等を復元するような並びは確認されなかった。浅い溝(SD02)も平坦面の西側で検出し、壁から 0.5 m離れた位置で壁に沿うように確認した。

**堆積状況(第231図)** 壁近くには暗褐色粘質土層が堆積していた。

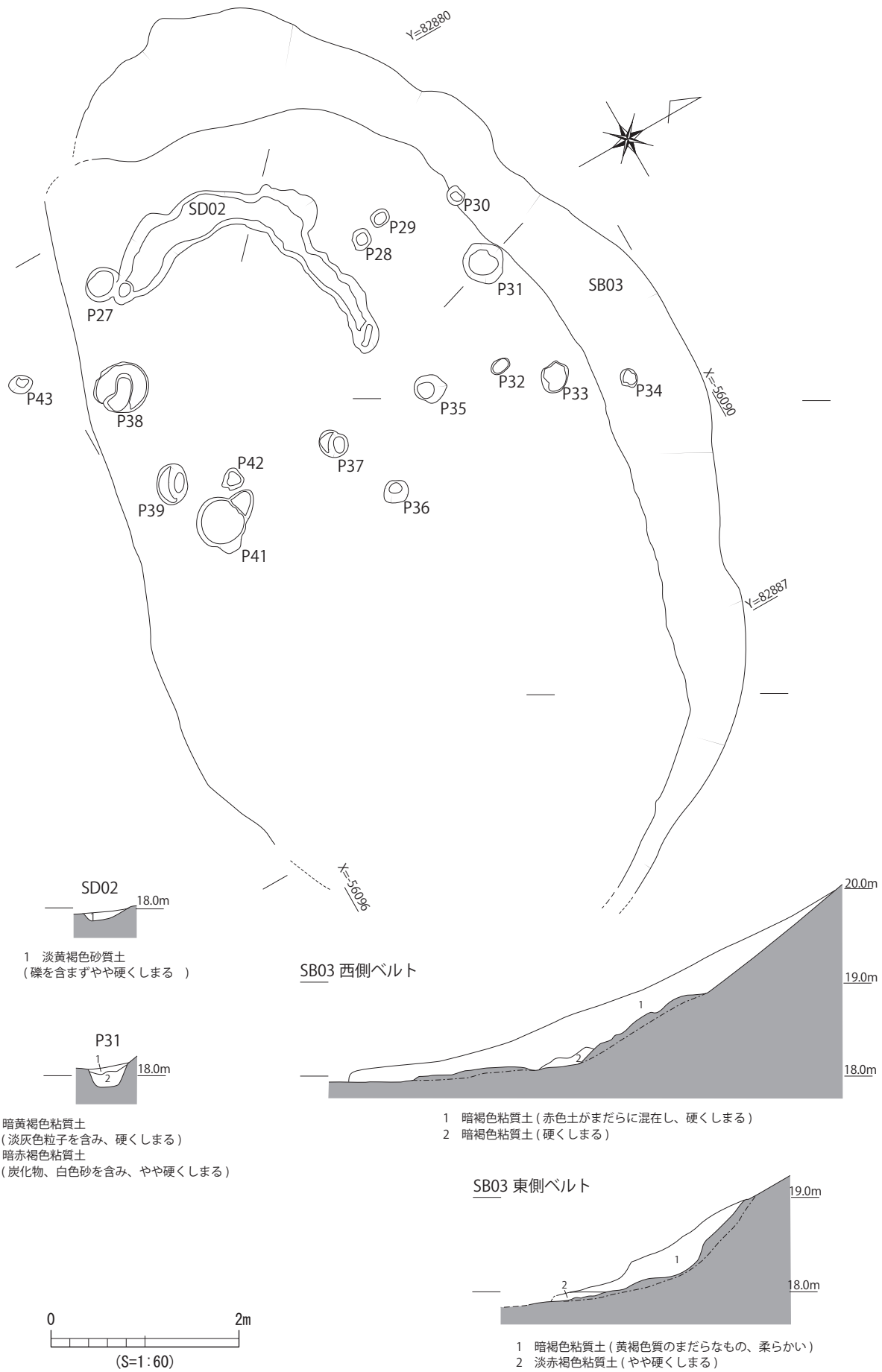
**遺物の出土状況(第231図)** 遺物はあまり出土せず、散在するような状況で出土した。

**出土遺物(第233図)** 1～8が加工段3から出土した。1～4は須恵器、5～8は土師器である。1・2は平瓶である。両者はサイズの大小は異なるが特徴は類似しており、器高が高く胴部最大径付近に突帯が付けられているものである。1は無高台のもので口縁部は外に開き端部は直立気味になる。2は高台が貼り付けられる。3は壺であり頸部の付け根は突帯状になるものである。4は小型の甕であり口縁部は単純にくの字に折れる。なお須恵器は土器溜まりや加工段1の埋土、加工段1の下方といったように非常に広い範囲で出土したものと接合している。

5・6は無高台の坏であり口縁部は外反する。7・8は高台付きの坏であり、7は高台がやや外側に開くもので、8は直立気味の高台である。9は製塩土器と考えられ、内面にはヨコナデの痕が顕著に認められる。

**遺構の性格と時期** 床面検出のピットが建物を復元できるようなものではなかったことから遺構

註1 緑釉陶器の産地・時期等については、大阪大学の高橋照彦氏に御教示頂いた。



第231図 古屋敷Ⅱ遺跡 加工段3遺構実測図(1/60)



の性格は不明である。時期は出土須恵器及び土師器から平安時代、9世紀後半と推測される。

(4) 加工段4(第232・233図)

**規模と形態(第232図)** 遺構は標高19m付近、加工段3の東側で検出した。斜面を削り出し平坦面を造りだしており、平坦面の規模は幅2.87m、長さ2.6m、深さ0.94mであり、調査区の東側にも広がる可能性が考えられるが、松江市教育委員会の調査区では対応する遺構は認められない。床面は地山であり、特にピット等は検出されなかった。

**堆積状況(第232図)** 埋土は暗赤褐色砂質土層が壁近くに堆積しその上に赤褐色砂質土層が堆積する。

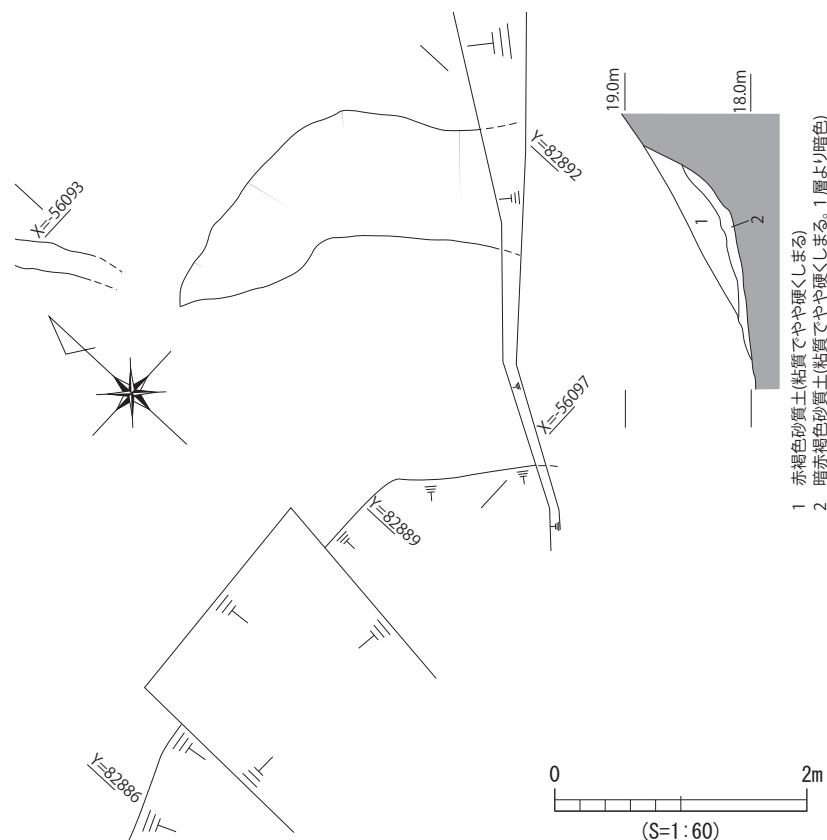
**出土遺物(第233図)** 10の石器が埋土から出土しており、研磨痕が見られることから磨石と考えられる。

**遺構の性格と時期** 平坦面からピット等の確認もほとんどなく出土遺物もないことから性格・時期ともに不明であるが、時期は他の加工段と同じく平安時代のものである可能性が高い。

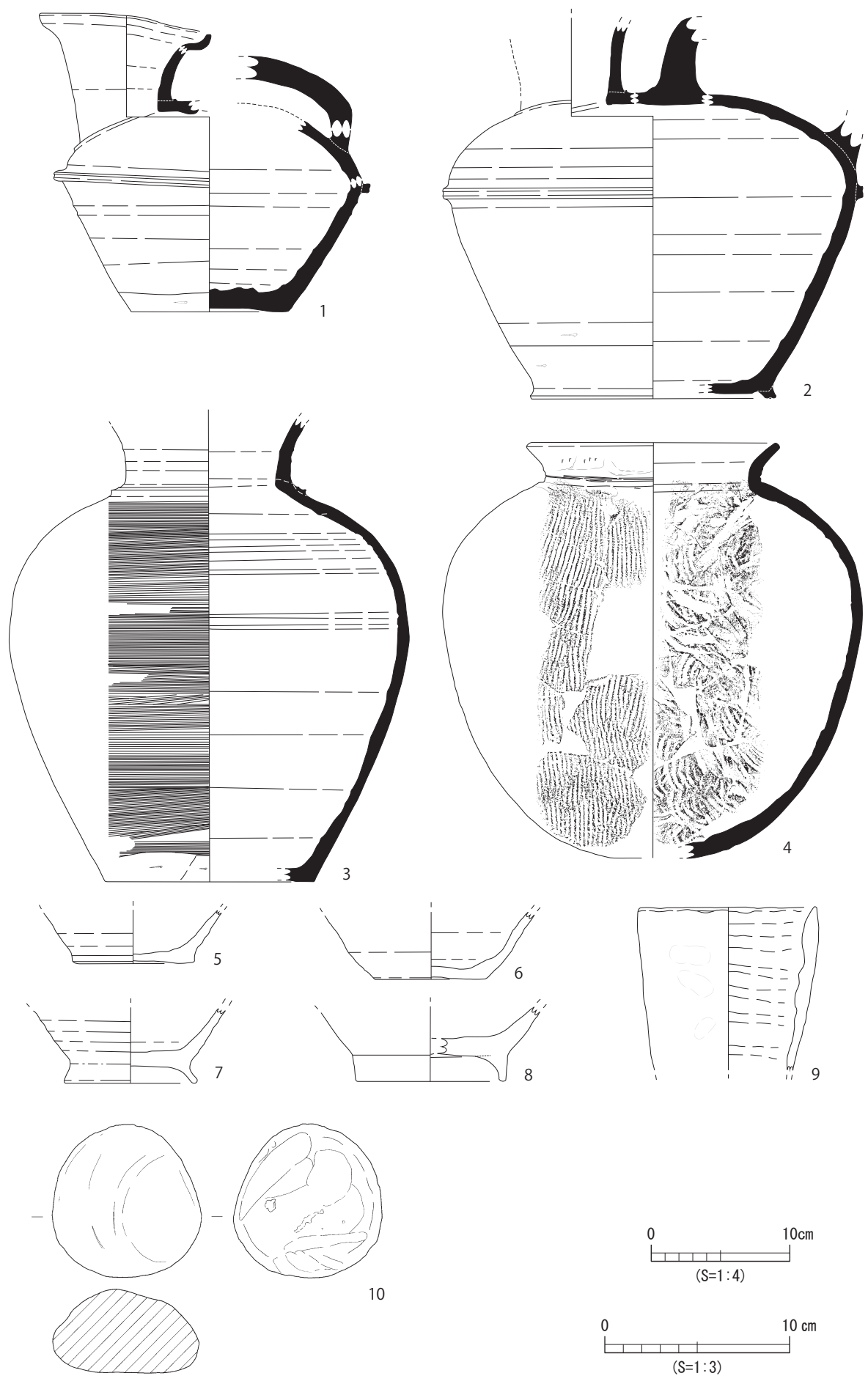
2. 土器溜まり

**規模と形態(第234図)** 加工段3と加工段1の間の斜面からは、須恵器、土師器を中心に遺物が集中して出土しており、加工段3の下方のまとまりを土器溜まり1、加工段1の上方のまとまりを土器溜まり2として、遺物の取り上げ等を行った。土器溜まり1は東西2.5×南北3.5m、土器溜まり2は東西5.85×南北4mの範囲に土器が集中している。

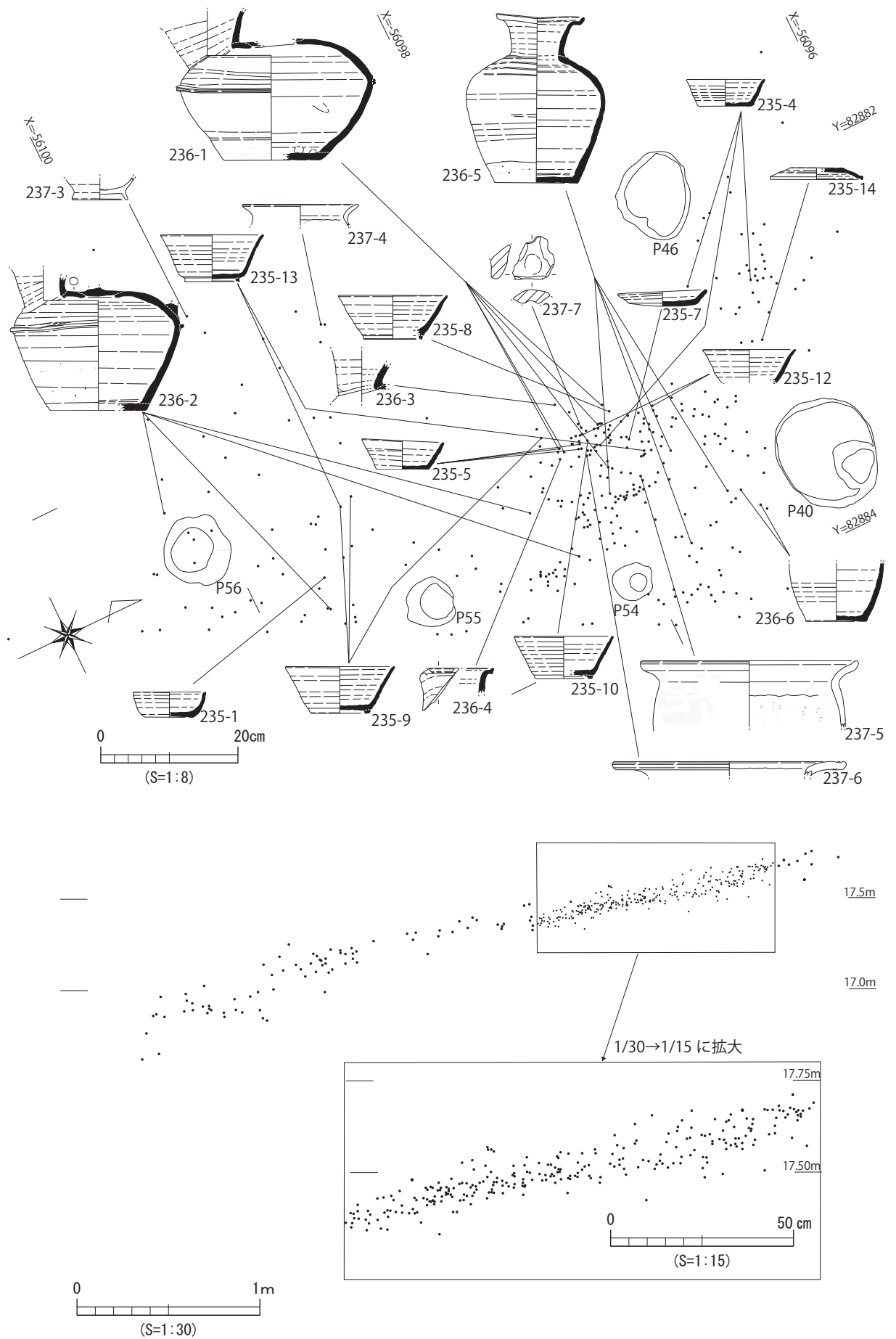
また土器溜まり2の土器等の遺物を取り上げた後、溝状の落ち込み(SD03)が確認されたが、明瞭なものではなく、遺構と断定できなかった。



第232図 古屋敷Ⅱ遺跡 加工段4遺構実測図(1/60)

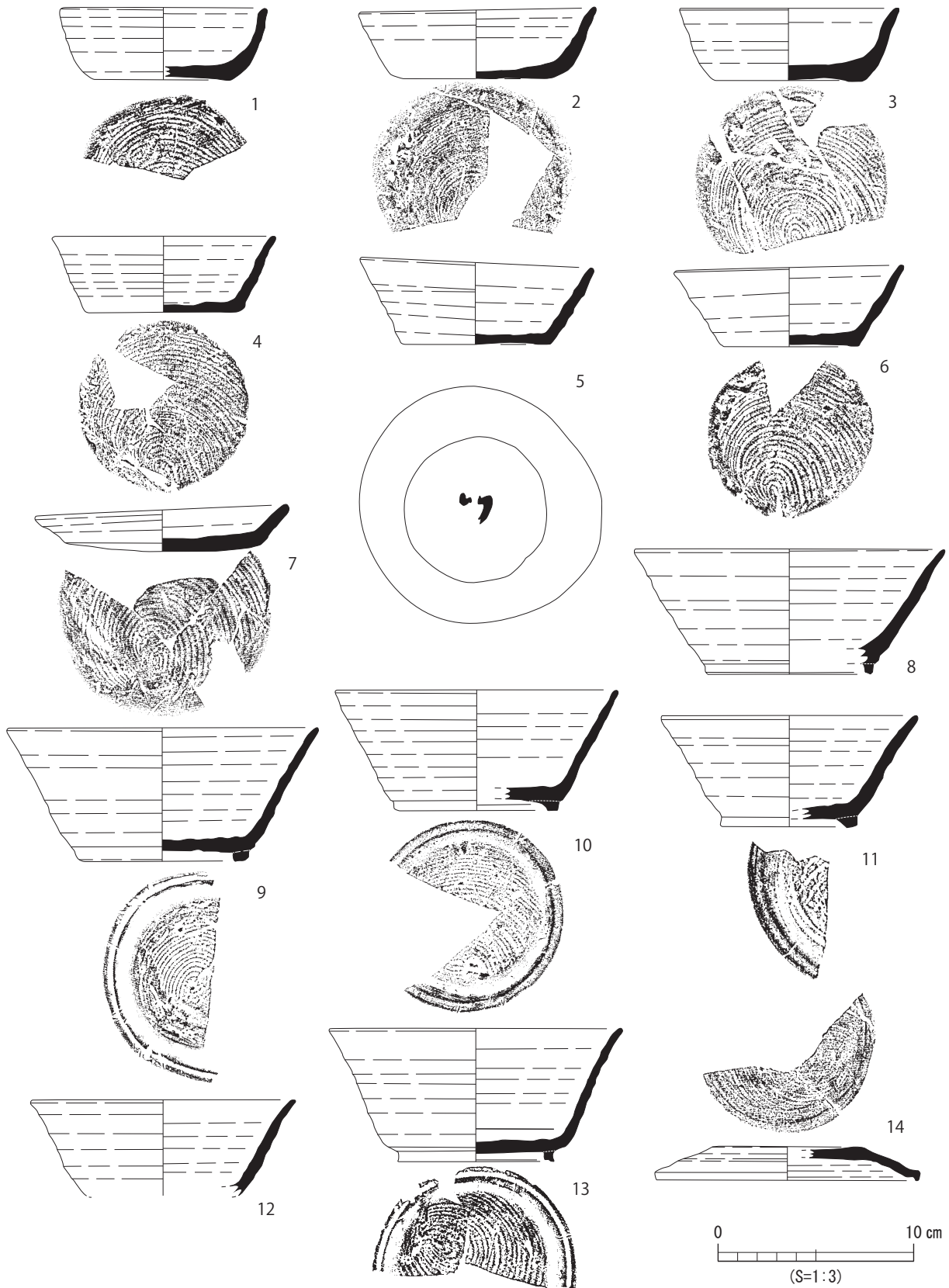


第233図 古屋敷Ⅱ遺跡 加工段3・4出土遺物実測図(1/3・1/4)



第234図 古屋敷II遺跡 土器溜まり1遺物出土状況実測図(1/30)

出土状況(第226・234図) 土器溜まりは、第224図の土層断面図の地山上の暗褐色砂質土層(6)及び暗赤褐色砂質土層(9)で検出し、暗赤褐色砂質土層から多く出土した。土器溜まり1・2と区別はしているが、本来は一連のものと考えられる。また、これらは上方の加

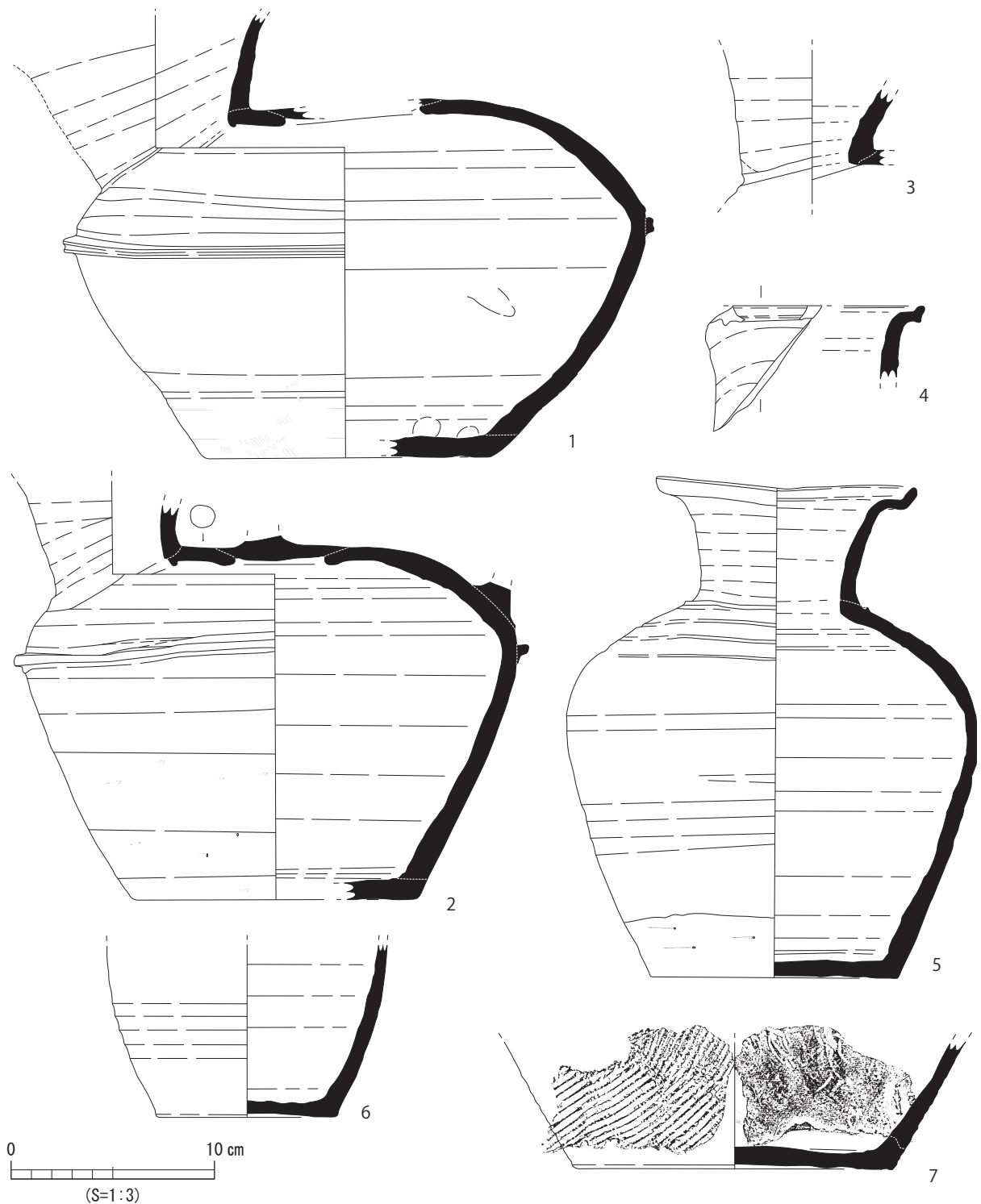


第235図 古屋敷Ⅱ遺跡 土器溜まり出土遺物実測図一1-(1/3)



工段3及び4から廃棄されたものが溜まっていた可能性が考えられるものである。

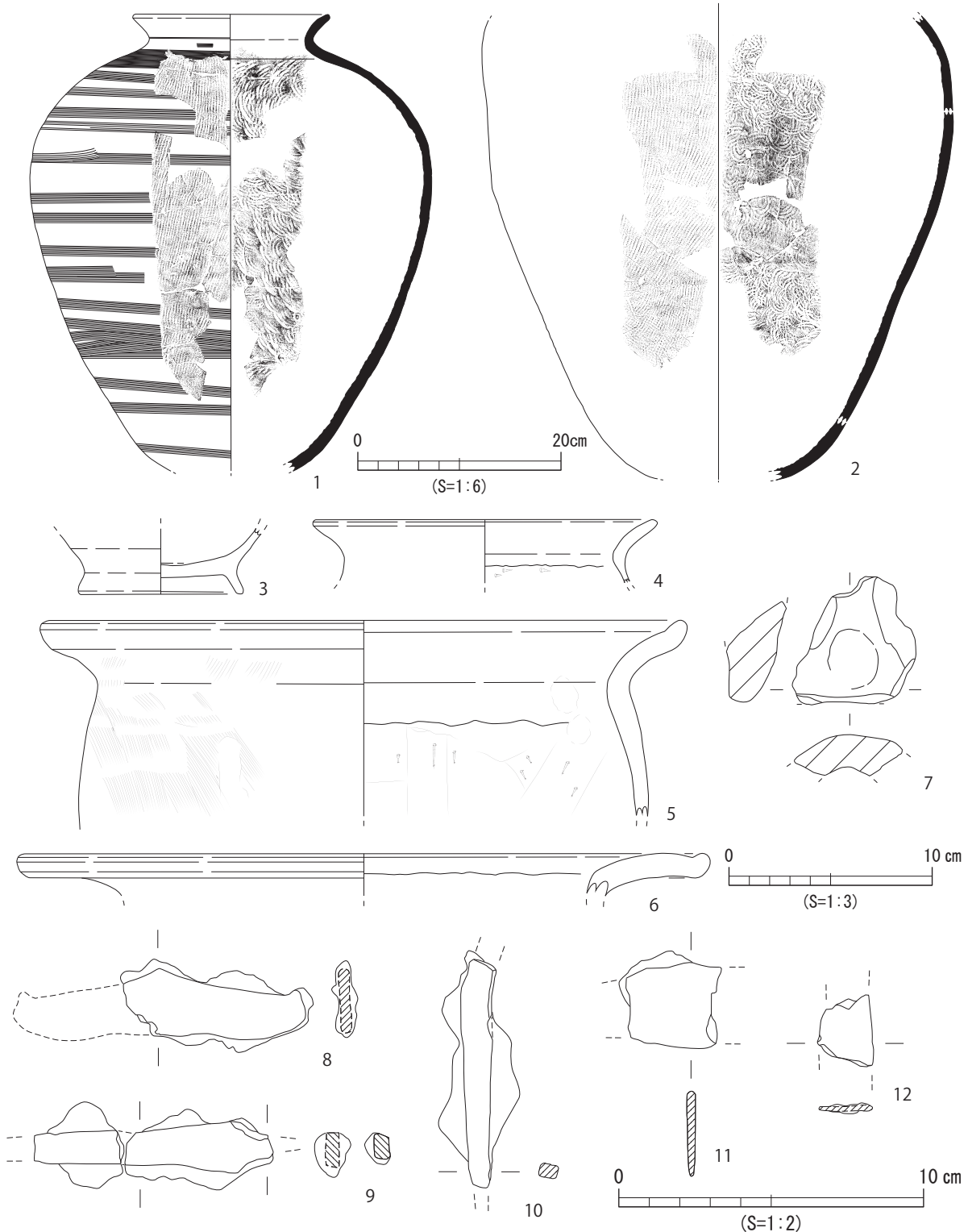
**出土遺物(第235図～237図)** 第235図は須恵器である。1～6は無高台の坏である。無高台の坏は体部が内湾しながら立ち上がる1、底部と体部の境が丸く口縁が外反し端部がやや外に折れる2・3、底部から直線的に口縁部が外反する4・5・6の3つに細分できるものである。7は皿であり口縁部がやや外湾しながら立ち上がる。8～13は高台付きの坏である。8～11は底部外周付近に高台が貼り付けられ、体部は直線的に外反して開くタイプである。12・13は高台が底部外



第236図 古屋敷Ⅱ遺跡 土器溜まり出土遺物実測図一2-(1/3)

周よりやや中央寄りに貼り付き、体部は若干内湾気味に立ち上がり口縁端部が外に若干折れるタイプのものである。14は蓋であり、器高は低く扁平でありつまみは欠損している。

第236図は須恵器の壺・瓶類である。1～3は平瓶である。1・2は無高台で胴部は器高が高く最大径付近に突帯が貼り付けられ、胴部中心から把手が付けられている。また2は胴部上面の口縁部付近に円形の孔があいている。4は壺又は瓶の口縁部、5は壺であり、口縁端部は外折したのちに直立気味に立ち上がるものである。6・7は壺の底部と考えられる。

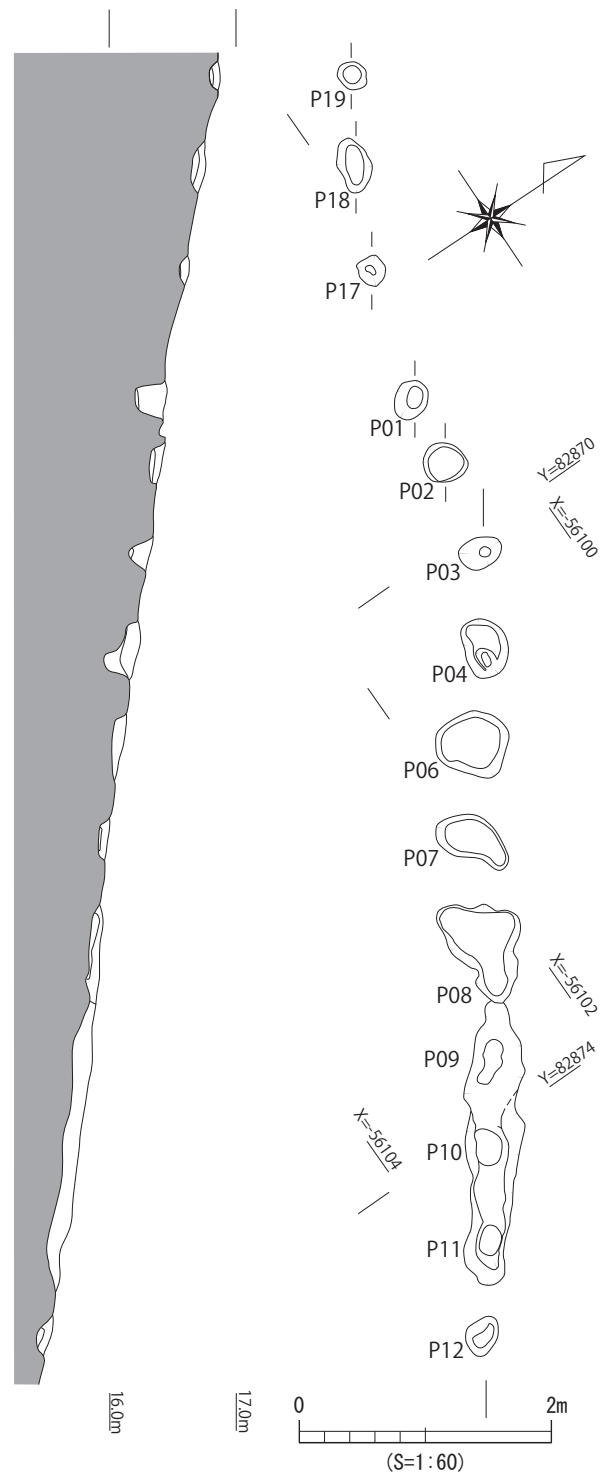


第237図 古屋敷Ⅱ遺跡 土器溜まり出土遺物実測図一3一 (1/6・1/3・1/2)

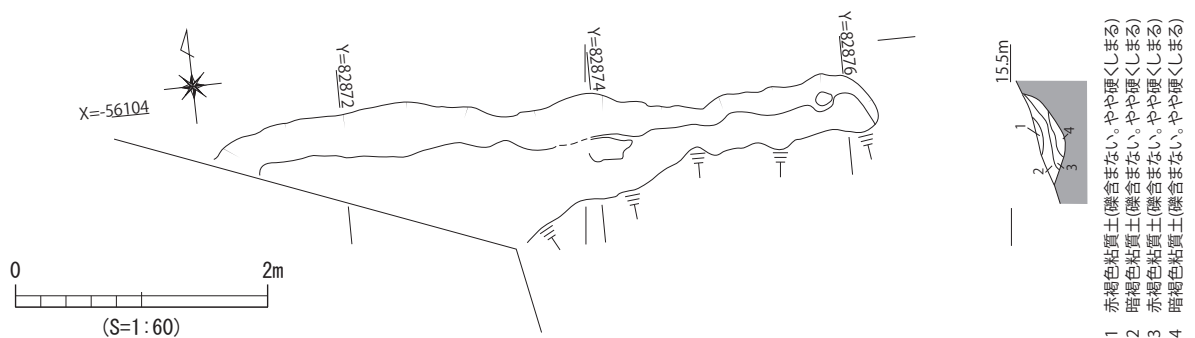
第237図1・2は須恵器の大型の甕である。1の口縁部は単純にくの字に折れるものである。3～7は土師器である。3は高台付きの坏であり、高台は高く外に開く。4～6は甕である。4は口縁部が単純に外反するものであり、5・6は口縁端部がやや内側に折れるものである。6は口縁部が大きく外に折れる。7は土製品であるが詳細は不明なものである。断面が弧を描くことから円筒状のものである可能性が考えられ、羽口の可能性がある。

8～12は鉄器である。8は火打ち金であり半分程欠損している。9は形状から刀子の可能性もあるが、断面では刃部と判断できなかったので不明である。10は釘と考えられ、11は刀子の破片、12は薄い鉄器であるが不明品である。

**遺構の性格と時期** 土器溜まりからは破片の状態出土しており、その下方の加工段等から出土したものと接合する。おそらく上方の加工段3・4から廃棄されたものと思われる。これらの土器の時期は、須恵器坏類にやや形態差があることから若干の時期幅は想定されるが、概ね平安時代、9世紀後半～10世紀初頭頃と推測される。



第238図 古屋敷Ⅱ遺跡 連続ピット遺構実測図(1/60)



第239図 古屋敷Ⅱ遺跡 SD01 遺構実測図(1/60)

### 3. 連続ピット列

**規模と形態 (第238図)** 調査区の西側標高15～17mで検出した。斜面を斜行してピットが直線的に連続するものであり、長さは10.3mである。ピットは径20～50cmのものであり、東端では溝状になる部分もある。

**堆積状況と出土遺物** ピット内の埋土は軟質な黄褐色粘質土であり、加工段2と重なる部分はその埋土からピットは穿たれているので、加工段2よりは後の遺構である。遺物の出土はない。

**遺構の性格と時期** 性格は道路遺構の可能性が考えられる。遺物の出土が無いことから時期は不明である。

### 4. 溝状遺構 (SD01)

**規模と形態 (第239図)** 調査区の南側の標高15.5m付近で検出した。規模は深さ0.21m、幅0.84m、長さ5.28mであり、西側は調査区外にも広がる。溝状遺構としているが、加工段である可能性も考えられる。

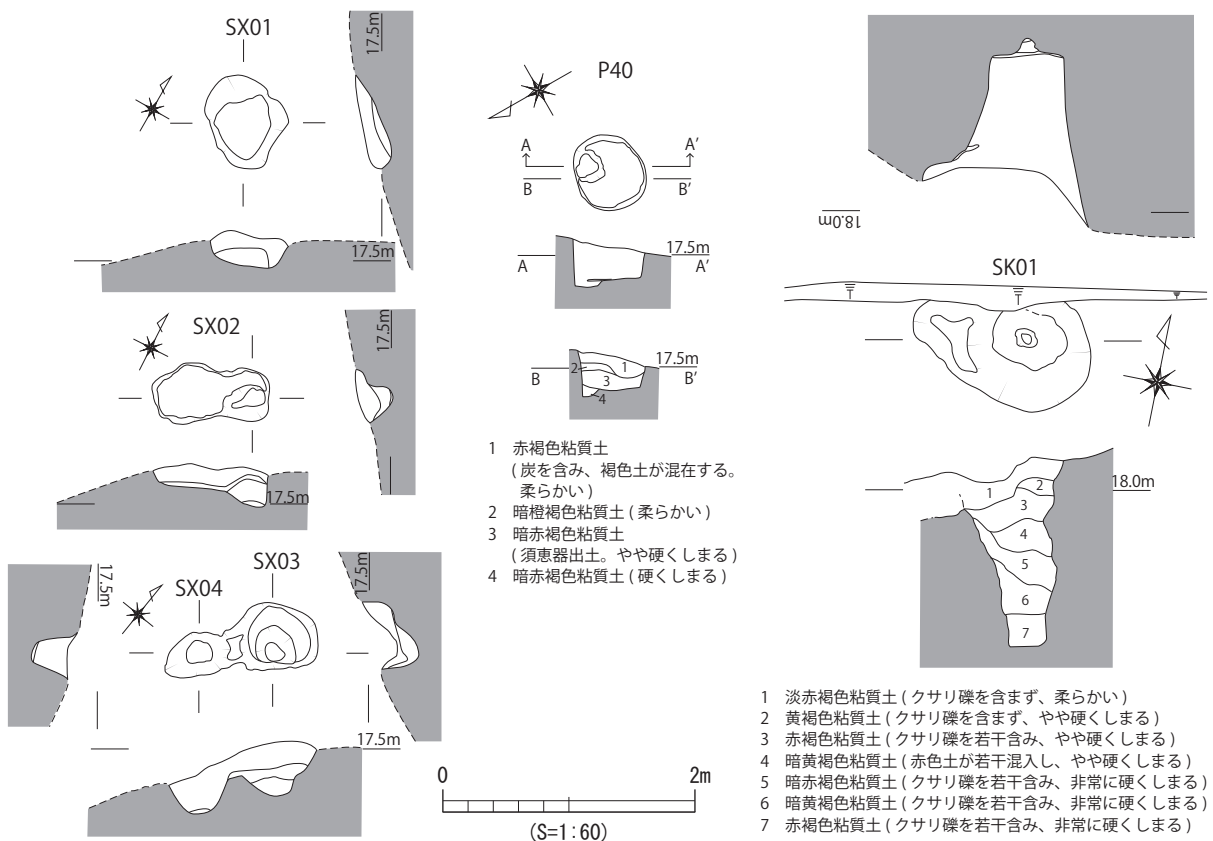
**堆積状況 (第239図)** 暗褐色土と赤褐色土が交互に堆積している状況である。

**遺構の性格と時期** 出土遺物が見られないことから性格、時期等不明である。

### 5. その他の遺構

#### (1) SX01 (第240図)

**規模と形態** 標高17.5m付近、加工段3の下方で検出している。不整形の浅いもので、長さ0.76m、幅0.6m、深さ0.24mである。



第240図 古屋敷Ⅱ遺跡 SK・SX・ピット遺構実測図(1/60)

**遺構の堆積状況** 埋土は暗黄褐色土が堆積している。遺物は出土していない。

**遺構の性格と時期** 遺物が出土していないことから性格・時期ともに不明である。

(2) SX02(第240図)

**規模と形態** 標高18m付近、SX01の西側で検出した。楕円形状の不整形なもので、長さ0.92m、幅0.46m、深さは0.3mであり、東端はさらに0.1mピット状に深くなる。

**堆積状況** 埋土は暗黄褐色土が堆積しており、遺物は出土していない。

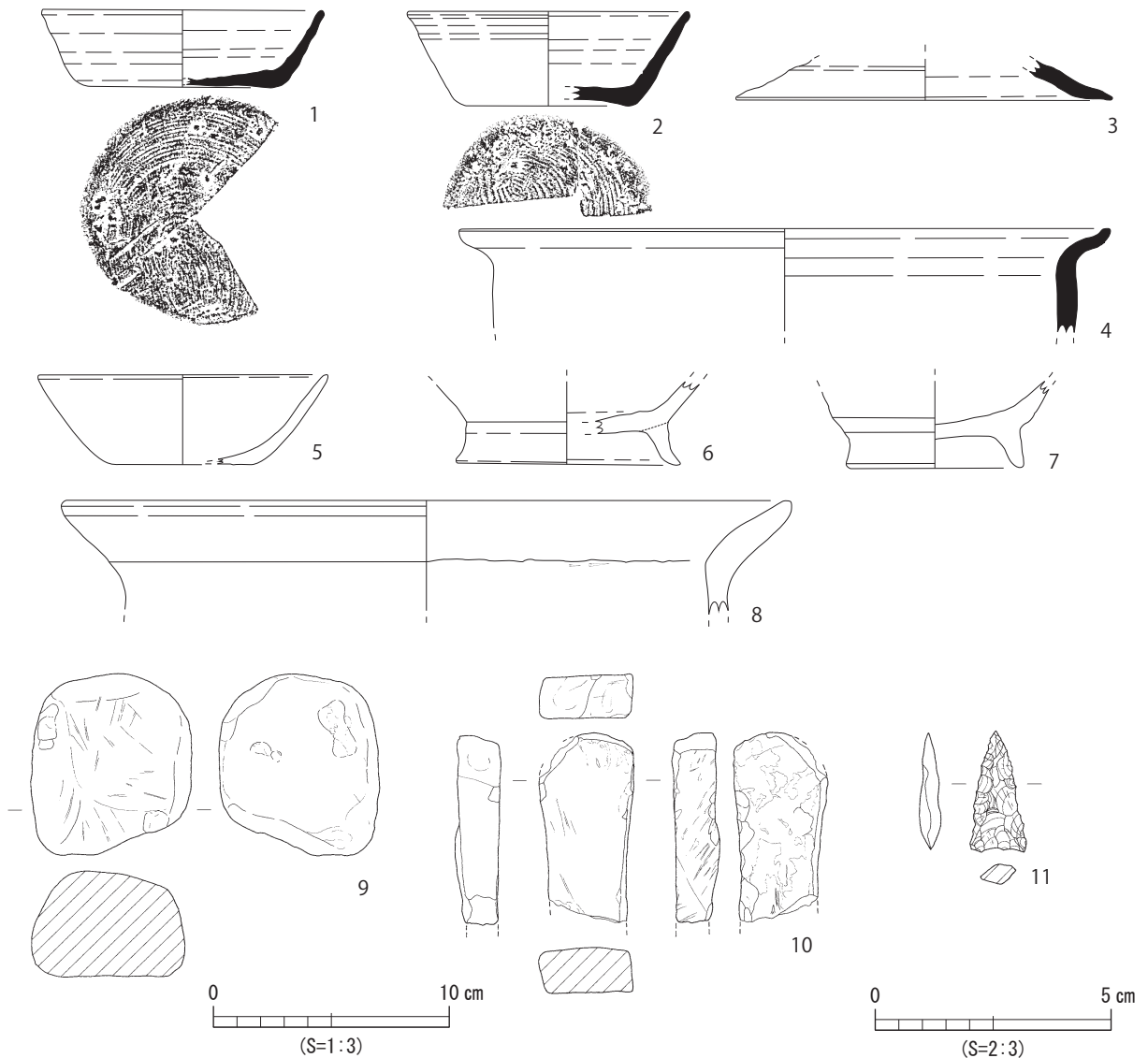
**遺構の性格と時期** 遺物が出土していないことから、性格・時期ともに不明である。

(3) SX03・SX04(第240図)

**規模と形態** 標高17.5m付近、SX02の下方で検出した。不整な円形の落ち込みが2基重なるように確認された。SX03は径0.6m程で深さは0.43mである。SX04は楕円形状の平面形で、長さ0.55m、幅0.34m、深さ0.36mである。

**堆積状況** 両遺構とも暗黄褐色土が堆積しており、遺物は出土していない。

**遺構の性格と時期** 遺物の出土が無いことから、性格・時期ともに不明である。



第241図 古屋敷Ⅱ遺跡 遺構外(表土・排土)採取遺物実測図(1/3・2/3)



(4) P 4 0 (第240図)

**規模と形態** 標高17.5 m付近、加工段3の下方で検出した。径0.6 mの円形の平面形を呈し、深さは0.37 mであり、北側でさらに一段0.1 m深く落ち込む。

**堆積状況** 地山に類似する赤褐色粘質土が堆積し、一部暗橙褐色粘質土が堆積している。遺物は出土していない。

**遺構の性格と時期** 遺物が出土していないことから性格・時期ともに不明である。

(5) S K 0 1 (第240図)

**規模と形態** 調査区の西側の標高18 m付近で検出している。上端は不整な楕円形状であり、長さ1.46 m、幅0.84 mを測り、東側が深く落ち込み、深さは1.03 mである。また底には径0.2 m、深さ0.12 mのピットが検出されている。

**堆積状況** 埋土は赤褐色粘質土と黄褐色粘質土が交互に堆積しているような状況である。遺物は出土していない。

**遺構の性格と時期** 遺物の出土がないことから時期は不明であるが、深い土坑であることや底にピットが存在することから、落とし穴である可能性が考えられる。

6. 遺構外出土遺物 (第241図)

第241図は遺構外の表土、又は排土中から採取した遺物である。1～4は須恵器、5～8は土師器、9～11は石器・石製品である。

**須恵器** 1・2は須恵器の無高台の坏である。1は器高が低く体部は外反し開く。2は器高が高く体部は外反して開く。3は蓋であり端部は細く尖り気味となり少しだけ下方に折れる。4は鉢の口縁部付近と考えられ、口縁端部は外折したのちに上方に立ち上がる。これらの須恵器は、遺構・土器溜まりから出土しているものと同様の時期と考えられ、平安時代、9世紀後半頃のものとして推測される。

**土師器** 5は無高台の坏であり、表面が摩耗しているが口縁部は外反し開くものである。6・7は高台付の坏であり高台は底部外周部に貼り付けられ外側に若干開く。8は甕であり口縁部は短く若干内湾気味に外折して端部は若干上方に少しだけ折れる。

**石器・石製品** 9は方形を呈す磨石であり2面に平滑な面が見られ使用面と考えられる。10は板状の砥石であり各面で研磨痕が見られる。11は石鏃である。

## 第5章 総括

今回の西川津遺跡(鶴場地区)の調査では、弥生時代前期を中心とした各時代の遺構や遺物が確認された。特に、これまでの調査では確認されていない環壕の可能性も考えられる大型の溝が検出され、拠点集落としての西川津遺跡の実態を明らかとする手がかりが得られる重要なものであった。

古屋敷Ⅱ遺跡の調査では、平安時代の集落を確認し、時期的にまとまりのある須恵器・土師器が出土した。この時期の集落の発掘調査は少ないことから、出土した須恵器・土師器の編年的な位置付けも含めて重要な資料となるものと考えられる。

以上の重要な成果に基づいて、西川津遺跡(鶴場地区)の時期的な様相と古屋敷Ⅱ遺跡の出土遺物について若干の検討を行い総括としたい。

### 第1節 西川津遺跡(鶴場地区)

#### 1. 検出遺構の概要

今回の調査において検出した遺構については、表6にまとめている。これらの遺構のうちで出土遺物が多く、重要な資料と考えられるのは大溝であり、弥生時代前期のものにはSD10、SX01、SD15、SD13、SD06があり、小型の溝としてSD06がある。これらの遺構から出土した遺物の中で、注目されるものには木製壺形容器(SD10)・土笛・トチノミ(SD10)、炭化米(SD13・SX01)、窓枠状木製品(SD15)等がある。

後期の大型の溝はSD07が検出されており、J字形ガラス勾玉や大径材のスギ材を使用した組合せ箱形容器が出土した。

弥生時代の自然河道であるSD09からは、弥生時代前期～後期頃までの遺物が出土した。なかでも弥生時代前期の未製品を含む木製品、漆液容器・ウルシ原木といった漆関連遺物等が注目される。

弥生時代における溝以外の遺構としては、土坑やピットを検出した。B1区ではピットが集中している箇所があり、弥生時代前期と後期の掘立柱建物を数棟確認できた。

古墳時代以降の様相については明確な遺構が確認されず不明な状況である。B1区の東側で確認された河道(朝酌川の旧河道と推測)から出土した遺物により河川流域の断片的な様相が知られるのみであった。河道は堆積した砂礫層の出土遺物から大きく3時期の河道に分けられ、河道4(4B)は古墳時代～古代、河道1は中世～近世、河道2は近世と推測される。

#### 2. 出土遺物の概要

鶴場地区の調査で出土した遺物のうちで土器・陶磁器類については、その全容を把握して、今後の遺跡間の比較検討に資するため、その総量を調べまとめた。

##### (1) 縄文土器(第242・243図・表3)

縄文土器のほとんどは、古代～中近世の朝酌川の旧河道である河道1・2・4(4B)の砂礫層から出土しており、それ以外では、弥生時代前期の大溝や自然河道(SD09)から出土し、また縄文時代の海退期に形成された微高地をなす砂礫層や腐植土層中からも若干ではあるが出土している。

型式が判別できる縄文土器<sup>註1</sup>の出土量を対象にしてみると、前期の西川津式が多く、その次に晩期の突帯文土器が多くみられ、五明田式、中津式も若干みられる。その他の型式のものはほとんど出土していない。時期ごとにみると後期～晩期の粗製土器が多いことから、その時期の出土量が多くなる。それ以外では前期が多くみられ、中期はほとんど出土していないことが指摘される。

このことから今回の調査区周辺では、前期にやや認められた人間活動が中期には一時停滞し、後期～晩期に最も活発するものと推測される。

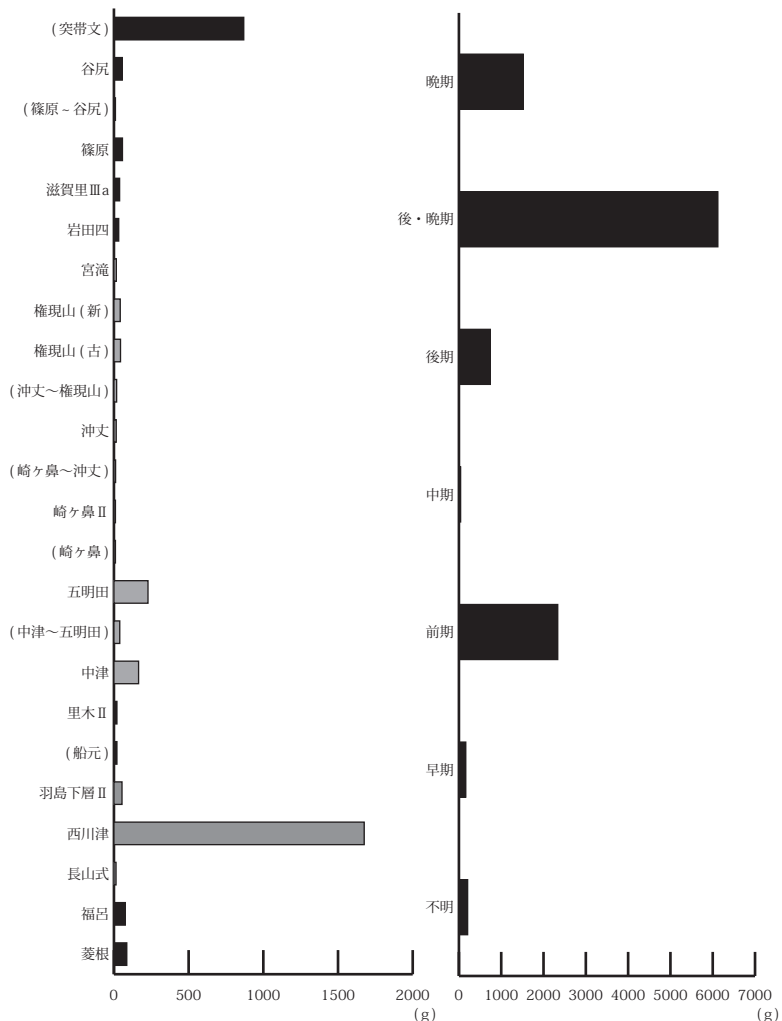
(2) 弥生土器・土師器(第244図・245図・表21)

弥生土器・土師器については、第244図・245図で各遺構又は層位ごとに全体の出土量を比較している。全体でみるとI様式(前期)の土器の出土量が圧倒的に多いことが指摘される(第245図⑩)。これは、今回の調査区では弥生時代前期の遺構(第244図①～⑥)を中心に検出したこと

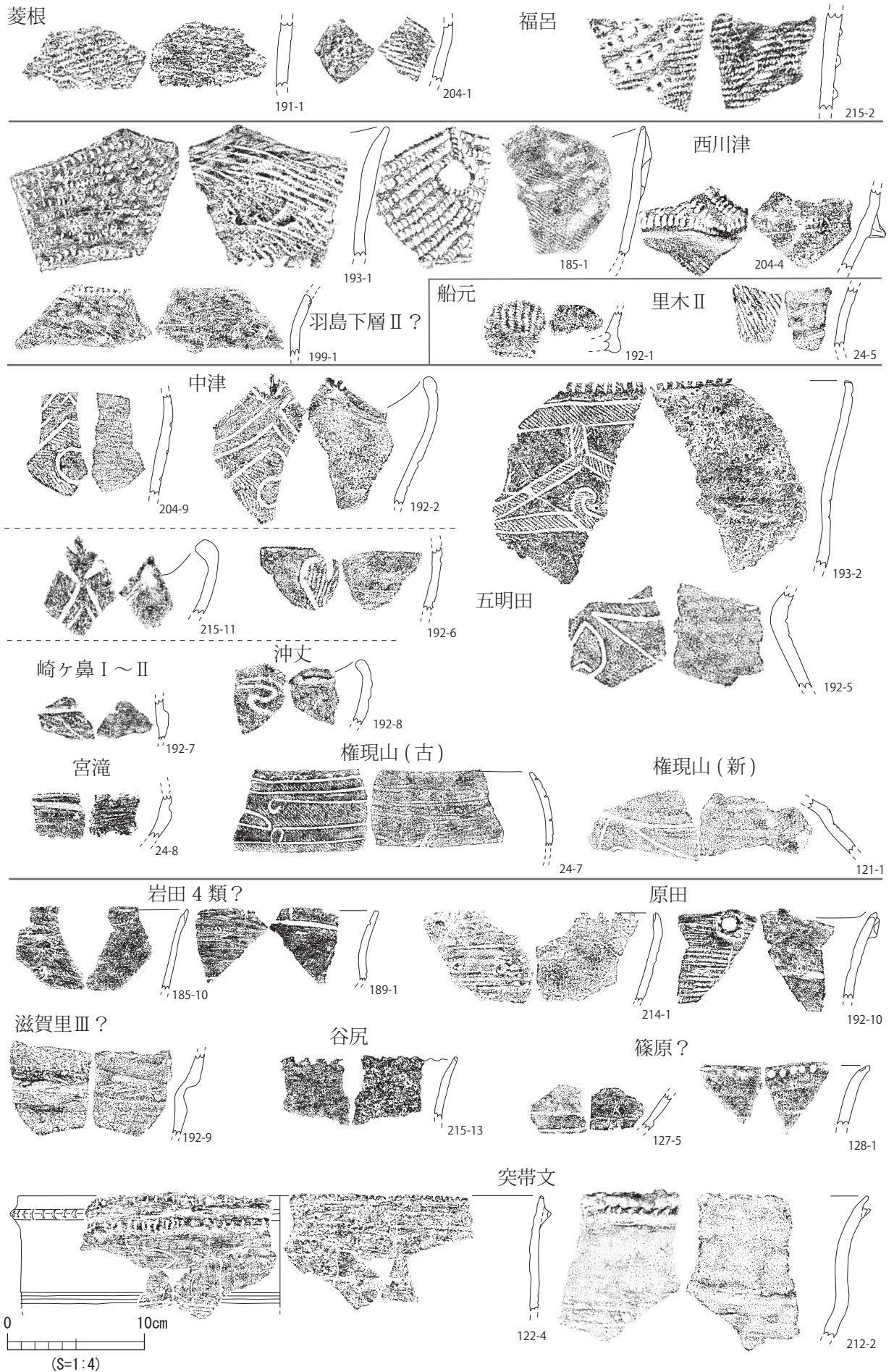
註1 縄文土器の分類検討は柳浦俊一氏に負うところが多い。

表3 西川津遺跡(鶴場地区)出土縄文土器総括表

時期	型式	破片数	重量(g)
晩期	(突帯文)	21	869
晩期	谷尻	2	56
晩期	(篠原～谷尻)	1	10
晩期	篠原	3	57
晩期	滋賀里Ⅲa	1	38
晩期	岩田四	2	32
晩期	不明	8	458
	計	38	1520
後・晩期	不明	280	6121
後期	宮滝	1	16
後期	権現山(新)	1	42
後期	権現山(古)	1	44
後期	(沖丈～権現山)	1	18
後期	沖丈	1	15
後期	(崎ヶ鼻Ⅱ～沖丈)	1	11
後期	崎ヶ鼻Ⅱ	1	10
後期	(崎ヶ鼻)	1	10
後期	五明田	3	228
後期	(中津～五明田)	2	39
後期	中津	6	165
後期	不明	4	143
	計	23	741
中期	里木Ⅱ	1	20
中期	(船元)	1	20
	計	2	40
前期	羽島下層Ⅱ	2	54
前期	西川津	41	1675
前期	長山式	1	14
前期	不明	22	593
	計	66	2336
早期	福呂	1	76
早期	菱根	2	86
	計	3	162
不明		8	206
	合計	420	11126



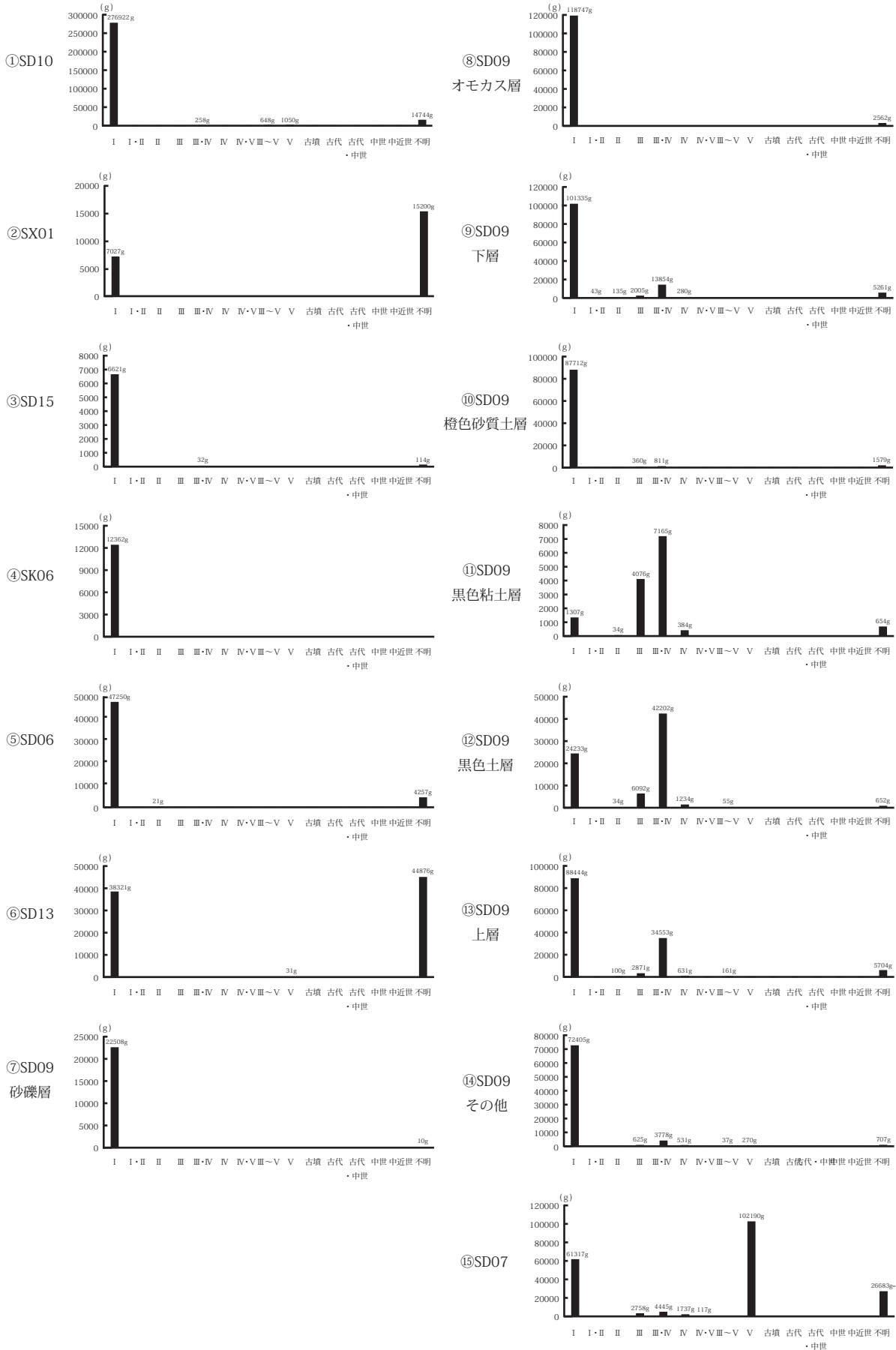
第242図 西川津遺跡(鶴場地区)出土縄文土器の出土量グラフ



第243図 西川津遺跡(鶴場地区)出土縄文土器総括図(1/4)



第5章 総括



第244図 西川津遺跡(鶴場地区)出土弥生土器・土師器の出土量グラフ(1)



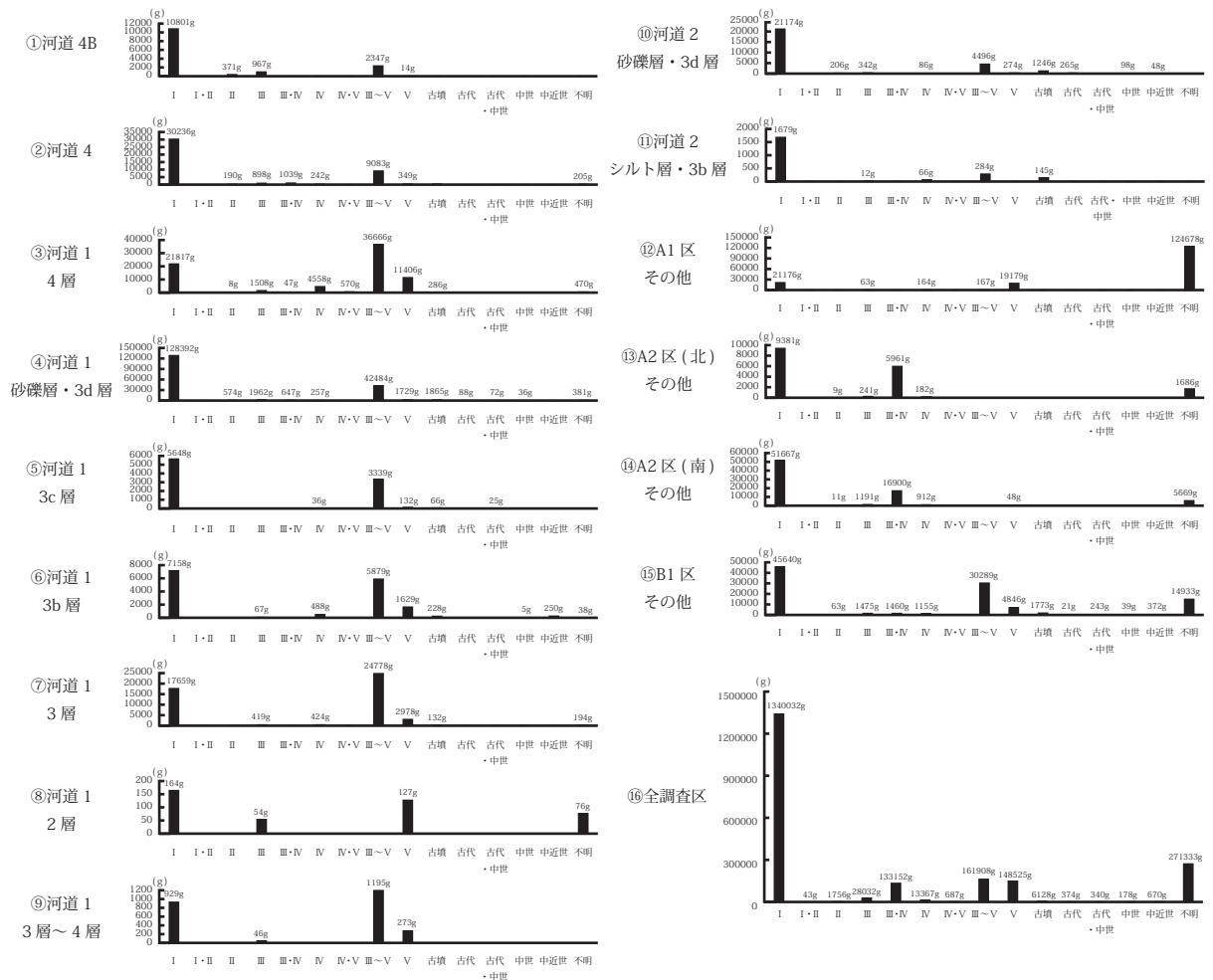
から当然ではあるが、古代以降の河道のグラフ(第245図①~⑩)からも分かるように新しい時期の遺構でも、一定量のI様式の土器の出土量がみられる。このことから今回の調査区は弥生時代前期を中心とした活動域であったことは間違いなく指摘されよう。また弥生時代に限ればⅢ~Ⅴ様式はある程度の出土量がみられるが、Ⅱ様式は非常に少ない点が注目される。

弥生時代前期の自然河道(SD09)は、砂礫層-オモカス(腐植粘質土)層-下層-(橙色砂質土層)-黒色粘土層-黒色土層-上層の順に堆積しており、弥生時代の時期幅の中で水域から陸地化する変遷がたどられる。第244図⑦~⑬をみて分かるように、砂礫層とオモカス層はI様式のみ、下層と橙色砂質土層はI様式中心でⅢ~Ⅳ様式がわずかにみられ、黒色粘土層~上層ではⅢ~Ⅳ様式の割合が増える。このことから弥生時代前期には水域(砂礫層)から湿地(オモカス層)に変化し、中期にかけて陸地化し、Ⅳ様式(あるいはⅤ様式)には河道が完全に埋没していた可能性が指摘される。

(3) 須恵器(第246図・表22)

須恵器のほとんどはB1区の河道跡(朝酌川の旧河道)から出土していることから、第246図は河道とその層位ごとに提示し(第246図①~⑦)、それ以外から出土したものは一括した。(第246図⑧)

なお、古墳中期としたものは大谷晃二氏の編年(大谷1994)の出雲1期~2期、古墳後期は出



第245図 西川津遺跡(鶴場地区)出土弥生土器・土師器の出土量グラフ(2)

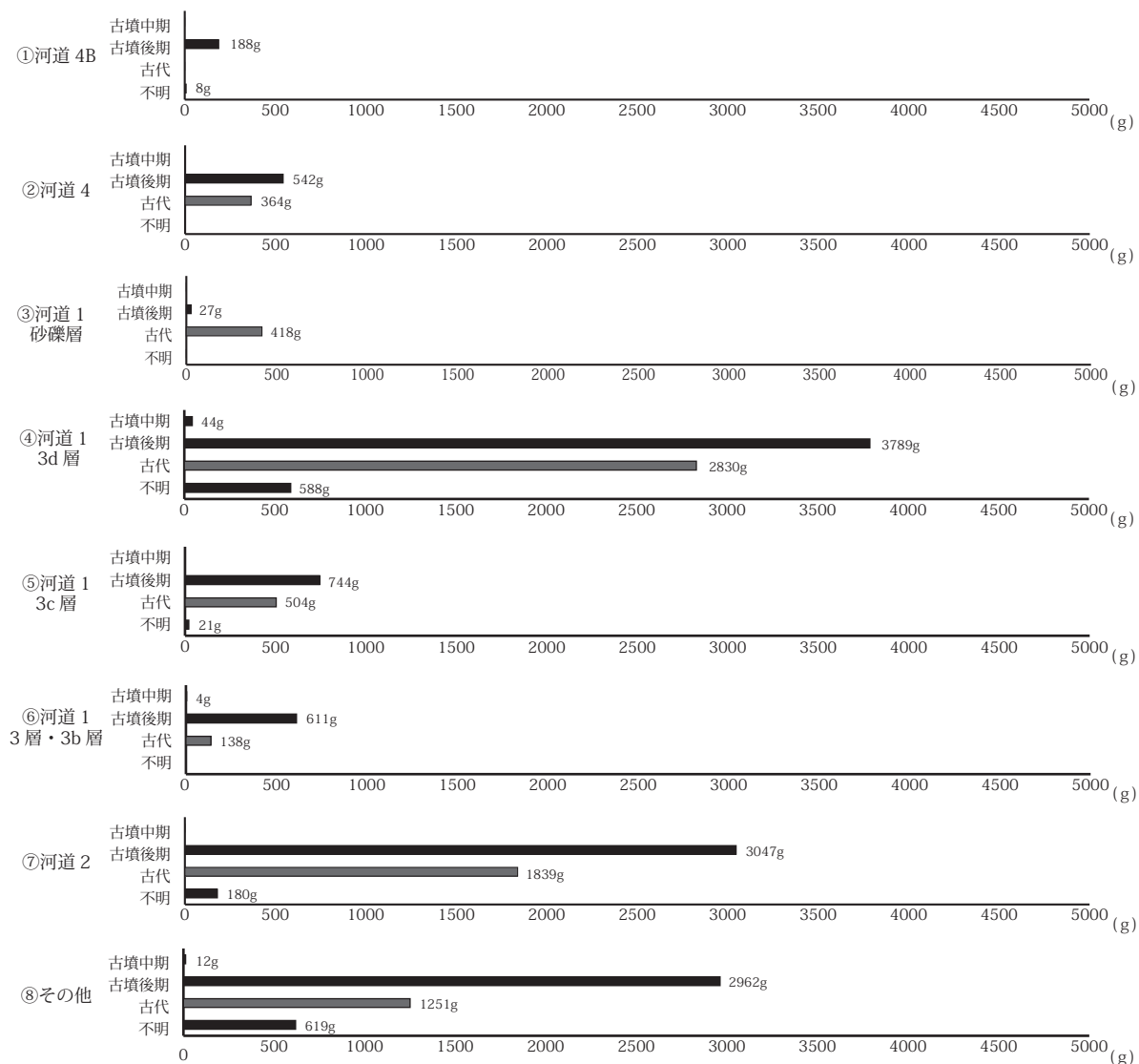
雲3期～6期A、古代は輪状つまみの蓋と坏が出現する時期以降の概ね出雲6期B以降とした。

河道4及び4B(第246図①・②)については、後述のように陶磁器類の出土がみられないことから、この須恵器の出土時期を目安に時期を決定しており、両者とも出土量は少ないが、河道4B(砂礫層)からは古墳時代後期までの須恵器しかみられない。一方で河道4には古代の須恵器もみられる。このことから、河道4及び4Bは古代までの朝酌川の旧河道であると推測される。

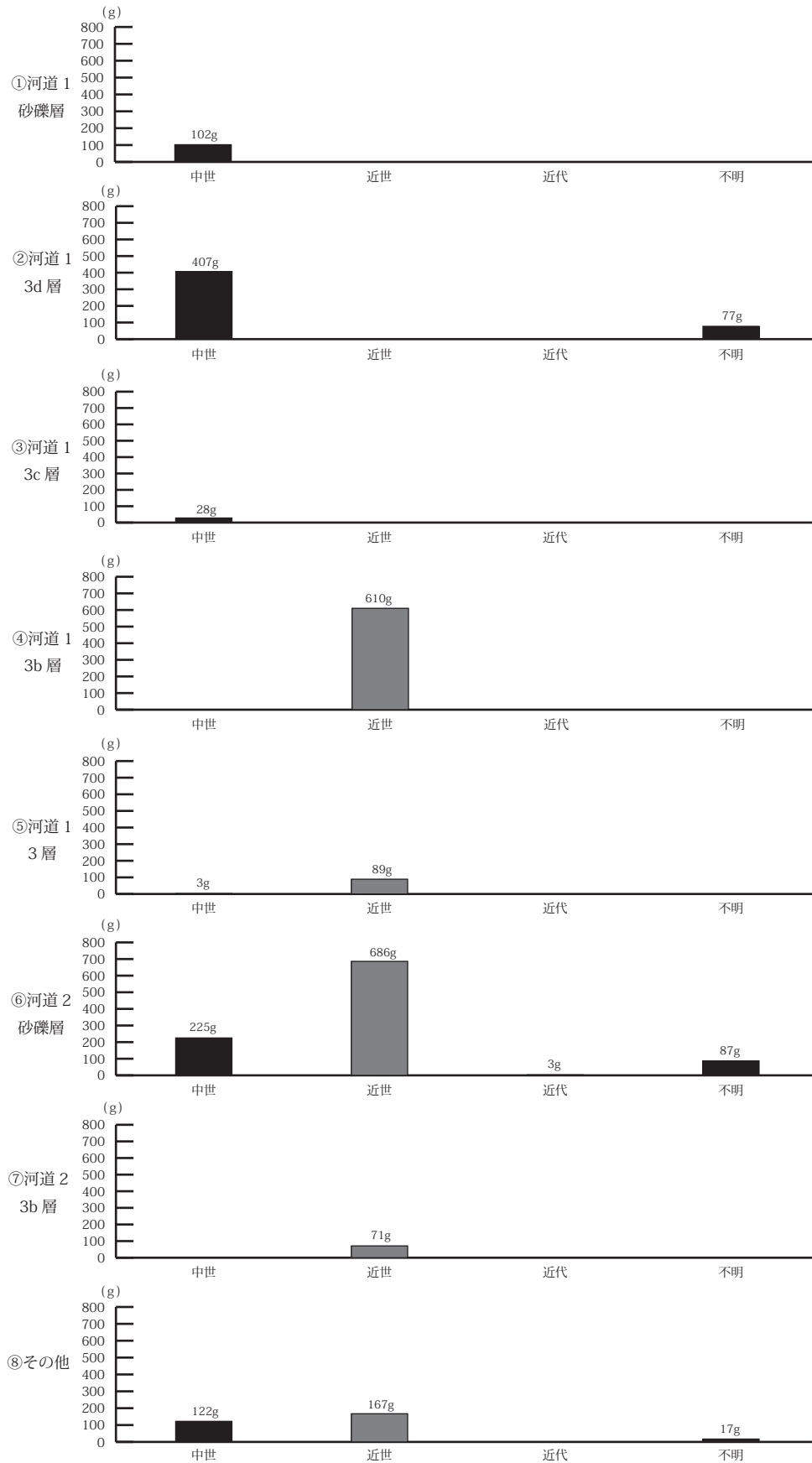
河道1では最下部の砂礫層である3d層とその上部の3c層・3b層・3層では出土量が大きく異なる。これは3b層・3層がシルト層であり、土器類が堆積物として運ばれるような環境では無かったことが原因と考えられ、河川の堆積作用を大きく受けていない状況を物語るものと推測される。

河道2では河道1と同じように多くの須恵器が砂礫層から出土しており、これも河川の活発な堆積作用によるものと考えられる。

以上のように須恵器からみた古墳時代中期～後期の様相は、河道の堆積層から垣間見れるのみであり、調査区周辺の状況を反映していると考えより、より上流域の様相を反映しているものと考えた方が良いのかもしれない。



第246図 西川津遺跡(鶴場地区)出土須恵器の出土量グラフ



第 247 図 西川津遺跡 (鶴場地区) 出土陶磁器の出土量グラフ

#### (4) 陶磁器類 (第247図・表23)

陶磁器類のほとんどは河道1及び河道2から出土している。それ以外のは各調査区の近代以降の層位から出土した。そのほぼ全てが近代以降の時期であることから、今回は検討対象からは外している。

第247図を見ると中世のものだけが出土する河道・層位と近世のものも含む河道・層位に分けられ、遺構の切り合い関係及び層位の状況と齟齬がないことが分かる。

河道1の出土内容(第247図①～⑤)をみると、最下部の層である砂礫層及び3d層(砂礫層)、その上部の砂礫層(3c層)からは中世のものだけが出土している。そしてシルト層である3b・3層は中世のものは僅かで近世のもの中心に出土している。このことから河道1は、中世には砂礫が堆積するような河川堆積が活発であったが、中世には河川堆積が停滞するような状態であったと考えられる。

河道2の出土内容(第247図⑥・⑦)をみると、最下部の砂礫層からは中世～近代の陶磁器が出土しているが、近世のものが圧倒的に多い。そしてシルト層である3b層からも近世のもののみが少量みられる。土層断面観察も確実に河道2は河道1より後世の河道であることが読みとれ、出土陶磁器の様相とも齟齬は生じない。河道2は近世を中心とする時期のものであり、近代初頭には河川堆積が停滞し、シルト層が堆積したものと考えられる。

### 3. 弥生時代前期の土器の検討

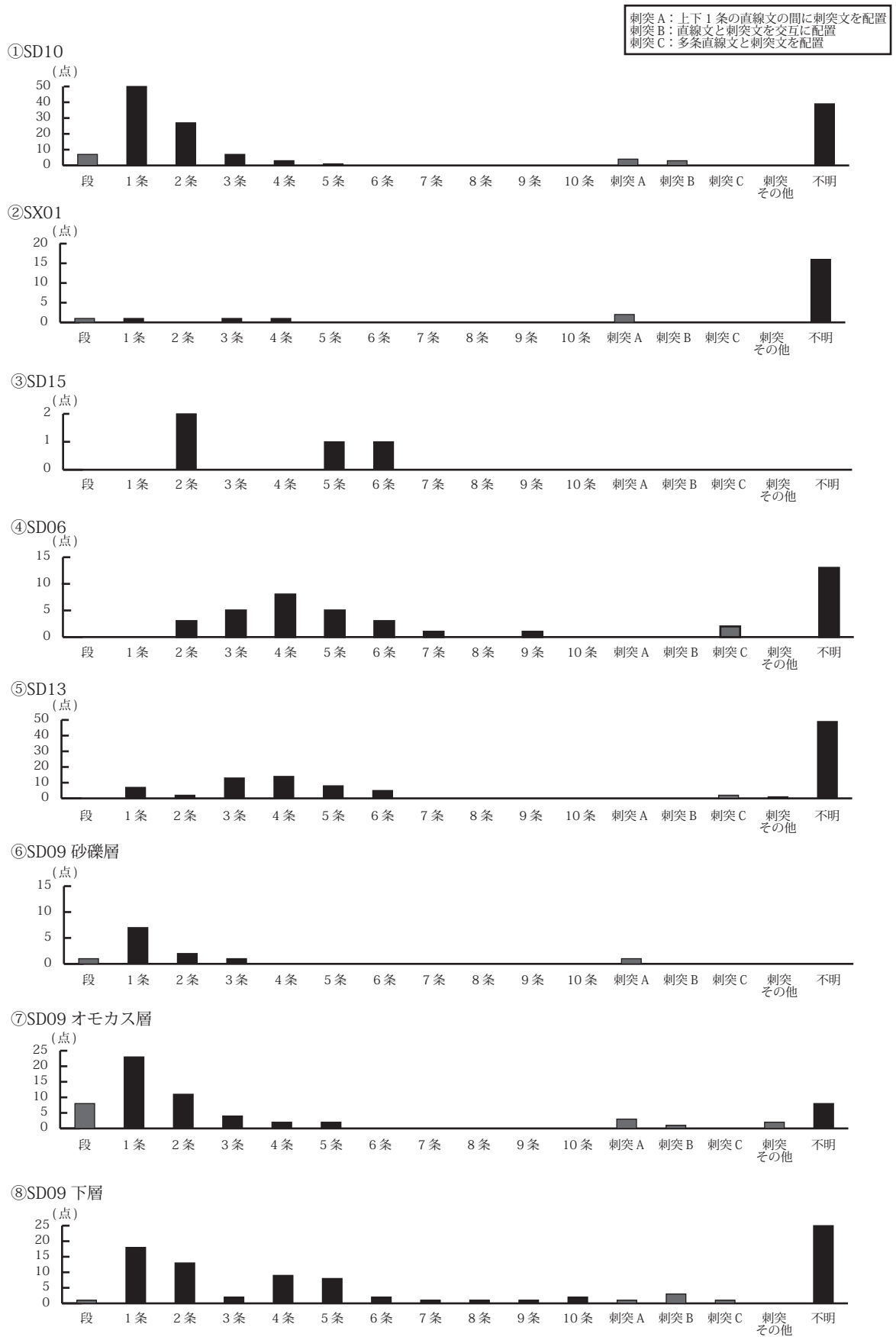
鶴場地区の調査で出土している遺物のほとんどを占める前期の弥生土器について、大溝出土のものを中心にその時期的な位置付け等を検討し、その上で各遺構の変遷等を考えることとしたい。

#### (1) 甕形土器の検討(第248図・249図、表24)

まず甕形土器(以下「甕」と記述する)について、その口縁部の形態と文様、頸部の文様について検討を行うこととする。甕については、頸部の段や施された直線文の条数が編年の指標となることが言われており(松本1992、中川寧2001、出雲市教育委員会2010など)、有効な属性であると判断されることから、ここでも頸部の段や文様を最初に検討したい。

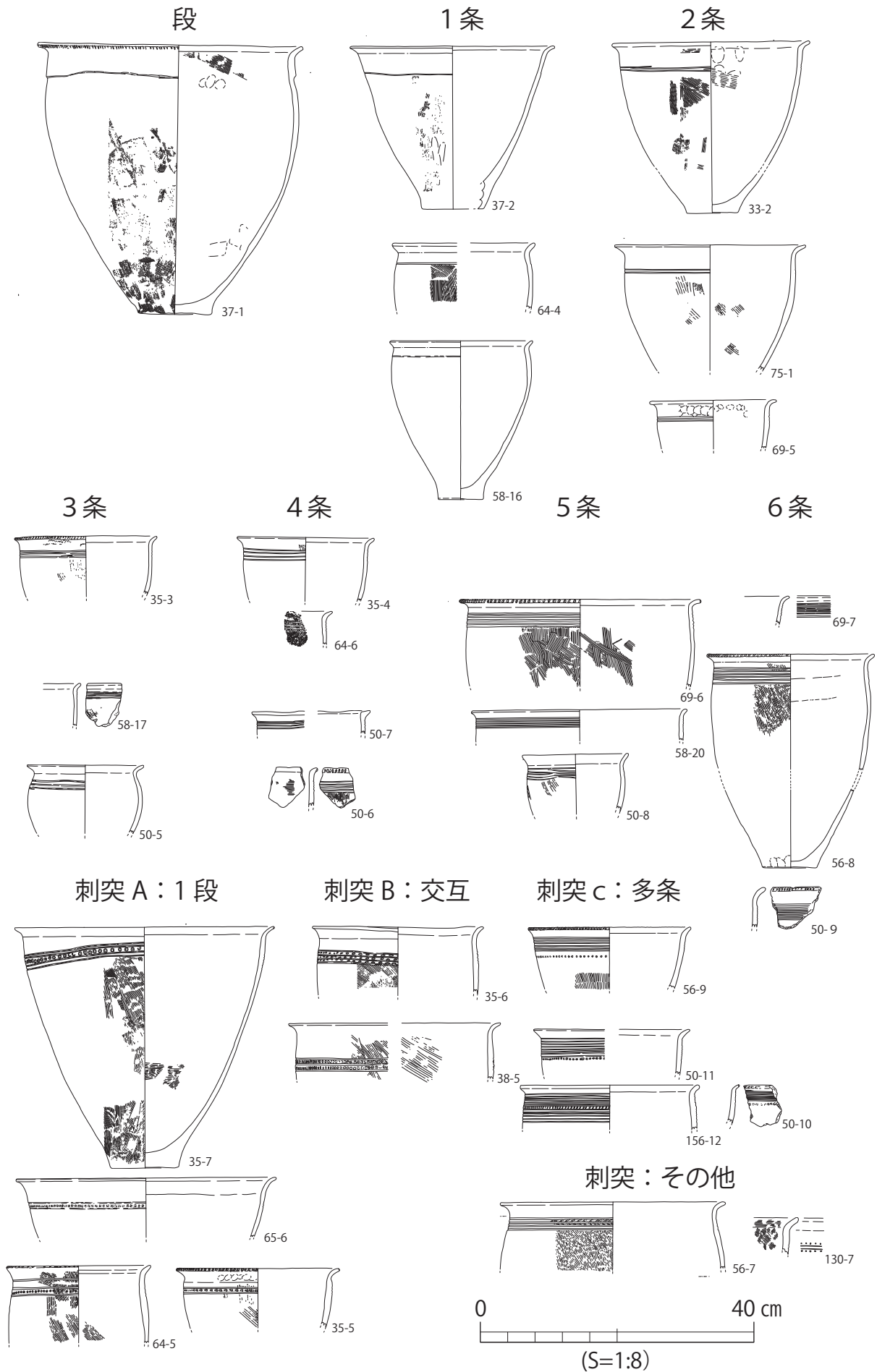
第248図のグラフは弥生時代前期の大溝出土の甕のうち文様がみられ、口縁端部が残っているものについて破片点数をカウントしたものである。また刺突文が組み合わさるものについては、細かく種類が分かれることから、大きくA～Cに3分類してカウントした。刺突Aは上下1条(例外として2条のものが一点ある)の直線文の間に1列の刺突文が組み合わさるもの、刺突Bは直線文と刺突文が交互に組み合わさるもの、刺突Cは多条の直線文に刺突文が組み合わさるものとした。また刺突その他とした2点は部分的に羽状文になるもの(56-7)や2条の直線文の上下に刺突があるもの(130-7)である。

なお、刺突Aには円形の竹管状のものとヘラ状又は棒状のもので刺突した両者が半々程度みられる。刺突Bとしたものは3条2列のものと4条3列のものがみられ、刺突文は3条2列のものは円形の竹管状のものとヘラ状工具の刺突の両者が、4条3列のものはヘラ状工具の刺突のみが確認された。一方で刺突Cは5～8条の直線文と一列の刺突文が組み合わさり、基本的に円形の刺突文に限られるが、上下7条の直線文に挟まれた一列の刺突文がみられるもの(156-12)のみがヘラ状工具による刺突文である。



第248図 西川津遺跡(鶴場地区) 大溝出土 弥生土器 甕文様検討図





第 249 図 西川津遺跡 (鶴場地区) 大溝出土弥生土器 甕 総括図

第248図をみると、出土する甕の様相が大きく2つに分かれることが確認される。それは、直線文が1~2条のものが中心で刺突文A・Bがみられる遺構・層位と、直線文が3~5条を中心にみられ、刺突文Cがみられる遺構・層位である。またSD09では層位的に下位である層(砂礫層・オモカス層)が前者で、上位にある層(下層)が後者にあたる。このことから前期の遺構は大きく新古の2つに分類される可能性が高いものと思われる。甕の検討を踏まえてひとまずまとめると次のように考えられるが、SD15(第248図③)は出土点数が少なく判断が困難であるため、他の器種の検討を踏まえた後に位置づけを検討したい。またSD09下層は中期の遺物も若干出土しているので参考程度にしておく。

① 古い様相の遺構：SD10、SX01、SD09(砂礫層)、SD09(オモカス層)

② 新しい様相の遺構：SD06、SD13、(SD09下層)

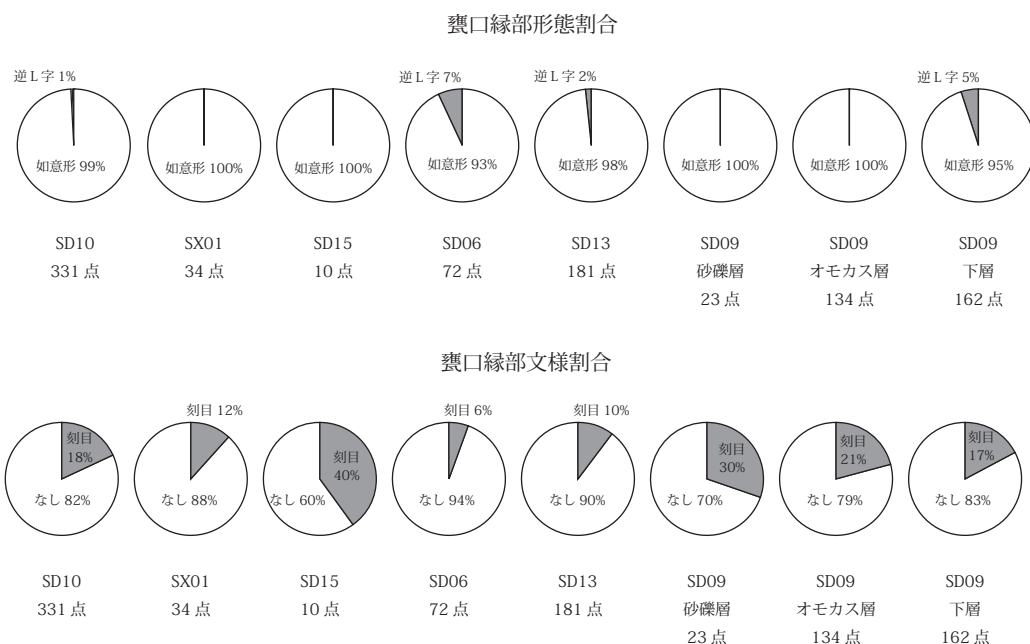
甕の口縁部形態と刻み目の様相をまとめたものが第250図である。前述の文様からの検討を踏まえてみると、新しい様相と想定した遺構では貼り付けた逆L字口縁がみられ、古い様相とした遺構ではSD10で1%あるが基本的にみられない。口縁端部の刻み目は新しい様相のものほど割合が少ない傾向がみてとれる。ただし、いずれの様相のものも刻み目が少ない特徴があり、これは遺跡の特徴もしくは山陰地方の特徴である可能性がある。<sup>註2</sup>

(2) 壺形土器の検討(第251図)

壺形土器(以下「壺」と記述する)については、口縁端部の文様、口頸部界の段・文様、頸胴部界の段・文様、胴部の文様等について検討が必要であるが、今回は詳細な検討を行っていない。ただし、全体が判明しているものは図化し掲載していることから、それらに基づいて検討したい。各遺構から出土している壺で主なものをまとめたものが第251図である。

この図からもある程度の傾向は把握することができ、新しい様相の遺構としたものからは、口頸部界及び頸胴部界に段を施すものはみられない。また口頸部界の直線文が多条なもの(56-1、

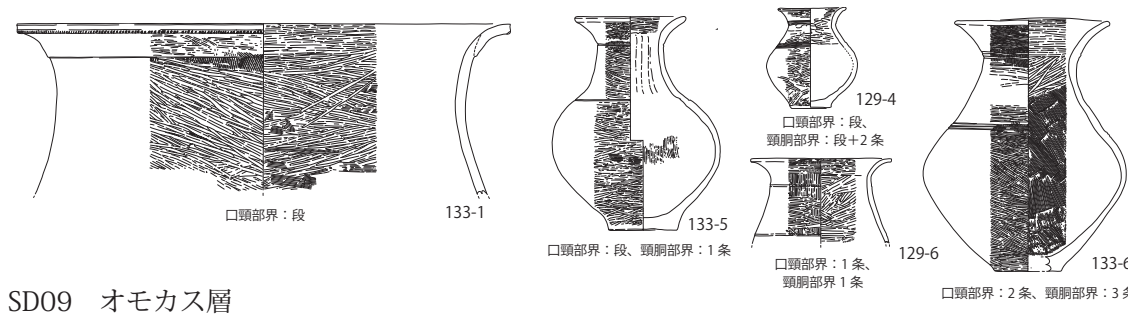
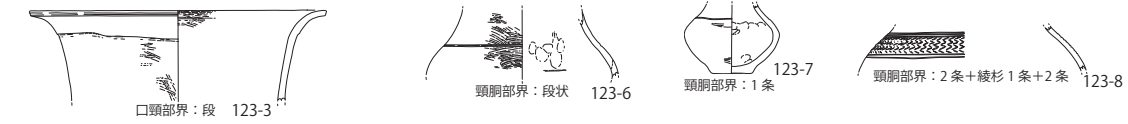
註2 京都市雲宮遺跡((財)京都府埋蔵文化財調査研究センター1997)では刻みがないものの比率が10%未満であり、西川津遺跡の様相と大きく異なる。



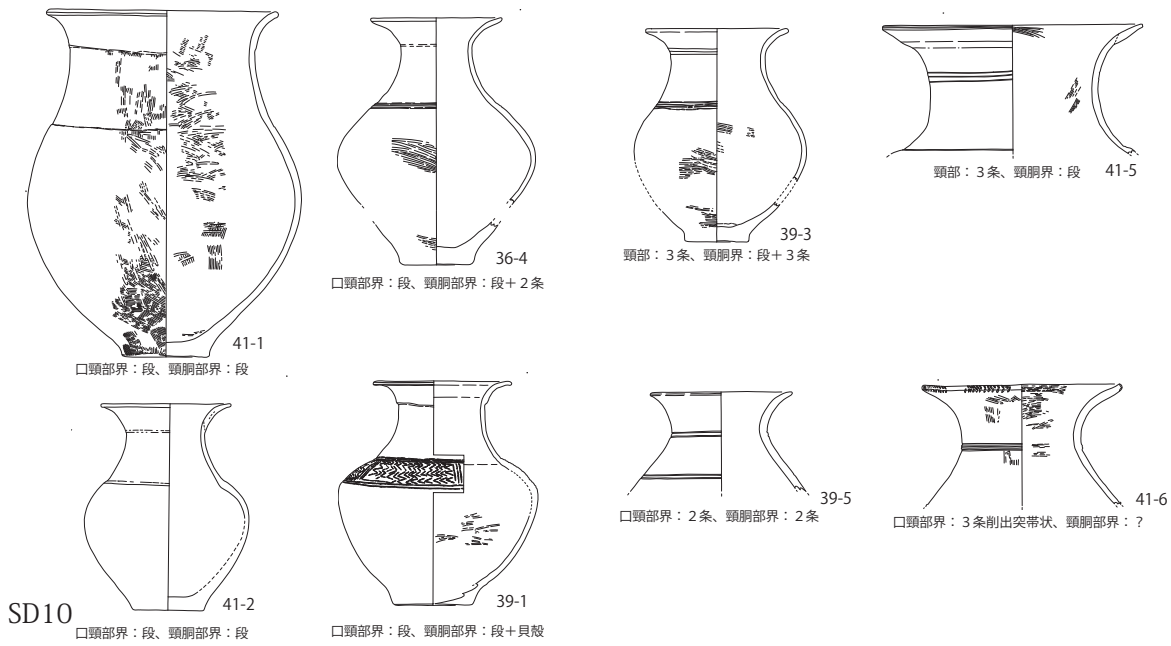
第250図 西川津遺跡(鶴場地区) 大溝出土弥生土器 甕口縁形態・刻目検討図

第5章 総括

SD09 砂礫層

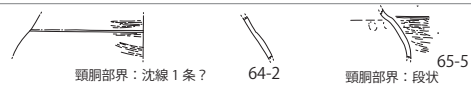


SD09 オモカス層

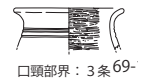


SD10

SX01

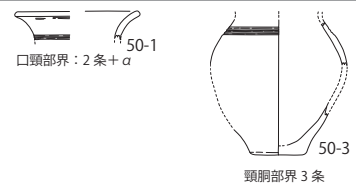
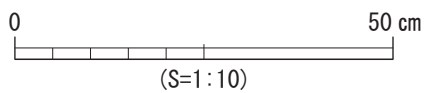


SD15

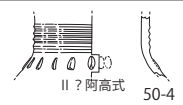
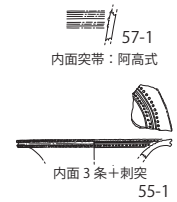
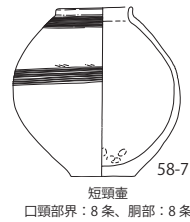
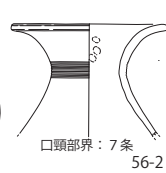
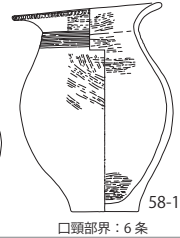
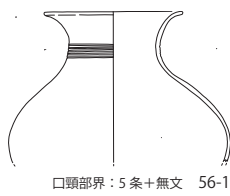
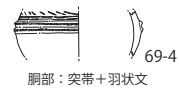
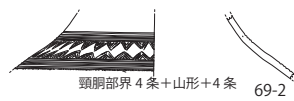
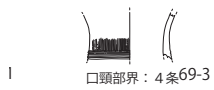
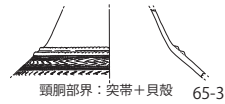
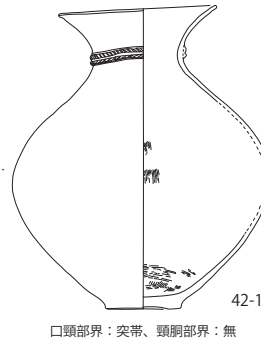
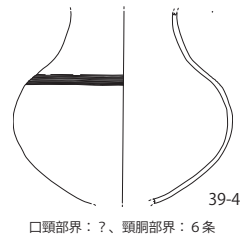
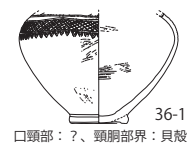
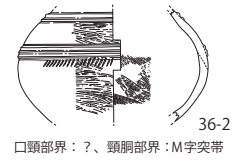
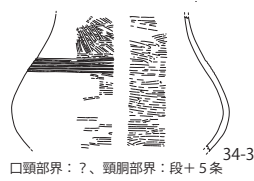
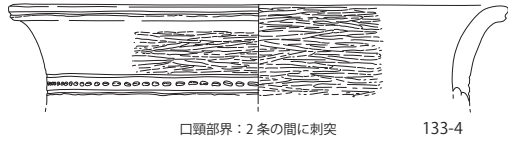
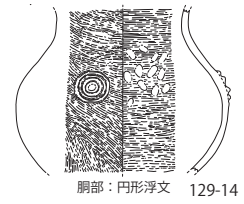
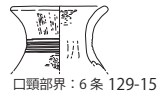
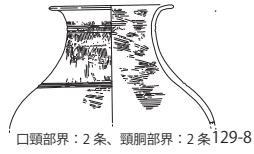
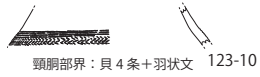


SD13

SD06



第251図 西川津遺跡(鶴場地区) 大溝弥生土器 壺 総括図



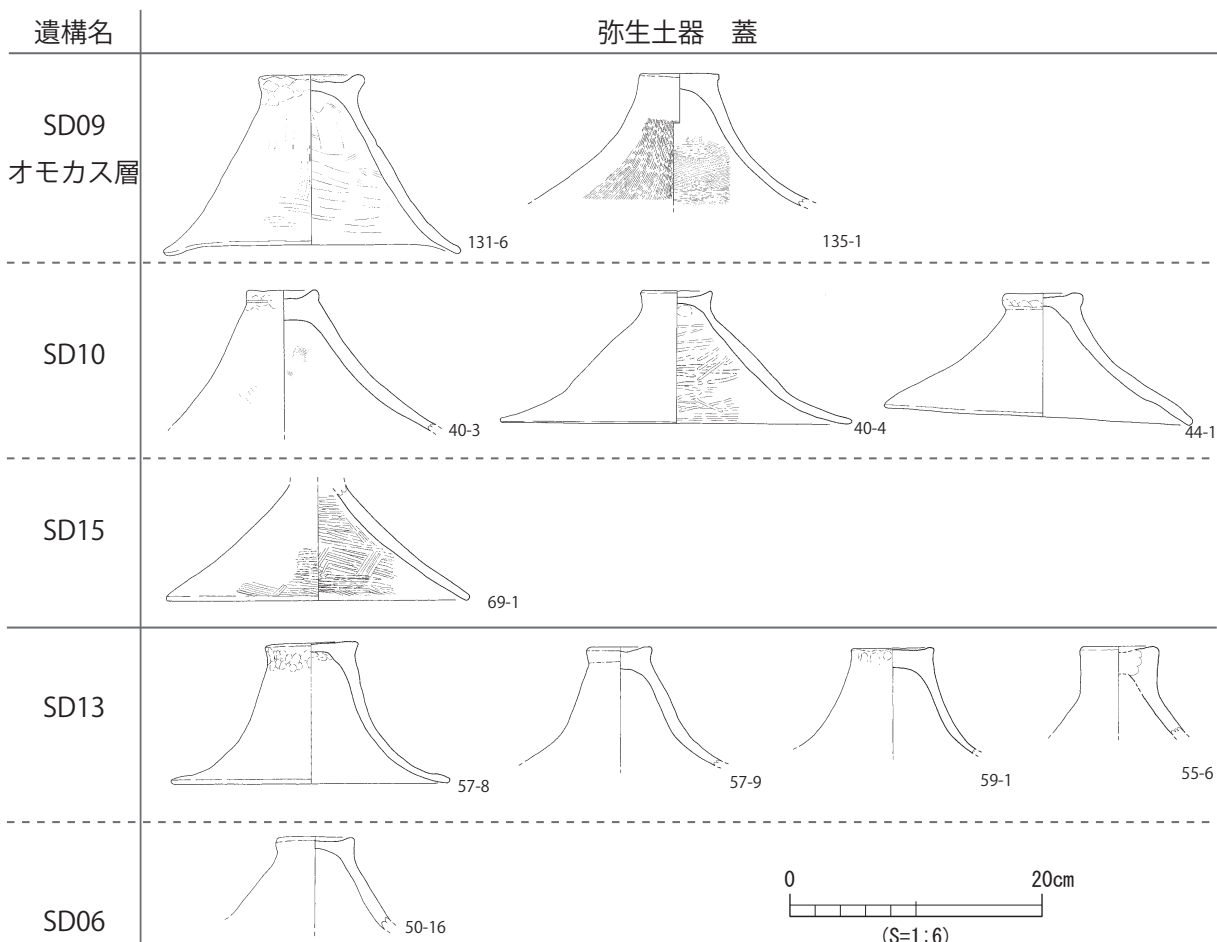
58-1、56-2)が多くあり5条以上は施されているといえる。頸胴部界の直線文は、様相が分かる個体が少ないが3条の直線文が施されたもの(50-3)がみられる。また8条の直線文が施される短頸壺(58-7)が存在する。さらに口縁部内面に直線文や刺突が施されたもの(55-1)や阿高式の影響がみられるもの(57-1、50-4)がみられるのが特徴的である。

古い様相の遺構としたものから出土している壺は多種多様なものがあるが、口頸部界に段が施されるもの(123-3、133-1等)や、頸胴部界に段がみられるもの(41-1、41-2)があることが新しい様相の遺構出土の壺と異なる点である。また、口頸部に直線文があるものは、大半が3条以内におさまり、4条以上のものは少ない点が挙げられる。

以上のように、古い様相とした遺構と新しい様相とした遺構は壺の文様等の検討からも時期的に異なっている可能性が考えられる。

### (3) 蓋形土器の検討(第252図)

蓋形土器(以下「蓋」と記述する)は出土量が少なく完形に復元できたものも少ないが、その中からある程度形状が分かるものをまとめたものが第252図である。古い様相の遺構としたものでは、天井部が浅く凹み器高が低く、裾部に向かって広がるもの(40-4、44-1)や、器高が高く裾部に向かって直線的に広がるもの(131-6)がみられる。これらは、出雲市矢野遺跡の報告(出雲市2010)で検討されている内容を参考とすると後者(131-6)が古く、前者(40-4、44-1)が新しい傾向と考えられ、時期的に細分できる可能性が高いが検討材料が少ないのでその可能性を指摘するに留める。一方で新しい様相とした遺構出土の蓋は、器高が高く天井部は若干凹み、天井部付近は筒



第252図 西川津遺跡(鶴場地区) 大溝出土弥生土器蓋 総括図



状になり裾付近で広がる特徴のもの(57-8、57-9、55-6)が多いという傾向がみてとれる。

(4) その他の器種の検討(第253図)

これまで述べてきた器種以外をまとめたものが、第253図である。出土点数が少ないことから検討が難しいが、新しい様相の遺構(SD13)ではコップ形の小形鉢がみられない点を指摘しておく。

(5) 前期の弥生土器の古相と新相(第254図)

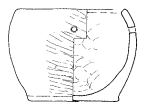

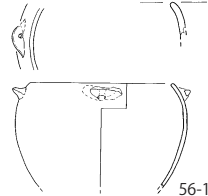
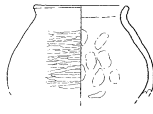
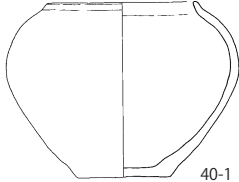
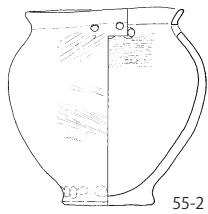

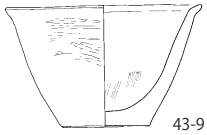
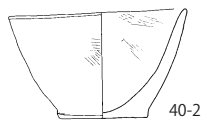
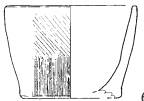
弥生土器の各器種についてこれまで若干の検討を加えた結果、前期とした遺構は2つの時期に分かれるものと考えられた。出土土器と各遺構を整理すると第254図となる。

弥生時代前期古相とした遺構は、SD10・SX01が挙げられ、小型の溝であるSK06もここに含まれると推測される。またSD15についてもひとまずここに含めておく。自然河道(SD09)の下部である堆積層の砂礫層・オモカス層もほぼこの弥生時代前期古相に含まれる。中心的な出土土器の特徴は、壺では口頸部界及び頸胴部界に段や3条以内の直線文が施され、甕は段や1~2条の直線文が施される。また蓋の形態は器高が高く直線的に広がるものや器高が低いものがみられる。

弥生時代前期新相とした遺構は、SD06・SD13である。中心的な出土土器の特徴は、壺では口頸部界及び頸胴部界に段がなく多条の直線文が施される。甕は4条を中心に3~5条の直線文が施され、刺突文も多条の直線文とセットである。蓋は器高が高く天井部は筒状で裾部付近で広がる。

前期の遺構について、出土土器の様相から古相と新相に分けたが、これらを現段階の編年に位置付けると、古相は松本岩雄氏の編年(松本岩雄1992)ではI-2~I-3様式に位置付けることができる。<sup>註3</sup>また新相としたものは、松江市田和山遺跡(松江市教育委員会2005)のI-a環濠出土

註3 古相とした遺構の中でもSD10出土土器については、田畑直彦氏によると若干I-2様式が混じるが、時期的にまとまりがありI-3様式に位置付けられるとの指摘を受けている。その可能性は十分にあるが、松本岩雄氏の編年ではI-3様式の提示例が少ないことや、I-2様式の位置付けが研究者によって異なることもあるので、混乱を避けるために今回は幅をもたして位置付けておくこととする。

	SD09 オモカス層	SD10	SX01	SD13
無頸壺	 131-3		 64-10	 56-14
短頸壺	 133-9	 40-1		 55-2
小形鉢	 131-4	 43-9  40-2	 65-12	

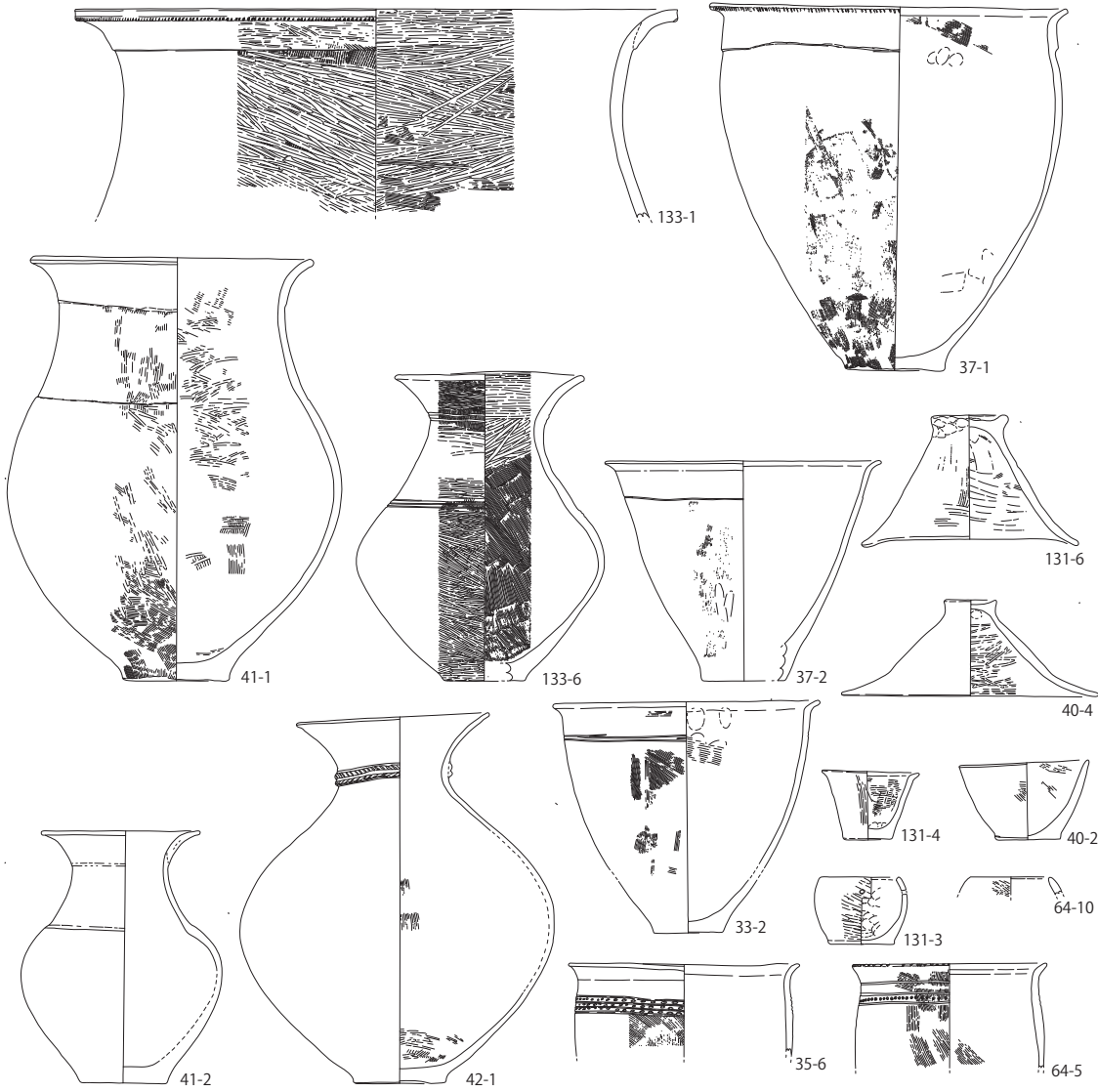
第253図 西川津遺跡(鶴場地区) 大溝出土弥生土器 その他の器種 総括図

第5章 総括

遺構等：SD10・SX01・SK06・(SD15?)・SD09砂礫層・オモカス層

壺：口頸部界(段・3条以内)、頸胴部界(段・3条以内)、甕：1条～2条の直線文・刺突A B中心、蓋：器高高く直線的に広がる・器高高低く天井部から広がる、小形のコップ型の鉢

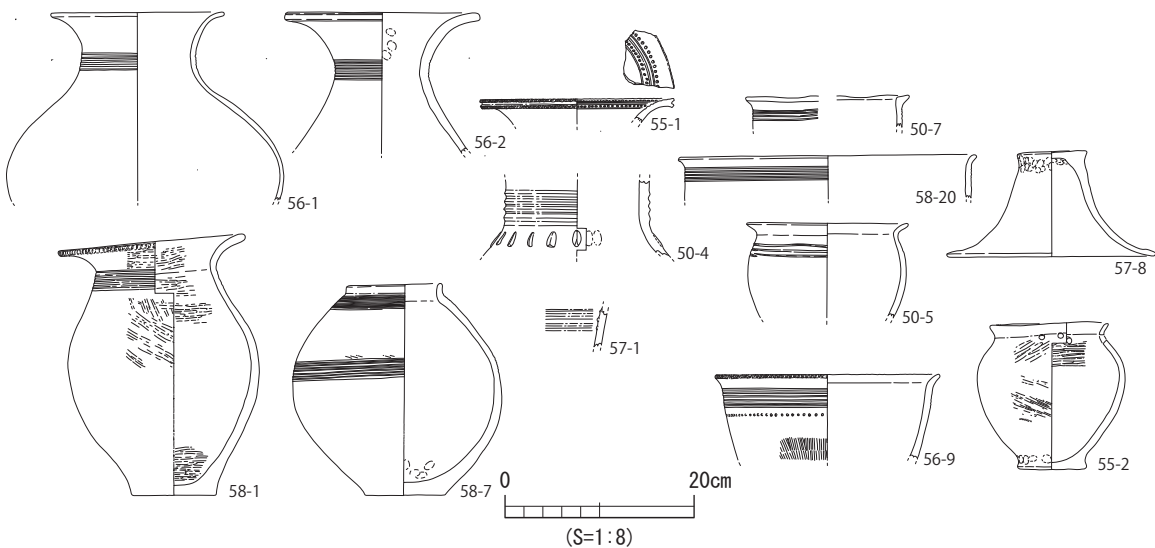
弥生前期古相



遺構等：SD06・SD13

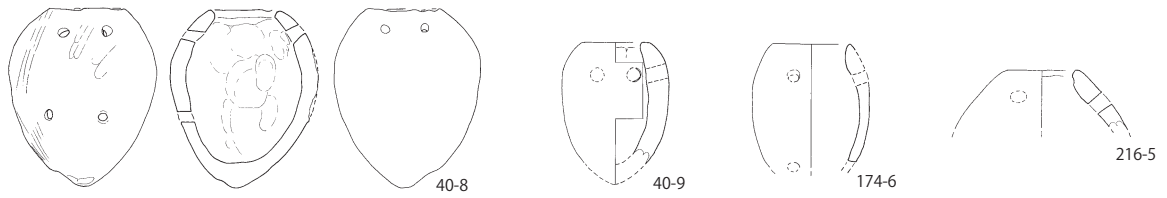
壺：口頸部界(段なし・5条以上)、頸胴部界(3条以上?)、内面に刺突文、阿高式、短頸壺、甕：3条～5条の直線文・刺突C中心、蓋：器高高く天井部は筒状で裾付近で広がる

弥生前期新相

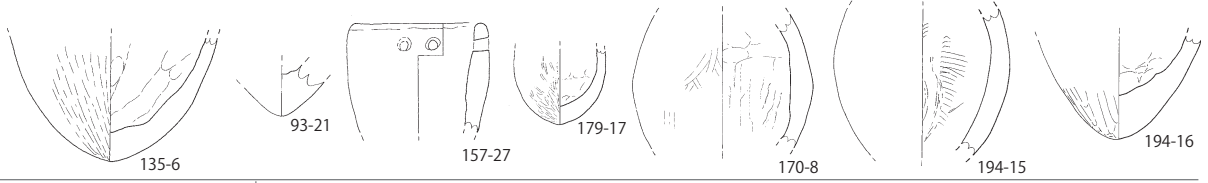


第254図 西川津遺跡(鶴場地区) 弥生土器変遷図

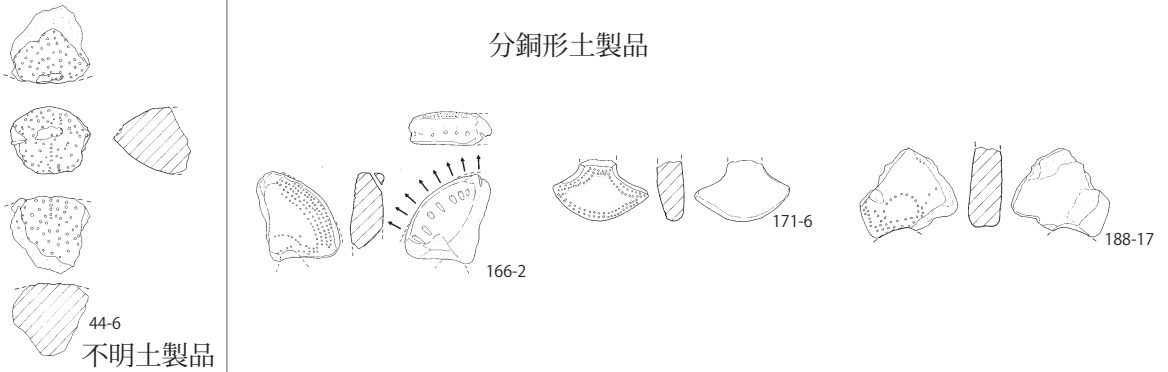
土笛



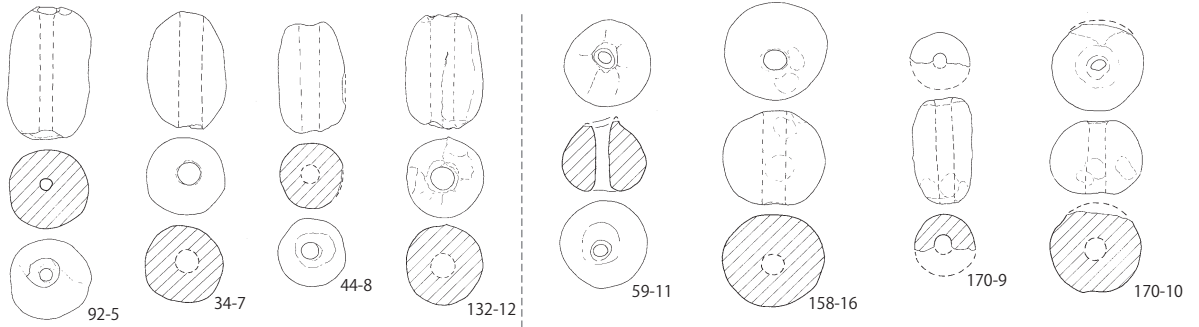
土笛の可能性のある土製品



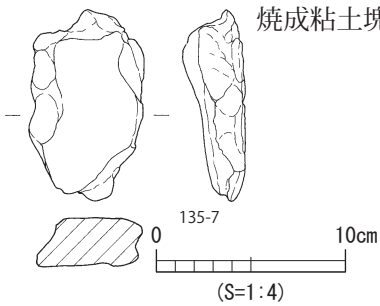
分銅形土製品



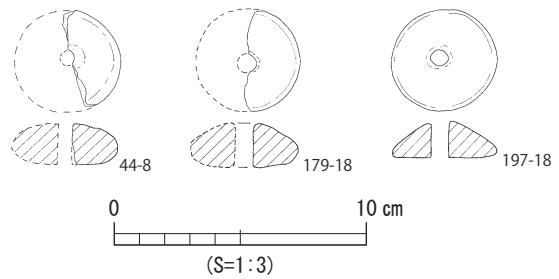
土錘



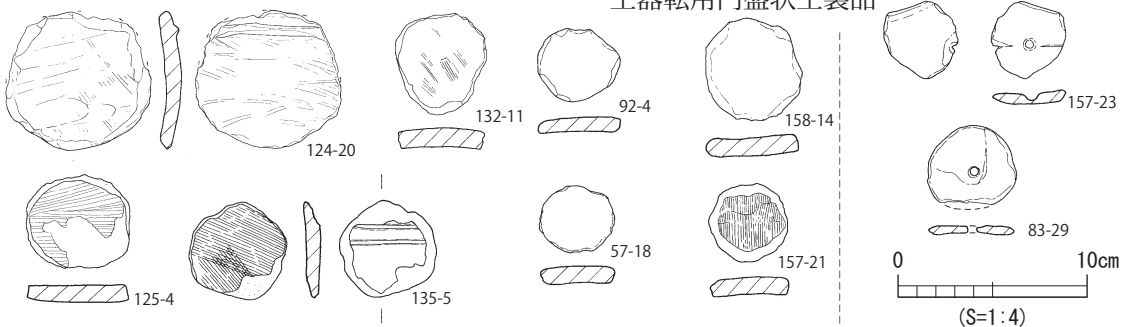
焼成粘土塊



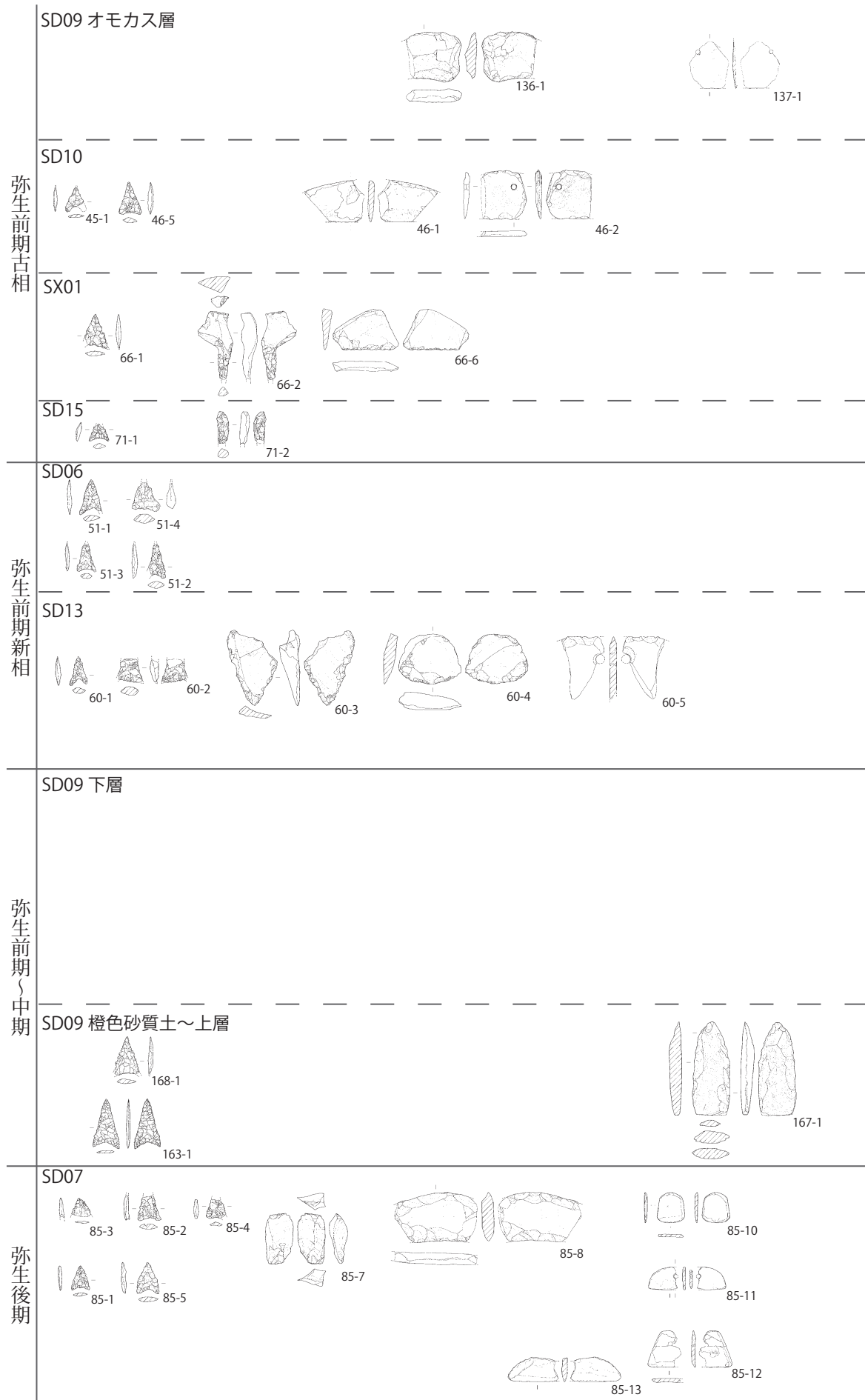
紡錘車



土器転用円盤状土製品



第255図 西川津遺跡(鶴場地区) 出土土製品総括図



第256図 西川津遺跡(鶴場地区) 出土石器総括図





土器や松江市布田遺跡(島根県教育委員会 1983)のIV A区SD03出土土器とほぼ同時期と考えられ、I-4様式に位置付けることができる。

#### 4. 弥生時代の出土遺物の検討

ここからは、前述した弥生時代前期の土器以外の出土遺物について、いくつか検討を加える。

##### (1) 出土土製品について(第255図)

鶴場地区から出土した主な土製品について第255図にまとめている。土笛は4点出土し、可能性のあるものは7点存在する。このうち40-8、40-9の2点が弥生前期古相としたSD10から出土している以外は、時期幅のある層位から出土しており、明確な時期は不明なものである。土笛は現段階では全国で87点、又は104点の出土事例(江川幸子2012、荒神谷博物館2012)があることが知られるが、そのうち朝酌川遺跡群は全国の出土数の半数程度を占めており、土笛出土の中心地といえる。今回の報告では出土事例を集成し詳細な検討を加えることはできなかったが、出土事例の数が報告で異なるなど基礎的なデータも含め、今後の詳細な検討が必要である。

分銅形土製品は3点出土しており、166-2、171-6は前期～中期の遺物を包含した層から出土しているが、中期に属する土製品と考えられる。また171-6は非常に小型のもので、おそらく県内出土のものでは最小のものであると考えられる。

44-6は弥生時代前期古相のSD10から出土し、細かい刺突によって文様が施されている土製品の破片である。この詳細については今後の類似した遺物の出土を待って検討が必要である。

弥生時代に属すと考えられる土錘は8点出土している。これらの形状を時期的に検討すると、弥生時代前期古相の遺構出土のものは楕円形状の土錘のみであり、弥生時代前期新相～中期にかけての遺構・層位から出土したものは球形に近い形状ものと楕円形状の両者がみられる。このことから球形の土錘は後出する可能性があるが、他遺跡の出土事例等も踏まえて総合的に判断する必要がある。

土器転用円盤状土製品は、図化していないものも含めて多く出土している。全体の総数をカウントし検討する必要があったが、前期のものには穿孔はなく中期～後期のものは穿孔がみられることを指摘しておく。

##### (2) 出土石器について(第256・257図)

鶴場地区の時期が判明する遺構及び層位から出土した石器については第256図にまとめた。ただし、全体の出土量からすると図化掲載した石器はごく一部であり、二次加工のある剥片も含めた1,200点程は計測表(表15)と写真図版(図版153～183)に掲載するに留めた。それ以外にも剥片やチップ類は多数出土しており、これらも含めた詳細な検討は今後に委ねたい。出土した石器の石材をみると凹石・敲石類は周辺部で産出される玄武岩や安山岩を利用している。石斧類は片岩と玄武岩を中心に利用し、安山岩、流紋岩、頁岩もみられる。このうち片岩は山陽地方側で産出されるものが利用されている可能性がある。打製石鍬は頁岩を多く利用しており、大型品には安山岩を利用するものが多い。石包丁・石鎌・紡錘車は頁岩を利用している。また隠岐産の黒曜石を用いた石器類が他の遺跡に比して非常に多い印象を受ける。

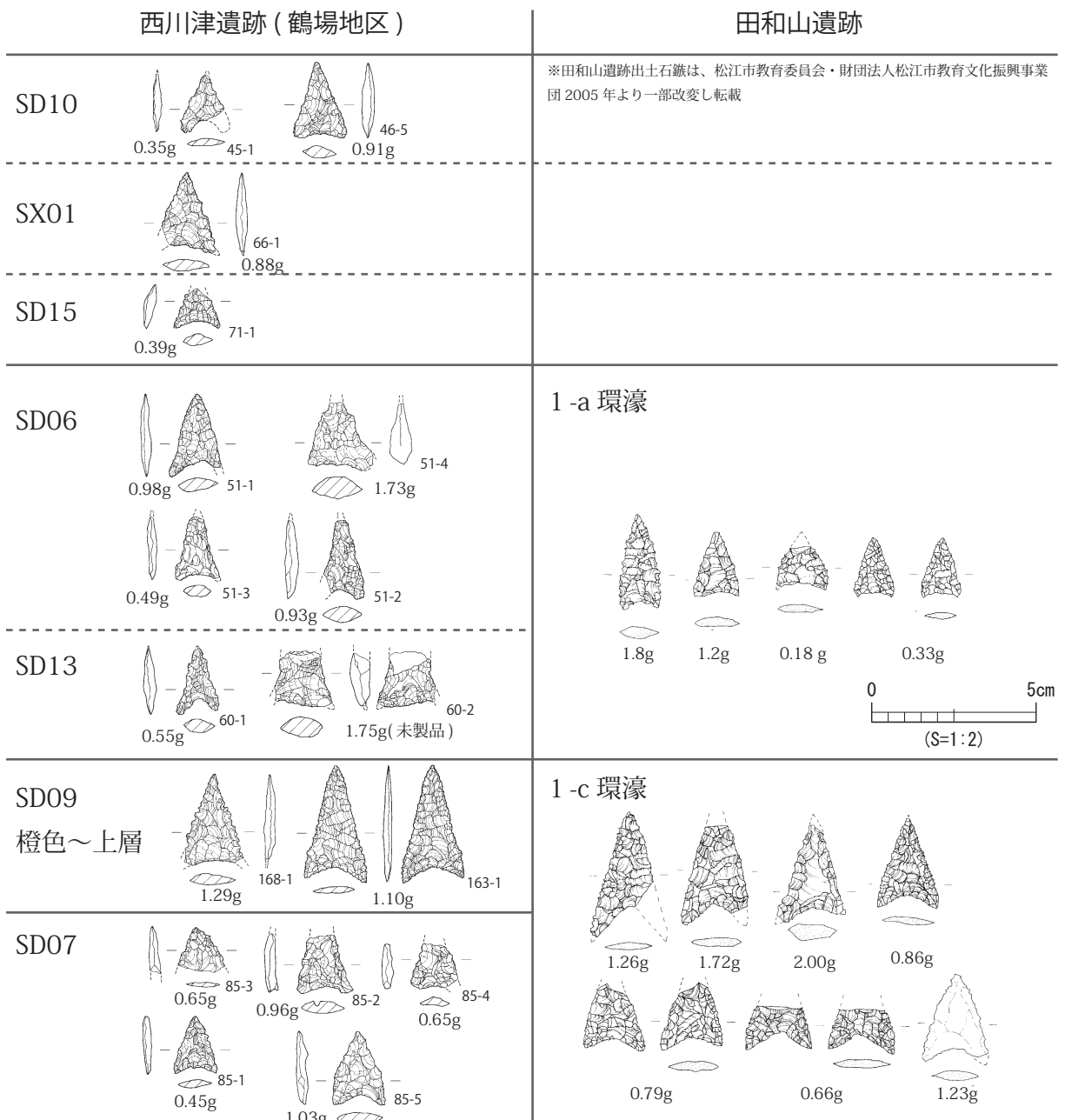
出土した石器類のうちで、弥生時代前期古相にみられず、それ以降の弥生時代前期新相～中期に

註4 出土石器の石材については中村唯史氏の検討によるところが多い

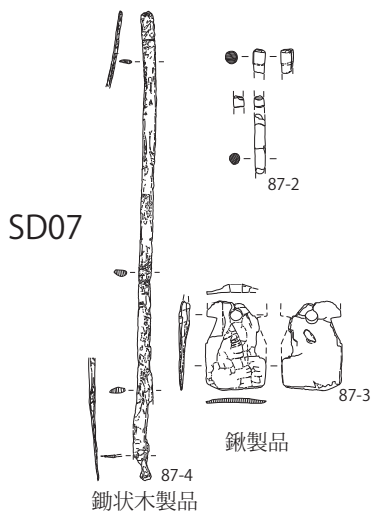
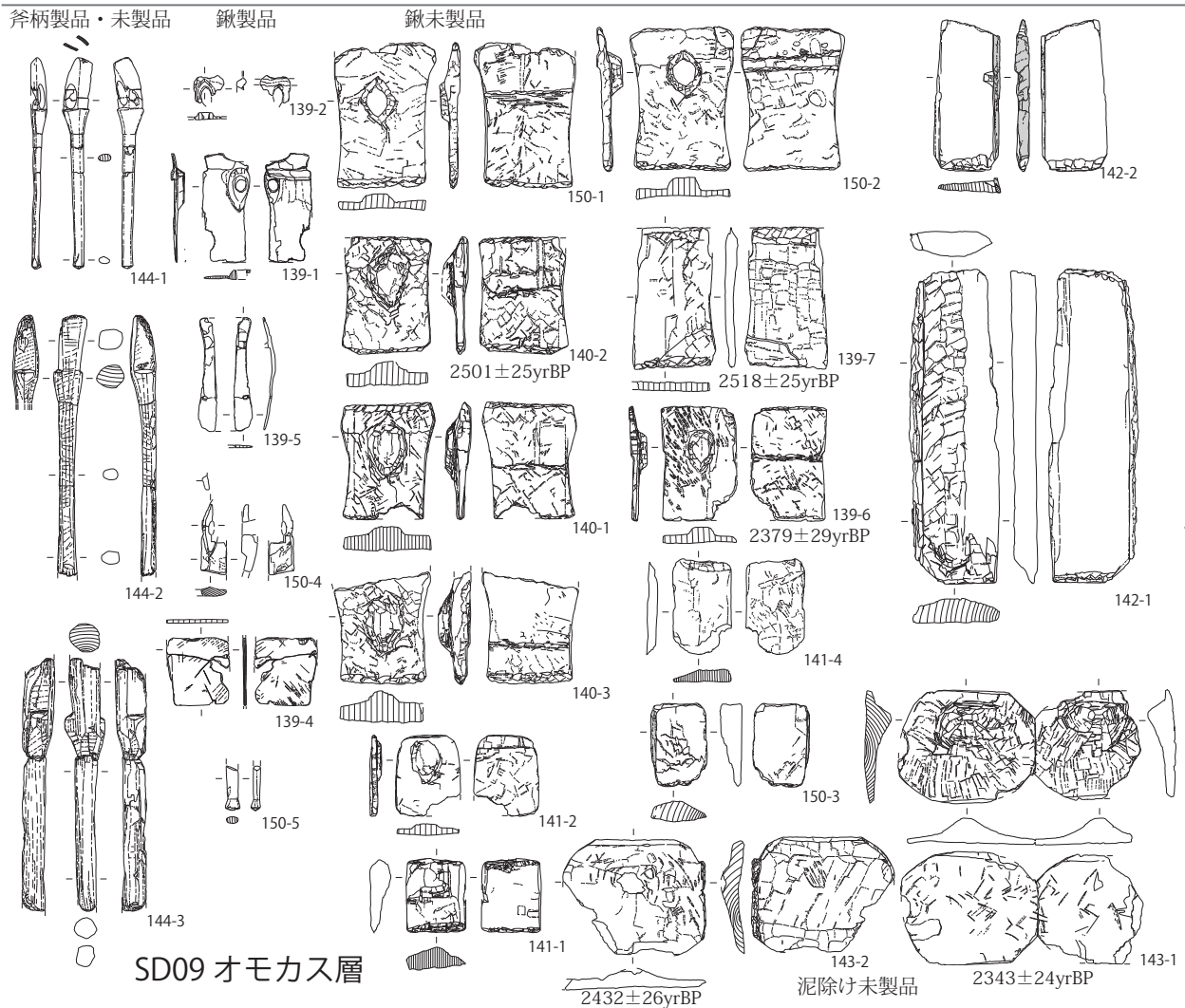
みられるものには、砂岩製の棒状の石錐(60-6、167-2)、緑色凝灰岩製の管玉未製品類(159-1、173-1)があることが指摘される。

出土した黒曜石製の石鏃の中で、SD09の橙色砂質土及び黒色粘土層から出土した石鏃(168-1、163-1)は、非常に特徴的であることから、若干の検討を加えたい。

弥生時代前期～後期にかけて出土している黒曜石製の石鏃を第257図の左側にまとめている。この図は弥生時代前期古相のSD10・SX01・SD15の出土石鏃、前期新相のSD06・SD13の出土石鏃、SD09橙色砂質土・黒色粘土層(弥生時代前期～中期の土器が出土する層)の出土石鏃、弥生時代後期のSD07出土石鏃を並べており、全て黒曜石製である。これをみるとSD09出土の石鏃がサイズが大きいことが分かる。他のものが長さ2.5cmまでにおさまるのに対して、SD09出土石鏃は168-1が2.7cm、163-1が3.5cmである。またSD09出土石鏃の特徴は、剥離が非常に丁寧で側縁



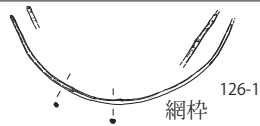
第257図 西川津遺跡(鶴場地区) 出土石鏃と田和山遺跡出土石鏃 検討図



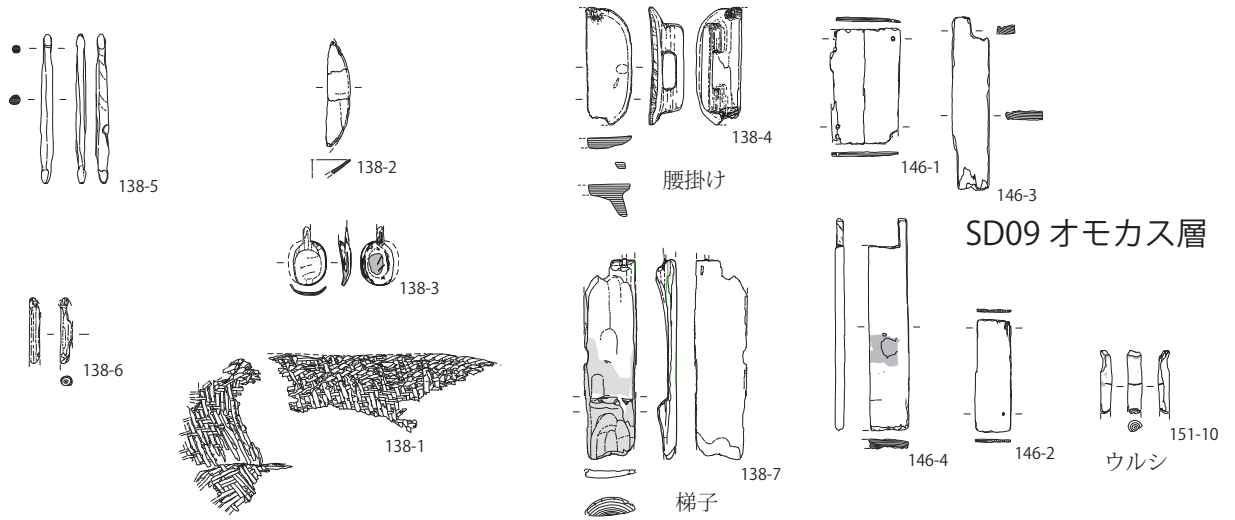
第258図 西川津遺跡(鶴場地区) 出土弥生時代木製品 総括図

運搬具・漁労具・服飾具 容器・調理加工具

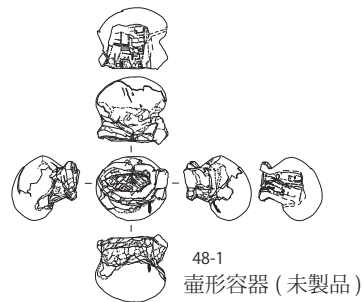
調度・建築部材・その他



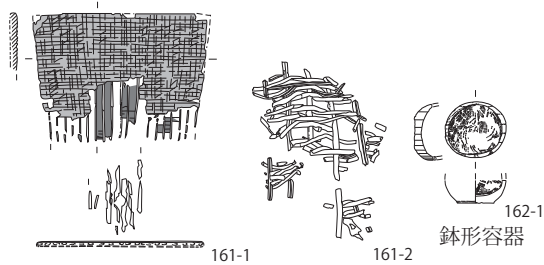
SD09 砂礫層



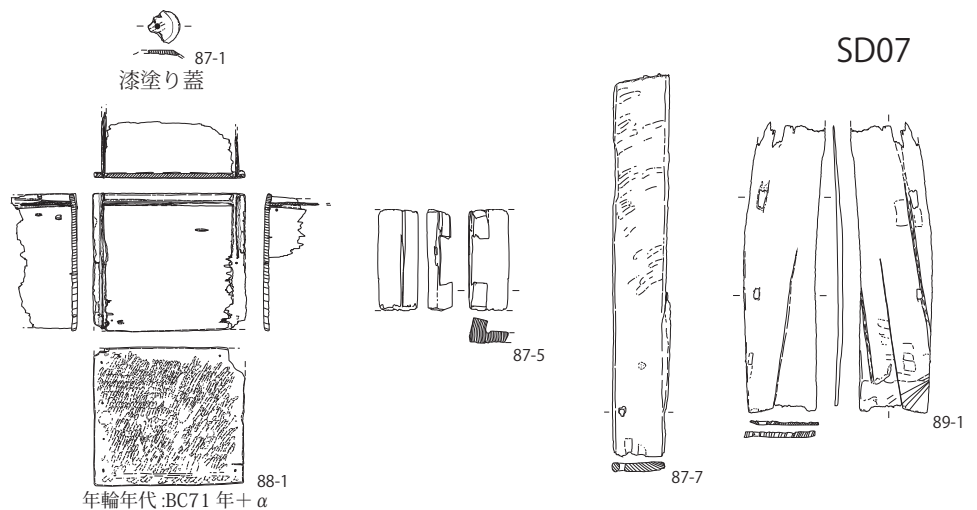
SD09 オモカス層



SD10



SD09 下層



SD07



は鋸歯状の鋭い凹凸をもち、大きさの割に厚みが薄いという特徴がある。なお図化掲載したもの以外にも剥離が丁寧で厚さが薄い石鏃は、黒色粘土層(土器溜まり11)から出土しており(写真図版173:782～785)、長さが3.5cm程のものとそれよりも短い2～2.3cm程の2つのサイズのものが存在している。

このような特徴をもつ石鏃は松江市田和山遺跡(松江市教育委員会2005)からも出土していることから、比較のため第257図の右側に掲載した。田和山遺跡のI-a環濠(I-4～II様式の土器出土)、I-c環濠(I-4～IV様式の土器出土)出土の石鏃をみるとI-c環濠のものがサイズや剥離のあり方と厚みが類似していることが分かる。やはりI-c環濠のものも長さが長いタイプ(2.9～3.8cm)と短いタイプ(2.7cm前後)が存在しているようである。

以上のことからこれらの石鏃はI-c環濠出土土器の時期から、中期に特徴的にみられる黒曜石製石鏃と考えられる。このような特徴的な石鏃の出現する背景が興味深いところであるが、詳細な検討は今後の課題としておき、特徴的な石鏃が存在していることを指摘するに留めたい。

### (3) 出土木製品について(第258図)

鶴場地区では、弥生時代の大溝・自然河道や中世以降の河道1・2から木製品が出土している。これらのうちで弥生時代の木製品については、第258図にまとめた。

弥生時代前期の木製品は、SD09の砂礫層・オモカス層、SD10からの出土品である。これらのなかに、鋏先・泥除け・斧柄・壺形容器の未製品がみられることから、少なくともこれらの木製品を周囲で製作していたことは間違いないと思われる。鋏先と斧柄未製品の樹種は全てコナラ属アカガシ垂属であり、県内の木製品を集成した研究(島根県教育庁古代文化センターほか2006)によれば、この時期これらの製品に一般的に利用されている樹種である。

その一方で泥除け未製品はこれまで知られているものはコナラ属アカガシ垂属製であるのに対して、143-2がニガキ、143-1がムクロジである点が注目されるところである。また、2点の泥除け未製品はともに板目材であり、陣笠状に高く隆起する形態的な特徴をもっており、コナラ属アカガシ垂属製の柁目材を利用するものとは形態的特徴や樹種が異なる。

前期の泥除けの樹種について河内平野出土品から検討した中原計(中原2006)によれば、前期ではクスノキの板目材が基本であり中期以降アカガシ垂属の柁目材に置き換わって行くことが指摘されている。これによると今回出土の2点はアカガシ垂属に置き換わる前段階のものである可能性が高い。ただし、以前の調査で出土した西川津遺跡出土品の中に前期のアカガシ垂属製の泥除け未製品(島根県教育委員会1989)が存在することから、前期には既に2つの樹種が選択されていたのか、前期の中で漸次的に樹種が置き換わっていく過程の資料として評価することができる。いずれにしても今後の出土事例によって再検討が必要な重要な資料と考えられる。

それ以外の弥生時代の木製品は、網杵はイヌガヤ、容器類はヤマグワ・クスノキ、腰掛けはスギ、梯子はスダジイ、その他板材はスギといったように、これまでの県内出土木製品で一般的に選択されている樹種が利用されている。

### (4) 海崎地区出土木製品との比較(第259図)

前述した弥生時代前期の木製品のうちで、鋏先・斧柄・泥除けについては、西川津遺跡海崎地区の調査(島根県教育委員会1989)でも多く出土している。海崎地区では前期～中期の未製品を含む多くの木製品が出土しており、さらにウッドサークルと呼称されている貯木施設も検出され、ま



さにその場で木製品の製作がおこなわれていた地区である。また海崎地区では溝状遺構とされている水場がすぐ近くにある周辺環境であり、このことから鶴場地区の自然河道(SD09)周辺に同じような製作地が存在していた可能性は高いものと考えられる。

ここでは海崎地区から出土した前期の木製品と鶴場地区出土のものを比較しておきたい。両地区から出土した該当木製品を第259図にまとめた。

**鍬先の比較** 鍬先の未製品をみると①ミカン割材(142-1、海崎21・80)→②連作の未製品(海崎24・34)→③孔無し・裏面に段(140-2ほか、海36ほか)→④孔無し・裏面に突帯(150-2、海崎43)→⑤柄孔の穿孔・頭部形状の加工、仕上げ→⑥完成品(139-1・5、海崎38・52・60)に大きく分類される。両地区を比較しても、連作のものは鶴場地区では出土していないものの、未製品を見る限り大きく異なることはなく、概ねこの順に加工が進むものと考えられる。また、柄孔の穿孔がみられる未製品は無く、他遺跡からの出土品も僅かであることから④の段階で選択され、穿孔しても無駄なものが廃棄されている可能性がある。

鶴場地区の鍬先未製品をみると141-2の小形のもの以外は、舟形隆起をもち側縁が弧状となり裏面は突帯を作り出そうとしている。また舟形隆起横付近から上端部にかけて傾斜し稜がつくといった共通の特徴をもち、一括性の高い短期間のセットである可能性が考えられるものである。これらの未製品はその特徴から最終的には139-1・5の鍬先になるものと考えられる。

海崎地区の鍬先未製品をみると海36・43が同様のものと考えられ、海46は側縁が直線的であることや隆起が方形である。このことから大まかな工程は共通しているが、より詳細にみると平面的な形態には差異がある。また海崎地区の方が形態的な特徴にまとまりを欠いている印象がある。これは完成品の形態の違いか時期的な差、あるいは木製品製作が長期的に継続するものか短期的に終わったものなのかその時間幅の差に起因するものと考えられる。

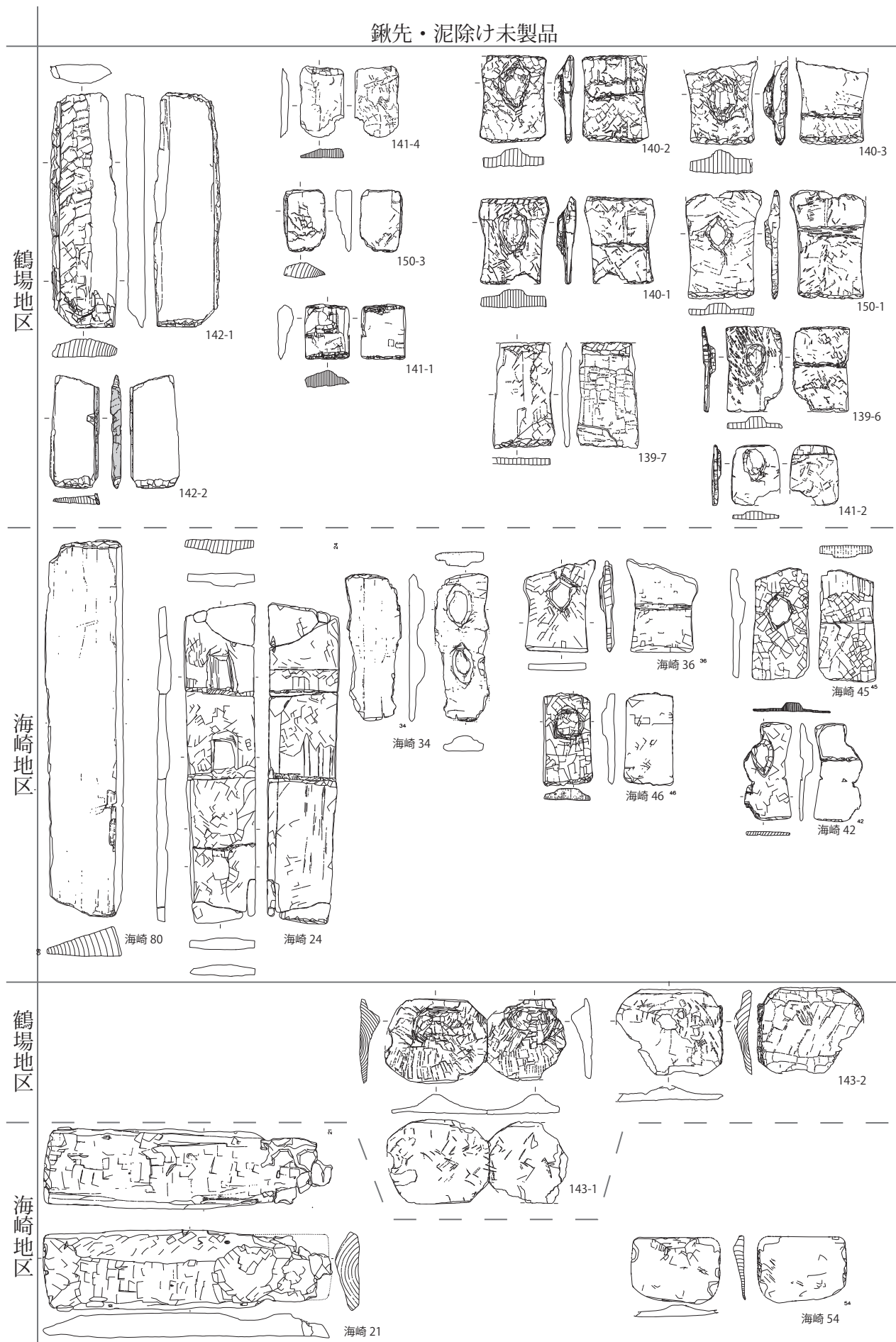
**泥除けの比較** 泥除けは、①連作の途中のもの(海21)→②加工が進んだ連作のもの(143-1)→③切り離されたもの(143-2・海54)→④穿孔されたもの(海71)→⑤完成(海72)があり、この順で加工が進むものと想定される。前述したように鶴場地区のもの(143-1・2)はムクロジ・ニガキの板目材であることが注目されるが、海崎地区出土のものをみても板目材のもの(海21・海72)が確認される。これらは樹種は不明であるが、陣笠状に高く隆起する形状は鶴場地区出土のものに類似している。また、海54・海71はアカガシ亜属であることから西川津遺跡の泥除けには板目材のものと柁目材のもの両者が存在するのは確実である。このことは前述のように同時期に2つの樹種が選択されていたのか、前期の中で漸次的に樹種が置き換わっていく過程のものとして考えられる、今後の細かい時期が分かる出土例をもって検討する必要がある注目すべき木製品である。

**斧柄の比較** 鶴場地区の斧柄は、直柄の未製品(144-2・-3)と完成品(144-1)が出土しており、未製品はアカガシ亜属製であるのに対し、完成品はモチノキ属と樹種が異なっている。海崎地区では直柄未製品(海87・89・90)のほかに膝柄も出土している。樹種が分かるものは海90のアカガシ亜属である。基本的に樹種、加工の度合いは異なるが形態的には大きな差はないものと考えられる。

以上述べてきたように、鶴場地区出土の鍬先・泥除け・斧柄の未製品は海崎地区でみられる未製品と大きく異なるものはないと判断される。ただし海崎地区の方が加工の段階や未製品の形状が多様であることが指摘され、これは海崎地区の木製品製作の期間が長期間であるのか、時期が異なる

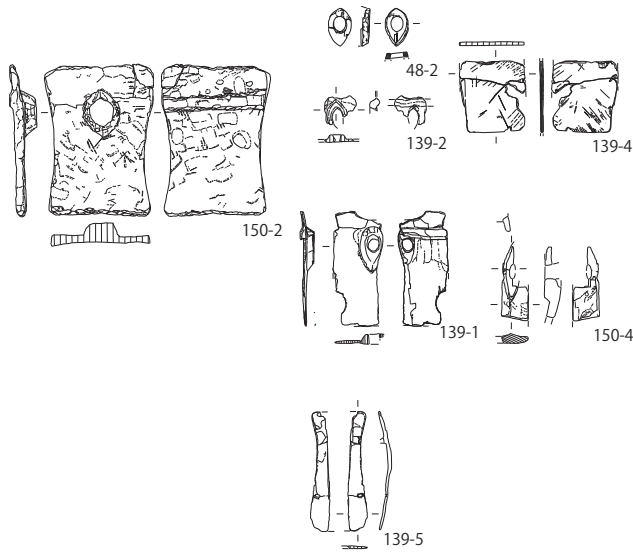
註5 直柄狭鍬の未製品の可能性も存在する。

鋤先・泥除け未製品

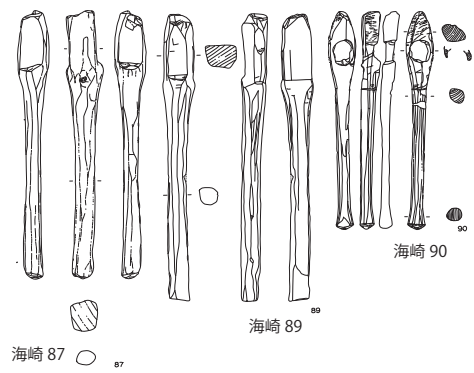
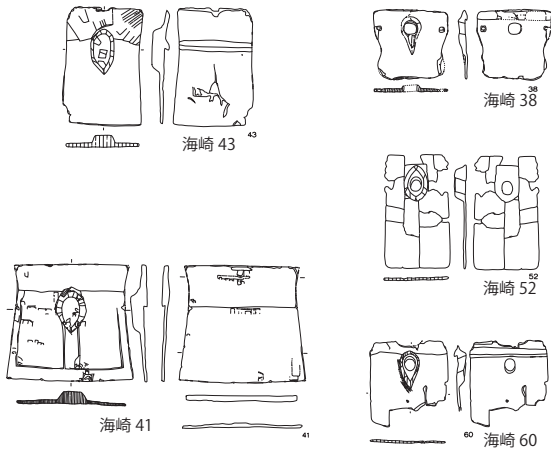
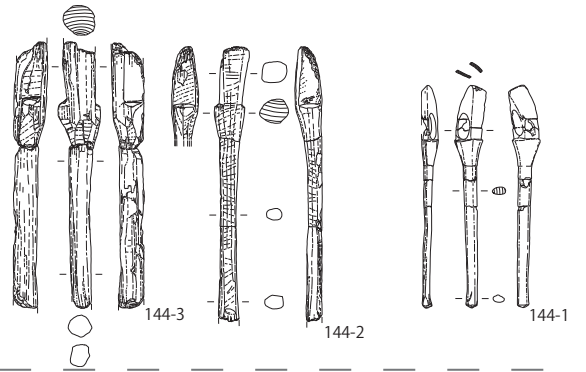


第 259 図 西川津遺跡 鶴場地区と海崎地区出土木製農工具比較図

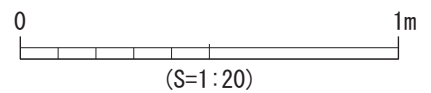
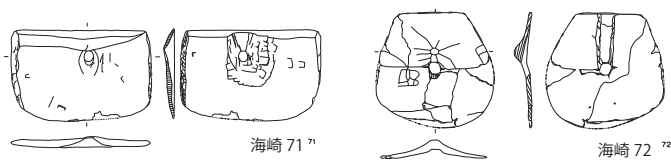
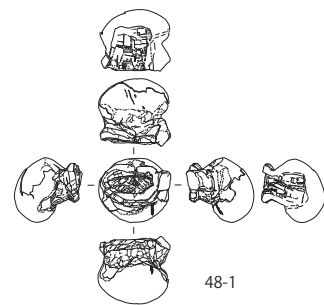
鍬先・泥除け製品



斧柄未製品・製品



壺形容器未製品



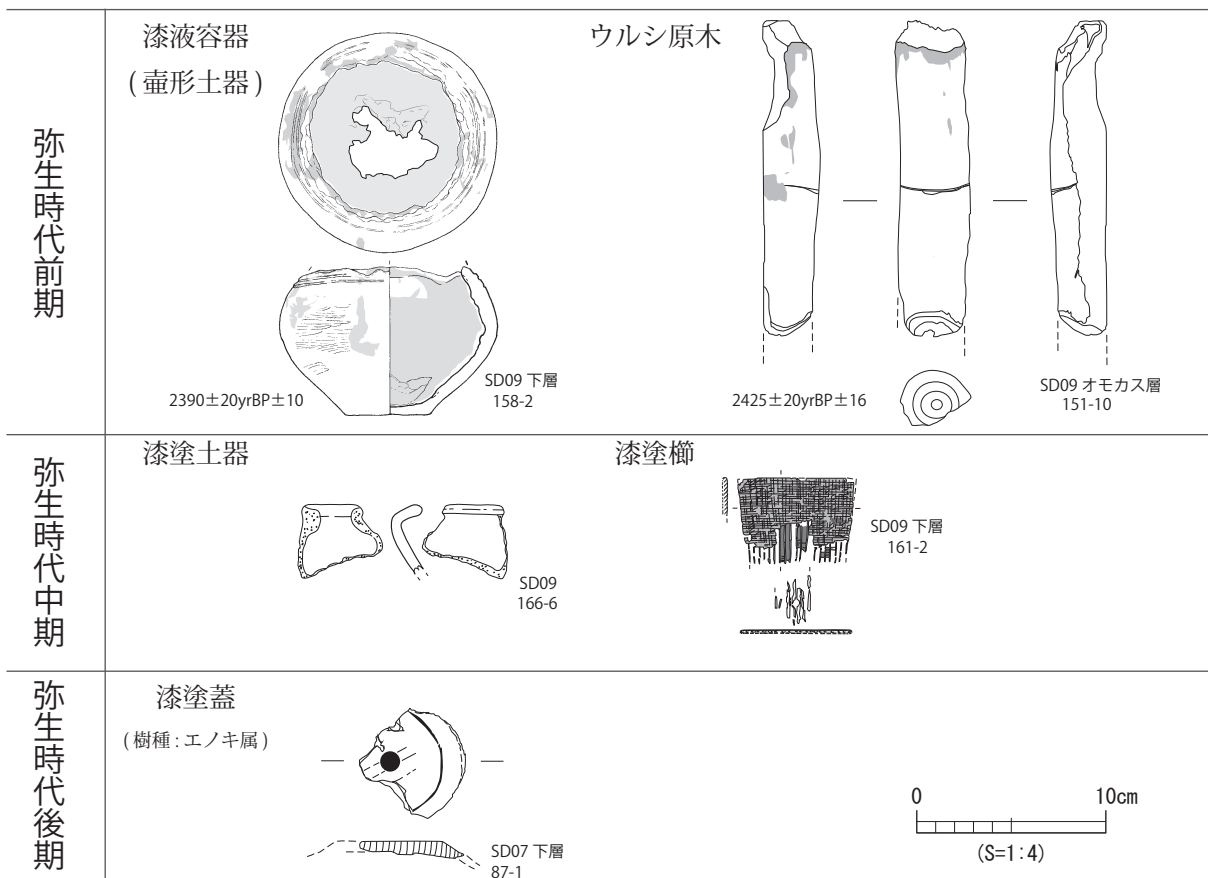
のか、あるいは技術的な系統差等に起因している可能性がある。

**壺形容器** 鶴場地区のSD10からは壺形容器(48-1)が出土しており、これは胴部にクスノキの瘤を利用し、把手も同時に作り出されたものである。内面は粗い工具加工痕が残り、最終的な仕上げが成されていないものと判断している。このような壺形容器は弥生時代のものでは類例が無く、詳細な検討はできないが、縄文時代の佐賀県東名遺跡(佐賀市教育委員会 2008)では木の瘤を利用した容器が存在するようであり、技術的には縄文時代から系譜をひくものかもしれない。

(5) 漆関連遺物について(第260図)

鶴場地区では、漆製品に関わる重要な出土品があり、それらをまとめたものが第260図である。各時期にわたって漆製品が出土しているが、特に注目されるものは、漆液容器(158-2)とウルシ原木(151-10)である。このような資料は縄文時代の遺跡ではいくつか知られるが、弥生時代前期の資料としては類例が無く重要な資料と考えられる。漆液容器は小形の壺形容器の頸部から上を打ち欠いて使用しているものであり、漆の詳細な分析は第6章によるが、漆採取時の容器ではなく漆を精製するための容器であったと考えられる。また、打ち欠かれた縁や外面にも漆液が付着しており、漆製品を作る時に漆液を取り出す際に付着したものと考えられる。このウルシ原木(151-10)はSD09内の杭列に混ざるよう出土したものである。ウルシ材には幅の狭い傷が確認でき、これが漆液の採取時の掻き傷である可能性が高い。ウルシ材は木製品となることはほとんど無く樹種同定されることも少ないことから事例が少ないが、能城修一らの集成(Noshiro S., Suzuki M., Sasaki Y.,

註6 山田昌久氏の御教示による。



第260図 西川津遺跡(鶴場地区)出土漆関連出土遺物総括図



2007)によれば弥生時代の事例は少なく、特に前期に遡るものは無いことから弥生時代の事例としては最古の事例になるものと考えられる。以上の前期の資料2点は、西川津遺跡では弥生時代前期から漆液の採取から漆製品の製作をおこなっている可能性が高まったことを示すものと思われる。よって、これまでの本遺跡から出土した規格的な漆塗り櫛等は持ち込まれたものではなく、遺跡内で製作されている可能性が高まり、時期は中期の可能性もあるがSD09出土の漆塗り櫛(161-2)も遺跡内で製作されたものであると推察される。

鶴場地区の調査では漆で土器の表面をコーティングした漆塗土器もいくつか出土している。図化掲載したものはSD09出土のもの(166-6)のみであるが、可能性があるものも含めて破片は多数出土している。これらは中期以降の土器であり、前期の可能性もある土器も含め永嶋正春氏に分析を依頼した結果、確実に前期に遡る漆塗土器は存在しなかった。山陰の漆塗土器を集成した研究(中川寧 2008)によれば弥生時代中期に限られるようであり、大部分は島根県内で出土し、かつその半数以上が松江市内の遺跡からの出土である。このことから西川津遺跡で製作している可能性は高いものと考えられる。なお、出雲市矢野遺跡から出土した土器に漆塗土器とされていた資料があるが(出雲市教育委員会 2010)、漆皮膜では無い可能性が高く、またそれを受けた川原和人の検討(川原和人 2012)も修正が必要になるものと考えられるが、いずれにしても出雲地方に集中する土器であり注目されるべき資料である。

#### (6) 弥生時代中期～後期の土器等について(第261図)

弥生時代中期から後期にかけての土器及びガラス勾玉については第261図にまとめている。中期については柱穴以外に遺構を検出しておらず、土器も弥生時代の自然河道(SD09)や中近世の河道1・2から出土しているのみであることから、今後の研究等で詳細な検討が必要なもののみを掲載した。

**絵画土器** 188-14は、絵画土器の壺である。これは内面の調整がハケ調整であることや器形から時期はIV様式に位置付けられる可能性が考えられるが、胎土や鋸歯文の存在からV様式に属す可能性を残しているものである。後期の装飾された壺の事例が少ないことから今回は明確に位置付けることは避け、中期末頃～後期初頭の時期を考えておきたい。

この土器の文様は複数の工具を使い分けて施されているが、絵画は鋸歯文と同じように非常に細かい線で刻まれており、同じ工具で描かれている可能性が高く、S字状のものが連続して描かれているが、右側は欠損しているため全体は分からない。また左側には下方に向かって弧状に2条1単位の線が引かれており、他のものとは原体が異なるか当て方が異なる可能性がある。出雲地方で弥生土器に絵画を描いたものは今回のものを含め7例(島根県立八雲立つ風土記の丘 2012)あるが、これに類似するものは出土しておらず、また山陰地方の弥生絵画を総合的に検討した研究(山田康弘 2006)を参考にしても、同様な図案のものはないようである。

この絵画についてはヘビや龍の可能性が指摘されているが、土器の時的な位置付けによっても大きく評価が分かれるところである。龍が描かれている絵画土器は、基本的に後期から出現するといわれており(春成秀爾 2011)、この土器を中期に位置付けると最古の事例として評価されることになる。ただし、後期の最初に出現する龍の絵画には鱗が描かれており、その後簡略化される傾

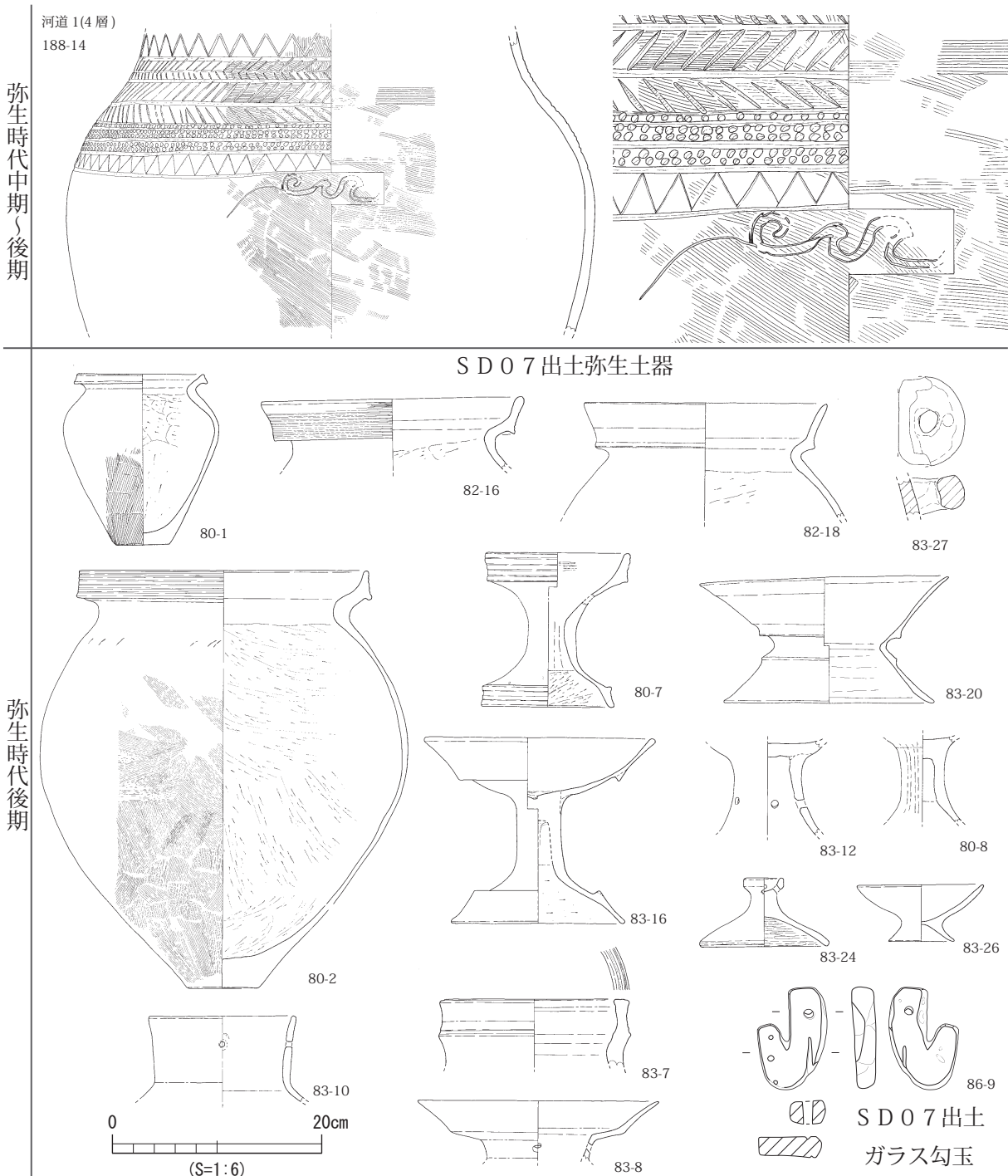
註7 永嶋正春氏の御教示による。

註8 絵画土器については、深澤芳樹氏、春成秀爾氏に詳細に検討頂き御教示頂いた。



向がある。鶴場地区出土のものは、龍とすれば鱗が無くどちらかといえば簡略化されたものに位置付けられるため、やや土器の時期と絵画の位置付けが一致しないようである。この土器と類似した絵画をもつ土器を他地域のものと比較した場合、岡山県の高塚遺跡（岡山県教育委員会 2000）、下市瀬遺跡（岡山県教育委員会 1973）出土のものが良く似ており、特に下市瀬遺跡のものが類似している。この土器には人物も描かれており、交龍を曳く神人の図案であるとの見方もあり、後期末に位置付けられている（春成秀爾 2011）。

この絵画土器を中期に位置付けた場合、同時期の絵画でこのようなうねった表現のものを探すと、桜ヶ丘銅鐸のへび（国立歴史民俗博物館編 1997）や青谷上寺地遺跡出土の箱板（鳥取県教育文化財



第261図 西川津遺跡(鶴場地区)出土 弥生土器・ガラス勾玉(中期～後期)総括図

図2002)に描かれたヘビが該当する可能性がある。

以上述べてきたように、土器の位置付けによって絵画の評価が変わる可能性があることから、今回は弥生時代中期～後期の土器にヘビ又は龍の可能性のあるものが描かれていることとしておく。

**後期の土器** 第261図に掲載した後期の土器はSD07から出土したものである。今回は詳細な検討を行っていないことから出土土器全体の傾向を明らかにすることはできないが、出土した土器はV-1様式のもの(80-1・80-2)やV-4様式のもの(82-18)が多く、V-3様式のもの(82-16)はほとんど出土していないという点が特徴である。また、非在地系と考えられる土器(83-7、83-8)も出土していることが挙げられる。

**ガラス勾玉** SD07出土のガラス勾玉はアルカリケイ酸塩ガラス製である。形状は「J」字形を呈し、背面には孔に向かって切り込み状の凹みが見られる異形のものである。これは小寺智津子の分類(小寺智津子2006)による定形系勾玉に含まれず、非定形系勾玉に含まれるものであるが、類似例は全国的にも見られない。このような形状の勾玉は時代は遡るが縄文時代後期後葉～晩期にかけて九州地方で出土する石製のJ字形勾玉(大坪志子2003)に類似している。弥生時代後期の中国地方で出土する勾玉は大半が垂定形で整ったものは少なくいびつな形状のものが多いようであり(米田克彦2009年)、今回の出土勾玉も時期的な状況を反映しているのかもしれない。また、弥生時代後期頃まで縄文系の勾玉が残るようであるから、今回の出土勾玉もその全体形状や背面の切り込み等の特徴から縄文系の勾玉の系譜をひくものとして位置付けられる可能性がある<sup>註9</sup>。

## 5. 弥生時代の自然河道(SD09)の様相(第262図)

弥生時代の河道であるSD09は鶴場地区の弥生時代前期から中期の様相を知ることができるものであり、前期～中期の微地形や古環境を推測する上で重要な遺構である。また弥生時代前期の大溝はこの河道に平行するように掘削されている可能性も考えられるものである。ここではその層位ごとの出土遺物の様相、花粉分析や年代測定結果等の結果も含め簡単にまとめておきたい。

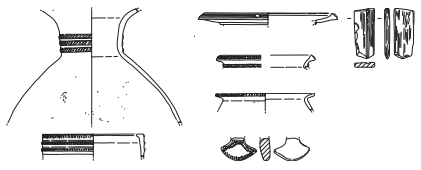
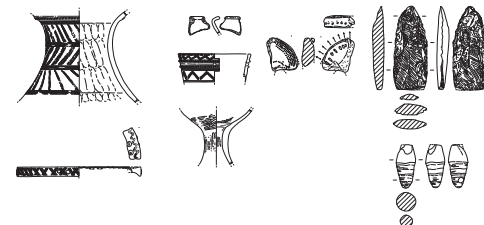
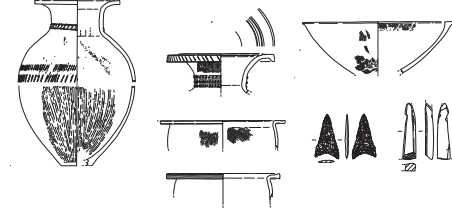
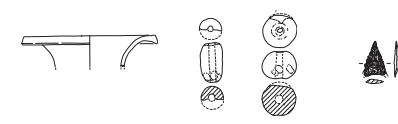
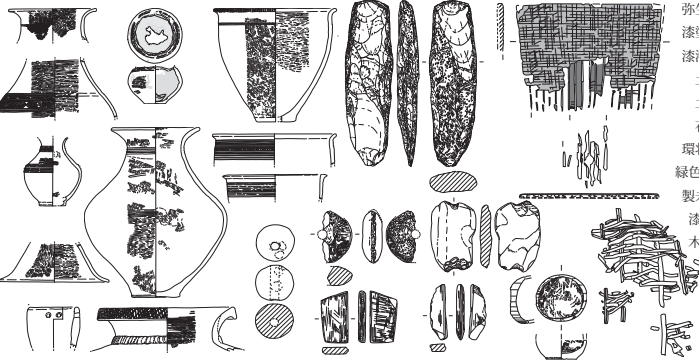
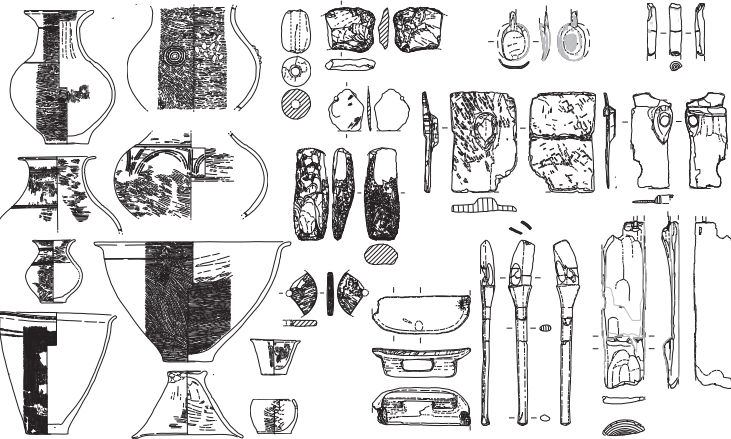
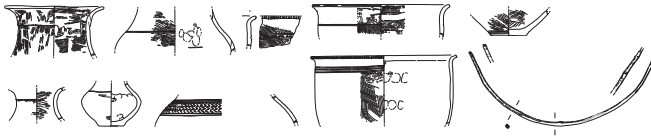
SD09の最下部の砂礫層・オモカス層は弥生時代前期の遺物のみが出土し、それより上部の下層～上層までは前期～中期の土器が出土している。

**砂礫層** 砂礫層は自然河道が水域であった段階に堆積しているものである。調査の安全性の関係から完全には発掘ができていないことから遺物の出土量が少なく詳細な検討はできないが、土器は弥生時代前期古相としたものが中心であり、古相の中でもさらに古い特徴のものが多い。

**オモカス層** オモカス層と呼称している層は腐植粘質土層であり、湿原環境であったことを物語る層である。土器は弥生時代前期古相としたものが中心であり、木製品やトチノミ等の有機質のものが良好に残存していた。木製品には鋏先・泥除け・斧柄末製品が含まれ西川津遺跡の木製品生産の一端を知ることができる。またウルシ原木もこの層から出土しており、年代測定値も一般的に知られる弥生時代前期の年代値が得られている。

**下層** 下層としたものは粘質土層であり、湿原環境から陸地化する過程で堆積したものと考えられる。土器は弥生時代前期のものが多いが中期の土器も若干混じることから、弥生時代前期古相以降から中期にかけて堆積した層と考えられる。出土土器の中には前期の漆液容器があり、漆塗り櫛等の有機質の遺物も出土している。

註9 弥生時代のガラス勾玉を含め玉類の様相については、米田克彦氏の御教示に負うところが多い。

時期	層位	出土遺物	放射性炭素測定年代	環境	
中期～後期	上層 標高 1.4～1.7m		弥生土器 漆塗土器 分銅形土製品 緑色凝灰岩製未製品	炭化材:2140±20yrBP	水田又は古土壌
	黒色土層		弥生土器 漆塗土器 分銅形土製品 磨製石鏃未製品 石鏃	f/M:2090±20yrBP	
前期～中期	黒色粘土層		弥生土器 漆塗土器 石鏃 緑色凝灰岩製未製品	土器溜 11 出土炭化材 :2220±20yrBP	陸地化し土壌化
	橙色砂質土層 (黒色土・黒色粘土層含む) 標高 1.3m		弥生土器 土鏃 石鏃		
	下層 標高 1.0～1.2m		弥生土器 漆塗土器 漆液容器 土鏃 土笛 石斧 環状石斧 緑色凝灰岩製未製品 漆塗櫛 木製鉢	f/M:2460±20yrBP f/M:2300±20yrBP	
前期	オモカス層 標高 0.5～0.7m		f/M:2420±30yrBP f/M:2440±20yrBP 木器:2380±30yrBP 木器:2430±30yrBP 木器:2340±30yrBP 木器:2500±30yrBP 木器:2520±30yrBP  弥生土器 土鏃 石斧 石鏃 木製農具 農具未製品 ウルシ原木 腰掛 梯子 杓子		湿原環境
	砂礫層		弥生土器 タモ棒		水域

第 262 図 西川津遺跡(鶴場地区) 弥生時代自然河道(SD09) 総括図

**橙色砂質土層～黒色土層** A2区(北)では下層の上部に黒色粘土層と黒色土層が明瞭に確認できたが、A2区(南)では明瞭に確認できず、橙色砂質土層として遺物を取り上げた。このことからここでは一括して記述する。基本的に弥生時代中期の陸地化～土壌化する段階の堆積層と考えられる。放射性炭素年代では、層位と年代測定値が相前後するが、測定試料とした炭化材が堆積層の時期に伴うものではなく、混入した古い時期の炭化材を試料として選択していた可能性が原因かもしれない。出土遺物には、前述した特徴的な石鏃や分銅形土製品、擦り切り技法による管玉未製品等が出土しており、中期の様相の一端が垣間見れる。

**上層** この堆積層によって完全に河道は埋没している。出土土器に弥生時代中期のものがあることから中期には完全に埋没しており、それ以降は、花粉分析の結果等から水田であった可能性が考えられる。

以上のように自然河道の堆積層は、土器等の遺物の変遷や古環境の復元を可能にするものであり、今回の調査成果を語る上で重要な位置を占めるものである。

## 6. 西川津遺跡(鶴場地区)の変遷(第263～265図)

最後にこれまで述べてきたことを踏まえながら、鶴場地区の遺構・遺物の様相の変遷についてまとめて本節をおわりたい。

### (1) 縄文時代の様相

縄文時代の遺構は検出されていないが、調査区の土層断面等から縄文時代前期以降の様相を把握することができた。B1区とA2区(北)ではこれまでの西川津遺跡の調査でも確認されている内湾成泥層と同一と考えられる均一な粘土層を検出している。この層は縄文海進と呼称されている海面上昇時に堆積した層であり、遺跡付近が古宍道湖の内湾奥部の海域に変化したことを物語る堆積層である。これまでの調査ではアカホヤ火山灰を包含していることが確認されているが、今回の調査区では確認されていない。この内湾成泥層は鶴場地区のB1区の標高-2m付近で確認され年代測定値は $6552 \pm 31\text{yrBP}$ 、A2区(北)では標高1m付近で確認され、年代測定値は堆積層の上部で $4434 \pm 25\text{yrBP}$ 、下部の標高-0.2m付近で $5735 \pm 25\text{yrBP}$ であった。

この内湾成泥層の上部には基本的に下から砂礫層-腐植土層-シルト層の順で堆積しており、これらは海面上昇が終わった海退期の河川堆積によるものと考えられ、沖積地が拡大する段階のものと考えられる。この堆積層の砂礫層は河川堆積が活発な段階、腐植土層は河川堆積が停滞し湿地状に変化した段階、シルト層は概ね陸地化した段階のものとして解釈される。この海退期の河川堆積層の砂礫層や腐植土層からは、縄文時代前期～縄文時代晩期前半頃の土器が出土していることから、鶴場地区が陸地化し微高地となった段階は縄文時代晩期前半以降の可能性が考えられる。

### (2) 弥生時代前期(古相)


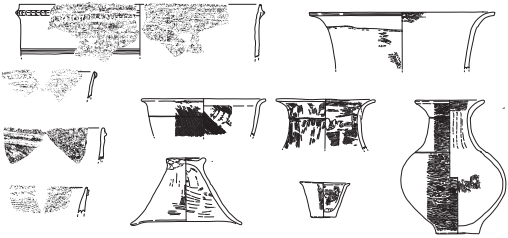
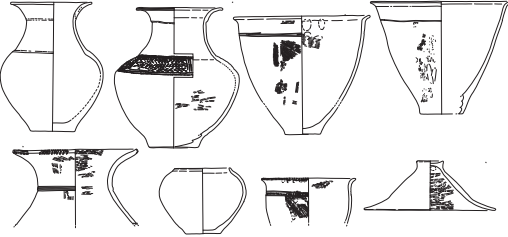
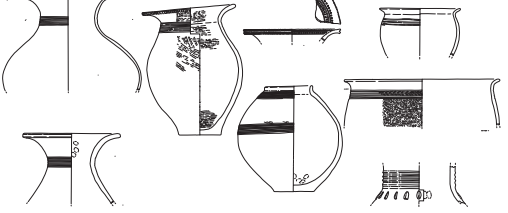

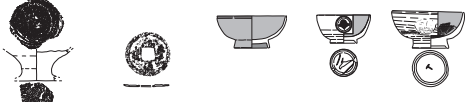
弥生時代前期には、縄文時代晩期前半以降に形成されたと考えられる微高地に遺構が確認されることから、この時期から積極的に沖積低地へ進出が始まったと考えられる。前期のどの段階から進出が始まったのかは詳細な検討が必要ではあるが、自然河道(SD09)の最下部の砂礫層からは突帯文土器が確認されることから、自然河道(SD09)が水域であった段階で縄文時代晩期後半には既に進出が始まっていた可能性は高い。また古代～近世の河道から出土した突帯文土器に残る種実圧痕を検討した結果、アワ・キビの可能性のある圧痕がみられており(第6章第3節)、農耕社会移行




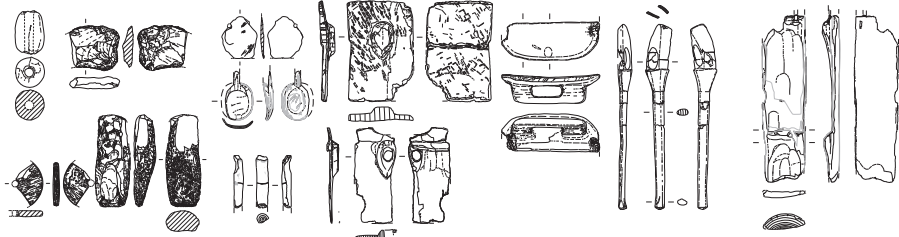

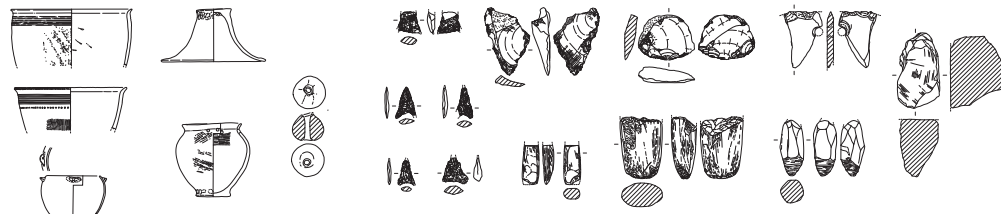
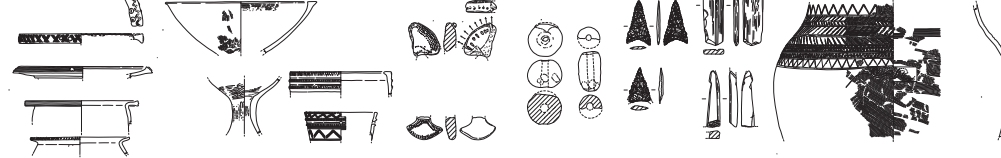
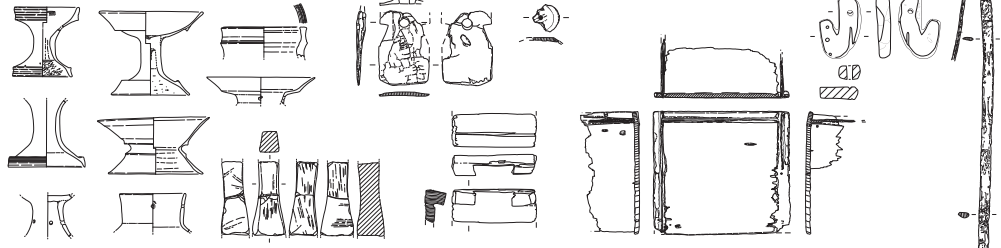
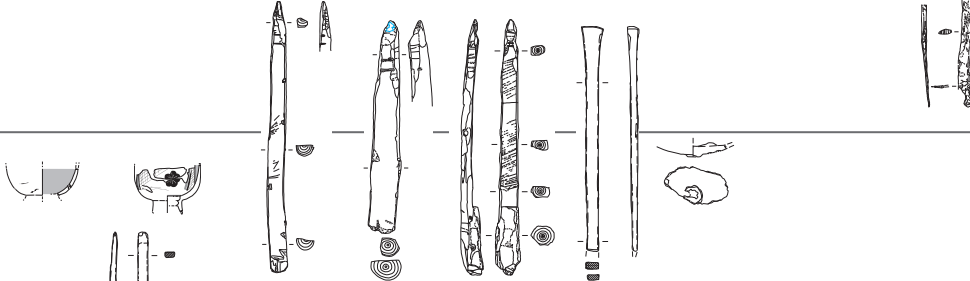







時期	遺構等	概要		主な出土遺物
縄文時代 前期～晩期	内湾成泥層 砂礫層 腐植土層 シルト層	古宍道湖又は古松江湾としての内湾の環境 海退後の河川堆積による微高地の形成	縄文土器	
弥生時代 前期 古相	SD10(大溝) SX01(大溝) SD15(大溝) SK06(溝)	大溝(環壕)の掘削(弥生集落の形成)	突帯文土器 弥生土器 土錘 ウルシ原木 木製農具未製品 木製農具 柄杓 梯子	
弥生時代 前期 新相	SD06(大溝) SD13(大溝)	前期1段階の大溝(環壕)の埋没、新たな大溝(環壕)掘削	弥生土器 土錘 石器 炭化米	
弥生時代 中期		集落の様相は出土遺物から断片的に知られるのみ	弥生土器 絵画土器 漆塗土器 分銅形土製品 石器	
弥生時代 後期	SD07 建物跡	新たな大溝(環壕)の掘削と埋没	弥生土器 石器 ガラス勾玉 木製鎌 木製漆塗蓋 木製箱形容器	
古墳時代 ～古代	河道4 河道4B	朝酌川の旧河道の堆積(河道1・2により堆積層は削られている)	弥生土器 土師器 須恵器 石器	
中世	河道1	朝酌川の旧河道の堆積(朝酌川の旧河道による微高地東側の消失:古墳時代の可能性もある)	土器類 陶磁器 漆器 石器・金属器 卒塔婆	
近世	河道2	旧朝酌川の堆積、河道1の堆積層を削る。	土器類 陶磁器 漆器 石器・金属器	

第265図 西川津遺跡(鶴場地区)の調査成果図

主な出土遺物	SD09の様相	
	水域	砂礫層
		オモカス層
	湿地化	下層
	陸地化と埋没	(橙色砂質土) 黒色粘土層
	陸地化と埋没	黒色土層 上層
	水田?	
	水田?	
	水田?	

期の様相を検討する上での重要な成果が得られている。

本格的に集落が展開される時期は弥生時代前期古相とした段階であり、大溝のSD10・SX01が掘削され、SD15もこの段階の可能性が考えられる。少なくともSD10とSX01の2つの大溝が併存し二重に掘られている可能性が考えられる。またSD10は少なくともSD09の流路に沿うように平面的に穿たれており(第263図)、自然河道を意識して掘削されている可能性が十分考えられる。

また、この段階の自然河道は(SD09)はオモカス層出土の土器から水域からほぼ湿原に変化していた環境と考えられる。大溝以外の遺構は古相・新相といった細かい時期は分からないが小規模な掘立柱建物が4棟(掘立柱建物1～4)存在していたものと推測される。この段階の集落は、自然河道(SD09)の存在から環壕の可能性のある大溝(SD10・SX01・SD15)が縁辺部にあたり、集落の中心はそれらの遺構より北側に広がっている可能性が高い。

鶴場地区の東側については中世の以降の河道1に大きく削られ、微高地に存在したであろう遺構が失われており不明な部分が多いが、海崎地区の当時の生活面の標高は、概ね-1m前後であることから、鶴場地区の標高2m～-1mまで活動域として利用され得る環境であったものと推測される。なお鶴場地区から海崎地区にかけての微地形を検討してみたが、前期とされる幅20m程の溝状遺構が朝酌川の旧河道であれば2つの地区は谷を隔てた対岸に相対するものと考えられるが、溝状遺構の実態が今一つ明確でないことから不明である。周辺の古環境も含めて今後の検討課題である。

弥生時代前期古相の段階では、木製品の生産、漆の採取から漆製品の製作がおこなわれていたものと考えられる。また、出土土器には綾羅木系の土器も含まれており、他地域の影響をみてとることができる。遺跡全体から検討すると、海崎地区の調査成果やB2区の調査成果(第264図)から、ほぼこの段階から木製品、緑色凝灰岩製の管玉、骨角器、石器の生産をおこなっていたことが分かる。また貝塚(貝層)も形成される時期でもあり、そこからは南海産の貝輪も出土している。

SX01からは大量の炭化米が粃の状態出土し、また稲穂の状態のものも見られる。これらと一緒に被熱した粘土塊も見つかっており倉庫等に保管されていたものが火災によって炭化したものである可能性が高い。炭化米以外にも炭化キジが確認されており(第6章第4節)、イネだけでなく雑穀類も含めた複合的な農耕の様相を検討する上での貴重な資料が得られている。また炭化米の形態及びDNA分析の結果(第6章第5節)では、形状の検討から栽培化が進んでいることが示唆され、DNA分析によって温帯ジャポニカ型と雑種(熱帯ジャポニカ型の配列をもつ)が検出され、弥生時代前期には温帯ジャポニカ型と熱帯ジャポニカ型の交雑が起こっていた可能性が指摘されている。またSD10の溝底からはトチノミが集中して見つかり人為的に集積された可能性が考えられ、アク抜きの水さらし等のためのものかもしれない。

自然系遺物については今後の多くの事例も含めての詳細な検討は必要であるが、このような遺物も、イネの伝搬ルートの解明等も含め当時の農耕社会の包括的な研究を進める上で占める割合が高い重要な資料といえる。

鶴場地区と海崎地区の地形的な位置及び時間的な関係が今一つ明確ではないが、この前期古相段階で複数の単位集落の存在(鶴場地区・海崎地区)、農工具等の生産(木製品・石器等)、集落内の農耕祭祀(土笛等)、首長の存在(貝輪)といった拠点集落を特徴付ける要素(田中義昭2011)のうちほとんどがみられることは注目される。



## (3) 弥生時代前期(新相)

弥生時代前期新相とした段階は、大溝のSD06・SD13が掘削され機能していた時期である。前期古相としたSD10等の大溝からは前期新相とした多条の直線文の甕等が若干出土していることから、併存している可能性も考えられるが、基本的には古相の大溝(SD10・SX01)は埋没して相前後してSD06・SD13が掘削されたものと考えられる。SD06とSD13は現在の道路に隔てられており不明な点はあるが連続する可能性が高く、そうなればこの段階の大溝は一重のものであったと考えられる。また、この段階の自然河道(SD09)は、湿原から陸地化していく段階と考えられる。

この段階の鶴場地区の集落は弥生時代前期古相と同じく環壕の可能性のある大溝(SD06・SD13)が縁辺部にあたり、中心はそれらの北側に広がり継続して集落が営まれていた可能性が高い。

出土土器には綾羅木系のものも散見されるが、西部瀬戸内の阿高式(財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター2000)の影響を受けたものもあり注目される。自然系遺物としてはSD13から大量に出土している炭化米がある。炭化米は近接するSX01からも出土しており、また両大溝とも被熱した粘土塊と一緒に出土しており、火災によって炭化している可能性が考えられる。また両溝から出土していることから、併存していた時期がある可能性も考えられる。

## (4) 弥生時代中期

この時期の遺物には特徴的な黒曜石製の石鏃、分銅形土製品、絵画土器がみられ注目されるが、明確な遺構がなく、鶴場地区においては情報が少ない。自然河道(SD09)や古代～近世にかけての河道(河道1・2・4)の堆積物としての土器からのみ窺うことができる。この段階のSD09(自然河道)は堆積が進み、埋没していく過程にある。

この時期の海崎地区では、前期の溝状遺構が幅5～7m程に縮小し、それに沿って貯木場や貝層も位置が変わっている。鶴場地区での集落の様相は不明であるが、遺跡内では活発な活動をみてとれ、集落は継続していると推測される。

## (5) 弥生時代後期

この時期の大溝はSD07が検出されており、前期に見られた大溝とは方向が異なる点が注目される。この時期には自然河道(SD09)は完全に埋没し以降水田等に変わっている可能性が指摘されている。SD07からは、異形のJ字形ガラス勾玉、組合せ箱形容器といった注目される遺物が出土している。またB1区にはこの時期の小形の掘立柱建物が存在している。

この時期の海崎地区では朝酌川の旧河道と考えられるものが検出され、河道に沿って貝層や石列が見られるようである(第264図)。V区とされる調査区からも河道の東岸の傾斜部が確認されている。B2区でもこの時期の可能性のある河道が存在し、旧河道は概ね復元が可能である。海崎地区・鶴場地区周辺におけるこの時期の朝酌川は北西方向から南東方向に抜けていたと考えられ、鶴場地区と海崎地区は河道によって隔てられていたものと推測される。また、鶴場地区の大溝(SD07)の方向は、この朝酌川の旧河道を意識して掘削されている可能性が考えられる。

## (6) 古墳時代～古代

古墳時代以降の様相は海崎地区の微高地上からは解明できず、朝酌川の旧河道である河道1・2・4の堆積物からかろうじて推測できるのみである。この時期の遺構は朝酌川の旧河道である河道4(B)が確認されている。河道4(B)の堆積層は河道1・2により削られており詳細は不明であるが、川底の状況から弥生時代後期に近い方向の流路であった可能性が考えられる。



(7) 中世～近世

中世～近世の河道には河道1と河道2があり、河道1は中世のもので、その堆積層を削って河道2が存在する。B1区の調査区断面の状況から現在の朝酌川の河道方向に徐々に移動していく様相が確認される。少なくともこの段階で、ほぼ現在の朝酌川の河道に近い状況となっていると考えられる。中世の段階には確実に弥生時代の遺構がみられる微高地の東端が削られている。

なお、河道1の4層とした黒色粘質土層は粘性が高く、河道によって削られた微高地の面に沿うように確認される。また古墳時代前半までの土器が出土しており、河道1以前の河道が存在し堆積した層の可能性もある。部分的な層であったために断定することは避けたが、古墳時代前半頃に既に微高地が削られている可能性も否定できない。今後の周辺部の調査成果によって再検討が必要である。

以上述べたように、今回の鶴場地区の調査成果によって、西川津遺跡の縄文時代以降の環境とそれに対応する人々の営みを明らかにすることが可能であることが判明した。特にこれまでの調査では確認されていない弥生時代前期と後期の環壕の可能性がある大溝が確認されたことは、弥生時代の拠点集落としての西川津遺跡の様相を明らかにする上で貴重な成果と考える。

## 第2節 古屋敷Ⅱ遺跡

### 1. 検出遺構

古屋敷Ⅱ遺跡で検出した遺構は表7にまとめているが、主な遺構は加工段1・2・3・4である。これらではピットがいくつか見られたが、掘立柱建物が確認されたものは加工段2のみである。加工段1からは被熱した焼土面が検出され、調査時は認識がなかったが周辺から羽口状の土製品(228-13)もみられることから、金属生産に係る炉等の可能性が存在する。また、この加工段1は松江市教育委員会の調査(松江市教育委員会2011)で検出したSK02に繋がる可能性が高く、そうならば比較的大型の加工段となる。また加工段3及び4の東側にも松江市教育委員会の調査によるSK01とした不定形な落ち込みがあり、これも連続するものとするとならば非常に大型の加工段になるが、明確に同一のものとは判断はできなかった。

これらの遺構の時期は概ね平安時代後半のものとして推測され、出雲地方ではこの時期の集落例が少ないことから重要な資料を提供したと考えられる。

### 2. 出土遺物(第266・267図)

**概要** 古屋敷Ⅱ遺跡で出土した遺物を第266図にまとめた。坏は須恵器・土師器ともみられ、須恵器の無高台坏には直線的な体部のもの(228-3)と内湾気味のもの(228-1)があり、前者がやや新しい特徴をもつ。土師器の無高台坏は直線的に立ち上がるもの(227-5)とやや内湾気味に立ち上がり端部が反るもの(227-8)がある。須恵器の高台坏は直線的に立ち上がるもの(228-4)と若干内湾気味に立ち上がり端部で反るもの(253-13)がみられる。土師器の高台坏は全体が分かるものがごく僅かであるが直線的に立ち上がるもの(227-12)がみられる。それ以外の器種としては蓋(235-14)がごく僅かに確認され、胴部に突帯が付く平瓶が多く出土している印象がある。

これら土師器と須恵器は各加工段からも出土しているが、その殆どは土器溜まりから出土し、加工段出土のものと接合するなど広い範囲に散在している状況であった。これらは若干前後する時期のものはあると思われるが、一括性の高い資料と評価される。これらは、概ね出雲国府跡の16号土坑(島根県教育委員会2003)出土土器と同時期のものとして判断される。

**統計的検討** 今回の遺物整理では、出土している須恵器、土師器について可能な限り個体数等を把握し、それらを表4・5・第267図にまとめ、その詳細は表25・26にもまとめている。

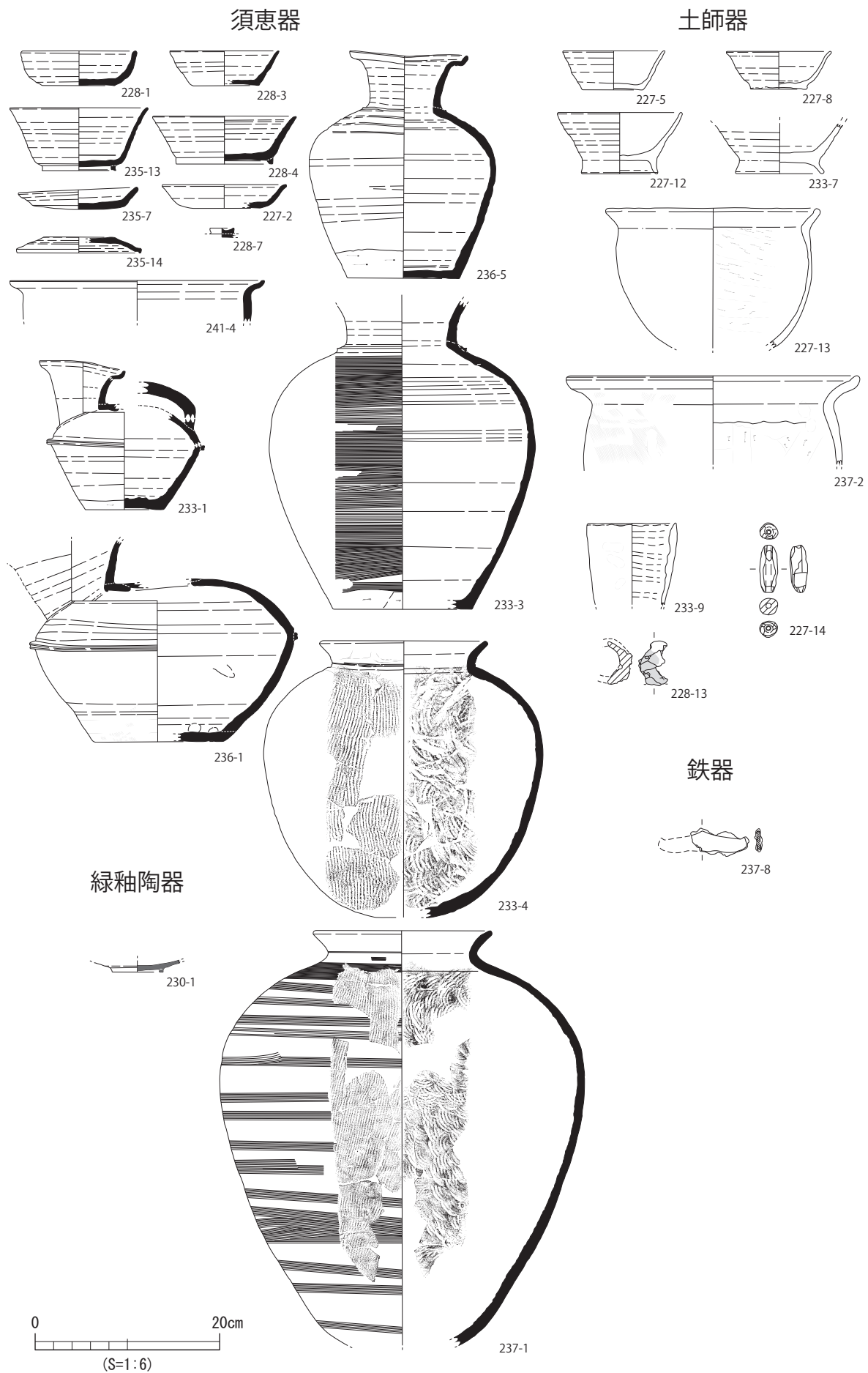
個体数の把握は、坏類は口縁部・底部の残存径に基づいて計測し、その他の器種は平瓶であれば胴部上面の充填部(把手が付く部分)といった個体数の識別が確実な部位をもって計測している。

その結果、坏類の個体数比からみると須恵器が概ね30%前後を占めることが判明した。前述した出雲国府16号土坑では9割以上が土師器といわれており、一般集落と官衙といった性格の違いに起因する可能性が考えられるが、このような個体数を把握する検討事例は少なく、今後の事例の増加をまって再検討が必要と考えられる。

**出土須恵器・土師器の時期** 出土した須恵器・土師器は概ね9世紀後半と考えられているものがあるが、緑釉陶器の年代観は10世紀初頭頃である。緑釉陶器は表土から出土しており、須恵器・

註10 16号土坑の須恵器と土師器の割合については稲田陽介氏に御教示頂いた。

註11 緑釉陶器の時期的な位置付けは、高橋照彦氏に御教示頂いた。



第266図 古屋敷Ⅱ遺跡 出土遺物 総括図

土師器と明らかに共伴したものとはいえないのだが、この年代観も考慮して、出土須恵器・土師器は9世紀後半～10世紀初頭頃に位置付けておきたい。

以上のように、古屋敷Ⅱ遺跡出土土器は、今後の土器編年研究上、重要な資料を提供することになると考えられる。また検出した遺構も平安時代集落の検討に寄与するものと考えられる。

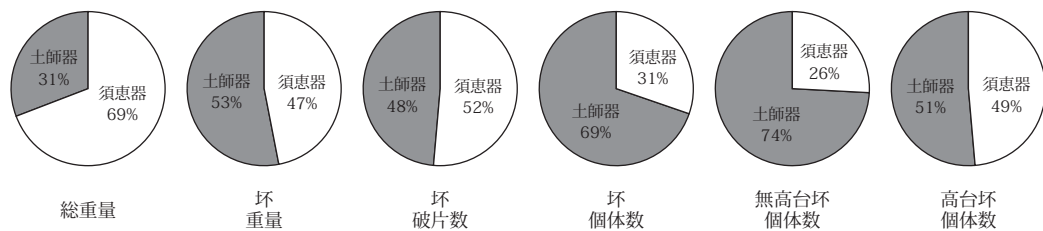
表4 古屋敷Ⅱ遺跡 出土土師器 総括表

無高台坏				高台坏				不明坏				甕			その他			計
破片数	固体数		重量(g)	破片数	固体数		重量(g)	破片数	固体数		重量(g)	破片数	固体数	重量(g)	破片数	固体数	重量(g)	重量(g)
	口縁	底部			口縁	底部			口縁	底部								
308	1.63	87.97	4780	40	0.03	14.63	1276	432	0.75	1.38	1450	589	6.94	7930	78	1	2615	18051

表5 古屋敷Ⅱ遺跡 出土須恵器 総括表

無高台坏 A			無高台坏 B			高台坏			不明坏			皿			蓋						
破片数	個体数		重量(g)	破片数	個体数		重量(g)	破片数	個体数		重量(g)	破片数	個体数		重量(g)	破片数	個体数		重量(g)		
	口縁	底部			口縁	底部			口縁	底部			口縁	底部			口縁	底部			
8	0.72	0.67	103	147	4.97	30.37	2427	59	2.51	13.99	1834	616	11.6	2308	30	2.79	3.97	493	9	1.31	154
鉢			甕			平瓶			壺			瓶・壺類			計						
破片数	個体数		重量(g)	破片数	個体数		重量(g)	破片数	個体数		重量(g)	破片数	個体数		重量(g)	破片数	個体数		重量(g)		
	口縁	底部			口縁	底部			口縁	底部			口縁	底部			口縁	底部			
2	0.24	58	375	9	18649	82	8	6086	104	7	5837	184	0.04	3.36	3013			40962			

須恵器・土師器計量割合



第267図 古屋敷Ⅱ遺跡 出土土器割合図

(参考文献)

- 出雲市教育委員会 2010 『矢野遺跡』
- 江川幸子 2012 「集成 弥生時代の土笛」『松江市史 資料編 2 考古資料』松江市史編集委員会編
- (財)愛媛県埋蔵文化財調査センター 2000 『阿方遺跡・矢田八反坪遺跡』
- 大谷晃二 1994 「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集、島根考古学会
- 大坪志子 2003 「縄文の玉から弥生の玉へー朝鮮半島との比較をとおしてー」『先史学・考古学論究Ⅳ』龍田考古学会
- 岡山県教育委員会 1973 『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査1』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書(3)
- 岡山県教育委員会 2000 『高塚遺跡 三手遺跡 2 山陽自動車道建設に伴う発掘調査18』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書150
- 鹿島町教育委員会 1989 『講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書4 北講武氏元遺跡』
- 川原和人 2012 「出雲地方における弥生時代中・後期の漆について」『古文化談叢』第68集
- 荒神谷博物館 2012 『『古事記』にみえる音と舞～楽器と埴輪の考古学～』荒神谷博物館図録
- 国立歴史民俗博物館編 1997 『銅鐸の絵を読み解く』(「歴博フォーラム」)、小学館
- 小寺智津子 2006 「弥生時代のガラス製品の分類とその副葬品に見る意味」『古文化談叢』第55集
- (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 1997 『雲宮遺跡 京都府遺跡調査報告書 第22冊』
- 佐賀市教育委員会 2008 『東名遺跡ー第二次調査の概要ー』
- 島根県教育委員会 1983 『国道9号線バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』
- 島根県教育委員会 1988 『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅳ(海崎地区2)』
- 島根県教育委員会 1989 『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅴ(海崎地区3)』
- 島根県教育委員会 1999 『西川津遺跡Ⅵ』
- 島根県教育委員会 2001 『西川津遺跡Ⅶ』
- 島根県教育委員会 2003 『史跡出雲国府跡-1-』
- 島根県教育委員会 2011 『苜捨古墳・西川津遺跡』
- 島根県立八雲立つ風土記の丘 2012 『土器から陶器へー民芸の源流に迫るー』2012年度企画展図録
- 島根県教育庁古代文化センター・島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 2006 『島根県における弥生時代・古墳時代の木製品集成』
- 田畑直彦 2003 「山陰地方における綾羅木系土器の展開」『山口大学考古学論集』近藤喬一先生体感記念事業会
- 田中義昭 2011 『弥生時代集落址の研究』新泉社
- 鳥取県教育文化財団 2002 『青谷上寺地遺跡』4
- 中川寧 2001 「島根県・出雲東部地域」『山陰地方における弥生時代前期の地域相』西伯耆弥生集落検討会
- 中川寧 2008 「山陰の漆塗り土器」『吾々の考古学』和田清吾先生還暦記念論集刊行会
- 中原計 2006 「弥生時代の泥除けとその利用木材の変化」『青藍』第三号 考古フォーラム蔵本
- 春成秀爾 2011 『祭りと呪術の考古学』塙書房
- 松江市教育委員会 2005 『田和山遺跡群発掘調査報告1 田和山遺跡』
- 松江市教育委員会 2011 『西川津遺跡C区・古屋敷Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
- 松本岩雄 1992 「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編 木耳社
- 山田康弘 2006 「山陰地方の弥生絵画」『原始絵画の研究 論考編』設楽博己編 六一書房
- 米田克彦 2009 「勾玉祭祀の波及ー弥生時代の中国地方を中心にー」『一山典還暦記念論集 考古学と地域文化』
- Noshiro S., Suzuki M., Sasaki Y. 2007 Importance of Rhus verniciflua Stokes (lacquer tree) in prehistoric periods in Japan, deduced from identification of its fossil woods. *Veget Hist Archaeobot* 16: 405-411



表6 西川津遺跡（鶴場地区） 遺構一覧

調査区	遺構名	規模 (m)				時期	出土遺物	性格等
		長さ	幅	深さ	底面標高			
A1・A2(南)	SD01	13.12	0.31	0.18	1.91~1.69	近現代	弥生土器	暗渠
A1・A2(南)	SD02	17.93	0.33	0.12	1.94~1.84	近現代	弥生土器	暗渠
A1	SD03	16.80	0.43	0.25	1.88~1.78	近現代	須恵器、燻し瓦	暗渠
A1	SD04	16.50	0.38	0.21	1.97~1.73	近現代	須恵器	暗渠
A1・A2(南)	SD05	15.86	0.40	0.12	1.99~1.80	近現代		暗渠
A1	SD06	9.20	1.95	0.81	1.32~1.23	弥生時代前期	弥生土器、石器	大溝
A1	SD07	8.70	3.10	1.01	1.31~1.24	弥生時代後期	弥生土器、石器、ガラス勾玉、木製品	大溝
A1	SD08	4.80	0.32	0.20	1.87~1.85	近現代		暗渠
A1・A2	SD09	32.40	7.95~	1.5~	1.21~0.92			
A1・A2(南)	SD10	26.48	2.85	0.95	1.24~1.15	弥生時代前期	弥生土器、石器、木製品、トチノミ	大溝
B1	SD11	13.00	0.35	0.40	1.56~1.48		弥生土器	暗渠
B1	SD12	13.00	0.35	0.16	1.61~1.60		弥生土器	暗渠
B1	SD13	9.00	2.15	0.80	1.75~1.23	弥生時代前期	弥生土器、石器、木製品、炭化米	大溝
B1	SD14	8.00	0.50	0.10	1.51			微高地内の堆積層
B1	SD15	1.75	1.50~	0.70	1.12~1.01	弥生時代前期	弥生土器、石器、木製品	大溝
A2(北)	SD16	0.72	0.23	0.07	1.91~1.86	近現代		暗渠
A2(北)	SD17	6.12	0.20	0.12	1.92~1.87	近現代		暗渠
A2(北)	SD18	5.44	0.25	0.11	1.83~1.78	近現代		暗渠
A2(北)	SD19	5.28	0.24	0.12	1.85~1.81	近現代		暗渠
(A2(北))	SD20	—	—	—	—	—	—	遺構と判断されず
(A2(北))	SD21	—	—	—	—	—	—	遺構と判断されず
A2(南)	SD22	8.48	0.28	0.18	1.80~1.76	近現代	弥生土器	暗渠
A2(南)	SD23	8.48	0.36	0.20	1.77~1.75	近現代	弥生土器	暗渠
A2(南)	SD24	8.48	0.28	0.17	1.76~1.75	近現代	弥生土器	暗渠
B1	SX01	8.50	2.25	0.70	1.05~0.72	弥生時代前期	弥生土器片、石器、木製品	大溝
B1	SX02	4.84	1.19	0.31	0.91	弥生時代前期~後期	弥生土器片、石器、人頭大の礫	SD15から続くテラス
A2(北)	SX03	0.93	0.48	0.25	1.29	弥生時代中期か		土器溜まり10北西隅の土坑
A2(南)	SX04	2.88	1.23	0.66	0.53	弥生時代前期	柵列	オモカス中の柵列
A2(南)	SX05	2.42	1.52	0.16	1.58	弥生時代前期	弥生土器	SD10西接の落ち込み
A1	SK01	1.21	0.88	0.14	1.85	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	SK02	0.70	0.50	0.70	1.13	弥生時代後期(V-4)	弥生土器片、石材	
B1	SK03	(0.42)	(0.40)	0.38	1.51	弥生時代後期(V-2?)	弥生土器片(甕・器台・低脚環)、石材	
A2(南)	SK04	1.71	1.58	0.35	1.58	弥生時代前期	弥生土器片	土坑
A2(南)	SK05	1.52	1.20	0.11	1.80	弥生時代中期(IV)	弥生土器	土坑
A2(南)	SK06	8.78	1.23	0.52	1.44~1.38	弥生時代前期	弥生土器	溝
A1	P1	0.27	0.26	0.24	1.77	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P2	0.34	0.26	0.07	1.91	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P3	0.24	0.21	0.20	1.79	弥生時代前期か	弥生土器片	
A1	P4	0.55	0.50	0.36	1.63	弥生時代前期	弥生土器小片	
A1	P5	0.50	0.45	0.41	1.58	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P6	0.25	0.20	0.24	1.75	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P7	0.31	0.25	0.24	1.74	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P8	0.19	0.17	0.06	1.93	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P9	欠番				(弥生時代前期)	弥生土器片	
A1	P10	0.35	0.32	0.07	1.91	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P11	0.46	0.27	0.23	1.73	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P12	0.35	0.25	0.31	1.66	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P13	0.37	0.33	0.34	1.65	弥生時代前期	弥生土器片(甕・甕)	
A1	P14	0.40	0.35	0.37	1.63	弥生時代前期	弥生土器片、石材	
A1	P15	0.29	0.28	0.28	1.72	弥生時代前期	弥生土器片(口縁端部等)	
A1	P16	0.42	0.32	0.36	1.61	弥生時代前期	弥生土器片(端部・底部等)、石材	
A1	P17	0.38	0.36	0.28	1.73	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P18	0.36	0.31	0.15	1.85	弥生時代前期	弥生土器片(頸部等)	
A1	P19	0.20	0.18	0.24	1.75			
A1	P20	0.36	0.35	0.31	1.69	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P21	0.31	0.24	0.05	1.84	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P22	0.28	0.27	0.11	1.89	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P23	0.26	0.20	0.19	1.79	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P24	0.29	0.25	0.26	1.69	弥生時代前期か	弥生土器片	
A1	P25	0.30	0.20	0.20	1.78	弥生時代前期か	弥生土器片	
A1	P26	0.62	0.53	0.42	1.53	弥生時代中期以降	弥生土器片、石材	
A1	P27	0.17	0.14	0.06	1.95	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P28	0.36	0.36	0.36	1.63	弥生時代前期	弥生土器片、石材	
A1	P29	0.39	0.27	0.14	1.86	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P30	0.19	0.18	0.18	1.83	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P31	0.19	0.18	0.24	1.74	弥生時代前期	弥生土器小片	
A1	P32	0.20	0.19	0.04	1.96			
A1	P33	0.31	0.26	0.20	1.80	弥生時代前期か	弥生土器片	
A1	P34	0.28	0.25	0.11	1.87			
A1	P35	0.35	0.26	0.05	1.93	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P36	欠番						
A1	P37	0.25	0.21	0.28	1.71	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	P38	0.44	0.35	0.25	1.71		石材	
A1	P39	0.38	0.23	0.28	1.46			
B1	P40	0.33	0.30	0.07	1.93	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P41	0.29	0.27	0.26	1.75	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P42	0.28	0.26	0.29	1.72	弥生時代前期か	弥生土器片	

付表

調査区	遺構名	規 模 (m)				時 期	出 土 遺 物	性 格 等
		長さ	幅	深さ	底面標高			
B1	P43	0.55	0.45	0.23	1.78	弥生時代中期	弥生土器片(口縁部等)	
B1	P44	0.56	0.41	0.74	1.26	弥生時代前期	弥生土器片、石材	
B1	P45	0.38	0.28	0.29	1.53	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P46	0.20	0.20	0.31	1.66	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P47	0.24	0.22	0.13	1.89	弥生時代前期か	弥生土器小片	
B1	P48	(0.57)	(0.25)	0.44	1.56	弥生時代前期	弥生土器片(壺等)	
B1	P49	0.46	0.26	0.28	1.73	弥生時代中期	弥生土器片	
B1	P50	0.26	0.22	0.29	1.67	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P51	0.42	0.26	0.42	1.54	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P52	0.24	0.20	0.36	1.54	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P53	0.42	0.35	0.19	1.63			
B1	P54	0.26	0.20	0.21	1.58	弥生時代前期か	弥生土器片	
B1	P55	0.22	0.19	0.44	1.38	弥生時代中期	弥生土器片	
B1	P56	0.30	0.28	0.16	1.58	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P57	0.22	0.15	0.29	1.47			
B1	P58	0.29	0.24	0.16	1.69	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P59	0.25	0.22	0.31	1.62	弥生時代後期	弥生土器片	
B1	P60	0.36	0.32	0.22	1.71	弥生時代前期か	弥生土器片	
B1	P61	(0.46)	(0.42)	0.32	1.54	弥生時代前期か	弥生土器片	
B1	P62	(0.54)	(0.48)	0.30	1.70	弥生時代後期	弥生土器片	
B1	P63	0.44	0.41	0.19	1.82	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P64	0.46	0.26	0.26	1.07	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P65	0.37	0.27	0.10	1.89	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P66	0.19	0.17	0.15	1.82	弥生時代後期か	弥生土器片(頸部等)	
B1	P67	0.38	0.34	0.19	1.76	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P68	0.23	0.17	0.06	1.85			
B1	P69	0.25	0.20	0.13	1.79	弥生時代後期(V-2)	弥生土器片(複合口縁、器台等)	
B1	P70	0.42	0.34	0.36	1.60	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P71	0.27	0.26	0.20	1.50			
B1	P72	0.55	0.36	0.22	1.61	弥生時代後期(V-1)	弥生土器片(複合口縁等)、石材	
B1	P73	0.26	0.21	0.06	1.72	弥生時代後期か	弥生土器片(底部等)	
B1	P74	0.47	0.40	0.25	1.56	弥生時代後期	弥生土器片(頸部等)	
B1	P75	0.24	0.30	0.28	1.54	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P76	0.26	0.24	0.08	1.62	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P77	0.26	0.20	0.08	1.62	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P78	0.28	0.18	0.10	1.58	弥生時代中期以降か	弥生土器片(頸部等)	
B1	P79	0.28	0.28	0.18	1.80	古墳時代後期	弥生土器片、須恵器片	
B1	P80	0.37	0.33	0.29	1.66	弥生時代後期	弥生土器片	
B1	P81	0.47	0.38	0.22	1.76	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P82	0.32	0.28	0.25	1.74	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P83	(0.35)	(0.28)	0.51	1.39	弥生時代中期以降か	弥生土器片(突帯体部等)	
B1	P84	(0.37)	(0.24)	0.44	1.51	弥生時代後期(V-2)	弥生土器片	
B1	P85	0.40	0.24	0.27	1.68	弥生時代前期か	弥生土器小片	
B1	P86	0.38	0.38	0.48	1.48	弥生時代後期	弥生土器片	
B1	P87	(0.34)	(0.30)	0.15	1.76	弥生時代後期か	弥生土器小片	
B1	P88	(0.42)	(0.32)	0.25	1.64	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P89	(0.54)	(0.43)	0.41	1.49	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P90	(0.52)	(0.30)	0.42	1.50	弥生時代後期(V-4)	弥生土器片、(石材)	
B1	P91	(0.44)	(0.30)	0.15	1.75	弥生時代中期	弥生土器片(甕等)	
B1	P92	0.56	(0.36)	0.23	1.76	弥生時代前期か	弥生土器片(甕等)	
B1	P93	0.40	0.26	0.11	1.83	弥生時代後期(V-1)	弥生土器片	
B1	P94	(0.33)	0.27	0.52	1.44	弥生時代前期	弥生土器片(口縁部・文様片等)	
B1	P95	0.25	0.23	0.39	1.59			
B1	P96	0.28	0.27	0.17	1.64	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P97	0.24	0.21	0.24	1.72	弥生時代中期以降か	弥生土器片	
B1	P98	0.56	0.41	0.34	1.64	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P99	0.34	0.25	0.28	1.69	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P100	(0.52)	(0.50)			弥生時代後期(V-4?)	弥生土器片	
B1	P101	(0.42)	(0.34)			弥生時代前期	弥生土器片(底部等)	
B1	P102	0.17	0.16	0.15	1.75	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P103	0.29	0.15	0.26	1.72	弥生時代前期	弥生土器片(甕頭部等)	
B1	P104	(0.38)	(0.29)	0.39	1.41	弥生時代前期	弥生土器片(壺・文様片等)	
B1	P105	0.30	0.25	0.47	1.45	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P106	0.33	0.30	0.44	1.46	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P107	0.36	0.29	0.56	1.34	弥生時代前期	弥生土器片(底部等)	
B1	P108	0.24	0.20	0.22	1.74	弥生時代前期	弥生土器片(口縁部・文様片等)	
B1	P109	0.21	0.19	0.29	1.64	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P110	0.30	0.29	0.18	1.73	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P111	0.20	0.15	0.14	1.78	弥生時代前期か	弥生土器片	
B1	P112	0.29	0.21	0.30	1.62	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P113	0.36	0.22	0.16	1.48	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P114	0.18	0.16	0.04	1.69			
B1	P115	0.57	0.50	0.07	1.68	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P116	0.44	0.23	0.12	1.51	弥生時代前期	弥生土器片(口縁部等)	
B1	P117	0.23	0.20	0.10	1.56	弥生時代前期	弥生土器片(口縁部等)	
B1	P118	0.20	0.18	0.11	1.57			
B1	P119	0.27	0.22	0.16	1.45	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P120	(0.40)	(0.14)	0.17	1.76	弥生時代後期	弥生土器片(複合口縁等)	

調査区	遺構名	規模 (m)				時期	出土遺物	性格等
		長さ	幅	深さ	底面標高			
B1	P121	0.22	0.20	0.09	1.82	弥生時代前期	弥生土器小片	
B1	P122	0.21	0.16	0.08	1.86			
B1	P123	0.44	0.13	0.30	1.75	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P124	0.54	0.40	0.52	1.11	弥生時代後期か	弥生土器片、石材、木製品	
B1	P125	0.34	0.26	0.29	1.67	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P126	0.37	0.32	0.50	1.50	弥生時代中期(Ⅲ)	弥生土器片(裏等)	
B1	P127	(0.18)	(0.15)	0.19	1.77	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P128	(0.34)	(0.28)	0.30	1.48	弥生時代後期か	弥生土器小片	
B1	P129	(0.22)	(0.18)	0.59	1.20	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P130	0.34	0.33	0.35	1.67	弥生時代前期か	弥生土器小片	
B1	P131	0.22	0.20	0.10	1.90			
B1	P132	0.49	0.49	0.51	1.49	弥生時代後期(V-4)	弥生土器片、石材	
B1	P133	0.23	0.19	0.15	1.86			
B1	P134	0.33	0.32	0.65	1.36	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P135	0.30	0.24	0.23	1.77	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P136	(0.66)	(0.38)	0.54	1.45	弥生時代前期か	弥生土器片	
B1	P137	0.24	0.20	0.10	1.90	弥生時代前期	弥生土器片(口縁部等)	
B1	P138	0.56	0.35	0.36	1.63	弥生時代後期(V-4)	弥生土器片(裏等)	
B1	P139	0.28	0.12	0.07	1.75			
B1	P140	0.24	0.23	0.20	1.81	弥生時代前期か	弥生土器片	
B1	P141	0.53	0.47	0.31	1.69	弥生時代前期か	弥生土器小片	
B1	P142	0.20	0.12	0.04	1.84	弥生時代前期	弥生土器片(底部、文様片等)	
B1	P143	(0.50)	(0.38)	0.26	1.73	弥生時代前期か	弥生土器片	
B1	P144	0.26	0.08	0.32	1.69			
B1	P145	0.20	0.10	0.25	1.66	弥生時代中期以降か	弥生土器片	
B1	P146	0.28	0.16	0.30	1.71	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P147	0.28	0.20	0.32	1.56	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P148	0.22	0.20	0.24	1.57	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P149	0.18	0.17	0.23	1.60	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P150	0.26	0.20	0.14	1.69	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P151	0.26	0.26	0.25	1.60	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P152	0.30	0.30	0.21	1.64	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P153	0.20	0.18	0.09	1.78	弥生時代前期か	弥生土器小片	
B1	P154	0.33	(0.20)	0.32	1.53	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P155	0.22	0.18	0.17	1.68	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P156	0.48	0.34	0.51	1.36	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P157	0.14	0.12	0.17	1.60			
B1	P158	0.19	0.13	0.12	1.64	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P159	0.30	0.25	0.22	1.55	弥生時代前期か	弥生土器小片(端部片等)	
B1	P160	0.22	0.18	0.09	1.72	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P161	(0.40)	(0.28)	0.19	1.64	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P162	0.20	0.19	0.18	1.65	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P163	0.28	0.23	0.13	1.69	弥生時代中期(Ⅲ)	弥生土器片(無文広口壺)	
B1	P164	0.12	0.10	0.07	1.75			
B1	P165	0.35	0.29	0.26	1.58	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P166	0.29	0.28	0.11	1.70	弥生時代中期(Ⅲ?)	弥生土器片(端部片等)	
B1	P167	0.19	0.19	0.15	1.68	弥生時代後期か	弥生土器片	
B1	P168	0.24	0.21	0.16	1.67	弥生時代前期か	弥生土器片	
B1	P169	0.40	0.29	0.09	1.74			
B1	P170	0.25	0.20	0.07	1.72			
B1	P171	0.28	0.26	0.17	1.63	弥生時代前期	弥生土器片、石材	
B1	P172	0.18	0.16	0.18	1.64			
B1	P173	(0.38)	(0.37)	0.56	1.28	弥生時代前期	弥生土器片(口縁部等)、石材	
B1	P174	0.42	0.32	0.40	1.43	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P175	(0.22)	(0.10)	0.18	1.61	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P176	0.23	0.19	0.41	1.34	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P177	0.18	0.16	0.11	1.71			
B1	P178	(0.18)	(0.14)	0.17	1.66	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P179	(0.12)	(0.10)		1.78			
B1	P180	0.48	0.34	0.35	1.39	弥生時代前期	弥生土器片、石材	
B1	P181	0.18	0.15	0.13	1.51			
B1	P182	0.18	0.18	0.06	1.56			
B1	P183	0.24	0.22	0.13	1.50	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P184	0.16	0.14	0.14	1.48			
B1	P185	0.21	0.18	0.09	1.52			
B1	P186	0.15	0.14	0.08	1.55			
B1	P187	0.16	0.14	0.05	1.57			
B1	P188	0.19	0.19	0.10	1.56			
B1	P189	0.18	0.14	0.13	1.52			
B1	P190	0.16	0.12	0.04	1.55			
B1	P191	0.16	0.16	0.26	1.35	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P192	0.24	0.20	0.21	1.40	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P193	0.15	0.14	0.34	1.49			
B1	P194	0.18	0.15	0.03	1.55	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P195	0.16	0.15	0.29	1.27	弥生時代前期か	弥生土器小片	
B1	P196	0.36	0.28	0.10	1.47		石材	
B1	P197	(0.30)	(0.10)	0.12	1.49			
B1	P198	0.19	0.17	0.08	1.55			

付表

調査区	遺構名	規 模 (m)				時 期	出 土 遺 物	性 格 等
		長さ	幅	深さ	底面標高			
B1	P199	0.26	0.22	0.11	1.51			
B1	P200	0.15	0.12	0.08	1.55			
B1	P201	0.32	0.31	0.45	1.38	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P202	0.24	0.20	0.40	1.47	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P203	0.48	0.36	0.28	1.62	弥生時代後期(V-4?)	弥生土器片	
B1	P204	0.17	0.14	0.09	1.82	弥生時代前期か	弥生土器片	
B1	P205	(0.13)	(0.11)	0.05	1.71			
B1	P206	0.45	0.30	0.20	1.70	弥生時代前期か	弥生土器片	
B1	P207	0.20	0.16	0.13	1.77	弥生時代後期	弥生土器片	
B1	P208	0.22	0.20	0.22	1.67	弥生時代前期か	弥生土器片	
B1	P209	0.14	0.14	0.12	1.77			
B1	P210	0.16	0.08	0.11	1.78	弥生時代前期か	弥生土器小片	
B1	P211	0.12	0.12	0.09	1.76			
B1	P212	0.42	0.35	0.26	1.75			
B1	P213	0.24	0.21	0.25	1.62	弥生時代中期以降	弥生土器片(底部等)、石材	
B1	P214	0.16	0.14	0.08	1.78			
B1	P215	0.12	0.10	0.08	1.77	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P216	0.26	0.16	0.13	1.67			
B1	P217	0.26	0.24	0.21	1.67	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P218	0.62	0.28	0.27	1.55	弥生時代前期	弥生土器片(裏端部等)	
B1	P219	(0.15)	(0.06)	0.16	1.56			
B1	P220	0.20	0.12	0.31	1.58			
B1	P221	(0.24)	(0.14)	0.25	1.62			
B1	P222	0.18	0.16	0.15	1.66			
B1	P223	0.25	0.23	0.06	1.74			
B1	P224	0.31	0.30	0.13	1.61	弥生時代前期か	弥生土器小片	
B1	P225	0.23	0.21	0.13	1.62	弥生時代前期	弥生土器片	
B1	P226	(0.29)	0.28	0.18	1.50			
B1	P227	0.12	0.12	0.09	1.58			
B1	P228	0.27	0.24	0.10	1.54	弥生時代前期	弥生土器片(刻目のある端部等)	
B1	P229	0.19	0.17	0.03	1.75			
A2(南)	P230	0.20	0.16	0.10	1.49	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P231	0.46	0.32	0.57	1.37	弥生時代前期	弥生土器片(裏口縁部・底部等)	
A2(南)	P232	0.26	0.24	0.19	1.27	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P233	0.23	0.23	0.12	1.34			
A2(南)	P234	0.21	0.20	0.18	1.71	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P235	0.22	0.20	0.15	1.76	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P236	0.37	0.36	0.20	1.78	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P237	0.28	0.27	0.14	1.31	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P238	0.28	0.20	0.33	1.29	弥生時代前期か	弥生土器片	
A2(南)	P239	0.23	0.21	0.36	1.43	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P240	0.20	0.19	0.23	1.43	弥生時代前期	弥生土器小片	
A2(南)	P241	0.21	0.21	0.33	1.61	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P242	0.32	0.32	0.44	1.16	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P243	0.26	0.18	0.08	1.47			
A2(南)	P244	0.23	0.19	0.18	1.36			
A2(南)	P245	0.25	0.24	0.26	1.29	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P246	0.20	0.18	0.24	1.26	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P247	0.24	0.18	0.22	1.26	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P248	0.25	0.25	0.34	1.50	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P249	0.41	0.39	0.14	1.77	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P250	0.63	0.35	0.40	1.53	弥生時代前期	弥生土器片(突帯文風等)	
A2(南)	P251	0.31	0.31	0.21	1.58	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P252	0.24	0.24	0.56	1.85	弥生時代前期	弥生土器片(裏端部等)	
A2(南)	P253	0.22	0.20	0.28	1.48			
A2(南)	P254	0.28	0.26	0.31	1.50	弥生時代前期	弥生土器片(裏、壺等)	
A2(南)	P255	0.33	0.30	0.38	1.42	弥生時代前期	弥生土器(台付鉢、裏等)	
A2(南)	P256	0.25	0.24	0.30	1.37			
A2(南)	P257	0.65	0.60	0.38	1.47	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P258	0.34	0.28	0.35	1.42			
A2(南)	P259	0.36	0.36	0.33	1.55	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P260	0.23	0.19	0.25	1.59	弥生時代前期	弥生土器片(壺、裏等)	
A2(南)	P261	0.23	0.22	0.33	1.46	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P262	0.20	0.19	0.29	1.54	弥生時代前期	弥生土器片(竹管文等)	
A2(南)	P263	0.22	0.22	0.16	1.69	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P264	0.20	0.18	0.14	1.63			
A2(南)	P265	0.26	0.24	0.24	1.49	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P266	0.22	0.12	0.17	1.50	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P267	0.33	0.31	0.18	1.68			
A2(南)	P268	0.46	0.42	0.33	1.52			
A2(南)	P269	0.30	0.29	0.11	1.49			
A2(南)	P270	0.17	0.16	0.13	1.64			
A2(南)	P271	1.70	1.30	0.23	1.49			
A2(南)	P272	0.36	0.32	0.21	1.50			
A2(南)	P273	0.24	0.24	0.24	1.60	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P274	0.34	0.34	0.58	1.27	弥生時代前期	弥生土器片(底部または蓋、胴部片等)	
A2(南)	P275	0.30	0.29	0.18	1.28	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P276	0.25	0.22	0.17	1.67	弥生時代前期	弥生土器片	

西川津遺跡（鶴場地区） 遺構一覧

調査区	遺構名	規 模 (m)				時 期	出 土 遺 物	性 格 等
		長さ	幅	深さ	底面標高			
A2(南)	P277	0.22	0.19	0.29	1.50			
A2(南)	P278	0.18	0.18	0.30	1.45	弥生時代前期	弥生土器片(文様片等)	
A2(南)	P279	0.17	0.14	0.23	1.45	弥生時代前期	弥生土器片	
A2(南)	P280	0.18	0.15	0.21	1.51	弥生時代前期	弥生土器片	
A1	建物跡1	4.06	3.10			弥生時代前期か	弥生土器片	1間×2間 主軸方位:N-12°-E
A1	建物跡2	2.43				弥生時代前期か	弥生土器片	2間×?間 主軸方位:N-69°-E
B1	建物跡3	4.92	3.80			弥生時代前期か	弥生土器片	2間×2間 主軸方位:N-34°-1
B1	建物跡4	2.80	2.60			弥生時代前期か	弥生土器片	1間×2間 主軸方位:N-30°-W
B1	建物跡5	3.04	1.90			弥生時代後期か	弥生土器片	2間×1間 主軸方位:N-13°-E
B1	建物跡6	3.30	1.80			弥生時代後期か	弥生土器片	2間×1間 主軸方位:N-6°-W
B1	建物跡7	3.50	2.50			弥生時代後期か	弥生土器片	2間×1間 主軸方位:N-17°-W
A1	土器溜まり1	2.20	1.37		1.98	弥生時代前期	弥生土器	SK01の上部
A1	土器溜まり2	0.52	0.36		1.94	弥生時代後期	弥生土器	SD07の上部
A1	土器溜まり3	1.53	1.14		1.93	弥生時代後期	弥生土器	SD07の上部
A1	土器溜まり4	0.68	0.45		1.78	弥生時代後期	弥生土器	SD07の上部
A1	土器溜まり5	0.55	0.40		1.82	弥生時代後期	弥生土器	SD07の上部
A1	土器溜まり6	0.51	0.48		1.83	弥生時代後期	弥生土器	SD07の上部
A1	土器溜まり7	0.74	0.62		1.83	弥生時代後期	弥生土器	SD07の上部
A1	土器溜まり8	0.48	0.47		1.86	弥生時代後期	弥生土器	SD07の上部
A1	土器溜まり9	2.20	1.40		1.91	弥生時代後期	弥生土器	SD07の上部
A2(北)	土器溜まり10	2.90	1.45	0.37	1.36	弥生時代中期	弥生土器	SD09埋土中
A2(北)	土器溜まり11	1.18	0.80		1.28	弥生時代中期	弥生土器	SD09埋土中
A2(南)	土器溜まり12	0.96	0.36		1.63	弥生時代前期	弥生土器	SD09埋土中
B1	河道1	1500.00	13.00	3.00	-1.20~-1.40	中世	土器・陶磁器・石器・木製品	
B1	河道2	1500.00	10.00~	3.00	-1.20~-1.50	中世	土器・陶磁器・石器・木製品	
B1	河道3	—	—	—	—	—	—	遺構と判断されず
B1	河道4	1500.00	7.00~		-1.20	古代	土器・石器	
B1	河道4B	1500.00	2.00~	(0.41)	-1.36~-1.61	古代	土器・石器	
B1	杭列1	1.40				中世~近世		
B1	杭列2-1					中世~近世		
B1	杭列2-2	0.81				中世~近世		



表7 古屋敷Ⅱ遺跡 遺構一覧

調査区	遺構名	規 模 (m)				時 期	出 土 遺 物	性 格 等
		長さ	幅	深さ	底面標高			
西区	加工段1	6.01	3.28	0.56		平安時代	土師器・須恵器	
西区	加工段2	6.58	3.80	0.36		平安時代	土師器・須恵器	
西区	加工段3	10.54	6.60	0.69		平安時代	土師器・須恵器	
西区	加工段4	2.60	2.87	0.94		平安時代		
西区	土器溜まり1	3.50	2.50		16.59	平安時代	土師器・須恵器	
西区	土器溜まり2	5.85	4.00		16.20	平安時代	土師器・須恵器	
西区	掘立柱建物	4.12	2.28			平安時代	土師器・須恵器	2間×1間 主軸方位:N-60°-W
西区	連続ピット列	10.34				平安時代		
西区	SD01	5.28	0.84	0.21	15.27~15.17	不明		
西区	SD02	2.83	0.40	0.10	17.92~17.70	平安時代	土師器・須恵器	
西区	SD03	4.00	0.40	0.14	16.68~16.46	不明		
西区	SX01	0.76	0.60	0.24	17.43	平安時代		
西区	SX02	0.92	0.46	0.29	17.47	平安時代		
西区	SX03	0.62	0.52	0.43	17.11	平安時代		
西区	SX04	0.55	0.34	0.36	16.98	平安時代		
西区	SK01	1.46	0.84	1.03	16.63	不明(縄文時代か?)		底にφ0.2、深さ0.12mのピット落とし穴か
西区	P 1	0.32	0.26	0.26	16.19	平安時代		
西区	P 2	0.36	0.31	0.09	16.33	平安時代		
西区	P 3	0.34	0.25	0.17	16.17	平安時代		
西区	P 4	0.48	0.34	0.26	15.97	平安時代		
西区	P 5	0.40	0.36	0.51	15.59	平安時代		
西区	P 6	0.59	0.56	0.16	15.97	平安時代		
西区	P 7	0.64	0.36	0.11	15.89	平安時代		
西区	P 8	0.75	0.56	0.16	15.79	平安時代		
西区	P 9	0.36	0.13	0.17	15.69	平安時代		
西区	P 10	0.28	0.20	0.17	15.63	平安時代		
西区	P 11	0.23	0.16	0.19	15.51	平安時代		
西区	P 12	0.32	0.24	0.13	15.41	平安時代		
西区	P 13	0.73	0.42			近代以降		
西区	P 14	0.90	0.86	0.31	15.35	平安時代		
西区	P 15	0.60	0.40			近代以降		
西区	P 16	0.58	0.32	0.48	15.56	平安時代		
西区	P 17	0.25	0.24	0.07	16.55	平安時代		
西区	P 18	0.44	0.28	0.09	16.66	平安時代		
西区	P 19	0.23	0.22	0.06	16.80	平安時代		
西区	P 20	0.46	0.31	0.33	16.33	平安時代		
西区	P 21	0.44	0.38	0.18	16.03	平安時代		
西区	P 22	0.40	0.36	0.14	15.87	平安時代		
西区	P 23	0.39	0.37	0.41	15.67	平安時代		
西区	P 24	0.49	0.36	0.15	15.91	平安時代		
西区	P 25	0.42	0.38	0.08	16.01	平安時代		
西区	P 26	0.38	0.24	0.24	15.69	平安時代		
西区	P 27	0.50	0.39	0.22	17.54	平安時代		
西区	P 28	0.24	0.19	0.18	17.87	平安時代		
西区	P 29	0.20	0.19	0.13	17.95	平安時代		
西区	P 30	0.20	0.19	0.14	18.10	平安時代		
西区	P 31	0.47	0.44	0.26	17.88	平安時代		
西区	P 32	0.21	0.14	0.03	18.04	平安時代		
西区	P 33	0.33	0.28	0.12	17.98	平安時代		
西区	P 34	0.20	0.16	0.17	18.28	平安時代		
西区	P 35	0.30	0.24	0.30	17.71	平安時代		
西区	P 36	0.28	0.27	0.18	17.71	平安時代		
西区	P 37	0.32	0.27	0.18	17.71	平安時代		
西区	P 38	0.60	0.54	0.39	17.40	平安時代		
西区	P 39	0.46	0.32	0.44	17.32	平安時代		
西区	P 40	0.62	0.54	0.37	17.26	平安時代		
西区	P 41	0.72	0.53	0.37	17.40	平安時代		
西区	P 42	0.24	0.20	0.13	17.65	平安時代		
西区	P 43	0.26	0.20	0.16	17.43	平安時代		
西区	P 44	0.21	0.20	0.57	16.93	平安時代		
西区	P 45	0.36	0.32	0.40	15.69	平安時代		
西区	P 46	0.27	0.20	0.22	17.24	平安時代		
西区	P 47	0.40	0.35	0.28	15.35	平安時代		
西区	P 48	0.56	0.50	0.20	15.49	平安時代		
西区	P 49	0.36	0.32	0.14	15.66	平安時代		
西区	P 50	0.22	0.20	0.15	15.14	平安時代		
西区	P 51	0.28	0.22	0.11	17.06	平安時代		
西区	P 52	0.18	0.18	0.15	17.09	平安時代		
西区	P 53	0.20	0.20	0.10	17.02	平安時代		
西区	P 54	0.22	0.20	0.29	16.97	平安時代		
西区	P 55	0.28	0.27	0.30	16.67	平安時代		
西区	P 56	0.40	0.38	0.14	16.49	平安時代		
西区	P 57	0.24	0.21	0.17	17.00	平安時代		
西区	P 58	0.24	0.21	0.31	16.70	平安時代		
西区	P 59	0.30	0.26	0.28	16.68	平安時代		

表 8 西川津遺跡出土縄文土器観察表

図	番号	調査区	層位	出土地点	器種	併行形式(時期)	口径(cm)	底径(cm)	色調	胎土	調整・文様	
22	1	A1	砂礫層	微高地	深鉢	西川津式			黄灰色	2.5Y6/2	密(1.5mm以下 白色粒子を多量含む)	外;口縁部粘土帯貼付 ナデ後縦位二枚貝条痕 内;ナデ後二枚貝条痕
23	1	A2(南)	砂礫層	微高地	鉢	不明			外;黒褐色 内;暗灰黄色	2.5Y3/2 2.5Y5/2	密(1~2mm 白色粒子を多量含む)	外;二枚貝条痕 煤付着 内;二枚貝条痕
23	2	A2(南)	砂礫層	微高地	鉢	不明			灰黄色	2.5Y6/2	粗(1~3mm 砂粒を少量含む)	外;二枚貝条痕後ナデ 内;二枚貝条痕
24	1	B1	砂礫層	微高地	鉢	西川津式			外;黒色 内;褐灰色	N1.5/ 10YR4/1	密(1.5mm以下 砂粒を少量含む)	内外;二枚貝条痕
24	2	B1	砂層	微高地	鉢	西川津式			外;明黄褐色 内;黒色	10YR6/6 N1.5/	粗(0.5mm以下 白色粒子を多量含む)	外;二枚貝条痕・ナデ 内;二枚貝条痕 コゲ付着
24	3	B1	砂層	微高地	深鉢か	前期か			灰黄褐色	10YR4/2	やや粗(1.5mm以下 砂粒を中量含む)	外;二枚貝条痕・ナデ 内;二枚貝条痕
24	4	B1	砂層	微高地	深鉢か	前期か			外;にぶい黄褐色 内;黒色	10YR4/3 N1.5/	やや粗(1.5mm以下 砂粒を多量含む)	外;巻貝条痕 内;コゲ付着
24	5	B1	砂層	微高地	深鉢	里木Ⅱ式			黒褐色	10YR3/1	やや粗(1.5mm以下 砂粒を多量含む)	外;RL縄文 内;巻貝条痕
24	6	B1	砂層	微高地	鉢	崎ヶ鼻Ⅱ式 ~沖丈式			灰黄色	2.5Y6/2	密(1mm以下 砂粒を中量含む)	外;口縁部RL縄文・ナデ 内;ミガキ
24	7	B1	砂礫層	微高地	鉢	権現山式 古段階			外;黄褐色 内;黒褐色	2.5Y5/3 2.5Y3/1	密(白色粒子多量, 雲母を含む)	外;口縁部結節縄文・沈線・沈線内刺突文 真性磨り消し縄文 内;ミガキ
24	8	B1	砂礫層	微高地	浅鉢	宮滝式			外;灰黄色 内;灰白色	2.5Y6/2 2.5Y8/1	密(1~2mm 白色粒子を多量含む)	外;凹線 巻貝条痕・ミガキ 内;ミガキ
24	9	B1	砂層	微高地	深鉢	後期			外;灰黄褐色 内;灰黄色	10YR6/4 10YR7/2	密(4mm以下 砂粒を多量含む)	外;ナデ 内;二枚貝条痕 巻貝条痕の併用 内外;煤付着
24	10	B1	砂層	微高地	壺	晩期 前半か			外;にぶい黄褐色 内;黒褐色	10YR5/3 10YR3/1	密(1.5mm以下 砂粒を微量含む)	外;ナデ?・二枚貝条痕 煤付着 内;ナデ コゲ付着
24	11	B1	砂層	微高地	深鉢	不明			灰黄色	2.5Y7/2	粗(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	外;ケズリ 内;巻貝条痕・ナデ
31	1	A2(南)	下層	SD10	鉢	後期			灰黄色	2.5Y7/2	やや密(2mm以下 白色粒子を多量含む)	内外;巻貝条痕・ナデ 内;コゲ付着
31	2	A2(南)	下層	SD10	鉢	後期			外;暗灰黄色 内;にぶい黄色	2.5Y5/2 2.5Y6/3	密(1~2mm 砂粒を中量含む)	外;二枚貝条痕・ナデ 内;ナデ
121	1	A2(北)	砂礫層	SD09	壺か	権現山式 新段階			外;灰黄色 内;黄灰色	2.5Y7/2 2.5Y4/1	やや粗(2.5mm以下 白色粒子を多量含む)	外;沈線・沈線内 末端刺突文 刺突文 巻貝擬似縄文 内;ナデ
121	2	A2(北)	砂礫層	SD09	鉢	突帯文			にぶい黄色	2.5Y6/3	やや粗(0.5~2.5mm 白色粒子を多量含む)	外;口縁部刻目突帯文 内;ナデ
122	1	A2(南)	砂礫層	SD09	深鉢	早期			外;黄灰色 内;黄灰色	2.5Y4/1 2.5Y5/1	やや粗(6mm以下 白色粒子を含む)	外;縄文 内;無節L縄文か
122	2	A2(南)	砂礫層	SD09	深鉢	前期			外;黄灰色 内;黒褐色	2.5Y4/1 2.5Y3/1	密(7mm以下 砂粒を多量含む)	外;二枚貝条痕 内;巻貝条痕・ナデ
122	3	A2(南)	砂礫層	SD09	深鉢	前期か			外;褐灰色 内;黒褐色	10YR6/1 2.5YR3/1	密(4mm以下 白色粒子を多量含む)	内外;二枚貝条痕
122	4	A2(南)	砂礫層	SD09	深鉢	突帯文	(38.2)		外;灰黄色 内;明赤褐色	2.5Y6/2 5YR5/8	密(1~3mm 白色粒子を多量含む)	外;口縁部 突帯文に二枚貝による刻目文 胴部二枚貝腹縁による圧痕・二枚貝条痕 内;二枚貝条痕・ナデ
127	1	A2(北)	オモカス層	SD09	鉢	西川津式			外;灰黄色 内;にぶい黄色	2.5Y6/2 2.5Y6/3	密(2mm以下 白色粒子を多量含む)	外;半裁竹管状工具による押引文 ナデ 内;指頭圧痕・条痕
127	2	A2(北)	オモカス層	SD09	鉢	早期か			外;灰黄色 内;黒褐色	2.5Y6/2 2.5Y3/2	密(黒色粒子微量, 繊維を多量含む)	外;RL縄文 内;縄文か
127	3	A2(北)	オモカス層	SD09	鉢	前期か			外;暗灰黄色 内;黒色	2.5Y5/2 2.5Y2/1	密(白色粒子多量, 繊維を含む)	外;二枚貝条痕 内;条痕(巻貝か)
127	4	A2(北)	オモカス層	SD09	浅鉢	篠原式			外;黄灰色 内;オリブ黒色	2.5Y4/1 5Y3/1	密(2mm以下 白色粒子を多量含む)	外;ナデ 内;ミガキ
127	5	A2(北)	オモカス層	SD09	浅鉢	篠原式~ 谷尻式			外;灰オリブ色 内;オリブ黒色	5Y6/2 5Y3/2	密(1mm大 白色粒子を少量含む)	内;ミガキ
127	6	A2(北)	オモカス層	SD09	深鉢	突帯文			外;にぶい黄色 内;灰白色	2.5Y6/3 2.5Y8/2	密(0.5mm以下 砂粒を微量含む)	外;口縁部突帯文 ナデ 内;ナデ
127	7	A2(北)	オモカス層	SD09	底部	後晩期			外;にぶい黄色 内;黒褐色	2.5Y6/4 2.5Y3/1	やや粗(4mm以下 白色粒子を多量含む)	
128	1	A2(南)	オモカス層	SD09	鉢	篠原式 併行期			暗灰黄色	2.5Y5/2	密(2mm以下 白色粒子を多量含む)	外;ナデ 内;口縁部刺突文
128	2	A2(南)	オモカス層	SD09	浅鉢	晩期			外;灰黄色 内;黄色	2.5Y6/2 2.5Y4/1	密(1mm以下 白色粒子を多量含む)	
128	3	A2(南)	オモカス層	SD09	深鉢	突帯文			外;黄灰色 内;灰色	2.5Y5/1 5Y5/1	密(2mm以下 白色粒子を多量含む)	外;口縁部 突帯文に半裁竹管状工具による刺突文 二枚貝条痕 内;ナデ
153	1	A2(北)	下層	SD09	深鉢	後晩期			外;黄灰色 内;黄灰色	2.5Y7/1 2.5Y5/1	密(2mm以下 白色粒子を多量含む)	外;巻貝条痕?・ナデ 内;二枚貝条痕・ナデ
154	1	A2(南)	下層	SD09	突起部分	晩期			灰黄色	2.5Y6/2	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	内外;指頭圧痕・ナデ
154	2	A2(南)	下層	SD09	鉢	西川津式			灰黄色	2.5Y6/2	密(1mm大 白色粒子を微量含む)	外;半裁竹管状工具による押引文 内;二枚貝条痕
169	1	A2(北)	シルト層	SD09	鉢	突帯文	(31.2)		灰白色	10YR8/2	密(1mm以下 砂粒を多量含む)	外;口縁部突帯文
175	1	A1	埋土	SD09南	鉢	不明			黒褐色	5YR2/1	密(1~3mm 砂粒を少量含む)	
184	1	B1	砂礫層	河道4B	鉢	晩期			外;浅黄色 内;灰白色	2.5Y7/3 7.5YR8/1	密(1mm大 砂粒を少量含む)	外;巻貝条痕 内;巻貝条痕・ナデか
184	2	B1	砂礫層	河道4B	鉢	突帯文期			外;にぶい黄色 内;にぶい黄色	2.5Y6/3 2.5Y6/4	密(3mm以下 白色粒子を多量含む)	内外;巻貝条痕・ナデ
185	1	B1	砂礫層	河道4	鉢	西川津式			外;黒褐色 内;暗灰黄色	2.5Y3/1 2.5Y5/2	密(白色粒子, 雲母を少量含む)	外;突帯部あり 半裁竹管状工具による押引文 内;口縁部刺突文 指頭圧痕・二枚貝条痕・ナデ
185	2	B1	砂礫層	河道4	鉢	西川津式			外;灰黄色 内;灰白色	2.5Y6/2 2.5Y7/1	やや粗(白色粒子, 繊維を含む)	外;刻目微隆帯文 二枚貝条痕 内;二枚貝条痕・ナデ

付表

図	番号	調査区	層位	出土地点	器種	併行形式(時期)	口径(cm)	底径(cm)	色調		胎土	調整・文様
185	3	B1	砂礫層	河道4	鉢	西川津式			外:褐灰色 内:橙色	10YR4/1 5YR6/8	密(2mm以下 砂粒を微量含む)	内外:二枚貝条痕
185	4	B1	砂礫層	河道4	鉢	西川津式			黒褐色	10YR2/1	やや粗(2mm以下 砂粒を微量含む)	内外:二枚貝条痕
185	5	B1	砂礫層	河道4	鉢	西川津式か			外:浅黄色 内:灰白色	5Y7/3 5Y7/2	やや粗(2mm以下 砂粒を多量含む)	外:ナデか 内:二枚貝条痕・ナデ
185	6	B1	砂礫層	河道4	鉢	西川津式か			外:灰黄色 内:にぶい黄色	2.5Y6/2 2.5Y6/3	密(3mm以下 白色粒子を多量含む)	内外:二枚貝条痕
185	7	B1	砂礫層	河道4	鉢	西川津式か			黒褐色	2.5Y3/1	やや粗(2mm以下 白色粒子を微量含む)	外:二枚貝条痕・ナデ 内:条痕・ナデ
185	8	B1	砂礫層	河道4	鉢	西川津式か			外:灰色 内:灰オリブ色	5Y4/1 5Y5/2	やや粗(2mm以下 白色粒子を多量含む)	外:二枚貝条痕 内:ナデ・指頭圧痕
185	9	B1	砂礫層	河道4	鉢	中津式か			外:灰白色 内:灰色	5Y7/2 5Y6/1	密(1mm大 白色粒子を多量含む)	外:沈線 内:二枚貝条痕
185	10	B1	砂礫層	河道4	鉢	後期～ 晩期			灰黄色	2.5Y6/2	密(1mm大 砂粒を多量含む)	外:口縁部意図的に肥厚 巻貝条痕・ナデ 内:ナデ
185	11	B1	砂礫層	河道4	浅鉢	晩期			外:にぶい黄色 内:黒褐色	5Y6/3 2.5Y3/1	密(1mm大 白色粒子を多量含む)	内外:ナデ?
185	12	B1	砂礫層	河道4	鉢	晩期			にぶい黄褐色	10YR7/4	やや粗(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	外:巻貝条痕・ナデ 内:二枚貝条痕・ナデ
185	13	B1	砂礫層	河道4	深鉢	突帯文			灰黄色	2.5Y6/2	密(1mm以下 白色粒子を少量含む)	外:二枚貝腹縁?による刻目貼付突帯文 内外:巻貝条痕・ナデ
185	14	B1	砂礫層	河道4	深鉢	突帯文			浅黄色	2.5Y7/3	密(1mm大 砂粒を微量含む)	外:口縁部突帯文 内外:巻貝条痕・ナデ
185	15	B1	砂礫層	河道4	鉢	突帯文期			外:灰白色 内:灰白色	2.5Y7/1 2.5Y8/1	粗(3mm以下 白色粒子を多量含む)	外:二枚貝内線によるケズリか 内:二枚貝条痕・ナデ
185	16	B1	砂礫層	河道4	鉢	突帯文期			外:浅黄色 内:灰色	2.5Y7/3 5Y6/1	密(2.5mm以下 白色粒子を微量含む)	外:巻貝条痕・ナデ 内:二枚貝条痕・ナデ
185	17	B1	砂礫層	河道4	鉢	不明			外:灰オリブ色 内:灰白色	5Y5/2 5Y7/1	密(白色粒子多量, 雲母を含む)	外:ミガキまたはナデ 内:二枚貝条痕
189	1	B1	4層	河道1	浅鉢	岩田4類式 併行期か			外:黒色 内:暗灰黄色	N1.5/ 2.5Y5/2	密(2mm以下 砂粒を微量含む)	外:沈線文 巻貝条痕・ミガキ 種実圧痕か 内:巻貝殻頂部による沈線 ミガキか
191	1	B1	3d層	河道1	鉢	菱根式			外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR6/3 10YR5/3	やや粗(白色粒子, 雲母を多量含む)	外:RL縄文 内:二枚貝条痕・ナデ
191	2	B1	3d層	河道1	鉢	菱根式			外:にぶい黄褐色 内:黒色	10YR7/3 N1.5/	密(砂粒・雲母少量, 繊維を含む)	外:縄文 内:巻貝条痕 コゲ付着
191	3	B1	3d層	河道1	底部	菱根式か			外:明赤褐色 内:黒褐色	2.5Y6/2 2.5Y3/2	密(白色粒子, 繊維を多量含む)	内:RL縄文・ナデ
191	4	B1	3d層	河道1	鉢	菱根式か			外:黒褐色 内:黒色	2.5Y3/2 N1.5/	やや粗(砂粒微量, 繊維を含む)	外:RL縄文 内:条痕 煤付着
191	5	B1	3d層	河道1	鉢	西川津式			外:黄灰色 内:灰黄色	2.5Y5/1 2.5Y6/2	密(白色粒子多量, 繊維を少量含む)	外:口縁部擬口縁 二枚貝刺突文 内:二枚貝条痕・ナデ
191	6	B1	3d層	河道1	鉢	西川津式			外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR6/4 10YR6/3	密(2.5mm以下 砂粒を少量含む)	外:口縁部折返し口縁 二枚貝条痕文 内:ナデ・二枚貝条痕
191	7	B1	3d層	河道1	鉢	西川津式			外:黒色 内:黒褐色	2.5Y2/1 2.5Y3/2	やや粗(砂粒多量, 繊維を少量含む)	外:口縁部隆帯 二枚貝条痕 内:二枚貝条痕・ナデ
191	8	B1	3d層	河道1	鉢	西川津式か			外:褐灰色 内:褐灰色	2.5Y4/1 2.5Y5/1	密(砂粒少量, 繊維を少量含む)	外:爪形様の押し引文 内:ナデ
191	9	B1	3d層	河道1	鉢	西川津式			外:黒褐色 内:黒褐色	10YR3/1 10YR3/2	密(2.5mm以下 砂粒を少量含む)	外:口縁部刻目文・隆帯 二枚貝条痕 内:二枚貝条痕
191	10	B1	3d層	河道1	鉢	西川津式			外:黒色 内:黒褐色	2.5Y2/1 2.5Y3/1	やや粗(2mm以下 砂粒を微量含む)	外:2条刻目をもつ隆帯 二枚貝条痕 煤付着 内:二枚貝条痕
191	11	B1	3d層	河道1	鉢	西川津式			外:灰黄褐色 内:灰黄褐色	10YR6/2 10YR4/2	密(0.5～2mm 砂粒を微量含む)	外:半裁竹管押し引文 内:二枚貝条痕・ナデ
191	12	B1	3d層	河道1	鉢	西川津式			黒色	N1.5/	密(0.5mm以下 砂粒を多量含む)	内外:二枚貝条痕
191	13	B1	3d層	河道1	鉢	西川津式			外:黒色 内:灰色	N1.5/ 5Y5/1	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	外:二枚貝による刺突文 ナデ 内:二枚貝条痕?後ナデ 指頭圧痕
191	14	B1	3d層	河道1	底部	西川津式			外:にぶい黄褐色 内:浅黄色	10YR7/2 2.5Y8/3	やや粗(3mm以下 砂粒を多量含む)	外:二枚貝条痕 内:ナデか
191	15	B1	3d層	河道1	鉢	長山式か			外:灰黄褐色 内:黒褐色	10YR4/2 2.5Y3/1	やや粗(砂粒少量, 繊維を含む)	内外:ナデ
191	16	B1	3d層	河道1	鉢	前期			外:黒褐色 内:灰黄褐色	10YR3/1 10YR5/2	やや粗(白色粒子, 雲母を多量含む)	外:刺突文 内:ナデ・指頭圧痕
191	17	B1	3d層	河道1	鉢	前期			外:黒褐色 内:黒色	10YR3/1 2.5Y2/1	密(2mm以下 砂粒を少量含む)	内外:二枚貝条痕・ナデ
191	18	B1	3d層	河道1	鉢	前期			外:黒色 内:灰色	N1.5/ 5Y6/1	密(1.5mm以下 砂粒を少量含む)	外:二枚貝条痕・ナデ 内:二枚貝条痕
191	19	B1	3d層	河道1	鉢	前期			外:黄灰色 内:黒褐色	2.5Y4/1 10YR3/1	やや粗(2.5mm以下 砂粒を少量含む)	外:二枚貝条痕・ナデか 内:二枚貝条痕
191	20	B1	3d層	河道1	鉢	前期か			黄灰色	2.5Y5/1	やや粗(雲母多量, 繊維を少量含む)	内外:二枚貝条痕か
191	21	B1	3d層	河道1	鉢	前期か			外:明黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR6/6 10YR6/4	密(2.5mm以下 白色粒子を多量含む)	外:二枚貝条痕 内:ケズリ
191	22	B1	3d層	河道1	鉢	前期か			外:黒褐色 内:暗灰黄色	2.5Y3/2 2.5Y5/2	密(3mm以下 白色粒子を多量含む)	外:二枚貝条痕 内:ナデ
191	23	B1	3d層	河道1	鉢	前期 前葉			外:灰黄褐色 内:黒褐色	10YR4/2 2.5YR3/1	密(1mm以下 砂粒を微量含む)	内外:二枚貝条痕
192	1	B1	3d層	河道1	底部	船元式			外:褐灰色 内:浅黄褐色	10YR4/1 10YR8/3	やや粗(2mm以下 砂粒を多量含む)	外:LR縄文 内:ナデ
192	2	B1	3d層	河道1	鉢	中津式			外:灰白色 内:にぶい黄色	10YR7/1 2.5Y6/4	密(2mm以下 砂粒を少量含む)	外:沈線 RL縄文 内:ナデ?
192	3	B1	3d層	河道1	鉢	中津式			外:褐灰色 内:灰黄褐色	10YR4/1 10YR5/2	密(4mm以下 砂粒を多量含む)	外:沈線 RL縄文・ミガキ 内:ナデ
192	4	B1	3d層	河道1	浅鉢か	中津式～ 福田K2式か			外:にぶい黄褐色 内:灰黄褐色	10YR7/2 10YR5/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	外:沈線・沈線内刺突文 ミガキ 内:ナデ
192	5	B1	3d層	河道1	鉢	五明田式			外:褐色 内:黒色	7.5YR4/6 N1.5/	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	外:沈線文 RL縄文・ミガキか 内:ミガキか

図	番号	調査区	層位	出土地点	器種	併行形式(時期)	口径(cm)	底径(cm)	色調		胎土	調整・文様
192	6	B1	3d層	河道1	鉢	五明田式			褐灰色	10YR4/1	密(1.5mm以下砂粒を多量含む)	外:沈線文 RL縄文 内:ナデ
192	7	B1	3d層	河道1	鉢	崎ヶ鼻 I~II式			外:にぶい赤褐色 内:灰黄褐色	5YR5/4 10YR4/2	やや粗(2.5mm以下白色粒子を多量含む)	外:ナデ・RL縄文 内:ナデ
192	8	B1	3d層	河道1	鉢	沖丈式			外:にぶい黄褐色 内:明黄褐色	10YR6/3 10YR7/6	やや粗(1mm以下砂粒を多量含む)	外:沈線文
192	9	B1	3d層	河道1	鉢	滋賀里III式併行期			外:灰白色 内:明黄褐色	10YR8/1 10YR6/6	やや粗(1mm以下砂粒を少量含む)	内:ナデ・巻貝条痕
192	10	B1	3d層	河道1	鉢	篠原式(原田式)			外:にぶい黄色 内:にぶい黄褐色	2.5Y6/3 10YR6/3	密(1.5mm以下砂粒を少量含む)	外:二枚貝条痕 内:ナデ
192	11	B1	3d層	河道1	鉢	後期か			外:にぶい黄色 内:灰黄色	2.5Y6/3 2.5Y7/2	やや粗(1mm以下白色粒子を多量含む)	外:二枚貝条痕 内:ナデ
192	12	B1	3d層	河道1	深鉢か	後・晩期			外:黒色 内:明黄褐色	7.5Y2/1 10YR6/8	密(2mm以下砂粒を多量含む)	1孔 外:ナデ・ケズリ 内:ナデ
192	13	B1	3d層	河道1	浅鉢	後・晩期			外:黒褐色 内:黒褐色	10YR3/1 2.5YR3/2	密(1.5mm以下砂粒を中量含む)	外:二枚貝条痕?・ナデか 内:二枚貝条痕か
192	14	B1	3d層	河道1	深鉢	後・晩期			灰黄褐色	10YR6/2	密(1mm以下砂粒を多量含む)	外:二枚貝条痕・ナデ 内:二枚貝条痕
192	15	B1	3d層	河道1	深鉢	後・晩期			外:褐灰色 内:にぶい黄褐色	10YR6/1 10YR6/3	やや粗(2.5mm以下砂粒を多量含む)	内:ナデ・巻貝条痕か
192	16	B1	3d層	河道1	深鉢	後・晩期			灰白色	10YR8/2	やや粗(1.5mm以下砂粒を多量含む)	外:巻貝条痕・ナデ 内:巻貝条痕
192	17	B1	3d層	河道1	鉢	後・晩期			にぶい黄褐色	10YR7/2	やや粗(2mm以下砂粒を多量含む)	内外:二枚貝条痕?・ナデか
192	18	B1	3d層	河道1	鉢	後・晩期			外:黒色 内:灰黄褐色	N1.5/ 10YR4/2	密(2mm以下砂粒を微量含む)	内外:ナデ
192	19	B1	3d層	河道1	深鉢	晩期			外:灰白色 内:灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	密(2mm以下砂粒を少量含む)	外:二枚貝条痕・ナデ 内:巻貝条痕
192	20	B1	3d層	河道1	鉢	後・晩期か			外:灰黄褐色 内:灰黄褐色	10YR4/2 10YR5/2	やや粗(2mm以下砂粒を少量含む)	内外:二枚貝条痕
192	21	B1	3d層	河道1	深鉢	突帯文			外:黄灰色 内:にぶい黄色	2.5Y4/1 2.5Y6/4	密(白色粒子多量雲母を微量含む)	外:口縁部二枚貝による刻目突帯文 内外:二枚貝条痕・ナデ
192	22	B1	3d層	河道1	深鉢	突帯文			外:黄灰色 内:にぶい黄色	2.5Y6/1 2.5Y6/3	やや粗(3.5mm以下砂粒を多量含む)	外:口縁部突帯文 指頭圧痕 二枚貝条痕・ナデ 内:指頭圧痕 ナデ
192	23	B1	3d層	河道1	深鉢	突帯文			外:橙色 内:橙色	5YR7/6 7.5YR6/8	やや粗(白色粒子雲母を微量含む)	外:口縁部突帯文 内外:ナデか
192	24	B1	3d層	河道1	深鉢	突帯文			外:明黄褐色 内:黄褐色	10YR6/8 2.5Y5/3	やや粗(2mm以下白色粒子を多量含む)	外:口縁部突帯文 ナデ・二枚貝条痕・ケズリ 内:条痕・ナデ
192	25	B1	3d層	河道1	深鉢	突帯文			外:灰白色 内:灰黄褐色	10YR8/2 10YR6/2	やや粗(4mm以下砂粒を多量含む)	外:口縁部突帯文
192	26	B1	3d層	河道1	浅鉢	突帯文			外:にぶい黄褐色 内:黒褐色	10YR6/3 2.5Y3/1	密(1.5mm以下砂粒を微量含む)	外:頸部黒色物付着 ミガキ 内:ナデ
192	27	B1	3d層	河道1	深鉢	不明			外:灰黄褐色 内:にぶい黄色	10YR5/2 2.5Y6/3	密(2mm以下白色粒子を多量含む)	外:二枚貝条痕・ナデ 内:ケズリ・二枚貝条痕
193	1	B1	砂礫層	河道1	鉢	西川津式			外:黒色 内:にぶい黄色	2.5Y2/1 2.5Y6/4	密(白色粒子雲母を少量含む)	外:半裁竹管による爪形文 ナデ 内:二枚貝条痕
193	2	B1	砂礫層	河道1	鉢	五明田式			外:にぶい黄褐色 内:黄褐色	10YR7/4 10YR7/8	密(2mm以下白色粒子を中量含む)	外:口縁部刻目文・沈線文 RL縄文・磨消縄文 内:二枚貝条痕 コゲ付着
193	3	B1	砂礫層	河道1	浅鉢	谷尻式			外:浅黄色 内:黄灰色	2.5Y7/4 2.5Y4/1	密(白色粒子雲母を多量含む)	外:二枚貝条痕・ナデまたはミガキ 内:ミガキ
193	4	B1	砂礫層	河道1	鉢	後・晩期			外:明赤褐色 内:灰白色	2.5YR5/6 10YR8/1	密(1mm以下砂粒を微量含む)	外:二枚貝条痕・ナデ 赤色顔料塗布か 内:ナデ
199	1	B1	3c層	河道1	鉢	羽島下層II式か			外:黄灰色 内:黒色	2.5Y4/2 2.5Y2/1	密(1mm以下砂粒を中量含む)	外:羽状刺突文・ナデ 種子圧痕 内:ナデ
199	2	B1	3c層	河道1	鉢	前期			外:灰黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR5/2 10YR6/4	密(2mm以下白色粒子を微量含む)	内外:二枚貝条痕・ナデ
199	3	B1	3c層	河道1	鉢	後期か			外:にぶい黄褐色 内:黄灰色	5Y6/4 2.5Y6/1	密(1~2mm白色粒子を多量含む)	外:ナデ 内:二枚貝条痕
199	4	B1	3c層	河道1	浅鉢	晩期か			外:橙色 内:灰黄色	5YR7/6 2.5Y6/2	密(2mm以下白色粒子を多量含む)	外:二枚貝条痕 種子圧痕か 内:ミガキ
204	1	B1	砂礫層	河道2	鉢	菱根式			外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR7/2 10YR7/3	密(1mm以下白色粒子を微量含む)	外:RL縄文 内:二枚貝条痕
204	2	B1	砂礫層	河道2	鉢	西川津式			外:暗灰黄色 内:黄灰色	2.5Y5/2 2.5Y7/1	密(1.5mm以下白色粒子を微量含む)	外:竹管文 二枚貝条痕・ナデ 内:ナデ
204	3	B1	砂礫層	河道2	鉢	西川津式			外:にぶい赤褐色 内:黒褐色	2.5YR5/4 2.5Y3/1	密(白色粒子多量繊維を含む)	外:口縁部刻目文 二枚貝条痕 内:ナデか
204	4	B1	砂礫層	河道2	鉢	西川津式			外:褐灰色 内:にぶい黄褐色	10YR4/1 10YR5/4	やや粗(1.5mm以下砂粒を多量含む)	外:突帯状 押引文
204	5	B1	砂礫層	河道2	鉢	西川津式			外:灰黄色 内:黒色	2.5Y6/2 N1.5/	やや粗(2mm以下砂粒を多量含む)	外:刻目微隆帯 二枚貝条痕か 内:二枚貝条痕
204	6	B1	砂礫層	河道2	鉢	西川津式			外:灰黄褐色 内:黒色	10YR5/2 2.5Y2/1	密(2mm以下砂粒を多量含む)	1孔か 外:ナデ 内:二枚貝条痕
204	7	B1	砂礫層	河道2	鉢	西川津式か			にぶい黄褐色	10YR6/4	密(1mm以下白色粒子を多量含む)	外:二枚貝条痕 内:ナデ
204	8	B1	3d層	河道2	鉢	西川津式か			外:灰黄色 内:黄灰色	2.5Y6/2 2.5Y5/1	密(1mm大白色粒子を少量含む)	内外:二枚貝条痕
204	9	B1	砂礫層	河道2	鉢	中津式			灰黄色	2.5Y6/2	密(1.5mm以下白色粒子を多量含む)	外:沈線文 縄文 内:ミガキ?・ナデ
204	10	B1	3d層	河道2	鉢	沖丈式~権現山式			外:灰色 内:灰オリーブ色	5Y6/1 5Y6/2	密(2mm以下白色粒子を多量含む)	外:2条沈線 内外:ナデ
204	11	B1	3d層	河道2	鉢	晩期			外:灰黄色 内:灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y7/2	密(2mm以下白色粒子を多量含む)	内外:二枚貝条痕?ナデか
204	12	B1	砂礫層	河道2	深鉢	突帯文			明黄褐色	2.5Y7/6	密(1.5mm以下砂粒を多量含む)	外:二枚貝?による刻目突帯文 ナデ 内:ナデ
204	13	B1	砂礫層	河道2	深鉢	突帯文			外:黒褐色 内:褐灰色	10YR3/1 10YR4/1	密(2mm以下砂粒を少量含む)	外:口縁部二枚貝による刻目突帯文 ナデ 内:ナデ
204	14	B1	砂礫層	河道2	深鉢	突帯文			外:にぶい黄褐色 内:浅黄色	10YR7/2 2.5Y7/3	密(2mm以下砂粒を多量含む)	外:口縁部突帯文 巻貝条痕?・ナデ 内:ナデ



付表

図	番号	調査区	層位	出土地点	器種	併行形式(時期)	口径(cm)	底径(cm)	色調		胎土	調整・文様
204	15	B1	砂礫層	河道2	鉢	突帯文か			浅黄色	2.5Y7/4	密(3mm以下 白色粒子を多量含む)	外;口縁部二枚貝による刺突文・突帯文? 二枚貝条痕後ナデ 内;指頭圧痕・ナデ
204	16	B1	砂礫層	河道2	鉢	突帯文期			外;灰白色 内;灰白色	2.5Y8/2 2.5Y7/1	密(3mm以下 白色粒子を多量含む)	外;ケズリ 内;ナデ
212	1	A2(北)	排土		鉢	前期か			外;黄灰色 内;黒褐色	2.5Y4/1 2.5Y3/1	やや粗(0.5~1.5mm 白色粒子を少量含む)	外;二枚貝条痕 内;ナデ・指頭圧痕
212	2	A2(北)	排土		鉢	突帯文			外;黄灰色 内;灰黄色	2.5Y4/1 2.5Y6/2	やや粗(3mm以下 白色粒子を多量含む)	外;口縁部二枚貝?による刻目突帯文 ケズリ・ナデ 内;ナデ
212	3	A2(北)	排土		鉢	突帯文			外;灰黄色 内;黄灰色	2.5Y6/2 2.5Y4/1	やや粗(0.5~2.5mm 白色粒子を少量含む)	外;口縁部二枚貝?による刻目突帯文 ナデ 内;二枚貝条痕・ナデ
212	4	A2(北)	排土		浅鉢	後・晩期			黒色	2.5Y2/1	やや粗(2mm以下 砂粒を微量含む)	外;二枚貝条痕?後ナデ 内;ナデまたはミガキ
213	1	A2(南)	排土		鉢	西川津式			外;黒褐色 内;暗灰黄色	2.5Y3/2 2.5Y4/2	密(1mm以下 白色粒子を微量含む)	外;半裁竹管状工具によるD字形爪形文 内;ナデ・二枚貝条痕
213	2	A2(南)	排土		鉢	不明			外;橙色 内;にぶい橙色	2.5YR6/8 2.5YR6/4	密(1mm以下 白色粒子を多量含む)	外;二枚貝条痕後ナデ 内;ナデ 穀物殻圧痕
214	1	A1		(調査区 排水溝)	深鉢	原田式			外;黄灰色 内;黄灰色	2.5Y4/1 2.5Y6/1	密(2.5mm以下 白色粒子を多量含む)	外;巻貝底部圧痕 巻貝条痕 種実圧痕 内;口縁部円形刺突文 種実圧痕
215	1	B1	排土		鉢	菱根式			外;灰黄色 内;黒褐色	2.5Y6/2 10YR2/2	密(砂粒少量, 繊維を含む)	内外;二枚貝条痕
215	2	B1	排土		鉢	福呂式			にぶい黄橙色	10YR7/3	密(白色粒子多量, 繊維を含む)	外;刻目をもつ隆帯文 内外;LR縄文
215	3	B1	排土		鉢	西川津式			外;黒褐色 内;灰黄褐色	2.5Y3/2 10YR4/2	密(1.5mm以下 砂粒を微量含む)	外;口縁部二枚貝による刺突文 二枚貝条痕 内;ナデ・指頭圧痕 コゲ付着
215	4	B1	排土		鉢	西川津式			灰黄色	2.5Y6/2	密(1mm以下 砂粒を少量含む)	外;口縁部二枚貝による刺突文 3条以上爪形文工具による押引文 内;指頭圧痕か
215	5	B1	排土		鉢	西川津式			黄灰色	2.5Y4/1	密(1mm以下 白色粒子を微量含む)	外;刻目隆帯文 内外;二枚貝条痕
215	6	B1	排土		鉢	西川津式			黒色	2.5G2/1	密(砂粒・雲母少量, 繊維を含む)	内外;ナデ
215	7	B1	排土		土器転用円盤 あるいは鉢	西川津式か			外;明黄褐色 内;黄褐色	2.5Y6/6 2.5Y5/3	密(白色粒子, 雲母を多量含む)	外;ナデ 内;二枚貝条痕
215	8	B1	排土		鉢	羽島下層Ⅱ式・ 北白川下層Ⅱ式			外;灰黄色 内;暗灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y5/2	やや粗(2mm以下 白色粒子を多量含む)	外;爪形文 内外;二枚貝条痕
215	9	B1	排土		鉢	中津式か			外;暗灰黄色 内;灰白色	2.5Y5/2 5Y7/2	やや粗(砂粒, 雲母を多量含む)	外;斜行沈線
215	10	B1	排土		鉢	沖丈式~ 権現山式 古段階			外;灰黄色 内;にぶい黄色	2.5Y7/2 2.5Y6/3	密(1mm以下 白色粒子を多量含む)	外;凹線文 縄文 内;二枚貝条痕か
215	11	B1	排土		鉢	五明田式			外;灰黄色 内;浅黄色	2.5Y7/2 2.5Y7/3	やや粗(2mm以下 白色粒子を多量含む)	外;凹線文 縄文?・ミガキか 内;ナデまたはミガキ
215	12	B1	排土		鉢	崎ヶ鼻Ⅱ式 ~沖丈式			外;浅黄色 内;灰黄色	2.5Y7/3 2.5Y7/2	密(2mm以下 白色粒子を多量含む)	外;ナデ 内;口縁部厚部指頭圧痕・ナデ
215	13	B1	排土		鉢	原田式・ 谷尻式			外;にぶい黄色 内;にぶい橙色	2.5Y6/3 7.5YR7/3	密(5mm以下 砂粒を少量含む)	外;口縁部刻目突帯文 ナデ 内;二枚貝条痕・ナデ
215	14	B1	排土		注口土器	後・晩期			外;灰白色 内;にぶい黄褐色	10YR7/1 10YR7/3	やや粗(3mm以下 白色粒子を多量含む)	内外;ナデ
215	15	B1	排土			後期			灰黄色	2.5Y7/2	やや粗(2mm以下 白色粒子を多量含む)	外;巻貝条痕?・ナデ 内;ナデか
215	16	B1	排土			後・晩期			外;にぶい黄褐色 内;にぶい黄褐色	10YR7/2 10YR7/4	やや粗(1mm大 砂粒を多量含む)	内外;ナデ
215	17	B1	排土		浅鉢か	後・晩期			外;灰黄色 内;灰白色	2.5Y6/2 2.5Y7/1	密(1mm以下 砂粒を微量含む)	内外;ナデ
215	18	B1	排土			後・晩期			外;灰白色 内;浅黄色	2.5Y7/1 2.5Y7/3	密(1mm以下 白色粒子を多量含む)	外;ナデ・ケズリ 内;巻貝条痕



表9 西川津遺跡出土土器・土製品観察表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
32	1	A2(南)	下層	SD10	弥生土器	壺	1/12以下	(19.8)	4.2~		灰白色	2.5Y8/2	密(3.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;ミガキによる段内外;黒斑あり
32	2	A2(南)	下層	SD10	弥生土器	壺	1/6以下		26.4~		外;灰白色内;灰白色	10YR7/1 10YR8/1	密(2mm大砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部板状工具による段 肩部ミガキによる段・羽状文・3条へら描直線文
32	3	A2(南)	下層	SD10	弥生土器	壺	1/8以下		5.8~		外;灰白色内;にぶい黄褐色	10YR8/2 10YR7/2	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;頸部羽状文 胴部5条へら描直線文 赤彩
32	4	A2(南)	下層	SD10	弥生土器	壺	完形		17.1~	8.7	外;灰白色内;灰白色	10YR8/2 10YR8/1	密(5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;底部2条貝殻腹縁による直線文 内外;黒斑あり
32	5	A2(南)	下層	SD10	弥生土器	壺	1/6以下		14.6~		灰白色	2.5Y8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;肩部ハケ状工具による段、刺突文・ 2条へら描直線文
32	6	A2(南)	下層	SD10	弥生土器	甗	1/4以下	29.8	7.2~		外;にぶい黄褐色内;浅黄褐色	10YR7/2 10YR8/3	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部ハケ状工具による刺突文 肩部1条へら描直線文 煤付着
32	7	A2(南)	下層	SD10	弥生土器	甗	1/4以下	25.2	13.7~		にぶい黄褐色	10YR7/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部2条へら描直線文 内外;煤コゲ付着
32	8	A2(南)	下層	SD10	弥生土器	甗	1/2以上	19.8	9.6~		外;灰褐色内;にぶい黄褐色	7.5YR4/2 10YR5/3	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 肩部2条へら描直線文の間に竹管文 内外;煤コゲ付着
32	9	A2(南)	下層	SD10	弥生土器	甗	1/6以下	(29.7)	18.5~		外;灰黄褐色内;にぶい黄褐色	10YR6/2 10YR7/2	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好	内外;煤コゲ付着
32	10	A2(南)	下層	SD10	弥生土器	蓋	1/4以下		7.5~	7.6	浅黄色	2.5YR7/3	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	内外;煤付着
32	11	A2(南)	下層	SD10	弥生土器	底部	完形		6.0~	9.7	外;にぶい黄褐色内;灰白色	10YR7/2 2.5Y8/2	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
33	1	A1	下層	SD10	弥生土器	甗	ほぼ完形	25.8	23.5~		外;浅黄褐色内;にぶい黄褐色	7.5YR8/3 10YR7/3	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 頸部1条へら描直線文 内外;煤コゲ付着
33	2	A1	下層	SD10	弥生土器	甗	1/2以上	28.6	25.1	7.4	灰白色	10YR8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;頸部2条へら描直線文 内外;煤コゲ付着
33	3	A1	下層	SD10	弥生土器	甗	1/2以下	15.8	17.0	6.4	外;灰白色内;にぶい黄褐色	7.5YR8/2 10YR7/2	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	内外;煤コゲ付着
33	4	A1	下層	SD10	弥生土器	甗	小片				外;灰白色内;にぶい黄褐色	10YR7/1 10YR7/2	密(1~3mm砂粒を少量含む)	良好	内外;煤コゲ付着
33	5	A1	下層	SD10	弥生土器	甗(鉢)	1/6以下	(28.6)	17.1~		灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~1mm砂粒を少量含む)	良好	内外;煤コゲ付着
34	1	A1	下層	SD10	弥生土器	壺	1/5以下	44.6	21.5~		浅黄褐色	10YR8/3	密(2mm大砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部板状工具による段 黒斑あり 内外;煤コゲ付着
34	2	A1	下層	SD10	弥生土器	壺	1/4以下	15.6	15.3~	21.8	灰白色	10YR8/2	密(2mm以下砂粒を中量含む)	良好	外;頸部段 肩部段 胴部3条直線文の間に 3条直線文に区画された5段羽状文・3条直線文 炭素吸着 赤彩
34	3	A1	下層	SD10	弥生土器	壺	1/6以下		17.9~		外;にぶい黄褐色内;灰白色	10YR7/2 2.5Y8/2	密(1~3mm砂粒を中量含む)	良好	外;頸部ミガキ工具による段 肩部5条へら描直線文 内外;煤コゲ付着
34	4	A1	下層	SD10	弥生土器	壺底部	1/4以下		4.0~	10.0	外;灰白色内;灰白色	7.5YR8/2 2.5Y7/1	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;底部2条貝殻腹縁による直線文
34	5	A1	下層	SD10	弥生土器	壺底部	完形		28.1~	18.5	外;灰白色内;灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	やや砂(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	内外;黒斑あり
34	6	A1	下層	SD10	ミニチュア土器	胴部	1/3以下				外;にぶい黄褐色内;黒褐色	10YR6/3 2.5Y3/1	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	内;煤付着
34	7	A1	下層	SD10	土製品	土錘	ほぼ完形	長: 4.6	幅: 3.0	孔径: 0.9	灰白色	10YR8/1	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;黒斑あり 貫通孔あり
35	1	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	甗(鉢)	1/4以上	24.0	15.0	6.9	外;淡黄褐色内;灰白色	2.5Y8/3 2.5Y8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;肩部ハケ状工具による段 内外;黒斑あり
35	2	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	甗	1/2以下	22.6	24.9	8.2	外;灰白色内;灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;肩部1条へら描直線文 内外;煤コゲ付着
35	3	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	甗	1/3以下	20.8	9.0~		灰色	2.5Y8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 頸部3条へら描直線文
35	4	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	甗	1/5以下	19.9	9.3~		外;灰白色内;淡黄褐色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;肩部4条へら描直線文
35	5	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	甗	1/5以下	23.7	8.9~		外;褐灰色内;灰色	10YR4/1 10YR8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部ハケ状工具による刻目文 肩部2条へら描直線文・板状工具による刺突文
35	6	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	甗	1/2以下	24.8	10.2~		外;灰白色内;灰黄色	10YR8/1 2.5Y7/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;肩部4条へら描直線文のち3段刺突文 内外;煤コゲ付着
35	7	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	甗	1/2以上	37.8	35.4	10.0	淡黄褐色	10YR8/3	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;肩部4条へら描直線文・1段円形刺突文 内外;黒斑あり
35	8	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	甗	1/8以下	(26.6)	11.9~		にぶい黄褐色	10YR7/4	密(1~4mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 内外;煤コゲ付着
35	9	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	甗	1/10以下	(19.6)	12.8~		外;にぶい黄褐色内;にぶい黄褐色	5YR7/4 10YR7/3	密(2~4mm砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
36	1	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	壺	1/2以下		14.7	7.3	外;淡黄褐色内;灰黄色	2.5Y8/3 2.5Y7/2	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;肩部2条貝殻腹縁による直線文の間に 斜格子文・複合鋸子文 黒斑あり
36	2	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	壺	1/3以下		15.0~		外;灰白色内;浅黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/3	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;頸部4条へら描直線文のち3段刺突文 内外;黒斑あり
36	3	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	壺	1/3以上	17.5	23.7~		灰白色	10YR8/2	密(7mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;頸部段 肩部段・2条へら描直線文
36	4	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	壺	1/2以上	17.5	30.4~	9.9	灰白色	10YR8/2	密(2~4mm砂粒を多量含む)	良好	外;頸部段 肩部段・2条へら描直線文 黒斑あり
36	5	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	蓋	1/4以上		6.7	5.9	外;灰白色内;灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	内;黒斑あり
36	6	A2(南)	上層	SD10	弥生土器	底部	完形		8.5~	9.7	外;灰白色内;淡黄褐色	10YR8/2 2.5Y8/4	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	
36	7	A2(南)	上層	SD10	ミニチュア土器	底部	1/2以上		8.6~	5.8	浅黄褐色	10YR8/3	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;黒斑あり
37	1	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	1/2以上	38.5	39.6	10.4	外;浅黄褐色内;灰白色	10YR8/3 10YR8/2	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 肩部板状工具による段 煤付着 内外;黒斑あり
37	2	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	1/2以上	29.4	23.9	9.0	外;灰白色内;灰白色	10YR8/1 10YR8/2	密(3mm大砂粒を多量含む)	良好	外;1条へら描直線文 内外;黒斑あり
37	3	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	1/4以下	24.0	21.5~		灰白色	2.5Y8/1	密(2mm大砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部ハケ状工具による刻目文 肩部1条へら描直線文 煤付着
37	4	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	ほぼ完形	22.9	24.6	7.6	灰白色	10YR8/2	密(3.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 肩部1条へら描直線文 黒斑あり 煤付着

付表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
37	5	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	1/2以上	25.2	26.2	8.4	灰白色	2.5Y8/2	密(2~5mm砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 頸部1条へラ描直線文 内外:煤コゲ付着
38	1	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	1/3以上	22.8	22.6	7.8	浅黄褐色	10YR8/3	密(5mm砂粒を多量含む)	良好	外:肩部1条へラ描直線文
38	2	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	1/2以下	27.2	19.4~		外:褐灰色 内:灰白色	7.5YR4/1 10YR8/2	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 頸部1条直線文
38	3	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	ほぼ完形	21.8	25.1	8.2	灰白色	2.5Y8/2	密(2~5mm砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 肩部2条へラ描直線文
38	4	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	小片		6.0~		外:灰白色 内:灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部3条へラ描直線文 黒斑あり 逆L字状口縁
38	5	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	1/12以下	(31.0)	8.3~		にぶい黄褐色	10YR6/3	密(4.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:肩部3条へラ描直線文の間に2段円形刺突文
38	6	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	1/2以上	16.6	16.2	5.4	外:淡黄色 内:にぶい黄褐色	2.5YR8/3 10YR7/2	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	内外:煤コゲ付着
38	7	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	1/4以上	19.0	17.4	7.0	灰白色	10YR8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	内外:煤コゲ付着
38	8	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	1/2以上	20.7	13.3		外:にぶい黄褐色 内:淡黄色	10YR7/2 2.5Y8/4	密(4mm以下砂粒を非常に多く含む)	良好	外:黒斑あり
38	9	A1	上層	SD10	弥生土器	鉢	1/2以下	33.1	13.1~		外:灰白色 内:灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	内外:黒斑あり
38	10	A1	上層	SD10	弥生土器	甗(鉢)	1/2以上	27.1	23.9	9.0	灰白色	10YR8/2	密(3.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:煤付着 内外:黒斑あり
39	1	A1	上層	SD10	弥生土器	壺	1/6以上	(17.4)	29.8	(10.0)	灰白色	10YR8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部段 肩部2条3条貝殻縁線による直線文の間に3条の直線文で区画された3~3.5段羽状文
39	2	A1	上層	SD10	弥生土器	壺	1/2以上	19.8	21.1		灰白色	10YR8/1	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部1条へラ描直線文 肩部段
39	3	A1	上層	SD10	弥生土器	壺	1/2以上	18.5	28.4	8.2	灰白色	10YR8/1	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部3条直線文 肩部段 3条貝殻縁線による直線文
39	4	A1	上層	SD10	弥生土器	壺	1/3以下		25.6~		外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	10YR8/4 7.5YR8/3	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:肩部段 6条へラ描直線文
39	5	A1	上層	SD10	弥生土器	壺	1/2以上	18.1	13.3~		外:灰白色 内:にぶい黄褐色	2.5Y8/2 10YR7/2	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部2条へラ描直線文 肩部2条へラ描直線文 黒斑あり
39	6	A1	上層	SD10	弥生土器	壺	1/4以下	20.8			外:灰白色 内:黄灰色	2.5Y8/2 2.5Y4/1	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	内:炭素吸着
40	1	A1	上層	SD10	弥生土器	壺	1/2以上	11.8	13.9	7.6	赤色	10R5/6	やや粗(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	
40	2	A1	上層	SD10	弥生土器	鉢	1/2以上	13.9	8.6	7.0	灰白色	10YR8/2	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	内外:黒斑あり
40	3	A1	上層	SD10	弥生土器	蓋	1/2以上		11.3~	5.4	外:にぶい橙色 内:にぶい黄褐色	2.5YR6/4 10YR6/4	密(3~5mm砂粒を多量含む)	良好	
40	4	A1	上層	SD10	弥生土器	蓋	1/3以上	27.4	10.5	5.4	外:灰白色 内:浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:黒斑あり 内:煤付着
40	5	A1	上層	SD10	弥生土器	壺	1/4以下		13.7~	8.4	外:灰白色 内:灰白色	7.5YR8/2 10YR8/2	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	
40	6	A1	上層	SD10	弥生土器	底部	1/2以下		11.2~	8.0	外:灰白色 内:淡黄色	7.5YR8/1 2.5Y8/3	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	
40	7	A1	上層	SD10	弥生土器	甗	1/2以下		8.5~	9.4	外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	7.5YR8/6 10YR8/3	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	
40	8	A1	上層	SD10	土製品	土笛	ほぼ完形	2.8	7.1		外:灰白色 内:黄灰色	2.5Y8/2 2.5Y4/1	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	6孔 外:黒斑あり 内:炭素吸着
40	9	A1	上層	SD10	土製品	土笛	1/4以下	2.0	4.7~		灰白色	2.5Y8/2	密(0.5mm以下砂粒を微量含む)	良好	1孔
41	1	A1	埋土	SD10	弥生土器	壺	口縁部欠	30.1	45.9	10.7	灰白色	10YR8/2	密(3.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部ハケ状工具による段 肩部板状工具による段 黒斑あり
41	2	A1	埋土	SD10	弥生土器	壺	口縁部欠	17.2	27.6	9.4	外:灰白色 内:浅黄褐色	7.5YR8/1 10YR8/3	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外:頸部,肩部段
41	3	A1	埋土	SD10	弥生土器	壺	ほぼ完形		13.2~		灰白色	10YR8/2	密(2mm大砂粒を少量含む)	良好	外:頸部,肩部段 内外:煤コゲ付着
41	4	A1	埋土	SD10	弥生土器	壺	口縁部欠		17.7~	8.6	外:灰白色 内:浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:肩部段
41	5	A1	埋土	SD10	弥生土器	壺	1/2以上	34.1	17.2~		外:浅黄褐色 内:灰白色	10YR8/3 2.5YR5/8	密(1~5mm砂粒を多量含む)	良好	外:3条頸部へラ描直線文 肩部段
41	6	A1	埋土	SD10	弥生土器	壺	ほぼ完形	26.0	16.1~		外:にぶい橙色 内:にぶい橙色	7.5YR7/4 10YR7/3	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部羽状刻目文 頸部1条へラ描削出し突帯文 肩部1条直線文 赤彩
41	7	A1	埋土	SD10	弥生土器	壺	小片		2.8~		灰白色	10YR8/2	密(2mm以下砂粒を少量含む)	良好	外:口縁部1条直線文 刻目文
41	8	A1	埋土	SD10	弥生土器	壺	小片		6.0~		外:灰白色 内:灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:刻目突帯文
41	9	A1	埋土	SD10	弥生土器	壺	1/2以上		9.5~	7.0	灰白色	7.5YR8/2	密(1~3.5mm砂粒を非常に多量含む)	良好	外:黒斑あり
42	1	A1	埋土	SD10	弥生土器	壺	口縁部欠	20.5	40.1	10.0	灰白色	10YR8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部貼付突帯のち羽状刻目文 黒斑あり
42	2	A1	埋土	SD10	弥生土器	甗	口縁部欠	19.5	21.5	7.6	外:にぶい黄褐色 内:浅黄褐色	10YR7/3 10YR8/3	密(2~4mm砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 頸部1条へラ描直線文 内外:煤コゲ付着
42	3	A1	埋土	SD10	弥生土器	甗	1/6以下	(23.0)	14.7~		外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	10YR8/3 7.5YR8/3	密(1~4mm砂粒を多量含む)	良好	外:頸部1条へラ描直線文
42	4	A1	埋土	SD10	弥生土器	甗	口縁部欠	16.6	16.8	6.3	外:灰白色 内:灰白色	10YR8/1 10YR8/2	密(3mm大砂粒を多量含む)	良好	外:肩部1条へラ描直線文 内外:煤コゲ付着
42	5	A1	埋土	SD10	弥生土器	甗	1/5以下	23.7	11.8~		外:にぶい黄褐色 内:灰白色	10YR7/2 2.5Y8/2	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 肩部1条へラ描直線文
42	6	A1	埋土	SD10	弥生土器	甗	口縁部欠	22.8	25.3	8.4	外:浅黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR8/3 10YR7/4	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外:肩部1条へラ描直線文 内:黒斑あり 内外:煤コゲ付着
42	7	A1	埋土	SD10	弥生土器	甗	1/3以下	29.6	15.3~		外:灰白色 内:灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	密(5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:肩部2条へラ描直線文 内:黒斑あり
42	8	A1	埋土	SD10	弥生土器	甗	1/4以下	20.0	13.0~		外:灰黄色 内:灰白色	2.5Y7/2 2.5Y8/2	密(5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 頸部2条へラ描直線文
43	1	A1	埋土	SD10	弥生土器	甗(鉢)	ほぼ完形	21.2	13.4	7.0	外:赤褐色 内:淡黄色	10YR6/6 2.5Y8/3	密(5mm以下砂粒を多量含む)	良	外:肩部2条へラ描直線文

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
43	2	A1	埋土	SD10	弥生土器	鉢	1/2以下	37.0	12.9		外:淡黄褐色 内:淡黄褐色	7.5YR8/3 10YR8/4	密(2~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 肩部2条へら描直線文
43	3	A1	埋土	SD10	弥生土器	甕	1/4以下	21.6	18.2~		外:にぶい黄褐色 内:浅黄褐色	10YR7/3 2.5Y7/3	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 煤付着
43	4	A1	埋土	SD10	弥生土器	甕	口縁部欠	17.8	17.0	8.0	外:赤褐色 内:灰白色	10R6/6 10YR8/1	粗(5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
43	5	A1	埋土	SD10	弥生土器	甕	1/2以上	17.8	21.9	7.3	外:灰白色 内:灰白色	10YR8/1 2.5Y8/1	密(1~4mm 砂粒を多量含む)	良好	内外:煤コゲ付着
43	6	A1	埋土	SD10	弥生土器	甕(鉢)	ほぼ完形	26.7	21.8	8.2	灰白色	10YR8/2	密(5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
43	7	A1	埋土	SD10	弥生土器	甕	1/4以下	28.4	9.0~		外:にぶい黄褐色 内:灰白色	10YR7/2 10YR8/1	密(1~4mm 砂粒を非常に多量含む)	良好	外:煤付着
43	8	A1	埋土	SD10	弥生土器	甕	1/2以上	12.9	13.4	6.8	外:褐色 内:褐色	5YR7/6 7.5YR7/6	密(4mm以下 砂粒を多量含む)	良好	内:コゲ付着
43	9	A1	埋土	SD10	弥生土器	鉢	1/2以上	15.3	9.6	6.8	外:灰黄色 内:にぶい黄褐色	2.5Y7/2 10YR7/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	内外:煤コゲ付着
44	1	A1	埋土	SD10	弥生土器	蓋	1/2以上	23.8	10.5	5.9	外:にぶい黄褐色 内:浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:黒斑あり 内外:煤コゲ付着
44	2	A1	埋土	SD10	弥生土器	蓋	1/4以下	26.5	6.5		外:灰白色 内:灰白色	10YR8/2 10YR7/1	密(0.5~3mm 砂粒を非常に多量含む)	良好	
44	3	A1	埋土	SD10	弥生土器	底部	ほぼ完形		7.5~	9.0	灰白色	7.5YR8/2	密(2~4mm 砂粒を多量含む)	良好	
44	4	A1	埋土	SD10	弥生土器	底部	1/2以上		12.3~	9.0	外:赤褐色 内:浅黄褐色	10R6/6 10YR8/3	密(1~5mm 砂粒を非常に多量含む)	良	
44	5	A1	埋土	SD10	弥生土器	底部	1/4以下		5.6~	7.6	外:赤褐色 内:にぶい褐色	5YR5/6 7.5YR5/4	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	内:コゲ付着
44	6	A1	埋土	SD10	土製品	不明品	小片	長: 2.6~	幅: 3.1~	厚: 2.6~	灰色	10YR8/2	密(7mm 赤色粒1粒含む)	良好	孔径1mm大の円形刺突多数
44	7	A1	埋土	SD10	土製品	土錘	ほぼ完形	長: 4.3	幅: 2.6	孔径: 6.5~8.5	にぶい黄色	2.5Y6/3	やや粗(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	貫通孔あり
44	8	A1	埋土	SD10	土製品	紡錘車か	1/2以下	径: 2.1~	孔径: 0.5	厚: 1.6	灰白色	2.5Y8/2	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
44	9	A1	埋土	SD10	弥生土器	甕	ほぼ完形	25.4	15.3~		外:灰白色 内:灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	密(2mm以下 砂粒を少量含む)	良好	外:口縁部4~7条擬凹線文 肩部貝殻腹縁による刺突文 内外:煤コゲ付着
50	1	A1	埋土	SD06	弥生土器	壺	1/6以下	(15.9)	3.8~		灰白色	2.5Y8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外:肩部2条へら描直線文
50	2	A1	埋土	SD06	弥生土器	壺	小片		3.5~		外:灰白色 内:褐灰色	10YR8/2 10YR6/1	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:黒斑あり 内:コゲ付着
50	3	A1	埋土	SD06	弥生土器	壺	1/2以上	(18.0~)	6.3		外:灰白色 内:灰白色	10YR8/1 10YR8/2	やや砂(3mm以下 砂粒を非常に多量含む)	良好	外:肩部3条へら描直線文 黒斑あり
50	4	A1	埋土	SD06	弥生土器	壺	1/8以下		8.2~		浅黄褐色	10YR8/3	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:頸部4条貼付帯突文 肩部水滴形あるいは杏仁形の突起貼付
50	5	A1	埋土	SD06	弥生土器	甕	1/4以下	16.9	10.1~		外:にぶい黄褐色 内:灰白色	10YR7/2 10YR8/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:肩部3条へら描直線文
50	6	A1	埋土	SD06	弥生土器	甕	小片		5.8~		外:黒 内:にぶい黄褐色	N2/0 10YR7/4	密(1~2.5mm 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 頸部4条へら描直線文・へら描沈線による段 煤付着
50	7	A1	埋土	SD06	弥生土器	甕	小片	(17.2)	3.5~		外:褐灰色 内:にぶい黄褐色	7.5YR4/1 10YR8/2	密(1~3mm 砂粒をやや多量含む)	良好	外:頸部4条へら描直線文 煤付着 逆L字状口縁
50	8	A1	埋土	SD06	弥生土器	甕	1/4以下	15.4	8.8~		外:灰黄褐色 内:灰白色	10YR6/2 10YR8/2	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:頸部5条へら描直線文 内:コゲ付着
50	9	A1	埋土	SD06	弥生土器	甕	小片		6.1~		灰白色	10YR8/2	密(4.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 頸部7条へら描直線文 煤付着
50	10	A1	埋土	SD06	弥生土器	甕	小片		6.0~		外:にぶい褐色 内:褐色	7.5YR5/4 7.5YR6/6	密(3.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 頸部7条へら描直線文・円形刺突文
50	11	A1	埋土	SD06	弥生土器	甕	小片	(22.8)	6.7~		外:灰白色 内:にぶい黄色	10YR8/2 10YR7/2	密(5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:頸部8条へら描直線文・円形刺突文
50	12	A1	埋土	SD06	弥生土器	甕	小片		5.2~		外:浅黄褐色 内:灰白色	2.5Y7/3 2.5Y8/2	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:頸部3条3段階描直線文
50	13	A1	埋土	SD06	弥生土器	甕	1/8以下	(23.8)	12.3~		灰白色	10YR8/2	密(0.5mm以下 砂粒を非常に多量含む)	良好	
50	14	A1	埋土	SD06	弥生土器	甕	1/4以上	22.0	21.1~		外:灰白色 内:浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	やや砂(3mm以下 砂粒を非常に多量含む)	良好	外:黒斑あり 内外:コゲ付着
50	15	A1	埋土	SD06	弥生土器	甕	小片		4.2~		外:浅黄褐色 内:灰白色	10YR8/3 10YR8/2	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	口縁が玉縁状に肥厚
50	16	A1	埋土	SD06	弥生土器	蓋か	ほぼ完形		7.3~	5.9	外:灰白色 内:灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	密(3.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:黒斑あり 内:炭素吸着
50	17	A1	埋土	SD06	弥生土器	蓋か	ほぼ完形		5.0~	7.1	外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	2.5Y8/3 10YR8/3	密(3.5mm以下 砂粒を非常に多量含む)	良好	外:黒斑あり
50	18	A1	埋土	SD06	弥生土器	底部	ほぼ完形		9.6~	8.2	外:灰白色 内:にぶい黄褐色	10YR8/2 10YR7/4	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:黒斑あり
50	19	A1	埋土	SD06	弥生土器	底部	完形		6.7~	5.9	外:灰白色 内:褐色	2.5Y8/2 5YR7/6	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:煤付着
50	20	A1	埋土	SD06	土製品	不明品	小片		1.9~		外:灰白色 内:黄灰色	10YR8/2 2.5Y6/1	密(1.5mm以下 砂粒を中量含む)	良好	
50	21	A1	埋土	SD06	土製品	不明品	小片		2.0~		灰白色	10YR8/1	密 (砂粒をほとんど含まない)	良好	
55	1	B1	下層	SD13	弥生土器	壺	小片	(20.6)	2.6~		灰白色	10YR8/2	密(0.5~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外:1条沈線、口縁部刻目文 内:口縁部円形刺突文、 2条1条直線文を交互に配置
55	2	B1	下層	SD13	弥生土器	壺	完形	12.4	15.8	7.3	浅黄褐色	10YR8/3	密(1~3mm 砂粒を非常に多量含む)	良好	2個一組穿孔2ヶ所
55	3	B1	下層	SD13	弥生土器	甕	小片		3.4~		外:灰白色 内:灰白色	2.5YR8/2 10YR8/2	密(0.5~2.5mm 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 頸部1条へら描直線文
55	4	B1	下層	SD13	弥生土器	甕	小片		4.2~		灰黄褐色	10YR5/2	密(0.5~5mm 砂粒を少量含む)	良好	外:口縁部5条へら描直線文 煤付着
55	5	B1	下層	SD13	弥生土器	壺	小片		4.9~		外:灰白色 内:灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	密(1~4mm 砂粒を多量含む)	良好	外:頸部突帯文
55	6	B1	下層	SD13	弥生土器	蓋	1/6以下		7.1~	6.2	外:にぶい褐色 内:灰白色	5YR7/4 10YR8/3	密(1~3mm 砂粒を少量含む)	良好	



付表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
55	7	B1	下層	SD13	弥生土器	底部	1/4以下		3.9~	9.8	外;灰白色 内;淡黄色	2.5Y7/1 2.5Y8/3	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
55	8	B1	下層	SD13	弥生土器	底部	1/3以下		3.7~	7.3	灰白色	10YR8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;底部沈線状の凹み 煤付着
55	9	B1	下層	SD13	弥生土器	底部	1/4以下		2.8~	7.0	外;灰白色 内;灰白色	10YR8/1 7.5YR8/2	密(1~4mm 砂粒を多量含む)	良好	1孔
56	1	B1	上層	SD13	弥生土器	壺	1/2以上	18.2	23.8~	12.2	灰白色	10YR8/1	密(0.5~4mm 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部5条へラ描直線文
56	2	B1	上層	SD13	弥生土器	壺	1/6以上	20.0	15.1~		外;黄橙色 内;黄橙色	7.5YR7/8 7.5YR8/8	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部1条直線文か 頸部7条へラ描直線文
56	3	B1	上層	SD13	弥生土器	壺	1/2以下	22.4	9.7~		外;浅黄橙色 内;灰白色	7.5YR8/4 7.5YR8/1	密(1~4mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部1条へラ描直線文 頸部7条へラ描直線文
56	4	B1	上層	SD13	弥生土器	壺	1/6以下	(25.6)	9.1~		灰白色	7.5YR8/2	密(2~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部1条へラ描直線文 頸部7条へラ描直線文
56	5	B1	上層	SD13	弥生土器	小壺	1/3以下		8.8~	5.5	灰白色	10YR8/2	密(0.5~2.5mm 砂粒を少量含む)	良好	
56	6	B1	上層	SD13	弥生土器	小壺	ほぼ完形		11.3~	5.0	灰白色	2.5Y7/1	密(0.2~0.3mm 砂粒をやや多量含む)	良好	外;肩部2条直線文 内外;煤付着
56	7	B1	上層	SD13	弥生土器	甗	1/8以下	(33.0)	9.8~		外;灰白色 内;浅黄橙色	10YR8/1 7.5YR8/3	密(1~3mm 砂粒を少量含む)	良好	外;頸部4条へラ描直線文後間に2段 刺突文
56	8	B1	上層	SD13	弥生土器	甗	口縁部欠	24.4	28.5~	8.0	外;褐色 内;灰白色	5YR7/6 10YR8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 頸部6条へラ描 直線文
56	9	B1	上層	SD13	弥生土器	甗	1/10以下	(23.7)	9.1~		外;褐色 内;灰白色	7.5YR4/1 10YR8/2	密(3mm以下 砂粒をやや多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 頸部6条へラ描直線文・円形刺突文
56	10	B1	上層	SD13	弥生土器	甗	1/4以下	21.4	19.3~	7.4	外;浅黄橙色 内;浅黄橙色	10YR8/3 7.5YR8/4	密(0.5~4mm 砂粒を多量含む)	良好	
56	11	B1	上層	SD13	弥生土器	甗	1/2以上	15.4	16.1	6.4	外;明褐色 内;灰白色	7.5YR7/2 7.5YR8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	内外;煤付着
56	12	B1	上層	SD13	弥生土器	鉢	口縁部欠	14.0	12.3	7.0	にぶい赤橙色	10YR6/6	密(0.2~0.3mm 砂粒を非常に多量含む)	良好	
56	13	B1	上層	SD13	弥生土器	甗	1/8以上	21.4	5.0~		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	密(2~3mm 砂粒を多量含む)	良好	逆L字状口縁
56	14	B1	上層	SD13	弥生土器	無頸壺	1/8以下	(11.0)	8.3~		外;黄灰色 内;淡赤橙色	2.5Y6/1 2.5Y7/4	密(1~3.5mm 砂粒を非常に多量含む)	良好	外;1箇所把手(穿孔あり)
56	15	B1	上層	SD13	弥生土器	無頸壺	小片		2.9~		外;灰白色 内;浅黄橙色	10YR8/2 10YR8/3	密(1mm大 砂粒を少量含む)	良好	
56	16	B1	上層	SD13	弥生土器	甗又は壺	1/4以下	15.4	3.5~		灰白色	2.5Y8/2	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	
56	17	B1	上層	SD13	弥生土器	甗又は壺	1/6以上	26.0	5.0~		外;褐色 内;にぶい黄橙色	10YR5/1 10YR7/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
57	1	B1	上層	SD13	弥生土器	文様片(壺)	小片		4.4~		浅黄橙色	7.5YR8/3	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	内;3条突帯
57	2	B1	上層	SD13	弥生土器	文様片(壺)	小片		2.2~		外;浅黄橙色 内;灰白色	7.5YR8/4 7.5YR8/2	密(1mm大 砂粒を少量含む)	良好	外;1条直線文・羽状文
57	3	B1	上層	SD13	弥生土器	文様片(壺)	小片		2.7~		外;にぶい黄橙色 内;黄灰色	10YR7/3 2.5Y4/1	密(0.5~4mm 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部3条直線文・1段羽状文 内;煤付着
57	4	B1	上層	SD13	弥生土器	文様片	小片		2.5~		浅黄橙色	10YR8/3	密(0.5mm大 砂粒を少量含む)	良好	外;刺突文・5条以上へラ描直線文
57	5	B1	上層	SD13	弥生土器	文様片(壺)	小片		5.4~		外;にぶい黄橙色 内;黄灰色	10YR7/3 2.5Y4/1	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;直線文の間に胴部2段円形刺突文
57	6	B1	上層	SD13	弥生土器	文様片	小片		2.3~		灰白色	10YR8/2	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外;刺突文
57	7	B1	上層	SD13	弥生土器	文様片	小片		3.5~		外;浅黄橙色 内;灰白色	10YR8/4 10YR8/1	密(0.5~4mm 砂粒を少量含む)	良好	外;1条へラ描直線文
57	8	B1	上層	SD13	弥生土器	蓋	口縁部欠	21.6	11.3	7.4	外;灰白色 内;灰白色	10YR7/1 10YR8/1	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	内外;煤付着
57	9	B1	上層	SD13	弥生土器	蓋	1/2以上		9.5~	5.2	浅黄橙色	10YR8/3	密(2~3mm 砂粒を多量含む)	良好	内;煤付着
57	10	B1	上層	SD13	弥生土器	底部	完形		4.7~	8.2	外;灰白色 内;灰白色	N8/ 2.5Y8/1	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
57	11	B1	上層	SD13	弥生土器	底部	ほぼ完形		6.1~	10.7	灰白色	10YR8/1	密(1~4mm 砂粒を多量含む)	良好	
57	12	B1	上層	SD13	弥生土器	底部	1/2以下		8.5~	13.5	外;灰白色 内;灰白色	10YR7/1 10YR8/1	密(1~5mm 砂粒を多量含む)	良好	
57	13	B1	上層	SD13	弥生土器	底部	1/6以上		7.0~	8.6	外;灰白色 内;灰白色	7.5YR8/2 2.5Y8/1	密(1~4mm 砂粒を多量含む)	良好	
57	14	B1	上層	SD13	弥生土器	底部	完形		4.5~	10.2	灰白色	10YR8/1	密(0.5~5mm 砂粒を多量含む)	やや不良	
57	15	B1	上層	SD13	弥生土器	底部	完形		7.6~	7.6	外;灰白色 内;浅黄橙色	7.5YR8/2 10YR8/3	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
57	16	B1	上層	SD13	弥生土器	底部	完形		7.1~	8.0	灰白色	2.5Y7/1	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
57	17	B1	上層	SD13	弥生土器	底部	完形		6.6~	6.8	明褐色	7.5YR7/1	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
57	18	B1	上層	SD13	土製品	土器転用円盤	ほぼ完形	長径: 4.0	短径: 3.5	厚: 1.0	外;褐色 内;灰白色	10YR4/1 10YR8/2	密(1mm以下 砂粒を少量含む)	良好	土器を転用
58	1	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	壺	1/2以上	19.9	22.8	9.0	灰白色	10YR8/1	密(0.5~3.5mm 砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部刻目文 頸部6条へラ描 直線文
58	2	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	壺	小片		1.7~		灰白色	10YR8/1	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	
58	3	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	壺か	1/4以下	15.4	6.5~		外;浅黄橙色 内;浅黄橙色	7.5YR8/3 10YR8/3	密(1~3mm 砂粒をやや多量含む)	良好	
58	4	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	小壺	1/4以下		10.5~	5.4	にぶい黄橙色	5YR5/4	密(2~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
58	5	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	短頸壺	小片		3.3~		黄灰色	2.5Y4/1	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
58	6	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	短頸壺	1/3以上	10.8	23.5	7.6	外;灰白色 内;灰白色	7.5YR8/2 10YR8/2	密(2~3mm 砂粒を多量含む)	良好	内外;煤付着
58	7	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	短頸壺	ほぼ完形	9.7	22.6	8.6	灰白色	10YR8/1	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部 胴部8条へラ描直線文

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
58	8	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	鉢	1/6以下	(25.0)	7.2~		灰白色	10YR8/2	密(0.5~2mm砂粒を少量含む)	良好	
58	9	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	鉢	1/6以下	(18.0)	5.5~		灰白色	5YR8/2	密(1~4mm砂粒を多量含む)	良好	
58	10	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	甕	1/4以下	17.7	13.2~		外;褐灰色内;にぶい橙色	5YR6/1 7.5YR7/1	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	
58	11	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	甕	1/6以下	(20.5)	13.4~		外;褐灰色内;褐灰色	5YR5/1 7.5YR6/1	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	
58	12	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	甕	1/6以下		5.3~		淡黄色	2.5YR8/3	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	
58	13	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	甕	1/6以下	(30.0)	14.5~		外;灰白色内;灰白色	10YR8/1 10YR8/2	密(1~4mm砂粒を多量含む)	良好	
58	14	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	甕	1/2以上	22.0	13.0~		外;明褐灰色内;にぶい黄橙色	7.5YR7/2 10YR7/2	密(1~4mm砂粒を多量含む)	良好	
58	15	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	甕	1/6以下	(26.9)	6.1~		外;灰黄褐色内;にぶい黄褐色	10YR4/2 10YR6/3	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	
58	16	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	甕	口縁部欠	21.0	22.3	6.6	外;淡黄褐色内;淡褐色	7.5YR8/4 5YR8/3	密(1~4mm砂粒を多量含む)	良好	外;肩部1条直線文
58	17	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	甕	小片		6.3~		外;にぶい黄褐色内;灰白色	10YR7/2 10YR8/1	密(1~4mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部1条へラ描直線文煤付着
58	18	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	甕	小片		6.4~		外;褐灰色内;にぶい黄褐色	10YR5/1 10YR7/2	密(1~4mm砂粒を少量含む)	良好	外;肩部6条へラ描直線文煤付着
58	19	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	甕	1/6以下	25.6	12.0~		外;浅黄褐色内;灰白色	10YR8/3 10YR8/2	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;肩部6条へラ描直線文煤付着
58	20	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	甕	1/6以下	(31.6)	4.6~		にぶい黄褐色	10YR7/3	密(0.5~1mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部5条へラ描直線文
58	21	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	甕	小片	(12.0)	3.9~		灰白色	10YR8/2	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好	
59	1	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	蓋	1/4以上		8.4~		外;灰白色内;にぶい赤褐色	10YR8/1 10R6/4	密(1~4mm砂粒を多量含む)	良好	
59	2	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	壺	小片		4.5~		外;にぶい橙色内;にぶい橙色	7.5YR7/3 5YR7/4	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部3条凹線文
59	3	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	底部	完形		6.2~	6.7	外;橙色内;浅黄褐色	2.5YR6/6 10YR8/3	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	
59	4	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	底部	ほぼ完形		4.2~	7.4	外;明褐灰色内;にぶい橙色	7.5YR7/2 7.5YR7/4	密(3~4mm砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
59	5	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	底部	1/4以下		3.6~	8.2	外;灰白色内;淡赤褐色	2.5Y7/1 2.5YR7/4	密(0.5~5mm砂粒を多量含む)	良好	
59	6	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	胴部下半	完形		19.8~	8.0	外;浅黄褐色内;浅黄褐色	7.5YR8/3 10YR8/3	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	内外;煤付着
59	7	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	底部	完形		8.9~	8.0	外;灰白色内;灰白色	5YR8/2 10YR8/2	密(0.5~3.5mm砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
59	8	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	底部	1/2以上		9.5~	8.4	外;にぶい橙色内;灰白色	7.5YR7/4 10YR8/2	密(1~4mm砂粒を多量含む)	良好	
59	9	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	底部	1/2以上		12.0~	7.9	外;にぶい赤褐色内;にぶい赤褐色	10R6/4 10R6/3	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	
59	10	B1	最終埋土	SD13	弥生土器	底部	1/2以下		10.9~	7.0	外;にぶい橙色内;灰黄色	5YR7/3 2.5Y7/2	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	
59	11	B1	最終埋土	SD13	土製品	土錘	ほぼ完形	径: 3.4	孔径: 0.5	厚: 2.8~	褐灰色	10YR4/1	密(2mm大砂粒をごく微量含む)	良好	
64	1	B1	下層	SX01	弥生土器	壺	1/6以下	(29.2)	4.5~		灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~2mm砂粒を少量含む)	良好	
64	2	B1	下層	SX01	弥生土器	壺	小片		5.7~		外;灰白色内;灰白色	10YR7/1 10YR8/1	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;肩部段煤付着
64	3	B1	下層	SX01	弥生土器	壺か	小片		2.2~		灰白色	10YR8/2	密(1mm以下砂粒を微量含む)	良好	
64	4	B1	下層	SX01	弥生土器	甕	1/6以下	(20.4)	8.6~		外;にぶい黄褐色内;にぶい黄褐色	10YR7/2 10YR7/3	密(1~1.5mm砂粒を少量含む)	良好	外;胴部1条へラ描直線文
64	5	B1	下層	SX01	弥生土器	甕	1/4以下	21.0	11.4~		淡赤褐色	2.5YR7/3	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 胴部2条1条へラ描直線文の間に円形刺突文内外;煤付着
64	6	B1	下層	SX01	弥生土器	甕	小片		4.6~		外;灰白色内;浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(1mm大砂粒を少量含む)	良好	外;胴部4条へラ描直線文煤付着
64	7	B1	下層	SX01	弥生土器	甕	1/6以下	(21.2)	8.5~		外;にぶい黄褐色内;浅黄褐色	10YR7/2 10YR8/3	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文
64	8	B1	下層	SX01	弥生土器	甕	1/6以下	(20.0)	5.2~		外;灰黄褐色内;灰白色	10YR6/2 2.5Y8/2	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	外;煤付着
64	9	B1	下層	SX01	弥生土器	甕	1/6以下	(20.6)	6.0~		外;灰白色内;灰色	2.5Y7/1 N6/	密(0.5~2mm砂粒を少量含む)	良好	
64	10	B1	下層	SX01	弥生土器	無頸壺	小片	(9.0)	2.1~		外;灰色内;灰色	N/4 N/5	密(0.5大砂粒を微量含む)	良好	
64	11	B1	下層	SX01	弥生土器	蓋か	小片		3.0~		外;灰白色内;灰黄褐色	10YR7/1 10YR6/2	密(1mm以下砂粒を微量含む)	良好	内;煤付着
64	12	B1	下層	SX01	弥生土器	文様片(壺)	小片		3.4~		外;灰白色	10YR8/2	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;段・3条直線文・羽状文
64	13	B1	下層	SX01	弥生土器	文様片(壺)	小片		5.9~		外;灰白色内;灰白色	2.5Y7/1 2.5Y8/2	密(0.5~1mm砂粒を少量含む)	良好	外;段・5段羽状文
64	14	B1	下層	SX01	弥生土器	文様片(壺)	小片		2.0~		外;灰白色内;灰白色	10YR8/2 10YR8/1	密(0.5mm大砂粒を少量含む)	良好	外;直線文・羽状文
64	15	B1	下層	SX01	弥生土器	文様片(壺)	小片		3.0~		外;灰白色内;灰白色	10YR8/2 10YR8/1	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好	外;段・2条へラ描直線文
64	16	B1	下層	SX01	弥生土器	文様片(壺)	小片		7.1~		灰白色	10YR8/2	密(0.5~1.5mm砂粒を少量含む)	良好	外;3条直線文
64	17	B1	下層	SX01	弥生土器	文様片(壺)	小片		5.2~		外;にぶい黄褐色内;灰黄色	10YR7/2 2.5Y7/2	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好	外;1条へラ描直線文の間に刺突文煤付着
64	18	B1	下層	SX01	弥生土器	胴部片	小片		3.9~		外;灰白色内;灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	1箇所穿孔
64	19	B1	下層	SX01	弥生土器	底部	1/2以下		2.0~	4.6	灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~1.5mm砂粒を少量含む)	良好	
64	20	B1	下層	SX01	弥生土器	底部	1/6以上		7.2~	7.2	外;明褐灰色内;灰黄褐色	7.5YR7/2 10YR6/2	密(0.5~3mm砂粒をやや多量含む)	良好	外;煤付着



Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
64	21	B1	下層	SX01	弥生土器	底部	1/2以下		4.0~	10.0	灰白色	10YR8/2	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好	
64	22	B1	下層	SX01	弥生土器	底部	1/6以下		3.0~	(14.0)	灰白色	10YR8/1	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	
65	1	B1	上層	SX01	弥生土器	壺	小片		3.3~		外;にぶい黄橙色内;灰白色	10YR7/2 10YR8/2	密(0.5~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部1条直線文か
65	2	B1	上層	SX01	弥生土器	壺	1/8以下	(28.9)	4.4~		外;灰白色内;橙色	10YR8/1 5YR7/6	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部1条直線文か 頸部1条ヘラ描直線文
65	3	B1	上層	SX01	弥生土器	壺	1/6以下		9.2~		外;淡黄橙色内;灰白色	10YR8/3 2.5YR8/1	密(1~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部2条刻目文をもつ突帯文 貝殻腹縁による直線文羽状文を交互に配置
65	4	B1	上層	SX01	弥生土器	壺	1/4以下		10.0~		外;灰白色内;灰白色	2.5Y8/1 10YR8/1	密(1~3mm砂粒を少量含む)	良好	
65	5	B1	上層	SX01	弥生土器	壺	小片		6.2~		灰白色	10YR8/1	密(0.5~2mm砂粒を微量含む)	良好	外;頸部段煤付着
65	6	B1	上層	SX01	弥生土器	甗	1/12以下	(38.1)	8.8~		外;にぶい黄橙色内;浅黄橙色	10YR7/2 7.5YR8/4	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;胴上2条ヘラ描直線文の間に1段円形刺突文
65	7	B1	上層	SX01	弥生土器	甗	小片		3.7~		外;橙色内;灰白色	2.5YR6/6 2.5Y8/1	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;頸部1条ヘラ描直線文
65	8	B1	上層	SX01	弥生土器	甗	小片		5.1~		外;浅黄橙色内;褐色	10YR8/3 10YR5/1	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	
65	9	B1	上層	SX01	弥生土器	甗	1/6以下	(18.6)	7.4~		外;にぶい黄橙色内;黄灰色	10YR7/2 2.5Y6/1	密(0.5~5mm砂粒を少量含む)	良好	
65	10	B1	上層	SX01	弥生土器	甗	1/8以下	(18.1)	7.6~		外;灰白色内;浅黄橙色	10YR8/2 10YR8/3	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	
65	11	B1	上層	SX01	弥生土器	甗	1/2以上	20.8	12.0~		外;にぶい黄橙色内;灰白色	10YR7/2 10YR8/2	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
65	12	B1	上層	SX01	弥生土器	鉢	1/6以下	(10.3)	7.3	(8.0)	外;灰白色内;黄灰色	10YR7/1 2.5Y6/1	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	
65	13	B1	上層	SX01	弥生土器	壺	小片		4.0~		外;浅黄橙色内;灰白色	10YR8/3 10YR8/2	密(0.5mm以下砂粒を微量含む)	良好	内;口縁部1条ヘラ描直線文
65	14	B1	上層	SX01	弥生土器	蓋	小片		3.1~		外;黄灰色内;灰白色	2.5Y4/1 10YR8/2	密(0.5~3mm砂粒を少量含む)	良好	内;口縁部竹管文
65	15	B1	上層	SX01	弥生土器	文様片(壺)	小片		4.3~		外;灰白色内;灰白色	2.5Y7/1 10YR8/1	密(0.5~2mm砂粒を少量含む)	良好	外;3段羽状文
65	16	B1	上層	SX01	弥生土器	文様片(壺)	小片		4.1~		外;褐色内;にぶい橙色	10YR6/1 7.5YR7/4	密(1~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;肩部5条ヘラ描直線文 煤付着
65	17	B1	上層	SX01	弥生土器	文様片(壺)	小片		6.4~		外;褐色内;黄灰色	10YR6/1 2.5Y5/1	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;沈線文による格子状の文様
65	18	B1	上層	SX01	弥生土器	文様片(甗)	小片		5.2~		外;灰白色内;灰白色	10YR8/2 10YR7/1	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;1条ヘラ描直線文と刺突文を交互に配置
65	19	B1	上層	SX01	弥生土器	文様片(甗)	小片		9.1~		外;浅黄橙色内;にぶい橙色	10YR8/3 7.5YR7/4	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;1条ヘラ描直線文の間に刺突文
65	20	B1	上層	SX01	弥生土器	文様片(甗)	小片		5.7~		灰白色	10YR8/2	密(0.5~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;1条ヘラ描直線文の間に刺突文
65	21	B1	上層	SX01	弥生土器	甗	小片		7.1~		外;灰白色内;灰白色	10YR8/1 10YR8/2	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;1条ヘラ描直線文 円形の孔
65	22	B1	上層	SX01	弥生土器	底部	1/2以下		10.2~	7.2	外;淡黄色内;灰白色	5YR8/4 10YR7/1	密(0.5~4mm砂粒を多量含む)	良好	
69	1	B1	竈枠周辺	SD15	弥生土器	壺	1/6以下	(15.4)	5.3~		灰白色	2.5Y8/2	密(1mm以下砂粒を微量含む)	良好	外;頸部3条ヘラ描直線文 内外;煤付着
69	2	B1	上層	SD15	弥生土器	壺	1/6以下		8.4~		灰白色	10YR8/1	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;胴部4条ヘラ描直線文1条貝殻腹縁による直線文2段鋸歯文を交互に配置
69	3	B1	上層	SD15	弥生土器	壺	1/6以下		6.2~		外;灰褐色内;褐色	7.5YR6/2 10YR6/1	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;頸部4条ヘラ描直線文 煤付着
69	4	B1	上層	SD15	弥生土器	壺	小片		5.9~		外;浅黄橙色内;灰白色	10YR8/3 2.5Y8/1	密(1~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部刻目文をもつ貼付突帯文・2条貝殻腹縁による直線文羽状文
69	5	B1	上層	SD15	弥生土器	甗	1/8以下	(18.6)	7.2~		外;褐色内;灰白色	7.5YR5/1 10YR8/2	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;胴部2条ヘラ描直線文 煤付着
69	6	B1	上層	SD15	弥生土器	甗	1/4以下	35.4	12.8~		灰白色	10YR8/1	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 胴部5条ヘラ描直線文 煤付着
69	7	B1	上層	SD15	弥生土器	甗	小片		4.2~		外;灰色内;灰白色	N4/ 10YR8/1	密(0.5~5mm砂粒を多量含む)	良好	外;胴部6条ヘラ描直線文
69	8	B1	竈枠周辺	SD15	弥生土器	甗	1/6以下	(15.2)	5.9~		灰白色	2.5Y8/2	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部刻目文 煤付着
69	9	B1	下層	SD15	弥生土器	甗	1/6以下	(12.6)	5.9~		外;暗灰色内;灰白色	N3/ 2.5Y7/1	密(0.5~1mm砂粒を少量含む)	良好	外;煤付着
69	10	B1	上層	SD15	弥生土器	蓋	1/2以下	24.0	9.2~		外;灰白色内;暗灰色	10YR8/1 N3/	密(1~5mm砂粒を多量含む)	良好	内;煤付着
69	11	B1	竈枠周辺	SD15	弥生土器	文様片(壺)	小片		4.1~		灰白色	2.5Y8/1	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好	外;2条4条ヘラ描直線文の間に羽状文
69	12	B1	上層	SD15	弥生土器	文様片(甗)	小片		4.1~		外;灰白色内;にぶい黄橙色	10YR8/2 10YR7/2	密(0.5~1mm砂粒を多量含む)	良好	外;1条ヘラ描直線文と刺突文を交互に配置
69	13	B1	下層	SD15	弥生土器	文様片(甗)	小片		6.7~		浅黄橙色	7.5YR8/3	密(1~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;4条ヘラ描直線文
69	14	B1	下層	SD15	弥生土器	壺か	小片		6.2~		にぶい黄橙色	10YR7/2	密(1~4mm砂粒を多量含む)	良好	外;突帯文か
69	15	B1	竈枠周辺	SD15	弥生土器	底部	1/2以下		7.6~	18.0	外;浅黄橙色内;淡黄色	7.5YR8/3 2.5Y8/3	密(0.5~1mm砂粒を多量含む)	良好	
69	16	B1	上層	SD15	弥生土器	底部	1/4以下		4.5~		外;淡黄色内;灰色	5YR8/4 N4/	密(0.5~4mm砂粒を多量含む)	良好	
73	1	B1	埋土	SX02	弥生土器	壺	1/6以下		9.5~		外;灰白色内;灰白色	10YR8/1 2.5Y8/1	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部突帯か
73	2	B1	埋土	SX02	弥生土器	甗	1/6以上	20.0	11.7~		外;明褐色内;にぶい黄橙色	7.5YR7/2 10YR7/2	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部刻目文 胴部2条ヘラ描直線文 内外;煤付着
73	3	B1	埋土	SX02	弥生土器	甗	小片		6.0~		灰白色	10YR8/2	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 胴部4条ヘラ描直線文
73	4	B1	埋土	SX02	弥生土器	甗	小片		6.2~		外;灰黄褐色内;にぶい黄褐色	10YR6/2 10YR7/2	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
73	5	B1	埋土	SX02	弥生土器	文様片(甗)	小片		5.4~		外;灰白色内;黄灰色	10YR8/1 2.5Y4/1	密(0.5~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;1条ヘラ描直線文・刺突文

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
73	6	B1	埋土	SX02	弥生土器	文様片 (壺)	小片		6.2~		外;灰黄褐色 内;灰白色	10YR6/2 10YR7/1	密(0.5~3mm 砂粒を少量含む)	良好	外;肩部4条へら描直線文
73	7	B1	埋土	SX02	弥生土器	文様片 (壺)	小片		4.0~		外;黄灰色 内;灰白色	2.5Y6/1 2.5Y8/1	密(0.5~4mm 砂粒を多量含む)	良好	外;3条へら描直線文 煤付着
73	8	B1	埋土	SX02	弥生土器	文様片 (壺)	小片		4.8~		外;にぶい黄褐色 内;灰白色	10YR7/2 N4/	密(0.5~3mm 砂粒を少量含む)	良好	外;3段3.5段貝殻腹縁による羽状文の間に 2条貝殻腹縁直線文・2条へら描直線文
73	9	B1	埋土	SX02	弥生土器	胴部片	小片		12.4~		外;暗灰色 内;灰白色	N3/ 7.5YR8/2	密(2mm大 砂粒を少量含む)	良好	内;煤付着
73	10	B1	埋土	SX02	弥生土器	鉢	小片		4.4~		外;褐灰色 内;黄灰色	10YR5/1 2.5Y4/1	密(0.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 口縁上端面凹線文
73	11	B1	埋土	SX02	弥生土器	甕	1/6 以下	(28.8)	22.4~		外;にぶい黄褐色 内;にぶい黄褐色	10YR7/3 10YR7/4	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部2条凹線文 胴部刺突文 煤付着
73	12	B1	埋土	SX02	弥生土器	甕	1/6 以下	(22.0)	11.3~		灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部2条凹線文 胴部刺突文 煤付着
73	13	B1	埋土	SX02	弥生土器	甕	1/4 以上	20.0	10.6~		にぶい黄褐色	10YR7/3	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部2条凹線文 煤付着
73	14	B1	埋土	SX02	弥生土器	甕	1/6 以下		8.9~		外;灰白色 内;褐灰色	10YR7/1 10YR5/1	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部7条腹凹線文 肩部2段貝殻腹縁による刺突文 煤付着
73	15	B1	埋土	SX02	弥生土器	甕	1/3 以下	21.8	5.8~		灰白色	10YR8/1	密(1.5mm以下 砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部4条凹線文
73	16	B1	埋土	SX02	弥生土器	高坏	1/8 以下	(27.3)	4.1~		灰白色	10YR8/1	密(0.5~2.5mm 砂粒をやや多量含む)	良好	外;口縁部4条凹線文
73	17	B1	埋土	SX02	弥生土器	脚	1/6 以下		7.1~	(8.8)	灰白色	2.5Y8/1	密(1mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
73	18	B1	埋土	SX02	弥生土器	底部	完形		5.0~	11.1	外;灰白色 内;灰白色	10YR8/1 N5/	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	
73	19	B1	埋土	SX02	弥生土器	底部	完形		4.0~	6.2	外;黄灰色 内;灰白色	2.5Y4/1 10YR8/2	密(1~4mm 砂粒を多量含む)	良好	
75	1	A2(南)	埋土	SK06(溝)	弥生土器	甕	1/4 以下	27.9	18.5~		外;浅黄褐色 内;灰黄色	10YR8/3 2.5Y7/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;肩部2条へら描直線文 黒斑あり 煤付着
75	2	A2(南)	埋土	SK06(溝)	弥生土器	甕 胴部欠		20.1	20.9	8.1	灰白色	10YR8/2	密(2mm大 砂粒を多量含む)	良好	内外;煤コゲ付着
75	3	A2(南)	埋土	SK06(溝)	弥生土器	壺	1/12 以下	(34.6)	6.4~		外;淡黄色 内;にぶい黄褐色	2.5Y8/3 10YR7/3	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部1条へら描直線文
75	4	A2(南)	埋土	SK06(溝)	弥生土器	壺	1/4 以下		25.9~		灰白色	10YR8/2	密(1~4mm 砂粒を多量含む)	良好	内外;煤コゲ付着
75	5	A2(南)	埋土	SK06(溝)	弥生土器	壺	1/8 以下		14.2~		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/1 10YR8/2	密(1.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部1条へら描直線文・1段刺突文 内外;煤コゲ付着
75	6	A2(南)	埋土	SK06(溝)	弥生土器	底部	1/2 以上		15.2~		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/1 10YR8/2	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;黒斑あり 内;コゲ付着
80	1	A1	下層	SD07	弥生土器	甕	胴部欠	11.8	16.5	5.2	灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
80	2	A1	下層	SD07	弥生土器	甕	胴部欠	27.6	40.0	6.8	外;浅黄褐色 内;灰白色	7.5YR8/3 7.5YR8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部6条凹線文 肩部刺突文 煤付着
80	3	A1	下層	SD07	弥生土器	甕	1/6 以上	19.4	6.2~		にぶい黄褐色	10YR7/3	密(0.5~1mm 砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部6条凹線文 肩部刺突文 煤付着
80	4	A1	下層	SD07	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.9)	5.0~		外;褐灰色 内;灰黄褐色	10YR5/1 10YR5/2	密(1mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部3条以上凹線文
80	5	A1	下層	SD07	弥生土器	甕	1/6 以下	(14.9)	7.0~		外;灰白色 内;灰白色	2.5Y8/2 2.5Y8/1	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
80	6	A1	下層	SD07	弥生土器	甕	1/4 以上	13.7	4.4~		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/1 10YR8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
80	7	A1	下層	SD07	弥生土器	器台	1/2 以下	13.8	14.8	12.6	灰白色	2.5Y8/1	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部4条凹線文 脚部4条凹線文 赤彩 内;煤付着
80	8	A2	下層	SD07	弥生土器	高坏	1/2 以上		8.3~		にぶい黄褐色	10YR7/3	密(0.5~1mm 砂粒を多量含む)	良好	赤彩
81	1	A1	上層	SD07	弥生土器	甕	1/6 以下	(19.6)	3.3~		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	密(1mm以下 砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部3条凹線文
81	2	A1	上層	SD07	弥生土器	甕	1/3 以上	15.2	5.1~		灰黄褐色	10YR5/2	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部5条凹線文 内外;煤付着
81	3	A1	上層	SD07	弥生土器	甕	1/4 以下	16.7	5.5~		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/2 10YR8/1	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部10条擬凹線文 煤付着
81	4	A1	上層	SD07	弥生土器	甕	1/4 以下	17.0	4.6~		淡黄色	2.5Y8/3	密(0.5mm大 砂粒を少量含む)	良好	
81	5	A1	上層	SD07	弥生土器	鼓形器台脚	1/8 以下		5.8~	(17.6)	外;浅黄褐色 内;浅黄褐色	7.5YR8/4 10YR8/3	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
82	1	A1	埋土	SD07	弥生土器	甕	1/12 以下	(21.6)	3.1~		外;黄灰色 内;浅黄褐色	2.5Y5/1 10YR8/4	密(0.5~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部2条凹線文
82	2	A1	埋土	SD07	弥生土器	甕	1/4 以下	14.0	2.5~		灰白色	10YR8/2	密(0.5mm大 砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部2条凹線文
82	3	A1	埋土	SD07	弥生土器	甕	1/2 以上	17.9	7.2~		灰白色	10YR8/2	密(0.5~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部4条凹線文 肩部櫛状工 具による刺突文
82	4	A1	埋土	SD07	弥生土器	甕	1/6 以下	(16.6)	13.7~		灰白色	10YR8/2	密(1mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;4条凹線文 肩部刺突文
82	5	A1	埋土	SD07	弥生土器	甕	1/2 以下	12.0	10.2~		外;灰白色 内;浅黄褐色	7.5YR8/2 7.5YR8/3	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外;3条凹線文 肩部6条以上直線文 内外;煤付着
82	6	A1	埋土	SD07	弥生土器	甕	1/4 以下	22.8	4.6~		外;にぶい黄褐色 内;褐灰色	10YR7/3 10YR6/1	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部5条凹線文
82	7	A1	埋土	SD07	弥生土器	甕	1/2 以上	18.9	8.0~		灰白色	10YR8/1	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;3条?凹線文
82	8	A1	埋土	SD07	弥生土器	甕	1/2 以上	18.3	7.5~		灰白色	10YR8/1	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部6条以上凹線文 肩部刺突文
82	9	A1	埋土	SD07	弥生土器	甕	1/2 以上	16.7	5.8~		外;灰褐色 内;灰白色	7.5YR5/2 10YR8/2	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部4条凹線文 肩部櫛状工具?による刺突文 煤付着
82	10	A1	埋土	SD07	弥生土器	甕	1/2 以下	17.4	11.4~		外;橙色 内;黄灰色	2.5YR7/1 2.5Y4/1	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部5条凹線文 煤付着
82	11	A1	埋土	SD07	弥生土器	甕	1/4 以上	22.0	13.0~		外;浅黄褐色 内;灰白色	10YR8/3 10YR8/2	密(0.5~1mm 砂粒を少量含む)	良好	外;外;口縁部4条凹線文 肩部波状文
82	12	A1	埋土	SD07	弥生土器	甕	完形	24.2	24.0~		外;灰白色 内;灰白色	2.5YR8/2 10YR8/2	密(0.5~1.5mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部3条凹線文 肩部刺突文 煤付着

付表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
82	13	A1	埋土	SD07	弥生土器	甗	1/6以上	18.6	6.0~		外;にぶい黄橙色内;灰白色	10YR7/3 10YR8/2	密(0.5~1mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部6~7条擬凹線文 肩部刺突文 煤付着
82	14	A1	埋土	SD07	弥生土器	甗	1/6以上	19.0	5.2~		外;にぶい黄橙色内;浅黄橙色	10YR7/2 10YR8/3	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部7条擬凹線文 煤付着
82	15	A1	埋土	SD07	弥生土器	甗	1/3以上	20.8	7.3~		灰白色	10YR8/2	密(1~2.5mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部11条擬凹線文 煤付着
82	16	A1	埋土	SD07	弥生土器	甗	完形	24.9	6.9~		外;浅黄橙色内;灰白色	10YR8/3 10YR8/2	密(0.5~3mm砂粒を非常に多量含む)	良好	外;8~14条擬凹線文 煤付着
82	17	A1	埋土	SD07	弥生土器	甗	1/3以下	31.6	15.0~		外;浅黄橙色内;浅黄橙色	10YR8/4 10YR8/3	密(1mm大砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部9条以上擬凹線文 肩部櫛状工具による連続刺突文
82	18	A1	埋土	SD07	弥生土器	甗	1/4以下	23.2	10.9~		外;浅黄橙色内;灰白色	10YR8/3 10YR8/2	密(0.5~1.5mm砂粒を多量含む)	良好	
82	19	A1	埋土	SD07	弥生土器	甗	1/4以下	16.6	7.0~		灰白色	10YR8/2	密(0.5mm砂粒を微量含む)	良好	
82	20	A1	埋土	SD07	弥生土器	甗	小片	(25.0)	6.1~		外;にぶい黄橙色内;浅黄橙色	10YR7/2 10YR8/3	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
82	21	A1	埋土	SD07	弥生土器	甗	1/4以下	14.0	4.6~		灰白色	10YR8/2	密(0.5~1mm砂粒を極めて多量含む)	良好	
83	1	A1	埋土	SD07	弥生土器	甗	1/12以下	(10.0)	5.6~		灰白色	10YR8/2	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;肩部櫛状工具による刺突文
83	2	A1	埋土	SD07	弥生土器	甗	1/8以下	(13.7)	3.4~		外;褐色内;浅黄橙色	7.5YR5/1 10YR8/3	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部1条凹線文 煤付着
83	3	A1	埋土	SD07	弥生土器	壺(甗か)	1/2以上	14.8	9.8~		灰白色	10YR8/1	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部2条凹線文
83	4	A1	埋土	SD07	弥生土器	壺	1/2以下	14.4	8.8~		外;淡黄色内;灰白色	2.5Y8/4 2.5Y8/3	密(0.5~1mm砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部4条凹線文
83	5	A1	埋土	SD07	弥生土器	壺	小片	(29.2)	7.2~		外;淡黄橙色内;淡黄橙色	10YR8/4 10YR8/3	密(0.5mm大砂粒を少量含む)	良好	
83	6	A1	埋土	SD07	弥生土器	小型壺	1/2以上		5.6~		外;浅黄橙色内;にぶい黄橙色	10YR8/3 10YR7/3	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好	
83	7	A1	埋土	SD07	弥生土器	壺	1/8以下	(18.1)	6.5~		外;にぶい黄橙色内;にぶい黄橙色	5YR6/4 10YR7/2	密(0.5~1.5mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部2条1条凹線文 西部瀬戸内系か
83	8	A1	埋土	SD07	弥生土器	壺	1/3以下	22.9	5.7~		外;にぶい黄橙色内;にぶい黄橙色	10YR7/3 7.5YR7/4	密(1mm以下砂粒を多量含む)	良好	頸部1孔 畿内系
83	9	A1	埋土	SD07	弥生土器	壺	小片	(18.0)	4.9~		浅黄橙色	10YR8/4	密(0.5mm砂粒を少量含む)	良好	
83	10	A1	埋土	SD07	弥生土器	直口壺	1/4以上	14.0	8.1~		外;にぶい黄橙色内;浅黄橙色	7.5YR7/4 7.5YR8/3	密(1mm以下砂粒を多量含む)	良好	口縁部1孔
83	11	A1	埋土	SD07	弥生土器	高坏	1/2以上		6.6~		淡黄色	2.5Y8/3	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好	
83	12	A1	埋土	SD07	弥生土器	高坏	1/2以上		9.0~		外;にぶい黄褐色内;灰白色	10YR5/3 10YR8/1	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	脚部5箇所円形透孔
83	13	A1	埋土	SD07	弥生土器	高坏	1/2以上		7.6~	10.2	外;灰白色内;灰色	10YR8/2 5Y4/1	密(1.5mm以下砂粒を微量含む)	良好	
83	14	A1	埋土	SD07	弥生土器	高坏	ほぼ完形		6.0~		外;淡黄色内;淡黄橙色	5YR8/4 7.5YR8/4	密(0.5~1mm砂粒をやや多量含む)	良好	
83	15	A1	埋土	SD07	弥生土器	器台	1/4以上	19.8	6.2~		浅黄橙色	10YR8/3	密(0.5~1mm砂粒を少量含む)	良好	
83	16	A1	埋土	SD07	弥生土器	器台形高坏	1/2以上	22.0	18.0	16.6	灰白色	10YR8/2	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	
83	17	A1	埋土	SD07	弥生土器	器台	1/2以上		9.3~	16.1	灰白色	10YR8/1	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;脚部6条以上擬凹線文
83	18	A1	埋土	SD07	弥生土器	鼓形器台	1/2以上		12.8~		にぶい黄橙色	7.5YR7/4	密(1mm以下砂粒を多量含む)	良好	
83	19	A1	埋土	SD07	弥生土器	鼓形器台	1/4以上	29.6	8.9~		外;浅黄橙色内;灰白色	7.5YR8/3 10YR8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	
83	20	A1	埋土	SD07	弥生土器	鼓形器台	1/2以上	23.6	12.2	20.0	灰白色	10YR8/2	密(0.5~1.5mm砂粒を少量含む)	良好	
83	21	A1	埋土	SD07	弥生土器	脚か	1/4以下		2.8~	11.3	外;淡黄色内;にぶい黄橙色	2.5Y8/3 10YR7/4	密(0.5mm砂粒を多量含む)	良好	
83	22	A1	埋土	SD07	弥生土器	脚か	1/3以下		3.5~	11.3	外;灰白色内;灰白色	10YR8/1 10YR8/2	密(0.5~1.5mm砂粒を多量含む)	良好	
83	23	A1	埋土	SD07	弥生土器	脚か	1/6以下		3.5~	(17.0)	灰白色	2.5Y8/2	密(0.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	
83	24	A1	埋土	SD07	弥生土器	蓋	ほぼ完形	12.0	6.7	3.4	外;灰白色内;橙色	2.5Y8/2 5YR6/6	密(0.5~1.5mm砂粒を非常に多量含む)	良好	つまみ部2孔
83	25	A1	埋土	SD07	弥生土器	椀	1/8以下	(16.5)	5.0~		浅黄橙色	7.5YR8/3	密(0.5~4mm砂粒を多量含む)	良好	高坏环部か
83	26	A1	埋土	SD07	弥生土器	低脚环	1/2以上	12.0	5.5	6.2	外;明褐色内;灰白色	7.5YR7/1 10YR8/2	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	
83	27	A1	埋土	SD07	弥生土器	甗形土器の把手	ほぼ完形	長: 8.5	幅: 6.3	厚: 3.6	外;灰白色内;灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	密(1~5mm砂粒を微量含む)	良好	
83	28	A1	埋土	SD07	弥生土器	把手	完形	長: 7.1	幅: 4.7	厚: 2.6	淡黄色	2.5Y8/3	密(0.5~1mm砂粒を多量含む)	良好	
83	29	A1	埋土	SD07	土製品	有孔土製品	1/2以上	長径: 4.6	孔径: 0.4	厚: 0.5	外;にぶい黄橙色内;灰白色	10YR7/2 10YR8/1	密(0.5mm大砂粒を少量含む)	良好	中央1孔
83	30	A1	埋土	SD07	弥生土器	底部	完形		7.8~	5.2	外;灰白色内;灰白色	10YR8/2 10YR8/1	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好	
83	31	A1	埋土	SD07	弥生土器	底部	完形		14.6~	5.4	外;浅黄橙色内;灰白色	10YR8/3 10YR8/2	密(1mm以下砂粒を多量含む)	良好	
84	1	A1	埋土	土器溜まり2	弥生土器	鉢	1/2以下	27.2	20.9~		外;灰白色内;淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	密(2mm以下砂粒を少量含む)	良	胴部1孔
84	2	A1	埋土	土器溜まり4	弥生土器	甗	1/4以上	18.2	15.4~		外;浅黄橙色内;灰白色	10YR8/3 10YR8/2	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良	外;肩部3~4条貝殻腹縁による擬凹線文
84	3	A1	埋土	土器溜まり6	弥生土器	甗	1/4以下	16.0	16.2~		外;灰白色内;灰黄色	10YR8/2 2.5Y7/2	密(2mm大砂粒を少量含む)	良好	外;肩部9条,10条擬凹線文の間に刺突文
84	4	A1	埋土	土器溜まり8	弥生土器	甗	小片	(12.7)	7.5~		灰白色	10YR8/2	密(2mm以下砂粒を少量含む)	良	
84	5	A1	埋土	土器溜まり8	弥生土器	高坏	1/2以上		6.4~		外;灰白色内;浅黄橙色	2.5Y8/2 10YR8/3	やや粗(2mm以下砂粒を多量含む)	良	



Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
84	6	A1	埋土	土器溜まり9	弥生土器	高坏	小片		1.2~		浅黄色	10YR8/3	密(1mm以下砂粒を微量含む)	良	
84	7	A1	埋土	土器溜まり9	弥生土器	低脚坏	1/4以下		2.4~	5.9	淡黄色	2.5Y8/3	密(2mm以下砂粒を少量含む)	良	
84	8	A1	埋土	土器溜まり9	弥生土器	底部	ほぼ完形		2.1~		灰白色	2.5Y8/2	密(1mm以下砂粒を微量含む)	良	
92	1	A2(南)	埋土	SK04	弥生土器	甕	1/8以下	(22.7)	8.5~		灰白色	10YR8/2	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部2条ヘラ描直線文
92	2	A2(南)	埋土	SK04	弥生土器	甕	小片		7.0~		外:灰白色 内:淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:胴部3条ヘラ描直線文の間に2段円形刺突文 内外:煤コゲ付着 黒斑あり
92	3	A2(南)	埋土	SK04	弥生土器	蓋	1/2以下	19.1	4.4~		淡黄色	2.5Y8/3	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	内外:煤コゲ付着
92	4	A2(南)	埋土	SK04	土製品	土器転用円盤	ほぼ完形	長径:4.3	短径:3.8	厚:0.8	灰黄色	2.5Y7/2	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好	
92	5	A2(南)	埋土	SK04	土製品	土錘	ほぼ完形	長:5.2	幅:3.2	孔径:0.5	灰白色	10YR8/2	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:黒斑あり
92	6	A2(南)	埋土	SK05	弥生土器	高坏	小片		6.1~		淡黄色	2.5Y8/3	密(1.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:脚部5条以上凹線文
92	7	A2(南)	埋土	P255	弥生土器	台付鉢	1/3以上	9.4	7.7	5.4	外:淡黄色 内:灰白色	2.5Y8/3 2.5Y8/2	密(5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:炭素吸着 内:コゲ付着
93	1	A2(南)	埋土	SX05	弥生土器	壺	1/4以下		7.9~		外:灰白色 内:浅黄褐色	10YR8/1 10YR8/3	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部耳状突起・M字状貼付突帯文
93	2	A2(南)	埋土	SX05	弥生土器	壺	1/6以下		14.3~		灰白色	10YR8/1	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外:肩部ミガキ工具による段煤付着
93	3	A2(南)	埋土	SX05	弥生土器	甕	口縁部欠	18.9	18.7	6.2	外:浅黄褐色 内:浅黄褐色	10YR8/3 10YR8/4	密(1~2.5mm砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 頸部2条ヘラ描直線文・ハケ原体による段内外:煤コゲ付着
93	4	A2(南)	埋土	SX05	弥生土器	甕	1/5以下	29.8	15.8~		にぶい黄褐色	10YR7/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 肩部4条ヘラ描直線文
93	5	A2(南)	埋土	SX05	弥生土器	甕	1/8以下	(23.7)	17.1~		淡黄色	2.5Y8/4	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文
93	6	A2(南)	埋土	SX05	弥生土器	蓋	完形		4.3~	5.1	灰白色	10YR8/2	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:黒斑あり
123	1	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	壺	1/4以下	(20.0)	10.6~		外:黄灰色 内:灰黄色	2.5Y6/1 2.5Y6/2	密(3mm以下砂粒を中量含む)	良好	外:頸部タテハケによる段内外:煤コゲ付着
123	2	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	壺	1/12以下	(36.0)	5.3~		外:淡黄色 内:灰黄色	2.5Y8/3 2.5Y7/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部段
123	3	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	壺	1/6以下	(39.0)	12.1~		灰白色	2.5Y8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部ハケ状工具による段
123	4	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	壺	1/12以下		7.9~		外:暗黄褐色 内:灰黄色	2.5Y5/2 2.5Y6/2	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部ハケ状工具による段
123	5	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	壺	小片		2.9~		外:灰黄色 内:黄灰色	2.5Y7/2 2.5Y6/1	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部1条沈線の上に板状工具による刺突文
123	6	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	壺	1/6以下		9.5~		褐灰色	7.5YR6/1	粗(5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部1条ヘラ描直線文(やや段)煤付着
123	7	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	壺	1/2以下		9.2~	5.0	外:灰白色 内:灰白色	2.5Y7/1 2.5Y8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部1条ヘラ描直線文 黒斑あり
123	8	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	壺	1/12以下		5.9~		外:灰白色 内:灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	密(1.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:頸部段 肩部から胴部2条・2条ヘラ描直線文の間に羽状文
123	9	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	壺	1/15以下		5.2~		外:にぶい黄褐色 内:灰黄色	10YR7/2 2.5Y6/2	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:肩部4段具腰線による直線文・1.5段羽状文 黒斑あり
123	10	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	壺	1/8以下		5.2~		外:灰黄色 内:灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y7/2	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:肩部ヘラ描沈線による段・4条ヘラ描直線文・複線山形文
123	11	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	壺	1/15以下		5.2~		外:黄灰色 内:灰色	2.5Y6/1 5Y5/1	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:肩部4段以上具腰線による羽状文・4条直線文(ヘラあるいは凹凸のない具腰線による) 内外:炭素吸着
123	12	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	甕	1/12以下	(23.0)	5.5~		外:にぶい黄褐色 内:褐色	10YR7/3 2.5YR7/6	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:胴部段煤付着
123	13	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	甕	1/12以下	(19.8)	5.2~		外:暗黄褐色 内:灰白色	2.5Y5/2 2.5Y8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 胴部1条ヘラ描直線文煤付着
123	14	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	甕	1/8以下	(22.8)	3.1~		灰白色	2.5Y8/2	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 胴部1条ヘラ描直線文か
123	15	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	甕	1/12以下	(26.0)	5.7~		外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR5/3 10YR6/8	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良	外:肩部1条ヘラ描直線文煤付着
123	16	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	甕	1/8以下	(29.3)	6.8~		外:灰黄褐色 内:灰褐色	10YR6/2 7.5YR6/2	やや粗(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:胴部1条ヘラ描直線文
123	17	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	甕	1/10以下		6.6~		外:灰褐色 内:灰白色	7.5YR5/2 10YR6/1	やや粗(3mm以下砂粒を多量含む)	良	外:口縁部刻目文 胴部2条ヘラ描直線文の間に刺突文 炭素吸着
123	18	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	甕	小片		3.9~		外:にぶい黄褐色 内:灰黄色	10YR7/2 2.5Y7/2	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 煤付着 内:黒斑あり
123	19	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	甕	1/12以下		7.2~		にぶい黄色	2.5Y6/3	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良	外:煤付着
124	1	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片(甕)	小片		10.3~		にぶい黄褐色	10YR7/2	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:段・2条ヘラ描直線文
124	2	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片(甕)	小片		2.6~		灰黄色	2.5Y7/2	密(2mm以下砂粒を中量含む)	良好	外:ヘラ描沈線による段・2条ヘラ描直線文・羽状文
124	3	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片(甕)	小片		4.7~		外:灰白色 内:灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:ヘラ描複線山形文・段内外:炭素吸着
124	4	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片(甕)	小片		7.5~		外:灰黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR5/2 10YR7/3	密(2~3mm砂粒を多量含む)	良好	外:1条刻目文をもつ貼付突帯文
124	5	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片(甕)	小片		5.3~		外:灰白色 内:黒色	2.5Y7/1 N1.5/	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:2条ヘラ描直線文の間に刺突文・2段刺突文
124	6	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片(甕)	小片		7.6~		外:灰色 内:灰黄色	5Y5/1 2.5Y7/2	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:刺突文・1条ヘラ描直線文
124	7	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片(甕)	小片		4.7~		外:褐色 内:浅黄褐色	5YR7/6 7.5YR8/4	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:2条ヘラ描直線文と刺突文を交互に配置
124	8	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片(甕)	小片		5.1~		外:灰黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR5/2 10YR7/2	密(2.5mm大砂粒をやや多量含む)	良	外:2条ヘラ描直線文煤付着
124	9	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片(甕)	小片		6.5~		外:灰黄色 内:黒褐色	2.5Y6/2 2.5Y3/2	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外:2条ヘラ描直線文 内外:炭素吸着

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
124	10	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片	小片		5.0~		外;黄灰色 内;にぶい黄橙色	2.5Y6/1 10YR7/4	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;2条へら描直線文の間に刺突文 内外;煤コゲ付着
124	11	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片	小片		5.7~		外;褐灰色 内;灰黄色	10YR4/1 2.5Y6/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;4条へら描直線文 炭素吸着
124	12	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片	小片		5.8~		外;暗灰色 内;灰黄色	N3/ 2.5Y6/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;へら描直線文と刺突文を交互に配置 煤付着
124	13	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	文様片	小片		4.9~		外;灰白色 内;黒色	10YR8/2 N1.5/	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良	外;へら描直線文と刺突文を交互に配置 内;コゲ付着
124	14	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	底部 (蓋か)	ほぼ 完形		1.9~	5.6	灰黄色	2.5Y6/2	密(2.5mm以下 砂粒をやや多量含む)	良好	
124	15	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	底部	1/3 以下		5.4~	10.3	外;黄灰色 内;灰色	2.5Y6/1 N6/	密(1mm大 砂粒を多量含む)	良好	
124	16	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	底部	1/3 以下		8.4~	9.4	外;浅黄色 内;黒色	2.5Y7/3 7.5Y2/1	密(2mm大 砂粒を多量含む)	良好	
124	17	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	底部	1/2 以下		4.1~	7.1	灰黄色	2.5Y6/2	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;炭素吸着
124	18	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	底部	完形		4.3~	9.1	灰黄色	2.5Y6/2	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;黒斑あり 炭素吸着
124	19	A2(北)	砂礫層	SD09	弥生土器	底部	ほぼ 完形		5.9~	9.0	浅黄色	2.5Y7/3	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
124	20	A2(北)	砂礫層	SD09	土製品	土器転用 円盤	ほぼ 完形	長; 7.3	幅; 7.6	厚; 0.8	外;灰黄色 内;灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y6/2	密(4mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;1条貼付突帯文 内外;炭素吸着
124	21	A2(北)	砂礫層	SD09	土製品	土器転用 円盤	ほぼ 完形	長; 5.8	幅; 6.0	厚; 0.8	外;暗灰黄色 内;灰黄色	2.5Y5/2 2.5Y7/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	内外;炭素吸着
124	22	A2(北)	砂礫層	SD09	土製品	土器転用 円盤	完形	長; 3.7	幅; 4.1	厚; 1.1	灰黄色	2.5Y7/2	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
125	1	A2(南)	砂礫層	SD09	弥生土器	壺	1/4 以下		6.7~		外;灰黄褐色 内;黒色	10YR5/2 7.5YR2/1	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部1条へら描直線文後ヨコミ カキによる段
125	2	A2(南)	砂礫層	SD09	弥生土器	甕	1/6 以下	(30.2)	14.7~		外;褐灰色 内;灰黄褐色	10YR4/1 10YR5/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 胴部3条へら描直線文 内外;煤コゲ付着
125	3	A2(南)	砂礫層	SD09	弥生土器	底部	完形		5.4~		にぶい黄橙色	10YR7/2	やや粗(3mm以下 砂粒を少量含む)	良	外;底部2条へら描直線文 内外;炭素吸着
125	4	A2(南)	砂礫層	SD09	土製品	土器転用 円盤	ほぼ 完形	長径; 5.0	短径; 5.5	厚; 0.9	外;褐灰色 内;灰白色	7.5YR5/1 10YR8/2	密(4mm以下 砂粒を多量含む)	良	
129	1	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/6 以下	(17.6)	9.3~		外;灰黄色 内;灰白色	2.5Y7/2 10YR8/2	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部段
129	2	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/6 以下	(15.2)	3.9~		外;灰黄色 内;灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y6/2	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部ハケ状工具による段
129	3	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/12 以下		7.8~		灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部ハケ状工具による段
129	4	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/2 以上	8.5	13.4	5.0	外;灰白色 内;灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y6/2	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部1条へら描直線文・へら描沈線による段 肩部へら描沈線による段・2条へら描直線文 黒斑あり
129	5	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/4 以下		18.0~		外;灰白色 内;にぶい黄橙色	10YR8/2 10YR7/3	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;肩部段・1条へら描直線文 肩部から胴部3条縦位へら描直線文で 区画された上弦重弧文 黒斑あり
129	6	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/8 以下	(18.5)	11.3~		外;暗灰色 内;にぶい黄橙色	N3/ 10YR7/2	密(0.5~4mm 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部1条へら描直線文 胴部1条へら描直線文 内外;煤付着
129	7	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	小片		7.7~		灰白色	10YR8/2	密(0.5~1mm 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部2条へら描直線文
129	8	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/3 以下	15.5	16.0~		外;灰黄色 内;黄灰色	2.5Y7/2 2.5Y6/1	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部2条へら描直線文 肩部2条へら描直線文 内外;炭素吸着
129	9	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/10 以下		5.8~		外;淡橙色 内;灰白色	5YR8/4 10YR8/2	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部1条突帯
129	10	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/3 以下	15.4	6.4~		外;灰白色 内;灰黄色	2.5Y8/1 2.5Y7/2	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部2条沈線による突帯状 内外;煤コゲ付着
129	11	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	小片		3.3~		外;灰色 内;浅黄褐色	N5/ 7.5YR8/4	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文
129	12	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	小片		2.9~		灰黄色	2.5Y7/2	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部1条沈線の上下に板状工 具による刺突文
129	13	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/4 以下	(15.6)	6.3~		外;黒色 内;暗灰色	N2/ N3/	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
129	14	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/2 以下		21.3~		外;灰白色 内;にぶい黄橙色	2.5Y7/1 10YR7/2	密(0.5~1mm 砂粒を少量含む)	良好	外;胴部二重円状浮文 内外;煤付着
129	15	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/4 以下	(12.0)	8.6~		褐灰色	10YR5/1	密(2~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;頸部6条へら描直線文 内外;煤コゲ付着
129	16	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	壺	1/3 以上		19.6~	9.5	外;灰白色 内;暗灰色	10YR8/1 N3/	密(0.5~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外;底部3条線刻あり 内外;煤付着
130	1	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	甕	1/12 以下		5.6~		灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y5/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;胴部ハケ状工具による段
130	2	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	甕	1/6 以下	(24.7)	10.8~		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	密(2~2.5mm 砂粒を多量含む)	良好	外;肩部1条へら描直線文 内外;煤コゲ付着
130	3	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	甕	1/12 以下	(31.0)	9.9~		灰黄褐色	10YR6/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部板状工具による刺突文 肩部1状へら描直線文 煤付着
130	4	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	甕	1/6 以下	(28.4)	7.5~		外;浅黄褐色 内;にぶい黄褐色	10YR8/3 10YR7/3	密(1~2mm 砂粒をやや多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 胴部2条へら描直線文 煤付着
130	5	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	甕	1/12 以下	(27.5)	11.4~		外;浅黄褐色 内;灰黄色	10YR8/3 2.5Y6/2	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 肩部2条へら描直線文 煤付着
130	6	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	甕	1/3 以下	24.3	18.4~		外;灰白色 内;浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部ハケ状工具による刻目文 肩部2条へら描直線文の間に円形刺突文
130	7	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	甕	小片		5.4~		外;にぶい黄褐色 内;灰色	10YR7/2 N4/	密(1~3mm 砂粒を少量含む)	良好	外;2段円形刺突文の間に2条へら描直線文 内;煤付着
130	8	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	甕	1/6 以下	(30.4)	8.3~		外;灰白色 内;灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	やや砂(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 煤付着
130	9	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	甕	1/3 以下	21.1	18.8~		外;灰黄色 内;灰白色	2.5Y7/2 2.5Y7/1	密(3mm大 砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
130	10	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	甕	1/2 以上	23.2	20.3	7.3	灰黄色	2.5Y6/2	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	内外;煤コゲ付着
130	11	A2(北)	オモカス 層	SD09	弥生土器	甕	1/2 以下	(17.0)	(16.3)	7.2	外;灰白色 内;褐灰色	10YR8/1 10YR6/1	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着



Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考
131	1	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	甗	1/4以上	56.0	41.0~		外;灰白色内;灰黄褐色	2.5Y8/2 10YR8/1	やや粗(4mm以下砂粒を多量含む)	やや軟質 外;肩部3条へラ描直線文 内;黒斑あり
131	2	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	甗	1/4以下	40.8	36.8~		外;灰白色内;灰白色	10YR8/2 10YR7/1	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好 外;口縁部刻目文 肩部4条へラ描直線文 煤付着
131	3	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	無頸壺	1/2以上	(8.5)	7.3~		外;にぶい黄褐色内;にぶい黄褐色	10YR7/2 10YR7/3	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好 頸部1箇所穿孔
131	4	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	鉢	ほぼ完形	10.1	7.6	5.0	外;灰白色内;にぶい黄褐色	10YR8/2 10YR7/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好 外;底部煤付着
131	5	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	鉢底部	完形		4.6~	3.5	黄灰色	2.5Y6/1	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好
131	6	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	蓋	1/3以上	23.0	14.2	7.6	外;にぶい黄褐色内;にぶい黄褐色	10YR7/2 10YR7/3	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好 外;黒斑あり 内;コゲ付着
131	7	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	蓋	1/12以下	(26.6)	3.5~		外;灰黄色内;黄灰色	2.5Y7/2 2.5Y5/1	密(3.5mm以下砂粒を多量含む)	良好 内外;煤付着
131	8	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	蓋	1/4以下		6.3~	7.0	外;灰白色内;灰黄色	2.5Y8/1 2.5Y7/2	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好 内外;煤コゲ付着
131	9	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	文様片(壺)	小片		5.6~		外;灰白色内;灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	密(1mm以下砂粒を多量含む)	良好 外;胴部2条へラ描直線文・下弦重弧文
131	10	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	文様片(壺)	小片		5.2~		灰白色	10YR8/2	密(1mm以下砂粒を多量含む)	良好 外;頸部2条刻目文をもつM字状貼付突帯
131	11	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	文様片(壺)	小片		4.0~		外;灰白色内;灰黄色	2.5Y7/1 2.5Y7/2	密(微砂粒を少量含む)	良好 外;肩部2条直線文の間に刺突文 肩部から胴部2.5段羽状文・2条直線文
132	1	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	底部	完形		12.4~	12.8	灰黄色	2.5Y7/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好 内;炭素吸着
132	2	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	底部	ほぼ完形		6.9~	14.6	外;灰白色内;浅黄褐色	2.5Y8/1 10YR8/3	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好 内;黒斑あり 内;炭化物付着
132	3	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	底部	完形		5.7~	8.7	外;灰白色内;にぶい黄褐色	7.5YR8/2 10YR7/2	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好 外;煤付着
132	4	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	壺	1/2以上		10.7~	10.1	灰黄色	2.5Y7/2	密(3mm大砂粒を多量含む)	良好 外;煤付着
132	5	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	底部	完形		4.0~	6.2	外;褐灰色内;灰黄色	10YR5/1 2.5Y6/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好 外;煤付着
132	6	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	壺	1/2以下		6.6~	8.5	外;灰黄色内;灰白色	2.5Y6/2 2.5Y8/2	密(2~3mm砂粒を多量含む)	良好
132	7	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	底部	完形		5.0~	7.2	外;黄灰色内;灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y6/2	密(2mm以下砂粒をやや多量含む)	良好 内;コゲ付着
132	8	A2(北)	オモカス層	SD09	弥生土器	底部	完形		16.2~	8.0	外;灰黄褐色内;褐灰色	10YR6/2 10YR4/1	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好 内外;煤コゲ付着 底部1箇所穿孔
132	9	A2(北)	オモカス層	SD09	土製品	土器転用円盤	完形	長径:3.6	短径:3.3	厚:0.6	にぶい黄褐色	10YR7/3	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好 内外;煤コゲ付着
132	10	A2(北)	オモカス層	SD09	土製品	土器転用円盤	ほぼ完形	長径:5.1	短径:4.9	厚:0.8	外;灰黄色内;灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y6/2	密(2.5mm以下砂粒をやや多量含む)	良好 外;黒斑あり 煤付着
132	11	A2(北)	オモカス層	SD09	土製品	土器転用円盤	ほぼ完形	長径:5.2	短径:4.7	厚:0.9	外;灰黄褐色内;灰黄褐色	10YR6/2 10YR4/2	密(1mm大砂粒を多量含む)	良好 内;コゲ付着
132	12	A2(北)	オモカス層	SD09	土製品	土錘	ほぼ完形	長径:4.4	短径:3.0	孔径:0.9	外;灰黄色内;にぶい黄褐色	2.5Y7/2 7.5YR7/4	密(1.5mm以下砂粒を多量含む)	良好
133	1	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	大型壺	1/3以下	65.4	22.8~		外;浅黄色内;灰白色	2.5Y8/3 2.5Y7/1	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好 外;口縁部刻目文 頸部段
133	2	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	壺	小片		5.6~		外;灰白色内;灰白色	N4/ 5Y7/1	密(0.5~1mm砂粒を少量含む)	良好 外;口縁部刻目文 煤付着
133	3	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	壺	1/6以下	(20.0)	7.7~		浅黄褐色	7.5YR8/4	密(0.5~2mm砂粒を少量含む)	良好 外;頸部段
133	4	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	壺	1/6以下	(43.0)	8.7~		灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~1mm砂粒を少量含む)	良好 外;口縁部1条沈線 頸部2条へラ描直線文の間に刺突文
133	5	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	壺	1/2以下	14.8	28.4	9.2	灰白色	10YR8/2	密(1~3.5mm砂粒を多量含む)	良好 外;頸部,肩部1条へラ描直線文 煤付着
133	6	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	壺	底部欠	20.6	33.9	8.9	外;にぶい黄褐色内;灰白色	10YR7/2 10YR8/2	密(1~4mm砂粒を多量含む)	良好 外;頸部2条へラ描直線文 胴部3条へラ描直線文
133	7	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	壺	完形	18.4	25.0~		灰白色	10YR8/2	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好 内外;煤付着
133	8	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	壺	1/2以下		14.0~	(9.8)	灰黄色	2.5Y7/2	密(0.5mm大砂粒を少量含む)	良好 外;肩部1条直線文か 内外;煤付着
133	9	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	小壺	1/6以下	(7.0)	7.4~		灰白色	2.5Y8/1	密(0.5mm以下砂粒を多量含む)	良好
134	1	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	甗	1/4以下	26.4	7.9~		外;黄灰色内;灰黄褐色	2.5Y5/1 10YR5/2	密(1~5mm砂粒をやや多量含む)	良好 外;頸部段 内外;煤付着
134	2	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	甗	小片		0.9~		外;暗灰色内;灰黄褐色	N3/ 10YR6/2	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好 外;口縁部刻目文, 段 内外;煤付着
134	3	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	甗	小片	(23.2)	4.8~		外;灰白色内;灰白色	10YR7/1 2.5Y7/1	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好 外;口縁部刻目文 胴部1条へラ描直線文
134	4	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	甗	小片		6.6~		外;灰黄褐色内;にぶい黄褐色	10Y7/2 10YR7/2	密(0.5~3mm砂粒をやや多量含む)	良好 外;頸部2条へラ描直線文 煤付着
134	5	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	甗	1/2以上	25.6	26.1	9.0	外;灰白色内;灰白色	10YR8/1 10YR8/2	密(1~5mm砂粒を多量含む)	良好 外;口縁部刻目文 頸部2条へラ描直線文
134	6	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	甗	小片		8.0~		外;灰黄褐色内;にぶい黄褐色	10YR6/2 10YR7/2	密(1~2mm砂粒をやや多量含む)	良好 外;口縁部刻目文 頸部へラ描直線文と 円形刺突文を交互に配置 煤付着
134	7	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	鉢か	1/6以下	(29.1)	9.4~		外;灰白色内;暗灰色	10YR8/1 N3/	密(0.5~3mm砂粒をやや多量含む)	良好 外;頸部ハケ状工具による段 煤付着
134	8	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	鉢	1/2以下	(40.6)	26.5	10.7	灰白色	2.5Y8/1	密(0.5~2mm砂粒を少量含む)	良好 外;頸部ハケ状工具による段 煤付着
134	9	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	鉢	1/4以下	35.3	10.3~		外;灰褐色内;灰白色	7.5YR6/2 10YR8/1	密(0.5~2mm砂粒をやや多量含む)	良好 外;煤付着
134	10	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	鉢又は甗	小片	(28.0)	5.6~		灰白色	2.5Y8/1	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好 外;口縁部刻目文
134	11	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	甗	ほぼ完形	19.1	18.2	6.7	外;褐灰色内;にぶい黄褐色	10YR5/1 10YR7/2	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好 内外;煤?付着
134	12	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	甗	1/2以下	16.6	19.4	8.0	外;にぶい黄褐色内;灰黄色	10YR7/2 2.5Y7/2	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好 外;煤付着
135	1	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	蓋	1/2以上	10.5~		6.2	外;灰白色内;にぶい黄褐色	10YR7/1 10YR7/2	密(0.5~1.5mm砂粒を少量含む)	良好

付表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
135	2	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	蓋	1/2以上		3.3~	5.6	灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~1.5mm砂粒を少量含む)	良好	
135	3	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	甕	1/2以上		16.6~	7.8	灰白色	10YR8/1	密(0.5~2.5mm砂粒を少量含む)	良好	外;煤付着
135	4	A2(南)	オモカス層	SD09	弥生土器	底部	完形		11.1~	10.6	灰白色	2.5Y8/1	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
135	5	A2(南)	オモカス層	SD09	土製品	土器転用円盤	ほぼ完形	長径:5.2	短径:5.1	厚:0.8	外;灰色 内;灰白色	N5/ 2.5Y7/1	密(1~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;2条へら描直線文
135	6	A2(南)	オモカス層	SD09	土製品	不明品	1/4以上		5.0~		灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~1.5mm砂粒を少量含む)	良好	内;頸部段 煤付着
135	7	A2(南)	オモカス層	SD09	土製品	粘土塊	完形	長:5.1	幅:3.0	厚:1.3	黄灰色	2.5Y5/1	密(0.5mm以下砂粒を少量含む)	良好	
155	1	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	1/6以下	(18.6)	6.9~		外;灰黄褐色 内;灰白色	10YR6/2 10YR7/1	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部ハケ状工具による段煤付着
155	2	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	1/4以下	(17.8)	6.0~		灰白色	10YR7/1	密(0.5~3mm砂粒をやや多量含む)	良好	外;頸部段 煤付着
155	3	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	小片		5.9~		外;淡黄色 内;浅黄褐色	2.5Y8/1 7.5YR8/3	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部段
155	4	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	小片		5.3~		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/2 10YR8/1	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;頸部段
155	5	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	1/6以下		7.0~		外;灰白色 内;灰白色	7.5YR8/2 7.5YR8/1	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;頸部1条直線文(段か)
155	6	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	1/6以下	(16.6)	4.5~		灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;頸部1条へら描直線文 煤付着
155	7	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	小片	(28.8)	1.6~		灰黄色	2.5Y7/2	密(0.5~1mm砂粒を少量含む)	良好	外;口縁端部1条直線文
155	8	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	1/2以下	18.0	36.1	10.2	浅黄褐色	10YR8/3	密(3.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;頸部3条へら描直線文 黒斑あり 煤付着
155	9	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	1/6以下	(18.8)	20.0~		外;灰黄褐色 内;にぶい黄褐色	10YR6/2 10YR7/2	密(0.5~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部3条へら描直線文 胴部3条へら描直線文
155	10	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	小片		6.0~		外;灰白色 内;灰黄色	10YR7/1 2.5Y7/2	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部段・3条貝殻腹縁による直線文 煤付着
155	11	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	1/4以下		15.4~	5.6	外;灰白色 内;灰白色	7.5YR8/2 2.5Y8/1	密(1~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部3条突帯 胴部4条突帯 煤付着
155	12	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	1/2以上		12.0~		灰白色	10YR8/2	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;頸部7条へら描直線文
155	13	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	小片		5.0~		灰白色	10YR8/2	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部6条へら描直線文
155	14	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	小片		4.0~		外;灰白色 内;浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(1mm以下砂粒を微量含む)	良好	外;頸部7条へら描直線文
155	15	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	小片		7.4~		外;灰白色 内;浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;肩部段・7条へら描直線文
155	16	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	小片		7.1~		灰黄色	2.5Y7/2	密(1.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
155	17	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	小片		5.0~		灰白色	10YR8/1	密(1mm大砂粒を微量含む)	良好	
155	18	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	1/4以下		22.1~	9.7	にぶい黄褐色	10YR7/2	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
156	1	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/6以下	(26.0)	8.0~		外;にぶい黄褐色 内;にぶい黄褐色	10YR7/3 10YR7/2	密(0.5~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部刻目文 胴部2条へら描直線文 煤付着
156	2	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	小片		5.0~		外;灰黄色 内;にぶい黄褐色	2.5Y7/2 10YR7/2	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;頸部4条へら描直線文 煤付着
156	3	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	小片		4.9~		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/2 10YR8/1	密(0.5~3mm砂粒をやや多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 頸部4条へら描直線文
156	4	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/12以下	(28.8)	11.3~		外;にぶい黄褐色 内;灰白色	10YR7/2 10YR8/2	密(1~4mm砂粒をやや多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 頸部5条へら描直線文 煤付着
156	5	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	小片	(10.6)	4.3~		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/2 2.5Y8/1	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	外;胴部5条へら描直線文
156	6	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	小片		4.6~		灰白色	10YR7/1	密(0.5~4mm砂粒をやや多量含む)	良好	外;頸部5条へら描直線文
156	7	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/6以下	(28.7)	14.6~		にぶい黄褐色	10YR7/2	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 肩部5条へら描直線文 煤付着 内外;黒斑あり
156	8	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/8以下	(20.2)	6.2~		外;にぶい黄褐色 内;灰白色	10YR7/2 7.5YR8/2	密(1~3mm砂粒をやや多量含む)	良好	外;頸部6条へら描直線文
156	9	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	小片		8.1~		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/1 2.5Y8/1	密(0.5~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部9条へら描直線文
156	10	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/6以下	(34.8)	5.7~		灰白色	2.5Y8/2	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 胴部10条以上へら描直線文
156	11	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/6以下	(34.8)	12.0~		外;浅黄褐色 内;浅黄褐色	10YR8/3 10YR8/4	密(5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;肩部4条へら描直線文の間に3段刺突文 煤付着
156	12	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/6以下	(25.6)	6.5~		灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~1mm砂粒を多量含む)	良好	外;頸部から胴部7条へら描直線文の間に刺突文
156	13	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/12以下	(19.6)	5.4~		外;淡黄色 内;灰白色	2.5Y8/3 2.5Y8/2	密(4.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;胴部欄描直線文か 逆L字状口縁
156	14	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	小片		6.2~		外;灰色 内;灰白色	N4/ 2.5Y7/1	密(1~3mm砂粒を少量含む)	良好	逆L字状口縁
156	15	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	小片	(18.0)	3.8~		外;灰白色 内;浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(0.5~1.5mm砂粒を多量含む)	良好	外;胴部1条直線文 朝鮮系
156	16	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	小片	(15.0)	3.7~		にぶい黄褐色	10YR7/2	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	逆L字状口縁
156	17	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕か	小片		1.4~		灰白色	2.5Y7/1	密(0.5大砂粒を微量含む)	良好	外;口縁部貼付突帯
156	18	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/6以下	(21.0)	5.8~		外;にぶい黄褐色 内;にぶい黄褐色	10YR7/2 10YR7/3	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	外;煤付着
156	19	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/4以上	14.6	18.7	5.0	外;浅黄褐色 内;浅黄褐色	10YR8/3 10YR8/6	密(5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 内外;黒斑あり 煤コゲ付着
156	20	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	鉢	1/6以下	(32.0)	7.1~		灰白色	10YR8/1	密(0.5~2mm砂粒を少量含む)	良好	
156	21	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	鉢	小片		6.6~		外;黄灰色 内;褐灰色	2.5Y5/1 10YR5/1	密(0.5~2mm砂粒を少量含む)	良好	

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
156	22	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	甕又は鉢	1/6以上	15.8	11.8	7.0	外;にぶい黄橙色 内;灰黄色	10YR7/2 2.5Y7/2	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	
157	1	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	蓋	1/4以下	23.0	8.2~		外;灰黄色 内;にぶい黄橙色	2.5Y7/2 10YR7/2	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	
157	2	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	蓋	小片		4.1~		外;灰白色 内;褐灰色	10YR8/1 10YR5/1	密(0.5~1.5mm 砂粒を少量含む)	良好	内;煤付着
157	3	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	文様片 (甕)	小片		6.7~		灰白色	10YR8/1	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;肩部8条ヘラ描直線文
157	4	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	文様片 (甕)	小片		2.8~		外;灰白色 内;灰色	10YR7/1 N4/	密(0.5~5mm 砂粒を多量含む)	良好	外;肩部3段貝殻腹縁による羽状文・ 6条ヘラ描直線文
157	5	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	文様片 (甕)	小片		3.7~		灰白色	10YR8/1	密(1~3mm 砂粒を少量含む)	良好	外;胴部2段1段貝殻腹縁による山形文の間に 5条直線文
157	6	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	文様片 (甕)	小片		3.0~		灰白色	10YR8/1	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外;胴部貝殻腹縁による斜格子文・ 鋸歯文・直線文
157	7	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	文様片 (甕)	小片		3.1~		外;にぶい黄橙色 内;褐灰色	10YR7/3 10YR4/1	密(0.5~3mm 砂粒をやや多量含む)	良好	外;肩部3条貼付突帯
157	8	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	文様片 (甕)	小片		3.9~		外;灰黄褐色 内;黒色	10YR6/2 10YR2/1	密(0.5~1mm 砂粒を少量含む)	良好	外;刻目をもつ貼付突帯
157	9	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	文様片 (甕)	小片		3.8~		灰黄褐色	10YR6/2	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外;3条貼付突帯
157	10	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	文様片 (甕)	小片		4.0~		外;灰黄褐色 内;にぶい黄褐色	10YR6/2 10YR7/2	密(0.5~1mm 砂粒を少量含む)	良好	外;5条ヘラ描直線文・1段三角形刺突 煤付着
157	11	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	文様片 (甕)	小片		4.6~		外;黄灰色 内;灰黄色	2.5Y6/1 2.5Y7/2	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外;3条ヘラ描直線文の間に2段刺突 文
157	12	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	文様片 (甕)	小片		3.6~		褐灰色	10YR6/1	密(1~1.5mm 砂粒を多量含む)	良好	外;刻目をもつ突帯
157	13	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	文様片 (甕)	小片		4.4~		灰白色	2.5Y8/2	密(1mm以下 砂粒を少量含む)	良好	外;2条ヘラ描直線文の間に円形刺 突文
157	14	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	文様片 (甕)	小片		4.0~		外;灰白色 内;灰白色	2.5Y7/1 10YR8/1	密(0.5~3mm 砂粒をやや多量含む)	良好	外;6条直線文・刺突文
157	15	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	壺	1/3以下	29.8	9.2~		外;灰白色 内;黄灰色	2.5Y8/2 2.5Y4/1	密(1.5mm以下 砂粒を中量含む)	良好	外;口縁部斜格子文 頸部指頭正痕貼付突帯 黒斑あり 内;炭素残着
157	16	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	鉢	1/8以下	(21.0)	3.5~		外;灰黄褐色 内;にぶい黄褐色	10YR6/2 10YR6/3	密(1.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文
157	17	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	底部	ほぼ 完形		8.1~	6.4	灰白色	2.5Y8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
157	18	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	底部	1/3 以下		8.3~	7.1	外;灰白色 内;にぶい黄褐色	10YR7/1 10YR7/2	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
157	19	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	底部	完形		4.6~	6.8	外;淡褐色 内;にぶい褐色	5YR8/3 5YR6/4	密(0.5~3mm 砂粒をやや多量含む)	良好	
157	20	A2(北)	下層	SD09	土製品	土器転用 円盤	ほぼ 完形	長径: 4.3	短径: 4.0	厚: 0.6	にぶい黄褐色	10YR7/2	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;1条ヘラ描直線文
157	21	A2(北)	下層	SD09	土製品	土器転用 円盤	完形	径: 4.1		厚: 0.9	外;灰褐色 内;褐灰色	7.5YR6/2 7.5YR4/1	密(0.5~4mm 砂粒を多量含む)	良好	
157	22	A2(北)	下層	SD09	土製品	土器転用 円盤	ほぼ 完形	径: 3.3		厚: 0.9	外;灰褐色 内;褐灰色	10YR5/2 10YR5/1	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	
157	23	A2(北)	下層	SD09	土製品	土器転用 円盤	ほぼ 完形	長径: 4.0	短径: 3.8	厚: 0.5	外;にぶい黄褐色 内;灰白色	10YR7/2 2.5Y8/2	密(0.5mm大 砂粒を少量含む)	良好	内;1孔(未貫通) 甕転用
157	24	A2(北)	下層	SD09	土製品	土器転用 円盤	ほぼ 完形	長径: 4.8	短径: 3.8	厚: 0.9	外;灰黄色 内;灰白色	2.5Y7/2 10YR8/2	密(1~3mm 砂粒を少量含む)	良好	
157	25	A2(北)	下層	SD09	土製品	土器転用 円盤	ほぼ 完形	径: 5.1		厚: 1.4	灰黄色	2.5Y7/2	密(1mm以下 砂粒を多量含む)	良好	底部転用
157	26	A2(北)	下層	SD09	土製品	粘土塊	ほぼ 完形	長: 8.1	幅: 5.5	厚: 3.7	灰白色	2.5Y8/1	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
157	27	A2(北)	下層	SD09	弥生土器	鉢	1/4 以下	5.0	4.3~		灰白色	2.5Y8/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	口縁部2孔
157	28	A2(北)	下層	SD09	ミニチュア 土器	底部	1/2 以上		3.9~	3.1	外;灰白色 内;にぶい黄褐色	10YR7/1 10YR7/2	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
157	29	A2(北)	下層	SD09	ミニチュア 土器	鉢	ほぼ 完形	4.0	2.8	3.0	にぶい黄色	2.5Y6/3	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
158	1	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	壺	1/4 以下	12.3~			灰白色	10YR8/1	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外;頸部段 肩部から胴部3段3条ヘラ描直線文の 間に1段刺突文1段羽状文 煤付着
158	2	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	壺(漆液 容器)	完形	8.3	7.9	4.4	外;褐色 内;にぶい黄褐色	5YR7/6 10YR6/3	粗(3mm以下 砂粒を多量含む)	やや 軟質	外;頸部段 肩部2条ヘラ描直線文 黒斑あり 内外;漆付着
158	3	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	壺	完形		9.5~	4.2	灰白色	10YR8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
158	4	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	壺	小片		8.6~		灰白色	10YR8/2	密(1~1.5mm 砂粒を多量含む)	良好	頸部;1条貼付あるいは削り出し突帯
158	5	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/6 以下	(27.8)	14.1~		外;灰白色 内;にぶい黄褐色	10YR8/2 10YR7/2	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外;肩部ハケ状工具による段 内外;煤コゲ付着
158	6	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/2 以下	26.0	24.0	8.4	外;灰白色 内;灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	密(0.5~1.5mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 胴部1条ヘラ描直線文 煤付着
158	7	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/6 以下	(24.6)	13.8~		外;にぶい黄褐色 内;灰白色	10YR7/2 10YR8/2	密(2~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;胴部1条ヘラ描直線文 煤付着
158	8	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	甕	1/4 以下	38.5	19.2~		外;褐灰色 内;灰白色	7.5YR4/1 10YR8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部一部刻目文 頸部2条ヘラ描直線文 煤付着
158	9	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	鉢	1/8 以下	(34.3)	11.2~		外;灰白色 内;灰白色	2.5Y8/1 2.5Y8/2	密(0.5~3mm 砂粒を非常に多量含む)	良好	
158	10	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	壺底部	1/2 以下		15.2~	9.0	灰白色	10YR8/1	密(1~3mm 砂粒をやや多量含む)	良好	
158	11	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	胴部下半	完形		14.0~	8.6	外;灰白色 内;灰白色	10YR7/1 10YR8/2	密(2~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外;煤付着
158	12	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	底部	完形		10.7~	6.0	灰白色	10YR8/2	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	
158	13	A2(南)	下層	SD09	弥生土器	蓋	ほぼ 完形		2.8~		外;灰白色 内;にぶい黄褐色	10YR8/2 10YR7/3	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
158	14	A2(南)	下層	SD09	土製品	土器転用 円盤	完形	長径: 5.4	短径: 5.0	厚: 1.0	灰白色	10YR8/1	密(1~5mm 砂粒を多量含む)	良好	頸部転用か
158	15	A2(南)	下層	SD09	土製品	土器転用 円盤	ほぼ 完形	長径: 4.1	短径: 4.0	厚: 0.7	灰白色	10YR8/2	密(1.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	



付表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
158	16	A2(南)	下層	SD09	土製品	土錘	完形	径: 3.8	3.7	孔径: 0.8	灰白色	2.5Y8/2	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	
164	1	A2(北)	黒色 粘土層	SD09	弥生土器	壺	1/2 以上	22.2	8.4~		灰白色	10YR8/2	密(1.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目 頸部3条刻目をもつ断面三角形貼付突帯文 内:口縁部2条断面三角形貼付突帯 黒斑あり
164	2	A2(北)	黒色 粘土層	SD09	弥生土器	直口壺	1/2 以下	15.6	6.9~		灰白色	2.5Y8/2	密(1.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 頸部1条刻目をもつ貼付突帯
164	3	A2(北)	黒色 粘土層	SD09	弥生土器	甗	1/6 以下	(26.4)	5.9~		外:灰黄色 内:暗灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y5/2	密(1mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
164	4	A2(北)	黒色 粘土層	SD09	弥生土器	甗	1/6 以下	(23.8)	6.7~		外:にぶい黄橙色 内:にぶい黄褐色	10YR7/3 10YR7/2	密(1mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部2条凹線文
164	5	A2(北)	黒色 粘土層	SD09	弥生土器	高坏	1/8 以下	(29.2)	2.7~		にぶい黄褐色	10YR7/2	密(4mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 内:口縁部2列円形刺突文(うち2孔貫通)
165	1	A2(北)	黒色 土層	土器溜まり II	弥生土器	甗	口縁部 欠		17.7~	4.7	外:灰白色 内:灰黄色	2.5Y7/1 2.5Y7/2	密(0.5mm以下 砂粒を少量含む)	良好	内外:黒斑あり
165	2	A2(北)	黒色 土層	土器溜まり II	弥生土器	高坏	1/8 以下	(31.8)	10.9~		外:にぶい黄色 内:黄褐色	2.5Y6/3 2.5Y5/3	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
165	3	A2(北)	黒色 土層	土器溜まり II	弥生土器	壺	1/4 以下	22.3~			外:灰白色 内:にぶい黄褐色	10YR8/2 10YR7/2	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:肩部から胴部側面直線文と羽状文を交互に配置 胴部3段刺突文 内外:黒斑あり
165	4	A2(北)	黒色 土層	土器溜まり II	弥生土器	壺	1/2 以上	18.0	34.5~	6.6	灰白色	10YR8/2	密(0.5~1mm 砂粒を多量含む)	良好	外:頸部指頭圧痕貼付突帯 胴部刺突文 内:煤付着
166	1	A2(北)	黒色 土層	SD09	弥生土器	壺	1/12 以下	(26.0)	2.0~		外:灰白色 内:灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	密(1mm以下 砂粒を中量含む)	良好	外:口縁部側面斜格子文の円形浮文 内:櫛描状文・円錐形浮文
166	2	A2(北)	黒色 土層	SD09	弥生土器	壺	小片		1.7~		外:にぶい黄褐色 内:灰白色	10YR7/2 10YR8/2	密(1.5mm以下 砂粒を少量含む)	良	外:口縁部刻目文
166	3	A2(北)	黒色 土層	SD09	弥生土器	壺	1/8 以下	(15.7)	0.7~		外:灰白色 内:褐灰色	10YR8/2 10YR6/1	密(2mm以下 砂粒を少量含む)	良好	口縁部一列穿孔
166	4	A2(北)	黒色 土層	SD09	弥生土器	壺	1/2 以上	19.5~			灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刺突文 頸部から肩部側面直線文と羽状文を交互に配置
166	5	A2(北)	黒色 土層	SD09	弥生土器	壺	1/4 以下	14.0	12.0~		外:灰褐色 内:浅黄褐色	7.5YR6/2 10YR8/4	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
166	6	A2(北)	黒色 土層	SD09	弥生土器	壺	小片	3.2~			外:橙色 内:灰白色	7.5YR7/6 2.5Y8/1	密(0.5mm以下 砂粒を少量含む)	良好	内外:漆
166	7	A2(北)	黒色 土層	SD09	弥生土器	鉢	1/8 以下	(15.2)	6.1~		外:褐灰色 内:にぶい黄褐色	10YR4/1 10YR7/2	密(4mm以下 砂粒を少量含む)	良	外:口縁部刻目文 胴部櫛描直線文・ 2条刻目をもつ貼付突帯文・櫛描直線文の間に 櫛描直線文 1孔
166	8	A2(北)	黒色 土層	SD09	弥生土器	高坏	ほぼ 完形		11.9~		外:灰白色 内:淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/4	密(2mm以下 砂粒を中量含む)	良	
166	9	A2(北)	黒色 土層	SD09	弥生土器	高坏	1/12 以下	(28.0)	3.8~		外:灰白色 内:淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	密(1.5mm以下 砂粒を少量含む)	良好	内:櫛描斜線文
166	10	A2(北)	黒色 土層	SD09	弥生土器	高坏	1/12 以下	(22.0)	3.2~		外:褐灰色 内:灰黄褐色	10YR5/1 10YR5/2	密(1mm以下 砂粒を微量含む)	良好	外:口縁部2条凹線文
166	11	A2(北)	黒色 土層	SD09	弥生土器	甗	1/8 以下	(16.5)	4.0~		外:灰黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR4/2 10YR6/3	密(1.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	内外:煤付着
166	12	A2(北)	黒色 土層	SD09	土製品	分銅形 土製品	1/4 以下	長: 3.6~	幅: 3.4~	厚: 1.3	灰白色	2.5Y8/1	密(0.5~1mm 砂粒を少量含む)	良好	外:棒状工具による刺突文 8孔
170	1	A2(南)	橙色砂 質土層	SD09	弥生土器	壺	1/6 以下	(21.5)	22.0~		浅黄褐色	10YR8/4	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外:頸部1条直線文(段状) 肩部3条 直線文
170	2	A2(南)	橙色砂 質土層	SD09	弥生土器	壺	ほぼ 完形	11.0	17.2	6.0	灰白色	10YR8/2	やや粗(5mm以下 砂粒を多量含む)	良	
170	3	A2(南)	橙色砂 質土層	SD09	弥生土器	蓋	ほぼ 完形	5.8~	5.8		外:灰白色 内:浅黄褐色	2.5Y8/2 10YR8/3	密(4mm以下 砂粒を多量含む)	良好	内外:黒斑あり
170	4	A2(南)	橙色砂 質土層	SD09	縄文土器	突帯文	小片	2.6~			灰色	2.5Y8/1	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文をもつ突帯文
170	5	A2(南)	橙色砂 質土層	SD09	弥生土器	壺	1/8 以下	(27.8)	6.6~		浅黄褐色	10YR8/3	密(3mm以下 砂粒を中量含む)	良好	
170	6	A2(南)	橙色砂 質土層	SD09	弥生土器	底部	完形	12.6~	3.9		外:浅黄褐色 内:灰黄色	2.5Y7/3 2.5Y7/2	密(2mm以下 砂粒を少量含む)	良好	
170	7	A2(南)	橙色砂 質土層	SD09	ミニチュア 土器	底部	ほぼ 完形	4.3~	3.4		浅黄褐色	10YR8/3	密(0.5mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
170	8	A2(南)	橙色砂 質土層	SD09	土製品	土笛か	1/4 以下	5.3~			外:灰白色 内:オリーブ黒色	10YR8/1 5Y3/1	密(2mm以下 砂粒を中量含む)	良好	内:黒斑あり
170	9	A2(南)	橙色砂 質土層	SD09	土製品	土錘	1/2 以下	長: 4.2	幅: 2.3	孔径: 0.6	外:浅黄色 内:黄灰色	2.5Y7/3 2.5Y4/1	粗(3mm以下 砂粒を少量含む)	良	
170	10	A2(南)	橙色砂 質土層	SD09	土製品	土錘	ほぼ 完形	径: 3.6	2.9	孔径: 0.9	淡黄色	2.5Y8/3	密(0.5~2mm 砂粒を多量含む)	良好	
171	1	A2(北)	上層	SD09	弥生土器	蓋	1/3 以下	4.0~			外:灰白色 内:浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:体部3条具股腹線による直線文 黒斑あり
171	2	A2(北)	上層	SD09	弥生土器	底部	1/2 以下	2.7~	8.6		灰黄色	2.5Y7/2	密(0.5~1.5mm 砂粒を多量含む)	良好	外:底部へラ描擬流水文
171	3	A2(北)	上層	SD09	弥生土器	壺	1/2 以上	24.1~			灰白色	10YR8/2	密(0.5~1.5mm 砂粒を多量含む)	良好	外:頸部3条刻目文をもつ貼付突帯
171	4	A2(北)	上層	SD09	弥生土器	甗	1/4 以下	20.7	6.3~		外:灰黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR5/2 10YR6/3	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部2条凹線文 煤付着
171	5	A2(北)	上層	SD09	弥生土器	壺	1/12 以下	(27.0)	2.7~		外:明黄褐色 内:黄色	2.5Y7/6 2.5Y8/6	密(0.5mm以下 砂粒を少量含む)	良好	外:口縁部5条凹線文・櫛描斜格子文・棒状浮文・ 3条断面三角形貼付突帯
171	6	A2(北)	上層	SD09	土製品	分銅形 土製品	1/2 以下	長: 2.4~	幅: 3.8	厚: 1.0	黒褐色	2.5Y3/1	密(0.5~2.5mm 砂粒を多量含む)	良好	外:棒状工具による刺突文
172	1	A2(北)	上層	土器溜まり 10	弥生土器	甗	1/6 以下	21.8	3.6~		外:灰白色 内:灰黄色	2.5Y8/2 2.5Y7/2	密(1.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文
172	2	A2(北)	上層	土器溜まり 10	弥生土器	甗			5.6~		外:浅黄褐色 内:灰白色	10YR8/3 10YR8/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 頸部指頭圧痕貼 付突帯文
172	3	A2(北)	上層	土器溜まり 10	弥生土器	蓋	ツマミ 跡	1.8~			外:褐灰色 内:黒色	10YR4/1 10YR2/1	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
174	1	A2(南)	上層	SD09	弥生土器	蓋	頂部 完形	4.0~	4.2		外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR6/3 10YR7/2	密(3mm以下 砂粒を少量含む)	良	
174	2	A2(南)	上層	SD09	弥生土器	鉢	1/8 以下	(21.2)	5.0~		外:灰白色 内:淡黄色	2.5Y8/2 2.5Y8/3	密(0.5mm以下 砂粒を少量含む)	良好	外:口縁部刻目文 肩部2条刻目文をもつ貼付突帯
174	3	A2(南)	上層	SD09	弥生土器	甗	1/12 以下	(19.2)	2.9~		外:灰白色 内:灰黄色	5Y8/2 2.5Y7/2	密(1mm以下 砂粒を少量含む)	良好	外:口縁部2条凹線文・円形浮文 頸部板状工具による押圧貼付突帯

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
174	4	A2(南)	上層	SD09	弥生土器	壺	1/8 以下	(26.8)	2.4~		灰白色	10YR8/2	密(3mm以下 砂粒を中量含む)	良好	外:3条凹線文・円形浮文 頸部1条断面三角形貼付突帯文
174	5	A2(南)	上層	SD09	ミニチュア 土器	甕か	1/2 以下		5.3~	3.3	外:灰白色 内:にぶい黄褐色	10YR8/2 10YR7/2	密(2mm大 砂粒を微量含む)	良	
174	6	A2(南)	上層	SD09	土製品	土笛	1/8 以下	3.0	4.9~		外:浅黄褐色 内:灰白色	10YR8/3 2.5Y7/1	密(2.5mm以下 砂粒を多量含む)	良好	2箇所穿孔 内外:黒斑あり
177	1	A2(南)	埋土	土器壺まり 12	弥生土器	底部	1/2 以下		28.2~		外:灰白色 内:灰白色	10YR2/8 2.5Y8/2	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	良好	内外:黒斑あり
177	2	A2(南)	埋土	土器壺まり 12	弥生土器	壺	小片		7.2~		浅黄褐色	10YR8/3	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:肩部1条へら描直線文
178	1	A1	埋土	SD09南	弥生土器	甕	1/6 以下	(24.0)	13.2~		外:浅黄褐色 内:にぶい黄褐色	7.5YR8/3 10YR7/2	密(0.5~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外:肩部1条へら描直線文
178	2	A1	埋土	SD09南	弥生土器	甕	1/8 以下	(11.8)	6.9~		にぶい黄褐色	10YR7/2	やや粗(4mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:口縁部刻目文 肩部1条へら描 直線文
178	3	A1	埋土	SD09南	弥生土器	甕	1/6 以下	(21.4)	12.3~		外:にぶい黄褐色 内:明褐色	10YR7/3 5YR7/1	粗(4mm大 砂粒を多量含む)	良	外:肩部1条へら描直線文
178	4	A1	埋土	SD09南	弥生土器	甕	1/6 以下	(25.6)	4.5~		外:にぶい黄褐色 内:灰白色	10YR7/2 2.5Y8/2	密(1mm以下 砂粒を少量含む)	良好	外:胴部1条へら描直線文
178	5	A1	埋土	SD09南	弥生土器	壺	1/6 以下	(32.6)	10.0~		外:灰白色 内:灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	密(0.5~1mm 砂粒を少量含む)	良好	外:胴部1条へら描直線文 煤付着
178	6	A1	埋土	SD09南	弥生土器	甕	1/6 以下	(24.4)	8.1~		外:灰褐色 内:灰白色	2.5YR6/2 2.5Y8/2	密(1mm以下 砂粒を多量含む)	良好	外:胴部3条へら描直線文 煤付着
178	7	A1	埋土	SD09南	弥生土器	甕	1/4 以下	26.0	13.0~		外:灰白色 内:浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	内:煤付着
178	8	A1	埋土	SD09南	弥生土器	甕	1/4 以下	27.0	15.0~		外:灰白色 内:にぶい黄褐色	10YR8/2 10YR7/3	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外:煤付着
178	9	A1	埋土	SD09南	弥生土器	甕	1/8 以下	(24.6)	16.0~		外:灰白色 内:浅黄褐色	7.5YR8/2 7.5YR8/4	密(4mm以下 砂粒を多量含む)	良	内:コゲ付着
178	10	A1	埋土	SD09南	弥生土器	甕	1/6 以下	(36.0)	13.0~		外:淡黄色 内:淡黄色	2.5Y8/3 2.5Y8/4	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	
178	11	A1	埋土	SD09南	弥生土器	甕	1/8 以下	(35.1)	5.6~		外:灰色 内:灰白色	N4/ 10YR8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
178	12	A1	埋土	SD09南	弥生土器	甕	1/8 以下	(26.9)	19.8~		外:淡赤褐色 内:灰白色	2.5YR7/4 10YR8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
178	13	A1	埋土	SD09南	弥生土器	鉢	ほぼ 完形	27.1	15.7	8.2	外:灰白色 内:褐色	10YR8/2 7.5YR4/1	密(0.5~4mm 砂粒を多量含む)	良好	内外:煤付着
178	14	A1	埋土	SD09南	弥生土器	鉢	1/2 以下	38.9	12.4~		外:にぶい黄褐色 内:褐色	10YR7/2 5YR7/6	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	外:煤付着
179	1	A1	埋土	SD09南	弥生土器	壺	小片		7.1~		灰白色	10YR8/2	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外:頸部段か
179	2	A1	埋土	SD09南	弥生土器	壺	1/2 以下		7.3~		外:灰白色 内:灰白色	7.5YR8/1 10YR8/1	密(1~4mm 砂粒を多量含む)	良好	外:頸部段
179	3	A1	埋土	SD09南	弥生土器	壺	1/8 以下		7.1~		外:浅黄褐色 内:灰白色	10YR8/3 N8/	密(0.5~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外:頸部1条へら描直線文
179	4	A1	埋土	SD09南	弥生土器	壺	1/4 以下	16.8	12.7~		灰白色	10YR8/2	やや粗(3mm以下 砂粒を多量含む)	良	外:口縁部刻目文をもつ貼付突帯
179	5	A1	埋土	SD09南	弥生土器	壺	小片		8.5~		外:浅黄褐色 内:灰白色	7.5YR8/3 10YR8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	外:胴部2条へら描直線文
179	6	A1	埋土	SD09南	弥生土器	壺	小片		9.6~		外:にぶい黄褐色 内:灰白色	10YR7/2 2.5Y8/1	密(0.5~4mm 砂粒を多量含む)	良好	外:胴部2条刻目文をもつ貼付突帯
179	7	A1	埋土	SD09南	弥生土器	壺	小片		7.3~		外:浅黄褐色 内:灰白色	7.5YR8/3 10YR8/2	密(2~4mm 砂粒を多量含む)	良好	外:胴部3条刻目文をもつ貼付突帯
179	8	A1	埋土	SD09南	弥生土器	文様片	小片		4.6~		黄灰色	2.5Y5/1	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外:2条へら描直線文・3条縦位へら 描直線文
179	9	A1	埋土	SD09南	弥生土器	無頸壺	1/2 以上	5.0	5.3~		外:灰白色 内:浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	2孔
179	10	A1	埋土	SD09南	弥生土器	無頸壺	1/4 以下	8.4	9.0~		外:にぶい 褐色 内:灰白色	5YR7/4 7.5YR8/2	密(1~2mm 砂粒を多量含む)	良好	1孔
179	11	A1	埋土	SD09南	弥生土器	蓋	1/4 以下	26.0	7.4~		外:灰白色 内:灰白色	10YR8/2 2.5Y7/1	やや粗(2mm以下 砂粒を少量含む)	良	内外:煤付着
179	12	A1	埋土	SD09南	弥生土器	蓋	1/3 以下		6.6~	8.2	外:灰白色 内:浅黄褐色	10YR7/1 7.5YR8/3	密(1~4mm 砂粒を多量含む)	良好	
179	13	A1	埋土	SD09南	弥生土器	蓋	1/6 以下	(22.8)	5.1~		外:灰黄色 内:灰白色	2.5Y7/2 2.5Y7/1	やや粗(3mm以下 砂粒を少量含む)	良	
179	14	A1	埋土	SD09南	弥生土器	底部	完形		6.6~	10.0	灰白色	10YR8/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
179	15	A1	埋土	SD09南	弥生土器	底部	完形		8.5~	10.9	外:褐色 内:灰白色	5YR7/6 10YR8/2	密(1~3mm 砂粒を非常に多量含む)	良好	外:黒斑あり
179	16	A1	埋土	SD09南	弥生土器	底部	1/8 以下		11.2~	(16.9)	外:灰白色 内:灰白色	10YR8/2 2.5Y8/2	密(0.5~2mm 砂粒を少量含む)	良好	
179	17	A1	埋土	SD09南	弥生土器	小壺か	小片		6.0~		外:にぶい黄褐色 内:にぶい黄褐色	10YR7/3 10YR7/2	密(0.5~1mm 砂粒を多量含む)	良好	
179	18	A1	埋土	SD09南	土製品	紡錘車	1/2 以下	径: 4.0	厚: 1.7		灰黄色	2.5Y7/2	密(3mm以下 砂粒を少量含む)	良	
180	1	A1	埋土	SD09北	弥生土器	壺	小片		6.9~		外:浅黄褐色 内:灰白色	10YR8/3 2.5Y8/1	密(1~2mm 砂粒をやや多量含む)	良好	外:頸部段
180	2	A1	埋土	SD09北	弥生土器	甕	1/8 以下	(22.3)	4.2~		外:灰褐色 内:灰白色	7.5YR5/2 10YR8/2	密(1~2.5mm 砂粒をやや多量含む)	良好	外:煤付着
180	3	A1	埋土	SD09北	弥生土器	蓋	1/6 以上	23.0	3.6~		外:にぶい黄褐色 内:灰黄褐色	10YR7/2 10YR6/2	密(1~3mm 砂粒を多量含む)	良好	
180	4	A1	埋土	SD09北	弥生土器	壺	小片		13.9~		灰白色	10YR8/1	密(1~3mm 砂粒をやや多量含む)	良好	外:胴部2条へら描直線文
180	5	A1	埋土	SD09北	弥生土器	文様片 (壺)	小片		5.3~		外:灰白色 内:浅黄褐色	2.5Y7/1 10YR8/3	密(1mm以下 砂粒を少量含む)	良好	外:胴部2条へら描直線文
180	6	A1	埋土	SD09北	弥生土器	文様片 (壺)	小片		5.0~		外:灰白色 内:浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(1~2mm 砂粒を少量含む)	良好	外:胴部3.5段羽状文
180	7	A1	埋土	SD09北	弥生土器	甕	1/6 以下	(15.6)	4.4~		外:にぶい 褐色 内:淡黄色	7.5YR7/6 2.5Y8/3	密(1mm以下 砂粒を少量含む)	良好	外:頸部指頭圧痕文帯
180	8	A1	埋土	SD09北	弥生土器	甕	1/4 以下	12.3	4.4~		外:にぶい黄褐色 内:灰白色	10YR7/2 2.5Y8/2	密(1mm大 砂粒をやや多量含む)	良好	



付表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
180	9	A1	埋土	SD09北	弥生土器	甕	1/8以下	(13.0)	7.8~		外;灰白色内;淡黄色	2.5Y8/3 2.5Y8/4	密(0.5~1.5mm砂粒を少量含む)	良好	外;煤付着
180	10	A1	埋土	SD09北	弥生土器	甕	1/4以下	19.0	5.1~		外;浅黄褐色内;淡黄色	10YR8/4 2.5Y8/3	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部2条凹線文
180	11	A1	埋土	SD09北	弥生土器	底部	1/2以上		6.8~	9.1	外;淡赤褐色内;灰白色	2.5YR7/4 10YR8/2	密(1~3mm砂粒を非常に多量含む)	良好	
186	1	B1	砂礫層	河道4	弥生土器	甕	1/12以下	28.1	8.1~		外;灰白色内;にぶい黄褐色	10YR8/2 10YR7/3	密(3mm以下砂粒を中量含む)	良好	外;肩部6条1単位櫛歯直線文18条・貝殻腹線による刺突文
186	2	B1	砂礫層	河道4	弥生土器	壺	1/4以下		8.6~		灰白色	10YR8/2	密(2.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;肩部1条刻目をもつ貼付突帯文黒斑あり
186	3	B1	砂礫層	河道4	弥生土器	甕	1/6以下	(22.2)	15.1~		外;褐色内;にぶい黄褐色	5YR6/8 10YR7/4	密(2mm大砂粒を多量含む)	良好	内外;煤コゲ付着
186	4	B1	砂礫層	河道4	弥生土器	低脚坏	ほぼ完形		3.2~	5.0	外;灰白色内;明褐色	2.5Y8/2 7.5YR5/8	密(1mm以下砂粒を中量含む)	良好	
186	5	B1	砂礫層	河道4	土師器	甕	1/8以下	(28.0)	4.5~		外;灰黄色内;灰白色	2.5Y7/2 2.5Y7/1	密(0.5mm以下砂粒を中量含む)	良好	
186	6	B1	砂礫層	河道4B	弥生土器	甕	1/10以下	(19.7)	9.5~		外;にぶい黄褐色内;にぶい黄褐色	5YR7/4 10YR7/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 肩部櫛歯直線文・2条ヘラ直線文 煤付着
186	7	B1	砂礫層	河道4B	弥生土器	壺	1/2以上		7.9~	5.4	灰白色	10YR8/2	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;肩部4条ヘラ直線文炭素吸着
186	8	B1	砂礫層	河道4B	弥生土器	長頸壺	1/2以上	34.0	11.6~		外;灰白色内;浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(1mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部斜格子文後円形浮文・刻目文 頸部3条貼付突帯文内;煤付着
188	1	B1	4層	(河道1)	弥生土器	甕	小片		4.5~		外;灰白色内;灰白色	10YR8/2 2.5YR8/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	逆L字状口縁
188	2	B1	4層	(河道1)	弥生土器	甕	1/2以上	16.4	13.7~		外;灰黄色内;にぶい黄褐色	2.5Y7/2 10YR7/2	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部4条凹線文 肩部波状文
188	3	B1	4層	(河道1)	弥生土器	甕	小片		5.0~		浅黄褐色	10YR8/3	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	
188	4	B1	4層	(河道1)	弥生土器	短頸壺	ほぼ完形	6.2	9.8	12.9	灰白色	2.5Y8/2	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好	1孔
188	5	B1	4層	(河道1)	弥生土器	短頸壺	1/3以下	13.2	7.7~		灰白色	2.5Y7/1	密(1mm以下砂粒を中量含む)	良好	
188	6	B1	4層	(河道1)	弥生土器	甕	ほぼ完形	7.4	8.5	2.3	外;褐灰色内;にぶい黄褐色	10YR5/1 10YR7/2	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;胴部櫛歯工具による刺突文 煤付着 頸部1孔
188	7	B1	4層	(河道1)	弥生土器	小壺	1/6以下	(9.0)	5.7~		灰白色	2.5Y8/1	密(2mm以下砂粒を多量含む)	良好	
188	8	B1	4層	(河道1)	弥生土器	裝飾壺	1/8以下		4.1~		外;黄褐色内;灰黄褐色	2.5Y4/1 10YR6/2	密(0.5~1mm砂粒を少量含む)	良好	外;胴部2条,3条直線文の間に刺突文・刻目文と直線文を交互に配置
188	9	B1	4層	(河道1)	弥生土器	裝飾壺	小片		4.2~		外;灰白色内;灰白色	2.5Y8/2 2.5Y8/1	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好	外;口縁部1条直線文 頸部から胴部3条直線文の間に4段刺突文
188	10	B1	4層	(河道1)	弥生土器	高坏	1/4以下	28.0	7.2~		外;灰白色内;灰白色	10YR8/1 10YR8/2	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部4条凹線文
188	11	B1	4層	(河道1)	弥生土器	器台	1/2以上		9.9~		灰白色	10YR8/1	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;脚部3条ヘラ状工具による擬凹線文
188	12	B1	4層	(河道1)	弥生土器	高坏	完形		12.8~		灰白色	10YR8/1	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	充填部1箇所穿孔孔
188	13	B1	4層	(河道1)	弥生土器	高坏	1/2以上		7.8~	10.6	外;灰白色内;浅黄褐色	10YR8/2 10YR8/3	密(1~2mm砂粒を少量含む)	良好	
188	14	B1	4層	(河道1)	弥生土器	壺	1/4以下		28.6~		外;にぶい黄褐色内;にぶい黄褐色	10YR7/2 10YR6/3	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;頸部から胴部凹線文で区画された 鏡書文羽状文刺突文 線刻による絵画(蛇または龍か) 煤付着
188	15	B1	4層	(河道1)	弥生土器	壺	1/4以上	31.0	26.0		外;浅黄褐色内;浅黄褐色	7.5YR8/3 10YR8/3	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部3条凹線文 頸部から胴部6条ヘラ直線文刺突文羽状文 煤付着
188	16	B1	4層	(河道1)	弥生土器	壺	1/2以下		14.0~		外;灰黄色内;浅黄褐色	2.5Y7/2 10YR8/3	密(0.5~1.5mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部3条以上ヘラ直線文 頸部6条凹線文の間に刺突文 煤付着
188	17	B1	4層	(河道1)	土製品	分銅形土製品	1/4以下	長: 3.7	幅: 3.5	厚: 1.3	灰白色	2.5Y8/2	密(0.5~1mm砂粒を少量含む)	良好	外;棒状工具による刺突文
194	1	B1	3d層	河道1	弥生土器	甕	1/8以下	23.6	10.6~		にぶい黄褐色	10YR7/3	密(3.5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 肩部ヘラ直線文と刺突文を交互に配置 内外;煤コゲ付着
194	2	B1	3d層	河道1	弥生土器	無頸壺	1/6以下	(8.0)	11.3~		灰黄色	2.5Y7/2	密(1~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;頸部,胴部6条直線文・円形刺突文
194	3	B1	3d層	河道1	弥生土器	鉢	1/4以下	11.6	7.5~		にぶい黄褐色	10YR7/2	密(2.5mm以下砂粒を中量含む)	良好	外;肩部1条ヘラ直線文 胴部ヘラ直線文 煤付着
194	4	B1	3d層	河道1	弥生土器	壺	1/12以下	(27.3)	7.3~		外;にぶい黄褐色内;灰白色	10YR7/2 10YR8/2	密(1~3mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部1段羽状文 頸部6条以上ヘラ直線文 黒斑あり 内;口縁部縦位ヘラ直線文(放射状)
194	5	B1	3d層	河道1	弥生土器	底部	完形		3.9~	9.4	外;にぶい黄褐色内;にぶい黄褐色	10YR7/4 10YR7/2	密(0.5~3mm砂粒を少量含む)	良好	外;底部ヘラ直線文(上弦)・2条ヘラ直線文
194	6	B1	3d層	河道1	弥生土器	甕	1/8以下	(23.8)	13.5~		外;灰白色内;にぶい黄褐色	10YR8/2 10YR7/2	密(1mm大砂粒を多量含む)	良好	内外;煤コゲ付着
194	7	B1	3d層	河道1	弥生土器	甕	1/8以下	(25.8)	6.6~		外;にぶい黄褐色内;黄褐色	7.5YR7/4 5YR6/6	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部擬凹線文内;赤彩
194	8	B1	3d層	河道1	弥生土器	甕	1/8以下	(16.0)	6.2~		淡褐色	5YR8/3	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良	
194	9	B1	3d層	河道1	弥生土器	胴部	1/6以下		7.7~		外;にぶい黄褐色内;灰白色	10YR7/2 2.5Y7/1	やや砂(1mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;タタキ 黒斑あり 内;ケズリ
194	10	B1	3d層	河道1	弥生土器	器台	1/3以下		6.2~	15.7	灰白色	5Y8/1	密(2mm以下砂粒を少量含む)	良	外;裾部4条凹線文
194	11	B1	3d層	河道1	弥生土器	脚付碗	1/4以下	9.9	6.8~		灰白色	10YR8/2	密(1~2mm砂粒を多量含む)	良好	
194	12	B1	3d層	河道1	弥生土器	高坏	1/3以上		3.6~		明赤褐色	5YR5/6	密(2.5mm以下砂粒を中量含む)	良	
194	13	B1	3d層	河道1	弥生土器	把手	1/2以上	長: 5.0	幅: 1.3	厚: 1.2	灰白色	10YR8/2	密(0.5~1mm砂粒を少量含む)	良好	外;赤彩 注口土器か
194	14	B1	3d層	河道1	ミニチュア土器	壺	1/3以下	4.5	7.2~		外;灰白色内;褐灰色	10YR7/1 10YR5/1	密(2mm以下砂粒を微量含む)	やや不良	
194	15	B1	3d層	河道1	土製品	土笛か	1/6以下		5.8~		外;灰白色内;灰白色	2.5Y8/2 10YR8/2	密(1.5mm以下砂粒を中量含む)	良好	外;黒斑あり

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調	胎土	焼成	備考	
194	16	B1	3d層	河道1	土製品	土笛か	底部のみ		4.1~		灰黄色	2.5Y7/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	
194	17	B1	3d層	河道1	弥生土器	底部か	底部のみ		2.0~		外;にぶい黄橙色 内;灰黄色	10YR7/2 2.5Y7/2	密(1mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;黒斑あり
194	18	B1	3d層	河道1	土製品	紡錘車か	完形	長; 4.0	幅; 4.1	厚; 1.4	灰白色	10YR8/1	密(2mm以下砂粒を少量含む)	良好	
195	1	B1	3d層	河道1	須恵器	蓋	1/6以下	(15.8)	1.2	(9.0)	灰色	N5/	密(0.5mm大白色粒子を少量含む)	良好	
195	2	B1	3d層	河道1	須恵器	坏	1/12以下	(13.0)	5.5~	(9.4)	灰色	N6/	密(0.5mm大白色粒子を少量含む)	良好	
195	3	B1	3d層	河道1	須恵器	坏	1/4以下	14.0	3.9	9.2	灰色	N6/	密(1mm以下白色粒子を少量含む)	良好	
195	4	B1	3d層	河道1	須恵器	坏	1/2以下	12.4	3.5	7.2	灰白色	10Y7/1	密(1mm以下白色粒子を多量含む)	良好	
195	5	B1	3d層	河道1	須恵器	坏	1/4以下	12.2	3.8	7.0	灰白色	N7/	密(0.5mm大黒色粒子を少量含む)	良好	
195	6	B1	3d層	河道1	須恵器	皿	1/4以下	17.0	2.3	13.4	灰色	N6/	密(1mm大白色粒子を少量含む)	良好	
195	7	B1	3d層	河道1	須恵器	皿	1/4以下	20.4	3.7	15.2	灰白色	N6/	密(1mm大白色粒子を多量含む)	良好	
195	8	B1	3d層	河道1	須恵器	皿	1/8以下	(18.8)	3.8	(12.6)	外;灰黄色 内;灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y6/1	密(1.5mm以下白色砂粒を少量含む)	良好	
195	9	B1	3d層	河道1	須恵器	甗	小片		5.3~		灰白色	2.5Y7/1	密(1mm以下黒色粒子を多量含む)	良好	
195	10	B1	3d層	河道1	須恵器	甗	小片		6.6~		外;暗灰色 内;灰色	N3/ N6/	密(0.5mm大砂粒を微量含む)	良好	
195	11	B1	3d層	河道1	土師器	柱状高台坏	ほぼ完形		3.3~		灰黄色	2.5Y7/2	密(砂粒をほとんど含まない)	良好	底部;回転糸切痕
200	1	B1	3層	河道1	須恵器	甗	1/2以下	8.8	11.9		外;暗青灰色 内;灰色	5B4/1 N5/	密(1mm以下白色粒子を微量含む)	良好	肩部1孔 内外;自然釉
200	2	B1	3b層	河道1	弥生土器	蓋	裾部欠		9.4~	7.0	外;灰白色 内;黒褐色	10YR8/1 2.5Y3/1	密(4mm以下砂粒を多量含む)	良好	内外;黒斑あり
200	3	B1	3b層	河道1	弥生土器	把手	1/2以下	縦; 5.1	横; 4.5	厚; 2.0	灰白色	10YR8/2	密(0.5~2mm砂粒を多量含む)	良好	注口土器か
200	6	B1	3c層	河道1	須恵器	坏	ほぼ完形	10.4	4.3		外;灰色 内;灰白色	N5/ N7/	密(1mm大砂粒を少量含む)	良好	
200	7	B1	3c層	河道1	弥生土器	器台か	1/8以下	(25.0)	3.1~		灰白色	10YR8/2	密(1mm以下砂粒を中量含む)	やや不良	外;口縁部7条擬凹線文 赤彩か
205	1	B1	砂礫層	河道2	弥生土器	甗	小片		9.0~		外;にぶい黄橙色 内;灰黄色	10YR7/2 2.5Y7/2	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;口縁部刻目文 肩部擬描文・三角形刺突文 黒斑あり
205	2	B1	砂礫層	河道2	弥生土器	高坏	1/6以下	(18.6)	5.7~		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/1 10YR8/2	密(1mm以下砂粒を中量含む)	良好	内;赤色顔料
205	3	B1	砂礫層	河道2	土師器	高坏	体部破断		7.2~	(9.0)	外;灰白色 内;灰白色	10YR8/1 10YR8/2	密(0.5mm以下砂粒を微量含む)	良好	
205	4	B1	砂礫層	河道2	土師器	甗	1/8以下	(19.4)	5.0~		外;褐色 内;浅黄色	10YR4/1 2.5Y7/3	密(2mm以下砂粒を少量含む)	良	
205	5	B1	砂礫層	河道2	土師器	把手	完形				外;灰白色 内;灰白色	10YR8/2 2.5Y7/1	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好	
205	6	B1	砂礫層	河道2	土師器	皿	1/2以上	18.0	3.3	10.0	外;にぶい橙色 内;灰白色	7.5Y6/4 2.5Y7/1	密(2mm以下砂粒を微量含む)	良好	内;赤彩
205	7	B1	砂礫層	河道2	須恵器	蓋	1/2以下	12.4	4.2		灰色	N5/	密(1mm大砂粒を微量含む)	良好	外;天井部「一」ヘラ記号
205	8	B1	砂礫層	河道2	須恵器	坏	1/4以下	8.2	2.7		外;灰白色 内;赤灰色	N7/ 5R5/1	密(1mm大砂粒を少量含む)	良好	
205	9	B1	砂礫層	河道2	須恵器	坏	1/3以下	13.4	4.2		灰色	7.5Y6/1	密(1mm大砂粒を少量含む)	良好	
205	10	B1	砂礫層	河道2	須恵器	甗	小片		12.3~		暗灰色	N3/	密(1mm以下砂粒を少量含む)	良好	
205	11	B1	砂礫層	河道2	須恵器	甗	小片		4.3~		外;紫灰色 内;灰色	5P6/1 N6/1	密(3.5mm以下砂粒を中量含む)	良好	
216	1	A2(南)	2層	F4	弥生土器	甗	1/6以下	(17.7)	7.4~		外;浅黄色 内;淡黄色	2.5Y7/3 2.5Y8/3	密(5mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;肩部3条ヘラ描直線文 煤付着
216	2	B1	排土		弥生土器	文様片	小片		5.4~		外;灰黄色 内;黒色	2.5Y7/2 N2/	密(3mm以下砂粒を多量含む)	良好	外;頸部ハケ状工具による段内;口縁部1条貼付突帯
216	3	A2(南)	排土		ミニチュア土器	甗	ほぼ完形	3.5	3.2	1.8	外;灰黄色 内;灰黄色	2.5Y6/2 2.5Y7/2	密(2mm以下砂粒を少量含む)	良好	
216	4	B1	排土		ミニチュア土器	甗	1/3以下	3.0	3.6~		外;灰オリーブ色 内;灰白色	5Y6/2 5Y7/2	密(1mm以下砂粒を微量含む)	良	
216	5	A2(南)		サブトレ	土製品	土笛	小片	2.6	2.3~		外;浅黄褐色 内;浅黄褐色	10YR8/3 7.5Y8/3	密(1mm以下砂粒を微量含む)	良好	1孔
216	6	B1	排土		土製品	土製円盤	ほぼ完形	径; 5.6	厚; 1.4	孔径; 0.7	外;灰黄色 内;暗灰黄色	2.5Y7/2 2.5Y5/2	密(3mm以下砂粒を中量含む)	良好	中央1孔

表 10 西川津遺跡出土石器・石製品観察表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
45	1	A2(南)	上層	SD10	石鏃	黒曜石	(1.7)	(1.3)	0.2	0.35	凹基式
45	2	A2(南)	上層	SD10	両刃石斧	片岩	(11.0)		(4.0)	135.10	全面研磨 敲打痕
45	3	A2(南)	上層	SD10	両刃石斧	頁岩	(13.0)	(6.0)	2.1	150.40	刃部全面研磨 敲打痕
46	1	A1	埋土	SD10	石包丁	頁岩	(8.5)	(5.9)	(0.8)	52.94	研磨痕
46	2	A1	埋土	SD10	石包丁転用不明石器	頁岩	(6.5)	6.9	0.9	57.80	全面研磨 1孔
46	3	A1	埋土	SD10	敲石	流紋岩	(7.0)	(4.8)	3.1	90.39	端部敲打痕
46	4	A1	埋土	SD10	石鏃	流紋岩	9.7	6.4	1.4	91.12	2打欠
46	5	A1	埋土	SD10	石鏃	黒曜石	2.3	1.5	0.3	0.91	凹基式
51	1	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(2.5)	(1.5)	(0.5)	0.98	凹基式
51	2	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(2.4)	(1.1)	(0.5)	0.93	凹基式
51	3	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(1.9)	1.3	0.3	0.49	凹基式
51	4	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(2.1)	(1.9)	0.6	1.73	凹基式か
51	5	A1	埋土	SD06	鑿状工具か	安山岩か	(3.1)	1.3	0.8	5.42	全面研磨
51	6	A1	埋土	SD06	両刃石斧	片岩	(10.0)	(6.7)	(4.0)	415.40	全面研磨
60	1	B1	上層	SD13	石鏃	黒曜石	(2.0)	1.3	0.4	0.55	凹基式
60	2	B1	上層	SD13	石鏃未製品	黒曜石	(1.6)	(1.7)	0.6	1.75	凹基式か
60	3	B1	上層	SD13	スクレイパー	黒曜石	5.3	3.6	1.3	14.83	自然面・主要剥離面残る
60	4	B1	上層	SD13	スクレイパー	碧玉	4.4	3.5	1.2	17.40	自然面・主要剥離面残る
60	5	B1	上層	SD13	石包丁か	頁岩	(3.0)	(4.5)	0.5	7.87	孔径:0.6cm
60	6	B1	上層	SD13	石鏃	細粒花崗岩	(4.4)	1.9	1.8	16.60	
60	7	B1	上層	SD13	砥石	花崗岩	(5.8)	(3.3)	(4.6)	98.60	研磨痕
66	1	B1	上層	SX01	石鏃	黒曜石	(2.4)	(1.6)	0.3	0.88	凹基式
66	2	B1	下層	SX01	石鏃	黒曜石	(4.8)	2.5	1.1	7.00	先端欠損
66	3	B1	上層	SX01	扁平片刃石斧	頁岩	(3.7)	1.9	0.9	11.05	ほぼ全面研磨
66	4	B1	上層	SX01	扁平両刃石斧未製品	片岩	6.8	2.6	0.9	34.01	全面研磨 敲打痕
66	5	B1	下層	SX01	石斧未製品	珪質頁岩	10.3	6.0	2.6	244.60	自然面・主要剥離面残る
66	6	B1	下層	SX01	スクレイパー	凝灰岩	9.4	5.8	1.4	68.20	自然面・主要剥離面残る
71	1	B1	窓枠周辺	SD15	石鏃	黒曜石	(1.1)	1.4	0.3	0.39	凹基式
71	2	B1	上層	SD15	石鏃	黒曜石	(2.2)	0.9	0.6	1.20	
72	1	B1	埋土	SX02	凹石	デイサイト	12.0	10.0	5.9	1017.00	敲打痕及び磨き痕あり
85	1	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	1.5	1.3	0.3	0.45	凹基式
85	2	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	(1.7)	1.7	0.4	0.96	凹基式
85	3	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	(1.3)	(1.4)	(0.3)	0.45	下部欠損
85	4	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	(1.4)	1.4	(0.5)	0.65	凹基式か 未製品か
85	5	A1	埋土	SD07	石鏃(未製品か)	黒曜石	2.2	1.6	0.3	1.03	凹基式
85	6	A1	埋土	SD07	石鏃未製品	黒曜石	(2.6)	(2.0)	(0.5)	1.99	凹基式
85	7	A1	埋土	SD07	楔形石器か	黒曜石	3.6	(1.4)	(1.1)	7.09	
85	8	A1	埋土	SD07	石鏃	頁岩	(11.8)	6.9	1.7	212.00	
85	9	A1	埋土	SD07	石鏃	頁岩	20.1	11.7	3.5	682.00	自然面・主要剥離面残る
85	10	A1	埋土	SD07	不明石器	頁岩	4.3	4.0	0.4	12.36	研磨痕 穿孔途中の痕跡あり
85	11	A1	埋土	SD07	不明石器 (石包丁様石器)	頁岩	(4.1)	3.2	(0.4)	8.67	1孔
85	12	A1	上層	SD07	不明石器 (石包丁の転用か)	頁岩	5.2	(4.7)	0.5	16.42	
85	13	A1	上層	SD07	石包丁様石器	砂岩	(7.2)	3.5	(0.8)	26.17	
86	1	A1	埋土	SD07	両刃石斧	片岩	(12.8)	(4.7)	4.0	242.19	研磨痕 敲打痕
86	2	A1	埋土	SD07	両刃石斧	片岩	(7.3)	(5.2)	(3.4)	182.25	研磨痕 敲打痕
86	3	A1	埋土	SD07	挟り入り柱状片刃石斧 転用敲石	頁岩	(8.8)	(4.3)	(4.2)	275.36	全面研磨
86	4	A1	埋土	SD07	敲石	流紋岩	(8.9)	4.4	2.8	159.27	敲打痕
86	5	A1	埋土	SD07	不明石器未製品	頁岩	(9.9)	(3.7)	2.2	125.51	敲打痕
86	6	A1	埋土	SD07	石鏃	流紋岩	6.0	5.1	2.1	108.34	1打欠
86	7	A1	埋土	SD07	石鏃か	安山岩	(7.7)	4.6	(0.8)	38.35	2打欠
86	8	A1	上層~下層	SD07	砥石	砂岩	(11.7)	5.2	4.2	286.70	
136	1	A2(南)	オモカス層	SD09	石鏃	頁岩	(7.8)	7.1	1.9	132.60	
137	1	A2(北)	オモカス層	SD09	石包丁か	頁岩	(6.6)	(5.6)	(0.4)	20.30	孔径:0.5cm 研磨痕
137	2	A2(北)	オモカス層	SD09	片刃石斧	片岩	(14.7)	5.4	3.2	401.20	研磨痕 敲打痕 一部被熱 柱状片刃石斧か
137	3	A2(北)	オモカス層	SD09	紡錘車	頁岩	(4.5)	(2.8)	0.6	10.60	復元径:5.8cm 復元孔径:0.7cm 全面研磨 敲打痕か
159	1	A2(北)	下層	SD09	管玉未製品(端材か)	凝灰岩	4.4	1.4	0.6	3.78	施溝分割
159	2	A2(北)	下層	SD09	管玉未製品(端材か)	凝灰岩	4.1	2.1	0.5	7.80	ほぼ全面研磨 施溝分割
159	3	A2(北)	下層	SD09	環状石斧	玄武岩	(8.2)	(4.7)	3.1	142.03	平坦面;研磨後敲打 側面;敲打痕
159	4	A2(北)	下層	SD09	両刃石斧未製品	片岩	26.4	7.5	3.2	970.60	研磨痕 被熱か
159	5	A2(北)	下層	SD09	両刃石斧	片岩	(12.5)	5.1	3.0	296.60	研磨痕
159	6	A2(北)	下層	SD09	両刃石斧未製品	片岩	17.3	8.6	5.4	1424.00	敲打痕 自然面残る
160	1	A2(南)	下層	SD09	石鏃	流紋岩	11.1	7.0	1.8	175.30	2打欠
163	1	A2(北)	黒色粘土層	SD09	石鏃	黒曜石	3.5	1.9	0.2	1.10	凹基式
163	2	A2(北)	黒色粘土層	SD09	鑿状工具か	凝灰岩	(4.4)	(1.0)	0.6	3.40	研磨痕 施溝分割
167	1	A2(北)	黒色土層	SD09	磨製石鏃未製品	安山岩	6.6	2.7	0.9	20.80	全面研磨
167	2	A2(北)	黒色土層	SD09	石鏃	砂岩	3.4	1.5	1.5	7.70	
168	1	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	石鏃	黒曜石	2.7	(1.8)	0.3	1.29	凹基式
173	1	A2(北)	上層	土器溜まり10	管玉未製品	凝灰岩	(4.0)	(1.6)	0.4	3.60	施溝1箇所 全面研磨
176	1	A1	埋土	SD09南	石包丁	頁岩	13.7	(5.3)	(0.7)	63.13	2孔 全面研磨 杏仁形
187	1	B1	砂礫層	河道4	管玉	頁岩か	0.6	0.2	(0.1)	0.03	復元径:0.3cm 孔径:0.1~0.2cm 両面穿孔
187	2	B1	砂礫層	河道4	大型石鏃	玄武岩	(17.6)	(11.5)	12.3	3140.00	敲打痕 十字溝
190	1	B1	4層	河道1	九州型石鏃	安山岩	(3.1)	(4.0)	(4.5)	38.76	施溝 二次加工
196	1	B1	3d層	河道1	大型石包丁か	凝灰岩	18.6	8.9	1.3	214.97	施溝分割 研磨痕
196	2	B1	3d層	河道1	大型石包丁未製品	砂岩	11.0	14.5	1.7	300.25	1孔(未貫通) 全面研磨 敲打痕
197	1	B1	3d層	河道1	両刃石斧	片岩	11.8	5.3	3.6	378.00	研磨痕 敲打痕
197	2	B1	3d層	河道1	両刃石斧	頁岩	16.1	6.3	4.1	610.00	研磨痕 敲打痕 使用痕
197	3	B1	3d層	河道1	両刃石斧	塩基性片岩	(12.1)	(6.0)	(4.6)	560.00	研磨痕 敲打痕
197	4	B1	3d層	河道1	両刃石斧	片岩	(10.1)	(6.4)	(3.6)	449.00	研磨痕 敲打痕 敲石として転用か
197	5	B1	3d層	河道1	両刃石斧	塩基性片岩	(11.9)	(5.9)	(3.9)	471.00	研磨痕 敲打痕
197	6	B1	3d層	河道1	両刃石斧	流紋岩	(12.6)	(6.6)	(4.7)	680.00	研磨痕 敲打痕
201	1	B1	3層	河道1	九州型石鏃	安山岩	7.3	3.5	3.2	81.68	施溝
206	1	B1	砂礫層	河道2	扁平片刃石斧	頁岩	8.8	7.2	1.2	173.90	全面研磨 両側面に挟り
217	1	A1	1層	E5	磨製石剣未製品	安山岩	18.9	(5.6)	1.7	227.02	研磨痕
217	2	A1	1層	E5	両刃石斧	片岩	(8.0)	(5.5)	4.1	242.24	研磨痕 敲打痕
217	3	A1	1層	E5	石鏃か	流紋岩	6.5	4.2	1.3	52.43	1打欠か
218	1	B1	2層	D7	管玉未製品	凝灰岩	2.8	1.2	1.0	4.54	孔径:0.3cm(未貫通 深さ0.15cm程度の浅い凹み)

表 11 西川津遺跡出土木製品観察表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	品目	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	その他の寸法 (cm)	木取り	樹種	備考
21	1	B1	砂層	C8	板状木製品	22.6	5.8	1.5		板目		木片か
47	1	A2(南)	下層	SD10	板状木製品	14.8	15.0	0.9		柁目	スギ	全面炭化
48	1	A1	下層	SD10	壺形容器 未製品		長径:19.0 短径:17.1	高:(17.9)		コブ部分 加工	クスノキ	把手付 加工痕
48	2	A1	下層	SD10	鎌	(9.9)	6.0	2.1		板目	コナラ属アカシヤ属	1孔
48	3	A1	下層	SD10	板状木製品	63.7	8.2	3.1		分割材	アカガシ亜属	3目釘孔か
48	4	A1	下層	SD10	棒状木製品	51.5	6.4	6.4		芯持材	クスノキ科	樹皮残存 先端部炭化 凹みあり
61	1	B1	下層	SD13	板状木製品	(17.9)	5.1	0.5		柁目		
61	2	B1	下層	SD13	板状木製品	(5.8)	(3.5)	(0.9)		板目?	ヤマグワ	1孔
61	3	B1	下層	SD13	不明木製品	(5.6)	(4.3)	(1.5)		板目		先端部か 全面炭化
61	4	B1	下層	SD13	棒状木製品	(52.5)	2.3	1.4		柁目?	スギ	3孔
61	5	B1	下層	SD13	加工材	54.2	8.5	3.5		板目		2面加工
67	1	B1	下層	SX01	板状木製品	22.1	5.0	0.7		板目	コナラ属アカシヤ属	穿孔 黒曜石の破片付着
67	2	B1	下層	SX01	板状木製品	(5.8)	(7.2)	(2.0)		板目		全面炭化 樹皮残存
67	3	B1	下層	SX01	板状木製品	(16.6)	(12.3)	(1.9)		板目		一部炭化
67	4	B1	下層	SX01	板状木製品	(9.2)	5.5	1.3		柁目?		ほぼ全面炭化
67	5	B1	下層	SX01	板状木製品	(16.9)	4.5	1.5		柁目		
67	6	B1	下層	SX01	板状木製品	(17.0)	3.1	1.4		板目		一部炭化
67	7	B1	下層	SX01	板状木製品	(3.5)	3.3	1.2		板目		全面炭化
67	8	B1	下層	SX01	不明木製品	(4.8)	3.0	0.8		板目		木片か
67	9	B1	下層	SX01	先端部炭化木片	(7.0)	2.2	0.8		板目		先端炭化 擦痕
67	10	B1	下層	SX01	角材状木製品	35.6	5.4	5.5		柁目		先端炭化
67	11	B1	下層	SX01	板状木製品か	(28.9)	(3.4)	(1.6)		板目		
67	12	B1	下層	SX01	加工材	(22.7)	6.5	6.7		芯持材		先端加工で尖る 樹皮残存 上端部炭化
67	13	B1	下層	SX01	丸太状木製品	82.7	17.4	12.6		芯持材		側面加工痕 樹皮残存 一部炭化
67	14	B1	下層	SX01	杭	59.6	7.8	6.3		芯持材		先端加工で尖る 全面炭化
70	1	B1	上層	SD15	窓枠状木製品	69.8	75.2				スダジイ	
70	2	B1	上層	SD15	板状木製品	38.1	4.0	0.8		柁目	スギ	加工痕 先端薄く加工
70	3	B1	窓枠周辺	SD15	板状木製品	(37.0)	(3.7)	1.2		柁目		正面、側面炭化
70	4	B1	窓枠下	SD15	板状木製品	(15.4)	(4.7)	(0.7)		柁目		正面炭化
70	5	B1	窓枠下	SD15	板状木製品	11.6	7.2	0.7		板目		
70	6	B1	下層	SD15	板状木製品	(13.1)	(6.9)	(0.9)		板目		
70	7	B1	窓枠周辺	SD15	板状木製品(腐敗)	(6.0)	(3.6)	(1.1)				2孔 全面炭化
70	8	B1	上層	SD15	板状木製品	(45.8)	11.1	2.5		板目		
70	9	B1	窓枠下	SD15	板状木製品	34.5	3.8	1.3		板目		
70	10	B1	下層	SD15	板状木製品	30.5	6.6	3.0		板目		
70	11	B1	窓枠下	SD15	板材の一部か	10.3	5.8	2.5		板目		一部炭化
70	12	B1	上層	SD15	角材状木製品か	33.9	5.7	2.7		分割材		
70	13	B1	窓枠下	SD15	角材状木製品	(26.7)	2.7	2.1		分割材		樹皮残存
70	14	B1	下層	SD15	棒状木製品	(12.7)	1.7	1.6		芯持材		先端加工で尖る 一部樹皮残存
70	15	B1	下層	SD15	大型炭化木片	(13.8)	5.6	5.2		芯持材		
87	1	A1	埋土	SD07	蓋か			0.7	天井部径:(5.7)	柁目?	エノキ属	黒漆塗布の上に赤漆で塗彩
87	2	A1	下層	SD07	鎌柄	25.4~	2.7	2.9			ムクロジ	
87	3	A1	下層	SD07	鎌	(23.6)	(15.9)	(2.7)		柁目	コナラ属アカシヤ属	
87	4	A1	下層	SD07	鋤状木製品	(165.0)	(5.7)	(2.0)		柁目	コナラ属アカシヤ属	4孔(2孔貫通せず) 一部炭化
87	5	A1	下層	SD07	四脚付台か	26.8	(10.7)	6.4		柁目	スギ	
87	6	A1	下層	SD07	用途不明木製品	(11.9)	(2.5)	(1.3)		板目	スギ	4孔
87	7	A1	埋土	SD07	板状木製品	134.9	20.3	3.1		柁目	スギ	1孔 加工痕 一部炭化
88	1	A1	下層	SD07	組合せ箱型 容器	57.2 内法:47.9	51.9 内法:(43.4)	高:24.8	底板厚:2.0	柁目	スギ	穿孔、木釘残存 接着剤として漆使用か 加工痕
88	2	A1	下層	SD07	板状木製品	71.3	32.5	1.7		板目	スギ	加工痕 穿孔か
88	3	A1	下層	SD07	板状木製品	(29.7)	(9.6)	(1.6)		柁目	モミ属	
88	4	A1	下層	SD07	板状木製品	(113.0)	(22.0)	(2.3)		板目	スギ	加工痕
89	1	A1	下層	SD07	板状木製品	75.4	19.2	1.5		柁目	スギ	2孔 2条溝状凹み 放射状に筋状の痕跡あり
89	2	A1	下層	SD07	板状木製品	97.0	21.9	1.6		柁目	スギ	
89	3	A1	下層	SD07	板材	(26.2)	6.3	2.5		柁目	スダジイ	目釘孔1孔
89	4	A1	下層	SD07	板状木製品	30.5	5.5	2.8		柁目	ヤマグワ	加工痕
89	5	A1	下層	SD07	板材	(11.3)	(5.0)	(0.6)		柁目	スギ	
89	6	A1	下層	SD07	棒状木製品	(12.4)	3.7	1.4		板目	広葉樹	加工痕
89	7	A1	下層	SD07	棒状木製品	31.1	5.0	1.5~2.3		柁目	スダジイ	
90	1	A1	下層	SD07	加工材	89.5	7.8	2.4		板目?	スダジイ	一部炭化
90	2	A1	下層	SD07	棒状木製品	(58.1)	径:1.8			芯持材	マキ属近似	
90	3	A1	下層	SD07	棒状木製品	(68.8)	5.7	5.3		芯持材	ツバキ属	一部炭化
90	4	A1	下層	SD07	棒状木製品	(45.0)	5.0	4.6		芯持材	ツバキ属	一部炭化
95	1	B1		P124	加工材	46.1	10.6	6.8		芯持材	マキ属	
126	1	A2(北)	砂礫層	SD09	用途不明木製品	(57.9)	0.9~1.6	0.5~1.2		芯持材	イヌガヤ	加工痕 網枠か
126	2	A2(北)	砂礫層	SD09	杭	51.4	4.7	4.3		芯持材	マキ属	先端加工で尖る
138	1	A2(北)	オモカス層	SD09	編物	9.6	19.8	0.01~0.3			草本	口縁部;横添えもじり編み、以下網編
138	2	A2(北)	オモカス層	SD09	鉢	口径:36.0		0.5~1.0		横木取り	ヤマグワ	口縁部槽円形か
138	3	A2(北)	オモカス層	SD09	杓子	15.6	8.7	0.7		柁目	ヤマグワ	炭化
138	4	A2(北)	オモカス層	SD09	腰掛	31.2	12.2	3.0~4.0		板目	スギ	1孔 一部炭化
138	5	A2(北)	オモカス層	SD09	有頭棒	26.3	2.2	1.8		分割材	スギ	両端加工
138	6	A2(北)	オモカス層	SD09	用途不明木製品	11.7	2.0	1.8		芯持材	サカキ	緊縛棒か
138	7	A2(北)	オモカス層	SD09	梯子	(51.8)	(13.9)	(1.0~5.4)	蹴上げ:36.0 踏面:4.0	板目	スダジイ	加工痕 ほぼ全面炭化 連結材付随か



付表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	品目	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	その他の寸法 (cm)	木取り	樹種	備考
139	1	A2(北)	オモカス層	SD09	鍛先	(29.8)	(13.0)	0.5~3.6	柄孔径 前面:3.6×2.7 後面:4.3×3.1 着柄角度:64°	柱目	コナラ属アカガシ亜属	裏面炭化
139	2	A2(北)	オモカス層	SD09	鍛先	(7.3)	(8.4)	0.6~2.6	着柄角度:62.5°	柱目	コナラ属アカガシ亜属	全面炭化
139	3	A2(北)	オモカス層	SD09	鍛先か	(7.4)	(6.8)	(0.2~0.5)		柱目	コナラ属アカガシ亜属	全面炭化
139	4	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品 (鍛先か)	18.9	17.5	1.1		柱目	コナラ属アカガシ亜属	
139	5	A2(北)	オモカス層	SD09	鍛先	(31.3)	(5.1)	0.3~1.4		柱目	コナラ属アカガシ亜属	全面炭化
139	6	A2(北)	オモカス層	SD09	鍛先未製品	31.9	20.6	1.3~4.8		柱目	コナラ属アカガシ亜属	加工痕
139	7	A2(北)	オモカス層	SD09	鍛先未製品	39.2	23.0	1.5~3.6		柱目	コナラ属アカガシ亜属	加工痕
140	1	A2(北)	オモカス層	SD09	鍛先未製品	32.5	26.6	1.6~6.8		柱目	コナラ属アカガシ亜属	加工痕
140	2	A2(北)	オモカス層	SD09	鍛先未製品	32.8	24.5	1.4~6.3		柱目	コナラ属アカガシ亜属	加工痕
140	3	A2(北)	オモカス層	SD09	鍛先未製品	(29.9)	(25.9)	2.4~8.7		柱目	コナラ属アカガシ亜属	加工痕
141	1	A2(北)	オモカス層	SD09	鍛先未製品	20.5	16.5	5.8		柱目	コナラ属アカガシ亜属	加工痕 小型
141	2	A2(北)	オモカス層	SD09	鍛先未製品	22.5	18.2	0.7~3.3		柱目	コナラ属アカガシ亜属	加工痕 小型
141	3	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	(19.1)	17.5	2.0		柱目	コナラ属アカガシ亜属	加工痕 端材か
141	4	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	25.7	16.3	3.5		柱目	コナラ属アカガシ亜属	加工痕
142	1	A2(北)	オモカス層	SD09	鍛または 鍛先未製品か	87.2	24.6	7.0		柱目	コナラ属アカガシ亜属	材を分割する際の加工痕 樹皮残存
142	2	A2(北)	オモカス層	SD09	用途不明木製品	41.9	18.0	3.5		柱目	コナラ属アカガシ亜属	材を分割する際の加工痕 樹皮残存
143	1	A2(北)	オモカス層	SD09	泥除未製品	(65.7)	31.6	(0.2~7.2)		板目	ムクロジ	加工痕 2個連作
143	2	A2(北)	オモカス層	SD09	泥除未製品	(39.7)	31.8	(5.1)		板目	ニガキ	裏面中心部薄く加工
144	1	A2(北)	オモカス層	SD09	斧柄	59.0	2.8~7.5	4.5	孔径:3.0×6.8	分割材	モチノキ属	直柄
144	2	A2(北)	オモカス層	SD09	斧柄未製品	73.5	4.0~8.0	7.0		分割材	コナラ属アカガシ亜属	
144	3	A2(北)	オモカス層	SD09	斧柄未製品	70.5	11.3	8.5		分割材	コナラ属アカガシ亜属	樹皮残存
145	1	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	26.8	27.2	3.5		柱目	スギ	一部炭化
145	2	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	15.9	22.9	2.5		柱目	スギ	一部炭化
145	3	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	18.4	(12.8)	1.9		柱目	スギ	加工痕
145	4	A2(北)	オモカス層	SD09	用途不明木製品	21.5	25.0	3.0		板目	スギ	一部炭化 礎板または建築材の床か
145	5	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	21.7	22.9	2.3		板目	スギ	
145	6	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	46.8	9.2	2.1		柱目	スギ	1孔
145	7	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	43.3	8.7	2.3		柱目	スギ	
145	8	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	30.5	11.7	2.4		板目	スギ	加工痕
145	9	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	(27.2)	7.9	2.1		柱目	スギ	一部炭化
146	1	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	30.6	18.6	1.5		板目	スギ	4~6孔
146	2	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	29.9	9.8	1.0		板目	スギ	2孔
146	3	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	46.1	10.0	2.6		板目	スギ	
146	4	A2(北)	オモカス層	SD09	用途不明木製品	55.9	(10.5)	2.5		板目	スギ	一部炭化 建築部材か
146	5	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	(26.9)	7.4	1.5		板目	スギ	全面炭化
146	6	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	(37.2)	15.4	2.8		板目	スギ	一部炭化
146	7	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	(45.4)	12.5	1.4		板目	スギ	
146	8	A2(北)	オモカス層	SD09	樹皮	22.5	11.3	0.4				
147	1	A2(北)	オモカス層	SD09	角材状木製品	80.2	3.7	3.3		分割材	スギ	先端加工か
147	2	A2(北)	オモカス層	SD09	角材状木製品	(117.0)	5.5	2.7		柱目	スギ	側面加工か
147	3	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	66.5	4.7	1.8		板目	スギ	正面全面炭化
147	4	A2(北)	オモカス層	SD09	角材状木製品	124.2	4.7	3.7		分割材	スギ	
147	5	A2(北)	オモカス層	SD09	加工材	72.1	4.8	3.4		柱目	カヤ	両端炭化
147	6	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	(52.3)	3.8	1.4		板目	スギ	
147	7	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	(43.8)	(4.5)	1.4		柱目	スギ	
147	8	A2(北)	オモカス層	SD09	角材状木製品	(29.6)	3.9	2.4		分割材	スギ	
148	1	A2(北)	オモカス層	SD09	角材状木製品	47.1	(5.5)	4.0		分割材	スギ	先端薄く加工,炭化
148	2	A2(北)	オモカス層	SD09	角材状木製品	(39.8)	2.6	1.6		分割材	スギ	
148	3	A2(北)	オモカス層	SD09	杭	31.4	4.6	4.5		分割材	スギ	加工痕
148	4	A2(北)	オモカス層	SD09	ミカン割材	(30.9)	4.2	3.7		分割材	スギ	
148	5	A2(北)	オモカス層	SD09	加工材	70.9	4.5	2.1		分割材	ヤナギ属	2孔 樹皮残存
148	6	A2(北)	オモカス層	SD09	角材状木製品	67.8	9.2	5.3		分割材	カヤ	先端炭化
148	7	A2(北)	オモカス層	SD09	板状木製品	47.2	6.1	1.9		板目	ムクロジ	
148	8	A2(北)	オモカス層	SD09	加工材	(27.9)	16.2	11.9		分割材	クリ	一部炭化
148	9	A2(北)	オモカス層	SD09	加工材	(13.8)	(2.4)	(0.8)		分割材	針葉樹	
149	1	A2(北)	オモカス層	SD09	加工材	(22.7)	11.1	8.5		芯持材	ヤブツバキ	先端加工で尖る
149	2	A2(北)	オモカス層	SD09	加工材(杭)	92.2	6.8	6.5		芯持材	ツバキ属	先端加工で尖る
149	3	A2(北)	オモカス層	SD09	加工材(杭)	80.2	10.9	6.4		芯持材	マキ属	先端加工で尖る 樹皮残存
149	4	A2(北)	オモカス層	SD09	用途不明木製品	87.0	8.4	7.3		芯持材	マキ属	全面炭化 建築部材か
149	5	A2(北)	オモカス層	SD09	加工材	64.4	8.3	7.1		芯持材	ツバキ属	先端加工で尖る 全面炭化 杭か
150	1	A2(南)	オモカス層	SD09	鍛先未製品	40.2	28.1	0.5~5.4		柱目	コナラ属アカガシ亜属	全面加工
150	2	A2(南)	オモカス層	SD09	鍛先未製品	40.2	28.8	0.5~6.0		柱目	コナラ属アカガシ亜属	全面加工
150	3	A2(南)	オモカス層	SD09	端材	23.2	15.6	5.9		柱目	コナラ属アカガシ亜属	加工痕 樹皮残存
150	4	A2(南)	オモカス層	SD09	狭鍛	(18.9)	(7.2)	(4.5)	着柄角度:90° 柄孔径:3.8	柱目	コナラ属アカガシ亜属	全面加工,炭化
150	5	A2(南)	オモカス層	SD09	柄	12.4	3.3	2.0~2.4		柱目	コナラ属アカガシ亜属	直柄 仕上がりに状態
150	6	A2(南)	オモカス層	SD09	棒状木製品	9.2	2.3	1.8		芯持材	サカキ	全面加工
151	1	A2(南)	オモカス層	SD09	板状木製品	(57.3)	3.2	1.4		板目	スギ	全面炭化
151	2	A2(南)	オモカス層	SD09	ミカン割材	42.1	4.8	2.1		分割材	スダジイ	先端炭化
151	3	A2(南)	オモカス層	SD09	板状木製品	35.2	5.5	2.6		板目	ヤブツバキ	先端炭化 樹皮残存
151	4	A2(南)	オモカス層	SD09	加工材	54.4	8.6	3.8		分割材	クリ	
151	5	A2(南)	オモカス層	SD09	加工材	30.4	4.8	2.8		柱目	スギ	

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	品目	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	その他の寸法 (cm)	木取り	樹種	備考
151	6	A2(南)	オモカス層	SD09	板状木製品	45.8	5.5	1.9		柁目	シイ属	
151	7	A2(南)	オモカス層	SD09	加工材	15.0	5.4	3.2		分割材	コナラ属アカシデ属	正面一部,裏面全面炭化
151	8	A2(南)	オモカス層	SD09	板状木製品	29.9	5.2	2.6		柁目	シイ属	
151	9	A2(南)	オモカス層	SD09	不明木製品	5.9	3.3	1.8		芯持材	ヒノキ科	1孔 一部炭化
151	10	A2(南)	オモカス層	SD09	ウルシ原木	(16.7)	4.0	3.1		分割材	ウルシ	ウルシカキ 樹液付着
151	11	A2(南)	オモカス層	SD09	杭か	15.9	8.9	7.8		芯持材	ヤブツバキ	先端加工で尖る
152	1	A2(南)	オモカス層	SD09	横木(SX04杭列)	134.1	(5.7)	(5.1)		芯持材	マキ属	樹皮残存
152	2	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	(68.9)	3.5	3.6		分割材	スギ	先端加工で尖る
152	3	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	59.5	4.2	4.8		分割材	スギ	
152	4	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	77.6	7.1	4.2		分割材	スギ	先端薄く加工
152	5	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	(43.6)	3.8	2.6		分割材	スギ	
152	6	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	31.2	7.3	2.9		分割材	スギ	端部炭化
152	7	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	42.5	4.6	1.8		分割材		
152	8	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	(48.0)	5.9	3.1		柁目	スギ	
152	9	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	62.1	(6.2)	3.5		分割材	スギ	
152	10	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	(49.9)	(5.0)	2.1		板目	スギ	先端薄く加工か
152	11	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	50.8	4.7	3.8		分割材	スギ	
152	12	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	75.2	5.9	1.4		板目	スギ	
152	13	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	18.0	3.0	1.2		板目	ヤマグワ	
152	14	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	(35.3)	3.2	1.5		板目	スギ	
152	15	A2(南)	オモカス層	SD09	杭(SX04杭列)	(35.9)	4.8	2.3		板目	スギ	先端炭化
161	1	A2(北)	下層	SD09	櫛	5.7	(7.6)	0.3				歯数20本 黒漆後赤漆塗彩
161	2	A2(北)	下層	SD09	編物	10.4	11.8				マタタビ属	横軸は2本1組
161	3	A2(北)	下層	SD09	樹皮(保存形態)	7.5	5.5	0.8			針葉樹	
161	4	A2(北)	下層	SD09	板状木製品	(82.9)	(26.1)	(1.6)		板目	スギ	
161	5	A2(北)	下層	SD09	板状木製品	(69.4)	(5.5)	2.0		柁目	スギ	端部炭化
161	6	A2(北)	下層	SD09	加工材	(14.2)	5.2	3.0		板目	スギ	
162	1	A2(南)	下層	SD09	容器	口径 長径:14.7 短径:16.1	器高:6.0	1.8	底径:9.8	板目	ヤマグワ	内:加工痕残る 未製品か
162	2	A2(南)	下層	SD09	角材木製品	(64.5)	(3.8)	2.6		柁目	スギ	
162	3	A2(南)	下層	SD09	板状木製品	27.9	22.3	3.3		板目	スギ	
162	4	A2(南)	下層	SD09	板状木製品	44.6	13.5	1.8		板目	スギ	
198	1	B1		河道1	卒塔婆	115.0	7.8	4.5		芯持材	ニヨウマツ類	丸太材の片面を平滑に加工 2条V字状削り込み
198	2	B1	3c層	河道1	卒塔婆	(91.1)	(12.8)	(8.3)		芯持材	ニヨウマツ類	先端加工で尖る 2条刻み込み 一部炭化
198	3	B1	3c層	河道1	板状木製品	(80.8)	7.3	4.6		芯持材		先端加工 卒塔婆か
198	4	B1	3c層	河道1	杭	(113.2)	5.5	5.7		芯持材		先端加工で尖る 樹皮残存
198	5	B1	3c層	河道1	杭	(37.9)	5.2	5.5		芯持材		先端加工で尖る
198	6	B1	3d層	河道1	杭状木製品	(79.3)	7.7	7.5		芯持材		先端加工で尖る 樹皮残存
202	1	B1	3b層	河道1	漆器椀	口径: (14.8)	器高: 6.8		底径:7.5		ブナ属	外:口縁部1条沈線 内外:赤漆塗布 量付部黒漆塗布
202	2	B1	3b層	河道1	漆器椀	口径:15.4	器高:7.8		底径:7.7		ツバキ属	外:黒漆塗布 底部「T」字状彫り込み 内:赤漆塗布後赤漆塗彩 内外:櫛目状痕(漆塗以前)
202	3	B1	3b層	河道1	漆器椀						トチノキ近似	外:黒漆塗布の上に赤漆で塗彩 内:赤漆塗布
202	4	B1	3b層	河道1	漆器椀						ブナ属	外:黒漆塗布の上に赤漆,石黄で塗彩 内:赤漆塗布
202	5	B1	3b層	河道1	漆器椀	(11.4)	6.0	5.6			ブナ属	外:黒漆塗布の上に赤漆で塗彩 底部釘書か 内:赤漆塗布
202	6	B1	3b層	河道1	卒塔婆	(81.6)	8.0	6.1		芯持材	ニヨウマツ類	正面上部から中心部薄く加工 両端加工で尖る 上端部2条刻線 樹皮残存
202	7	B1	3b層	河道1	不明木製品	19.1	3.7	1.5		板目	ヒノキ	2孔「×」状削り込み
202	8	B1	3層	河道1	木片	11.0	2.1	1.1				先端炭化
202	9	B1	3b層	河道1	板材	(23.2)	(2.6)	(1.1)		柁目		両端加工
202	10	B1	3b層	河道1	板状木製品	(29.3)	(4.6)	(2.0)		板目		目釘,樹皮残存
202	11	B1	3b層	河道1	棒状木製品	47.1	1.9	1.8		芯持材		先端加工
202	12	B1	3b層	河道1	杭	(23.6)	(5.5)	(4.5)		芯持材		上端部炭化 先端加工で尖る
202	13	B1	3b層	河道1	杭か	32.4	9.6	8.2		芯持材		先端加工で尖る 一部炭化
202	14	B1	3b層	河道1	杭	98.1	7.8	6.8		芯持材		先端加工で尖る,炭化 樹皮残存
203	1	B1		河道1	杭列1 杭1	114.0	7.3	5.5		芯持材		先端加工で尖る 樹皮残存 2/3炭化
203	2	B1		河道1	杭列1 杭2	(100.8)	12.1	8.5		芯持材	マツ属複雑管束亜属	先端加工で尖る 卒塔婆転用か
203	3	B1		河道1	杭列1 杭3	(89.5)	9.3	6.6		芯持材	マツ属複雑管束亜属	先端加工で尖る 卒塔婆転用か
203	4	B1		河道1	杭列2-1 杭1	(48.1)	(6.3)	(4.2)		芯持材	ニヨウマツ類	先端加工で尖る 2条刻目 加工痕 卒塔婆転用か
203	5	B1		河道1	杭列2-2 杭1	(145.8)	6.4	6.4		芯持材		先端加工で尖る 樹皮残存
203	6	B1		河道1	杭列2-2 杭2	179.5	4.9	5.4		芯持材		先端加工で尖る
203	7	B1		河道1	杭列2-2 杭3	170.4	6.5	6.0		芯持材		先端薄く加工 樹皮残存
207	1	B1	3b層	河道2	漆器椀				底径:(6.1)		ブナ属	外:黒漆塗布の上に赤漆で塗彩 内:赤漆塗布
207	2	B1	砂礫層	河道2	杭	(31.1)	(5.3)	(3.9)		芯持材		先端加工で尖る
210	1	B1	(暗渠)	SD12	楔状木製品	16.5	4.0	2.4		分割材		
210	2	B1	(暗渠)	SD12	楔状木製品 (ミカン削材)	(13.7)	(3.3)	(2.5)		分割材		
210	3	B1	(暗渠)	SD12	楔状木製品 (ミカン削材)	18.0	2.6	2.1		分割材		

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	品目	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	その他の寸法 (cm)	木取り	樹種	備考
211	1	A1	(暗渠)	SD03	木桶	蓋:103.7 身:109.3	9.6 12.6	2.9 11.4		丸太材		目釘孔、目釘残存 鋸引き痕 「×」状切り込み 一部炭化、樹皮残存
211	2	A1	(暗渠)	SD03	板状木製品	57.5	22.0	1.6		板目		
211	3	A1	(暗渠)	SD03	板状木製品	29.0	4.0	1.6		板目		
219	1	B1	排土		板状木製品	26.4	3.1	0.8		板目		
219	2	B1	排土		板状木製品	(14.3)	3.2	1.3		板目		
219	3	B1	排土		棒状木製品	(7.3)	(4.2)	2.3		板目		先端部か 一部炭化

表 12 西川津遺跡出土ガラス製品観察表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	品目	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
86	9	A1	上層	SD07	勾玉	1.65	1.15	3.6	0.86	孔φ0.15cm、孔内回転擦痕なし 全面研磨か 刻み目あり 気泡あり

表 13 西川津遺跡出土金属器観察表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考
200	4	B1	3b層	C8	鉄鍋か	(2.9)	(6.5)	0.6	湯口径:2.0cm
200	5	B1	3層~3b層	河道1	船釘	23.8	1.3	1.2	
205	12	B1	3b層	河道2	鑿	全長:20.8 刃部:16.8 茎部:4.0	闊部:2.4 刃部:1.1 茎部:1.1	刃部:0.6 茎部:0.7	

表 14 西川津遺跡出土銭貨計測表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	名称	初鑄年	銭径(A)/銭径(B)	内径(C)/内径(D)	孔径	銭厚	量目
200	8	B1	3c層	D8	元豊通寶か	1078か	23.5mm/24.0mm	20.5mm/20.0mm	6.5~7.0mm	0.5mm	2.04g

表 15 西川津遺跡出土石器・石製品計測表

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1	A1	埋土	SD07	石錘	流紋岩	6.60	5.10	2.10	108.34	第86図6番 打欠1箇所
2	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(2.50)	(1.50)	(0.50)	0.98	第51図1番 基部一部欠損
3	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(2.40)	(1.10)	(0.50)	0.93	第51図2番 基部一部欠損
4	A1	埋土	SD07	石錘か	安山岩	(7.70)	4.60	(0.80)	38.35	第86図7番 打欠2箇所
5	A1	1層	E5	石錘か	流紋岩	6.50	4.20	1.30	52.43	第217図3番 打欠1箇所か
6	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(2.10)	(1.9)	(0.60)	1.73	第51図4番 先端部欠損
7	A1	埋土	SD10	石錘	流紋岩	9.70	6.40	1.40	91.12	第46図4番 打欠2箇所
8	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(1.90)	1.30	0.30	0.49	第51図3番 基部一部欠損
9	A1	埋土	SD09南	石包丁	頁岩	13.70	(5.30)	(0.70)	63.13	第176図1番 杏仁形 両面穿孔2箇所
10	A1	埋土	SD07	不明(石包丁様石器)	頁岩	(4.10)	3.20	(0.40)	8.67	第85図11番
11	A1	上層	SD07	石包丁様石器	砂岩	(7.20)	3.50	(0.80)	26.17	第85図13番
12	A1	埋土	SD07	不明石器	頁岩	4.30	4.00	0.40	12.36	第85図10番 楔形の有刃磨製石器
13	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	1.50	1.30	0.30	0.45	第85図1番
14	A1	上層	SD07	不明(石包丁転用か)	頁岩	5.20	(4.70)	0.50	16.42	第85図12番 刃部の様な斜めの加工2箇所
15	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	(1.70)	1.70	0.40	0.96	第85図2番 先端部欠損
16	A1	埋土	SD07	石鏃(未製品か)	黒曜石	2.20	1.60	0.30	1.03	第85図5番
17	A1	埋土	SD10	石包丁	頁岩	(8.50)	(5.90)	(0.8)	52.94	第46図1番
18	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	(1.40)	(1.30)	(0.30)	0.45	第85図3番 基部欠損
19	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	(1.40)	1.40	(0.50)	0.65	第85図4番 先端部・基部欠損
20	A1	埋土	SD07南	楔形石器	黒曜石	3.60	(1.40)	(1.10)	7.09	第85図7番
21	A1	埋土	SD07南	石鏃(未製品か)	黒曜石	(2.60)	(2.00)	(0.50)	1.99	第85図6番 先端部・基部欠損
22	A1	埋土	SD07南	敲石	流紋岩	(8.90)	4.40	2.80	159.27	第86図4番 両側面に敲痕 両端欠損
23	A1	埋土	SD10	敲石	流紋岩	(7.00)	(4.80)	3.10	90.39	第46図3番
24	A1	埋土	SD07	敲石	頁岩	(8.80)	(4.30)	(4.20)	275.36	第86図3番 抉入柱状片刃石斧基部の転用
25	A1	埋土	SD07	不明石器未製品	頁岩	(9.90)	(3.70)	2.20	125.51	第86図5番
26	A1	1層	E5	両刃石斧	片岩	(8.00)	(5.50)	4.10	242.24	第217図2番 刃部片
27	A1	埋土	SD07	両刃石斧	片岩	(12.80)	(4.70)	4.00	242.19	第86図1番 基部～刃部の一部残存
28	A1	埋土	SD07	両刃石斧	片岩	(7.30)	(5.20)	(3.40)	182.25	第86図2番 基部片
29	B1	3層	河道1	九州型石錘	安山岩	7.30	3.50	3.20	81.68	第201図1番
30	B1	3d層	河道1	両刃石斧	塩基性片岩	(11.90)	(5.90)	(3.90)	471.00	第197図5番 刃部欠損
31	B1	3d層	河道1	両刃石斧	片岩	(10.10)	(6.40)	(3.60)	449.00	第197図4番 基部欠損
32	B1	3d層	河道1	両刃石斧	塩基性片岩	(12.10)	(6.00)	(4.60)	560.00	第197図3番 基部欠損
33	B1	3d層	河道1	両刃石斧	頁岩	16.10	6.30	4.10	610.00	第197図2番
34	B1	3d層	河道1	両刃石斧	片岩	11.80	5.30	3.60	378.00	第197図1番
35	B1	3d層	河道1	両刃石斧	流紋岩	(12.60)	(6.60)	(4.70)	680.00	第197図6番 刃部欠損
36	A1	埋土	SD07	石鏃	頁岩	(11.80)	6.90	1.70	212.00	第85図8番
37	A1	上層～下層	SD07	砥石	砂岩	(11.70)	5.20	4.20	286.70	第86図8番
38	A1	埋土	SD07	石鏃	頁岩	20.10	11.70	3.50	682.00	第85図9番
39	B1	埋土	SX02	凹石	デイサイト	12.00	10.00	5.90	1017.00	第72図1番
40	B1	上層	SX01	石鏃	黒曜石	(2.40)	(1.60)	0.30	0.88	第66図1番 基部一部欠損
41	B1	上層	SX01	扁平片刃石斧	頁岩	(3.70)	1.90	0.90	11.05	第66図3番 刃部一部欠損
42	B1	埋土	SX01	扁平両刃石斧未製品	片岩	6.80	2.60	0.90	34.01	第66図4番
43	B1	下層	SX01	石錘	黒曜石	(4.80)	2.50	1.10	7.00	第66図2番 先端部欠損
44	B1	下層	SX01	スクレイパー	凝灰岩	9.40	5.80	1.40	68.20	第66図6番
45	B1	下層	SX01	石斧未製品	珪質頁岩	10.30	6.00	2.60	244.60	第66図5番
46	A2(南)	上層	SD10	石鏃	黒曜石	(1.70)	(1.30)	0.20	0.35	第45図1番 先端部・基部欠損
47	A2(南)	上層	SD10	両刃石斧	片岩	(11.00)	(2.30)	(4.00)	135.10	第45図2番 基部から刃部の一部残存
48	A2(南)	上層	SD10	両刃石斧	頁岩	(13.00)	(6.00)	2.10	150.40	第45図3番 基部欠損
49	A2(南)	下層	SD09	石錘	流紋岩	11.10	7.00	1.80	175.30	第160図1番 打欠2箇所
50	A2(南)	オモカス層	SD09	石鏃	頁岩	(7.80)	7.10	1.90	132.60	第136図1番 基部残存
51	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	石鏃	黒曜石	2.70	(1.80)	0.30	1.29	第168図1番 先端部欠損
52	A1	埋土	SD10	石鏃	黒曜石	2.30	1.50	0.30	0.91	第46図5番
53	A1	埋土	SD10	石包丁転用不明石器	頁岩	(6.90)	(6.50)	0.90	57.80	第46図2番 両面穿孔1箇所
54	B1	上層	SD13	石鏃	黒曜石	(2.00)	1.30	0.40	0.55	第60図1番
55	B1	上層	SD13	石鏃未製品	黒曜石	(1.70)	(1.60)	0.60	1.75	第60図2番 先端部・基部欠損
56	B1	上層	SD13	スクレイパー	碧玉	4.40	3.50	1.20	17.40	第60図4番
57	B1	上層	SD13	石錘	細粒花崗岩	(4.40)	1.90	1.80	16.60	第60図6番
58	B1	上層	SD13	石包丁か	頁岩	(4.50)	(3.00)	0.50	7.87	第60図5番 両面穿孔1箇所
59	B1	上層	SD13	砥石	花崗岩	(5.80)	(3.30)	(4.60)	98.60	第60図7番
60	A1	埋土	SD06	鑿状工具か	安山岩か	(3.10)	1.30	0.80	5.42	第51図5番
61	A1	埋土	SD06	両刃石斧	片岩	(10.00)	(6.70)	(4.00)	415.40	第51図6番 基部欠損
62	B1	砂礫層	河道4	管玉	頁岩か	0.60	0.20	(0.10)	0.03	第187図1番 復元径:0.3cm 孔径:0.1~0.2cm
63	B1	砂礫層	河道2	扁平片刃石斧	頁岩	8.80	7.20	1.20	173.90	第206図1番 両側面に抉り
64	B1	2層	D7	管玉未製品	凝灰岩	2.80	1.20	1.00	4.54	第218図1番 浅い孔あり(先付けか)
65	B1	窓枠周辺	SD15	石鏃	黒曜石	(1.40)	(1.10)	0.30	0.39	第71図1番 先端部欠損
66	B1	上層	SD15	石鏃	黒曜石	(2.20)	0.90	0.60	1.20	第71図2番 先端部欠損
67	A2(北)	下層	SD09	両刃石斧未製品	片岩	17.30	8.60	5.40	1424.00	第159図6番 端部欠損
68	A2(北)	下層	SD09	両刃石斧未製品	片岩	26.40	7.50	3.20	970.60	第159図4番
69	A2(北)	下層	SD09	両刃石斧	片岩	(12.50)	5.10	3.00	296.60	第159図5番 刃部わずかに欠損
70	A2(北)	黒色土層	SD09	磨製石鏃未製品	安山岩	6.60	2.70	0.90	20.80	第167図1番
71	A2(北)	黒色土層	SD09	石錘	砂岩	3.40	1.50	1.50	7.70	第167図2番
72	A2(北)	下層	SD09	管玉未製品(端材か)	凝灰岩	4.10	2.10	0.50	7.80	第159図2番
73	A2(北)	下層	SD09	管玉未製品(端材か)	凝灰岩	4.40	1.40	0.60	3.78	第159図1番
74	A2(北)	オモカス層	SD09	紡錘車	頁岩	(4.50)	(2.80)	0.60	10.60	第137図3番 復元径:5.8cm 復元孔径:0.7cm



付表

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
75	A2(北)	オモカス層	SD09	石包丁か	頁岩	(6.6)	(5.6)	(0.4)	20.30	第137図1番
76	A2(北)	オモカス層	SD09	片刃石斧	片岩	(14.7)	5.4	3.2	401.20	第137図2番 柱状片刃石斧か
77	A2(北)	黒色粘土層	SD09	鑿状工具か	凝灰岩	(4.4)	(1.0)	0.6	3.40	第163図2番
78	A2(北)	上層	土器溜まり10	管玉未製品	凝灰岩	(4.0)	(1.6)	0.4	3.60	第173図1番
79	A2(北)	黒色粘土層	SD09	石鏃	黒曜石	3.5	1.9	0.2	1.10	第163図1番
80	B1	埋土	SD12	スクレイパー	黒曜石	2.30	2.10	0.58	2.41	
81	B1	埋土	SK02	石鏃	黒曜石	1.80	(1.18)	0.34	0.55	凹基式 基端部一部欠損
82	B1	下層	SD13	石鏃	黒曜石	(2.12)	(1.28)	0.38	0.82	凹基式 基端部一部欠損
83	B1	下層	SD13	スクレイパー	黒曜石	(2.64)	1.77	0.46	2.00	
84	B1	下層	SD13	スクレイパー	黒曜石	2.21	1.90	0.50	1.63	
85	B1	下層	SD13	UF	黒曜石	2.51	2.00	0.23	1.03	
86	B1	埋土	SX01	RF	黒曜石	(2.65)	1.27	0.38	1.79	
87	B1	上層	SX01	楔形石器	黒曜石	2.40	2.40	1.11	5.65	
88	B1	上層	SX01	楔形石器	黒曜石	2.53	1.51	0.53	2.23	
89	B1	上層	SX01	石鏃未製品	黒曜石	2.13	(1.56)	0.33	1.21	凹基式 基部片
90	B1	上層	SX01	楔形石器	黒曜石	2.67	1.64	0.84	3.42	
91	B1	埋土	SX02	スクレイパー	黒曜石	2.66	1.73	0.66	3.20	楔形石器としても使用
92	B1	埋土	SX02	石鏃未製品か	黒曜石	(1.76)	(1.37)	0.33	0.82	平基式か 基端部一部欠損
93	B1	上層	SD15	楔形石器	黒曜石	(1.92)	(1.59)	0.29	0.94	
94	B1	上層	SD15	スクレイパー	黒曜石	2.66	1.84	0.78	3.61	削片利用か
95	B1	下層	SD15	RF	黒曜石	3.53	2.70	0.86	8.40	
96	B1	下層	SX01	抉入石器	黒曜石	2.79	1.42	0.71	2.44	
97	B1	下層	SX01	楔形石器	黒曜石	3.59	1.82	1.44	9.48	
98	B1	下層	SX01	楔形石器	黒曜石	3.64	2.03	1.13	6.03	
99	B1	下層	SX01	UF	黒曜石	4.05	2.30	1.68	11.53	
100	B1	下層	SX01	UF	黒曜石	5.37	3.74	1.34	22.08	抉入あり
101	B1	下層	SX01	UF	黒曜石	2.02	1.23	0.70	1.41	
102	B1	下層	SX01	UF	黒曜石	2.92	1.69	0.84	3.41	
103	B1	下層	SX01	RF	黒曜石	2.37	1.43	0.82	3.11	
104	B1	上層	SD13	石鏃	黒曜石	1.69	1.42	0.38	0.63	凹基式
105	B1	上層	SD13	石鏃	黒曜石	1.71	1.20	0.27	0.45	凹基式
106	B1	上層	SD13	石鏃	黒曜石	1.52	0.93	0.31	0.41	凹基式
107	B1	上層	SD13	石鏃	黒曜石	(1.49)	(1.29)	0.30	0.51	凹基式 基端部欠損
108	B1	上層	SD13	RF	黒曜石	(2.01)	1.81	0.35	0.95	
109	B1	上層	SD13	RF(石鏃未製品か)	黒曜石	(1.71)	1.13	0.33	0.55	
110	B1	上層	SD13	スクレイパー	黒曜石	5.30	3.60	1.30	14.83	第60図3番
111	B1	上層	SD13	楔形石器か	黒曜石	(1.90)	(1.25)	0.59	1.37	
112	B1	上層	SD13	UF	黒曜石	1.69	1.11	0.22	0.51	
113	B1	埋土	SD13	楔形石器か	黒曜石	2.12	(1.19)	0.55	1.36	
114	B1	上層	SD13	楔形石器	黒曜石	1.74	0.86	0.53	1.22	
115	B1	上層	SD13	楔形石器	黒曜石	2.31	1.12	0.99	2.66	
116	B1	上層	SD13	楔形石器	黒曜石	2.20	1.95	1.25	4.62	
117	B1	上層	SD13	石鏃	黒曜石	(2.67)	1.28	0.89	4.14	先端部欠損
118	B1	上層	SD13	楔形石器	黒曜石	2.89	2.31	0.97	6.93	
119	B1	上層	SD13	スクレイパー	黒曜石	2.62	1.94	0.68	3.75	
120	B1	上層	SD13	スクレイパー	黒曜石	2.41	1.77	0.66	2.55	
121	B1	上層	SD13	スクレイパー	黒曜石	(4.10)	2.37	0.78	7.89	
122	B1	上層	SD13	RF	黒曜石	2.63	1.91	0.51	2.51	
123	B1	上層	SD13	UF	黒曜石	(1.09)	(1.09)	(0.45)	0.34	
124	B1	上層	SD13	UF	黒曜石	2.38	1.52	1.10	3.86	
125	B1	上層	SD13	石核	黒曜石	4.17	2.44	1.51	14.32	
126	B1	埋土	SD13	スクレイパー	黒曜石	2.90	2.10	7.40	5.29	
127	B1	埋土	P45	石鏃	黒曜石	1.64	1.61	0.34	0.69	凹基式
128	B1	埋土	P48	UF	黒曜石	1.84	1.15	0.25	0.59	
129	B1	埋土	P49	抉入石器	黒曜石	2.43	1.75	0.60	2.22	
130	B1	埋土	P58	石鏃	黒曜石	1.66	1.59	0.34	0.63	凹基式
131	B1	埋土	P58	UF	黒曜石	(1.48)	(1.26)	(0.38)	0.74	
132	B1	埋土	P80	RF	黒曜石	1.79	0.91	0.44	0.56	
133	B1	埋土	P88	石鏃	黒曜石	(2.19)	(1.45)	0.37	1.13	凹基式 基端部一部欠損
134	B1	埋土	P90	楔形石器か	黒曜石	(1.85)	(1.35)	(0.87)	2.00	
135	B1	埋土	P92	RF(石鏃未製品か)	黒曜石	(1.97)	(1.47)	0.40	1.17	
136	B1	埋土	P93	石鏃	黒曜石	(1.24)	(1.09)	0.27	0.34	凹基式 先端・基端部欠損
137	B1	埋土	P101	楔形石器	黒曜石	1.91	0.95	0.97	1.20	削片に2次加工
138	B1	埋土	P113	楔形石器か	黒曜石	2.24	1.49	0.74	2.08	
139	B1	埋土	P123	UF	黒曜石	1.72	1.25	0.57	1.20	
140	B1	埋土	P135	UF	黒曜石	1.68	1.23	0.38	0.79	
141	B1	埋土	P138	スクレイパーか	黒曜石	2.34	(1.52)	0.59	2.25	
142	B1	埋土	P138	楔形石器	黒曜石	2.79	2.29	0.86	5.30	
143	B1	埋土	P156	UF	黒曜石	2.75	2.16	1.13	6.33	
144	B1	埋土	P173	UF	黒曜石	2.04	0.87	0.34	0.45	
145	B1	埋土	P180	石鏃	黒曜石	(1.74)	(1.37)	0.38	0.78	凹基式 基端部欠損
146	B1	2層	C7	UF	黒曜石	1.96	1.07	0.30	0.56	
147	B1	2層	C7	UF	黒曜石	4.15	2.24	1.04	6.99	
148	B1	2層	C7	石鏃	黒曜石	(1.65)	1.26	0.19	0.55	凹基式 基端部欠損
149	B1	2層	C7	石鏃	黒曜石	1.75	1.23	0.29	0.64	凹基式

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
150	B1	2層	C7	RFか	黒曜石	1.21	0.83	0.20	0.19	
151	B1	2層	C7	石鏃	黒曜石	1.93	1.54	0.50	1.29	平基式か
152	B1	2層	C7	スクレイパー	黒曜石	4.42	1.82	1.12	7.50	
153	B1	2層	C7	石核	黒曜石	5.77	2.78	1.30	18.75	
154	B1	2層	C7	石核	黒曜石	4.50	3.18	1.87	18.56	
155	B1	2層	C7	UF	黒曜石	(1.65)	1.38	0.34	0.81	
156	B1	2層	C7	UF	黒曜石	2.05	1.92	0.59	1.84	
157	B1	2層	C7	UF	黒曜石	2.98	1.76	0.75	3.41	
158	B1	2層	C7	UF	黒曜石	2.73	2.01	0.51	2.44	
159	B1	2層	C7	石核	黒曜石	3.30	1.95	1.80	11.37	
160	B1	2層	C7	UF	黒曜石	2.31	1.74	0.44	1.21	
161	B1	2層	C7	UF	黒曜石	1.69	1.04	0.51	0.88	
162	B1	2層	C7	UF	黒曜石	2.22	1.81	1.42	4.68	
163	B1	2層	C7	UFか	黒曜石	2.98	2.58	1.02	8.24	
164	B1	2層	C7	UFか	黒曜石	(1.07)	0.76	0.22	0.23	
165	B1	2層	D7	UF	黒曜石	3.23	2.19	0.73	4.45	
166	B1	2層	D7	石核	黒曜石	3.15	3.01	1.01	9.18	
167	B1	2層	D7	UF	黒曜石	3.32	1.69	0.75	3.58	
168	B1	2層	D7	楔形石器	黒曜石	2.72	1.94	1.10	5.49	磨減顕著
169	B1	2層	D7	UF	黒曜石	2.22	2.17	0.35	2.17	
170	B1	2層	D7	削片か	黒曜石	1.39	0.71	0.65	0.52	
171	B1	2層	D7	UF	黒曜石	3.10	1.66	0.85	3.49	
172	B1	2層	D7	石鏃	黒曜石	(2.17)	(1.01)	0.39	0.79	平基式か 基部欠損
173	B1	2層	D7	石鏃未製品	黒曜石	(1.48)	1.37	0.38	0.90	凹基式 先端部欠損
174	B1	2層	D7	石鏃	黒曜石	1.58	1.23	0.37	0.76	
175	B1	2層	D7	石鏃未製品	黒曜石	(1.57)	(1.46)	0.37	0.71	凹基式 基部一部欠損
176	B1	2層	D7	石鏃未製品	黒曜石	2.43	1.48	0.39	1.23	凸基式あるいは有茎式
177	B1	2層	D7	石鏃未製品か	黒曜石	(1.39)	(1.11)	0.30	0.55	
178	B1	2層	D7	RF	黒曜石	1.23	(1.22)	0.27	0.30	
179	B1	2層	D7	UF	黒曜石	1.91	1.34	0.36	0.82	
180	B1	2層	D7	UF	黒曜石	2.80	1.02	0.69	1.73	
181	B1	2層	D7	UF	黒曜石	1.53	1.26	1.56	2.53	
182	B1	2層	D7	楔形石器	黒曜石	2.03	(1.99)	0.78	3.70	
183	B1	2層	D7	楔形石器	黒曜石	2.32	2.13	1.10	4.05	
184	B1	2層	D7	楔形石器	黒曜石	3.22	1.83	1.77	7.82	
185	B1	2層	D7	UF(楔形石器か)	黒曜石	1.76	1.27	0.41	1.11	
186	B1	2層	D7	UF	黒曜石	2.43	1.81	0.80	3.11	
187	B1	2層	D7	UF	黒曜石	1.97	1.83	0.54	1.85	
188	B1	2層	D7	UF	黒曜石	2.53	1.67	0.33	1.48	
189	B1	2層	D7	UF	黒曜石	2.04	1.22	2.86	0.95	
190	B1	2層	D7	石鏃未製品か	黒曜石	2.63	(1.42)	5.12	1.91	
191	B1	2層	D7	UF	黒曜石	2.28	1.54	0.47	1.44	
192	B1	2層	D7	UF	黒曜石	(1.65)	1.33	0.33	0.77	
193	B1	2層	D7	UF	黒曜石	4.72	1.56	1.65	15.02	
194	B1	2層	D7	UF	黒曜石	3.75	2.16	0.88	4.53	
195	B1	2層	D7	UF	黒曜石	3.71	3.56	2.02	16.51	
196	B1	2層	D7	UF	黒曜石	(3.42)	1.72	0.78	4.74	
197	B1	2層	D7	楔形石器	黒曜石	2.15	1.84	0.71	2.76	
198	B1	2層	D7	スクレイパー	黒曜石	2.82	1.76	1.25	5.54	
199	B1	2層	D7	UF	黒曜石	2.42	2.10	1.21	4.56	
200	B1	2層	D7	RF	黒曜石	2.64	2.08	0.75	3.73	
201	B1	2層	D7	削片	黒曜石	1.96	1.14	0.53	1.11	
202	B1	2層	D7	UF	黒曜石	2.94	1.61	0.53	2.37	
203	B1	2層	D7	UF	黒曜石	2.06	1.50	0.36	1.14	
204	B1	2層	D7	UF	黒曜石	(2.36)	1.34	0.54	1.21	
205	B1	2層	D7	抉入石器か	黒曜石	2.07	1.56	0.61	1.68	
206	B1	2層	D7	RF(石鏃未製品か)	黒曜石	2.61	2.19	0.60	2.73	
207	B1	2層	D7	RF	黒曜石	1.56	1.11	0.41	0.60	
208	B1	2層	C8	石鏃	黒曜石	1.45	1.09	0.27	0.36	凹基式
209	B1	2層	C8	石鏃	黒曜石	(1.50)	1.16	0.25	0.39	平基式 先端部欠損
210	B1	2層	C8	石鏃	黒曜石	1.35	(1.32)	0.49	0.97	凹基式 先端部欠損
211	B1	2層	C8側溝	UF	黒曜石	1.69	1.16	0.51	0.60	
212	B1	2層	C8	石鏃	黒曜石	(2.04)	0.63	0.50	0.73	先端部欠損
213	B1	2層	C8	UF	黒曜石	(2.84)	1.09	0.56	1.91	
214	B1	2層	C8	石鏃未製品	黒曜石	2.06	1.43	0.48	1.33	
215	B1	2層	C8	UF	黒曜石	2.31	1.96	1.36	5.44	
216	B1	2層	C8	UF	黒曜石	(1.96)	1.84	0.59	2.26	
217	B1	2層	C8	楔形石器	黒曜石	2.11	1.76	0.75	2.78	
218	B1	2層	C8	楔形石器	黒曜石	2.83	2.56	1.11	9.78	
219	B1	2層	C8	スクレイパー	黒曜石	2.46	2.11	1.21	6.33	
220	B1	2層	C8	楔形石器	黒曜石	2.83	2.64	1.18	6.44	
221	B1	2層	C8	UF	黒曜石	3.80	3.18	0.94	11.25	
222	B1	2層	C8	UF	黒曜石	2.38	1.51	0.69	2.03	
223	B1	2層	D8	石鏃	黒曜石	(1.41)	1.00	0.34	0.55	基部欠損
224	B1	2層	D8	石鏃	黒曜石	(1.30)	(0.97)	0.21	0.22	一部残存

付表

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
225	B1	2層	D8	楔形石器	黒曜石	(1.58)	1.43	0.63	1.70	
226	B1	2層	D8	楔形石器	黒曜石	1.99	1.81	0.81	2.96	
227	B1	2層	D8	楔形石器	黒曜石	2.17	1.65	0.66	2.43	
228	B1	2層	D8	UF	黒曜石	2.18	1.39	0.70	1.98	
229	B1	2層	D8	削片	黒曜石	1.92	1.20	0.83	1.99	
230	B1	2層	D8	UF	黒曜石	2.43	1.14	0.82	2.35	
231	B1	2層	D8	UF	黒曜石	3.77	1.49	0.91	3.72	
232	B1	2層	D8	UF	黒曜石	3.81	1.43	0.99	5.15	
233	B1	2層	D8	UF	黒曜石	3.32	2.43	1.13	8.28	
234	B1	2層	E7	石鏃	黒曜石	(1.32)	(1.06)	0.23	0.35	凹基式 先端部・基端部欠損
235	B1	2層	E7	UF(楔形石器か)	黒曜石	2.12	1.89	0.82	4.37	
236	B1	2層	E7	RF	黒曜石	2.39	1.88	0.48	2.06	
237	B1	2層	E7	UF	黒曜石	4.59	1.99	1.21	8.22	
238	B1	2層	E7	UF	黒曜石	2.50	1.57	0.66	2.11	
239	B1	2層	E7	UF	黒曜石	2.22	1.41	0.40	1.45	
240	B1	2層	E7	UF	黒曜石	2.24	1.64	0.50	1.62	
241	B1	2層	E7	UF	黒曜石	2.70	1.69	0.80	3.09	
242	B1	3層	C7	UF	黒曜石	2.51	1.14	0.86	1.52	
243	B1	3層	C7	楔形石器か	黒曜石	2.15	2.07	0.73	2.97	
244	B1	3層	C7	楔形石器か	黒曜石	2.07	1.95	0.66	2.28	
245	B1	3層	C7	石鏃未製品か	黒曜石	1.74	(1.27)	0.25	0.44	
246	B1	3層	C7	UF	黒曜石	2.40	1.53	0.62	2.02	
247	B1	3層	D7	UF(楔形石器か)	黒曜石	2.51	1.36	1.31	4.09	
248	B1	3層	C8	石鏃	黒曜石	(2.26)	(1.25)	0.34	0.93	凹基式 基端部一部欠損
249	B1	3層	C8	石鏃未製品	黒曜石	(1.85)	1.67	0.39	1.30	凹基式か 端部欠損
250	B1	3層	C8	石鏃未製品	黒曜石	1.67	1.21	0.46	0.95	凹基式か 基端部一部欠損
251	B1	3層	C8	石鏃	黒曜石	(1.54)	(0.94)	0.29	0.44	一部残存
252	B1	3層	C8	石鏃未製品	黒曜石	(1.77)	(1.35)	0.32	0.71	
253	B1	3層	C8	RF(石鏃未製品か)	黒曜石	1.95	1.68	0.62	1.93	
254	B1	3層	C8	楔形石器	黒曜石	3.11	1.85	1.22	6.73	
255	B1	3層	C8	楔形石器	黒曜石	1.84	1.78	0.58	1.79	
256	B1	3層	C8	楔形石器	黒曜石	2.68	1.57	0.68	2.59	
257	B1	3層	C8	楔形石器	黒曜石	2.54	2.34	1.09	6.77	
258	B1	3層	C8	UF	黒曜石	2.47	2.22	1.26	0.76	
259	B1	3層灰色	C8側溝	楔形石器	黒曜石	2.15	1.36	0.78	1.97	
260	B1	3層	C8	楔形石器	黒曜石	2.81	2.79	0.89	8.29	
261	B1	3層	C8	UF	黒曜石	2.54	1.41	0.36	1.32	
262	B1	3層	C8	RF	黒曜石	3.09	1.55	0.78	3.45	
263	B1	3層	C8	楔形石器	黒曜石	1.59	1.20	1.09	2.32	
264	B1	3層	C8	石鏃	黒曜石	1.71	1.12	0.30	0.53	平基式
265	B1	3層	C8	UF	黒曜石	2.00	1.78	0.75	2.63	
266	B1	3層	C8	楔形石器	黒曜石	2.35	1.99	0.63	2.65	
267	B1	3層	C8	UF	黒曜石	2.19	1.36	0.35	1.19	
268	B1	3層	C8	楔形石器	黒曜石	2.58	1.54	0.53	2.07	
269	B1	3層	C8	石鏃	黒曜石	3.78	1.70	0.93	4.61	先端部欠損
270	B1	3層	C8	UF	黒曜石	2.59	1.11	1.25	2.27	
271	B1	3層	C8	スクレイパー	黒曜石	2.95	1.95	0.72	3.71	
272	B1	3層	C8	スクレイパー	黒曜石	2.60	2.32	1.26	6.47	
273	B1	3層	C8	楔形石器	黒曜石	3.92	2.29	0.91	5.74	
274	B1	3層	C8	UF	黒曜石	4.20	3.15	1.04	12.25	
275	B1	3層	C8	UF	黒曜石	3.20	2.42	1.00	5.65	
276	B1	3層	C8	UF	黒曜石	3.41	2.01	0.57	3.88	
277	B1	3層	C8	UF	黒曜石	3.40	2.59	1.04	8.56	
278	B1	3層	C8	楔形石器	黒曜石	2.77	2.25	0.96	5.19	
279	B1	3層	C8	UF	黒曜石	2.86	2.01	0.77	4.42	
280	B1	3層	C8	スクレイパー	黒曜石	3.78	2.04	0.91	5.59	
281	B1	3層	C8	UF	黒曜石	4.42	2.30	0.64	6.54	
282	B1	3層	C8	UF	黒曜石	2.90	1.40	0.58	2.46	
283	B1	3層	C8東側	石核	黒曜石	2.70	1.76	1.94	11.31	
284	B1	3層	D8	石鏃	黒曜石	(1.76)	(1.25)	0.33	0.63	凸基式
285	B1	3層	D8	石鏃	黒曜石	(1.32)	(1.04)	0.23	0.39	凹基式 基端部一部欠損
286	B1	3層	D8	楔形石器	黒曜石	3.05	1.74	1.35	8.17	
287	B1	3層	D8	石鏃	黒曜石	(0.98)	0.91	0.26	0.27	凹基式 先端部欠損
288	B1	3層	D8	石鏃	黒曜石	(1.29)	(0.97)	0.25	0.30	平基式 先端部・基端部一部欠損
289	B1	3層	D8	楔形石器	黒曜石	2.53	1.36	1.27	4.85	
290	B1	3層	D8	楔形石器	黒曜石	2.53	1.60	0.80	4.05	
291	B1	3層	D8	楔形石器	黒曜石	2.98	1.30	1.26	6.02	
292	B1	3層	D8	楔形石器	黒曜石	3.18	2.00	0.99	5.80	
293	B1	3層	D8	楔形石器	黒曜石	2.42	1.91	0.95	4.08	
294	B1	3層	D8	スクレイパー	黒曜石	2.58	1.84	0.74	2.68	
295	B1	3層	D8	スクレイパー	黒曜石	3.28	2.24	0.97	8.14	
296	B1	3層	D8	スクレイパー	黒曜石	2.68	1.93	0.82	4.10	
297	B1	3層	D8	RF	黒曜石	2.97	2.50	1.15	7.52	
298	B1	3層	D8	RF	黒曜石	3.31	1.97	1.21	6.42	
299	B1	3層	D8	石鏃未製品か	黒曜石	1.93	1.27	0.51	1.15	

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
300	B1	3層	D8	UF(スクレイパーか)	黒曜石	2.49	1.38	0.51	1.92	
301	B1	3層	D8	スクレイパー	黒曜石	3.57	2.25	1.24	9.37	
302	B1	3層	D8	スクレイパー	黒曜石	2.48	1.84	0.87	3.10	
303	B1	3層	D8	UF	黒曜石	3.11	2.52	1.28	8.16	
304	B1	3層	D8	スクレイパーか	黒曜石	(1.87)	(1.33)	0.97	1.44	
305	B1	3層	D8	RF	黒曜石	2.87	1.29	0.80	2.70	
306	B1	3層	D8	UF	黒曜石	2.35	2.01	0.39	1.33	
307	B1	3層	D8	石鏃未製品か	黒曜石	(1.95)	(1.56)	0.24	0.78	端部欠損
308	B1	3層	D8	石鏃	黒曜石	2.71	1.08	0.60	1.27	
309	B1	3層~4層	D8	石鏃未製品か	黒曜石	2.27	1.27	0.30	0.64	凹基式
310	B1	3層~4層	D8	RF(石鏃未製品か)	黒曜石	2.62	1.96	0.76	2.95	
311	B1	4層	(河道1)	石鏃	黒曜石	(1.54)	(1.25)	0.25	0.41	凹基式 基端部欠損
312	B1	4層	(河道1)	石鏃	黒曜石	2.66	1.08	0.83	1.68	
313	B1	4層	(河道1)	楔形石器	黒曜石	2.46	1.66	0.92	2.88	
314	B1	4層	(河道1)	楔形石器	黒曜石	2.38	1.77	1.19	5.26	
315	B1	4層	(河道1)	UF	黒曜石	2.44	1.42	0.56	1.81	
316	B1	4層	(河道1)	UF	黒曜石	2.19	1.71	0.69	1.81	
317	B1	4層	(河道1)	RF(石鏃未製品か)	黒曜石	2.01	1.03	0.34	0.69	
318	B1	4層	(SD13下方)	石鏃未製品	黒曜石	(1.86)	(1.39)	0.36	0.94	
319	B1	4層	(SD13下方)	石鏃	黒曜石	(2.06)	1.68	0.35	0.86	凹基式 先端部欠損
320	B1	4層	(河道1)	スクレイパー	黒曜石	3.72	2.49	1.12	6.82	
321	B1	3層	D10	楔形石器	黒曜石	2.33	1.56	0.79	2.96	
322	B1	3b層	C8	RF	黒曜石	2.33	2.18	0.83	4.17	
323	B1	3b層	C8	石核	黒曜石	2.55	1.85	1.25	5.43	
324	B1	3b層	C8	UF	黒曜石	2.45	1.16	0.44	1.13	
325	B1	3b層	C8	スクレイパー	黒曜石	3.27	2.65	0.78	5.95	
326	B1	3b層	D8	スクレイパー	黒曜石	4.39	2.76	1.07	12.93	
327	B1	3b層	D8	RF	黒曜石	1.72	1.67	0.74	2.26	
328	B1	3b層	D8	石鏃	黒曜石	2.28	1.16	0.66	1.78	
329	B1	3b層	D8	スクレイパー	黒曜石	3.64	3.25	1.32	15.80	
330	B1	3b層	D8	石鏃未製品か	黒曜石	(2.19)	(1.63)	0.73	1.90	
331	B1	3c層	C9	石鏃未製品	黒曜石	3.22	2.33	0.54	3.00	端部欠損
332	B1	3c層	C9	石鏃未製品か	黒曜石	2.27	1.67	0.43	1.88	
333	B1	3d層	河道1	石核	黒曜石	4.05	2.37	1.41	9.98	
334	B1	3d層	河道1	楔形石器	黒曜石	2.73	2.26	1.36	7.85	
335	B1	3d層	河道1	スクレイパー	黒曜石	4.17	2.82	1.18	12.51	
336	B1	3d層	河道1	UF	黒曜石	3.00	1.74	0.58	3.11	
337	B1	3d層	河道1	スクレイパー	黒曜石	2.45	2.35	0.60	3.96	
338	B1	3d層	河道1	RF(石鏃未製品か)	黒曜石	1.97	1.68	0.66	2.30	
339	B1	3d層	河道1	スクレイパー	黒曜石	5.82	3.72	1.30	29.01	
340	B1	3d層	河道1	UF	黒曜石	2.64	1.64	0.91	2.78	
341	B1	3d層	河道1	石鏃未製品	黒曜石	3.07	2.59	0.49	4.87	
342	B1	3d層	河道1	スクレイパー	黒曜石	4.33	3.29	1.05	12.52	
343	B1	3d層	河道1	石核	黒曜石	2.91	2.58	1.21	9.17	
344	B1	砂礫層	河道1	RF	黒曜石	2.28	2.01	0.75	3.78	
345	B1	砂礫層	河道1	スクレイパー	黒曜石	4.99	2.65	0.96	10.31	
346	B1	3b層	河道1	削片	黒曜石	4.58	1.87	1.36	11.23	
347	B1	3d層	河道1	石鏃未製品か	黒曜石	2.34	1.77	0.85	3.48	
348	B1	3d層	河道1	石鏃未製品か	黒曜石	1.64	1.37	0.41	0.99	
349	B1	3d層	河道1	RF	黒曜石	3.05	2.19	1.20	7.74	
350	B1	3d層	河道1	石鏃	黒曜石	(1.90)	(1.40)	0.22	0.59	凹基式 基端部一部欠損
351	B1	3d層	河道1	スクレイパー	黒曜石	2.97	2.57	0.65	5.13	
352	B1	3d層	河道1	石鏃	黒曜石	3.43	2.09	1.22	6.81	
353	B1	3d層	河道1	UF	玉髓	4.30	3.36	1.15	15.04	
354	B1	3d層	河道1	UF	黒曜石	3.98	2.84	0.97	10.28	
355	B1	3d層	河道1	UF	黒曜石	3.40	2.60	0.98	7.71	
356	B1	3d層	河道1	石鏃未製品か	黒曜石	3.95	2.07	1.08	8.86	
357	B1	3d層	河道1	RF	黒曜石	2.85	2.28	1.14	6.18	
358	B1	3d層	河道1	石鏃未製品か	黒曜石	2.54	1.93	0.86	3.09	
359	B1	3d層	河道1	スクレイパー	黒曜石	3.82	2.34	1.02	8.44	
360	B1	3d層	河道1	スクレイパー	黒曜石	3.08	2.73	0.57	5.43	
361	B1	3d層	河道1	RF	黒曜石	4.61	2.49	0.68	7.23	
362	B1	3d層	河道1	楔形石器	黒曜石	3.61	1.86	1.68	12.09	
363	B1	3d層	河道1	UF	玉髓	9.35	5.42	1.57	73.21	
364	B1	3d層	河道1	楔形石器	黒曜石	3.67	3.47	1.41	17.93	
365	B1	3d層	河道1	石鏃未製品	黒曜石	2.36	1.84	0.82	3.61	
366	B1	3d層	河道1	UF	黒曜石	2.60	1.73	0.97	4.15	
367	B1	3d層	河道1	UF	黒曜石	2.29	1.10	0.59	1.75	
368	B1	3d層	河道1	UF	黒曜石	2.21	2.15	0.65	2.77	
369	B1	3d層	河道1	RF	黒曜石	2.94	2.12	0.42	2.45	
370	B1	3d層	河道1	UF	黒曜石	3.29	1.79	0.56	3.09	
371	B1	3d層	河道1	石鏃未製品か	黒曜石	3.35	2.45	0.68	3.73	
372	B1	砂礫層	河道2	スクレイパー	黒曜石	4.38	2.86	1.04	11.14	
373	B1	砂礫層	河道2	スクレイパー	黒曜石	4.62	3.91	1.19	21.58	
374	B1	砂礫層	河道2	石核	黒曜石	4.54	3.03	1.25	16.47	



付表

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
375	B1	砂礫層	河道2	UF	黒曜石	3.44	2.53	0.44	3.58	
376	B1	砂礫層	河道4	UF	黒曜石	4.53	1.59	1.53	6.67	
377	B1	砂礫層	河道2	UF	黒曜石	2.45	2.43	1.08	7.01	
378	B1	シルト層	河道2	UF	黒曜石	(2.27)	1.76	0.93	3.33	
379	B1	砂礫層	河道4	楔形石器	黒曜石	3.22	2.78	0.96	8.07	
380	B1	砂礫層	河道4	スクレイパー	黒曜石	2.85	2.16	0.91	5.27	
381	B1	砂礫層	河道4	UF	黒曜石	4.31	2.30	1.07	8.74	
382	B1	砂礫層	河道4	スクレイパー	黒曜石	6.29	4.58	1.42	29.12	
383	B1	砂礫層	河道4	石鏃	黒曜石	(2.42)	1.80	0.45	1.39	凹基式 先端部わずかに欠損
384	B1	砂礫層	河道4	スクレイパー	黒曜石	2.86	2.43	0.64	4.79	
385	B1	砂礫層	河道4	スクレイパー	黒曜石	3.23	1.93	0.62	5.05	
386	B1	砂礫層	河道4	スクレイパー	黒曜石	2.50	2.06	0.67	3.00	
387	B1	青灰色粘土層	D8	UF	黒曜石	3.00	1.47	0.51	2.29	
388	B1	青灰色粘土層下	D8	RF	黒曜石	3.57	2.67	1.27	10.39	使用痕あり
389	B1	微高地堆積層	C10	削片	黒曜石	2.03	1.10	0.78	1.91	
390	B1		D7	UF	黒曜石	3.88	1.53	0.97	4.16	
391	B1	表土		RF(石鏃未製品か)	黒曜石	2.72	1.89	0.76	3.90	
392	B1	表採		RF(石鏃未製品か)	黒曜石	3.10	2.51	1.04	6.12	
393	B1	表採		石鏃未製品	黒曜石	2.13	0.97	0.26	0.53	凹基式 基部一部欠損
394	B1	排土		石鏃	黒曜石	1.89	1.54	0.28	0.50	凹基式
395	B1	排土		石鏃	黒曜石	1.48	1.40	0.36	0.48	凹基式
396	B1	排土		石鏃	黒曜石	1.76	1.20	0.32	0.54	凹基式
397	B1	排土		石鏃	黒曜石	1.69	1.39	0.24	0.47	平基式
398	B1	排土		石鏃	黒曜石	(1.27)	1.25	0.26	0.35	凹基式 先端部欠損
399	B1	排土		石鏃	黒曜石	(1.43)	1.42	0.28	0.66	凹基式 先端部欠損
400	B1	排土		石鏃	黒曜石	(2.19)	2.03	0.33	1.54	平基式 先端部欠損
401	B1	排土		石鏃	黒曜石	(1.30)	(0.94)	0.22	0.26	基部欠損
402	B1	排土		石鏃	黒曜石	(1.20)	(1.01)	0.30	0.38	基部欠損
403	B1	排土		石鏃	黒曜石	(1.23)	(0.89)	0.29	0.37	凹基式 先端部・基部欠損
404	B1	排土		石鏃未製品	黒曜石	1.57	0.98	0.31	0.61	
405	B1	排土		楔形石器	黒曜石	2.69	2.03	1.16	5.26	
406	B1	排土		石鏃未製品か	黒曜石	2.63	1.84	0.74	3.52	
407	B1	排土		石鏃未製品か	黒曜石	2.11	1.85	0.62	2.02	
408	B1	排土		UF	黒曜石	3.30	3.02	1.04	8.08	
409	B1	排土		UF	黒曜石	3.70	3.05	0.95	10.03	
410	B1	排土		RF	黒曜石	3.19	2.29	0.89	5.89	
411	B1	排土		スクレイパー	黒曜石	3.29	2.64	0.97	7.28	未製品の可能性あり
412	B1	排土		石鏃未製品	黒曜石	2.35	1.25	0.71	1.69	
413	B1	排土		石鏃未製品	黒曜石	(1.61)	(1.34)	0.23	0.41	先端部のみ残存
414	B1	排土		石鏃未製品	黒曜石	2.41	1.98	0.54	2.17	
415	B1	上層	SX01	楔形石器	玉髄	2.19	2.06	0.40	2.56	
416	B1	上層	SX01	UF	玉髄	2.46	1.31	0.53	2.00	
417	B1	下層	SX01	石核	玉髄	6.83	4.71	2.78	100.17	
418	B1	下層	SX01	UF	瑪瑙	2.91	1.56	0.90	4.28	
419	B1	上層	SD13	RF	玉髄	2.93	2.42	0.84	4.90	
420	B1	上層	SD13	楔形石器	玉髄	2.50	2.41	0.78	5.57	
421	B1	上層	SD13	UF	玉髄	4.51	2.52	0.82	10.05	
422	B1	上層	SD13	石核	玉髄	3.43	2.05	1.54	8.21	
423	B1	上層	SD13	UF	玉髄	2.82	1.23	0.50	1.75	
424	B1	3d層	河道1	RF	瑪瑙	2.29	1.85	0.48	1.83	
425	B1	3d層	河道1	UF	玉髄	3.06	2.61	0.76	5.40	
426	B1	3d層	河道1	削片	玉髄	2.63	1.62	0.26	4.23	
427	B1	3b層	D8	UF	玉髄	1.77	1.38	0.42	1.01	
428	B1	3b層	D8	UFか	玉髄	1.75	1.23	0.31	0.69	
429	B1	3b層	C8	RF	碧玉	2.67	1.43	1.38	6.35	
430	B1	3層	C8	石核	玉髄	3.96	3.52	1.91	18.57	
431	B1	3層	D8	楔形石器	玉髄	(3.08)	2.11	0.63	4.43	
432	B1	3層～4層	D8	楔形石器	玉髄	2.80	1.67	0.94	4.94	
433	B1	4層	(河道1)	UF	玉髄	2.29	0.91	0.45	1.37	
434	B1	4層	(河道1)	UF	玉髄	2.67	1.94	0.52	1.91	
435	B1	4層	(河道1)	楔形石器	玉髄	3.01	1.59	1.24	6.62	
436	B1	2層	C7	石核	玉髄	4.78	2.01	1.73	17.65	両極の打撃痕
437	B1	2層	D7	楔形石器	玉髄	3.89	3.01	1.22	13.96	
438	B1	2層	D7	楔形石器	瑪瑙	2.33	(1.34)	0.80	2.69	
439	B1	2層	E7	スクレイパー	水晶	4.40	2.75	1.30	16.04	
440	B1	2層	C8側溝	UF	瑪瑙	2.89	1.97	0.73	3.71	
441	B1	2層	D8	スクレイパー	玉髄	4.12	3.38	0.99	13.77	
442	B1	2層	D8	楔形石器	瑪瑙	1.99	1.72	0.62	3.08	
443	B1	2層	D8	楔形石器	瑪瑙	2.08	1.38	0.56	1.55	
444	B1	排土		RF	玉髄	1.63	1.48	0.42	0.85	
445	B1	排土		スクレイパー	玉髄	3.55	2.48	0.93	8.00	
446	B1	排土		UF	玉髄	2.13	1.43	0.45	1.40	
447	B1	排土		楔形石器	玉髄	2.71	1.11	0.95	3.37	
448	B1	排土		UF	玉髄	2.51	2.04	0.75	1.94	
449	B1	排土		UF	玉髄	7.07	4.80	0.97	25.75	

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
450	B1	上層	SD13	敲石	凝灰岩	10.92	6.02	8.31	756.82	
451	B1	上層	SD13	用途不明礫	安山岩	12.88	(5.48)	4.48	236.90	表面磨痕 加工痕(?)あり
452	B1	上層	SD13	楔形石器	安山岩	11.65	8.71	2.06	247.72	
453	B1	上層	SD13	打製石斧(未製品か)	凝灰岩	14.32	5.36	2.14	232.20	非定形的な打製石斧
454	B1	上層	SD13	片刃石斧未製品か	凝灰岩	9.08	2.65	1.87	51.38	
455	B1	上層	SD13	RF	凝灰岩	8.61	4.86	1.44	76.87	
456	B1	上層	SD13	敲打痕のある石器	砂岩	6.06	4.02	0.72	25.68	表面に磨痕および敲打痕あり
457	B1	上層	SD13	石包丁か	頁岩	(3.49)	(1.77)	0.46	4.50	両面研磨 刃部残る
458	B1	上層	SD13	施溝分割による剥片	凝灰岩	2.87	2.47	0.58	3.24	
459	B1	上層	SD15	敲石か	玄武岩	10.92	10.42	5.85	998.78	
460	B1	埋土	SX02	敲石	安山岩	13.12	8.78	3.89	628.91	
461	B1	埋土	SX02	両刃石斧	片岩	(8.75)	(5.31)	(3.07)	218.84	基部片
462	B1	上層	SX01	敲石	安山岩	(6.40)	(2.63)	(3.78)	81.09	
463	B1	下層	SX01	敲石	玄武岩	(10.06)	5.47	3.55	292.85	
464	B1	埋土	P59	扁平片刃石斧	頁岩	3.77	(1.70)	1.17	10.12	両極剥離のため楔形石器として使用か
465	B1	埋土	P138	剥片	安山岩	2.37	1.49	0.30	1.10	
466	B1	埋土	SD11	RF	安山岩	2.78	1.91	0.56	3.14	小片:0.32g 2片:0.22g
467	B1	砂礫層	河道4	敲石	安山岩	10.75	9.45	3.37	516.07	磨石としても使用
468	B1	砂礫層	河道4	扁平片刃石斧未製品か	頁岩	9.07	7.97	2.47	193.47	紡錘車未製品の可能性あり
469	B1	砂礫層	河道4	砥石	砂岩	11.42	11.34	5.35	846.40	
470	B1	砂礫層	河道4	砥石	砂岩	(10.39)	9.19	3.36	345.74	
471	B1	砂礫層	河道4	石錘	凝灰岩	7.59	7.20	2.71	124.09	
472	B1	砂礫層	河道4	砥石	砂岩	12.35	9.47	5.11	932.79	
473	B1	砂礫層	河道4	RF	安山岩	14.75	11.84	4.50	1150.56	
474	B1	砂礫層	河道4	大型石錘	玄武岩	(17.60)	(11.50)	12.30	3140.00	第187図2番
475	B1	砂礫層	河道4	台石	安山岩	14.66	10.53	6.01	1700.65	
476	B1	砂礫層	河道4	台石	凝灰岩	(15.50)	8.68	7.23	1592.87	砥石状の磨痕
477	B1	砂礫層	河道4	台石	安山岩	(18.40)	(13.12)	8.18	2620.00	
478	B1	砂礫層	河道4	台石	流紋岩	20.50	17.00	6.11	2300.00	周縁も加工により整形
479	B1	砂礫層	河道4	台石	安山岩	(17.30)	(13.60)	6.96	1561.97	
480	B1	砂礫層	河道4	敲石	玄武岩	13.68	(9.51)	7.69	1447.39	
481	B1	砂礫層	河道4	台石	玄武岩	(17.20)	12.44	6.26	2090.72	
482	B1	砂礫層	河道4	台石	安山岩	24.20	18.60	8.20	5040.00	大山デザイン
483	B1	砂礫層	河道4	砥石	細粒花崗岩	13.84	10.96	7.17	1596.17	
484	B1	3d層	河道1	両刃石斧	片岩	(12.30)	(5.26)	4.17	404.56	基部片
485	B1	3d層	河道1	両刃石斧未製品	玄武岩	(8.36)	6.94	(4.82)	422.79	
486	B1	3d層	河道1	両刃石斧	玄武岩	(7.88)	(6.87)	(4.79)	402.78	基部片
487	B1	3d層	河道1	両刃石斧	玄武岩	(14.49)	8.51	5.71	1077.14	基部～刃部片
488	B1	3d層	河道1	両刃石斧未製品	玄武岩	(11.63)	7.74	3.52	505.68	
489	B1	3d層	河道1	両刃石斧未製品	玄武岩	(8.92)	6.98	2.96	321.64	
490	B1	3d層	河道1	両刃石斧	頁岩	(13.00)	(6.31)	(2.23)	198.25	基部～刃部片
491	B1	3d層	河道1	石斧未製品	片岩	(7.20)	(5.68)	(4.12)	281.70	両刃石斧基部か
492	B1	3d層	河道1	柱状片刃石斧未製品	玄武岩	(8.60)	(5.03)	(5.04)	320.23	基部～刃部片
493	B1	3d層	河道1	両刃石斧未製品か	凝灰岩	(8.01)	(6.85)	(3.32)	253.19	
494	B1	3d層	河道1	両刃石斧未製品	玄武岩	(9.12)	(6.22)	(3.52)	266.35	刃部
495	B1	3d層	河道1	石斧未製品	安山岩	(7.41)	(5.56)	(3.74)	265.00	基部
496	B1	3d層	河道1	石斧未製品	頁岩	13.71	5.11	3.62	353.34	
497	B1	3d層	河道1	石斧	片岩	(9.55)	(3.82)	(2.16)	114.94	未製品か 基部片 研磨なし
498	B1	3d層	河道1	両刃石斧	片岩	(5.05)	(4.69)	(1.26)	47.97	刃部片
499	B1	3d層	河道1	砥石	流紋岩	(14.28)	6.05	5.08	731.71	島根半島の柱状節理
500	B1	3d層	河道1	不明	流紋岩	(14.78)	4.88	2.76	392.77	島根半島の柱状節理
501	B1	3d層	河道1	扁平片刃石斧未製品か	頁岩	12.37	6.63	2.97	318.29	
502	B1	3d層	河道1	石斧未製品	凝灰岩	(14.46)	6.33	5.52	870.67	基部片
503	B1	3d層	河道1	敲石か	玄武岩	10.75	4.11	2.81	235.16	
504	B1	3d層	河道1	石錘未製品か	頁岩	(10.60)	7.30	2.98	258.00	
505	B1	3d層	河道1	大型石斧	玄武岩	29.30	12.77	8.50	3800.00	
506	B1	3d層	河道1	敲石か	安山岩	9.42	6.51	4.89	472.35	
507	B1	3d層	河道1	敲石	安山岩	10.53	5.93	1.69	167.75	
508	B1	3d層	河道1	敲石	頁岩	(5.47)	3.66	1.98	60.44	
509	B1	3d層	河道1	敲石	頁岩	8.57	4.36	2.12	123.42	
510	B1	3d層	河道1	敲石	安山岩	13.63	8.77	6.69	1232.12	石斧未製品か
511	B1	3d層	河道1	敲石	流紋岩	9.54	5.51	4.76	330.90	
512	B1	3d層	河道1	凹石	玄武岩	10.60	9.65	4.13	609.56	
513	B1	3d層	河道1	敲石	安山岩	(10.29)	(7.37)	(2.64)	250.14	
514	B1	3d層	河道1	敲石	安山岩	16.50	10.19	6.20	1171.11	平坦面の一部に凹みあり
515	B1	3d層	河道1	敲石	閃緑岩	(10.98)	10.32	6.56	1223.37	
516	B1	3d層	河道1	石斧未製品	玄武岩	(7.13)	6.38	5.54	282.68	基部片
517	B1	3d層	河道1	凹石	頁岩	10.22	9.26	3.91	458.63	
518	B1	3d層	河道1	敲石	流紋岩	(7.29)	(6.68)	3.04	167.67	
519	B1	3d層	河道1	台石	流紋岩	(18.70)	(13.20)	5.60	1483.58	
520	B1	3d層	河道1	凹石	玄武岩	11.26	10.28	4.90	902.64	凹みは片面
521	B1	3d層	河道1	敲石	安山岩	11.08	10.00	6.52	986.97	
522	B1	3d層	河道1	石斧未製品か	玄武岩	(10.97)	8.34	3.06	425.96	
523	B1	3d層	河道1	石錘か	頁岩	(7.65)	6.44	1.90	135.24	
524	B1	3d層	河道1	RF	安山岩	10.31	4.61	1.29	76.27	

付表

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
525	B1	3d層	河道1	RF	頁岩	11.42	6.36	1.58	158.42	
526	B1	3d層	河道1	大型石包丁未製品か	頁岩	(19.80)	9.38	0.98	341.53	
527	B1	3d層	河道1	施溝分割による剥片	凝灰岩	7.54	5.09	1.42	58.39	
528	B1	3d層	河道1	石包丁か	頁岩	(3.86)	(3.85)	0.31	5.77	
529	B1	3d層	河道1	スクレイパー	安山岩	5.58	(3.75)	1.08	18.24	両側に刃部
530	B1	3d層	河道1	大型石包丁か	凝灰岩	18.60	8.90	1.30	214.97	第196図1番
531	B1	3d層	河道1	大型石包丁未製品	砂岩	14.50	11.00	1.70	300.25	第196図2番
532	B1	砂礫層	河道1	RF	凝灰岩	7.21	4.89	1.00	35.62	
533	B1	砂礫層	河道2	RF	頁岩	8.53	7.65	2.90	206.77	円形に加工 紡錘車等の未製品か
534	B1	砂礫層	河道2	敲石	頁岩	(5.78)	4.86	2.45	99.28	
535	B1	砂礫層	河道2	大型石包丁未製品	安山岩	(9.97)	(8.61)	1.79	160.69	
536	B1	砂礫層	河道2	不明	頁岩	14.70	4.68	3.07	333.71	
537	B1	砂礫層	河道2	石斧未製品	片岩	(11.20)	6.77	(5.30)	584.72	基部片
538	B1	砂礫層	河道2	石斧未製品	片岩	11.94	6.05	2.98	324.97	
539	B1	砂礫層	河道2	扁平片刃石斧未製品	安山岩	11.86	8.74	3.03	421.18	
540	B1	3b層	河道2	石臼	火山礫凝灰岩	(15.01)	(14.36)	8.49	2737.00	
541	B1	砂礫層	C9	RF	頁岩	6.44	5.51	0.55	32.54	石包丁様石器未製品か
542	B1	砂礫層	C7	両刃石斧未製品	玄武岩	(10.31)	6.15	4.15	411.18	
543	B1	4層	SD13下方	石鏃未製品	安山岩	2.63	2.60	0.46	3.37	
544	B1	4層	(河道1)	扁平片刃石斧	凝灰岩	4.39	2.93	0.86	20.21	
545	B1	4層	(河道1)	剥片	珪質岩	1.94	1.73	0.83	1.89	
546	B1	4層	(河道1)	RF	凝灰岩	4.18	1.38	1.08	6.93	
547	B1	4層	(河道1)	スクレイパー	安山岩	6.00	3.83	0.89	21.27	
548	B1	4層	(河道1)	九州型石錘	安山岩	(5.05)	(3.33)	(1.37)	26.85	
549	B1	4層	(河道1)	不明	凝灰岩	(3.98)	(1.55)	(1.25)	10.85	研磨面残る
550	B1	4層	(河道1)	不明	流紋岩	(6.98)	(3.85)	1.25	40.61	砥石か
551	B1	4層	(河道1)	UF	頁岩	6.58	4.21	0.91	27.33	
552	B1	4層	(河道1)	大型石包丁	頁岩	7.86	(7.65)	0.71	64.83	
553	B1	4層	SD13下方	UF	安山岩	2.24	1.99	0.43	2.12	
554	B1	4層	(河道1)	石鏃	安山岩	22.50	11.73	3.09	914.82	
555	B1	4層	(河道1)	RF	凝灰岩	9.95	6.35	2.66	185.78	
556	B1	4層	(河道1)	RF	頁岩	18.60	9.55	2.43	713.72	
557	B1	4層	(河道1)	石錘	安山岩	15.50	8.82	3.42	526.99	
558	B1	4層	(河道1)	砥石	砂岩	(6.61)	5.58	4.62	237.02	
559	B1	4層	(河道1)	砥石	砂岩	(9.62)	5.59	5.51	393.48	
560	B1	4層	(河道1)	砥石	細粒花崗岩	(8.56)	(5.63)	3.41	216.72	
561	B1	4層	(河道1)	砥石	砂岩	8.15	6.65	5.14	329.95	砥石目細かい
562	B1	4層	(河道1)	不明	流紋岩	20.08	8.68	6.00	1336.96	島根半島の柱状節理 敲打痕あり
563	B1	4層	(河道1)	凹石	閃緑岩	15.40	13.91	7.40	2400.00	
564	B1	4層	(河道1)	不明	安山岩	(10.00)	(4.66)	1.28	87.23	研磨痕あり
565	B1	4層	(河道1)	砥石か	凝灰岩	(6.47)	(3.62)	2.57	65.25	砥石目非常に細かい
566	B1	4層	(河道1)	敲石	安山岩	(17.80)	10.68	5.80	1144.23	
567	B1	3層	C8	RF	凝灰岩	5.73	3.70	1.07	22.74	
568	B1	3層	C8	不明(石包丁様石器)	頁岩	6.59	2.71	0.45	14.96	石包丁片か
569	B1	3層	C8	不明	砂岩	3.20	2.73	1.16	8.80	孔のある自然礫か
570	B1	3層	C8	扁平片刃石斧	頁岩	(2.75)	(1.31)	(0.73)	3.25	基部片
571	B1	3層	D8	楔形石器	安山岩	2.67	1.87	0.50	2.62	
572	B1	3層	D8	石包丁	安山岩	(6.83)	(2.75)	0.59	14.50	
573	B1	3層	C8	不明	砂岩	7.63	2.64	1.10	45.16	一方の長側面に研磨痕、もう一方に孔状の凹み平坦面に敲打痕か
574	B1	3層	D8	RF	流紋岩	8.12	7.12	1.41	88.19	
575	B1	2層	D7~E7	磨製石鏃	凝灰岩	(5.79)	(5.76)	1.71	82.40	未製品か
576	B1	2層	D7	両刃石斧	玄武岩	(4.98)	(4.94)	(3.09)	87.86	
577	B1	2層	D8	不明	安山岩	(2.40)	(2.27)	(0.28)	2.07	研磨痕残る
578	B1	2層	C7	石鏃	安山岩	2.07	1.24	0.24	0.62	平基式
579	B1	2層	D8	石鋸あるいは石包丁	凝灰岩	(3.25)	(3.09)	0.48	5.54	
580	B1	2層	D7	スクレイパー	安山岩	4.48	2.63	0.55	8.90	楔形石器からの剥片
581	B1	2層	D7	剥片	頁岩	4.42	3.66	0.76	11.18	
582	B1	2層	D7	砥石	流紋岩	8.66	8.61	2.54	229.56	砥石目細かい
583	B1	3層	D8	敲石か	玄武岩	9.15	(5.95)	(2.96)	204.55	両極から剥離
584	B1	3層	D8	敲石	凝灰岩	(6.81)	(4.33)	(3.36)	101.28	
585	B1	3層	D8	台石	安山岩	11.62	(7.57)	2.40	235.55	
586	B1	3層	C8	敲石	砂岩	8.37	(3.60)	4.06	166.93	
587	B1	3層	D8	敲石か	砂岩	(6.22)	4.41	3.46	108.48	
588	B1	2層	E7	石核	安山岩	19.90	8.95	4.93	1103.36	自然面ほぼ全面に残る
589	B1	2層	E7	石鏃未製品	安山岩か	(2.86)	(2.03)	0.45	2.16	基部一部欠損
590	B1	3層	D8	楔形石器	安山岩か	2.32	(2.14)	0.65	3.78	
591	B1	3層	D8	RF	頁岩	3.74	3.71	0.59	10.39	
592	B1	3層	D8	砥石	細粒花崗岩	(6.66)	6.13	2.61	144.54	
593	B1	3層	C8	砥石	砂岩	(6.41)	6.12	6.35	314.64	
594	B1	3層	D8	不明	流紋岩	4.98	3.83	1.53	24.66	研磨痕あり
595	B1	3層	D8	砥石	砂岩	7.62	6.71	3.69	280.05	砥石目細かい
596	B1	3層	C8	砥石	流紋岩	(9.06)	(6.39)	(3.18)	232.17	
597	B1	3層	C8	石斧未製品か	流紋岩	12.55	6.19	5.00	660.17	敲打による加工
598	B1	3層	D8	両刃石斧	安山岩	(12.04)	(6.67)	(3.55)	366.80	
599	B1	3層	D8	両刃石斧未製品	玄武岩か	(11.37)	6.63	4.53	468.29	

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
600	B1	3d層	河道1	凹石	安山岩	11.42	8.45	7.59	570.76	
601	B1	3d層	河道1	敲石	頁岩	13.16	4.68	2.21	211.34	
602	B1	3d層	河道1	RF	頁岩	10.94	3.14	2.69	132.53	
603	B1	3d層	河道1	不明	砂岩	14.73	(3.75)	(3.65)	279.46	
604	B1	3d層	河道1	大型石包丁か	安山岩	8.60	(7.32)	1.46	128.05	
605	B1	3d層	河道1	砥石	細粒花崗岩	15.20	7.90	11.20	1470.48	
606	B1	3d層	河道1	敲石	閃緑岩	9.07	8.28	4.28	475.75	
607	B1	3d層	河道1	不明	流紋岩	14.14	6.13	4.91	568.71	
608	B1	3d層	河道1	台石か	砂岩	(9.00)	(7.93)	4.35	545.52	敲打による整形 平坦面の一方は研磨なし
609	B1	3d層	河道1	両刃石斧	玄武岩	(10.53)	(5.94)	(4.78)	502.36	基部片
610	B1	3d層	河道1	凹石	玄武岩	10.76	9.95	6.26	1070.76	
611	B1	3d層	河道1	両刃石斧	片岩	12.45	4.88	2.98	313.93	基部～刃部片
612	B1	3d層	河道1	UF	凝灰岩	6.43	2.16	1.52	23.04	
613	B1	3d層	河道1	両刃石斧	片岩	6.96	6.18	1.55	90.16	刃部片
614	B1	3d層	河道1	両刃石斧未製品	玄武岩	(8.82)	5.22	3.46	197.73	
615	B1	3d層	河道1	凹石	玄武岩	11.24	(8.74)	5.98	840.96	
616	B1	3c層	D8	敲石	凝灰岩	9.89	6.15	5.20	238.68	
617	B1	3c層	D8	敲石	凝灰岩	8.97	7.98	5.75	351.38	
618	B1	3c層	C9	両刃石斧	片岩	(6.31)	(4.04)	(4.63)	251.90	基部片
619	B1	3c層	D9	敲石	凝灰岩	5.89	5.40	2.81	62.48	平坦な自然面 研磨に使用か
620	B1	3b層	C8	両刃石斧	片岩	(6.89)	(3.58)	(2.53)	87.63	
621	B1	3b層	C8	敲石	頁岩	(5.50)	5.21	2.15	86.89	
622	B1	3b層	C8	磨製石器未製品	流紋岩	(5.99)	(4.03)	(1.67)	59.80	
623	B1	3b層	C8	石包丁	頁岩	(5.03)	(2.80)	(5.13)	11.69	両面穿孔1箇所
624	B1	3b層	C8	鑿状片刃石斧か	流紋岩	(5.58)	(2.22)	(2.22)	43.64	砥石としても使用か
625	B1	3b層	C8	不明	細粒花崗岩	(5.14)	(4.67)	(2.31)	54.22	研磨面2面残る
626	B1	3b層	C8	砥石	細粒花崗岩	4.71	4.49	3.10	90.33	
627	B1	3b層	河道1	砥石	砂岩	(7.34)	(5.69)	(1.85)	84.10	
628	B1	西側調査区排土		台石	玄武岩	17.50	15.30	6.16	1885.98	
629	B1	排土		砥石	砂岩	6.47	(6.28)	(2.29)	163.14	
630	B1	排土		敲石	流紋岩	6.97	4.77	4.52	218.08	
631	B1	排土		敲石	玄武岩	9.21	(5.76)	5.67	375.47	被熱
632	B1	排土		石鎌未製品	頁岩	(12.60)	5.88	1.56	174.55	
633	B1	排土		石斧転用敲石か	玄武岩	(4.63)	(4.40)	(3.22)	76.75	
634	B1	排土		敲石	頁岩	10.10	(7.60)	4.50	504.34	破損後に加工
635	B1	排土		石斧未製品か	玄武岩	(8.93)	4.68	3.46	262.31	
636	B1	排土		敲石	凝灰岩	(7.32)	4.60	3.46	111.50	
637	B1	排土		磨製石器未製品か	凝灰岩	7.49	5.67	2.68	151.58	
638	B1	排土		扁平片刃石斧未製品か	玄武岩	7.90	6.32	2.52	181.78	
639	B1	排土		石核	安山岩	11.46	9.08	3.02	397.04	未製品の可能性あり
640	B1	排土		両刃石斧未製品	玄武岩	11.18	6.52	2.35	229.26	一部研磨か
641	B1	排土		両刃石斧未製品	頁岩	18.90	5.23	2.98	462.46	
642	B1	排土		石鎌未製品	安山岩	18.60	8.11	3.66	615.05	
643	B1		D7	抉入柱状片刃石斧未製品	玄武岩	(9.96)	(3.96)	(3.26)	205.44	基部片
644	B1		D7	RF	安山岩	2.79	1.24	0.36	1.22	
645	B1		調査区東側側溝内	敲石	閃緑岩	8.55	(4.64)	3.66	221.89	
646	B1		調査区東側側溝内	石鎌	安山岩	17.30	8.80	3.31	529.67	刃部使用痕あり
647	B1	排土		RF	頁岩	13.00	5.27	2.07	128.57	
648	B1	排土		両刃石斧	片岩	(12.88)	(5.68)	(3.88)	358.79	基部片
649	B1	排土		両刃石斧	片岩	11.45	5.68	3.67	392.51	
650	B1	排土		両刃石斧	塩基性片岩	(11.00)	(2.00)	(3.75)	117.37	基部～刃部片
651	B1	排土		両刃石斧	玄武岩	(9.01)	(4.53)	(4.08)	302.48	基部片
652	B1	排土		両刃石斧未製品	玄武岩	(11.61)	5.82	(5.74)	639.10	
653	B1	排土		両刃石斧	玄武岩	(7.05)	(5.33)	(4.17)	178.56	基部片
654	B1	排土		両刃石斧	片岩	(10.86)	(5.83)	(3.96)	394.25	基部～刃部片
655	B1	排土		両刃石斧	片岩	14.25	5.98	4.18	504.48	基部～刃部片
656	B1	排土		両刃石斧	片岩	(7.78)	(6.65)	(2.40)	171.92	刃部片
657	B1	排土		両刃石斧未製品	玄武岩	(11.97)	(6.30)	(6.22)	588.58	基部片
658	B1	排土		両刃石斧未製品	凝灰岩	(7.03)	(6.14)	(6.22)	385.83	基部片
659	B1	排土		両刃石斧未製品	安山岩	(6.89)	5.72	4.86	291.85	基部片
660	B1	排土		両刃石斧転用敲石	片岩	11.77	5.43	3.70	464.59	
661	B1	排土		両刃石斧	玄武岩	(6.63)	(4.81)	(5.51)	273.38	基部片
662	B1	排土		両刃石斧	片岩	10.40	5.10	3.71	316.76	刃部一部残る
663	B1	排土		両刃石斧	片岩	(6.00)	(5.66)	(3.80)	142.39	刃部片
664	B1	排土		両刃石斧未製品	玄武岩	(8.23)	(5.95)	(4.63)	344.70	基部片か 一部研磨あり
665	B1	排土		両刃石斧未製品	玄武岩	(11.43)	6.16	4.98	506.91	
666	B1	排土		敲石	玄武岩	9.90	6.35	5.05	563.32	
667	B1	排土		両刃石斧	安山岩	(6.83)	(4.91)	(5.11)	304.73	基部片
668	B1	排土		RF	玄武岩	9.76	5.79	2.28	203.77	形状は石包丁未製品と似る
669	B1	排土		大型石包丁か	流紋岩	(18.50)	(8.89)	2.05	340.43	端部1箇所抉りあり 一部研磨開始
670	B1	排土		扁平片刃石斧未製品	頁岩	7.51	4.36	1.40	64.01	
671	B1	排土		不明	流紋岩	(5.53)	(3.22)	(0.79)	14.66	研磨面残る 石包丁か
672	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	片岩	(8.86)	(5.80)	(4.29)	290.59	基部片
673	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧転用敲石	片岩	11.84	5.73	3.53	355.21	
674	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	安山岩	(6.83)	(5.98)	(4.35)	228.95	刃部片



付表

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
675	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧転用敲石	頁岩	11.00	5.78	3.24	282.23	基部～刃部片
676	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧転用敲石	片岩	(12.20)	5.97	(4.29)	544.35	基部片
677	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧転用敲石	片岩	(13.40)	(6.14)	(5.34)	627.07	
678	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧未製品	玄武岩	(6.58)	(6.53)	(5.98)	500.75	
679	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	片岩	(7.05)	(5.81)	(4.47)	272.96	基部片
680	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧転用敲石	片岩	14.30	5.57	3.89	547.86	
681	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧未製品	玄武岩	(10.70)	5.69	3.94	379.27	
682	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	片岩	12.89	5.48	3.98	444.17	
683	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧未製品	凝灰岩	(9.93)	6.51	3.35	342.26	
684	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧未製品か	安山岩	(8.27)	6.81	2.66	227.80	
685	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	片岩	(6.48)	(2.01)	(4.70)	98.52	基部片
686	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧未製品	安山岩	15.30	6.75	3.50	598.45	
687	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	片岩	(10.50)	(4.64)	(2.90)	205.43	基部片
688	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	片岩	(11.28)	5.11	4.08	412.90	基部片
689	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	片岩	(13.16)	(5.84)	3.55	427.83	基部片
690	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	片岩	(11.27)	(5.94)	(4.50)	351.91	基部～刃部片
691	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	玄武岩	(13.22)	(5.88)	(4.16)	487.39	
692	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧転用敲石	片岩	(11.59)	(5.99)	(3.36)	394.77	
693	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	頁岩	(8.40)	(6.08)	(4.15)	337.43	刃部片
694	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	片岩	(9.51)	(4.73)	(3.98)	197.55	基部～刃部片
695	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧	片岩	(11.01)	(5.94)	(4.84)	416.97	基部～刃部片
696	B1	砂礫層	河道4	敲石	砂岩	15.05	7.73	3.55	574.46	
697	B1	砂礫層	河道4	大型スクレイパー	流紋岩	15.90	(10.71)	4.91	1086.73	
698	B1	砂礫層	河道4	敲石	安山岩	18.40	4.30	5.31	886.14	両刃石斧未製品か
699	B1	砂礫層	河道4	石斧未製品	頁岩	12.09	6.00	2.73	283.46	
700	B1	砂礫層	河道4	石鏃	安山岩	12.83	8.51	2.88	346.13	
701	B1	砂礫層	河道4	敲石	安山岩	10.48	5.39	4.40	369.91	
702	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧未製品	安山岩	(9.95)	(5.83)	(4.15)	356.41	
703	B1	砂礫層	河道4	石鏃未製品	頁岩	14.22	5.60	1.89	168.26	
704	B1	砂礫層	河道4	磨製尖頭器未製品か	砂岩	(7.71)	(3.92)	(0.71)	34.27	
705	B1	砂礫層	河道4	RF	玄武岩	10.13	4.91	1.28	87.72	
706	B1	砂礫層	河道4	石鏃	頁岩	(9.15)	(4.85)	(1.13)	65.69	
707	B1	砂礫層	河道4	不明	頁岩	10.00	7.76	0.72	83.20	一部研磨痕あり 石包丁か
708	B1	砂礫層	河道4	石鏃	安山岩	11.55	7.17	2.22	158.07	
709	B1	砂礫層	河道4	石鏃未製品	安山岩	1.61	1.53	0.32	0.76	凹基式
710	B1	砂礫層	河道4	RF	凝灰岩	6.18	3.73	1.20	35.42	石斧の剥片
711	B1	砂礫層	河道4	石包丁	頁岩	6.91	(3.22)	0.51	16.67	両面穿孔1箇所
712	B1	砂礫層	河道4	RF	頁岩	10.22	4.07	1.33	92.92	
713	B1	砂礫層	河道4	有柄式尖頭器未製品	凝灰岩	(13.64)	8.21	3.94	614.93	
714	B1	砂礫層	河道4	扁平片刃石斧未製品	頁岩	12.10	6.84	3.00	296.94	石包丁未製品か
715	B1	砂礫層	河道4	両刃石斧未製品	頁岩	17.00	5.99	2.34	292.92	
716	B1	砂礫層	河道4	不明	頁岩	15.14	12.84	2.60	812.74	一部研磨痕あり
717	B1	砂礫層	河道4	敲石か	頁岩	16.70	3.03	2.39	220.79	わずかに敲打痕
718	B1	砂礫層	河道4	凹石	玄武岩	12.10	9.37	5.16	965.72	
719	B1	砂礫層	河道4	敲石	玄武岩	13.15	9.94	5.15	1099.48	
720	B1	砂礫層	河道4	凹石	安山岩	11.68	10.81	7.69	1253.62	複数面に敲打痕や磨痕等のある多面体
721	B1	砂礫層	河道4	敲石	安山岩	11.66	9.74	(3.95)	628.89	
722	B1	砂礫層	河道4	台石	安山岩	14.09	9.83	7.53	1421.31	大山デイサイトか 凹部に黒色物質付着か
723	B1	砂礫層	河道4	石皿	流紋岩	(11.35)	(9.40)	6.41	817.19	
724	B1	砂礫層	河道4	敲石か	安山岩	14.13	10.65	8.87	1910.57	ほぼ全面に敲打痕
725	B1	砂礫層	河道4	凹石	玄武岩	9.34	8.90	6.11	793.96	
726	B1	砂礫層	河道4	凹石	玄武岩	9.75	7.82	5.70	561.29	
727	B1	砂礫層	河道4	敲石	安山岩	9.32	7.27	4.14	384.98	
728	B1	砂礫層	河道4	凹石	安山岩	10.21	7.78	4.83	512.93	
729	B1	砂礫層	河道4	RF	凝灰岩	9.62	6.45	1.45	94.58	
730	B1	砂礫層	河道4	扁平片刃石斧未製品	頁岩	11.23	6.93	1.52	162.45	
731	B1	砂礫層	河道4B	両刃石斧未製品	凝灰岩	(7.94)	(6.68)	(3.92)	253.76	
732	B1	砂礫層	河道4B	抉入石器未製品	安山岩	13.42	10.00	2.60	450.29	
733	B1	砂礫層	河道4B	凹石	閃緑岩	11.32	10.34	6.51	1140.27	
734	B1	砂礫層	河道4B	敲石	花崗岩	12.60	12.37	8.50	1875.76	
735	B1	砂礫層	河道4B	両刃石斧	泥質片岩	(9.92)	(6.05)	(4.15)	379.69	基部～刃部片
736	B1	砂礫層	河道4B	敲石	玄武岩	12.28	7.63	4.43	686.70	
737	B1	砂礫層	河道4B	不明	安山岩	9.18	6.49	3.01	193.60	尖った先端部を作出しようとしている
738	B1	砂礫層	河道4B	不明(石包丁様石器)	頁岩	3.94	3.42	0.44	9.52	
739	A2(北)	1層	H3	石鏃未製品	黒曜石	2.26	1.47	0.25	0.77	
740	A2(北)	1層	H3	石鏃未製品	黒曜石	3.28	1.49	0.78	3.67	
741	A2(北)	1層	H3	RF	黒曜石	2.57	2.19	1.06	5.56	
742	A2(北)	1層	G3	石鏃	黒曜石	2.13	1.44	0.45	0.98	凹基式
743	A2(北)	1層	G3	石鏃(未製品か)	黒曜石	(1.50)	(1.25)	0.35	0.63	凹基式 基部一部欠損
744	A2(北)	1層	G3	石鏃	黒曜石	(1.42)	(1.19)	0.31	0.56	凹基式 先端部・基部一部欠損
745	A2(北)	1層	G3	石鏃未製品	黒曜石	2.66	1.45	0.66	2.38	
746	A2(北)	1層	G4	楔形石器	黒曜石	1.51	1.24	0.48	1.06	石鏃未製品か
747	A2(北)	1b層	H3	UF	黒曜石	2.74	2.31	1.11	7.92	
748	A2(北)	1b層	H3	RF	黒曜石	1.94	1.62	0.60	1.71	
749	A2(北)	1b層	G3	石鏃	黒曜石	1.70	(1.30)	0.40	1.11	凹基式 先端部欠損

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
750	A2(北)	1b層	G3	石鏃	黒曜石	(1.81)	(1.09)	0.31	0.58	基部一部欠損
751	A2(北)	1b層	G3	石鏃	黒曜石	2.17	0.79	0.47	0.70	
752	A2(北)	1b層	G4	石鏃	黒曜石	1.37	1.18	0.26	0.31	凹基式
753	A2(北)	1b層	G4	RF	黒曜石	2.17	1.17	0.41	1.03	
754	A2(北)	上層	土器溜まり10	RF	黒曜石	2.99	2.44	1.03	5.57	
755	A2(北)	下層	土器溜まり10	UF	黒曜石	2.53	2.21	0.74	4.25	
756	A2(北)	上層	SD09	石鏃	黒曜石	1.23	(1.17)	0.23	0.33	基部欠損
757	A2(北)	上層	SD09	石鏃未製品か	黒曜石	3.00	2.77	0.90	5.57	
758	A2(北)	上層	SD09	RF(スクレイパーか)	黒曜石	2.75	1.50	0.47	2.35	
759	A2(北)	上層	SD09	石鏃未製品	黒曜石	1.83	0.99	0.33	0.48	凸基式
760	A2(北)	上層	SD09	石鏃	黒曜石	1.77	1.28	0.45	0.79	
761	A2(北)	上層	SD09	RF	黒曜石	3.10	2.90	0.96	7.92	
762	A2(北)	上層	SD09	石鏃	黒曜石	(3.15)	(1.60)	0.49	1.68	凹基式 基部一部欠損
763	A2(北)	上層	SD09	石鏃	黒曜石	2.11	1.79	0.22	0.89	凹基式
764	A2(北)	上層	SD09	石鏃未製品	黒曜石	1.78	1.77	0.45	1.18	
765	A2(北)	上層	SD09	石鏃未製品	黒曜石	(1.31)	1.22	0.37	0.43	基部欠損
766	A2(北)	上層	SD09	石鏃	黒曜石	(1.89)	1.36	0.26	0.66	基部欠損
767	A2(北)	上層	SD09	UF	黒曜石	4.03	2.19	1.08	8.86	
768	A2(北)	上層	SD09	スクレイパー	黒曜石	3.70	2.96	1.12	12.54	
769	A2(北)	上層	SD09	石鏃未製品	黒曜石	2.59	1.63	0.51	1.86	
770	A2(北)	黒色土層	SD09	石鏃	黒曜石	2.67	1.68	0.35	1.26	凹基式
771	A2(北)	黒色土層	SD09	石鏃	黒曜石	1.52	1.30	0.29	0.38	凹基式
772	A2(北)	黒色土層	SD09	石鏃	黒曜石	(1.65)	(1.40)	0.43	0.72	凹基式 先端部・基部一部欠損
773	A2(北)	黒色土層	SD09	刺鏃	黒曜石	(1.54)	1.19	0.26	0.50	先端部欠損
774	A2(北)	黒色土層	SD09	UF	黒曜石	5.56	2.69	1.57	16.91	
775	A2(北)	黒色土層	SD09	スクレイパー	黒曜石	3.70	2.00	0.82	5.55	
776	A2(北)	黒色土層	SD09	削片	黒曜石	2.00	1.21	0.82	2.31	
777	A2(北)	黒色土層	SD09	スクレイパー	黒曜石	2.47	2.29	0.68	3.55	
778	A2(北)	黒色土層	SD09	原石	黒曜石	6.49	4.49	2.16	81.60	
779	A2(北)	黒色土層	SD09	石鏃	黒曜石	2.15	1.23	0.29	0.61	凹基式
780	A2(北)	黒色土層	SD09	石鏃未製品	黒曜石	2.16	1.31	0.54	1.62	
781	A2(北)	黒色土層	SD09	楔形石器	黒曜石	2.82	2.07	0.85	4.81	石鏃未製品か
782	A2(北)		土器溜まり11	石鏃	黒曜石	2.00	1.39	0.41	1.01	凹基式
783	A2(北)		土器溜まり11	石鏃	黒曜石	2.33	1.93	0.29	1.13	凹基式
784	A2(北)		土器溜まり11	石鏃	黒曜石	2.36	1.93	0.32	0.98	凹基式
785	A2(北)		土器溜まり11	石鏃	黒曜石	(3.48)	1.79	0.29	1.51	凹基式 先端部欠損
786	A2(北)	黒色粘土層	SD09	石鏃	黒曜石	1.23	1.19	0.34	0.45	平基式
787	A2(北)	黒色粘土層	SD09	石鏃	黒曜石	(1.95)	(1.77)	0.41	1.48	一部残存
788	A2(北)	黒色粘土層	SD09	石鏃未製品か	黒曜石	1.98	1.53	0.71	1.96	
789	A2(北)	黒色粘土層	SD09	RF	黒曜石	2.77	2.03	0.90	4.29	
790	A2(北)	下層	SD09	石鏃未製品	黒曜石	3.06	1.64	0.51	2.23	
791	A2(北)	下層	SD09	石鏃	黒曜石	1.89	1.65	0.33	0.72	凹基式
792	A2(北)	下層	SD09	スクレイパー	黒曜石	5.83	3.33	0.97	17.68	
793	A2(北)	下層	SD09	楔形石器	黒曜石	4.11	2.07	1.44	9.16	
794	A2(北)	オモカス層	SD09	楔形石器	黒曜石	3.13	(2.22)	0.78	5.54	
795	A2(北)	オモカス層	SD09	石鏃	黒曜石	(2.12)	(1.31)	0.39	0.88	基部欠損
796	A2(北)	オモカス層	SD09	大型剥片	黒曜石	8.36	5.67	3.65	101.54	
797	A2(北)	橙色砂質土層	SD09	スクレイパー	黒曜石	3.42	2.47	0.76	4.87	
798	A2(北)	橙色砂質土層	SD09	楔形石器	黒曜石	3.52	2.80	1.35	13.37	
799	A2(北)	排土		石鏃	黒曜石	(1.66)	(1.60)	3.85	1.01	凹基式 先端部・基部一部欠損
800	A2(北)	排土		石鏃未製品	黒曜石	1.69	1.63	0.54	1.71	凹基式
801	A2(北)	排土		石鏃未製品	黒曜石	2.08	2.05	0.47	1.82	
802	A2(北)	排土		石鏃	黒曜石	(2.10)	(0.94)	0.28	0.52	凹基式 基部一部欠損
803	A2(北)	排土		石鏃	黒曜石	1.55	1.44	0.28	0.69	一部残存
804	A2(北)	排土		石鏃	黒曜石	1.63	1.36	0.37	0.87	平基式
805	A2(北)	排土		石鏃か	黒曜石	(0.92)	0.86	0.32	0.28	基部のみ残存
806	A2(北)	排土		石鏃未製品	黒曜石	(2.53)	(2.04)	0.61	2.80	
807	A2(北)	排土		UF	黒曜石	1.52	1.33	0.31	0.69	
808	A2(北)	排土		RF(石鏃あるいは刺鏃か)	黒曜石	1.38	(1.37)	0.44	0.91	
809	A2(北)	下層	SD09	砥石	細粒花崗岩	(5.55)	(3.10)	(3.65)	50.24	円形の凹みあり
810	A2(北)	下層	SD09	環状石斧	玄武岩	(8.20)	(4.70)	3.10	142.03	第159図3番
811	A2(北)	下層	SD09	敲石	安山岩	14.74	(8.04)	5.16	558.60	台石か
812	A2(北)	下層	SD09	不明	凝灰岩	3.67	3.15	1.32	17.67	研磨痕あり
813	A2(北)	下層	SD09	石包丁	砂岩	(5.05)	(3.00)	(0.70)	14.09	
814	A2(北)	下層	SD09	石包丁か	頁岩	(3.00)	(2.58)	0.51	4.79	両面穿孔1箇所
815	A2(北)	下層	SD09	石包丁か	頁岩	(3.78)	(3.08)	0.65	12.82	両面穿孔1箇所
816	A2(北)	下層~黒色粘土層	SD09	石包丁未製品	流紋岩	(9.29)	(6.07)	1.12	63.74	
817	A2(北)	下層	SD09	石包丁未製品か	頁岩	12.42	5.33	2.31	190.21	
818	A2(北)	下層	SD09	砥石	砂岩	(14.21)	7.32	7.23	848.25	
819	A2(北)	下層	SD09	台石	凝灰岩	12.71	10.07	5.14	676.46	
820	A2(北)	オモカス層	SD09	両刃石斧転用敲石	片岩	(11.00)	(3.53)	3.33	239.86	基部~刃部片
821	A2(北)	オモカス層	SD09	砥石	細粒花崗岩	(9.81)	6.08	4.61	311.86	
822	A2(北)	下層	SD09	凹石	凝灰岩	(8.27)	(6.85)	4.52	285.27	
823	A2(北)	下層	SD09	台石	花崗岩	(13.73)	(13.05)	8.11	2580.00	
824	A2(北)	黒色土層	SD09	両刃石斧未製品	玄武岩	(13.47)	6.80	6.46	789.22	

付表

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
825	A2(北)	黒色土層	SD09	凹石	玄武岩	10.60	7.61	6.55	928.63	
826	A2(北)	黒色土層	SD09	台石	安山岩	(18.30)	(11.20)	(2.82)	582.97	
827	A2(北)	黒色土層	SD09	敲石	凝灰岩	(5.91)	(4.44)	(4.29)	142.78	
828	A2(北)	黒色土層	SD09	石鎌	流紋岩	13.10	7.65	2.31	293.48	刃部使用痕あり
829	A2(北)	黒色土層	SD09	石包丁	安山岩	(9.60)	(3.67)	(0.79)	35.14	
830	A2(北)	黒色土層	SD09	砥石	細粒花崗岩	(4.51)	4.12	(2.11)	39.25	
831	A2(北)	黒色土層	SD09	砥石	細粒花崗岩	(5.45)	4.10	1.47	36.19	
832	A2(北)	黒色土層	SD09	石包丁か	頁岩	(5.16)	(4.61)	0.49	19.97	
833	A2(北)	黒色土層	SD09	石包丁か	頁岩	(3.64)	(2.39)	(4.98)	3.97	穿孔1箇所あり
834	A2(北)	黒色土層	SD09	石包丁か	流紋岩	(3.39)	(3.29)	1.06	23.50	
835	A2(北)	黒色土層	SD09	石包丁か	砂岩	(5.73)	(2.50)	(0.78)	12.67	
836	A2(北)	黒色土層	SD09	石鎌	玄武岩	(4.57)	(3.97)	(1.02)	24.55	使用痕あり
837	A2(北)	上層	SD09	勾玉状石製品	凝灰岩	(3.38)	2.47	1.22	7.64	両面穿孔1箇所
838	A2(北)	上層	SD09	石包丁	凝灰岩	(6.90)	5.53	9.11	52.20	
839	A2(北)	上層	SD09	敲石	安山岩	6.52	5.42	2.93	105.14	
840	A2(北)	黒色粘土層	SD09	砥石	砂岩	7.26	(5.34)	(4.64)	218.09	
841	A2(北)	黒色粘土層	SD09	扁平片刃石斧未製品	玄武岩	9.36	5.37	2.17	188.90	
842	A2(北)	橙色砂質土層	SD09	大型石包丁	流紋岩	(10.54)	(8.52)	(1.85)	105.67	
843	A2(北)	砂礫層	SD09	石鎌	頁岩	15.80	8.64	2.45	314.39	基部に着柄痕か
844	A2(北)	黒色土層	SD09	石鋸か	砂岩	(6.21)	(6.18)	1.03	44.79	
845	A2(北)	黒色土層	SD09	石包丁	頁岩	(8.74)	(6.51)	0.87	68.63	
846	A2(北)	砂礫層	SD09	敲石	凝灰岩	8.93	6.27	5.24	209.86	
847	A2(北)	下層	SD21	施溝分割による剥片	凝灰岩	2.73	2.62	0.70	5.16	直交する2方向に施溝あり
848	A2(北)	上層	土器溜まり10	施溝分割による剥片か	頁岩	3.66	(1.97)	0.55	4.91	
849	A2(北)	上層	土器溜まり10	砥石	砂岩	3.54	(3.20)	1.88	32.15	
850	A2(北)	上層	土器溜まり10	敲石	花崗閃緑岩	(7.47)	(3.44)	(5.13)	189.85	
851	A2(北)	上層	土器溜まり10	砥石	砂岩	6.35	(4.57)	3.07	90.60	
852	A2(南)	上層	SD09	石鎌未製品	黒曜石	1.91	(1.64)	0.52	1.58	凹基式 基部残存
853	A2(南)	上層	SD09	楔形石器	黒曜石	3.06	1.94	0.67	4.11	
854	A2(南)	上層	SD09	RF	黒曜石	2.39	1.47	0.77	3.21	
855	A2(南)	上層	SD09	石鎌	黒曜石	2.00	(1.53)	0.29	0.66	凹基式 基部残存
856	A2(南)	上層	SD09	楔形石器	黒曜石	2.46	1.64	0.94	4.04	
857	A2(南)	上層	SD09	原石	黒曜石	4.52	3.00	1.93	30.06	
858	A2(南)	上層	SD09	石鎌	安山岩か	2.51	(1.13)	0.40	0.81	
859	A2(南)	オモカス層	SD09	石鎌未製品	黒曜石	(2.32)	(1.83)	0.51	1.92	
860	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	楔形石器	黒曜石	2.70	1.36	0.73	2.12	
861	A2(南)	オモカス層	SD09	石鎌	黒曜石	(1.62)	0.98	0.38	0.59	凹基式 先端部欠損
862	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	RF	黒曜石	3.48	2.00	1.25	7.39	
863	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	RF	黒曜石	1.47	1.15	0.23	0.38	
864	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	石鎌	黒曜石	(1.99)	(1.27)	0.32	0.62	凹基式 基端部一部欠損
865	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	石鎌	黒曜石	(2.37)	(1.60)	0.40	1.16	凹基式 基端部欠損
866	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	石鎌	黒曜石	(1.89)	(1.38)	0.38	0.78	基部欠損
867	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	石鎌	黒曜石	(1.78)	(1.10)	0.37	0.71	凹基式 基部一部欠損
868	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	UF	黒曜石	2.74	2.20	0.96	4.38	
869	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	楔形石器	黒曜石	2.43	2.20	1.43	7.85	
870	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	UF	黒曜石	6.06	1.83	1.70	13.65	
871	A2(南)	上層	SD09	石鎌	黒曜石	1.33	0.91	0.12	0.17	凹基式
872	A2(南)	上層	SD09	石鎌	黒曜石	1.92	1.32	0.43	0.86	凹基式
873	A2(南)	上層	SD09	尖頭器か	黒曜石	(2.47)	(1.85)	1.19	5.91	基部残存
874	A2(南)	上層	SD09	石鎌未製品	黒曜石	3.18	2.48	0.99	7.24	
875	A2(南)	上層	SD09	石錐	黒曜石	2.80	1.15	0.60	1.53	
876	A2(南)	上層	SD09	石鎌未製品か	黒曜石	2.83	1.78	0.86	4.03	
877	A2(南)	上層	SD09	UF	黒曜石	3.89	1.79	0.73	3.43	
878	A2(南)	下層	SD09	石鎌	黒曜石	1.88	1.40	0.33	0.60	凹基式
879	A2(南)	下層	SD09	UF	黒曜石	2.59	1.33	0.56	1.53	
880	A2(南)	下層	SD09	楔形石器	黒曜石	1.64	1.57	1.13	3.69	
881	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	石鎌	黒曜石	1.91	(1.32)	0.31	0.73	平基式 先端部・基部一部欠損
882	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	RF	黒曜石	2.45	2.02	0.81	3.86	
883	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	石鎌未製品か	黒曜石	2.14	1.88	0.79	2.63	
884	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	石鎌未製品か	黒曜石	3.12	2.28	0.77	4.34	
885	A2(南)	上層	SD10	石鎌未製品	黒曜石	1.64	1.35	0.45	0.76	
886	A2(南)	上層	SD10	石鎌未製品	黒曜石	1.84	1.42	0.36	0.89	
887	A2(南)	上層	SD10	石鎌未製品か	黒曜石	(1.90)	1.38	0.43	1.18	
888	A2(南)	上層	SD10	楔形石器	黒曜石	1.94	1.72	0.51	1.90	
889	A2(南)	上層	SD10	楔形石器	黒曜石	2.88	1.67	0.73	3.36	
890	A2(南)	上層	SD10	楔形石器	黒曜石	2.02	1.95	0.58	2.24	
891	A2(南)	上層	SD10	スクレイパー	黒曜石	5.16	2.60	1.39	17.51	
892	A2(南)	上層	SD10	UF	黒曜石	2.57	0.92	0.77	1.70	
893	A2(南)	下層	SD10	石鎌未製品	黒曜石	(1.99)	(1.62)	0.44	1.48	凹基式
894	A2(南)	下層	SD10	楔形石器	黒曜石	3.56	2.38	1.50	9.35	スクレイパーとしても使用
895	A2(南)	上層	SD10	UF	黒曜石	2.25	2.15	0.36	2.03	
896	A2(南)	上層	SD10	石核	黒曜石	6.19	3.96	1.80	35.94	
897	A2(南)	2層	E4	RF(石錐未製品か)	黒曜石	3.12	2.40	1.12	7.34	
898	A2(南)	2層	E4	剥片	黒曜石	3.43	2.43	0.68	4.18	
899	A2(南)	2層	F4	石鎌	黒曜石	2.81	(2.33)	0.51	2.26	凹基式 先端部欠損

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
900	A2(南)	2層	F4	石鏃	黒曜石	1.99	1.70	0.33	0.76	凹基式
901	A2(南)	2層	F4	石鏃未製品	黒曜石	1.99	1.24	0.38	0.76	凹基式
902	A2(南)	2層	F4	石鏃	黒曜石	2.12	1.27	0.33	0.86	凹基式
903	A2(南)	2層	F4	石鏃	黒曜石	(1.55)	(1.34)	0.33	0.46	凹基式 先端部・基部欠損
904	A2(南)	2層	F4	石鏃	黒曜石	1.75	1.42	0.31	0.60	凹基式
905	A2(南)	2層	F4	石鏃	黒曜石	1.57	(1.11)	0.33	0.62	凹基式 基部残存
906	A2(南)	2層	F4	石鏃未製品	黒曜石	1.77	1.29	0.25	0.50	凹基式
907	A2(南)	2層	F4	石鏃未製品	黒曜石	2.23	1.63	0.52	1.86	
908	A2(南)	2層	F4	石錐	黒曜石	2.19	1.22	0.44	0.90	
909	A2(南)	2層	F4	UF	黒曜石	2.39	1.63	0.69	2.32	
910	A2(南)	2層	F4	石錐	黒曜石	(2.96)	1.23	0.36	0.87	先端部欠損
911	A2(南)	排土		石鏃	黒曜石	(2.12)	(1.11)	0.36	0.59	基部欠損
912	A2(南)	排土		石鏃未製品	黒曜石	1.94	1.77	0.48	1.23	
913	A2(南)	排土		石鏃	黒曜石	1.72	(0.84)	0.24	0.39	凹基式 基部残存
914	A2(南)	排土		石鏃未製品	黒曜石	1.74	1.23	0.26	0.54	
915	A2(南)	排土		石錐	黒曜石	3.00	1.27	0.60	1.94	
916	A2(南)	排土		石錐	黒曜石	(3.35)	1.67	0.85	4.41	先端部欠損
917	A2(南)	1層	F3	スクレイパー	黒曜石	3.03	2.32	1.01	6.40	
918	A2(南)	1層	F4	石鏃	黒曜石	(1.60)	(0.84)	0.25	0.41	凹基式か 基部欠損
919	A2(南)	1層	F4	石鏃未製品	黒曜石	2.65	1.80	0.75	3.02	
920	A2(南)	1層	F4	RF	黒曜石	2.64	1.64	0.87	2.90	
921	A2(南)	1層	F4	楔形石器	黒曜石	3.07	2.18	1.03	5.64	
922	A2(南)	1層	F4	石核	黒曜石	6.58	4.99	3.03	92.07	
923	A2(南)	1層	F5	石核	黒曜石	4.52	4.23	1.84	35.96	
924	A2(南)	1層	E4	石鏃未製品	黒曜石	(1.61)	(0.95)	0.32	0.44	
925	A2(南)	1層	E4	石鏃未製品	黒曜石	2.54	(1.26)	0.48	1.39	
926	A2(南)	1層	E4	楔形石器	黒曜石	2.19	2.18	0.89	4.57	
927	A2(南)	埋土	SK04	楔形石器	碧玉	4.82	3.39	1.25	21.69	
928	A2(南)	2層	F4	楔形石器	碧玉	2.10	1.87	0.97	4.18	
929	A2(南)	オモカス層	SD09	剥片	碧玉	4.68	3.47	1.16	17.86	
930	A2(南)	オモカス層	SD09	敲石	瑪瑙	4.90	4.29	3.94	99.62	
931	A2(南)	オモカス層	SD09	砥石あるいは敲石か	流紋岩	(7.38)	5.80	4.34	273.18	島根半島産の柱状節理
932	A2(南)	オモカス層	SD09	大型石包丁未製品か	頁岩	12.30	10.65	1.95	336.72	
933	A2(南)	砂礫層	SD09	敲石	玄武岩	8.86	8.36	5.82	686.01	
934	A2(南)	砂礫層	SD09	敲石	凝灰岩	7.77	5.52	4.34	139.17	
935	A2(南)	オモカス層	SD09	楔形石器	凝灰岩	9.05	4.86	1.91	68.83	
936	A2(南)	オモカス層～砂礫層	SD09	不明	流紋岩	(21.50)	7.14	6.64	1724.89	島根半島産の柱状節理
937	A2(南)	下層～オモカス層	SD09	石包丁か	頁岩	(5.00)	(4.19)	0.71	19.38	
938	A2(南)	下層～オモカス層	SD09	砥石	砂岩	(13.01)	8.71	4.10	857.04	
939	A2(南)	下層～オモカス層	SD09	敲石	砂岩	(9.10)	(5.40)	(3.68)	213.56	被熱
940	A2(南)	下層～オモカス層	SD09	不明	流紋岩	22.40	6.75	4.26	968.78	島根半島産の柱状節理 敲打・研磨痕あり
941	A2(南)	下層	SD09	RF	頁岩	10.86	7.68	2.07	221.94	
942	A2(南)	下層	SD09	敲石	頁岩	(6.37)	3.34	2.13	84.96	
943	A2(南)	下層	SD09	石鏃用楔形石器か	頁岩	14.51	7.73	2.42	312.83	
944	A2(南)	下層	SD09	敲石	安山岩	14.86	8.68	5.50	1168.21	
945	A2(南)	下層	SD09	不明	流紋岩	(19.00)	6.85	4.79	932.21	島根半島産の柱状節理 長編の角に加工痕
946	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	石錐	凝灰岩	6.52	4.81	1.48	50.05	
947	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	不明	玄武岩	6.96	6.69	2.52	194.68	
948	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	紡錘車未製品か	頁岩	6.23	5.90	1.40	64.15	
949	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	RF	流紋岩	9.43	6.00	2.23	140.45	
950	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	凹石	凝灰岩	11.55	9.26	6.13	509.92	
951	A2(南)	橙色砂質土層	SD09	砥石	細粒花崗岩	8.31	(7.60)	3.84	271.69	
952	A2(南)	上層	SD09	両刃石斧	玄武岩か	(6.21)	(4.09)	(4.57)	110.21	基部片
953	A2(南)	上層	SD09	石錐か	砂岩	(2.01)	1.57	1.49	6.74	
954	A2(南)	上層	SD09	石包丁	砂岩	(7.51)	(6.02)	(0.80)	41.48	
955	A2(南)	上層	SD09	砥石	砂岩	(10.67)	(4.68)	2.04	98.39	
956	A2(南)	上層	SD09	柱状片刃石斧未製品	塩基性片岩	(12.16)	5.36	3.98	454.61	
957	A2(南)	上層	SD09	敲石	珉質岩	9.65	6.08	5.68	497.03	
958	A2(南)	上層	SD09	砥石	砂岩	6.39	5.69	4.66	242.81	
959	A2(南)	上層	SD10	砥石	細粒花崗岩	11.95	11.62	8.06	1287.96	
960	A2(南)	上層	SD10	両刃石斧	片岩	(9.50)	(5.47)	(3.91)	307.30	
961	A2(南)	上層	SD10	敲石	閃緑岩	12.68	9.53	6.76	1097.85	
962	A2(南)	下層	SD10	砥石	砂岩	(6.04)	(5.20)	(3.17)	86.79	
963	A2(南)	1層	F4	石製灯明皿か	流紋岩か	(4.11)	(3.46)	1.06	18.13	
964	A2(南)	2層	F4	扁平片刃石斧か	凝灰岩	(4.34)	(4.02)	1.15	23.03	
965	A2(南)	2層	F4	磨製石鏃	流紋岩	5.90	4.11	1.37	35.60	
966	A2(南)	2層	F4	敲石	頁岩	10.00	4.70	2.76	184.86	楔形石器としても使用
967	A2(南)	2層	E4	石核	碧玉	8.13	4.75	5.70	212.24	
968	A2(南)	埋土	SK04	両刃石斧	片岩	(3.17)	(1.58)	(2.52)	15.32	刃部片
969	A2(南)	埋土	SK04	砥石か	花崗岩	(7.34)	(4.75)	(2.42)	80.68	
970	A2(南)	埋土	P252	楔形石器	頁岩	7.38	4.48	1.29	54.83	
971	A1	埋土	SD06	敲石		5.94	5.67	6.24	266.22	
972	A1	埋土	SD06	楔形石器	黒曜石	1.95	(1.66)	0.67	2.51	
973	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(1.57)	1.39	0.26	0.45	凹基式 先端部欠損
974	A1	埋土	SD06	楔形石器	黒曜石	1.86	(1.68)	0.63	2.38	

付表

番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
975	A1	埋土	SD06	UF	黒曜石	3.27	1.41	1.00	3.91	削片を2次使用
976	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(1.41)	1.38	0.24	0.39	凹基式 先端部欠損
977	A1	埋土	SD06	石鏃未製品	黒曜石	1.27	(1.21)	0.25	0.43	凹基式 基部残存
978	A1	埋土	SD06	石鏃未製品	黒曜石	2.15	2.00	0.55	1.99	
979	A1	埋土	SD06	石鏃未製品	黒曜石	1.77	1.15	0.47	0.79	
980	A1	埋土	SD06	石鏃未製品	黒曜石	(1.55)	(1.42)	0.37	0.59	基部一部欠損
981	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(1.15)	1.09	0.31	0.32	凹基式 先端部欠損
982	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(1.45)	(1.13)	0.25	0.48	凹基式 基部残存
983	A1	埋土	SD06	石鏃未製品か	黒曜石	1.49	1.03	0.39	0.56	
984	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	1.24	(0.86)	0.22	0.24	凹基式 基部残存
985	A1	埋土	SD06	楔形石器	黒曜石	4.20	2.77	1.05	12.32	
986	A1	埋土	SD06	楔形石器	黒曜石	2.90	2.64	1.87	12.19	
987	A1	埋土	SD06	石鏃未製品か	黒曜石	(1.37)	(0.66)	0.25	0.24	
988	A1	埋土	SD06	石鏃未製品	黒曜石	1.76	1.35	0.65	1.31	基部残存
989	A1	埋土	SD06	石鏃	黒曜石	(2.00)	(1.22)	0.37	0.84	基部欠損
990	A1	埋土	SD06	石鏃未製品	黒曜石	(2.46)	1.52	0.33	1.15	凹基式 先端部欠損
991	A1	埋土	SD06	UF	黒曜石	2.83	2.66	0.84	6.05	
992	A1	埋土	SD06	UF	黒曜石	2.25	2.04	0.47	2.49	楔形石器由来の削片
993	A1	埋土	SD06	UF	黒曜石	(2.92)	1.38	0.44	1.27	
994	A1	埋土	SD06	石鏃未製品	黒曜石	4.21	2.44	0.87	7.91	
995	A1	埋土	SD06	スクレイパー	黒曜石	5.17	4.06	1.12	25.84	
996	A1	埋土	SD07	RF	黒曜石	2.41	1.90	0.69	2.98	
997	A1	埋土	SD07	石鏃未製品	黒曜石	(1.33)	(1.17)	0.31	0.42	基部欠損
998	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	(1.39)	(0.74)	(0.28)	0.28	基部欠損
999	A1	埋土	SD07	石鏃未製品	黒曜石	1.07	0.92	0.23	0.26	
1000	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	(1.99)	(1.35)	0.33	0.86	凹基式 先端部・基部欠損
1001	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	(1.79)	(0.89)	0.26	0.43	基部欠損
1002	A1	埋土	SD07	石鏃未製品	黒曜石	(1.83)	(1.45)	0.35	0.59	基部欠損
1003	A1	埋土	SD07	石鏃未製品	黒曜石	2.00	1.50	0.49	1.58	
1004	A1	埋土	SD07	UF	黒曜石	3.77	1.90	0.71	6.08	
1005	A1	埋土	SD07	楔形石器	黒曜石	2.46	1.27	1.22	4.64	
1006	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	2.69	0.82	0.56	1.16	
1007	A1	埋土	SD07	楔形石器	黒曜石	2.31	2.30	0.69	3.12	
1008	A1	埋土	SD07	石鏃未製品	黒曜石	3.18	2.53	0.92	6.82	
1009	A1	埋土	SD07	石鏃未製品	黒曜石	2.03	(1.66)	0.39	1.21	先端部欠損
1010	A1	埋土	SD07	UF	黒曜石	3.31	2.85	1.44	12.95	
1011	A1	埋土	SD07	石鏃未製品	黒曜石	1.72	1.61	0.72	1.68	
1012	A1	埋土	SD07	石鏃未製品	黒曜石	1.89	1.57	0.41	1.41	
1013	A1	埋土	SD07	削片	黒曜石	3.74	1.55	1.20	5.70	
1014	A1	埋土	SD07	石鏃	黒曜石	3.07	0.79	0.68	2.13	
1015	A1	埋土	SD07	削片	黒曜石	3.21	1.64	0.90	4.68	
1016	A1	埋土	SD07	石核	玉髄	12.93	12.83	9.05	1611.07	
1017	A1	埋土	SD09	UF	黒曜石	2.13	1.23	0.56	1.35	
1018	A1	埋土	SD09南	楔形石器	黒曜石	2.31	2.23	0.72	3.56	
1019	A1	埋土	SD09南	UF(楔形石器か)	黒曜石	2.08	1.68	0.91	2.60	
1020	A1	埋土	SD09南	石鏃未製品	黒曜石	1.99	1.91	0.74	2.44	
1021	A1	埋土	SD10	削片	黒曜石	2.96	2.81	0.94	7.68	
1022	A1	埋土	SD10	石核	黒曜石	6.14	3.12	1.91	35.11	
1023	A1	埋土	SD10	UF	黒曜石	2.38	1.66	0.29	1.00	
1024	A1	埋土	SD10	石鏃未製品	黒曜石	1.49	1.38	0.34	0.55	
1025	A1	埋土	SD10	RF	黒曜石	3.93	3.19	1.24	12.47	
1026	A1	埋土	SD10	石鏃未製品	黒曜石	2.36	1.95	0.44	1.23	
1027	A1	埋土	SD10	RF	黒曜石	1.96	1.88	0.43	1.27	
1028	A1	埋土	SD10	石鏃未製品か	黒曜石	2.17	2.11	0.69	2.91	
1029	A1	埋土	SD10	楔形石器	黒曜石	3.01	2.01	1.10	7.82	
1030	A1	埋土	SD10	石鏃未製品か	黒曜石	2.91	2.49	0.74	3.44	
1031	A1	埋土	SD10	楔形石器	黒曜石	2.79	1.26	0.61	2.23	
1032	A1	埋土	SD10	RF	黒曜石	(1.86)	(0.95)	0.38	0.63	未製品か
1033	A1	埋土	SD10	RF	黒曜石	3.22	(1.92)	0.70	4.09	未製品か
1034	A1	埋土	SD10	石鏃未製品	黒曜石	1.85	1.41	0.42	0.80	
1035	A1	埋土	SD10	石核	黒曜石	5.08	2.45	1.21	14.13	
1036	A1	埋土	SD10	UF	黒曜石	3.21	2.00	0.93	3.75	未製品か
1037	A1	埋土	SD10	石鏃か	黒曜石	(2.63)	(2.05)	0.93	6.05	未製品か
1038	A1	下層	SD10	RF	黒曜石	1.91	1.85	0.88	2.92	未製品か
1039	A1	上層	SD10	RF	黒曜石	1.93	1.58	0.43	1.08	未製品
1040	A1	上層	SD10	石鏃未製品	黒曜石	2.76	1.70	0.61	2.66	凹基式
1041	A1	上層	SD10	原石	瑪瑙か	6.04	5.37	4.37	180.77	
1042	A1	埋土	SD10	石核	玉髄	5.15	4.94	1.70	46.10	
1043	A1	埋土	SD10	石針か	玉髄か	1.81	0.72	0.55	0.79	
1044	A1	1層	E4	石鏃未製品	黒曜石	2.29	1.74	0.56	1.93	
1045	A1	1層	E4	楔形石器	黒曜石	2.00	1.57	0.85	3.00	
1046	A1	1層	E5	RF	黒曜石	1.86	1.30	0.37	0.84	
1047	A1	1層	E5	石核	黒曜石	5.47	4.81	1.41	32.31	
1048	A1	1層	E5	RF	黒曜石	4.06	2.00	1.18	11.63	
1049	A1	1層	E5	楔形石器	黒曜石	2.22	2.03	0.79	3.49	



番号	調査区	層位	出土地点	種別	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
1050	A1	1層	E5	石鏃未製品	黒曜石	2.09	(1.22)	0.49	1.35	基部か
1051	A1	1層	E5	石鏃未製品	黒曜石	1.84	1.45	0.68	1.48	
1052	A1	1層	E5	石鏃未製品	黒曜石	(2.71)	2.63	0.98	6.09	基部残存
1053	A1	1層	E5	石鏃未製品	黒曜石	2.78	2.00	0.76	3.47	
1054	A1	1層	E5	石鏃未製品	黒曜石	(1.35)	(1.22)	0.32	0.56	凹基式 先端部・基端部一部欠損
1055	A1	1層	E5	石鏃未製品	黒曜石	(1.31)	(0.77)	0.26	0.32	凹基式 基部一部残存
1056	A1	1層	E5	RF	黒曜石	4.27	2.16	1.14	10.35	
1057	A1	1層	E5	石鏃未製品	黒曜石	2.20	2.07	0.61	2.58	
1058	A1	1層	E6	楔形石器	黒曜石	2.10	2.01	0.74	3.53	未製品か
1059	A1	1層	F5	石鏃	黒曜石	1.56	(1.51)	0.54	1.25	
1060	A1	1層	F5	石鏃未製品か	黒曜石	(4.02)	1.50	0.84	5.40	
1061	A1	1層	F5	石鏃未製品	黒曜石	(1.77)	(0.65)	0.32	0.35	
1062	A1	1層	F5	石鏃未製品	黒曜石	2.10	1.57	0.45	1.02	
1063	A1	1層	F5	石鏃未製品	黒曜石	2.51	1.75	0.53	2.22	
1064	A1	1層	F5	石鏃未製品	黒曜石	3.31	2.59	0.86	7.06	
1065	A1	1層	F5	UF	黒曜石	(4.77)	2.36	1.71	16.44	
1066	A1	1層	F6	石鏃未製品か	黒曜石	2.17	1.99	0.67	2.99	
1067	A1	1層	F6	削片	黒曜石	3.31	1.32	1.28	5.20	
1068	A1	2層	F6	石鏃	黒曜石	1.71	1.36	0.40	0.84	凹基式
1069	A1	排土		石鏃未製品	黒曜石	2.01	1.85	0.56	1.67	
1070	A1	排土		楔形石器	黒曜石	2.22	1.46	1.06	3.27	
1071	A1		周溝	石槍状石器	黒曜石	4.82	1.82	1.93	16.02	原石から加工しているため断面に厚みあり
1072	A1		周溝	楔形石器	黒曜石	2.21	(1.71)	0.79	3.87	
1073	A1	埋土	SD06	スクレイパー	安山岩	(8.00)	(5.32)	(1.60)	76.08	使用痕あり
1074	A1	埋土	SD06	敲石	閃緑岩	12.31	10.05	5.52	975.25	
1075	A1	埋土	SD06	両刃石斧	片岩	(10.91)	(4.12)	(3.84)	224.13	
1076	A1	埋土	SD06	砥石か	流紋岩	(16.90)	7.20	5.75	1021.15	島根半島産の柱状節理 研磨痕あり
1077	A1	埋土	SD09南	石鏃未製品か	頁岩	11.74	7.61	2.00	238.72	
1078	A1	埋土	SD09南	砥石	砂岩	8.44	(6.81)	2.00	195.83	
1079	A1	埋土	SD09南	スクレイパー	頁岩	8.03	5.07	1.69	93.12	使用痕あり 石鏃再利用か
1080	A1	埋土	SD09南	両刃石斧未製品	砂岩	(10.45)	(8.43)	(5.51)	715.77	
1081	A1	埋土	SD09南	大型石包丁	流紋岩	15.50	(8.19)	1.89	293.63	刃部と側縁のみわずかに研磨
1082	A1	埋土	SD09南	不明	流紋岩	(10.67)	5.50	4.17	326.77	島根半島産の柱状節理
1083	A1	下層	SD10	石鏃	頁岩	11.75	7.12	2.15	162.15	
1084	A1	埋土	SD10	両刃石斧	片岩	(6.66)	(2.76)	(3.18)	40.41	刃部片
1085	A1	埋土	SD10	石包丁未製品か	安山岩	8.38	7.31	1.14	56.35	研磨痕あり
1086	A1	埋土	SD10	石鏃	安山岩	2.69	1.21	0.34	1.14	
1087	A1	埋土	SD07	敲石	流紋岩	9.36	5.82	4.95	435.37	
1088	A1	埋土	SD07	不明	流紋岩	11.67	5.86	5.37	651.38	島根半島産の柱状節理
1089	A1	埋土	SD07	凹石	安山岩	10.32	9.14	5.24	602.41	
1090	A1	埋土	SD07南	円礫(投弾か)	安山岩	4.37	4.08	2.90	67.33	
1091	A1	埋土	SD07	両刃石斧	頁岩	(6.47)	(6.20)	(1.15)	58.33	刃部片
1092	A1	埋土	SD07	円礫(投弾か)	安山岩	3.53	3.20	3.03	43.35	
1093	A1	埋土	SD07	砥石	砂岩	(6.70)	(5.42)	(3.64)	131.23	
1094	A1	埋土	SD07	敲石	安山岩	12.92	(4.10)	6.73	549.91	
1095	A1	埋土	SD07	不明	頁岩	2.55	2.00	3.47	2.71	楔形の有刃磨製石器
1096	A1	埋土	SD07	敲石	凝灰岩	11.44	8.72	3.57	349.65	
1097	A1	埋土	SD07	砥石	砂岩	8.80	(5.17)	4.42	216.31	
1098	A1	埋土	SD07	磨石	安山岩	(4.98)	3.92	2.22	66.36	わずかに敲打痕あり
1099	A1	埋土	SD07	砥石	凝灰岩	(5.07)	3.52	1.68	39.35	
1100	A1	埋土	SD07	台石	凝灰岩	(12.32)	(10.80)	(12.36)	1983.37	
1101	A1	1層	D5	石鏃	安山岩	18.30	9.56	3.19	587.78	
1102	A1	1層	E4	敲石	玄武岩	(9.72)	(4.72)	(5.01)	332.27	
1103	A1	1層	E4	両刃石斧	片岩	(13.14)	(4.66)	3.24	295.96	基部片
1104	A1	1層	E4	不明	安山岩	11.54	5.44	2.22	237.99	敲石の転用
1105	A1	1層	E5	石斧未製品	玄武岩	(7.62)	(5.19)	(4.99)	339.56	
1106	A1	1層	E5	敲石	凝灰岩	5.86	5.83	5.34	256.92	
1107	A1	1層	E5	砥石	砂岩	(14.09)	(7.33)	4.07	371.28	
1108	A1	1層	E5	両刃石斧	片岩	(10.52)	6.29	4.48	381.24	
1109	A1	1層	E5	不明	安山岩	10.86	5.55	1.84	175.18	両面わずかに研磨
1110	A1	1層	E5	石包丁	安山岩	(5.62)	(5.19)	0.91	33.51	
1111	A1	1層	F5	磨製石鏃未製品	頁岩	15.37	6.36	1.24	142.60	局部磨製石鏃か
1112	A1	1層	F5	スクレイパー	安山岩	3.95	2.44	0.45	3.53	
1113	A1	1層	F5	石鏃あるいは投弾	砂岩	4.65	1.58	1.42	10.87	
1114	A1	1層	E5	磨製石剣未製品	安山岩	18.90	(5.60)	1.70	227.02	第217図1番
1115	B1	4層	河道1	九州型石鏃	安山岩	(4.00)	(3.10)	(4.50)	38.76	第190図1番
1116	B1		河道4	緑色凝灰岩原石	凝灰岩	50.10	22.90	7.30	9632.00	
1117	B1	3b層	河道1	両刃石斧	片岩	(5.38)	(1.30)	(3.08)	32.84	基部片
1118	B1	排土		敲石	玄武岩	15.50	4.43	4.51	534.29	
1119	B1	排土		石斧	片岩	(10.55)	(5.07)	(3.92)	358.99	

※ RF:加工痕のある剥片、UF:使用痕のある剥片

※ 計測値の( )は現存値

表 16 古屋敷Ⅱ遺跡出土土器観察表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色 調	胎 土	焼成	備 考	
227	1	西区	黒色土層 赤色土層	加工段1	須恵器	無高台杯	1/3 以下	11.1	3.5	7.1	灰色	7.5Y5/1	密(1mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	
227	2	西区	赤色土層	加工段1	須恵器	皿	1/6 以下	13.3	2.6	7.5	外:オリーブ灰色 内:オリーブ灰色	2.5GY6/1 2.5GY5/1	密(2mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	
227	3	西区	赤色土層	加工段1	須恵器	平瓶	把手 小片				灰色	N5/	密(0.5mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
227	4	西区	埋土	加工段1	須恵器	壺	1/10 以上		4.2~		黄灰色	2.5Y4/1	密(2mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	
227	5	西区	埋土	加工段1	土師器	無高台杯	1/2 以上	10.9	4.2	6.5	橙色	5YR6/6	やや粗(0.5mm大 砂粒を微量含む)	良好	
227	6	西区	埋土	加工段1	土師器	無高台杯	1/2 以上	10.8	3.7	5.9	外:橙色 内:橙色	7.5YR7/6 5YR6/6	密(0.5mm以下 砂粒を少量含む)	良好	
227	7	西区	埋土	加工段1	土師器	無高台杯	ほぼ 完形	12.0	3.8	6.3	橙色	5YR7/6	密(0.5mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
227	8	西区	埋土	加工段1	土師器	無高台杯	1/2 以上	11.1	4.1	6.0	橙色	5YR6/6	密(0.5mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
227	9	西区	埋土	加工段1	土師器	無高台杯	1/2 以下	10.4	4.4	6.2	外:橙色 内:明赤褐色	5YR6/6 5YR5/6	やや粗(0.5mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
227	10	西区	赤色土層	加工段1	土師器	無高台杯	1/2 以下		2.5~	5.5	外:橙色 内:橙色	5YR6/6 5YR7/6	やや粗(砂粒を ほとんど含まない)	良好	
227	11	西区	赤色土層	加工段1	土師器	無高台杯	完形		1.9~	7.8	外:橙色 内:黒褐色	5YR6/6 10YR3/1	密(1mm以下 砂粒を少量含む)	良好	
227	12	西区	赤色土層	加工段1	土師器	高台杯	1/2 以下	13.3	6.7	6.3	外:橙色 内:橙色	5YR6/6 5YR6/8	密(砂粒を ほとんど含まない)	良好	
227	13	西区	埋土	加工段1	土師器	甕	1/2 以上	22.4	15.2~		浅黄褐色	7.5YR8/3	密(0.5~1mm 砂粒を少量含む)	良好	
227	14	西区	赤色土層	加工段1	土製品	土錘	完形	長: 5.1	幅: 1.9	孔径: 0.5	外:黒褐色 内:赤褐色	7.5YR3/2 5YR4/8	密(1mm以下 砂粒を少量含む)	良好	
228	1	西区	旧表土 表土 黒色土層	加工段1 下方	須恵器	無高台杯	1/4 以上	12.2	3.7	7.7	灰色	N7/1	密(2mm以下 黒色粒子を微量含む)	良好	
228	2	西区	表土	加工段1 下方	須恵器	無高台杯	1/4 以下	11.2	3.1	7.2	外:緑灰色 内:灰色	5G6/1 7.5Y6/1	密(2mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	
228	3	西区	黒色土層	加工段1 下方	須恵器	無高台杯	1/3 以下	11.8	3.8	7.5	灰色	7.5Y6/1	密(1mm大 白色粒子を少量含む)	良好	
228	4	西区	黒色土層	加工段1 下方	須恵器	高台杯	1/4 以下	15.3	5.2	10.4	外:灰色 内:灰色	N5/ N4/	密(1mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	
228	5	西区	黒色土層	加工段1 下方	須恵器	皿	1/4 以下	13.7	1.7	10.0	灰色	N4/	密(1mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	
228	6	西区	黒色土層	加工段1 下方	須恵器	底部	1/2 以下		2.6~		灰色	N6/	密(1mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	壺・瓶類 転用碗か
228	7	西区	黒色土層	加工段1 下方	須恵器	蓋	ツマミ部 のみ	2.5	1.0~		灰色	N6/	密(0.5mm 白色粒子を微量含む)	良好	
228	8	西区	赤色土層	加工段1 下方	土師器	無高台杯	1/2 以上	11.4	4.4	7.1	橙色	5YR6/8	やや粗(1mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
228	9	西区	赤色土層	加工段1 下方	土師器	坏	底部 欠	11.0	3.0~		赤褐色	5YR4/6	密(0.5mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
228	10	西区	旧表土	加工段1 下方	土師器	無高台杯	1/2 以下		3.5~	5.5	外:橙色 内:浅黄褐色	7.5YR7/6 7.5YR8/6	やや粗(2mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
228	11	西区	黒色土層	加工段1 下方	土師器	無高台杯	1/6 以下		2.9~	6.0	橙色	7.5YR7/6	密(0.5mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	
228	12	西区	旧表土	加工段1 下方	土師器	無高台杯	1/3 以下		2.3~	5.8	にぶい黄褐色	10YR7/4	密(1mm大 砂粒を微量含む)	良好	
228	13	西区	黒色土層	加工段1 下方	土製品	鞆羽口か	小片	長: 3.1~	幅: 4.8~		外:淡黄色 内:浅黄褐色	2.5Y8/3 7.5YR8/6	密(0.5mm大 砂粒を少量含む)	良好	被熱
230	1	西区	表土	加工段2	緑釉陶 器	皿か	1/2 以下		1.3~	5.6	にぶい黄色	2.5Y6/4	密(砂粒を ほとんど含まない)	良好	削出し高台 内外:施釉(高台:施釉なし) 底部内面:重ね焼きの痕跡か
230	2	西区	埋土	加工段2	土師器	無高台杯	ほぼ 完形	12.3	4.8	5.9	にぶい赤褐色	5YR5/4	粗(1mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
233	1	西区	埋土	加工段3	須恵器	平瓶	1/2 以上	(9.4)	16.1	8.7	灰白色	2.5Y7/1	密(3mm以下 砂粒を多量含む)	やや 不良	外:胴部1条沈線をもつ貼付突帯文 内外:自然釉 土器溜まり1.2と接合
233	2	西区	埋土	加工段3	須恵器	平瓶	1/3 以上		20.7~	13.2	外:にぶい橙 色 内:灰黄色	5YR6/4 2.5Y7/2	密(2mm以下 白色粒子を少量含む)	やや 不良	外:胴部1条沈線をもつ貼付突帯文 内外:自然釉 SB01.03・SD03・土器溜まり2と接合
233	3	西区	埋土	加工段3	須恵器	壺	1/2 以下		33.2~	5.2	外:にぶい黄褐色 内:明褐色	10YR7/2 7.5YR7/1	密(2mm以下 白色粒子を少量含む)	不良	外:頸部1条貼付突帯 カキマ SB01・土器溜まり1と接合
233	4	西区	埋土	加工段3	須恵器	甕	1/2 以上	8.2	30.0~		外:灰白色 内:明赤褐色	2.5Y8/2 5YR6/2	密(3mm以下 白色粒子を少量含む)	不良	SB01・土器溜まり1と接合
233	5	西区	覆土	加工段3	土師器	無高台杯	1/2 以下		2.9~	6.4	外:橙色 内:明赤褐色	5YR6/6 5YR5/6	密(0.5mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	灯明皿か
233	6	西区	埋土	加工段3 (SD2)	土師器	無高台杯	完形		3.7~	6.0	橙色	7.5YR6/6	密(0.5mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
233	7	西区	埋土	加工段3	土師器	高台杯	1/2 以上		4.0~	7.2	黄褐色	10YR8/6	密(0.5~1.5mm 砂粒を少量含む)	良好	内外:赤彩
233	8	西区	覆土	加工段3	土師器	高台杯	1/2 以下		4.1~	3.0	橙色	7.5YR7/6	密(2mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	内外:赤彩
233	9	西区	覆土	加工段3 加工段4	土師器	製塩土器	1/2 以上		8.8~		橙色	7.5YR6/6	密(1mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
235	1	西区		土器溜まり 1.2	須恵器	無高台杯	1/4 以下	10.4	3.7	6.8	灰色	N4/	密(2mm大 白色粒子を少量含む)	良好	
235	2	西区	黒色土層	土器溜まり 2	須恵器	無高台杯	1/2 以下	12.0	3.7	7.3	灰色	N5/	密(3mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	漆付着か SB01下方と接合
235	3	西区		土器溜まり 2	須恵器	無高台杯	1/2 以下	11.0	3.7	7.5	灰色	7.5Y5/1	密(1mm以下 白色粒子を含む)	良好	SB01下方と接合

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	器種	遺存	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色 調	胎 土	焼成	備 考	
235	4	西区	黒色土層	土器溜まり 2	須恵器	無高台	1/3 以下	11.3	3.9	7.5	灰色	N5/	密(3mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	内外;煤付着 SB01下方と接合
235	5	西区		土器溜まり 2	須恵器	無高台	完形	11.8	4.5	7.5	灰色	N6/	密(3mm以下 白色粒子を多量含む)	良好	外;底部墨書「門」
235	6	西区	旧表土	土器溜まり 1	須恵器	無高台	1/2 以下	11.6	4.2	6.7	灰色	N6/1	密(4mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	SB01下方と接合
235	7	西区	表土 赤色土	土器溜まり 2	須恵器	皿	1/2 以下	12.8	2.4	10.0	灰色	N4/	密(1mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	SB01と接合
235	8	西区		土器溜まり 1.2	須恵器	高台	1/4 以下	15.8	6.4	8.6	灰色	N5/	密(1mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	
235	9	西区		土器溜まり 2	須恵器	高台	1/4 以上	15.8	6.8	8.6	外;灰色 内;灰色	7.5Y5/1 N5/	密(2mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	
235	10	西区		土器溜まり 2	須恵器	高台	1/4 以下	14.3	6.1	8.4	灰色	N5/	密(3mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	SB01と接合
235	11	西区		土器溜まり 2	須恵器	高台	1/6 以下	(13.0)	5.7	(7.0)	灰色	N6/	密(2mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	
235	12	西区		土器溜まり 2	須恵器	高台	1/4 以下	13.4	4.9~		外;灰色 内;灰白色	N5/ 7.5Y7/1	密(3mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	
235	13	西区	表土 覆土 黒色土 赤色土	土器溜まり 2	須恵器	高台	1/6 以上	14.8	6.8	8.0	灰色	N5/	密(2mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	SB01.SB01下方と接合
235	14	西区		土器溜まり 2	須恵器	蓋	1/4 以下	13.4	1.7	6.8	灰色	N5/	密(3mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	SB01下方と接合
236	1	西区	表土 赤色土	土器溜まり 1	須恵器	平瓶	1/2 以下	29.4~	14.2		外;褐灰色 内;黄灰色	10YR5/1 2.5Y6/1	密(2mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	外;胴部1条沈線を持つ貼付突帯 SB01と接合
236	2	西区	表土 赤色土	土器溜まり 1.2	須恵器	平瓶	ほぼ 完形	20.5~	14.0		褐灰色	10YR6/1	密(4mm以下 砂粒を少量含む)	やや 不良	外;胴部1条貼付突帯, 1孔
236	3	西区	表土 赤色土	土器溜まり 2	須恵器	平瓶	頸部 のみ	7.5~			灰色	N4/	密(1mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	
236	4	西区		土器溜まり 2	須恵器	瓶壺類	1/6 以下	6.2~			外;褐灰色 内;褐灰色	10YR6/1 7.5YR6/1	密(2mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
236	5	西区		土器溜まり	須恵器	壺	ほぼ 完形	12.9	24.6	12.2	灰色	7.5Y6/1	密(3mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	
236	6	西区		土器溜まり 1	須恵器	壺	1/4 以下	8.5~	9.0		外;赤灰色 内;灰白色	2.5Y6/1 2.5Y7/1	密(2mm以下 砂粒を少量含む)	不良	
236	7	西区	表土 赤色土		須恵器	壺	底部 のみ	6.3~	15.4		外;灰白色 内;灰白色	10YR8/1 5Y7/1	密(2mm以下 白色粒子を少量含む)	不良	
237	1	西区	黒色土層	土器溜まり 1	須恵器	甕	ほぼ 完形	19.6	45.1~		外;灰褐色 内;灰黄褐色	7.5YR5/3 10YR6/2	密(2mm以下 砂粒を微量含む)	やや 不良	外;カキメ SB01赤色土.SB01下方黒色土等と接合
237	2	西区	黒色土層	土器溜まり 1.2	須恵器	甕	1/2 以下	46.9~			外;灰色 内;灰色	N4/ N6/	密(1mm以下 砂粒を少量含む)	良好	SB01黒色土.SB01下方,Pit54等 と接合
237	3	西区		土器溜まり 1	土師器	高台	底部 のみ	2.9~	8.0		浅黄橙色	7.5YR8/4	やや粗(1.5mm以下 砂粒を少量含む)	良好	
237	4	西区		土器溜まり 1	土師器	甕	1/6 以下	(16.6)	3.1~		外;灰黄褐色 内;にぶい褐色	10YR6/2 7.5YR6/3	密(2mm以下 砂粒を少量含む)	良好	
237	5	西区		土器溜まり 2	土師器	甕	1/8 以下	(31.1)	9.7~		外;灰白色 内;にぶい黄褐色	10YR8/2 10YR7/2	密(2mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
237	6	西区		土器溜まり 2	土師器	甕	口縁部 のみ	(33.2)	2.0~		外;暗赤褐色 内;灰褐色	5YR3/2 5YR4/2	密(4mm以下 砂粒を多量含む)	良好	
237	7	西区		土器溜まり 2	土製品	羽口状 土製品	1/4 以下				にぶい橙色	7.5YR7/4	やや粗(2mm大 砂粒を微量含む)	良好	
241	1	西区	表土		須恵器	無高台	1/2 以下	11.8	3.3	7.6	外;灰色 内;灰色	N4/ N5/	密(2mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	
241	2	西区	表土		須恵器	無高台	1/4 以下	11.8	4.0	7.0	黄灰色	2.5Y6/1	密(1mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	
241	3	西区	表土		須恵器	蓋	1/6 以下	(15.8)	1.7~		灰色	N6/	密(1mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	内;煤付着
241	4	西区	表土		須恵器	鉢	1/12 以下	(27.4)	4.4~		外;灰色 内;灰色	N5/ N6/	密(1mm以下 白色粒子を微量含む)	良好	
241	5	西区	表土		土師器	無高台	1/5 以下	12.2	3.8	6.0	外;にぶい褐色 内;にぶい褐色	7.5YR6/3 7.5YR6/4	密(2mm以下 砂粒を微量含む)	良好	
241	6	西区	表土		土師器	高台	底部 完形	3.5~	9.5		橙色	7.5YR7/6	密(0.5mm以下 白色粒子を少量含む)	良好	内外;赤彩
241	7	西区	表土		土師器	高台	1/2 以上	3.7~	7.8		浅黄橙色	7.5YR8/4	密(2mm以下 砂粒を少量含む)	良好	
241	8	西区	表土		土師器	甕	1/3 以下	30.4	4.8~		外;にぶい褐色 内;褐色	7.5YR6/4 7.5YR6/6	粗(4mm以下 砂粒を少量含む)	良好	

表 17 古屋敷Ⅱ遺跡出土石器観察表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
228	14	西区	黒色土層	SB01下方	石鏃	1.9	1.4	0.3	0.69	凹基式
233	10	西区	覆土	SB04	磨石	8.3	8.0	4.5	351.00	1面研磨
241	9	西区	表土?		磨石	7.6	6.8	4.5	345.00	2面研磨
241	10	西区	排土		砥石	(7.9)	(3.9)	(1.9)	92.05	全面研磨
241	11	西区	排土		石鏃	2.5	1.2	0.5	1.10	

表 18 古屋敷Ⅱ遺跡出土金属器観察表

Fig	番号	調査区	層位	出土地点	種別	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考
237	8	西区		土器溜まり2	火打ち金	(5.8)	(2.1)	(0.3)	
237	9	西区		土器溜まり1	不明鉄器	(7.8)	(1.2)	(0.4)	刀子か
237	10	西区		土器溜まり1	釘か	(7.4)	(1.0)	(0.5)	
237	11	西区		土器溜まり1	刀子	(3.0)	(2.8)	(0.3)	
237	12	西区		土器溜まり1	不明	(2.3)	(1.3)	(0.1)	

表 19 西川津遺跡(鶴場地区) A-2区(南) SD10 礫溜まり出土礫計測表

取上番号	重量(kg)	備考	取上番号	重量(kg)	備考	取上番号	重量(kg)	備考	取上番号	重量(kg)	備考
1	5.35	被熱	29	9.40	被熱か?	57	1.80	被熱か?	85	—	
2	4.90	被熱	30	6.10		58	1.20		86	0.40	被熱
3	0.40		31	6.80	被熱	59	4.80		87	1.80	被熱
4	1.20		32	0.60	被熱か?	60	2.40	被熱	88	6.50	被熱
5	1.60		33	6.90	被熱	61	4.10	被熱	89	2.20	被熱
6	1.10		34	4.10	被熱	62	1.00	被熱か?	90	0.20	石器か?
7	1.90	被熱か?	35	2.30	被熱か?	63	4.00	被熱	91	0.20	被熱
8	20.30	被熱	36	2.60	被熱	64	1.00	被熱	92	0.25	
9	3.10	被熱	37	0.90	被熱	65	0.50		93	3.00	被熱
10	1.50		38	4.50	被熱	66	2.20	被熱	94	0.20	被熱
11	0.20		39	0.60	被熱	67	4.60	被熱	95	1.60	被熱
12	6.50		40	1.20	石器	68	3.20		96	0.10	
13	0.20	被熱	41	2.50	被熱	69	1.80	被熱	97	4.30	
14	0.40		42	6.40	被熱	70	1.10	被熱	98	0.60	被熱か?
15	0.40		43	4.40	被熱	71	4.50	被熱	99	0.08	
16	8.60		44	0.30	被熱か?	72	5.50	被熱	100	0.75	被熱 101,103と接合
17	4.50	被熱	45	0.50	被熱	73	3.00	被熱	101	0.40	被熱か? 100,103と接合
18	0.20	被熱か?	46	3.50	被熱か?	74	—		102	2.50	被熱
19	3.30		47	1.00		75	4.10	被熱	103	0.50	被熱 100,101と接合
20	5.60		48	1.00	被熱	76	5.70	被熱	104	2.90	
21	2.10	被熱か?	49	0.20	被熱	77	3.10	被熱	105	1.90	被熱か?
22	11.90		50	5.00	被熱	78	6.30	被熱	106	0.30	
23	8.20		51	9.10	被熱	79	2.80	被熱	107	4.30	被熱か?
24	4.90		52	1.70	被熱	80	1.80	被熱	108	2.60	被熱
25	3.30	被熱か?	53	6.10	被熱	81	1.60	被熱	109	3.15	被熱か?
26	2.50		54	—	土器	82	0.60		110	3.42	被熱
27	0.10		55	0.60		83	1.10				
28	19.50		56	4.80	被熱	84	2.80	被熱			

表 20 西川津遺跡(鶴場地区) A-1区 SD10 礫溜まり出土礫計測表

取上 番号	重量 (kg)	備 考	取上 番号	重量 (kg)	備 考	取上 番号	重量 (kg)	備 考	取上 番号	重量 (kg)	備 考
1	6.50	被熱?	27	6.30	被熱?	53	1.00	被熱	79	8.90	被熱
2	0.50		28	4.60	被熱?	54	3.50	被熱	80	4.20	被熱?
3	5.20	被熱?	29	0.52	被熱	55	2.50		81	1.20	
4	4.50	被熱	30	3.00		56	9.50	被熱?	82	0.34	
5	8.00	被熱?	31	0.74	被熱?	57	3.30	被熱	83	5.90	被熱
6	4.00	被熱?	32	3.00	被熱	58	3.00	被熱	84	7.00	
7	3.00		33	1.00	被熱?	59	2.30	被熱	85	3.50	被熱?
8	0.37		34	3.00	被熱?	60	4.40	被熱?	86	3.80	
9	1.40		35	4.50		61	1.00		87	2.30	被熱
10	4.10	被熱?	36	0.33	被熱?	62	4.00	被熱	88	2.50	被熱?
11	2.50	被熱?	37	—	41と接合	63	1.80	被熱 図版183	89	4.30	被熱?
12	4.50	被熱?	38	1.00		64	4.50	被熱	90	—	
13	4.70		39	0.22		65	5.54		91	3.30	
14	0.22		40	0.52		66	2.10		92	4.30	
15	0.34	被熱?	41	0.70	被熱?	67	7.30	被熱 図版183	仮1	2.70	
16	2.00		42	4.90	被熱?	68	0.28	被熱	仮2	6.50	被熱
17	3.00	被熱?	43	2.10	被熱 黒曜石有り	69	2.50	被熱	仮3	3.50	被熱
18	1.20	被熱?	44	3.00	被熱	70	7.40	被熱?	仮4	1.90	被熱?
19	2.50	被熱?	45	2.50	被熱	71	5.80	被熱?	仮5	2.90	被熱?
20	1.30		46	1.30	被熱?	72	7.00	被熱	仮6	2.10	被熱?
21	1.90		47	2.17	被熱?	73	3.70		仮7	4.10	被熱?
22	0.18		48	3.40	被熱?	74	4.20	被熱	仮8	5.00	被熱?
23	1.80	被熱?	49	3.10		75	3.50	被熱?	仮9	4.50	
24	4.10		50	4.00	被熱?	76	7.50	被熱	仮10	4.00	被熱
25	4.50	被熱	51	2.50	被熱?	77	3.00	被熱			
26	6.70		52	0.66	被熱?	78	5.10	被熱?			

表 21 西川津遺跡(鶴場地区) 出土弥生土器・土師器 計量表

調査区	遺構名	層 位	重量(g)														計	
			I	I・II	II	III	III・IV	IV	IV・V	III~V	V	古墳	古代	古代・ 中世	中世	中近世		不明
	SD10		276922	0	0	0	258	0	0	648	1050	0	0	0	0	0	14744	293622
B1	SX01		7027	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15200	22227
B1	SD15		6621	0	0	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	114	6767
A2(南)	SK06		12362	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12362
A1	SD06		47250	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4257	51528
B1	SD13		38321	0	0	0	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	44876	83228
	SD09	砂礫層	22508	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	22518
	SD09	オモカス層	118747	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2562	121309
	SD09	下層	101335	43	135	2005	13854	280	0	0	0	0	0	0	0	0	5261	122913
	SD09	橙色砂質土層	87712	0	0	360	811	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1579	90462
	SD09	黒色粘土層	1307	0	34	4076	7165	384	0	0	0	0	0	0	0	0	654	13620
	SD09	黒色土層	24233	0	34	6092	42202	1234	0	55	0	0	0	0	0	0	652	74502
	SD09	上層	88444	0	100	2871	34553	631	0	161	0	0	0	0	0	0	5704	132464
	SD09	その他	72405	0	0	625	3778	531	0	37	270	0	0	0	0	0	707	78353
B1	河道4B		10801	0	371	967	0	0	0	2347	14	0	0	0	0	0	0	14500
B1	河道4		30236	0	190	898	1039	242	0	9083	349	387	0	0	0	0	205	42629
B1	河道1	4層	21817	0	8	1508	47	4558	570	36666	11406	286	0	0	0	0	470	77336
B1	河道1	砂礫層・3d層	128392	0	574	1962	647	257	0	42484	1729	1865	88	72	36	0	381	178487
B1	河道1	3c層	5648	0	0	0	0	36	0	3339	132	66	0	25	0	0	0	9246
B1	河道1	3b層	7158	0	0	67	0	488	0	5879	1629	228	0	0	5	250	38	15742
B1	河道1	3層	17659	0	0	419	0	424	0	24778	2978	132	0	0	0	0	194	46584
B1	河道1	2層	164	0	0	54	0	0	0	0	127	0	0	0	0	0	76	421
B1	河道1	3層~4層	929	0	0	46	0	0	0	1195	273	0	0	0	0	0	0	2443
B1	河道2	砂礫層・3d層	21174	0	206	342	0	86	0	4496	274	1246	265	0	98	48	0	28235
B1	河道2	シルト層・3b層	1679	0	0	12	0	66	0	284	0	145	0	0	0	0	0	2186
A1	SD07		61317	0	0	2758	4445	1737	117	0	102190	0	0	0	0	0	26683	199247
A1	その他		21176	0	0	63	0	164	0	167	19179	0	0	0	0	0	124678	165427
A2(北)	その他		9381	0	9	241	5961	182	0	0	0	0	0	0	0	0	1686	17460
A2(南)	その他		51667	0	11	1191	16900	912	0	0	48	0	0	0	0	0	5669	76398
B1	その他		45640	0	63	1475	1460	1155	0	30289	6846	1773	21	243	39	372	14933	104309
	計		1340032	43	1756	28032	133152	13367	687	161908	148525	6128	374	340	178	670	271333	2106525



表 22 西川津遺跡(鶴場地区) 出土須恵器 計量表

遺構名	層位	重量(g)								計
		KT1	KK2	KS3	K I 4	K II 5	K6	K7	F8	
河道4	砂礫層	0	274	60	344	0	208	20	0	906
河道4B	砂礫層	0	0	0	0	0	188	0	8	196
河道1	砂礫層	0	0	0	70	0	27	348	0	445
河道1	3d層	44	887	252	1362	326	2650	1142	588	7251
河道1	3c層	0	386	128	196	58	230	250	21	1269
河道1	3b層	0	23	0	36	20	216	8	0	303
河道1	3層	4	372	0	56	18	0	0	0	450
河道2	砂礫層	0	482	332	1007	216	2170	587	180	4974
河道2	3b層	0	34	10	22	7	19	0	0	92
その他		12	900	127	675	164	1935	412	619	4844
計		60	3358	909	3768	809	7643	2767	1416	20730

表 23 西川津遺跡(鶴場地区) 出土陶磁器・瓦 計量表

遺構名	層位	陶器								磁器				瓦質土器				瓦		計		
		中世		近世		近代		不明		中世		近世		中世		不明		近世		破片数	重量(g)	
		破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)			
河道1	砂礫層	1	102	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	102
河道1	3d層	2	310	0	0	0	0	2	77	2	29	0	0	2	68	0	0	0	0	0	8	484
河道1	3c層	1	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	28
河道1	3b層	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	610	2	610
河道1	3層	0	0	3	29	0	0	0	0	1	3	4	23	0	0	0	0	1	37	9	92	
河道2	砂礫層	1	136	5	292	1	3	0	0	3	43	2	122	1	46	1	87	3	272	17	1001	
河道2	3b層	0	0	1	65	0	0	0	0	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	2	71	
その他		1	74	7	145	0	0	1	17	1	11	10	22	1	37	0	0	0	0	21	306	
計		6	650	16	531	1	3	3	94	7	86	17	173	4	151	1	87	6	919	61	2694	

表 24 西川津遺跡(鶴場地区) 大溝等出土甕形土器分類表

調査区	遺構名	土層	口縁部形態		口縁部文様		体部文様														不明			
			如意形	逆L字	刻目	なし	無文	段	沈線										沈線+刺突					
									1条	2条	3条	4条	5条	6条	7条	8条	9条	10条	A	B		C	その他	
	SD10	上層	103	2	25	80	56	2	19	6	5	3	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	9
	SD10	下層	39	0	12	27	15	1	5	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	10
	SD10	埋土	187	0	23	164	119	4	26	16	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
	SD10	計	329	2	60	271	190	7	50	27	7	3	1	0	0	0	0	0	4	3	0	0	39	
	B1	SX01	上層	19	0	0	19	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	11
	B1	SX01	下層	15	0	4	11	6	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5
	B1	SX01	計	34	0	4	30	12	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	16	
	B1	SD15	窓	2	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B1	SD15	上層	7	0	3	4	3	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B1	SD15	下層	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	B1	SD15	計	10	0	4	6	6	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	A1	SD06	計	67	5	4	68	31	0	0	3	5	8	5	3	1	0	1	0	0	0	2	0	13
	B1	SD13	最上層	27	0	0	27	18	0	1	0	1	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	B1	SD13	上層	146	3	17	132	61	0	5	2	12	13	6	2	0	0	0	0	0	0	2	1	45
	B1	SD13	下層	5	0	2	3	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	B1	SD13	計	178	3	19	162	80	0	7	2	13	14	8	5	0	0	0	0	0	0	2	1	49
	SD09	砂礫層	23	0	7	16	11	1	7	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	SD09	オモカス層	134	0	28	106	70	8	23	11	4	2	2	0	0	0	0	0	3	1	0	0	2	8
	SD09	下層	154	8	28	134	74	1	18	13	2	9	8	2	1	1	1	2	1	3	1	0	0	25
	SD09	計	311	8	63	256	155	10	48	26	7	11	10	2	1	1	1	2	5	4	1	2	33	
	合計		929	18	154	793	474	18	106	60	33	37	25	11	2	1	2	2	11	7	5	3	150	

表 25 古屋敷Ⅱ遺跡出土須恵器計量表

遺構名	層位	器種	破片数	個体数		重量 (g)	遺構名	層位	器種	破片数	個体数		重量 (g)
				口縁	底部						口縁	底部	
加工段1		無高台坏A	1	0.05		4	加工段1		蓋	2	0.25		13
土器溜まり2		無高台坏A	3	0.14	0.25	38	土器溜まり2		蓋	1	0.24		58
加工段1下方		無高台坏A	2	0.38	0.42	48	加工段1下方	黒色土	蓋	2	0.46		54
	赤色土	無高台坏A	1	0.08		9		赤色土	蓋	1	0.08		4
	表土	無高台坏A	1	0.07		4		表土	蓋	1	0.14		19
	計		8	0.72	0.67	103	不明		蓋	2	0.13		6
加工段1		無高台坏B	15	0.25	2.69	184	計			9	1.31		154
加工段3		無高台坏B	5		0.67	26	上方斜面	表土	鉢	2	0.24		58
土器溜まり1		無高台坏B	15	1.03	4.04	361	加工段1		平瓶	3			69
土器溜まり2		無高台坏B	31	2.38	7.43	780	土器溜まり1		平瓶	66	0.38	2.92	5700
SD03		無高台坏B	2		0.21	9	土器溜まり2		平瓶	1			190
P48		無高台坏B	1	0.04	0.04	8	加工段1下方	赤色土	平瓶	1			14
P59		無高台坏B	1		0.17	12		赤色土	平瓶	4			86
加工段1西		無高台坏B	5		2.08	108		表土	平瓶	6			2
加工段1下方		無高台坏B	20	0.42	4.59	390	不明		平瓶	1			25
追加トレンチ		無高台坏B	1		0.13	15	計			82	0.38	2.92	6086
	赤色土	無高台坏B	12	0.10	2.08	123	固体識別			8			
	表土	無高台坏B	23	0.75	3.92	300	土器溜まり1		壺	93	0.91	4.09	5231
	排土	無高台坏B	3		0.46	25	加工段1下方		壺	7		0.21	590
不明		無高台坏B	13		1.88	86		黒色土	壺	1	0.08		4
計			147	4.97	30.37	2427		表土	壺	1	0.10		5
加工段1		高台坏	8	0.31	2.54	340	不明		壺	2	0.14		7
土器溜まり1		高台坏	2	0.48	0.13	86	計			104	1.23	4.30	5837
土器溜まり2		高台坏	12	1.47	3.31	630	固体識別			7			
加工段1下方		高台坏	11		1.83	174	加工段1		瓶・壺類	14		0.88	419
	赤色土	高台坏	2		0.63	32	加工段2		瓶・壺類	3		0.42	58
	表土	高台坏	14		4.50	457	加工段3		瓶・壺類	5			138
不明		高台坏	10	0.25	1.04	115	土器溜まり1		瓶・壺類	7		0.08	102
計			59	2.51	13.99	1834	土器溜まり2		瓶・壺類	8	0.04	0.29	178
加工段1		坏	128	2.99		394	P11		瓶・壺類	2			
加工段2		坏	4	0.15		15	上方斜面	表土	瓶・壺類	2			25
加工段3	覆土	坏	2	0.12		7	加工段1西		瓶・壺類	2			9
土器溜まり1		坏	64	1.29		219	加工段1下方		瓶・壺類	9		0.64	275
土器溜まり2		坏	52	1.48		318	追加トレンチ	表土	瓶・壺類	2			138
SD03		坏	12			11		赤色土	瓶・壺類	27		0.42	363
P11		坏	1			5		覆土	瓶・壺類	1			4
P54		坏	2	0.08		7		表土	瓶・壺類	82		0.63	1173
P56		坏	1	0.07		3		排土	瓶・壺類	1			12
上方斜面		坏	2	0.07		9	不明		瓶・壺類	19			119
加工段1西		坏	23	0.60		111	計			184	0.04	3.36	3013
加工段1下方		坏	67	1.48		268	加工段1		甕	30			545
追加トレンチ		坏	5	0.18		24	加工段2	覆土	甕	1			25
	赤色土	坏	41	0.52		151	加工段3		甕	5			111
	覆土	坏	1			3	土器溜まり1		甕	162	1.29		14562
	表土	坏	45	1.41		413	土器溜まり2		甕	14			687
	排土	坏	10	0.19		33	P23		甕	1			4
不明		坏	156	0.95		317	P54		甕	1			9
計			616	11.60		2308	上方斜面		甕	2			26
加工段1		皿	7	0.83	0.42	64	加工段1西		甕	2			
土器溜まり1		皿	3	0.11	1.54	125	加工段1下方		甕	22	0.29		201
土器溜まり2		皿	3	0.67	0.58	103		赤色土	甕	33			411
加工段1下方		皿	7	0.43	1.18	136		表土	甕	66			1774
	赤色土	皿	4	0.33	0.08	26	不明		甕	36			294
	表土	皿	4	0.29	0.17	34	計			375	1.58		18649
不明		皿	2	0.13		5	固体識別			9			
計			30	2.79	3.97	493	合計			1616			40962

表 26 古屋敷Ⅱ遺跡出土土師器計量表

遺 構	層 位	器 種	破片数	個体数		重量 (g)	遺 構	層 位	器 種	破片数	個体数		重量 (g)
				口縁	底部						口縁	底部	
加工段1		無高台坏	47	1.42	24.83	1456	加工段1		甕	34	1.04		1372
加工段2		無高台坏	9	0.21	3.38	214	加工段2		甕	14	0.24		148
加工段3		無高台坏	50		11.58	623	加工段3		甕	4			15
土器溜まり1		無高台坏	13		1.88	99	加工段4		甕	1			13
土器溜まり2		無高台坏	6		0.54	60	土器溜まり1		甕	65	0.80		508
SD02		無高台坏	1		1.00	78	土器溜まり2		甕	105	1.63		1716
SX03		無高台坏	1		0.25	18	SX03		甕	1			5
P23		無高台坏	1		0.17	5	P16		甕	3			13
上方斜面		無高台坏	22		4.21	193	P42		甕	1			1
加工段1西側		無高台坏	1		0.25	6	上方斜面		甕	3			31
加工段1下方		無高台坏	62		16.29	804	加工段1西側		甕	28	0.04		316
加工段1下部		無高台坏	3		0.71	37	加工段1下方		甕	120	0.84		1216
追加トレンチ	堆積土	無高台坏	1		0.42	6	加工段1下部		甕	37	0.47		264
	赤色土	無高台坏	9		3.13	234		赤色土	甕	46	0.27		551
	表土	無高台坏	78		18.29	894		表土	甕	113	1.55		1586
	排土	無高台坏	1		0.33	16	不明		甕	14	0.06		175
不明		無高台坏	3		0.71	37	計			589	6.94		7930
計			308	1.63	87.97	4780	加工段1西側		甕?甕?	1			95
加工段1	高台坏		4	0.03	2.04	234	加工段1		その他	6			202
加工段2	高台坏		1		0.21	8	加工段2		その他	1			9
加工段3	高台坏		1		0.50	104	加工段3		その他	7	1.00		289
土器溜まり1	高台坏		3		1.92	157	土器溜まり1		その他	7			241
土器溜まり2	高台坏		2		0.25	11	土器溜まり2		その他	8			344
P31	高台坏		1		1.00	93	SD03		その他	2			10
上方斜面	高台坏		6		1.50	89	P40		その他	5			53
加工段1西側	高台坏		2		0.25	12	P42		その他	1			1
加工段1下方	高台坏		7		2.63	157	上方斜面		その他	1			210
	赤色土	高台坏	2		0.33	33	加工段1西側		その他	1			54
	表土	高台坏	11		4.00	378	加工段1下方		その他	12			488
計			40	0.03	14.63	1276	加工段1下部		その他	3			102
加工段1	坏		90			381		赤色土	その他	6			190
加工段2	坏		9			30		表土	その他	11			368
加工段3	坏		102		0.38	219		排土	その他	1			21
土器溜まり1	坏		15			42	不明		その他	6			33
土器溜まり2	坏		5			21	計			78	1.00		2615
SX03	坏		5			10	合 計			1448	10.35	103.98	18146
P16	坏		1			1							
P36	坏		1			2							
P45	坏		3			14							
上方斜面	坏		18			36							
加工段1西側	坏		3			10							
加工段1下方	坏		71	0.75		307							
加工段1下部	坏		6			53							
追加トレンチ	堆積土	坏	4			16							
	赤色土	坏	23			60							
	表土	坏	71			208							
不明	坏		5		1.00	40							
計			432	0.75	1.38	1450							

## 第6章 自然科学分析

### 第1節 西川津遺跡出土のウルシの木、漆塗土器、漆液容器(土器)について

永嶋正春(国立歴史民俗博物館)

#### はじめに

標記の遺跡からは、漆技術と漆文化の自立的な存在を示す資料が出土する。かつての発掘調査では、弥生時代中期にとどまるものの、朱漆塗結歯式竪櫛や漆塗土器などが出土している。今回の発掘調査では、これら弥生時代中期に属する漆資料に加えて、弥生時代前期に比定される漆資料が検出されている。それらの資料の中には、弥生時代前期に属するウルシの木や漆液容器(土器)などがあり、松江地域広くは山陰地方の弥生文化を考える上で、きわめて重要な資料となることが期待できる。弥生時代の掻き傷を有するウルシの木は初出の事例であり、また弥生時代前期の漆事情を明らかにできる初めての資料群としてもその実態を解明する意味合いは大きい。

幸い筆者は、これらの資料を実見する機会に恵まれ、極微の試料採取を含む非破壊的な理化学的調査を実施することができた。本来は調査結果を十分に整理した上で、本報告書に充実した内容を盛り込むべきものと考えていたのであるが、諸般の事情できわめて要約した内容での報告をせざるを得ないこととなった。不足の内容については、別機会に譲るものとして、以下にその概要を報告する。

#### 調査対象資料と調査手法

調査の対象とした資料は、計44点である。いずれも、漆関係資料としてあらかじめ発掘調査担当者によって選別されたものである。ウルシの木1点以外は、全て土器資料であり、大半は土器の小破片であるものの、なかには完形に近いものも認められた。これらの内、ウルシの木を含む計15点は弥生時代前期あるいは前期かとされる資料であり、残りは弥生時代中期ないし中期かとされる資料である。

調査は、光学顕微鏡による微視的な観察を主にし、赤彩ないし赤色顔料の付着が認められるものについては、顔料の種類把握のためエネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析(空気通路下)を実施した。微小を採取した試料については、樹脂にて埋包固定後、層断面薄片試料を作製して漆層等の内容を観察した。なお、弥生時代前期とされたウルシの木およびほぼ完形で出土した漆液容器(土器)については、年代議論に資するため、ウルシの木の一部分あるいは容器に付着残存する漆膜を採取し、炭素14年代測定用試料に供した。測定結果については、工藤雄一郎らによる次節を参照されたい。

#### 調査結果

**ウルシの木(A-2区(南)SD09出土)** 長さ16.3cm、含水状態での重さは99g程の小木片であるが、ほぼ中央の位置に幹を周回する傷が確認できる。裏面部の木材は欠損するものの、現存傷の端部には互いに食い違う二重の線傷が認められることから、幹(あるいは枝か)を一周した傷との判断が

成り立つ。傷幅は、上部の広いところで0.5mm程であり、その中央底部には、利器(石器か)の鋭利な先端部によると思われる線状の傷が認められる。周回傷の所々には、縮皺を持つ褐黒色の樹脂皮膜が付着残存しているが、当初は、傷の全部分を覆っていたものと考えられる。傷を付けられたために滲み出た漆液が固化したものである。この傷は、漆液を採取するために付けた傷と考えるべきであり、たった1点の資料ではあるが、当該期において、西川津遺跡の近傍でウルシが栽培管理され、漆液が採取され、漆塗製品が作られていたことの明白な証拠となる。別稿の炭素14年代測定結果にあるように、弥生時代前期に属する資料であり、当時の西川津遺跡の文化的状況を示してくれる重要な資料である。

**漆液容器(壺形土器)(A-2区(南)SD09出土)** ほぼ完形の壺形土器である。内面全体に漆が付着しており、口縁部の割れ断面や外面にも部分的に漆の付着が認められる。外観的には、典型的な漆液容器である。内面の漆は、全体としては比較的薄く付着しているものの、底部や口縁部には大ぶりでやや厚手の褶曲皺が顕著であり、生漆とクロメ漆の中間的様相を呈するものと考えるのが自然である。ナヤシ(攪拌作業による均質化)が不十分な半クロメ状態の漆と見ておきたい。外面に付着する漆膜には、一部に赤色顔料の付着あるいは混入が認められ、それらはパイプ状ベンガラ(赤色酸化鉄)を主体にしていることが判明している。これら良質な赤色顔料(ベンガラ)の存在は、本遺跡においてベンガラ漆が使用されていた可能性を示唆するものである。その点で、壺形土器片(A-2区(南)SD10出土)の赤彩は興味ある存在といえるのであるが、パイプ状ベンガラであることは確認できているものの、漆が使用されているかどうかについては、現時点では判断できない。なお本遺跡出土の赤色漆塗壺(弥生中期)には、一般にベンガラ漆ではなく朱漆(赤色硫化水銀を混和した漆)が使用されている。炭素14年代測定の結果では、本資料は前記のウルシの木とほぼ同時代のものとされており、当該期の漆文化を象徴する資料として重要である。

**その他の資料** 上記のなかで触れた壺形土器片(A-2区(南)SD10出土)の他に、他に3点の赤彩ないし赤色顔料付着土器片が認められるが、いずれもベンガラと確認された。弥生前期に属する壺形土器片1点(A-1区SD10出土)、弥生中期に属する土器片1点(赤色汚れあり、17片、A-2区(北)SD09 G3出土)・壺形土器片(口縁片)1点(胎土中の赤色顔料、B-1区排土中より)である。漆塗りが期待できる土器(片)資料は42点である。内13点は弥生時代前期に属する資料であり(前期かとされる資料を含む)、残り29点は弥生時代中期(中期かとする資料を含む)の土器片である。中期の土器片の大部分には、明らかに漆と思われる黒色の樹脂塗膜が残存しており、数点の判断しづらい土器片(No.35,41,43)についても、生漆あるいは半クロメ状態の漆が高温で焼き付けられたものと考えれば説明がつく。したがって、中期(か)の土器片29点全てについて、漆が関与しているものと理解する。

前期(か)の資料13点については、その外観的な性状から見て、燻べあるいは吸炭の結果と推定できるものが多い。しかしながら、前期段階でも漆が存在していたことを考えれば、漆の焼き付け処理が行き過ぎた結果と説明できるものもあり、その分別は困難である。

おわりに

標記の資料を調査し、上記のような結果を得た。これらはあくまで中間的報告であるが、本資料群が、弥生前期に遡る漆技術・漆文化の諸相を把握する上で重要な資料であることは再確認できたものとする。今後、層断面試料の調査結果をも加味しながら、再度丁寧に議論する予定である。



第1節 西川津遺跡出土のウルシの木、漆塗土器、漆液容器(土器)について

表 西川津遺跡(鶴場地区)出土漆関連試料一覧

No	挿図番号	器種名	調査区	遺構名	土層	取上日	時期	肉眼観察状況
1	151-10	ウルシ原木	A-2(南)	SD09	オモカス層	111129	弥生時代前期	ウルシ、掻き傷
2	158-2	壺：漆液容器	A-2(南)	SD09	下層、No.1051	111116	弥生時代前期	内面漆液残存、外面付着
3	55-2	鉢(甕)	B-1	SD13	下層	100803	弥生時代前期	
4	32-3	壺片	A-2(南)	SD10	下層	111107	弥生時代前期	黒色・赤色顔料
5	34-2	壺片	A-1	SD10	下層	100205	弥生時代前期	黒色・赤色顔料
6	—	破片 17 片	A-2(北)	SD09(G3)	上層	110727	弥生時代中期	内面漆塗り・赤色顔料
7	—	破片	A-2(北)	SD09(G3)	オモカス層	110829	弥生時代前期	内外面漆塗りか？
8	—	破片(頸部)	A-2(北)	土器溜 10	上層、No.137	110729	弥生時代中期	内外面漆塗り
9	—	破片(底部)	A-2(北)	SD09(G4)	黒色土層	110729	弥生時代中期	内外面に漆残存か？
10	—	破片 2 片(1 片は頸部)	A-2(南)	SD09(F4)	上層	111021	弥生時代中期	内外面漆塗りか？
11	—	破片 2 片	A-2(南)	-	排土	110121	弥生時代中期	内外面漆塗りか？
12	—	破片	A-2(北)	土器溜 10	上層、No.110	-	弥生時代中期	内外面漆塗りか？
13	—	破片	A-2(南)	SD09(F4)	オモカス層	111114	弥生時代前期	
14	166-6	口縁部	A-2(北)	SD09 北側畔	黒色土層	110826	弥生時代中期	内外面漆塗り
15	—	破片 8 片	A-2(北)	SD09 北側畔	上層	110824	弥生時代中期	内外面漆塗りか？
16	—	破片	A-2(北)	土器溜 10	上層、No.124	110729	弥生時代中期	外面漆塗り
17	—	破片	A-2(北)	土器溜 10	上層	110729	弥生時代中期	外面漆塗り
18	—	破片(頸部)	A-2(北)	SD09(F4)	下層	111115	弥生時代前期か？	外面漆塗りか？
19	—	破片 5 片	A-2(北)	SD09(G3)	黒色粘土層	110805	弥生時代中期	内外面漆塗りか？
20	—	破片 5 片	A-2(北)	SD09(ヲ7ト)	上層	110718	弥生時代中期	内外面漆塗りか？
21	—	破片 4 片	A-2(北)	SD09(F3)	黒色土層	110803	弥生時代中期	内外面漆塗りか？
22	—	破片 2 片(底部含む)	A-2(北)	SD09(F3)	下層	110817	弥生時代前期	内外面漆塗りか？
23	—	破片	A-2(南)	-	排土	111115	弥生時代前期か？	
24	—	破片	A-2(北)	SD09 南側畔	黒色土層	110901	弥生時代中期	内面漆塗りか？
25	—	破片	A-2(北)	土器溜 10	上層、No.130	110729	弥生時代中期	内外面漆塗りか？
26	—	破片	A-2(北)	SD09(G3)	下層	110808	弥生時代前期か？	外面漆塗りか？
27	—	破片	A-2(北)	SD09(G3)	上層	110722	弥生時代中期	内外面漆塗りか？
28	—	破片	A-2(北)	SD09(G3 南西隅)	上層	110712	弥生時代中期	内外面漆塗りか？
29	—	破片	A-2(北)	SD09(ヲ7ト)	下層	110708	弥生時代中期	内面漆塗りか？
30	—	破片	A-2(北)	SD09(G3)	下層	110817	弥生時代中期	外面漆塗りか？
31	—	破片	A-2(北)	SD09(G3)	下層	110808	弥生時代前期？	
32	—	破片	A-2(北)	SD09(G3)	黒色土層	110802	弥生時代中期	内外面漆塗り
33	—	破片 4 片	A-2(北)	SD09(G3)	下層	110804	弥生時代中期	内外面漆塗り
34	—	破片	A-2(北)	SD09(G3)	下層	110804	弥生時代中期	内外面漆塗り
35	—	破片(頸部,孔あり)	A-2(北)	SD09(G3)	上層	110725	弥生時代中期	
36	—	破片	A-2(北)	SD09(南側畔)	黒色粘土層	110901	弥生時代中期	内面漆塗り
37	—	破片	B-1	-	排土	101111	弥生時代中期？	内面漆塗り
38	—	破片	B-1	河道 1(D9)	3D 層	101124	弥生時代中期？	内外面漆塗り
39	—	破片	B-1	河道 1(D8)	3 層	100517	弥生時代中期？	内外面漆塗り
40	—	破片(底部付近)	B-1	河道 1(c9)	3D 層	101129	弥生時代前期？	
41	—	底部	B-1	河道 1(D8)	3C 層	100929	弥生時代中期？	外面漆塗りか？
42	—	破片	B-1	河道 2(D9)	砂礫層	101110	弥生時代前期？	
43	—	壺口縁片	B-1	-	排土	101027	弥生時代中期	赤色顔料・内面漆残存か？
44	—	底部	B-1	河道 2(C10)	砂礫層	101110	弥生時代前期？	

※表作成：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

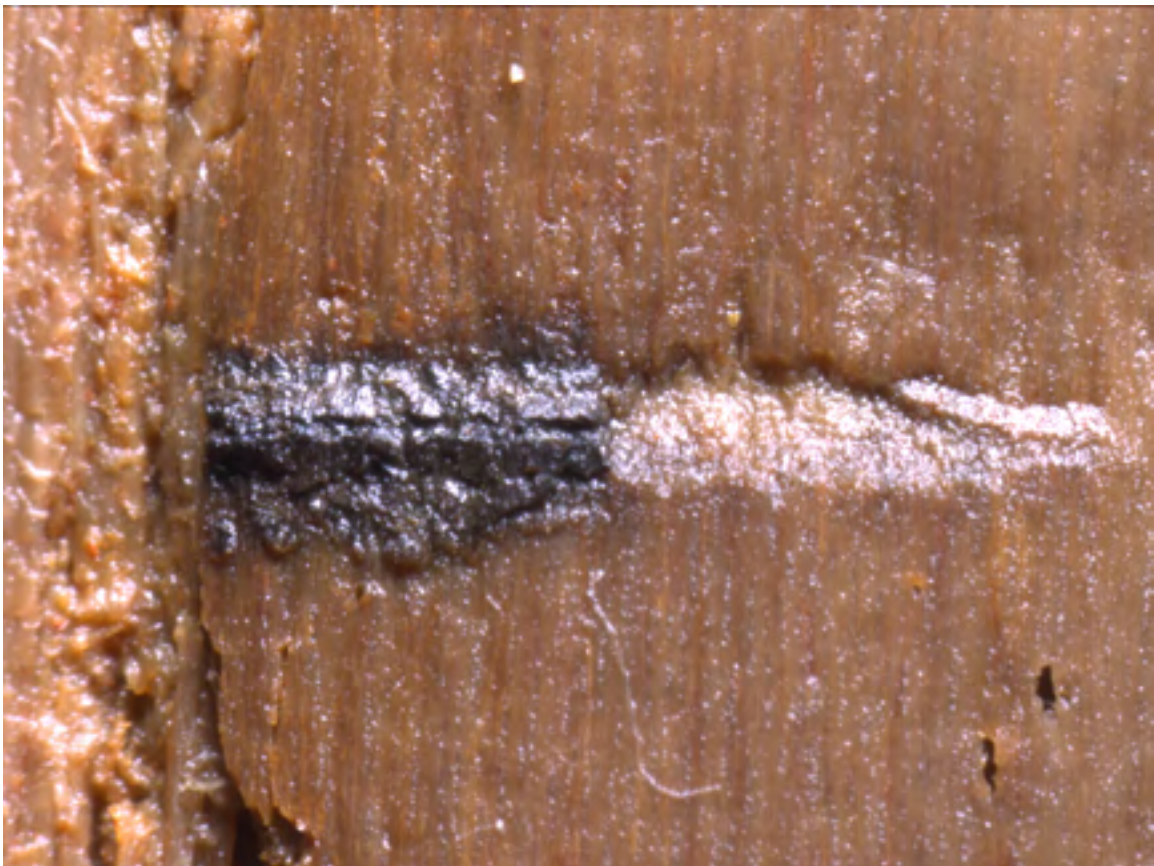
写真図版1



資料No. 1 ウルシの木



資料No. 1 ウルシの木 掻き傷 (3倍)



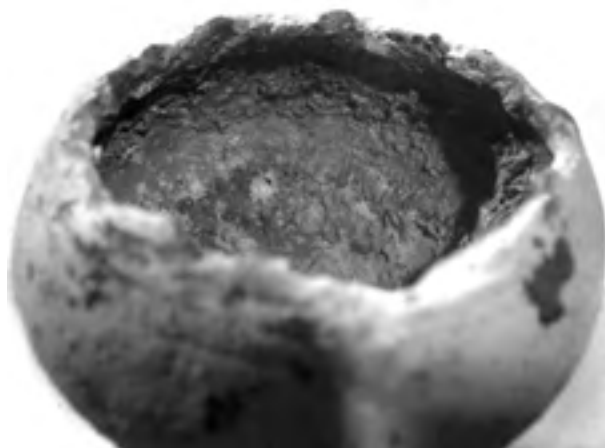
資料No. 1 ウルシの木 掻き傷 (25倍)



写真図版2



資料No. 2 漆液容器(壺形土器)



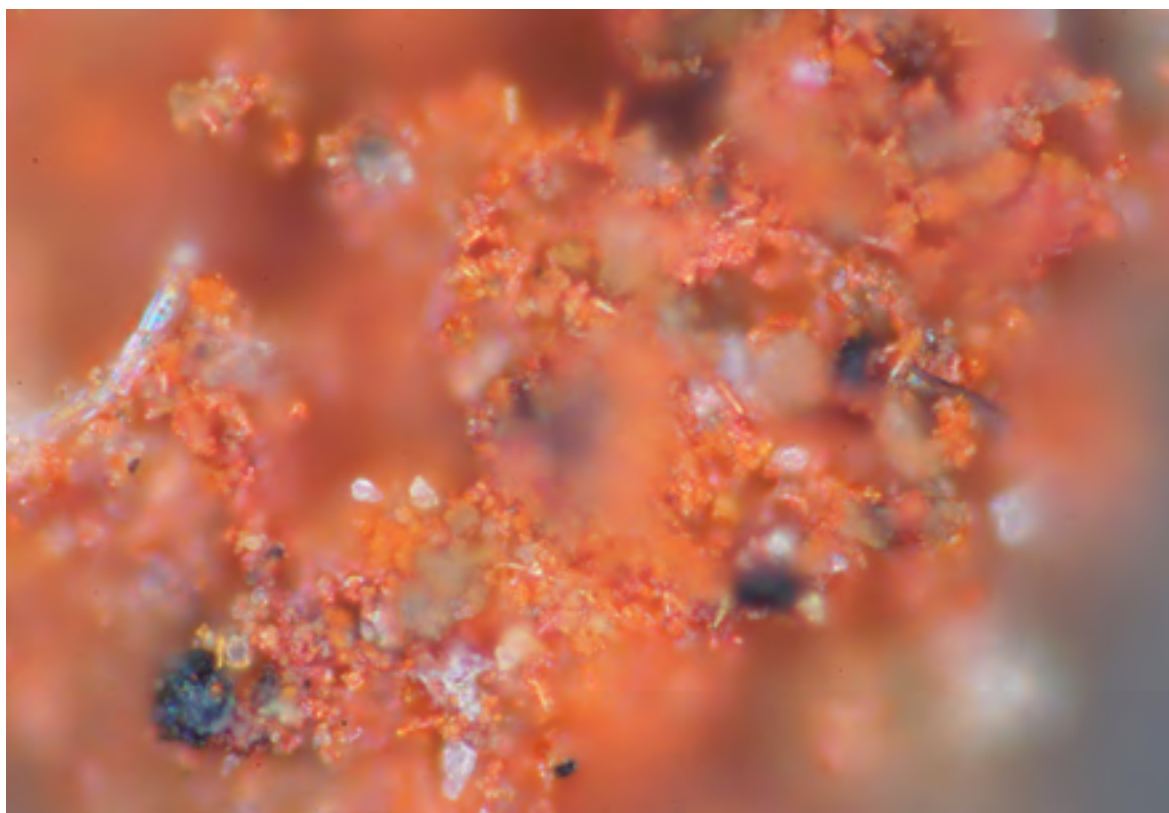
資料No. 2 漆液容器(壺形土器) 赤外線画像



資料No. 2 漆液容器の漆(6倍)



資料No. 2 漆液容器の漆膜破断面(50倍)



資料No. 2 漆液容器付着のパイプ状ベンガラ(1000倍)

写真図版3



資料No.4 A2区(南)SD10下層出土壺形土器の赤彩(11倍)



資料No.6 A2区(北)SD09上層出土漆塗土器の漆膜(11倍)



## 第2節 西川津遺跡から出土したウルシ材と漆液容器の<sup>14</sup>C年代測定

工藤雄一郎・坂本 稔（国立歴史民俗博物館）

### 1. はじめに

島根県松江市西川津遺跡（鶴場地区）の弥生時代前期の河道から発見されたウルシ材および漆液容器の試料の提供を受け、これらの<sup>14</sup>C年代測定を実施した。本稿ではその結果について報告する。

### 2. <sup>14</sup>C年代測定試料

今回測定を行ったのは、西川津遺跡（鶴場地区）の自然河道内の杭列の中から発見されたウルシ材（試料番号 1:151-10, A-2 南区 SD09, 木製品 345）と、同じく自然河道内から出土した漆液容器の小型の壺（試料番号 2:158-2, A-2 南区 SD09, 下層 No.1051）である（図1）。ウルシ材については材の破片の一部を<sup>14</sup>C年代測定試料とした（図2左）。このウルシ材は小径木がおおよそ半割された状態であり、その断面から試料を採取したが、材の部位の違いによる古木効果の恐れは無い試料である。漆液容器については、内面に固化して付着していた漆膜の一部を<sup>14</sup>C年代測定試料とした（図2右）。

### 3. 分析方法

試料は国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室に持ち帰り、実体顕微鏡下で可能な限り混入物を除去した後、写真撮影を行った。次に、埋蔵中に生成・混入したフミン酸や炭酸塩などを溶解・除去するため、酸-アルカリ-酸（AAA）処理を行った。アルカリ処理は、試料の状態に応じて0.001～1.2mol水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液により、室温～80℃の処理を行った（吉田, 2004）。徐々にNaOHの濃度を濃くして、水溶液が着色しなくなるまでこの操作を繰り返し、最終的にすべての試料について80℃, 1.2molの濃度まで処理を行った。AAA処理後の試料は乾燥後、秤量した。

乾燥したAAA処理済の試料のCO<sub>2</sub>化からグラファイト化までは（株）パレオ・ラボに委託し、<sup>14</sup>C濃度の測定は同社の加速器質量分析計（パレオ・ラボ, コンパクト AMS:NEC製 1.5SDH）で行った。機関番号はPLDである。

### 4. 分析結果

<sup>14</sup>C年代測定結果を表1に示した。<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点として何年前かを示した年代であり、半減期はLibbyの5568年を使用した。得られた<sup>14</sup>C年代は, OxCal4.1 (Bronk Ramsey, 2009) を用いて IntCal09 (Reimer et al., 2009) の較正曲線を使用して較正した。表1には、較正年代の確率分布の2σの範囲を示した。

ウルシ材の<sup>14</sup>C年代は2425 ± 20 <sup>14</sup>C BP(PLD-21771), 漆液容器の漆膜は2390 ± 20 <sup>14</sup>C BP(PLD-21770)であった。中央値で35年の違いがあるが、おおよそ一致した結果が得られた。IntCal09による較正年代では、ウルシ材が2690～2640 cal BP(12.1%), 2610～2600(1.8%)



cal BP, 2500-2350 cal BP(81.6%), 漆液容器が 2470-2340 cal BP(95.4%) となった。この箇所は弥生時代の「2400年問題」(今村, 2001)に該当する箇所に相当するため(図2), 較正曲線での年代の絞り込みが難しい時期であり, 明確な較正年代を示すことは難しいが, 年代的に見ても弥生時代前期の資料であることは間違いない。出土状況から考えても, 2つの資料はほぼ同時期と考えると良いだろう。

傷跡のあるウルシ材は, 東京都東村山市下宅部遺跡で縄文時代後期の資料が発見されてから注目されるようになり(下宅部遺跡調査団, 2006), 全国的にも発見例が少しずつ増えてきている。西川津遺跡の事例は, 弥生時代前期において遺跡周辺でウルシから樹液が採取されて樹液が容器で保存され, また遺跡周辺で漆塗製品が製作されていたことを示しており, 今回の<sup>14</sup>C年代測定によって, それを年代的にも裏付けることができたことは, 極めて重要な成果である。

なお, この分析は国立歴史民俗博物館開発型共同研究「縄文時代の人と植物の関係史」(平成22~24年度)(代表:工藤雄一郎)の一部を使用して実施した。

## 引用文献

- 今村峯雄. 2001. 「縄文~弥生時代移行期の年代を考える一問題と展望」『第四紀研究』40-6, pp. 509-516.
- 下宅部遺跡調査団. 2006. 「下宅部遺跡1(1)」東村山市遺跡調査会.
- Bronk Ramsey, C. 2009. Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon* 51-1, 337-360.
- Reimer, P. J., Baillie, M. G. L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Burr, G. S., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., Heaton, T. J., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., McCormac, F. G., Manning, S. W., Reimer, R. W., Richards, D. A., Southon, J. R., Talamo, S., Turney, C. S. M., van der Plicht, J., & Weyhenmeyer, C. E. 2009. IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. *Radiocarbon* 51, 1111-1150.
- 吉田邦夫. 2004. 火炎土器に付着した炭化物の放射性炭素年代. 新潟県立博物館編「火炎土器の研究」17-36, 同成社.

表1 <sup>14</sup>C年代測定結果

試料名	試料データ	$\delta^{13}\text{C}^{*1}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	<sup>14</sup> C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$ )	較正年代 (2 $\sigma$ ) <sup>**2</sup> (cal BP)	較正年代 (2 $\sigma$ ) <sup>**2</sup> (cal BC)	機関番号
試料番号1 ウルシ材	AAA処理後重量:	-26.60 $\pm$ 0.16	2426 $\pm$ 19	2425 $\pm$ 20	2690-2640(12.1%)	740-690(12.1%)	PLD-21771
	7.94mg				2610-2600(1.8%)	670-650(1.8%)	
	ガス化重量: 4.58mg 炭素含有量: 2.35mg				2500-2350(81.6%)	550-400(81.6%)	
試料番号2 漆液容器 漆膜	AAA処理後重量:	-29.14 $\pm$ 0.17	2392 $\pm$ 20	2390 $\pm$ 20	2470-2340(95.4%)	520-390(95.4%)	PLD-21770
	5.37mg						
	ガス化重量: 5.45mg 炭素含有量: 3.61mg						

\*1  $\delta^{13}\text{C}$ は加速器による同位体分別効果補正用の値

\*2 較正年代はIntCal09による

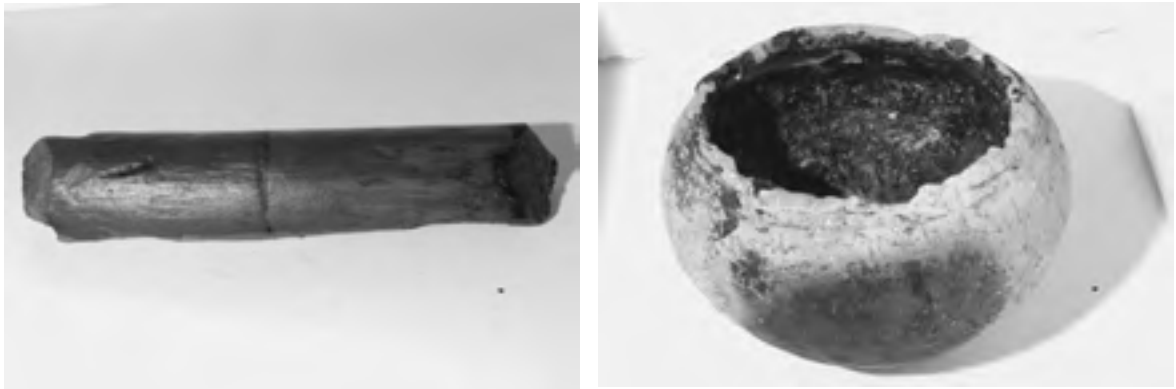


図1 <sup>14</sup>C年代測定を実施した試料（左：ウルシ材，右：漆液容器）

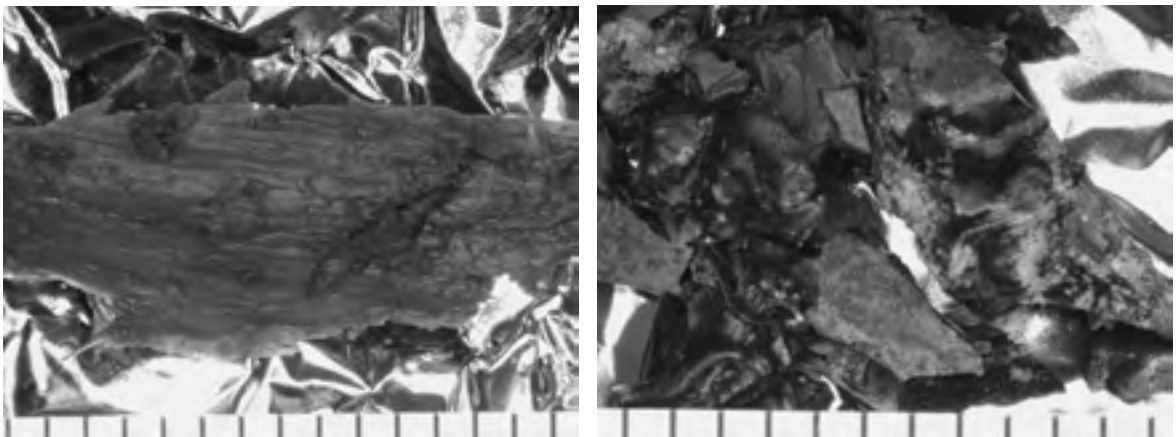


図2 処理前の分析試料（左：ウルシ材の破片，右：漆液容器の漆膜の一部）

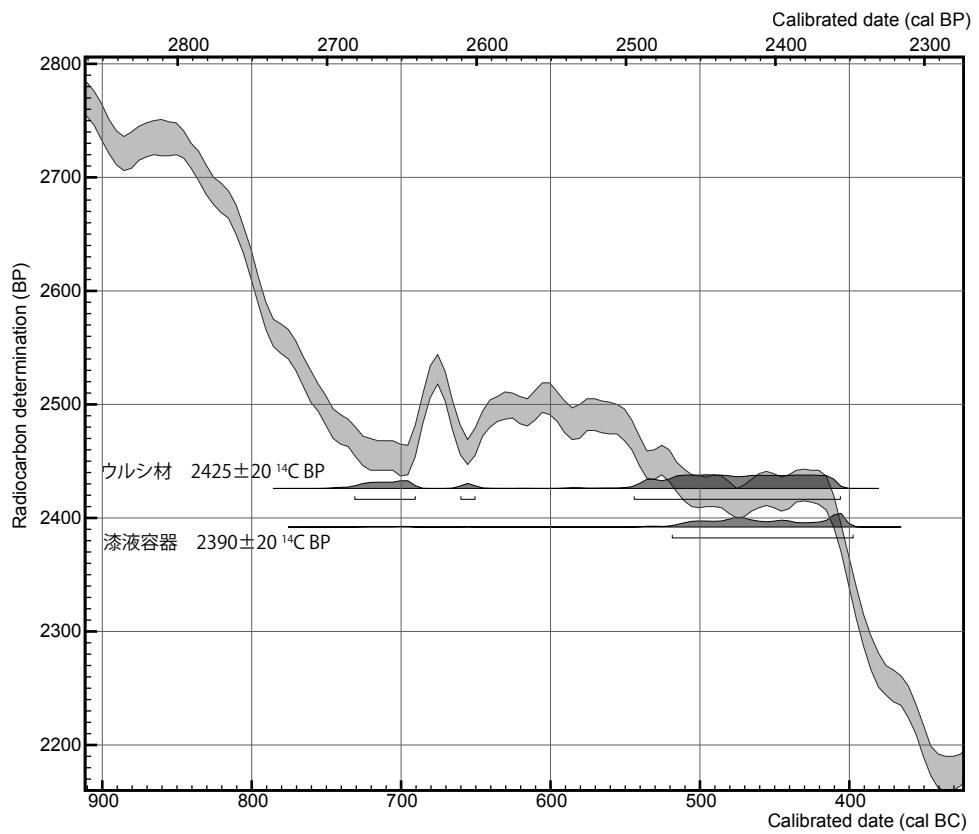


図3 InCal09による較正年代の確率分布と較正曲線との関係

確率分布の下の黒いバーは2σの範囲を示す

## 第3節 西川津遺跡鶴場地区出土土器における種実圧痕のレプリカ法調査概要

瀨田竜彦

### 1 はじめに

西川津遺跡鶴場地区から出土した縄文土器片に、種実が原因とみられる圧痕が認められた。そこで、レプリカ法により圧痕の原体を複製し、実態顕微鏡と走査型電子顕微鏡（以下、SEM）による観察を行った。レプリカ法とは、圧痕内に印象材（シリコン樹脂）を充填して、レプリカを作製し、その観察を通じて、原体の同定などを行う調査、分析法である〔丑野・田川 1991〕。ここでは、西川津遺跡鶴場地区出土土器におけるレプリカ法調査の概要を報告し、併せて、山陰地方の弥生時代開始期におけるイネ科の種実のあり方について若干の見通しを述べる。なお、調査期間の関係で、現状では作製したレプリカの最終同定にいたっていない。確実性の高い同定結果については機会をあらため報告したい。

### 2 調査の方法

レプリカの作製方法は〔丑野・田川 1991〕による。作業の手順を以下に概略する。

- ①土器を観察し、圧痕を確認する。
- ②小筆やエアースプレーを用いて、圧痕内の汚れなどを除去する。
- ③印象材として使用するシリコン樹脂の油分が土器の器面に含浸するのを防ぐために、土器片をしっかりと水に浸す。
- ④圧痕にシリコン樹脂を充填する。印象材として使用したのは、株式会社ニッシン製 J M シリコン（インジェクションタイプ）である。
- ⑤土器の器面にシリコン樹脂の油分が含浸するのを防ぐため、シリコン樹脂に熱湯をかけ、シリコン樹脂の固化時間を短縮する。
- ⑥固化したシリコン樹脂を抜き取り、レプリカを実態顕微鏡で観察し、作製状態を確認する。
- ⑦シリコン樹脂に気泡などが取り込まれ、原体の形状や特徴が正確に復元できていない場合には、再度、②～⑤の作業を繰り返す。
- ⑧実態顕微鏡による一次同定を行い、種実の可能性が高いものを絞り込む。
- ⑨SEMを用いて、レプリカの観察と写真撮影を行う。観察、撮影には、鳥取県産業技術センターが所有する日本電子エンジニアリング株式会社 JSM-6490LA を使用した。

### 3 調査対象

調査対象としたのは、西川津遺跡鶴場地区から出土した縄文時代前期、後期、晩期の土器と、弥生時代開始期の土器である。レプリカの作製を試みた土器は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターの原田敏照氏と島根県古代文化センターの柳浦俊一氏が器面の観察を行い抽出していた土器片と、調査時に実見した突帯文土器の口縁部片、計 13 点である。レプリカ作製時には、土器の実測番号をレプリカの試料番号とし、同一個体中に複数の圧痕がある場合は、試料番号の後ろに○数字を付した。本概要報告でも、その番号を使用する。

以下、実態顕微鏡による一次同定の後、SEMによる観察、撮影を行ったレプリカを作製した土器片5点について概略する。突帯文土器以外の土器型式、時期認定については、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターの認識にしたがい、突帯文土器については筆者の観察所見を記述する。

28 突帯文土器の口縁部片である。肩部を有し、口縁が緩く外反する深鉢で、口縁端部から下がった位置に突帯がめぐる。口縁端部は丸く、突帯にはヘラ状工具による刻目がしっかりと施されている。外面の調整は肩部を境に仕分けされており、口縁部がナデ、胴部がケズリである。こうした特徴から、山陰地方の突帯文Ⅱ期の深鉢と考えられる〔濱田 2008〕。内外面の3カ所に認められた圧痕からレプリカを作製した（写真1-28 ①～③）。

58 突帯文土器の口縁部片である。やや口縁が開く、砲弾型の深鉢で、口縁端部に接して、低い無刻目突帯がめぐる。摩滅しており、調整は不明瞭であった。器形、突帯のあり方から、山陰地方の古海式段階の無刻目突帯文土器か、第Ⅰ-2様式の遠賀川式土器に供伴するイキスタイプと考える〔濱田 2000・2008〕。内外面の3カ所に認められた圧痕からレプリカを作製し、このうちの2点をSEMで観察した（写真1-58 ①・③）。

76 突帯文土器の口縁部片である。砲弾型の深鉢で、口縁端部に接して、低い無刻目突帯がめぐる。内外面に粗い擦痕の残るナデ調整が施されている。第Ⅰ-2様式の遠賀川式土器に供伴するイキスタイプである。内面に認められた圧痕からレプリカを作製した（写真2-76）。

140 沈線と磨消縄文が観察できる胴部片である。縄文時代後期初頭の中津式と考えられている。内外面の2カ所に認められた圧痕からレプリカを作製した（写真2-140 ①・②）。

148 小片だが、胴部片で、屈曲部が観察できる。縄文時代前期前葉の西川津式と考えられている。内外面の2カ所に認められた圧痕からレプリカを作製した（写真2-148 ①・②）。

#### 4 観察結果の概要

次に、上記5点の土器片から得られたレプリカのSEMによる観察結果を概略する。本来であれば、同定結果を報告すべきだが、確実性の高い同定を現段階では終えていない。そこで、圧痕の位置とSEMで撮影した画像を提示し（写真1・2）、観察の所見を記す。

**写真1-28 ①** 口縁部外面の突帯から少し下がった位置に確認した圧痕のレプリカである（左）。球形に近い形をしており（中）、大きさは、長さ約1.4mm、幅約1.2mmである。形状、大きさは、アワに似る。ただし、表面の状態が不良で、アワの同定根拠となる独立した微細な乳頭突起〔椿

表1 試料と観察結果

試料番号	挿図番号	土器型式・時期	器種	残存部位	圧痕の位置	SEM観察所見
28	①	突帯文Ⅱ期	深鉢	口縁部～肩部直下	外面	アワ？
28	②				内面	キビ？
28	③				内面	アワ？
58	①	古海式またはイキスタイプ	深鉢	口縁部～胴部上半	外面	種実？
58	③				外面（突帯）	種実？
76		イキスタイプ	深鉢	口縁部～胴部上半	内面	アワ
140	①	中津式	深鉢	胴部	外面	不明
140	②				内面	不明
148	①	西川津式	深鉢？	胴部	外面	不明
148	②				内面	不明



坂 1993、Nasu et al. 2007] の有無が確実ではない (右)。

**写真 1-28 ②** 口縁部の内面に確認できた圧痕のレプリカである (左)。28 ①や 28 ③よりも、一回り大きく、長さは約 2.3mm、幅約 1.8mm、表面が平滑で、卵形をしている (中)。形状、大きさ、表面の特徴から、キビの可能性はある。

**写真 1-28 ③** 肩部直下の内面に確認した圧痕のレプリカである (左)。若干、紡錘形をしてお

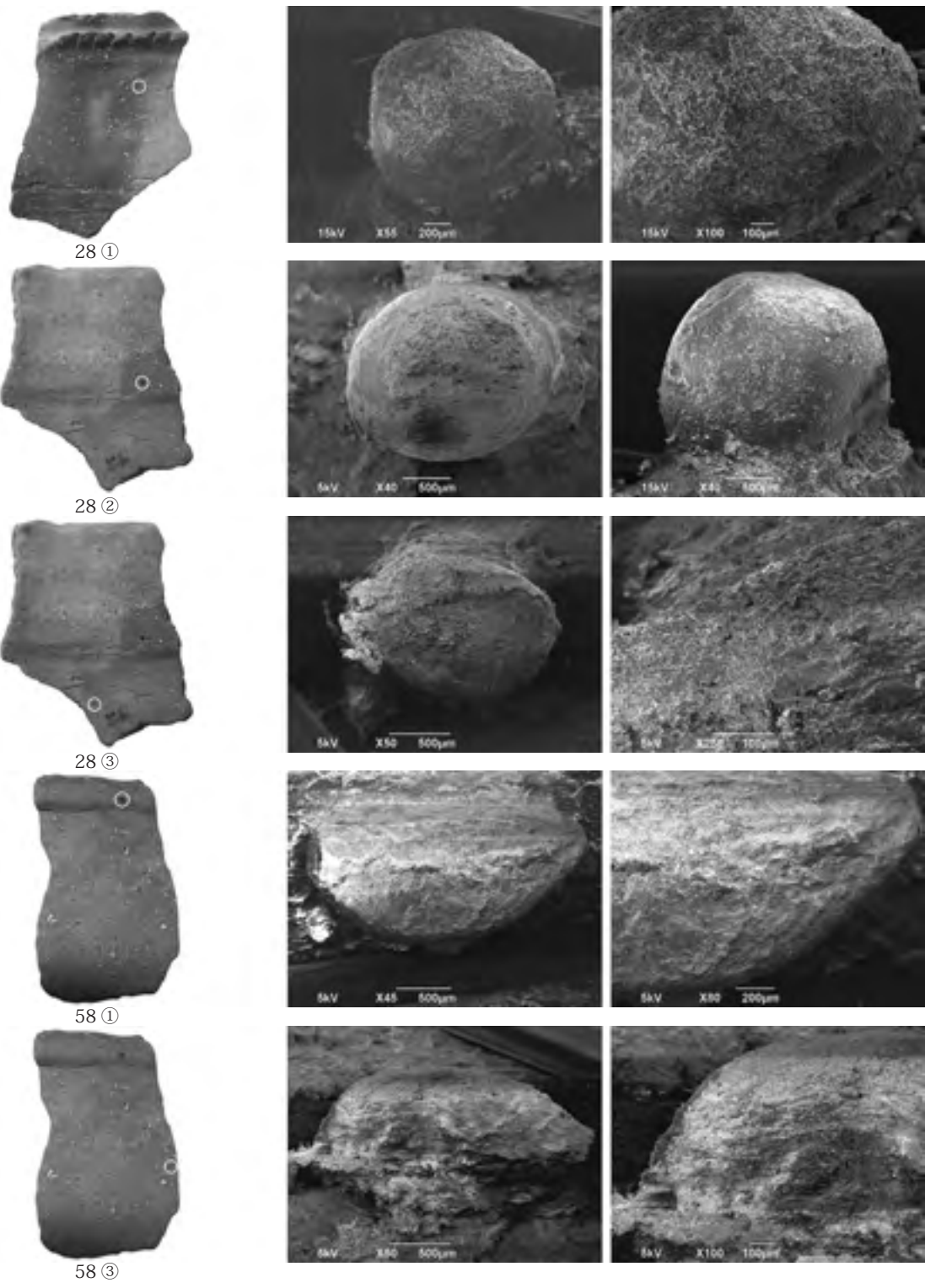


写真 1 圧痕付着土器と走査型電子顕微鏡で撮影したレプリカ (1)

り（中）、大きさは、長さ約 1.8mm、幅約 1.2mmである。表面の状態はあまり良くないが、一部に乳頭状の突起物が確認できる（右）。形状、大きさ、表面の突起物から、アワの可能性が高い。

写真 1-58 ① 口縁部の突帯に確認できた圧痕のレプリカである（左）。卵形ないし紡錘形をしているが、縦半分を欠いている。長さは約 2.6mmである（中）。種実の可能性はあるが、断定はできない。

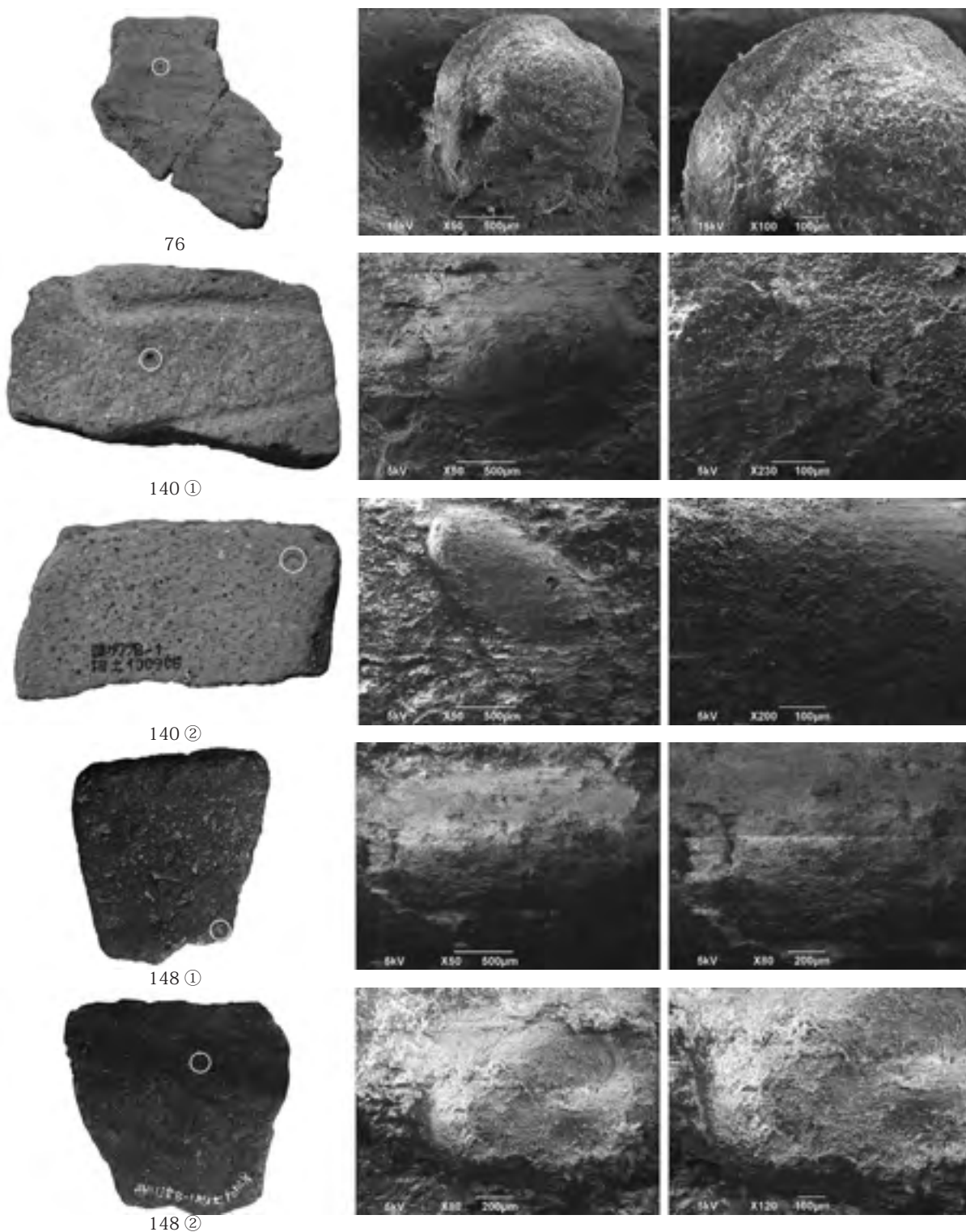


写真 2 圧痕付着土器と走査型電子顕微鏡で撮影したレプリカ（2）

**写真 1-58 ③** 口縁部の外面に確認できた圧痕のレプリカである（左）。紡錘形をしており、長さは 2.3mm である（中）。種実の可能性はあるが、断定はできない。

**写真 2-76** 口縁部の内面に確認した円形の圧痕のレプリカである（左）。球形をしており、大きさは長さ 1.7mm、幅 1.6mm である（中）。内穎が外穎に包まれた果実で、表面に乳頭状突起とみられる凹凸が認められる（右）。形状、大きさ、表面の特徴から、アワ果実の内穎である。

**写真 2-140 ①** 外面の磨消縄文帯に観察できた圧痕のレプリカである（左）。楕円形の微妙な盛り上がりが見え復元できた（中）。大きさは、長さ 1.9mm、幅 1.5mm である。表面は平滑で（右）、画像右側の端部が尖る（中）。断定できないが、種実の可能性は否定できない。

**写真 2-140 ②** 内面に観察できた圧痕のレプリカである（左）。楕円形をした盛り上がりが見え復元できた（中）。大きさは長さが 2mm 以上、幅が 1mm、表面は平滑である（右）。原体は種実か否かわからない。

**写真 2-148 ①** 外面に確認できた圧痕のレプリカである（左）。楕円形をしており（中）、大きさは長さ 2.5mm、幅 1.3mm である。僅かに直線的な筋が見えるので、木片かもしれない（右）。

**写真 2-148 ②** 内面に確認できた圧痕のレプリカである（左）。僅かな盛り上がりが見え復元できたが、形状が判然としないため（中・右）、原体は特定できない。

## 5 おわりに

今回の調査では、縄文時代前期前葉の西川津式、後期前葉の中津式とみられる土器片に付着した圧痕からもレプリカを作製し、SEM による観察を行った。確実に草本植物の種子と特定できるものは見出せなかったが、その可能性を全く否定できないものもある。確実な最終同定を経て、あらためて検討を行いたい。

一方、突帯文土器 2 点に、アワ、キビの可能性のある圧痕を確認した。このうち、キビ、アワの可能性のある圧痕を確認した 28 は、山陰地方に遠賀川式土器が出現する以前の突帯文土器で、突帯文土器Ⅱ期の深鉢である。最近、筆者がレプリカ調査を行った米子市青木遺跡でも、28 と同型式の突帯文土器にアワの圧痕が認められた〔濱田 2013〕。28 に付着した圧痕がアワやキビであることが最終同定を経て確実になれば、突帯文土器前半期の中海・宍道湖周辺にアワやキビなどの栽培を導入した集団の存在を見通すことができよう。

また、アワの圧痕を確認した 76 は、弥生時代開始期の突帯文土器である。中海沿岸では、中沢道彦がレプリカ法調査によって、松江市石台遺跡や北講武氏元遺跡から出土した突帯文Ⅳ期、古海式段階～第Ⅰ-Ⅱ様式段階の突帯文土器にイネの圧痕を確認している〔中沢・丑野 2009〕。したがって、中海の沿岸では、イネだけでなく、アワなどの雑穀を含む、複合的な栽培が弥生時代の開始期に行われていた可能性がうかがわれる。

鳥取県智頭町智頭枕田遺跡や鳥取市本高弓ノ木遺跡における種実圧痕の調査では、当該期に関連する多数の土器から、イネ、アワ、キビの圧痕が検出された〔中沢・濱田ほか 2011、濱田・中尾ほか 2012〕。本高弓ノ木遺跡では、その検出率が均衡しており、必ずしもイネが優勢ではない（註）。このことは、イネに偏重しないイネ科植物の複合的な栽培の実態を示す一例であり、中海沿岸でも調査事例が増えれば、将来、同様の状況を確認できる遺跡もあると考える。

山陰地方では、出雲山間部にある板屋Ⅲ遺跡に前池式に併行する突帯文Ⅰ期の深鉢にイネの圧



痕が見いだされている〔角田 1998〕。しかし、現状では、この他に、突帯文土器単純期のイネ圧痕は確認できない。次にイネの確実な圧痕が認められるのは、板付Ⅰ式や板付Ⅱa式と共時関係にある突帯文土器である。山陰地方では、突帯文土器が製作、使用された時代を通じて、イネ、アワ、キビの複合的な栽培が浸透していることを、突帯文Ⅰ期のイネ圧痕、突帯文Ⅱ期のアワ圧痕によって推測できるが、本格的な水稻耕作を基軸とする農耕社会への移行は、遠賀川式土器や大陸系磨製石器の出現に象徴される新来の文化との接触を契機に加速するものと考えたい。

西川津遺跡に代表される朝酌川の遺跡群は、縄文時代早期以来、長く活動の拠点として利用されており、縄文時代から弥生時代にいたる植物利用、栽培の検討に適した重要遺跡であることを再認識した。既報告資料も調査の対象としながら、山陰地方における植物栽培にかかる資料を蓄積していくことを今後の課題としておきたい。

本調査概要には、日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)「環日本海地域における農耕文化成立期の生業複合と社会構造変化の基礎的研究」(研究代表者 中沢道彦)の研究成果の一部を含む。また、本調査実施の機会を与えていただきました原田敏照氏と柳浦俊一氏、概要執筆にあたって御助言をいただきました中沢道彦氏に感謝申し上げます。

#### 註

財団法人鳥取県教育文化財団が調査を実施した本高弓ノ木遺跡5区710溝出土の突帯文土器と遠賀川式土器を対象に調査を行った。報告書は2013年3月に刊行予定。

#### 参考文献

- 丑野毅・田川裕美 1991 「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学』24
- 角田徳幸篇 1998 『板屋Ⅲ遺跡』島根県教育委員会
- 椿坂恭代 1993 「アワ・ヒエ・キビの同定」『先史学と関連科学』吉崎昌一先生還暦記念論集
- 中沢道彦・丑野毅 2009 「レプリカ法による山陰地方縄文時代晩期の籾状圧痕の観察」『まなぶ』第2号
- 中沢道彦・濱田竜彦・佐々木由香・木田真 2011 「レプリカ法による鳥取県智頭枕田遺跡出土土器の種実圧痕の調査」『日本植生史学会第26回大会講演要旨集』日本植生史学会・弘前大学人文学部付属亀ヶ岡文化研究センター
- 濱田竜彦 2000 「因幡・伯耆地域の突帯文土器と遠賀川式土器」『突帯文と遠賀川』土器持寄会
- 濱田竜彦 2008 「中国地方東部の凸帯文土器と地域性」『古代文化』第60巻第3号(財)古代学協会
- 濱田竜彦 2013(5月刊行予定)「突帯文前半期のアワ圧痕—鳥取県青木遺跡におけるレプリカ法調査—」『みずほ別冊』大和弥生文化の会
- 濱田竜彦・中尾智行・下江健太・山梨千晶 2012 「本高弓ノ木遺跡の発掘調査について」『日本考古学』第33号 日本考古学協会
- Nasu H, Momohara A, Yasuda Y, He J 2007 「The occurrence and identification of *Setaria italica* (L.) P. Beauv. (foxtail millet) grains from the Chengtoushan site (ca. 5800 cal B.P.) in central China, with reference to the domestication center in Asia.」『Veget Hist Archaeobot』16



## 第4節 西川津遺跡(鶴場地区)出土種実類について

住田雅和(国立歴史民俗博物館)

西川津遺跡(鶴場地区)では発掘時に目視で確認され取り上げられた種実類とともに、溝遺構内の堆積物を水洗し得られた炭化物からも種実類が回収された。これらは弥生前期を中心に後期にかけての遺構から得られた。発掘時に採取された資料は多くが大きく目視できるトチノキ種果皮、オニグルミ核を主体とする。一方、水洗資料からは炭化米を主体とするが、周囲の環境や、その利用を解明する資料となるブドウ属、カラスザンショウ、キイチゴ属などの種実類も出土した。また、小型であるためか炭化米に比べて検出例のすくない炭化キビが出土した。これらの資料について報告する。

堆積物の水洗により得られた資料の出土遺構は、弥生前期のSD10、SD13、SD15、SX01、後期のSD07遺構である。後期の資料は少量で、内容的にも前期の資料と対比できなかったので一括して記載しする。

トチノキは完形の種子の出土も多く、少数だが果皮の出土もあるなど格別に人による利用を示すような産状でもない。しかし、トチノキのみが多量に出土すること、水洗資料中に幼果が出土しないことから人為的に集められ、利用されたと考える。トチノキは、過剰な幼果を落果させるので、人為の加わらない自然堆積物からはトチノキ種実には幼果が通常ともなう。本遺跡でのトチノキの多産は近辺での自生が原因ではなく、人による集積が原因であったと考える。

オニグルミ核も比較的多数が現地で取上げられた。人為的に割られたような資料はなく、完形か縫合部から半分に割れた資料のみであった。前期出土の21資料中、大きさの測定の可能だった18個体はすべて長さが30mm以下の側面観も円状である小型の個体がほとんどであった。直接的になにかが推論できるわけではないが、留意する点であろうと思う。

炭化米には発掘時に塊として取上げられた資料がある(SX01下層出土)。籾付で、概ねおなじ方向をむいているので、稲穂が炭化したものがそのまま出土したのだと思われる。

炭化米も、水洗により多量に出土している。実種皮・胚がすべての個体に残存しており、変形も少なく、籾が残存する個体も含まれている。サイズは長さ3.5-4.5mmで比較的変異があるが、側面観は短楕円の個体がほとんどである。

さらに、後述する浮遊炭化物中よりも炭化米資料が得られた。一部は水洗・取上げ作業で拾い落された資料であるが、それよりも格段に小さな炭化米が多数含まれていた。胴部の膨らみのない、未成熟米もあるが、形態的には成熟した個体と同じような炭化米も含まれている。不可解であるが中間段階の大きさの資料が出土しない。これは篩上に残った資料と、水洗時に浮遊した資料との中間サイズの資料が欠落したとも考えられるが原因は不明であり、今後の課題である。このように問題点もあるが、炭化米のサイズ・形態より栽培されていたイネの系譜や、農業技術の水準を議論する場合、顧みられてこなかった資料であり、情報であろう。

浮遊炭化物は堆積物の水洗の時、水流で巻き上げられ浮遊した炭化物を主体とした資料をさしている。通常であれば廃棄されているような資料であるが、様々な情報を含むので、決して場所をふさぐ資料ではないのでカップ一杯分でも保管してあれば今後の検討に寄与すると考える。

これらからは炭化米のほか、栽培植物としてメロン仲間(ウリ)種子、モモ核、ヒョウタン種子(未熟らしい)、利用されたと思われる樹木として前述したトチノキ、オニグルミに加えコナラ属炭化胚乳(ドンダリの中身)も出土している。

他にカヤ種子、エゴノキ属核、モクレン属種子といった高木に、サンショウ属・カラスザンショウ核、キイチゴ属種子、ツバキ属種子、アカメガシワ種子、ニワトコ種子、タラノキ種子といった低木、ブドウ属、サルナシ種子といったツル性木本、カナムグラ果実、シソ属果実、カラムシ果実、タデ属ポントクタデ類似果実といった草本に、水田雑草とみなしてよいタデ属サナエタデ類似果実、ミズニラ属大孢子が出土した。

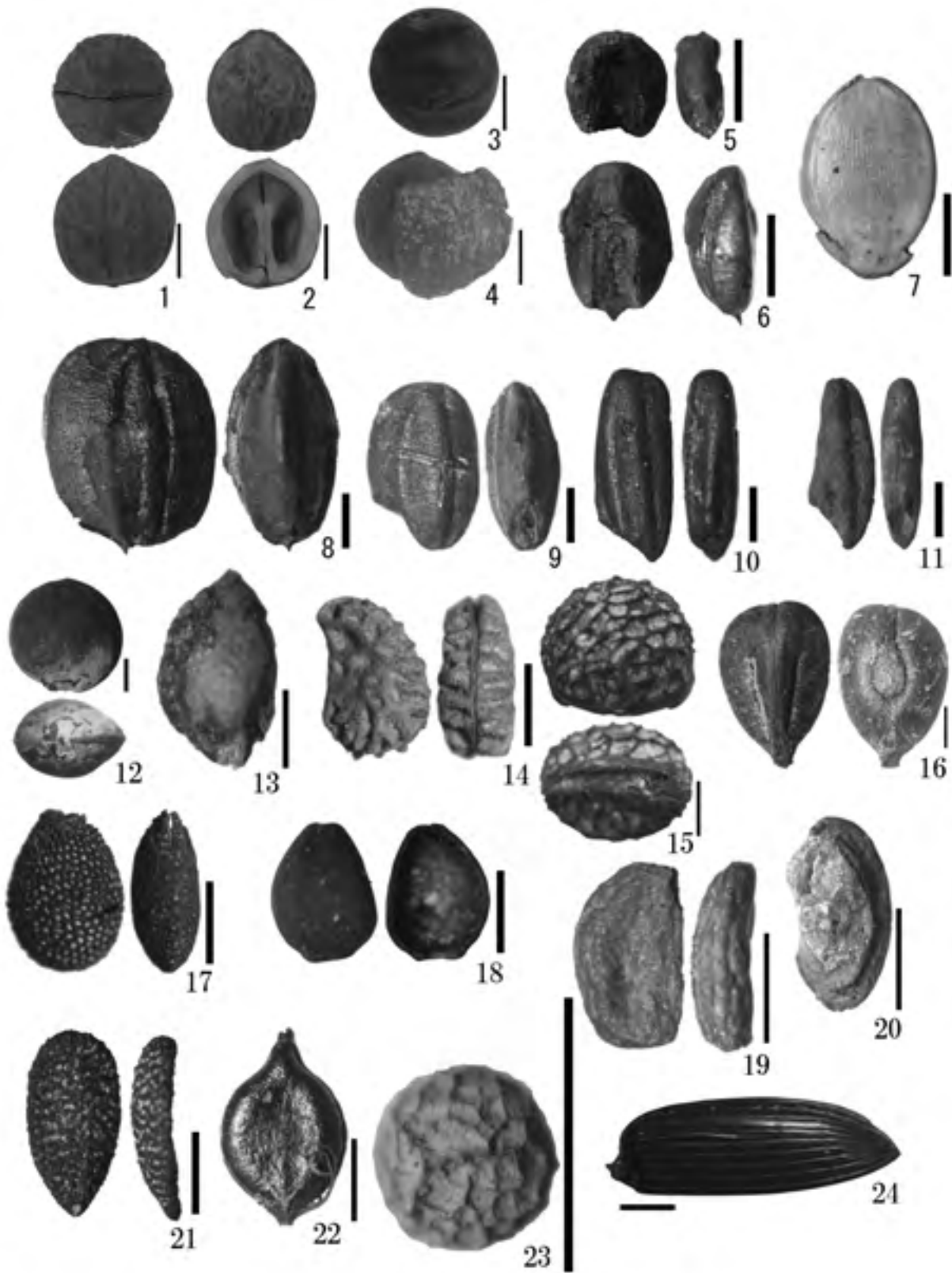
B-1地区、SX01上層より得られた浮遊炭化物150ccほどをさらに双眼実態顕微鏡下で観察した。主に木炭の微小片に、炭化米片、未炭化の植物片からなり、そのなかに炭化・未炭化の種実類が混じっていた。

前述したとおり、微細な炭化米資料を含み、また炭化キビが7個、未炭化の穎が1個検出できた。キビは日本列島への農耕の伝播・展開を考えるうえで重要な穀類であるが、関心が低く、その小ささもあって案外検出例がすくない。

半島から農耕文化が伝播した時、稲作にくらべて場所的制約や施設構築の必要のない雑穀栽培の先行や、受容の様相が水田と畑でことなった可能性などが考えられる。炭化米のみではなく雑穀・麦類を含めた畑作物や、トチノキのように採集により利用された植物が、どのような組合せで出土する、しないのかを明らかにするためにも、弥生時代でも炭化米以外の植物遺体の検出が重要度をましていると考えられる。

微小な炭化物も回収、保管にあたられた担当の人々に感謝します。

写真図版 西川津遺跡(鶴場地区)出土 種実類



1-4 黒棒 1cm 5-24 黒棒 1mm

1: オニグルミ (*Juglans ailanthifolia* Carr.) 核、A-3 区 G3 下層

2: オニグルミ (*Juglans ailanthifolia* Carr.) 核、A-1 SD07(古)

3: トチノキ種子 (*Aesculus turbinata* Blume)、A-1 SD07(古)

4: トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) 果皮片付種子、A-3 区 G3 下層

5・6: アワ (*Setaria italica* (L.) Beauv.) 炭化種子、B-1 区 SX01 上層

7: アワ (*Setaria italica* (L.) Beauv.) 穎、B-1 区 SX01 上層

8-11: 炭化米 (*Oryza sativa* L.)、B-1 区 SX01 上層

12: カナムグラ (*Humulus japonicus* Sieb.et Zucc.) 果実、B-1 区 SD13 下層

13: カラムシ属 (*Boehmeria*) 果実、B-1 区 SX01 上層

14: キイチゴ属 (*Rubus*) 種子、B-1 区 SX01 上層

15: カラスザンショウ (*Fagaria ailanthoides* (Sieb. et Zucc.) Engler) 核、A-2 区 G3 オモカス層木器 23 内より

16: ブドウ属 (*Vitis*) 種子、A-2 区 G3 オモカス層木器 23 内より

17: サルナシ (*Actinidia arguta*(Sieb.et Zucc.)Planchon ex Miquel) 種子、B-1 区 SX01 上層

18: イイギリ (*Idesia polycarpa* Maxim.) 種子、B-1 区 SX01 上層

19: タラノキ (*Aralia elata* (Miq.) Seemann) 種子

20: ムラサキシキブ属 (*Callicarpa*) 核、B-1 区 SX01 上層

21: ニワトコ (*Sambucus sieboldiana* (Miq.) Blume ex Graebn) 種子、B-1 区 SX01 上層

22: タデ属サナエタデ節 (*Polygonum sect.Persicaria*) 果実、A-2 区 G3 オモカス層木器 23 内より

23: ミズニラ属 (*Isoetes*) 大孢子、B-1 区 SX01 上層

24: 甲虫類羽根、B-1 区 SX01 上層



## 第5節 西川津遺跡におけるイネ (*Oryza sativa* L.) 種子の遺伝分析

株式会社ジェネテック 花森功仁子

### 1. はじめに

栽培イネ (*Oryza sativa* L.) はインディカ型とジャポニカ型に大別される (Oka, 1958). さらに, ジャポニカ型のイネは熱帯ジャポニカ型と温帯ジャポニカ型に判別される (Oka, 1988). ジャポニカ型のイネは, 縄文時代晩期に日本列島に伝来して以来 (佐藤, 2008), 日本人の生活や列島の環境に大きな影響を与え, 今日まで我々の生活や文化に影響を及ぼしてきた. 一方, 人が多様なイネを栽培し, 人の嗜好や自然環境に合ったイネの改良を重ねてきた. イネは弥生時代以降, 我々の主要なエネルギー源となっており, イネの品種や稲作文化の起源や伝播, 多様性の研究が文化的側面や科学的側面から行われてきた (坪井, 1982; 佐々木, 1993; 富山, 1993; 渡部, 2000). イネの伝播経路は, フィリピン, 琉球を経由して九州に伝播した南のルート, 中国南部から直接伝わったルート, 中国から朝鮮半島を経由したルートの3つの仮説が提唱されている (柳田 1978; 渡部, 1993; 佐藤, 1996). 南の海上からもたらされたルートであれば, 当初日本に伝播したイネは, 熱帯気候に合った熱帯ジャポニカ型と考えられる. 一方, 朝鮮半島を経由したルートであれば, 耐寒性のある温帯ジャポニカ型の可能性が高い. 温帯ジャポニカ型の起源は長江中下流域と考えられており (佐藤, 1996), 日本各地の遺跡から出土したイネ種子が温帯ジャポニカ型のみであった場合は, イネの伝播経路は中国から直接九州に渡ったルートと朝鮮半島を経由したルートの2つのルートを考えることができる. また, 弥生時代は海上交通が主要な移動手段であり, 日本海側に比較的規模の大きな集落が多数発見されている. したがって, 九州から日本海を北上して水田稲作の技術が伝播する過程で, かつて島根県は要所であったと考えられる.

今回, 発掘された本遺跡は松江市の中央を流れる朝酌川の西側に位置し, 弥生時代前期の要所であり, 水田や住居として利用されていた低地であった. 本遺跡より弥生土器や石器のほかに全国的に珍しい木製壺型容器が出土した. さらに, トチノミとともに大量の炭化したイネ種子が約2,300年前の大溝より出土した. 弥生時代前期のイネ種子の出土例は少なく極めて貴重な試料であった.

遺跡から出土したイネ遺物は, 粒形 (直良, 1956; 佐藤, 1971; 花森ら, 2007; 和佐野, 2009) やプラントオパール分析 (藤原, 1998; 杉山, 2000) を含む形態分析および, 近年のDNA分析 (佐藤ら, 2001; 佐藤・花森, 2005) によって研究が進んでいる. 新たに作出したプライマー (花森, 2011) を用いて西川津遺跡から出土した遺物を分析した. 今回はこれまで分析した弥生時代前期から江戸時代にかけてのデータと合わせて比較検討を行った.

### 2. 材料と方法

#### (1) デジタル保存および形質調査

本遺跡の鶴場地区 (B-1 区) の大溝の地点 SX01 と地点 SD13 の2地点より出土したイネ種子よ

り DNA 分析用に各 8 点, 計 16 点を供試した. サンプル 1 ~ 8 は出土地点 SX01 の大溝内 (試料 No.159), サンプル 9 ~ 16 は出土地点 SD13 の大溝内 (試料 No.203) より出土した. まず, デジタル顕微鏡により画像を撮影した (図 1). さらに, 計測用に各地点に由来するサンプルをデジタル顕微鏡で各 70 点, 計 140 点の画像を撮影した (図 2, 3). このデジタル画像をもとに, 計測ソフト Image J を用いて各サンプルの長幅を測った. このデータをもとに各サンプルの長幅比 (長さ / 幅 = 粒形), 粒大 (長さ × 幅) を算出し, 平均値を求めた.

## (2)DNA 分析

破損や膨張のない DNA 分析用の各 8 点, 計 16 点を供試した. 超音波洗浄後, 各サンプルに 70 %エタノールを噴霧して除菌後, 液体窒素で冷却した. 滅菌済みのステンレスビーズ (分銅) とともにサンプルを滅菌チューブに入れ, マルチビーズショッカー (ST-250, 安井器械, 大阪) により粉碎した. 粉末状にした後, キアゲンキット (キアゲン社, 東京) を用いて全 DNA を抽出した. なお, コンタミネーション確認のため, ネガティブ・コントロールとして滅菌蒸留水 (D.D.W.) を用いた.

抽出した DNA は以下の 2 つの領域について, Takara EX Taq を用いて PCR 法により DNA を増幅した.

- ① 熱帯ジャポニカ型と温帯ジャポニカ型を特定する領域. この領域は第 6 染色体上の特有の欠失・挿入領域を検出するもの.
- ② モチ性を判定する領域. アミロース合成にかかわる遺伝子座 (Wx 遺伝子座) の第 2 エクソン部分.

領域①では, 抽出した DNA をテンプレートとして, DJ6 プライマーセット (DJ6-F:5'-CACGGAAAACGGAAAATCACAT-3', DJ6-R:5'-CTCCGTTCCGCGTGAC-3') を用いて PCR を行い, 増幅した DNA 断片長の違いから欠失・挿入部位を確認した. このプライマーを用いた分析では熱帯ジャポニカ型と温帯ジャポニカ型の塩基配列に, 221 塩基の欠失・挿入部位の有無が確認されており (花森, 2011), 温帯ジャポニカは欠失型, 熱帯ジャポニカは挿入型を示す. 熱帯ジャポニカでは DNA 断片長が 300 塩基を越えるが, 出土遺物の場合, 経年変化によって DNA が断片化されており, 200 塩基を超える断片長は増幅しにくい. このため, 欠失領域にプライマー B3 を作成し, プライマー A2 と B3 用いて PCR を行った (図 4). この PCR 産物は, 熱帯ジャポニカで増幅型 (約 90 塩基), 温帯ジャポニカで非増幅型を示す. PCR 増幅には Takara Ex Taq を用い, 反応条件は 94℃・30 s, 55℃・30 s, 72℃・1min. を 1 サイクルとして, 35 サイクルの反応を行った. 遺物サンプルでは DNA 量が少ないため, 2 段階の Nested-PCR を行った. PCR 産物を 8%ポリアクリルアミドゲルで 180V, 40 分間電気泳動した. その後, ポリアクリルアミドゲルをエチジウムブロマイドで染色し, UV トランスイルミネーターにより DNA 断片の位置を確認した. PCR 増幅した DNA 断片長の確認には, サイズマーカーとして Takara 20bp Ladder を使用した.

領域②では, モチ性・ウルチ性を判別するために, プライマー Wx-A1 と Wx-B1 を用いて核 DNA のモチ性の遺伝子領域 (Wx 遺伝子) を増幅した. この配列の有無によってイネのモチ性 (胚乳でんぷんのうちアミロースを欠き粘りが強くなった性質) かウルチ性かの判定が可能となる. モチ性胚乳をもつ系統では, このモチ遺伝子座第 2 エクソンに 23 塩基分の重複がみられ, これがモ

チ性の原因と考えられる。PCR 増幅や DNA 断片の確認は領域①と同様の方法で行った。

### 3. 結果

デジタル画像（図 2-1 ～ 2-5）を元に画像ソフト Image J で長幅を計測した結果、SX01（試料 No.159）より出土したサンプルの平均は幅 2.977，長さ 4.504，長幅比 1.519，粒大 13.444 であった（表 1）。同様に画像（図 3-1 ～ 3-5）を元に計測した結果、SD13（試料 No.203）の平均は幅 2.917，長さ 4.352，長幅比 1.500，粒大 12.720 であった（表 2）。図 5 のとおりいずれの地点でも幅にほとんど違いが見られなかったが，長さの平均値にわずか 0.152 の相違があった。粒形では，SX01 のサンプルは円粒 1.2 から短粒 1.8 に分布し（表 3），SD13 のサンプルは円粒 1.0 から短粒 2.0 にばらついた（表 4）。両地点のサンプルとも粒大は極小から中の値をとった。両地点の合計では，粒形は短粒（1.4 ～ 1.6），粒大は小（12.1 ～ 15.9）の値をとるものが 76 点と最多であった（表 5）が，SD13（No.203）の方がばらつきが大きく，多様であった。表 6 のとおり，他の遺跡と比較した結果，同時代の新潟県の西郷遺跡と長さは近似しているが，幅は広がった。また，隣県鳥取県の弥生時代後期の井岡地中ソネ遺跡や後期末の妻木晩田遺跡より長さは小さい値をとったが，妻木晩田遺跡の試料より幅が広く，長幅比は両遺跡より小さい値であった。また，瀬戸内側の兵庫県三田市の中期の有鼻遺跡の試料より長さ・幅ともに大きな値をとった。

一般的に，遺跡から出土した遺物の DNA 断片増幅は，出土状況や保管状態により DNA 断片長が 200 塩基を超えると増幅が難しい。このため，温帯ジャポニカ型の欠失領域に熱帯ジャポニカ型のみ DNA 増幅を行うプライマーを作成し，解析に用いた。

領域①を PCR 増幅するため，プライマー F と R，A1 と B2，A2 と B2 のセットでは，熱帯ジャポニカ型は 300 塩基を越え，温帯ジャポニカ型は約 75 ～ 120 塩基の増幅断片を示す。熱帯ジャポニカ型では DNA 断片が 300 塩基を越えるが，出土遺物の場合，経年変化によって DNA が断片化しており，200 塩基を超える断片長は増幅しにくい。プライマー A1 と B3，A2 と B3 のセットでは，熱帯ジャポニカ型は増幅型（約 90 塩基），温帯ジャポニカ型では非増幅型を示す。プライマー A2 と B2 を用いて PCR 増幅したところ，図 6 のとおり約 80 塩基より短い断片が増幅された。したがって，温帯ジャポニカ型の DNA 断片が増幅されたサンプルは SD13 より 6 点，SX01 より 8 点であった。同様にプライマー A1 と B3，A2 と B3 で PCR 増幅したところ，熱帯ジャポニカ型の DNA 断片が確認されたサンプルは SD13 より 2 点，SX01 より 3 点であった。これらの結果から，SD13 の 8 点のうち温帯ジャポニカ型は 4 点，雑種は 2 点，SX01 では温帯ジャポニカ型が 5 点，雑種が 3 点と判別された（表 7）。

領域②ではモチ性を検出するため，PCR 増幅を行ったが，期待の位置にバンドが増幅されなかった。

### 4. 考察

形態分析の結果，本試料は表 6 のとおり，これまで出土したイネ種子の中でもっとも古い時期のサンプルであった。ほぼ同時期の新潟県西郷遺跡の試料より幅が広く，これまで分析した試料の

うち最も長幅比が小さい値をとり、最も丸く短粒であった。また、同時期の新潟県西郷遺跡より幅が大きい値をとり、中期の瀬戸内側の兵庫県有鼻遺跡より長さ・幅とも大きな値をとったことにより本遺跡の栽培化が進んでいたことが示唆された。ただし、各遺跡の分析粒数が少ないため、直ちにこの推定の成否を言及できないが、本分析は140点のデータであり、今後の比較に有効であると考えられる。今後はさらに県内、あるいは全国の同時期の出土データを増やし、本データと比較することによってさらに正確な栽培化の課程を推定することが可能となった。

本遺跡のDNA分析の結果は最新の遺伝子領域で検出された精度の高いデータである。DNAが増幅されたすべてのサンプルに温帯ジャポニカ型の特定領域が確認された。この結果は長幅比の最も小さい値をとった形態分析の結果とも符合した。弥生時代後期の登呂遺跡では同様の方法で雑種を確認しているが、さらに500年遡る前期の本遺跡で雑種が確認された意義は大きい。

温帯ジャポニカ型の伝播は中国からの2つのルート、熱帯ジャポニカ型はフィリピン・台湾を経由して九州に伝播した南のルートが推定されているが、本研究の結果、温帯ジャポニカ型と熱帯ジャポニカ型の配列をもつ遺物が検出されたことから3つのルートのいずれの可能性もある。しかし、熱帯ジャポニカ型の配列をもつ雑種が検出されたことにより南のルートがあったことが示唆され、弥生時代前期にはすでに交雑が起っていたことが確認された。イネは自家受粉であるが、最新データから在来系統では4～25%の他家受粉の結果が得られている。また、イネは中国から伝播した短日性をもつ晩生の温帯ジャポニカ型と南から伝播した短日性をもたない晩生の熱帯ジャポニカ型が自然交配すると早生の雑種ができる(佐藤, 1992)。このことから、本研究で発見された雑種は早生である可能性が高い。この短日性を示さない早生の誕生は、日照時間の短い東北地方の環境でもイネが栽培可能となった主な要因と考えられる。

鳥取県では弥生時代後期の妻木晩田遺跡で熱帯ジャポニカ型が、弥生時代後期の井岡地中ソネ遺跡で温帯ジャポニカ型が検出されている。中世の鳥取県霞の要害跡で温帯ジャポニカ型、岡山県灘崎町佐古谷遺跡と岡山市津島遺跡で熱帯ジャポニカ型が検出されている。本研究の結果、より正確なDNAの領域レベルで弥生時代前期の島根県ではすでに熱帯ジャポニカ型との交雑種が栽培されていたことが判明した。また、かねて分析したこれらの遺跡では複数のランダムプライマーの組み合わせにより型判別を行っており、今回の約80～100塩基対の特定領域を用いる方法では検出率と精度が大幅に上昇した。

近年、遺跡より出土したイネ種子や野生イネや在来イネの分析によりアジアにおけるイネの伝播が推定されつつある(Crawford, 2003; Fuller, 2010)。今後は、全国および周辺諸国から出土したイネ種子を迅速に分析することにより、海外から日本へ、あるいは国内のイネの伝播経路や栽培化の過程が推定可能と思われる。

## 参考文献

- Crawford, G.W., Lee G.: Agricultural origins in the Korean Peninsula, *Antiquity*:77(295), 87-95, 2003.
- Fuller, D.Q.: Consilience of genetics and archaeobotany in the entangled history of rice, *Archaeol Anthropol Science*:2, 115-131, 2010.
- 藤原宏志: 稲作起源を探る, 岩波書店, 東京, 201pp, 1998.



- 花森功仁子, 大角信介・望月峰子・向井譲・佐藤洋一郎: 全国の遺跡から出土したイネ種子の遺伝的傾向, 日本文化財科学会第24回大会・研究発表要旨集, 162-163, 2007.
- 花森功仁子, 石川智士, 齋藤寛, 岡田喜裕, 田淵宏朗, 望月峰子: DNAの欠失領域を用いた栽培イネ *Oryza sativa* L. の熱帯ジャポニカ型と温帯ジャポニカ型の識別マーカの作出と登呂I期遺跡から出土した炭化種子への応用, 東海大学紀要海洋学部「海-自然と文化」第9号, 2011.
- 直良信夫: 日本古代の稲の種類, 日本古代農業発達史, さ・え・ら書房, 東京, 40-46, 1956.
- Oka, H.I.: Intervarietal and classification of cultivated rice, *Ind. J. Genet. & Pl. Breed.* 18, 79-89, 1958.
- Oka, H.I.: *Origin of Cultivated Rice*, JSPS/Elsevier, Tokyo/Amsterdam, 1988.
- 佐々木高明: 日本文化の基層を探る, NHKブックス, 日本放送出版協会, 253pp, 1993.
- 佐藤洋一郎: 日本の古代米, 雄山閣, 東京, 346pp, 1971.
- 佐藤洋一郎: 稲のきた道, 裳華房, 東京, 166pp, 1992.
- 佐藤洋一郎: DNAが語る稲作文明, 日本放送出版協会, 東京, 227pp, 1996.
- 佐藤洋一郎・榎ジェネテック: 領家遺跡(1-C, 1-D区)の自然科学分析, 領家遺跡II・梅橋古墳, 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第126集, 静岡県埋蔵文化財調査研究所, 278-284, 2001.
- 佐藤洋一郎・花森功仁子: 自然遺物およびその自然科学的分析, 本郷坪遺跡, 静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第164集, 静岡県埋蔵文化財調査研究所, 44-60・花森, 2005.
- 佐藤洋一郎: イネの日本史, 京都大学学術出版会, 京都, 251pp, 2008.
- 杉山真二: 植物珪酸体(プラント・オパール), 考古学と植物学, 同成社, 189-213, 2000.
- 富山和子: 日本の米, 中央公論社, 東京, 232pp, 1993.
- 坪井洋文: 稲を選んだ日本人, 未来社, 東京, 236pp, 1982.
- 和佐野喜久生: 炭化米の粒形質の変異分布と古代日本稲作の起源, *日本考古学*第28号, 23-40, 2009.
- 渡部忠世: 稲の大地, 小学館, 東京, 254pp, 1993.
- 渡部忠世: 稲にこだわる, 小学館, 東京, 206pp, 2000.
- 柳田国男: 海上の道, 岩波書店, 東京, 328pp, 1978.

図1-1 デジタル顕微鏡による DNA 分析用サンプル画像

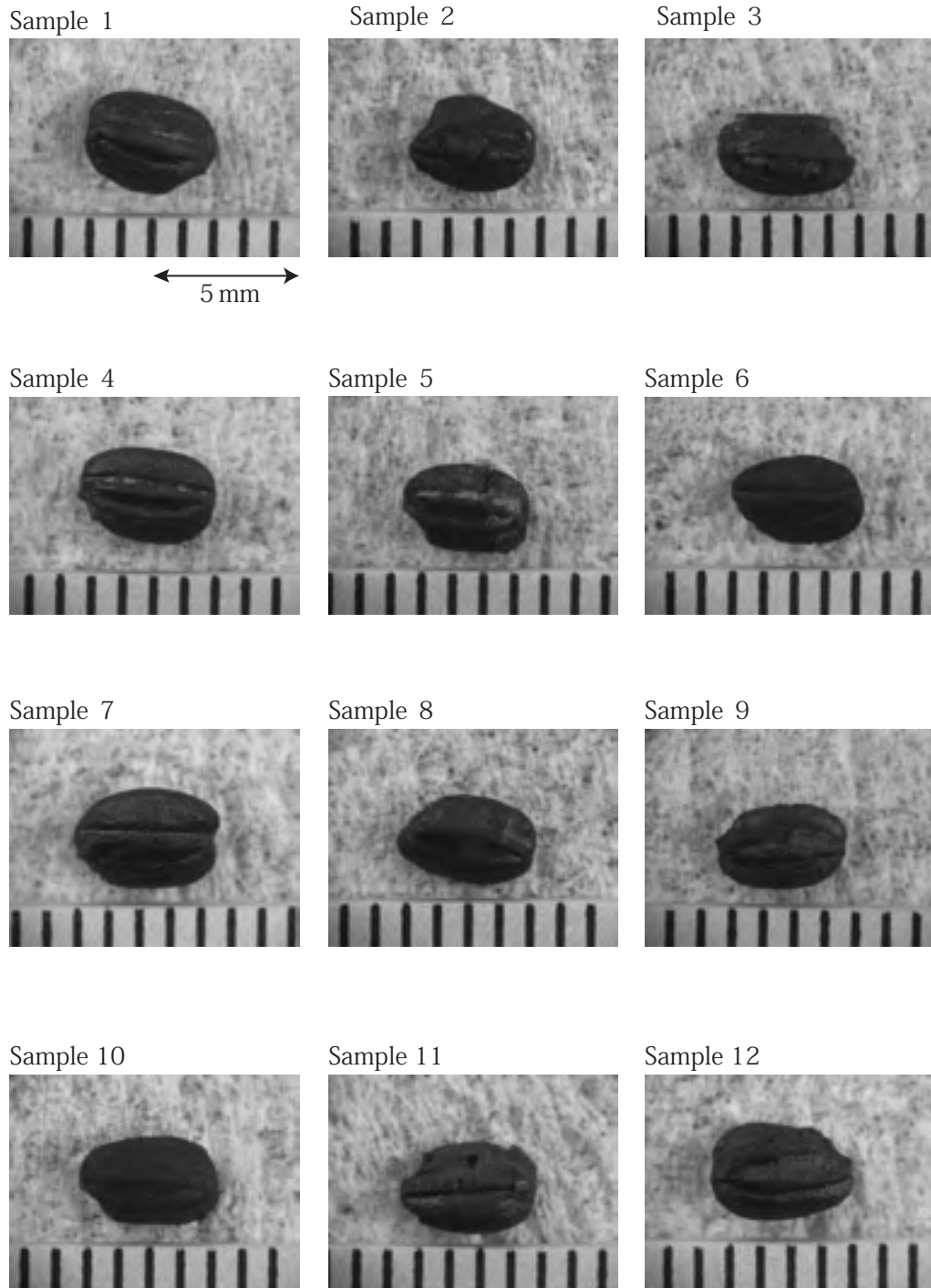


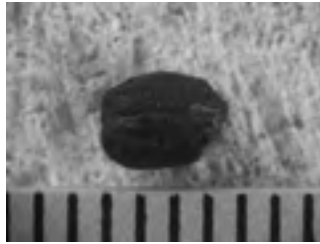
図1-2 デジタル顕微鏡によるDNA分析用サンプル画像

Sample 13

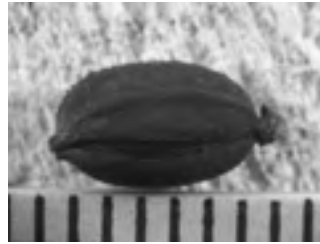


5 mm

Sample 14



Sample 15



Sample 16

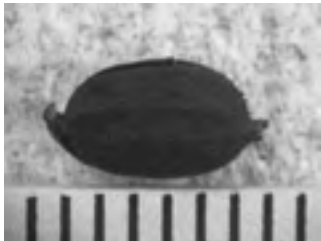


図2-1 SX01 (No.159) より出土した計測用サンプル画像

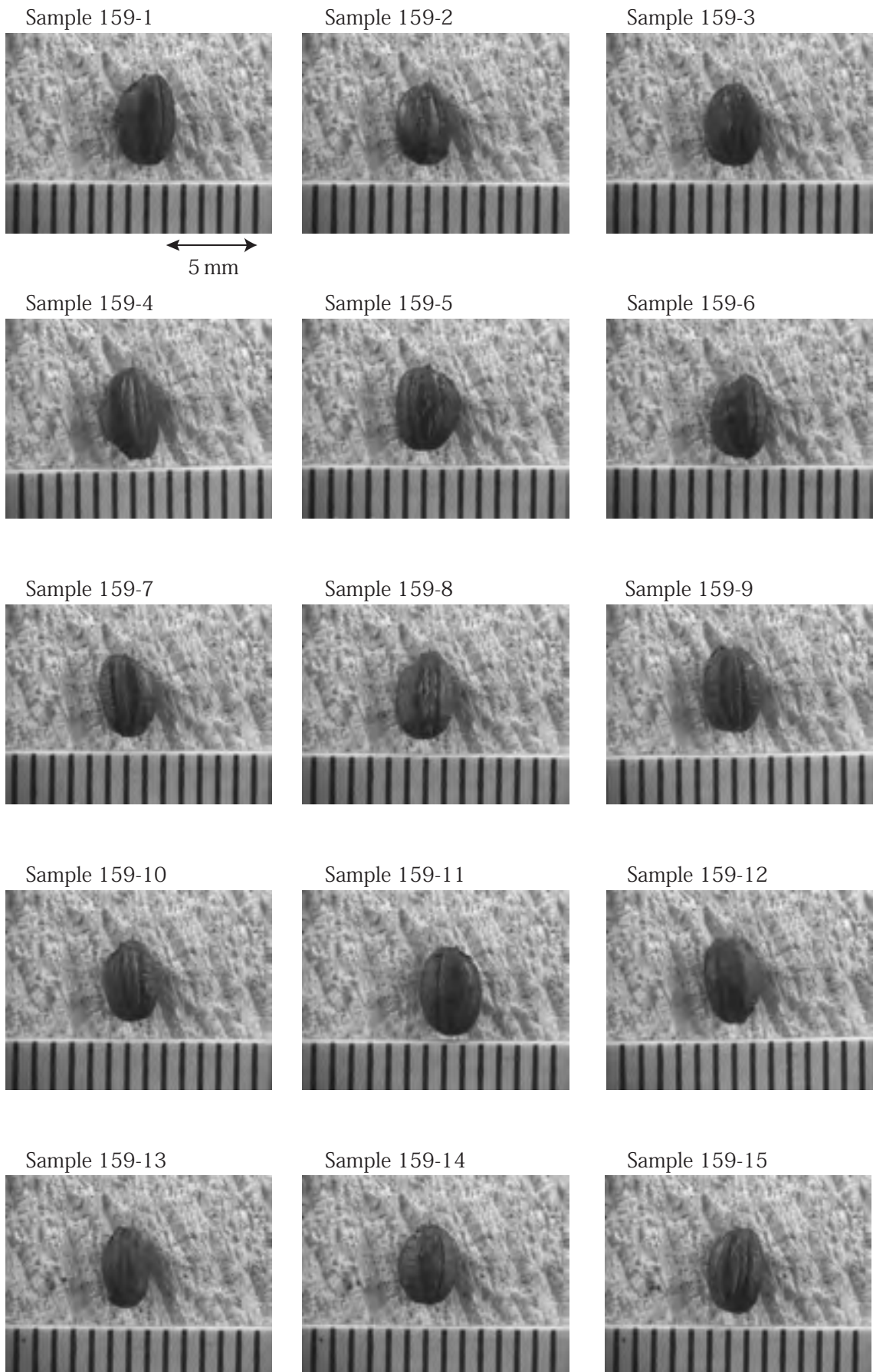




図2-2 S X 0 1 (No.159) より出土した計測用サンプル画像

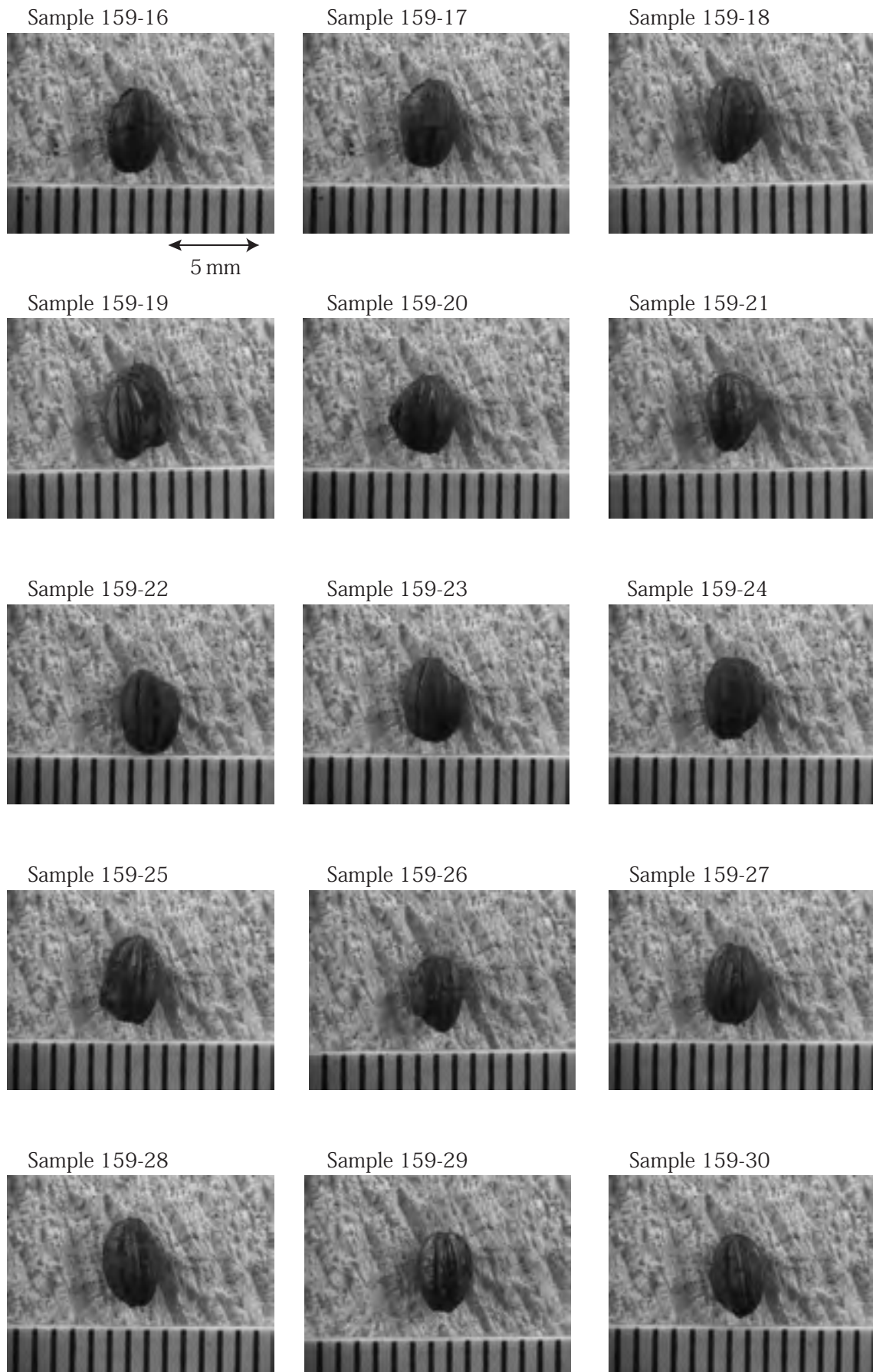


図2-3 S X 0 1 (No.159) より出土した計測用サンプル画像

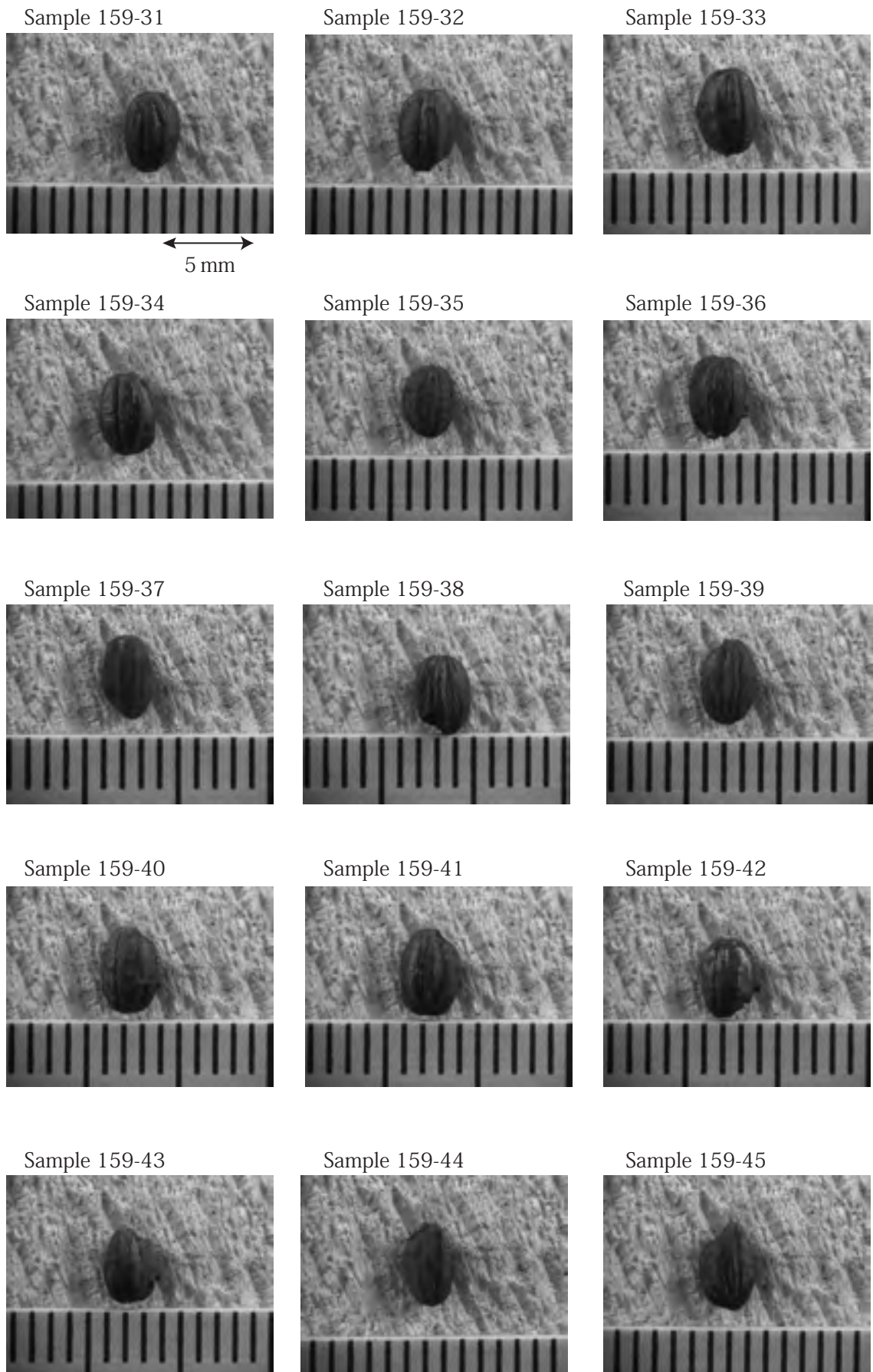


図2-4 S X 0 1 (No.159) より出土した計測用サンプル画像

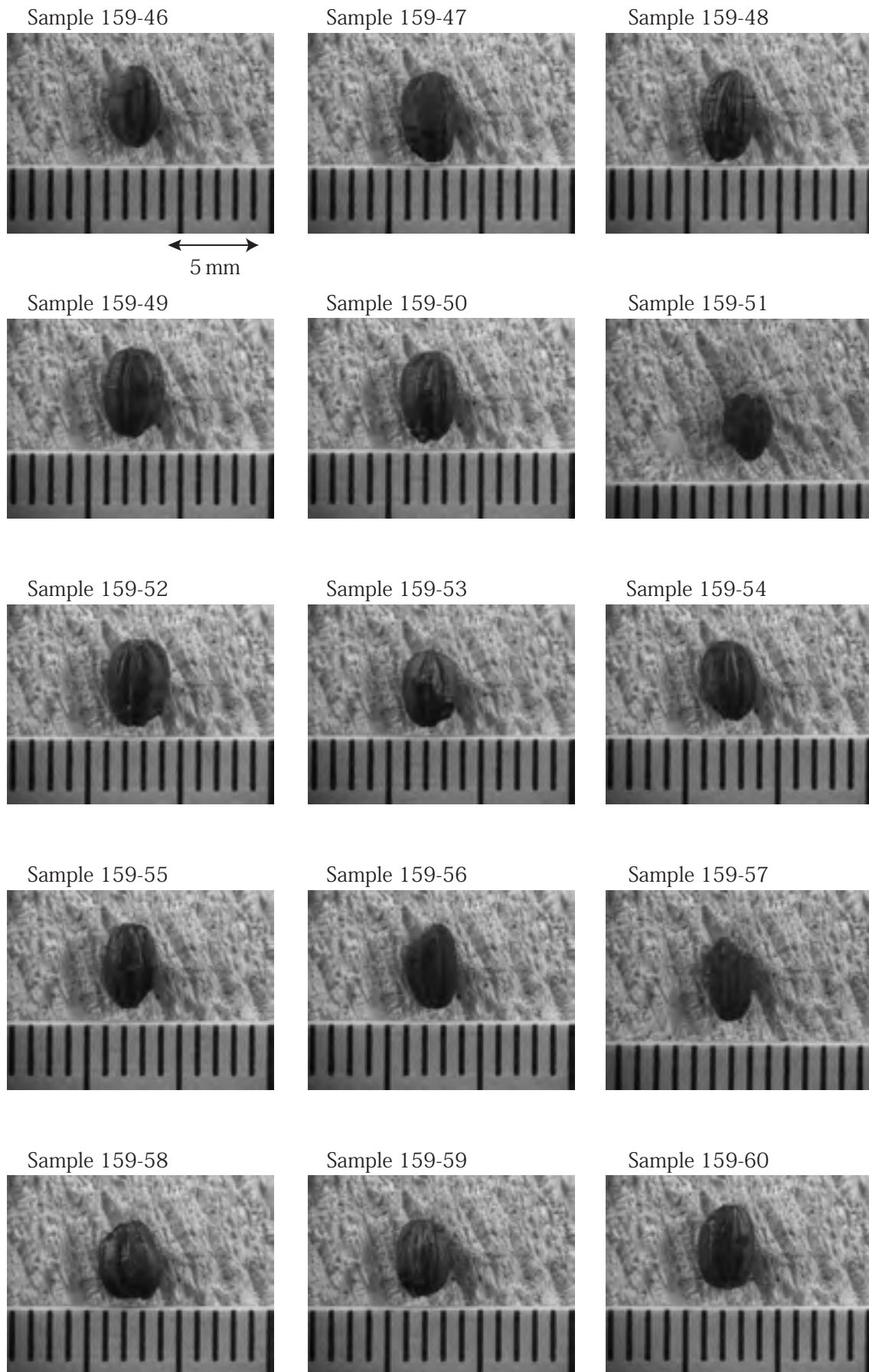


図2-5 S X 0 1 (No.159) より出土した計測用サンプル画像

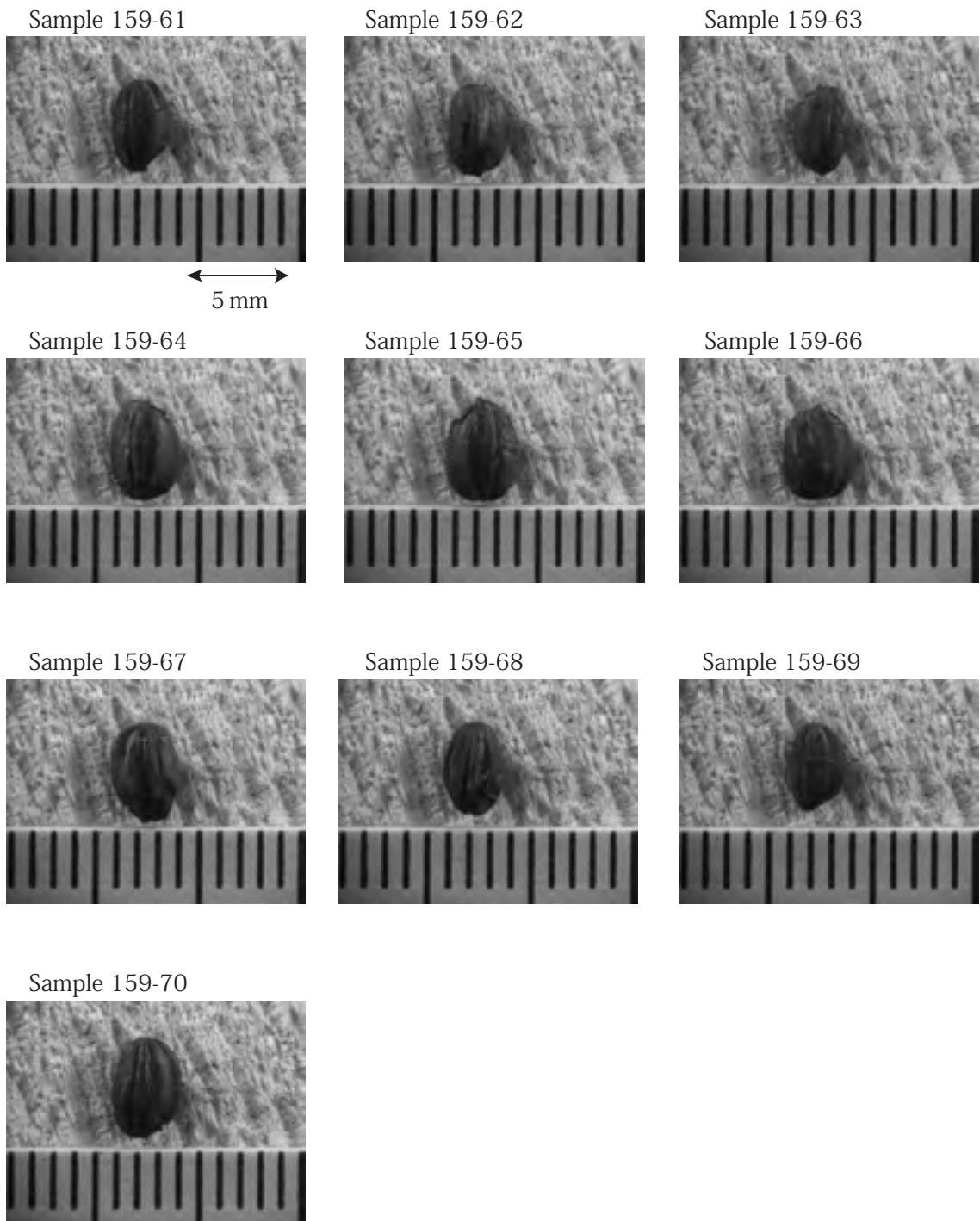




図3-1 SD13 (No.203) より出土した計測用サンプル画像

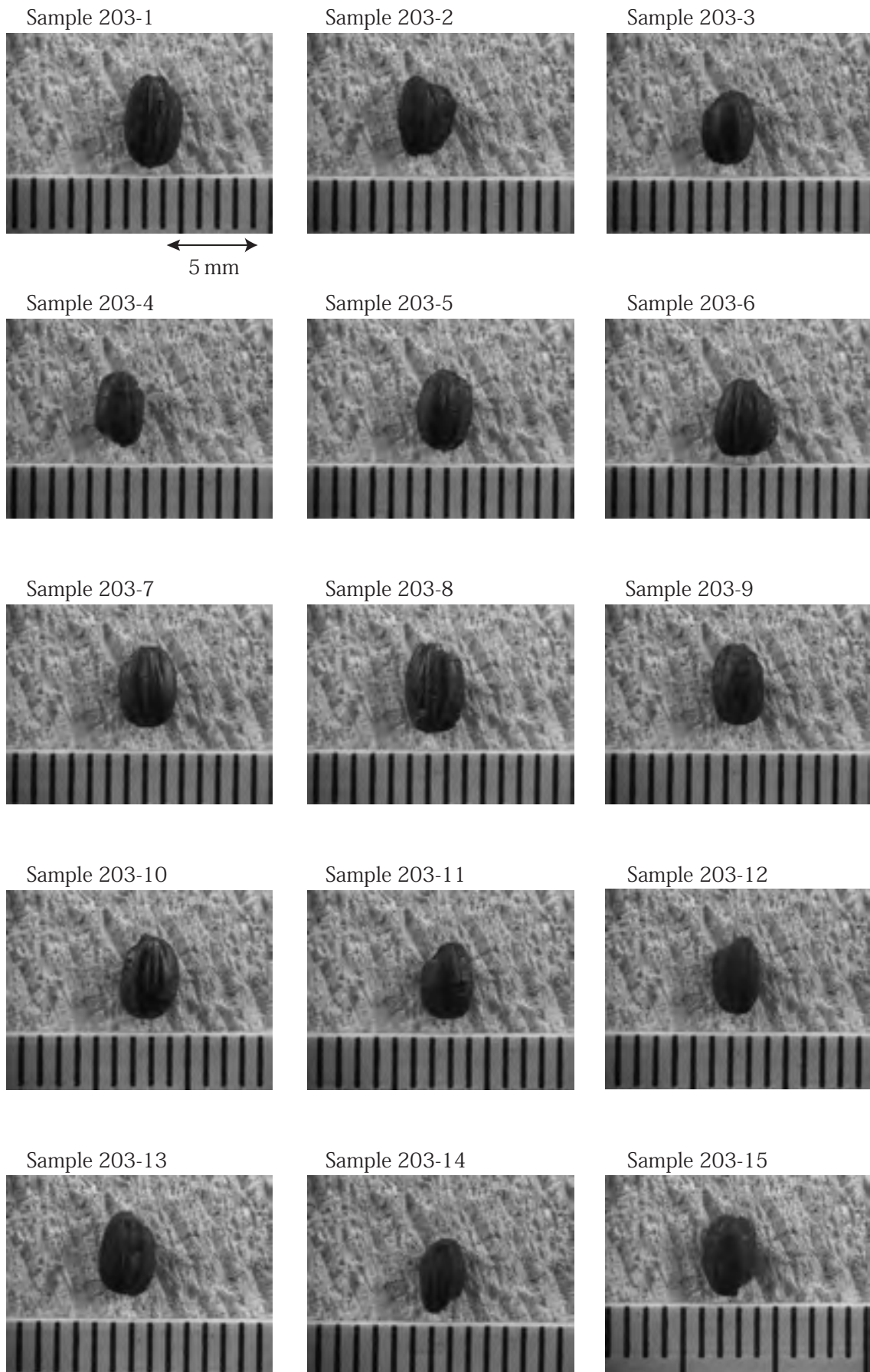


図3-2 SD13 (No.203) より出土した計測用サンプル画像

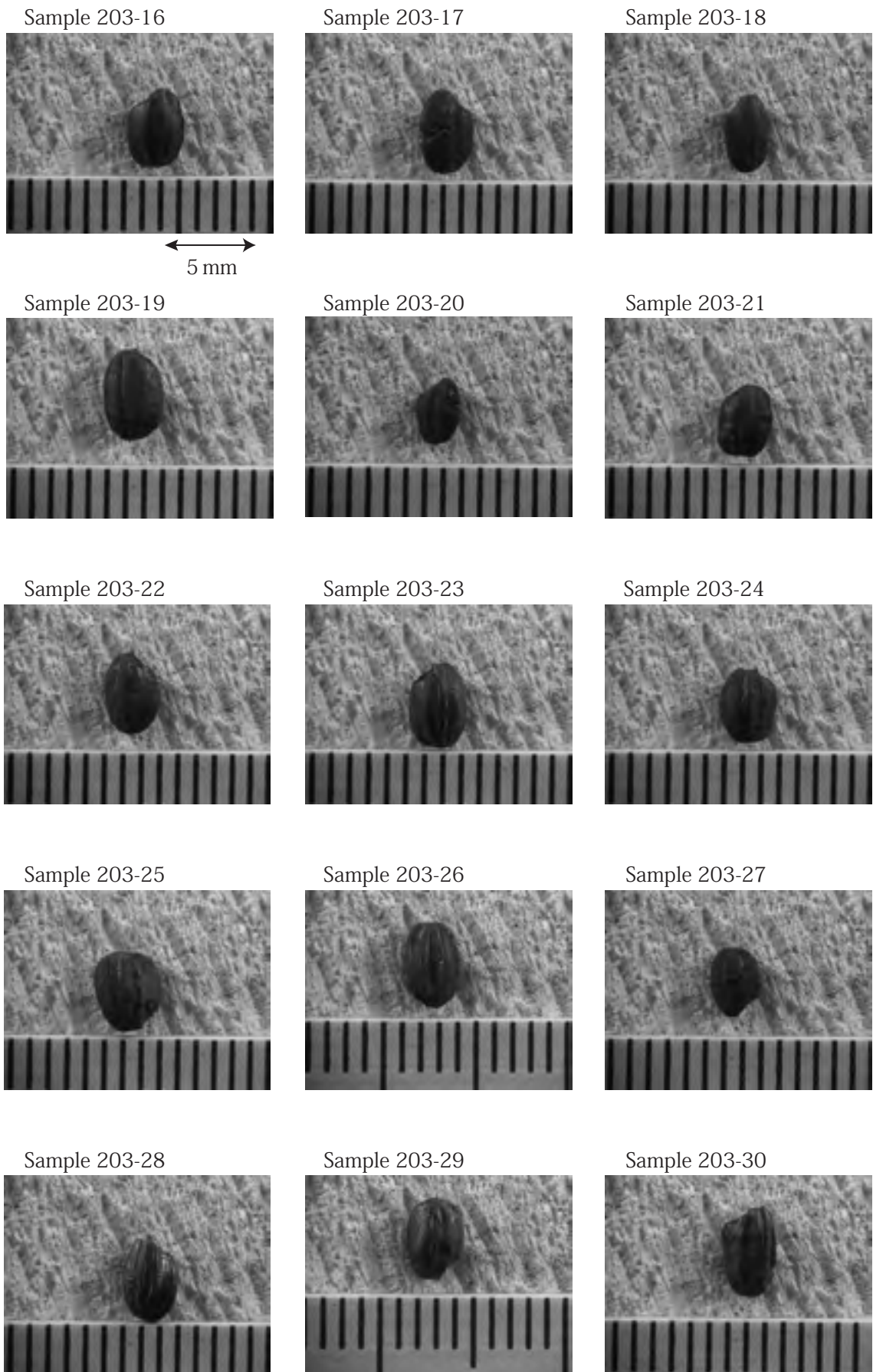


図3-3 SD13 (No.203) より出土した計測用サンプル画像

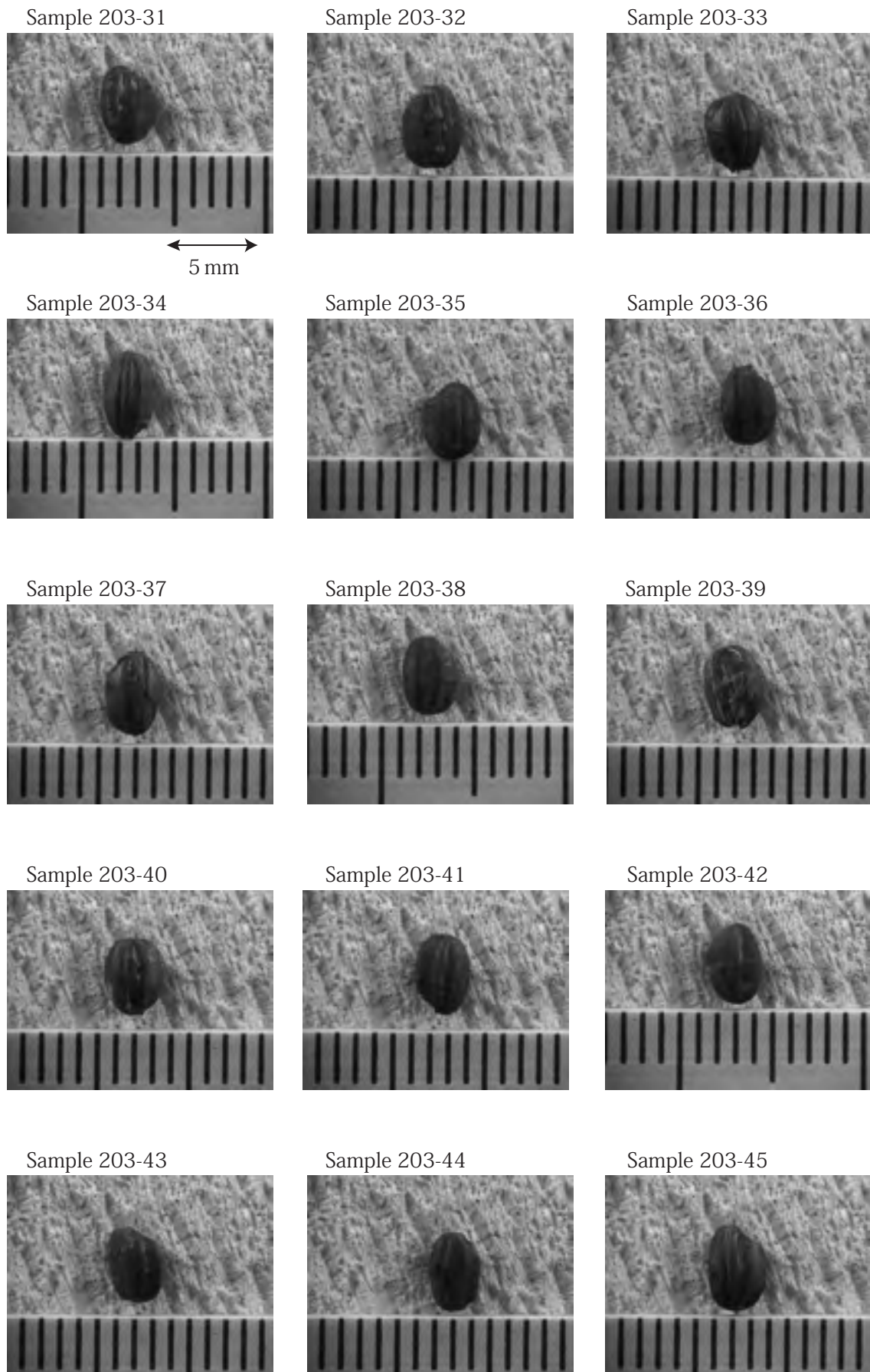




図3-4 SD13 (No.203) より出土した計測用サンプル画像

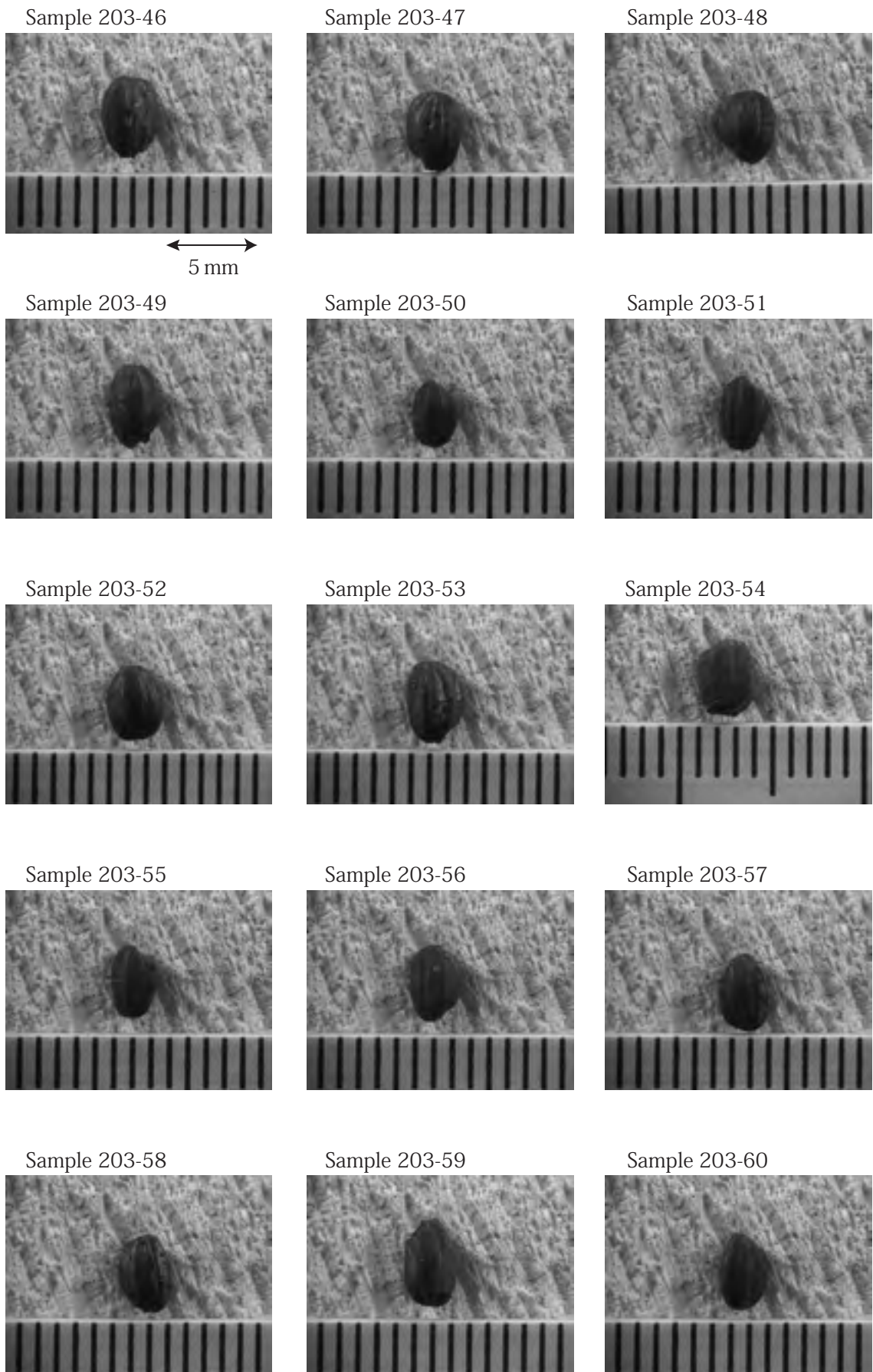




図3-5 SD13 (No.203) より出土した計測用サンプル画像

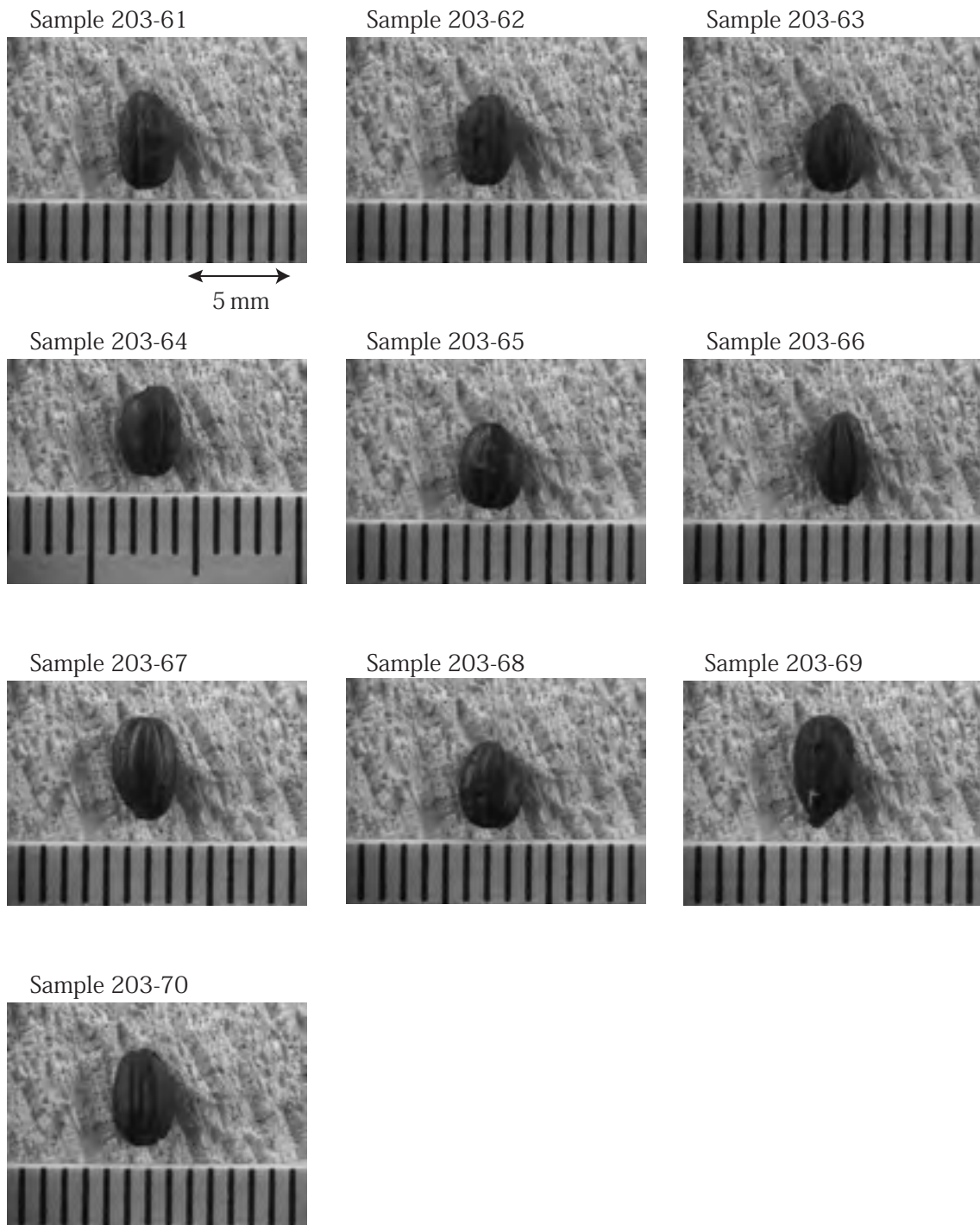


図4 第6染色体上のプライマーの位置

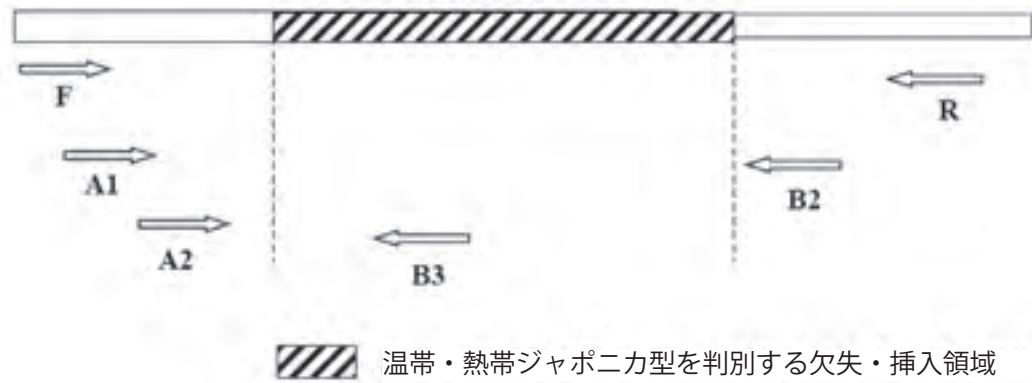


図5 SX01 と SD13 地点の各サンプルの長幅 (mm)

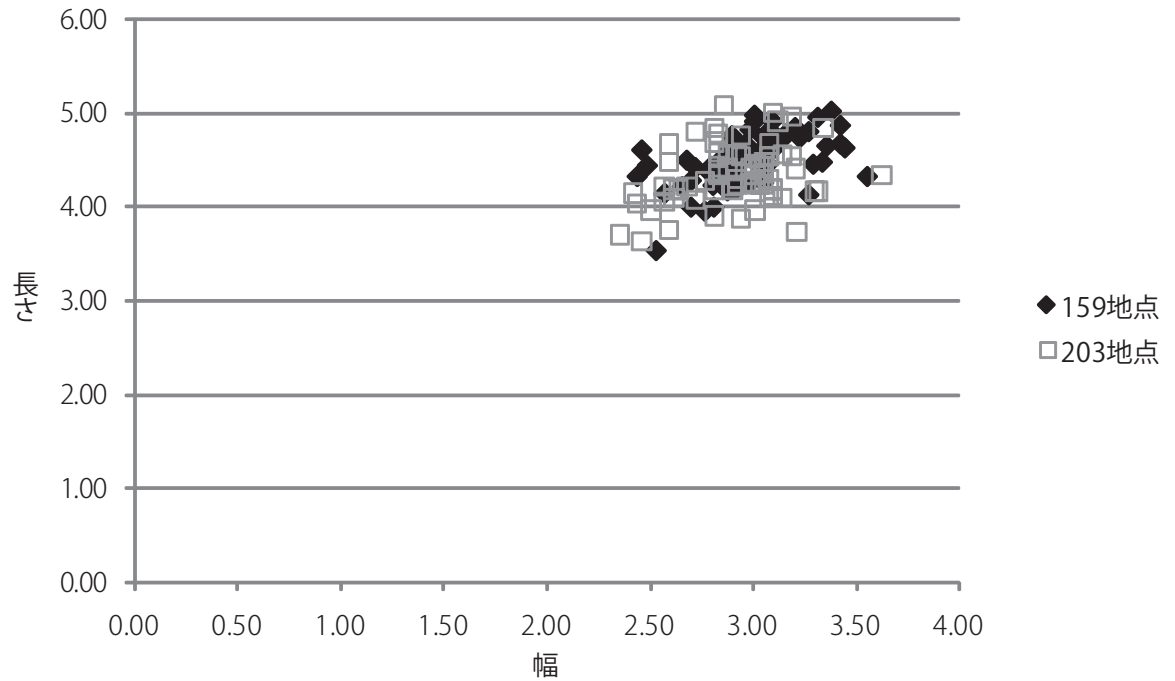
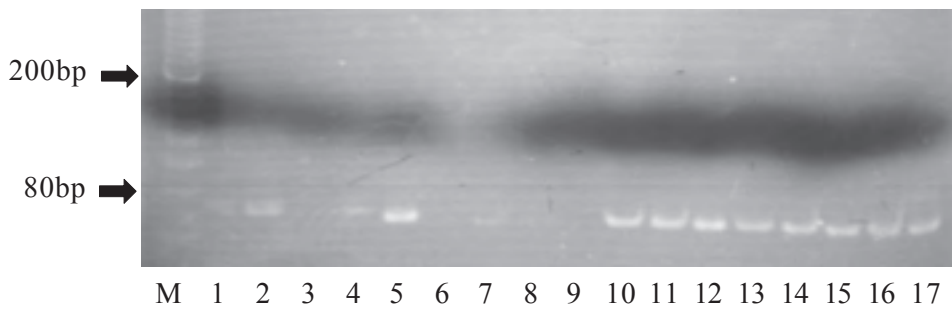


図6 プライマーA2・B2を用いたDNA増幅断片の泳動写真



M : 20bp Ladder  
 1~8 : SD13 (No.203) より出土のサンプル  
 9~16 : SX01 (No.159) より出土のサンプル  
 17 : 温帯ジャポニカ (コシヒカリ)

表1 SX01 (No.159) より出土したサンプルリストと計測値

サンプル番号	幅 (mm)	長さ (mm)	長幅比	粒大
159-1	3.32	4.97	1.50	16.49
159-2	2.86	4.48	1.57	12.81
159-3	3.08	4.46	1.45	13.73
159-4	3.09	4.83	1.57	14.90
159-5	3.45	4.64	1.34	16.00
159-6	3.01	4.53	1.50	13.63
159-7	3.06	4.51	1.47	13.76
159-8	3.14	4.73	1.50	14.85
159-9	3.00	4.51	1.50	13.53
159-10	2.79	4.42	1.58	12.33
159-11	3.43	4.88	1.42	16.73
159-12	2.92	4.60	1.58	13.40
159-13	2.44	4.33	1.77	10.57
159-14	3.06	4.26	1.40	13.03
159-15	2.97	4.68	1.58	13.89
159-16	2.92	4.59	1.57	13.43
159-17	3.06	4.75	1.55	14.50
159-18	2.96	4.57	1.55	13.53
159-19	2.72	4.43	1.63	12.05
159-20	3.56	4.33	1.22	15.41
159-21	2.57	4.15	1.61	10.68
159-22	3.10	4.62	1.49	14.30
159-23	3.36	4.66	1.39	15.67
159-24	3.30	4.46	1.35	14.71
159-25	2.90	4.68	1.61	13.58
159-26	2.70	4.00	1.48	10.81
159-27	2.88	4.37	1.52	12.59
159-28	2.99	4.84	1.62	14.45
159-29	2.81	4.23	1.51	11.89
159-30	2.84	4.48	1.58	12.71
159-31	2.92	4.35	1.49	12.72
159-32	3.06	4.46	1.46	13.63
159-33	3.17	4.79	1.51	15.16
159-34	2.85	4.32	1.51	12.31
159-35	2.77	3.96	1.43	10.95
159-36	2.92	4.42	1.51	12.91
159-37	2.68	4.51	1.68	12.08
159-38	2.90	4.20	1.45	12.18
159-39	2.95	4.57	1.55	13.46
159-40	3.10	4.66	1.50	14.44
159-41	3.23	4.75	1.47	15.34
159-42	2.95	4.31	1.46	12.69
159-43	2.81	4.00	1.42	11.25
159-44	2.49	4.45	1.79	11.07
159-45	3.03	4.59	1.51	13.93
159-46	2.79	4.37	1.57	12.21
159-47	2.90	4.77	1.64	13.83
159-48	3.01	4.92	1.64	14.82
159-49	3.28	4.81	1.47	15.76
159-50	3.01	4.99	1.66	15.02
159-51	2.53	3.53	1.39	8.94

サンプル番号	幅 (mm)	長さ (mm)	長幅比	粒大
159-52	3.43	4.68	1.37	16.05
159-53	2.92	4.20	1.44	12.27
159-54	2.99	4.26	1.43	12.75
159-55	2.95	4.62	1.57	13.59
159-56	2.88	4.59	1.60	13.22
159-57	2.46	4.62	1.87	11.36
159-58	3.28	4.13	1.26	13.53
159-59	2.88	4.18	1.45	12.02
159-60	2.99	4.55	1.52	13.60
159-61	2.84	4.48	1.58	12.71
159-62	2.86	4.37	1.53	12.50
159-63	2.66	4.22	1.59	11.22
159-64	3.21	4.86	1.51	15.59
159-65	3.39	5.03	1.49	17.04
159-66	3.34	4.48	1.34	14.98
159-67	3.10	4.68	1.51	14.51
159-68	2.84	4.44	1.57	12.59
159-69	2.70	4.29	1.59	11.59
159-70	3.10	4.92	1.59	15.26
平均値	2.977	4.504	1.519	13.444

表2 SD13 (No.203) より出土したサンプルリストと計測値

サンプル番号	幅 (mm)	長さ (mm)	長幅比	粒大
203-1	3.10	5.01	1.62	15.53
203-2	3.08	4.31	1.40	13.26
203-3	2.81	3.91	1.39	11.00
203-4	2.62	4.11	1.57	10.75
203-5	3.01	4.44	1.47	13.37
203-6	3.32	4.18	1.26	13.86
203-7	3.21	4.42	1.38	14.18
203-8	3.34	4.86	1.45	16.23
203-9	2.88	4.42	1.53	12.72
203-10	3.08	4.55	1.48	14.00
203-11	2.90	4.22	1.45	12.24
203-12	2.68	4.22	1.57	11.31
203-13	3.06	4.48	1.47	13.70
203-14	2.44	4.04	1.66	9.87
203-15	2.84	4.35	1.54	12.34
203-16	3.06	4.24	1.39	12.96
203-17	2.95	4.55	1.54	13.40
203-18	2.42	4.15	1.72	10.04
203-19	3.19	4.97	1.56	15.83
203-20	2.46	3.65	1.48	8.98
203-21	2.95	3.89	1.32	11.46
203-22	2.84	4.44	1.57	12.59
203-23	3.14	4.57	1.45	14.37
203-24	3.01	3.98	1.32	11.98
203-25	3.63	4.35	1.20	15.78
203-26	2.81	4.70	1.67	13.23
203-27	2.59	3.76	1.45	9.74
203-28	2.84	4.59	1.62	13.02
203-29	3.01	4.46	1.48	13.44
203-30	2.81	4.86	1.73	13.66



第6章 自然科学分析

サンプル番号	幅 (mm)	長さ (mm)	長幅比	粒大
203-31	3.10	4.20	1.35	13.01
203-32	3.19	4.55	1.43	14.50
203-33	3.03	4.24	1.40	12.87
203-34	2.59	4.68	1.81	12.14
203-35	3.10	4.13	1.33	12.81
203-36	3.01	4.35	1.45	13.10
203-37	2.92	4.57	1.56	13.36
203-38	2.92	4.31	1.47	12.59
203-39	3.08	4.55	1.48	14.00
203-40	3.14	4.11	1.31	12.92
203-41	2.99	4.42	1.48	13.21
203-42	2.90	4.20	1.45	12.18
203-43	2.73	4.09	1.50	11.14
203-44	2.77	4.29	1.55	11.87
203-45	3.08	4.68	1.52	14.40
203-46	3.06	4.44	1.45	13.56
203-47	2.99	4.26	1.43	12.75
203-48	3.21	3.75	1.17	12.03
203-49	2.88	4.57	1.59	13.16
203-50	2.35	3.71	1.58	8.74
203-51	2.57	4.07	1.58	10.45
203-52	3.08	4.11	1.34	12.65
203-53	3.03	4.44	1.46	13.47
203-54	3.30	4.18	1.27	13.77
203-55	2.51	3.98	1.59	9.96
203-56	2.64	4.20	1.59	11.07
203-57	2.62	4.20	1.61	10.98
203-58	2.81	4.20	1.49	11.81
203-59	2.73	4.81	1.77	13.12
203-60	2.57	4.22	1.64	10.85
203-61	2.84	4.79	1.69	13.58
203-62	2.84	4.37	1.54	12.40
203-63	2.92	4.24	1.45	12.40
203-64	3.06	4.37	1.43	13.36
203-65	3.10	4.20	1.35	13.01
203-66	2.59	4.48	1.73	11.63
203-67	3.12	4.92	1.58	15.36
203-68	3.01	4.24	1.41	12.77
203-69	2.86	5.10	1.78	14.57
203-70	2.95	4.77	1.62	14.04
平均値	2.917	4.352	1.500	12.720

表3 SX01 (No.159) の炭化米の粒形と傾向

粒形 (長幅比)	粒大	極極小	極小	小	中	合計
		<8	8.1-12.0	12.1-15.9	16<	
長粒	2.6-3.0					
(L)	2.3-2.6					
	2.0-2.3					
短粒	1.8-2.0					
(S)	1.6-1.8		3	8		11
	1.4-1.6		4	44	3	51
円粒	1.2-1.4		1	5	2	8
(R)	1.0-1.2					
合計			8	57	5	70

表4 SD13 (No.203) の炭化米の粒形と傾向

粒形 (長幅比)	粒大	極極小	極小	小	中	合計
		<8	8.1-12.0	12.1-15.9	16<	
長粒	2.6-3.0					
(L)	2.3-2.6					
	2.0-2.3					
短粒	1.8-2.0			1		1
(S)	1.6-1.8		5	7		12
	1.4-1.6		11	32	1	44
円粒	1.2-1.4		3	9		12
(R)	1.0-1.2			1		1
合計			19	50	1	70

表5 全サンプルの炭化米の粒形と傾向

粒形 (長幅比)	粒大	極極小	極小	小	中	合計
		<8	8.1-12.0	12.1-15.9	16<	
長粒	2.6-3.0					
(L)	2.3-2.6					
	2.0-2.3					
短粒	1.8-2.0			1		1
(S)	1.6-1.8		8	15		23
	1.4-1.6		15	76	4	95
円粒	1.2-1.4		4	14	2	20
(R)	1.0-1.2			1		1
合計			27	107	6	140

表6 全国から出土したイネ種子との比較

遺跡	時期	長さ (mm)	幅 (mm)	長幅比 (mm)
西川津 (鳥根県松江市)	弥生時代前期	4.43	2.95	1.51
西郷 (新潟県新潟市)	弥生時代前期	4.48	2.57	1.75
西郷 (新潟県新潟市)	弥生時代中期	4.57	2.65	1.74
有鼻 (兵庫県三田市)	弥生時代中期	4.08	2.28	1.79
都城 平田 (宮崎県都城市)	弥生時代中期	4.86	2.93	1.66
井図地中ソネ (鳥取県琴浦町)	弥生時代後期	5.21 ± 0.74	3.17 ± 0.94	1.64 ± 0.27
下老子笹川 (第2次・富山県高岡市)	弥生時代後期	4.91 ± 0.53	2.80 ± 0.31	1.76 ± 0.20
妻木晩田 (鳥取県大山町)	弥生時代後期末	4.80	2.70	1.78
西沼田 (山形県天童市)	古墳時代後期	4.39 ± 1.32	2.83 ± 0.74	1.55 ± 0.23
泉沢 (群馬県前橋市)	古墳時代 (5世紀後半～6世紀)	4.63	3.02	1.54
本宮熊堂B遺跡 (岩手県盛岡市)	奈良時代	5.05	2.82	1.79
加治屋B (宮崎県都城市)	平安時代	5.23	2.65	1.98
正坂原 (宮崎県都城市)	平安末～鎌倉時代初頭	4.72	2.21	2.14
竹ノ内II (富山県朝日町)	鎌倉～室町時代 (13世紀～14世紀)	4.47 ± 1.50	2.48 ± 1.11	1.83 ± 0.83
都之城跡 (宮崎県都城市)	戦国時代～中世初頭	4.42	2.52	1.76
加治屋B (宮崎県都城市)	江戸時代後期	5.45	2.16	2.53

注：数値は報告書に記載の値を引用した。

表7 プライマー別の泳動結果

試料番号	A1・B3	A2・B2	A2・B3	判定結果
1	Tr	Tm	Tr	H
2	Tr	Tm		H
3				—
4		Tm		Tm
5		Tm		Tm
6				—
7		Tm		Tm
8		Tm		Tm
9	Tr	Tm	Tr	H
10		Tm		Tm
11		Tm		Tm
12		Tm	Tr	H
13		Tm		Tm
14		Tm		Tm
15	Tr	Tm	Tr	H
16		Tm		Tm

Tr：熱帯ジャポニカ型 Tm：温帯ジャポニカ型 H：交雑種

## 第6節 西川津遺跡 H21～H23 年度調査に伴う自然科学分析

渡辺正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）

### はじめに

西川津遺跡は、島根県東部松江市街地北東の朝酌川中流域に位置する遺跡である。

本報は、文化財調査コンサルタント株式会社が遺跡周辺地域の古環境復元の目的のために、H21 年度から 23 年度に掛けて島根県教育庁埋蔵文化財調査センターから受託・実施・報告した花粉分析、植物珪酸体分析、CNS 分析及び AMS 年代測定の成果をまとめ直したものである。

### 試料について

発掘地のトレンチの配置と試料採取地点を図 1 に示す。各地点の模式柱状図及び試料採取層準を各ダイアグラムに示している。全ての分析試料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターとの協議の上、文化財調査コンサルタント株式会社が採取した。

### 分析方法

#### (1) 微化石概査

後述の花粉分析用プレパラート、及び花粉分析処理残渣を顕微鏡下で観察し、植物片、炭、珪藻、火山ガラス、植物珪酸体の相対的含有状況を調べた。含有状況は 5 段階に分けて記録した。

#### (2) 花粉分析

渡辺（2010）に従い分析処理を行った。検鏡に当たり、プレパラートを光学顕微鏡下の 400

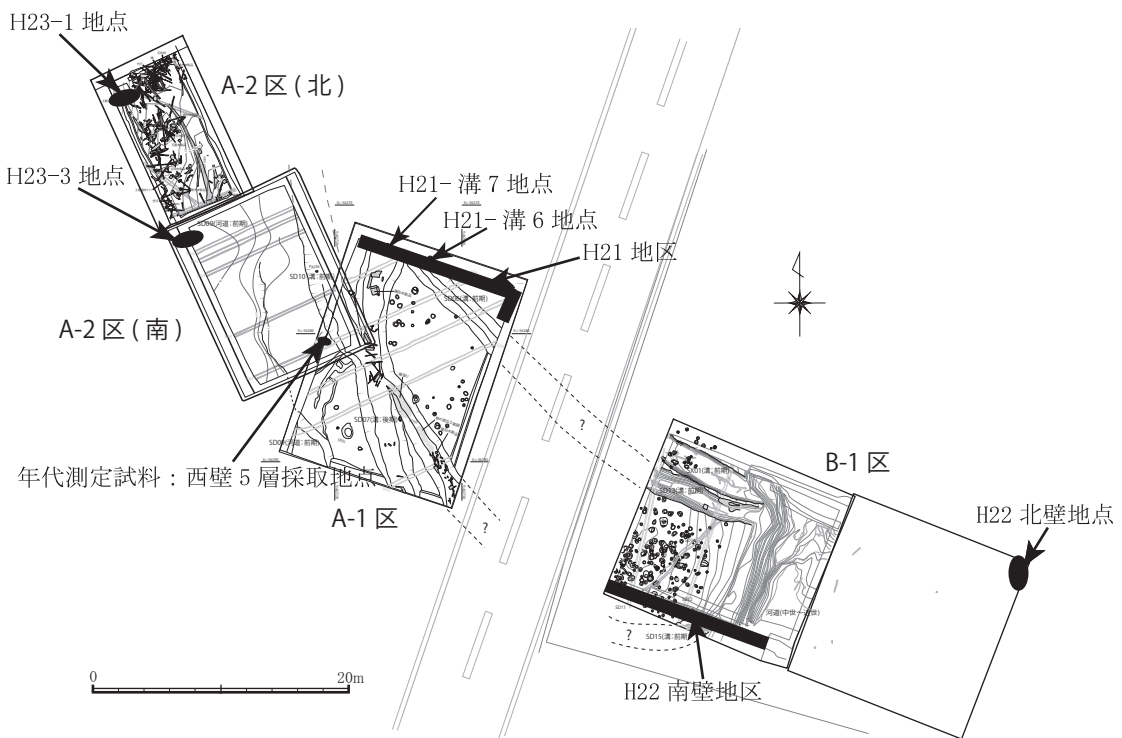


図 1 調査区の配置



～1000倍率で観察し、原則的に木本花粉で200粒以上の検定、計数を行い、同時に出現する草本・藤本花粉と孢子の検定、計数も行った。また中村（1974）に従い、イネを含む可能性が高いイネ科（40ミクロン以上）とイネを含む可能性が低いイネ科（40ミクロン未満）に細分している。

(3) 植物珪酸体分析

藤原（1976）のグラスビーズ法に従い分析処理を行った。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて行った。同定に際して、イネ亜科の機動細胞由来の分類群を対象とした。また、植物珪酸体と同時に計数したグラスビーズの個数が300を超えるまで計数を行った。

(4) CNS分析

高安（2004）にしたがって調整した試料について、Thermo Finnigan 社製 Flash Ea1112 CHNSによりTN、TOC、TS濃度を測定した。スタンダード試料にはBBOTを用いている。

(5) AMS年代測定

塩酸による酸洗浄（試料により、酸洗浄の後に水酸化ナトリウムによるアルカリ処理、更に再度酸洗浄を行った。）の後、二酸化炭素を生成、精製し、グラフアイトに調整した。<sup>14</sup>C濃度の測定にはタンデム型イオン加速器を用い、半減期：5568年で年代計算を行った。暦年代較正にはOxCal ver. 4.15 (Bronk Ramsey, 2009)を用い、INTCAL09及びMARINE09 (Reimer et al., 2009)を利用した（CNS分析で海成（汽水成）層の可能性のある試料についてMARINE09による較正を実施した。）。

分析結果

(1) 微化石概査

表1に概査結果を示す。

(2) 花粉分析

表1 微化石概査結果

地区・地点	試料No	花粉	炭	植物片	珪藻	火山ガラス	植物珪酸体	地区・地点	試料No	花粉	炭	植物片	珪藻	火山ガラス	植物珪酸体
H21	1-1	◎	△	○	△×	△	△	H22-北壁	4-1	○	○	◎	△	○	◎
	1-3	○	△	△×	×	△	○		4-2	△	△×	◎	△	△	◎
	1-5	○	△	△×	△×	△	○		4-3	△×	△×	◎	△×	△	○
	1-7	△	△×	△×	×	△	○		4-4	△×	△×	◎	×	△	○
	2-1	◎	△×	△×	△	○	○	H23-1	1	◎	○	△	×	△	◎
	2-3	△×	△×	△×	×	△	○		2	◎	◎	△	△	△	◎
	3-1	△×	△×	△×	×	△	△		3	◎	○	△	×	○	◎
	3-2	△×	△×	△×	×	○	○		4	◎	○	○	△	△	○
	H21-溝6	1	△×	△×	△×	×	△		△	5	◎	○	○	△	○
H21-溝7	2	△×	△×	△×	×	○	△		6	◎	◎	○	○	○	○
H22-南壁	1-1	◎	○	○	○	△	◎		7	◎	○	△	△	△	○
	1-2	◎	△	○	△	△	◎	8	◎	○	△	△	◎	△	
	1-3	◎	△	○	△	△	◎	9	○	○	○	△	△	△	
	1-4	◎	△	○	△	△	○	10	◎	○	○	○	△	△	
	1-5	○	△	○	○	△	○	H23-3	4	◎	△	○	×	△	◎
	1-6	△×	◎	△×	×	△	○		6	○	◎	○	×	△×	△
	1-8	△	○	△	△×	△	△		7	◎	◎	△	△	○	△
	1-9	△×	○	△	×	△	△		8	◎	○	○	△	○	◎
	1-10	◎	△	○	×	△×	△×		9	◎	△	◎	△	◎	◎
	1-11	◎	△	◎	△×	△	△		10	◎	△	◎	○	○	◎
	1-12	◎	○	◎	△×	△	△		11	◎	△	◎	○	△	○
	1-13	○	△	◎	×	△	△	13	◎	△	◎	△	△	△	
	1-14	○	△×	◎	△×	△	△	凡例 ◎：十分な数量が検出できる ○：少ないが検出できる △：非常に少ない △×：極めてまれに検出できる ×：検出できない							
	1-15	○	△×	◎	×	△	△×								
	1-16	○	△×	◎	×	△×	△								
	1-17	○	△×	◎	×	△×	△								
2-2	○	○	○	◎	△×	◎									
2-4	△	△×	◎	△×	△×	△×									
2-5	○	△	◎	○	△×	△×									
2-6	○	△	◎	△×	○	○									

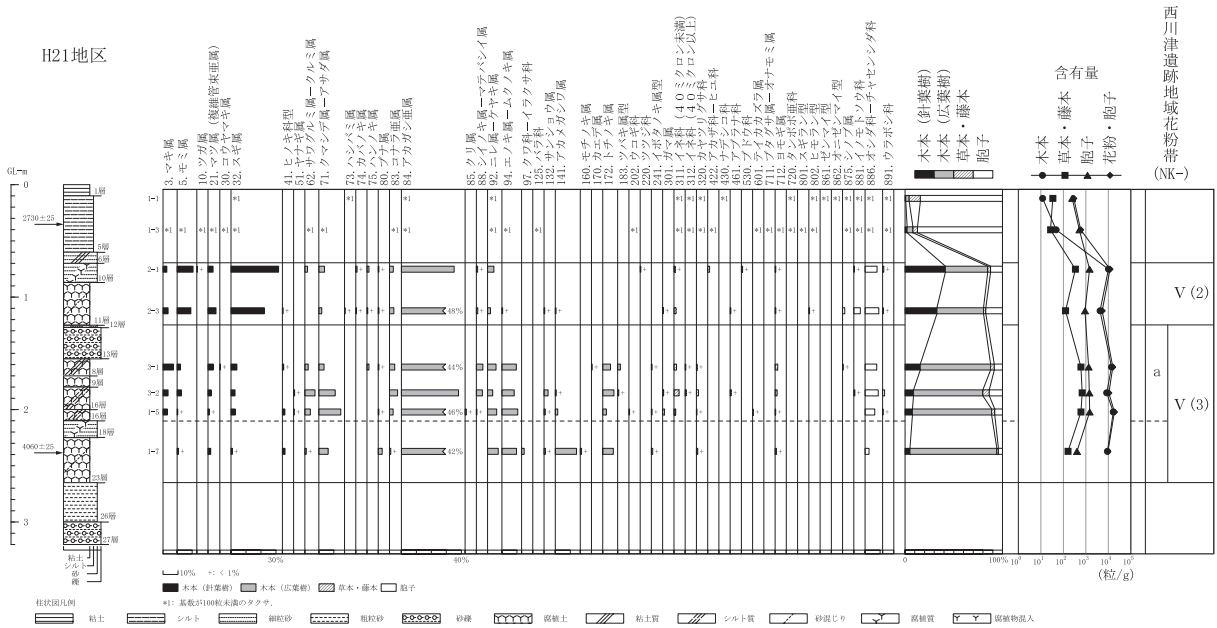


図2 H21 地区の花粉ダイアグラム

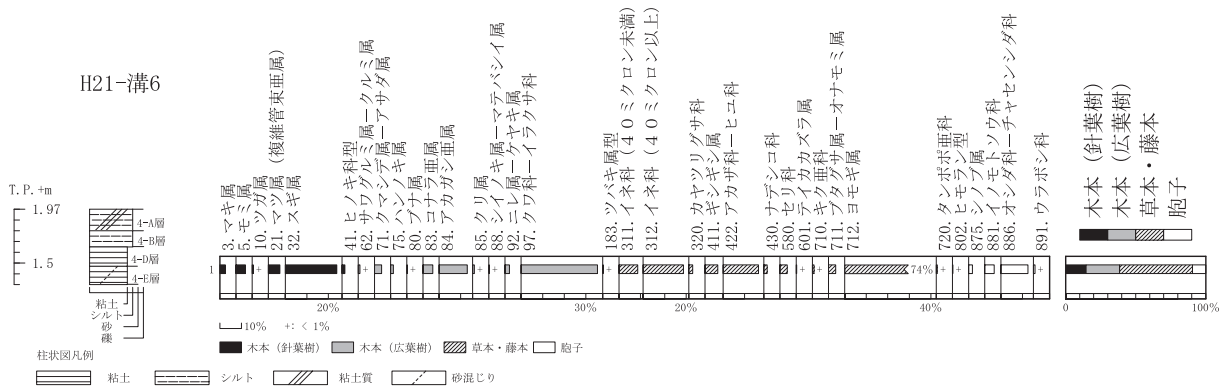


図3 H21- 溝6 地点の花粉ダイアグラム

花粉分析結果を図2～8の花粉ダイアグラムに示す。花粉ダイアグラムでは、各々の木本花粉、草本・藤本花粉、一部の孢子について、計数した木本花粉を基数にした百分率を算出してスペクトルで表したほか、「総合ダイアグラム」として分類群ごとにこれらの総数を基数として、累積百分率としてスペクトルで表した。さらに、分類群ごとの単位重量当たりの含有量を、折れ線グラフで示した。

(3) 植物珪酸体分析

分析結果を図9の植物珪酸体ダイアグラムに示す。植物珪酸体ダイアグラムでは、1gあたりの含有量（検出密度）に換算した数を、検出した分類群ごとにスペクトルで示した。

(4) CNS分析

図10～13のCNSダイアグラムに分析結果を示す。CNSダイアグラムでは、それぞれの測定値のほかC/N比、C/S比を算出して示した。

(5) AMS年代測定

測定結果を表2に示す。

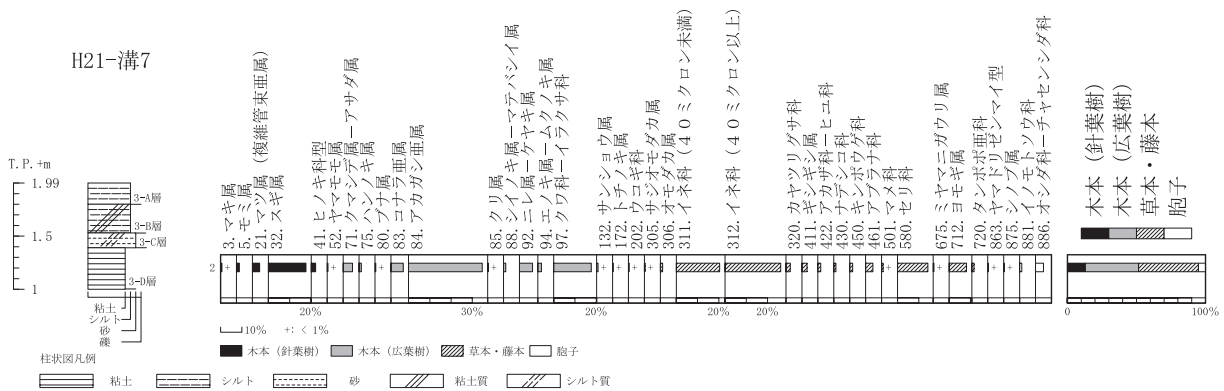


図4 H21- 溝7地点の花粉ダイアグラム

花粉分帯と従来の花粉分析結果との比較・対比

西川津遺跡では、渡辺（2009）によって地域花粉帯が設定されている。花粉分析結果を基に既知の分析結果との比較・対比を行った。以下に、下位から上位に向けて述べる。

(1) NK- VII帯 b 亜帯 (H22- 北壁地点 2、1)

① 花粉化石群集の記載

アカガシ亜属がその外の種類に比べやや高率を示し、コナラ亜属、マツ属（複維管束亜属）、クマシデ属 - アサダ属、ニレ属 - ケヤキ属、ムクノキ属 - エノキ属がこれに次ぐ。

② 従来の花粉分析結果との比較・対比

1 で、 $6,650 \pm 30$  yrBP の年代値が得られている。ただし、CNS 分析の結果、1 は汽水環境下で堆積したと考えられることから、海洋リザーバー効果によって、やや新しい年代値が与えられるべきであろう。K-Ah 火山灰の降灰が、6,300 yrBP ころとされていること、調査地で K-Ah 火山灰層が見つからなかったことから、降灰のやや前であったと考えられる。

同時期の花粉分析結果は渡辺（2001）、渡辺（2003）で報告され、今回と同様な花粉化石群集が得られている。

(2) NK- VI帯 (H23-1 地点 10 ~ 1)

① 花粉化石群集の記載

アカガシ亜属が他の種類に比べ高率を示し、コナラ亜属、マツ属（複維管束亜属）がこれに次ぐ。更にクマシデ属 - アサダ属、ニレ属 - ケヤキ属、ムクノキ属 - エノキ属もやや高率を示す。また、下部の 10 ~ 6 ではスギ属が低率であるが、上部の 5 ~ 1 では増加し 10% 程度の出現率となる。

② 従来の花粉分析結果との比較・対比

下部で  $5,735 \pm 25$  yrBP（較正年代：BC4,682-4,504）、上部で  $4,520 \pm 25$  yrBP（較正年代：BC3,355-3,103）の年代値が得られている。ただし、CNS 分析の結果、下部の分析試料は汽水環境下で堆積したと考えられ、海洋リザーバー効果を考慮すると、やや新しい較正年代が与えられることになる。

同時期の花粉分析結果は 97 V 区 -A（渡辺，2001）、01 IV 区（渡辺，2003）で報告されており、今回の II 帯 a、b 亜帯と同様な花粉化石群集（NK- VI 帯 a、b 亜帯（渡辺，2009））が得られている。このことから、今回の上部が NK- VI 帯 a 亜帯、下部が b 亜帯に対比される。

(3) NK- V (3) 帯 (H21 地区 1-7 ~ 3-1、H22- 南壁地点 2-6 ~ 1-15)

① 花粉化石群集の記載

アカガシ亜属がその外の種類に比べ高率で、増加傾向を示す。その外マキ属、クマシデ属 - アサダ属、ニレ属 - ケヤキ属、ムクノキ属 - エノキ属、トチノキ属が特徴的に出現する。下部では針葉樹の割合が低く、ムクノキ属 - エノキ属、ニレ属 - ケヤキ属などのニレ科が特徴的に検出される。上部ではマキ属の出現率が高くなる。一方で、ムクノキ属 - エノキ属、ニレ属 - ケヤキ属などのニレ科が減少傾向を示す。

② 従来の花粉分析結果との比較・対比

下部 (H22- 南壁地点 1-7) で  $4,060 \pm 25\text{yrBP}$  (較正年代: BC2,836-2,489) の年代値が得られているほか、上位の H22- 南壁地点 1-3) で  $2,730 \pm 25\text{yrBP}$  (較正年代: BC897-822) の年代値が得られている。西川津遺跡では従来、縄文時代後期から晩期にかけての堆積物が欠如しており、分析の対象になっていなかった。従来の花粉帯では NK- VI帯と V帯の間に位置することから、暫定的に NK- V (3) 帯とし、下部を b 亜帯、上部を a 亜帯とした。

(4) NK- V (2) 帯 (H21 地区 2-3 ~ 2-2、H22- 南壁地点 1-14 ~ 1-10)

① 花粉化石群集の記載

アカガシ亜属が高率を示すものの、モミ属の増加傾向、スギ属のピーク、トチノキ属の消滅で特徴付けられる。H22- 南壁地点の下部では下位の V (3) 帯に比べモミ属が高率に、スギ属がやや高率になる。中部ではモミ属、スギ属が高率になる。一方でアカガシ亜属は減少し、トチノキ属はほとんど検出されなくなる。上部ではスギ属は減少に転ずるが、モミ属は更に増加する。アカガシ亜属は再度高率に回復するが、トチノキ属は検出されなくなる。一方、H21- 地区 2-3 ~ 2-2 ではス

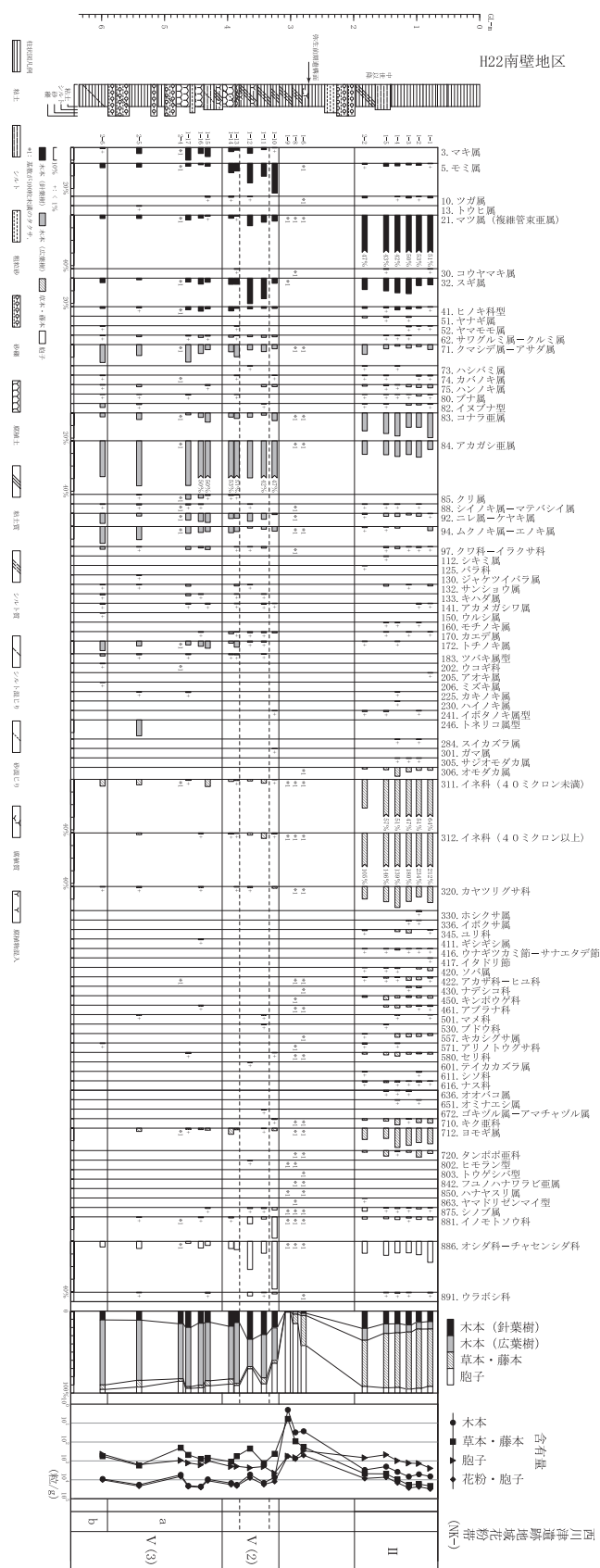


図 5 H22- 南壁地区の花粉ダイアグラム



ギを始めとする針葉樹種が高率を示し、H22- 南壁地点の中部の特徴を持つ。

② 従来の花粉分析結果との比較・対比

前述のように従来、縄文時代後期から晩期にかけての堆積物が欠如しており、分析の対象になっていなかった。下位の層準を暫定的にNK- V (3) 帯としたことから、本層準をNK- V (2) 帯とした。

(5) NK- IV帯 (H23-3 地点 13 ~ 4)

① 花粉化石群集の記載

スギ属、アカガシ亜属が高率を示すが、共に減少傾向を示す。一方マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属は増加傾向を示し、コナラ亜属は上部でスギと同程度の出現率を示すようになる。

② 従来の花粉分析結果との比較・対比

弥生時代前期から奈良時代頃の花粉化石群集は、96 III区（渡辺, 1999）、V -1 区（渡辺, 2001）、C 区（渡辺, 2011）で得られており、NK- IV帯 b 亜帯が対応する。ただし、NK- IV帯 b 亜帯とされる花粉化石群集は、地点によって若干様相が異なっていた。このことは、西川津遺跡の範囲が広いことから、局地的な植生の影響が現れたことに起因すると考えられる。さらに、NK- IV帯 b 亜帯が弥生時代前期から奈良時代と数百年間に渡る時期を示しながらデータが断続的であったことも、地点間で花粉化石群集の様相が異なる原因の一つと考えられる。今回の b' 亜帯とした弥生時代中期のコナラ亜属の増加で特徴付けられる花粉化石群集は従来報告されたことがなく、NK- IV帯が更に細分できる可能性がある。

(6) NK- II帯 (H22- 南壁地点 2-2、1-5 ~ 1-1)

① 花粉化石群集の記載

マツ属（複維管束亜属）が卓越し、コナラ亜属、スギ属、アカガシ亜属を伴う。

② 従来の花粉分析結果との比較・対比

中世以降近代の花粉化石群集は、V -1 区（渡辺, 2001）、H19-1、5 地点（渡辺, 2011）で得られており、NK- II帯が対応する。NK- II帯はマツ属（複維管束亜属）の卓越で特徴付けられるが、前半の時期にはコナラ亜属やアカガシ亜属の外、スギ属等を伴っている（渡辺, 2009）。今回の花粉化石群集の特徴はNK- II帯前半の特徴と一致する。

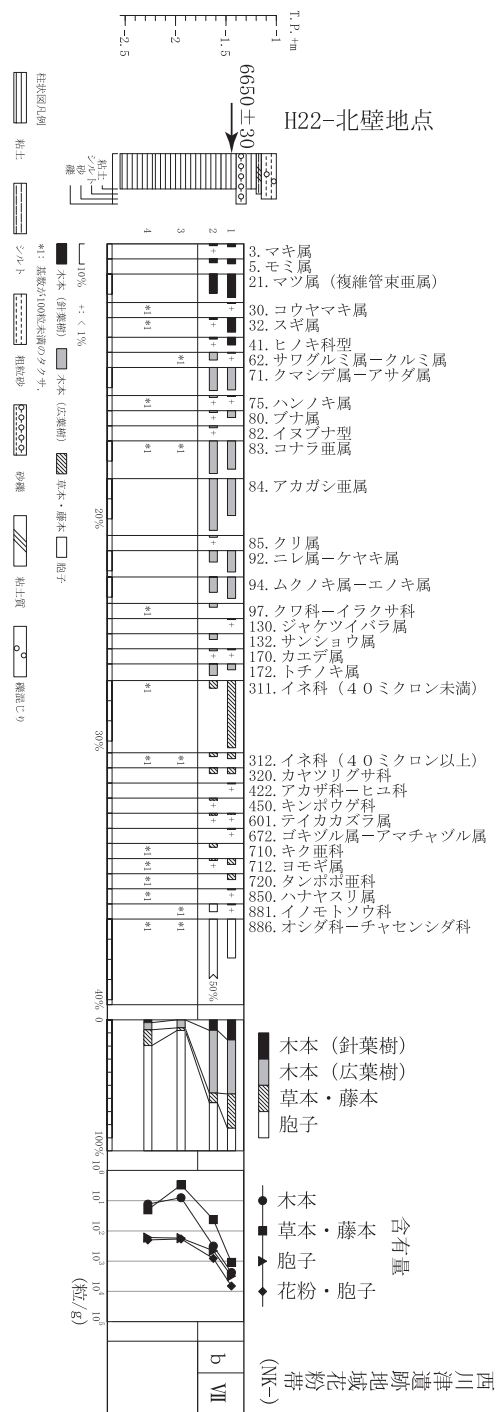


図 6 H22- 北壁地点の花粉ダイアグラム

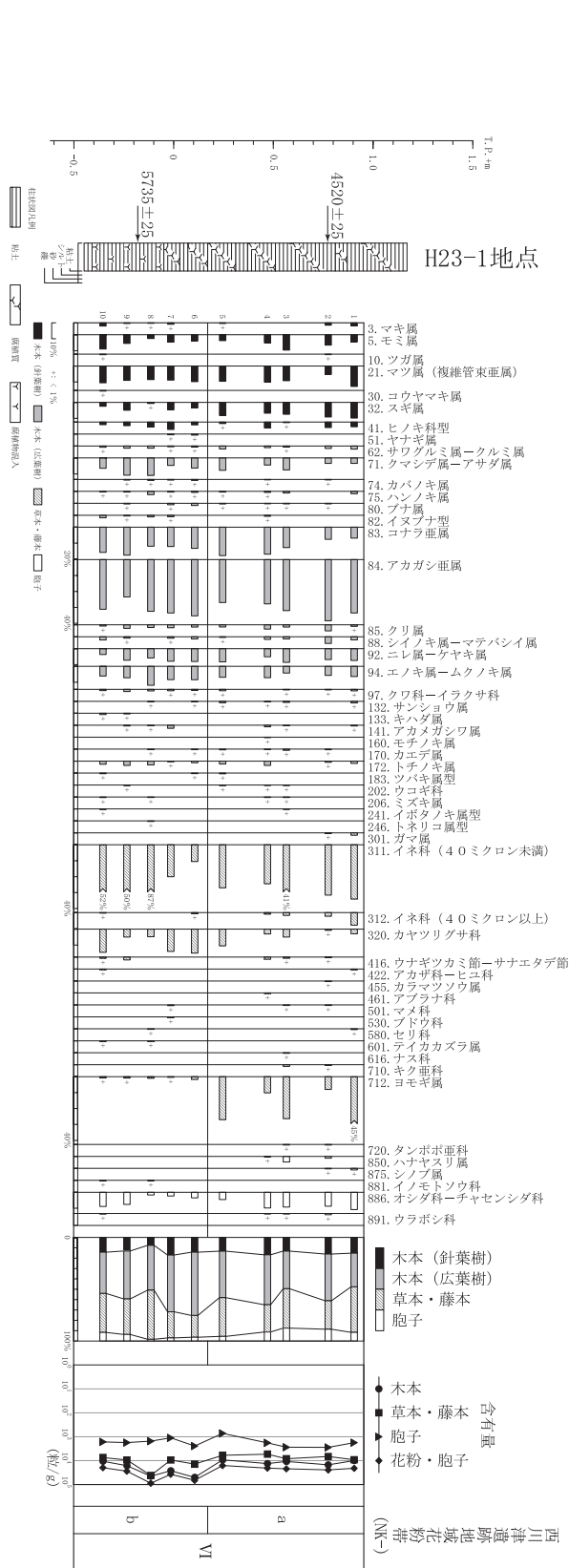


図7 H23-1 地点の花粉ダイアグラム

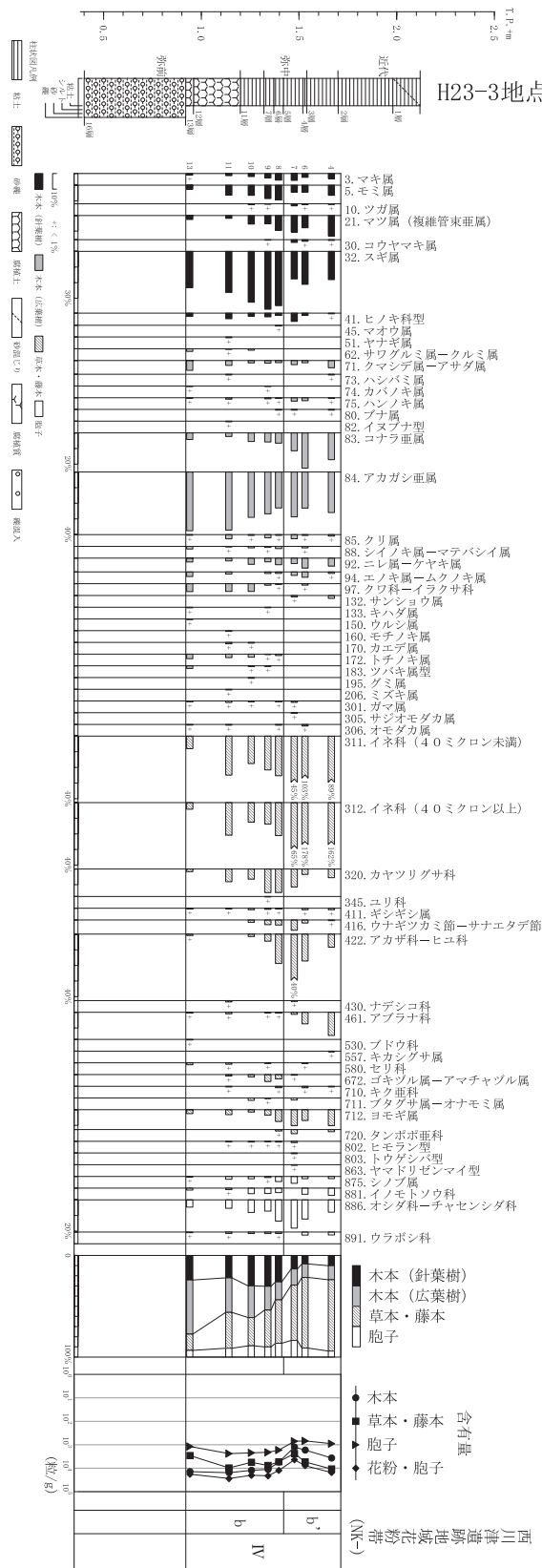
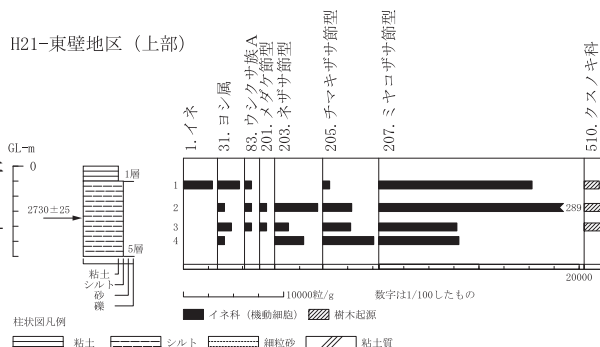


図8 H23-3 地点の花粉ダイアグラム

## 古環境（堆積環境、古植生）の推定

花粉帯ごとに堆積環境、古植生を推定する。植生の変化を時間軸に沿って、古い時期から新しい時期へと示すために、ここでは下位のNK-VII帯 b 亜帯から示す。



### (1) NK- VII帯 b 亜帯（縄文時代早期末ころ）

#### ① 花粉帯の示す時期について

前述のように 6,650 ± 30 yrBP の <sup>14</sup>C 年代が 図 9 H21- 東壁地区の植物珪酸体ダイアグラム 得られ、K-Ah 火山灰層の降灰前と考えられることから、縄文時代早期末ころの植生を反映していると考えられる。

#### ② 堆積環境の推定

イオウ濃度は 1% 未満であるが、C/S 比は 2.5 ~ 2.7 と低く、炭素濃度が 0.5% 以上であることから、汽水環境で堆積したと考えられる。試料の採取深度は TP-1.5m ほどで、従来の推定値（中村, 2006）を追従する結果である。調査地点は古松江湾奥に位置していたものと考えられる。

#### ③ 古植生の推定

##### 1) 岸部近くの植生

調査地点が水域であったことを踏まえると、木本花粉の割合が高いものの湖岸まで林分が迫っていたとは考えにくい。検出された木本花粉の多くは、谷筋や沖積河川の自然堤防上の林分の構成種となるものであることから、このことは指示される。岸边にはアシ原やマコモの群落が広がるほか、カヤツリグサ科やキンポウゲ科、キク科の湿性草本やゴキズルなども生育していたと考えられる。

##### 2) 森林植生

河川沿いにはニレ科やアラカシなどが自然堤防林を成しており、丘陵の谷沿いにはトチノキやサワグルミを主要素とする溪畔林が分布していたと考えられる。一方、周辺の丘陵上、嵩山・和久羅山山系や北山山地にはカシ類を主要素とする照葉樹林が分布し、モミやスギ、コウヤマキを混淆する場所もあった。これらの針葉樹は、山地高所では温帯針葉樹林を成していた可能性もある。また、アカマツ、コナラ類やシデ類は丘陵や山地で遷移林を成していたと考えられる。

### (2) NK- VI帯（縄文時代前期から中期）

#### ① 花粉帯の示す時期について

前述のように下位で 5,735 ± 25 yrBP、上位で 4,520 ± 25 yrBP の <sup>14</sup>C 年代が得られ、縄文時代前期から中期ころの植生を反映していると考えられる。

#### ② 堆積環境の推定

全体に TS は 1% 程度より高く、TOC も 3% より高く、試料 No. 4、2 では C/S 比が 5 を超えることからこれら 2 試料は淡水環境で堆積したものと推定できる。ただし試料 No. 2 を採取した c 層は細砂の薄層を挟み、試料 No. 4 を採取した d 層は暗灰色粘土と黒色粘土の互層と、淡水の影響が強い汽水と捉えることができる。一方、その他の試料は汽水（海水）環境で堆積したものと推定

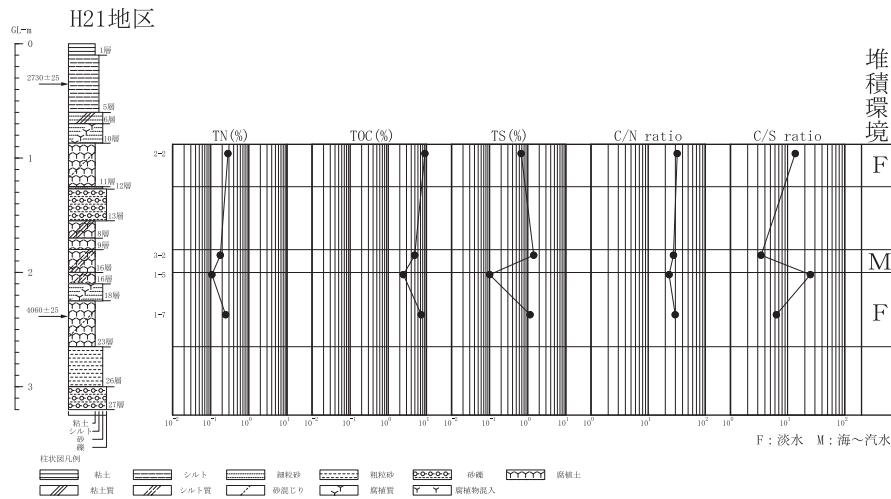


図 10 H21 地区の CNS ダイアグラム

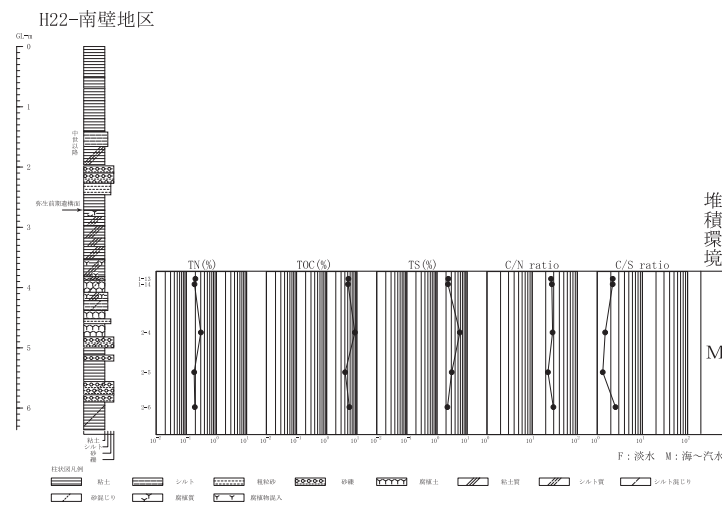


図 11 H22-南壁地区の CNS ダイアグラム

される。陸域からの距離が変化したと考えられるが、調査地は古松江湾奥の岸边近くに位置していたと考えられる。

一方花粉分析結果では草本花粉が比較的高率で検出され、調査地点が水域であったことを踏まえると、岸边に近かったと考えられる。また、b 亜帯上部では草本花粉の割合が減少傾向を示し、徐々に陸域から離れたと考えられ、穴道湖の湖水準の上昇（海進？）が示唆される。a 帯に入ると一転して草本花粉が増加し、ヨモギ属など陸域に生育する種類や、ガマ属など淡水抽水植物が検出される。このことから湖水準が低下（海退？）し、陸域（あるいは淡水域）が近づいたことが分かる。

また、花粉化石の含有量は、a 亜帯に比べ b 亜帯が相対的に多い。このことから、b 亜帯（下部）の堆積速度が a 亜帯（上部）の堆積速度に比べ遅かった可能性がある。

### ③ 古植生の推定

#### 1) 岸部近くの植生

b 亜帯ではイネ科（40 ミクロン未満）花粉が高率を示すことから、岸部近くにはアシ原やマコモの群落が広がっていたと考えられる。また、カヤツリグサ科花粉も比較的高率を示し、ホタルイ類が生育していた可能性もある。

a 亜帯ではカヤツリグサ科花粉が低率に成り、ヨモギ属花粉が高率を示すようになる。また、



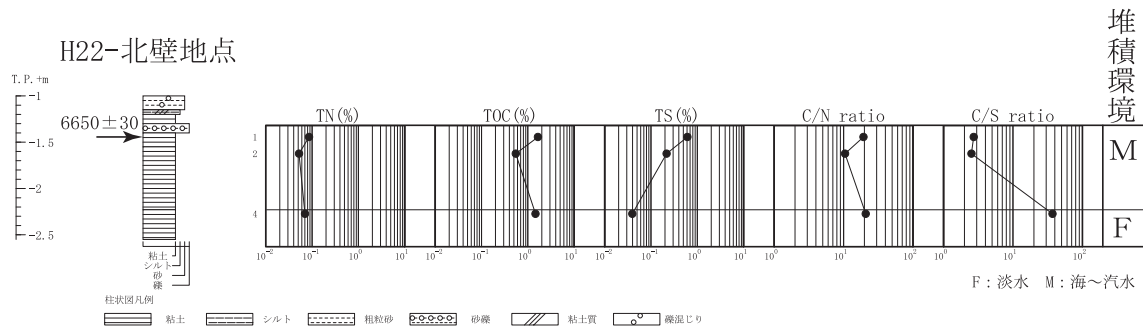


図 12 H22- 北壁地点の CNS ダイアグラム

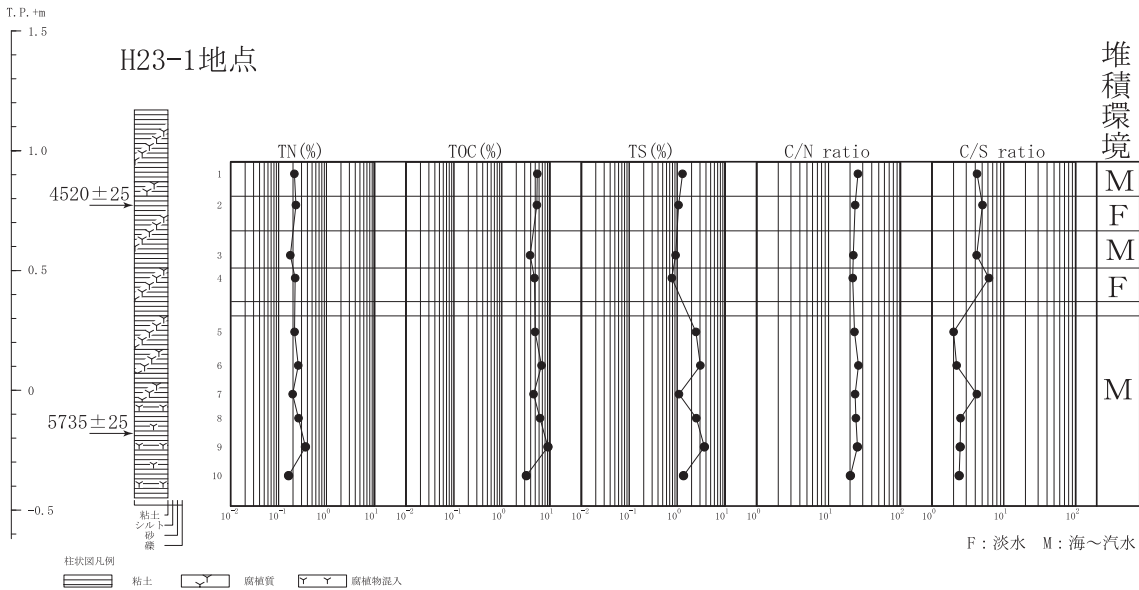


図 13 H23-1 地点の CNS ダイアグラム

僅かであるがガンマ属も検出される。前述のように、一転して陸域に近づき流入河川の岸边にはガンマ類が、陸域にはヨモギ類が生育していたと考えられる。

## 2) 森林植生

検出した花粉化石群集から河川沿いにはニレ科やアラカシなどが自然堤防林を成しており、丘陵の谷沿いにはトチノキやクルミ類を主要素とする溪畔林が分布していたと考えられる。一方、周辺の丘陵上、嵩山・和久羅山山系や北山山地にはカシ類を主要素とする照葉樹林が分布し、モミヤスギ、イヌマキ、ツガ、コウヤマキを混淆する場所もあった。これらの針葉樹のうち、モミヤスギ、ツガ、コウヤマキ山地高所では温帯針葉樹林を成していた可能性もある。また、アカマツ、コナラ類やシデ類は丘陵や山地で遷移林を成していたと考えられる。

## (3) NK- V (3) 帯 (縄文時代後期ころ)

### ① 花粉帯の示す時期について

H21 地区において NK- V (3) 帯下部で  $4,060 \pm 25$  yrBP、NK- V (2) 帯上位で  $2,730 \pm 25$  yrBP の年代が得られていることから、V (3) 帯は  $3,000 \sim 4,000$  yrBP (縄文時代後期) の植生を反映していると考えられる。

### ② 堆積環境の推定

H21- 地区では 1-7、1-5 では C/S 比が 5 以上を示すことから淡水環境で堆積したと考えられる。

表 2 AMS 測定結果

地点	試料			前処理	測定年代 <sup>1</sup> (yrBP±1σ)	δ <sup>13</sup> C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP±1σ)	補正年代 <sup>2</sup> (yrBP±1σ)	暦年較正年代(INTCAL09)		暦年較正年代(MARINE09)		測定番号 (PLD-)
	層準	種別	重量(g)						1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲	
H21地区	西壁5層 T.P.+1.62m	炭化材(土中 炭片)	14.362	酸→ア ルカリ →酸	2758±24	-26.63±0.14	2730±23	2730±25	BC897-840(68.2%)	BC918-822(95.4%)	BC512-407(68.2%)	BC594-382(95.4%)	15789
	東壁23層 1-7層準	腐植土	20.140	酸	4124±26	-28.83±0.19	4060±26	4060±25	BC2829-2823( 2.9%) BC2626-2567(48.3%) BC2521-2498(17.0%)	BC2836-2815( 7.1%) BC2671-2547(63.5%) BC2540-2489(24.9%)			15790
H22-北壁	試料1層準	腐植土	19.850	酸	6552±31	-19.09±0.35	6648±31	6650±30	BC5621-5558(68.2%)	BC5631-5521(95.4%)	BC5278-5204(68.2%)	BC5312-5419(95.4%)	17789
H23-1	c層上部 試料2層準	腐植質粘土	204.605	酸	4434±25	-19.72±0.19	4521±25	4520±25	BC3350-3324(13.4%) BC3234-3172(30.9%) BC3162-3117(23.8%)	BC3355-3264(30.4%) BC3241-3103(65.0%)			19314
	j層上部 試料8層準	腐植土	70.017	酸	5763±27	-26.55±0.12	5737±26	5735±25	BC4651-4642( 4.3%) BC4617-4537(63.9%)	BC4684-4631(19.4%) BC4624-4504(76.0%)	BC4257-4167(68.2%)	BC4307-4110(95.4%)	20135

\*<sup>1</sup>δ<sup>13</sup>C補正年代 \*<sup>2</sup>δ<sup>13</sup>C補正年代

一方 3-2 では C/S は 3.4 と低く、TOC が 4.935%、TS が 1.435% と高いことから、海水から汽水水域で堆積したと考えられる。これらの標高は TP+1.01 ~ 1.37m と狭い範囲にある。調査地点が河口域に位置し、淡水の影響が強かったものと考えられる。

H22- 南壁地区ではイオウ濃度が 2% を超え、C/S 比も 0.7 ~ 2.5 と低く、炭素濃度が数% を示すことから、海水から汽水水域で堆積したと考えられる。また、この地区における分析試料の標高は 2-4 で TP+0.29m である。

これらのことから、調査地点は古松江湾奥の（朝酌川あるいは持田川? の）河口域（水域）に位置し、河川の影響を強く受ける場所であったと考えられる。

一方、西川津遺跡の平成 20 年度調査では、TP ± 0m 付近に堆積状況から汀線付近で堆積した可能性が指摘される堆積物が分布し、4,500yrsBP ごろの年代値が得られている（渡辺，2011）。このことは H22- 南壁地区のデータと調和的であり、縄文時代晩期に向かい湖水準が上昇していったことが示唆される。

### ③ 古植生の推定

草本・藤本花粉の割合が低く、調査地近辺は開放的な水域あるいは湿地が広がっていたと考えられる。調査地近辺は前時期同様の立地であり、岸部近くにはアシ原やマコモの群落が広がっていたほか、カヤツリグサ科やキンポウゲ科、キク科の湿性草本なども生育していたと考えられる。

河川沿いにはニレ科やアラカシなどが自然堤防林を成しており、丘陵の谷沿いにはトチノキやサワグルミを主要素とする溪畔林が分布していたと考えられる。一方、周辺の丘陵上、嵩山・和久羅山山系や北山山地には、カシ類を主要素とする照葉樹林が分布し、モミやスギ、イヌマキを混淆する場所もあった。これらの針葉樹は、山地高所では温帯針葉樹林を成していた可能性もある。また、アカマツ、コナラ類やシデ類は丘陵や山地で遷移林を成していたと考えられる。一方、H21 地区の b 亜帯で特徴的に出現するアカメガシワは、汀線近辺の林縁に分布していた可能性がある。

a 亜帯で暖温帯要素のマキ属やアカガシ亜属が増加することから、気温が上昇傾向にあった可能性が指摘できる。前述の縄文時代後期から晩期にかけての湖水準上昇傾向と調和的な結果であった。

#### (4) NK- V (2) 帯 (縄文時代後期から晩期ころ)

##### ① 花粉帯の示す時期について

H21 地区において NK- V (3) 帯下部で  $4,060 \pm 25$  yrBP、NK- V (2) 帯上位で  $2,730 \pm 25$  yrBP の年代が得られていることから、本帯は縄文時代後期から晩期の植生を反映していると考えられる。

##### ② 堆積環境の推定

NK- V (2) 帯初期に相当する H22 南壁地区 1-14、1-13 では TS が 2% を超え、C/S 比も 2.2 程度と低く、TOC も 5% 程度を示すことから、海水から汽水域で堆積したと考えられる。最も標高の高い 1-13 は、標高 TP+1.20m に位置する。一方 NK- V (2) 帯中期に相当する H21 地区 2-2 では C/S 比が 13.6、C/N 比が 32.2 と高く、TS が 0.673 と低いことから淡水域で堆積したと考えられる。また、2-2 の標高は TP+1.09m である。これらのことから、調査地点は古松江湾奥の (朝酌川あるいは持田川?) の河口域 (水域) に位置し、河川の影響を受けやすい場所であったと考えられる。

前述のように 4,500yrsBP ごろ汀線が TP  $\pm$  0m 付近と考えられ (渡辺, 2011)。今回の結果と比較すると、500 年ほどの間に 1m 程度の湖水準上昇が認められることになる。

H21 地区において NK- V (2) 帯上位に分布する 6 層、5 層からは、花粉化石がほとんど検出されなかったが、前述のように  $2,730 \pm 25$  yrsBP の年代が得られている。両層の層相は腐植に乏しく淘汰の良いシルト層であることから、洪水成の堆積物である可能性も指摘できる。したがって 6 層、5 層が堆積する縄文時代晩期の  $2,730 \pm 25$  yrsBP ごろには、調査地点は完全に離水し、陸域に変わっていた可能性がある。一方 5 層は上部からの植物による擾乱が顕著であり、根跡に沿って酸化鉄や酸化マンガンが検出される。また、5 層中には溝 6、溝 7 のように上部を浸食 (削平?) された遺構が多く認められる。このことは、1 層と 5 層の間に時代間隙が存在することを示唆する。

##### ③ 古植生の推定

NK- V (3) 帯の時期と同様に、調査地点は朝酌川 (あるいは持田川?) の河口域 (水域) であったと考えられる。岸边にはアシ原が広がるほか、カヤツリグサ科やキク科の湿性草本なども生育していたと考えられる。河川沿いにはニレ科やアラカシなどが自然堤防林を成しており、丘陵の谷沿いにはトチノキやサワグルミを主要素とする溪畔林が分布していたと考えられる。一方、周辺の丘陵上、嵩山・和久羅山山系や北山山地には、カシ類を主要素としモミやイヌマキを混淆する照葉樹林が分布していたが、気温が徐々に低下し、イヌマキが減少し、モミの割合が高くなっていった。また b 亜帯でピークを成すスギは、谷筋の斜面や谷の出口に当たる扇状地端部で林分を成していたと考えられる。また、b 亜帯では降雨量が増加したと捉えることも可能だが、スギの生育に適した土地条件がそろった結果と、捉えることも可能である。

H21 地区 5 層における耕作を確認するために植物珪酸体分析を行ったが、イネの植物珪酸体はほとんど検出されなかった。また、花粉もほとんど検出されなかったことから、5 層が耕作層である可能性は極めて低いと考えられる。わずかに検出されるイネ植物珪酸体や、イネ科 (40  $\mu$ m 以上) 花粉は浸食を受けて消滅した 5 層上位の層準や、1 層から混入した可能性が高い。

#### (5) NK- IV 帯 (弥生時代前期から中期ころ)

## ① 花粉帯の示す時期について

下部 (b 亜帯) から弥生時代前期、中期の遺物が出土し、弥生時代前期から中期の植生を示していると考えられる。上部 (b' 亜帯) からは弥生時代中期の遺物が出土し、これ以降近代までの植生を示していると考えられる。一方で、b' 亜帯の3試料間では花粉化石群集が連続的に変することから、b' 亜帯上部は弥生時代中期からさほど時期がずれていなかったものと考えられる。

## ② 堆積環境の推定

H23-3 地点 13 層は粗砂のラミナを挟在する粘土層である。上位の腐植質粘土と比べ木本花粉の含有量に変化はないが、草本花粉の含有量がおよそ 1/4 と少ないことから、この時期には調査地近辺は開放的な水域であったと考えられる。

H23-3 地点 12 層は腐植質粘土であり、湿原環境で堆積したと考えられる。

H23-3 地点 11 層から 6 層へと草本花粉の割合が増加し、特にアカザ科 - ヒユ科やヨモギ属の増加が著しいことから、水位が徐々に低下して陸域が迫ってきたと考えられる。

H23-3 地点 5 層から 3 層では酸化鉄や酸化マンガンが検出され、特に 5 層では顕著である。堆積環境は不明であるが、酸化マンガンや酸化鉄の検出は、堆積後に上位の水田耕土からの影響を受けたことを示唆する。3 層はほぼ水平に堆積し、調査トレンチの広い部分で検出される。さらに、イネ科 (40 ミクロン以上) が高率を示すことから、耕作層あるいは古土壌と考えられる。一方 5 層、4 層は微化石概査結果で炭の含有量が多く、植物片の含有量が少ない。また花粉化石の含有量も、比較的少ない。更に 4 層の黒色の色調は部分によって濃さと厚さが異なり、標高の高い場所では色調は薄く、層厚は厚く 5 層へ漸移する。一方標高の低い場所では色調が濃く、層厚が薄い。これらの事柄は、4 層が 5 層上部の土壌化を受けた部分であることを示唆する。

## ③ 古植生の推定

## 1) 岸部近くの植生

H23-3 地点 13 層からはイネ科 (40 ミクロン未満) 花粉、ガマ属、オモダカ属、カヤツリグサ科などが検出される。調査地が開放的な水域であったと考えられることから、調査地からやや離れた岸部近くには、アシ原やマコモの群落に加えガマ類やオモダカ類、カヤツリグサ類の抽水植物が分布していたと考えられる。また、イネ科 (40 ミクロン以上) が低率で検出されることと、弥生時代前期という時期から、陸域では稲作が始まっていたと考えられる。

H23-3 地点 12 層からはイネ科 (40 ミクロン未満) 花粉、ガマ属、オモダカ属、カヤツリグサ科などが検出される。調査地は湿原であったと考えられることから、調査地はこれらの抽水植物に覆われた低層湿原であった、あるいはこれらの生育する低層湿原が近辺に存在した可能性が指摘できる。11 層から 6 層では、アカザ科 - ヒユ科やヨモギ属が増加傾向を示す。これらの草本が生育する陸域が調査地に迫ったと考えられる。

H23-3 地点 5 層、4 層で検出された花粉化石には、土壌化によって 4 層上面からもたらされたものが含まれる。また更に上位から、根による擾乱によってもたらされたものも含まれる可能性がある。本来 5 層、4 層に含まれていた花粉粒との区別が付かないことから、同層準での植生復元は中止する。H23-3 地点 3 層はイネ科 (40 ミクロン以上) 花粉が高率で検出され、水田雑草を多く含むイネ科 (40 ミクロン未満)、カヤツリグサ科、キカシグサ科花粉を伴うことから、水田であったと考えられる。僅かに検出される花粉化石から、畦などにはアカザ科 - ヒユ科やタデ科、キク



科の雑草が生育していたと考えられる。

### 2) H21 地区 SD06、SD07 の機能について

SD06、SD07 の溝埋め堆積物の花粉分析結果 (図 3、4) では、イネ科 (40 ミクロン以上) の出現率はせいぜい 20% 程度で、イネ科 (40 ミクロン未満) と同程度である。この時期には西川津遺跡近辺でも稲作が行われていたと考えられるが、イネ科 (40 ミクロン以上) のこの程度の出現率では、溝 6、7 が水田地帯を巡る用水路であったとは考えにくい。

### 3) 森林植生

検出した花粉化石群集から河川沿いにはニレ科やアラカシなどが自然堤防林を成しており、丘陵の谷沿いにはトチノキやクルミ類を主要素とする溪畔林が分布していたと考えられる。また、周辺の丘陵上、嵩山・和久羅山山系や北山山地にはカシ類を主要素とする照葉樹林が分布していたと考えられ、モミやスギ、イヌマキ、ツガ、コウヤマキが混淆していたと考えられる。一方、スギ属花粉が高率を示し、スギ林の存在が示唆される。恐らく調査地近辺の低地で湧水があるような場所に、スギ林が分布していたものと考えられる。

下部では、クワ科-イラクサ科が連続して検出される。H21-溝 6 (SD06)、H21-溝 7 (SD07) の分析ではクワ科-イラクサ科花粉が多量に検出されている。クワ科の樹木は、広域に花粉を散布することがないので、ヤマグワやイヌビワなどが A-1 区北部を中心に生育していたものと考えられる。一方この分類群にはアカソ、ウバミソウ、カラムシ、カナムグラなどの草本や藤本も多く含まれ、クワ科の樹木ではなく、これらの草本・藤本が溝の近くに生育していた可能性もある。

上部になると草本花粉の割合が高くなり、木本花粉の割合が低下する。草本ではイネ科 (40 ミクロン以上) 花粉の含有量及び出現率の増加が著しく、木本ではスギの含有量と出現率の減少が著しい。出現率では増加しているように見えるコナラ亜属やマツ属 (複維管束亜属) でも、含有量の変化はほとんどない。これらのことから、森林、特にスギ林が開墾され、水田が開かれていったことが分かる。

## (6) NK- II 帯 (中世ころ)

### ① 花粉帯の示す時期について

NK- II 帯は中世から近代までの長い時期の植生を反映するが、近世以降はマツ属 (複維管束亜属) の出現率が更に高率になると考えられる。これらのことから、I 帯は中世ころの植生を反映していると考えられる。

### ② 堆積環境の推定

イネを含む可能性の高いイネ科 (40 ミクロン以上) 花粉が高率で出現し、ソバ属花粉が連続して検出される。更に水田雑草でもあるサジオモダカ属やオモダカ属、キカシグサ属、セリ科などの水生、湿生植物が多く検出されることから、水田環境下で堆積した可能性が高い。

### ③ 古植生の推定

前述のように、中世ころの調査地は水田であったと考えられる。稲作のほか、裏作 (あるいは畦で) ではソバが栽培されていたと考えられる。周辺の丘陵上、嵩山・和久羅山山系や北山山地には、アカマツ、ナラ類を主要素とした薪炭林が広く分布し、一部にはカシ類を要素としてモミを混淆し、現在でも枕木山などに分布するような林が分布していたものと考えられる。一方低地では、河川



沿いのニレ科やアラカシなどからなる自然堤防林が残り、現在は見られないスギの天然林も残っていた可能性がある。

## まとめ

西川津遺跡における平成 22 年度調査での各種分析の結果、地域花粉帯に対応する時期毎に、堆積環境、古植生を推定した。特筆すべき事柄は、以下の通りである。

- (1) 縄文時代後期から晩期に掛けての湖水準の上昇が認められた。花粉化石群集の変化でもマキ属、アカガシ属などの温暖種の増加が認められており、温暖化に起因するものと考えられる。
- (2) 従来データに乏しかった、縄文時代後期の西川津遺跡周辺（北山山地から嵩山・和久羅山山系、朝酌川・持田川流域、調査地近辺）の古植生変遷が推定できた。局所的にアカメガシワが生育していたことも明らかになった。
- (3) 弥生時代前期、後期に A-1 区北側を中心としてヤマグワ（あるいはイヌビワやクワ科 - イラクサ科の草本）が分布していた。
- (4) 溝 6（弥生時代前期）、溝 7（弥生時代後期）は、いずれも稲作との関係が薄く、用水路などに利用されたものではなかったと考えられる。
- (5) 従来は NK-IV 帯 b 亜帯が弥生時代前期から奈良時代と、数百年間に渡る時期を示すとしていた。今回、弥生時代前期から中期の間で亜帯レベルの花粉化石群集の変化が明らかになり、花粉帯が細分できる可能性が指摘された。
- (6) 調査地近辺では、弥生時代前期から中期にかけての時期に平地のスギ林などを伐採・開墾し、水田耕作を行うようになった。

## 引用文献

- Berner, R.A. and Raiswell, R. (1984) C/S method for distinguishing freshwater from marine sedimentary rocks. *Geology* 12, 365-3
- Bordowsky, O. K. (1965a) Source of organic matter in marine basins. *Mar. Geol.* 3, 5-31.
- Bordowsky, O. K. (1965b) Accumulation of organic matter in bottom sediments. *Mar. Geol.* 3, 33-82.
- Bronk Ramsey, C. (2009). Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- Ertel, J. R. and Hedges, J. I. (1984) The lignin component of humic substances: Distribution among soil and sedimentary humic, fulvic, and base-insoluble fractions. *Geochim. Cosmochim. Acta* 48,2065-2074.
- 藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) - 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 - . *考古学と自然科学*, 9, 15-29.
- Hedges, J. I., Clark, W. A., Quay, P. D., Richey, J. E., Devol, A. H. and Santos, U de M. (1986) Compositions and fluxes of particulate organic material in the Amazon River. *Limnol.Oceanogr.* 31, 717 - 738.
- 中村純 (1974) イネ科花粉について, とくにイネを中心として. *第四紀研究*, 13,187-197.
- Reimer, P. J., Baillie, M. G. L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G.,Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Burr, G. S., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes,P. M., Guilderson, T. P., Hajdas, I., Heaton, T. J., Hogg, A. G., Hughen, K. A.,Kaiser, K. F., Kromer, B., McCormac, F. G., Manning, S. W., Reimer, R. W.,Richards, D. A., Southon, J. R., Talamo, S., Turney, C. S. M., van der Plicht, J., &Weyhenmeyer, C.E. (2009).

IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon, 51(4), 1111-1150.

Sampei, Y., Matsumoto, E., Kamei, T. and Tokuoka, T. (1997) Sulfur and organic carbon relationship in sediments from coastal brackish lakes in the Shimane peninsula district, southwest Japan. Geochemical. Journal, 31, 245-262.

Sampei, Y. and Matsumoto, E. (2001) C/N ratios in a sediment core from Nakaumi lagoon, southwest Japan – usefulness as an organic source indicator – . Geochemical Journal, 35, 189-205.

高安克己 (2004) 地質コア分析結果と周辺の環境変遷に関する考察. 出雲大社境内遺跡, 359-378. 大社町教育委員会, 島根県.

渡辺正巳 (2001) 西川津遺跡における花粉組成変遷と周辺地域の環境変遷朝酌川広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第13冊西川津遺跡Ⅷ, 25-46, 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター.

渡辺正巳 (2003) 平成13年度西川津遺跡発掘調査に係る自然化学分析西川津遺跡Ⅸ, 81-89, 島根県土木部・島根県教育委員会.

渡辺正巳 (2009) 山陰地方における完新世の花粉層序と古環境—花粉考古学を用いて—. 島根大学博士論文.

渡辺正巳 (2010) 花粉分析法. 考古調査ハンドブック2 必携考古資料の自然科学調査法, 174-177. ニュー・サイエンス社.

渡辺正巳 (2011) 松江市西川津遺跡平成19、20年度調査における自然科学分析. 苺捨古墳・西川津遺跡主要地方道松江島根線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書, 1, 226-248, 島根県教育委員会

## 第7節 西川津遺跡における樹種同定

株式会社古環境研究所

### 1. はじめに

木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

本報告では、松江島根線発掘調査（西川津遺跡）より出土した木製品と木材に対して、木材解剖学的手法を用いて樹種同定を行う。

### 2. 試料と方法

試料は、松江島根線発掘調査（西川津遺跡）より出土した加工材、編物、杭、ミカン割り材、角材状、板状などの木製品38点と自然木2点、根1点、流木1点の合計42点である。時期は弥生時代である。試料の詳細を結果とともに表1に記す。

樹種同定の方法は、まず、カミソリを用いて試料から新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柁目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

### 3. 結果

表1に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

#### 1) カヤ *Torreya nucifera* Sieb. et Zucc. イチイ科 4加工材 写真1

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～4個存在する。仮道管の内壁には、らせん肥厚が存在し2本対になる傾向を示す。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、仮道管の内壁には2本対になる傾向を示すらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりカヤに同定される。カヤは宮城県以南の本州、四国、九州と韓国の済州島に分布する。常緑の高木で通常高さ25m、径90cmに達する。材は、均質緻密で堅硬であり、弾性が強く水湿にも耐え、保存性が高い。弓などに用いられる。

#### 2) マキ属 *Podocarpus* マキ科 39杭 写真2

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が散在する。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に1～2個存在する。樹脂細胞が散在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1～10細胞高ぐらいである。

以上の形質よりマキ属に同定される。マキ属には、イヌマキ、ナギがあり、関東以西の本州、四国、

九州、沖縄に分布する。常緑高木で、通常高さ 20 m、径 50 ~ 80cm である。材は、耐朽性が強く、耐水性も高い。建築、器具、桶、箱、水槽などに用いられる。

### 3) スギ *Cryptomeria japonica* D. Don スギ科 10 角材状・16 板状 写真 3・4

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が存在する。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で、1 分野に 2 個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、1 ~ 15 細胞高ぐらいである。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、高さ 40 m、径 2 m に達する。材は軽軟であるが強靱で、広く用いられる。

### 4) 針葉樹 conifer

横断面：仮道管と放射組織が存在する。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔はやや小型のものが存在する。

接線断面：単列の放射組織が存在する。

以上の形質より針葉樹の内のマキ属、モミ属、ツガ属、スギ、ヒノキ科のいずれかの樹種であるが、本試料は保存状態が悪く、広範囲の観察が困難であった為、針葉樹の同定にとどめる。

### 5) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 33 加工材 写真 5

横断面：年輪のはじめに大型の道管が、数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ 20m、径 40cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 30 m、径 2 m に達する。耐朽性が強く、水湿によく耐え、保存性の極めて高い材で、現在では建築、家具、器具、土木、船舶、彫刻、薪炭、椎茸ほだ木など広く用いられる。

### 6) シイ属 *Castanopsis* ブナ科 24 板状 写真 6

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型のものが存在する。

以上の形質よりシイ属に同定される。シイ属は、本州（福島県、新潟県佐渡以南）、四国、九州に分布する。常緑高木で高さ 20 m、径 1.5 m に達する。材は、耐朽性や保存性はやや低く、建築、器具などに用いられる。

### 7) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科 22 加工材 写真 7

横断面：中型から大型の道管が、1 ~ 数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ 30 m、径 1.5 m 以上に達する。材は、堅硬かつ強靱であり、弾力性が強く耐湿性も高い。特に農耕具に用いられる。

#### 8) ケヤキ *Zelkova serrata* Makino ニレ科 42 流木 写真8

横断面：年輪のはじめに大型の道管が 1～2 列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形、接線状ないし斜線状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部のものは方形細胞でしばしば大きく膨らむものがある。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で、上下の縁辺部の細胞のなかには大きく膨らんでいるものがある。幅は 1～7 細胞幅である。

以上の形質よりケヤキに同定される。ケヤキは、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ 20～25 m、径 60～70cm ぐらいであるが、大きいものは高さ 50m、径 3m に達する。材は、強靱で従曲性に富み、建築、家具、器具、船、土木などに用いられる。

#### 9) ヤマグワ *Morus australis* Poiret クワ科 25 板状 (SX04 杭) 写真9

横断面：年輪のはじめに中型から大型の丸い道管が、単独あるいは 2～3 個複合して配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は複合して円形の小塊をなす。道管の径は徐々に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部の 1～3 細胞ぐらいは直立細胞である。

接線断面：放射組織は上下の縁辺部が直立細胞からなる異性放射組織型で、1～6 細胞幅ぐらいである。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

以上の形質よりヤマグワに同定される。ヤマグワは、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、通常高さ 10～15m、径 30～40cm である。材は、堅硬で靱性に富み、建築などに用いられる。

#### 10) マタタビ属 *ctinidia* マタタビ科 1 編物 写真10

横断面：年輪のはじめに、やや大型で丸い道管が、単独で 1～3 列配列する半環孔材である。早材から晩材にかけて道管の径は緩やかに減少する。年輪幅は不齊で年輪界が波打つ傾向を示す。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔、及び階段穿孔板からなる多孔穿孔で、放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は異性放射組織型であり、1～4 細胞幅で単列翼部が長い。

以上の形質よりマタタビ属に同定される。マタタビ属には、サルナシ、マタタビなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する落葉のつる性木本である。

#### 11) ヤブツバキ *Camellia japonica* Linn. ツバキ科 21 板状 写真11

横断面：小型でやや角張った道管が、単独ないし 2～3 個複合して散在する散孔材である。道管の径は緩やかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は 9～30 本ぐらいである。放射組織は平伏細胞と直立細胞からなる異性で、直立細胞には、大きく膨れているものが存在する。



接線断面：放射組織は、異性放射組織型で、1～3細胞幅である。直立細胞には大きく膨れているものが存在する。

以上の形質よりヤブツバキに同定される。ヤブツバキは、本州、四国、九州に分布する。常緑の高木で、通常高さ5～10 m、径20～30cmである。材は、強靱で耐朽性が強く、建築、器具、楽器、船、彫刻などに用いられる。

#### 12) サカキ *Cleyera japonica* Thunb. ツバキ科 38 棒状(柄?) 写真12

横断面：小型の道管が、単独ないし2個複合して密に散在する散孔材である。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は多く40を超える。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で単列である。

以上の形質よりサカキに同定される。サカキは、関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑高木で、通常高さ8～10 m、径20～30cmである。材は、強靱かつ堅硬で、建築、器具などに用いられる。

#### 13) エゴノキ属 *Styrax* エゴノキ科 18 自然木 写真13

横断面：やや小型で丸い道管が、おもに2～数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の径は、早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少する。軸方向柔細胞が、晩材部において接線状に配列する傾向を示す。

放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は10本前後である。放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で1～3細胞幅である。

以上の形質よりエゴノキ属に同定される。エゴノキ属には、エゴノキ、ハクウンボクなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉の小高木で、高さ10 m、径30cmである。材は器具、旋作、薪炭などに用いられる。

#### 14) 環孔材 ring-porous wood 41 根 写真14

横断面：年輪のはじめに大型の道管が疎に配列する。晩材部では小型で厚壁の道管が単独あるいは放射方向に2～数個複合して散在する。道管の径は早材から晩材にかけて徐々に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は異性である。

接線断面：放射組織は、異性放射組織型で1～2細胞幅である。

以上の形質より環孔材に同定される。なお、本試料はトネリコ属、アカメガシワなどの樹種に類似する点もみられるが、根材である為、幹材や枝材にみられる樹種の特徴が現れにくく、同定には至らなかった。

#### 15) 草本 grass 12 編物 写真15

横断面：基本組織である柔細胞の中に並立維管束が不規則に分布する。並立維管束は木部と師部からなり、その周囲に維管束鞘が存在する。

放射断面及び接線断面：柔細胞及び維管束、維管束鞘が桿軸方向に配列している。

以上の形質よりイネ科などの草本に同定される。

#### 4. 考察

同定の結果、松江島根線発掘調査（西川津遺跡）の木製品 38 点は、スギ 22 点、マキ属 3 点、ヤブツバキ 3 点、シイ属 2 点、カヤ 1 点、クリ 1 点、コナラ属アカガシ亜属 1 点、ヤマグワ 1 点、マタタビ属 1 点、サカキ 1 点、針葉樹 1 点、草本 1 点であった。スギが最も多く、加工材、ミカン割り材、杭、板状、角材状の木製品に使用されている。スギは温帯に広く分布し肥沃で湿潤な土壌を好むが、特に積雪地帯や多雨地帯で純林を形成し、積雪の多い日本海沿岸地域に植生上多い樹木であり、本遺跡では主要な木材になっている。他は特に多いという特徴はないが、マキ属、ヤブツバキ、シイ属、カヤ、クリ、コナラ属アカガシ亜属、ヤマグワ、マタタビ属、サカキは温帯下部の暖温帯の森林の要素として普通に分布する樹種であり、スギも含め本遺跡の周辺または周辺地域に分布していて用いられたとみなされる。

板状、角材状、加工材、ミカン割り材はスギがほとんどで、コナラ属アカガシ亜属、シイ属、クリ、ヤマグワ、ヤブツバキの広葉樹が若干用いられている。杭、自然木、根、流木は、マキ属、スギ、クリ、ケヤキ、ヤブツバキ、サカキ、エゴノキ属、環孔材と多様で広葉樹が多い。このことからスギは周辺の森林から選材され切り出されてきて使用されたと考えられ、広葉樹類は遺跡周囲に生育しており、それらが用いられたと推定されよう。

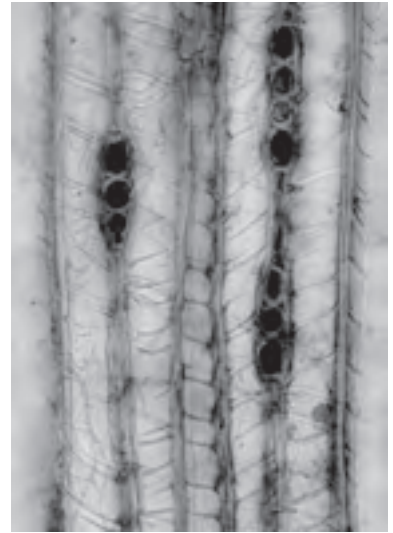
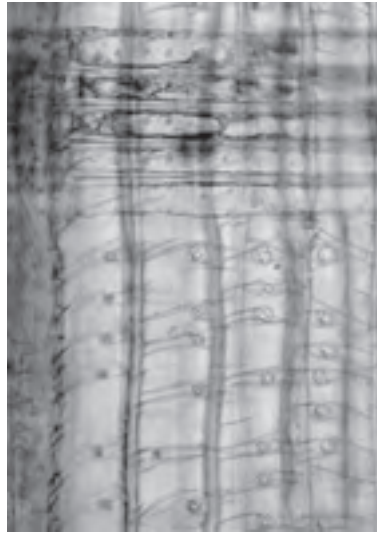
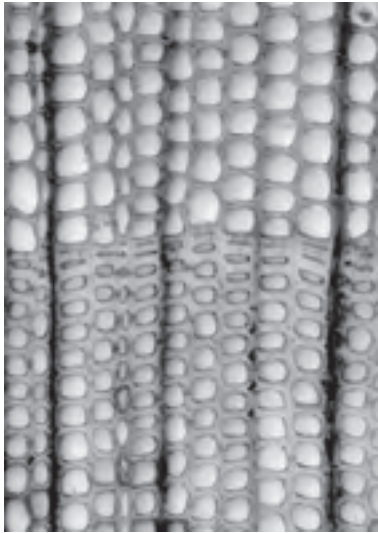
#### 参考文献

- 佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, p.20-48.  
佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, p.49-100.  
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣, p.296.  
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成, 植生史研究特別第1号, 植生史研究会, p.242.

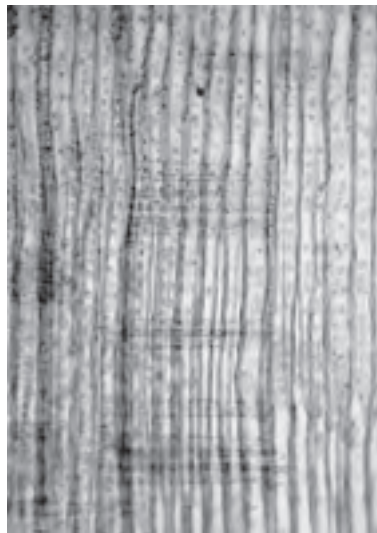
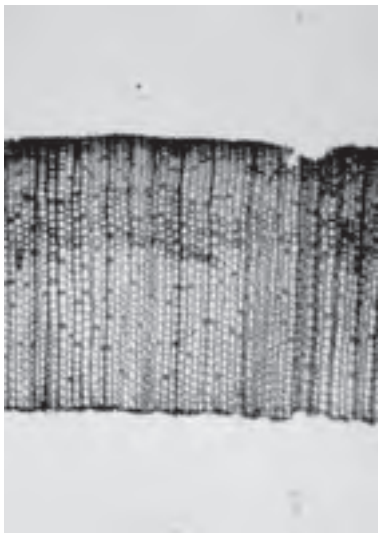
表1 松江島根線発掘調査(西川津遺跡)における樹種同定結果

試料 番号	挿図 番号	品目	遺構	層位	取上 No.	台帳 番号	結果(学名/和名)
1	161-2	編物	SD09	下	7	248	<i>Actinidia</i> マタタビ属
2	161-6	加工材	SD09	下	11	252	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
3	161-5	板状	SD09	下	47	288	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
4	147-5	加工材	SD09	オモカス	55	305	<i>Torreya nucifera</i> Sieb. et Zucc. カヤ
5	146-5	板状	SD09	オモカス	61	308	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
6	148-4	ミカン割材	SD09	オモカス	79	326	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
7	148-3	杭	SD09	オモカス	82	329	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
8	145-9	板状	SD09	オモカス	100	348	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
9	148-2	角材状	SD09	オモカス	102	350	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
10	147-8	角材状	SD09	オモカス	111	359	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
11	148-9	加工材	SD09	オモカス	134	382	conifer 針葉樹
12	138-1	編物	SD09	オモカス	140	386	grass 草本
13	149-1	加工材	SD09	オモカス	148	394	<i>Camellia japonica</i> Linn. ヤブツバキ
14	147-4	角材状	SD09	オモカス	169	415	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
15	149-3	加工材(杭)	SD09	オモカス	174	420	<i>Podocarpus</i> マキ属
16	145-2	板状	SD09	オモカス	177	423	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
17	148-1	角材状	SD09	オモカス	182	428	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
18	—	自然木	SD09	オモカス	259	508	<i>Styrax</i> エゴノキ属
19	—	自然木	SD09	オモカス	234	483	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
20	149-4	建築部材?	SD09	オモカス	242	491	<i>Podocarpus</i> マキ属
21	151-3	板状	SD09	オモカス	279	523	<i>Camellia japonica</i> Linn. ヤブツバキ
22	151-7	加工材	SD09	オモカス	282	526	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属
23	151-11	杭?	SD09	オモカス	288	532	<i>Camellia japonica</i> Linn. ヤブツバキ
24	151-8	板状	SD09	オモカス	292	536	<i>Castanopsis</i> シイ属
25	152-13	板状(SX04 杭)	SD09	オモカス	309	553	<i>Morus australis</i> Poiret ヤマグワ
26	152-15	加工材(SX04 杭)	SD09	オモカス	312	556	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
27	152-6	ミカン割材 (SX04 杭)	SD09	オモカス	313	557	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
28	152-5	加工材(SX04 杭)	SD09	オモカス	317	561	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
29	152-12	板状(SX04 杭)	SD09	オモカス	318	562	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
30	152-3	板状(SX04 杭)	SD09	オモカス	319	563	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
31	151-1	板状	SD09	オモカス	327	571	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
32	152-8	加工材(SX04 杭)	SD09	オモカス	330	574	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
33	151-4	加工材	SD09	オモカス	331	575	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ
34	152-9	ミカン割材 (SX04 杭)	SD09	オモカス	343	586	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
35	151-5	加工材	SD09	オモカス	361	595	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
36	151-6	板状	SD09	オモカス	365	599	<i>Castanopsis</i> シイ属
37	152-10	板状(SX04 杭)	SD09	オモカス	401	630	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
38	150-6	棒状	SD09	オモカス	—	644	<i>Cleyera japonica</i> Thunb. サカキ
39	126-2	杭	SD09	砂礫層	—	651	<i>Podocarpus</i> マキ属
40	47-1	板状	SD10	下	404	654	<i>Cryptomeria japonica</i> D.Don スギ
41	—	根	B-1 区河道 1	3C 層	49	132	ring-porous wood 環孔材
42	—	流木	B-1 区河道 4	砂礫層	—	136	<i>Zelkova serrata</i> Makino ケヤキ

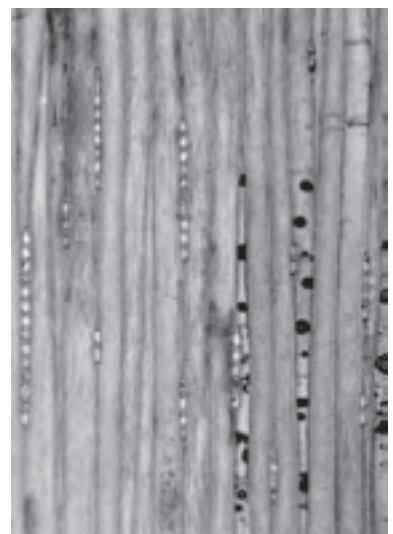
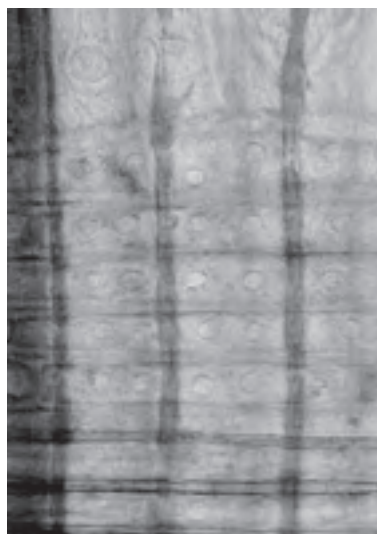
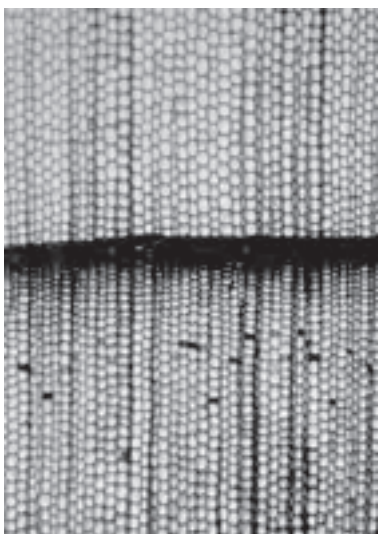
松江島根線発掘調査(西川津遺跡)の木材 I



横断面 ————— : 0.2mm 放射断面 ————— : 0.1mm 接線断面 ————— : 0.1mm  
 1.4 加工材 SD09 オモカス カヤ

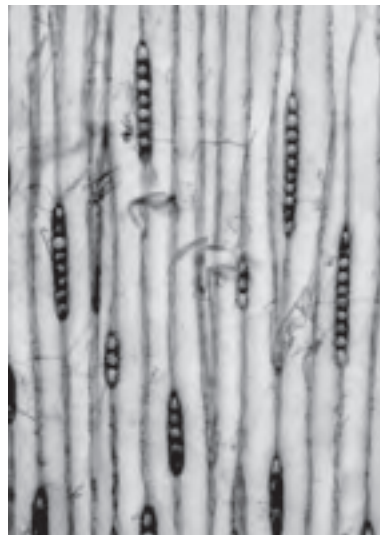
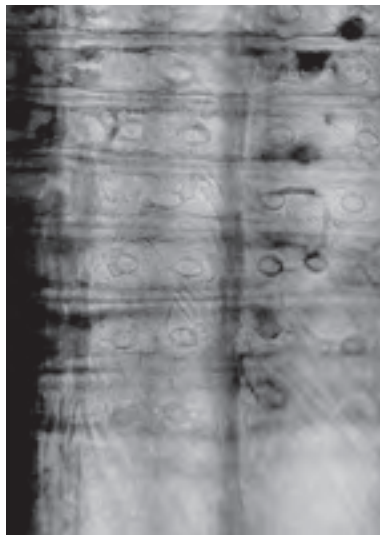
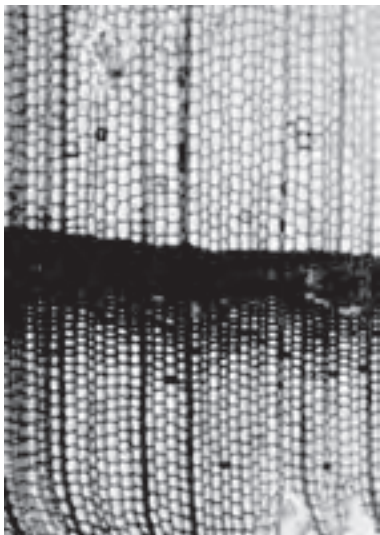


横断面 ————— : 0.5mm 放射断面 ————— : 0.2mm 接線断面 ————— : 0.2mm  
 2.39 杭 SD09 砂礫層 マキ属

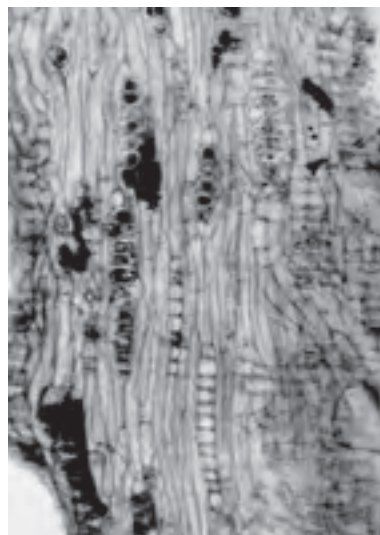
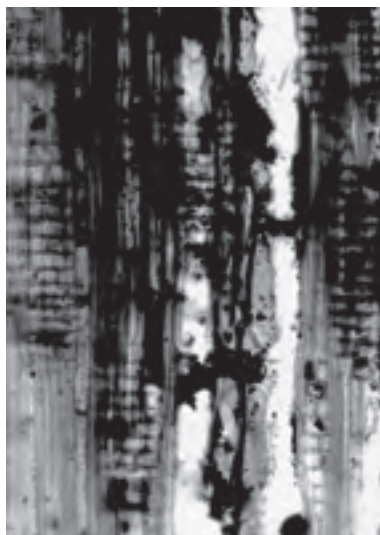
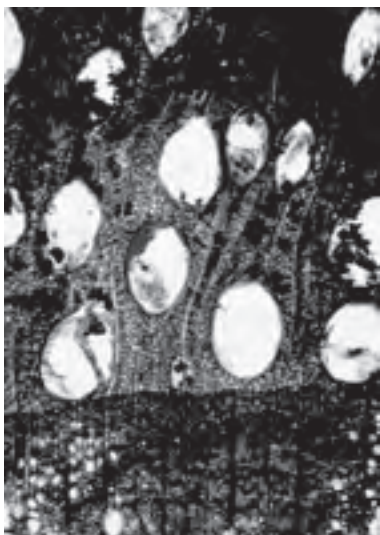


横断面 ————— : 0.5mm 放射断面 ————— : 0.05mm 接線断面 ————— : 0.2mm  
 3.10 角材状 SD09 オモカス スギ

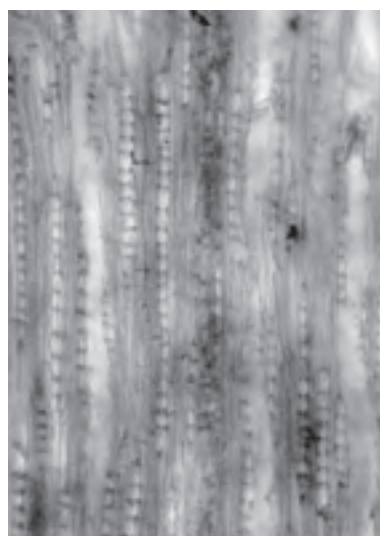
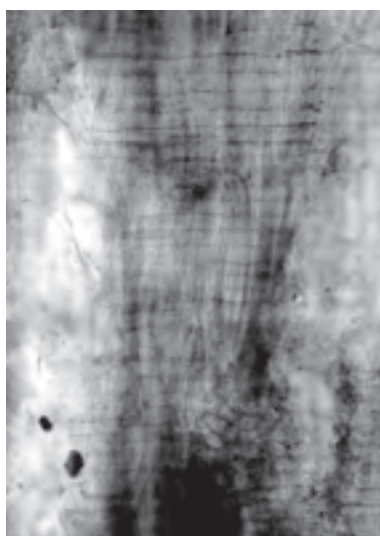




横断面 ————— : 0.5mm      放射断面 ————— : 0.05mm      接線断面 ————— : 0.2mm  
4.16 板状 SD09 オモカス スギ



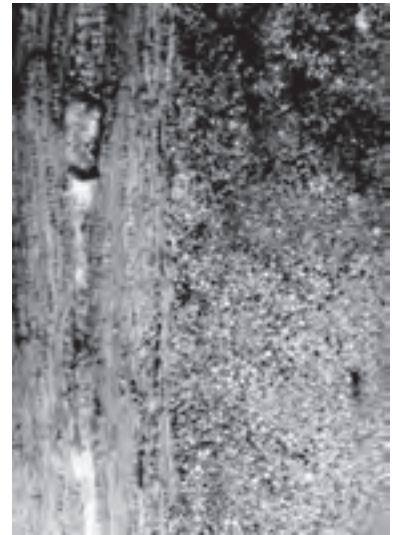
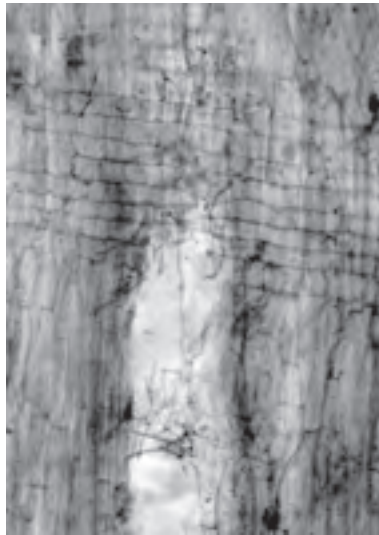
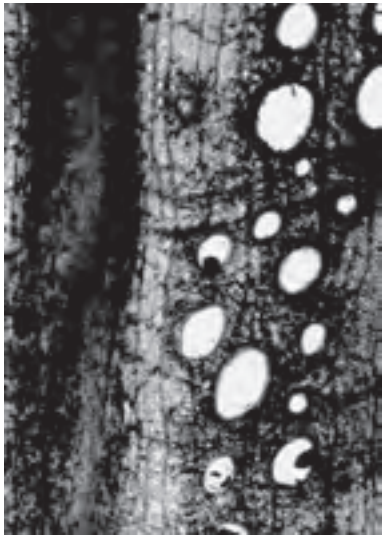
横断面 ————— : 0.5mm      放射断面 ————— : 0.2mm      接線断面 ————— : 0.2mm  
5.33 加工材 SD09 オモカス クリ



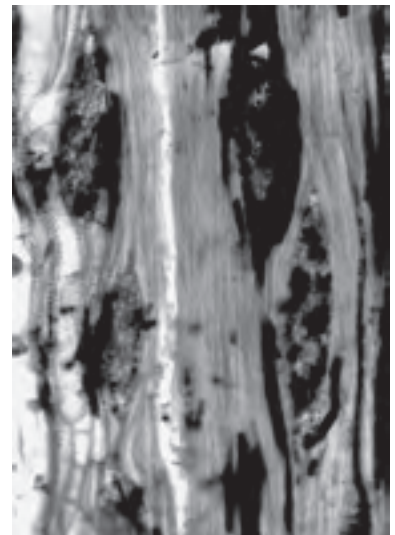
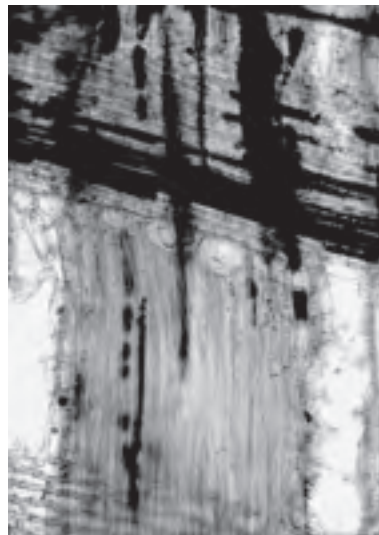
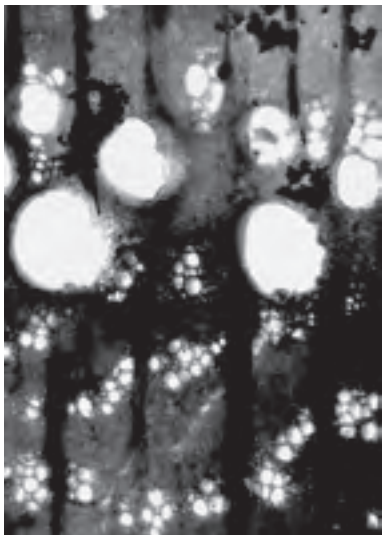
横断面 ————— : 0.5mm      放射断面 ————— : 0.2mm      接線断面 ————— : 0.2mm  
6.24 板状 SD09 オモカス シイ属



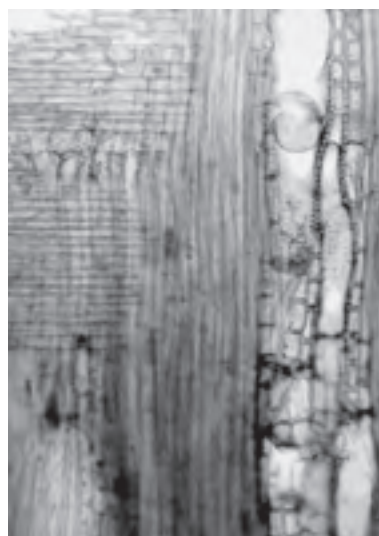
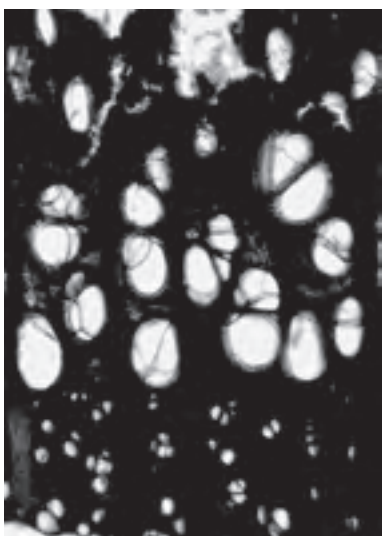
松江島根線発掘調査(西川津遺跡)の木材 III



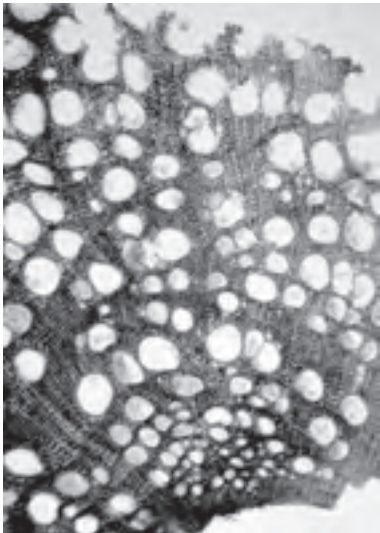
横断面 ————— : 0.5mm      放射断面 ————— : 0.2mm      接線断面 ————— : 0.5mm  
 7.22 加工材 SD09 オモカス コナラ属アカガシ亜属



横断面 ————— : 0.5mm      放射断面 ————— : 0.2mm      接線断面 ————— : 0.2mm  
 8.42 流木 B-1区河道4 砂礫層 ケヤキ



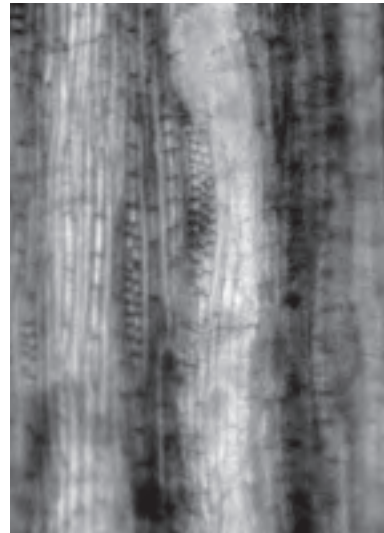
横断面 ————— : 0.5mm      放射断面 ————— : 0.2mm      接線断面 ————— : 0.2mm  
 9.25 板状(SX04杭) SD09 オモカス ヤマガワ



横断面 ————— : 0.5mm

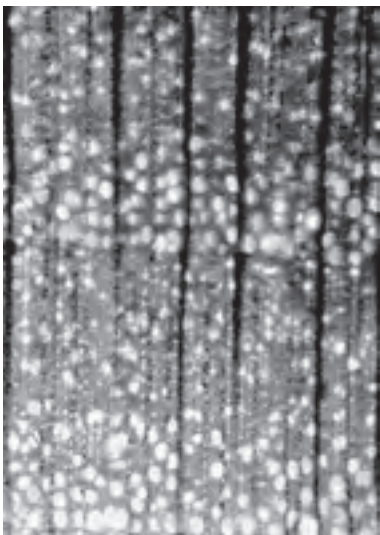


放射断面 ————— : 0.2mm

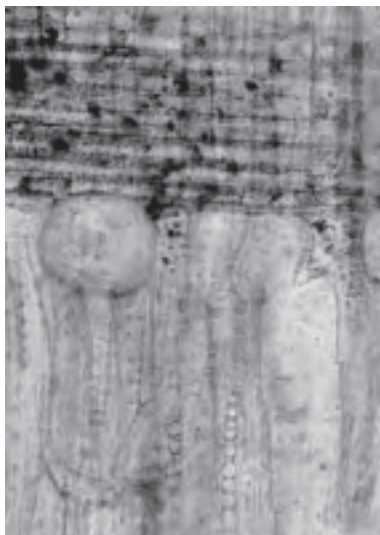


接線断面 ————— : 0.2mm

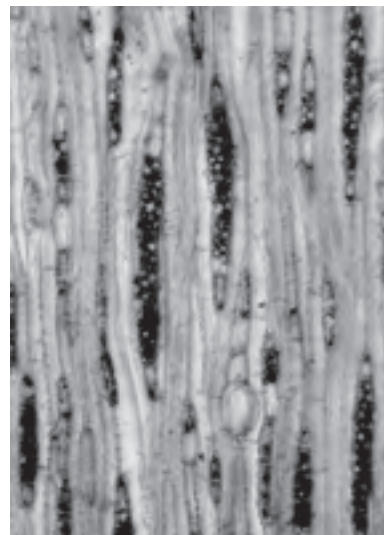
10.1 編物 SD09 下 マタタビ属



横断面 ————— : 0.5mm

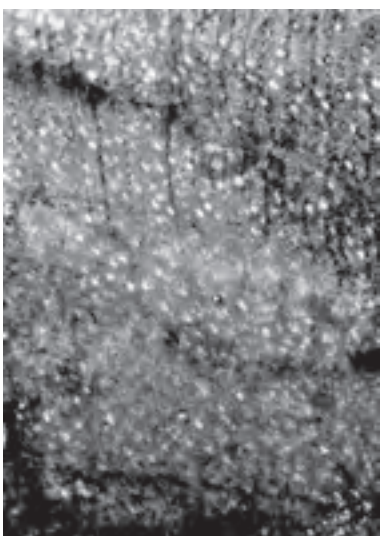


放射断面 ————— : 0.1mm

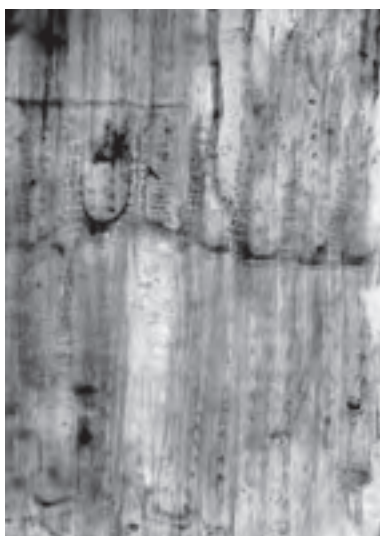


接線断面 ————— : 0.2mm

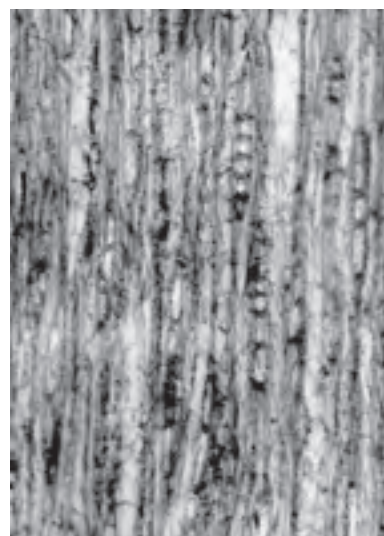
11.21 板状 SD09 オモカス ヤブツバキ



横断面 ————— : 0.5mm



放射断面 ————— : 0.1mm

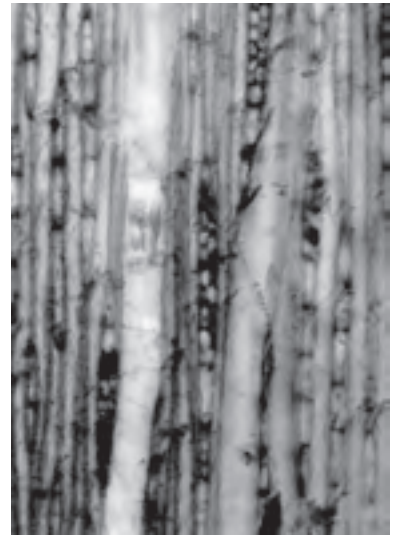
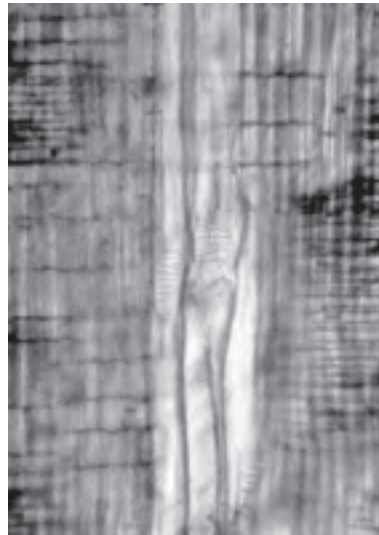
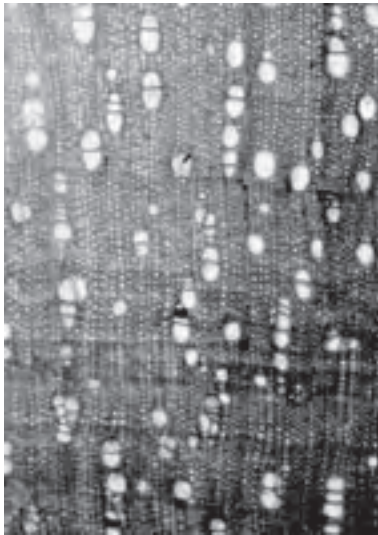


接線断面 ————— : 0.2mm

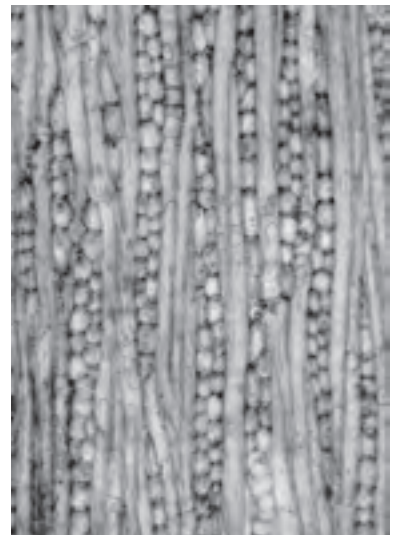
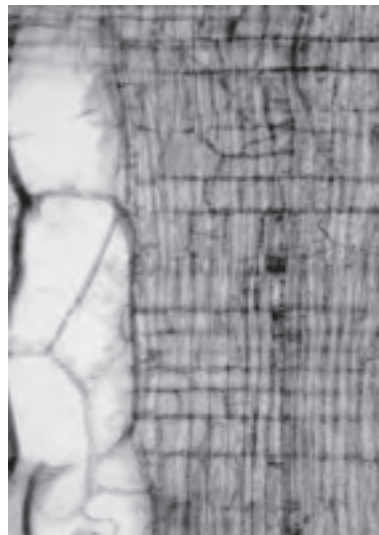
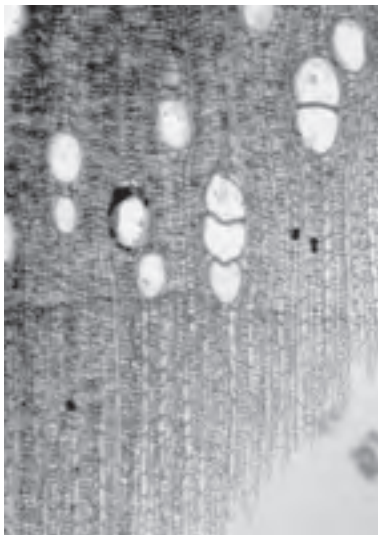
12.38 棒状(柄?) SD09 オモカス サカキ



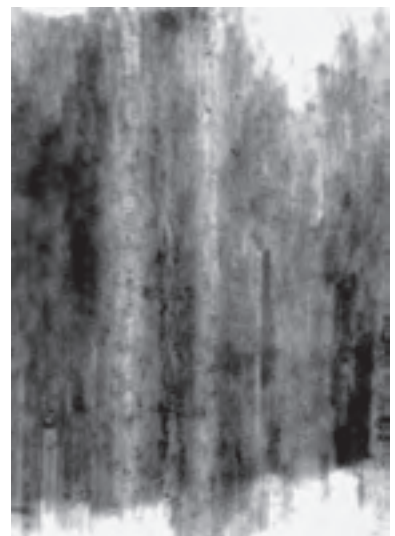
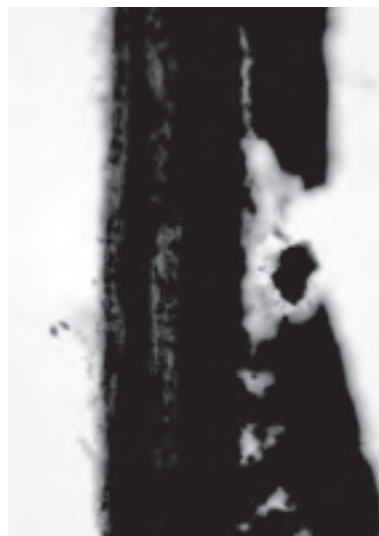
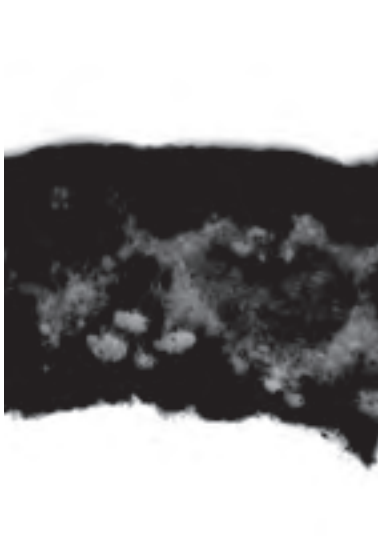
松江島根線発掘調査(西川津遺跡)の木材 V



横断面 ————— : 0.5mm      放射断面 ————— : 0.2mm      接線断面 ————— : 0.2mm  
 13.18 自然木 SD09 オモカス エゴノキ属



横断面 ————— : 0.5mm      放射断面 ————— : 0.2mm      接線断面 ————— : 0.2mm  
 14.41 根 B-1河道1 3C層 環孔材



横断面 ————— : 0.2mm      放射断面 ————— : 0.2mm      接線断面 ————— : 0.2mm  
 15.12 編物 SD09 オモカス 草本

## 第8節 西川津遺跡(鶴場地区)出土木材の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

西川津遺跡(鶴場地区)は、朝酌川西岸(右岸)の沖積地に位置する。発掘調査により、弥生時代前期の環濠の可能性のある大溝および河道跡、弥生時代後期の環濠の可能性のある大溝等が検出されている。

本報告では、弥生時代前期の河道跡から出土した加工材や自然木・枝について、樹種同定を実施する。

### 1. 試料

試料は、弥生時代前期の河道であるSD09から出土した加工材や自然木など30点(試料番号1~30)である。全て分割された木片を受領している。

### 2. 分析方法

剃刀を用いて木片から木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)、Wheeler 他(1998)、Richter 他(2006)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

### 3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹4分類群(モミ属・スギ・マキ属・カヤ)と広葉樹10分類群(クマシデ属イヌシデ節・アサダ・コナラ属アカガシ亜属・クリ・スダジイ・ムクノキ・クスノキ科・ツバキ属・サカキ・ムクロジ)に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

#### ・モミ属(*Abies*) マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1~4個。放射組織は単列、1~20細胞高。

#### ・スギ(*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2~4個。放射組織は単列、1~10細胞高。

#### ・マキ属(*Podocarpus*) マキ科

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、



樹脂細胞は早・晩材部の区別無く散在する。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個。放射組織は単列、1～5細胞高。

・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には2本が対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～10細胞高。

表1. 樹種同定結果

試料番号	挿図番号	品目	遺構	層位	取上No.	台帳番号	木取り	樹種
1	—	加工材	SD09	オモカス	80	327	板目	スギ
2	—	板状	SD09	オモカス	92	339	柾目	コナラ属アカガシ亜属
3	—	木片	SD09	オモカス	95	343	分割材	クスノキ科
4	—	加工材	SD09	オモカス	149	395	柾目	スダジイ
5	—	木片	SD09	オモカス	150	396	板目	スダジイ
6	—	板状	SD09	オモカス	155	401	板目	スギ
7	—	板状	SD09	オモカス	157	403	板目	スギ
8	—	加工材	SD09	オモカス	165	411	分割材	サカキ
9	—	板状	SD09	オモカス	168	414	柾目	スギ
10	—	角材状	SD09	オモカス	175	421	分割材	スギ
11	—	枝	SD09	オモカス	179	425	芯持材	ツバキ属
12	—	木片	SD09	オモカス	207	455	分割材	スギ
13	—	木片	SD09	オモカス	208	456	板目	ツバキ属
14	—	板状	SD09	オモカス	220	469	不明	スギ
15	—	加工材	SD09	オモカス	226	475	分割材	マキ属
16	—	ミカン割り材	SD09	オモカス	227	476	ミカン割り	サカキ
17	—	丸太状	SD09	オモカス	231	480	不明	クマシデ属イヌシデ節
18	—	自然木	SD09	オモカス	233	482	芯持材	ムクロジ
19	—	板状	SD09	オモカス	237	496	柾目	モミ属
20	—	加工材	SD09	オモカス	264	511	芯持材	マキ属
21	—	木片	SD09	オモカス	276-1	520	板目	スダジイ
22	—	枝	SD09	オモカス	280	524	芯持材	カヤ
23	—	木片	SD09	オモカス	281	525	板目	クスノキ科
24	—	自然木	SD09	オモカス	291	535	芯持材	ムクノキ
25	—	板状	SD09	オモカス	294	538	板目	クリ
26	—	杭?	SD09	オモカス	298	542	分割材	クスノキ科
27	—	板状	SD09	オモカス	300	544	柾目	コナラ属アカガシ亜属
28	—	加工材	SD09	オモカス	332	576	板目	アサダ
29	—	木片	SD09	オモカス	367	600	分割材	コナラ属アカガシ亜属
30	—	加工材	SD09	オモカス	370	603	板目	スギ

・クマシデ属イヌシデ節 (*Carpinus* subgen. *Eucarpinus*) カバノキ科

散孔材で、道管は単独または2～4個が主として放射方向に複合して散在し、年輪界近くで径を減少させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～40細胞高のものと集合放射組織とがある。

・アサダ (*Ostrya japonica* Sarg.) カバノキ科アサダ属

散孔材で、道管は単独または2～4個が放射方向に散在し、年輪界近くで径を減少させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、ほぼ単列、1～30細胞高。

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、道管壁は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿

孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に道管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・スダジイ (*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1～2個幅で放射方向に配列する。孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・ムクノキ (*Aphananthe aspera* (Thunb.) Planchon) ニレ科ムクノキ属

散孔材で、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～4細胞幅、1～30細胞高。柔組織は周囲状およびターミナル状。

・クスノキ科 (Lauraceae)

散孔材で、道管は比較的厚く、横断面では角張った楕円形、単独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

・ツバキ属 (*Camellia*) ツバキ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、単独または2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管が単独または2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1～20細胞高。

・ムクロジ (*Sapindus mukorossi* Gaertn.) ムクロジ科ムクロジ属

環孔材で、孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～40細胞高。柔組織は周囲状～連合翼状、帯状およびターミナル状。

#### 4. 考察

弥生時代前期の河道跡 SD09 から出土した加工材、自然木には、針葉樹4分類群、広葉樹10分類群が認められた。各分も類群についてみると、針葉樹のスギは、水分条件の良い沖積地や谷筋等に生育する。モミ属は、属としては低標高地から亜高山帯まで分布し、尾根筋や斜面地によく生育する。マキ属は、暖温帯の海岸近くの山地・丘陵地などに常緑広葉樹と共に生育する。カヤも常緑広葉樹林内に生育する。常緑広葉樹のアカガシ亜属、スダジイ、ツバキ属、サカキは、暖温帯性常緑広葉樹林やその二次林を構成する種類が含まれる。落葉広葉樹のアサダ、ムクノキ、ムクロジは、川辺等に生育する。イヌシデ節やクリは二次林を構成する種類である。クスノキ科には、常緑の種

類と落葉の種類が含まれるが、今回の種類は大型の油細胞が認められることから、暖温帯性常緑広葉樹林を構成する常緑の種類に由来する可能性がある。

各分類群の材質をみると、モミ属とスギは、木理が通直で割裂性が高く、加工は容易であるが、モミ属は保存性が低い。マキ属とカヤは、比較的緻密で強度・耐水性が高い。クスノキ科を除く広葉樹は、基本的に重硬で強度の高い種類が多い。クスノキ科には様々な種類が含まれ、材質の幅は広い。

表2. 器種別種類構成

分類群\器種	木製品・加工材						非加工材		合計	
	杭?	加工材	板状	角材状	ミカン割	丸太状	木片	自然木		枝
針葉樹										
モミ属			1						1	
スギ		2	4	1			1		8	
マキ属		2							2	
カヤ									1	
広葉樹										
イヌシデ節						1			1	
アサダ		1							1	
アカガシ亜属			2				1		3	
クリ			1						1	
スダジイ		1					2		3	
ムクノキ								1	1	
クスノキ科	1						2		3	
ツバキ属							1		1	
サカキ		1			1				2	
ムクロジ								1	1	
合計	1	7	8	1	1	1	7	2	2	30

同定を実施した木材試料は、人による利用の痕跡がある木製品・加工材と、利用の痕跡が無い非加工材に大きく分けられる。器種別の種類構成を表2に示す。

木製品・加工材は、杭?、加工材、板状、角材状、ミカン割材、丸太状、木片があるが、用途・器種の明らかな資料はない。杭?はクスノキ科、加工材はスギ、マキ属、アサダ、スダジイ、サカキ、板状はモミ属、スギ、アカガシ亜属、クリ、角材状はスギ、ミカン割材はサカキ、丸太状はイヌシデ節、木片はスギ、アカガシ亜属、スダジイ、クスノキ科、ツバキ属が認められる。加工材、板状、木片では材質の異なる種類が混在しており、用途・器種が異なる可能性がある。このうち、スギについては、板目板状の資料が多い傾向がある。

非加工材では、自然木にムクノキとムクロジ、枝にカヤ、ツバキ属が認められ、これらの樹木が弥生前期の河道周囲に生育していたことが推定される。

本地域では、本遺跡や隣接するタテチョウ遺跡、島根大学構内遺跡の調査や宍道湖及び中海の湖底堆積物を対象とした調査等で古植生が推定されている(大西,1977;大西,1979,1982;大西・渡辺,1987a,1987b,1987c;大西ほか,1988,1989,1990;渡辺・中海・宍道湖自然史研究会,1988;大西・大谷,1990;渡辺,1992;渡辺・会下,1997;渡辺・林,1992)。それによれば、縄文時代以降、流域の大部分がシイノキ属やアカガシ亜属等の常緑広葉樹を主体として、コナラ亜属、ニレ属一ケヤキ属等の落葉広葉樹を混じえる植生であり、湖岸や朝酌川の低地にはイネ科やカヤツリグサ科を種とする草原が見られたと考えられている。また、弥生時代前期初頭頃からスギの分布が拡大することが指摘されている。今回、加工材や非加工材に認められた分類群は、これまでの調査から推定されている古植生とも矛盾しないことから、加工材は遺跡周辺で入手可能な樹木を利用したことが推定される。

一方、本遺跡や隣接するタテチョウ遺跡では、これまでも多くの木製品について樹種同定を実施しており、弥生時代前期の資料も西川津遺跡で約50点の結果が報告されている(渡辺,1988)。その結果をみると、鋤・鋤類や斧柄にアカガシ亜属、板や田下駄にスギ、ヤスにイヌガヤ属やモミ属、刳物容器にクリの利用が確認されており、器種別に木材利用が特定の樹種に集中する傾向がある。

今回確認された分類群では、針葉樹のモミ属、スギ、広葉樹のアカガシ亜属、クリ、スダジイは、これまでの調査でも弥生時代中期に利用が確認されている。一方、針葉樹のマキ属、カヤ、広葉樹のイヌシデ節、アサダ、クスノキ科、ツバキ属、サカキは、これまでの調査では弥生時代前期の木製品には確認されていない。今回の結果からこれらの分類群についても弥生時代前期に何らかの用途に利用されていたことが推定される。

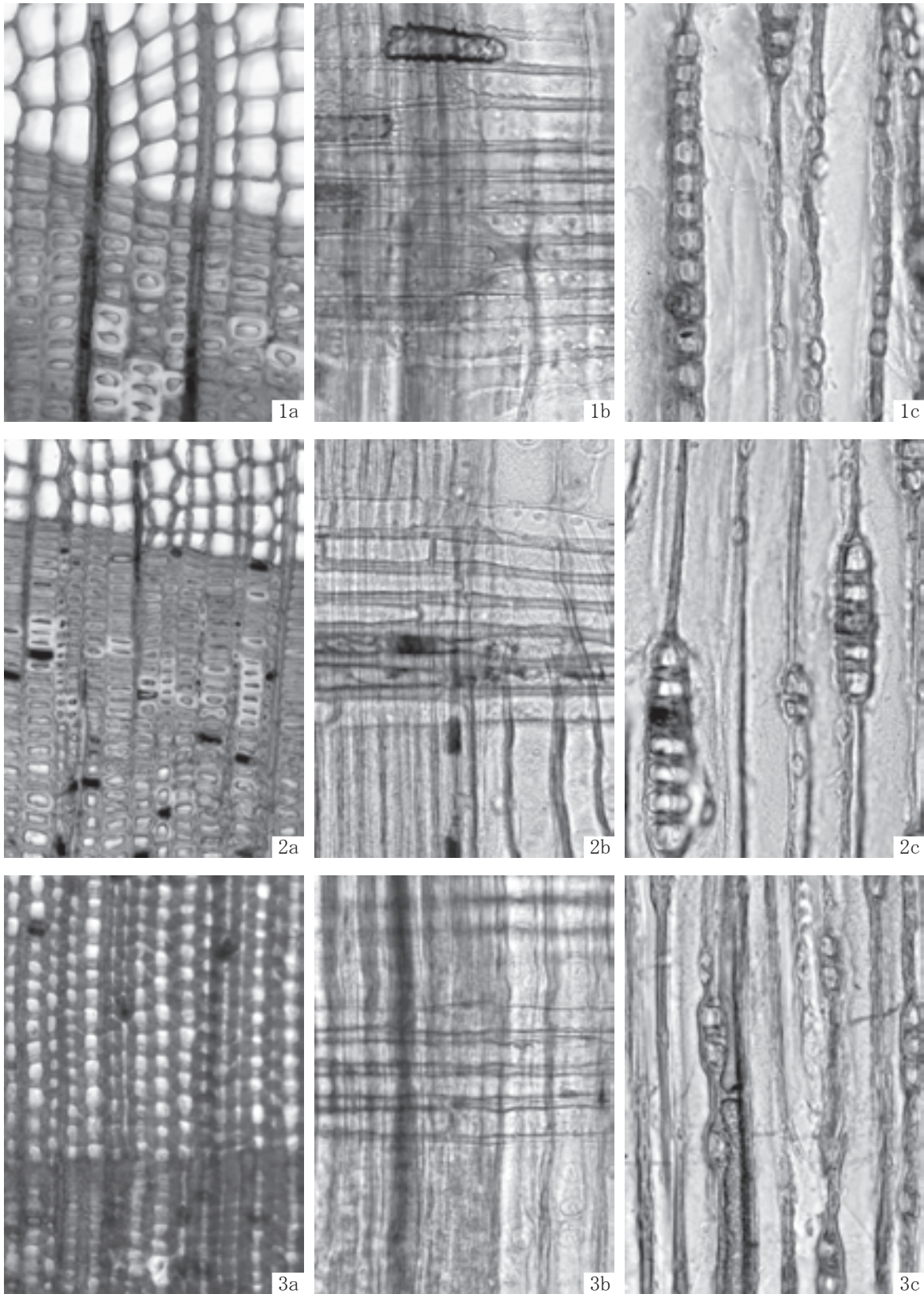
## 引用文献

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料,31, 京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料,32, 京都大学木質科学研究所.66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料,33, 京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料,34, 京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料,35, 京都大学木質科学研究所,47-216.
- 大西郁夫,1977,出雲海岸平野下第四紀堆積物の花粉分析. 地質学雑誌,83,603-616.
- 大西郁夫,1979,花粉の分析.「朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅰ」, 島根県土木部河川課・島根県教育委員会,188-193.
- 大西郁夫,1982,松江市・西川津遺跡の花粉分析.「朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅱ」, 島根県土木部河川課・島根県教育委員会,38-43.
- 大西郁夫・大谷英之,1990,タテチョウ遺跡'88の花粉分析.「朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ」, 島根県土木部河川課・島根県教育委員会,434-436.
- 大西郁夫・渡辺正巳,1987a,西川津遺跡(1983)の花粉分析.「朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅲ(海崎地区Ⅰ)」, 島根県土木部河川課・島根県教育委員会,252-258.
- 大西郁夫・渡辺正巳,1987b,松江市西川津町,タテチョウ遺跡の花粉分析. 山陰地域研究(自然環境),3,109-120.
- 大西郁夫・渡辺正巳,1987c,タテチョウ遺跡(85)の花粉分析.「朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅱ」, 島根県土木部河川課・島根県教育委員会,219-223.
- 大西郁夫・原田吉樹・渡辺正巳,1989,松江市,西川津遺跡の花粉分析. 山陰地域研究(自然環境),5,45-54.
- 大西郁夫・干場英樹・中谷紀子,1990,宍道湖湖底下完新統の花粉群. 島根大学地質学研究報告,9,117-127.
- 大西郁夫・渡辺正巳・内田律雄,1988,松江市西川津遺跡の材化石. 山陰地域研究(自然環境),4,65-79.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編),2006,針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p.[Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織. 地球社,176p.



- 渡辺正巳,1992,松江市タテチヨウ遺跡の材化石品.「朝酌川河川改修工事に伴うタテチヨウ遺跡発掘調査報告書Ⅳ 本文編」,島根県土木部河川課・島根県教育委員会,235-245.
- 渡辺正巳,1988,松江市西川津遺跡出土木製品の樹種について.「朝酌川河川改修工事に伴う西川津遺跡発掘調査報告書Ⅳ」,島根県教育委員会,244-260.
- 渡辺正巳・会下和宏,1997,島根大学構内遺跡第1次発掘調査における花粉分析.山陰地域研究(自然環境),13,41-48.
- 渡辺正巳・林 健亮,1992,松江市西川津・タテチヨウ遺跡における弥生～古墳時代の材化石分析.日本文化財科学会第9回大会研究発表要旨集,8-9.
- 渡辺正巳・中海・宍道湖自然史研究会,1988,中海・宍道湖の自然史研究 一その8.中海・宍道湖より得られた柱状試料の花粉分析一.島根大学地質学研究報告,7,25-32.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡の特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

図版1 木材(1)



1. モミ属(試料番号19)

2. スギ(試料番号1)

3. マキ属(試料番号15)

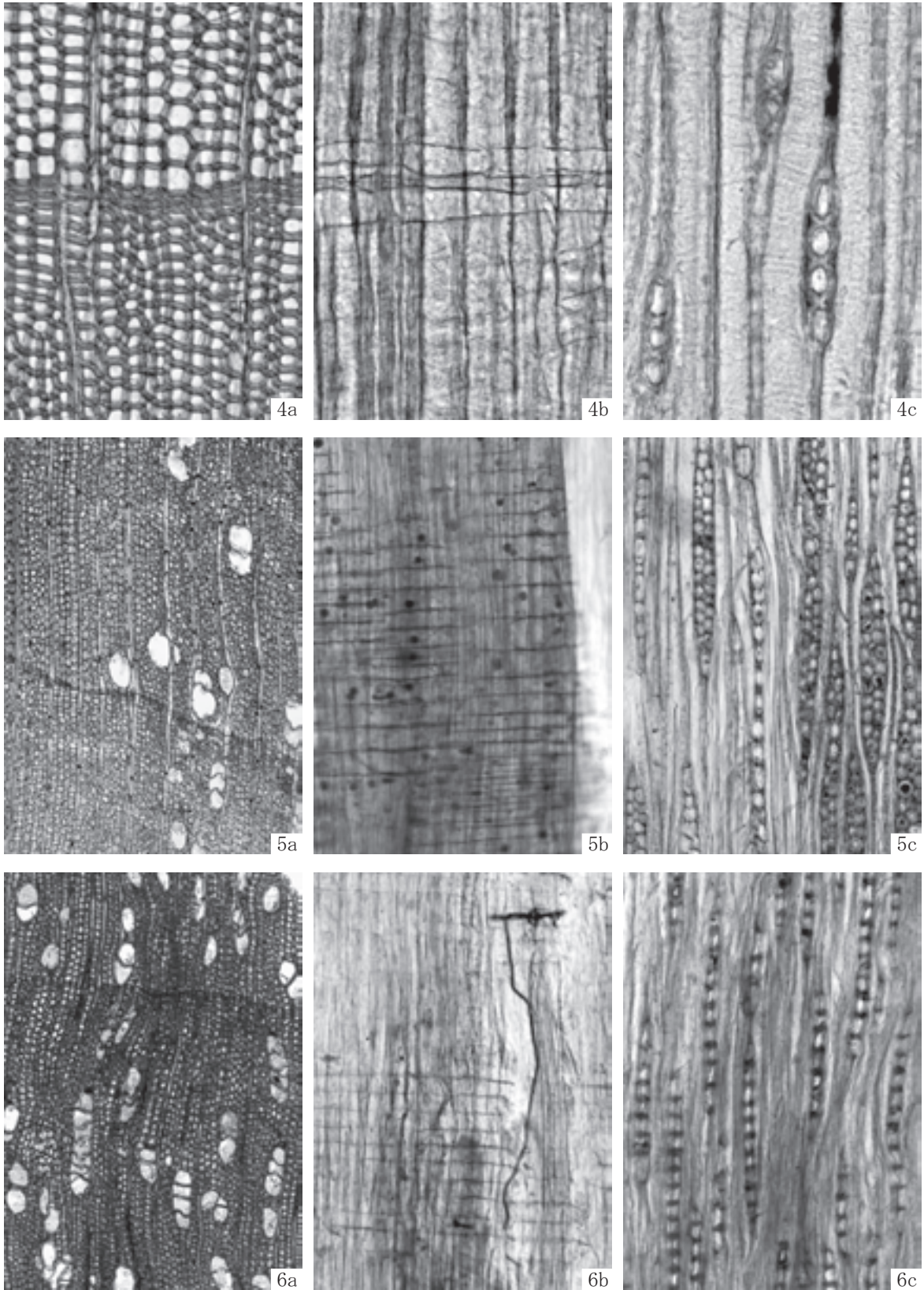
a: 木口, b: 柁目, c: 板目

100 μ m: a

100 μ m: b, c



図版2 木材(2)

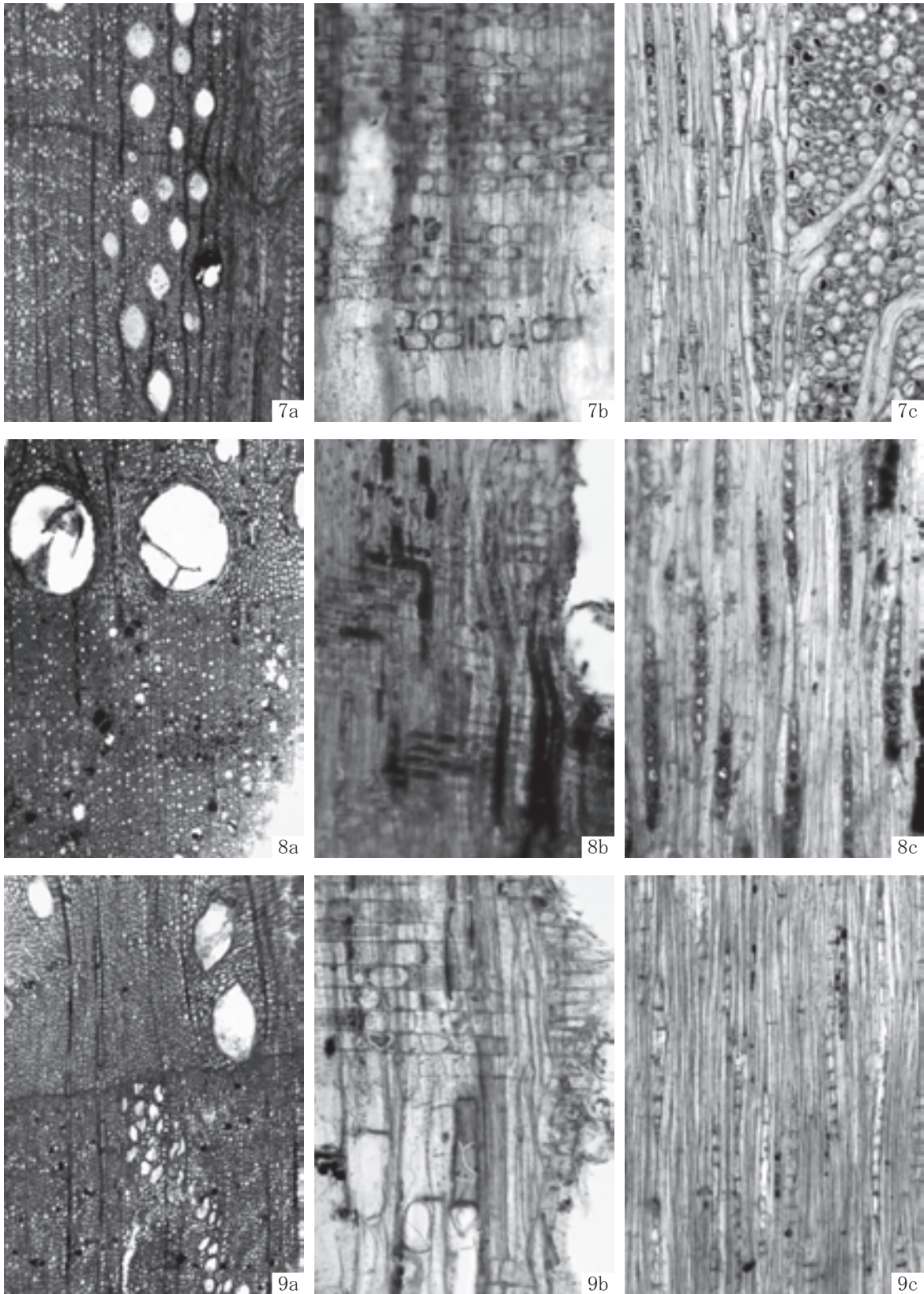


4. カヤ(試料番号22)  
 5. クマシデ属イヌシデ節(試料番号17)  
 6. アサダ(試料番号28)  
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200  $\mu$ m: 5-6a  
 100  $\mu$ m: 4a, 5-6b, c  
 100  $\mu$ m: 4b, c



図版3 木材(3)



7. コナラ属アカガシ亜属(試料番号2)

8. クリ(試料番号25)

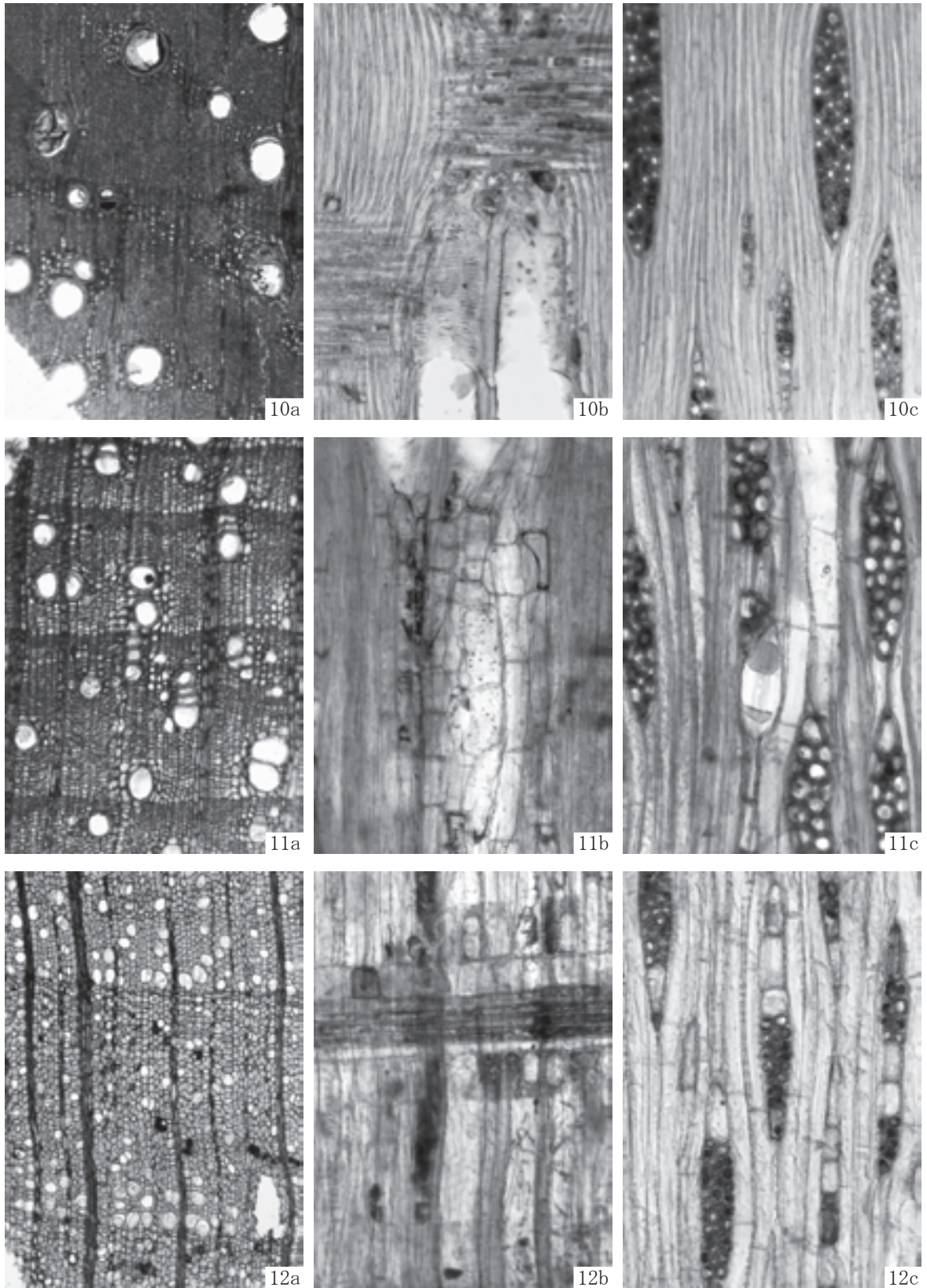
9. スダジイ(試料番号4)

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm: a  
100 μm: b, c



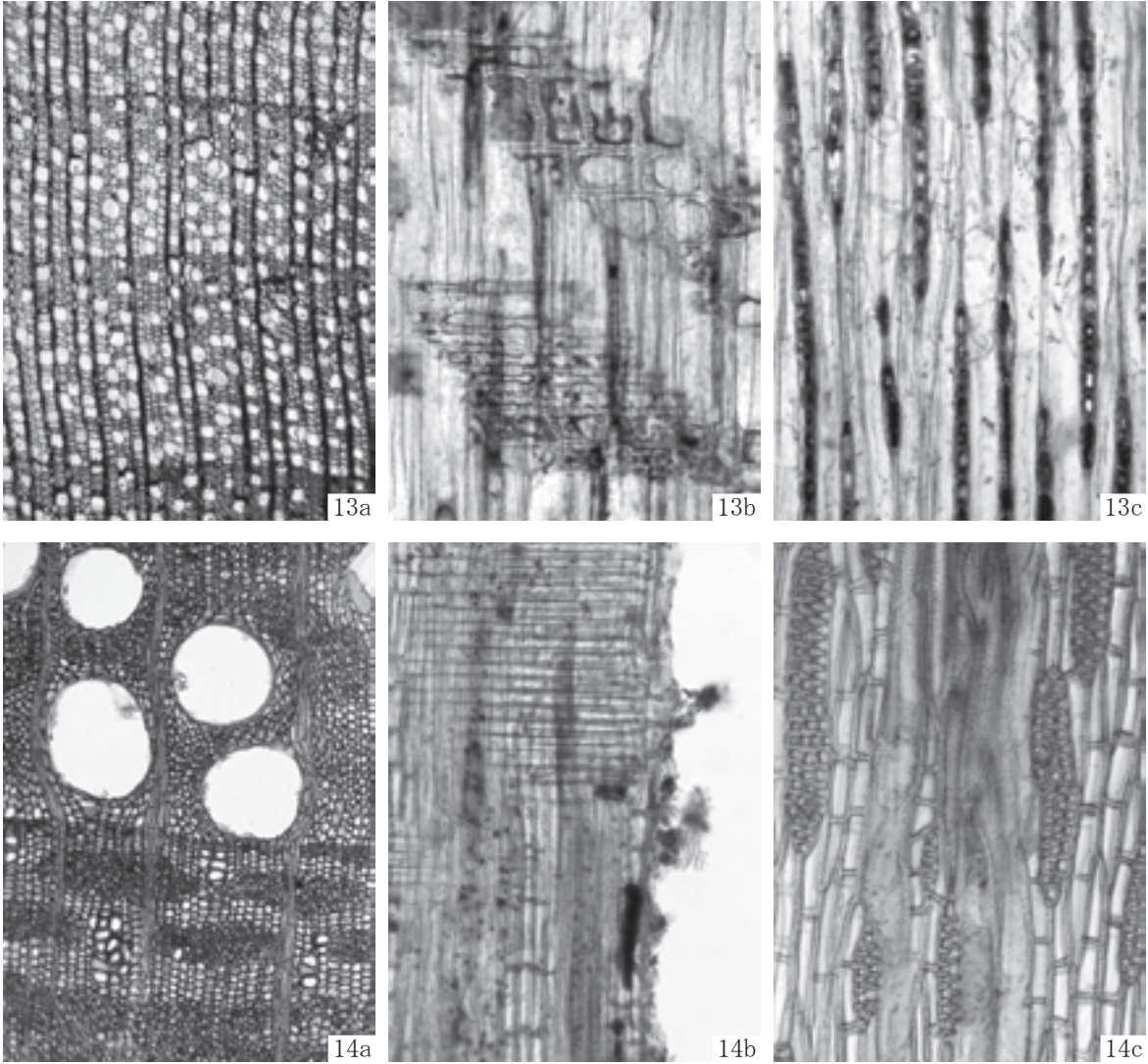
図版4 木材(4)



10. ムクノキ(試料番号24)  
 11. クスノキ科(試料番号3)  
 12. ツバキ属(試料番号11)  
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm: a  
 100 μm: b, c

図版5 木材(5)



13. サカキ(試料番号8)  
14. ムクロジ(試料番号18)  
a: 木口, b: 柾目, c: 板目

200  $\mu$ m: a  
100  $\mu$ m: b, c

## 第9節 西川津遺跡出土の組合箱形容器・壺形容器の樹種同定

(財) 元興寺文化財研究所

島根県教育庁埋蔵文化財調査センターよりお預かりした出土木製品の樹種同定について以下のようにご報告いたします。

### 1. 試料

遺物番号	掲載挿図番号	遺物名	出土遺跡
No. 1	88-1	組合箱形容器	西川津遺跡
No. 2	48-1	壺形容器	西川津遺跡

### 2. 同定方法

樹種同定に必要な木口面（横断面）、板目面（接線断面）、柁目面（放射断面）の3断面の切片を安全カミソリを用いて作製し、サフラニンで染色後、水分をエチルアルコール、n-ブチルアルコール、キシレンに順次置換した。その後、非水溶性封入剤を用いて永久プレパラートを作製し、光学顕微鏡で観察した。

### 3. 同定結果

各試料の木材組織は下記の通りである。以下に樹種同定結果とその根拠となる木材組織の特徴について記す。樹木分類および植生分布は『原色日本植物図鑑木本編』（Ⅱ）に従った。同定は木沢直子（財）元興寺文化財研究所が行った。

※ 樹木の性質、材の用途、出土事例等については後記の文献を参考とした。

#### No. 1 組合箱形容器

スギ *Cryptomeria Japonica* D. Don

ヒノキ科 (Cupressaceae)

仮道管と放射柔細胞、樹脂細胞からなる針葉樹材。水平樹脂道、垂直樹脂道は無い。早材から晩材への移行は急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞は早材から晩材への移行付近に接線状に配列する。分野壁孔は、スギ型で1分野に2個確認できる。放射組織は単列で2～12細胞高が見られる。

分 布：暖帯、温帯下部：本州、四国、九州、主として太平洋側。

樹 形：常緑高木で直幹性。樹高30～40 m、胸高直径2 mに達する。

用 途：建築、家具、桶、樽、船、土木、下駄、彫刻、楽器 等。

出土事例：建築材、桶、底板、舟・船、下駄、箸 等。

#### No. 2 壺形容器

クスノキ科 Lauraceae

広葉樹、散孔材。直径約100 μmの管孔が単独ないし2～4個放射方向に複合し年輪内に平等に分布する。道管の周囲を柔組織が取り囲み、顕著な周囲柔組織を形成している。道管は単穿孔と階段穿孔を有し、道管内腔にはラセン肥厚が見られる。放射組織は平伏細胞と直立細胞からなる異



性で、1～2列、ときに3列である。直立細胞の一部は油細胞となっている。

植生分布：主として暖帯、亜熱帯。

樹形：常緑高木または低木。

用途：建築、器具、楽器、彫刻、轆轤細工 等。

出土事例：臼、槽、鋤、泥除、舟、鼠返し 等。

### 参考文献

北村四郎・村田源 『原色日本植物図鑑・木本編』Ⅱ 1979年

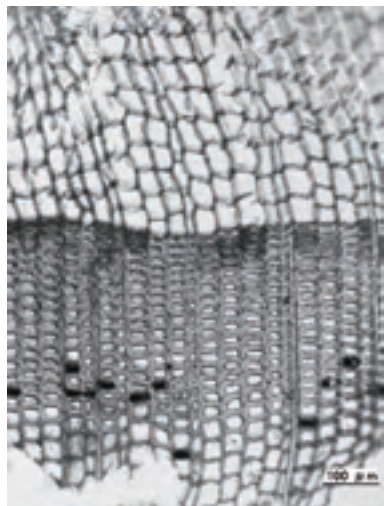
島地謙・伊東隆夫 『図説木材組織』 1982年

島地謙・伊東隆夫 『日本の遺跡出土木製品総覧』 1988年

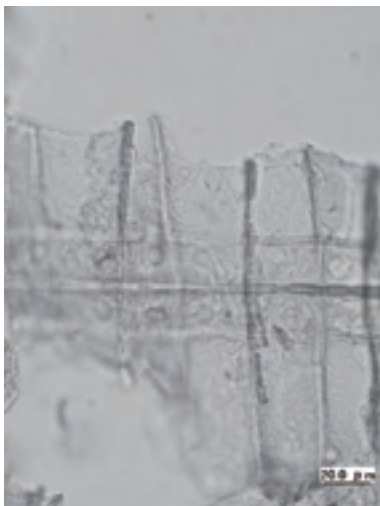
伊東隆夫 『日本産広葉樹材の解剖学的記載』Ⅱ 「木材研究・資料」第32号 別刷 1996年

### No. 1 組合箱形容器

### スギ *Cryptomeria Japonica* D. Don



小口面



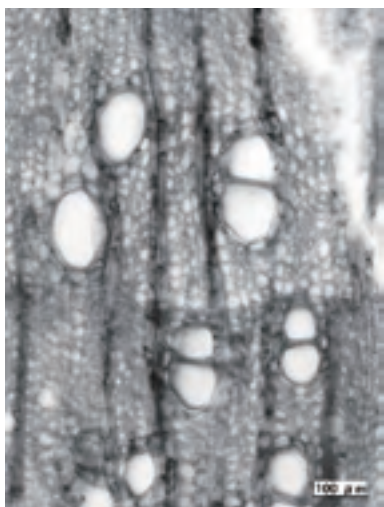
柁目面



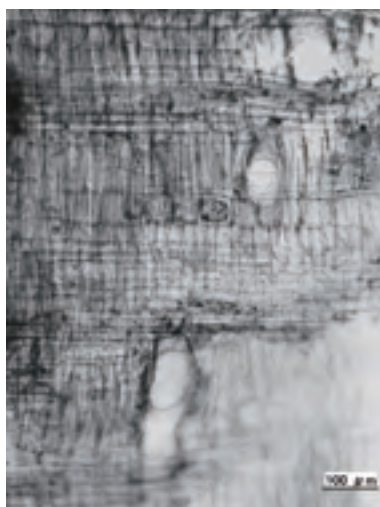
板目面

### No. 2 壺形容器

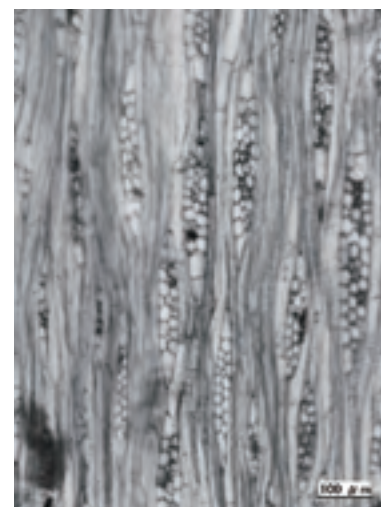
### クスノキ科 Lauraceae



小口面



柁目面



板目面

### 木材組織顕微鏡写真



## 第 10 節 西川津遺跡出土木製品の樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

西川津遺跡から出土した板状製品や鋸等の木製品の保存処理に伴い、木製品の素材を明らかにするための樹種同定を実施する。

### 1. 試料

試料は、木製品 13 点 (処理番号 1 ~ 13) である。

### 2. 分析方法

木製品の木取りを確認した上で、剃刀を用いて木口 (横断面)・柁目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の徒手切片を直接採取する。なお、接合部品がある場合には、接合面内からブロック試料を採取し、ブロックから新鮮な 3 断面の切片を作製する。切片は、ガム・クロラール (抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液) で封入し、プレパラートを作製する。生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

### 3. 結果

樹種同定結果を表 1 に示す。木製品は、針葉樹 2 分類群 (モミ属・スギ) と広葉樹 3 分類群 (コナラ属アカガシ亜属・エノキ属・ムクロジ) に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

#### ・モミ属 (*Abies*) マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、垂直壁にはじゅず状の肥厚が認められる。分野壁孔はスギ型で 1 分野に 1-4 個。放射組織は単列。

#### ・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2-4 個。放射組織は単列、1-10 細胞高。

#### ・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

採取した切片には複合放射組織が含まれていないが、試料の外観観察では複合放射組織があることを確認している。

#### ・エノキ属 (*Celtis*) ニレ科

木口面は小片しか採取できなかった。大型の道管が配列している様子から環孔材と判断される。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高で鞘細胞が認められる。

・ムクロジ (*Sapindus mukorossi Gaertn.*) ムクロジ科ムクロジ属

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、2-6個が塊状に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。柔組織は周囲状～連合翼状、帯状およびターミナル状。

表 1. 松江島根線(西川津遺跡)の樹種同定結果

処理番号	挿図番号	地点	器種	木取り	樹種	備考
1	89-1	SD07	板状	柁目 - 板目	スギ	
2	87-7	SD07	板状	柁目 - 板目	スギ	
3	88-4	SD07	板状	柁目 - 板目	スギ	
4	88-2	SD07	板状	板目	スギ	
5	88-3	SD07	板状	板目	モミ属	
6	87-4	SD07	鋤状製品	柁目 - 削出丸木	コナラ属アカガシ亜属	
7	87-5	SD07	四脚付台?	柁目	スギ	
8	87-6	SD07	板状	板目	スギ	
9	48-2	SD10	鋏(直柄)	柁目	コナラ属アカガシ亜属	舟形隆起のみ
10	87-2	SD07	鋏の柄	削出丸木	ムクロジ	
11	同上	SD07	鋏の柄	削出丸木	ムクロジ	
12	87-3	SD07	鋏(直柄)	柁目	コナラ属アカガシ亜属	
13	87-1	SD07	蓋	横木地柁目	エノキ属	

4. 考察

木製品は、板状、鋏、鋤状製品、四脚付台?、蓋がある、これらの木製品には、合計5分類群が認められた。各分類群の材質は、モミ属とスギが、木理が通直で割裂性が高く、分割加工が容易である。

広葉樹のクヌギ節は、重硬で強度が高い材質を有する。エノキ属は、やや硬い部類に入るが、強度は高くなく、また狂いや腐れが出やすいとされる。ムクロジは、やや重硬で強度は中程度である。

器種別に見ると、板状では、木取りが板目板あるいは柁目～板目板となり、6点中5点がスギ、1点がモミ属であり、2種類の針葉樹が利用されていたことが推定される。いずれも板状の分割加工が容易であり、こうした材質から利用されたと考えられる。四脚付台も板状を呈しており、スギが利用されていることから、板状と同様の木材利用が推定される。

鋏は、直柄鋏身と鋏の柄がある。鋏身は、1点が舟形隆起のみであるが、形状と木取りから、いずれも柁目板状を呈しており、アカガシ亜属が利用される。同様の事例は数多く知られており、農耕時の打撃等に耐える木材として強度の高いアカガシ亜属が利用されたと考えられる。一方、柄は、2点あり、いずれも削出丸木で、形状から同一個体の可能性が考えられている。いずれもムクロジに同定され、同一個体の可能性を支持する。鋤状製品は、身と柄が一木で作られており、身の部分が柁目板状、柄の部分が削出丸木となる。アカガシ亜属が利用されており、鋏と同様の木材利用が推定される。

蓋は、横木地で、蓋上面が柁目になる木取りであり、落葉広葉樹のエノキ属が利用されている。

同様の器種では、ケヤキ、ブナ属、トチノキなどの利用が比較的多い傾向がある。エノキ属は、器具材としてケヤキの代用とされることがあるが、ケヤキに比較すると材質は遙かに劣るとされる(平井,1996)。

## 引用文献

林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.

平井信二,1996,木の大本科. 朝倉書店,642p.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

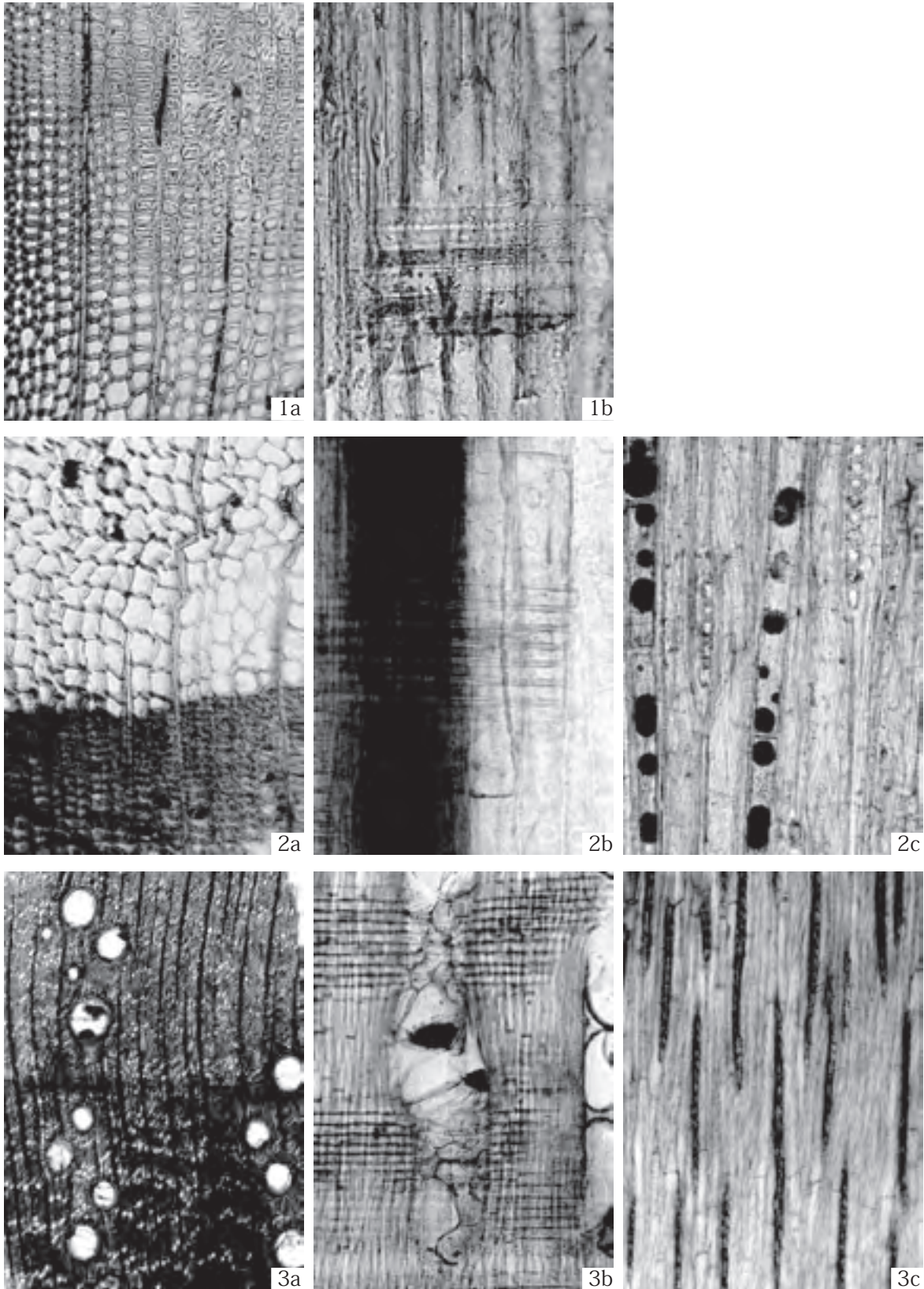
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編),2006,針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)*IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*].

島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織. 地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)*IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].

図版1 松江島根線の木材(1)

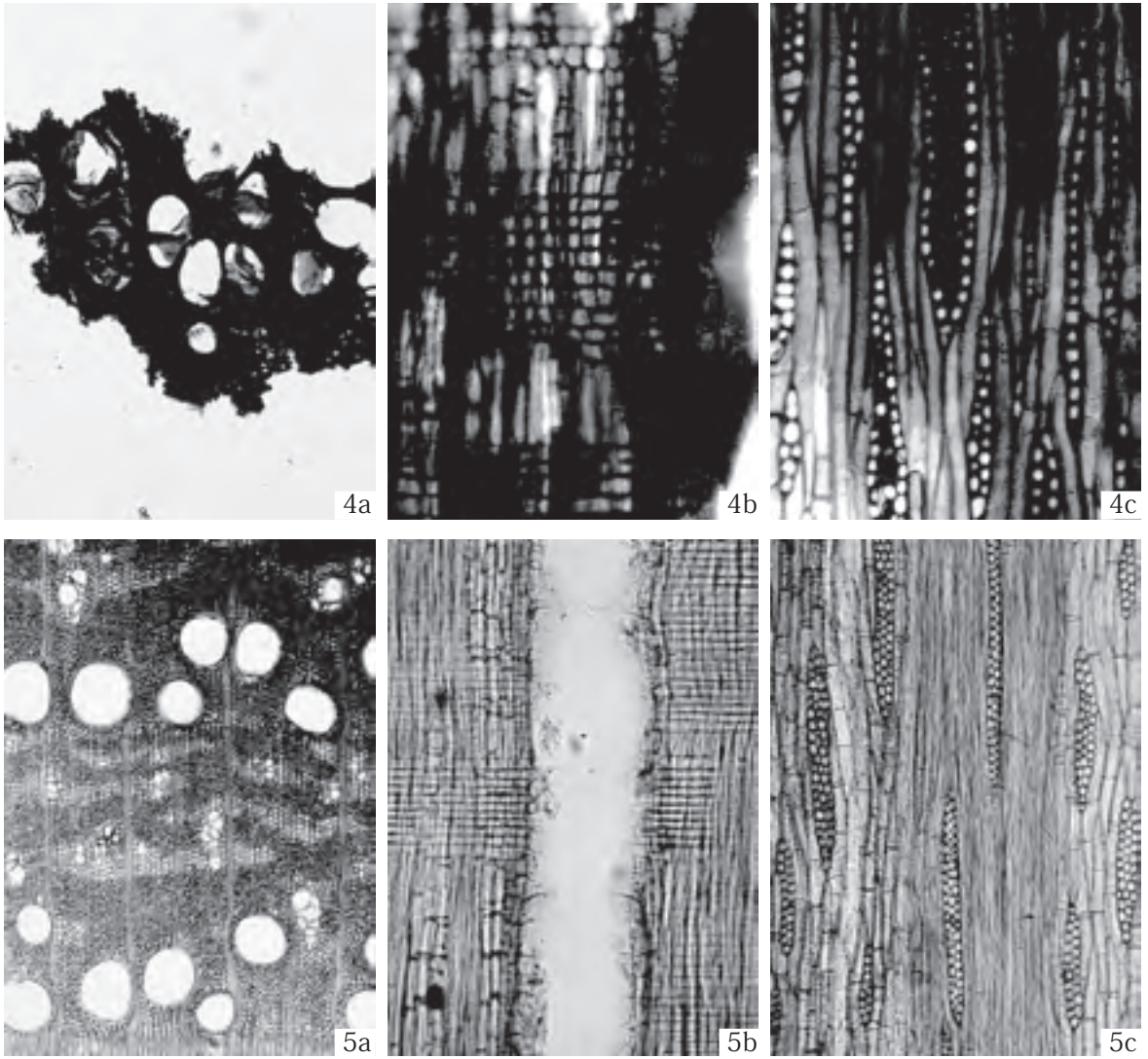


- 1.モミ属(処理番号5)
- 2.スギ(処理番号6)
- 3.コナラ属アカガシ亜属(処理番号12)
- a:木口, b:柁目, c:板目

300  $\mu$  m:3a  
 200  $\mu$  m:1-2a,3b,c  
 100  $\mu$  m:1-2b,c



図版 2 松江島根線の木材(2)



4.エノキ属(処理番号13)

5.ムクロジ(処理番号11)

a:木口,b:柁目,c:板目

300 μ m:a  
200 μ m:b,c

## 第11節 西川津遺跡出土木製遺物の樹種について

藤井 裕之

このたび実施した西川津遺跡出土木製遺物の樹種同定の結果について、以下報告する。

### 1. 同定の対象

西川津遺跡から出土した木製遺物 24 点である。

### 2. 同定方法

安全剃刀で木製遺物の3断面(木口、柾目、板目)から木材組織の切片を採取し、観察用のプレパラートを作成、これを生物顕微鏡で観察し、樹種を同定した。プレパラートの封入剤はガムクロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水を混合して調製したもの)を使用した。同定にあたっては島地・伊東(1982)、伊東(1995・1996・1997・1998・1999)を参照したほか、適宜手持ちの現生標本を比較対照に供した。また、学名および植物学的分類については、基本的に北村・村田(1971・1979)によった。

### 3. 同定結果(顕微鏡写真1~9参照)

結果は表のとおりである。以下、同定に利用した各樹種・分類群の識別拠点を記載する。

#### 各分類群の識別拠点

##### ・マキ属 (*Podocarpus* sp.)

針葉樹材。早材から晩材への移行はゆるやか。放射組織は2~5細胞高のものが多い。樹脂細胞は全体に散在。らせん肥厚は存在しない。分野壁孔はヒノキ型で、1分野に1~2個。

No.5は、上記のうち分野壁孔の種類と形状がはっきりしないため、マキ属近似とした。

##### ・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* Subgen. *Diploxylon* sp.: ニヨウマツ類)

針葉樹材。垂直樹脂道、水平樹脂道、放射仮道管を有する。放射仮道管の内壁には鋸歯状の突起が観察できる。分野壁孔は窓状。

##### ・スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don)

針葉樹材。樹脂細胞があり、晩材部に接線方向に並ぶ。早材から晩材への移行はやや急で、晩材部の幅が比較的広い。分野にはスギ型の壁孔が1分野あたりおおむね2個存在している。

##### ・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* Endl.)

針葉樹材。樹脂細胞あり。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅は狭い。分野壁孔はヒノキ~トウヒ型で、1分野に2個程度存在している。

##### ・ブナ属 (*Fagus* sp.)

広葉樹散孔材。単穿孔および階段穿孔を有する。放射組織は異性で、単列、数列のものと広放射組織が混在し、上下縁辺には方形細胞がみられる。

##### ・スタジイ (*Castanopsis cuspidata* var. *Sieboldii* Nakai)

広葉樹放射孔材(環孔性)。孔圏部道管の径は大きく接線方向に不連続に並び、孔圏外で徐々に

径を減じ火炎状に配列する。単穿孔を有する。放射組織は単列でほぼ同性。

・アカガシ亜属 (*Quercus* Subgen. *Cyclobalanopsis* sp.)

広葉樹放射孔材。道管は年輪とは無関係に、放射方向に列をなして分布する。広放射組織が見られる。

・クスノキ科 (*Lauraceae*)

広葉樹散孔材。径が中型の道管が単独または 2～4 個が主に放射方向に複合して散在する。単穿孔または階段穿孔を有し、周囲状柔組織が顕著。放射組織は異性で、幅 1～2 列程度。放射組織のうち、直立細胞の一部は油細胞となり大きく膨らんでいる。

・ツバキ属 (*Camellia* sp.)

広葉樹散孔材。階段穿孔を有する。木繊維は厚壁でらせん肥厚が見られる。放射組織は異性で、幅 1～3 列程度。放射組織に結晶細胞が見られる。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume)

散孔材。道管は単独または 2～4 個が放射方向に複合し、年輪の中央部を中心に分布する。単穿孔を有する。放射組織は単列で同性、層階状に規則正しく配列している。

No.19 は木口面の切片が十分でなかったことから、トチノキ近似とした。

・その他の注記事項

No.22a は木材ではなく、樹皮と考えられる。板目面の切片だけしか採取できていないこと、標本が十分でないことから樹種の同定には至らないが、特徴からみて針葉樹の可能性はある。

No.28 は、十分な切片が採取できなかった。したがって、材質そのものからして不明であるが、板目面における放射組織と同様の形質が観察できることから、広葉樹の木材である可能性がある。

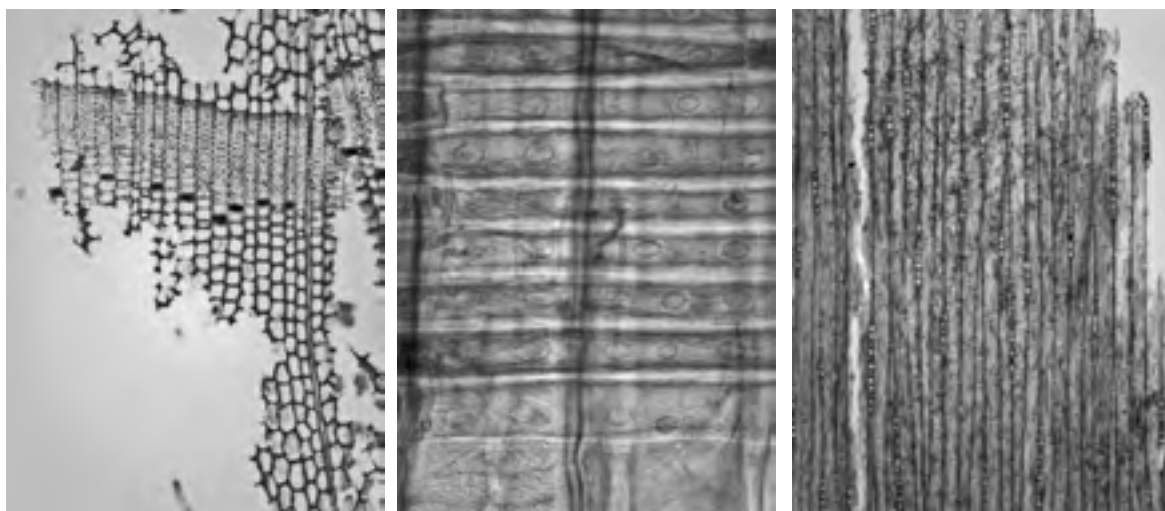
#### 4. 引用・文献リスト

- 伊東隆夫 1995 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』第 31 号、pp.81-181  
 伊東隆夫 1996 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』第 32 号、pp.66-176  
 伊東隆夫 1997 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』第 33 号、pp.83-201  
 伊東隆夫 1998 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』第 34 号、pp.30-166  
 伊東隆夫 1999 「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』第 35 号、pp.47-216  
 北村四郎・村田源 1971 『原色日本植物図鑑・木本編 [Ⅰ]』保育社  
 北村四郎・村田源 1979 『原色日本植物図鑑・木本編 [Ⅱ]』保育社  
 島地謙・伊東隆夫 1982 『図説 木材組織』地球社

表 樹種同定結果

No.	挿図番号	遺物名	調査区	PNo.	樹種
1	89-2	板状	SD07	23	スギ
2	89-7	棒状(割材?)	SD07	24	スダジイ
3	89-3	板状(割材?)	SD07	25	スダジイ
4	48-4	棒状	SD10	37	クスノキ科
5	90-2	棒状	SD07	41	マキ属近似
6	89-6	棒状?	SD07	42	広葉樹
7	89-5	板状(削片状)	SD07	44	スギ
8	89-4	板状	SD07	46	ヤマグワ
9	48-3	板状	SD10	78	アカガシ亜属
10	90-1	棒状	SD07	92	スダジイ
11	90-3,4	棒状?	SD07	93	ツバキ属
12	198-1	卒塔婆	D8 河道 1	46	ニヨウマツ類
13	198-2	卒塔婆	D8 河道 1	50	ニヨウマツ類
14	202-6	卒塔婆	D9 河道 1	52	ニヨウマツ類
15	203-4	杭	D9 河道 1	杭列 2-1	ニヨウマツ類
16	202-1	漆器椀	C8 河道 1	55	ブナ属
17	207-1	漆器椀	河道 2	3b 層	ブナ属
18	202-2	漆器椀	D8	1	ツバキ属
19	202-3	漆器椀	D8	7	トチノキ近似
20	202-4	漆器椀	C9	51	ブナ属
21	202-5	漆器椀	C10	3b 層	ブナ属
22a	70-1	窓枠状	SD15	下層	樹皮
22b	同上	窓枠状	SD15	下層	スダジイ
23	202-7	板状	D9	3b 層シルト	ヒノキ
28	161-1	漆塗櫛			不明

顕微鏡写真 1



No. 1

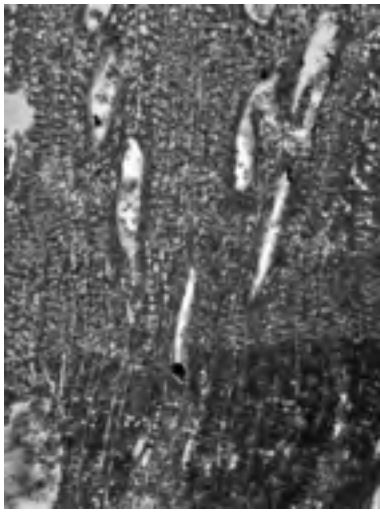
木口50×

柁目400×

板目50×



顕微鏡写真 2



No.2

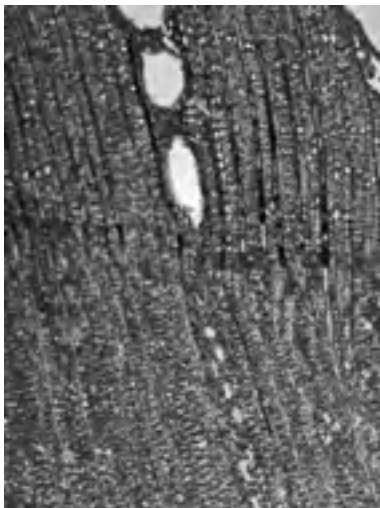
木口50×



柁目50×



板目100×

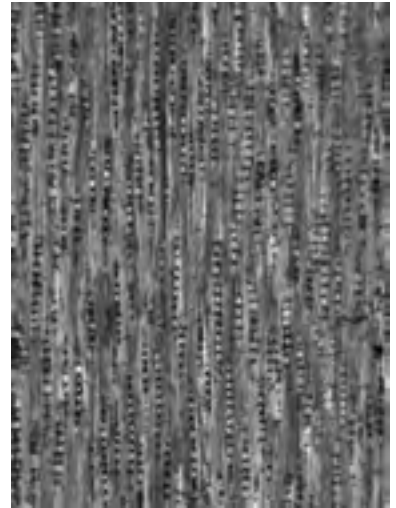


No.3

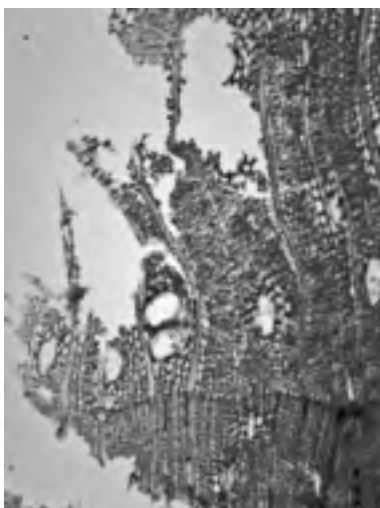
木口50×



柁目100×

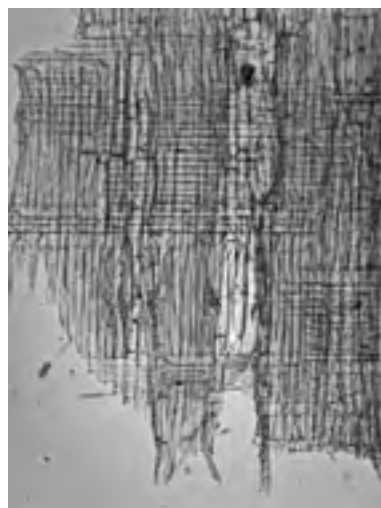


板目50×



No.4

木口50×

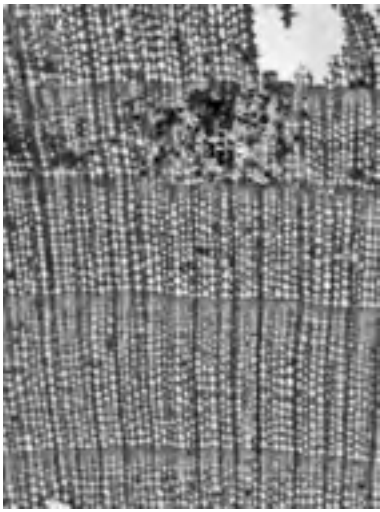


柁目50×



板目50×

顕微鏡写真 3

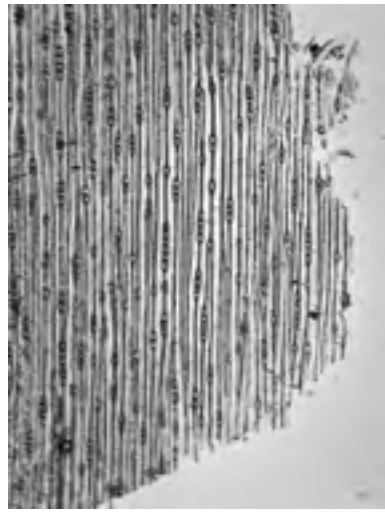


No.5

木口50×



柁目100×

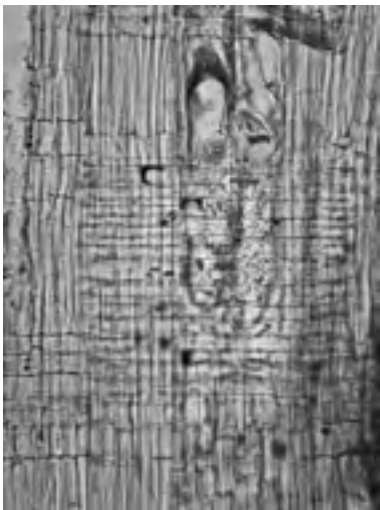


板目50×

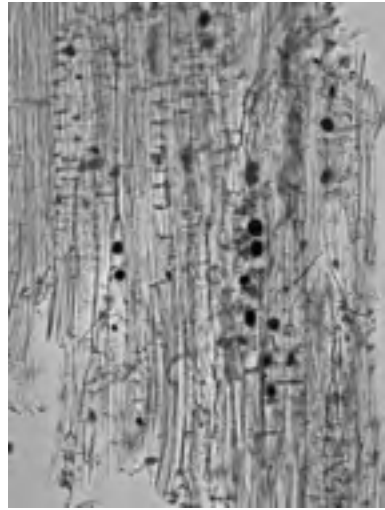


No.6

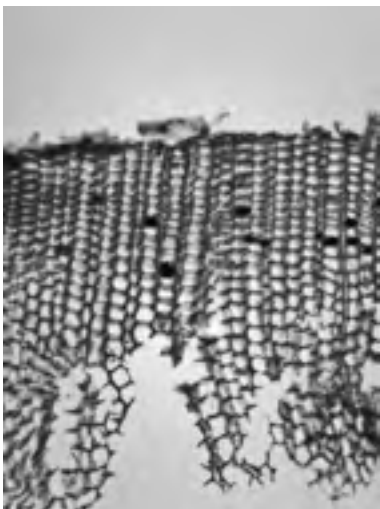
木口50×



柁目100×



板目100×

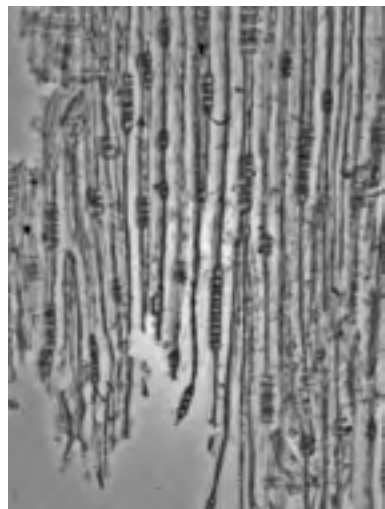


No.7

木口50×



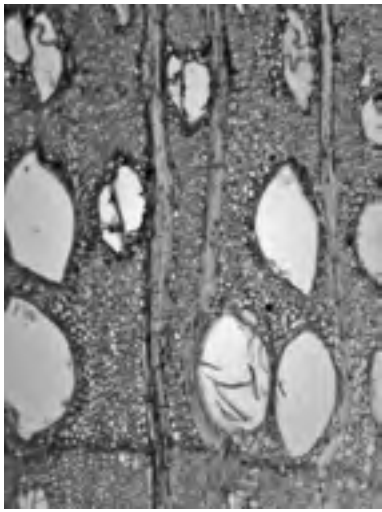
柁目400×



板目50×



顕微鏡写真 4

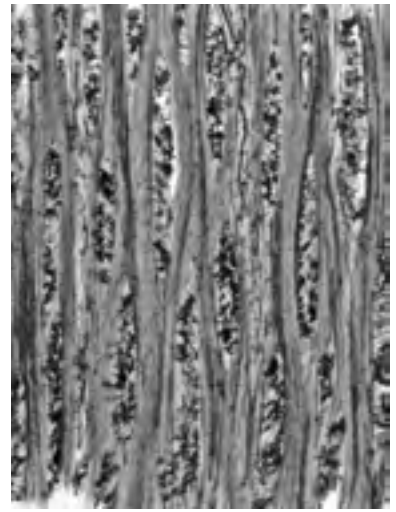


No.8

木口50×



柁目50×



板目50×

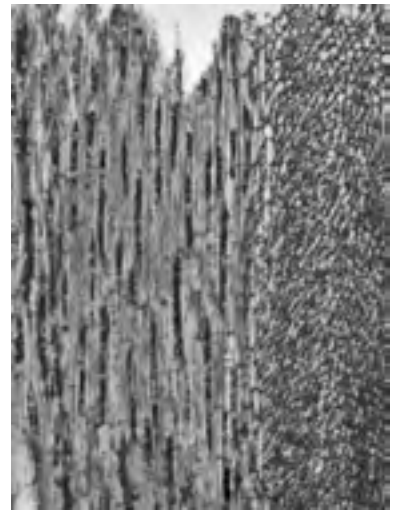


No.9

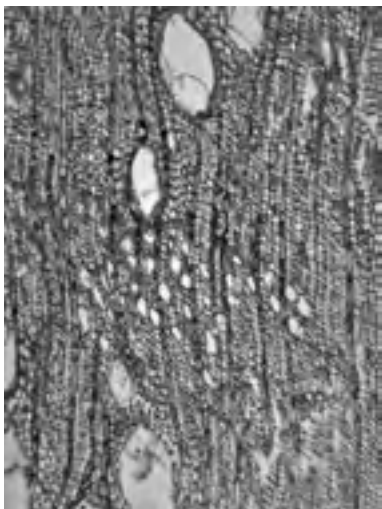
木口50×



柁目50×



板目50×



No. 10

木口50×



柁目100×



板目50×

顕微鏡写真 5

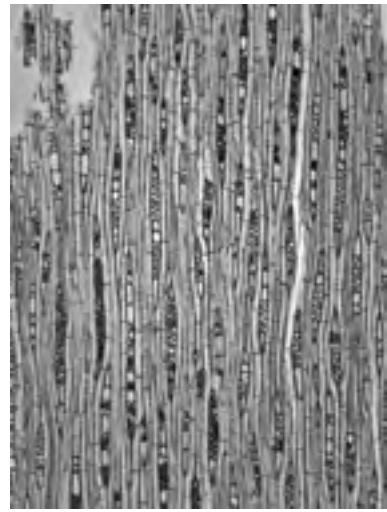


No. 1 1

木口50×



柁目50×



板目50×

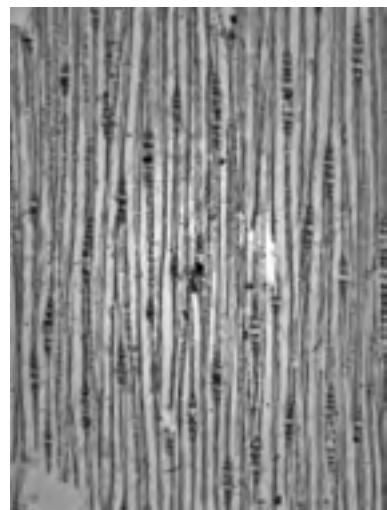


No. 12

木口50×



柁目400×

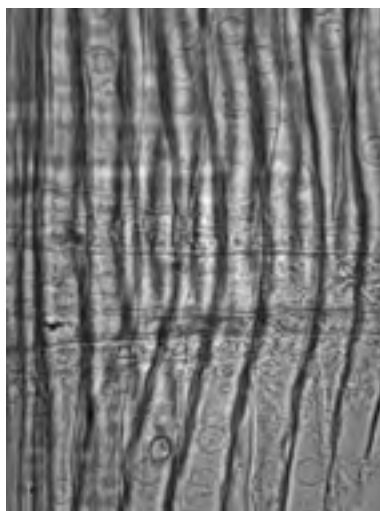


板目50×

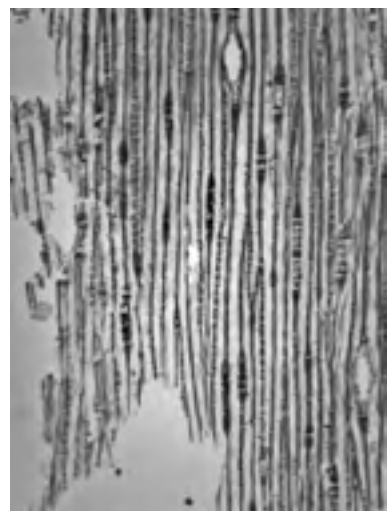


No. 13

木口50×



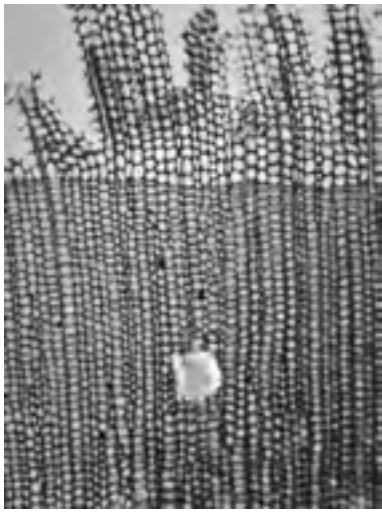
柁目200×



板目50×

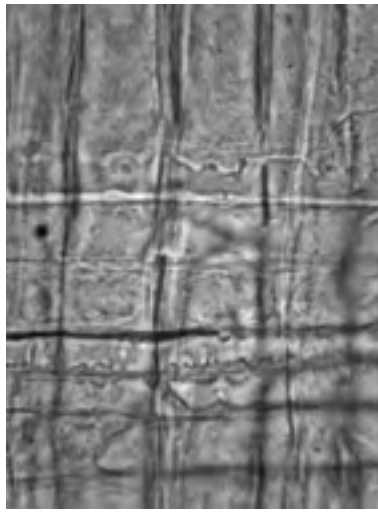


顕微鏡写真 6

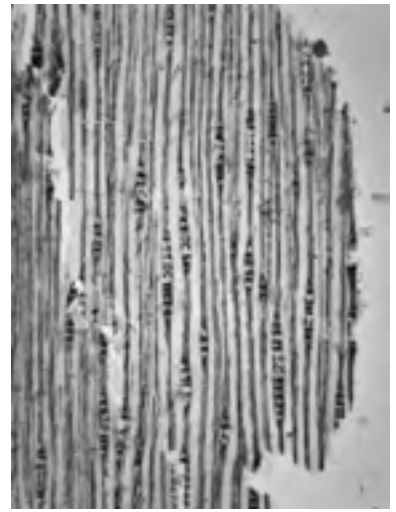


No. 1 4

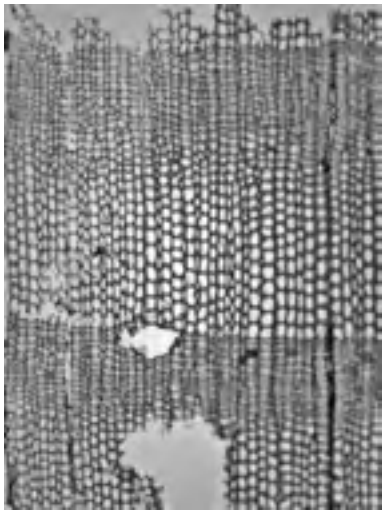
木口50×



柁目400×



板目50×



No. 1 5

木口50×



柁目400×

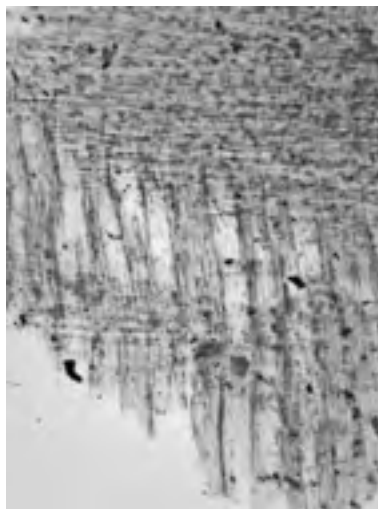


板目50×



No. 1 6

木口50×

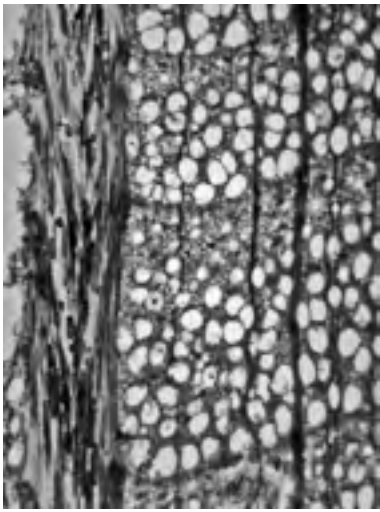


柁目50×



板目50×

顕微鏡写真 7

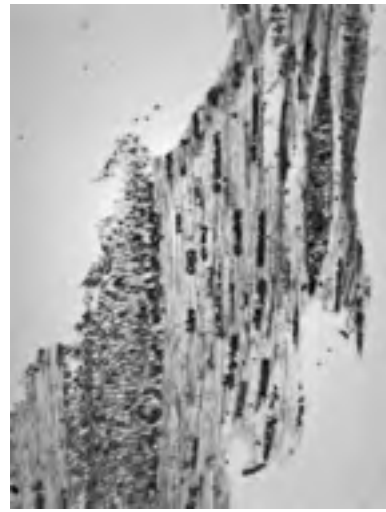


No. 17

木口50×



柁目100×



板目50×

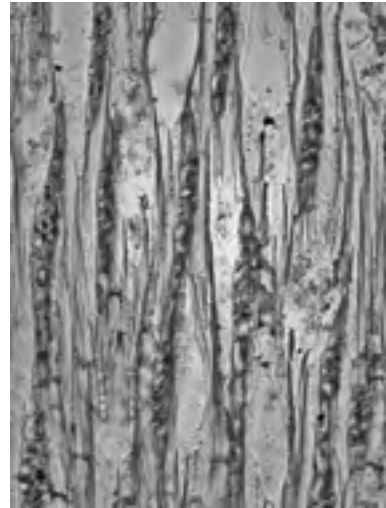


No. 18

木口50×



柁目100×



板目100×



No. 19 木口 (切片採取できず)

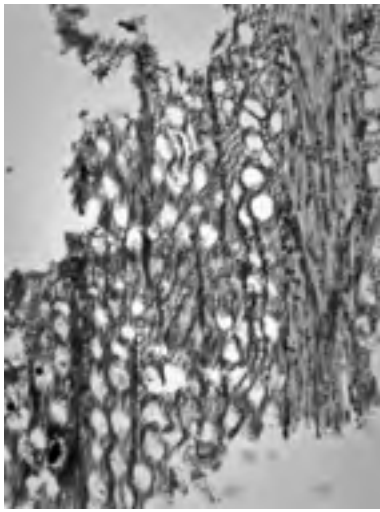
柁目50×



板目50×

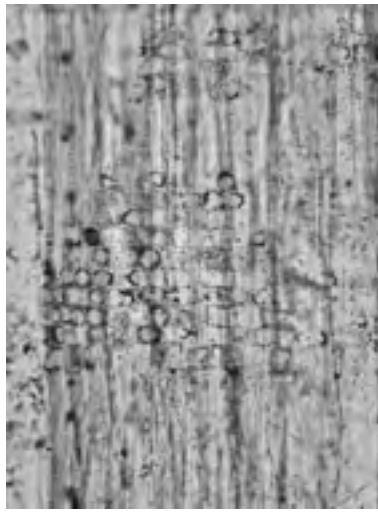


顕微鏡写真 8



No.20

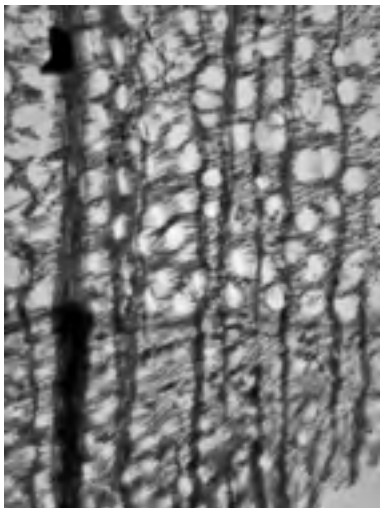
木口50×



柁目100×

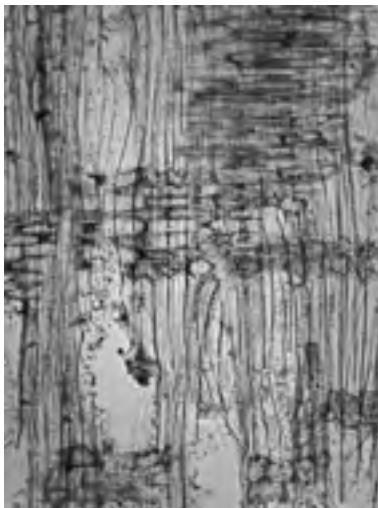


板目50×

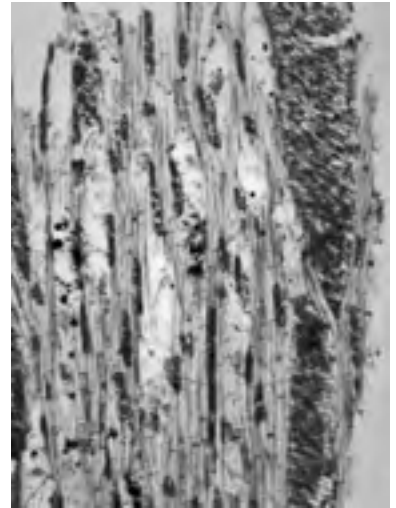


No.21

木口50×



柁目100×



板目50×



No.22a 木口 (切片採取できず)

柁目 (切片採取できず)

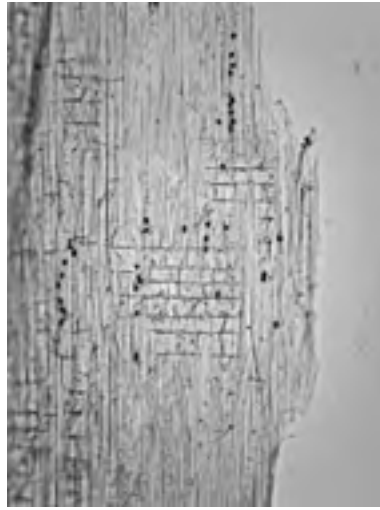
板目50×

顕微鏡写真 9



No.22b

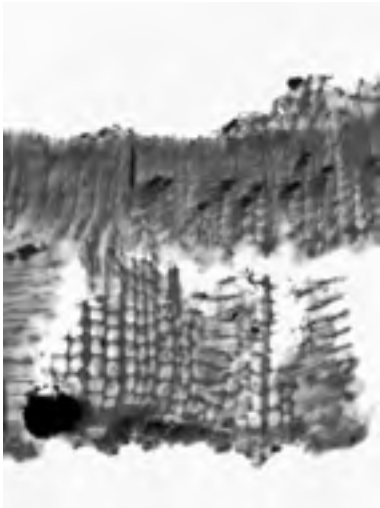
木口50×



柁目100×

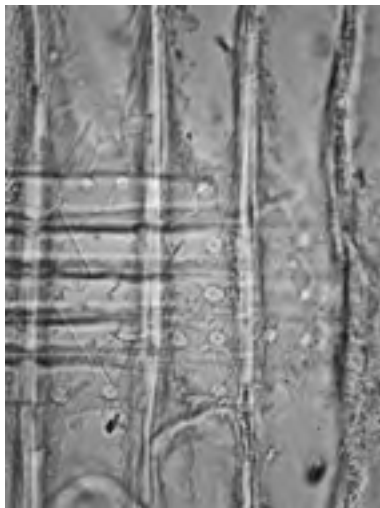


板目50×

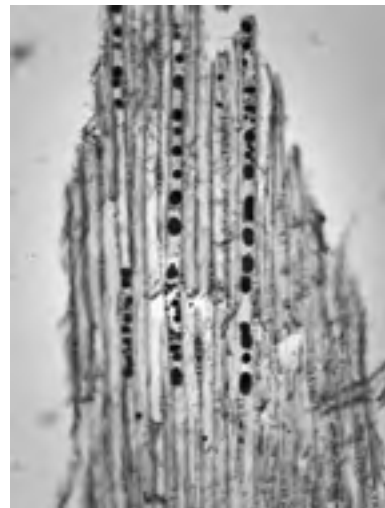


No.23

木口50×



柁目400×



板目50×



No.28 木口 (切片採取できず)

柁目か? 100×

板目 (切片採取できず)



## 第 12 節 松江島根線 (西川津遺跡) 出土木製品の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

松江島根線 (西川津遺跡) では、山持遺跡では、弥生時代～平安時代の集落跡に伴う遺構・遺物が検出されている。本報告では、出土した木製品を対象として、木材利用を検討するための樹種同定を実施する。

### 1. 試料

試料は、出土した木製品 80 点 (処理番号 1～80) である。

### 2. 分析方法

試料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口 (横断面)・柁目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール (抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液) で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類 (分類群) を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にする。

### 3. 結果

樹種同定結果を表 1 に示す。木製品は、針葉樹 6 分類群 (マツ属複維管束亜属・スギ・ヒノキ科・マキ属・イヌガヤ・カヤ) と広葉樹 11 分類群 (ヤナギ属・コナラ属アカガシ亜属・クリ・スダジイ・ヤマグワ・ツバキ属・サカキ・ニガキ・ウルシ・モチノキ属・ムクロジ) に同定された。なお、処理番号 10 は、針葉樹であるが、保存が悪いため、種類は不明である。処理番号 7, 21 の 2 点は樹皮であった。同定された各分類群の解剖学的特徴等を記す。

#### ・マツ属複維管束亜属 (*Pinus* subgen. *Diploxylon*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1～15 細胞高。

#### ・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1 分野に 2～4 個。放射組織は単列、1～15 細胞高。

#### ・ヒノキ科 (Cupressaceae)

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～や

や急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1～10細胞高。

表 1. 松江島根線の樹種同定結果 (1)

処理番号	挿図番号	遺物番号	遺物名	木取り	樹種
1	203-2	西川津 125	卒塔婆 ??(杭)	半裁状	マツ属複雑管束亜属
2	203-3	西川津 126	卒塔婆 ??(杭)	半裁状	マツ属複雑管束亜属
3	61-2	西川津 139	板状	板目	ヤマグワ
4	61-4	西川津 143	棒状	ミカン割	スギ
5	67-1	西川津 178	板状	柾目	コナラ属アカガシ亜属
6	70-2	西川津 183	板状	板目	スギ
7	70-7	西川津 203	板状	樹皮	樹皮
8	95-1	西川津 213	加工材	削出棒	マキ属
9	161-4	西川津 268	板状	板目	スギ
10	161-3	西川津 285	樹皮 (保存形態)	板目	針葉樹
11	162-1	西川津 299	鉢形容器	横木地柾目	ヤマグワ
12	162-3	西川津 300	板状	板目	スギ
13	162-4	西川津 301	板状	板目	スギ
14	162-2	西川津 302	角材状木製品	柾目	スギ
15	138-2	西川津 310	鉢	柾目	ヤマグワ
16	146-2	西川津 312	板状	板目	スギ
17	148-6	西川津 314	角材状	分割角材	カヤ
18	139-6	西川津 321	鋏先未製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属
19	144-1	西川津 322	斧柄	削出棒	モチノキ属
20	148-7	西川津 323	板状	板目	ムクロジ
21	146-8	西川津 324	樹皮 (保存形態)	樹皮	樹皮
22	145-8	西川津 328	板状	板目	スギ
23	146-1	西川津 330	板状	板目	スギ
24	138-3	西川津 336	杓子	横木地	ヤマグワ
25	138-4	西川津 344	腰掛	板目	スギ
26	139-5	西川津 368	鋏先の一部	柾目	コナラ属アカガシ亜属
27	149-5	西川津 389	加工材 (杭?)	芯持丸木	ツバキ属
28	145-5	西川津 390	板状	板目	スギ
29	143-2	西川津 392	泥除未製品	板目	ニガキ
30	145-4	西川津 393	用途不明木製品	板目	スギ
31	145-6	西川津 400	板状	板目	スギ
32	146-3	西川津 416	板状	板目	スギ
33	143-1	西川津 424	泥除未製品	板目	ムクロジ
34	138-7	西川津 427	梯子	半裁状	スダジイ
35	146-4	西川津 429	用途不明木製品	板目	スギ
36	147-3	西川津 431	板状	板目	スギ
37	138-5	西川津 432	有頭棒	削出棒	スギ
38	144-3	西川津 442	斧柄未製品	削出棒	コナラ属アカガシ亜属
39	147-2	西川津 447	角材状	分割角材	スギ
40	140-1	西川津 451	鋏先未製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属
41	139-1	西川津 452	鋏先	柾目	コナラ属アカガシ亜属
42	140-2	西川津 453	鋏先未製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属
43	149-2	西川津 461	加工材 (杭)	芯持丸木	ツバキ属
44	142-2	西川津 462	用途不明木製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属
45	141-3	西川津 464	板状	柾目	コナラ属アカガシ亜属
46	144-2	西川津 465	斧柄未製品	削出棒	コナラ属アカガシ亜属
47	147-1	西川津 468	角材状	分割角材	スギ
48	139-7	西川津 470	鋏先未製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属
49	148-8	西川津 481	加工材	半裁状	クリ
50	145-1	西川津 486	板状	板目	スギ
51	146-6	西川津 490	板状	板目	スギ
52	141-1	西川津 493	鋏先未製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属
53	146-7	西川津 494	板状	板目	スギ
54	147-7	西川津 495	板状	柾目	スギ
55	145-7	西川津 497	板状	追柾	スギ
56	145-3	西川津 498	板状	追柾	スギ

表 1. 松江島根線の樹種同定結果 (2)

処理番号	挿図番号	遺物番号	遺物名	木取り	樹種
57	147-6	西川津 499	板状	板目	スギ
58	148-5	西川津 500	加工材	半裁状	ヤナギ属
59	142-1	西川津 501	鋸先未製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属
60	140-3	西川津 503	鋸先未製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属
61	141-2	西川津 504	鋸先未製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属
62	141-4	西川津 505	板状木製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属
63	151-2	西川津 521	ミカン割材	分割材	スダジイ
64	150-5	西川津 547	柄 (直柄鋸の柄)	削出棒	コナラ属アカガシ亜属
65	152-4	西川津 554	ミカン割材 (SX04 杭)	分割材	スギ
66	152-14	西川津 555	板状 (SX04 杭)	板目	スギ
67	152-2	西川津 565	角材状 (SX04 杭)	分割角材	スギ
68	152-1	西川津 569	枝状 (SX04 杭)	芯持丸木	マキ属
69	152-11	西川津 579	ミカン割材 (SX04 杭)	分割材	スギ
70	151-10	西川津 588	杭? (SX04 杭)	芯持材	ウルシ
71	150-3	西川津 605	端材	柾目	コナラ属アカガシ亜属
72	150-2	西川津 606	鋸先未製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属
73	151-9	西川津 607	不明木製品	芯持丸木	ヒノキ科
74	150-1	西川津 608	鋸先未製品	柾目	コナラ属アカガシ亜属
75	139-4	西川津 633	板状 (鋸先?)	柾目	コナラ属アカガシ亜属
76	139-2	西川津 634	鋸先	柾目	コナラ属アカガシ亜属
77	139-3	西川津 635	鋸先?	柾目	コナラ属アカガシ亜属
78	138-6	西川津 636	用途不明木製品 (緊縛棒?)	芯持材	サカキ
79	150-4	西川津 649	狭鋸	柾目	コナラ属アカガシ亜属
80	126-1	西川津 652	用途不明品 (網枠?)	芯持材	イヌガヤ

#### ・マキ属 (*Podocarpus*) マキ科

軸方向組織は、仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型で 1 分野に 1 ~ 2 個。放射組織は単列、1 ~ 10 細胞高。

#### ・イヌガヤ (*Cephalotaxus harringtonia* (Knight) K. Koch f.) イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で 1 分野に 1 ~ 2 個。放射組織は単列、1 ~ 10 細胞高。

#### ・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には 2 本が対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型~ヒノキ型で、1 分野に 1 ~ 4 個。放射組織は単列、1 ~ 10 細胞高。

#### ・ヤナギ属 (*Salix*) ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または 2-3 個が複合して散在し、年輪界付近で径を減少させる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1 ~ 15 細胞高。

#### ・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸~厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1 ~ 15 細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・スダジイ (*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii* (Makino) Nakai) ブナ科シイ属

環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1～2個幅で放射方向に配列する。孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高。

・ヤマグワ (*Morus australis* Poiret) クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は3～5列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では単独または2-4個が複合して斜方向に配列し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～6細胞幅、1～50細胞高。

・ツバキ属 (*Camellia*) ツバキ科

散孔材で、道管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、単独および2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。

・サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.) ツバキ科サカキ属

散孔材で、小径の道管が単独または2～3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～階段状に配列する。放射組織は異性、単列、1～20細胞高。

・ニガキ (*Picrasma quassioides* (D. Don) Benn.) ニガキ科ニガキ属

環孔材で、孔圏部は2～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、単独または2～4個が放射方向あるいは塊状に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～6細胞幅、1～40細胞高。柔組織は周囲状～翼状およびターミナル状で、層階状に配列する。

・ウルシ (*Rhus verniciflua* Stokes) ウルシ科ウルシ属

環孔材で、孔圏部は3～4列、孔圏外への移行は緩やかで、小道管は年輪界に向かって漸減しながら単独または2～4個が放射方向に複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高で、時に上下に連結する。

・モチノキ属 (*Ilex*) モチノキ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では多角形、単独または2～6個が複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1～5細胞幅、1～40細胞高。

・ムクロジ (*Sapindus mukorossi* Gaertn.) ムクロジ科ムクロジ属

環孔材で、孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～40細胞高。柔組織は周囲状～連合翼状、带状およびターミナル状。



#### 4. 考察

木製品は、鋏、泥除、建築部材、梯子、斧柄、板状、卒塔婆?? などがある。これらの木製品は、伊東・山田 (2012) の木器分類に従うと、工具 (斧柄)、農耕土木具 (狭鋏・鋏先・柄・泥除)・漁労具 (網枠?)、容器 (鉢形容器)、調理加工具 (杓子)、調度 (腰掛)、埋葬具・葬具 (卒塔婆??)、建築部材 (梯子・建築部材)、土木材 (杭)、施設材・器具材 (板・棒類)、その他 (ミカン割材・加工材・角材状・端材・不明木製品・樹皮など) に分類される。工具や農耕土木具の中には、未製品も認められ、本遺跡において木器の製作が行われていたことが伺える。各分類別の種類構成を表 2 に示す。

これらの木製品には、針葉樹 6 分類群、広葉樹 11 分類群が認められ、多くの種類が利用されている。各分類群の材質をみると、針葉樹のマツ属複雑維管束亜属は、軽軟であるが、強度・保存性は比較的高い。スギとヒノキ科は、木理が通直で割裂性・耐水性が比較的高い。マキ属、イヌガヤ、カヤは、比較的重硬・緻密で、強度・耐水性が高い。広葉樹のヤナギ属は、軽軟で強度・保存性は低い。アカガシ亜属、ツバキ属、サカキは、重硬で強度が高い。クリとヤマグワは、重硬で強度・耐朽性が高い。スダジイ、モチノキ属、ムクロジは、比較的重硬で強度が高い。ニガキは、強度は中程度とされる。ウルシは、やや軽軟な部類に入り、一般に弱く脆いとされる。

器種別にみると、工具の斧柄は、アカガシ亜属 2 点、モチノキ属 1 点であり、比較的高い強度の木材を利用する傾向がある。農耕土木具は、鋏類 (狭鋏・鋏先) が多く、他に直柄鋏の柄と考えられる資料と泥除未製品がある。鋏類は、14 点全てがアカガシ亜属の柁目板であり、木取り・樹種が固定されていたことが推定される。柄と考えられる資料もアカガシ亜属であり、鋏の身・柄には強度の高い木材を利用したことが推定される。一方、泥除は、ニガキとムクロジが各 1 点であり、樹種選択に傾向は認められない。

漁労具の網枠? は、イヌガヤであり、耐水性・靱性に優れた木材を選択したことが推定される。既存の調査例 (伊東・山田 2012) でも網枠にはイヌガヤが多く利用される傾向があり、樹種の結果からは本資料が網枠としても矛盾しない。

容器では、鉢形容器がヤマグワに同定され、強度・耐朽性の高い木材を選択したことが推定される。調理加工具の杓子もヤマグワであり、同様の木材利用が推定される。なお、ヤマグワ (クワ属) の容器は、海上遺跡の弥生時代中期～後期とされるコップ型木製品や脚付合子、天神遺跡の弥生時代中期とされる椀、姫原西遺跡の弥生時代後期～古墳時代前期とされる刳物桶の底板、三田谷 b 遺跡の弥生時代早・前期～中期の刳物椀等に確認された例がある (伊東・山田, 2012)。また、杓子については、同様の事例が海上遺跡で報告されている。

調度の腰掛はスギであり、分割加工が容易な木材を選択したと考えられる。埋葬具・葬具の卒塔婆?? は、2 点ともマツ属複雑維管束亜属であり、選択的な利用が推定される。島根県内では、喜時雨遺跡の鎌倉時代～室町時代前期とされる卒塔婆にスギが確認された例が 1 例報告されている程度であり、マツ属複雑維管束亜属の利用例は確認できない。しかし、全国的には静岡県瀬名遺跡の中近世とされる資料や福井県越前朝倉氏遺跡の戦国～江戸初期とされる資料に複雑維管束亜属の利用が少ないながら認められる (伊東・山田, 2012)。建築部材では、梯子と建築部材があり、建築部材がスギ、梯子がスダジイに同定された。建築部材については、分割加工が容易な木材を選択した可能性がある。梯子については、スダジイが暖温帯性常緑広葉樹林の主要な構成種として、本地域に

普通に見られる樹木であることを考慮すれば、周辺に生育し、入手が容易な木材を利用した可能性がある。

杭は、マキ属、ツバキ属、ウルシが認められた。マキ属とツバキ属は、暖温帯性常緑広葉樹林の構成種であることから、遺跡周辺に生育している樹木の中から比較的強度が高い木材を選択した可能性がある。一方、ウルシは、漆液採取のために栽培されることから、漆液採取後の木材を利用した可能性がある。

施設材・器具時では、板状と有頭棒がある。板状木製品は、27点中19点がスギであり、分割加工が容易な種類の利用が多い。なお、板状のうち、2点は鋏先の可能性があるとされる。いずれも鋏に多く利用されるアカガシ亜属であり、資料が鋏先としても矛盾しない。有頭棒は、スギとサカキであり、2種の木材の利用が認められる。スギとサカキでは強度や加工性等の材質が異なることから、用途なども異なる可能性がある。

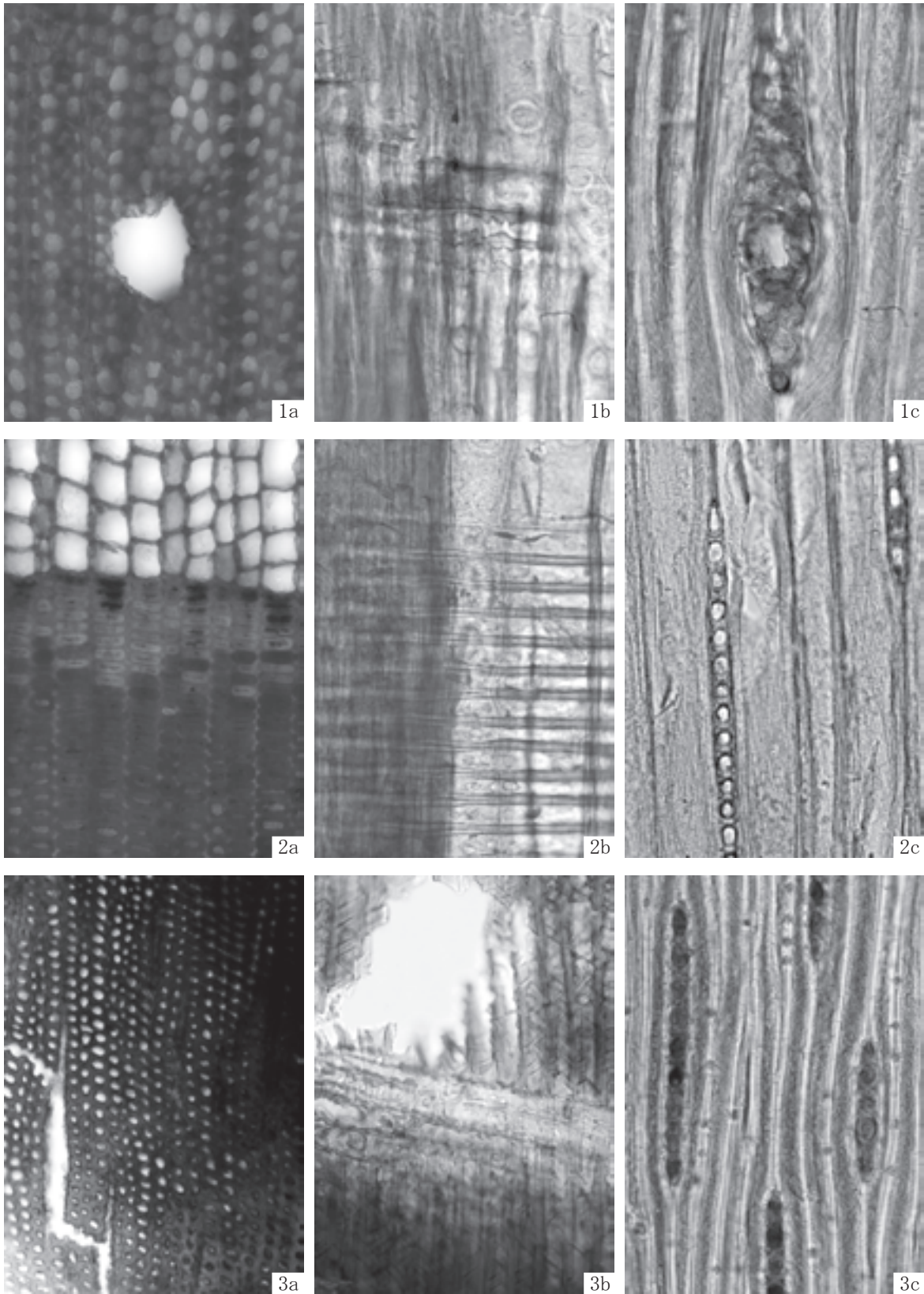
## 引用文献

- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料,31, 京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料,32, 京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料,33, 京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料,34, 京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料,35, 京都大学木質科学研究所,47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久,2012,木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社,449p.
- Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E. (編),2006,針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修),海青社,70p. [Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification] .
- 島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織. 地球社,176p.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification] .

表2. 器種別種類構成

種類\器種	工具		農耕土木具		漁労		容器		調度		埋葬具		建築部材		土木		施設・器具		その他		合計	
	斧柄	鋤柄	鋤柄	泥除柄	網杵?	鉢形	杓子	腰掛	卒塔婆??	建築部材	杭	板	樺	ミカン割	加工材	角材状	端材	樹皮	不明			
針葉樹																						
マツ属復雜管束亜属																						2
スギ							1										19	1		4		1
ヒノキ科																						30
マキ属																						1
イヌガヤ																						1
カヤ																						2
針葉樹																						1
広葉樹																						1
ヤナギ属																						1
アカガシ属	2	14	1																			1
クリ																						24
スダジイ																						1
ヤマグワ																						2
ツバキ属																						4
サカキ																						2
ウルシ																						1
ニガキ																						1
モチノキ属	1																					1
ムクロジ																						1
その他																						2
樹皮																						2
合計	3	14	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	27	2	4	3	5	2
																						3
																						80

図版1 松江島根線(西川津遺跡)の木材(1)

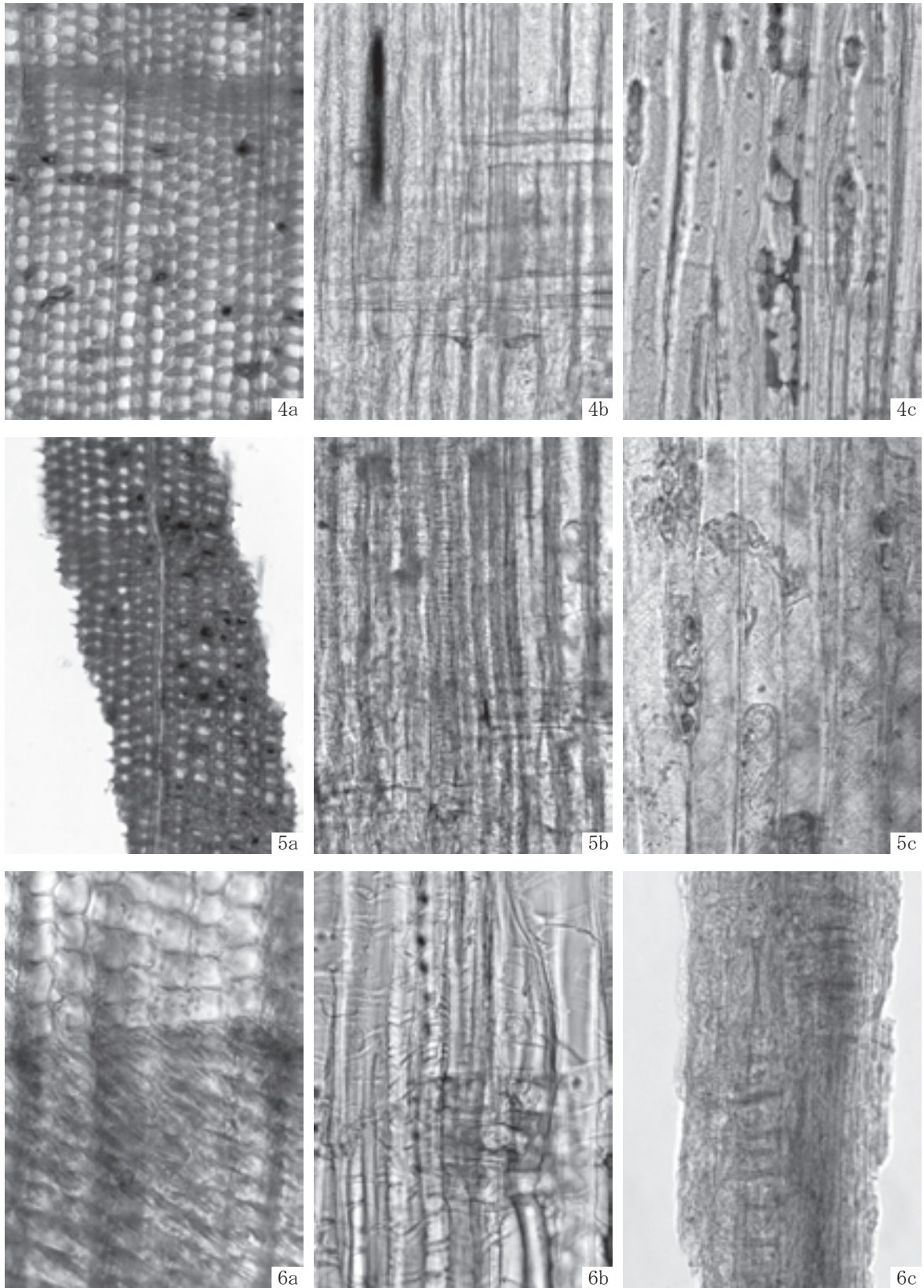


- 1. マツ属複維管束亜属(処理番号1)
  - 2. スギ(処理番号53)
  - 3. ヒノキ科(処理番号73)
- a: 木口, b: 柁目, c: 板目

100 μm: a  
100 μm: b, c



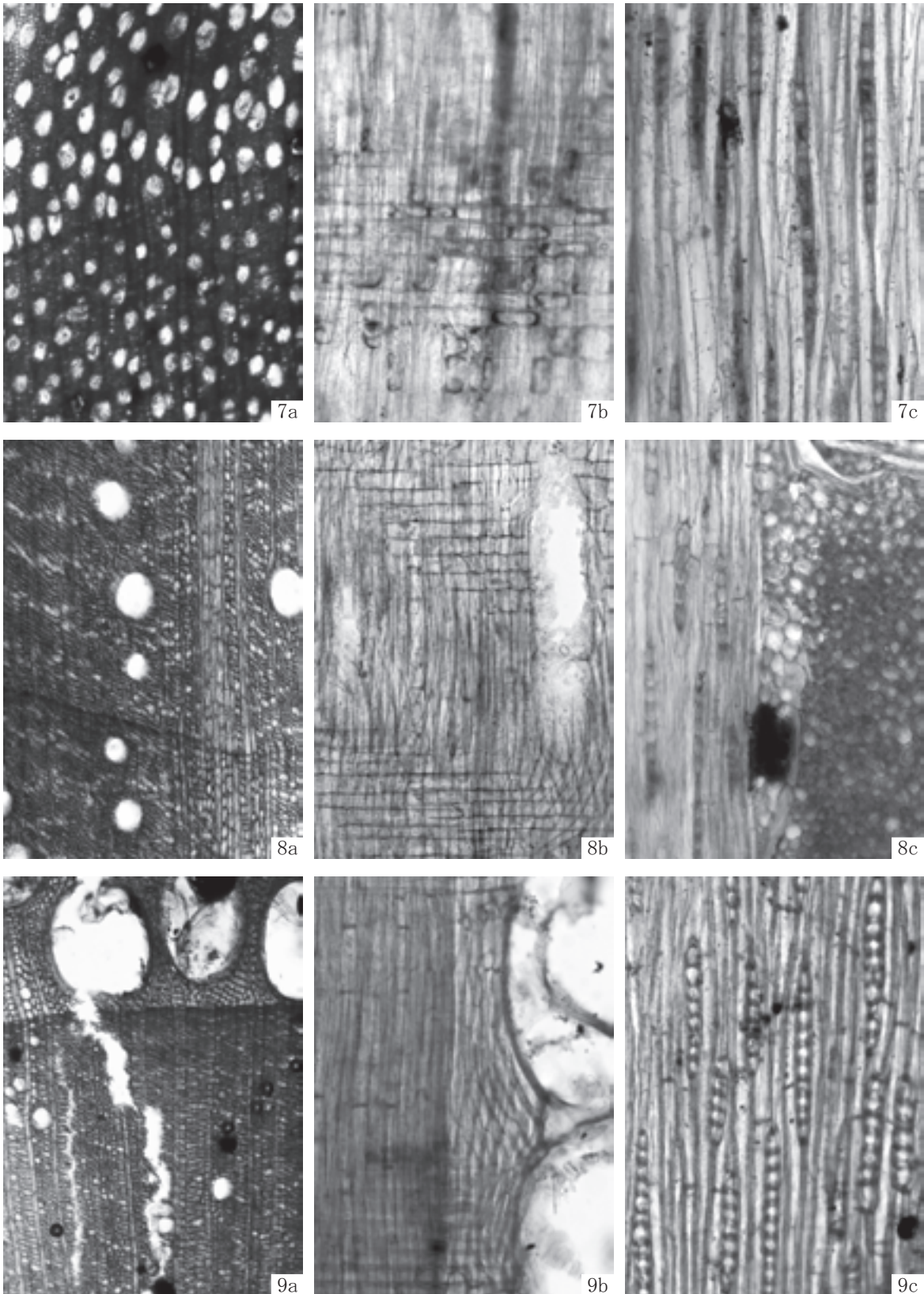
図版 2 松江島根線(西川津遺跡)の木材(2)



- 4. マキ属(処理番号60)
  - 5. イヌガヤ(処理番号80)
  - 6. カヤ(処理番号17)
- a : 木口, b : 柁目, c : 板目

100  $\mu$  m : a  
 100  $\mu$  m : b, c

図版3 松江島根線(西川津遺跡)の木材(3)

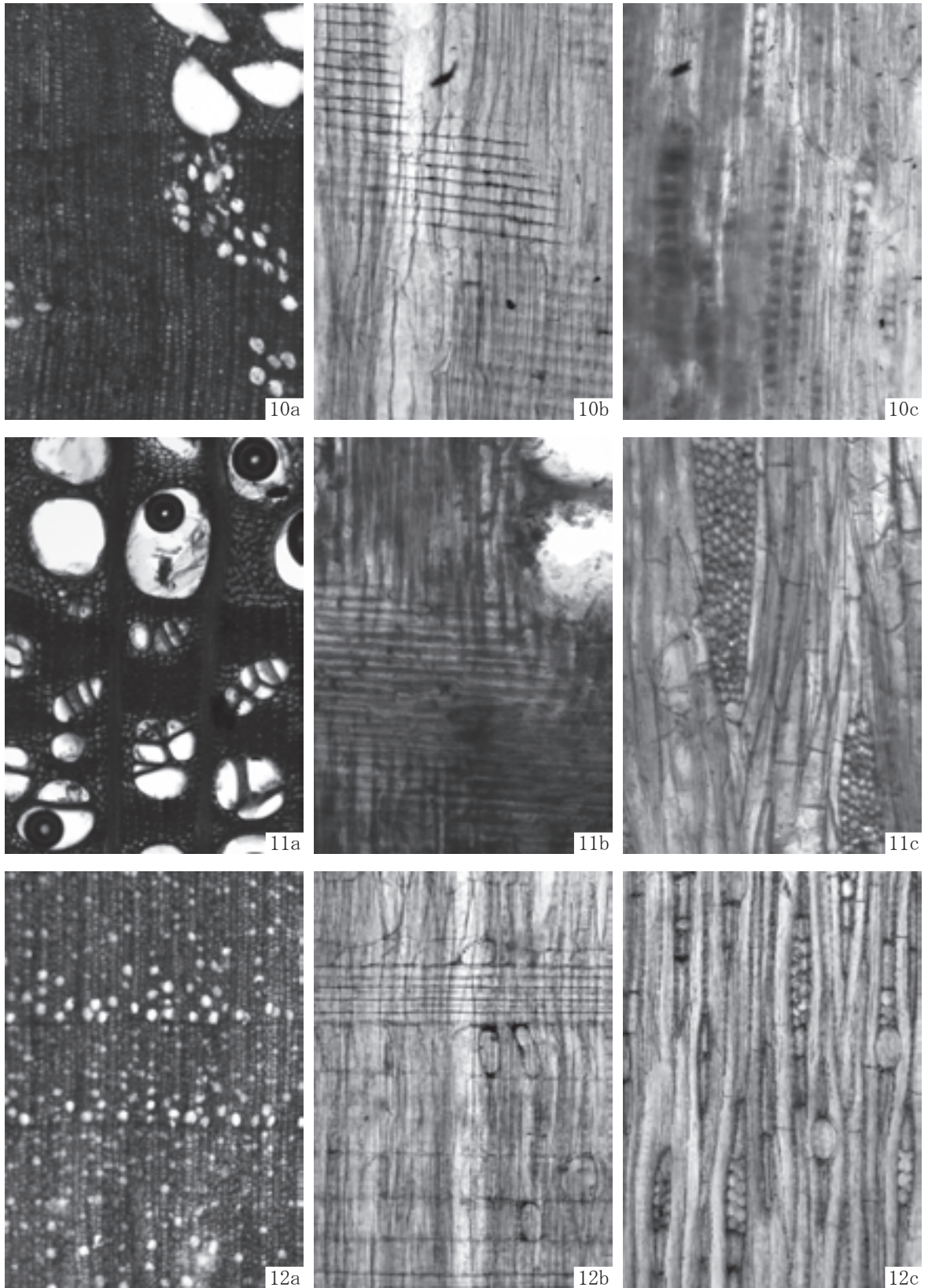


7. ヤナギ属(処理番号58)  
 8. コナラ属アカガシ亜属(処理番号46)  
 9. クリ(処理番号49)  
 a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm: a  
 100 μm: b, c



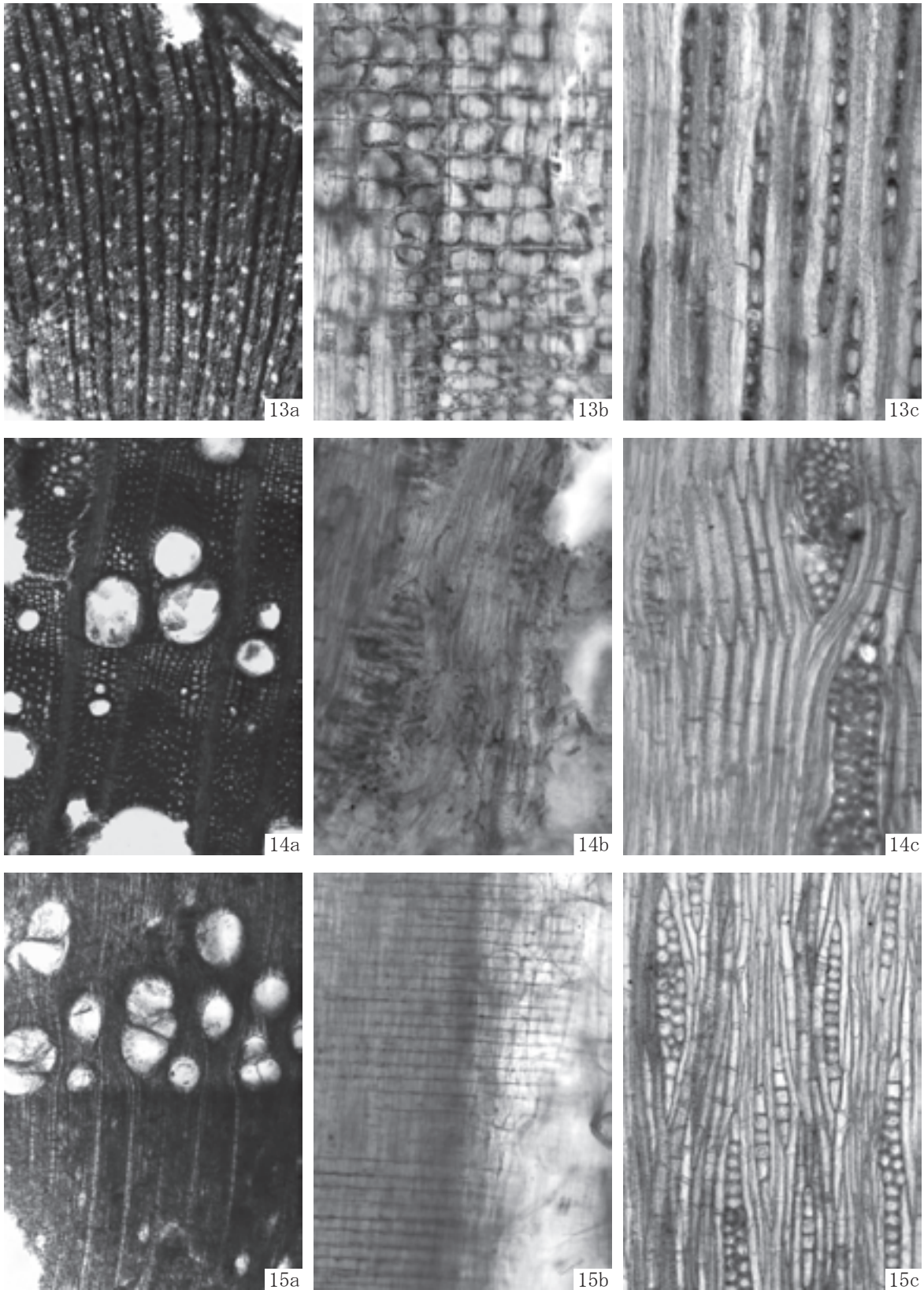
図版 4 松江島根線(西川津遺跡)の木材



10. スダジイ(処理番号34)  
 11. ヤマガワ(処理番号15)  
 12. ツバキ属(処理番号43)  
 a : 木口, b : 柁目, c : 板目

200 μm : a  
 100 μm : b, c

図版5 松江島根線(西川津遺跡)の木材



13. サカキ(処理番号78)

14. ニガキ(処理番号29)

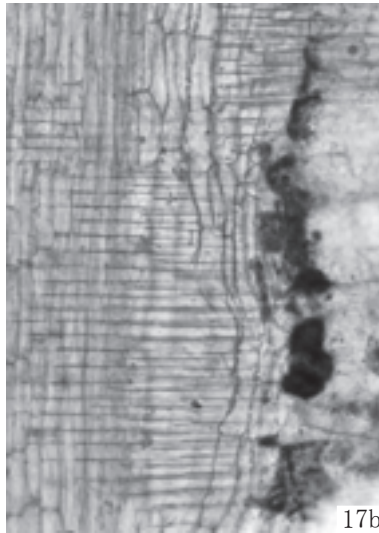
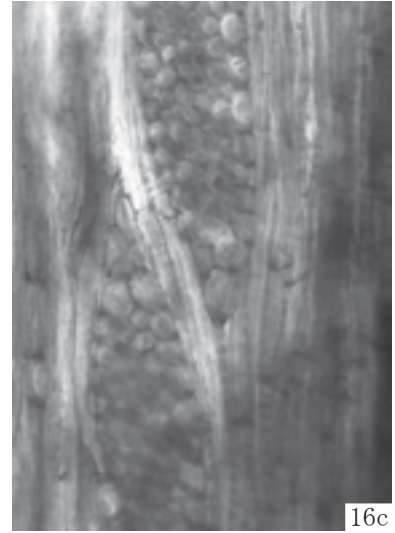
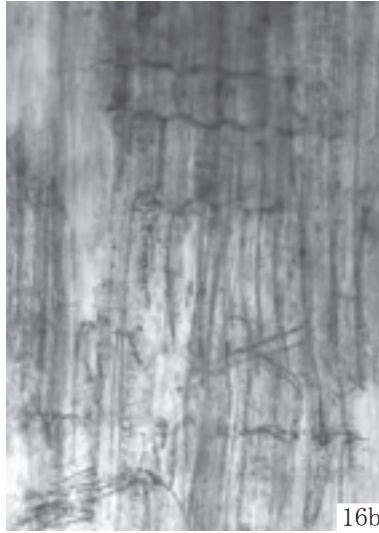
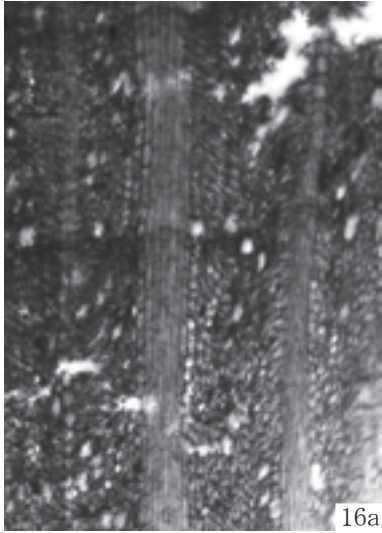
15. ウルシ(処理番号70)

a : 木口, b : 柁目, c : 板目

200  $\mu$ m : a  
100  $\mu$ m : b, c



図版6 松江島根線(西川津遺跡)の木材(6)



16. モチノキ属(処理番号19)  
17. ムクロジ(処理番号20)  
a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200  $\mu$ m: a  
100  $\mu$ m: b, c

## 第13節 古屋敷Ⅱ遺跡、西川津遺跡の放射性炭素年代測定

(株)加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

#### (1) 平成22年度対象試料

古屋敷Ⅱ遺跡は、島根県松江市西川津町（北緯 35° 29′ 26″、東経 133° 4′ 50″）に所在し、丘陵に立地する。測定対象試料は、西地区で検出された SB02 床付近出土木炭（試料番号 1：IAAA-103248）、SB01 覆土出土木炭（試料番号 2：IAAA-103249）、SB03 覆土出土木炭（試料番号 3：IAAA-103250）、SB04 覆土出土木炭（試料番号 4：IAAA-103251）の合計 4 点である（表 1）。

西川津遺跡は、島根県松江市西川津町に所在し、朝酌川流域に位置する。測定対象試料は、A-1 区（北緯 35° 29′ 34″、東経 133° 4′ 33″）で検出された SD10 礫溜まり出土木炭（試料番号 5：IAAA-103252）、同下層出土木炭（試料番号 6：IAAA-103253）、炭化物（試料番号 9：IAAA-103256、試料番号 10：IAAA-103257）、SD09 南埋土出土木炭（試料番号 7：IAAA-103254）、SD07 新の下層出土木炭（試料番号 8：IAAA-103255）、B-1 区（北緯 35° 29′ 32″、東経 133° 4′ 34″）で検出された SX01 上層出土炭化物（試料番号 11：IAAA-103258）、同下層出土炭化物（試料番号 12：IAAA-103259）、SD13 上層出土炭化物（試料番号 13：IAAA-103260）、同下層出土炭化物（試料番号 14：IAAA-103261）の合計 10 点である（表 1）。試料番号 9、10 は炭化したトチノミ、試料番号 11～14 は炭化米とされる。

#### (2) 平成23年度対象試料

西川津遺跡の測定対象試料は、SD07 下層出土木片（1：IAAA-113059、2：IAAA-113060）、SD10 下層出土木片（3：IAAA-113061）、SD09 オモカス層出土トチノミ（4：IAAA-113062、5：IAAA-113063）、SK04 埋土出土炭化物（6：IAAA-113064）、土器溜まり埋土出土炭化材（7：IAAA-113065）、SD09 上層出土炭化材（8：IAAA-113066）、SD09 黒色土層から出土したトチノミかと思われる種実（9：IAAA-113067）、SD09 下層出土トチノミ（10：IAAA-113068、11：IAAA-113069）の合計 11 点である（表 3）。

基本層序に基づいて遺構の前後関係を整理すると、最上位の耕作土等の下にシルト層があり、SD07（試料 1、2 出土）、SD10（試料 3 出土）、SK04（試料 6 出土）が属する。その下に自然河道 SD09 が検出され、埋土は上から順に上層（試料 8 出土）、黒色土層（試料 9 出土）、下層（試料 10、11 出土）、オモカス層（試料 4、5 出土）となっている。土器溜まり（試料 7 出土）は SD09 黒色土層に属する。SD09 は弥生時代の中での変遷が想定されている。SD07 は出土遺物が少なく、時期の判断が難しい。

#### (3) 平成24年度対象試料

西川津遺跡の測定対象試料は、SD07 下層出土木炭（試料番号 1：IAAA-120549～試料番号 3：IAAA-120551）、SD15 埋土出土炭化物（試料番号 4：IAAA-120552）、SK04 埋土出土炭化物（試料番号 5：IAAA-120553、試料番号 6：IAAA-120554）、SD09 オモカス層出土木片（試料番号 7：IAAA-120555～試料番号 11：IAAA-120559）の合計 11 点である（表 5）。

SD07 出土試料のうち、試料番号 2、3 は溝の最下部の層から採取、試料番号 1 は同じ層から出土した木製品（W26）を水洗した際に採取された。SD15 出土の試料番号 4 は、遺構埋土から出

土した窓枠状木製品周辺から採取され、炭化米とされる。SK04 出土の試料番号 5、6 は、土坑埋土を水洗選別した際に採取され、炭化米とされる。SD09 出土試料は、いずれも自然河道の堆積層（腐植土層）出土木製品から採取された木片で、試料番号 7 が W74（鋤未製品）、試料番号 8 が W146、試料番号 9 が W178、試料番号 10 が W206、試料番号 11 が W221 である。

## 2 測定の意義

### (1) 平成 22 年度対象試料

古屋敷Ⅱ遺跡の試料番号 1～4、西川津遺跡の試料番号 5～10 の測定では、試料が出土した遺構及び層位の年代を特定する。西川津遺跡の試料番号 11～14 については、これらの炭化米が出土した遺構に想定される時期と同時期のものか、後世に混入したものか、確認する。

### (2) 平成 23 年度対象試料

検出された遺構やその堆積層等の年代を特定する。

### (3) 平成 24 年度対象試料

試料が出土した遺構の年代、試料となった木製品の年代を特定する。

## 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸 - アルカリ - 酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1・3・5 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

## 4 測定方法

加速器をベースとした <sup>14</sup>C-AMS 専用装置を使用し、<sup>14</sup>C の計数、<sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C 濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

## 5 算出方法

- (1)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の <sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1・3・5)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) <sup>14</sup>C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され、

1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1・3・5に、補正していない値を参考値として表2・4・6に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差( $\pm 1\sigma$ )は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。pMCが小さい(<sup>14</sup>Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(<sup>14</sup>Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1・3・5に、補正していない値を参考値として表2・4・6に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差( $1\sigma = 68.2\%$ )あるいは2標準偏差( $2\sigma = 95.4\%$ )で表示される。グラフの縦軸が<sup>14</sup>C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない<sup>14</sup>C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース(Reimer et al. 2009)を用い、OxCalv4.1較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される。

## 6 測定結果

### (1) 平成22年度対象試料

古屋敷Ⅱ遺跡西地区で検出された遺構出土木炭の<sup>14</sup>C年代は、加工段2床付近出土の試料番号1が $1240 \pm 30\text{yrBP}$ 、加工段1覆土出土の試料番号2が $1180 \pm 30\text{yrBP}$ 、加工段3覆土出土の試料番号3が $1150 \pm 30\text{yrBP}$ 、加工段4覆土出土の試料番号4が $1160 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代( $1\sigma$ )は、試料番号1が691～807cal AD、試料番号2が782～886cal AD、試料番号3が830～967cal AD、試料番号4が782～939cal ADの間に各々複数の範囲で示される。

西川津遺跡A-1区で検出された遺構出土試料の<sup>14</sup>C年代は、SD10礫溜り出土木炭の試料番号5が $2540 \pm 30\text{yrBP}$ 、同下層出土木炭の試料番号6が $2380 \pm 30\text{yrBP}$ 、炭化物の試料番号9が $2440 \pm 30\text{yrBP}$ 、試料番号10が $2510 \pm 30\text{yrBP}$ 、SD09南埋土出土木炭の試料番号7が $2500 \pm 30\text{yrBP}$ 、SD07新下層出土木炭の試料番号8が $2480 \pm 30\text{yrBP}$ である。SD10出土試料4点の間には若干年代差が認められるが、誤差( $\pm 1\sigma$ )の範囲で重なる部分もあり、おおむね近接した値となっている。SD09南、SD07新出土の2点も、各々SD10出土試料の一部に誤差範囲で重なる年代値である。暦年較正年代( $1\sigma$ )は、試料番号5が792～594cal BC、試料番号6が506～397cal BC、試料番号7が763～548cal BC、試料番号8が757～541cal BC、試料番号



9 が 726 ~ 415cal BC、試料番号 10 が 768 ~ 554cal BC の間に各々複数の範囲で示され、すべておおよそ縄文時代晩期後半から弥生時代への移行期頃に相当する。

西川津遺跡 B-1 区で検出された遺構出土炭化米の  $^{14}\text{C}$  年代は、SX01 上層出土の試料番号 11 が  $2480 \pm 30\text{yrBP}$ 、同下層出土の試料番号 12 が  $2470 \pm 30\text{yrBP}$ 、SD13 上層出土の試料番号 13 が  $2480 \pm 30\text{yrBP}$ 、同下層出土の試料番号 14 が  $2450 \pm 30\text{yrBP}$  である。SX01 出土の 2 点、SD13 出土の 2 点の値は各々誤差 ( $\pm 1 \sigma$ ) の範囲で重なり、近い年代を示す。暦年較正年代 ( $1 \sigma$ ) は、試料番号 11 が 756 ~ 541cal BC、試料番号 12 が 751 ~ 517cal BC、試料番号 13 が 753 ~ 540cal BC、試料番号 14 が 733 ~ 416cal BC の間に各々複数の範囲で示され、いずれも縄文時代晩期後半から弥生時代への移行期頃に相当する。

試料の炭素含有率はすべて 50% を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1 平成 22 年度対象試料

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-103248	試料番号 1	古屋敷Ⅱ遺跡 西地区 加工段 2 床付近	木炭	AAA	$-27.60 \pm 0.45$	$1,240 \pm 30$	$85.67 \pm 0.27$
IAAA-103249	試料番号 2	古屋敷Ⅱ遺跡 西地区 加工段 1 覆土	木炭	AAA	$-25.26 \pm 0.60$	$1,180 \pm 30$	$86.29 \pm 0.27$
IAAA-103250	試料番号 3	古屋敷Ⅱ遺跡 西地区 加工段 3 覆土	木炭	AAA	$-26.64 \pm 0.28$	$1,150 \pm 30$	$86.67 \pm 0.29$
IAAA-103251	試料番号 4	古屋敷Ⅱ遺跡 西地区 加工段 4 覆土	木炭	AAA	$-26.40 \pm 0.63$	$1,160 \pm 30$	$86.51 \pm 0.28$
IAAA-103252	試料番号 5	西川津遺跡 A-1 区 SD10 礫溜り	木炭	AAA	$-23.69 \pm 0.70$	$2,540 \pm 30$	$72.92 \pm 0.26$
IAAA-103253	試料番号 6	西川津遺跡 A-1 区 SD10 下層	木炭	AAA	$-27.02 \pm 0.58$	$2,380 \pm 30$	$74.39 \pm 0.26$
IAAA-103254	試料番号 7	西川津遺跡 A-1 区 SD09 南埋土	木炭	AAA	$-29.04 \pm 0.39$	$2,500 \pm 30$	$73.27 \pm 0.26$
IAAA-103255	試料番号 8	西川津遺跡 A-1 区 SD07 新下層	木炭	AAA	$-23.57 \pm 0.33$	$2,480 \pm 30$	$73.41 \pm 0.26$
IAAA-103256	試料番号 9	西川津遺跡 A-1 区 SD10 下層	炭化物	AAA	$-25.95 \pm 0.57$	$2,440 \pm 30$	$73.82 \pm 0.25$
IAAA-103257	試料番号 10	西川津遺跡 A-1 区 SD10 下層	炭化物	AAA	$-24.21 \pm 0.47$	$2,510 \pm 30$	$73.17 \pm 0.25$
IAAA-103258	試料番号 11	西川津遺跡 B-1 区 SX01 上層 No.6	炭化物	AaA	$-23.69 \pm 0.64$	$2,480 \pm 30$	$73.42 \pm 0.26$
IAAA-103259	試料番号 12	西川津遺跡 B-1 区 SX01 下層 No.1	炭化物	AaA	$-23.65 \pm 0.61$	$2,470 \pm 30$	$73.56 \pm 0.25$
IAAA-103260	試料番号 13	西川津遺跡 B-1 区 SD13 上層	炭化物	AAA	$-24.08 \pm 0.38$	$2,480 \pm 30$	$73.46 \pm 0.24$
IAAA-103261	試料番号 14	西川津遺跡 B-1 区 SD13 下層	炭化物	AAA	$-25.28 \pm 0.55$	$2,450 \pm 30$	$73.75 \pm 0.25$

[# 4199, 4200]

表2 平成22年度対象試料

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
<b>IAAA-103248</b>	1,290 ± 30	85.21 ± 0.26	1,242 ± 25	691calAD - 750calAD (44.9%) 762calAD - 781calAD (14.1%) 791calAD - 807calAD ( 9.2%)	685calAD - 870calAD (95.4%)
<b>IAAA-103249</b>	1,190 ± 20	86.25 ± 0.25	1,184 ± 25	782calAD - 790calAD ( 6.2%) 810calAD - 886calAD (62.0%)	774calAD - 896calAD (92.8%) 925calAD - 938calAD ( 2.6%)
<b>IAAA-103250</b>	1,180 ± 30	86.38 ± 0.29	1,149 ± 27	830calAD - 837calAD ( 3.0%) 868calAD - 902calAD (26.0%) 916calAD - 967calAD (39.2%)	780calAD - 792calAD ( 3.6%) 806calAD - 973calAD (91.8%)
<b>IAAA-103251</b>	1,190 ± 20	86.26 ± 0.26	1,164 ± 26	782calAD - 789calAD ( 4.3%) 811calAD - 847calAD (22.8%) 856calAD - 896calAD (32.1%) 924calAD - 939calAD ( 9.0%)	778calAD - 900calAD (75.6%) 917calAD - 965calAD (19.8%)
<b>IAAA-103252</b>	2,520 ± 30	73.11 ± 0.24	2,537 ± 28	792calBC - 751calBC (33.6%) 687calBC - 667calBC (16.1%) 637calBC - 622calBC ( 7.2%) 614calBC - 594calBC (11.3%)	796calBC - 736calBC (37.8%) 691calBC - 662calBC (18.4%) 649calBC - 546calBC (39.2%)
<b>IAAA-103253</b>	2,410 ± 30	74.08 ± 0.25	2,376 ± 28	506calBC - 460calBC (32.6%) 452calBC - 440calBC ( 8.1%) 419calBC - 397calBC (27.5%)	702calBC - 697calBC ( 0.6%) 538calBC - 391calBC (94.8%)
<b>IAAA-103254</b>	2,570 ± 30	72.66 ± 0.25	2,498 ± 28	763calBC - 738calBC (11.5%) 689calBC - 681calBC ( 3.6%) 672calBC - 663calBC ( 4.1%) 648calBC - 548calBC (49.0%)	776calBC - 520calBC (95.4%)
<b>IAAA-103255</b>	2,460 ± 30	73.62 ± 0.26	2,483 ± 28	757calBC - 726calBC (12.5%) 694calBC - 684calBC ( 3.6%) 669calBC - 541calBC (52.1%)	771calBC - 506calBC (92.3%) 462calBC - 450calBC ( 0.9%) 441calBC - 418calBC ( 2.1%)
<b>IAAA-103256</b>	2,450 ± 30	73.67 ± 0.24	2,438 ± 27	726calBC - 694calBC (14.4%) 541calBC - 481calBC (28.9%) 469calBC - 415calBC (24.9%)	751calBC - 687calBC (21.6%) 667calBC - 640calBC ( 6.7%) 594calBC - 406calBC (67.1%)
<b>IAAA-103257</b>	2,500 ± 30	73.29 ± 0.24	2,509 ± 27	768calBC - 747calBC (11.3%) 688calBC - 665calBC (12.2%) 646calBC - 588calBC (31.6%) 582calBC - 554calBC (13.2%)	786calBC - 706calBC (24.3%) 695calBC - 539calBC (71.1%)
<b>IAAA-103258</b>	2,460 ± 30	73.61 ± 0.24	2,482 ± 28	756calBC - 725calBC (12.7%) 694calBC - 684calBC ( 3.7%) 669calBC - 541calBC (51.8%)	770calBC - 506calBC (92.2%) 462calBC - 450calBC ( 1.0%) 441calBC - 418calBC ( 2.2%)
<b>IAAA-103259</b>	2,440 ± 30	73.76 ± 0.23	2,466 ± 27	751calBC - 686calBC (26.4%) 667calBC - 637calBC (11.7%) 622calBC - 614calBC ( 2.2%) 595calBC - 517calBC (28.0%)	759calBC - 683calBC (28.9%) 671calBC - 483calBC (57.3%) 466calBC - 415calBC ( 9.2%)
<b>IAAA-103260</b>	2,460 ± 30	73.60 ± 0.23	2,477 ± 26	753calBC - 716calBC (15.8%) 695calBC - 686calBC ( 3.7%) 668calBC - 611calBC (23.5%) 597calBC - 540calBC (25.1%)	767calBC - 505calBC (91.5%) 462calBC - 450calBC ( 1.2%) 441calBC - 417calBC ( 2.7%)
<b>IAAA-103261</b>	2,450 ± 30	73.71 ± 0.23	2,445 ± 27	733calBC - 691calBC (18.8%) 661calBC - 650calBC ( 4.5%) 545calBC - 484calBC (26.2%) 465calBC - 416calBC (18.7%)	752calBC - 686calBC (24.2%) 668calBC - 637calBC ( 8.4%) 622calBC - 614calBC ( 1.0%) 595calBC - 408calBC (61.8%)

[参考値]

文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150

## (2) 平成 23 年度対象試料

試料の  $^{14}\text{C}$  年代は、SD07 下層出土木片 1 が  $2170 \pm 30\text{yrBP}$ 、2 が  $2080 \pm 20\text{yrBP}$ 、SD10 下層出土木片 3 が  $2510 \pm 20\text{yrBP}$ 、SD09 オモカス層出土トチノミ 4 が  $2420 \pm 30\text{yrBP}$ 、5 が  $2440 \pm 20\text{yrBP}$ 、SK04 埋土出土炭化物 6 が  $2370 \pm 20\text{yrBP}$ 、土器溜まり埋土出土炭化材 7 が  $2220 \pm 20\text{yrBP}$ 、SD09 上層出土炭化材 8 が  $2140 \pm 20\text{yrBP}$ 、SD09 黒色土層から出土したトチノミかと思われる種実 9 が  $2090 \pm 20\text{yrBP}$ 、SD09 下層出土トチノミ 10 が  $2460 \pm 20\text{yrBP}$ 、11 が  $2300 \pm 20\text{yrBP}$  である。SD09 オモカス層の 2 点の値は誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) の範囲で重なり、近い年代を示す。SD07 下層の 2 点の値は、誤差範囲では重ならないものの、おおむね近い値となっている。SD09 下層の 2 点の間には差が若干認められる。

暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、1 が 351 ~ 180cal BC の間に 3 つの範囲、2 が 157 ~ 54cal BC の間に 2 つの範囲、3 が 769 ~ 566cal BC の間に 4 つの範囲、4 が 521 ~ 410cal BC の範囲、5 が 727 ~ 416cal BC の間に 3 つの範囲、6 が 486 ~ 394cal BC の間に 3 つの範囲、7 が 363 ~ 210cal BC の間に 2 つの範囲、8 が 341 ~ 116cal BC の間に 3 つの範囲、9 が 158 ~ 54cal BC の間に 3 つの範囲、10 が 749 ~ 419cal BC の間に 6 つの範囲、11 が 399 ~ 370cal BC の範囲で示される。

SD09 出土試料について下位の層から順に検討すると、オモカス層の 4、5 は縄文時代晩期後半から弥生時代への移行期頃で、 $1\sigma$  暦年代範囲では上限に差が見られるが、 $2\sigma$  ではほとんど同じ範囲となる。下層の 10 は縄文時代晩期後半から弥生時代への移行期頃、11 は弥生時代前期から中期頃に相当する。黒色土層の 9 は弥生時代中期頃、黒色土層に帰属する土器溜まりの 7 も弥生時代中期頃に当たる年代値であるが、両者の間に若干年代差が認められる。上層の 8 は弥生時代中期に相当する値を示し、黒色土層の 9 と土器溜まりの 7 の暦年代範囲のおおむね中間に当たる。以上のことから SD09 の埋土から出土した試料について、縄文時代晩期後半から弥生時代中期頃の年代がおおむね層位と整合的に示されたと考えられる。SD09 より上位に当たる SD07 の 1、2 は弥生時代中期頃、SD10 の 3 は縄文時代晩期後半から弥生時代への移行期頃、SK04 の 6 は弥生時代前期から中期頃に相当する値で、下位の SD09 出土試料との前後関係に整合するものと矛盾するものが認められる。

試料の炭素含有率はすべて 50% を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

表3 平成23年度対象試料

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-113059	1	SD07 下層	木片	AAA	-24.76 ± 0.62	2,170 ± 30	76.30 ± 0.25
IAAA-113060	2	SD07 下層	木片	AAA	-27.00 ± 0.36	2,080 ± 20	77.15 ± 0.22
IAAA-113061	3	SD10 下層	木片	AAA	-21.70 ± 0.33	2,510 ± 20	73.13 ± 0.22
IAAA-113062	4	SD09 オモカス層	トチノミ	AAA	-26.98 ± 0.39	2,420 ± 30	73.96 ± 0.23
IAAA-113063	5	SD09 オモカス層	トチノミ	AAA	-22.45 ± 0.43	2,440 ± 20	73.80 ± 0.22
IAAA-113064	6	SK04 埋土	炭化物	AAA	-26.18 ± 0.40	2,370 ± 20	74.45 ± 0.23
IAAA-113065	7	土器溜まり 埋土	炭化材	AaA	-24.27 ± 0.44	2,220 ± 20	75.82 ± 0.22
IAAA-113066	8	SD09 上層	炭化材	AAA	-22.78 ± 0.47	2,140 ± 20	76.62 ± 0.22
IAAA-113067	9	SD09 黒色土層	トチノミ?	AAA	-22.28 ± 0.41	2,090 ± 20	77.14 ± 0.23
IAAA-113068	10	SD09 下層	トチノミ	AAA	-20.56 ± 0.41	2,460 ± 20	73.64 ± 0.22
IAAA-113069	11	SD09 下層	トチノミ	AAA	-21.90 ± 0.40	2,300 ± 20	75.15 ± 0.23

[ # 4979 ]

表4 平成23年度対象試料

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-113059	2,170 ± 30	76.34 ± 0.23	2,172 ± 26	351calBC - 298calBC (43.2%) 228calBC - 222calBC ( 3.2%) 210calBC - 180calBC (21.8%)	360calBC - 273calBC (52.4%) 262calBC - 164calBC (42.3%) 128calBC - 122calBC ( 0.7%)
IAAA-113060	2,120 ± 20	76.83 ± 0.21	2,084 ± 23	157calBC - 135calBC (17.5%) 116calBC - 54calBC (50.7%)	172calBC - 45calBC (95.4%)
IAAA-113061	2,460 ± 20	73.63 ± 0.21	2,513 ± 23	769calBC - 749calBC (13.7%) 688calBC - 666calBC (14.5%) 643calBC - 591calBC (33.6%) 578calBC - 566calBC ( 6.4%)	787calBC - 728calBC (22.9%) 694calBC - 542calBC (72.5%)
IAAA-113062	2,460 ± 20	73.66 ± 0.22	2,422 ± 25	521calBC - 410calBC (68.2%)	741calBC - 689calBC (13.8%) 664calBC - 648calBC ( 3.0%) 549calBC - 403calBC (78.5%)
IAAA-113063	2,400 ± 20	74.18 ± 0.21	2,440 ± 24	727calBC - 694calBC (15.9%) 542calBC - 484calBC (28.9%) 465calBC - 416calBC (23.4%)	750calBC - 687calBC (22.5%) 666calBC - 642calBC ( 6.5%) 592calBC - 407calBC (66.4%)
IAAA-113064	2,390 ± 20	74.27 ± 0.22	2,370 ± 24	486calBC - 462calBC (18.7%) 451calBC - 441calBC ( 5.9%) 418calBC - 394calBC (43.5%)	515calBC - 392calBC (95.4%)
IAAA-113065	2,210 ± 20	75.94 ± 0.21	2,223 ± 23	363calBC - 351calBC ( 8.3%) 299calBC - 210calBC (59.9%)	382calBC - 342calBC (18.9%) 326calBC - 204calBC (76.5%)
IAAA-113066	2,100 ± 20	76.97 ± 0.21	2,139 ± 23	341calBC - 328calBC ( 6.9%) 204calBC - 158calBC (48.9%) 135calBC - 116calBC (12.4%)	351calBC - 304calBC (15.4%) 210calBC - 91calBC (79.0%) 70calBC - 61calBC ( 1.0%)
IAAA-113067	2,040 ± 20	77.57 ± 0.22	2,085 ± 23	158calBC - 135calBC (19.2%) 116calBC - 86calBC (26.8%) 79calBC - 54calBC (22.2%)	172calBC - 46calBC (95.4%)
IAAA-113068	2,380 ± 20	74.32 ± 0.22	2,457 ± 24	749calBC - 688calBC (26.6%) 666calBC - 643calBC ( 9.1%) 591calBC - 578calBC ( 3.8%) 566calBC - 507calBC (22.0%) 459calBC - 454calBC ( 1.3%) 439calBC - 419calBC ( 5.5%)	753calBC - 685calBC (28.8%) 669calBC - 611calBC (15.1%) 598calBC - 478calBC (37.1%) 473calBC - 413calBC (14.4%)
IAAA-113069	2,240 ± 20	75.63 ± 0.22	2,295 ± 24	399calBC - 370calBC (68.2%)	404calBC - 357calBC (81.8%) 284calBC - 256calBC (11.0%) 246calBC - 235calBC ( 2.6%)



## 文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363
- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150

## (3) 平成 24 年度対象試料

試料の  $^{14}\text{C}$  年代は、SD07 下層出土木炭の試料番号 1 が  $1870 \pm 20\text{yrBP}$ 、試料番号 2 が  $2020 \pm 20\text{yrBP}$ 、試料番号 3 が  $1950 \pm 20\text{yrBP}$ 、SD15 埋土出土炭化物の試料番号 4 が  $2410 \pm 30\text{yrBP}$ 、SK04 埋土出土炭化物の試料番号 5 が  $2430 \pm 30\text{yrBP}$ 、試料番号 6 が  $2300 \pm 20\text{yrBP}$ 、SD09 オモカス層出土木片の試料番号 7 が  $2380 \pm 30\text{yrBP}$ 、試料番号 8 が  $2430 \pm 30\text{yrBP}$ 、試料番号 9 が  $2340 \pm 20\text{yrBP}$ 、試料番号 10 が  $2500 \pm 30\text{yrBP}$ 、試料番号 11 が  $2520 \pm 30\text{yrBP}$  である。SD07 下層出土の 3 点、SK04 埋土出土の 2 点、SD09 オモカス層出土の 5 点の値は、各々ある程度近い年代値となっており、誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) の範囲で値が重なる試料も見られるが、若干変異も認められる。

暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、試料番号 1 が 80 ~ 209cal AD の間に 3 つの範囲、試料番号 2 が 46cal BC ~ 17cal AD の範囲、試料番号 3 が 25 ~ 80cal AD の範囲、試料番号 4 が 511 ~ 406cal BC の範囲、試料番号 5 が 536 ~ 411cal BC の間に 2 つの範囲、試料番号 6 が 400 ~ 374cal BC の範囲、試料番号 7 が 507 ~ 397cal BC の間に 3 つの範囲、試料番号 8 が 716 ~ 413cal BC の間に 2 つの範囲、試料番号 9 が 407 ~ 391cal BC の範囲、試料番号 10 が 762 ~ 552cal BC の間に 4 つの範囲、試料番号 11 が 773 ~ 566cal BC の間に 4 つの範囲で示される。同じ遺構、層位から出土した複数の試料の間で一部に年代差が認められる。2  $\sigma$  暦年代範囲で見ると、相互に年代値の重なる試料が多くなるが、重ならないものも残る。

これらの較正年代値と考古学上の時期区分の対応関係を藤尾慎一郎 (2009) と小林謙一 (2009) の研究に基づいて検討すると、SD07 下層出土試料は、試料番号 1 が弥生時代後期頃、試料番号 2、3 が弥生時代中期から後期頃に相当する。SD15 埋土出土の試料番号 4 は弥生時代前期頃に相当する。SK04 埋土出土の試料番号 5 は弥生時代前期頃、試料番号 6 は弥生時代前期から中期頃に相当する。SD09 オモカス層出土試料は、試料番号 7 が弥生時代前期頃、試料番号 8 が縄文時代晩期後半から弥生時代前期頃、試料番号 9 が弥生時代前期から中期頃、試料番号 10、11 が縄文時代晩期後半から弥生時代への移行期頃に相当する。

なお、試料番号 1、3 が含まれる 1 ~ 3 世紀頃の暦年較正に関しては、北半球で広く用いられる較正曲線 IntCal09 に対して日本産樹木年輪試料の測定値が系統的に異なるとの指摘がある (尾寄 2009、坂本 2010 など)。その日本版較正曲線を用いてこれらの測定結果を暦年較正した場合、ここで報告する較正年代値よりも新くなる可能性がある。

試料の炭素含有率はすべて 50% を超え、化学処理、測定上の問題は認められない。

表5 平成24年度対象試料

測定番号	試料名	挿入番号	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
							Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-120549	試料番号 1	—	SD07 下層	木炭	AAA	-30.18 ± 0.44	1,870 ± 20	79.20 ± 0.24
IAAA-120550	試料番号 2	—	SD07 下層	木炭	AAA	-25.30 ± 0.33	2,020 ± 20	77.78 ± 0.23
IAAA-120551	試料番号 3	—	SD07 下層	木炭	AAA	-26.46 ± 0.36	1,950 ± 20	78.49 ± 0.24
IAAA-120552	試料番号 4	—	SD15 埋土	炭化物	AaA	-24.38 ± 0.50	2,410 ± 30	74.11 ± 0.27
IAAA-120553	試料番号 5	—	SK04 埋土	炭化物	AaA	-25.97 ± 0.27	2,430 ± 30	73.93 ± 0.23
IAAA-120554	試料番号 6	—	SK04 埋土	炭化物	AaA	-22.94 ± 0.29	2,300 ± 20	75.10 ± 0.23
IAAA-120555	試料番号 7	139-6 (鋤先)	SD09 オモカス層	木片	AAA	-32.40 ± 0.57	2,380 ± 30	74.36 ± 0.27
IAAA-120556	試料番号 8	143-2 (泥除)	SD09 オモカス層	木片	AAA	-27.36 ± 0.46	2,430 ± 30	73.87 ± 0.24
IAAA-120557	試料番号 9	143-1 (泥除)	SD09 オモカス層	木片	AAA	-25.45 ± 0.38	2,340 ± 20	74.70 ± 0.23
IAAA-120558	試料番号 10	140-2 (鋤先)	SD09 オモカス層	木片	AAA	-29.21 ± 0.40	2,500 ± 30	73.24 ± 0.23
IAAA-120559	試料番号 11	139-7 (鋤先)	SD09 オモカス層	木片	AAA	-29.85 ± 0.39	2,520 ± 30	73.09 ± 0.23

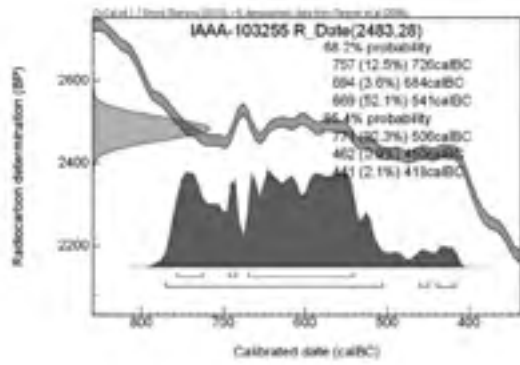
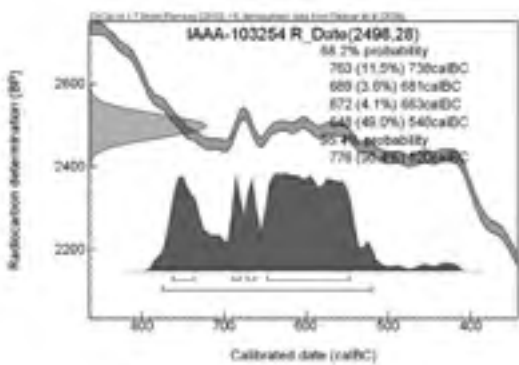
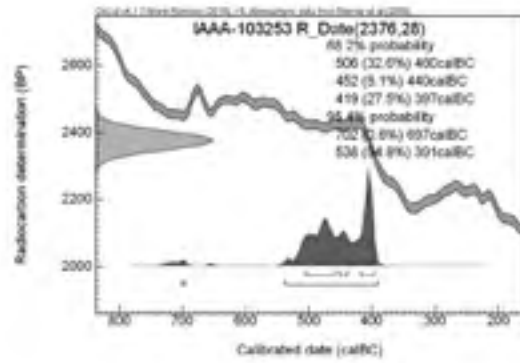
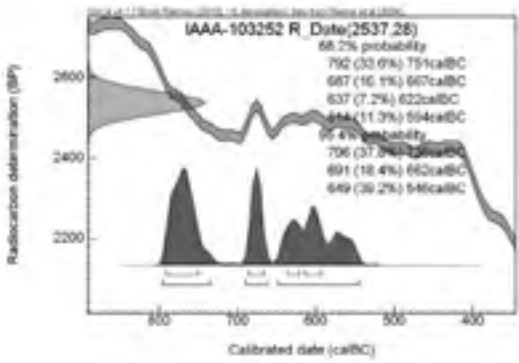
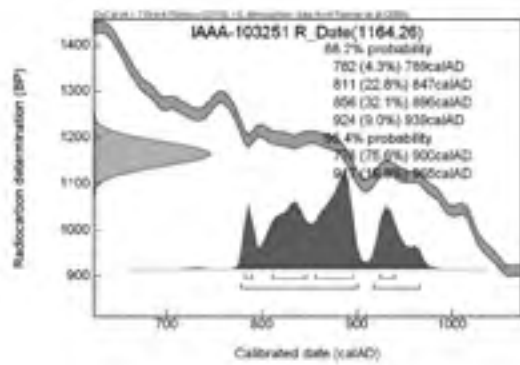
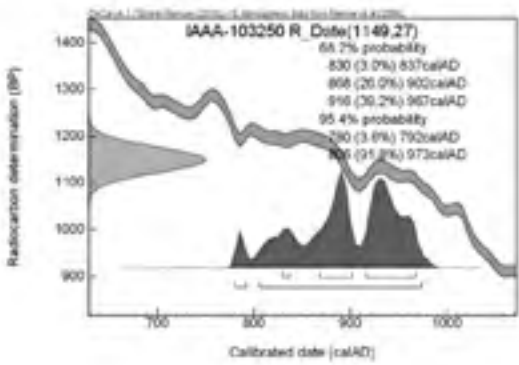
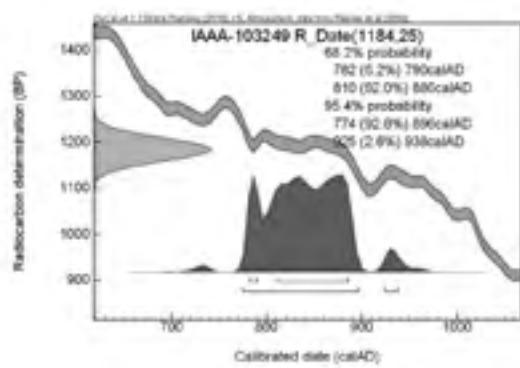
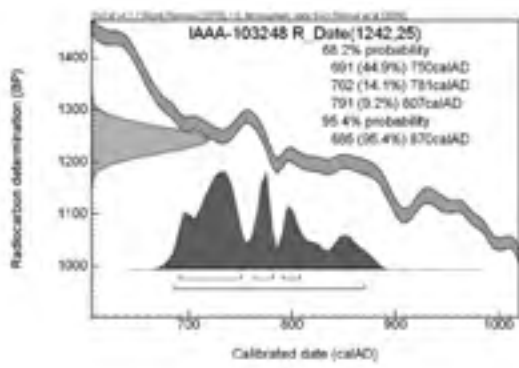
[# 5176]

表6 平成24年度対象試料

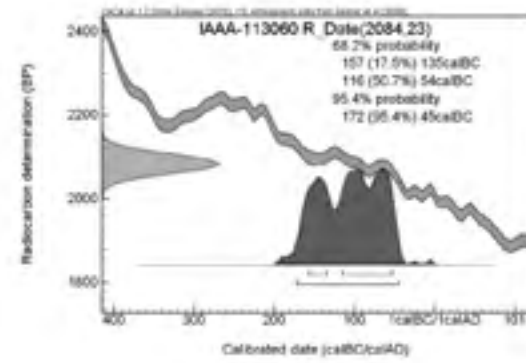
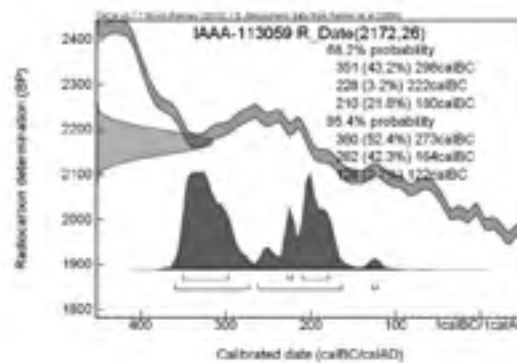
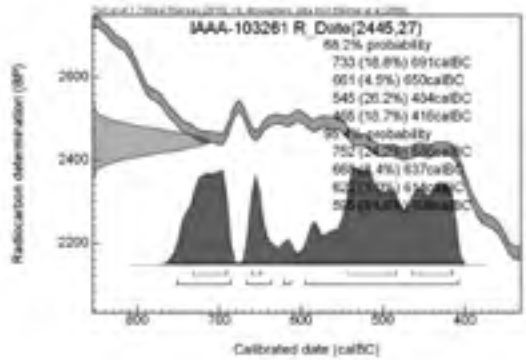
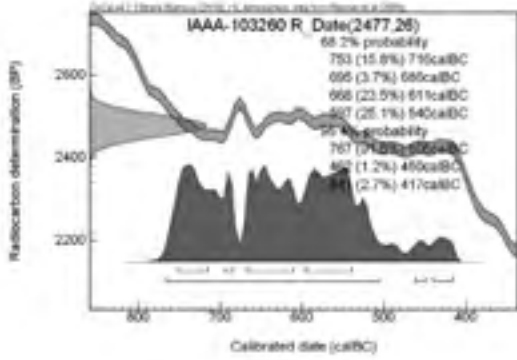
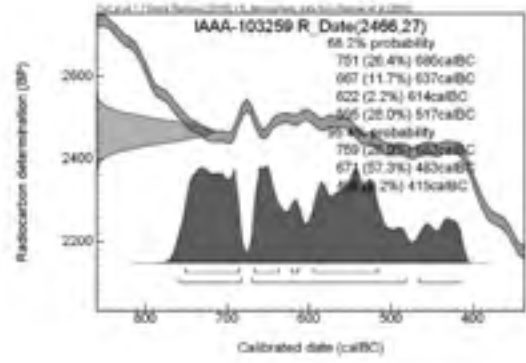
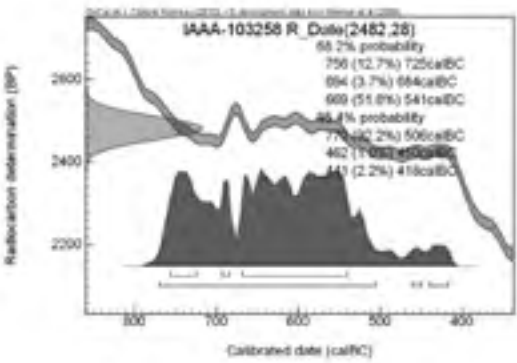
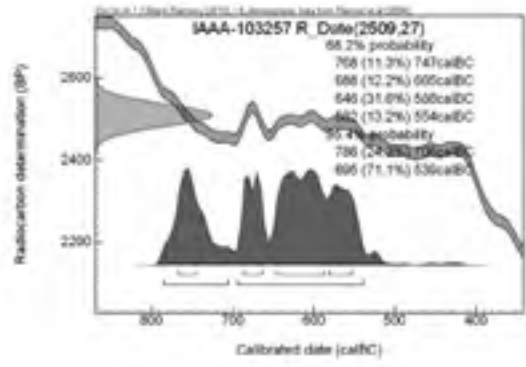
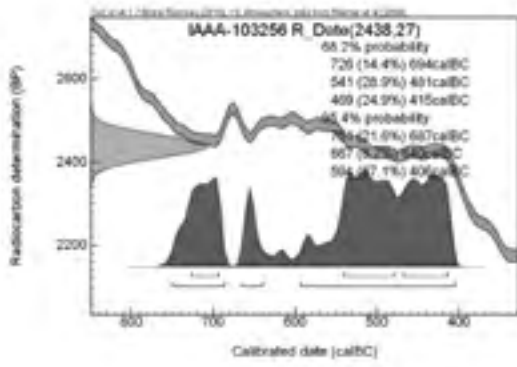
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-120549	1,960 ± 20	78.36 ± 0.23	1,873 ± 24	80calAD - 140calAD (53.4%) 155calAD - 169calAD (7.0%) 195calAD - 209calAD (7.9%)	75calAD - 219calAD (95.4%)
IAAA-120550	2,020 ± 20	77.73 ± 0.22	2,018 ± 23	46calBC - 17calAD (68.2%)	90calBC - 73calBC (3.6%) 58calBC - 54calAD (91.8%)
IAAA-120551	1,970 ± 20	78.26 ± 0.23	1,945 ± 24	25calAD - 80calAD (68.2%)	2calAD - 125calAD (95.4%)
IAAA-120552	2,400 ± 30	74.20 ± 0.26	2,406 ± 29	511calBC - 406calBC (68.2%)	732calBC - 691calBC (9.4%) 661calBC - 651calBC (1.6%) 545calBC - 399calBC (84.3%) 746calBC - 688calBC (16.0%)
IAAA-120553	2,440 ± 30	73.78 ± 0.23	2,426 ± 25	536calBC - 532calBC (2.1%) 522calBC - 411calBC (66.1%)	665calBC - 647calBC (3.7%) 587calBC - 584calBC (0.2%) 553calBC - 403calBC (75.5%) 405calBC - 357calBC (85.9%)
IAAA-120554	2,270 ± 20	75.42 ± 0.23	2,300 ± 24	400calBC - 374calBC (68.2%)	282calBC - 257calBC (8.1%) 244calBC - 236calBC (1.5%)
IAAA-120555	2,500 ± 30	73.24 ± 0.26	2,379 ± 29	507calBC - 460calBC (34.7%) 453calBC - 440calBC (8.8%) 419calBC - 397calBC (24.7%)	716calBC - 694calBC (2.5%) 540calBC - 391calBC (92.9%)
IAAA-120556	2,470 ± 30	73.52 ± 0.23	2,432 ± 26	716calBC - 695calBC (8.2%) 540calBC - 413calBC (60.0%)	749calBC - 687calBC (19.0%) 666calBC - 643calBC (5.1%) 591calBC - 578calBC (1.4%) 566calBC - 405calBC (69.8%) 506calBC - 497calBC (0.9%)
IAAA-120557	2,350 ± 20	74.63 ± 0.22	2,343 ± 24	407calBC - 391calBC (68.2%)	491calBC - 439calBC (7.3%) 420calBC - 379calBC (87.2%)
IAAA-120558	2,570 ± 20	72.61 ± 0.22	2,501 ± 25	762calBC - 745calBC (9.1%) 688calBC - 681calBC (3.6%) 672calBC - 665calBC (3.8%) 647calBC - 552calBC (51.6%)	775calBC - 538calBC (95.4%)
IAAA-120559	2,600 ± 30	72.37 ± 0.22	2,518 ± 25	773calBC - 749calBC (16.2%) 688calBC - 666calBC (15.0%) 643calBC - 591calBC (31.3%) 578calBC - 566calBC (5.6%)	790calBC - 729calBC (25.4%) 693calBC - 658calBC (17.7%) 653calBC - 542calBC (52.3%)

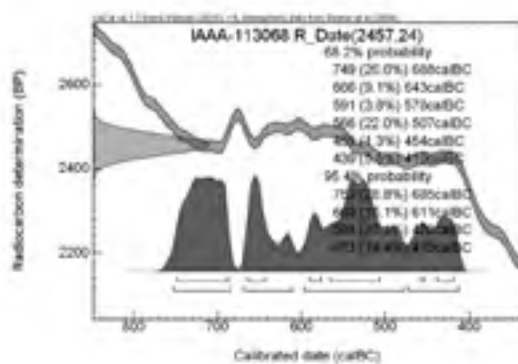
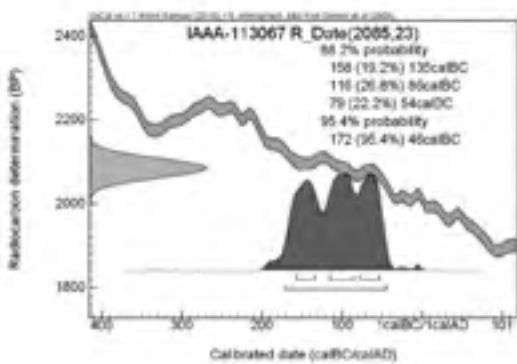
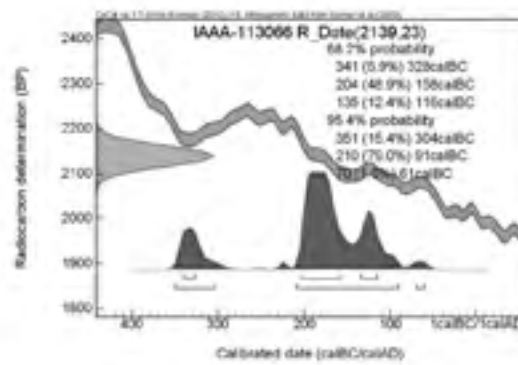
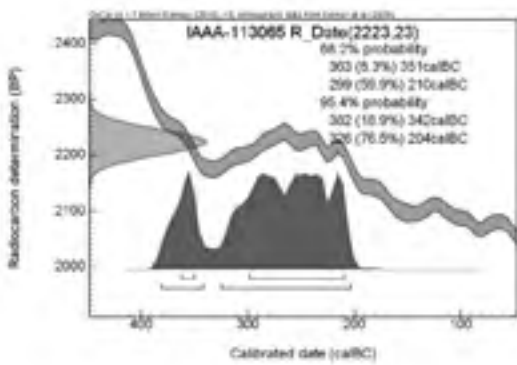
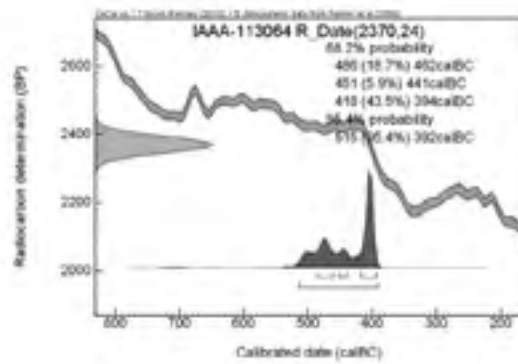
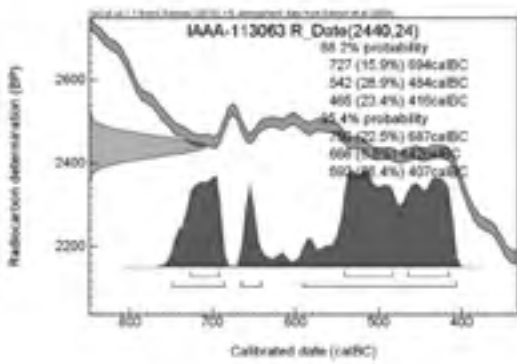
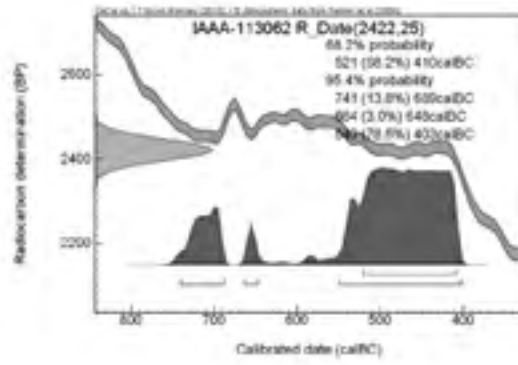
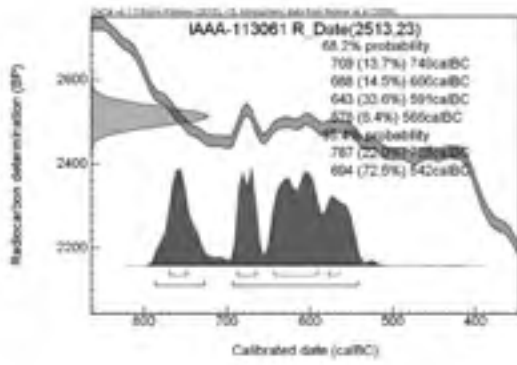
## 文献

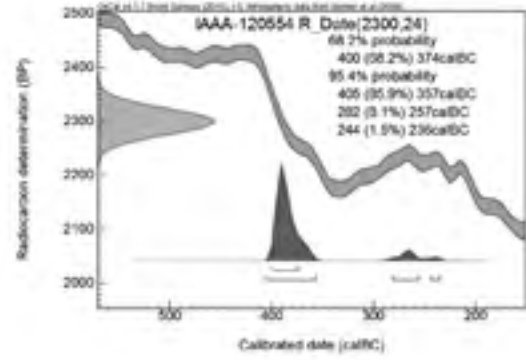
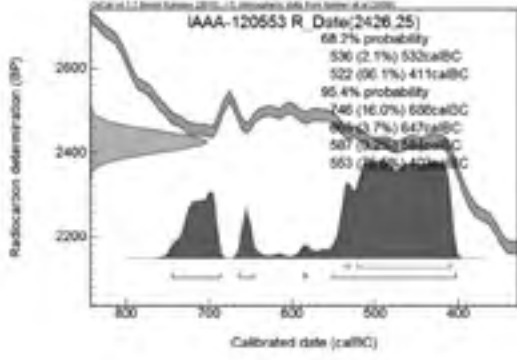
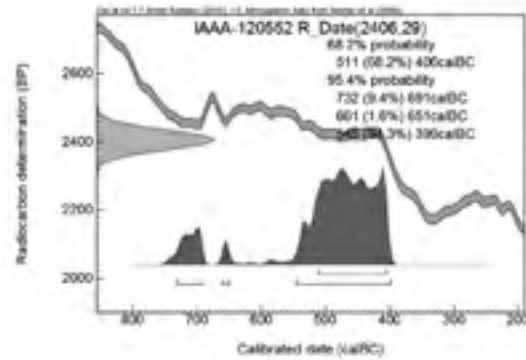
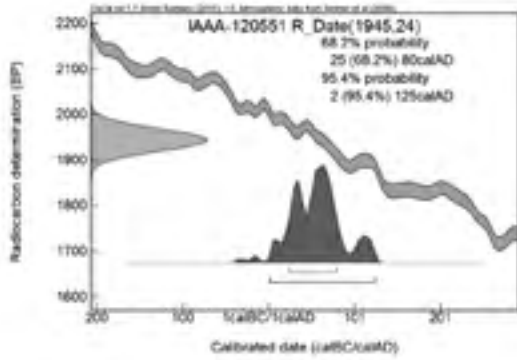
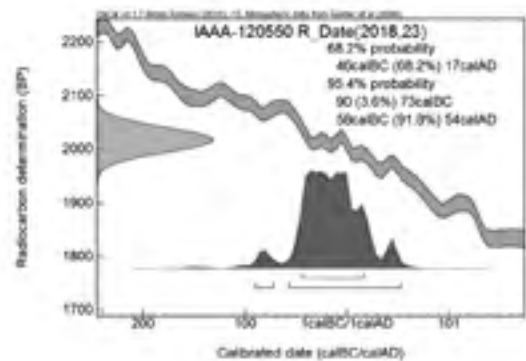
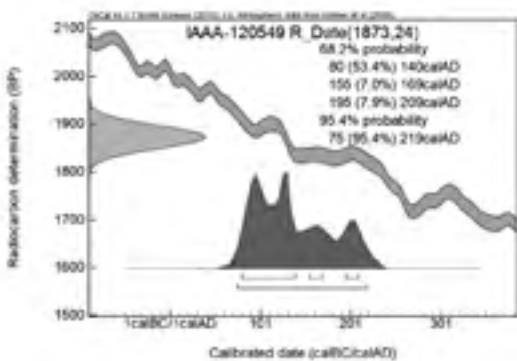
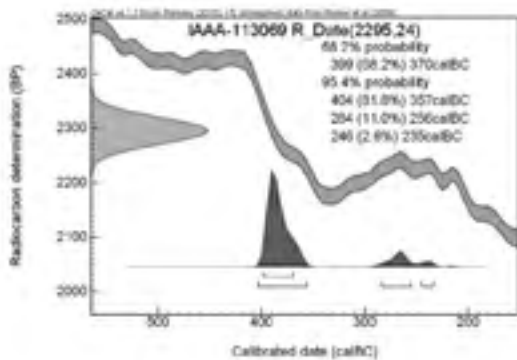
- Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- 藤尾慎一郎 2009 弥生時代の実年代, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第 4 巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 9-54
- 小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散, 西本豊弘編, 新弥生時代のはじまり 第 4 巻 弥生農耕のはじまりとその年代, 雄山閣, 55-82
- 尾崎大真 2009 日本産樹木年輪試料の炭素 14 年代からみた弥生時代の実年代, 弥生時代の考古学 1 弥生文化の輪郭, 同成社, 225-235
- Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150
- 坂本稔 2010 較正曲線と日本産樹木—弥生から古墳へ—, 第 5 回年代測定と日本文化研究シンポジウム予稿集, (株) 加速器分析研究所, 85-90
- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363
- [ 参考 ] 暦年較正年代グラフ

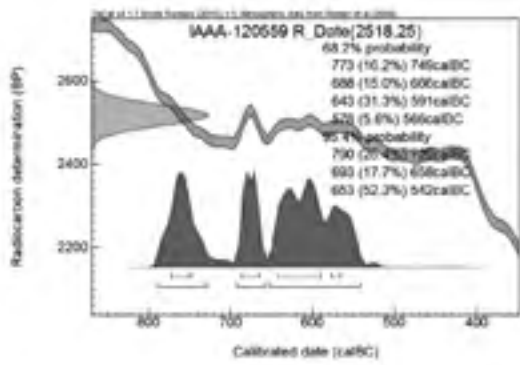
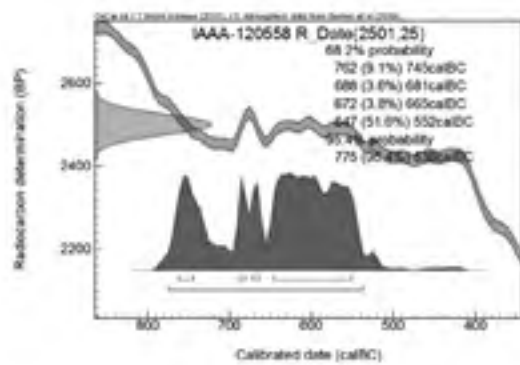
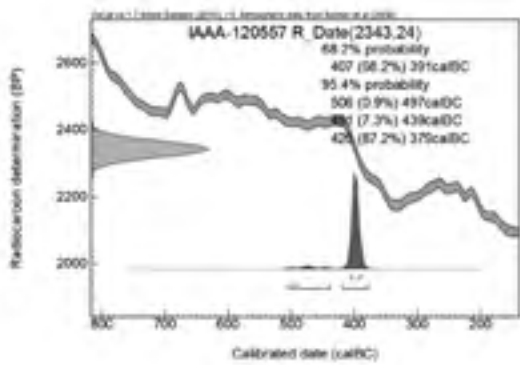
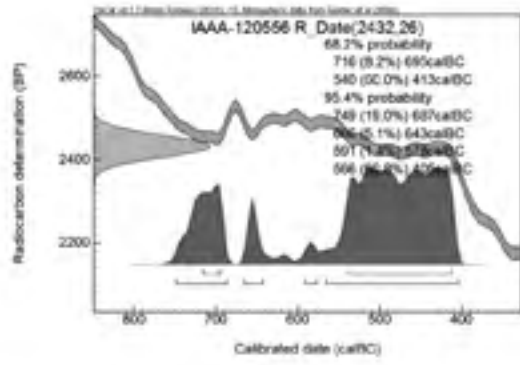
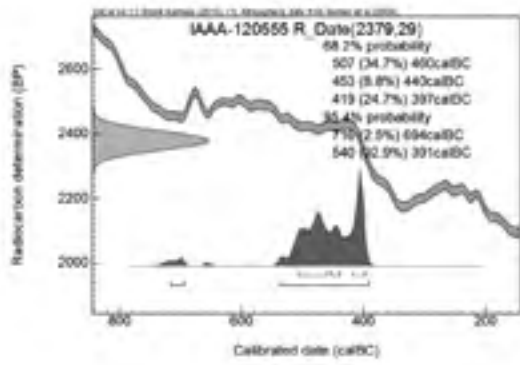














## 第 14 節 西川津遺跡 SD07 出土ガラス勾玉の蛍光 X 線分析について

上山晶子 ( 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター )

### 1. はじめに

西川津遺跡から出土した弥生時代後期のガラス勾玉の蛍光 X 線分析による元素定性分析を行なった。

以下にその概略を述べる。

### 2. 試料

西川津遺跡出土弥生時代後期のガラス勾玉 1 点である。

### 3. 蛍光 X 線分析

エネルギー分散型蛍光 X 線分析による元素定性分析を行なった。

使用機器は島根県古代文化センター所有、島根県埋蔵文化財調査センター設置「エスアイアイ・ナノテクノロジー社製 SEA1200VX 卓上型ケイ光 X 線分析計 ( エネルギー分散型 ) 」である。

測定条件は以下のとおりである。

励起電圧：15kV ( 軽元素 ) / 50kV ( 重元素 )

管電流：管電圧による自動設定 ( 46 ~ 1000  $\mu$  A )

測定時間：300 秒 ( うち測定可能な有効時間は 188 ~ 300 秒 )

測定範囲：直径 1.0mm / 8.0mm      測定雰囲気：真空 / 大気

X 線管球：Rh ( ロジウム )      検出器：Si 半導体検出器

測定箇所は研磨を行わず、表面部分と欠けて風化があまり見られない箇所 ( 切欠部 ) である。

なお、当該装置では Ti より原子番号の小さい元素を軽元素として真空で測定を行ない、Ti より原子番号の大きい元素を重元素として大気で測定を行なった。

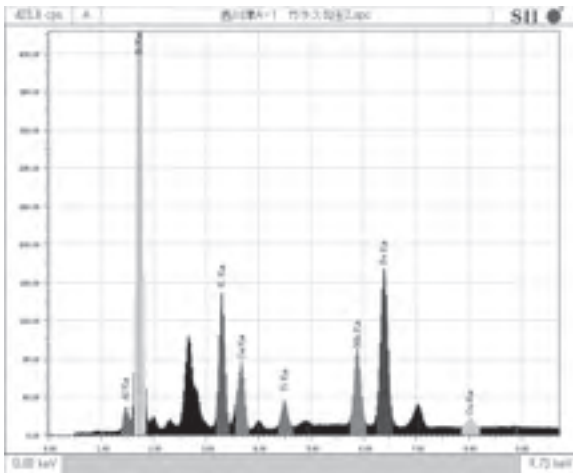
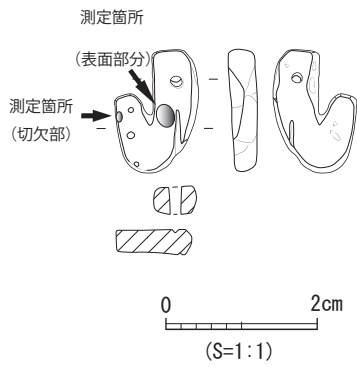
### 4. 結果

測定の結果、表面、切欠部ともに Al、Si、K、Ca、Mn、Fe、Cu、Ti を検出した。Fe は表面部分では高いピークを示したが、切欠部では表面部分より低いピークを示したため、表面に付着した土壌に由来するものとみられる。同様に Zr、Zn も表面でのみ高いピークを示したため、土壌に由来するものと考えられる。したがって、このガラスはアルカリケイ酸塩ガラスである可能性が高い。しかし、今回の分析では、アルカリケイ酸塩ガラスのうちのカリガラスかソーダ石灰ガラスであるかの判断はできなかった。

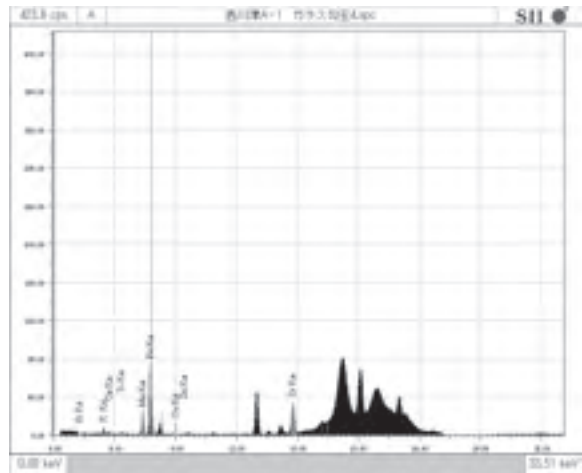
#### 参考文献

肥塚隆保・田村朋美・大賀克彦 2010 「材質とその歴史の変遷」『月刊 文化財』文化庁文化財部

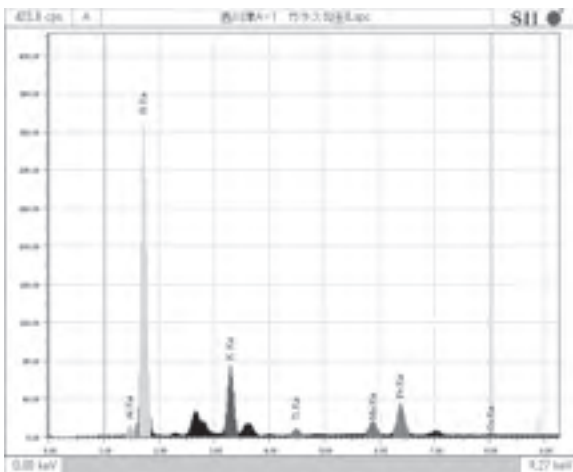
## 蛍光X線分析スペクトルデータ



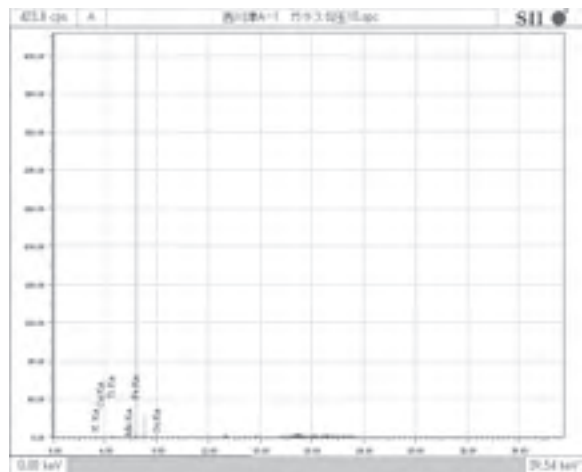
表面部分 軽元素測定



表面部分 重元素測定



切欠部 軽元素測定



切欠部 重元素測定

# 報告書抄録

フリガナ	ニシカワツイセキ・フルヤシキ2イセキ							
書名	西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	主要地方道松江島根線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	2							
編著者名	原田敏照(編) 永嶋正春 住田雅和 濱田竜彦 渡辺正巳 上山晶子 花森功仁子 藤井裕之 工藤雄一郎 坂本稔 (株)古環境研究所 パリノ・サーヴェイ(株) (株)加速器分析研究所 (財)元興寺文化財研究所							
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒690-0131 島根県松江市打出町33番地 TEL:0852-36-8608 FAX:0852-36-8025 E-mail: maibun@pref.shimane.lg.jp http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/							
発行年月日	2013(平成25)年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
にしかわつせいせき 西川津遺跡	しまねけんまつえしにしかわつちよう 島根県松江市西川津町	32201	D5	35° 29' 32"	133° 04' 33"	2009 1124 ～ 2011 1209	1,080	道路建設
ふるやしき2いせき 古屋敷Ⅱ遺跡	しまねけんまつえしにしかわつちよう 島根県松江市西川津町	32201	D1042	35° 29' 26"	133° 04' 49"	2009 0521 ～ 2009 0827	500	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西川津遺跡	集落	縄文時代 弥生時代  古墳時代・古代 中世～近世	自然河道1、大溝6、 溝1、土抗、掘立柱建 物7  自然河道1 自然河道2	縄文土器 弥生土器、分銅形土製品、 ガラス勾玉、木製壺形容器、 木製農工具未製品、漆液容 器、ウルシ原木、炭化米、 トチノミ、石器 土師器、須恵器 陶磁器、卒塔婆、漆器		縄文時代に形成された微 高地から弥生時代前期及 び後期の大型の溝を検出 した。弥生時代前期の河 道から土器・木製農工具 未製品が出土		
古屋敷Ⅱ遺跡	集落	平安時代	加工段4 溝1 掘立柱建物1 連続ピット列1	須恵器、土師器、緑釉陶器、 羽口、石器		出雲部では検出例の少な い9世紀後半～10世紀 の集落		
要約	<p>西川津遺跡は、これまで朝酌川改修に伴う調査によってその出土遺物から弥生時代の拠点集落であると考えられていた。しかし明確な遺構の検出はなく詳細な実態は不明であった。今回の調査では弥生時代の環境の可能性も考えられる大型の溝が検出され、近辺に集落の本体が存在している可能性が高まった。また弥生時代の自然河道の検出によって当時の微地形が明らかとなり、集落の範囲を想定する手がかりを得ることができた。出土した弥生土器、木製農工具未製品、漆液容器、ガラス勾玉、石器及びその未製品等は拠点集落としての遺跡を解明する上で貴重な資料を提供することとなった。</p> <p>古屋敷Ⅱ遺跡は、出雲地方では検出例の少ない9世紀後半～10世紀の集落であることから、出土した須恵器、土師器、緑釉陶器は、当地域の土器編年や土器組成を検討する上で貴重な事例を提供することとなった。</p>							

## 印刷仕様

紙 質	表 紙	アートポスト四六判	220kg
	本 文	上質紙A判	57.5kg
		上質コート紙A判	70.5kg
D T P	Windows XP		
	Adobe InDesignCS4	PhotoshopCS4	IllustratorCS4
画像原稿	階調画像線数		
	表紙、口絵	：200 線（AM スクリーン）	
	第 1 ～ 5 章	：300 線相当（ハイブリッドスクリーン）	
	第 6 章	：200 線（AM スクリーン）	

## 西川津遺跡・古屋敷Ⅱ遺跡

### 本 文 編

主要地方道松江島根線改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2

発 行 2013（平成 25）年 3 月

発行者 島根県教育委員会

編 集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒 690-0131 島根県松江市打出町 33 番地

電話 0852-36-8608

印 刷 有限会社 高浜印刷



